

上 栗 須 遺 跡
下 大 塚 遺 跡
中 大 塚 遺 跡

—主要地方道前橋・長澗線道路改良事業
に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

《本 文 編》

1989

群 馬 県 教 育 委 員 会
財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

上 栗 須 遺 跡
下 大 塚 遺 跡
中 大 塚 遺 跡

—主要地方道前橋・長澗線道路改良事業
に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

《本 文 編》

1989

群 馬 県 教 育 委 員 会
財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

序

高速自動車道路の整備はアクセスする周辺の自動車道路網の整備を促します。県道前橋長湊線は関越自動車道藤岡ジャンクションにアクセスする部分が整備され、さらに、国道254号まで延長され、既に、供用開始されております。この道路建設に先行して先人の遺産である埋蔵文化財の発掘調査を群馬県埋蔵文化財調査事業団が、記録保存として行うことになりました。

この地域は緑野の地として、群馬県南部の古代文化の中心地であり、埴輪窯で知られる本郷埴輪窯遺跡を始めとし遺跡地が数多く存在する地域であります。また、現在、瓦の産業が行われていますが、その起源は埴輪窯遺跡にさかのぼるものとされています。付近周辺からは国分寺の修理に用いられた瓦も作製されたようであります。古代からの伝統的な産業が続いている地域といえましょう。

調査によりまして、古墳、掘立柱建物遺構を伴う古墳時代以降の集落、中世の道路遺構、中近世の馬の墓地等の複合する遺跡地であることが判明しました。営々とした先祖の生活のようすが判明しました。

調査の実施に当たりまして、群馬県教育委員会、群馬県土木部等関係各位に賜りましたご指導、ご協力に感謝します。また北風吹きさすぶなか調査に当たられた、整理事業に携わりました皆様の労を多とします。

本報告書により文字資料に記されることの少ない庶民の歴史解明が進展し、生涯学習資料としても活用されることを期待して序文とします。

平成元年1月25日

群馬県埋蔵文化財調査事業団

理事長 清水 一郎

例 言

1. 本書は、主要地方道前橋・長瀬線道路改良工事に伴う埋蔵文化財調査報告書である。
2. 調査地域は、藤岡市上栗須字白山、岡前、寺東地区、下大塚字三之久保、水入、東原地区中大塚字市海道、中道、八幡林、薬師堂地区内にあり、遺跡名は大字名を使用した。
3. 事業主体 群馬県土木部
4. 調査主体 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
5. 調査期間 昭和59年2月1日～昭和59年3月31日 昭和59年5月24日～昭和60年3月31日
昭和60年4月26日～昭和61年3月31日 昭和61年4月7日～昭和62年3月31日
整理期間 昭和62年4月6日～昭和63年3月31日 昭和63年4月18日～平成元年3月31日
6. 調査組織 事務担当
常務理事 小林久久治、白石保三郎 事務局長 梅沢重昭、井上唯雄、松本浩一
管理部長 大澤秋良、田口紀雄 調査研究部長 松本浩一、上原啓巳
庶務課長 定方隆史、住谷 進 第3課長 細野雅男、神保佑史、徳江 紀、巾 隆之
庶務課員 国定 均、笠原秀樹、小林昌嗣、須田朋子、吉田有光、柳岡良宏、野島のぶ江、
今井もと子、松井美智子、大澤美佐保、大島敬子、小野沢春美
調査担当
昭和58年度試掘 中沢 悟、菊池 実、斎藤利昭 (群馬県埋蔵文化財調査事業団調査研究員)
昭和59年度調査 津金澤吉茂、中沢 悟、斎藤利昭 嘱託員 新井順二
昭和60年度調査 津金澤吉茂、谷藤保彦、斎藤利昭 (群馬県埋蔵文化財調査事業団調査研究員)
昭和61年度調査 石坂 茂、坂口 一、斎藤利昭 (群馬県埋蔵文化財調査事業団調査研究員)
整理担当 斎藤利昭 嘱託員 保坂雅美 補助員 阿部和子、五十嵐由美子、岸 トキ子、関 正江、
関口加津枝、立見美代子、田中精子、角田孝子、萩原光枝、細井敏子
遺物写真 佐藤元彦 (群馬県埋蔵文化財調査事業団技師) 遺構写真 発掘調査担当者
保存処理 関 邦一 (群馬県埋蔵文化財調査事業団技師) 嘱託員 北爪健二 補助員 小村浩一
委託業務 遺構・遺物トレース 株式会社 湧研 航空写真 青高館、セレック
10. 本報告書の作成にあたっておこなった科学的分析、鑑定は、下記の方々をお願いした。
獣骨鑑定 宮崎重雄 (前橋第二高等学校教諭) 胎土分析 花岡敏一 (群馬県工業試験場)
石材同定 飯島静雄 (群馬地質研究会) 鉱物分析 株式会社 バリノ・サーヴェイ
人骨検査 緑川 順 (群馬県警察本部刑事部科学捜査研究所)
11. 本書の執筆は以下に掲げる他は、各担当の調査記録をもとに斎藤利昭が行った。
第I章 第1節 神保佑史 第II章 第1節 4. 土坑、縄文土器観察表 石坂 茂
第II章 第1節 1. 墓址 3号古墳上墓坑群出土遺物観察表 大西雅広 第V章 津金澤吉茂
12. 発掘調査に際しては、藤岡市教育委員会並びに地元関係者の多大なるご支援を戴いた。また、本報告書作成にあたり、関係各方面の方々のご指導、ご協力を得た。ここに感謝の意を表す次第である。
13. 調査資料は、群馬県埋蔵文化財調査センターに保管してある。

凡 例

1. 本書の遺構番号は、調査時に各遺跡・各区に独立させ付したものを使用した。また、検討の結果調査時の遺構名称が適当でないものについては欠番とした。
2. 本書の遺構図版及び遺物図版の縮尺率は、原則的に以下の通りとし、スケールを入れ示した。

遺構 竪穴住居・掘立柱建物 1/60 竪穴住居電 1/30 土坑 1/40
遺物 環・小型甕・鉄製品 1/3 甕・埴輪 1/4 紡錘車・土鍾 1/2

但し遺構・遺物によってはこの限りではなく、スケールを参照されたい。

遺物写真図版の縮尺は不統一である。

本書に使用した網目は次のことを表す。

遺構 焼土… 灰… 粘土… 攪乱…
遺物 灰釉陶器…

3. 遺物観察は表組を用い、計測単位はcm・gを使用した。但し、鉄製品、古銭、石製品等では計測値の項目が異なり、長さ、幅、厚み、重さの順で掲載した。出土遺物の+、-は床面からの高さを示す。遺物観察表中の番号は、遺構図版中の遺物出土位置の番号及び遺物写真番号と同一である。

また、表中の土器の色調は、農林省農林水産技術会議事務所・財団法人日本色彩研究所監修「標準土色帖」を使用した。

4. 本書における遺構図版中の断面基準線は標高で表し、単位はmを用いた。
5. 遺構図中の北方位記号は、国家座標の北を用いた。
6. 遺構の計測値及び記載事項については以下の通りとした。

竪穴住居跡

位置 グリッド位置を示す **方位** 電の向きを主軸とし、座標北に対する傾き **規模** 住居の中央部の距離を測った。 **柱穴** 住居内の北東に位置する柱穴を1とし、時計回りに2・3と付けた。
貯蔵穴 位置は住居内での位置を表す。 **周溝** 掘り込みの有無 **床面** 踏みならされた土の状態
掘形 荒掘り段階での状態 **遺物** 出土状況と特徴的遺物 **電位置** 付設される辺での位置
位置 規模 燃焼部と煙道部の計測 煙道部への立ち上がり 燃焼部から煙道部口部分までの高さ
構築 電柄築状態

掘立柱建物跡

位置、規模等は住居と同じ。 **方位** 長辺の座標北に対する傾き **柱穴** 北東隅を1とし、時計回りに番号を付す。 **面積** 長辺・短辺の計測値を使用し乗じた数値を使用した。柱穴規模については表組とした。

土坑は表組とした。溝は項目立てをせず記述した。

目 次

序 例 言 凡 例

第 I 章 発掘調査と遺跡の概要	1	2. 掘立柱建物跡	458
第 1 節 発掘調査に至る経緯	1	3. 土 坑	461
第 2 節 発掘調査の経過と方法	2	第 III 章 下大塚遺跡	463
第 3 節 基本土層	5	第 1 節 検出の遺構と遺物	465
第 4 節 遺跡の立地と周辺遺跡	7	1. 竪穴住居跡	466
第 II 章 上栗須遺跡	11	2. 掘立柱建物跡	496
第 1 節 I 区検出の遺構と遺物	13	3. 土 坑	499
1. 墓 址	14	4. 溝	510
2. 竪穴住居跡	52	5. 井戸、土器集積遺構	518
3. 掘立柱建物跡	175	6. 遺構外出土遺物	523
4. 土 坑	184	第 IV 章 中大塚遺跡	527
5. 集積遺構	203	第 1 節 I 区検出の遺構と遺物	529
6. 井戸遺構	203	1. 竪穴住居跡	530
7. 溝	206	2. 道路遺構および竪穴状遺構	556
8. 遺構外出土遺物	217	3. 掘立柱建物跡	564
第 2 節 II 区検出の遺構と遺物	223	4. 土 坑	580
1. 竪穴住居跡	224	5. 溝	596
2. 掘立柱建物跡	273	6. 遺構外出土遺物	604
3. 土 坑	285	第 2 節 II 区検出の遺構と遺物	606
4. 溝	296	1. 竪穴住居跡	607
5. 遺構外出土遺物	301	2. 土 坑	610
第 3 節 III 区検出の遺構と遺物	303	3. 溝	615
1. 竪穴住居跡	303	第 3 節 III 区検出の遺構と遺物	620
2. 掘立柱建物跡	420	1. 掘立柱建物跡	621
3. 土 坑	436	2. 土 坑	628
4. 遺構外出土遺物	440	第 V 章 調査の成果	633
第 4 節 緊急調査区の遺構と遺物	443	第 1 節 馬頭観音塔と馬の埋葬	635
1. 竪穴住居跡	444	第 2 節 集落跡の概観	636
第 5 節 第 1 取付道路部分の遺構と遺物	446	付 編 科学的分析	639
1. 古 墳	446	1. 胎土分析	641
2. 土 坑	450	2. 鉱物分析	647
第 6 節 第 2 取付道路部分の遺構と遺物	453	3. 人骨検査	653
1. 竪穴住居跡	453	4. 上栗須遺跡の馬骨	655

挿 図 目 次

第 1 図	遺跡と調査年表(1)	第 57 図	3号住居跡実測図
第 2 図	遺跡と調査年表(2)	第 58 図	3号住居跡電実測図
第 3 図	グランド設定図	第 59 図	3号住居跡出土遺物実測図
第 4 図	グランド配置図	第 60 図	4号住居跡実測図
第 5 図	土層柱状模式図	第 61 図	4号住居跡電実測図
第 6 図	路線内土層柱状図	第 62 図	4号住居跡出土遺物実測図
第 7 図	遺跡位置図	第 63 図	5号住居跡実測図
		第 64 図	5号住居跡電実測図
		第 65 図	5号住居跡床下実測図
		第 66 図	5号住居跡出土遺物実測図
		第 67 図	6号住居跡実測図
		第 68 図	6号住居跡電実測図
		第 69 図	6号住居跡出土遺物実測図
		第 70 図	7号住居跡実測図
		第 71 図	7号住居跡電実測図
		第 72 図	8号住居跡実測図
		第 73 図	8号住居跡床下実測図
		第 74 図	8号住居跡電実測図
		第 75 図	8号住居跡出土遺物実測図(1)
		第 76 図	8号住居跡出土遺物実測図(2)
		第 77 図	8号住居跡出土遺物実測図(3)
		第 78 図	9号住居跡実測図
		第 79 図	9号住居跡電実測図
		第 80 図	9号住居跡出土遺物実測図(1)
		第 81 図	9号住居跡出土遺物実測図(2)
		第 82 図	11号住居跡実測図
		第 83 図	11号住居跡出土遺物実測図
		第 84 図	12号住居跡実測図
		第 85 図	12号住居跡出土遺物実測図(1)
		第 86 図	12号住居跡出土遺物実測図(2)
		第 87 図	13号住居跡実測図
		第 88 図	13号住居跡出土遺物実測図
		第 89 図	14号住居跡実測図
		第 90 図	14号住居跡出土遺物実測図
		第 91 図	15号住居跡実測図
		第 92 図	15号住居跡出土遺物実測図
		第 93 図	16号住居跡実測図
		第 94 図	16号住居跡電実測図
		第 95 図	16号住居跡出土遺物実測図
		第 96 図	17号住居跡実測図
		第 97 図	17号住居跡電実測図
		第 98 図	17号住居跡出土遺物実測図(1)
		第 99 図	17号住居跡出土遺物実測図(2)
		第100図	17号住居跡出土遺物実測図(3)
		第101図	18号住居跡実測図
		第102図	18号住居跡電実測図
		第103図	18号住居跡出土遺物実測図(1)
		第104図	18号住居跡出土遺物実測図(2)
		第105図	19号住居跡実測図
		第106図	19号住居跡電実測図
		第107図	19号住居跡出土遺物実測図
		第108図	20号住居跡実測図
		第109図	20号住居跡電実測図
		第110図	20号住居跡出土遺物実測図(1)
		第111図	20号住居跡出土遺物実測図(2)
		第112図	20号住居跡出土遺物実測図(3)
		第113図	21号住居跡実測図
		第114図	21号住居跡電実測図
上栗須遺跡1区			
第 8 図	上栗須遺跡1区の遺構配置図		
第 9 図	古墳遺構配置図		
第10 図	1号方形周溝墓実測図		
第11 図	1号方形周溝墓実測図		
第12 図	1号方形周溝墓出土遺物実測図		
第13 図	1号方形周溝墓遺物出土状況		
第14 図	2号方形周溝墓実測図		
第15 図	1号古墳実測図		
第16 図	1号古墳遺物出土状態図		
第17 図	1号古墳出土遺物実測図(1)		
第18 図	1号古墳出土遺物実測図(2)		
第19 図	2号古墳実測図		
第20 図	2号古墳実測図		
第21 図	2号古墳出土遺物実測図(1)		
第22 図	2号古墳出土遺物実測図(2)		
第23 図	2号古墳出土遺物実測図(3)		
第24 図	3号古墳実測図		
第25 図	3号古墳遺物出土状態図		
第26 図	3号古墳出土遺物実測図(1)		
第27 図	3号古墳出土遺物実測図(2)		
第28 図	3号古墳出土遺物実測図(3)		
第29 図	3号古墳出土遺物実測図(4)		
第30 図	3号古墳出土遺物実測図(5)		
第31 図	4号古墳実測図		
第32 図	4号古墳出土遺物実測図		
第33 図	5号古墳実測図		
第34 図	前庭部遺物出土状況		
第35 図	石室碑残存状況		
第36 図	5号古墳出土遺物実測図		
第37 図	6号古墳実測図		
第38 図	6号古墳実測図		
第39 図	6号古墳出土遺物実測図		
第40 図	石塚墓実測図		
第41 図	3号古墳上墓坑群全体図		
第42 図	墓坑群概形実測図		
第43 図	墓坑群確認状況図		
第44 図	馬骨出土状況図		
第45 図	馬骨出土状況図		
第46 図	馬骨出土状況図		
第47 図	人骨出土状況図		
第48 図	墓坑群出土遺物実測図(1)		
第49 図	墓坑群出土遺物実測図(2)		
第50 図	住居配置図		
第51 図	1号住居跡実測図		
第52 図	1号住居跡電実測図		
第53 図	1号住居跡出土遺物実測図		
第54 図	2号住居跡実測図		
第55 図	2号住居跡電実測図		
第56 図	2号住居跡出土遺物実測図		

第115區	21号住居跡出土遺物実測①1	第177區	44号住居跡電実測區
第116區	21号住居跡出土遺物実測②2	第178區	44号住居跡出土遺物実測②2
第117區	22号住居跡実測區	第179區	44号住居跡出土遺物実測③3
第118區	22号住居跡電実測區	第180區	44号住居跡出土遺物実測④4
第119區	22号住居跡出土遺物実測區	第181區	45号住居跡実測區
第120區	23号住居跡実測區	第182區	45号住居跡電実測區
第121區	23号住居跡電実測區	第183區	45号住居跡出土遺物実測區
第122區	23号住居跡出土遺物実測區	第184區	46号住居跡実測區
第123區	25号住居跡実測區	第185區	46号住居跡電実測區
第124區	25号住居跡電上出土遺物実測區	第186區	46号住居跡出土遺物実測①1
第125區	26号住居跡実測區	第187區	46号住居跡出土遺物実測②2
第126區	26号住居跡電実測區	第188區	47号住居跡実測區
第127區	26号住居跡出土遺物実測區	第189區	47号住居跡電実測區
第128區	27号住居跡実測區	第190區	47号住居跡出土遺物実測區
第129區	27号住居跡出土遺物実測①1	第191區	48号住居跡実測區
第130區	27号住居跡出土遺物実測②2	第192區	48号住居跡出土遺物実測①1
第131區	28号住居跡実測區	第193區	48号住居跡出土遺物実測②2
第132區	28号住居跡床下実測區	第194區	49号住居跡実測區
第133區	28号住居跡電実測區	第195區	49号住居跡電実測區
第134區	28号住居跡出土遺物実測①1	第196區	49号住居跡出土遺物実測①1
第135區	28号住居跡出土遺物実測②2	第197區	49号住居跡出土遺物実測②2
第136區	28号住居跡出土遺物実測③3	第198區	50号住居跡実測區
第137區	28号住居跡出土遺物実測④4	第199區	50号住居跡電実測區
第138區	29号住居跡実測區	第200區	50号住居跡出土遺物実測區
第139區	29号住居跡電実測區	第201區	51号住居跡実測區
第140區	29号住居跡出土遺物実測區	第202區	51号住居跡電実測區
第141區	30号住居跡実測區	第203區	51号住居跡床下実測區
第142區	31号住居跡実測區	第204區	51号住居跡出土遺物実測區
第143區	31号住居跡出土遺物実測區	第205區	52号住居跡実測區
第144區	32号住居跡実測區	第206區	52号住居跡出土遺物実測區
第145區	32号住居跡電実測區	第207區	53号住居跡実測區
第146區	32号住居跡出土遺物実測①1	第208區	53号住居跡電実測區
第147區	32号住居跡出土遺物実測②2	第209區	53号住居跡出土遺物実測區
第148區	33号住居跡実測區	第210區	54号住居跡実測區
第149區	34号住居跡実測區	第211區	54号住居跡出土遺物実測區
第150區	34号住居跡出土遺物実測區	第212區	獨立柱建物跡全体區
第151區	35号住居跡実測區	第213區	1号獨立柱建物跡実測區
第152區	35号住居跡電実測區	第214區	2号獨立柱建物跡実測區
第153區	35号住居跡出土遺物実測區	第215區	3号獨立柱建物跡実測區
第154區	36号住居跡実測區	第216區	4号獨立柱建物跡実測區
第155區	36号住居跡床下実測區	第217區	5号獨立柱建物跡実測區
第156區	36号住居跡電実測區	第218區	6号獨立柱建物跡実測區
第157區	36号住居跡出土遺物実測區	第219區	7号獨立柱建物跡実測區
第158區	37号住居跡実測區	第220區	8号獨立柱建物跡実測區
第159區	37号住居跡出土遺物実測區	第221區	9号獨立柱建物跡実測區
第160區	37号住居跡電実測區	第222區	10号獨立柱建物跡実測區
第161區	40号住居跡実測區	第223區	獨立柱建物跡出土遺物実測區
第162區	40号住居跡電実測區	第224區	土坑実測區
第163區	40号住居跡出土遺物実測①1	第225區	土坑出土遺物実測區
第164區	40号住居跡出土遺物実測②2	第226區	土坑実測區
第165區	41号住居跡実測區	第227區	土坑実測區
第166區	41号住居跡電実測區	第228區	土坑実測區
第167區	41号住居跡出土遺物実測區	第229區	土坑実測區
第168區	42号住居跡実測區	第230區	土坑実測區
第169區	42号住居跡電実測區	第231區	土坑実測區
第170區	42号住居跡出土遺物実測區	第232區	土坑実測區
第171區	43号住居跡実測區	第233區	土坑実測區
第172區	43号住居跡電実測區	第234區	土坑実測區
第173區	43号住居跡出土遺物実測區	第235區	土坑実測區
第174區	44号住居跡実測區	第236區	土坑出土遺物実測①1
第175區	44号住居跡床下実測區	第237區	土坑出土遺物実測②2
第176區	44号住居跡出土遺物実測①1	第238區	土坑出土遺物実測③3

第239回 熊石遺構実測回
第240回 1号井戸実測回
第241回 井戸出土遺物実測回
第242回 1号溝実測回
第243回 2号溝実測回
第244回 3・15・16号溝実測回
第245回 11号溝実測回
第246回 溝出土遺物実測回(1)
第247回 溝出土遺物実測回(2)
第248回 溝実測回
第249回 溝出土遺物実測回
第250回 溝実測回
第251回 溝出土遺物実測回
第252回 遺構外出土遺物実測回(1)
第253回 遺構外出土遺物実測回(2)
第254回 遺構外出土遺物実測回(3)

上栗須遺跡Ⅱ区
第255回 全体回
第256回 住居全体回
第257回 1号住居跡実測回
第258回 1号住居跡電実測回
第259回 1号住居跡出土遺物実測回
第260回 2号住居跡実測回
第261回 2号住居跡電実測回
第262回 2号住居跡出土遺物実測回(1)
第263回 2号住居跡出土遺物実測回(2)
第264回 3号住居跡実測回
第265回 3号住居跡電実測回
第266回 3号住居跡出土遺物実測回
第267回 4号住居跡実測回
第268回 4号住居跡出土遺物実測回
第269回 4号住居跡電実測回
第270回 5号住居跡実測回
第271回 5号住居跡電実測回
第272回 5号住居跡出土遺物実測回(1)
第273回 5号住居跡出土遺物実測回(2)
第274回 6号住居跡実測回
第275回 6号住居跡電実測回
第276回 6号住居跡出土遺物実測回
第277回 7号住居跡実測回
第278回 7号住居跡電実測回
第279回 7号住居跡次下実測回
第280回 7号住居跡出土遺物実測回
第281回 8号住居跡実測回
第282回 8号住居跡電実測回
第283回 8号住居跡出土遺物実測回
第284回 9号住居跡実測回
第285回 9号住居跡電実測回
第286回 9号住居跡出土遺物実測回
第287回 10号住居跡実測回
第288回 10号住居跡電実測回
第289回 10号住居跡出土遺物実測回
第290回 11号住居跡実測回
第291回 11号住居跡出土遺物実測回
第292回 12号住居跡実測回
第293回 12号住居跡電実測回
第294回 13号住居跡実測回
第295回 13号住居跡電実測回
第296回 13号住居跡出土遺物実測回
第297回 14号住居跡実測回
第298回 14号住居跡電実測回

第299回 14号住居跡出土遺物実測回(1)
第300回 14号住居跡出土遺物実測回(2)
第301回 15号住居跡実測回
第302回 15号住居跡出土遺物実測回(1)
第303回 15号住居跡電実測回
第304回 15号住居跡出土遺物実測回(2)
第305回 16号住居跡実測回
第306回 16号住居跡電実測回
第307回 16号住居跡出土遺物実測回
第308回 17号住居跡実測回
第309回 17号住居跡出土遺物実測回(1)
第310回 17号住居跡電実測回
第311回 17号住居跡出土遺物実測回(2)
第312回 18号住居跡実測回
第313回 18号住居跡電実測回
第314回 18号住居跡出土遺物実測回
第315回 19号住居跡実測回
第316回 19号住居跡電実測回
第317回 19号住居跡出土遺物実測回
第318回 20号住居跡と出土遺物実測回
第319回 21号住居跡実測回
第320回 21号住居跡出土遺物実測回
第321回 22号住居跡実測回
第322回 22号住居跡出土遺物実測回
第323回 22号住居跡電実測回
第324回 23号住居跡実測回
第325回 24号住居跡実測回
第326回 24号住居跡電実測回
第327回 25号住居跡実測回
第328回 26号住居跡実測回
第329回 上栗須遺跡Ⅱ区・Ⅲ区独立柱建物跡配置図
第330回 1号孤立柱建物跡実測回
第331回 2号孤立柱建物跡実測回
第332回 3号孤立柱建物跡実測回
第333回 4号孤立柱建物跡実測回
第334回 5号孤立柱建物跡実測回
第335回 6号孤立柱建物跡実測回
第336回 7号孤立柱建物跡実測回
第337回 8号孤立柱建物跡実測回
第338回 9号孤立柱建物跡実測回
第339回 10号孤立柱建物跡実測回
第340回 11号孤立柱建物跡実測回
第341回 12号孤立柱建物跡実測回
第342回 13号孤立柱建物跡実測回
第343回 孤立柱建物跡出土遺物実測回
第344回 土坑実測回
第345回 土坑実測回
第346回 土坑実測回
第347回 土坑実測回
第348回 土坑実測回
第349回 土坑実測回
第350回 土坑実測回
第351回 土坑実測回
第352回 土坑出土遺物実測回
第353回 1号溝実測回
第354回 6号溝内路面確認状況図
第355回 6号溝実測回
第356回 6号溝出土遺物実測回
第357回 7・8号溝実測回
第358回 グリッド出土遺物実測回

上栗須遺跡Ⅱ区

第3596区 上野前通跡田区の遺構配置図
第3606区 Ⅲ区住居配置図
第3616区 1号住居跡実測図
第3626区 1号住居跡床下実測図
第3636区 1号住居跡実測図
第3646区 1号住居跡電実測図
第3656区 1号住居跡出土遺物実測図(1)
第3666区 1号住居跡出土遺物実測図(2)
第3676区 1号住居跡出土遺物実測図(3)
第3686区 2号住居跡実測図
第3696区 2号住居跡電実測図
第3706区 2号住居跡出土遺物実測図
第3716区 3号住居跡実測図
第3726区 3号住居跡電実測図
第3736区 3号住居跡出土遺物実測図
第3746区 4号住居跡実測図
第3756区 4号住居跡電実測図
第3766区 4号住居跡出土遺物実測図
第3776区 5号住居跡実測図
第3786区 5号住居跡電実測図
第3796区 5号住居跡出土遺物実測図
第3806区 6号住居跡実測図
第3816区 6号住居跡床下実測図
第3826区 6号住居跡電実測図
第3836区 6号住居跡出土遺物実測図
第3846区 7号住居跡実測図
第3856区 7号住居跡床下実測図
第3866区 7号住居跡出土遺物実測図
第3876区 8号住居跡実測図
第3886区 8号住居跡電実測図
第3896区 8号住居跡出土遺物実測図(1)
第3906区 8号住居跡出土遺物実測図(2)
第3916区 9号住居跡実測図
第3926区 9号住居跡電実測図
第3936区 9号住居跡出土遺物実測図
第3946区 10号住居跡実測図
第3956区 10号住居跡床下実測図
第3966区 10号住居跡電実測図
第3976区 10号住居跡出土遺物実測図(1)
第3986区 10号住居跡出土遺物実測図(2)
第3996区 11号住居跡実測図
第4006区 11号住居跡出土遺物実測図(1)
第4016区 11号住居跡電実測図
第4026区 11号住居跡出土遺物実測図(2)
第4036区 11号住居跡出土遺物実測図(3)
第4046区 11号住居跡出土遺物実測図(4)
第4056区 12号住居跡実測図
第4066区 12号住居跡出土遺物実測図
第4076区 13号住居跡実測図
第4086区 13号住居跡出土遺物実測図
第4096区 14号住居跡実測図
第4106区 14号住居跡出土遺物実測図
第4116区 15号住居跡実測図
第4126区 15号住居跡電実測図
第4136区 15号住居跡出土遺物実測図(1)
第4146区 15号住居跡出土遺物実測図(2)
第4156区 16号住居跡実測図
第4166区 16号住居跡出土遺物実測図
第4176区 17号住居跡実測図
第4186区 17号住居跡出土遺物実測図(1)
第4196区 17号住居跡電実測図
第4206区 17号住居跡出土遺物実測図(2)

第4216区 18号住居跡実測図
第4226区 18号住居跡出土遺物実測図
第4236区 19号住居跡電実測図
第4246区 20号住居跡実測図
第4256区 20号住居跡電実測図
第4266区 20号住居跡出土遺物実測図
第4276区 21号住居跡実測図
第4286区 21号住居跡電実測図
第4296区 21号住居跡出土遺物実測図
第4306区 22号住居跡実測図
第4316区 22号住居跡電実測図
第4326区 22号住居跡床下実測図
第4336区 22号住居跡出土遺物実測図(1)
第4346区 22号住居跡出土遺物実測図(2)
第4356区 22号住居跡出土遺物実測図(3)
第4366区 23号住居跡実測図
第4376区 23号住居跡電実測図
第4386区 24号住居跡実測図
第4396区 24号住居跡電実測図
第4406区 24号住居跡出土遺物実測図
第4416区 25号住居跡実測図
第4426区 25号住居跡電実測図
第4436区 25号住居跡出土遺物実測図
第4446区 26号住居跡実測図
第4456区 26号住居跡電実測図
第4466区 26号住居跡出土遺物実測図
第4476区 27号住居跡実測図
第4486区 27号住居跡電実測図
第4496区 27号住居跡出土遺物実測図
第4506区 28号住居跡実測図
第4516区 28号住居跡出土遺物実測図(1)
第4526区 28号住居跡電実測図
第4536区 28号住居跡出土遺物実測図(2)
第4546区 28号住居跡出土遺物実測図(3)
第4556区 29号住居跡実測図
第4566区 29号住居跡電実測図
第4576区 29号住居跡床下実測図
第4586区 29号住居跡出土遺物実測図(1)
第4596区 29号住居跡出土遺物実測図(2)
第4606区 30号住居跡実測図
第4616区 30号住居跡電実測図
第4626区 30号住居跡出土遺物実測図
第4636区 31号住居跡実測図
第4646区 31号住居跡電実測図
第4656区 32号住居跡実測図
第4666区 32号住居跡出土遺物実測図(1)
第4676区 32号住居跡電実測図
第4686区 32号住居跡出土遺物実測図(2)
第4696区 33号住居跡出土遺物実測図(1)
第4706区 33号住居跡実測図
第4716区 33号住居跡出土遺物実測図(2)
第4726区 34号住居跡実測図
第4736区 34号住居跡電実測図
第4746区 34号住居跡出土遺物実測図
第4756区 35号住居跡実測図
第4766区 35号住居跡電実測図
第4776区 35号住居跡出土遺物実測図(1)
第4786区 35号住居跡出土遺物実測図(2)
第4796区 36号住居跡実測図
第4806区 36号住居跡電実測図
第4816区 36号住居跡床下実測図
第4826区 36号住居跡出土遺物実測図(1)

第483回 36号住居跡出土遺物実測図(2)
第484回 37号住居跡実測図
第485回 37号住居跡実測図
第486回 37号住居跡出土遺物実測図(1)
第487回 37号住居跡出土遺物実測図(2)
第488回 38号住居跡実測図
第489回 38号住居跡床下実測図
第490回 38号住居跡実測図
第491回 38号住居跡出土遺物実測図(1)
第492回 38号住居跡出土遺物実測図(2)
第493回 38号住居跡出土遺物実測図(3)
第494回 39号住居跡実測図
第495回 39号住居跡実測図
第496回 39号住居跡出土遺物実測図
第497回 40号住居跡実測図
第498回 40号住居跡実測図
第499回 40号住居跡出土遺物実測図
第500回 41号住居跡実測図
第501回 41号住居跡実測図
第502回 41号住居跡平面実測図
第503回 41号住居跡出土遺物実測図(1)
第504回 41号住居跡出土遺物実測図(2)
第505回 42号住居跡実測図
第506回 42号住居跡実測図
第507回 42号住居跡出土遺物実測図
第508回 43号住居跡実測図
第509回 43号住居跡実測図
第510回 43号住居跡床下実測図
第511回 43号住居跡出土遺物実測図(1)
第512回 43号住居跡出土遺物実測図(2)
第513回 44号住居跡実測図
第514回 44号住居跡実測図
第515回 44号住居跡出土遺物実測図
第516回 45号住居跡実測図
第517回 45号住居跡実測図
第518回 45号住居跡出土遺物実測図
第519回 46号住居跡実測図
第520回 46号住居跡出土遺物実測図(1)
第521回 46号住居跡出土遺物実測図(2)
第522回 47号住居跡実測図
第523回 47号住居跡実測図
第524回 47号住居跡出土遺物実測図
第525回 48号住居跡実測図
第526回 48号住居跡床下実測図
第527回 48号住居跡実測図
第528回 48号住居跡出土遺物実測図
第529回 49号住居跡実測図
第530回 49号住居跡実測図
第531回 49号住居跡出土遺物実測図
第532回 50号住居跡実測図
第533回 50号住居跡実測図
第534回 50号住居跡出土遺物実測図(1)
第535回 50号住居跡出土遺物実測図(2)
第536回 獨立柱建物全体図
第537回 1号獨立柱建物跡実測図
第538回 2号獨立柱建物跡実測図
第539回 3号獨立柱建物跡実測図
第540回 4号獨立柱建物跡実測図
第541回 5号獨立柱建物跡実測図
第542回 6号獨立柱建物跡実測図
第543回 7号獨立柱建物跡実測図
第544回 8号獨立柱建物跡実測図

第545回 9号獨立柱建物跡実測図
第546回 10号獨立柱建物跡実測図
第547回 11号獨立柱建物跡実測図
第548回 12号獨立柱建物跡実測図
第549回 13号獨立柱建物跡実測図
第550回 14号獨立柱建物跡実測図
第551回 15号獨立柱建物跡実測図
第552回 16号獨立柱建物跡実測図
第553回 18号獨立柱建物跡実測図
第554回 17号獨立柱建物跡実測図
第555回 獨立柱建物跡出土遺物実測図
第556回 土坑実測図
第557回 土坑実測図
第558回 土坑実測図
第559回 1号基坑実測図
第560回 土坑出土遺物実測図
第561回 遺構外出土遺物実測図(1)
第562回 遺構外出土遺物実測図(2)

上栗岡遺跡緊急調査区
第563回 各調査地点の位置と遺構配置図
第564回 1号住居跡実測図
第565回 1号住居跡実測図
第566回 1号住居跡実測図
第567回 1号住居跡出土遺物実測図

上栗岡遺跡第1取付道路調査区
第567回 1号古墳実測図
第568回 1号古墳遺物出土状況図
第569回 1号古墳出土遺物実測図
第570回 2号古墳実測図
第571回 3号古墳実測図
第572回 3号古墳遺物出土状況図
第573回 3号古墳出土遺物実測図
第574回 土坑実測図
第575回 3号土坑実測図
第576回 土坑実測図

上栗岡遺跡第2取付道路調査区
第577回 1号住居跡実測図
第578回 1号住居跡出土遺物実測図
第579回 2号住居跡実測図
第580回 2号住居跡出土遺物実測図
第581回 2号住居跡実測図
第582回 3号住居跡実測図
第583回 3号住居跡出土遺物実測図
第584回 4号住居跡実測図
第585回 4号住居跡実測図
第586回 4号住居跡出土遺物実測図
第587回 5号住居跡実測図
第588回 1号獨立柱建物跡実測図
第589回 2号獨立柱建物跡実測図
第590回 3号獨立柱建物跡実測図
第591回 4号獨立柱建物跡実測図
第592回 土坑実測図
第593回 土坑出土遺物実測図

下大塚遺跡
第594回 下大塚遺跡の遺構配置図
第595回 1号住居跡実測図
第596回 1号住居跡実測図
第597回 1号住居跡出土遺物実測図(1)
第598回 1号住居跡出土遺物実測図(2)

第599段	2号住居跡実測区	中大塚遺跡1区	
第600段	2号住居跡電気実測区	第660段	中大塚遺跡1区の遺構配置区
第601段	2号住居跡出土遺物実測区(1)	第661段	中大塚遺跡1区の住居跡配置区
第602段	2号住居跡出土遺物実測区(2)	第662段	1号住居跡実測区
第603段	3号住居跡実測区	第663段	1号住居跡電気実測区
第604段	3号住居跡電気実測区	第664段	1号住居跡出土遺物実測区
第605段	3号住居跡出土遺物実測区	第665段	2号住居跡炭化材出土状況実測区
第606段	4号住居跡実測区	第666段	2号住居跡実測区
第607段	4号住居跡電気実測区	第667段	2号住居跡出土遺物実測区(1)
第608段	4号住居跡出土遺物実測区(1)	第668段	2号住居跡電気実測区
第609段	4号住居跡出土遺物実測区(2)	第669段	2号住居跡出土遺物実測区(2)
第610段	5号住居跡実測区	第670段	3号住居跡実測区
第611段	5号住居跡出土遺物実測区(1)	第671段	3号住居跡電気実測区
第612段	5号住居跡電気実測区	第672段	3号住居跡出土遺物実測区
第613段	5号住居跡出土遺物実測区(2)	第673段	4号住居跡実測区
第614段	5号住居跡出土遺物実測区(3)	第674段	4号住居跡電気実測区
第615段	6号住居跡実測区	第675段	4号住居跡実測区
第616段	6号住居跡電気実測区	第676段	4号住居跡床下実測区
第617段	6号住居跡出土遺物実測区	第677段	4号住居跡出土遺物実測区(1)
第618段	7号住居跡実測区	第678段	4号住居跡出土遺物実測区(2)
第619段	7号住居跡電気実測区	第679段	5号住居跡実測区
第620段	7号住居跡出土遺物実測区	第680段	5号住居跡電気実測区
第621段	8号住居跡実測区	第681段	5号住居跡電線形実測区
第622段	8号住居跡電気実測区	第682段	5号住居跡床下実測区
第623段	8号住居跡出土遺物実測区	第683段	5号住居跡出土遺物実測区(1)
第624段	9号住居跡実測区	第684段	5号住居跡出土遺物実測区(2)
第625段	9号住居跡出土遺物実測区(1)	第685段	6号住居跡実測区
第626段	9号住居跡電気実測区	第686段	7号住居跡実測区
第627段	9号住居跡出土遺物実測区(2)	第687段	7号住居跡電気実測区
第628段	9号住居跡出土遺物実測区(3)	第688段	7号住居跡出土遺物実測区
第629段	10号住居跡実測区	第689段	8号住居跡実測区
第630段	10号住居跡電気実測区	第690段	8号住居跡電気実測区
第631段	10号住居跡遺物出土状況区	第691段	8号住居跡出土遺物実測区
第632段	10号住居跡出土遺物実測区(1)	第692段	9号住居跡実測区
第633段	10号住居跡出土遺物実測区(2)	第693段	9号住居跡電気実測区
第634段	1号獨立柱建物跡実測区(1)	第694段	9号住居跡出土遺物実測区(1)
第635段	1号獨立柱建物跡実測区(2)	第695段	9号住居跡出土遺物実測区(2)
第636段	土坑実測区	第696段	住居外出土遺物実測区
第637段	長方形土坑分布区	第697段	道路状遺構実測区
第638段	土坑断面区(1)	第698段	道路状遺構と竪穴状遺構
第639段	土坑断面区(2)	第699段	1～3号竪穴状遺構実測区
第640段	土坑出土遺物実測区	第700段	道路遺構出土遺物実測区
第641段	土坑実測区	第701段	4～6号竪穴状遺構実測区
第642段	土坑実測区	第702段	竪穴状遺構周辺出土遺物実測区
第643段	土坑実測区	第703段	獨立柱建物全体区
第644段	土坑実測区	第704段	1号獨立柱建物跡実測区
第645段	土坑実測区	第705段	2号獨立柱建物跡実測区
第646段	1～3号溝実測区	第706段	3号獨立柱建物跡実測区
第647段	4～6号溝実測区	第707段	4・5号獨立柱建物跡実測区
第648段	7号溝実測区	第708段	6・19号獨立柱建物跡実測区
第649段	8号溝実測区	第709段	7号獨立柱建物跡実測区
第650段	9号溝出土遺物実測区(1)	第710段	8号獨立柱建物跡実測区
第651段	9号溝実測区	第711段	13号獨立柱建物跡実測区
第652段	9号溝出土遺物実測区(2)	第712段	9号獨立柱建物跡実測区
第653段	1号井戸実測区	第713段	獨立柱建物跡実測区
第654段	1号井戸出土遺物実測区	第714段	10号獨立柱建物跡実測区
第655段	下大塚1号土器集積遺構確認区(線1)	第715段	12・17号獨立柱建物跡実測区
第656段	下大塚1号土器集積遺構確認区(線2)	第716段	16号獨立柱建物跡実測区
第657段	1号土器集積遺構実測区	第717段	15号獨立柱建物跡実測区
第658段	下大塚土器集積遺構出土遺物実測区	第718段	20号獨立柱建物跡実測区
第659段	遺構外出土遺物実測区	第719段	21号獨立柱建物跡実測区
		第720段	22号獨立柱建物跡実測区

第721図 23号独立柱建物跡実測図
第722図 26号独立柱建物跡実測図
第723図 27号独立柱建物跡実測図
第724図 28号独立柱建物跡実測図
第725図 28号独立柱建物跡出土遺物実測図
第726図 土坑実測図
第727図 土坑実測図
第728図 土坑実測図
第729図 土坑実測図
第730図 土坑実測図
第731図 土坑実測図
第732図 土坑実測図
第733図 土坑実測図
第734図 土坑実測図
第735図 土坑実測図
第736図 土坑実測図
第737図 土坑実測図
第738図 土坑出土遺物実測図
第739図 1～3号溝実測図
第740図 4～7・12号溝実測図
第741図 8～11号溝実測図
第742図 8～11号溝断面図
第743図 8～10号溝出土遺物実測図
第744図 10号溝出土遺物実測図
第745図 13・14号溝実測図
第746図 遺構外出土遺物実測図

中大塚遺跡II区

第747図 中大塚遺跡II区・III区の遺構配置図
第748図 1号住居跡実測図
第749図 1号住居跡電実測図
第750図 2号住居跡実測図
第751図 2号住居跡電実測図
第752図 2号住居跡出土遺物実測図
第753図 土坑実測図
第754図 土坑実測図
第755図 土坑実測図
第756図 土坑実測図
第757図 土坑出土遺物実測図
第758図 1・2号溝実測図
第759図 3・5号溝実測図
第760図 3号溝出土遺物と4号溝実測図
第761図 6号溝実測図

中大塚遺跡III区

第762図 中大塚遺跡III区独立柱建物跡配置図
第763図 1号独立柱建物跡実測図
第764図 2・4号独立柱建物跡実測図
第765図 2・4号独立柱建物跡実測図
第766図 3号独立柱建物跡実測図
第767図 7号独立柱建物跡実測図
第768図 5・6号独立柱建物跡実測図
第769図 8号独立柱建物跡実測図
第770図 9号独立柱建物跡実測図
第771図 10・11号独立柱建物跡実測図
第772図 10・11号独立柱建物跡実測図
第773図 12号独立柱建物跡実測図
第774図 土坑実測図
第775図 土坑実測図
第776図 土坑実測図

調査の成果

第777図 堀内瓦面観音造立基敷地移表
第778図 独立柱建物跡規模比較表

付 篇

第 1 図 胎土分析試料実測図
第 2 図 群馬県内電跡分析図
第 3 図 試料採取地点位置図
第 4 図 中大塚遺跡ケラフ試料の鉱物組成
第 5 図 高純度純度表

付 図

遺跡全体図
遺跡周辺地図

第1章 発掘調査と遺跡の概要

第1節 発掘調査に至る経緯

主要地方道前橋・長湊線は、群馬県内においては前橋市と藤岡市を結ぶ重要な道路である。藤岡市における本道路は市街地を通過しているため、常に交通渋滞を起しており、これを解決することは急務とされていた。群馬県土木部道路建設課では解決の方法として、市街地周辺にバイパスを建設する計画をすすめ、既に完成している関越自動車道藤岡インターチェンジの進入道路とバイパスを直結すべく、県道上栗須・馬庭停車場線と一般国道254号線藤岡バイパスを結ぶ全長2,375m、幅員25mの道路計画を策定した。そして昭和55年度から現地測量を行い、用地買収を行った。道路は藤岡市上栗須・下大塚・中大塚にまたがるものであるが、路線内の文化財の取り扱いについては、昭和58年度に県教育委員会文化財保護課職員により分布調査が実施され、ほぼ全域にわたって埋蔵文化財の分布を確認した。この分布調査の結果をもとに県教育委員会文化財保護課と県土木部道路建設課との間で、文化財の取り扱いに関する協議を行い路線内の埋蔵文化財は記録保存をすることとし、その調査は財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団に委託することで協議が整った。

群馬県埋蔵文化財調査事業団と県土木部道路建設課との調査に関する協議は、昭和58年12月から59年1月にかけて行われ、1. 昭和58年度中に路線内の一部試掘調査を実施する。2. 調査期間は5年間とし、発掘調査3年、整理2年とする。3. 発掘調査は県道上栗須・馬庭停車場線により順次国道254号線に向かって行く。等結論が得られ、これらをまとめて昭和59年1月17日に「主要地方道前橋・長湊線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査に関する覚書」を締結した。次いで昭和59年1月25日付けで昭和58年度の試掘調査の委託契約を締結し、試掘調査及び発掘調査に着手した。各年度の調査は下記のとおり行った。

発掘調査は当初計画どおり昭和61年12月27日に終了し、直ちに発掘調査報告書刊行のための整理作業に入り、以下に記すとおりの報告書をまとめることができた。発掘調査・整理作業を通しては常に県土木部道路建設課、県藤岡土木事務所、藤岡市教育委員会、地権者役員等の方々にお世話になった。ここに明記しておきたい。

調査年度	調査期間	調査面積	調査道跡名	調査経費	調査の内容
昭和58年	昭和59年 2月～3月		上栗須遺跡	12,600,000	試掘調査
昭和59年	昭和59年5月 ～昭和60年3月	14,230㎡	上栗須遺跡	79,996,000	(調) 土坑13、(古墳) 方形周溝墓2、古墳10、竪穴住居3、石塚墓1 (祭・平) 竪穴住居23、掘立柱建物跡13
昭和60年	昭和60年4月 ～昭和61年3月	14,000㎡	上栗須遺跡 下大塚遺跡 中大塚遺跡	63,800,000	(祭・平) 竪穴住居43、掘立柱建物27、土坑11、溝2、古河川1、(中世) 掘立柱建物5、竪穴住居6、(中世) 土坑2、試掘調査
昭和61年	昭和61年4月 ～昭和62年3月	14,200㎡	上栗須遺跡 下大塚遺跡 中大塚遺跡	63,800,000	(祭・平) 竪穴住居15、掘立柱建物1、(中世) 掘立柱建物17、鳥伏遺構、試掘調査、整理(遺構トレース等)
昭和62年	昭和62年4月 ～昭和63年3月		上栗須遺跡 下大塚遺跡 中大塚遺跡	22,981,000	土器復元・実景・トレース・写真撮影等
昭和63年	昭和63年4月 ～平成元年3月		上栗須遺跡 下大塚遺跡 中大塚遺跡	36,689,000	トレース・版下作成・原稿執筆等、調査報告書刊行

第2節 発掘調査の経過と方法

調査の経過

前橋・長湊線II期工事における発掘調査は昭和59年2月より試掘調査を開始し、上栗須地区、下大塚地区、中大塚地区の3地区、総延長2,375mを昭和62年3月までの3年間本調査を実施した。

試掘調査は、20m間隔でトレンチをいれ、遺構の確認と遺構確認面までの深さを探ることを目的として実施した。結果は、基本土層III層のAs-B混じりの層より多量の遺物の出土が見られたため、機械掘削をAs-B混じりの層で止めることに決定した。また、路線内には近年砂利採集により、攪乱を受けている部分の確認でき、この部分を土置き場とし、3月より上栗須遺跡I区内の発掘現場事務所設置部分の調査を先行して開始した。

昭和59年5月より調査行程上土置き場が確保し易い、上栗須遺跡II区から調査に入る。

8月より上栗須遺跡III区北側の調査に入る。調査はII区の終了部分を土置き場とする関係で、III区調査面積の半分の表土剥ぎを行った。

10月II区調査終了。I区北上栗須交差点南より調査に入る。上毛古墳総覧掲載の小野村2号古墳(遺跡遺構名称I区3号古墳。以下3号古墳と呼ぶ)を含め6基の古墳と2基の方形周溝墓の調査を行った。また、3号古墳上からは、近世の馬の墓坑が確認でき、20数体の馬骨を検出し、昭和60年1月まで取り上げを行う。

12月前橋・長湊線の接続道路(第1取付道路)の調査を開始する。また、上栗須遺跡III区北調査終了。

昭和60年1月I区全体の調査開始。

1月26・27日調査成果を公表するために現場説明会を行う。(見学者数400名を越える。)

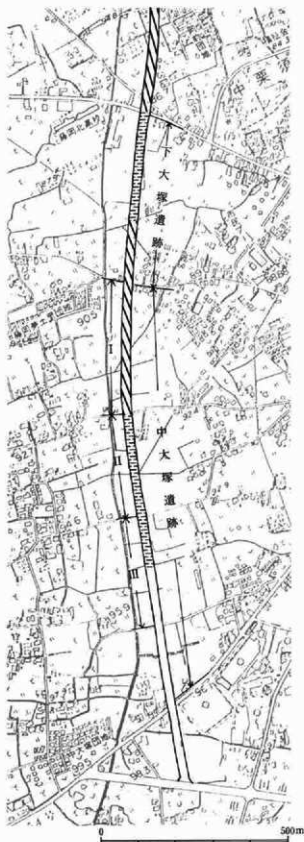
3月下大塚遺跡に関しては、未買取地があるため、中大塚遺跡の調査を先行して行う事を決定。中大塚遺跡の試掘調査を行い、全体に遺構を確認した。

同3月III区南側の表土剥ぎを行う。I区については農道部分と一部下層の調査を残し終了。

昭和60年4月、I区残りの部分とIII区の遺構確認



第1図 遺跡と調査年度(I)



第2図 遺跡と調査年度(2)

を行う。5月Ⅲ区住居跡の遺物盗難にあう。

6月Ⅰ区水道本管部分を残り調査終了。

8月Ⅲ区調査終了。中大塚遺跡Ⅰ区に移動し遺構確認を行い、調査開始。

11月～12月上栗須遺跡Ⅰ区側溝工事に伴い水道本管部分の調査を行う。また、上栗須遺跡Ⅲ区の中央を横断していた農道下の調査を行う。

昭和61年1月工事行程との関係で緊急に国道254号線バイパスとの接続部分の試掘調査を実施し、遺構無しとの判断により明け渡しを行う。

1月下大塚遺跡南半分の表土剥ぎを行い、続けて遺構確認及び本調査を開始した。

3月1・2日現場説明会を実施した。(見学者数260名を数えた。)

3月中大塚遺跡Ⅰ区調査終了。中大塚遺跡Ⅲ区の試掘調査を行う。結果は近年の砂利採集により攪乱を受けている部分が、国道254号線にかけて確認できたため、Ⅲ区南に関しては明け渡しを行った。

昭和61年4月下大塚遺跡の調査に入るが、中央部藤岡北高校脇に水路があり、この水路が雨季には決壊する恐れがあるため調査はその部分を抜いた北側と南側の調査を先行して行い、秋以降にこの水路部分の調査を行うこととした。

6月緊急調査として、上栗須交差点北側への側溝延長工事に際し、試掘調査を実施し流末において住居跡Ⅰ軒確認し調査を行った。

7月中大塚遺跡Ⅱ区の調査に入る。中大塚遺跡Ⅰ区とⅡ区の境にある同友企業の所有地に関しては未買収であるため最後まで調査には入れなかった。

8月中大塚遺跡Ⅲ区の調査に入る。

10月中大塚遺跡Ⅱ・Ⅲ区調査終了。下大塚遺跡の残り部分の調査に入る。

11月接続道路(第2取付道路)の調査に入る。

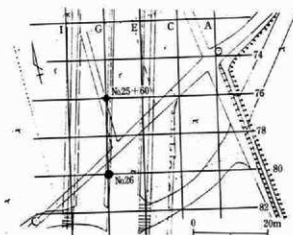
12月下大塚遺跡、接続道路の調査終了し、総ての調査を終了し、昭和62年3月まで残務整理、撤収準備等を行った。

調査区の設定

調査区は5m四方を1グリッドの単位とした。グリッドは、路線の進行方向に対し、平行するラインを右から左に向かってアルファベット、路線横断方向の北から南に向かって数字を付し、北東部分の交点をグリッド名称とした。

上栗須遺跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ区の発掘調査では前橋・長瀬線工事中用センター杭No25+60の道路幅杭間の中心とNo26の杭を結んだ線をGラインとし、左右にアルファベットを振り分け、直交するラインを80ラインとした。よって工事中用センター杭No26をG-80グリッドとした。このグリッドの方向は国家座標に対し $N-10^{\circ}55'-W$ の傾きとなり、国家座標値は(X=28892.091, Y=-68232.009)の位置となる。

上栗須遺跡Ⅲ区南端の調査区及び下大塚遺跡、中大塚遺跡の各地点のグリッド設定には国家座標を用いた。座標基準点はNo30の工事中用センター杭にA-0の基準点を設置し、上栗須遺跡同様5m四方のグリッド設定を行い、西方向にアルファベット、南方向に数字を振り出した。No30の工事中用センター杭の座標値は(X=28537.625, Y=-68410.554)である。また、このNo30の杭の北及び東方向に対しては、-A-1、-B-2……の負の数字を使用した。また、アルファベットがZまで達した場合、2A-、3A-とした。数字についてはそのまま順次増やしていく。



第3図 グリッド設定図



第4図 グリッド配置図

第3節 基本土層

前橋・長瀬線は、藤岡台地の中央部を南北に縦断する。この藤岡台地は、市の西方を北流する鮎川により形成された開析扇状地であり、南西方向から北東方向に緩い傾斜を持つ。調査時、この扇状地礫層は浅い所で数十cm、深い所で2m前後の深さで確認でき、上面には「藤岡粘土層」と呼ばれる層がのり、開析によりできた凹凸面を埋め平坦にならしている。

藤岡台地上の土層堆積状況及び「藤岡粘土層」については、付編において中大塚遺跡Ⅲ区で実施した鉦物分析結果を参照されたい。

以下は、調査時に実施した各遺跡の深掘りトレンチの土層観察成果を中心に、各遺跡の基本的な土層の堆積状況をあらわしたものである。

第Ⅰ層 灰褐色土 浅間A軽石(天明3年(1783年)浅間山の火山噴出物、以下As-Aと呼称する)を多量に含む。現在の耕作土。

第Ⅰ'層 茶褐色土 水田耕作土下の鉄分沈着層 水田耕作地以外では、As-Aの純層を含む。

第Ⅱ層 灰褐色土 As-A多量に含む層

第Ⅲ層 暗褐色土 浅間B軽石(天仁元年(1108年)浅間山の火山噴出物、以下As-Bと呼称する)を含む。遺物を多量に含む。

第Ⅳ層 褐色土 第Ⅴ層の黄褐色土の漸位層 第Ⅲ層のAs-Bが見られなくなる。第Ⅲ層との境を遺構確認面とした。

第Ⅴ層 黄褐色土 粘性に富むシルト質土ではあるが、厚さにより粘性の変化が見られる。「藤岡粘土層」に対応する。?

第Ⅴ2層 黄褐色土 細砂を含む砂質シルト層

第Ⅴ3層 黄褐色粗砂層

第Ⅵ層 砂礫層 扇状地礫層

や粘土や礫がラミナ状又は互層に堆積している部分が見られるためあえて分層を行わず、主体となる土質を用いた。



第5図 土層柱状模式図

第Ⅴ層以下の層については、河川堆積物である砂



第6図 路線内土層柱状図

第4節 遺跡の立地と周辺遺跡

立地

本遺跡の立地する藤岡市は、群馬県南部に位置し、同市東を流れる神流川を境に埼玉県と接する。

地形は、山間部と平野部とに二分される。山間部は赤久瀧山、御苜山等が連なり、関東山地の一角を構成している。この山地一帯は、秩父帯や山中部帯、三波川変成帯等の古い地形・地質が入り組んで存在する。山地南側を神流川が、北側を鮎川が貫流し平野部に移行する。この両河川下流域では開析扇状地形を形成し、扇状地扇端部一帯は利根川に流れ込む鮎川や烏川等の大河川の集中する地域でもある。鮎川は西から国道254号線沿いを東流し、藤岡市落合地区において鮎川と合流する。その後北東方向に流路を変へ高崎市方面より南東流してきた烏川と森新田地区で合流する。扇端部に位置する小野地区一帯はこの鮎川、烏川の旧流路にあたり沖積地及び自然堤防などが見られる。また、市街地の大部分は鮎川により形成された扇状地上にあり、南西方向から北東方向に緩い傾斜を持つ台地となっている。現在この台地上を藤岡台地と呼ぶ。前橋・長瀬線はこの台地上を南北に縦断する路線を取る。

藤岡市における洪積世の地層は、市街地南に位置する独立丘陵である庚申山周辺部と鮎川左岸丘陵上など藤岡台地周辺部において確認されている。

周辺遺跡

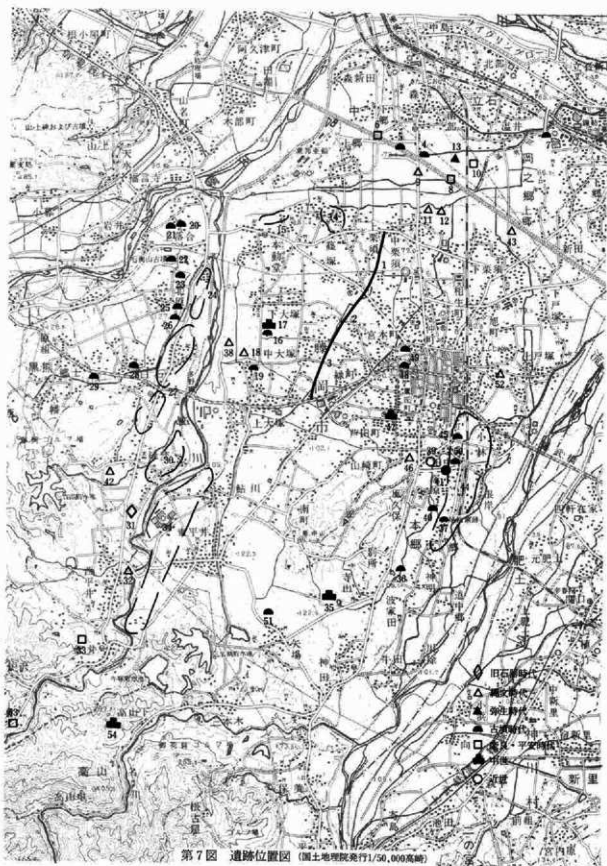
藤岡市の遺跡の立地は鮎川流域・神流川流域・扇状地扇端部の3カ所に大別できる。

鮎川流域の遺跡は、左岸の洪積台地上に立地する緑塗遺跡群において旧石器の遺物が検出されている。縄文時代には薬師原遺跡、滝下、滝前遺跡、敷石住居跡を検出した中大塚遺跡などが確認されている。弥生時代には後期末の竹沼遺跡のみとなり、古墳時代に入ると白石稻荷山古墳や七輿山古墳などの大前方後円墳を中心とした古墳群や大規模な東平井古墳群等が出現してくる。この時期の集落遺跡は緑

塗遺跡群や薬師原遺跡など古墳群周辺部で確認されている。集落はその後奈良・平安時代まで継続されている。生産遺跡では、鮎川中流域の平野部から山間部への移行する部分に国分寺瓦を焼いた金井瓦窯跡があり、近年藤岡市教育委員会により調査が行われ下日野・金井地区において須恵器窯跡群が発見された。以前からの地域は県内有数の須恵器生産地と言われ、藤岡・吉井古窯跡群の一角を占めていたことが明らかになった。

神流川流域左岸の遺跡は庚申山北側斜面部分で旧石器の遺跡が確認されている。縄文時代の遺跡は、下流域の田島遺跡や株木遺跡群などで確認されている。古墳時代に入ると小林古墳群の一部にかかる堀之内遺跡群において、前方後方形の周溝墓が確認されており、上流域の三本木、神田古墳群等を含め全体に古い様相を示している。また、本郷地区において6世紀代の埴輪焼成窯跡が発見されている。集落は、堀之内遺跡群、本郷山根遺跡、株木遺跡等で確認され、奈良・平安時代へと継続して営まれる。

扇状地扇端部から沖積地への段丘部に位置する小野遺跡群内の谷地遺跡や神明北遺跡等において縄文時代の遺跡を確認している。弥生時代の遺跡は、再葬墓から条痕文土器を検出した沖II遺跡がある。沖II遺跡は、鮎川の旧河道と考えられる小野地区北側の微高地上に立地している。古墳時代には台地縁辺部に小規模の古墳群が見られるようになる。上栗須遺跡I区は塚塚古墳群にかけり古墳時代前期の方形周溝墓をはじめ5世紀～6世紀にかけて築造された9基の古墳の調査を行った。しかし、この時期の集落は発見されなかった。この時期の遺跡は沖積地を挟んだ対岸の微高地上にある温井遺跡や森遺跡において検出されている。奈良・平安時代にはいと遺跡数の増加が見られ、遺跡は台地内部へ展開するようになる。しかし、台地内部に行くに従い下大塚遺跡や中大塚遺跡などで確認されたように集落規模は小さくなる傾向がある。また、扇端部の小野地区の沖積地においてAs-Bの埋没水田が発見されている。



第7図 遺跡位置図 (国土地理院発行1/50,000高縮)

周辺遺跡一覧表

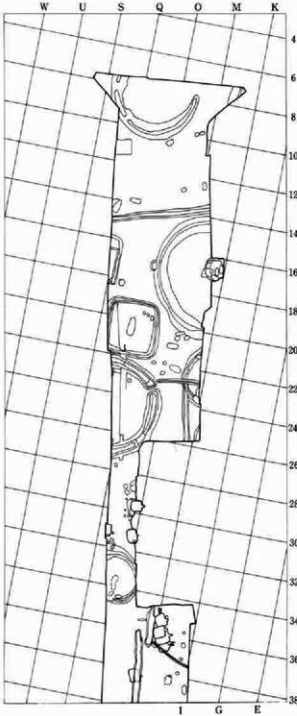
番号	遺跡名	種類	時代	所在地	備考
1	上栗須遺跡	古墳・集落	縄文～近世	上栗須白山、寺東	縄文時代の土坑、方形周溝墓、古墳、奈良・平安時代の集落。
2	下大塚遺跡	集落	奈良・平安	三之久保、東原他	奈良・平安時代の集落
3	中大塚遺跡	集落	奈良～中世	市街道、中道他	奈良・平安時代の集落。中世の道路遺構
4	森遺跡	集落址	古墳～平安	森町	上越新幹線関係埋蔵文化財発掘調査報告書1983
5	中Ⅰ遺跡	集落址	古墳～平安	中町中沖	上越新幹線関係埋蔵文化財発掘調査報告書1983
6	中Ⅱ遺跡	包蔵地	奈良～近世	中町中西	上越新幹線関係埋蔵文化財発掘調査報告書1983
7	温井遺跡	集落址	古墳	岡之郷字温井	岡越自動車道(新潟線)地城埋蔵文化財発掘調査報告書第2集 1981群馬県教育委員会・群馬県埋蔵文化財調査事業団
8	小野地区遺跡群	生産址	平安	小野	小野地区遺跡群 藤岡市教育委員会1980
9	滝川遺跡	包蔵地	縄文	森町	小野地区遺跡群 藤岡市教育委員会1982
10	下川前遺跡	集落址	奈良・平安	岡之郷	小野地区遺跡群 藤岡市教育委員会1982
11	谷地遺跡	包蔵地	縄文	中栗須	小野地区遺跡群 藤岡市教育委員会1982
12	神明北遺跡	包蔵地	縄文	中栗須	小野地区遺跡群 藤岡市教育委員会1982
13	神Ⅱ遺跡	集落址	弥生前期	立石字沖407-1	C11 神Ⅱ 藤岡市教育委員会1982
14	篠塚A古墳群	古墳墓	古墳	篠塚	
15	篠塚B古墳群	墳墓	古墳	篠塚	
16	平地神社古墳	墳墓	古墳	中大塚字宮前1203	市指定史跡。昭和43年、人骨出土
17	中大塚城	城跡址	戦国	中大塚字下郷	複郭城跡。本丸の北・西・南の三方を囲む堀と土居。
18	中大塚敷石住居	集落	縄文	中大塚字鎌倉	県指定史跡
19	天神塚古墳	墳墓	古墳	中大塚字天神682	円墳 昭和43年人骨出土
20	稲荷山古墳	墳墓	古墳	上落合町長沖474	円墳 9m×12m、高さ2.5m
21	伊勢塚古墳	墳墓	古墳	上落合町岡318	円墳27×26×5m、横穴式石室附張プラン横櫓構。県指定史跡
22	七興山古墳	墳墓	古墳	上落合七興甲831	前方後円墳140m、前方部幅100m、高さ18m、後円部径80m、高さ17m、二重周溝。国指定史跡。
23	皇子塚古墳	墳墓	古墳	三ッ木町東原247	円墳32.2×27.6×6m。横穴式複室、奥室幅2.3m、長さ5m、前室幅2m、長さ2.5m、溝道5m、奥室切石積、前室自然積。
24	白石嶺田古墳群	墳墓	古墳	大字白石字嶺田	
25	十二天塚古墳	墳墓	古墳	白石町稲荷原1346	方墳。35m×24m。北側に別の方墳が近接する。
26	白石稲荷山古墳	墳墓	古墳	白石町稲荷原	前方後円墳92.5m、前方部幅41m、後円部52.5m、高さ12m、葺石円筒輪列。 多野郡平井村白石稲荷山古墳。後藤守一、相川龍雄
27	白石古墳群	墳墓	古墳	白石、洞	土師器散布地あり。

第1章 発掘調査と遺跡の概要

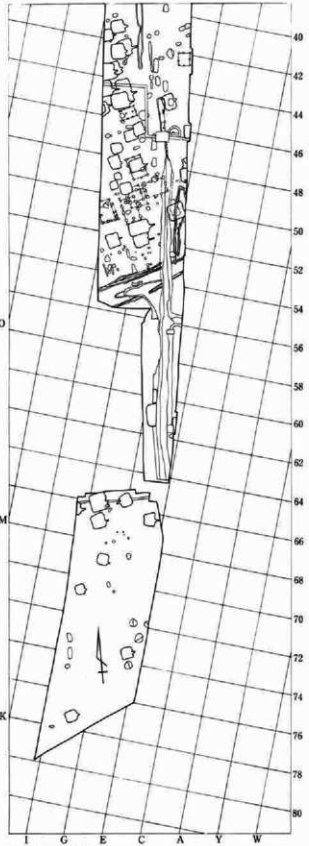
番号	遺跡名	種類	時代	所在地	備考
28	首重塚古墳	墳墓	古墳	白石、字中郷753	円墳 20×20.7×6 m。載石切組両袖壁礎穴式石室
29	塚原古墳	墳墓	古墳	白石、字根岸	円墳 23×22.8×4 m。載石切組。
30	緑塗古墳群	墳墓	古墳	緑塗	前方後円墳 南北全長31.4m、後円部東西15.4m、高さ2 m
31	竹沼遺跡	集落址	先土器～平安	西平井、釣場	F1竹沼遺跡 藤岡市教育委員会1978
32	薬師原遺跡	集落址	縄文～中世	緑塗字薬師原	F9 薬師原遺跡1985
33	金井瓦窯跡	生産址	奈良	金井、金山	上野区分等瓦を生産。
34	東平井古墳群	墳墓	古墳	東平井 川破・川堀	
35	常岡城跡	城館址	戦国	字外の平	菱形の丘城。土居、腰曲輪。
36	堂山古墳かみ塚	墳墓	古墳	本郷 別所	円墳 29.4×18×3 m。
37	本郷埴輪窯跡	生産址	古墳	本郷	埴輪窯跡
38	滝下・滝前遺跡	包蔵地	縄文～平安	中大塚滝下・滝前	方形周溝墓、掘立住建物跡、道路状遺構。
39	本郷尺地遺跡	生産地	近世～近代	本郷尺地	本郷尺地遺跡制群馬県埋蔵文化財調査事業団1978
40	本郷山根遺跡	集落址	古墳～	本郷山根	本郷山根遺跡制群馬県埋蔵文化財調査事業団1988
41	堀之内遺跡群	墳墓 集落	古墳～平安	大字小林南 本郷地区	塚原遺跡、舞臺遺跡、小林古墳群 A、堀之内遺跡群 藤岡市教育委員会1982
42	緑塗地区遺跡	水田址	縄文～平安	白石字沖田大御堂	遺物包含層、畝状遺構。
43	田島遺跡	包蔵地	縄文～平安	下栗須字田島	溝状遺構、土坑、ピット。
44	小林古墳群	墳墓	古墳	小林	
45	諏訪神社古墳	墳墓	古墳	藤岡町東裏	前方後円墳。
46	一本松遺跡	集落址	縄文・古墳	外之平2589	南に突出する舌状台地状。土師器・須恵器。
47	藤岡城	城館址	江戸	城屋敷	北の勝手虎口、追手に外柵形が構えられたと推定される。 土居の高さ4m北西南部に堀、東北角に櫓台残す。
48	栗浅間古墳	墳墓	古墳	高崎道西1152	円墳 東西29×南北23 高さ4.6 南西部の一部欠く。
49	浅間神社古墳	墳墓	古墳	高崎道西1152	円墳 東西43×南北38 高さ4.5
50	ひょうたん塚	墳墓	古墳	本郷塚原321	円墳東西28.7m 南北20.5 高さ3 m
51	道上遺跡	住居址	古墳～平安	矢場字道上	古墳時代の住居址11軒、平安時代の住居址。
52	株木遺跡	集落	縄文～平安	上戸塚字株木	B4株木遺跡 藤岡市教育委員会1984
53	下日野・金井宮 址宮址群	生産地	奈良～平安	下日野字金戸沢 金井字風呂ヶ谷	須恵器窯跡
54	平井城跡	城館址	中世	西平井	関東管領上杉氏の居城。

第II章 上栗須遺跡

第1節 I区検出の遺構と遺物

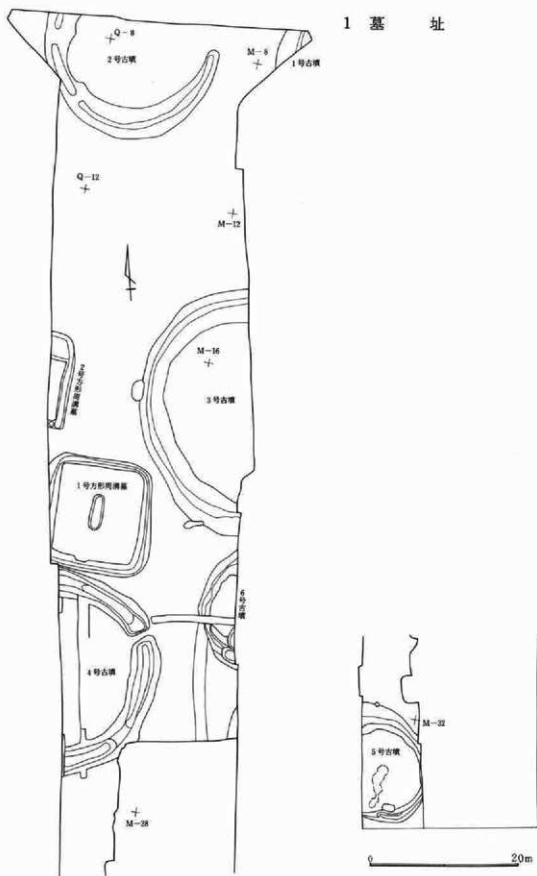


0 50 m

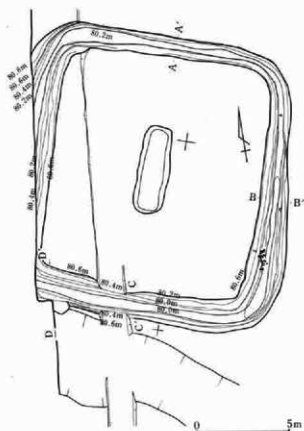


第8図 上栗須遺跡I区の遺構配置図

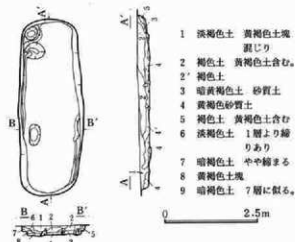
1 墓 址



第9図 古墳遺構配置図



第10図 1号方形周溝墓実測図



第11図 1号方形周溝墓実測図

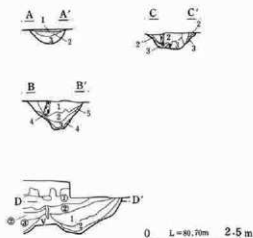
1号方形周溝墓 (写真図版2・8)

位置 N~P-19~21グリッド内

重複 4号古墳に南側周溝を切られている。西側周溝は調査区外にかかるため未調査。

方位 N-11°-W

規模 外周長南北15m、東西不明 台状部南北12.6



- 1 黒色土 白色軽石含む
 - 2 淡褐色土 褐色土塊含む
 - 3 淡褐色土 黄色土塊混じり
 - 4 黄褐色土 やや砂質
 - 5 黄褐色土塊
 - ① 暗褐色土
 - ② 褐色土
 - ③ 褐色土
- } 4号古墳
覆土

m、東西11m

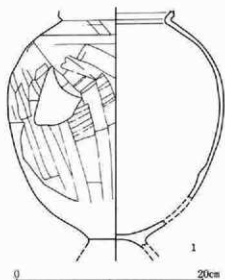
周溝 全周する

形状 隅丸方形

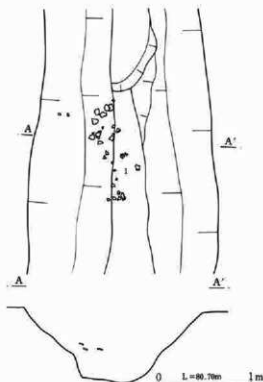
北側周溝上端1m、下端40cm、深さ33cm、断面形は弧状を呈す。埋土上層に白色軽石含む黒色土あり。南側周溝上端1.4m、下端43cm、深さ40cm、断面形は逆台形状を呈する。埋土に地山V層塊が混じる。東側周溝上端1.5m、下端30cm、深さ75cm、断面形は逆台形状を呈する。埋土上層に白色軽石含む黒色土あり。西側周溝上端不明、下端40cm、深さ75cm、断面形は逆台形状を呈する。埋土上層に白色軽石含む黒色土あり。

遺物 東側周溝南よりに台付壺出土。

主体部 台状部中央に長辺4.6m×短辺1.7mの長方形を呈する掘り込みを確認した。埋土は黄褐色土を多量に含む締まりの乏しい土。掘形は、西壁寄りに25cm前後の小ピットがあるが、全体にはフラットな面に仕上げられている。また、掘形床面上に青灰色の塊を含み、下面には薄い橙色の鉄分沈着見られる。出土遺物は無い。



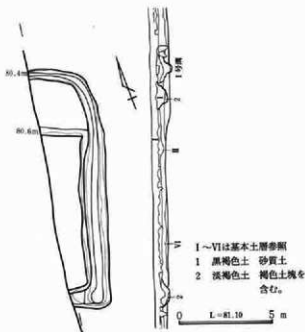
第12図 1号方形周溝墓出土遺物実測図



第13図 1号方形周溝墓遺物出土状況

1号方形周溝墓出土遺物観察表

番号	器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
1	土器器 台付壺	周溝内 南東隅	- - - 口縁部欠損	1. ぶい褐色 2. 粗砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部S字状を呈する胴上半部斜壁削り、下半部直削り。底部内面砂粒多く付着。寛無。



第14図 2号方形周溝墓実測図

2号方形周溝墓（写真図版3）

位置 P・Q-16~18グリッド

重複 東壁と南北両壁の一部のみの調査であり、大半は調査区外にある。

方位 N-11°-E

規模 外周長（東周溝部分）12m、台状部長10.8m
南隅は直角に曲がり、北隅は丸みを持つ。

周溝 東側周溝上端1.4m、下端40cm、深さ50cm、断面形は逆台形を呈する。埋土に地山砂礫混じる。南側周溝上端1.4m、下端40cm、深さ40cm、断面形は逆台形を呈する。埋土に地山砂礫混じる。

北側周溝上端1.5m、下端40cm、深さ60cm、断面形はロート状を呈する。埋土に地山砂礫混じる。

遺物 無し

主体部 未確認

第1節 I区検出の遺構と遺物

1号古墳 (写真図版3・8)

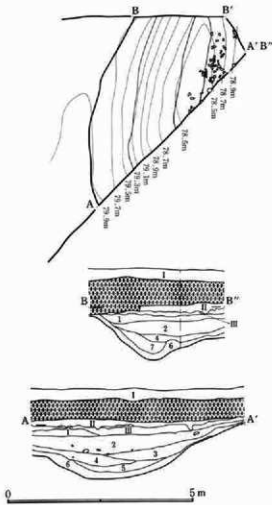
位置 K・L-7グリッド

規模 不明

周堀 覆土上層に As-B 薄く堆積している。

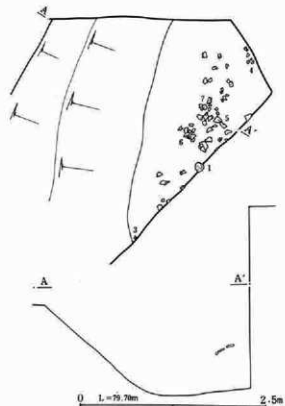
北西部周堀のみ検出。上・下端、不明。深さ1.2m掘形はレンズ状を呈する。

遺物 周堀底面より円筒埴輪片出土。埋土中位より随状須恵器と耳環出土。



- 1~Ⅲは基本土層参照
 1 暗褐色土 As-B含む
 2 褐色土 As-B、小石種かを含む
 3 褐色土 小石多く含む 1、3の遺物出土
 4 暗褐色土 埴輪破片多く含む
 5 暗褐色土 黄色土塊含む
 6 褐色土 黄色土塊混じり
 7 暗褐色土 黄色土塊・小石含む

第15図 1号古墳実測図

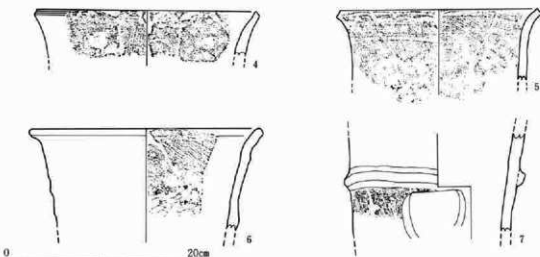


第16図 1号古墳遺物出土状態図



第17図 1号古墳出土遺物実測図(1)

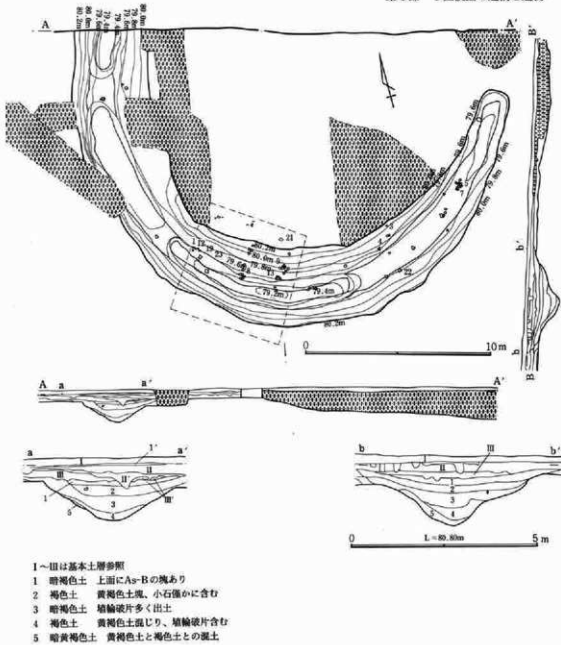
第II章 上栗須道跡



第18図 1号古墳出土遺物実測図(2)

1号古墳出土遺物観察表

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
1	須恵器 埴	調査区壁	10.5 4.0 6.7 完形	1. 灰色 2. 粗砂 小石含む 3. 還元焰 硬質	肩部周縁、斜縁直進る。胴上部円孔、中に片岩系小石入る。自然軸上部かかる。
2	土器 器環	周堀	11.0 - 3.5 片	1. 橙色 2. 細砂、黒色燧灰含む 3. 酸化焰 良好	口縁部内湾、横撫で。 体部～底部手持ち痕削り。
3	耳環	周堀	3.1 1.6 0.9	21.99%	金銅製
4	円筒埴輪	周堀	24.0 - - 口縁部のみ	1. 橙色 2. 粗粒、粘土粒含む 3. 酸化焰、良好	外面縦刷毛。口縁端部横撫で。頂部強い撫で。内面斜方向刷毛。
5	円筒埴輪	周堀	20.9 - -	1. 淡橙色 2. 細砂、粘土粒含む 3. 酸化焰 良好	外面縦刷毛後 縁端部横撫で外反。頂部強い撫で。凹面となる。内面斜方向刷毛。
6	円筒埴輪	周堀	23.5 - -	1. 橙色 2. 細砂、粘土粒小石含む 3. 酸化焰 良好	外面縦方向刷毛後、口縁端部横撫で。 胴部内面縦方向刷毛。
7	円筒埴輪	周堀	- - -	1. 橙色 2. 細砂、粘土粒小石含む 3. 酸化焰 良好	外面第2突起、やや崩れた台形、横撫で。 外面縦刷毛。透孔、1対上部突起側切り狭く。



第19図 2号古墳尖測図

2号古墳 (写真図版4・8・9)

位置 N〜R-7〜10グリッド

重複 北半分は調査区外のため、未発掘。

規模 外周長東西23m、墳丘長東西18m 円形を呈する。

墳丘 削平を受けている。

周堀 白色軽石僅かに含む褐色土を掘り込む。覆土上層にAs-Bの薄い堆積見られる。

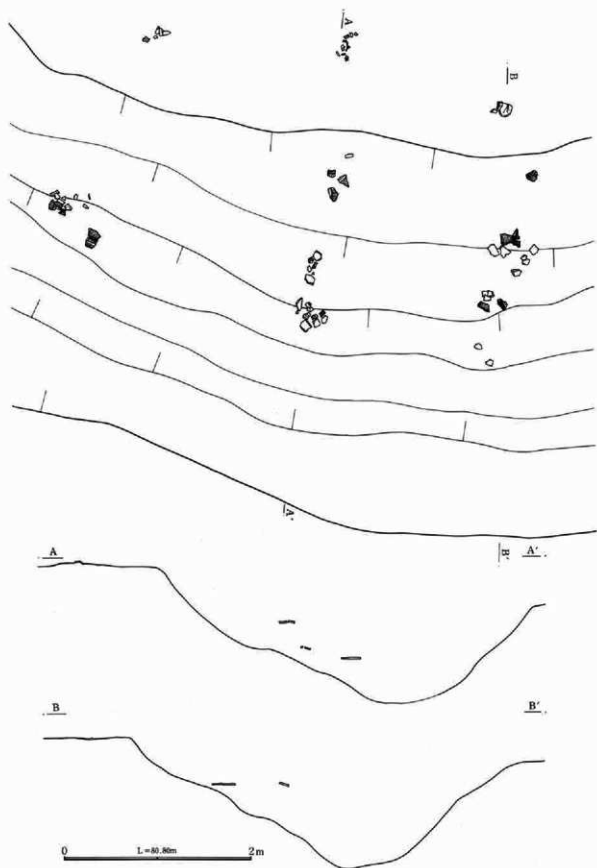
東側周堀は粘土探掘により削平され、辛うじて底面

残る。

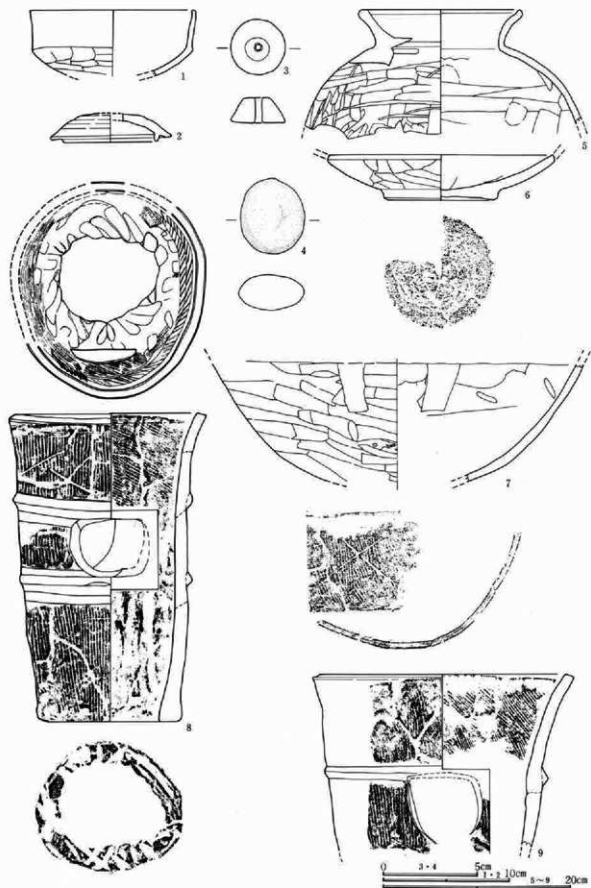
南側周堀は上端5.6m、下端80cm、深さ1.3m 断面形は、上部の広がるU字形を呈する。

西側周堀は上端4.2m、下端60cm、深さ1m 断面形は、レンズ状を呈する。

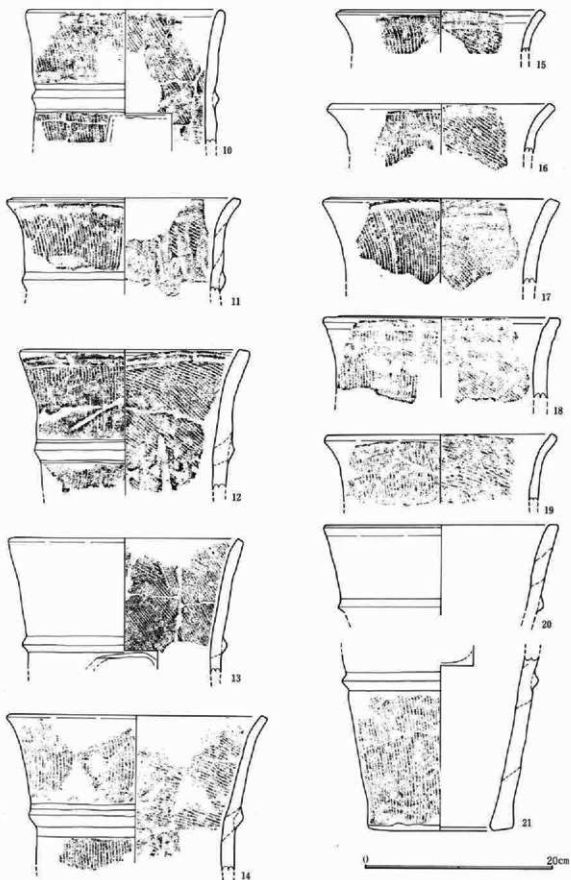
遺物 南側周堀に円筒埴輪片多量に出土。出土状況から埴輪列として墳丘基部に立てられていたものが、埋没過程で倒れ込んだと考えられる。また、周堀南東部分には土師器壺と土師器甕出土。



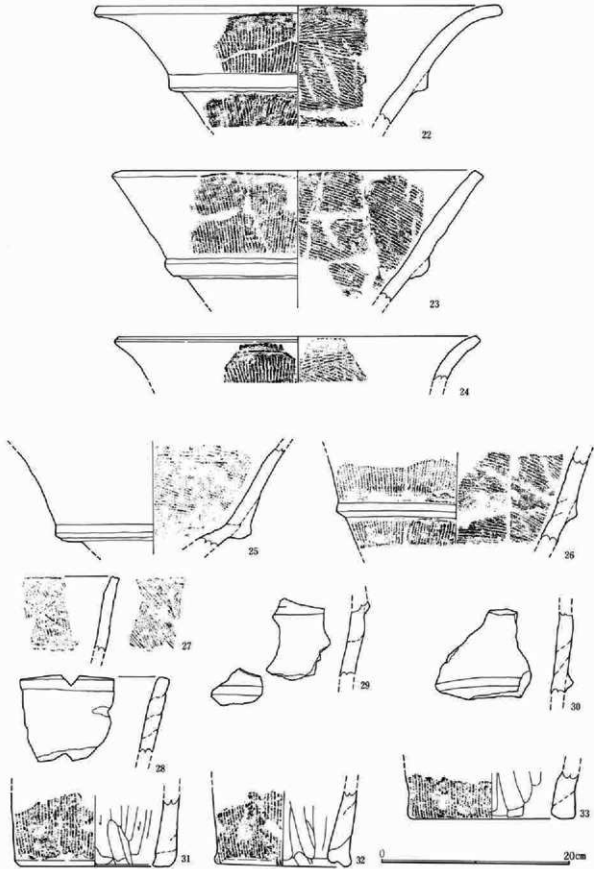
第20圖 2号古墳実測図



第21図 2号古墳出土遺物実測図(1)



第22图 2号古墳出土遺物実測図(2)



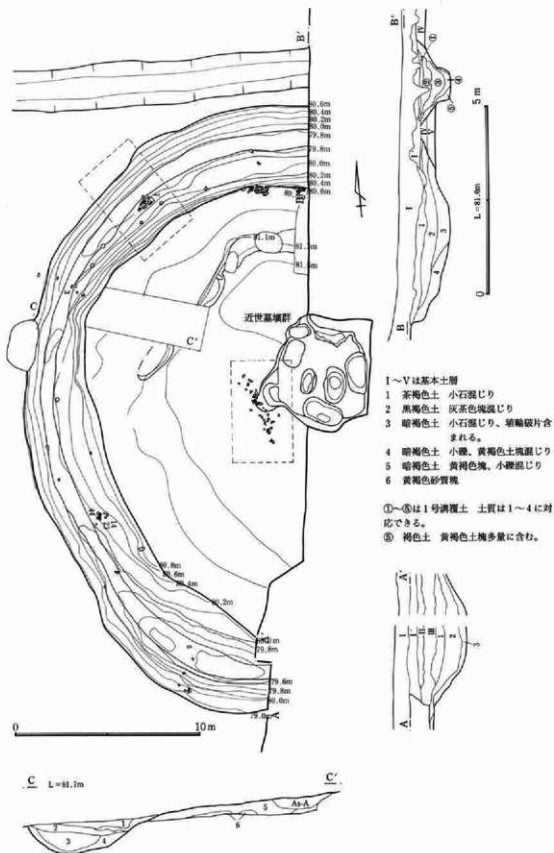
第23図 2号古墳出土遺物実測図(3)

2号古墳出土遺物観察表

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
1	土師器 罎	周堀	13.1 - 5.1 片	1. 明赤褐色 2. 砂粒 粘土粒 含む 3. 酸化焰 良好	口縁部直立し、口唇頂部平坦。強い横撫で。 体部稜を持つ。体部～底部手持り痕あり。
2	須恵器 蓋	周堀	9.6 - - 片	1. 灰白色 2. 白色粒含む 3. 酸化焰 硬質	口縁部頂部回転痕あり。 体部内面カエリを持つ。
3	紡錘車	周堀	4.4 4.4 2.0	60#	滑石製品
4	円磔	周堀	8.0 7.0 3.8	280#	※ デイスライト
5	土師器 甕	周堀	16.8 - - 口縁～胴上部	1. 橙色 2. 粗砂粒含む 3. 還元焰 良好	口縁部外反。端部平坦面外傾。口唇部横撫で。 胴部球形、内外面旋削後撫で。胴下半欠損。
6	土師器 甕	周堀	17.7 9.0 3.6 底～胴部片	1. 橙色 2. 粗砂含む 3. 酸化焰 軟質	欠損部摩耗。接合部が口縁と意識して作られたもの か不明。盤状底部縁状圧痕あり。
7	土師器 甕	周堀	- - -	1. 橙色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 良好	外面横旋削り。旋撫で。
8	円筒埴輪	周堀	20.8 15.6 32.6 ほぼ光形	1. 橙色 2. 砂 粘土粒含む 3. 酸化焰 軟質	外面縦刷毛。突帯貼付。口縁部横撫で。 内面縦指撫で、上部斜刷毛円孔切り抜き。
9	円筒埴輪	周堀	26.1 - 32.6	1. 橙色 2. 砂 粘土粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部僅かに外反。X字彫記号頂部撫で。 外面縦刷毛。内面斜刷毛。
10	円筒埴輪	周堀	21.1 - -	1. 橙色 2. 片岩小石、粘土粒 含む 3. 酸化焰 良好	外面縦刷毛。透孔頂部直線切口横撫で、突帯貼付後、 横撫で。内面斜刷毛。
11	円筒埴輪	周堀	24.9 - 9.6	1. 橙色 2. 砂 粘土粒含む 3. 酸化焰 良好	外面縦刷毛、口縁部横撫で外反突帯貼付、断面三角 形、内面縦指撫で、上部斜刷毛。
12	円筒埴輪	周堀	24.4 - -	1. 橙色 2. 片岩小石 砂粒含 む。 3. 酸化焰 良好	外面縦刷毛後、口縁部横撫で頂部平坦。内面縦指撫 で上部刷毛突帯貼付、横撫で。
13	円筒埴輪	周堀	24.1 - - No.7同一個体	1. 明赤褐色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部表面剥落。僅かに縦刷毛見られる。透孔頂部 直線切口突帯貼付後撫で。断面三角形。
14	円筒埴輪	周堀	27.6 - -	1. 橙色 2. 砂 粘土粒含む 3. 酸化焰 良好	外面縦刷毛。口唇部横撫で。内面斜刷毛。 縦方向指撫で。突帯貼付後、撫で。
15	円筒埴輪	周堀	21.2 - 4.5	1. 橙色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	外面縦刷毛後、口唇部横撫で。頂部外傾、平坦。 内面斜刷毛。2条比線高る。
16	円筒埴輪	周堀	23.0 - 5.4	1. 橙色 2. 細砂 粘土粒含む 3. 酸化焰 良好	外面縦刷毛。口唇部横撫で。頂部外傾、平坦。 内面斜刷毛。
17	円筒埴輪	周堀	23.3 - -	1. 橙色 2. 細砂 粘土粒含む 3. 酸化焰 良好	外面縦刷毛後横撫で。口唇部頂部水平、外傾。 内面斜刷毛。
18	円筒埴輪	周堀	23.1 - 8.4	1. 橙色 2. 細砂 粘土粒含む 3. 酸化	外面縦刷毛後、口唇部横撫で。僅かに外傾。頂部水 平。口縁部比線高る。内面斜刷毛。
19	円筒埴輪	周堀	24.7 - 7.0	1. 橙色 2. 砂 粘土粒含む 3. 酸化	外面縦刷毛後、口縁部外反横撫で。口唇部平坦面。 内面斜方向刷毛。
20	円筒埴輪	周堀	24.6 - 9.2	1. 濃い橙色 2. 粗砂粒含む 3. 酸化	口唇部撫で。口縁部横撫で。突帯貼付。 断面三角形。

第1節 1区検出の遺構と遺物

番号	器 種 器 形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
21	円筒埴輪	周 堀	- 15.6 -	1. 橙色 2. 砂 粘土粒含む 3. 酸化焰 良好	基底部から第1突帯。胴部縦刷毛。内面縦方向指撫で。突帯貼付。断面三角形。強い横撫で。
22	円筒埴輪 朝顔型	周 堀	43.2 - 12.7	1. 橙色 2. 砂 粘土粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部大きく外反。縦刷毛後、口唇部撫で。突帯貼付断面三角形。内面横または斜方向刷毛。
23	円筒埴輪 朝顔型	周 堀	40.0 - -	1. 橙色 2. 砂 粘土粒含む 3. 酸化焰 良好	外面縦刷毛後、端部横撫で。口唇部平坦面。内面斜刷毛。突帯貼付、断面三角形。
24	円筒埴輪	周 堀	38.0 - -	1. 橙色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。口唇部平坦面。外面縦刷毛。内面斜刷毛。
25	円筒埴輪 朝顔型	周 堀	- - -	1. 橙色 2. 片岩粗砂 粘土粒含む 3. 酸化焰 良好	外表面摩耗。僅かに縦刷毛。突帯貼付断面台形。内面斜方向刷毛。
26	円筒埴輪	周 堀	- - -	1. 橙色 2. 細砂 粘土粒含む 3. 酸化	外面縦刷毛。内面斜方向刷毛。突帯貼付後撫で。断面三角形。
27	円筒埴輪	周 堀	- - -	1. 橙色 2. 砂、粘土粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁端部横撫で、外面縦刷毛、内面斜刷毛。
28	円筒埴輪	周 堀	- - -	1. ぶい灰白黄色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口唇部水平撫で。口縁端部横撫で。Na20と同一個体?
29	円筒埴輪	周 堀	- - -	1. ぶい黄灰白色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	突帯貼付。断面三角形。透孔、内面に向い、えぐり取られる。Na20と同一個体
30	円筒埴輪	周 堀	- - -	1. ぶい灰黄色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	突帯貼付、断面三角形。Na20と同一個体
31	円筒埴輪	周 堀	- 17.2 -	1. 橙色 2. 砂 粘土粒含む 3. 酸化焰 良好	基底部、外面縦刷毛。内面縦指撫で。底面棒状圧痕
32	円筒埴輪	周 堀	- 13.7 -	1. 橙色 2. 砂 粘土粒含む 3. 酸化焰 良好	基底部。外面縦刷毛。内面撫で。底面棒状圧痕。
33	円筒埴輪	周 堀	- 18.0 -	1. 橙色 2. 砂 粘土粒含む 3. 酸化焰 良好	基底部、外面縦刷毛。内面縦指撫で。底面棒状圧痕



第24図 3号古墳実測図

3号古墳 (写真図版5・10・11)

位置 L~N-13~20グリッド

重複 1号溝北側で近接。墳丘上に近世の馬頭観音石塔が置かれ、墳丘調査時に馬の墓坑多数検出。また、馬の墓坑を掘込み人骨が出土した。東半分は調査区外であるため、未調査。

規模 外周径南北32m、墳丘径22m 円形を呈する

墳丘 現況では1m程の高まりとして確認できた。調査時においてAs-Aを含む墓坑上面の遺構確認状況から18世紀前半には削平を受ける。

主体部 未検出ではあるが、墓坑群を検出した地点の状況から、消失したと考えられる。

周堀 白色軽石僅かに含む褐色土を掘り込む。

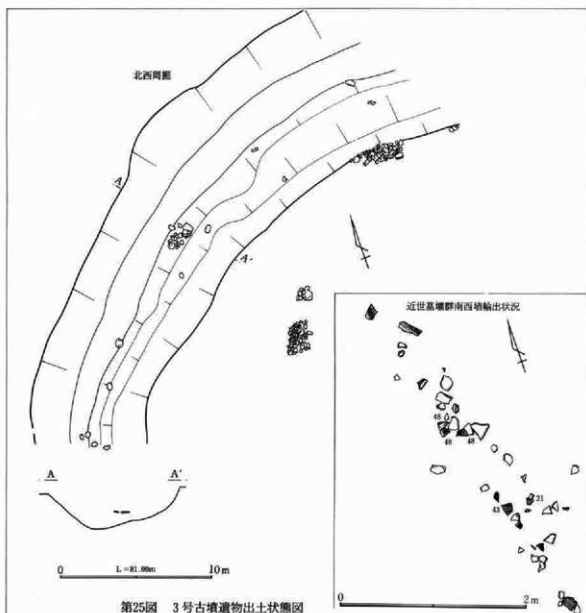
北側周堀 上端5m、下端1.2m、深さ60cm 断面形はレンズ状を呈する。

西側周堀 上端3m、下端80cm、深さ80cm 断面形はレンズ状を呈する。

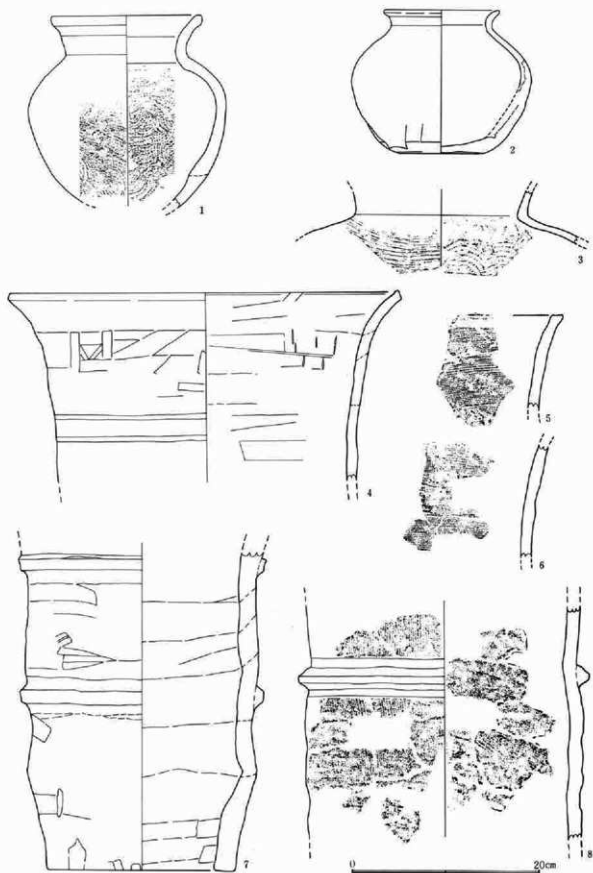
南側周堀 上端5m、下端1.2m、深さ1m 断面形は逆台形状を呈する。

遺物 周堀内全般に埴輪片出土。墳丘上から形象埴輪片出土。

備考 上毛古墳総覧では小野村2号の呼称が付されている。

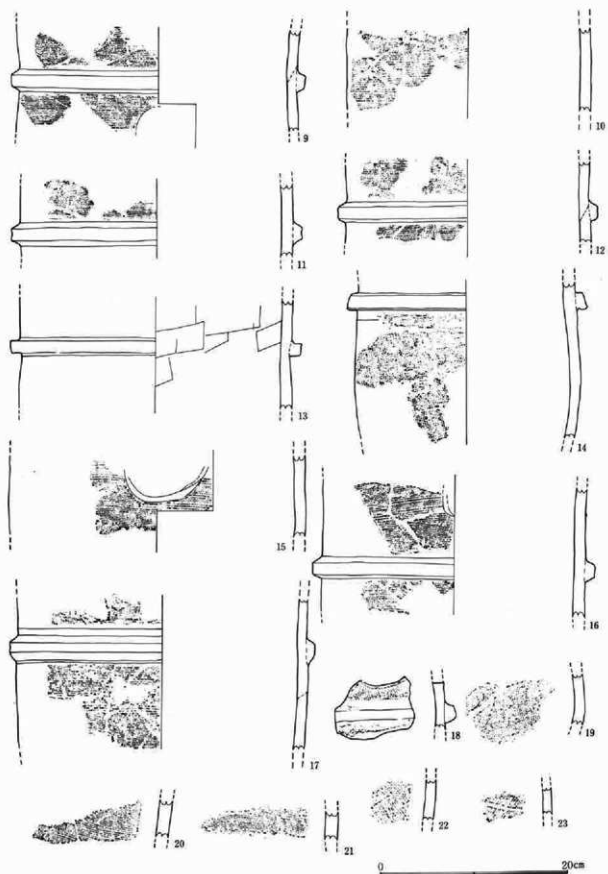


第25図 3号古墳遺物出土状態図

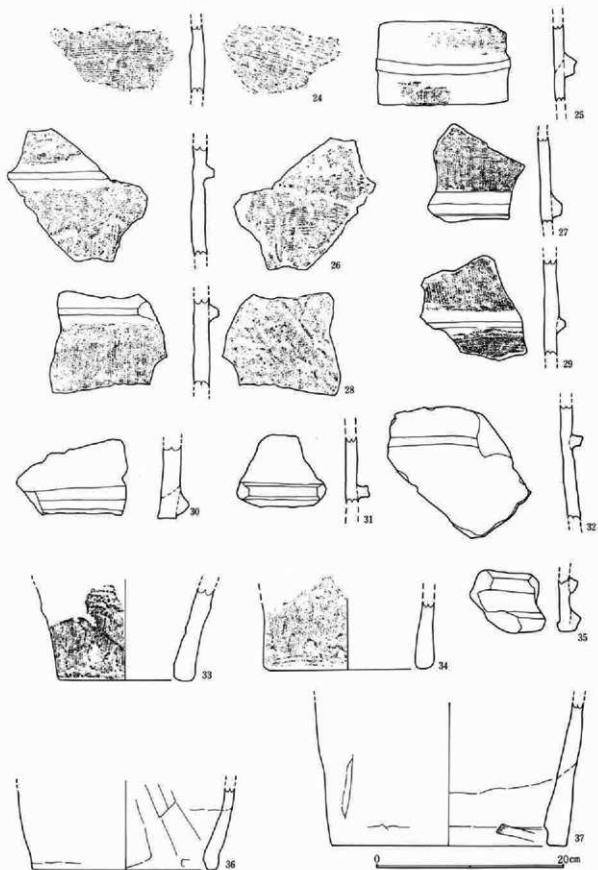


第26図 3号古墳出土遺物実測図(1)

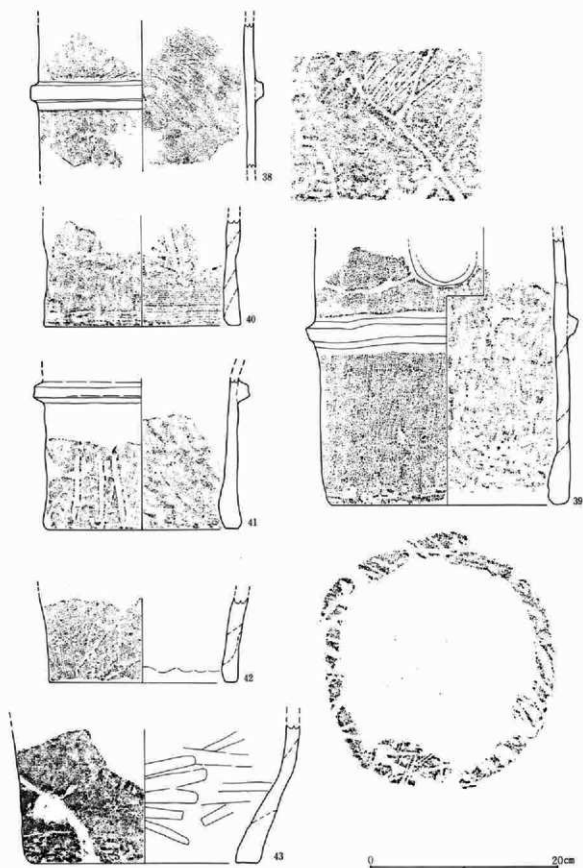
第1節 I区検出の遺構と遺物



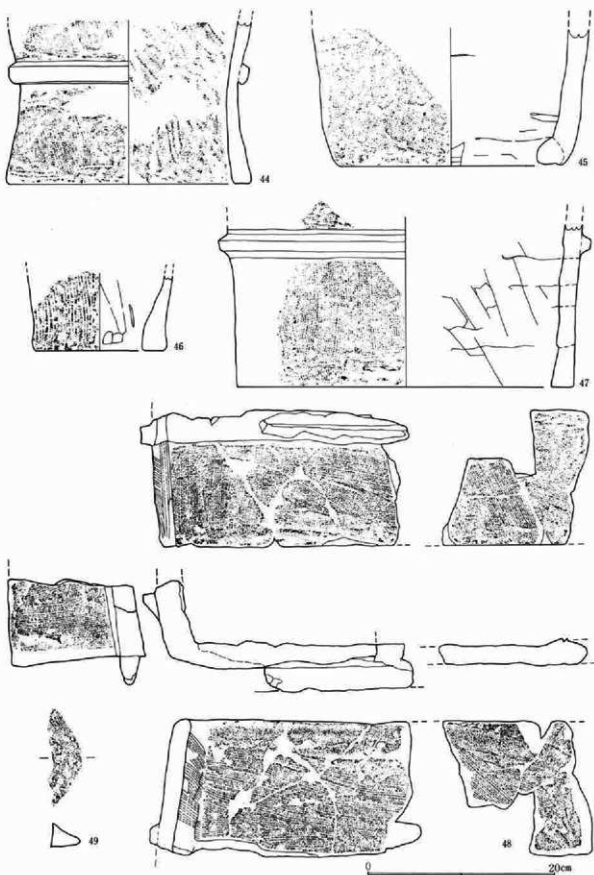
第27図 3号古墳出土遺物実測図(2)



第28図 3号古墳出土遺物実測図(3)



第29図 3号古墳出土遺物実測図(4)



第30図 3号古墳出土遺物実測図(5)

3号古墳出土遺物観察表

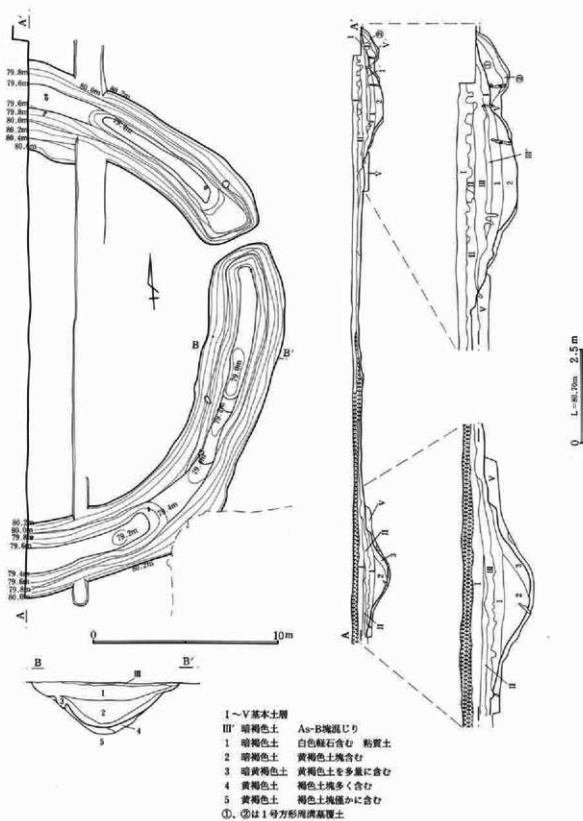
番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
1	須恵器 壺	周 期	15.0 - (21.0) 底部欠損	1. 灰色 2. 粗砂粒 小石含む 3. 還元焰 硬質	口縁部外反、端部段を有する。胴外面叩目。 下半同心円当具痕。丸底、上半撫で消し。
2	須恵器 壺	周 期	12.3 8.8 15.0 完形	1. 灰白色 2. 砂粒含む 3. 還元焰 やや硬質	口縁部短頸外反。口唇部平な面をもつ。回転軸中央 やや上に最大径有り、下部回転部削り。
3	須恵器 壺	周 期	- - -	1. 灰色 2. 砂粒含む 3. 還元焰 硬質	口縁部外反。胴外面叩目。内面当具痕。
4	円筒埴輪	周 期	(41.4) - -	1. にぶい橙色 2. 粗砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部外面縦溝に撫で(工具不明)。口唇部横撫で頂 部平坦面外縁。突帯彫痕。貼付後撫で。
5	円筒埴輪	周 期	- - -	1. 橙色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。 外面横刷毛。黒底あり。内面撫で。
6	円筒埴輪	周 期	- - -	1. にぶい黄褐色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 良好	外面横刷毛。突帯接合痕あり。内面撫で。
7	円筒埴輪	墳丘部	- 20.0 -	1. にぶい橙色 2. 粗砂粒 小石 含む 3. 酸化焰 良好	基礎部-第2突帯。突帯貼付。断面台形。 基礎部重圧により膨らむ。調整具(不明) 縦溝に削 る。
8	円筒埴輪	周 期	- - -	1. 橙色。 2. 粗砂 粘土粒含 む 3. 酸化焰 良好	外面横刷毛。断面台形。突帯貼付後、横撫 内面斜方向縦刷毛。接合痕残る。
9	円筒埴輪	周 期	- - -	1. 橙色 2. 砂粒含む。 3. 酸化焰 良好	突帯貼付。断面台形。頂部湾曲。横撫で。 胴部横刷毛。4cm大横円黒底、赤底。円孔切り抜く
10	円筒埴輪	周 期	- - -	1. にぶい橙色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 良好	胴部外面横刷毛。内面撫で。
11	円筒埴輪	周 期	- - -	1. にぶい橙色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 良好	外面横刷毛。黒底あり。突帯貼付。 断面台形。頂部湾曲。横撫で。円孔。
12	円筒埴輪	周 期	- - -	1. にぶい黄褐色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 良好	外面横刷毛。透孔由縁。突帯貼付。 断面台形。頂部やや凹形。内面撫で。
13	円筒埴輪	周 期	- - -	1. にぶい橙色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 良好	外面撫で調整。内面荒撫で。突帯貼付。 断面方形。頂部湾曲。横撫で。
14	円筒埴輪	周 期	- - -	1. 橙色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 良好	外面横刷毛。内面縦撫で。突帯貼付。 断面磨れた台形。横撫で。
15	円筒埴輪	周 期	- - -	1. にぶい橙色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 良好	外面横刷毛。楕円形の透孔。
16	円筒埴輪	周 期	- - -	1. にぶい橙色 2. 粗砂、粘土 粒含む 3. 酸化焰 良好	外面横刷毛。突帯貼付。断面台形。横撫で。 円孔切り抜く。
17	円筒埴輪	周 期	- - -	1. にぶい褐色 2. 粗砂粒含む 3. 酸化焰 良好	内外面横刷毛。外面赤底。貼付突帯。 断面台形。頂部内窪。上下横撫で。
18	円筒埴輪	周 期	- - -	1. にぶい黄褐色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 良好	突帯貼付。断面台形。頂部凹曲線。外面横刷毛透孔 円形。内面撫で。
19	円筒埴輪	周 期	- - -	1. 橙色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 良好	内外面横刷毛。内面撫で。 寛記号。

第II章 上栗遺跡跡

番号	器 器 器 形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
20	円筒埴輪	墳丘部	- - -	1. 褐色 2. 粗砂粒含む 3. 酸化焰 良好	突帯貼り付け。断面三角形。縦刷毛。
21	円筒埴輪	周 堀	- - -	1. にぶい褐色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横刷毛。透孔。
22	円筒埴輪	周 堀	- - -	1. 褐色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 良好	胴部縦刷毛。瓦記号。
23	円筒埴輪	周 堀	- - -	1. 褐色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 良好	胴部横刷毛。線刻。
24	円筒埴輪	周 堀	- - -	1. にぶい褐色 2. 粗砂粒、小 石含む 3. 酸化焰 良好	外面縦刷毛後、横刷毛。内面斜刷毛後、横刷毛
25	円筒埴輪	周 堀	- - -	1. にぶい褐色 2. 粗砂、粘土 粒含む 3. 酸化焰 良好	外面縦刷毛、突帯横撫で。突帯貼付、断面台形内面 指撫で。
26	円筒埴輪	周 堀	- - -	1. 黄灰白色 2. 粗砂、小石含 む 3. 酸化焰 良好	外面縦刷毛後、突帯上下横刷毛。内面縦撫で。突帯 貼付。断面台形。
27	円筒埴輪	周 堀	- - -	1. 褐色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 良好	外面縦刷毛、突帯上部横刷毛。内面指撫で。 突帯貼付。断面台形。
28	円筒埴輪	周 堀	- - -	1. 褐色 2. 粗砂粒、小石含む 3. 酸化焰 良好	外面縦刷毛。内面、接合痕切斷、縦指撫で。 突帯貼付。断面台形。
29	円筒埴輪	周 堀	- - -	1. 褐色 2. 砂、粘土粒含む 3. 酸化焰 良好	外面縦刷毛。内面接合痕明瞭、指撫で。 突帯貼付。断面台形。
30	円筒埴輪	周 堀	- - -	1. にぶい褐色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 良好	外面縦撫で、or磨き。突帯貼付。断面三角形。
31	円筒埴輪	周 堀	- - -	1. 褐色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 良好	外面縦撫で、突帯部貼付断面方形。
32	円筒埴輪	周 堀	- - -	1. 褐色 2. 粗砂、粘土粒含む 3. 酸化焰 良好	内面横撫で。突帯貼付。断面方形。
33	円筒埴輪	周 堀	- 14.0 -	1. 褐色 2. 砂、粘土粒含む 3. 酸化焰 良好	基底部、外面縦刷毛。内面縦指撫で。
34	円筒埴輪	墳丘部	- 18.1 -	1. にぶい赤褐色 2. 粗砂粒含 む 3. 酸化焰 良好	基底部、外面縦刷毛。内面指撫で。 指棒状圧痕。
35	円筒埴輪	墳丘部	- - -	1. にぶい褐色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 良好	二重突帯貼付、断面台形。胴部横撫で。
36	円筒埴輪	周 堀	- 20.0 -	1. 褐色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 良好	基底部、外面縦撫で。内面有撫で。
37	円筒埴輪	墳丘部	- 25.0 -	1. にぶい褐色 2. 粗砂粒含む 3. 酸化焰 良好	基底部、外面縦方向撫で。下部部横撫で。 底面棒状痕残る。
38	円筒埴輪	周 堀	- - -	1. にぶい赤褐色 2. 粗砂粒含 む 3. 酸化焰 良好	外面縦刷毛。内面斜指撫で、粗い横斜刷毛。線刻あり。 円孔あり。切抜き。
39	円筒埴輪	周 堀	- 26.0 -	1. にぶい褐色 2. 粗砂粒、小 石含む 3. 酸化焰 良好	基底部～第1突帯。突帯貼付。断面台形、横撫で。 外面縦刷毛。内面縦指撫で。円孔切抜き。

第1節 1区検出の遺構と遺物

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
40	円筒埴輪	周 堀	- 21.0 -	1. によい橙色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 良好	基底部、縦刷毛。篋記号。内面横刷毛、接合痕見られる。
41	円筒埴輪	周 堀	- 20.1 -	1. によい橙色 2. 砂、粘土粒 含む 3. 酸化焰 良好	基底部～第1突帯、突帯貼付、断面台形。横撫で。外面縦刷毛、内面斜方向指撫で。線刻あり。
42	円筒埴輪	周 堀	- 20.0 -	1. によい橙色 2. 粗砂粒含む 3. 酸化焰 良好	基底部。外面縦方向刷毛、内面横斜方向。指撫で、端部横撫で。
43	円筒埴輪	墳丘部	- 24.0 -	1. によい橙色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 良好	基底部重圧により、一部変形。縦刷毛。下端横刷毛、内面指撫で。
44	円筒埴輪	周 堀	- 26.0 -	1. 橙色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 良好	基底部～第1突帯貼付、横撫で。外面縦刷毛。底部内面指撫で。底部ハの字に開く。
45	円筒埴輪	周 堀	- 24.0 -	1. によい橙色。 2. 粗砂粒含む。 3. 酸化焰 良好	基底部～下端接合部肥厚、内面変形。内外面指撫で。接合痕明瞭。棒状痕見られる。
46	円筒埴輪	周 堀	- 14.0 -	1. 赤褐色 2. 砂、粘土粒含む 3. 酸化焰 良好	基底部。外面縦刷毛。内面斜指撫で。指押さえ。下端肥厚。
47	円筒埴輪	周 堀	- 36.0 -	1. によい橙色 2. 粗砂粒、小 石含む 3. 酸化焰 良好	基底部～第1突帯、突帯貼付、断面台形。横撫で。外面縦刷毛。下端横刷毛。内面斜方向指撫で。接合痕明瞭。底部指圧痕。接合痕明瞭。
48	形象埴輪 家 型	周 堀	- - -	1. によい橙色 2. 粗砂粒含む 3. 酸化焰 良好	基底部。外面縦刷毛後、横または斜刷毛。底部貼付け。断面台形。上面横刷毛、下面指厚直
49	形象埴輪	周 堀	- - -	1. 黄褐色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 良好	突帯貼付け。断面三角形。縦刷毛、指圧痕あり。



第31圖 4号古墳実測図

4号古墳 (写真図版6・12)

位置 M~P-22~27グリッド 調査区北

重複 1号方形周溝墓を北周堀で切る。西側半分は調査区外にあり、未調査。

規模 外周径南北28.4m、墳丘径20m、円形を呈する。

墳丘 10cm程の盛土が確認できた。

主体部 削平を受けていると考えられる。

周堀 白色軽石を僅かに含む褐色土を掘り込む。

覆土上面には、As-Bの薄い層が堆積している。東中央北寄りに、上端60cm、下端2m、北側深さ84cm・南側深さ1.2mの地山を掘り残した土橋がある。土橋

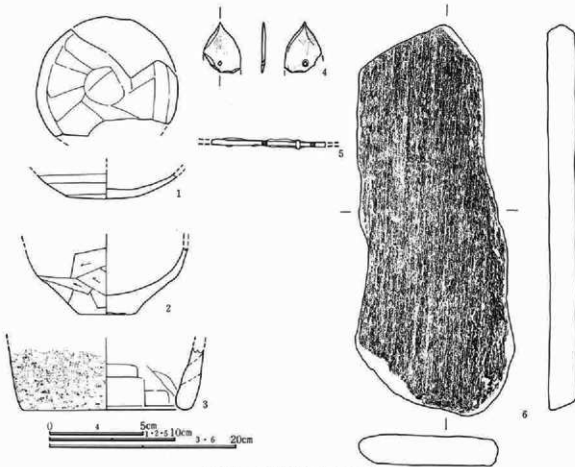
を境に断面形が異なり、北側ではレンズ状を呈するが、南側では斜面が直線的に立ち上がりV字状の断面形を持つ。周堀掘形は、3地点で掘り込みの深い部分が検出され、工区割りによる高低差と考えられる。南側周堀は上端4.4m、下端80cm、深さ1m 断面形は、上端の広がるU字形を呈する。

東側周堀は上端4m、下端40cm、深さ1.3m 断面形は、V字形を呈する。

北側周堀 上端6m、下端1.4m、深さ1.1m 断面形はレンズ状を呈する。

遺物 この古墳に伴う遺物は無い。

備考 墳丘下から縄文時代の土坑検出。



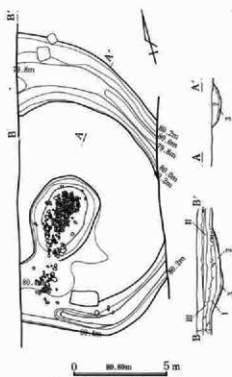
第32図 4号古墳出土遺物実測図

4号古墳出土遺物観察表

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
1	土器器 壺	周堀	- 6.5 - 底部片	1. 褐色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 良好	欠面部摩耗、接合部内面擦痕で、底部磨周り。

第二章 上栗須遺跡

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・高径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
2	土師器 甕	周廻	— 6.0 — 底～体部迄	1. によい橙色 2. 粗砂、粘土 粒含む 3. 酸化焰 良好	胴部寛削り、下部絞り込まれる。 平底、寛削り。肥厚。
3	円筒埴輪	周廻	— 18.0 —	1. によい橙色 2. 粗砂粒含む 3. 酸化焰 良好	基底部。外面縦刺毛、内面指撫で。
4	磨製石鎌	周廻	2.7 2 0.2	1.52K	頁岩
5	鉄 鎌	周廻	9.2 0.3 0.4	4.68K	短茎。棘寛披
6	板 碑	周廻	41.4 16.5 2.8	3,890K	菅母石英片岩

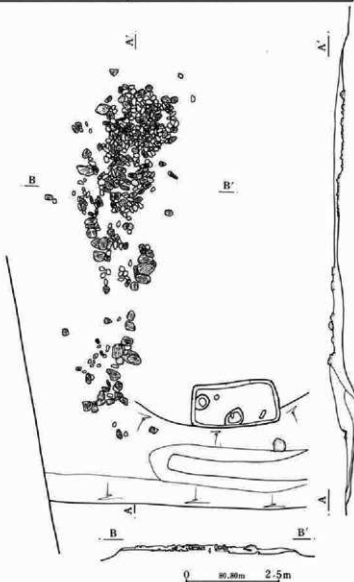


第33図 5号古墳実測図



第34図 前庭部遺物出土状況

- I～IIIは基本土層参照
- 1 暗褐色土 僅かに白色粒石含む
 - 2 褐色土 黄褐色土塊含む
 - 3 褐色土 黄褐色土との混土



第35図 石室礎床残存状況

- 1 褐色土 黄褐色土塊僅かに含む
- 2 褐色土 黄褐色土のよれたもの
- 3 褐色土 黄褐色土塊、小礫混じり

5号古墳 (写真図版6・12)

位置 L〜N-32〜34グリッド 調査区北

重複 26号土坑前庭部の一部を切る。粘土採掘により東側周堀壊される。

規模 外周径14.4m、墳丘径10m、円形を呈する。

墳丘 削平を受けている。

主体部 12〜16cmの礫床部分が攪乱状態で墳丘中央部に南北4m、東西2mの規模で確認できた。

前庭部は25cm大の礫に混じり須恵器壺が出土した。

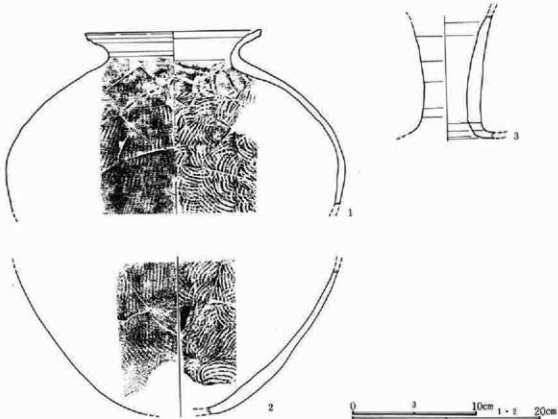
周堀 全周する。前庭部前の周堀は他の地点より浅く掘られる。白色軽石混じりの褐色土を掘り込む。

南側周堀は上端2.4m、下端1m、深さ20cm 断面形はレンズ状を呈する。

北側周堀は上端4.4m、下端2m、深さ45cm 断面形はレンズ状を呈する。

遺物 前庭部より須恵器壺出土。

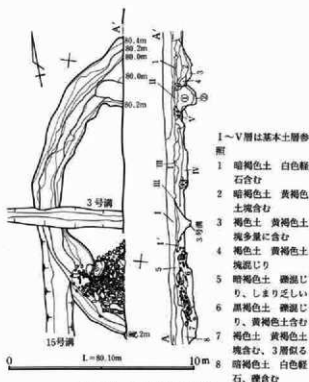
備考 礫床部分にAs-Aが混じる。



第36図 5号古墳出土遺物実測図

5号古墳出土遺物観察表

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
1	須恵器 壺	前庭部	18.8 - 18.5	1. 淡黄色 2. 細砂粒含む 3. 還元焰 良籽	口縁部外反。口唇部狭み上げ、割部印目。 内面弧状当具痕。
2	須恵器 壺	前庭部	- - (18.7)	1. 淡黄色 2. 細砂粒含む 3. 還元焰 良籽	1と同一個体。底部丸底。
3	須恵器 長頸壺	前庭部	- - - 頸部のみ	1. 灰色 2. 黒色細粒含む 3. 還元焰 硬質	頸部接合痕見られる。



第37図 6号古墳実測図

6号古墳 (写真図版7・12)

位置 K・L-20~23グリッド 調査区北

重複 3号・15号溝に切れられ、72号土坑を切る。

規模 外周径16m、墳径9m 東側半分調査区外であるため、未調査。

墳丘 削平を受けている。

主体部 未確認、前庭部から周堀内に落ち込んでいる礫群から破壊されている状況が伺われる。礫群中には1m前後の「牛伏砂岩」見られる。前庭部は確認面より50cm程下がり、長方形の掘形を持ち周堀に移行する。前庭部を画するハの字状に開いたライン上には25cm前後の礫を並べている。

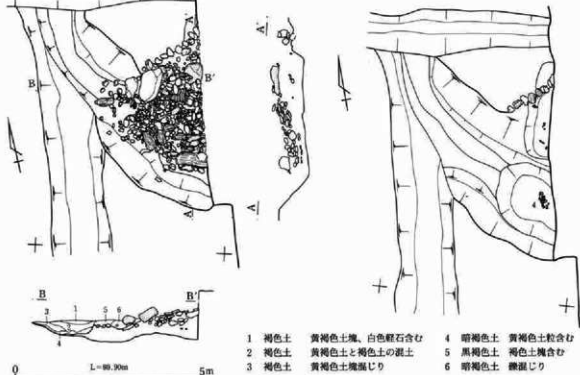
周堀 全周すると思われる。褐色土を掘り込む。

南側周堀 前庭部前は深く掘り込まれ、上端南北2.3m、下端1m、深き70cm 断面形はレンズ状を呈する。

西側周堀 上端1.4m、下端40cm、深き30cm 断面形は逆台形状を呈する。

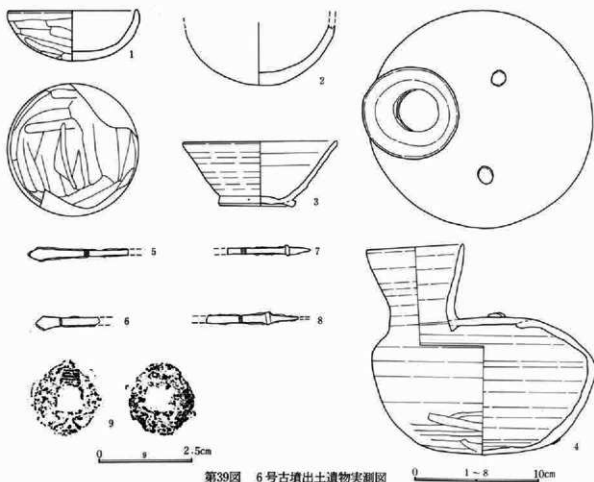
北側周堀 上端2.4m、下端80cm、深き60cm 断面形はレンズ状を呈する。

遺物 前庭部覆土中から鉄製品及び須恵器平瓶出土。



第38図 6号古墳実測図

第1節 I区検出の遺構と遺物



第39図 6号古墳出土遺物実測図

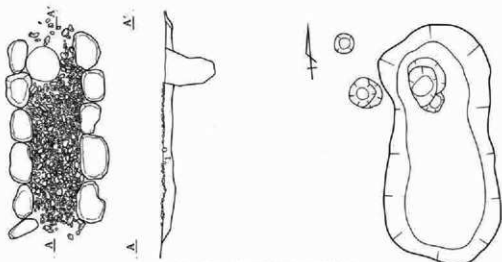
6号古墳出土遺物観察表

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
1	土器 器形 環	周部	10.2 - 4.0	1. 橙色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横断で、手持ち寛肩。内面無で。
2	土器 器形 環	周部	- - 4.8 底部のみ	1. 橙色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 やや軟質	丸底寛肩形。
3	須恵器 器形 椀	前庭部	12.3 6.0 5.1 片	1. 灰色 2. 砂粒含む 3. 中性焰 軟質	輪縁整形。胴部直線的に開く。 底部回転糸切り、高台貼付け、崩れた台形。
4	須恵器 器形 平瓶	前庭部	7.7 - 16.5	1. 灰色 2. 粗砂 小石含む 3. 還元焰 硬質	内面中央部粘土板にて口をふき臨に円孔を明け、 漏斗状口縁接合。頂部粘土2ヶ貼付け。
5	鉄器 器形 前庭部	前庭部	8.0 0.5 0.3	4.48g	箭式肩被部から基部にかけて欠損。鉄鍍。
6	鉄器 器形 前庭部	前庭部	5.2 1.0 -	2.06g	肩被部から基部にかけて欠損。鉄鍍。
7	鉄器 器形 前庭部	前庭部	6.7 0.85 -	3.87g	箭式肩被部。短茎。鉄鍍。
8	鉄器 器形 前庭部	前庭部	7.3 1.0 -	5.29g	箭式肩被部。短茎。鉄鍍。
9	古鉄 器形 前庭部	前庭部		2.80g	破損

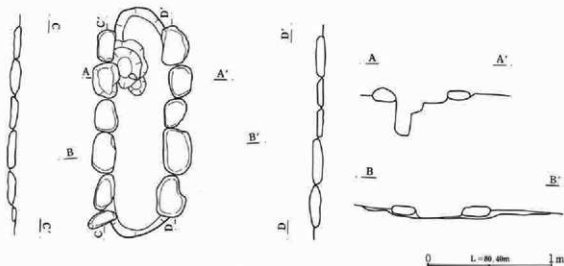
石槨墓 (写真図版)

位置は取付道路との接続部、25号住居北側J・K-35グリッドにおいて検出した。検出状況はAs-B混じりの基本土層III層を除去したところで、外郭の礫上面を確認したが、掘り込み面等は確認できなかった。礫面はIV層を僅かに掘り込んで構築されている。外部施設等は確認できなかった。形状は長方形を

呈し、長さ30cm大、幅23cm、厚さ5cmの偏平な礫を両側に5個ずつ並べ、中に5cm前後の小礫を敷き詰め、礫床面を作り長方形に組んでいる。長軸方向はほぼ南北方向に向きN-3°-Eを測る。規模は長辺1.8m、短辺0.8m、深さ3cm程を測る。掘形は、平底の長円形を呈し、両側縁部に大礫を並べる。礫床面の下層は黄色褐色土と暗褐色土の混土を踏み固めている。



1 褐色土 黄褐色土塊と褐色土塊の混土、固く、締まりのある土



第40図 石槨墓実測図

3号古墳上墓坑群

3号古墳は、上栗須遺跡I区北辺、馬庭停車場線の上栗須交差点南脇に位置し、地元の人には馬捨て場と呼ばれている。この古墳中央部より多量の馬骨が出土し、古墳上を走る農道脇には馬頭観世音の石像塔が建てられている。石像塔には、宝暦元年の銘(1751年)が刻まれており、この石像塔建立前後より馬の埋葬所として使用されたと考えられる。また、墳頂部の覆土中層より天明3年(1783年)浅間山噴火軽石であるAs-Aの堆積が見られ、この層を挟んで上下で墓坑及び馬骨が分けられる。

調査は、全体に散乱している骨片や1個体としてまとまりの見られる馬骨を全体図に落とし、写真撮影のあと保存処理を施し遺物の取り上げを行った。

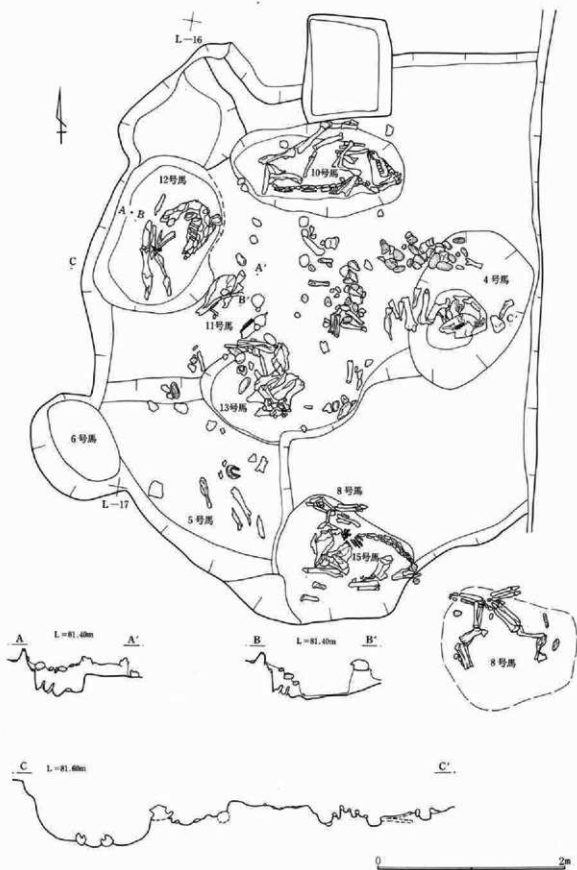
馬骨の取り上げについては、骨が腐食等により脆くなっているため、当事業団の関邦一技師に取り上げ指導を依頼した。取り上げ方法は、脆くなっている部分や頭部などの空洞になっている部分にバラフィンを含み込ませ取り上げる方法を採用した。

馬骨の状況は、遺構を掘り下げて行くに従い攪乱の度合いは少なくなり、個体としてまとまりが見られるようになった。墓坑群の範囲も南北5.9m、東西5.6m前後の楕円形の掘り込み内にまとまっていることが確認でき、中心部に比べ周辺部に埋葬された馬の残りが良好であった。

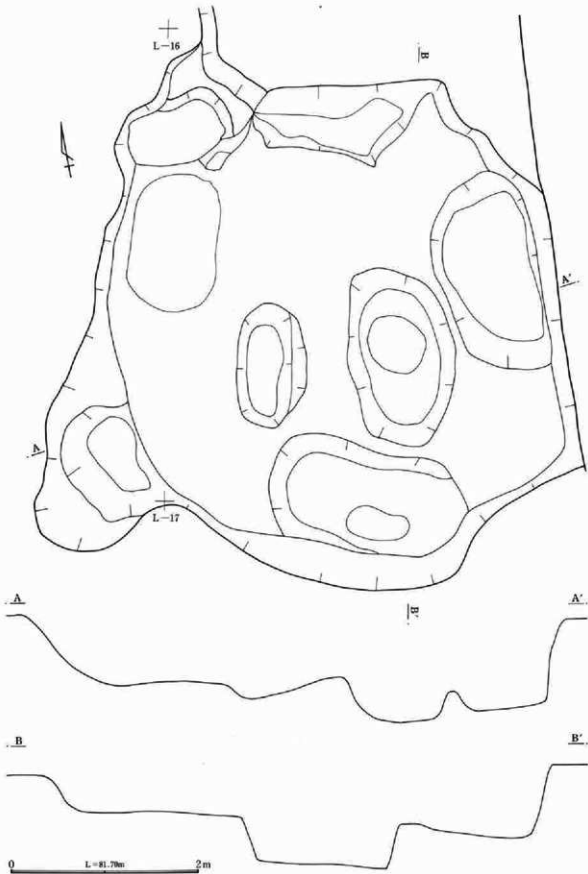
埋葬方法について、8号・10号・16号馬では前後の脚部が交差した状態で検出されている。この状態は、運搬時に脚部を縛りそのままの投げ入れた状態と考えられる。

以下各馬の説明となるが、馬骨番号や平面図は発掘現場において用いた番号及び作成した図面を使用した。遺構の説明については以下の通りである。位置は、墓坑群を含む全体の中の位置を示す。方位は、背骨から頭にかけての傾きの方向を示す。規模は、骨の広がり、又は墓坑の確認できる場合は墓坑の規模を示す。埋葬状態は、手足の出土状態を示す。

番号	位置	方位	規模	埋葬状態	備考
1号馬	墓坑群北	W-35°-S	全長1.0m 幅0.5m	脚部を北に向け、横向きの状態	全体の残りは比較的良好である。
2号馬	墓坑群北	東西方向	全長0.8m 幅0.7m	頭部を西側、脚部南向き	攪乱を受け頭部から骨骨にかけて残る。
3号馬	1号馬南			攪乱を受け不明	覆土中にAs-A 覆じる。
4号馬	3号馬南			攪乱を受け不明	覆土中にAs-A 覆じる。
5号馬	4号馬南	N-20°-W	全長1.5m 幅0.6m	脚部を西に向け、横向きの状態	下層に13号馬出土。覆土にAs-A 含む。
6号馬	墓坑群西南	N-35°-W	全長1.2m 幅0.9m	頭部下向き、脚部が上に折れ重なる	攪乱を受けず残存状態は良好。
8号馬	墓坑群南	東西方向	全長1.2m 幅0.8m	頭部西側、脚部を北に向け交差	脚部を15号馬に切られている。
10号馬	墓坑群北	東西方向	全長1.8m 幅1.1m	頭部斜め上向き、前後の脚部を交差	残存状態は最も良好である。
12号馬	墓坑群西北	N-30°-E	全長1.6m 幅1.1m	背部下向き、脚部と頭部が上向き	20cm前後の円礫出土。As-A 含む。
13号馬	墓坑群中央	N-30°-W	全長1.0m 幅0.6m	背骨から後脚検出。	2個体分の頭部出土どちらに伴うか不明
14号馬	墓坑群中央	E-11°-S	全長1.1m 幅0.5m	頭部から前脚部分のみ検出。	覆土上部に小円礫散乱している。
15号馬	墓坑群中央	N-60°-W	全長1.2m 幅0.6m	頭部西側に置き、脚部を南に向く	頭部にあたる部分よりAs-Aを検出。
16号馬	墓坑群中央	N-20°-E	全長2.0m 幅1.6m	頭部北側に置き、脚部を西に向く	後脚に20×35cm大の礫が覆かれている。
17号馬	墓坑群中央	N-65°-E	全長1.0m 幅0.7m	背骨から後脚にかけて出土。	
18号馬	墓坑群中央			頭部のみ検出	
19号馬	10号馬東隣	E-30°-S	全長1.0m 幅0.7m	頭部東側に置き、脚部西に向く	頭部は、肩の下より出土している。
20号馬	墓坑群中央	N-5°-E	全長1.75m 幅1.1m	下顎骨3個体、寛骨2個体の複数	墓坑群掘削時の攪乱物が埋葬時に入ったものと考えられる。内耳箱が出土。
21号馬	墓坑群北東			寛骨と脚部の骨を検出した。	
22号馬	墓坑群東隣			寛骨と脚部の骨を検出した。	



第41图 3号古墳上墓坑群全体图

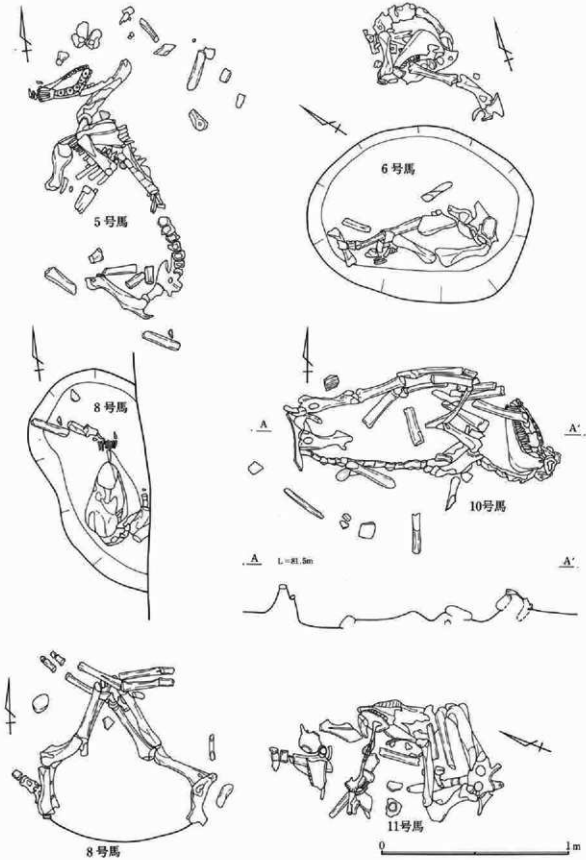


第42図 墓坑群掘形実測図

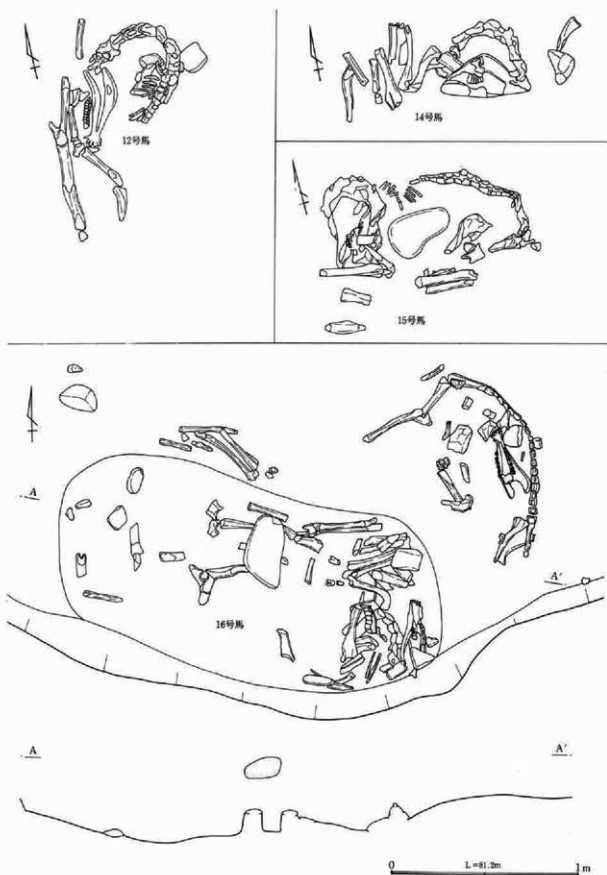


第43図 墓坑群確認状況図

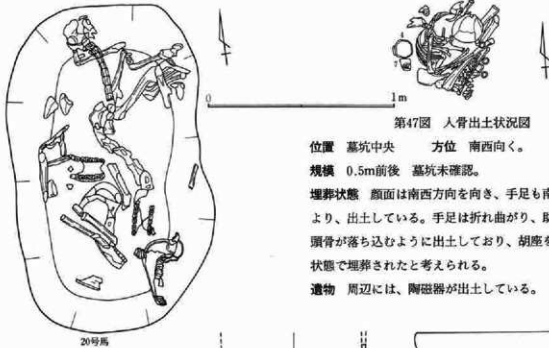
第1節 1区検出の遺構と遺物



第44図 馬骨出土状況図



第45図 馬骨出土状況図



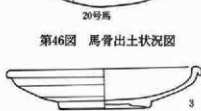
第47図 人骨出土状況図

位置 墓坑中央 方位 南西向く。

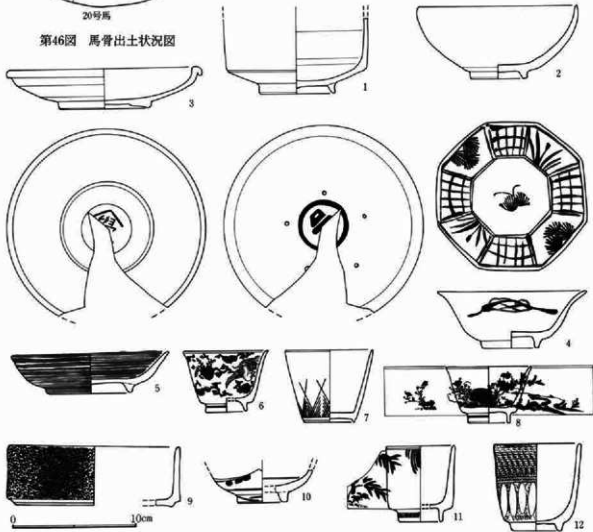
規模 0.5m前後 墓坑未確認。

埋葬状態 顔面は南西方向を向き、手足も南西部分より、出土している。手足は折れ曲がり、肋骨内に頭骨が落ち込むように出土しており、胡座を組んだ状態で埋葬されたと考えられる。

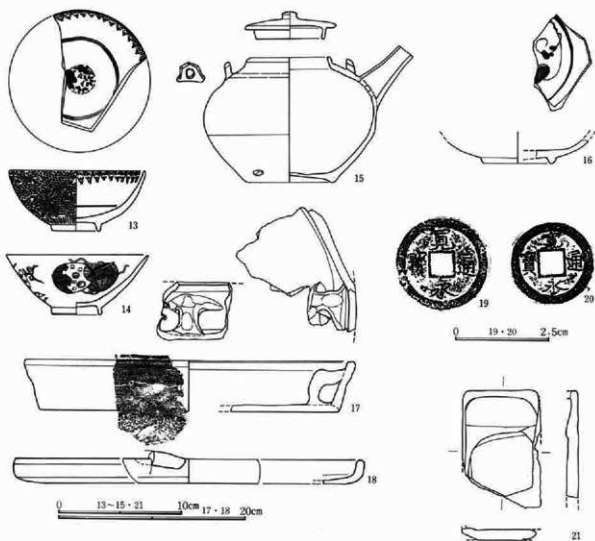
遺物 周辺には、陶磁器が出土している。



第46図 馬骨出土状況図



第48図 墓坑群出土遺物実測図(1)



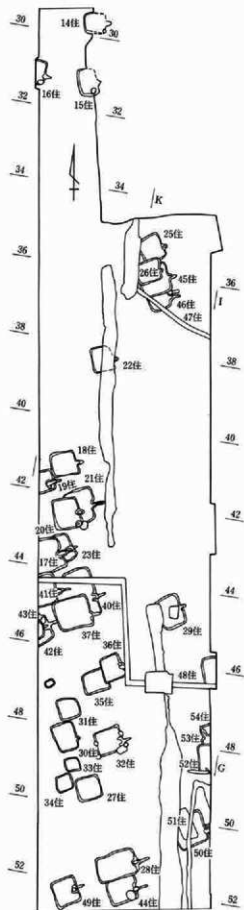
第49図 墓坑群出土遺物実測図(2)

3号古墳上墓坑群出土遺物観察表

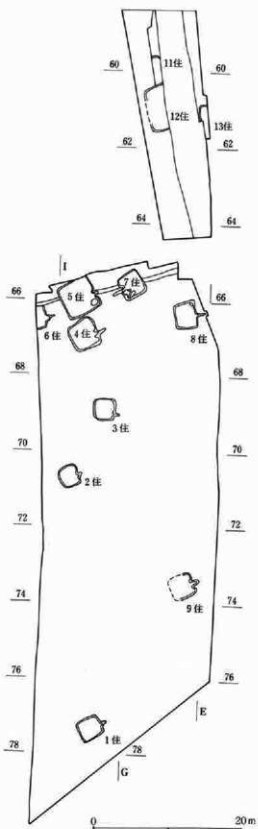
番号	器種別	口径 底径 器高	出土 位置	器形の特徴	軸調・絵付けの特徴	胎土	備考
1	灰軸香炉 陶器	— 6.2 —	墳丘部 南	腰部は屈曲し、体部は直立する。断面三角形の高台を貼り付ける。	腰部より上に灰軸を施す。内面と腰部以下無軸。	灰白色。やや粗い。底部欠損。体部欠損。	瀬戸・美濃系18c
2	灰軸 陶器	13 5 5.8	墓坑群 北	体部は直線的に開き口縁部は小さく内傾させる。軸下の葉地3カ所にひびが入る。	内外面に白土で横線を描き、透明に近い灰軸を施す。貫入あり。高台部以下無軸。	黄い橙色。焼き締まる。白色鉱物粒を含む。	瀬戸・美濃系19c、口縁部一部欠
3	灰軸皿	16 8 3.3	覆土	高台は幅広く削り出す。口縁部は下位を上方に屈曲させ、端部を斜め下方に折り返す。	底部内面に鉄で円文(吉か)を描く。内面から体部下位まで、灰軸を施す。露筋部鉄足状に酸化する。内面に目度5カ所残る。高台内に墨書あり。	黒色粒子少量含む。焼締まる。	製作地不詳19c欠損。
4	染付八角鉢 磁器	12 6.8 4.4	人骨 墓坑内	口縁部は外反する。平面形は八角形。	高台端部無軸。体に刷れた文様を描く。内面は植物文と根根文を描く。馬頭の発色は強くコバルトと思われる。	白色。露筋部はガラス質になっている。	伊万里系明治完存。

第1節 I区検出の遺構と遺物

番号	器種別	口径 底径 器高	出土 位置	器形の特徴	輪調・絵付けの特徴	胎土	備考
5	皿 陶器	12.8 8.2 3.2	覆土	口縁端部外反する。	内外面共に凹版を利用し、白土で渦巻文を 描く。内面は三重、外面は二重の渦巻。 明黄褐色の透明釉を施す。高台端部は無釉	淡黄色。焼締ま る。赤褐色粒子 含む。	製作地不詳 18c後～19 c口縁欠
6	銅版染付 小坏 磁器	6.8 3.3 4.8	覆土	腰部は八角形を呈する。口縁 部の平面形は円形。口縁部端 反りとなる。	高台端部無釉。外面に銅版で横文、唐草 鳥を染付する。	灰白色	瀬戸・美濃 系明治～大 正写残存
7	染付そば 摺口 磁器	6.6 4 5.7	人骨 墓坑内	高台は細狭く、低く削り出す 体部、口縁部は直線的に外傾 して起む。	高台端部無釉。体部・交叉草文を描く。 兵須は黒味を帯びる部分がある。 高台端部無釉。	白色 実存	伊万里系18 c後～19c 初
8	銅版染付 小坏 磁器	6.4 3.2 4.5	覆土	腰部は八角形を呈する口縁部 の平面形は円形。口縁部は、 端反りとする。	高台端部無釉。外面に銅版で流水と植物文 を染付する。釉は白濁する。	白色	瀬戸・美濃 系大正。口 縁一部欠損
9	型紙染付 重、磁器	13.2 12 4.7	覆土	高台縁を水平に近く削り段を 作る。口縁端部内面は面取り する。	腰部、高台縁無釉。外面は青海波中に扇状 の文様を散らす文様を型紙群で施す。兵須 の発色は強くコバルトを使用	白色	瀬戸・美濃 系明治～大 正写残存。
10	染付 碗 磁器	— 4 —	覆土		高台端部無釉。釉は白濁する。 兵須の発色は濃い。	白色	瀬戸・美濃 系19c、底 部欠損。
11	銅版染付 海呑 磁器	5 4 6	覆土 M-15	腰部は屈曲し、体部は直線的 に伸びる。口縁端部は僅かに 外反する。	高台の連続渦巻文と体部の竹中の虎？は銅 版プリントである。高台端部無釉。	灰白色	瀬戸・美濃 系大正写残 存
12	朱染海呑 陶器	6.4 3 7	覆土	体部、口縁部共に直線的に延 びる。	外面上半は横文を施し、下半は丸ノミで削 ずる。不透明の黄褐色釉を薄く施す。	赤褐色。伊勢 写	製作地不詳 大正～昭和 体部写欠
13	型紙染付 飯碗 磁器	11 3.8 4.7	覆土	体部は内湾して立ち上がる。	口縁内面はようらく文、外面は青海波中に 扇状の文様を散らしている。内面底縁は円 文。	白色	瀬戸・美濃 系明治写欠 損
14	銅版染付 飯碗 磁器	11 3 4.8	覆土	高台径は小さい。体部直線的 に開く。	外面に銅版で蝶と雲とまり、田原を染付。 外面に銅版で蝶と雲とまり、田原を染付。	白色	瀬戸・美濃 系。大正写 欠損
15	青釉土瓶 陶器	6 7 10	人骨 墓坑内	立ち上がりは、内傾する。 底部中央は凹み、削り出し高 台は低い。高台縁の3カ所に 粘土粒を貼り付けている。	蓋上面から体部下位まで青釉を施す。	灰白色 緻密。焼締ま る。	大瀬相馬？ 19c 辻口 瀬戸部一 部欠損 最大径13cm
16	染付 皿 磁器	— 8 —	L-17	体部は内湾する。	高台端部と高台内の一部無釉。内面のみ買 入あり。見込みにつる状の文様を描く。透 明釉は水色を帯び、外面には釉垂れがある。	灰白色	伊万里系17 c写残存
17	燈 炉 軟質陶器	35.6 32.4	馬-20 墓坑内	口縁部短い。取手は口縁端部 に貼り付ける。	底部砂流。内面及び口縁部横無で。 底部、口縁部無で。	鈍い橙色。小礫 含む。	在地製品 明治以降。
18	内耳燈炉 軟質陶器	36.8 18.0 2.6	覆土	底部平底。口縁部は短く、直 線的に外傾する。内面の取手 は3カ所と考えられる。	底部内面無で。口縁部横無で。口縁部中位 に紐造り痕残る。口縁部下半指頭庄痕残る。 腰部横無で。口縁外面のみ保付着。	淡黄色	在地製品18 c～19c小 片。
19	古 鉄	2.4 0.2			寛永通寶		
20	古 鉄	2.1 0.15			寛永通寶		
21	石 製 品 皿	6.2	覆土	丘部全体に平。	海部は黒付着部分あり。	灰色	



2 竪穴住居跡

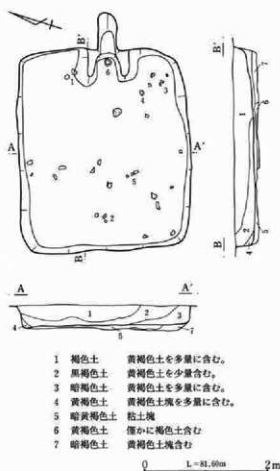


1号住居跡 (写真図版26・62)

位置 G・H-77グリッド **方位** N-70°-E
規模 東西3.2m、南北2.7m、長方形
壁高 30cm前後 ほぼ垂直に立ち上がる
貯蔵穴 南東隅にあり、規模は40cm程の隅丸方形状を呈し、深さ37cmを測る。
柱穴 無し **周溝** 無し
床面 暗褐色土に黄褐色土塊の混土を薄く貼る。
掘形 地山黄褐色土層まで掘り込み全体を平らに仕上げている。電下と南壁下に不正円形の窪みを作る。
遺物 住居西よりに土器片多く出土。竈周辺・貯蔵穴内より杯出土。

竈

位置 東壁中央やや南寄り
規模 焚口部幅35cm 燃焼部奥行き45cm・幅40cm、深さ40cm 煙道部長さ60cm・幅27cm
 煙道部への立ち上がり20cm 鋭角に立ち上がる。
構築 燃焼部は壁内に有り、袖を持つ。袖は壁面に地山黄褐色土や褐色土の混土を張り付け構築されている。火床面は床面より僅かに下がる。焼土・灰の堆積は薄い。煙道部は、緩く立ち上がる。



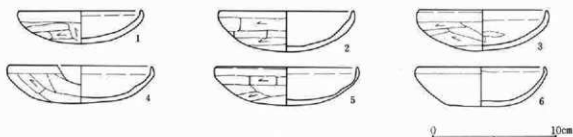
- | | | |
|---|-------|--------------|
| 1 | 褐色土 | 黄褐色土を多量に含む。 |
| 2 | 黒褐色土 | 黄褐色土を少量含む。 |
| 3 | 暗褐色土 | 黄褐色土を多量に含む。 |
| 4 | 黄褐色土 | 黄褐色土塊を多量に含む。 |
| 5 | 暗黄褐色土 | 粘土塊 |
| 6 | 黄褐色土 | 僅かに褐色土含む |
| 7 | 暗褐色土 | 黄褐色土塊含む |

第51図 1号住居跡実測図



- | | | | | |
|----------|-------|-----------------|--------|--------------|
| 竈 | | 竈袖土層 | | |
| 1 | 暗褐色土 | 焼土塊を少量含む | ① 黄土色土 | 僅かに黒色土、焼土を含む |
| 2 | # | 焼土塊を含む | ② 褐色土 | 黄土粒を含む |
| 3 | # | 焼土僅かに含む | ③ 褐色土 | 砂礫混じり |
| 4 | 焼土層 | | ④ 黄色土 | |
| 5 | 黄土色土 | 焼土粒・塊含む | ⑤ 黄褐色土 | 褐色土塊含む |
| 5' | 黄土色粘土 | | ⑥ 黄褐色土 | |
| 6 | 暗褐色土 | 黄色土粒を含む | | |
| 7 | 暗黄褐色土 | 黄褐色土粒を含む。焼土粒含む。 | | |

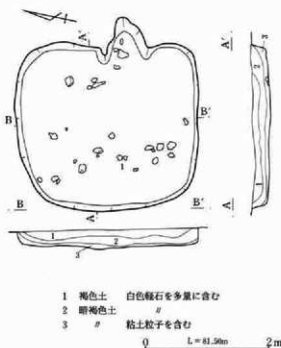
第52図 1号住居跡竈実測図



第53図 1号住居跡出土遺物実測図

1号住居出土遺物観察表

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
1	土師器 杯	竈左側	10 - 2.6 片	1. ぶい・褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で 体部～底部手持ち覆削り 内面丁寧な撫で
2	土師器 杯	西寄中央 +4.5	10.6 - 3.2 片	1. ぶい・褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で 体部～底部手持ち覆削り 内面丁寧な撫で
3	土師器 杯	貯蔵穴内	10.2 - 3.2 片	1. ぶい・褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で 体部～底部手持ち覆削り 内面丁寧な撫で 指面圧痕有り
4	土師器 杯	貯蔵穴脇 器形	11.4 - 3 片	1. ぶい・褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 やや軟質	口縁部横撫で 体部～底部手持ち覆削り 口唇部やや内傾
5	土師器 杯	中央 +22	11.2 - 3 片	1. 褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 やや軟質	口縁部横撫で 体部～底部手持ち覆削り 口唇部やや内傾
6	土師器 杯	竈 器形	10.2 - 3.1 完形	1. 褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 やや軟質	口縁部横撫で 体部～底部手持ち覆削り 口唇部やや内傾

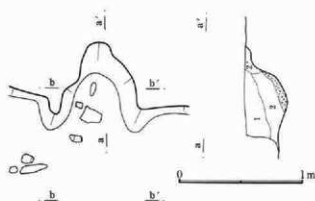


- 1 褐色土 白色軽石を多量に含む
- 2 暗褐色土 //
- 3 # 粘土粒子を含む

第54図 2号住居跡実測図

2号住居跡 (写真図版26・62)

位置 H-70 グリッド 方位 N-73°-E
 規模 東壁2.8m 西壁2.4m、東西2.4m 各隅は丸みを持ち、北壁がやや膨らむ台形状を呈する。
 壁高 22cm前後 ほぼ垂直に立ち上がる。
 貯蔵穴 無し 柱穴 無し 周溝 無し
 床面 地山黄褐色土と褐色土の混土を踏みならしているが、掘形面が礫層まで達しているため、15cm～20cm程の先端の丸い円筒形の片岩系の礫混じる。
 掘形 礫層が露出し住居壁際が高く掘り残され、中央部及び電前は掘り窪む。
 遺物 礫が西壁寄りに多く出土し、土器は土師器の甕や杯の細片が礫に混じり出土しているが、器形復元出来るものはない。



第55図 2号住居跡実測図



1 灰褐色土 灰色粘土
2 灰褐色土 焼土塊を少量含む
2* 灰褐色土 焼土塊を多く含む

竈

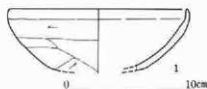
位置 東壁中央やや南寄り

規模 竈口幅50cm 燃焼部奥行き40cm・幅37cm・

深さ35cm、煙道部長さ10cm

煙道部への立ち上がり25cm

構築 燃焼部を作る際、住居内には20cm程の暗褐色土を貼り付け袖を作り、壁は20cm程掘り込んで構築している。燃焼部壁には焼土化した粘土が残る。



第56図 2号住居跡出土遺物実測図

2号住居出土遺物観察表

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
1	土器 環	中央 +3	14.2 - (5.0) Ⅱ	1. 褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横溝で 体部~底部手持り寛削り 口唇部やや内傾

3号住居跡 (写真図版26・62)

位置 G-68・69グリッド 方位 E-11°-S

規模 東西3m、南北3m 南西隅をはじめとして各隅丸みを持ち、全体に隅丸形状を呈す。

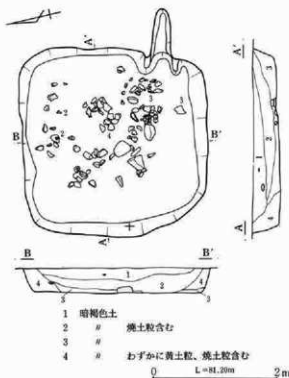
壁高 40cm前後 垂直に立ち上がるが、上方は若干広がる。

貯蔵穴 無し 柱穴 無し 周溝 無し

床面 暗褐色土と黄褐色土の混土を床面として貼る。壁際や住居中央部には礫が露出している。

掘形 2号住居跡同様掘形面が壁際まで達しており、壁際60cm前後の面は礫が露出しているが、住居中央部は掘り窪めている。

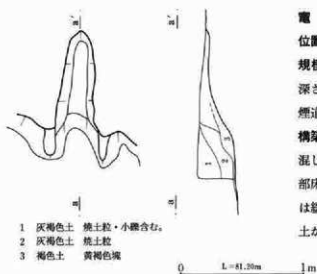
遺物 30cm弱の大礫と20cm前後の礫が住居中央部に集中して出土した。これらの礫は、床面から浮いた状態で出土しており、また覆土の状況から埋没過程で投げ込まれたと考えられる。土器については甕前から土師甕の甕が出土している。



第57図 3号住居跡実測図

1 暗褐色土
2 # 焼土粒含む
3 #
4 # わずかに黄土粒、焼土粒含む

第11章 上栗須遺跡



- 1 灰褐色土 焼土粒・小礫含む。
2 灰褐色土 焼土粒
3 褐色土 黄褐色埃

第58図 3号住居跡電実測図

電

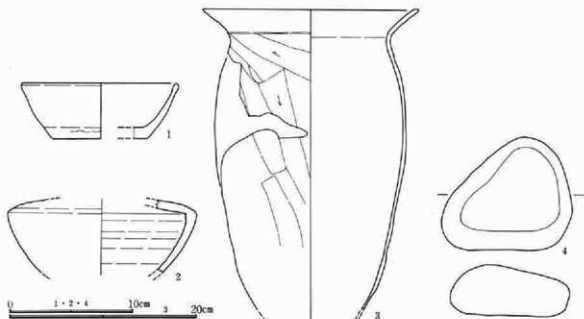
位置 南東隅やや北

規模 焚口部幅25cm 燃焼部奥行き40cm・幅20cm

深さ30cm 煙道部長さ65cm・幅25cm

煙道部への立ち上がり13cm 斜めに立ち上がる。

構築 燃焼部は僅かに壁を削り込み、黄褐色土塊の湿った土を袖として貼り付け構築している。燃焼部床面は水平であり焼土・灰層等は少ない。煙道部は緩く立ち上がる。電壁の焼けは弱く、部分的に焼土が残る。



第59図 3号住居跡出土遺物実測図

3号住居出土遺物観察表

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	形状・調整の特徴
1	直恵器 坏	北東 -4	(12.6) 7.4(4.35) 残	1. 灰白色 2. 白色粒含む 3. 還元焰 良好	底部回転糸切り、未調整。体部下端無で付け
2	直恵器 長頸壺	北東 +18.5	- - - 胴部欠	1. 灰色 2. 白色細砂、粗粒含む 3. 還元焰 硬質	肩部斜角に屈曲 体部下半回転糸切り 内面輪轆痕切跡
3	土師器 壺	南東 +3	23 - 32.0 底部欠損 欠	1. 橙色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横溝でク字状に強く外反 胴上部斜方向寛削り 中位～下位縦方向寛削り
4	掘り石	中央	13.8 12 5.0	1,055.7℃	デイスait

4号住居跡 (写真図版27・62)

位置 H-66~67グリッド 方位 N-75°-E

規模 東壁4m 西壁3.2m 東西4m 西辺の短い台形状を呈す。

壁高 55cm前後 ほぼ垂直に立ち上がる。

貯蔵穴 無し 周溝 無し

柱穴 掘形の段階で住居中央部に径25cm・深さ30cm程の小ピットを1本検出した。

床面 地山黄褐色土と褐色土との混土を貼り、寛前では焼土・灰等が踏み固められている。

掘形 この住居では礫層が見られなくなり、住居中央部で黄褐色土の高まりが残り、周辺部では黄緑色土まで掘り下げている。

遺物 北西隅において17cm前後の片岩系の先端の丸

い棒状礫が10数点まとまって出土している。

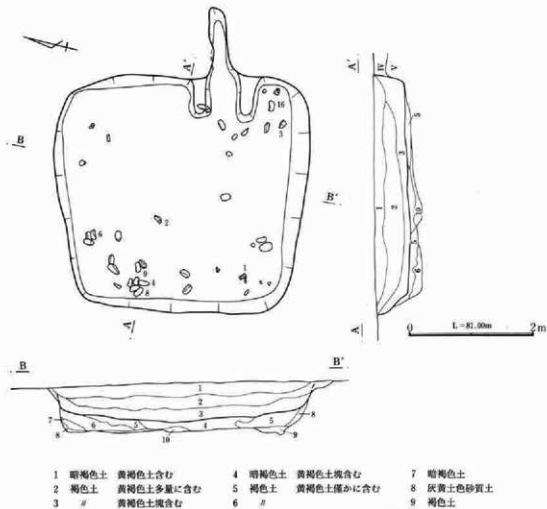
竈

位置 東壁中央南寄り

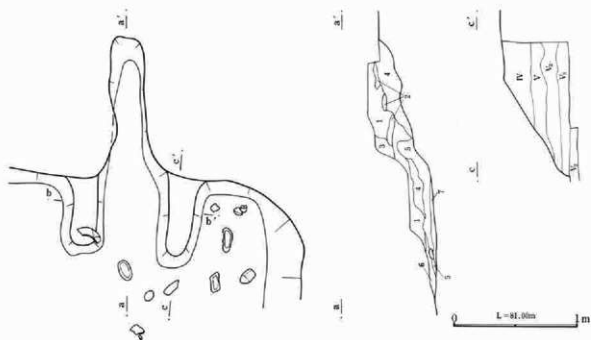
規模 焚口部幅40cm 燃焼部奥行き60cm・幅45cm・深さ50cm 煙道部長さ90cm・幅25cm

煙道部への立ち上がり10cm 緩く立ち上がる。

構築 燃焼部は住居内にあり、地山掘り残しの袖を持つ。天井部は、埋没土中に灰白色粘土が火床面直上に層をなし堆積していることから、この灰白色粘土が貼られていたと考えられる。火床面には、薄く灰の堆積見られる。壁面についても焼土化していない。煙道部は、天井の焼土が残り、自然埋没の状況が確認できた。



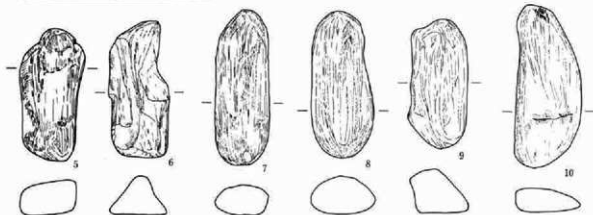
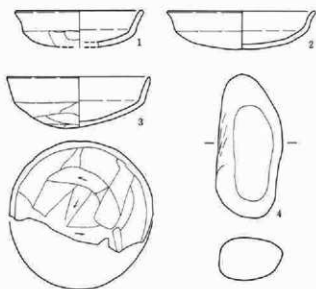
第60図 4号住居跡実測図



I~V 基本土層参照

- 1 灰褐色土 灰色土と黒色土の混和土層
- 2 焼土 下層が強く焼けている
- 3 灰色土 少量の黒色土を含む
- 4 黒色土 少量の焼土を含む
- 5 灰白色粘土 灰白色粘土層中に焼土を含む
- 6 黄白色土
- 7 灰黒色土 白色粘土、焼土、炭、灰、含む

第61図 4号住居跡電実測図



第62図 4号住居跡出土遺物実測図

4号住居出土遺物観察表

番号	器 種 器 形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整 形 ・ 調 整 の 特 徴
1	土 師 器 環	南東 床直	10.2 - 2.9 3/4	1. 橙色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横溝で体部～底部手持ち皿削り 弱い縁を持つ
2	土 師 器 環	中央 +6	11.6 - 3.0 3/4	1. 橙色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横溝で体部～底部手持ち皿削り 口唇部僅かに外反 弱い縁を持つ
3	土 師 器 環	南東 +4	11.2 - 4.0 3/4	1. 橙色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横溝で体部～底部手持ち皿削り
4	礫	北西床直	15.2 7.3 4.5	561.5g	砂岩
5	擦 石	北西床直	14.1 7.1 3.8	599.4g	変質玄武岩
6	礫	北西+2	14.5 6.5 4.1	604.0g	緑色片岩
7	礫	北西+1	16.3 5.7 3.3	703.0g	緑色片岩
8	礫	北西+2	15.6 6.7 4.0	654.0g	砂岩
9	礫	北西+2	13.6 6.4 4.8	748.3g	緑色片岩
10	礫	覆土+4	17.4 7.1 2.7	499.2g	緑色片岩

5号住居跡 (写真図版27・63)

位置 H-65～66グリッド 方位 N-74°-E

規模 南北4.5m 東西4.8m 北壁から東壁にかけて最近の砂利採集により破壊されている。

壁高 南壁63cm前後 垂直に立ち上がる。

貯蔵穴 南東隅にある。口径90×90cm、底径30×30cm、深さ60cmの規模を持つ、中位に段を持つロート状を呈した隅丸方形の掘形をもつ。

柱穴 3本検出し、殆どが口径20cm、深さ30cm前後の規模を持つ。柱穴P1-P2の芯々間2.2m、P2-P3の芯々間2.5mを測る。

周溝 無し

床面 黄褐色土塊を多量に含み、全体に踏み固められている。電前では灰や焼土が掻き出され、層を成し踏み固められている。

掘形 住居中央部から北東隅寄りにかけてやや高く黄褐色土が掘り残され、他の部分は黄褐色砂質土まで掘り込まれている。

遺物 電右袖前に、底部欠損の球形胴の甕を乗せた

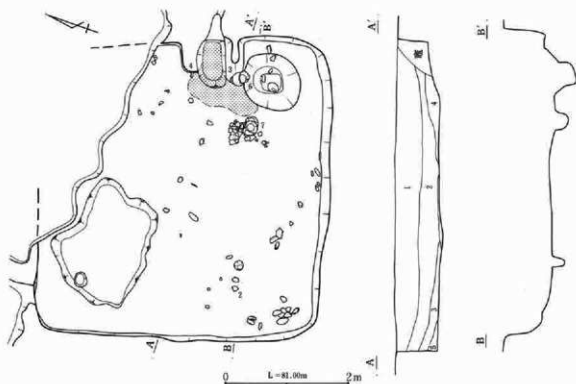
長胴甕が埋設されていた。また、左袖前でも長甕の口縁部のみが倒置された状態で出土している。この両者は電構築材として使用されたものである。ピット1脇に長甕が出土している。南東隅では20cm前後の隙がまとまって出土している。

竈

位置 東壁中央やや南寄り

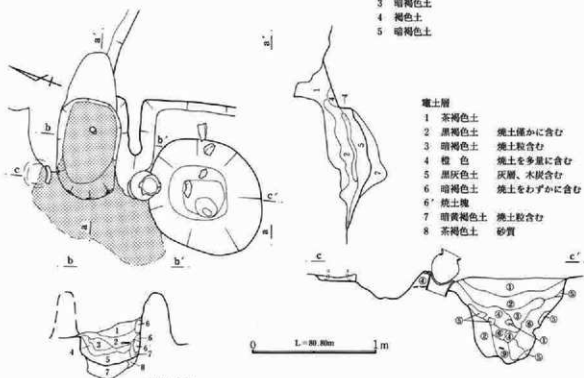
規模 焚口部幅90cm 燃焼部奥行き1.5m 幅1m 深さ66cm 煙道部は砂利採集により破壊され、僅かに南壁の一部が残る。

構築 燃焼部は住居内にあり、地山掘り残しの袖を持つ。掘形は長方形を呈する。壁面は垂直に立ち上がるが、壁下半には粘土を貼り付け、火床面の立ち上がり部分を曲線に仕上げている。壁上半は、熱をうけ赤茶色に変色している。火床面は、床面より8cm程低く、下層に10cm程の灰層が堆積している。使用時灰は電右前から貯蔵穴にかけて掻き出されたことが、貯蔵穴周辺に残る数枚の灰層から確認できた。



第63図 5号住居跡実測図

- 1 暗褐色土 土器片・焼土粒含む
- 2 褐色土 僅かに炭化物含む
- 3 暗褐色土
- 4 褐色土
- 5 暗褐色土



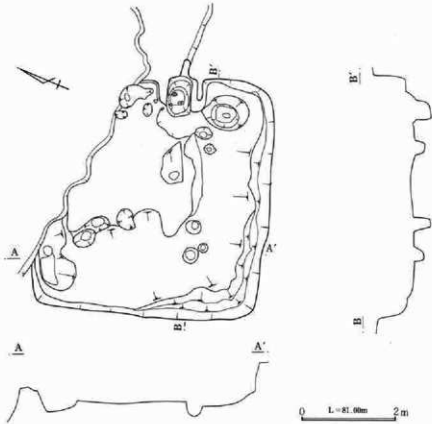
電土层

- 1 茶褐色土
- 2 黒褐色土 焼土僅かに含む
- 3 暗褐色土 焼土粒含む
- 4 橙 色 焼土を多量に含む
- 5 黒灰色土 灰層、木炭含む
- 6 暗褐色土 焼土をわずかに含む
- 6' 焼土塊
- 7 暗黄褐色土 焼土粒含む
- 8 茶褐色土 砂質

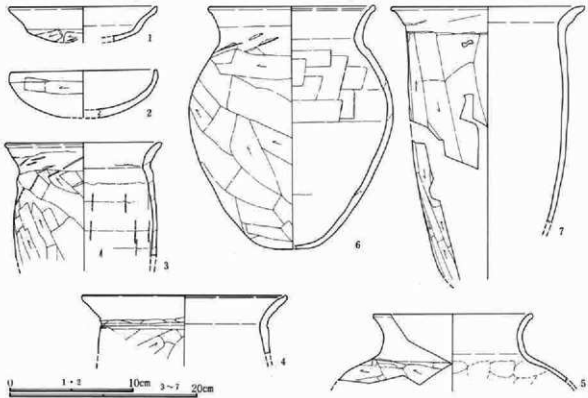
貯蔵穴土層

- | | |
|------------------------|--------------------|
| ① 黒褐色土 黄褐色土含む、焼土粒僅かに含む | ⑤ 黄褐色土 砂質土 |
| ② 黒褐色土 黄褐色土塊含む、焼土僅かに含む | ⑥ 黒茶褐色土 砂質土 |
| ③ 黒茶褐色土 黄褐色土塊含む | ⑦ 黄茶褐色土 土器片・木炭含む |
| ④ 黒茶褐色土 焼土・炭含む | ⑧ 黒褐色土 砂質土、黄褐色土塊含む |

第64図 5号住居跡電穴実測図



第65図 5号住居跡床下実測図



第66図 5号住居跡出土遺物実測図

5号住居出土遺物観察表

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
1	土師器 杯	覆土	(10.2) - (2.8) ⅔	1. 橙色 2. 粘土粒含む 3. 酸化焙 良好	口縁部横撫で 体部~底部手持ち荒削り 口縁部外反 内外面体部との境、境を持つ
2	土師器 杯	南西 +17	16 - (3.8) ⅔	1. 橙色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焙 軟質	口縁部横撫で 体部~底部手持ち荒削り
3	土師器 甕	南東 -17	16.5 - - ⅔	1. にぶい赤褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焙 良好	口縁部横撫で 胴上部斜方向荒削り 中位~下位縦方向荒削り 内面荒撫で
4	土師器 甕	電左袖前 床直	22 - - ⅔	1. にぶい橙色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焙 良好	口縁部外反 胴部直線的 口縁部横撫で 頸部棒状工具にて撫で 斜方向荒削り
5	土師器 甕	南西 +33	(16.5) - - ⅔	1. 橙色 2. 砂粒多く含む 3. 酸化焙 良好	頸部やや直立気味に立ち上がり、口縁部外反 口縁部~頸部横撫で 内面指圧凹凸有り
6	土師器 甕	電右袖 +3	17 5.0 25.5 ⅔	1. 灰白色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焙	口縁部外反 口唇部やや折り返し 胴部やや卵型 底部丸底 口縁部横撫で 頸部付近横撫
7	土師器 甕	南東 -5	19.6 - - ⅔ 底部欠損	1. 明赤褐 2. 細砂小石含む 3. 酸化焙 良好	口縁部外反 頸部~底部直線的 口縁部横撫で 胴部縦方向荒削り 口縁部器内厚い

6号住居跡 (写真図版28・63)

位置 I-66グリッド 方位 E-1'-S

規模 東壁約3.2mが残っているが、北壁は近年の砂利採集により破壊されている。また、住居の大半が調査区外にあり、電周辺部だけの調査を行う。

壁高 50cm前後 垂直に立ち上がる。

貯蔵穴 無し 柱穴 無し 周溝 無し

床面 地山黄褐色土塊混じり、粘性・締まりあり。

電右前では灰の広がりを確認した。

掘形 黄褐色土まで掘り抜いている。電右前から壁際はやや窪んでいる。

遺物 電左袖前にて土師器杯出土

電

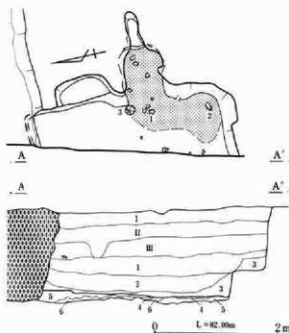
位置 東壁南寄り

規模 焚口部幅60cm 燃烧部奥行き85cm・幅70cm・

深さ50cm 煙道部長さ55cm・幅15cm

煙道部への立ち上がり8cm 緩く立ち上がる。

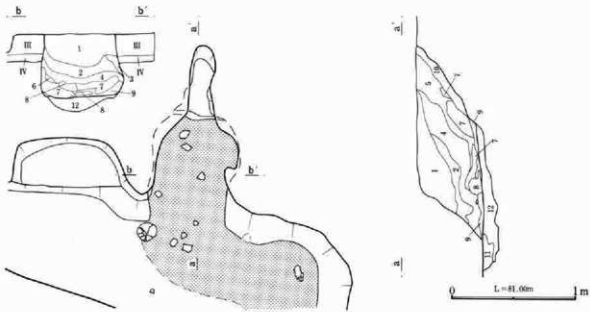
構築 燃烧部は住居外にあり、袖は持たない。掘形は方形であり、壁は垂直に立ち上がる。壁の立ち上がり部分は、粘土を貼り付け曲線に仕上げている。



- 1~Ⅵは基本土層参照
 1 暗褐色土 白色粒石全く含まず
 2 暗褐色土 灰褐色土と黄褐色土の混土
 3 暗褐色土 黄褐色土塊多量に含、
 4 黄褐色土 砂質土
 5 茶褐色土 砂質土に黄褐色土塊含む
 6 茶褐色土 砂質土

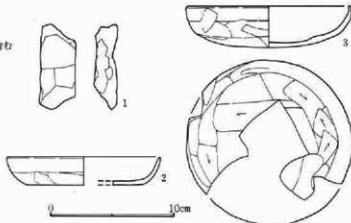
第67図 6号住居跡実測図

壁上半部の壁面は熱を受け赤茶色に変色して煉瓦状になっている。火床面と床面とのレベル差は無く、薄い灰層の堆積見られる。



Ⅲ・Ⅳは基本土層参照

- 1 暗褐色土 黄褐色土塊含む
- 2 暗褐色土 木炭小粒、焼土小粒を僅かに含む
- 3 褐色土
- 4 暗褐色土 焼土僅かに含む
- 5 暗褐色土 焼土を均一に含む
- 6 暗褐色土 黄褐色土塊
- 7 橙茶褐色土 焼土を多量に含む
- 8 橙褐色土 焼土の塊
- 9 暗褐色土 焼土、木炭、灰を含む
- 10 黒茶褐色土 焼土を含む
- 11 黒褐色土
- 12 茶褐色土 焼土塊・暗褐色塊を含む



第68図 6号住居跡竈実測図

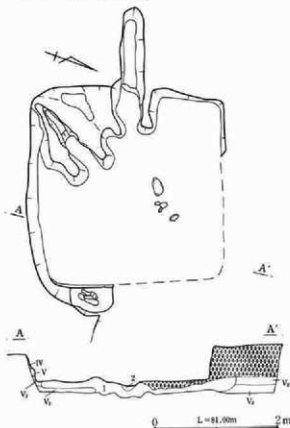
第69図 6号住居跡出土遺物実測図

6号住居遺物観察表

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
1	砥石	竈前	8.0 3.8 2.5		砥沢 流紋岩
2	土師器 坏	南東 +1	(12.2) - 3/4	1. 明褐色 2. きの粗い 3. 酸化焙 良好	口縁部横撫で 体部~底部手持り荒削り
3	土師器 坏	竈内	12.8 - 3/4	1. にぶい赤褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焙 良好	口縁部横撫で 体部~底部手持り荒削り 体部指漣圧痕有り

7号住居跡 (写真版28)

位置 F・G-65グリッド **方位** W-16°-S
規模 北壁から東壁中央にかけて砂利採集により破壊されている。南壁3.2m 西壁3m (復元)
壁高 南壁53cm ほぼ垂直に立ち上がる。
貯蔵穴 無し **柱穴** 無し **周溝** 無し
床面 半分近く砂利採集により破壊されている。黒褐色土に黄褐色塊混土を床に貼る。
掘形 壁際では黄褐色土まで掘り込んでいるが、住居中央部は、下層に堆積している黄緑色砂質土まで掘り込んでいる。凹凸は少ない。
遺物 掘形調査時、住居中央部において30cmと15cm前後の片岩礫と土器片が出土したが、攪乱部分との境から出土したため住居に伴うものと断定できない。
備考 この住居は、2基の竈を持つ。西壁中央に作られている竈を第1竈。南西隅に作られている竈を第2竈と呼称する。この両者の新・旧関係は、地山を袖に持つ第1竈が古い。



第70図 7号住居跡実測図

竈 (西壁構築 第1竈 南西隅構築 第2竈)

第1竈

位置 西壁中央
規模 焚口部幅20cm 燃焼部奥行き70cm・幅40cm
 深さ60cm 煙道部長さ1m・幅20cm
 煙道部への立ち上がり10cm
構築 燃焼部は住居内にあり、地山掘り残しの袖を持つ。煙道部は80cm程水平に掘られ、煙出し部に至り約40°角度で50cm立ち上がる。火床面は床面と同レベルであり、焼土や灰の堆積は薄い。

第2竈

位置 南西隅
規模 焚口部幅20cm 燃焼部奥行き35cm・幅30cm
 深さ30cm 煙道部長さ65cm・幅10cm
 煙道部への立ち上がり20cm
構築 黒褐色粘質土の上に黄褐色土の混土を盛り上げ竈を構築している。

7号住居平面図

IV~V。基本土層参照

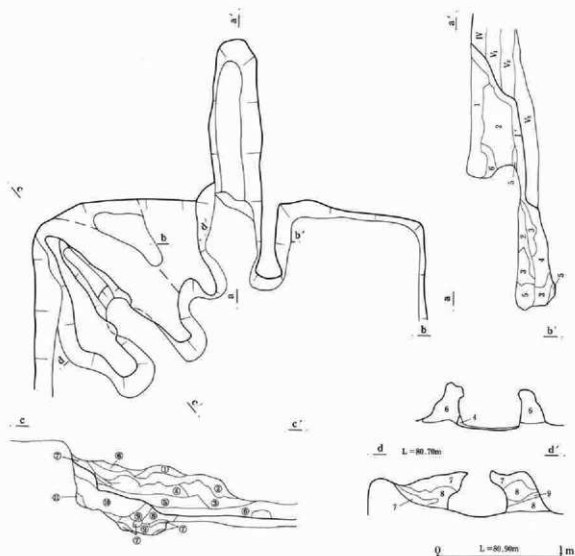
- 1 黒褐色土
- 2 # 焼土粒子、黒色土を多く含む

第71図第1竈

- 1 暗褐色土 やや黒味が強い
- 1' 暗褐色土 黄褐色土塊含む
- 2 暗褐色土 1層より黒色が強い
- 3 暗褐色土 黄褐色粘土を含む
- 4 焼土層 黒褐色粘質土層中に多くの焼土を含む
- 5 暗褐色土 砂質土灰少量含む
- 6 黒褐色土 砂質土

第71図第2竈

- ① 暗褐色土 黄褐色土、黒色土、焼土の混入土層
- ② 暗褐色土
- ③ 焼土層
- ④ 黄褐色土 黒色土と黄色土との混入土層、やや砂質
- ⑤ 暗褐色土 砂質土をごく少量含む
- ⑥ 灰黒色土 灰黄色砂質土と灰黒色土の混入土層
- ⑦ 灰黄色粘質土
- ⑧ 灰黄色土 黒褐色土塊含む
- ⑨ 黒褐色土 黒色土に黄褐色土粘土を含む
- ⑩ #
- ⑪ 灰黄色土 砂・粘質土塊の混入

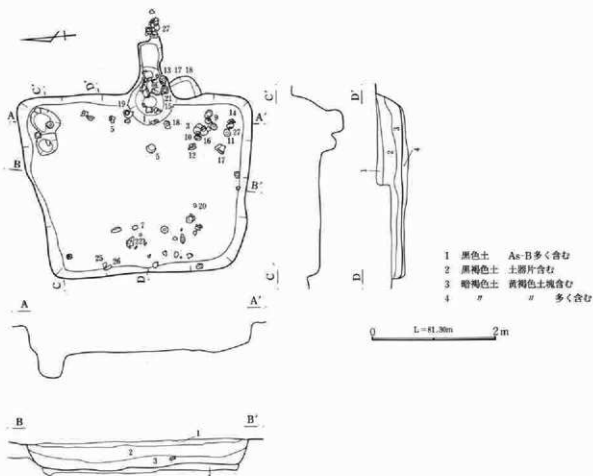


第71図 7号住居跡電実測図

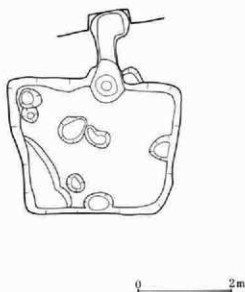
8号住居跡 (写真図版28・63・64・65)

位置 E-66グリッド 方位 E-1'-S
 規模 東壁3.8m 西壁3m 東西2.8m やや隅丸の台形状を呈する。
 壁高 南壁32cm 北壁40cm 垂直に立ち上がる。
 貯蔵穴 北東隅 径20cm、深さ41cmの規模を持つ。中から完形の須恵器皿と砥石が出土している。西脇に径30cm、深さ30cmの規模を持つピットを検出した。また、南東隅では径80cm程の範囲で床面より数cm下がった部分で須恵器椀類を出土。
 柱穴 無し 周溝 無し
 床面 南から北にかけて約5cmの傾斜をもち、僅かに

凹凸面がある。床面は全体に薄く踏み固められ、地山黄褐色土が部分的に見られる。電前においては、焼土・灰等の広がりが見られる。
 掘形 地山黄褐色土まで掘り込み水平面を作る。住居中央と西壁寄りに長軸50～60cm程の楕円形を呈する床下土坑を検出した。
 遺物 電内より土師器の甕や須恵器の杯が懸けられた状態で出土した。また、煙道部には補強材として土師器壺が据えられていた。その他に電前や住居寄りから多数の杯・椀類が出土している。



第72図 8号住居跡実測図



第73図 8号住居跡床下実測図

竈

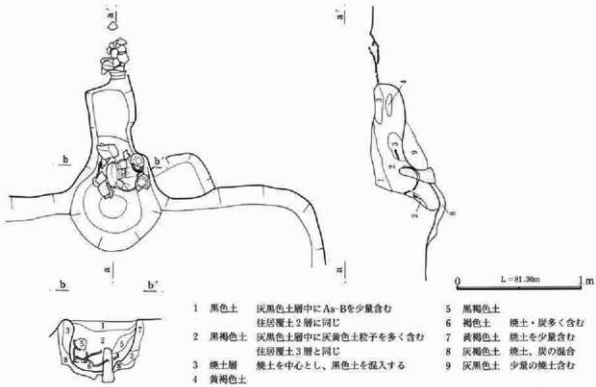
位置 東壁中央南寄り

規模 焚口部幅60cm 燃焼部奥行き40cm・幅50cm深
さ55cm 煙道部長さ1m・幅15cm前後

煙道部への立ち上がり30cm

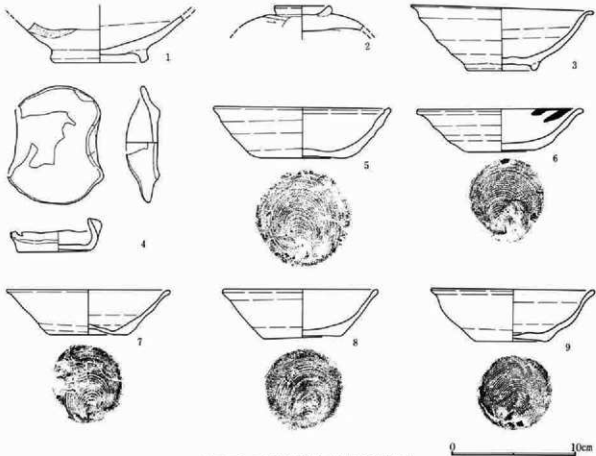
構築 燃焼部は住居外にあり、袖は持たない。天井部は、黄褐色土を使用しており、前面に崩落した状態で確認している。煙道部には土師器の甕を横倒しの状態で使用している。燃焼部内では、支脚が奥壁に立て掛けられた状態で出土した。火床面は、床面より5cm程低く、竈前面に広がる灰の掻き出し面より若干高い。

竈内遺物出土状況は、胴上半部だけの甕、杯の入っている小型甕、2個の杯が重なり逆さに出土しているもの、甕の口縁部の破片等々の出土が見られた。しかし、これらの出土遺物は殆どが破損している土器であった。

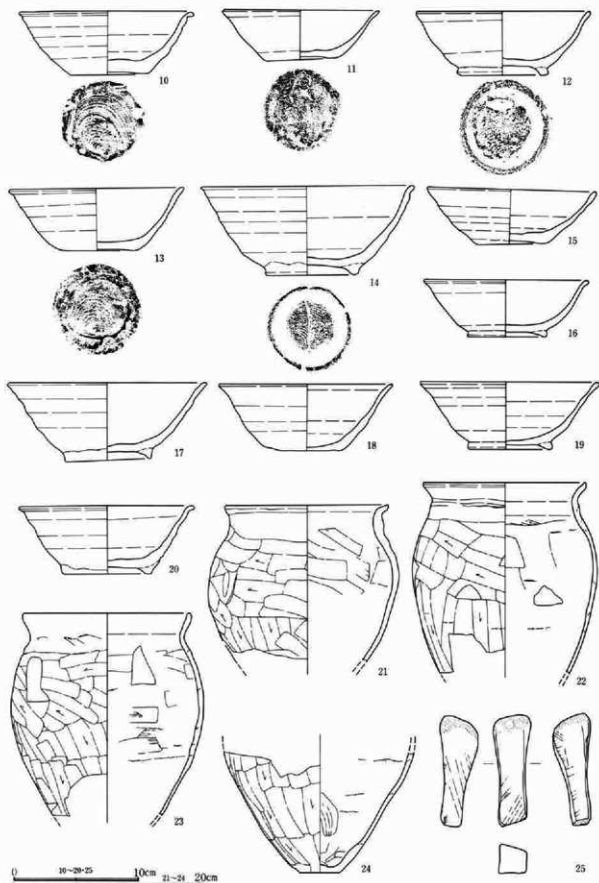


- | | | | |
|--------|--------------------|--------|----------|
| 1 黒色土 | 灰黒色土層中にA・Bを少量含む | 5 黒褐色土 | |
| 2 黒褐色土 | 住居覆土2層に同じ | 6 褐色土 | 焼土・炭多く含む |
| 3 焼土層 | 灰黒色土層中に灰黄色土粒子を多く含む | 7 黄褐色土 | 焼土を少量含む |
| 4 黄褐色土 | 住居覆土3層と同じ | 8 灰褐色土 | 焼土、炭の混合 |
| | 焼土を中心とし、黒色土を混入する | 9 灰黒色土 | 少量の焼土含む |

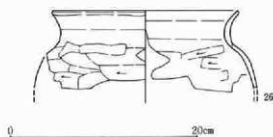
第74図 8号住居跡電実測図



第75図 8号住居跡出土遺物実測図(1)



第76圖 8号住居跡出土遺物実測図(2)



第77図 8号住居跡出土遺物実測図(3)



8号住居出土遺物観察表

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
1	灰釉陶器 碗	カマド前 +3	— 6.9 3.3 底部写	1. 灰白色 2. 精選 3. 還元焰 硬質	底部内面磨で、高台貼付け、灰釉掛け。
2	須恵器 蓋	南壁中央 床直	— — — 頂部のみ	1. にぶい橙色 2. 砂粒 粘土 粒含む。3. 酸化焰	握み部リング状、頂部回転削り。
3	須恵器 碗	南東	14.2 5.5 5.0 ほぼ完形	1. 灰白色 2. 砂粒含む 3. 還元焰 軟質	口唇部、水平方向に屈曲。高台部貼付後磨で、 表面摩耗
4	土師器 耳皿	南東 +13.5	9.3 6.0 2.6 ほぼ完形	1. 赤褐色 2. 細砂 粘土粒含 む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で後、折り返し 底部磨な磨で
5	須恵器 杯	南東 +2	13.8 6.8 4.0 ほぼ完形	1. 灰白色 2. 砂粒含む 3. 還元焰 良好	口唇部折り返し、沈線磨。底部右回転糸切り 底部内面中央盛り上がる。
6	須恵器 皿	貯蔵穴	12.6 5.4 3.4 完形	1. 浅黄色 2. 細砂 粘土粒含 む 3. 酸化焰 良好	轆轤整形 底部右回転糸切り、未調整。口唇部外反、 口唇部内面ケール状付着物見られる。
7	須恵器 杯	北西 床直	12.7 6.1 3.5 完形	1. にぶい黄褐色 2. 細砂粒 粘 土含む 3. 酸化焰	轆轤整形 底部右回転糸切り、未調整。 内面中央突起状になる。
8	須恵器 杯	竈内	12.0 6.0 3.8 % 完形	1. 灰白色 2. 砂粒混じり 3. 還元焰 良好	轆轤整形 底部左回転糸切り未調整
9	須恵器 杯	南東壁 床直	12.5 5.8 4.1 ほぼ完形	1. にぶい黄褐色 2. 細砂粒含 む 3. 酸化焰 良好	轆轤整形 底部右回転糸切り 体部内面 磨部絞り込まれる。
10	須恵器 杯	南東 -2	13.6 6.3 5.0 完形	1. 淡黄色 2. 細砂 粘土粒含 む 3. 酸化焰 軟質	轆轤整形 底部肥厚、右回転糸切り、磨部絞り込み。 口唇部折り返し。
11	須恵器 杯	南東壁 床直	12.3 5.9 3.95 完形	1. 淡黄色 全体灰色 2. 砂粒 含む 3. 酸化焰 軟質	轆轤整形 底部回転糸切り 表面摩耗
12	須恵器 碗	南東 -4	13.6 7.3 5.0 完形	1. 灰白色 2. 砂粒混じり 小 石僅かに含む 3. 還元焰 良好	轆轤整形 底部回転糸切り後、高台部貼付後磨で
13	須恵器 碗	カマド内 床直	13.6 — 4.9 完形	1. 灰黄色 2. 細砂粒含む 3. 還元焰 軟質	轆轤整形 底部回転糸切り後、高台部貼付底 底部摩耗。
14	須恵器 碗	南東壁 床直	16.4 7.0 7.0 写残	1. 灰黄色 2. 砂 粘土粒含む 3. 還元焰 軟質	底部回転糸切り。高台貼付け、内外面横撫で、 口唇部外反。

第11章 上栗須遺跡

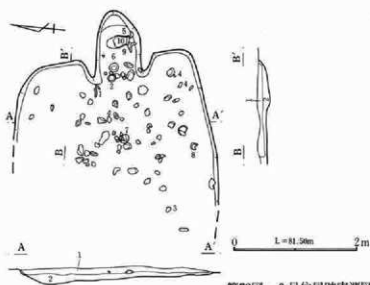
番号	器 種 器 形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整 形 ・ 調 整 の 特 徴
15	須 恵 器 甕 環	甕内 +12	13.2 5.5 4.3 完形	1. 灰白色 2. 砂粒含む 3. 還元焰 軟質	轆轤整形 底部回転糸切り、未調整。回転糸切り痕 摩耗。
16	須 恵 器 椀 床直	南東 床直	12.7 6.0 4.5 完形	1. 灰白色 2. 砂粒含む 3. 還元焰 軟質	口唇部外反 高台貼付 底部表面摩耗
17	須 恵 器 椀	甕内 -	15.4 6.8 6.05 %残	1. 灰黄色 2. 砂粒 小石粘土 粒含む 3. 酸化焰 軟質	轆轤整形 底部回転糸切り後、高台部貼付け後無 で底部摩耗
18	須 恵 器 椀 床直	南東 +4	13.2 - 5.2 完形	1. 灰黄色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 軟質	轆轤整形 口縁部外反 底部割落
19	須 恵 器 椀 床直	北東 +9	13.9 6.5 5.3 %残	1. 明黄褐色 2. 細砂 粘土粒 含む 3. 酸化焰 軟質	轆轤整形 底部回転糸切り後、高台部貼付無 で
20	須 恵 器 椀 床直	南東 床直	13.5 7.0 5.35 完形	1. 浅黄色 2. 細砂 粘土粒含 む 3. 酸化焰 軟質	轆轤整形 底部回転糸切り後、高台部貼付無 で。
21	土 師 器 甕	甕内	12.7 - - %残	1. にぶい藍色 2. 細砂 粘土 粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部～頸部横撫で、口唇部強い撫で、内面刷毛目 肌上平横方向宛削り。下半縦方向宛削り
22	土 師 器 甕	西中央 床直	17.1 - - %残	1. にぶい黄褐色 2. 細砂 粘 土粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部～頸部横撫で、口唇部強い撫で、沈線近 り。肌上平横方向宛削り。下半縦方向宛削り
23	土 師 器 甕	甕内	15.5 - - %残	1. にぶい赤褐色 2. 細砂 粘 土粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部～頸部横撫で、口唇部内傾。内面刷毛目肌 上平横方向宛削り。下半縦方向宛削り
24	土 師 器 甕	甕内	- 4.1 - %残	1. にぶい赤褐色 2. 細砂粒含 む 3. 酸化焰 良好	胴下半縦方向宛削り 底部磨削り。内面磨削で底径 小さく不安定。
25	砥 石	貯蔵穴	12.0 4.0 4.0	189.8g	砥沢 流紋岩
26	土 師 器 甕	甕内	19.6 - - %残	1. にぶい藍色 2. 細砂 粘土 粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部～頸部横撫で、口唇部強い撫で 肩部張る。 肌上平横方向宛削り。内面撫で
27	土 師 器 甕	甕内	20.3 - - %残	1. にぶい黄褐色 2. 細砂 粘 土粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部～頸部横撫で、頸部磨削り後、強い撫で、 肌上平横方向宛削り。下半縦方向宛削り。内面撫で

9号住居跡 (写真図版29・65)

位置 E-73グリッド 方位 N-69'-E
規模 試掘時、西半分削平。南北3.2m
壁高 20cm前後、ほぼ垂直に立ち上がる。
貯蔵穴 無し 柱穴 無し 周溝 無し
床面 地山に暗褐色土を入れ踏み固める。
掘形 南壁寄りには多少凹凸があるが、全体的に平に
仕上げている。
遺物 10～20cm程の隙が住居中央部床面に散乱して
いる。土器類は、甕内から土師器長甕と杯出土。

電

位置 東壁中央
規模 焚口部幅60cm 燃焼部奥行き90cm・幅57cm
遺道部 不明
構築 燃焼部は住居内に30cm程の地山を掘り残した
袖を持つが、主体は壁外にある。電内の状況は、焼
土・灰層の堆積は見られず壁面の焼けも見られない。
長甕の横倒し状態を正位に直すと左寄りに立つ。ま
た、覆土の状況から長甕は埋められていたと考えら
れる。



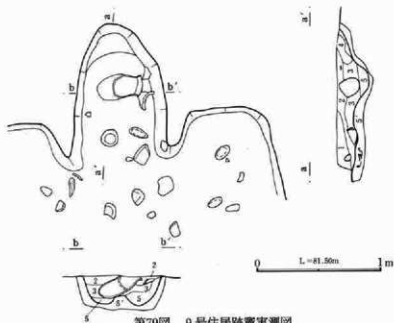
第78図 9号住居跡実測図

9号住居平面図

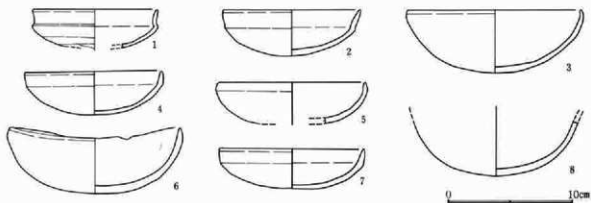
- 1 暗褐色土 As-Bを少量含む
- 2 灰黄色土 黄褐色土に近く全体に小石含む

甕土層

- 1 暗褐色土 砂利含む
- 2 # 砂利少量含む
- 3 # 焼土少量含む
- 4 焼土 暗褐色土を少量含む
- 5 暗褐色土 黄褐色土少量含む
- 5' # 黄褐色土を多く含む



第79図 9号住居跡電実測図



第80図 9号住居跡出土遺物実測図(1)

第二章 上栗須遺跡



第81図 9号住居跡出土遺物実測図(2)

9号住居出土遺物観察表

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
1	土師器 坏	竈内 床直	10 - - 片	1. 橙色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部直立、強い横撫で、明確な段を有す。 底部磨り。
2	土師器 坏	竈内 -6	11 - 3.6 ほぼ完形	1. 橙色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 やや軟質	口縁部横撫でやや直立、体部との境 稜有り。 体部磨り。
3	土師器 坏	南西 床直	13.6 - 5 ほぼ完形。	1. 明赤褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 やや軟質	口縁部内湾気味、口唇部横撫で。
4	土師器 坏	南東隅 床直	16.8 - 3.4 片	1. 明赤褐色 2. 僅かに細砂粒 含む 3. 酸化焰 やや軟質	口縁部横撫で、やや直立気味。体部磨り。
5	土師器 坏	竈内 +15	11.6 - - 片	1. にぶい橙色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 やや軟質。	口縁部内湾気味、横撫で、体部～底部手持り磨り
6	土師器 坏	竈内 床直	13.5 - 4.3 完形	1. 明赤褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 やや軟質	口縁部内湾、横撫で。底部磨り。
7	土師器 坏	中央 床直	11.4 - 3.2 片	1. 明赤褐色 2. 僅かに細砂粒 含む 3. 酸化焰 やや軟質	口縁部横撫で、直立。体部磨り。
8	土師器 坏	南西 床直	- - - 片	1. 橙色 2. 細砂黒色細粒含む 3. 酸化焰 やや軟質	表面摩耗。
9	土師器 壺	竈内 +8	15.8 - - 片弱	1. にぶい赤褐色 2. 黒色細粒 含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で外反、胴部球形、斜方向磨り、内面 撫で。
10	土師器 壺	竈 -1	19.8 - - 片弱	1. 明赤褐色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部クノ字に外反、横撫で、長胴、縦方向 磨り り。

11号住居跡 (写真図版29・65・66)

位置 F-59グリッド

規模 西側半分以上、近年の砂利採集により破壊さ
れている。また、東壁も2号溝に切られ南・北壁の
一部のみ残り南北3.8mを測る。

壁高 60cm 垂直に立ち上がる。

貯蔵穴 無し 柱穴 無し 周溝 無し

床面 暗褐色土を入れ薄く踏み固める。

掘形 南壁寄りに径30cm程のピットが数個あるが、
面的には凹凸は緩い。掘形面北側は裸層まで達して
いるため線が露出して見られる。

遺物 土師器壺が南東隅より出土。



竈

位置 東壁中央南寄り 2号溝に切られる。

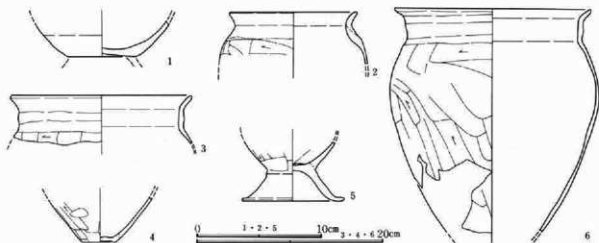
規模 契口部幅50cm 燃焼部奥行き60cm(残存)・幅50cm 煙道部消失

構築 火床面が残り、床面より5cm程下がる。



- 1 暗褐色土 As-Bを多く含む
- 2 # 土断片、木炭断片含む
- 3 茶褐色土
- 4 暗褐色土
- 5 黄褐色土 暗褐色土塊混じり

第82図 11号住居跡実測図



第83図 11号住居跡出土遺物実測図

11号住居出土遺物観察表

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
1	須恵器 碗	竈内 床直	- - 2.6	1. 浅黄色 2. 砂、粘土粒含む 3. 還元焰 軟質	楕圓形、表面準削。高台粘付痕
2	土師器 小型壺	竈内 床直	10.2 - -	1. 赤褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で、口~頸部肥厚、段有り、胴上半横方向莖削り。内面撫で。
3	土師器 壺	竈内 +2	19.2 - -	1. 明赤褐色 2. 砂含む 3. 酸化焰 良好	コの字口縁、口唇部横撫で、頸部の変換部強い撫で、胴上部横方向莖削り。
4	土師器 壺	竈内 +3.5	- 4 -	1. 橙色 2. 細砂粒僅かに含む 3. 酸化焰 良好	胴下半横方向莖削り、内面寛撫で。 底径小さい。
5	土師器 台付壺	南東 +4	- 9.2 - 台部完	1. によい赤褐 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	楕圓部水平に開く。胴部縦方向莖削り、接合部撫で、台部内外面横撫で胴部内面寛撫で。
6	土師器 壺	南東隅 床直	20.1 - -	1. 橙色 2. 細砂粒粘土粒含む 3. 酸化焰 良好	コの字口縁、口唇部横撫で、平断面作る。 頸部上下端強い撫で、胴部上半横方向莖削り。

12号住居跡 (写真図版29・66)

位置 F-60・61グリッド

規模 11号住居に隣接し、砂利採集と2号溝により住居西半分と北壁・東壁が破壊されている。南北方向の残存距離は5.8mを測る。

壁高 60cm前後 垂直に立ち上がる。

貯蔵穴 無し 柱穴 無し

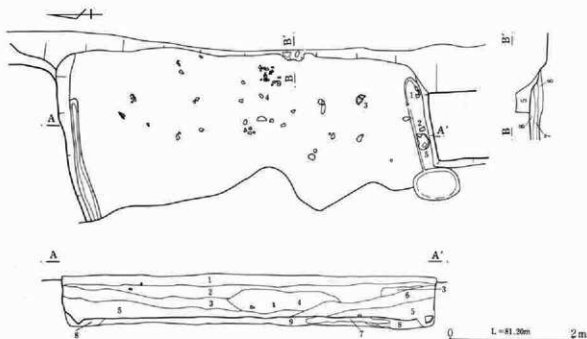
周溝 北壁下に幅10数cm・深さ3cmの規模をもつ。

床面 僅かに褐色土を入れ踏み固めている。

掘形 全体に水平に掘られ、凹凸は見られない。

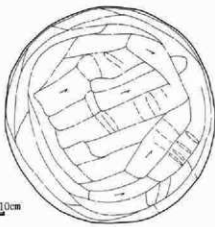
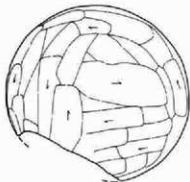
遺物 南壁直下周溝内より土師器甕と2枚組み合わせた土師器の杯が出土した。

竈 東中央南よりに焼土・灰の集中部分あり。



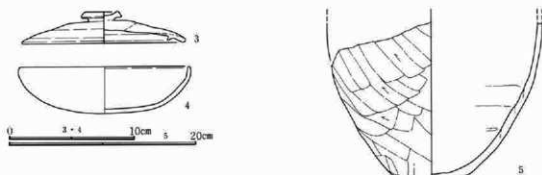
第84図 12号住居跡実測図

- | | |
|----------------|------------------|
| 1 暗褐色土 As-目を含む | 6 褐色土 黄褐色土塊多量に含む |
| 2 # 黒褐色土含む | 7 灰黒色土 灰色土、礫を含む |
| 3 # 黄褐色土塊含む | 8 暗褐色土 黄褐色土塊 |
| 4 # 土器片を多く含む | 9 灰黒色土 黄褐色土塊混じり |
| 5 # 灰黄色土粒含む | |



0 10cm

第85図 12号住居跡出土遺物実測図(1)



第86図 12号住居跡出土遺物実測図(2)

12号住居出土遺物観察表

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
1	土師器 環	南東 №2中	14.1 - 3.9 一部口縁部欠損	1. 褐色 2. 細砂 粘土粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で、体部～底部手持ち莚削り 内面横撫で、№2の環の中に入れて出土。
2	土師器 環	南東 床直	16.1 - 5.3 完形	1. 黄褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で、体部～底部手持ち莚削り 内面撫で、№1の環入っていた。
3	須恵器 蓋	南東 床直	12.7 - 2.5 完形	1. 灰色 2. 小石 細砂粒含む 3. 還元焰 硬質	頂部回転莚削り 端部折り返し カエリを持つ横み 部リング状
4	土師器 環	中央 +13	13.4 - 3.65 ほぼ完形	1. 褐色 2. 細砂粒 黒色細粒 含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で 体部～底部手持ち莚削り
5	土師器 壺	南壁直下 -6	- 7.8 - 胴部下半	1. 褐色 2. 砂粒含む 3. 酸 化焰 良好	中位～下位斜縦位置削り 底部莚削り 内面横撫で 下層横方向莚削り

13号住居跡 (写真図版29・66)

位置 E-61グリッド

規模 北西隅部分のみ調査。

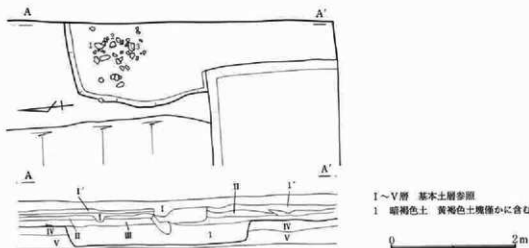
壁高 15cm前後 垂直に立ち上がる。

貯蔵穴 不明 柱穴 不明 溝溝 不明

床面 暗褐色土を入れ踏み固める。

掘形 水平に掘られている。

遺物 土師器杯・壺の破片出土。

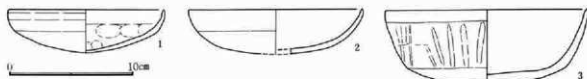


第87図 13号住居跡実測図

I～V層 基本土層参照

I 暗褐色土 黄褐色土塊層かを含む

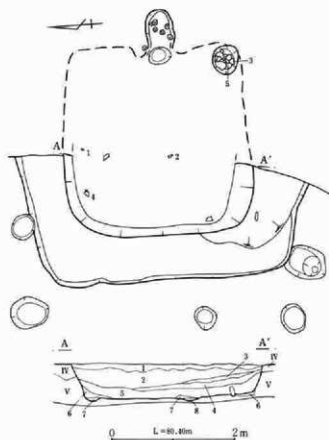
0 2m



第88図 13号住居跡出土遺物実測図

13号住居出土遺物観察表

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
1	土師器 杯	北西 -6	12.5 - 3.4 片	1. 褐色 2. 細砂含む 3. 酸化焰 軟質	口縁部横撫で、内面撫で指頭圧痕有り。 底部手持ち寛削り。
2	土師器 杯	北西 +11	14.8 - 3.3 片	1. 褐色 2. 細砂含む 3. 酸化焰 軟質	口縁部横撫で、底部部手持ち寛削り。
3	土師器 杯	北西 +13	16.2 - 6.7 片	1. にぶい褐色 2. 粘土粒含む 3. 酸化焰 良好	口唇部横撫で、体部横削り後横撫で、 底部平底状、寛削り。



IV・V 基本土層説明

- | | |
|------------------|-------------------|
| 1 暗褐色土 A・Bを多量に含む | 5 褐色土 黄褐色土塊を多量に含む |
| 2 # 焼土、砂粒を含む | 6 黄褐色土 黄褐色土塊 |
| 3 # 焼土塊を多く含む | 7 茶褐色土 焼土、灰の純層 |
| 4 # 黄褐色土粒を多く含む | 8 褐色土 炭粒少量含む |

第89図 14号住居跡実測図

14号住居跡 (写真図版30・66)

位置 M-29グリッド 方位 E-2°-S

規模 東半分は砂利採集により破壊されているが、
僅かに貯蔵穴・電掘形が残る。南北2.8m、東西2.9m
(復元) また、残っている壁外側に、幅80cm・深さ
4cm前後のテラス状の掘り込みあり。

壁高 50cm前後 垂直に立ち上がる。

貯蔵穴 南東隅 径40cm程の円形を呈し、深さ25cm
の規模を持つ。土師器甕・須恵器杯・石等出土。

柱穴 テラス状の掘り込みの外側に径30~50cm・深
さは不統一の小円形のピットがある。

周溝 南壁下に径10cm・深さ3cm前後の小ピットが
不規則に並ぶ。

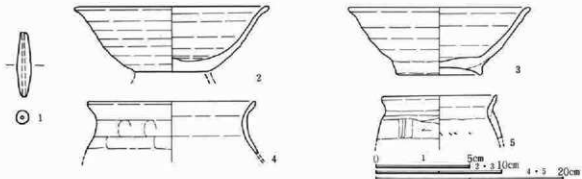
床面 暗褐色土の土を入れ薄く踏み固めている。

掘形 北壁側を5cm前後高くしている。

遺物 貯蔵穴内のほか、北壁中央寄りからは土鍾出
土。また、住居外側で「☆平元宝」・「政和通宝」が
出土した。

電

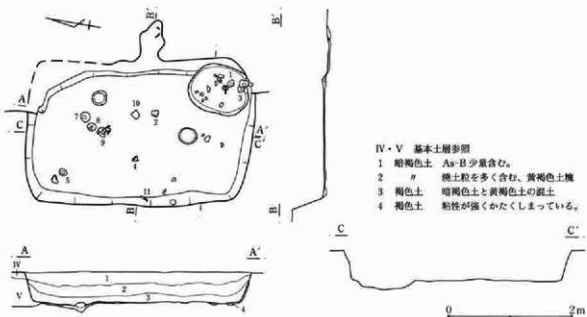
東中央部に僅かに焼土・灰の堆積が見られた。



第90図 14号住居跡出土遺物実測図

14号住居出土遺物観察表

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
1	土製品 土 鏝	北壁下	3.35 8 7 完形	1. によい橙色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰	棒状工具巻き付け。
2	須恵器 碗	中央 +11	15.5 - 5 片	1. によい橙色 2. 細砂 粘土 粒含む 3. 酸化焰 軟質	輪轆整形、輪轆目明瞭、口唇部外反、 底部高台粘付痕。
3	須恵器	貯蔵穴内 -19	14.4 6.3 5.3 片	1. 灰白色 2. 細砂 小礫含む 3. 還元焰 軟質	輪轆整形、体部内湾、底部肥厚、高台粘付、断面直 角三角形、外面横撫で。
4	土器 甕	貯蔵穴内 +2	18 - - 片	1. 橙色 2. 粘土 細砂粒含む 3. 酸化焰 軟質	口縁部弱いコの字、胴上部横方向彫削り。
5	土器 甕	貯蔵穴内 -4	12.2 - - 片	1. によい赤褐色 2. 精選 僅 か細砂含む 3. 酸化焰 良好	口縁部～頸部横撫で、口唇部横撫で、直立。 胴部上半横方向彫削り。



第91図 15号住居跡実測図

IV・V 基本土層参照

- 1 暗褐色土 As-B少量含む。
- 2 # 焼土粒を多く含む、黄褐色土塊
- 3 褐色土 暗褐色土と黄褐色土の混土
- 4 褐色土 粘性が強くなつてしまっている。

15号住居跡 (写真図版30・66)

位置 M-31グリッド 方位 N-86°-E

規模 東へは砂利採集により破壊されているが、確認範囲内では南北3.6m・東西2.3mを測り、長方形を呈する。

壁高 50cm前後 垂直に立ち上がる。

貯蔵穴 南東隅 南北90cm・東西70cm・深さ6cmの規模をもち楕円形を呈する。須恵器杯・土師器杯類を出土。

柱穴 無し 周溝 無し

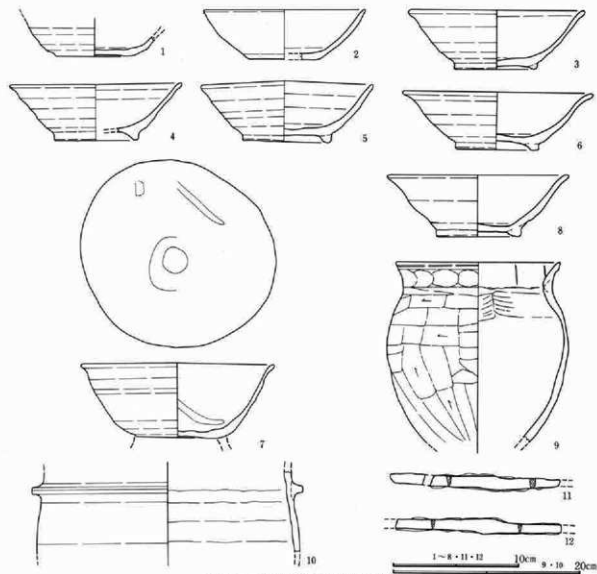
床面 暗褐色土・黄褐色土塊の混土を薄く踏み固めている。

掘形 北壁中央下に、径60cm・深さ28cm程の楕円形のピットを持つ、長辺90cm・短辺75cmの土坑を検出した。また、周囲には20cm前後の小ピットを検出。

遺物 貯蔵穴内のほかに、中央部北と北西隅部において須恵器杯の完形品が出土した。西壁中央壁際で鉄製の刀子を出土。

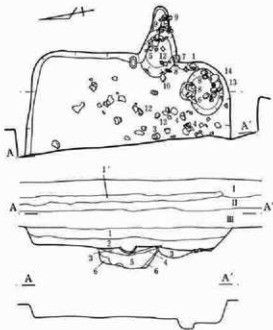
竈

位置 14号住居同様擾乱を受けていたが、灰土・灰の堆積が残っている部分がある。位置は西壁中央部と対称する位置にあり、燃焼部火床面と考えられる。また、貯蔵穴の位置から判断して、燃焼部は壁内に構築されたと考えられる。



第92図 15号住居跡出土遺物実測図

第1節 1区検出の遺構と遺物

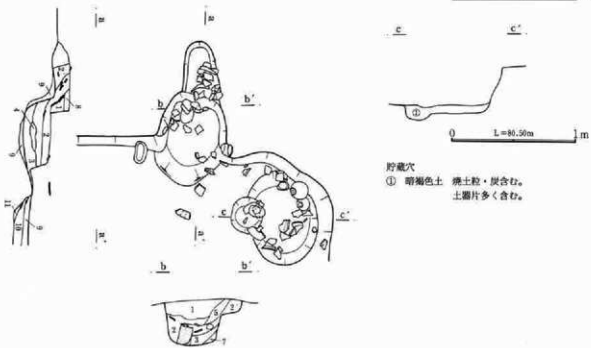


壁は垂直に立ち上がり上半部は焼けている。燃焼部奥壁に石が立て掛けられており、支脚として使用された石と考えられる。焚口上部両壁に須恵器杯が伏せた状態で出土した。火床面は、床面より6cm程下がりが焚口部前方へ灰面が広がる。

1～14層 基本土層参照

- 1 暗褐色土 炭化物、焼土粒含む
- 2 # 炭化物、焼土粒塊含む
- 3 # 黄褐色塊を多く含む
- 4 # 焼土含む
- 5 黄褐色土 焼土塊、炭粒少量含む
- 6 # 黄褐色土の混れこみ

第93図 16号住居跡実測図



貯蔵穴

- ① 暗褐色土 焼土粒・炭含む。
土器片多く含む。

- 1 暗褐色土 焼土、炭粒少量含む
- 2 # 1層に焼土、黄色粒を多く含む
- 2' 暗褐色土 2層より焼土・炭粒が少ない
- 3 # 2層と同層であるが灰を含む
- 4 茶褐色土 焼土と黄色土の混土
- 5 黄褐色土 黄褐色土塊の崩落
- 6 褐色土 黄褐色土粒を含む
- 7 # 黄色土粒、炭粒少量含む
- 8 # As-Bを多く含む
- 9 # 焼土・炭・黄色土粒を少量含む
- 10 # 黄色土粒を多く含む
- 11 # 黄色土塊を多く含む

第94図 16号住居跡 竈実測図

15号住居出土遺物観察表

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
1	須恵器 椀	貯蔵穴内 床直	- 6.0 - 欠	1. 灰黄色 2. 粘土粒粗砂含む 3. 中性焰 軟質	体部下端調整。底部高台貼付痕。
2	須恵器 坏	中央 +7	12.9 5.8 3.95	1. 浅黄色 2. 粗砂小石混じり 3. 酸化焰 軟質	体部やや内湾、底部回転未切り。
3	須恵器 椀	貯蔵穴内 床直	14 6.2 5.7	1. 灰褐色 2. 粘土粒 粗砂含む 3. 酸化焰 軟質	輪壁整形、口縁部強撫で、口唇部外反、体部輪壁目、 底部回転未切り後、高台部貼付け横撫で。
4	須恵器 椀	中央 +12	13.7 7.2 4.45	1. 灰黄色 2. 細砂粒含む 3. 中性焰 軟質	輪壁整形、口縁部外反。 底部回転未切り後、高台部貼付け横撫で。
5	須恵器 椀	北西 +4	13.6 7.1 4.75	1. 灰黄色 2. 粗砂粒岩含む 3. 酸化焰 軟質	輪壁整形、底部回転未切り後、高台部貼付け横撫で、 別れた台形。口縁部強い撫で。
6	須恵器 椀	貯蔵穴内 床直	15.1 6.6 4.5	1. 灰黄色 2. 粗砂含む 3. 還元焰 軟質	輪壁整形、底部回転未切り後、高台部貼付け横撫で、 口縁部強い撫で、口唇部外反、体部内湾。
7	須恵器 椀	北東 床直	15.2 - 5.9 完	1. 黄灰色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 軟質	輪壁整形、底部回転未切り後、高台部貼付け横撫で、 口唇部外反、表面摩耗。
8	須恵器 椀	北東 -4.5	14.4 6.8 5.85 完	1. 濃い橙黄色 粗砂 粘土粒含む 3. 酸化焰 軟質	輪壁整形、底部回転未切り後、高台部貼付け横撫で。 体部内湾、口唇部外反。
9	土師器 罍	中央 床直	13.0 - - 欠	1. 褐色 2. 粗砂 粘土粒 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で、口唇部強い撫で、頸部指距圧痕有り、 胴上部横、下半部方向度削り。
10	須恵器 羽蓋	中央 +8.5	- - - 小片	1. 濃い黄褐色 2. 粗砂 小 石含む 3. 酸化焰 良好	胴、断面台形貼付け。
11	刀子	西壁 +20	13.3 1.2 - 11.83		身部途中欠損、刃は鋒部にある。鈍角をなす。
12	刀子	覆土	13.4 1.26 - 10.85		身先端、茎先端欠損、刃は鋒部にある。鈍角をなす。

16号住居跡 (写真図版31・67・68)

位置 N-31グリッド 方位 W-10°-S

規模 住居西側調査区外。南北3.2m

壁高 20cm前後 東・北壁垂直に立ち上がる。南壁
緩く立ち上がる。

貯蔵穴 南東隅、規模は60×70cm・深さ8cmを測る。

柱穴 貯蔵穴北側に接し径30cm・深さ14cmのピット
東壁中央やや南寄りに径40cm・深さ47cmのピットが
検出したが、柱穴と断定はできない。

周溝 無し

床面 北から南にかけて緩い傾斜を持つ。電前は固
く締まり、焼土や灰の混土が見られる。

掘形 電前から南壁にかけて不正円形の窪みが掘
られ凹凸が激しい。住居中央では径1m・深さ30cmほ
どの床下土坑を確認した。土坑内より壺頸出土。

遺物 南東隅付近では台付罍の底部出土。電内には
土師器罍の破片が多く出土。住居中央やや北よりに
羽釜出土。

電

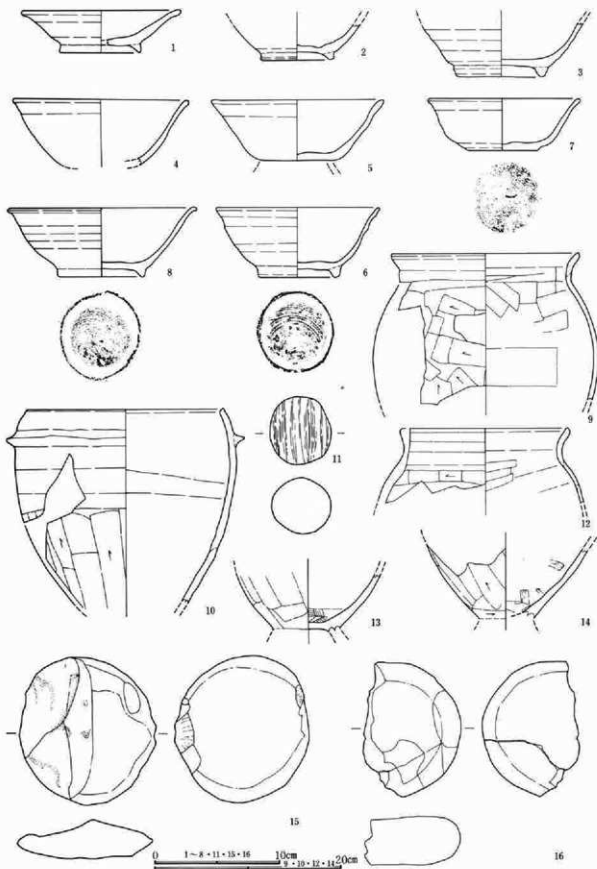
位置 東壁中央南寄り

規模 焚口部幅50cm 燃焼部奥行き40cm・幅40cm
煙道部長さ40cm・幅20cm

煙道部への立ち上がり20cm 斜めに立ち上がる。

構築 燃焼部は住居外にあり袖は持たない。燃焼部

第1節 1区検出の遺構と遺物

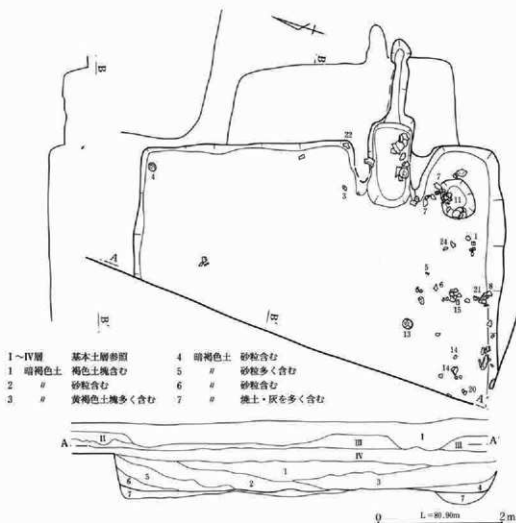


第95図 16号住居跡出土遺物実測図

第二章 上栗須遺跡

16号住居出土遺物観察表

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
1	須恵器 皿	貯蔵穴 -1	12.2 6.3 3.3 —	1. 橙色 2. 砂粒 粘土粒含む 3. 酸化焰	轆轤整形、底部回転糸切り後、高台部貼付け横撫で。
2	須恵器 椀	覆土	— 6.0 5.7	1. におい橙色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰	轆轤整形、底部回転糸切り後、高台部貼付け横撫で。 腰部丸味もつ。底部切り磨し痕不明。
3	須恵器 椀	南東 床直	— 7.5 6.8	1. におい黄橙色 2. 砂粒 粘 土粒含む 3. 還元焰	轆轤整形、底部回転糸切り後、高台部貼付け横撫で。 内外面撫で、底部回転糸きり。
4	須恵器 椀	貯蔵穴内 -3	13.8 — —	1. 灰白色 2. 砂粒含む 3. 還元焰 軟質	口縁部外反、底部欠損。
5	須恵器 椀	竈内 -8	13.3 6.5 4.8	1. におい橙色 粘土粒混じり 3. 酸化焰	轆轤整形、底部回転糸切り後、高台部貼付け横撫で。 口縁部僅かに外反、体部直線的に開く。
6	須恵器 杯	貯蔵穴内 +4	12.8 6.5 5.5	1. 灰褐色 2. 粘土粒混じり小 石含む 3. 還元焰	轆轤整形、底部回転糸切り後、高台部貼付け横撫で。 器形歪む。
7	須恵器 杯	電線部 -8	11.9 5.6 4.1	1. におい橙色 2 砂粒混じり粘 土粒 3. 酸化焰	轆轤整形、口縁部外反、腰部絞り込まれる。底部回 転糸切り、内面同心円。
8	須恵器 椀	貯蔵穴内 -1	14.6 6.8 5.4	1. 灰褐色 2. 砂粒 粘土 3. 還元焰	轆轤整形、底部回転糸切り後、高台部貼付け横撫で。 口唇部外反、断面三角形、器形歪む。
9	土師器 甕	埋蔵遺部 +2	18.0 — — 5%	1. におい赤褐色 2. 砂 粘土 粒含む 3. 酸化焰 硬質	コの字口縁の崩れ、口唇部横撫で直立、頸部横撫で 胴部上半横方向尻削り、下半斜方向尻削り。
10	須恵器 羽 釜	中央 -5	21.0 — —	1. 橙色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰	最大径を帯に持つ、口縁部内湾、口唇部内横撫で 胴上半回転横撫で、下半縦方向尻削り。
11	円 盤	覆土	3.6 3.3 3.0	49.5%	粗粒安山岩
12	土師器 甕	中央 +12	18.0 — —	1. におい赤褐色 2. 細砂粒含 む 3. 酸化焰 硬質	口唇部横撫で、やや内傾、口縁部直立気味に外反 頸部弱く括れ横撫で、胴上半部横方向尻削り。
13	土師器 台付 壺	貯蔵穴内 底部のみ	— — —	1. 明赤褐色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 硬質	胴下半縦方向尻削り、内面横撫で、底部縦撫で。
14	土師器 台付 壺	貯蔵穴内 底部のみ	— — —	1. におい赤褐色 2. 細砂粒含 む 3. 酸化焰	胴下半縦方向尻削り、接合部横撫で、内面縦撫で、 横方向撫で。
15	鏡	貯蔵穴	14.3 10.4 5.2	975.9%	粗粒安山岩
16	鏝	貯蔵穴	15.5 14.5 4.1	1,045.0%	デイスait



第96図 17号住居跡夾測図

17号住居跡 (写真図版31・68・69)

位置 L-43・44グリッド 方位 N-70°-E

規模 住居西側調査区外。南北5.9m

重複 23号住居を切っている。20号住居近接。

壁高 58cm前後 垂直に立ち上がる。

貯蔵穴 南東隅やや西よりに、1m×0.9mの上端方形の掘形を持つ落ち込みがある。内部には、40×50cm・深さ26cmの規模をもつピットがある。

柱穴 無し 周溝 無し

床面 暗褐色土に黄褐色土塊・砂利を含む。電前では、焼土・灰を含み固く締まる。

掘形 南壁下に幅80cm・深さ12~15cm程の規模で壁に沿って溝状に掘り込みがある。

遺物 南壁下では須惠器浅鉢・土師器杯等出土。電

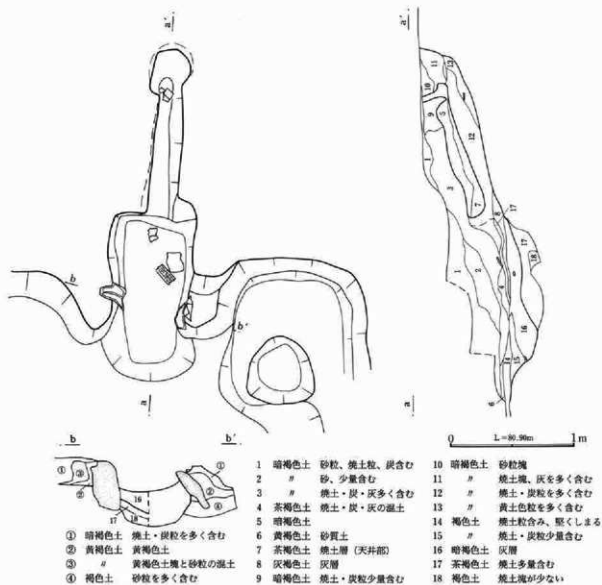
内や貯蔵穴内では土師器杯・壺類出土。

竈

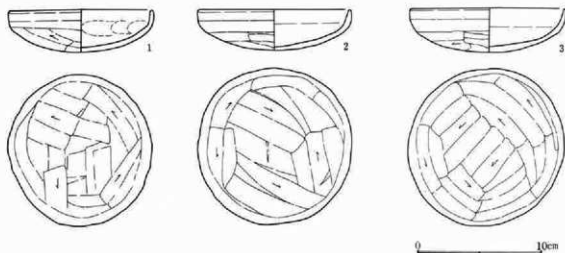
位置 東壁南寄り

規模 焚口部幅60cm 燃烧部奥行き90cm・幅60cm
 煙道部長さ1m・幅25cm 煙り出し部 一辺20cmの方形状を呈し、30cm程垂直に掘り込まれている。
 煙道部への立ち上がり25cm 緩く立ち上がる。

構築 燃烧部は住居外にあり、袖を持つ。燃烧部内は長方形に掘られ、壁は垂直に立ち上がる。壁面は、焚口から煙道に向かい斜方向に焼けている。掘形底面は、床面より30cm程深く掘り込まれ、焼土・灰の堆積が見られ焚口前方60cmまで伸びる。火床面は、床面より数cm低く灰の堆積見られる。袖は住居内に作られ、両袖前方には角溝が埋め込まれている。

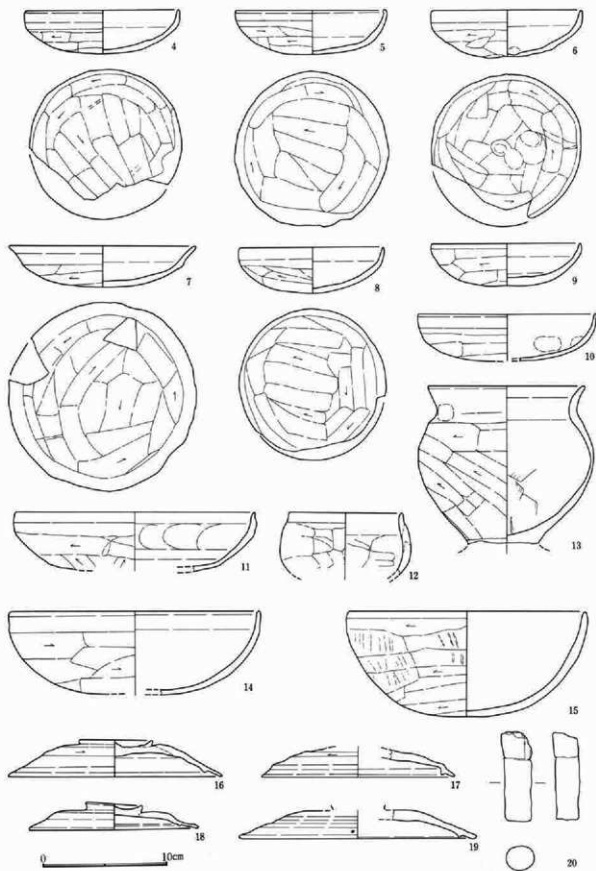


第97図 17号住居跡地縄文測図

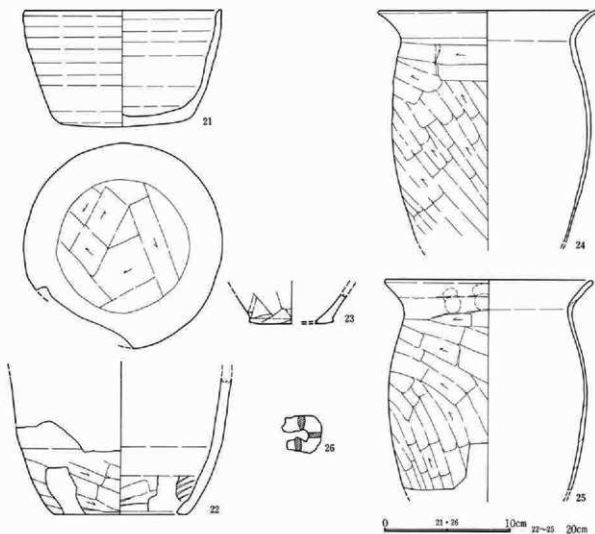


第98図 17号住居跡出土遺物実測図(1)

第1節 I区検出の遺構と遺物



第99図 17号住居跡出土遺物実測図(2)



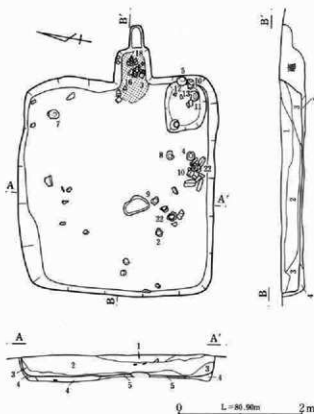
第100図 17号住居跡出土遺物実測図(3)

17号住居出土遺物観察表

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
1	土師器 杯	南東 -14	11.4 - 3.4 変形	1. 灰褐色底部黒色 2. 黒色粒 含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で、底部寛削り、体部無調整。 内面撫で指頭圧痕有り。
2	土師器 杯	貯蔵穴内 +17	12.2 - 3.2	1. 明黄褐色 2. 黒色細砂粒含 む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で、底部寛削り、内面撫で、中央部窪む。
3	土師器 杯	南東 床直	12.4 - 3.5 変形	1. 褐色 底部黒色 2. 黒色細 砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で、底部寛削り、内面撫で、中央部窪む。
4	土師器 杯	北東隅 -13	12.2 - 3.4 片	1. 明黄褐色 2. 黒色細砂粒含 む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で、底部寛削り、内面撫で、中央部窪む。
5	土師器 杯	南東 +17	12.1 - 3.5 変形	1. 褐色 2. 黒色細砂粒僅に含 む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で、体部、指押えによる圧痕あり。 底部寛削り、内面撫で、底部中央部窪む。
6	土師器 杯	南東 床直	12.0 - 3.7 変形	1. にぶい褐色 2. 黒色細砂粒 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で、底部寛削り、内面撫で指頭圧痕有り。

第1節 Ⅰ区検出の遺構と遺物

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
7	土師器 環	貯蔵穴付 近 +5	14.9 - 3.3 完形	1. にぶい橙色 2. 黒色細砂粒 含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で、体部～底部手持ち貫削り。 内面撫で。
8	土師器 環	南壁 -5	11.4 - 3.7 完形	1. にぶい橙色 底部黒色 3. 酸化焰 やや軟質	口縁部横撫で、底部寛削り、内面撫で。
9	土師器 環	覆土	11.8 - 3.3	1. 橙色 2. 黒色細砂粘土粒含 む 3. 酸化焰 良好	口唇部横撫で、体部～底部寛削り、内面撫で。
10	土師器 環	覆土	14.1 - 3.7	1. にぶい橙色 2. 黒色細砂粒 含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で、底部寛削り、一部指摺痕米調整。 内面撫で、指摺痕有り、底部窪む。
11	土師器 環	貯蔵穴内 -3	19.0 - -	1. 橙色 2. 黒色細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で、体部～底部寛削り、内面撫で。
12	土師器 壺	覆土	9.0 - -	1. にぶい橙色 2. 黒色細砂粒 含む 3. 酸化焰、良好	口縁部直立、胴部手づくね。口縁部横撫で。 内面撫で。
13	土師器 台付壺	中央 床直	12.4 - 12.3 ほぼ完	1. 橙色 2. 細砂 粘土粒 3. 酸化焰	口縁部外反、胴部中位で大きく膨らむ、胴部欠損。 口縁部横撫で、胴上部横寛削り、中～下位斜寛削り。
14	土師器 環	南壁寄り -4	19.8 - 6.5 片	1. にぶい橙色 2. 黒色細砂粒 含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で、体部寛削り、内面撫で。
15	土師器 環	南東 床直	19.0 - 8.3 完形	1. にぶい橙色 2. 黒色細砂粒 含む 3. 酸化焰	口縁部横撫で、体部～底部寛削り、内面撫で。
16	須恵器 蓋	覆土	17.0 2.9 5.8	1. 灰白色 2. 細砂粒含む 3. 還元焰 良好	轆轤使用、環状溝み、中央突起貼付け。頂部回転 寛削り、肩部丸味持つ。内面カエリを持つ。
17	須恵器 蓋	覆土	15.0 - (2.3)	1. 灰色 内面白色 2. 白色細 粒 黒色細粒 3. 還元焰 硬質	轆轤使用。口縁部内側に折り、口唇部を外側に折り 返し、段を付ける。頂部回転寛削り。内面ほぼ水平。
18	須恵器 蓋	彫形	13.4 8.7 2.1 ほぼ完形	1. 褐色灰色 2. 白色粒 細砂含 む 3. 還元焰 緻密	環状溝み、貼付中央突起あり。回転寛削り、小さ な溝み出しのカエリを持つ。
19	須恵器 蓋	覆土	19.0 - 2.1 ほぼ完形	1. 灰色 2. 精進 3. 還元焰 緻密	轆轤使用。頂部回転寛削り、肩部丸味を持つ。 内面カエリを持つ。
20	土師器 環	南東 -2.5	7.5 1.8 -	1. 橙色 2. 黒色細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	円柱形
21	須恵器 鉢	南 床直	15.7 10.5 9.2 ほぼ完形	1. 灰色 2. 黒色細粒 白色小 石含む 3. 還元焰 良好	轆轤整形、底部寛削り
22	須恵器 鉢	甕付近 床直	- 14 14.3 片	1. 灰色 2. 細砂 白色粒含む 3. 還元焰 硬質	胴部横撫で、胴下右端より貫削り、底部折り返し後 寛削り。内面横撫で、下端寛撫で。
23	土師器 壺	覆土	- (10.0) - 底部	1. 橙色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	底部寛削り、端部外面に開く、下端縦方向寛削り。
24	土師器 床直	甕内	23.2 - 24.6 片	1. 橙色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰	口縁部緩く外反、胴部僅かに膨らむ長割。 頸部付近横寛削り、胴上部斜方向寛削り。
25	土師器 壺	甕内 -1	22 - 22 片	1. 橙色 2. 黒色細粒 細砂粒 含む 3 酸化焰 良好	口縁部外反、胴部上位で僅かに膨らむ。口縁部横撫 で、頸部横方向寛削り。胴上部斜方向寛削り。
26	鉄器	覆土	3.0 3.0 0.4 11.53g		環形状を呈する。



第101図 18号住居跡実測図

18号住居跡 (写真図版32・69・70)

位置 K・L-41グリッド 方位 N-78°-E

規模 東西3.4m 南北3.1m 東西に長い長方形

壁高 30cm前後 ほぼ垂直に立ち上がる。

貯蔵穴 南東隅に70×60cm・深さ6cmの長方形の掘り込みがあるが、貯蔵穴と断定できない。

柱穴 無し 周溝 無し

床面 掘形により掘り込まれた壁際や四隅に暗褐色土を入れ踏み固めている。住居中央部では薄く暗褐色土を貼り踏み固めている。

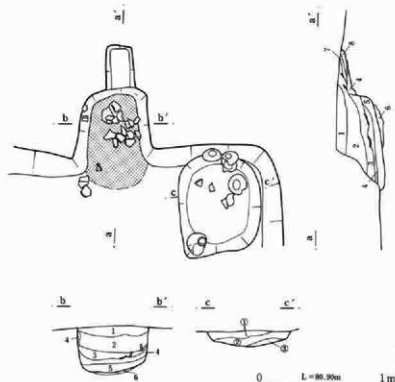
掘形 住居中央部は小石混じりの黄褐色土まで掘り込み平らに仕上げているが、壁際周辺は暗黄褐色砂礫土まで掘り込んでいる。

遺物 南東隅に須恵器椀類出土。南壁中央下では、20cm前後の円柱状片岩礫が数個と須恵器椀類出土。住居中央部に表面が平らな40cm程の大礫出土。

竈

位置 東壁中央やや南寄り

規模 焚口部幅40cm 燃焼部奥行き60cm・幅40cm・



第102図 18号住居跡竈実測図

101図102図

18号住居平面図

- 1 暗褐色土 小石、炭、焼土粒含む
- 1' # 小石多量に含む
- 2 褐色土 小石、焼土粒、炭、暗黄土塊含む
- 3 暗褐色土 焼土粒、炭塊に含む
- 4 暗褐色土 焼土、炭粒少量含む
- 5 # 礫混じり

竈土層

- 1 褐色土 As-B含む
- 2 # 小石含む
- 3 黄茶色土 小石・黄色土塊多く含む
- 4 赤茶色土 焼土、オマド天井部崩落
- 5 暗褐色土 焼土、炭、含む、灰混じり
- 6 # 焼土塊を含む
- 7 赤褐色土 黄土色と焼土を多く含む
- 8 灰褐色土 焼土粒と灰を多量に含む
- 9 赤茶色土 焼土塊混じり、炭少量含む

貯蔵穴

- ① 灰褐色土 焼土粒・小石僅かに含む
- ② # 焼土粒・小石・炭含む
- ③ # 焼土粒・小石僅かに含む

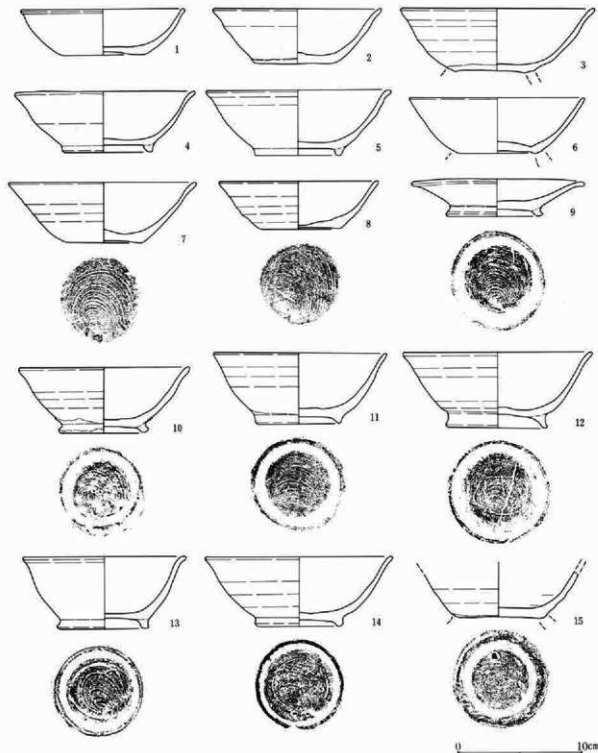
第1節 I区検出の遺構と遺物

深さ40cm 煙道部長さ35cm・幅18cm

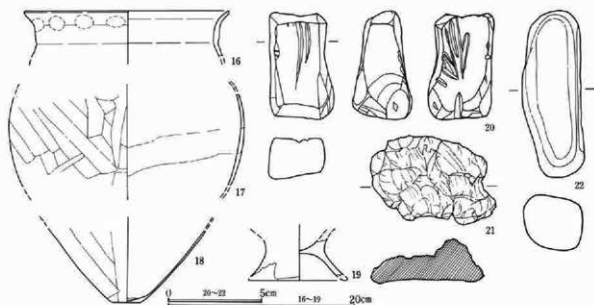
煙道部への立ち上がり18cm 垂直に立ち上がる。

構築 燃焼部は壁外にあり、袖を持たない。掘形は長方形を呈し、壁は垂直に立ち上がる。壁面は、焚口から煙道部にかけて斜方向に焼けている。天井部

は、燃焼部埋没土の状況から黄褐色土に暗褐色土を混ぜ構築したと考えられる。火床面は、床面より僅かに低い。遺物は土師器甕や須恵器の椀等出土している。



第103図 18号住居跡出土遺物実測図(1)



第104図 18号住居跡出土遺物実測図(2)

18号住居出土遺物観察表

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
1	須恵器 環	覆土	13.0 6.8 3.6 片	1. 浅黄色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰	轆轤整形、底部回転糸切り後無で。口唇部外反。
2	須恵器 環	南西 床直	13.5 6.5 4.4 片	1. 灰白色 2. 砂粒小石含む 3. 中性焰 軟質	轆轤整形、底部右回転糸切り、肥厚。口縁部無で。
3	須恵器 椀	竈内 +2	15.4 6 5 片	1. 灰白色 2. 砂粒 粘土粒含む 3. 還元焰 良質	轆轤整形、底部回転糸切り後、高台部貼り付け 口縁部僅かに外反。
4	須恵器 椀	南東覆土	14.5 6.8 4.9 片	1. におい黄橙色 2. 細砂粒含む 3. 中性焰 軟質	轆轤整形、底部右回転糸切り後、高台部貼り付け無 で
5	須恵器 椀	貯蔵穴内 床直	14.8 6.6 5.2 ほぼ完形	1. 灰白色 2. 細砂粒 小石、 粘土粒含む 3. 中性焰 軟質	轆轤整形、底部回転糸切り後、高台部貼り付け無で 表面摩耗。
6	須恵器 椀	覆土	14.0 6.9 4.5 片	1. 浅黄色 2. 砂粒含む。 3. 中性焰 軟質	轆轤整形、底部回転糸切り後、高台部貼り付け無で。 表面摩耗。
7	須恵器 環	北東 +11	15.1 6.0 4.8 片	1. におい黄橙色 2. 砂粒 粘 土粒含む 3. 中性焰 軟質	轆轤整形、底部右回転糸切り、中央盛り上がる。 口縁部へ体部直線的に開く。
8	須恵器 環	南東 +3	12.9 6.5 3.8 片	1. におい黄橙色 2. 砂粒含む 3. 中性焰 軟質	轆轤整形、底部回転糸切り。内面同心円状に中央窪 む。
9	須恵器 皿	南西 床直	13.7 7.3 3 片	1. 灰白色 2. 砂粒僅かに含む 3. 還元焰 良質	轆轤整形、底部回転糸切り後、高台部貼り付け無で 口縁部外反。
10	須恵器 椀	貯蔵穴内 +2	13.7 6.9 5.2 片	1. 灰色 2. 砂粒含む 3. 還元焰 良質	轆轤整形、底部左回転糸切り後、高台部貼り付け無 口唇部僅かに外反。
11	須恵器 椀	貯蔵穴内 -7	14.0 6.6 5.7 完形	1. 灰黒、上部赤褐色 2. 砂粒 小石僅か含む 3. 中性焰	轆轤整形、底部回転糸切り後、高台部貼り付け無で 内面同心円。

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色面 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
12	須恵器 甕	貯蔵穴内 -10	15.0 7.8 6.0 瓦	1. 灰白色 2. 砂粒含む 3. 還元焰	轆轤整形、底部回転糸切り後、高台部貼り付け態で内面同心円。
13	須恵器 枕	貯蔵穴内 -7	13.0 6.8 5.8 瓦	1. 褐灰色 2. 砂粒 粘土粒小 石含む 3. 還元焰 良好	轆轤整形、底部回転糸切り後、高台部貼り付け態で口唇部外反、ハの字に開き、接地面平坦やや上方
14	須恵器 甕	南東 +2	15.0 6.7 5.5 瓦	1. 褐灰色 2. 細砂粒 粘土粒 含む 3. 還元焰 軟質	轆轤整形、底部回転糸切り後、高台部貼り付け態で
15	須恵器 坏	中央 +19	- 7.0 - 瓦	1. 灰白色 2. 砂粒 粘土粒含 む 3. 還元焰	轆轤整形、底部回転糸切り後、高台部貼り付け態で
16	土師器 壺	甕内 +5	21.8 - - 破片	1. によい橙色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	コの字状口縁、内外面横撫で、体部横方向莚削り、指距広狭有り。
17	土師器 壺	覆土 破片	- - - 破片	1. によい橙色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	胴部斜方向莚削り、器壁極薄。
18	土師器 壺	甕内 -1	- 3.0 - 瓦	1. 明褐灰色 2. 細砂粒、粘土 粒含む 3. 酸化焰 良好	胴下半縦方向莚削り、内面露胎で、器壁極薄、底部莚削り、内面突起。
19	土師器 台付壺	覆土 脚部瓦	- - - 脚部瓦	1. 橙色 2. 砂粒混じり 3. 酸化焰 良好	横撫で。
20	砥石	南東	11.2 7.0 6.5 555.3g		砂岩。
21	鉄滓	覆土	260g		
22	鏝	南東	17.6 6.5 6.0 1,083.0g		粗粒安山岩。

19号住居跡 (写真図版32・70)

位置 L-41グリッド 方位 N-81°E

規模 住居西側調査区外。南北方向2.8m

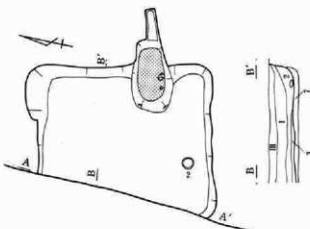
壁高 40cm前後 垂直に立ち上がる。

貯蔵穴 無し 柱穴 無し 周溝 無し

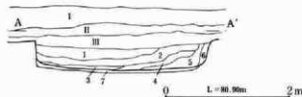
床面 暗褐色土に黄色土粒の混土を平らに踏み固めている。

撮影 電前から中央にかけて不正円形に掘り込みが見られる。全体に南に傾斜している。

遺物 南壁際中央で須恵器のカエリを持つ蓋が逆位で出土している。



- I~III層 基本土層参照
- 1 暗褐色土 砂粒、黄土色粒を含む
 - 2 褐色土 黄褐色土多量に含む
 - 3 #
 - 4 暗褐色土 黄褐色土粒少量含む
 - 5 褐色土 砂粒を全体に多く含む
 - 6 # 黄褐色土塊を含む
 - 7 # 暗褐色土に黄色土粒含む



第105図 19号住居跡実測図

竈

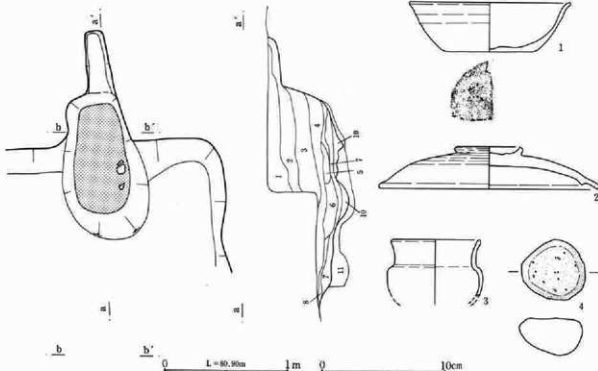
位置 東壁中央南より

規模 焚口部幅45cm 燃焼部奥行き60cm・幅40cm・

深さ60cm 煙道部長さ40cm・幅7cm

煙道部への立ち上がり40cm 垂直方向より僅かに傾いて立ち上がる。

構築 燃焼部は壁を掘り込み、中心は壁の延長線上にある。袖はない。壁面は垂直に立ち上がる。火床面は床面と同レベルである。焚口部前には灰の掻き出しにより、床面より10cm程低く窪み灰層の堆積が見られる。



第106図 19号住居竈実測図

第107図 19号住居跡出土遺物実測図

- | | | | |
|---------|----------------|----------|------------|
| 1 褐色土 | 小石混じり、僅かに焼土粒含む | 7 暗褐色土 | 焼土、灰混じり |
| 2 # | 黄土色粘土粒多く含む | 8 黒褐色土 | 黄土色塊混じり |
| 3 暗黄褐色土 | 黄褐色土塊主体、褐色土混じる | 9 黄土色粘質土 | |
| 4 黄土色土 | 黄土色土主体 | 10 黒灰色土 | 灰層 |
| 5 赤茶色土 | 焼土 | 11 黄土色土 | 黄土色土塊、砂の混合 |
| 6 暗黄土色土 | 黄土色の小石含む | 12 灰褐色土 | 灰、焼土、炭粒の混土 |

19号住居出土遺物観察表

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
1	須恵器 杯	覆土	12.6 7 3.9	1. 褐灰色 2 砂粒含む 3. 還元焼 軟質	縦軸整形、底部回転削り。
2	須恵器 蓋	南西 -6	17.3 5 3.3 ほぼ完形	1. 灰白色 2. 砂粒含む 3. 還元焼 硬質	リング状構み、頂部回転削り。 内面カエリを持つ。
3	土師器 蓋	覆土	6.9 - -	1. 明赤褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焼	口縁部横撫で。肩部が張り、体部削り。
4	甌 石	南西	6.4 6.8 4.0 126.4g		角閃石安山岩

20号住居跡 (写真図版33・71・72)

位置 K・L-42グリッド 方位 N-77°E

重複 21号住居を切る

規模 北壁3.2m 南壁3.8m 東西4.2m

壁高 40cm前後 垂直に立ち上がる。

貯蔵穴 南東隅 長軸80cm・深さ40cmの規模をもつ楕円形を呈する。

柱穴 無し 周溝 無し

床面 砂礫混じりの暗褐色土を踏み固めている。

掘形 黄褐色の砂礫層が露出している。南壁下に1m×60cm・深さ4cm程の長方形の掘り込みがある。また、住居北東角が深さ10cm程の三角形に掘り込まれている。

遺物 貯蔵穴内から土師器の坏・壺片出土。北壁中

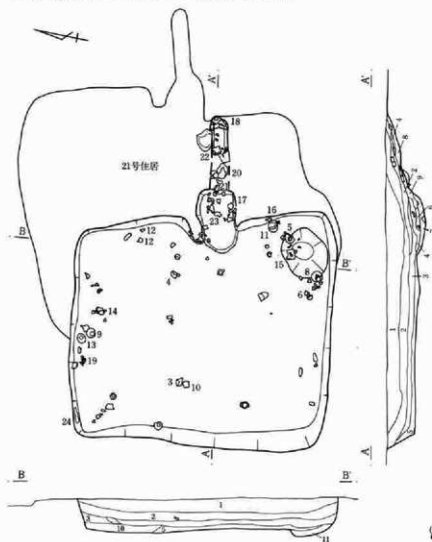
央下などから須惠器坏出土。

竈

位置 東壁中央やや南より

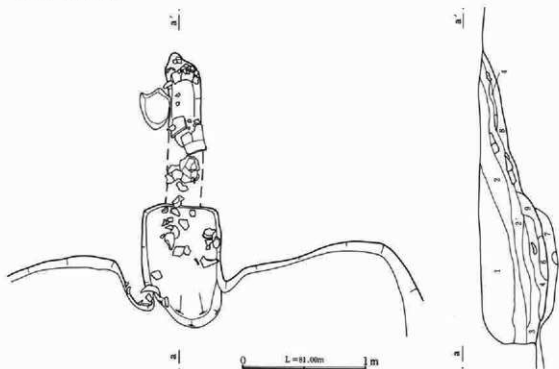
規模 焚口部幅50cm 燃焼部奥行き90cm・幅60cm・深さ60cm 煙道部長さ1m・幅25cm 斜めに伸びる。煙道部への立ち上がり20cm

構築 燃焼部は壁の延長線上にあり、30cm程の袖を持つ。掘形は長方形を呈し、壁は垂直に立ち上がる。火床面は、床面より数cm下がリレンズ状に掘られ、10cm程の灰の堆積が見られる。煙道部から煙り出し部にかけて、土師器壁の胴部破片が横位に並べられ上に瓦が伏せられて出土した。また、煙り出し部の脇に30cm大の石がおかれていた。

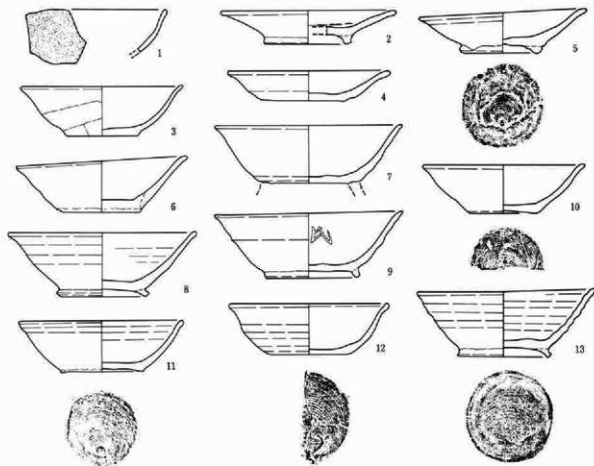


- 1 暗褐色土 小石多量に含む
- 2 暗褐色土 #
- 2' 暗褐色土 小石・炭・土師片含む。
- 3 暗褐色土 小石・土師片を含む。
- 4 暗褐色土 焼土粒を含む。
- 5 暗褐色土 小石・炭・焼土粒を含む。
- 6 赤茶色土 焼土塊・灰混じり。
- 7 赤茶色土 焼土・灰の混土。
- 8 暗褐色土 焼土・炭含む。
- 9 暗褐色土 小石 炭 焼土含む。灰混じり
- 10 暗褐色土 焼土塊を多量に含む。
- 11 暗褐色土 小石を含む。

第108図 20号住居跡実測図

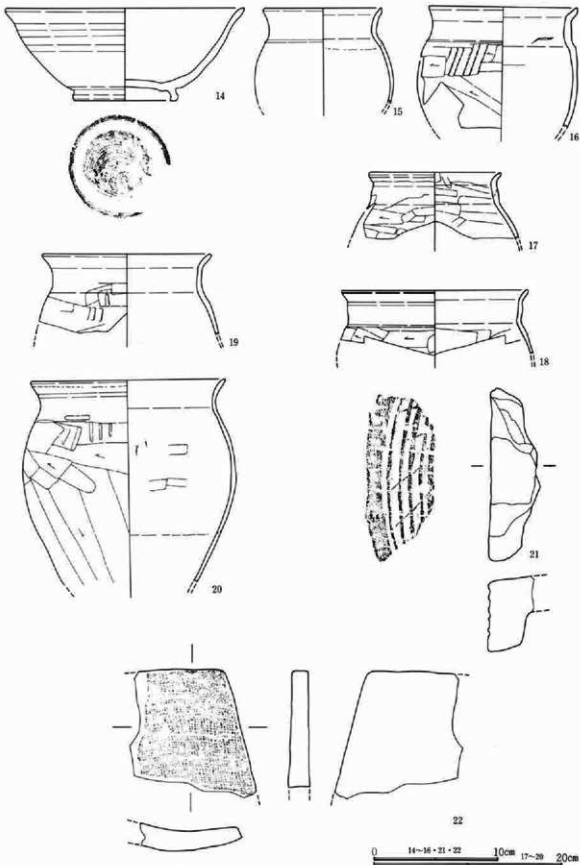


第109図 20号住居跡電気測図

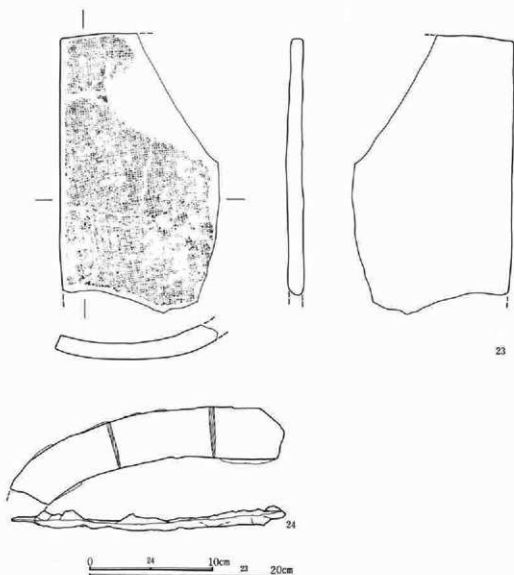


第110図 20号住居跡出土遺物実測図(1)

第1節 I区検出の遺構と遺物



第111圖 20号住居跡出土遺物実測図(2)



第112図 20号住居跡出土遺物実測図(3)

20号住居遺物観察表

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
1	土師器 甕 —	—	— — — 破片	1. にぶい褐色 2. 細砂粒 粘土粒含む 3. 酸化焰	口縁部横推で折り返し。体部内面撫で。鋭利な物による線刻。外面荒削り。
2	須恵器 甕	—	13.6 7 2.6 片	3. にぶい黄褐色 2. 砂粒 粘土粒含む 3. 中性焰 軟質	輪縁整形、高台部貼り付け、横ね焼きの痕跡見られる。
3	須恵器 甕	北西 +14	12.8 5.6 3.9 ほぼ完形	1. 淡黄色 2. 砂粒 粘土小石含む 3. 中性焰 軟質	輪縁整形、底部切り履し不明。表面摩耗。
4	須恵器 甕	竈内 床直	12.6 5.6 2.4 片	1. 淡黄色 2. 砂粒混じり 小石僅かに含む 3. 中性焰 軟質	輪縁整形、底部回転糸切り後、高台部貼り付け撫で
5	須恵器 甕	貯蔵穴内 +2	13 — — 片	1. にぶい赤褐色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 硬質	輪縁整形、底部回転糸切り、高台部貼り付け撫で、内面同心円。

第1節 I区検出の遺構と遺物

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
6	須恵器 環	貯蔵穴内 +2	13.2 6 3.9 片	1. 褐灰色 2. 砂粒 小石含む 3. 還元焰 硬質	横楕整形、底部回転糸切り。
7	須恵器 碗	北西 +14	14.8 8 4.4 片	1. 浅黄褐色 2. 砂粒含む 3. 中性焰 軟質	横楕整形、切り離し技法不明、高台部貼り付け痕見れる。
8	須恵器 床直	貯蔵穴内 完形	14.5 6.8 5	1. 灰褐色 2. 細砂粒含む 3. 中性焰 良質	横楕整形、底部回転糸切り、高台部貼り付け無で 鋭角に開く。
9	須恵器 碗	北西 床直	14.6 6.5 5.1 ほぼ完形	1. 灰褐色 2. 砂粒含む 3. 還元焰 硬質	横楕整形、底部回転糸切り、高台部貼り付け無で 黒書「氏」
10	須恵器 環	北西 床直	12.8 5.4 3.81 片	1. 褐灰色 2. 細砂粒含む 3. 中性焰 軟質	横楕整形、底部回転糸切り、紐巻き上げ痕見られる
11	須恵器 環	竈内 完形	13.0 6.5 4	1. 黒色 2. 砂粒 小石含む 3. 還元焰 硬質	横楕整形、底部回転糸切り。
12	須恵器 環	北東 床直	12.5 6 4 片	1. 褐灰色 2. 砂粒含む 3. 還元焰 硬質	横楕整形、底部右回転糸切り。口縁部外反させ、 口唇部内傾。
13	須恵器 碗	北西 +3	13.8 7.0 5.1 ほぼ完形	1. におい褐色 2. 砂粒含む 3. 中性焰 良質	横楕整形、底部回転糸切り後、高台部貼り付け無で 内面中央窪み、平坦面作る。
14	須恵器 碗	竈内 +2	18.7 8.2 7.2 ほぼ完形	1. 灰褐色 2. 砂粒混じり 3. 中性焰 良質	横楕整形、底部回転糸切り後、高台部貼り付け無で 内外面強い無で、接地部分も無でによる。
15	土師器 壺	貯蔵穴内 床直	9.4 - - 片	1. 明赤褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰やや軟質	口縁部横無で、肥厚。頸部下端段有り。
16	土師器 壺	貯蔵穴内 +5	11.8 - - 片	1. におい赤褐色 2. 細砂粒 粘 土粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁短く外反、頸部指頭圧痕有り、頸部との境段を 持つ。胴部上半横方向、下半斜方向置削り。
17	土師器 壺	竈内 床直	14 - - 片	1. におい赤褐色 2. 細砂粒僅 かに含む 3. 酸化焰 良好	コの字口縁、口唇部横無で直立、頸部上下強い横無 で、区画明確。胴部上半横方向置削り。内面無で
18	土師器 壺	煙道部 +2	19.8 - - 片	1. 明赤褐色 2. 細砂粒 粘土 粒含む 3. 酸化焰 良好	コの字口縁。口唇部無で比較的持つ。頸部との境強い 横無で。下端も強い無でにより段有す。
19	土師器 壺	北西 床直	18 - - 片	1. 明赤褐色 2. 細砂粒僅か含 む 3. 酸化焰やや軟質	コの字口縁やや崩れる。横無で。胴上半横斜方向置 削り。
20	土師器 環	煙道部 +12	20.2 - - 片	1. におい橙色 2. 粘土粒、粗 砂含む 3. 酸化焰	口縁部外反。口唇部外傾。頸部直立、弱いコの字割 部上半横斜方向置削り。下半斜方向置削り。
21	宇 瓦	煙道部 +6	5.3 - - 中位破片	1. 褐灰色 2. 雲母 白色粒含 む 3. 還元焰 硬質	押し引き、五重弧文(兼状文)段型形式
22	女 瓦	煙道部 床直	- - - 片	1. 明赤褐色 2. 雲母 白色粒含 む 3. 還元焰	凸面無で整形と考えられる。凹面布目。
23	女 瓦	竈内	- - 1.8 片	1. 明灰褐色 2. 雲母 白色粒含 む 3. 還元焰	凸面無で整形と考えられるが風化著しく不明横骨痕 8条を認める。1枚作りか?
24	鏝	北西+5	22.0 3.9 0.3	101.7g	先端部欠損。基端部折り返される。

21号住居跡 (写真図版33・72・73)

位置 K-41・42グリッド 方位 N-73°E

重複 20号住居に北壁を残し、西半分を切られる。

規模 南北4.4m 東壁竈南側から南隅まで40cm程掘り残されている。

壁高 40cm前後 緩く立ち上がる。

貯蔵穴 南東隅 径90cm・深さ15cm程の円形を呈す。

柱穴 無し 周溝 無し

床面 中央部が盛り上がる。暗褐色土混じりの黄褐色土を踏み固めている。

掘形 各隅寄りが掘り込まれ、中央部が盛り上がる。

竈左袖前に径80cm程の土坑を検出した。

遺物 貯蔵穴内から土師器甕・須恵器坏出土。

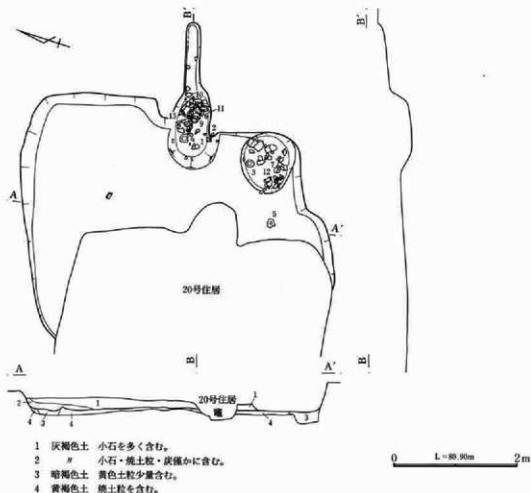
竈

位置 東壁中央

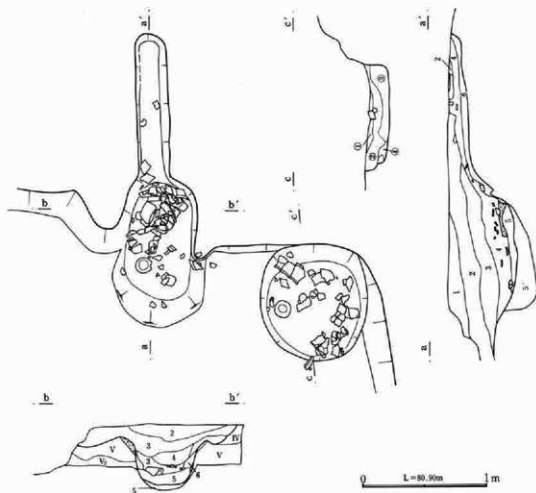
規模 焚口部幅55cm 燃烧部奥行き60cm・幅50cm・深さ55cm 煙道部長さ1.2m・幅25cm

煙道部への立ち上がり30cm 緩く立ち上がる。

構築 燃烧部は壁を僅かに掘り込み、掘り残しの袖を持つ。掘形は長方形を呈し、壁は垂直に立ち上がる。火床面は、床面より20cm程下がり、レンズ状に数cmの灰層の堆積が見られる。また、灰層の下に灰・焼土・黄褐色塊の混土層が堆積している。遺物は、土師器甕片を主体に小型甕や須恵器坏出土。



第113図 21号住居跡実測図



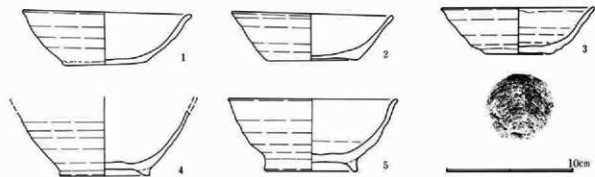
21号住居層

- 1 灰褐色土 小石・焼土粒含む
- 2 #
- 3 # 小石混じり、焼土・炭含む。
- 3' 暗褐色土 焼土粒・小石僅かに含む。
- 4 暗褐色土 黄土色・粘土塊混じり。
- 5 黒褐色土 焼土・炭混じりの灰層。
- 5' 黒褐色土 焼土・炭混じりの灰層。黄土色塊含む。
- 6 灰茶色土 焼土粒。

21号住居竈穴

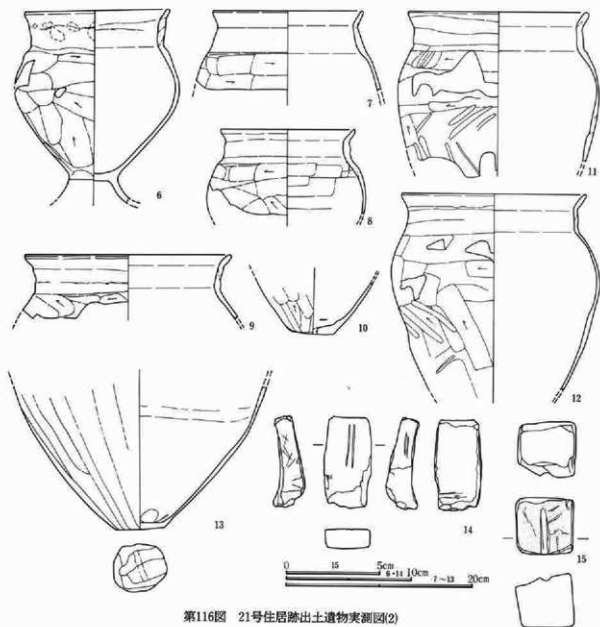
- ① 暗褐色土 小石を多く含む
- ② 暗黄色土 黄土色土塊、小石混じり
- ③ 灰褐色土 炭・焼土粒僅かに含む
- ④ 暗褐色土 黄土色土粒僅かに含む

第114図 21号住居跡竈穴実測図



第115図 21号住居跡出土遺物実測図(1)

第二章 上栗須遺跡



第116図 21号住居跡出土遺物実測図(2)

21号住居出土遺物観察表

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
1	須恵器 坏	甕内 床直	13.4 4.1 6.7 瓦	1. 灰白色 2. 砂粒含む 3. 還元焰 硬質	縦橢整形、底部未切り。 内面重ね焼成見られる。
2	須恵器 坏	甕内 床直	12.7 7.1 3.7 ほぼ完形	1. 灰黄色 2. 精選 3. 還元焰 硬質	縦橢整形、底部回転未切り。
3	須恵器 坏	貯蔵穴内 +16	12 5.5 3.6 完形	1. 黒色 2. 細砂粒含む 3. 還元焰 硬質	縦橢整形、底部回転未切り。口縁部横撫で、口唇部 内面折り返し。
4	須恵器 碗	甕形 +3	- 7.0 5.1 瓦	1. によい黄色 2. 細砂粒含む 3. 還元焰 良好	縦橢整形、底部回転未切り、高台部貼り付け。 高台部横撫で。

第1節 I区検出の遺構と遺物

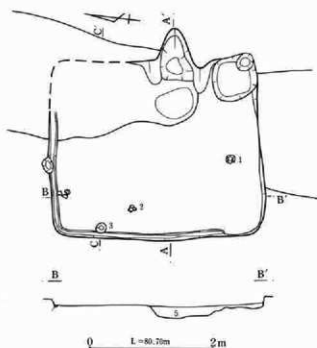
番号	器 種 器 形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整 形 ・ 調 整 の 特 徴
5	須恵器 碗	南東 床直	13.4 7.2 5.7 5/6	1. 灰色 2. 細砂粒含む 3. 還元焰 硬質	楕圓形、高台部貼付け、横断で。
6	土師器 台付甕	竈内 +3	11.3 — 15.4 ほぼ完形	1. 褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	コの字口縁、口縁部～頸部横断で。 肩部持つ、内面下位置断で。
7	土師器 壺	貯蔵穴内 +17	15.9 — 8.5 5/6	1. 明赤褐色 2. 細砂粒粘土粒 含む 3. 酸化焰 良好	コの字口縁、胴上半部斜方向寛断り。 内面断で。
8	土師器 壺	掘形	14.2 — 9.0 5/6	1. 褐色 2. 砂粒粘土粒含む 3. 酸化焰 良好	コの字口縁、口唇部横断で、直立気味。 頸部～胴上部段あり、胴上部斜方向寛断り。
9	土師器 壺	竈内 +3	22.0 — 6.8 5/6	1. 明赤褐色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 良好	コの字口縁、胴部閉く、口唇部横断で。 頸部上・下端やや強い横断で、胴部横方向。
10	土師器 壺	竈内 +20	— 4.6 5.8 塚付着瓦	1. 濃い赤褐色 2. 細砂粒含 む 3. 酸化焰 良好	胴上部縦方向寛断り、内面寛断で。 底部寛断り。
11	土師器 壺	竈内 +13	18.9 — 15.8 5/6	1. 褐色 2. 細砂粒含む 3. 還元焰 硬質	コの字口縁、頸部下端強い断で。 胴上部斜方向寛断り 中位～下位縦方向寛断り。
12	土師器 壺	貯蔵穴内 +16	19.5 — 20.9 底部欠損	1. 褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	コの字口縁、やや崩れる、胴上部斜方向寛断り。 頸部両端やや強い断で、肩部見られる。
13	土師器 壺	竈内 +3	— 5.0 — 5/6	1. 褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	胴部下半部、縦断り、底部小さく不安定断り。
14	砥石	北東	9.7 5.0 2.0	194.1R	流紋岩 砥沢?
15	砥石	覆土	2.9 3.0 2.8	44.0R	流紋岩 砥沢?

22号住居跡 (写真図版34・73)

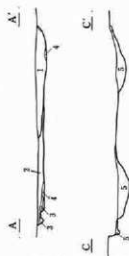
位置 K-38グリッド 方位 N-76°-E
重複 5号溝に切られている。
規模 東西2.9m 南北3.4m長方形を呈す
壁高 14cm前後
貯蔵穴 南東隅 70×70cmの方形を呈す。
柱穴 無し
周溝 上端6cm・深さ4cmの掘形を持ち、溝に切ら
 れた壁以外は各壁下に巡る。
床面 掘形面の黄褐色土を踏み固めている。
掘形 全体に平。住居西側に径1mの土坑を検出。
遺物 須恵器坏出土。

竈

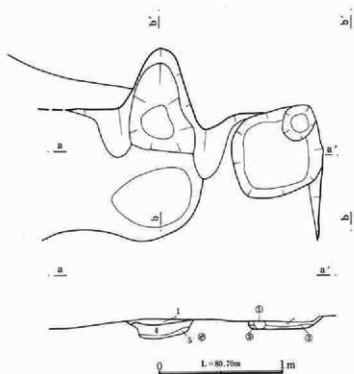
位置 東壁中央やや南より
規模 焚口部幅50cm 燃焼部奥行60cm・幅50cm・
 深さ10cm 煙道部長さ8cm・幅10cm
 煙道部への立ち上がり 緩い傾斜を持ち移行する。
構築 燃焼部は僅かに壁を掘り込み、地山掘り残し
 の袖を持つ。壁は垂直に立ち上がる。火床面は、床
 面より5cm程低く、焼土・灰の堆積見られる。



第117図 22号住居跡実測図



- 1 暗褐色土 As-Bを多量に含む。5号調度土。
- 2 黄色土粒・焼土・灰土を含む。
- 3 黄褐色土
- 4 暗褐色土 黄褐色土塊を多量に含む。
- 5 黒褐色土 黄褐色土を含む。



第118図 22号住居跡電気実測図



- 1 暗褐色土 黄褐色土粒・炭粒を少量含む。
 - 2 黄褐色土
 - 3 茶褐色土 焼土・灰の混入。
 - 4 暗褐色土 灰を多く含む。
 - 5 暗褐色土 灰が少ない。
- 貯蔵穴土層
- ① 黄褐色土塊
 - ② 暗褐色土・黄褐色土粒を含む。
 - ③ 褐色土



0 10cm

第119図 22号住居跡出土遺物実測図

22号住居出土遺物観察表

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
1	須恵器 皿	北西 床直	13.2 5.6 2.6 完形	1. 黄褐色 2. 砂粘土粒含む 3. 酸化焰 良好	輪軸整形、表面摩耗、高台部貼付け、横割で、 接地部平直、底部回転未切り。
2	須恵器 皿	北西 +0.5	12.0 5.4 3.0 完形	1. 浅黄色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 良好	輪軸整形、表面摩耗。 高台部貼付け、横で。
3	須恵器 鉢	北西 -1	14.6 6.7 5.2 完形	1. 灰色 内面灰黒色 2. 砂粒 小石含む 3. 中性焰 軟質	輪軸整形、高台部貼付け。

23号住居跡 (写真図版34・73)

位置 K・L-43グリッド 方位 N-70°-E

重複 17号住居に西側半分を切られている。

規模 南北3.6m

壁高 45cm前後 やや傾いて立ち上がる。

貯蔵穴 無し 柱穴 無し 周溝 無し

床面 砂礫混じりの暗褐色土を踏み固めている。

掘形 灰色の地山砂利層まで掘り込む。

遺物 土師器壺・須恵器蓋出土。

竈

位置 東壁南寄り 右袖は17号住居に壊されている。

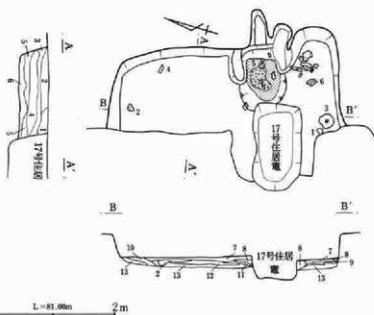
規模 焚口部幅50cm 燃焼部奥行45cm・幅45cm・
深さ52cm 煙道部長さ55cm・幅25cm

煙道部への立ち上がり40cm 小さな段をもつ。

構築 燃焼部は住居内にあり、暗褐色土の袖を持つ。

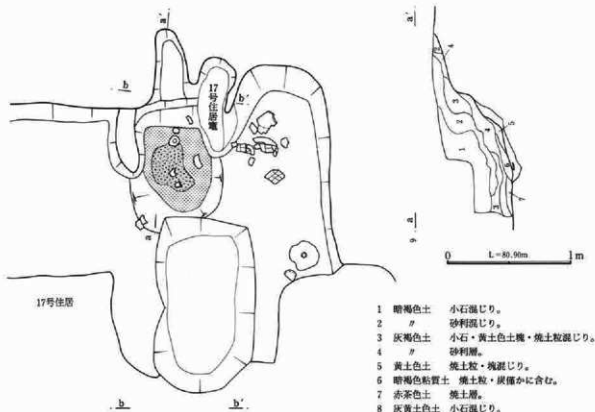
燃焼部掘形は箱形を呈し、壁は垂直に立ち上がる。

壁面は赤茶色に焼けている。火床面は、床面より僅かに高く、灰層の堆積は見られない。



- 1 黄土色土 黄土色土塊混じり。
- 2 灰褐色土 小石を多量に含む。
- 3 褐色土 小石を含む。
- 4 # 小石・黄土色土を含む。
- 5 黄土色粘質土
- 6 暗褐色粘質土
- 7 # 土、黄土色土塊・小石混じり。
- 8 灰褐色土 砂利層。
- 9 黄土色土 黄土色土と砂利の混合層。
- 10 灰色砂利層。
- 11 灰褐色土 砂利混じり。
- 12 褐色土 小石混じり。
- 13 # 砂利混じり。

第120図 23号住居跡実測図



第121図 23号住居跡電気実測図



第122図 23号住居跡出土遺物実測図

23号住居出土遺物観察表

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 構成	整形・調整の特徴
1	土師器 杯	南東 +2	13.3 — 3.2 片	1. におい褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焙 良好	口唇部横撫で、内面内横撫で。 平底気味。
2	須恵器 杯	北西 +11	10.4 5.0 3.9 完形	1. 灰白色 2. 砂粒含む 3. 還元焙 硬質	縦輪整形、肩部距張り、底部置切り磨し。

番号	器 種 器 形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整 形 ・ 調 整 の 特 徴
3	須 恵 器 蓋	南東 +5	20.9 2.8 4.1 完形	1. 灰色 2. 砂粒含む 3. 還元焰 硬質	ボタン状溝み貼り付け。 頂部回転ネリ。内面磨き出しのカエリもつ。
4	須 恵 器 盃	北西 +8	18.2 - 3.5 片	1. 灰色 2. 砂粒 白色含む 3. 還元焰 硬質	輪縁整形、浅く腰部丸味もつ。
5	土 師 器 甕	南東 -1	- (1.3) 5.7 底部のみ	1. 橙色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 良好	手づくね痕跡に見られる。 外面横方向窪削り、底部窪削り。内面塗敷で。
6	土 師 器 甕	南東隅 -1	22.5 - 19.0 片	1. 橙色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 良好	表面単純、調整痕不明。

25号住居跡 (写真図版35・73・74)

位置 J・K-35グリッド 方位N-70°-E

重複 26号住居に南西隅を切られている。

規模 東西3.1m 南北3.5m

壁高 20cm前後 ほぼ垂直に立ち上がる。

貯蔵穴 北東隅 1m×0.8m・深さ24cmの長方形をした土坑を検出した。また、甕左袖前径50cm程の円形土坑検出。

柱穴 掘形確認時に、住居中央部に径35cm・深さ25cm程のピットを検出した。

周溝 無し

床面 暗褐色土と黄褐色土の混土を踏み固める。

掘形 全体にフラットな面に仕上げられている。北壁下に10cm程の小ピットを検出した。

遺物 北東隅・貯蔵穴内須恵器検出土。

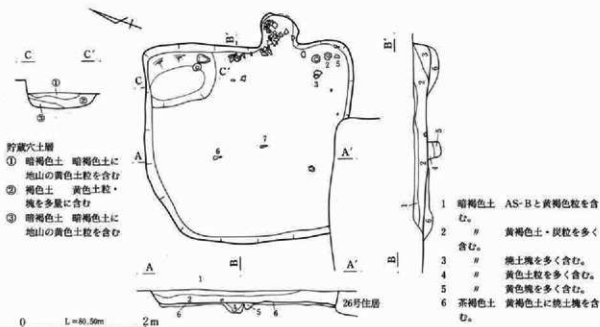
甕

位置 東壁南寄り

規模 焚口部幅45cm 燃烧部奥行き60cm・幅55cm 深さ28cm 煙道部は削平され不明。

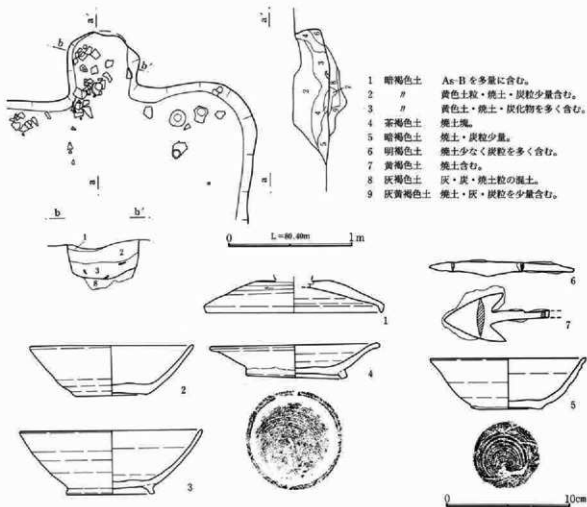
煙道部への立ち上がり22cm

構築 燃烧部は住居外にあり、袖を持たない。壁面は垂直に立ち上がる。壁面は赤茶色に焼けている。火床面は、床面と同レベルであるが、火床面より6cm程低く灰の堆積がみられる。土師器片多く出土。



第123図 25号住居跡実測図

第II章 上栗須遺跡

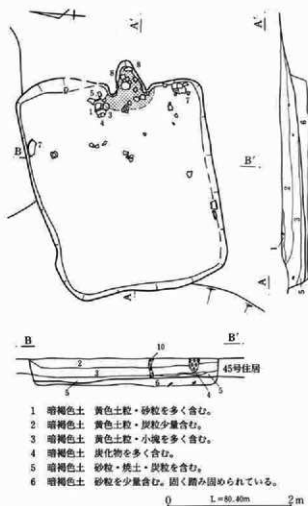


- 1 暗褐色土 As-Bを多量に含む。
- 2 # 黄色土粒・焼土・炭粒少量含む。
- 3 # 黄色土・焼土・炭化物を多く含む。
- 4 茶褐色土 焼土塊。
- 5 暗褐色土 焼土・炭粒少量。
- 6 明褐色土 焼土少なく炭粒を多く含む。
- 7 黄褐色土 焼土含む。
- 8 灰褐色土 灰・炭・焼土粒の混土。
- 9 灰黄褐色土 焼土・炭・炭粒を少量含む。

第124図 25号住居跡竈と出土遺物実測図

25号住居出土遺物観察表

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
1	須恵器 蓋	掘形	13.9 - 2.5 片	1. 灰色 2. 砂粒含む 3. 還元焰 硬質	端部折り返し。
2	須恵器 坏	南東隅 +6	12.8 5.7 3.9 片	1. 灰黄色 2. 砂粒含む 3. 還元焰 軟質	轆轤整形。 底部回転糸切り。
3	須恵器 椀	南東隅 +4	14.2 6.8 5.0 片	1. 灰色 2. 砂粒粘土含む 3. 還元焰 軟質	轆轤整形、高台部貼付け、ハの字に開き横撫で。 底部右回転糸切り、表面摩耗。
4	須恵器 皿	掘形	13.2 7.5 2.6 ほぼ完形	1. 黄褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	轆轤整形、高台部貼付け。 底部回転糸切り。
5	須恵器 坏	南東隅 +4	12.2 5.7 4.0 完形	1. におい褐色 2. 細砂粒含む 3. 還元焰 硬質	轆轤整形。 底部左回転糸切り。
6	刀子	床直	11.6 1.4	6.52R	両部は鋒部のみある。木質部が遺存する。完形
7	鉄 鏃	床直	8.6 4.3	28.82R	短径寛板腸状同丸造三角形形式。



第125図 26号住居跡実測図

26号住居跡 (写真図版35・74)

位置 J・K-35・36グリッド 方位N-75°-E

重複 25号住居・45号住居を切っている。

規模 東西3.5m 南北2.9m 東西に長い長方形。

壁高 25cm前後 ほぼ垂直に立ち上がる。

貯蔵穴 無し 柱穴 無し 周溝 無し

床面 暗褐色土に黄褐色土塊を含む土を踏み固めている。

掘形 北西・南東両隅は、砂礫層が露出しており、住居中央部では黄褐色土が露出している。住居中央部が若干窪むが、全体的にはフラット面に仕上げられている。

遺物 電周辺に須恵器環・椀、土師器甕片出土。

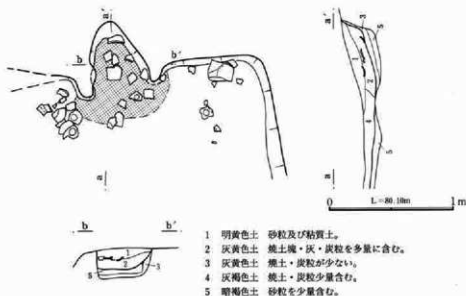
電

位置 東壁中央やや南

規模 焚口部幅40cm 燃烧部奥行き40cm・幅35cm・深さ25cm 煙道部は削平され不明。

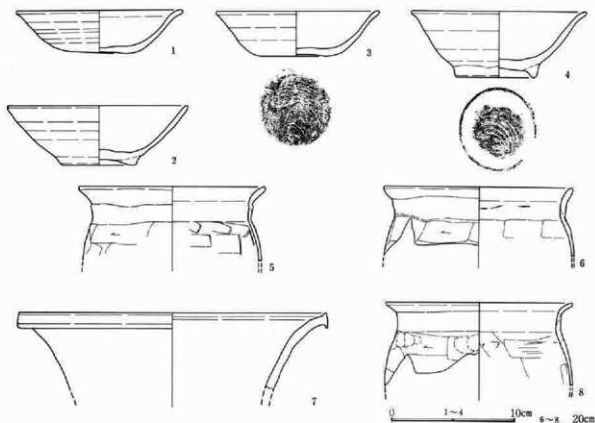
煙道部への立ち上がり18cm

構築 燃烧部は住居外にあり、焚口部に地山を掘り残した袖を使用している。火床面は焚口部より奥壁に向い徐々に上がる。



第126図 26号住居跡電実測図

第二章 上栗須遺跡



第127図 26号住居跡出土遺物実測図

26号住居出土遺物観察表

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	形状・調整の特徴
1	須恵器 坏	北東 +14	12.9 5.0 3.0 完形	1. 灰色 2. 砂粒粘土粒含む 3. 還元焰 軟質	口縁部外反、轆轤整形、表面摩耗。 回転未切り、未調整。
2	須恵器 椀	北東 +3	14.1 5.9 4.7 完形	1. 灰色 2. 砂粒粘土粒含む 3. 中性焰 軟質	轆轤整形、高台部貼り付け、表面摩耗。 底部回転未切り。
3	須恵器 坏	電前 +7	12.5 5.6 3.6 完形	1. 明黄褐色 2. 粘土粒含む 3. 酸化焰 良好	轆轤整形、腰部丸味もつ。 底部回転未切り。
4	須恵器 椀	北東 +9	13.6 6.2 5.2 完形	1. におい褐色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 良好	轆轤整形、高台部貼り付け後削で 底部回転未切り。
5	土師器 壺	北東 +14	19.5 - 7.8 ½	1. 褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口唇部横撫で、口縁部～頸部横撫で。 胴部指面圧痕有り、胴部上半横方向磨削有り。
6	土師器 壺	掘形 +2	19.8 - 7.3 ほぼ完形	1. におい褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口の字口縁、指面圧痕頸部に見られる。 胴部上半横方向磨削有り。
7	須恵器 壺	北東 +25	32.6 - 8.3 口縁部のみ	1. 灰色 2. 細砂粒含む 3. 還元焰 硬質	口縁部外反。 口唇部横撫で、直立。
8	土師器 壺	電内 +2	20.3 - 8.7 ½	1. 褐色 2. 細砂粒土粒含む 3. 酸化焰 良好	口の字口縁。 胴部横方向磨削有り。

27号住居跡 (写真図版36・74・75)

位置 I・J-49グリッド

規模 東西3.3m 南北3.2m 方形を呈する。

壁高 20cm前後 緩く立ち上がる。

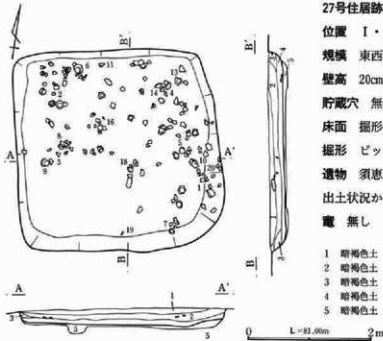
貯蔵穴 無し 柱穴 無し 周溝 無し

床面 掘形面の黄褐色土を踏み固めている。

掘形 ビット・土坑状凹凸見られる。

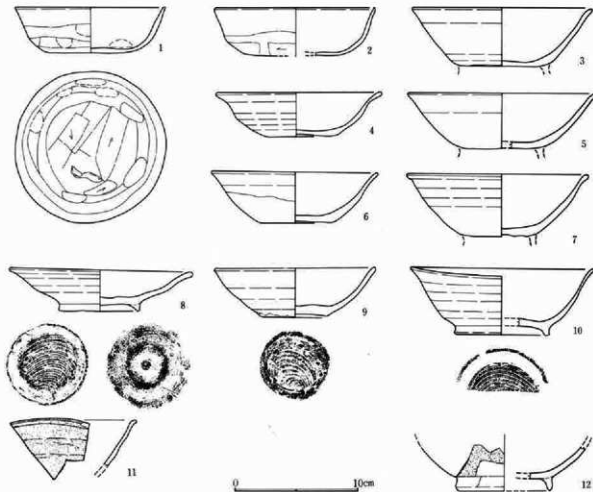
遺物 須恵器環・椀類の破片多量に出土しており、
出土状況から廃棄された遺物と考えられる。

竈 無し



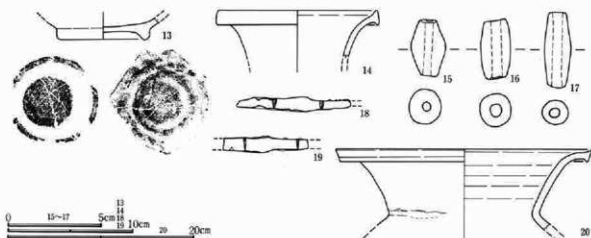
- 1 暗褐色土 炭土・炭を多く、As-Bを含む。
- 2 暗褐色土 土器片を多く含む。
- 3 暗褐色土 黄褐色土塊含む。
- 4 暗褐色土 黄褐色土塊やや多く含む。土器片含む。
- 5 暗褐色土 黄褐色土塊混じり。やや固く締まる。

第128図 27号住居跡実測図



第129図 27号住居跡出土遺物実測図(1)

第II章 上栗須遺跡



第130図 27号住居跡出土遺物実測図(2)

27号住居出土遺物観察表

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
1	土師器 鉢	南東 +5	11.8 6.0 3.6 完形	1. ぶい褐色 2. 細砂粘土粒 含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で、体部指痕圧痕有り。 底部平底、手持ち寛有り。
2	土師器 杯	北西隅 +14	12.8 6.0 3.8 片	1. ぶい褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で、口唇部内傾、底部平直厚削り。 指痕圧痕有り、内面撫で。
3	須恵器 杯	北西 +8	14.0 - 4.7 片	1. 紫黒色 2. 細砂粒含む 3. 還元焰 良好	高台部貼り付け。 底部回転糸切り。
4	須恵器 杯	北東 +9	13.1 3.5 5.5 片	1. 灰色 2. 細砂粘土粒含む 3. 還元焰 軟質	縦輪整形、縦輪目、口縁部外反。 底部右糸切り。
5	須恵器 碗	中央東 +1	14.8 - 4.4 片	1. ぶい褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 軟質	縦輪整形、口唇部横撫で、高台部貼り付け痕。 底部回転糸切り。
6	須恵器 杯	北西 +9	13.1 5.8 4.0 完形	1. 灰色 2. 砂粒含む 3. 還元焰 軟質	縦輪整形。 底部表面摩耗。
7	須恵器 碗	南東 +6	14.2 - 4.9 片	1. 黄褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	縦輪整形、高台部貼り付け痕。 底部回転糸切り。
8	須恵器 皿	北西 +6	14.4 6.2 3.3 片	1. 灰黄色 2. 小石含む 3. 還元焰 硬質	縦輪整形、高台部貼り付け、撫で。 縦輪目、底部回転糸切り。
9	須恵器 杯	西壁中央 +6	12.7 5.2 3.8 片	1. 灰色 2. 砂粒小石含む 3. 還元焰 硬質	縦輪整形。 底部右回転糸切り、未調整、内面同心円。
10	須恵器 碗	南東 +8	14.4 7.1 5.3 片	1. 黄灰色 2. 細砂粒含む 3. 還元焰 硬質	縦輪整形、高台部貼り付け無で。 ハの字に開く、底部回転糸切り。
11	灰輪陶器 碗	北西 -2	- - - 破片	1. 灰白色 2. 精選 3. 還元焰 硬質	縦輪整形、口唇部僅かに外反。 灰輪漬け掛け。
12	灰輪陶器 碗	北東 +3	- 7.2 3.5 底部～下部の片	1. 灰白色 2. 精選 3. 還元焰 硬質	重ね焼き痕、内面と接合部に見られる。 高台貼り付け、内面横撫で、灰輪漬け掛け。
13	須恵器 碗	北東隅 -	- - - 底部のみ	1. 灰色 2. 細砂粒含む 3. 還元焰 硬質	底部内外面×の線見られる。

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
14	須恵器 壺	北東 +10	16.9 - - 口縁部欠	1. 灰色 2. 細砂粒含む 3. 還元焰 硬質	口縁部外反、横溝で。
15	土製品 鉢	東壁際 -	3.0 1.8 - 一部欠損	1. 灰褐色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 良好	棒状工具、粘土巻き付け。
16	土製品 土鉢	中央 +1	3.0 1.6 - 完形	1. にぶい褐色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 良好	棒状工具、粘土巻き付け。 円筒型。
17	土製品 土鉢	覆土 -	4 1.4 - 完形	1. にぶい褐色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 良好	棒状工具、巻き付け。
18	刀子	中央	9.0 1.0 0.3	7.13#	身先端欠損。間は鋒部にあり、直角をなす。
19	刀子	南壁際	6.6 1.0 0.3	4.13#	胴部前後が残る。間は鋒部にあり、直角をなす。
20	須恵器 壺	南東 -2	27.4 - 8.0 口縁部欠	1. 灰白色 2. 砂粒含む 3. 還元焰 硬質	口縁部水平に開く。

26号住居跡（写真図版36・75・76・77・78）

位置 H・I-51グリッド 方位 N-73°E

重複 南壁を44号住居に切られている。

規模 東西5.5m 南北3.8m 東西に長い長方形。

壁高 75cm前後 壁上半は開き気味になるが、下半は垂直に立ち上がる。

貯蔵穴 無し 柱穴 無し 周溝 無し

床面 黄褐色土塊を含んだ褐色土を踏み固めている。電前は灰・焼土の混土見られ、堅く踏み固められている。

掘形 1m以上の不定形の土坑が多数検出された。

また、その他にも不規則な小ピットが検出された。

遺物 各壁よりに須恵器坏・椀類が、多数出土した。

特に西壁両隅寄りに多く出土した。

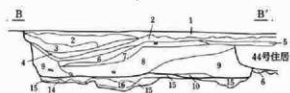
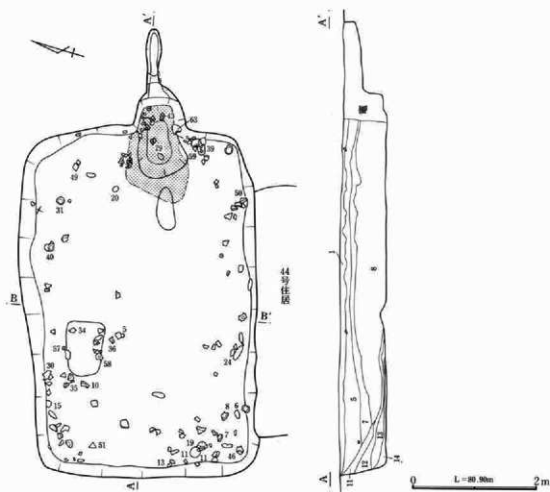
電

位置 東壁中央やや南より

規模 焚口部幅60cm 燃烧部奥行き30cm・幅32cm・深さ80cm 煙道部長さ1.1m・幅20cm

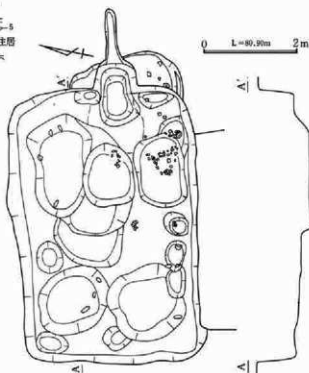
煙道部への立ち上がり40cm 垂直に立ち上がる。

構築 燃烧部は、住居外にあり袖を持たない。掘形は箱形を呈し、壁面は垂直に立ち上がる。壁面の焼土は、焚口部から煙道部に向い斜方向に焼けている。火床面は、床面より10cm程下がり、灰の堆積見られる。焚口部南壁には、35cm程の板状礎が立て掛けられた状態で出土しており、支脚または電袖石補強材と考えられる。煙道部は地山を方形に繰り抜き作られ、煙出し部は垂直に立ち上がる。燃烧部側壁にはやや掘り込まれ、傾斜を持って緩く立ち上がる。そこから須恵器坏出土。



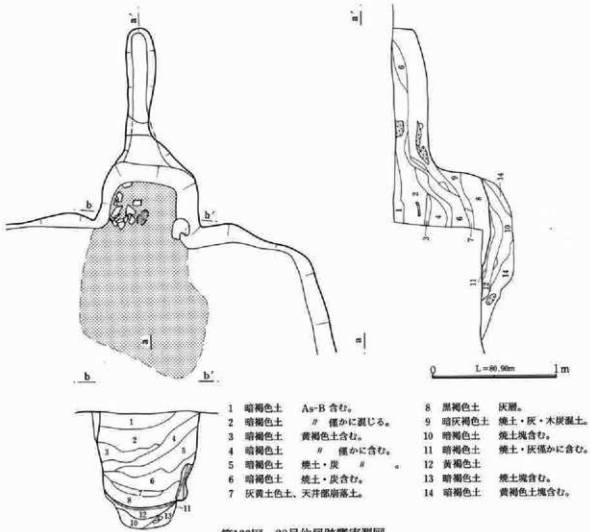
第131図 28号住居跡実測図

- | | | |
|----|-------|---------------------|
| 1 | 暗褐色土 | As・Bを多く含む。木炭・土器片含む。 |
| 2 | # | 木炭・焼土塊を含む。 |
| 3 | 黄褐色土 | |
| 4 | 暗褐色土 | 灰主体。 |
| 5 | # | 黄褐色土塊が斑点状に混じる。 |
| 6 | # | #・焼土・炭含む。 |
| 7 | # | 木炭・焼土塊・土器片含む。 |
| 8 | 暗灰褐色土 | 灰・木炭粒・黄褐色土塊含む。 |
| 9 | 暗褐色土 | |
| 10 | 暗灰褐色土 | 灰・焼土を多く含む。 |
| 11 | # | 木炭・焼土・土器片含む。 |
| 12 | # | 多量の黄褐色土塊含む。 |
| 13 | # | 灰主体。 |
| 14 | 灰褐色土 | 黄褐色土・木炭・焼土含む。 |
| 15 | # | 塊多く含む。 |
| 16 | 黄褐色土 | 灰褐色土塊含む。 |

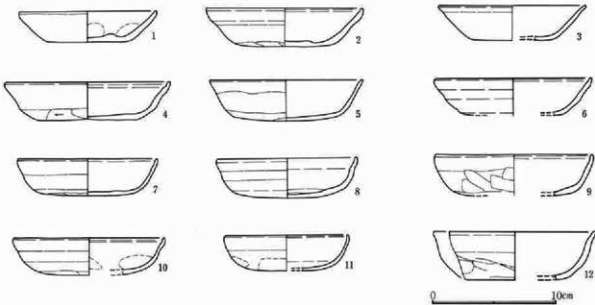


第132図 28号住居跡床下実測図

第1節 I区検出の遺構と遺物

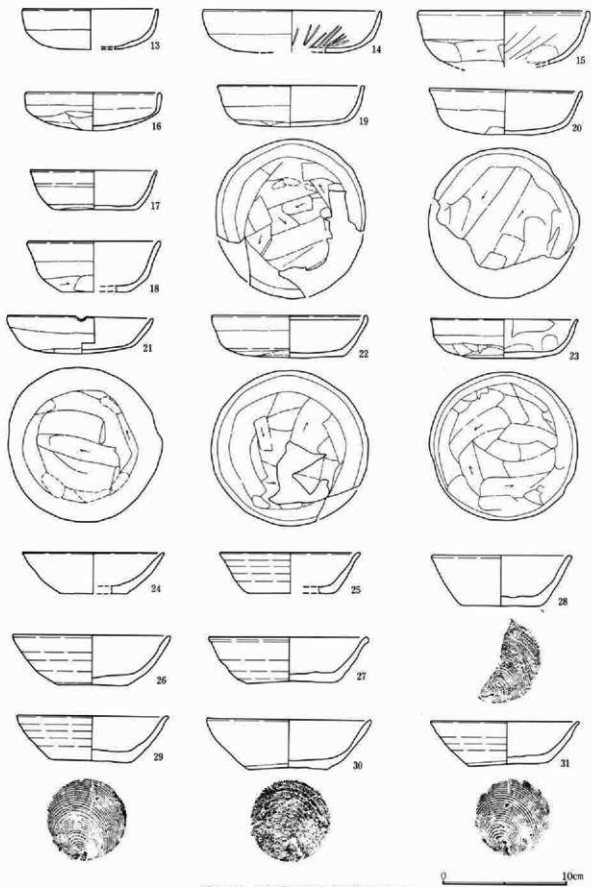


第133図 28号住居跡電氣実測図

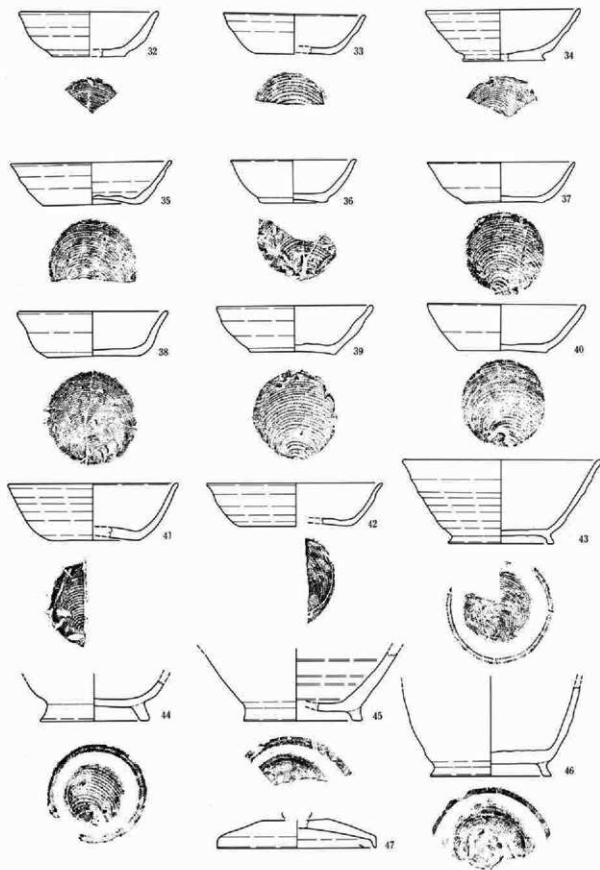


第134図 28号住居跡出土遺物実測図(1)

第二章 上栗須遺跡

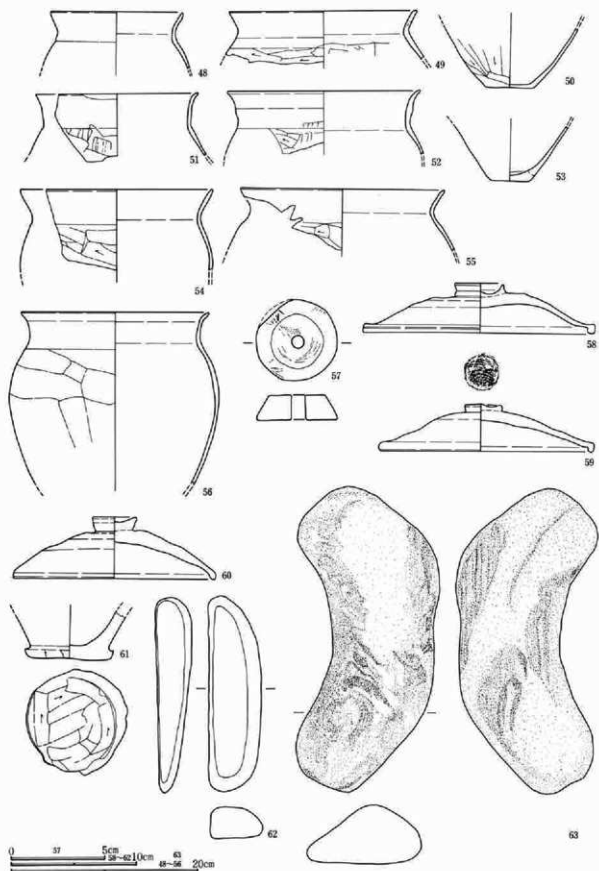


第135図 28号住居跡出土遺物実測図(2)



第136図 28号住居跡出土遺物実測図(3)

0 10cm



第137図 28号住居跡出土遺物実測図(4)

28号住居出土遺物観察表

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
1	土師器 甕	覆土	10.8 3.0 (2.4) ㄉ	1. 褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で、体部指摺圧痕有り。 底部手持り寛削り。内面図形に凹凸あり。
2	土師器 甕	南東 +5	12.3 - 3.0 ㄉ	1. におい褐色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で、口唇部内傾に折り曲げ。 体部指摺さえ、内面撫で、底部平底寛削り。
3	土師器 甕	覆土	11.5 - 2.8 ㄉ	1. におい褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で、体部無調整。 底部平底寛削り。内面撫で。
4	土師器 甕	覆土	12.4 - 2.9 ㄉ	1. 褐色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 良好	底部平底、口縁部横撫で、口唇部折り曲げ。 内面比線持つ、体部指摺圧痕有り。
5	土師器 甕	中央 +14	12.1 - 3.3 ㄉ	1. 褐色 2. 細砂粒黒色細砂粒 含む 3. 酸化焰 軟質	口縁部横撫で、体部指摺さえ、底部平底。 寛削り、内面比線通り真凹凸あり。
6	土師器 甕	覆土	12.3 - (2.9) ㄉ	1. 褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で、口唇部内傾、比線見られる。 体部手づくね、底部寛削り。
7	土師器 甕	南西隅 +15	11.2 - 2.9 ㄉ	1. 褐色 2. 砂粒含む。 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で、底部平底寛削り。 内面撫で。
8	土師器 甕	南西隅 +6	12.9 - 3.1 ㄉ	1. 褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部、口唇部撫でによりゆるい段あり。 口唇部僅かに内傾、体部指摺さえ。
9	土師器 甕	覆土	12.5 - (3.3) ㄉ	1. 褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で、口唇部僅かに内傾、内面比線返る。 体部無調整、底部平底手持り寛削り。
10	土師器 甕	北西 +7	11.9 - 2.9 ㄉ	1. におい褐色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で、口唇部僅かに内傾、底部平底。 体部指摺さえ、無調整、内面指摺圧痕有り。
11	土師器 甕	南西 +31	9.6 - (2.8) ㄉ	1. 褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で、体部無調整。 底部平底寛削り。
12	土師器 甕	覆土	14.7 - 3.8 ㄉ	1. 褐色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で、口唇部内傾比線返る。 体部一部未調整、平底気味、寛削り。
13	土師器 甕	南西 +29	11.2 - 3.3 ㄉ	1. におい褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で、体部指摺さえ。 底部平底気味、内面撫で。
14	土師器 甕	覆土	14.1 - (3.3) ㄉ	1. 褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で、内面撫で、放射状暗紋 底部寛削り。
15	土師器 甕	北西 +26	13.3 - (4.2) ㄉ	1. 褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で、口唇部折り曲げ、内面比線返る。 体部～底部寛削り。放射状暗紋。
16	土師器 甕	覆土	10.6 - 3.0 ㄉ	1. 明赤褐色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で、体部指摺さえ、底部寛削り。 内面撫で、平滑。
17	土師器 甕	覆土	11.5 - (3.4) ㄉ	1. におい褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰、良好	口縁部横撫で、体部外面指摺さえ、内面横撫で。 底部平底、外面寛削り、内面比線通り真凹凸あり。
18	土師器 甕	覆土	11.0 - (5.1) ㄉ	1. におい褐色 2. 細砂粒僅かに 含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で、胴部無調整部分、下半分寛削り。 内面放射状暗紋、底部寛削り。
19	土師器 甕	南西	11.3 8.0 3.2 ほぼ実形	1. におい褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で、体部指摺さえ、底部平底寛削り。 内面比線通り真凹凸あり。

第2章 上栗須遺跡

番号	器 種 形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整 形 ・ 調 整 の 特 徴
20	土 部 器 環	北東 +12	11.9 - (3.6) 片	1. 橙色 2. 細砂粒僅かに含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で、口唇部僅かに折り曲げ。 体部指押さえ、内面撫で、底部手持ち蓋削り。
21	土 部 器 環	南東 +28	11.3 - (2.9) 片口をもつ	1. 橙色 2. 細砂粒僅かに含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で、体部無調整、底部蓋削り。 片口は、棒状工具で押出す。
22	土 部 器 環	南東 +9	12.2 - 3.4 完形	1. 橙色 2. 細砂粒僅かに含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で、口唇部内傾、体部指押さえ。 内面撫で、底部平底蓋削り、内面僅かに紐造り痕
23	土 部 器 環	南東隅 +18	12.6 - 3.1 完形	1. 橙色 2. 細砂粒僅かに含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で、一部内面煤付着、体部指押さえ。 底部平底、蓋削り。
24	須 恵 器 環	南西 +4	11.1 (2.7)(3.2) 片	1. 灰色 2. 精選 3. 還元焰 硬質	縦軸整形、器内厚い。 底部回転未切り。
25	須 恵 器 環	南東 +15	10.8 - 3.2 片	1. 灰色 2. 細砂粒含む 3. 還元焰 硬質	縦軸整形。 底部回転未切り。
26	須 恵 器 環	覆土	12.5 5.6 4.0 片	1. 黄灰色 2. 砂粒含む 3. 中性焰 やや軟質	縦軸整形。 底部回転未切り、ゆるい回転？
27	須 恵 器 環	北西隅 +10	12.4 6.9 3.5 片	1. 灰白色 2. 精選 3. 還元焰 良質	縦軸整形、口縁部外反。 底部右回転未切り。
28	須 恵 器 環	南西 -49	12.2 6.0 4.0 片	1. 灰色 2. 細砂粒含む 3. 還元焰 硬質	縦軸整形。 底部未切り。
29	須 恵 器 環	覆土 -1	11.7 6.5 3.5 ほぼ完形	1. 灰白色 2. 精選 3. 還元焰 硬質	縦軸整形、内面墨伏付着物あり。 底部右回転未切り、内面滑き。
30	須 恵 器 環	覆土	12.9 6.4 3.9 完形	1. 浅黄色 2. 砂粒含む 3. 還元焰 硬質	縦軸整形。 底部右回転未切り。
31	須 恵 器 環	北東 +14	11.7 6.4 3.4 完形	1. 灰白色 2. 精選 3. 還元焰 硬質	縦軸整形。 底部回転未切り、内面滑き痕。
32	須 恵 器 環	覆土	10.0 6.0 3.5 片	1. 暗緑灰色 2. 精選 3. 還元焰 硬質	縦軸整形。 底部回転未切り。
33	須 恵 器 環	覆土	11.0 (6.2)(3.2) 片	1. 明赤褐色 2. 砂粒・片岩を 含む 3. 酸化焰、良好	縦軸整形。 底部回転未切り。
34	須 恵 器 環	北西 +28	12.0 (7.2)(4.0) 片	1. 灰色 2. 細砂粒僅かに含む 3. 還元焰 硬質	縦軸整形、縦軸目、体部と底部境段あり。 底部回転未切り。
35	須 恵 器 環	北西 +28	12.8 (3.6) 3.3 片	1. 灰色 2. 細砂粒含む 3. 還元焰 硬質	縦軸整形、底部回転未切り、未調整。器壁、 薄い、同心円文。
36	須 恵 器 環	中央 +54	11.7 7.4 3.4 片	1. 灰色 2. 細砂粒含む 3. 還元焰 硬質	縦軸整形。 底部回転未切り。
37	須 恵 器 環	覆土	11.6 6.3 3.2 ほぼ完形	1. 灰白色 2. 砂粒含む 3. 還元焰 硬質	縦軸整形。 底部右回転未切り。
38	須 恵 器 環	南東 -17	11.8 7.2 3.6 片	1. 緑灰色 2. 砂粒含む。 3. 還元焰 硬質	縦軸整形。 底部右回転未切り。

第1節 Ⅰ区検出の遺構と遺物

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
39	須恵器 環	龍前 +2	12.1 6.8 3.1 ほぼ完形	1. 灰白色 2. 細砂粒含む。 3. 還元焰 硬質	輪縁整形。 底部回転未切り、内面同心円。
40	須恵器 環	北東 +24	12.2 7.1 3.7 ほぼ完形	1. 浅黄色 2. 砂粒含む 3. 還元焰 硬質	輪縁整形。 底部右回転未切り。
41	須恵器 環	南西 -2	13.2 (3.5) (4.5) ㄥ	1. 灰色 2. 細砂粒含む 3. 還元焰 硬質	輪縁整形。 底部回転未切り。
42	須恵器 環	北東 +9	13.9 (4.5) (3.4) ㄥ	1. 灰色 2. 砂粒含む 3. 還元焰 硬質	輪縁整形、口縁部外反、 底部回転未切り。
43	須恵器 椀	龍内 +45	15.3 8.3 6.5 ㄥ	1. オリーブ 2. 細砂粒含む 3. 還元焰 硬質	輪縁整形、高台部貼付け、無で、底部回転未切りハ の字に閉き内面内西、接地部平坦。
44	須恵器 椀	北東 +6	- 7.4 (3.1) ㄥ	1. 暗緑灰色 2. 細砂粒含む 3. 還元焰 硬質	輪縁整形、高台部貼付け、ハの字に閉き内面内西端 部平坦。
45	須恵器 椀	覆土	- 9.4 (5.2) ㄥ	1. 灰オリーブ 2. 精選 3. 還元焰 硬質	輪縁整形、高台部貼付け、内外面接地部無で。 底部寛無で。
46	須恵器 椀	北西隅 +17	- 8.9 7.0 ㄥ	1. 灰色 2. 砂粒僅かに含む 3. 還元焰 硬質	輪縁整形、高台部貼り付け、横撫で、接地部平坦。 底部回転未切り、内面渦巻き痕。
47	須恵器 蓋	南東 -	12.5 - (2.2) ㄥ	1. 灰色 2. 細砂粒小石含む 3. 還元焰 硬質	頂部回転未切り。 端部折り返し、直立。
48	土師器 壺	覆土	14.0 - 5.8 ㄥ	1. におい褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部～肩部にかけ横撫で、内面無で。 胴上部横方向寛削り。
49	土師器 壺	北東 +20	22.2 - (5.3) ㄥ	1. 明赤褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部外反、頸部横方向撫で。 胴上部横方向寛削り、内面寛無で。
50	土師器 壺	南東 +2	- (5.0) - ㄥ	1. におい褐色 2. 砂粒粘土含 む 3. 酸化焰 良好	胴上部縦方向寛削り。 底部寛削り、内面寛無で。
51	土師器 壺	北西隅 +22	- - (6.3) ㄥ	1. 明赤褐色 2. 細砂粒僅かに 含む 3. 酸化焰 良好	口縁部外反、頸部平坦面横撫で。 胴上部横方向寛削り。
52	土師器 壺	覆土	26.0 - 6.7 ㄥ	1. 明赤褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部外反、口縁部～頸部二段の横撫で。 胴上部横方向寛削り。
53	土師器 壺	覆土	- 4.1 - ㄥ	1. 明赤褐色 2. 砂粒粘土含む 3. 酸化焰 良好	胴上部縦方向寛削り。 底部寛削り、内面寛無で。
54	土師器 壺	南西 +23	24.0 - (8.5) ㄥ	1. 明褐色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。 胴上部横～斜方向寛削り。
55	土師器 壺	南東 +2	21.8 - - ㄥ	1. におい褐色 2. 細砂粒土粒 僅かに含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。 胴上部横方向寛削り、内面無で。
56	土師器 壺	北東 +10	20.0 - 18.2 底部破損	1. 褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部短く外反、コ字口縁、頸部横撫で直立。 指頭汪直有り、胴上部横方向寛削り。
57	紡錘車	北西+19	4.4 3.0 1.3	333K	蛇紋岩
58	須恵器 蓋	北西 床直	17.9 - 3.9 完形	1. 灰色 2. 精選 3. 還元焰 硬質	揃まみ部貼り付け、側縁部回転未削り。 天井部外面回転未削り痕。

番号	器 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
59	須恵器 蓋	甕前 +7	17.0 — (3.7) % ₅	1. 灰色 2. 砂粒含む 3. 還元焰 硬質	天井部狭まみ接地区、未切り取残る。 頂部回転痕有り、端部曲り返し。
60	須恵器 蓋	中央西 床直	14.7 — 4.9 % ₅	1. オリーブ 2. 細砂粒僅かに 含む 3. 還元焰 硬質	ボタン状狭み、天井部肥厚。 内面渦巻き文様、頂部縁部回転痕有り。
61	須恵器 鉢	南西 +19	— 8.8 4.6 % ₅	1. 灰色 2. 砂粒含む 3. 還元焰 硬質	横撫で、内面摩耗、底部蹴削り。 側面蹴削り。
62	磨り石	覆土	29.7 5.5 33.6 687.9g		砂岩
63	石	甕内	32.2 11.0 6.2 3,640g		粗粒安山岩

29号住居跡 (写真図版37・79)

位置 H・I-44グリッド 方位 N-65°-E

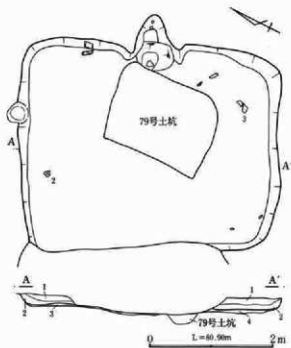
重複 79号土坑・9号溝に切られている。

規模 東西3.2m 南北4.2m 南北に長い長方形

壁高 10cm前後 垂直に立ち上がる。

貯蔵穴 無し 柱穴 無し 周溝 無し

床面 褐色土と黄褐色土との混土を踏み固めている。



掘形 各壁際が掘り窪められている。

遺物 須恵器・瓦類の破片出土。

電

位置 東壁中央

規模 焚口部幅60cm 燃焼部奥行き50cm・幅50cm・

深さ25cm 煙道部削平され不明。

構築 燃焼部は壁外にあり、焚口部に地山褐色土の

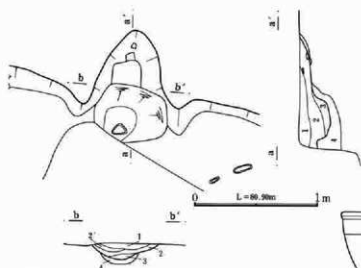
掘り残し袖を持つ。火床面は床面と同レベルである。

焚口部には、灰の掻き出しによる10cm程の窪みがある。

- 1 暗褐色土 砂粒・黄褐色土粒・炭粒少量含む。
- 2 褐色土 黄褐色土塊・焼土・炭粒を多く含む。
- 3 灰白色礫層 小石主体。
- 3' 灰白色砂礫層 小石・砂混じり。
- 4 暗黄土色土 小石・砂混じり。黄褐色土塊・褐色土塊混じり。

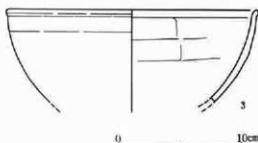
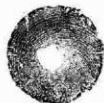
第138図 29号住居跡実測図

第1節 I区検出の遺構と遺物



- 1 暗褐色土 砂粒多量、炭粒少量含む。
 2 # 砂粒・焼土・炭粒を含む。
 2' # 焼土粒をやや多く含む。
 3 # 焼土・炭粒を含む。
 4 # 小石種かに含む。
 5 灰白色砂礫層 石を含む。

第139図 29号住居跡実測図



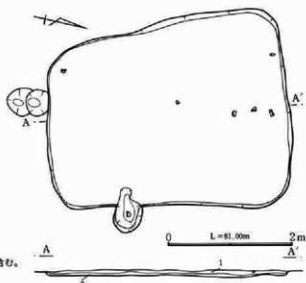
第140図 29号住居跡出土遺物実測図

29号住居出土遺物観察表

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
1	灰釉陶器 碗	覆土	— 6.4 — 底部高台残	1. 灰色 2. 網漚 3. 緻密	高台部貼り付け。
2	須恵器 坏	北西 +3	— 7.8 — 底部のみ	1. 灰色 2. 白色砂粒含む 3. 還元焰 硬質	底部中央線溝、右回転未切り。
3	土師器 坏	南東 床直	20.0 — — 残	1. におい褐色 2. 細砂含む 3. 酸化焰 良好	口縁部模撫で、口唇部折り返し。 内面撫で。

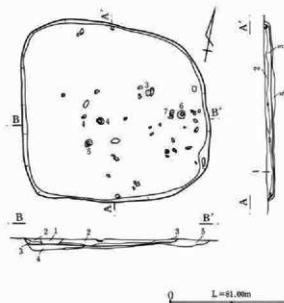
30号住居跡 (写真図版37)

位置 J・K-48グリッド 方位 N-71°-E
 規模 東西2.8m 南北3.8m 南北に長い長方形
 壁高 10cm 壁面には褐色土の堆積見られる。
 貯蔵穴 無し 柱穴 無し 周溝 無し
 床面 黄褐色土・褐色土の塊凝じる。
 掘形 緩い凹凸あり。
 遺物 土師器の小片出土。
 竈 無し。



- 1 暗褐色土 黄褐色土塊・木炭粒含む。
 2 # # 粘土塊含む。

第141図 30号住居跡実測図



第142図 31号住居跡実測図

31号住居跡 (写真図版37・79)

位置 J・K-47グリッド

規模 東西2.9m 南北2.9m 隅丸方形

壁高 10cm前後

貯蔵穴 無し 柱穴 無し 周溝 無し

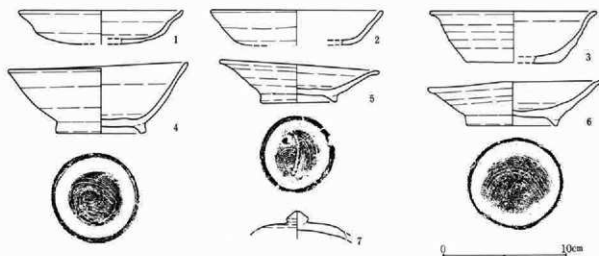
床面 地山黄褐色土を踏み固めている。

掘形 住居東側で径30数cm、深さ3cm程のピット検出した。

遺物 須恵器杯・碗・蓋、土師器杯の破片出土。

竈 無し

- 1 暗褐色土 焼土塊・木炭粒を多量に含む。
- 2 黄褐色土塊含む。
- 3 黄褐色土塊多く含む。
- 4 土器片・焼土粒を含む。

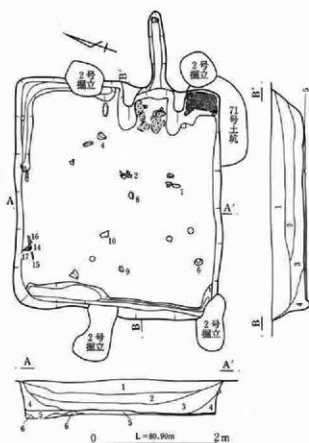


第143図 31号住居跡出土遺物実測図

31号住居出土遺物観察表

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
1	土師器 杯	覆土	13.1 — 2.6 1/2	1. 濃い褐色 2. 細砂粘土粒 含む 3. 酸化焰 良好	口縁部外反、口唇部内傾、内面撫で。 底部鋭削り、平底気味。
2	土師器 杯	覆土	13.7 — 2.8 1/2	1. 濃い赤褐色 2. 細砂粘土 粒僅かに含む 3. 還元焰 硬質	口縁部横撫で、体部押平きえ、底部平底気味。 底部鋭削り。
3	須恵器 杯	北東 +45	13.4 7.5 4.0 1/2	1. 黄灰色 2. 細砂粒含む 3. 還元焰 軟質	楕圓形、口縁部外反。 底部回転糸切り無調整。
4	須恵器 碗	中央 床直	14.4 6.8 5.3 1/2	1. 灰白色 2. 細砂粒僅かに含 む 3. 還元焰 硬質	楕圓形、高台部貼り付け、横撫で。 底部回転糸切り無調整。

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
5	須恵器 甕	南西 +5	12.8 3.0 6.2 欠	1. 肌色 2. 細砂粘土胎土に 含む 3. 酸化焰 良好	輪縁整形、口縁部外反、端部水平に開く。 輪縁目明瞭、高台張り付け、横撫で。
6	須恵器 甕	北東 +9	13.8 7.2 3.5 欠	1. 黒褐色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 軟質	輪縁整形、高台張り付け、横撫で。 底部回転糸切り無調整。
7	須恵器 蓋	中央東 床直	— — — 揃まり部小片	1. 黄灰色 2. 細砂粒含む 3. 還元焰 硬質	宝珠状揃み、頂部削り。



第144図 32号住居跡実測図

- 1 暗褐色土 土器片多い。
- 2 褐色土 黄褐色塊含む。
- 3 褐色土 黄褐色塊多量に含む。
- 4 暗褐色土
- 5 黄褐色土 黄褐色土塊・踏み固められている。
- 6 黄土色土塊主体

32号住居跡 (写真図版37・79・80)

位置 I・J-47・48グリッド 方位N-72°-E

重複 2号掘立柱建物・71号土坑に切られる。

規模 東西3.7m 南北3.3m 東西に長い長方形。
壁高 50cm前後 ほぼ垂直に立ち上がる。

貯蔵穴 無し 柱穴 無し

周溝 北東壁下と西壁下に上端6cm、深さ3cmの周溝巡る。

床面 暗黄褐色土に黄褐色土・褐色土の混土を踏み固められている。

掘形 多少の凹凸は有るが、全体的にフラットな面に仕上げられている。南壁中央下に50cm×60cm・深さ9cm程のビットを検出した。

遺物 須恵器坏・椀、土師器坏、北壁西に鉄器出土。

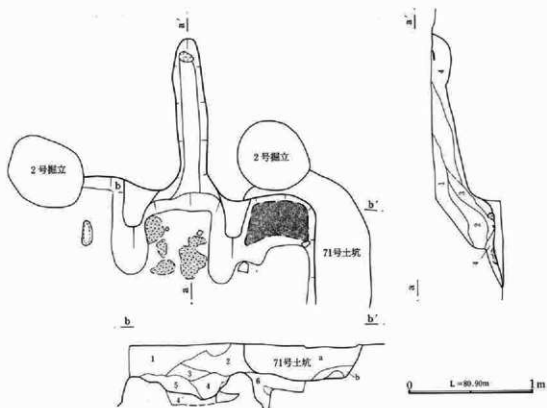
竈

位置 住居中央南より

規模 焚口部幅50cm 燃烧部奥行き60cm・幅60cm・
深さ45cm 煙道部長さ1.1m・幅20cm

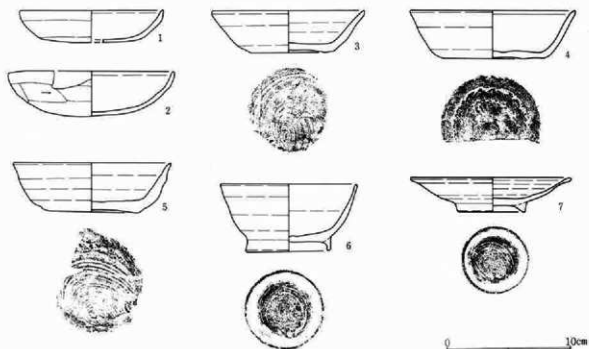
煙道部への立ち上がり17cm 垂直気味に立ち上がる。

構築 燃烧部は住居内に有り、地山掘り残しの袖をもつ。袖内壁はほぼ垂直に立ち上がり、赤茶色に焼土化している。燃烧部内に暗黄褐色土や焼土塊等が多量に含まれ、竈の破壊を伺わせる。火床面は床面よりやや高く作られている。

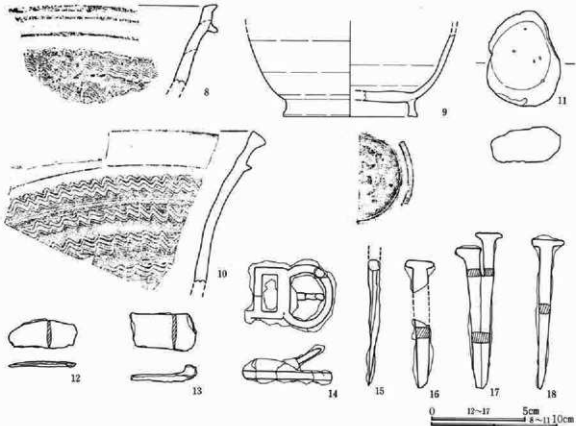


- 電
- | | | |
|--------------------|----------------------|-------------------|
| 1 暗褐色土 黄褐色土含む。 | 4 灰褐色土 黄褐色土塊・焼土塊混じり。 | 71号土坑土層 |
| 2 暗褐色土 黄褐色土塊含む。 | 4' 灰褐色土 黄褐色土塊・焼土塊含む。 | a 暗褐色土 黄褐色土塊混じり。 |
| 3 暗褐色土 炭・焼土塊のみに含む。 | 6 黄褐色土 | b 暗褐色土 黄褐色土僅かに含む。 |
| | 6 暗褐色土 灰色砂粒混じり。 | |

第145図 32号住居跡電実測図



第146図 32号住居跡出土遺物実測図(1)



第147図 32号住居跡出土遺物実測図(2)

32号住居出土遺物観察表

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
1	土器器 杯	南東 +6	10.3 — 2.5 ½	1. 橙色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 軟質	口縁部横溝で、体部調整。 底部平底范削り。
2	土器器 杯	中央	13.0 — 3.6	1. 橙色 2. 細砂黒色粒僅かに 含む 3. 酸化焰 軟質	口縁部内湾気味に直立、横溝で。 体部～底部范削り
3	須恵器 杯	覆土	12.0 6.1 3.3 ほぼ完形	1. 灰白色 2. 僅かに白色細砂 粒含む 3. 還元焰 硬質	体部直線に開く、横溝整形。 底部右回転糸切り無調整。
4	須恵器 杯	中央西	12.9 7.9 3.8 ½	1. 灰白色 2. 精選 3. 還元焰 硬質	横溝整形。 底部回転范切り難し。
5	須恵器 杯	覆土	12.4 3.9 7.0 ½	1. 灰白色 2. 細砂粒含む 3. 還元焰 硬質	横溝整形、底部上部調整。 底部左回転糸切り無調整。
6	須恵器 碗	南西 +3	10.8 6.4 5.3 ½	1. 黒褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰、良好	横溝整形、体部直線的に開く、高台部貼り付け。 内湾気味に僅かに開く、底部調整。
7	須恵器 皿	覆土	12.5 5.3 2.7 底部、口縁部僅か	1. 灰白色 2. 黒色細砂粒含む 3. 還元焰 軟質	体部僅かに内湾、口唇部外反、高台部貼り付け。 底部回転糸切り無調整。
8	須恵器 壺	中央 +26	— — — 口縁部破片	1. 灰色 2. 細砂粒含む 3. 還元焰 硬質	口縁部横溝で後披状文、口唇部内湾。 端部折り返し、断面三角形、尖帯張り付け。
9	須恵器 碗	西中央 +39	— 10.5 6.6 ½	1. 灰色 2. 白色細砂粒僅かに 含む 3. 還元焰 硬質	横溝整形、高台部貼り付け、ハの字に開き端部肥厚。 接地部平坦面で、底部回転范切り無調整。

第11章 上栗須遺跡

番号	器種器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
10	須恵器 壺	北西	- - - 口縁部破片	1. 灰色 2. 白色細砂粒含む 3. 還元焰 硬質	口縁部外反、口唇部尖帯跡まみ出し? 断面三角形。 内面自然釉、波状文全面施文後、横溝で。
11	鎌	南東	10.1 7.1 3.7		角閃石
12	鎌?	覆土	5.5 2.4 0.3 6.46#		刀部直線、鋒部湾曲。
13	鎌	覆土	5.4 3.1 0.3 20.55#		先端部を欠き、基端部は折り返される。
14	鉄器	北西 床直	7.1 5.6 1.0 69.68#		棒状止め金具。円形の紐通し。
15	釘	覆土	6.6 15.25#		棒状鉄製品。両端欠損。螺旋状。
16	釘	覆土	5.3 0.8 0.7 69.68#		頭部平坦、断面方形。
17	釘	北西 +3.5	12.0 0.7 0.6 60.89#		2本密着、完存。頭部ほぼ円形。打ち潰し。
18	釘	北西 床直	12.1 0.7 0.6 30.60#		完存。頭部隅丸方形。打ち潰し。身断面方形。

33号住居跡 (写真図版38)

位置 J-48グリッド

規模 東西1.9m 南北1.8m 隅丸方形

壁高 5cm前後

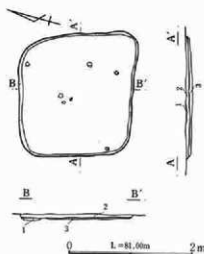
貯蔵穴 無し 柱穴 無し 周溝 無し

床面 掘形面を踏みならしている。

掘形 中央部に連蹄状にピット2個検出。

遺物 須恵器・土師器の破片6点出土。

竈 無し



- 1 黒褐色土 僅かに白色粒石含む。
- 2 褐色土 焼土粒含む。
- 3 褐色土 焼土粒混土層。

第148図 33号住居跡実測図

34号住居跡 (写真図版38・80)

位置 J・K-49グリッド

規模 東西1.2m 南北1.2m 方形を呈する。

壁高 8cm前後

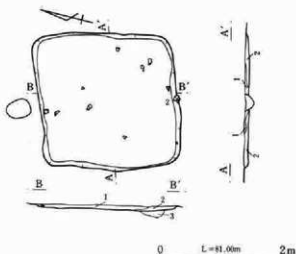
貯蔵穴 無し 柱穴 無し 周溝 無し

床面 地山を踏みならしている。

掘形 フラットな面に仕上げられている。

遺物 土師器壺・台付壺・坏等の破片出土。

竈 無し



- 1 黒褐色土 As-B含む。
- 2 褐色土 As-B含む。
- 3 暗褐色土 黄土色土塊・粒・褐色土塊含む。

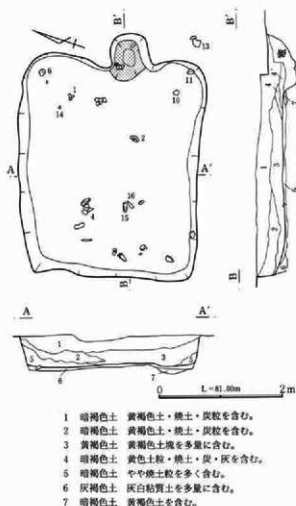
第149図 34号住居跡実測図



第150図 34号住居跡出土遺物実測図

34号住居出土遺物観察表

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
1	土師器 壺	甕形	12.0 — — 小破片	1. におい赤褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部潰断で。 胴上部横方向瓦削り。
2	土師器 台付壺	南西壁 +4 脚部ほぼ完形	— 11 —	1. 明赤褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	接合部潰断で(棒状工具?) 胴部縦方向瓦削り、内面磨面で。
3	灰釉陶器 —	掘形 —	— — — 破片	1. 灰白色 2. 精選 3. 還元焰 硬質	繊細整形



第151図 35号住居跡実測図

- 1 暗褐色土 黄褐色土・焼土・灰粒を含む。
- 2 暗褐色土 黄褐色土・焼土・灰粒を含む。
- 3 黄褐色土 黄褐色土灰を多量に含む。
- 4 暗褐色土 黄色土粒・焼土・灰・灰を含む。
- 5 暗褐色土 やや焼土粒を多く含む。
- 6 灰褐色土 灰白粘質土を多量に含む。
- 7 暗褐色土 黄褐色土を含む。

35号住居跡 (写真図版38・80・81)

位置 J-46グリッド 方位 N-69°-E

重複 36号住居に、東壁及び竈を切られている。53号土坑に切られている。

規模 東西3.5m 南北2.9m 東西に長い長方形。

壁高 53cm前後 ほぼ垂直に立ち上がる。

貯蔵穴 無し 柱穴 無し 周溝 無し

床面 地山褐色土・黄褐色土の塊を踏み固め、フラットな面に仕上げている。

掘形 各壁際は掘り込まれ低くなっており、竈前は掘り込まれず高く残る。

遺物 西壁寄りに、須恵器杯・椀、鉄器出土。東壁寄りに、土師器杯・壺出土。

竈

位置 東壁中央僅かに南より

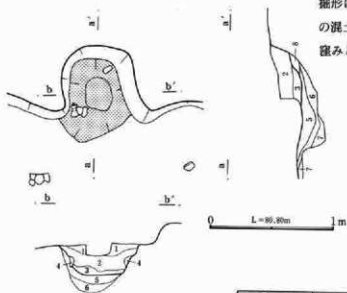
規模 焚口幅50cm 燃烧部奥行き50cm・幅40cm・

深さ45cm 煙道部は36号住居により切れ不明

煙道部への立ち上がり23cm やや斜めに立ち上がる。

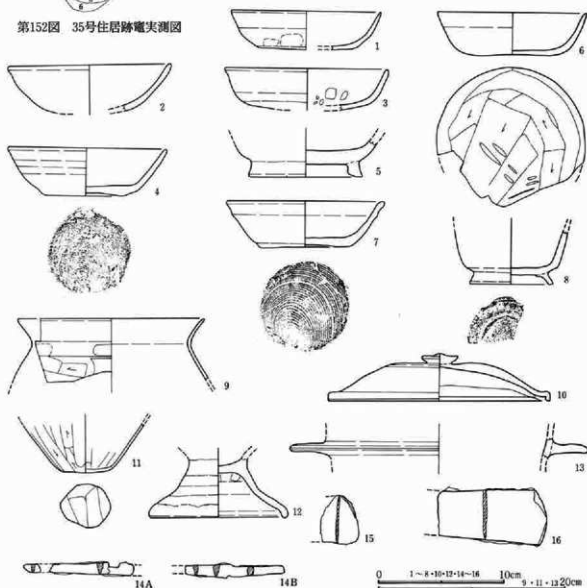
構築 燃烧部は住居外にあり、袖をもつ。袖は地山を僅かに掘り残り使用している。壁面は赤茶色に焼けている。火床面は床面よりやや高い。掘形は隅丸方形を呈し、壁面は緩く立ち上がる。また火床面の

掘形には、床面より10cmほど低く焼土・灰・炭化物の混土層の堆積見られ、灰の掻き出しによりできた窪みと考えられる。



- 1 暗褐色土 黄色土粒・炭粒少量含む。
- 2 〃 焼土・炭粒を多く含む。
- 3 青灰色土 灰の純層。
- 4 赤茶色土 地山がやや残っている。
- 5 灰褐色土 灰・焼土・炭粒の混土。
- 6 褐色土 黄褐色土に焼土・炭粒を含む。
- 7 暗褐色土 灰褐色砂粒を多く含む。
- 8 褐色土 焼土・炭粒を含む。

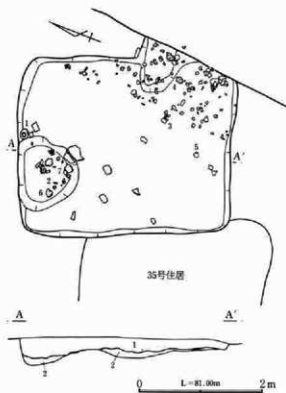
第152図 35号住居跡竈実測図



第153図 35号住居跡出土遺物実測図

35号住居出土遺物観察表

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
1	土器 杯	北東 -1	11.8 - 3.0 ㄗ	1. 明赤褐色 2. 細砂粒僅かに含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で、体部指頭圧痕有り、内面撫で。底部窪削り。
2	土器 杯	中央 -3	13.0 - - 口縁部ㄗ	1. にぶい橙色 2. 細砂粒僅かに含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で、体部窪削り。内面撫で。
3	土器 杯	覆土	12.8 - - ㄗ	1. にぶい赤褐色 2. 内面保付層 黒色 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で、体部指頭圧痕有り。底部窪削り。
4	須恵器 杯	中央西	12.0 6.2 4 ㄗ	1. にぶい褐色 2. 細砂粒僅かに含む 3. 還元焰 硬質	横紐整形。底部右回転糸切り。
5	須恵器 碗	南西 +10	- 9.0 - 底部のみ	1. 明褐色 2. 細砂粒含む 3. 還元焰 硬質	底部二重底。肥厚高台部貼り付け。
6	土器 杯	北東隅 +11	11.8 7.0 3.3 ㄗ	1. 明赤褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で、体部指押さえ、内面横撫で。底部、不定方向、窪削り。
7	須恵器 杯	南西 -1	12.2 7.4 3.6 底部残、口縁部ㄗ	1. 灰色 2. 精選 3. 還元焰 硬質	横紐整形。底部回転糸切り。
8	須恵器 碗	南西 床直	- (6.6) - ㄗ	1. 褐灰色 2. 細砂粒含む 3. 還元焰 硬質	横紐整形、高台部貼り付け。横撫で、接地部撫で、端部鋭い。
9	土器 壺	南東隅 +2	19.8 - - 口縁部～頸部破片	1. 褐灰色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 軟質	口縁部横撫で。胴部横方向窪削り。
10	須恵器 蓋	南東 -11	17.5 2.8 3.2 ㄗ	1. 褐灰色 2. 砂粒僅かに含む 3. 還元焰 硬質	横紐整形、頂部回転窪削り、横まみ部窪削り。端部折り返し。
11	土器 壺	南東隅	- 5.3 - 底部のみ	1. 褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	体部窪削り、内面横撫で。底部不定方向窪削り。
12	土器 台付壺	覆土	- (10.0) - ㄗ	1. 橙色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 良好	撫で。頸部内西。
13	須恵器 羽釜	南東 +41	- - - 胴一部	1. にぶい橙色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	鉀張り付け、横撫で。
14A	刀子	床直	8.8 0.4 0.9 5.14ㄗ		刀子、切先部Bと同一個体?
14B	刀子	床直	7.9 0.5 1.1 7.82ㄗ		両側の茎を持つ刀子、切先部欠失。
15	鉄 鎌	床直	3.0 0.2 3.8 9.37ㄗ		基部部、折り返し。
16	鉄 鎌	覆土	8.8 4.6 45.97ㄗ		基部部、折り返し。刃部直縁。



- 1 暗褐色土 黄褐色土粒・焼土・炭粒少量含む。
 2 # # 多量・焼土・炭粒少量含む。

第154図 36号住居跡実測図

36号住居跡 (写真図版38・39・81)

位置 I・J-46グリッド 方位 N-69°-E

重複 35号住居を切り水道本管埋設により切られる。

規模 東西2.8m 南北3.4m 南北に長い長方形

壁高 17cm前後 ほぼ垂直に立ち上がる。

貯蔵穴 北西隅に80×120cm・深さ30cmの不正円形の土坑があり、多量の土器が出土している。

柱穴 無し 周溝 無し

床面 地山褐色土・黄褐色土塊の混土を踏み固めている。

掘形 住居中央部に土坑状の掘り込みが見られる。

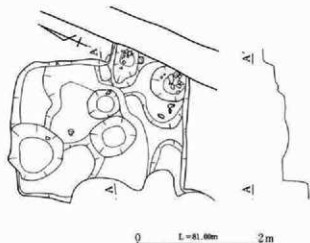
遺物 電周辺及び貯蔵穴周辺から土師器・須恵器出土。

竈

位置 東壁中央南より

規模 焚口部幅60cm 燃烧部奥行き不明・幅50cm・深さ25cm 煙道部掘削

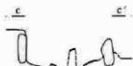
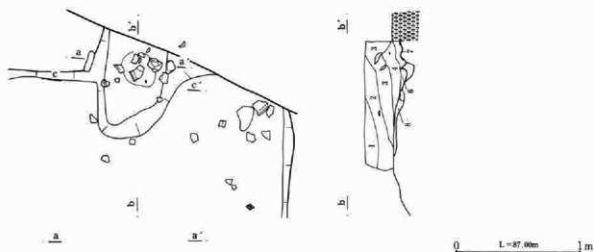
構築 燃烧部は壁外に作られ、袖をもたない。焚口部には25cm程の河原石を利用し袖石としている。



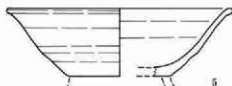
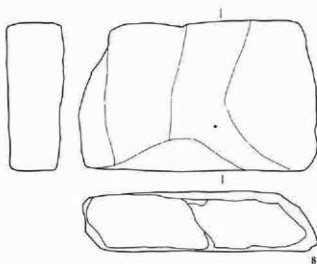
第156図 竈土層

- 1 暗褐色土 As-Bを含む。
 2 # # 炭・焼土粒含む。
 3 暗黄褐色土 黄褐色土混じり。
 4 暗褐色土 炭・焼土粒・灰わずかに含む。
 5 黄褐色土 黄褐色土主体。
 6 黄茶色土 # 粒・塊を含む。焼土粒・炭あり。
 7 茶褐色土 焼土粒を多く含む。炭混じり。
 8 暗 # 黄褐色土含む。

第155図 36号住居跡床下実測図



第156図 36号住居跡電測図



第157図 36号住居跡出土遺物実測図

36号住居出土遺物観察表

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
1	須恵器 皿	貯蔵穴 -1	13.7 6.0 3.3 完形	1. 黄灰色 2. 粗砂含む 3. 酸化焰 軟質	縁縁整形、底部回転糸切り。 高台部貼付け横撫で。
2	須恵器 椀	貯蔵穴内 +17	13.7 6.8 4.9 口径部~底部片	1. 黄灰色 2. 粘土粒粗砂含む 3. 酸化焰 良好	口径部強い横撫で、口径部外反。 体部直線開く、高台部貼付け横撫で。
3	須恵器 坏	中央 -2	13.6 6.2 3.5 口径部~底部片	1. 黄灰色 2. 粘土粒小石 含む 3. 酸化焰 良好	縁縁整形、口径部外反。
4	須恵器 椀	竈右袖前 +12	14.2 6.0 5.2 口径部~底部片	1. 黄灰色 2. 粘土粒粗砂含む 3. (酸化焰 良好)	口径部外反、底部着高台部貼付け横撫で。
5	須恵器 椀	南西 +2	18.0 - 5.3 口径部~体部片	1. 黒色 2. 粘土粒粗砂含む 3. 酸化焰 良好	口径部強い横撫で。口径部外反、体部やや湾曲。 底部高台部貼付け横撫で。
6	須恵器 坏	貯蔵穴内 +6	14.2 6.2 4.2 片	1. 灰黄色 2. 粘土粒含む 3. 酸化焰 良好	縁縁整形、体部内湾、口径部外反。 底部右回転糸切り未調整。
7	土製品 土 鏝	貯蔵穴内	4 - 1.9	1. にぶい黄色 2. 粗砂含む 3. 酸化焰	棒状工具巻き付け。円端半擦痕。
8	石	竈内	25.6 15.8 5.8	2,160g	砂岩火熱を受け脆くなる。

37号住居跡 (写真図版39・81・82)

位置 S・K-44・45グリッド 方位N-79°-E

重複 41号住居・1号掘立柱建物に切られ、40号住居を切っている。

規模 東西4.8m 南北4.1m 東西に長い長方形。

壁高 40cm前後、垂直に立ち上がる。

貯蔵穴 無し 柱穴 無し 周溝 無し

床面 暗褐色土・黄褐色土の混土を堅く踏み固めている。竈前は灰・焼土・炭の広がり見られ、灰の掻き出しによる窪みも見られる。

掘形 礫混じりの黄褐色土まで掘り込み、フラットな面に仕上げている。

遺物 東壁寄りに土師器坏・変類出土。

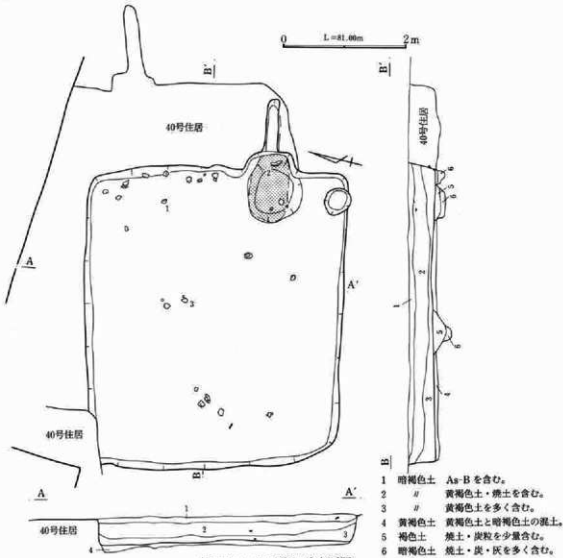
竈

位置 東壁南寄り

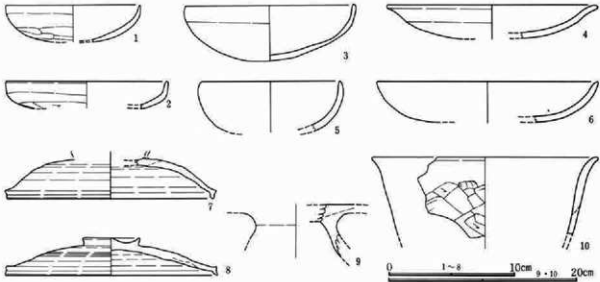
規模 焚口部幅80cm、燃焼部奥行き50cm・幅cm・深さ49cm 煙道部長さ80cm・幅20cm

煙道部への立ち上がり12cm垂直に立ち上がる。

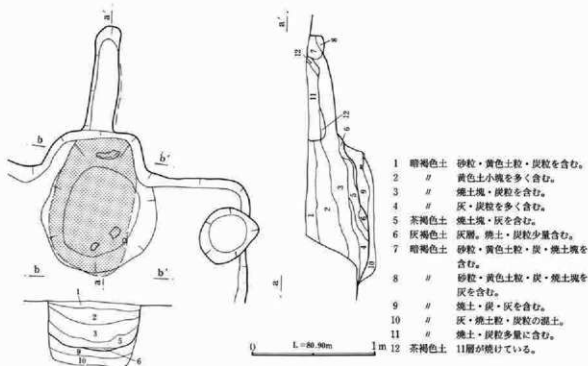
構築 燃焼部は、壁外に作られ袖は無かったと考えられたが、奥行きや火床面の状況から地山掘り残しでない袖の存在が考えられる。掘形は方形を呈し壁は垂直に立ち上がる。側壁は、焚口部から煙道部に向かい斜方向に焼土化しており、奥壁では煙道口周辺が特に焼けている。煙道部は天井部分が残りに、掘形方形で水平方向に掘られていたことが確認できた。また、煙り出しも方形で垂直に掘られていたことが確認できた。



第158図 37号住居跡実測図



第159図 37号住居跡出土遺物実測図



第160図 37号住居跡電気測定図

37号住居出土遺物観察表

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	形状・調整の特徴
1	土器 器形	北東 +21	10.6 — 2.9 片	1. 棕色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。体部未調整。 底部削削り。
2	土器 器形	壺内 -1	12.3 — 2.1 片	1. 棕色 2. 細砂粒黒色細砂粒 僅かに含む 3. 酸化焰 良好	口縁部直立横撫で。体部未調整。 底部平底状削削り。
3	土器 器形	中央北	13.5 — 4.4 片	1. 棕色 2. 細砂粒、黒色細粒 含む 3. 酸化焰、良好	口縁部直立横撫で。 底部削削り。
4	土器 器形	覆土	16.5 — 2.8 片	1. 棕色 2. 細砂粒土粒含む 3. 酸化焰、良好	口縁部外反。横撫で。境界に僅かに線をもち。 底部削削り。
5	土器 器形	覆土	11.0 — 4.0 片	1. 棕色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部内凹。 表面単純。
6	土器 器形	覆土	17.4 — 3.2 片	1. 棕色 2. 細砂粒、黒色細粒 含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。底部削削り。 体部無調整。
7	須恵器 蓋	覆土	16.8 16.3 3.3 片	1. 暗青灰色 2. 細砂粒含む 3. 還元焰 硬質	環状狭み、頂部回転削削り、湾曲。 端部直角に曲げ、先端部やや丸味、僅かに外反。
8	須恵器 蓋	覆土	17.0 — 3.0 片	1. 暗青灰色 2. 細砂粒含む 3. 還元焰 硬質	環状狭み、頂部回転削削り。 端部直角に折り曲げられ、先端鋭く僅かに外反。
9	須恵器 高 杯	覆土	— — — 台付のみ	1. 灰色 2. 細砂粒土粒含む 3. 還元焰 硬質	輪縁整形。底部内面撫で。 台部ハの字に開き、横撫で。
10	土器 器形	北東 +2	23.8 — — 口縁部~削削	1. 灰黄色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。口唇部外反。胴部削削り。

40号住居跡 (写真図版39・40・82・83)

位置 J・K-43・44グリッド 方位N-76°E

重複 37号・41号住居・水道管に切られている。

規模 東西方向不明 南北方向6.8m

壁高 45cm前後 垂直に立ち上がる。

貯蔵穴 南東隅 径70cm・深さ30cmの円形を呈す。

柱穴 南壁側に2本検出した。東側をビット1、西側をビット2とする。ビット1、径60cm・深さ20cm
中から土師器坏の完形出土。ビット2、径60cm・深さ30cm。ビット1・ビット2の芯心間距離2m

周溝 無し

床面 暗褐色土に黄褐色土塊混じり堅く踏み固めている。電前から貯蔵穴方向に灰・焼土・炭化物の広がり見られ、堅く締まる。

掘形 全体にフラット面に仕上げられており、疎

混じりの黄褐色土露出。

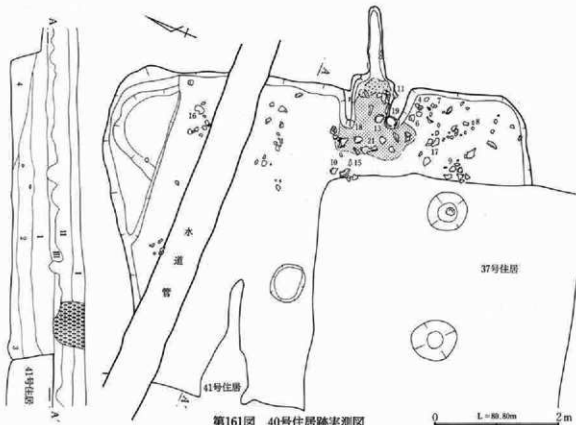
遺物 電周辺に土師器甕の破片多量に出土。電袖材として土師器甕を倒立させ使用している。

竈

位置 東壁中央南寄り

規模 焚口部幅45cm 燃焼部奥行70cm・幅50cm・深さ50cm 煙道部長さ1m・幅23cm
煙道部への立ち上がり25cm 緩く立ち上がる。

構築 燃焼部は、壁を僅かに掘り込んで作られ50cm程の袖を貼り付けている。袖は地山粘土を混ぜて作り、右袖先端部に土師器甕を倒立させ使用している。掘形は長方形を呈し、壁は垂直に立ち上がる。焚口部から煙道部にかけて斜方向に赤茶色の焼土が見られる。煙道部は水平方向に伸びる。



第161図 40号住居跡実測図

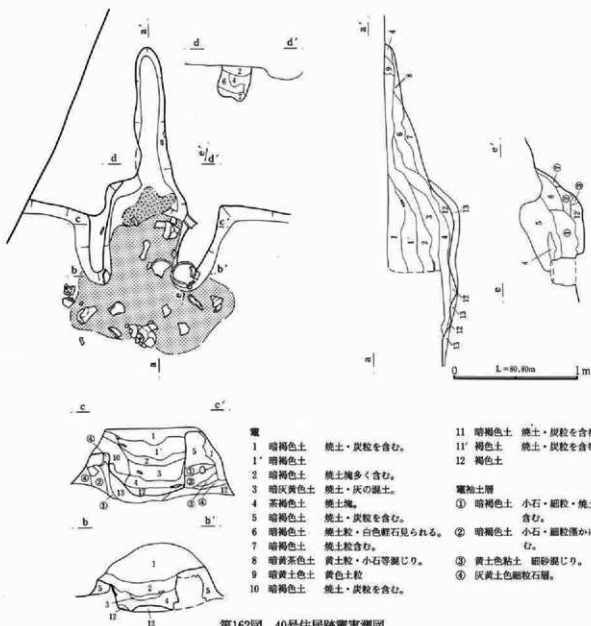
I~III 基本土層断面

1 暗褐色土 黄色土塊・焼土粒含む。

2 暗褐色土 黄色土塊・土師片多く、焼土粒含む。

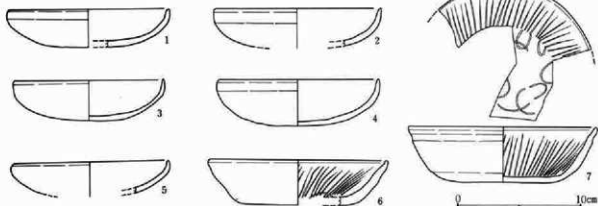
3 暗褐色土 黄色土塊含む。

4 暗褐色土 黄色土塊・焼土粒・塊含む。



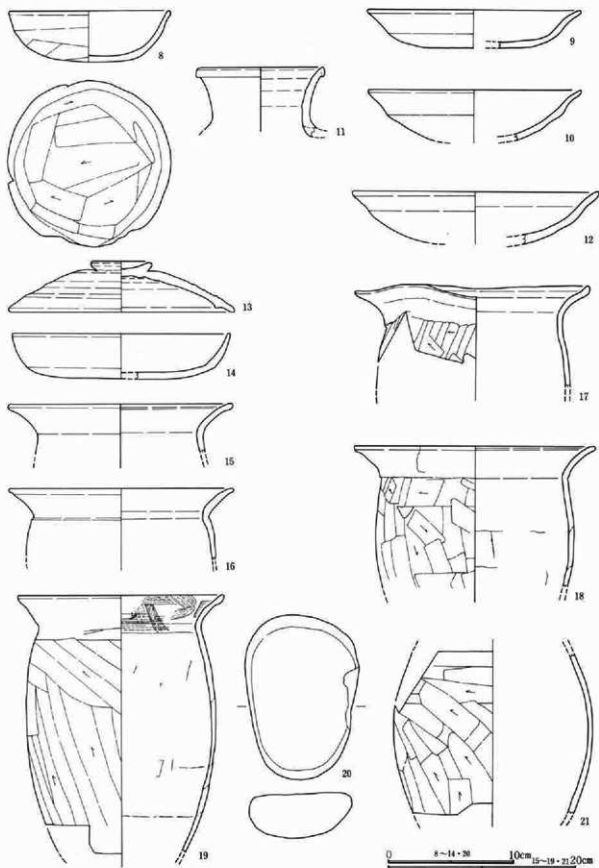
第162図 40号住居跡断実測図

- 層
- | | | | |
|---------|---------------|-------------|---------------|
| 1 暗褐色土 | 焼土・炭粒を含む。 | 11 暗褐色土 | 焼土・炭粒を含む。 |
| 1' 暗褐色土 | | 11' 褐色土 | 焼土・炭粒を含む。 |
| 2 暗褐色土 | 焼土塊多く含む。 | 12 褐色土 | |
| 3 暗灰黄色土 | 焼土・灰の混土。 | 竈袖土層 | |
| 4 茶褐色土 | 焼土塊。 | ① 暗褐色土 | 小石・細粒・焼土粒を含む。 |
| 5 暗褐色土 | 焼土・炭粒を含む。 | ② 暗褐色土 | 小石・細粒強かに含む。 |
| 6 暗褐色土 | 焼土粒・白色軽石見られる。 | ③ 黄土色粘土 | 細砂混じり。 |
| 7 暗褐色土 | 焼土粒を含む。 | ④ 灰黄土色細粒石層。 | |
| 8 暗黄茶色土 | 黄土粒・小石等混じり。 | | |
| 9 暗黄土色土 | 黄土粒 | | |
| 10 暗褐色土 | 焼土・炭粒を含む。 | | |



第163図 40号住居跡出土遺物実測図(1)

第1節 I区検出の遺構と遺物



第164図 40号住居跡出土遺物実測図(2)

40号住居出土遺物観察表

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・直径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
1	土師器 環	覆土	12.8 - 3	1. 褐色 2. 砂粒、粘土粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で、やや丸味をもち立ち上がる。
2	土師器 環	覆土	13.2 - -	1. にぶい褐色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で、ほぼ垂直に立ち上がる。 体部寛削り。
3	土師器 環	南東 -4	12.0 - 3.3 ほぼ完形	1. 褐色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で、内湾気味に立ち上がる。 内面撫で、外削り。
4	土師器 環	南東 -2	12.8 - 3.6 瓦	1. 明赤褐色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。 体部手持ち寛削り。
5	土師器 環	覆土	12.4 - -	1. 褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。
6	土師器 環	南東 +4	14.2 - (3.5) 瓦	1. 褐色 2. 細砂粒僅かに含む 3. 酸化焰 良好	口唇部僅かに内傾、沈線見られる。体部及び底部寛削り後、裏撫で。内面放射状増文あり。
7	土師器 環	竈内 -3	15.0 8.4 4.5 口縁部～底部瓦	1. 褐色 2. 精選 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で、体部直線的に開き、寛削り後磨き。 底部手持ち寛削り、内面放射状、底部螺旋状増文
8	土師器 環	南東 +17	12.6 - - ほぼ完形	1. 暗褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で、底部寛削り。 底部寛削り、×字の線刻あり。
9	土師器 環	南東 +15	16.6 - 3 口縁部破片	1. 褐色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 やや軟質	口縁部横撫で、外反、体部寛削り、緩い腰をもつ
10	土師器 環	竈前	16.8 - - 破片	1. 褐色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で、やや外反、体部寛削り、弱い腰をもつ。
11	須恵器 壺	竈右袖 +2	13.6 - - 口縁部瓦	1. 褐灰色 2. 白色細粒 黒色 細粒を含む 3. 還元焰 硬質	口縁部折り返し。 頸部内面、紐造り直見られる。
12	土師器 環	覆土	19.4 - - 瓦	1. 褐色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 やや軟質	口縁部横撫で、体部との境、僅かに腰あり。 体部寛削り。
13	須恵器 蓋	竈内 +1	17.8 4.8 4.0 瓦	1. 灰色 2. 精選 3. 還元焰 硬質	横みみ部ボタン状、頂部凹陥直切り。 内面胴心円の文様、カエリをもつ。
14	土師器 環	覆土	17.4 12.0 (3.5) 瓦	1. にぶい褐色 2. 砂粒粘土粒 含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で、内湾気味、底部との境、僅かに腰を 有し、体部～底部手持ち寛削り。
15	土師器 壺	竈前 +3	23.2 - - 口縁部瓦	1. にぶい赤褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 やや軟質	口縁部大きく外反、横撫で。胴部は長胴と思われ、 頸部に斜方向の削り見られる。
16	土師器 壺	北東 +17	23.5 - - 瓦	1. にぶい褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部大きく開き、口唇部外反、肥厚。 頸部強い横撫で、胴部との境、段をもつ。
17	土師器 壺	南東 +29	24.8 - - 口縁部瓦	1. にぶい褐色 2. 細砂粒含む 3. 還元焰 硬質	口縁部横撫で、口唇部立ち上がり。 胴上部横方向寛削り。
18	土師器 壺	竈左袖 +3	25.6 - - 口縁部～胴瓦	1. にぶい褐色 2. 砂粒、粘土 粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で、外反し、底部厚みあり 内面端部沈線状の溝あり、頸部横方向の削り。
19	土師器 壺	竈右袖	21.8 - - 底部欠損	1. 明赤褐色 2. 粘土粒、粗砂 粒含む 3. 酸化焰、良好	口縁部外反、く字状呈す。 胴上部斜方向寛削り 中位～下位縦方向削り。

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
20	石	覆土	17.5 12.1 4.9	1, 430, 6#	砂岩
21	土器 壺	壺前 +3	- - - 胴部写	1. におい橙色 2. 黒色砂粒含 む 3. 酸化焰 良好	胴上半、横方向歪削り。下半斜方向歪削り。 内面磨で。

41号住居跡 (写真図版40・83)

位置 K・L-44グリッド 方位 N-77°-E

重複 37号・40号住居を切る。西半分は調査区外

規模 南北4.2m

壁高 50cm前後 ほぼ垂直に立ち上がる。

貯蔵穴 無し 柱穴 無し 周溝 無し

床面 暗褐色土に黄褐色塊・小礫等が混じり、堅く踏み固められている。

掘形 砂礫混じりの黄褐色土露出しているが、フラットな面に仕上げられている。

遺物 竈右側より須恵器蓋の完形品と土器器坏出土。

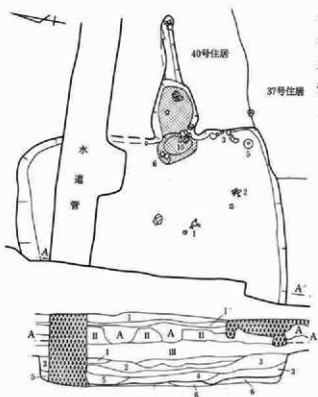
竈

位置 東壁南寄り

規模 焚口部幅45cm 燃烧部奥行き80cm・幅65cm・深さ47cm 煙道部長さ1m・幅20cm

煙道部への立ち上がり15cm 垂直に立ち上がる。

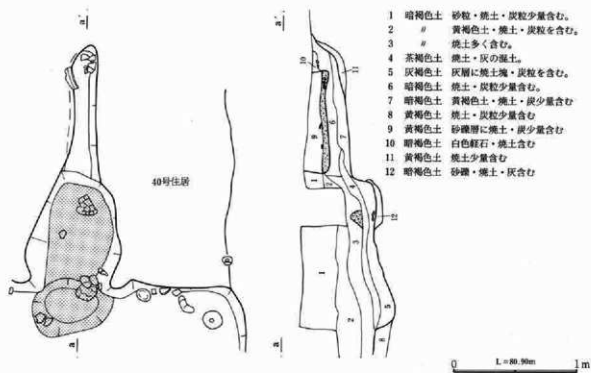
構築 燃烧部は、壁外にあり袖を持たない。側壁は円みを持って立ち上がる。壁面は焚口部から奥壁に向かい斜方向に焼き締まっている。奥壁下部は焼土化しておらず地山黄褐色土見られる。火床面は床面と同レベルである。火床面を狭み上に天井部崩落による焼土が3cm堆積し、下に5cmの灰層の堆積見られる。焚口部前面には、灰の掻き出しによる楕円形の窪みがある。煙道部は、20cmの厚みを持って水平方向に天井が残り、天井部下面は全面焼土化している。煙道部下面及び覆土中には焼土粒が僅かに見られるのみである。煙出し部分は垂直に立ち上がり、土器器壺口縁部や胴部の破片の出土状態から煙出し部分に利用されていたものが流れ込んだものと考えられる。



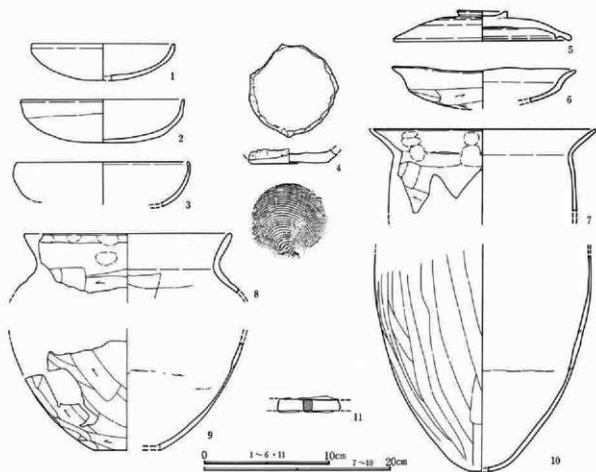
I～IIIは基本土層参照

- 1 暗黄褐色土 小石含む。
- 2 褐色土 小石・炭・焼土粒僅かに含む。
- 3 暗褐色土 小石・砂質塊多量に含む。
- 4 // 小石・砂質塊含む。
- 5 褐色土 黄褐色土小塊含む。
- 6 暗褐色土 黄褐色土小塊含む。
- 7 暗黄褐色土 黄褐色土塊・小石混じり。
- 8 褐色土 黄褐色土粒・小石混じり。

第165図 41号住居跡実測図



第166図 41号住居跡電氣測図



第167図 41号住居跡出土遺物実測図

41号住居出土遺物観察表

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
1	土器器 杯	覆土	11.3 - 2.9 瓦	1. 褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部直立、横撫で。底部寛削り。
2	土器器 杯	南東隅 床直	12.9 - 3.4 ほぼ完形	1. 褐色 2. 細砂 小石含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。底部寛削り。やや平底。 口唇端部内面僅かに折り返し。撫で。
3	土器器 杯	南東隅 床直	13.7 - 3.6 底部欠損	1. 明黄褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部～体部湾曲。底部平底?
4	須恵器 杯	掘形 -3	- 6.1 1.0 底部完形	1. 灰色 2. 精選 3. 還元焰 緻密	底部右回転余切り、未調整。 意図的に打ち欠き、底部のみ残す。
5	須恵器 蓋	南東隅 床直	3.7 14.0 2.35 完形	1. 灰白色 2. 細砂粒含む 3. 還元焰 硬質	頂部回転寛削り。横断面扇状工具による撫で。 内面平直面。かえり内側段と有し、端部鋭角。
6	土器器 杯	竈前 -2	14.4 - 3.3 ほぼ完形	1. 褐色 2. 黒色細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部外傾、口唇部外反体部との境、種見られる横 撫で、体部寛削り。
7	土器器 甕	掘形 口縁部～胴部	24.0 - - 口縁部～胴部	1. 褐色 2. 細砂 粘土粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部くの字外反、平坦面見られる。 指頭圧痕有り。頸部撫で。表面摩耗。
8	土器器 甕	竈出	21.9 - -	1. 褐色 2. 細砂 粘土粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部弱いくの字、指頭圧痕有り。横撫で。 頸部横削り。胴部球形?
9	土器器 甕	竈出	- 7.0 -	1. ぶい褐色 2. 細砂 粘土 粒含む 3. 酸化焰 良好	やや球形の胴、斜方向寛削り。底径小さく不安定
10	土器器 甕	竈内 -4	- - - 胴部下半	1. 明赤褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	筒形、縦方向寛削り。底径小さく不安定。
11	鉄製品	覆土	5.0 0.9 15.50g		棒状鉄器。断面方形。

42号住居跡 (写真図版40・83・84)

位置 L-45グリッド 方位 N-68°-E

重複 43号住居を切っている。

規模 電燃焼部から東南隅にかけてのみ調査。

壁高 30cm前後 垂直に立ち上がる。

貯蔵穴 東南隅にあり、東半分を検出した。1辺1
m・深さ10cmの方形を呈すると思われる。

柱穴 不明 周溝 不明

床面 小礫含む暗褐色土を踏み固めている。

掘形 硬混じりの灰黄色土みられ、凹凸少ない。

遺物 竈南側より土器器杯・甕出土。



I～IIは基本土層参照

1 暗黄土色土 焼土粒・炭・黄土色土含む

2 暗褐色土 黄土色土含む

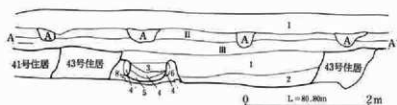
3 暗褐色土 黄色土粒・焼土粒塊含む

4 暗赤茶色土 焼土塊多量に含む

4' 焼土層

5 黒褐色土 焼土塊・灰混含層

6 暗黄土色土 黄土色土



第168図 42号住居跡実測図

竈

位置 東壁

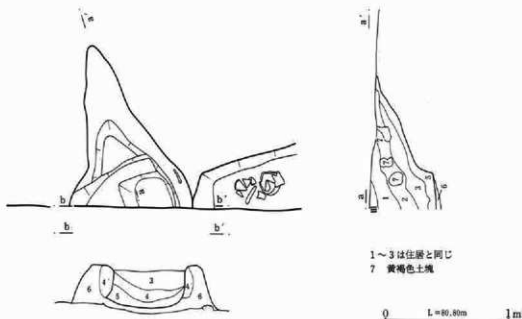
規模 焚口部幅不明 燃焼部幅60cm・深さ45cm 煙

道部長さ70cm・幅30cm

煙道部への立ち上がり15cm 緩く立ち上がる。

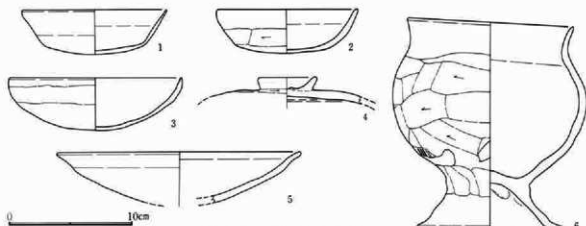
構築 燃焼部は壁を僅かに掘り込み、地山黄褐色土

を利用した袖を貼り付けている。掘形は方形を呈し、壁は垂直に立ち上がる。壁面は堅く焼き締まっている。火床面は奥壁部分のみの調査であるが、天井部の崩落と思われる焼土塊の堆積や灰層の堆積見られる。煙道部は緩く立ち上がり、側壁は熱を受け焼き締まっているが、底面は焼けていない。



1~3は住居と同じ
7 黄褐色土塊

第169図 42号住居跡竈実測図



第170図 42号住居跡出土遺物実測図

42号住居出土遺物観察表

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
1	土師器 杯	南東 +7	11.4 - 3.5 Ⅹ	1. 褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焙 良好	口径部直線に開く、口径上部増幅で、下半部調整 底部平底直削り。内面凹凸部無で。

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
2	土師器 環	南東 +8	11.0 - 3.4 ほぼ定形	1. 橙色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横溝で、直線的に開く。 体部寛削り、内面やや湾曲。底部平底状、足削り
3	土師器 環	南東 +8	13.7 - 4.2 ほぼ定形	1. 橙色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横溝で、口唇部直立、体部未調整、 底部寛削り。
4	須恵器 蓋	- - -	- - - 細まみ部定形	1. 灰白色 2. 砂粒含む 3. 還元焰 硬質	頂部回転蓋削り。内面平直。 扇状溝まみ。
5	土師器 環	覆土	19.2 - 4.0 耳	1. 橙色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 やや軟質	口縁部外反、横溝で、僅かに横見られる。 体部寛削り。
6	土師器 台付壺	南東 +3	13.1 10.0 16.5 口縁部のみ欠損	1. 橙色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部外反、横溝で、内面側部下端強い段。 胴部球形、上半横方向寛削り、下半斜方向寛削り。

43号住居跡 (写真図版40・41・84)

位置 K・L-45グリッド

重複 41号・42号住居に住居北側と中央部を切られている。また、西側は調査区外となっている。

規模 不明

壁高 46cm前後 垂直に立ち上がる。

貯蔵穴 無し 柱穴 無し

周溝 電部分を除き全周する。規模は、上端20cm・
下端6cm・深さ2cmをはかる。

床面 黄褐色粘質土塊・焼土含む暗褐色土を堅く踏み固めている。

掘形 フラット面に仕上げている。

遺物 須恵器蓋・土師器環が甌左に出土。土師器壺が甌右袖先端部出土。

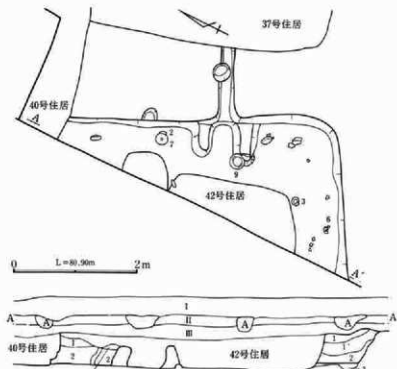
電

位置 東壁南寄り

規模 焚口部幅40cm 燃焼部奥行60cm・幅35cm・
深さ50cm 煙道部埋出し部分は37号住居と重複して

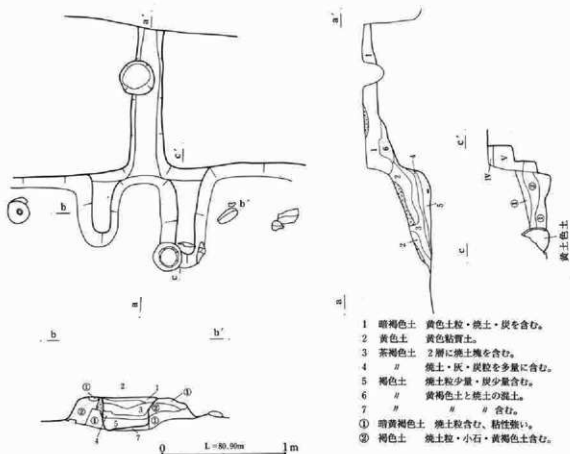
いるため不明・幅20cm、煙道部への立ち上がり15cm、垂直に立ち上がる。

構築 燃焼部は住居内にあり、60cmの袖を持つ。袖は、黄褐色土や褐色土を利用し、壁面に貼り付けている。また、右袖先端部には、底部欠損の土師器壺が倒立した状態で粘土で巻かれて出土し、袖材として利用されていた。火床面は床面から奥壁に向い徐々に高くなり、奥壁部分では10cm程床面より高くなる。掘形は長方形を呈し、壁面は垂直に立ち上がる。壁面は、煙道部に向かい斜方向に焼けている。

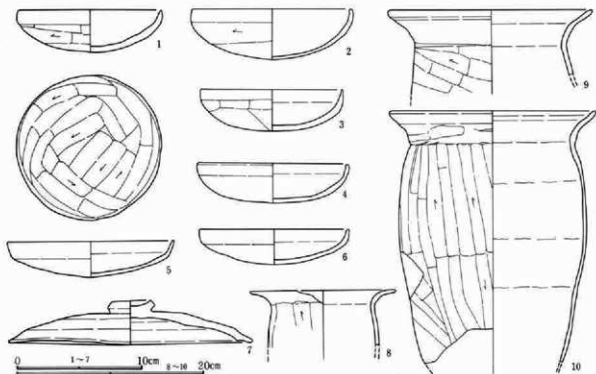


第171図 43号住居跡実測図

- I~IVは基本土層参照
 1 暗褐色土 黄土色土含む
 1' 暗褐色土 黄土色土塊多く含む
 2 暗褐色土 黄土色土・焼土粒含む
 3 褐色土 黄土色土塊・焼土粒含む



第172図 43号住居跡竈実測図



第173図 43号住居跡出土遺物実測図

43号住居出土遺物観察表

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
1	土器 甕 坏	竈内 +3	11.5 - 3.5 完形	1. ぐすん橙色 2. 細砂粒僅かに含む 3. 酸化焰 良好	口縁部直立横撫で。丸底直削り。内面撫で。
2	土器 甕 坏	北東 +10	12.8 - 4.0 口縁部～底部欠	1. 橙色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 やや軟質	口縁部横撫で。僅かに内傾。丸底直削り。
3	土器 甕 坏	南東 +1	11.4 - 3.3 ほぼ完形	1. 橙色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。直立。底部平底気。直削り。内面撫で。
4	土器 甕 坏	竈内 +1	(12.1) - (3.1) 欠	1. 橙色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。直立気味。底部直削り。
5	土器 甕 坏	竈内 -	13.2 - 2.8 口縁部～底部欠	1. におい橙色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。外傾。底部直削り。器高浅い。
6	土器 甕 坏	南東 +2	12.0 - 2.8 口縁部～底部欠	1. におい橙色 2. 黒色 細砂粒僅かに含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。底部～体部直線的。直削り。
7	須恵器 蓋	北東 +11	19.4 - 3.5 完形	1. 灰白色 2. 小石含む 3. 還元焰 硬質	紐造り。頂部直削り。端部横撫で。内面横磨目。カエリ。断面三角。ボタン状柄まみ。
8	土器 甕	南東 +29	14.5 - 6.0 口縁部破片	1. 橙色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部外反。横撫で。
9	土器 甕	甕右袖 +14	21.8 - - 口縁部～頸部完形	1. 橙色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部外反。口唇部僅かに内傾。厚唇。頸部横撫で。頸部上横直削り。
10	土器 甕	南東 -4	22.0 - - 口縁部～胴部下欠	1. におい褐色 2. 細砂 粘土粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部弱いくの字に外反。横撫で。長胴縦方向。直削り。

44号住居跡 (写真図版41・84・85・86)

位置 H・I-51・52グリッド 方位 N-73°E

重複 28号住居を切る。

規模 東西4m 南北3.5m 長方形

壁高 55cm前後 垂直に立ち上がる。

貯蔵穴 南東隅 東西1.2×南北0.8m深さ20cmの楕円形を呈す。覆土に焼土・灰等を多く含む。

柱穴 無し 周溝 無し

床面 黄褐色土中に暗褐色土塊を混ぜ踏み固めている。甕前では焼土・灰等の広がり見られ、床面は特に堅く踏み固められている。

掘形 北東隅に1.6×1.4m、深さ20cmの土坑と中央に径1.2m、深さ10cmのレンズ状土坑を検出。また、西壁から南北壁にかけて幅50～60cm、深さ10cm程度の掘り込みがある。南壁際中央部に径50cm、深さ15cmのピットがあり、土師器坏出土。

遺物 住居北側覆土中に流れ込みと思われる多量の土器出土。竈内や貯蔵穴周辺から土師器甕・須恵器坏・蓋等出土。また、甕上端周辺より棚状の掘り込みがあり、須恵器坏出土。

竈

位置 東壁南寄り

規模 焚口部幅45cm 燃焼部奥行50cm・幅40cm・深さ70cm 煙道部長さ1.3m・幅15cm

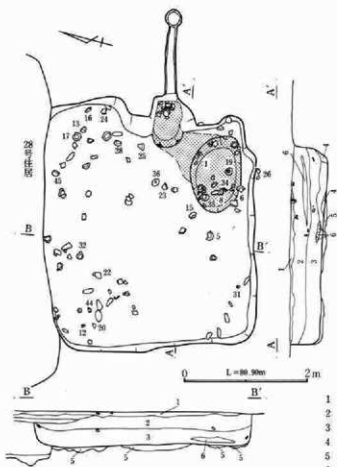
煙出し部 径25cm 深さ15cmほぼ垂直に立ち上がる。煙道部への立ち上がり45cm 垂直に立ち上がる。

構築 燃焼部は住居内にあり、地山掘り残しの袖を持つ。覆土中には天井部が崩落したものと考えられる。赤茶色の焼土層が見られる。最終火床面は床面と同レベルであるが、その下層に10～15cmの灰の堆積見られる。掘形は長方形を呈し、側壁上面はロート状に立ち上がる。壁面の焼けは、焚口部から煙道

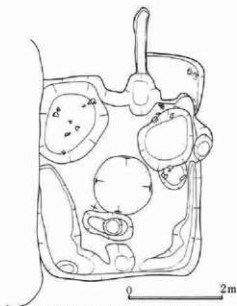
第二章 上栗須遺跡

部にかけて斜めに焼けている。煙道部は水平方向に伸び、天井部が残る。天井部は地山を掘り抜いて作ったものでなく、焼土・炭化物を含む褐色土を貼る。

また、側壁及び天井は赤茶色に焼土化しているが底面は焼けていない。

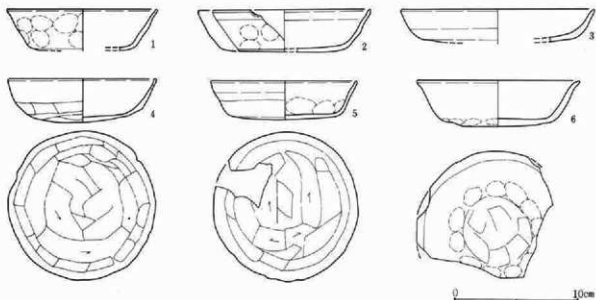


第174図 44号住居跡実測図

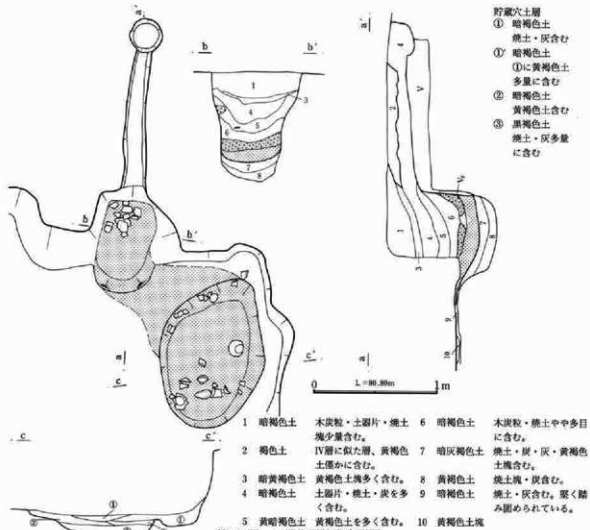


第175図 44号住居跡床下実測図

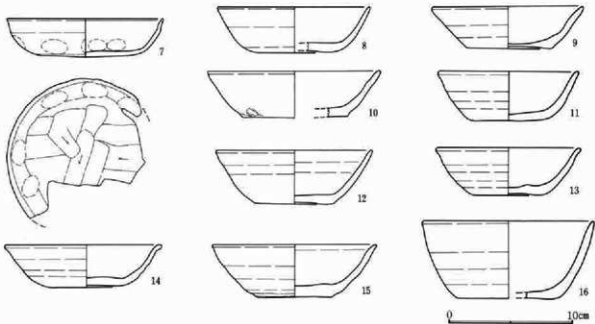
- 1 暗褐色土 As-B 多く含む。焼土・炭少量含む。
- 2 暗褐色土 焼土粒多量・炭粒少量含む。
- 3 暗褐色土 黄褐色土塊多く含む。
- 4 暗褐色土 黄褐色土塊・焼土粒含む。
- 5 暗褐色土 炭粒を極少量含む。堅く踏み固められている。
- 6 黄褐色土塊



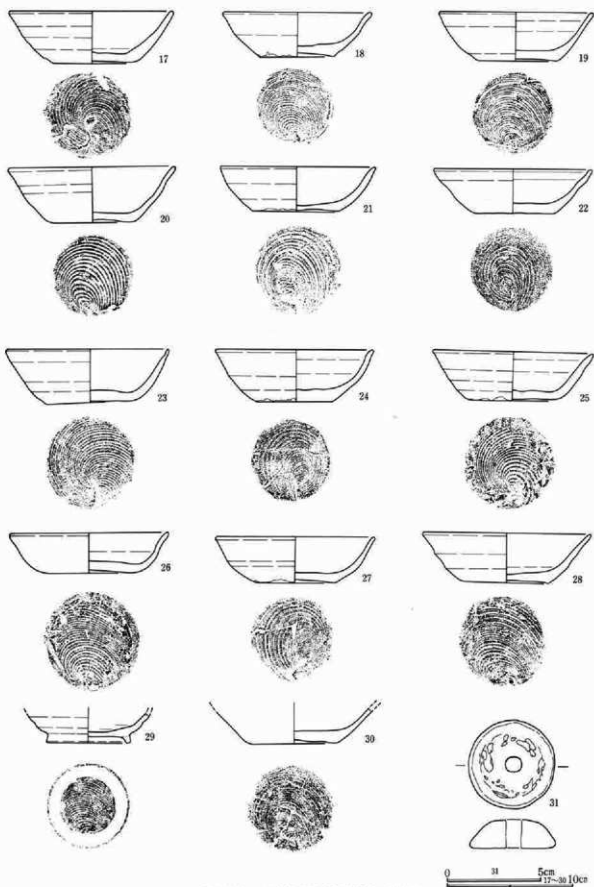
第176図 44号住居跡出土遺物実測図



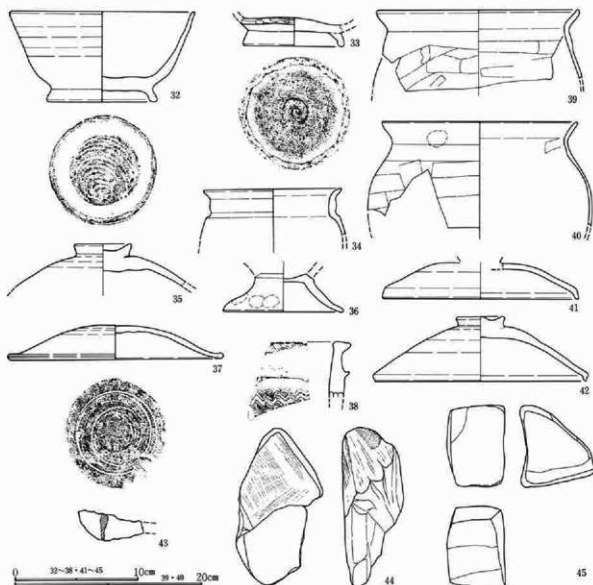
第177図 44号住居跡電実測図



第178図 44号住居跡出土遺物実測図(2)



第179图 44号住居跡出土遺物実測図(3)



第180図 44号住居跡出土遺物実測図(4)

44号住居出土遺物観察表

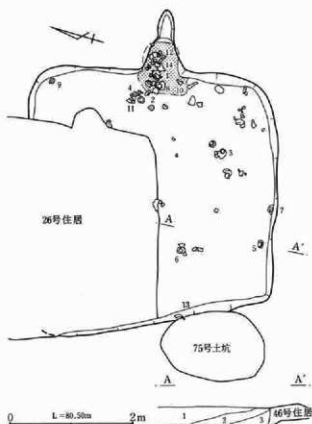
番号	器 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
1	土器 器形 環	貯蔵穴 -9	12.0 5 3.2 残	1. 橙色 2. 細砂 黒色細粒含む 3. 酸化焰 やや軟質	口縁部横撫で。口唇部折り返し。内面撫で。 外面手づくね。底部平底、寛削り。
2	土器 器形 環	覆土	13.6 9.4 3.3 残	1. ぶい橙色 2. 細砂 黒色 細粒僅かに含む 3. 酸化焰	口縁部横撫で。下半無調整。内面市面圧痕有り。 底部平底寛削り。口唇部僅かに内調。内面撫で。
3	土器 器形 環	楕形	15.4 - 2.6 残	1. 橙色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部上半横撫で。下半底部手づくね。底部平底。 内面横撫で。底部への移行部肥厚。手持ち足削り
4	土器 器形 環	貯蔵穴	11.7 5 3.5 ほぼ完形	1. 橙色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 やや軟質	口縁部直線的に開く。上半は横撫で。 下半指部圧痕有り。底部寛削り、平底状。
5	土器 器形 環	南東 +6	11.6 8.5 3.0 完形	1. 橙色 2. 細砂 黒色細粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部外上半横撫で。下半無調整。内面撫で。 口唇部やや内調。内面指部圧痕有り。底部平底。

第二章 上栗須遺跡

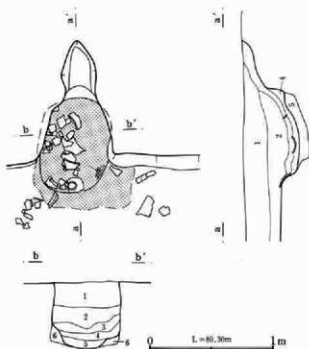
番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
6	土師器 杯	貯蔵穴 +2	13.0 6.0 3.6 %	1. にぶい褐色 2. 細砂僅かに 含む 3. 酸化焰 良好	口縁部上半横断で、下半手づくね、内面無で。 底部外縁手づくね、内面無で。指頭正直有り。
7	土師器 杯	覆土	12.2 8.0 3.0 %	1. 褐色 2. 細砂 黒色細粒含 む 3. 酸化焰 やや軟質	口縁部上半横断で、下半手づくね、指頭正直有り。 底部手持ち磨削り、平底。
8	須恵器 杯	貯蔵穴 +10	12.1 6 3.5 %	1. オリーブ灰 2. 精選 3. 還元焰 硬質	輪軸整形 底部回転未切り。
9	須恵器 杯	南東隅 +2	11.8 6.5 3.3 %	1. 灰白色 2. 細砂、黒色細粒 含む 3. 還元焰 硬質	輪軸整形 底部回転未切り。
10	須恵器 杯	覆土	13.7 8.3 3.6 口縁部~胴部	1. 灰色 2. 細砂粒含む 3. 還元焰 硬質	輪軸整形 底部回転未切り、底部肥厚。
11	須恵器 杯	覆土	11.0 6.0 2.9 %	1. 浅黄色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 良好	輪軸整形 底部右回転未切り未調整。
12	須恵器 杯	北西隅 +2	12.3 5.9 4.2 %	1. 灰白色 2. 黒色細粒僅かに 含む 3. 還元焰 硬質	輪軸整形 底部回転未切り。
13	須恵器 杯	北東 +45	11.3 6.0 3.7 %	1. 灰黄色 2. 砂粒含む 3. 還元焰 硬質	輪軸整形 底部右回転未切り。
14	須恵器 杯	北東 +33	12.3 6.0 3.4 %	1. 明赤褐色 2. 砂、粘土粒含 む 3. 中性焰 軟質	輪軸整形。体部内湾、下縁丸味もつ 底部右回転未切り無調整。
15	須恵器 杯	貯蔵穴脇	13.0 6.0 4.1 %	1. にぶい褐色 2. 砂 粘土粒 含む 3. 酸化焰 硬質	輪軸整形 底部左回転未切り無調整、底部肥厚。
16	須恵器 杯	北東 +22	13.5 8.1 (6.1) 底部やや破損	1. 灰褐色 2. 白色細粒 砂粒 含む 3. 還元焰 硬質	輪軸整形、底部回転未切り。縁辺部寛削り。 体部急内湾、内面湾曲しながら立ち上がる。
17	須恵器 杯	覆土	13.0 6.7 4.1 ほぼ完形	1. 灰白色 2. 細砂僅かに含む 3. 還元焰 硬質	輪軸整形、直線的に開く。 底部右回転未切り。
18	須恵器 杯	覆土	11.7 6.0 3.5 %	1. 灰白色 2. 精選 3. 還元焰 硬質	輪軸整形 底部右回転未切り、底部肥厚。
19	須恵器 杯	貯蔵穴 +10	12.2 6.2 3.8 完形	1. 灰白色 2. 細砂 小石含む 3. 還元焰 硬質	輪軸整形 底部左回転未切り。
20	須恵器 杯	北西 +1	13.0 6.2 4.4 %	1. 灰白色 2. 精選 3. 還元焰 良好	輪軸整形 底部左回転未切り。
21	須恵器 杯	覆土	12.2 7.0 3.5 %	1. 灰白色 2. 精選 3. 還元焰 硬質	輪軸整形、口縁部内湾。口唇部外反。 体部肥厚。底部右回転未切り。
22	須恵器 杯	北西 +42	12.6 6.4 3.5 %	1. 灰色 2. 砂粒含む 3. 還元焰 軟質	輪軸整形、直線的体部。 底部右回転未切り。
23	須恵器 杯	北東 +33	13.2 7.0 4.0 完形	1. 灰白色 2. 精選 3. 還元焰 硬質	輪軸整形 底部右回転未切り、緩い回転、底部肥厚。
24	須恵器 杯	中央 +11	12.4 6.0 4.0 %	1. 灰白色 2. 細砂粒含む 3. 還元焰 硬質	輪軸整形、体部内湾。口唇部外反。 底部左回転未切り。
25	須恵器 杯	北東	12.5 7.0 3.9 %	1. 灰白色 2. 精選 僅かに黒 色細粒 3. 還元焰 硬質	輪軸整形 底部右回転未切り。

第1節 1区検出の遺構と遺物

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
26	須志器 坏	覆土	12.5 7.0 3.2 完形	1. 灰白色 2. 精選 3. 還元焰 良好	輪繩整形、体部下半丸味をもち、口縁部外反。 底部を回転未切り。内面渦巻痕。
27	須志器 坏	覆土	12.6 6.2 3.6 欠	1. 灰白色 2. 細砂僅かに含む 3. 還元焰 硬質	輪繩整形、体部内湾。 底部右回転未切り。
28	須志器 坏	覆土	13.3 6.8 3.7 完形	1. 灰色 2. 砂粒小石含む 3. 還元焰 硬質	輪繩整形、腰に丸味をもち、口縁部僅かに外反。 底部静止に近い回転未切り。
29	土師器 碗	南東隅 +5	- 6.4 2.2 底部~胴部	1. 灰色 2. 細砂僅かに含む 3. 還元焰 軟質	輪繩整形、接地部やや開く。 底部回転未切り、高台部貼付け、横撫で。
30	土師器 坏	北東 +12	- 7.0 - 底部~胴部	1. ぶい橙色 2. 砂粒多く含む 小石あり 3. 酸化焰 良好	輪繩整形、体部直線的に開く。 底部右回転未切り。
31	紡錘車	南西 -1	4.6 4.6 1.5	51.3R	帯石
32	須志器 碗	北西 床直	14.6 8.5 7.1 欠	1. 灰色 2. 砂粒小石含む 3. 還元焰 硬質	輪繩整形、体部腰が張り、口縁部まで直線的に開く 底部回転未切り、高台部貼り付け、ハの字に開く。
33	須志器 碗	甕内	- 7.9 - 底部完形	1. 灰色 2. 砂粒 小石含む 3. 還元焰 硬質	輪繩整形、底部全面を残し打ち欠き、内面渦巻痕 底部高台部貼り付け、内湾気味。横撫で。
34	土師器 甕	貯蔵穴	10.8 - - 口縁部欠	1. 橙色 2. 細粒含む 3. 酸化焰 良好	コの字口縁部、強い横撫で。肩を有する。 肩部磨削り、内面撫で。
35	須志器 蓋	貯蔵穴 -2	- - -	1. 灰色 2. 砂粒含む 3. 還元焰 硬質	環状筒まみ。頂部回転磨削り。 内面平坦面渦巻痕見られる。
36	土師器 合付甕	中央 +40	- 9.6 2.9 胴部のみ	1. 橙色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	内外全面横撫で。 胴部、ハの字状に開き、指頭圧痕有り。
37	須志器 蓋	覆土	16.8 15.6 2.7 欠	1. 灰黄褐色 2. 砂粒 粘土粒 含む 3. 還元焰 硬質	輪繩整形、頂部右回転未切り痕見られ、周辺回転磨 削り。胴部水平面折り返し、沈線撫で。
38	須志器 甕	覆土	- - - 口縁部破片	1. 灰色 2. 白色細粒含む 3. 還元焰 硬質	口縁部尖帯筒まみ出し、文様、波状文。 32号住同一個体と、思われる破片あり。
39	土師器 甕	南東	21.6 - - 口縁部の欠	1. 橙色 2. 砂粒 小石 粘土 粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部外反、口唇部直立先細り、頸部横撫で。 胴部横方向、磨削り。
40	土師器 甕	貯蔵穴 -4	20.8 - - 口縁部~上部部欠	1. 橙色 2. 砂粒 粘土含む 3. 酸化焰 良好	口縁部外反横撫で、胴部内横撫で、内面撫で。 胴部、やや球形、上部横撫削り。中央縦磨削り。
41	須志器 蓋	覆土	15.3 - - 胴み部欠損	1. 灰色 2. 細砂僅かに含む 3. 還元焰 硬質	頂部回転磨削り。 胴部、折り返し、やや開く。
42	須志器 蓋	覆土	16.7 - 5.1 欠	1. 灰色 2. 小石含む 3. 還元焰 硬質	環状筒まみで、内面は凸状になる。 頂部回転磨削り。胴部折り返し、横撫で、先細り
43	刀子	覆土	4.5 2.1 0.6	6.9R	刀部曲線。峰部直線
44	石	北西	16.7 9.4 6.5	432.9R	凝灰岩質
45	砥石	床直	8.6 6.2 6.7	515.3R	両紋岩(砥沢?)



第181図 45号住居跡実測図



第182図 45号住居跡竈実測図

45号住居跡 (写真図版41・42・86・87)

位置 J-35・36グリッド 方位 N-81°-E

重複 26号住居に北西部部分を切られ、46号住居を切っている。

規模 南壁3.5m、北壁4.2m、南北4mの台形状を呈する。

壁高 30cm前後 垂直に立ち上がる。

貯蔵穴 無し 柱穴 無し 周溝 無し

床面 黄褐色土塊、小礫を含む暗褐色土を踏み固めている。南東隅には礫面が露出している。竈前には焼土、灰の広がり見られる。

掘形 掘形面は礫面まで達している。

遺物 須恵器碗や土師器杯、壺等の破片出土。

竈

位置 東壁中央

規模 焚口部幅60cm 燃烧部奥行き50cm・幅50cm・深さ44cm 煙道部長さ45cm・幅20cm

煙道部への立ち上がり17cm 直角に立ち上がる。

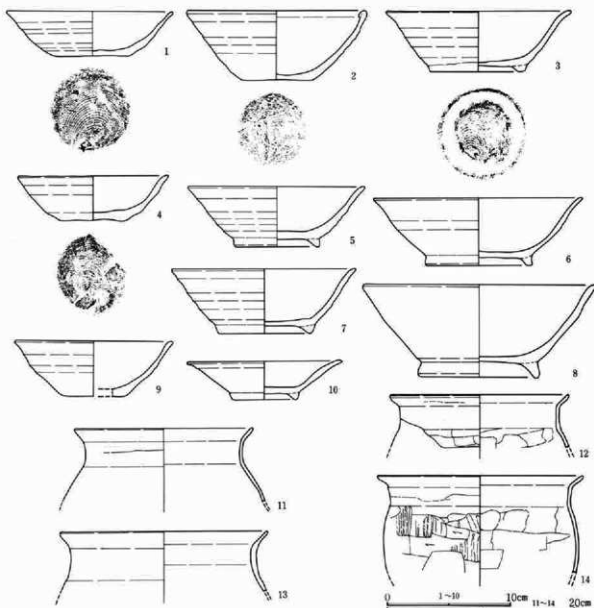
構築 燃烧部は壁外にあり、袖を持たない。側壁は扇張り状に立ち上がる。火床面は床面より15cm程下がり、灰の堆積見られる。灰の直上には底面の焼土化した黄褐色土の堆積見られる。この層は竈天井部の崩落土と考えられる。煙道部は斜方向に立ち上がり燃出し部に至る。側壁は垂直に立ち上がる。

- 1 明褐色土 黄色土粒・炭粒少量含む。
- 2 暗褐色土 黄色土・焼土・炭少量含む。
- 3 暗褐色土 2層に似るが、炭多く含む。
- 4 暗褐色土 黄色土塊・焼土・炭含む。
- 5 褐色土 黄色土塊多く含む。
- 6 褐色土 砂粒・焼土・炭少量含む。

竈土層

- 1 褐色土 黄褐色土粒・焼土・炭粒少量含む。
- 2 明褐色土 明褐色細砂粒に焼土・炭粒少量含む。
- 3 茶褐色土 2層に焼土塊を多く含む。
- 4 青灰 # 灰の純層、焼土・炭粒少量含む。
- 5 灰褐 # 灰褐色細砂粒に焼土・炭化物を含む。
- 6 # 細砂粒。

第1節 I区検出の遺構と遺物



第183図 45号住居跡出土遺物実測図

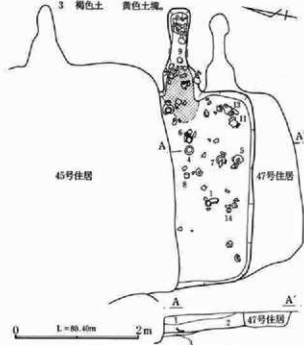
45号住居出土遺物観察表

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
1	土器 環	竈内	23.0 6.0 3.5 ほぼ完形	1. にぶい黄褐色 2. 細砂粒、 粘土粒含む 3. 酸化焰 軟質	輪轆整形。 底部右回転糸切り、未調整。
2	土器 環	竈前 +4	14.0 5.5 5.5 片	1. 灰色 2. 細砂粒含む 3. 還元焰 良好	輪轆整形。口唇部内側折り返し。 輪轆目明瞭。底部右糸切り。
3	須恵器 椀	南東 +12	— 7.5 (4.8) 片	1. 灰オリーブ 2. 砂粒含む 3. 還元焰 やや軟質	輪轆整形。輪轆目明瞭。口唇部外反。 高台貼り付け。縞状、丸味をもつ、難な造り。
4	須恵器 環	竈前 +7	11.7 5.2 3.5 片	1. 明黄褐色 2. 砂粒含む 3. 中性焰 軟質	輪轆整形、横撫で。口唇部外反。体部両曲底部右回 転糸切り、未調整。

第二章 上栗須遺跡

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	形状・調整の特徴
5	須恵器 椀	南西 +11	13.7 6.7 4.7 %	1. 浅黄色 2. 砂、粘土粒含む 3. 中性焰 軟質	輪軸整形、輪軸目明確。口唇部外反。 高台部貼り付け、内外面横撫で。
6	須恵器 椀	南西 床直	16.8 8.4 5.3 %	1. 浅黄色 2. 砂、粘土粒含む 3. 中性焰 軟質	輪軸整形、表面摩耗。内部内肉。 高台部貼り付け、ハの字に開き、断面台形。
7	須恵器 椀	南壁 +4	14.4 7.4 5.1 %	1. 灰オリーブ 2. 砂、粗粒含む 3. 中性焰 軟質	輪軸整形、表面摩耗。高台部やや内傾。横撫で。
8	土師器 椀	竈内 +3	18.0 9.3 7.2 %	1. 橙色 2. 細砂、粘土粒含む 3. 酸化焰 良好	輪軸整形、僅かに外反。体部内面平拍。 高台部貼り付け、ハの字状に開き、内外面横撫で。
9	須恵器 坏	北東隅 +1	12.2 (5.0) (4.4) %	1. 浅黄色 2. 細砂、粘土粒含む 3. 中性焰 軟質	輪軸整形。 底部高台部貼り付け。
10	須恵器 椀	竈内 +4	12.0 5.0 3.0 完形	1. にぶい褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	輪軸整形、外反。高台部貼り付け。 内外面、横撫で磨。底部回転未切り、肥厚。
11	土師器 甕	竈前 +7	18.9 — 7.7 %	1. 橙色 2. 細砂粒僅かに含む 3. 酸化焰 良好	口縁部コの字状。胴上位横磨削り。
12	土師器 甕	竈内 +5	18.8 — 5.5 %	1. にぶい褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部短く外反。頸部直立。横撫で。口唇部横で胴 上位横方向磨削り、内面横刷毛。
13	土師器 甕	西壁 床直	22.0 — 6.5 口縁~胴部	1. 褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 やや軟質	口縁部コの字状の崩れた形、屈曲。 粘土粒の粘土異なり、斜方向に模様様見られる。
14	土師器 甕	竈内 床直	— — 10.3 %	1. にぶい褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部コの字状口縁~胴部横撫で。頸部上、下部体 部横方向磨削り。内面横撫で、強い無で。

- 暗褐色土 黄褐色土粒少量含む。
- 暗褐色土 黄褐色土粒多量と炭粒少量含む。
- 褐色土 黄色土塊。



第184図 46号住居跡実測図

46号住居跡 (写真図版42・87・88)

位置 J-36グリッド 方位 N-80°-E

重複 45号住居に北側半分を切られる。47号住居とは南壁で重複しているが、47号住居は46号住居の建て替え前の痕跡とも考えられる。

規模 東西3m

壁高 25cm前後 垂直に立ち上がる。

貯蔵穴 無し 柱穴 無し 周溝 無し

床面 褐色土に黄褐色土塊を混ぜ踏み固めているが、地山の砂礫が部分的に露出している。電前は焼土・灰面の広がり見られる。

掘形 僅かな凹凸見られる。

遺物 須恵器椀多量に出土。

電

位置 車壁

規模 焚口部幅45cm 燃焼部奥行き45cm・幅40cm・

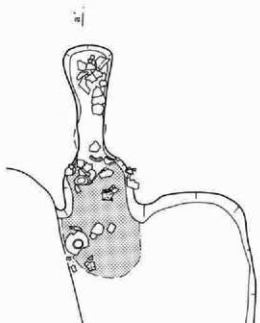
第1節 Ⅰ区検出の遺構と遺物

深さ34cm 煙道部長さ85cm・幅20cm

煙道部への立ち上がり5cm 僅かに傾き立ち上がる。

構築 燃焼部は壁外に構築され、僅かに地山掘り残しの袖を持つ。掘形は方形を呈し、側壁は垂直に立ち上がる。壁面は赤茶色に焼土化し、堅く締まる。

火床面の掘形は床面より数cm下がるが、灰層の堆積により最終火床面は床面と同レベルになる。煙道部は緩く立ち上がる。天井部は下面が赤茶色に焼土化している。また、煙出し部に土師器蓋を使用している。47号住居からの立て替えとした場合、電袖の共用が考えられる。



第185図 46号住居跡電実測図

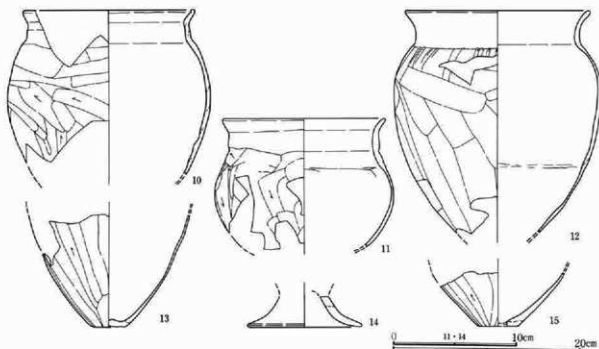


- 1 褐色土 焼土粒・炭粒少量含む。
- 2 茶褐色土 焼土・炭粒を多く含む。
- 3 暗褐色土 焼土・炭・灰を多量に含む。
- 4 青灰色土 灰の純層。
- 5 灰褐色土 灰層に焼土粒含む。
- 6 黄褐色土 黄褐色土・焼土粒少量含む。
- 7 褐色土 IV層に似る。

0 L=80.30m 1m



第186図 46号住居跡出土遺物実測図(1)



第187図 46号住居跡出土遺物実測図(2)

46号住居出土遺物観察表

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
1	須恵器 椀	南西 +21	14.8 7.0 5.2 片	1. 灰白色 2. 細砂粒含む 3. 中性焼 軟質	轆轤整形、高台部貼り付け。内外面横撫で。 体部直線的に開く。全体に磨滅。
2	須恵器 椀	南西 +1	14.8 6.3 5.1 片	1. 明赤褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焼 良好	轆轤整形、底部回転余切り。撫で。 体部湾曲して立ち上がる。口唇部外反。
3	須恵器 椀	窠内 +5	13.9 6.2 4.9 片黒塵あり	1. 明赤褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焼 良好 軟質	体部僅かに丸味をもつ。口唇部やや外反。 底部回転余切り。
4	須恵器 椀	南東 +2	13.5 6.3 5.0 ほぼ完形	1. 灰白色 2. 細砂粒 白色粒 含む 3. 中性焼 やや軟質	轆轤整形 高台部貼り付け。
5	須恵器 皿	南東壁 +7	13.7 2.4 6.6 ほぼ完形	1. におい橙 2. 細砂粒 粘土 粒含む 3. 酸化焼 良好	体部直線的、口縁部水平に開く。口唇部内厚い 轆轤整形、底部丸味をもつ。底部回転余切り無調整
6	須恵器 椀	南東 +1	- 7.2 2.3 底部のみ内黒土器	1. 洗黄色 2. 精選 3. 酸化焼 良好	轆轤整形、底部回転余切り。肥厚の高台を貼り付け 高台内外側撫で。内部磨き後、給炭させ黒色処理
7	須恵器 椀	南東 +9	- 7.0 3.3 胴部～底部完形	1. 洗黄色 2. 細砂粒 粘土含 む 3. 酸化焼 良好	轆轤整形。底部回転余切り痕。 高台部貼り付け。
8	土師器 壺	中央 -2	22.0 - 6.4 口縁部片	1. におい橙色 2. 細砂粒僅か に含む 3. 酸化焼 良好	頸部～口縁部にかけ丸味をもち外反。部分的に割い コの字を呈す。口唇部分僅かに折り返し。
9	土師器 壺	窠内 +13	19.3 - 6.7 口片	1. 橙色 2. 粘土粒僅かに含む 3. 酸化焼 やや良好	割いコ字状を呈する。口唇部僅かに内傾。 口縁部、頸部横撫で。頸部直下横置有り。
10	土師器 壺	北西壁	18.1 - 17.5 片	1. 橙色 2. 微細砂粒含む 3. 酸化焼 良好	口縁部僅かに外反。頸部上・下縁強い撫で。 胴上横方向握有り。下半縦方向握有り。

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
11	土師器 台付甕	南東 +1	12.8 - 10.1 口径部~胴部迄	1. 明赤褐色 2. 細砂粒僅かに 含む 3. 酸化焰 良好	口縁部外反。頸部直立口の字口縁意識。球形胴。 口縁部~頸部横撫で。頸部下横刮削。内面撫で
12	土師器 壺	電燈道 -	19.5 - - 底部破損	1. ぶい褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	胴上部膨らみ肩部を有し、最大径をもつ。 頸部やや直立気味。口縁部外反。
13	土師器 甕	南東隅 +4	- 3.5 11.9 胴部~底部迄	1. 橙色 2. 細砂粒僅かに含む 3. 酸化焰 良好	胴部胎形。小さな平底、縦方向直削り。 底部直削で、全体撫で。器内薄い。
14	土師器 台付甕	南西壁 +3	- 8.8 2.5 片	1. 橙色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	大きいハの字に開き、先端は尖る。 接合部は、水平。
15	土師器 甕	竈内 +13	- 4.2 5.7 底部片	1. ぶい褐色 2. 粘土粒 細 砂僅かに含む 3. 酸化焰 良好	縦方向直削り。底径小さく平底。直削り。 器内薄い。内面撫で。

47号住居跡 (写真図版43・88)

位置 J-36グリッド 方位 N-80°-E

重複 46号住居・7号溝に切られている。46号住居
とは同一住居の可能性も考えられる。規模 東西2.7m 西壁に46号住居との境界として
段を有する。

壁高 20cm前後 垂直に立ち上がる。

貯蔵穴 無し 柱穴 無し 周溝 無し

床面 褐色土の地山が見られ、掘形をそのまま使用
していたと思われる。

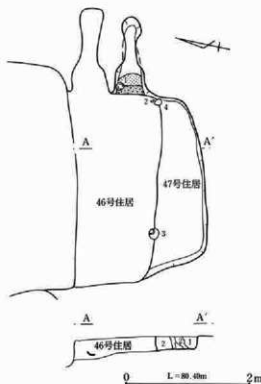
遺物 竈内及び竈前に須恵器坯出土。

竈

位置 東壁

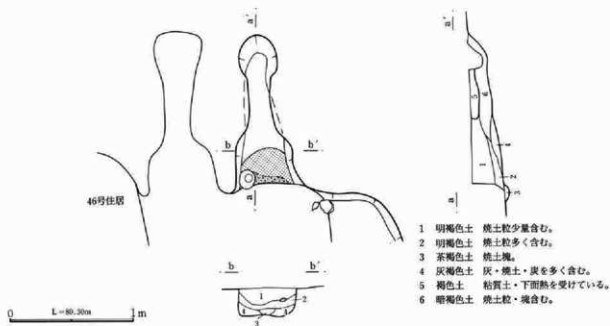
規模 焚口幅55cm 燃焼部奥行き55cm・幅48cm・
深さ27cm 煙道部長さ70cm・幅20cm

煙道部へは緩く立ち上がる。

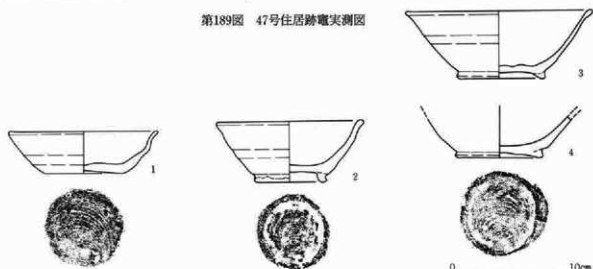
構築 燃焼部は壁外に構築され、袖は持たない。掘
形は方形を呈し、側壁は垂直に立ち上がる。火床面
は床面とする南壁際より10cm程低く、焼土・灰の広
がり見られる。煙道部は褐色土の天井部が残り、天
井下面は赤茶色に焼き締まっている。

- 1 暗褐色土 黄褐色含む
- 2 褐色土 黄褐色土塊混じり

第188図 47号住居跡実測図



第189図 47号住居跡電実測図



第190図 47号住居跡出土遺物実測図

47号住居出土遺物観察表

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
1	須恵器 坏	窠内 +15	11.8 6.2 3.3	1. にぶい黄色 2. 細砂 粘土 粒含む 3. 酸化焰 軟質	縦縞整形、口縁部横撫で、外側。体部内側。 底部回転未切り。
2	須恵器 椀	窠付近 +2	11.4 5.8 4.8 完形	1. 褐色 2. 細砂 粘土粒含 む 3. 酸化焰 粗質	縦縞整形、口縁部横撫で。口唇部外反。体部内側 底部高台部貼り付け後横撫で。接地部めくれ上がる。
3	須恵器 椀	南西 +10	14.6 7.0 5.3 欠	1. にぶい黄褐色 2. 細砂粒含 む 3. 酸化焰 良好 軟質	縦縞整形、口唇部外反。体部内側。 底部回転未切り。高台部貼り付け。横撫で。
4	須恵器 椀	窠付近 +5	- 7.0 - 胴部～底部	1. 褐色 2. 細砂 小石含む 3. 酸化焰 良好 軟質	底部回転未切り未調整。高台部貼り付け後横撫で。 縦縞整形

48号住居跡 (写真図版43・88・89)

位置 G-45・46グリッド

規模 住居東側は路線外、南側は水道本管埋設による攪乱を受け、北西部分のみ調査。

壁高 32cm前後 垂直に立ち上がる。

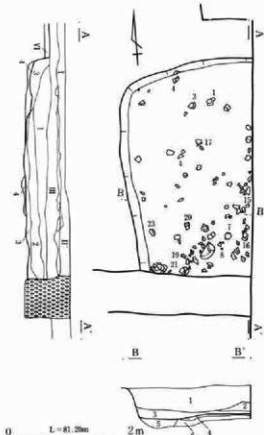
貯蔵穴 不明 柱穴 不明 周溝 無し

床面 褐色土に焼土・炭化物を含み、踏み固められている。

掘形 北から南にかけて傾斜を持ち、特に西壁際は深く掘り込まれている。

遺物 土師器・須恵器の破片多量に出土。

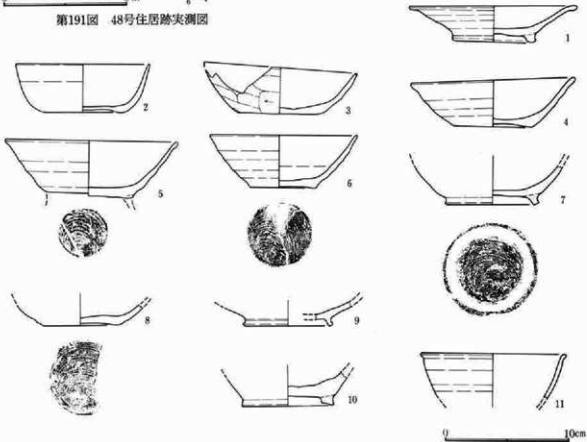
竈 不明



第191図 48号住居跡実測図

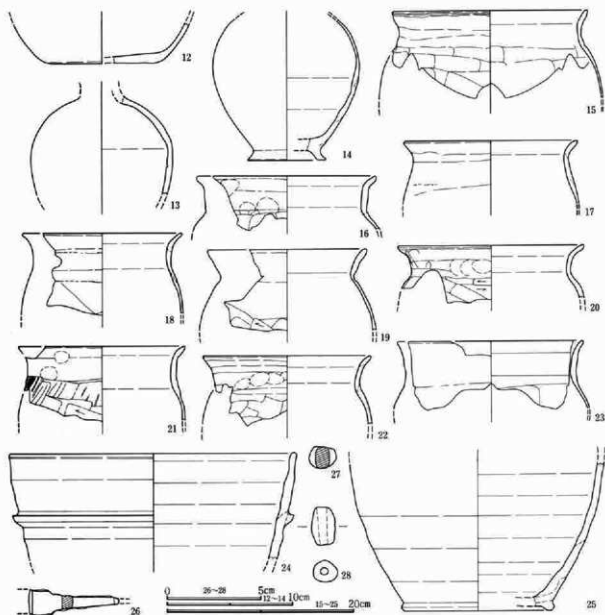
I~IVは基本土層参照

- 1 暗褐色土 僅かに白色軽石・黄褐色土塊含む
- 2 暗褐色土 黄褐色土塊含む
- 3 暗褐色土 炭・焼土粒・黄褐色土含む
- 4 灰褐色土 小石・黄褐色土塊・褐色土塊含む
- 5 灰褐色土 黄褐色土と褐色土の混土
- 6 暗褐色土 黄褐色土塊多量に含む



第192図 48号住居跡出土遺物実測図(1)

第二章 上栗須遺跡



第193図 48号住居跡出土遺物実測図(2)

48号住居出土遺物観察表

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
1	須恵器 皿	北西 +17	13.1 6.0 2.8 ほぼ完形	1. 灰白色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 軟質	輪軸整形。口唇部水平に開く。 高台部貼り付け、難。底部回転未切り。
2	土師器 杯	北西 +3	10.6 6.3 3.8 片	1. におい褐色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 軟質	口縁部横断で。 底部未調整。
3	土師器 杯	北西隅 +1.5	12.2 6.3 3.6 片	1. 褐色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横断で。体部削り。 内面立ち上がり部分肥厚。底部手持ち削り。
4	須恵器 杯	北西 +15	12.8 6.2 3.7 片	1. 灰白色 2. 砂粒含む 3. 還元焰 軟質	輪軸整形。口縁部横断で。 底部回転未切り。

第1節 I区検出の遺構と遺物

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 構成	整形・調整の特徴
5	須志器 椀	北西壁 +9	13.7 - 4.3 5/6	1. 灰色 2. 砂粒僅かに含み 粘土粒含む 3. 還元焰 軟質	轆轤整形。高台部貼り付け痕。 底部回転未切り。
6	須志器 杯	中央 +32	11.2 5.2 4.1 5/6	1. 灰色 2. 黒色炭粒 白色細粒含む 3. 還元焰 やや軟質	轆轤整形。 底部回転未切り。
7	須志器 北西	北西 +22	- 6.9 3.0 5/6	1. 灰白色 2. 砂粒含む 3. 還元焰 硬質	轆轤整形。高台部貼り付け、後無で。外側に開く。 底部回転未切り。
8	須志器 杯	中央 +15	- 5.9 - 底部5/6	1. 灰色 2. 砂粒含む 3. 還元焰 硬質	轆轤整形。高台部貼り付け痕、撫であり。 底部回転未切り。内面同心円。
9	灰釉陶器 椀	覆土	- 6.7 2.9 底部5/6	1. 灰白色 2. 精選 3. 還元焰 硬質	高台部貼り付け。底部肌薄。 袖掛け掛け。
10	須志器 長頸壺	覆土	- 7.1 2.7 5/6底部のみ	1. 灰白色 2. 精選 3. 還元焰 硬質	轆轤整形。高台部貼り付け。撫で。 回転部削り。
11	灰釉陶器 椀	覆土	10.3 - 3.6	1. 灰白色 2. 精選 3. 還元焰 硬質	体内内湾、口唇部外反。
12	須志器 杯	覆土	- 8.0 3.2 底部5/6	1. 灰白色 2. 砂粒含む 3. 還元焰 良好	轆轤整形。 底部回転削り。
13	灰釉陶器 壺	覆土	- - - 肩~底部5/6	1. 灰白色 2. 精選 3. 還元焰 硬質	肩部丸味を持つ。
14	須志器 長頸壺	北西 +15	- 6.1 10.1 5/6	1. 灰色 2. 砂粒含む 3. 還元焰 硬質	卵形。内面紐造り痕。外面回転撫で。底部肥厚。 底部へ胴下端にかけ、細砂粒貼り付け。
15	土師器 壺	北西 +12	20.6 - - 5/6	1. 明赤褐色 2. 砂粒 粘土粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部の字口縁崩れる。口唇部僅かな比線流る。 頸部両端強い横撫で。胴上部横方向削り。
16	土師器 壺	掘形 口片	18.8 - 5.6	1. ぶい橙色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	コの字口縁部。口唇部僅かに立ち上がる。 頸部指部正直有り。胴上部横方向削り。
17	土師器 壺	北西 +4	18.3 - 6.2 5/6	1. 橙色 2. 細砂粒 粘土粒含む 3. 酸化焰 軟質	口縁部横撫で。頸部ハケ目。口唇部撫で。 やや立ち上がる。胴上部横方向削り。
18	土師器 壺	覆土	16.8 - 8.7 5/6	1. ぶい黄褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	コの字口縁崩れたもの、頸部下端屈曲弱い。 内面撫で。胴部平面摩耗。
19	土師器 壺	北西 +15	16.8 - 8.6 5/6	1. 明赤褐色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部外反、横撫で。 胴上位外反、横方向削り。
20	土師器 壺	北西 +8	19.1 - 5.8 口片	1. ぶい橙色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	コの字口縁。口唇部の外反。肩部の張り強い。 頸部撫で強く、指部正直有り。
21	土師器 壺	西壁中央 口片	17.7 - 7.9	1. 橙色 2. 砂粒 粘土粒含む 3. 酸化焰 良好	コの字口縁。 胴上部横方向削り。
22	土師器 壺	覆土	17.8 - 7.4 5/6	1. ぶい赤褐色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 良好	コの字口縁崩れたもの、頸部両端強い横撫でにより、 境界を作るが、口縁部不明瞭。指部正直
23	土師器 壺	北西壁 +10	19.5 - 7.1 5/6	1. ぶい橙色 2. 砂粒、粘土粒含む 3. 酸化焰 やや軟質	口縁部コの字口縁崩れた形、横撫で。 胴上部横方向削り。
24	須志器 甌	中央 +4	30.6 - 11.3 5/6	1. 灰色 2. 細砂粒含む 3. 還元焰 硬質	紐造り。回転撫で。口縁部直線的に立ち上がる。 肩部平直面。胴上面水平。

番号	器 種 器 形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整 形 ・ 調 整 の 特 徴
25	須 恵 器 壺	甕形 +3	- 15.6 15.5 破片	1. 灰白色 2. 細砂粒含む 3. 還元焰 硬質	紐造り、回転脚で、外側指押き入痕有り。 高台部貼り付け。胴を外に開く。
26	刀 子	北西床直	7.0 1.9 0.3	17.0#	欠損。胴部から基部残存。同定被。
27	鉄 製 品	覆土	1.4 1.2 0.8	7.6#	塊
28	土 製 品 土 器	覆土	3.0 1.9 1.7 底部片	1. 棕色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 良好	棒状工具に粘土巻き付け。

49号住居跡 (写真版43・89・90)

位置 J-52グリッド 方位 N-73°-E

重複 西壁中央を135号土坑に切られている。

規模 東西3.6m 南北3.8m 方形を呈す。

壁高 80cm前後 ほぼ垂直に立ち上がる。

貯蔵穴 無し

柱穴 南北両壁下中央に径50cm・深さ10cmのビット
があり、2本柱の柱穴と考えられる。周溝 南壁及び東壁電南を除き各壁下に、上端16cm
前後・深さ5cm前後で巡る。床面 掘形面に暗褐色土を僅かに入れ、踏み固めて
いる。電前には灰の広がり見られる。

掘形 凹凸少なく平らな面に仕上げられている。

遺物 土器器環や20cm前後の片岩系の標が住居北西
寄りに出土。

電

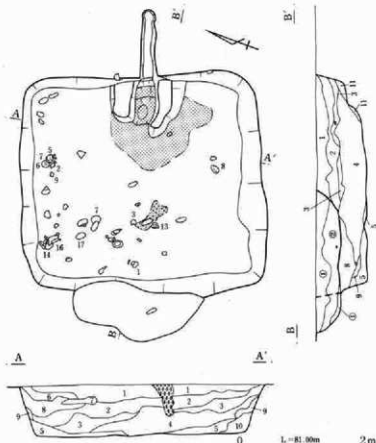
位置 東壁中央

規模 焚口部幅35cm 燃焼部奥行き55cm・幅35cm・
深さ80cm 煙道部長さ1.1m・幅20cm

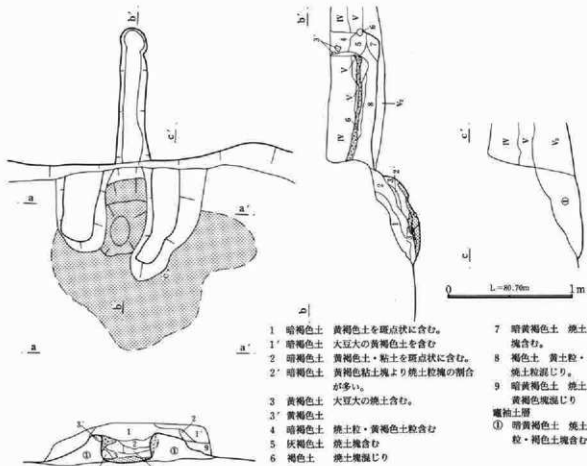
煙道部への立ち上がり30cm 斜めに立ち上がる。

構築 燃焼部は住居内に構築され、60cm
程の袖を持つ。袖は地山黄褐色土を貼り
付け作り出している。火床面は床面より
5cm程低く灰層の堆積見られる。覆土中
には黄褐色土を主体とする層があり、そ
の下面は焼土化していることから、天井
の崩落土と考えられる。煙道部は天井が
残り、水平方向に80cm伸びて垂直に立ち
上がる煙り出し部にいたる。天井部下面
は赤茶色に焼土化している。煙道部内は
縦13cm×横15cmの方形を呈し、壁面には
四角形の工具による削痕残る。

- 1 暗褐色土 焼土・炭燻かに含む。
- 2 暗褐色土 黄褐色土塊多量に含む
- 3 暗褐色土 黄褐色土塊少量含む
- 4 暗褐色土 黄褐色土塊多く含む
- 5 暗褐色土 黄褐色土と黒褐色土の混土
- 6 暗茶褐色土 暗褐色土を少量含む
- 7 暗茶褐色土 黄褐色土を多く含む
- 8 暗褐色土 黄褐色土粒僅かに含む
- 9 黒褐色土
- 10 # 僅かに黄褐色土粒含む
- 11 暗茶褐色土 6層に似る
- ① 暗茶褐色土 焼土・炭燻かに含む
- ② 暗茶褐色土 黄褐色土粒僅かに含む

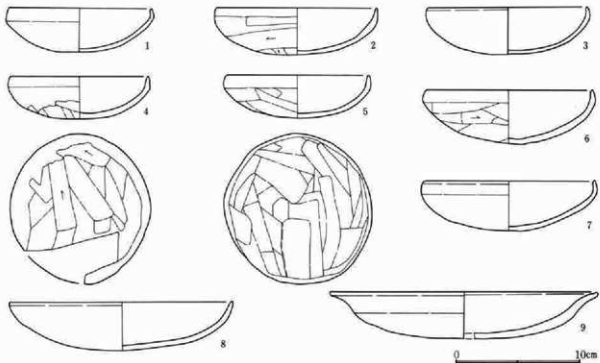


第194図 49号住居跡実測図



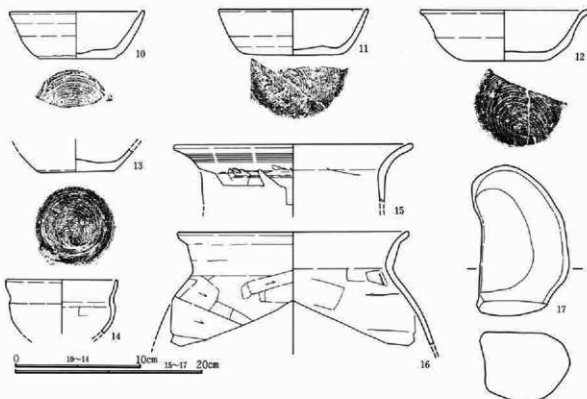
- | | | | |
|---------|---------------------|---------|-------------|
| 1 暗褐色土 | 黄褐色土を斑点状に含む。 | 7 暗黄褐色土 | 焼土塊含む。 |
| 1' 暗褐色土 | 大豆大の黄褐色土を含む。 | 8 褐色土 | 黄土粒・黄土粒混じり。 |
| 2 暗褐色土 | 黄褐色土・粘土を斑点状に含む。 | 9 暗黄褐色土 | 焼土 |
| 2' 暗褐色土 | 黄褐色粘土塊より焼土粒塊の割合が多い。 | | 黄褐色塊混じり |
| 3 黄褐色土 | 大豆大の焼土含む。 | | 蘆細土層 |
| 3' 黄褐色土 | | | ① 明黄褐色土 |
| 4 暗褐色土 | 焼土粒・黄褐色土粒含む | | ② 褐色土塊含む |
| 5 灰褐色土 | 焼土塊含む | | |
| 6 褐色土 | 焼土塊混じり | | |

第195図 49号住居跡竈実測図



第196図 49号住居跡出土遺物実測図(1)

第二章 上栗須遺跡

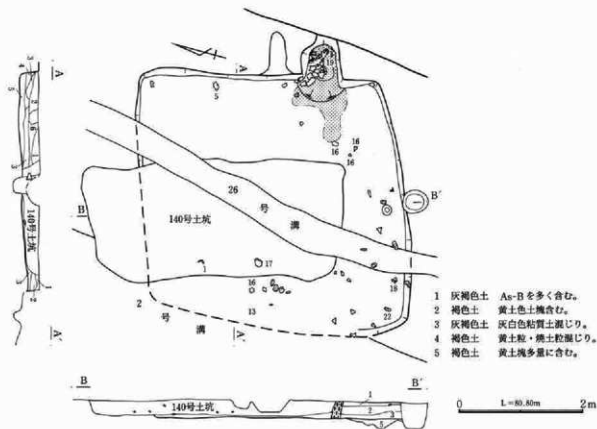


第197図 49号住居跡出土遺物実測図(2)

49号住居出土遺物観察表

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
1	土師器 碗	北西壁際 +1	11.2 - 3.5 ほぼ完形	1. 褐色 2. 細砂粒含む。 3. 酸化焰 砂っぽい	口縁部内凹、横撫で。 体部～底部荒削り。
2	土師器 碗	北東 +1	12.6 - 3.7 ほぼ完形	1. 褐色 2. 細砂 黒色粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部内凹、横撫で。 体部～底部荒削り。
3	土師器 碗	中央 +4	(12.6) - 3.7 片	1. にぶい褐色 2. 粘土粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部内凹、横撫で。 底部荒削り。
4	土師器 碗	覆土	11.0 - 3.4 片	1. 底部外周黒色 2. 細砂粒 黒色細粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部直立横撫で、底部～体部荒削り。 内面撫で。
5	土師器 碗	北西 +1	11.5 - 3.4 ほぼ完形	1. 明赤褐色 2. 細粒 黒色細 粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で、やや内傾、体部～底部荒削り。 内面撫で。
6	土師器 碗	北西 床直	13.2 - 4.1 ほぼ完形	1. にぶい褐色 2. 細砂 黒色 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部内凹、横撫で。 体部～底部荒削り。
7	土師器 碗	北西 +2	13.4 - 3.4 ほぼ完形	1. にぶい褐色 2. 黒色細砂粒 細砂粒含む 3. 酸化焰 軟質	口縁部内凹、横撫で。体部～底部削り。
8	土師器 碗	南東 +2	18.0 - 3.8 ほぼ完形	1. 明赤褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	盤状碗、口縁部僅かに屈曲。 内面撫で。
9	土師器 碗	北西隅 +2	(21.0) - (3.7) 片	1. 褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部外反横撫で、弱い稜を持つ。 体部～底部削り。

番号	器 種 形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整 形 ・ 調 整 の 特 徴
10	須恵器 坏	覆土	10.6 (5.0) 4.2 ㄥ	1. 褐灰色 2. 細砂粒含む 3. 還元焰 硬質	底部回転糸切り未調整。 縦縞整形。
11	須恵器 坏	覆土	11.8 7.5 3.7 ㄥ	1. 褐灰色 2. 細砂粒含む 3. 還元焰 硬質	底部糸切り未調整。
12	須恵器 坏	覆土	13.2 7.0 4.0 ㄥ	1. 灰白色 2. 黒色細粒含む 3. 還元焰 硬質	口縁部外反。底部回転糸切り未調整。
13	須恵器 坏	中央 +14	— 6.0 — 底部のみ残	1. 褐灰色 2. 白色小石含む 3. 還元焰 良質	底部左回転糸切り未調整。 高台貼り付け板。
14	土師器 壺	北西隅 +14	8.8 — — 口縁部一割部ㄥ	1. によい橙色 2. 粘土粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。 頸部覆削り。
15	土師器 壺	覆土	25.0 — — 口縁部ㄥ	1. 灰褐色 2. 黒色細粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部肥厚、外反、横撫で。 頸部覆削り。
16	土師器 壺	北西隅 +4	24.5 — — ㄥ	1. 橙色。2. 黒色細粒、粘土粒 含む 3. 酸化焰 良好	球形胴部、横方向筋削り。頸部筋目。横撫で。 口縁部外反横撫で。内面頸部くの字に筋目。
17	機	北西隅直	16.0 10.4 7.2	1,970.3 μ	粗粒安山岩



第198図 50号住居跡実測図

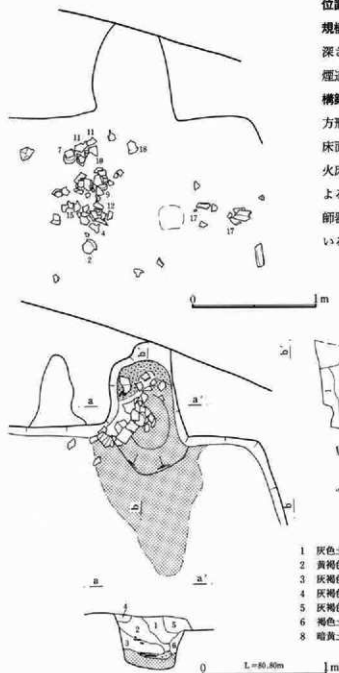
50号住居跡 (写真図版44・90・91)

位置 G-49・50グリッド 方位 N-80°-E

重複 51号住居を切る格好になっているが、拡張住居の可能性もある。西壁を2号溝、西半分を140号土坑、中央を26号溝に切られ、その他小ピットにも切られている。

規模 東西4.1m 南北4m 方形を呈す。

壁高 20cm前後 垂直に立ち上がる。



第199図 50号住居跡電突測図

貯蔵穴 無し 柱穴 無し 周溝 無し

床面 暗褐色土に黄褐色土塊・焼土・灰混じりの、混土を踏み固めている。

掘形 51号住居との重複があるため不明。

遺物 電前に電からの土師器壺・坏片の崩落見られる。北東隅に鉄斧出土。

電

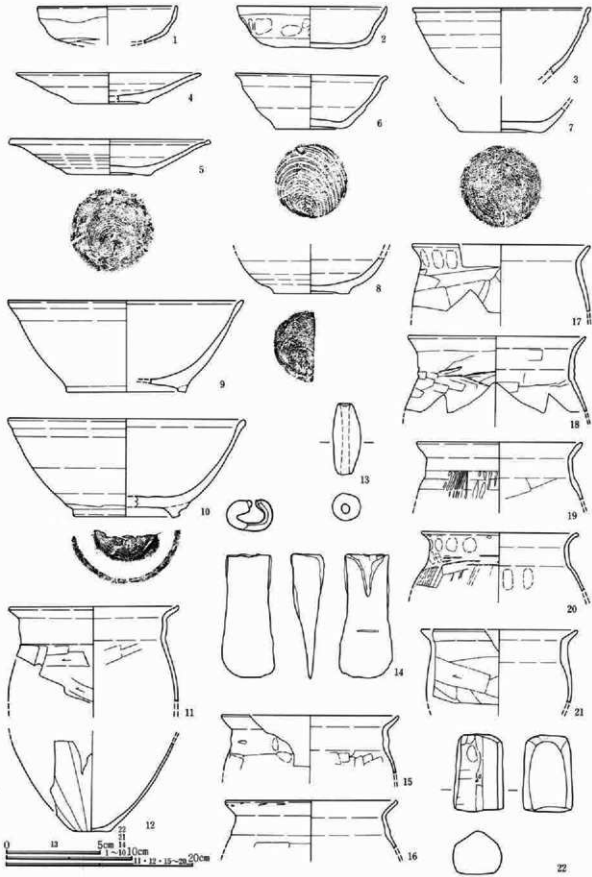
位置 東壁南

規模 焚口部幅55cm 燃焼部奥行き65cm・幅50cm・深さ40cm 煙道部は調査区外
煙道部への立ち上がり部分路線外のため不明。

構築 燃焼部は壁外にあり、袖を持たない。掘形は方形を呈し、壁面は垂直に立ち上がる。火床面は、床面より5cm程低く、10数cmの灰層の堆積見られる。火床面上面には焼土の堆積見られ、天井部の崩落によるものと思われる。電内及び周辺出土遺物は、土師器壺片を中心に南東から北西にかけて崩れ落ちているような出土状況を呈する。

- | | | |
|---|-------|---------------|
| 1 | 灰色土 | 黄土粒・焼土粒僅かに含む。 |
| 2 | 黄褐色土 | 黄土粒・塊主体。 |
| 3 | 灰褐色土 | 黄土粒・焼土粒僅かに含む。 |
| 4 | 灰褐色土 | 焼土・黄土塊含む。 |
| 5 | 灰褐色土 | 黄土塊・焼土粒僅かに含む。 |
| 6 | 褐色土 | 焼土粒やや多く含む。 |
| 8 | 暗黄土色土 | 焼土粒・灰多量に含む。 |

第1節 1区検出の遺構と遺物



第200図 50号住居跡出土遺物実測図

第II章 上栗須遺跡

50号住居出土遺物観察表

番号	器 類 形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整 形 ・ 調 整 の 特 徴
1	土 師 器 杯	北西 -2	10.9 - 2.4 口径部残	1. 橙色 2. 細砂粒僅かに含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。体部指頭圧痕有り。 底部笠形、平底。
2	土 師 器 杯	南東 +3	10.7 - 3.2 口縁部残	1. 橙色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。口唇部折り返し。内面撫で。 体部指頭圧痕有り。底部中央窪削り。
3	須 恵 器 椀	北東 +3	13.8 - - 底部欠損	1. 暗灰色 2. 細砂 白色粒含む 3. 還元焰 硬質	縦縞整形。口縁部横撫で。口唇部外反。 体部内面。
4	須 恵 器 皿	南東 +11	14.6 5.8 2.4 残	1. 浅黄色 2. 砂粒 粘土粒含む 3. 酸化焰 良好 軟質	縦縞整形。ほぼ直縁で開く。表面摩耗。 底部高台部貼り付け痕。
5	須 恵 器 皿	南東 床直	15.6 6.7 2.8 完形	1. 灰色 2. 細砂 白色粗砂含む 3. 還元焰 硬質	縦縞整形。口縁部僅かに水平に外反。 体部直縁の間に、底部右回転糸切り。
6	須 恵 器 杯	北西 +14	11.8 5.5 4.2 口縁部残	1. 灰白色 2. 黒色細砂粒僅かに含む 3. 還元焰 硬質	縦縞整形。口唇部撫で、外反。 底部左回転糸切り。
7	須 恵 器 杯	南東 +7	- 6.5 1.7 底部残	1. 底部黒色 2. 細砂 小石含む 3. 還元焰 良好	底部回転糸切り。周辺部撫で。
8	須 恵 器 杯	南東 +13	- 6.0 2.8 胴部～底部残	1. 灰白色 2. 粘土粒 細粒含む 3. 還元焰 良好	縦縞整形。 底部右回転糸切り。
9	須 恵 器 椀	南東 +16	18.4 9.4 7.2 口縁部～底部残	1. 黒褐色 2. 砂粒含む 3. 還元焰 良好	縦縞整形。口縁部僅かに外反。体部僅かに内凹。 高台部貼り付け、台形。回転糸切り。
10	須 恵 器 椀	北東 +12	18.5 8.2 2.7 口縁部～底部残	1. 黒褐色 2. 細砂 粘土粒含む 3. 還元焰 良好	縦縞整形。口唇部外反。体部内凹。高台部貼り付け 台形状を呈し、内外面撫で。底部撫で調整。
11	土 師 器 壺	南東 +12	17.8 - - 残	1. 橙色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 やや軟質	頸部～口縁部コの字状、横撫で。頸部強い横撫で。 胴上部横方向窪削り。口唇部撫で端部。
12	土 師 器 壺	南東 +3	- 3.8 - 底部残	1. 橙色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 やや軟質	底部小さく窪削り。 胴下半部方向窪削り。
13	土 製 品 土 鏝	北西 床直	3.7 1.4 7.7 R	1. くすんだ褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	棒状工具に粘土を巻き付け整形。
14	鉄 斧	北西隅	19.7 4.1 2.5	168, 72 R	ソケット状の差し込み口を持ち、内厚。
15	土 師 器 壺	南東 +10	19.0 - - 残	1. くすんだ褐色 2. 僅かに砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部～頸部コの字意濃。口唇部撫で。 頸部同環強い横撫で。内面寛撫で。
16	土 師 器 壺	南西 -1	18.2 - - 口縁部残	1. くすんだ褐色 2. 細粒 粘土粒含む 3. 酸化焰 良好	口唇部横撫で。直方向横撫で。爪形の直跡有り。 頸部横撫で。胴上半部横方向の窪削り。
17	土 師 器 壺	南西 -2	18.6 - - 口縁部残	1. 橙色 2. 細砂 粘土粒多く含む 3. 酸化焰 軟質	口縁部横撫で。指頭圧痕有り。頸部横撫で。 胴上部横方向窪削り。
18	土 師 器 壺	南西隅 +6	18.8 - - 口縁部-胴部	1. 赤褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口唇部～頸部横撫で。内面撫で。 胴部やや球形、胴上部横方向窪削り。
19	土 師 器 壺	電内 +14	17.8 - - 口縁部片	1. ぶい褐色。2. 細砂、粘土粒僅かに含む 3. 酸化焰 良好	口縁部～頸部コの字意濃、横撫で。口縁部肥厚。 内面横撫で。胴部横撫で。胴上部横方向撫で。

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
20	土器 壺	電内	16.4 — — 口径部写	1. におい赤褐色 2. 粘土粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部コの字状呈す。口唇部やや肥厚、外反。 指頭圧痕有り。頸部横無で、指頭圧痕有り。
21	土器 壺	南東 +3	12.2 — 5.7 口径部破片	1. 胎色。2. 細砂粒含む。 3. 酸化焰 良好	口縁部へ頸部コの字状、頸部肥厚。 胴上部横方向彫削り。
22	紙石	南西隅 -1	8.2 5.2 — 320#		円柱状を呈する。端面に線刻あり。

51号住居跡 (写真図版44・45・91)

位置 G-49・50グリッド

重複 50号住居同様140号土坑、2号・26号溝に切られている。50号住居とは北壁・西壁が一致する。

規模 東西3.6m 南北3.2m ほぼ方形を呈する。

壁高 30cm前後 50号住居内に入るため、壁面の状況は不明。

貯蔵穴 住居南東隅、70cm程壁外に飛び出し、1.2

m×1.4mの隅丸長方形。掘形はレンズ状を呈す。覆土上面に灰の堆積見られる。出土遺物は台付壺や須恵器坏などがある。また、掘形面精査中東壁北寄りに同規模の土坑を検出、刀子や土器器壺・坏類の出土あり。

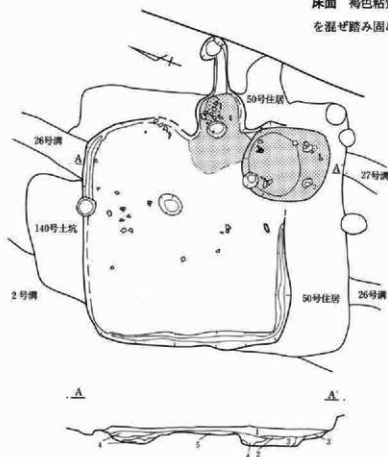
柱穴 無し

周溝 東壁を除き、上端15cm前後、深さ10cm前後の規模を持ち全周する。

床面 褐色粘質土に灰白色粘質土、黄褐色粘質土塊を混ぜ踏み固めている。電前から左右貯蔵穴にかけては焼土・灰の広がりがみられる。

掘形 住居中央に径1m、深さ10cm程の円形土坑検出した。掘形面は小さな凹凸は見られる。

遺物 貯蔵穴内や電内から土器器壺・坏、須恵器坏等出土。また、土鏝・鉄鏝なども出土している。



- 1 灰褐色土 焼土粒・炭混じり
- 2 黒褐色土 灰混じり
- 3 暗黄褐色土 焼土・炭含む
- 4 灰褐色土 焼土・炭含む
- 5 灰褐色土 堅く踏み固められている

第201図 51号住居跡実測図

竈

位置 東壁中央南より

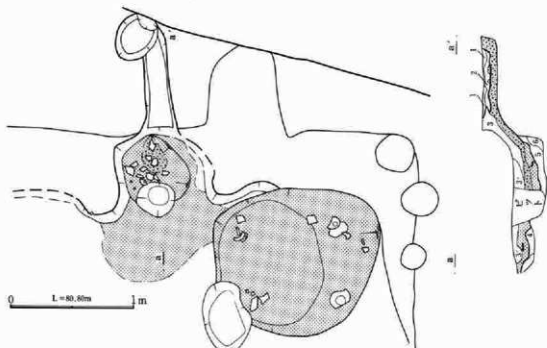
規模 焚口部幅60cm 燃焼部奥行き60cm・幅70cm・

深さ50cm 煙道部長さ80cm・幅20cm

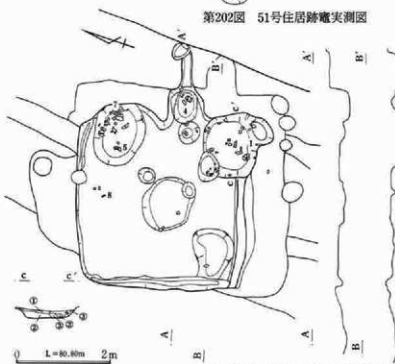
煙道部への立ち上がり30cm 垂直に立ち上がる。

構築 燃焼部は壁外にあるが、地山黄褐色土を掘り残した袖を芯を持つ。燃焼部壁面は削平され不明。

火床面は床面より10cm程低く、下層に10cm程の灰層、また、上層には天井部の崩落と思われる5cm程の焼土層の堆積見られる。煙道部は水平方向に伸びる。掘形は方形で壁面は垂直に立ち上がり、赤茶色に焼けている。覆土中には天井部の崩落土である焼土の堆積が多く見られる。



第202図 51号住居跡竈実測図



第203図 51号住居跡床下実測図

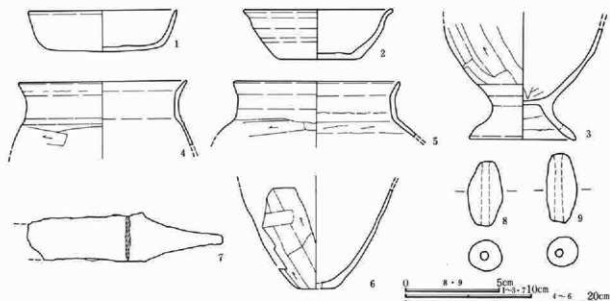
貯蔵穴土層

- | | |
|---------|---------------------|
| ① 黒灰色 | 灰層、焼土混じり。 |
| ② 暗黄褐色土 | 灰褐色・黄褐色混じり。 |
| ③ 灰褐色土 | 黄土粒・焼土粒・灰層か
に含む。 |

竈

- | | |
|----------|---------------|
| 1 褐色土 | 黄土粒・焼土粒層かを含む。 |
| 2 " | 焼土・多量に含む。 |
| 3 暗黄土色土 | 黄土粒・塊混じり。 |
| 3' 灰色土 | 黄色土塊含む。 |
| 4 暗灰褐色土 | 焼土・灰含む。 |
| 5 灰褐色土 | 黄土塊含む。 |
| 6 黄色粘質土塊 | |

第1節 I区検出の遺構と遺物



第204図 51号住居跡出土遺物実測図

51号住居出土遺物観察表

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
1	土器 杯	南東 +3	11.7 8.0 3.3 ほぼ完整	1. 褐色 2. 黒色細粒 細砂 粘土粒含む 3. 酸化焰 軟質	口縁部横撫で、底部平底、寛削り。
2	須恵器 杯	貯蔵穴内 +8	11.6 6.0 3.9 瓦	1. 褐色 2. 粘土粒含む 3. 還元焰 軟質	輪轆整形。口縁部強い横撫で。口唇部外反。 回転糸切り未調整。
3	土器 台 杯 壺	貯蔵穴内 +7	- 8.3 - 胴部~脚部瓦	1. ぶい褐色 2. 細砂、粘土 粒含む 3. 酸化焰 良好	体部寛削り。内面磨盤で。脚部への字に開く。 先端内傾。体部との接合部横撫で。
4	土器 壺	室内 鬆形	18.0 - - 口縁部破片	1. 明赤褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	胴部弱いコの字呈す。口縁部外反、横撫で。 内面平坦面。胴部横方向旋削り。
5	土器 壺	床下土坑	17.6 - - 口縁部破片	1. ぶい褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	弱いコ字状口縁、口縁部横撫で。口唇部僅かに内 傾。頸部平坦面横撫で。下端強い横撫で。
6	土器 壺	南東	- - - 胴下部~底部	1. 褐色 2. 細砂 粘土粒含む 3. 酸化焰 良好	底部小さく不安定、旋削り。胴部 縦方向旋削り、直線。
7	鉄 器	床下土坑	15.6 3.9 0.3	67.9#	刀子先端部欠損。関節部角をなし基に至る。
8	土製品 土 鏝	鬆形	3.5 1.8 -	1. ぶい褐色 2. 粘土粒 粗 砂含む 3. 酸化焰 良好	棒状工具巻き付け。両端準直度有り。
9	土製品 土 鏝	覆土	3.7 1.8 -	1. ぶい褐色 2. 細砂 粘土 粒含む 3. 酸化焰 良好	棒状工具巻き付け。両端準直度有り。

52号住居跡 (写真図版45・91)

位置 G-47・48グリッド

重複 53・54号住居を切り、18号溝・小ピットに切
られている。東半分は調査区外であるため未調査。

規模 西壁3.8m

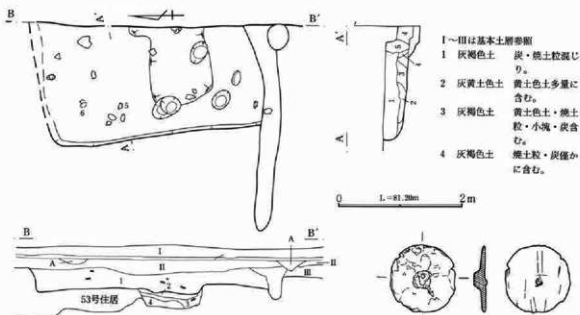
壁高 20cm前後 垂直に立ち上がる。

貯蔵穴 不明 柱穴 無し 周溝 無し

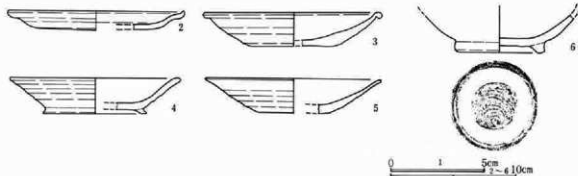
床面 黄褐色土塊、褐色土塊の混土

掘形 住居中央部及び北寄りに、深さ20cmの長方形
の土坑を検出。 竈 不明

第II章 上栗須遺跡



第205図 52号住居跡実測図



第206図 52号住居跡出土遺物実測図

52号住居出土遺物観察表

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴	
1	鉄製品	覆土	7.0 9.3	16.88		円盤状鉄製品。完存。中央部円形突起である。
2	土師器 杯	覆土	14.1 - 1.5		1. 褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化相 良好	口縁部横側で、口唇部折り返し。 胴部鋭削り。
3	須恵器 椀 +9	掘形 灰	13.5 - 2.6		1. 灰黄色 2. 細砂粒含む 3. 中性相 軟質	輪軸整形。口唇部外側に折り返し。 高台部貼り付け痕。
4	須恵器 皿	覆土	13.0 (8.2) 2.8 灰		1. 灰黄色 2. 細砂 粘土粒含む 3. 中性相 軟質	輪軸整形。口縁部僅かに外反。 体部僅かに内湾。底部高台部貼り付け。
5	須恵器 杯	北西 +8	13.8 5.4 2.7 灰		1. 灰色 2. 砂粒含む 3. 還元相 軟質	口縁部僅かに外反。 体部直線的に開く。
6	須恵器 椀 +6	北西 +6	- 6.6 (2.8) 灰		1. 灰黄色 2. 砂粒含む 3. 還元相 硬質	底部回転糸切り。高台部貼り付け。僅かにハの字に 開き、全面横側で。輪軸整形。



第207図 53号住居跡実測図

53号住居跡 (写真図版45・91・92)

位置 G-47グリッド 方位 N-67°W

重複 52号住居に切られ、54号住居を切っている。

南東半分は調査区外であるため未調査。

規模 西壁部2.5m

壁高 50cm前後 垂直に立ち上がる。

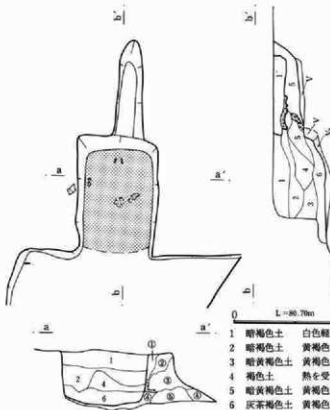
貯蔵穴 不明 柱穴 無し 周溝 無し

床面 暗褐色土に黄褐色土塊を含み踏み固められている。電前は焼土・灰の広がりが僅かに見られる。

掘形 54号住居と重複しているため、確認出来ない。

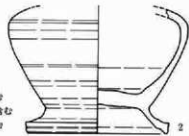
遺物 南隅寄りに、上半分の欠けた長頸瓶が出土し中に土師器片が入って出土。

- 1 暗褐色土 焼土粒・炭塵かを含む
- 2 暗褐色土 1層に黄褐色土含む
- 3 褐色土 黄褐色土塊多く含む
- 4 褐色土 黄褐色土塊混じり
- 5 灰褐色土 黄褐色土塊多量を含む



第208図 53号住居跡電測図

- ① 灰褐色土 黄褐色土・焼土 ④ 褐色土 黄褐色土塊含む
僅かに含む
- ② 暗黄褐色土
- ③ 暗黄褐色土 褐色土塊含む
- ⑤ 褐色土 僅かに黄褐色土 粒含む



第209図 53号住居跡出土遺物実測図



竈

位置 北壁西コーナー寄り

規模 焚口部幅55cm 燃焼部奥行き95cm・幅65cm・

深さ40cm 煙道部長さ70cm・幅25cm

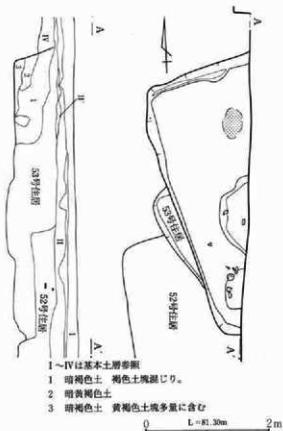
煙道部への立ち上がり18cm 緩く立ち上がる。

構築 燃焼部は壁外にあり、袖を持たない。壁面は

垂直に立ち上がり、赤茶色に焼き締まる。火床面は床面より僅かに高く、焼土・灰・炭化物が散乱している。煙道部は水平方向に伸び、煙出し部で緩く立ち上がる。掘形は横15×縦10cmのやや長方形を呈し、側壁から天井にかけて焼土化している。

53号住居出土遺物観察表

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
1	土師器 坏	南西 +2	12.5 - 3.3 完形	1. 棕色 2. 細砂粒 粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。底部磨削り。やや平底気味。 内面無で。2の器内より出土。
2	須恵器 長頸壺	南西 -2.4	- 15.0(13.2) 体部上~底部迄	1. 灰白色 2. 粗砂 小石含む 3. 還元焰 硬質	口縁部欠損。肩部張り、台部との接合部破り混まれる。横撫で。台部直線的に開くが、割部は外縁。



第210図 54号住居跡実測図

54号住居跡 (写真図版45・92)

位置 G-47グリッド

重複 52・53号住居に切られている。東半分は調査区外であるため未調査。

規模 西壁4.1m

壁高 40cm前後 垂直に立ち上がる。

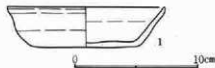
貯蔵穴 不明 柱穴 不明 周溝 無し

床面 暗褐色土に黄褐色土塊含み、踏み固めている。

掘形 径1.2mの円形土坑を検出した。

遺物 無し

竈 不明



第211図 54号住居跡出土遺物実測図

54号住居出土遺物観察表

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
1	土師器 坏	覆土	12.4 8.3 3.1 ほぼ完形	1. 明赤褐色 2. 細砂粒 粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。体部指押さえ。 底部磨削り。

3 掘立柱建物跡

1号掘立柱建物跡 (写真図版47・92)

位置 J・K-45グリッド 方位 N-29°-E
 重複 37号住居南壁を切る。P 6・7が52・51土坑と重複する。

規模 2間 (2.7m) × 3間 (3.9m)

面積 10.53㎡ 形状 長方形

柱穴 掘形円形を呈する。棟方向に2本の柱穴が見られ、規模や柱間などが異なる事から、東柱と考えられる。

2号掘立柱建物跡 (写真図版47)

位置 I・J-47・48グリッド

方位 N-0°

重複 32号住居中に入まる恰好となり、住居の東西両壁を柱穴が切っている。

規模 2間 (4m) × 3間 (5.8m)

面積 23.2㎡ 形状 長方形

柱穴 隅丸方形に近い掘形を持ち、底面は平底を呈する。西列では、各柱穴が2本分の掘形を持ち、40cmの間隔で平行に並ぶ。また、桁行き両辺の中1間の柱間は、外側の柱間に比べ短い。

3号掘立柱建物跡 (写真図版47・92)

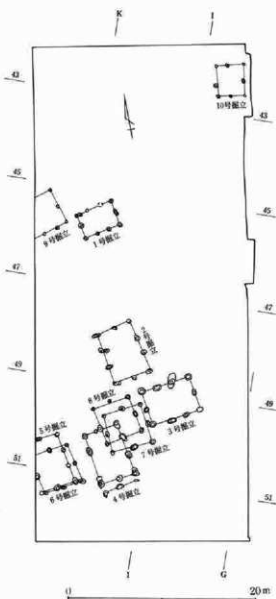
位置 H・I-48・49グリッド 方位 N-28°-E

重複 2号溝に切られている。

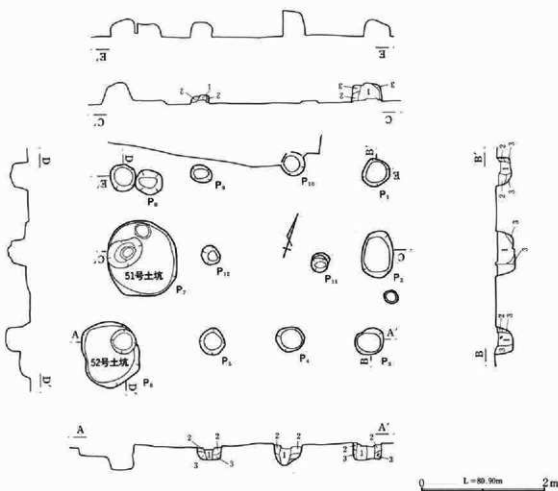
規模 2間 (3.9m) × 3間 (5.2m)

面積 20.3㎡ 形状 長方形

柱穴 掘形は長方形を呈し、柱間と同じ走行に掘られる。底面には柱の当たっていた部分があり、青緑色に変色している



第212図 掘立柱建物跡全体図



- 1 暗褐色土 黄色土粒・炭土・炭粒少量含む。
 2 暗褐色土 黄色土粒・炭や多く含む。
 3 褐色土 黄色焼を多く含む。

第213図 1号掘立柱建物跡実測図

1号掘立柱建物跡 柱穴規模

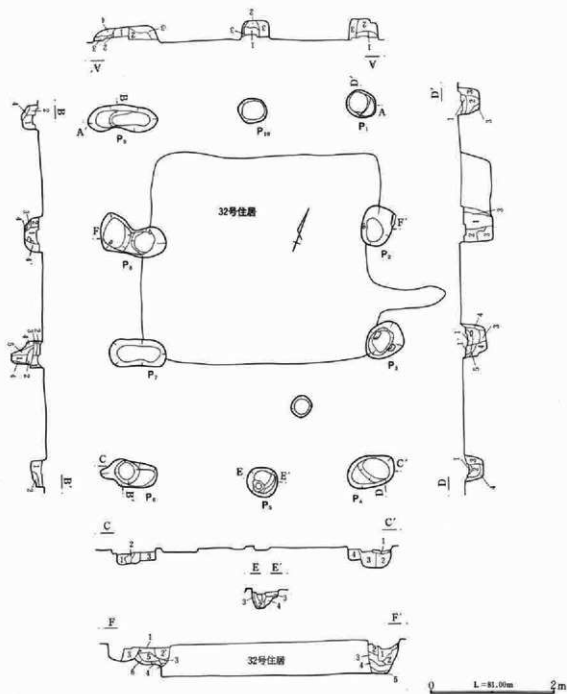
柱穴	長径	短径	深さ	柱穴	長径	短径	深さ	柱穴	長径	短径	深さ	柱穴	長径	短径	深さ	柱穴	長径	短径	深さ
1	48	46	22	2	64	46	30	3	44	40	28	4	46	44	36	5	38	40	22
6	40	40	40	7	54	50	30	8	84	44	26	9	32	34	22	10	30	20	40
11	40	32	26	12	32	32	28												

2号掘立柱建物跡 柱穴規模

柱穴	長径	短径	深さ	柱穴	長径	短径	深さ	柱穴	長径	短径	深さ	柱穴	長径	短径	深さ	柱穴	長径	短径	深さ
1	48	40	30	2	82	50	40	3	65	50	54	4	76	50	28	5	48	46	30
6	60	44	24	7	90	40	52	8	104	55	32	9	110	40	25	10	44	38	29

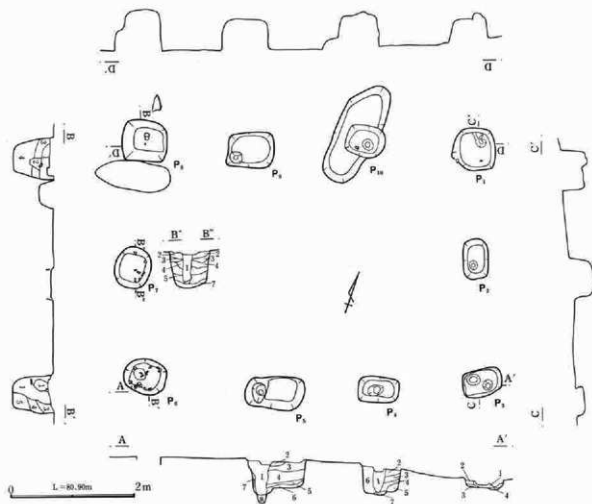
3号掘立柱建物跡 柱穴規模

柱穴	長径	短径	深さ	柱穴	長径	短径	深さ	柱穴	長径	短径	深さ	柱穴	長径	短径	深さ	柱穴	長径	短径	深さ
1	70	64	32	2	64	40	30	3	64	46	16	4	66	40	42	5	94	52	60
6	68	58	54	7	68	56	58	8	74	66	60	9	74	56	50	10	64	50	50



- | | | |
|---------|--------------|------------|
| 1 暗褐色土 | 黄土色塊含む。 | 6 暗黄土色塊 |
| 2 暗黄土色土 | 黄土色塊主体。 | 7 暗褐色土 |
| 3 暗褐色土 | 黄土色塊含む。 | 7' 暗褐色土 |
| 4 暗黄土色土 | 黄土色塊主体。 | 8 焼土・炭屑じり。 |
| 5 暗褐色土 | 黄土色粒・塊層かに含む。 | 8 暗褐色土 |
| | | 焼土。 |

第214図 2号掘立柱建物跡実測図



- | | |
|-----------------------------|---------------------|
| 1 暗褐色土 黄褐色土粒・塊・木炭粒少量含む。 | 5 黄褐色土 |
| 2 黄褐色土 黄褐色粒土塊を斑点状に・木炭塊かを含む。 | 6 暗褐色土 黄褐色小塊を多目に含む。 |
| 3 暗褐色土 黄褐色粒土塊を斑点状を含む。 | 7 暗褐色土 やや灰褐色気味。 |
| 4 暗褐色土 | |

第215図 3号掘立柱建物跡実測図

4号掘立柱建物跡 (写真図版49)

位置 I・J-49~51グリッド

方位 N-17°-W

重複 28号住居と庇部分で切り会う、7・8号掘立柱建物と重なり合う。新旧関係は不明。

規模 2間 (3.6m) × 3間 (5.6m) 庇を持つ。

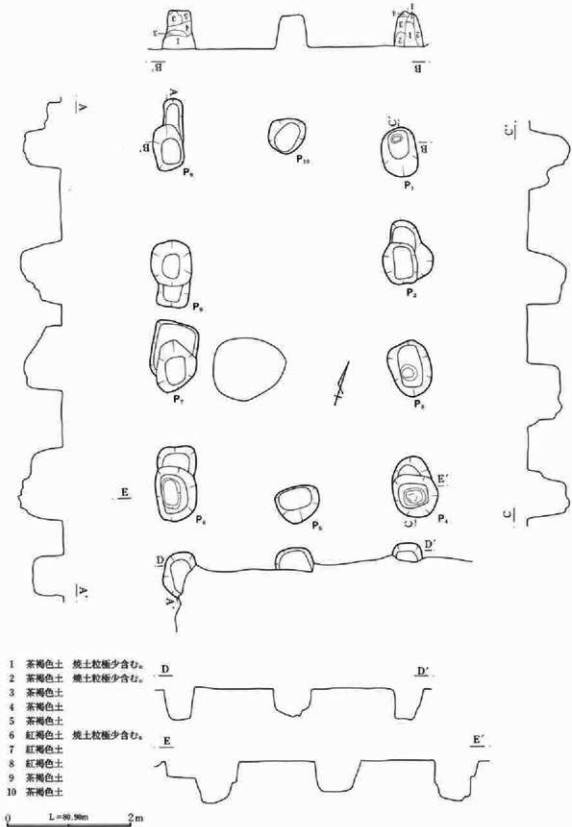
面積 20.2㎡ 形状 長方形

柱穴 掘形は、柱間と同方向に掘られ隅丸長方形を呈する。また、柱穴底面には、柱の当たっていた部分は重圧により窪み、何本かは青緑色に変色している。柱を打ち込んだ痕跡は見られない。

備考 庇部分は1m程張り出す。

4号掘立柱建物跡 柱穴規模

柱穴	長径	短径	深さ	柱穴	長径	短径	深さ	柱穴	長径	短径	深さ	柱穴	長径	短径	深さ
1	78	54	68	2	62	54	54	3	80	66	60	4	72	68	62
6	116	64	70	7	80	56	60	8	70	62	62	9	70	44	60
11	46		50	12	58		42	13	50		48				



第216図 4号掘立柱建物跡実測図

5号掘立柱建物跡 (写真図版47・92)

規模 2間 (3.7m) × 3間 (5.4m)

位置 J・K-50・51グリッド 方位 N-20°-W

面積 16.7m² 形状 長方形

重複 6号掘立柱建物と重なり合う。北東隅は調査区外。

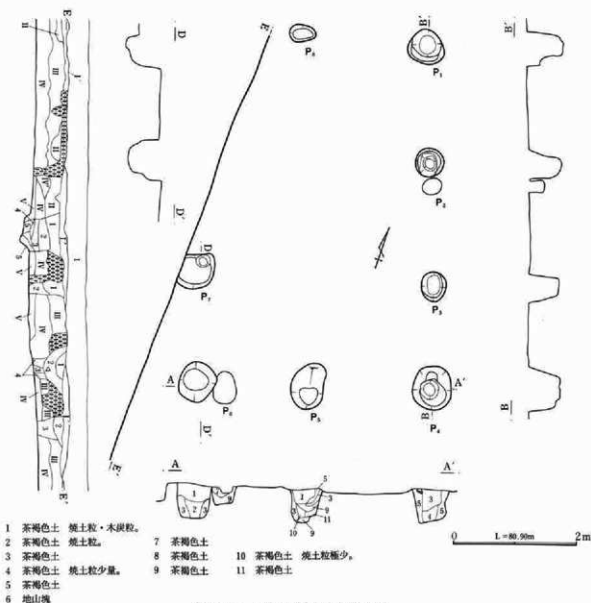
柱穴 掘形は円形を呈し、柱痕未確認。

5号掘立柱建物跡 柱穴規模

柱穴	長径	短径	深さ	柱穴	長径	短径	深さ	柱穴	長径	短径	深さ	柱穴	長径	短径	深さ
1	60	50	58	2	44	56	56	3	44	40	48	4	68	60	50
6	62	60	54	7	60	54	54	8	42	30	48				

6号掘立柱建物跡 柱穴規模

柱穴	長径	短径	深さ	柱穴	長径	短径	深さ	柱穴	長径	短径	深さ	柱穴	長径	短径	深さ
1	44	40	40	2	44	42	42	3	66	40	44	4	40		34
6	46	38	40	7	50		26					5	50	34	28



第217図 5号掘立柱建物跡実測図

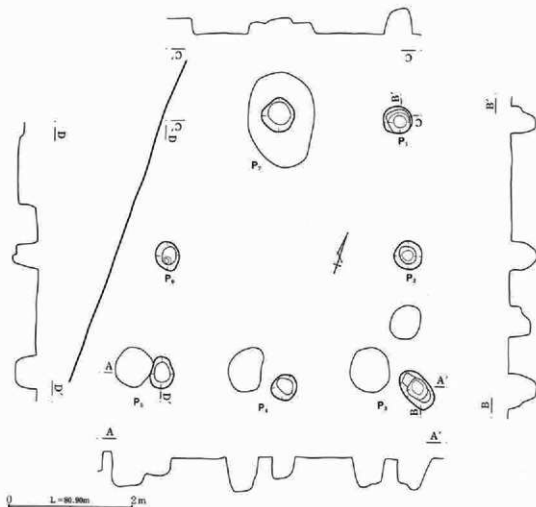
6号掘立柱建物跡(写真図版48)

規模 2間(4m)×2間(4m) 東辺(4.3m)

位置 J・K-50・51グリッド 方位 N-20°-W

面積 16.4㎡ 形状 東辺の長い台形。

重複 5号掘立柱建物と重なり合う。

柱穴 東南柱穴P₃が外に飛び出す形となる。

第218図 6号掘立柱建物跡実測図

7号掘立柱建物跡 柱穴規模

柱穴	長径	短径	深さ	柱穴	長径	短径	深さ	柱穴	長径	短径	深さ	柱穴	長径	短径	深さ	柱穴	長径	短径	深さ
1	40	36	42	2	56	48	50	3	52	44	62	4	72	56	62	5	60	56	44
6	40		40	7	48		50	8	56		56								

8号掘立柱建物跡 柱穴規模

柱穴	長径	短径	深さ	柱穴	長径	短径	深さ	柱穴	長径	短径	深さ	柱穴	長径	短径	深さ	柱穴	長径	短径	深さ
1	52	48	46	2	70	50	46	3	62	42	60	4	62	54	60	5	50	40	52
6	62	54	58	7	40		22	8	42	38	48								

9号掘立柱建物跡 柱穴規模

柱穴	長径	短径	深さ	柱穴	長径	短径	深さ	柱穴	長径	短径	深さ	柱穴	長径	短径	深さ	柱穴	長径	短径	深さ
1	40		30	2	26		30	3	30		24	4	40	24	20	5	26	24	16

7号掘立柱建物跡 (写真図版49)

位置 I・J-49・50グリッド 方位 N-14'-W
 重複 27号住居、4・8号掘立柱建物と重なり合う。
 規模 2間 (4.2m)×2間 (4.2m)
 面積 17.6㎡ 形状 正方形
 柱穴 掘形円形。底面に青緑色の変色部分見られる。

9号掘立柱建物跡 (写真図版48)

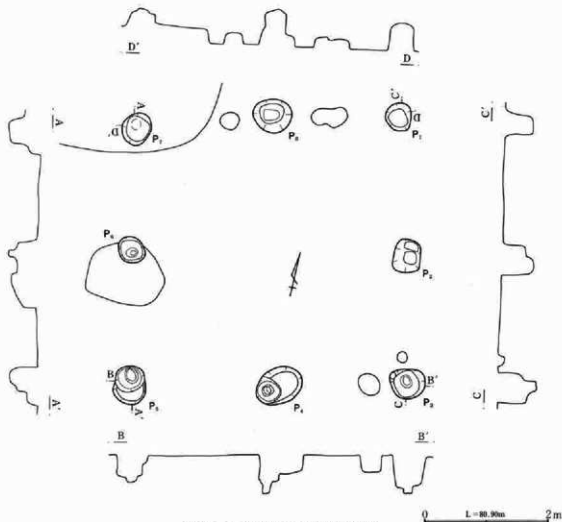
位置 K-45グリッド 方位 N-26'-W
 重複 42・43号住居を囲む形で確認されたが、北・西辺部分が調査区外であり、また住居との重複があるため全形は不明。
 規模 2間 (3.9m)×2間 (2.8m)
 面積 不明 形状 不明
 柱穴 円形又は楕円形を呈する。

8号掘立柱建物跡 (写真図版48)

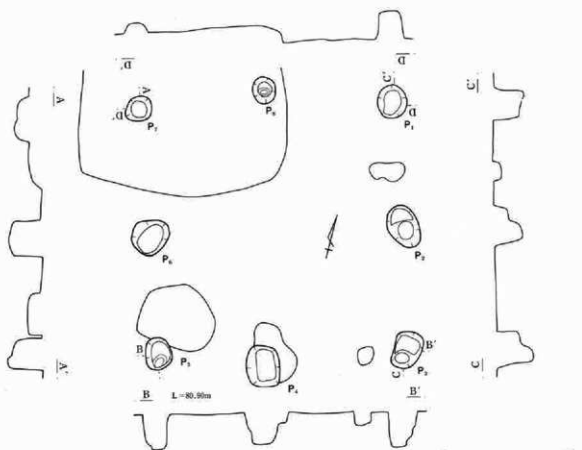
位置 I・J-49・50グリッド 方位 N-21'-W
 重複 27号住居、4・7号掘立柱建物と重なり合う。
 規模 2間 (4m)×2間 (4m)
 面積 16㎡ 形状 正方形
 柱穴 掘形円形又は楕円形状を呈する。南・北辺中央柱穴は外に出ている。

10号掘立柱建物跡 (写真図版48)

位置 H-42グリッド 方位 N-0'
 重複 無し
 規模 2間 (2.8m)×2間 (3.2m)
 面積 8.9㎡ 形状 正方形
 柱穴 掘形正方形又は円形を呈する。覆土中には、As-Bが混じる。



第219図 7号掘立柱建物跡実測図

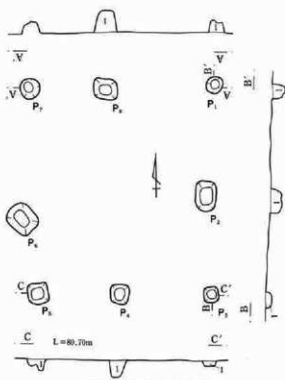


第220図 8号掘立柱建物跡実測図

- 1 暗褐色土 炭粒少量含む。
- 2 暗褐色土
- 3 暗褐色土 黄色土粒 多量に含む。
- 4 褐色土 黄色土塊 多量に含む。
- 5 灰褐色土
- 6 黄褐色土



第221図 9号掘立柱建物跡実測図



1 暗褐色土 黄色小塊・砂粒を含む。
第222図 10号掘立柱建物跡実測図

10号掘立柱建物跡 柱穴規模

柱穴	長径	短径	深さ	柱穴	長径	短径	深さ	柱穴	長径	短径	深さ	柱穴	長径	短径	深さ	柱穴	長径	短径	深さ
1	28		20	2	48	34	18	3	26		10	4	30		28	5	32		18
6	50	42		7	32		34	8	40	32	18								



第223図 掘立柱建物跡出土遺物実測図

掘立柱建物跡出土遺物観察表

番号	器 種 器 形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 構成	整形・調整の特徴
1	土師器 杯	3号掘立 P。	14.2 — 3.7 口縁～底部片	1. におい褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。体部下半部撫で。 底部直削り。
2	須恵器 杯	3号掘立 P。	12.1 7.5 3.5 口縁～底部片	1. 灰白色 2. 砂粒含む 3. 還元焰 硬質	輪軸整形。底部との境界撫で。 底部、回転未切り直。
3	土師器 壺	4号掘立 P。	12.8 — — 片	1. におい褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。指頭圧痕有り。 内面撫で。底部手持ち直削り。
4	土師器 壺	4号掘立 片	— (5.0) — 片	1. におい赤褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 軟質	口縁部欠損。体部下端横削り。 底部直削り。
5	須恵器 杯	5号掘立	12.7 6 4.8 完形	1. 灰色 2. 粗砂 小石含む 3. 還元焰 硬質	輪軸整形。底部回転未切り。
6	須恵器 杯	5号掘立	— 9.3 4.5 完形	1. 灰色 2. 粗砂 白色粒含む 3. 酸化焰 やや軟質	口縁部欠損。体部直線的に立ち上がる。内面摩擦 高台部貼り付け。回転未切り直。
7	土師器 壺	1号掘立 P。	— — — 口縁～底部片	1. におい褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	胴部斜方向直削り。

4 土 坑

16号土坑 (写真図版50)

位置 L・M-20グリッド 方位 N-90°-E

規模 長辺2.98m、短辺1.5m、深さ0.14m

重複 無し 形状 長方形 遺物 無し

備考 縄文時代陥穴、法面に段をもつ、底面平底。

17号土坑 (写真図版50)

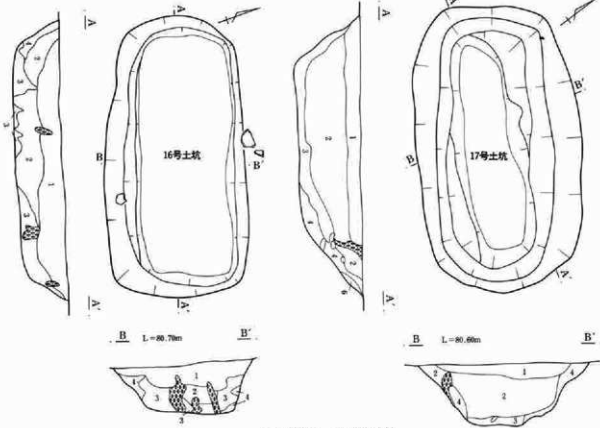
位置 L-22グリッド 方位 N-66°-W

規模 長辺2.96m、短辺1.52m、深さ0.27m

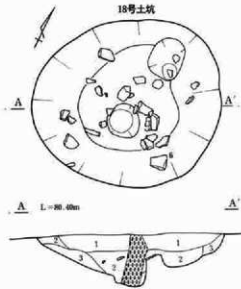
重複 無し 形状 長方形 遺物 無し

備考 縄文時代陥穴、法面に段をもつ

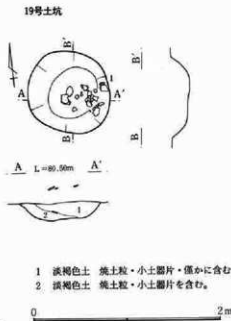
第1節 I区検出の遺構と遺物



- 1 暗褐色土 黄色土粒含む。
 - 2 黒褐色土 黄色土粒、僅かに含む。
 - 3 黄褐色土を含む。
 - 4 暗黄褐色土 黄色土粒塊主体、微砂質。
- 17号 16号土坑と同じ



- 1 暗褐色土 粒子の細かい砂粒に黄色粒少量含む。
- 2 暗褐色土 1層に黄色粒をやや多く含む。
- 3 明褐色土 1層に黄色粒塊を多量に含む炭粒少量含む。



- 1 淡褐色土 焼土粒・小土器片・僅かに含む。
- 2 淡褐色土 焼土粒・小土器片を含む。

第224図 土坑実測図

18号土坑 (写真図版51)

位置 N-23グリッド 4号古墳墳丘下

規模 長辺1m、深さ0.29m 形状 円形

遺物 縄文土器、石斧出土。

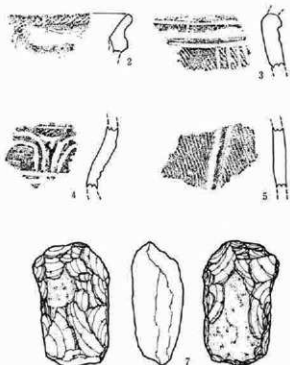


19号土坑 (写真図版)

位置 M-20・22グリッド 方位 N-82°-E

規模 長辺0.9m、短辺0.9m、深さ0.16m

重複 無し 形状 円形 遺物 縄文土器



第225図 土坑出土遺物実測図

土坑出土遺物観察表

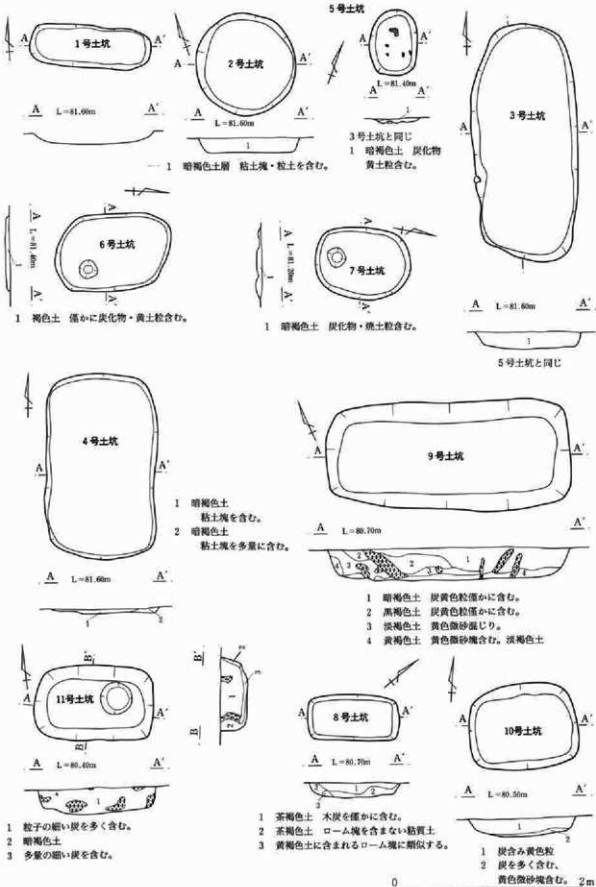
番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・高径・高さ 保存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	文様と器形の特徴
1	深鉢	19号土坑 +15	22 - -	1. 褐色 2. 石英・チャートの 礫・粗砂粒含む 3. 良好	1は縄文以外の文様をもたない深鉢形土器であるが、口唇外縁には縄文が割部とは異方向の横位に施文されている。2は口縁部に隆帯による仲状の区画文を施し、その上面に縄文を施文している。3は円形竹管状工具により横位および弧状の沈線区画文を施し、それらの接する部位に三角形刻文を施文している。4は隆帯のくびれ部に隆帯と円形竹管状工具による沈線を高め、その下位に複数本の懸垂線を描いた後に、縄文を縦位に施文している。5は隆帯を縦位に施した後に縄文を施文している。6は深鉢形土器の底部破片であるが無文である。寛状工具による斜位の彫形痕が認められる。各土器の縄文原形はともにLRである。
2	深鉢	18号土坑 包含層	- - -	1. 鈍い赤褐色 2. 研習母片岩 粗砂粒含む 3. 良好	1・2の口縁部はともに短く外折し、1の口唇部はわずかに折り返されて彫理している。1・6は二次焼成により表面が黒化し、1の割部の内外面にはわずかに黒位の炭化物が付着している。
3	深鉢	18号土坑 包含層	- - -	1. 鈍い赤褐色 2. 片岩・石英 礫を含む 3. 良好	各土器ともに五領ヶ台目式に比定される。
4	深鉢	18号土坑 包含層	- - -	1. 鈍い赤褐色 2. 研習母片岩 粗砂粒含む 3. 良好	扁平な河原石を素材として、その周縁に調整加工を施す。表面両面に溝面を残し、刃部を欠損。
5	深鉢	18号土坑 包含層	- - -	1. 鈍い赤褐色 2. 研習母片岩 粗砂粒含む 3. 良好	
6	深鉢	18号土坑 包含層	- - -	1. 鈍い赤褐色 2. 研習母片岩 粗砂粒含む 3. 良好	
7	打製石斧	18号土坑 包含層	長さ(9.8) 幅(6.0) 厚さ(4.0) 重さ(720) 石材硬質泥岩		

上栗須遺跡Ⅰ区土坑表

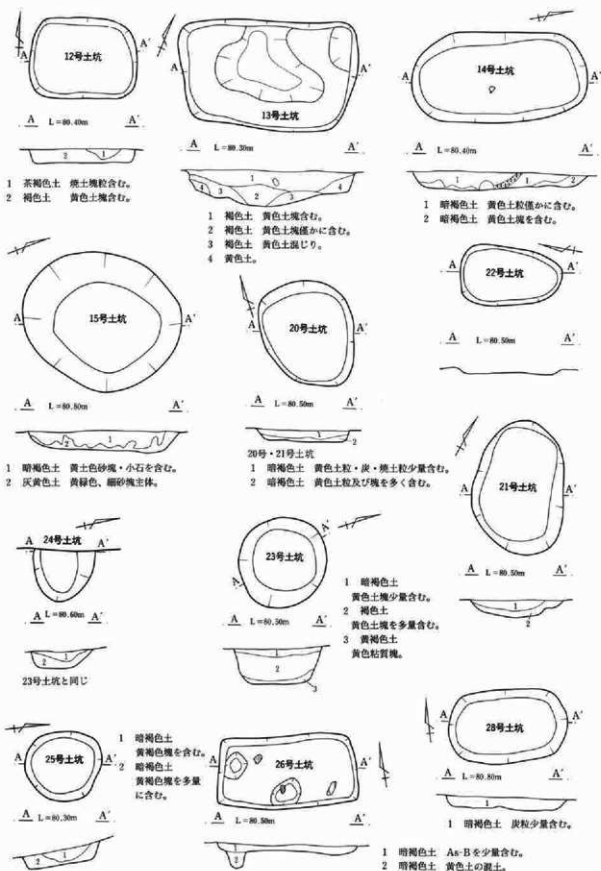
遺構名	位置	方位	規模			形状	備考
			長辺	短辺	深さ		
1号土坑	H-78	N-82°-E	1.30m	0.44m	0.11m	長方形	風筒木炭と絡む 木炭あり
2号土坑	H-74		1.06m		0.15m	円形	
3号土坑	H-73・74	N-5°-E	2.52m	1.34m	0.32m	隅丸長方形	
4号土坑	H-73	N-2°-E	1.96m	1.16m	0.06m	隅丸長方形	
5号土坑	F-70	N-30°-W	0.70m	0.52m	0.07m	隅丸長方形	
6号土坑	G-70	N-5°-W	1.24m	0.82m	0.03m	隅丸長方形	
7号土坑	H-68	N-7°-W	1.02m	0.78m	0.05m	長方形	
8号土坑	G-66	N-40°-E	1.00m	0.50m	0.19m	長方形	
9号土坑	P-13	N-65°-W	2.60m	1.20m	0.36m	長方形	
10号土坑	M・N-12	N-80°-E	1.20m	0.91m	0.27m	長方形	
11号土坑	M-9	N-75°-W	1.20m	0.80m	0.25m	長方形	
12号土坑	M-9	N-85°-E	1.00m	0.70m	0.13m	長方形	炭を多く含む焼土は見られない 焼土炭出土底面に多量の炭を含有。壁面は赤褐色に 焼土化しており炭等混じり火葬墓と考えられる。
13号土坑	O-10	N-75°-E	1.90m	1.00m	0.37m	長方形	
14号土坑	L-12	N-5°-E	2.00m	1.00m	0.20m	隅丸長方形	
15号土坑	O-18	N-66°-E	1.40m	1.10m	0.16m	楕円形	
20号土坑	M-28	N-5°-E	1.20m	0.90m	0.12m	楕円形	
21号土坑	M-28・29	N-28°-W	1.40m	1.00m	0.12m	隅丸方形	
22号土坑	M-26	N-10°-W	1.08m	0.60m	0.04m	楕円形	
23号土坑	M-31		0.92m		0.35m	円形	
24号土坑	M-31	N-10°-E	0.52m	0.64m	0.12m	平円形	
25号土坑	M-31		0.84m		0.06m	円形	
26号土坑	M-34	N-5°-W	1.36m	0.72m	0.11m	長方形	
27号土坑	I-42・43	N-10°-E	3.52m	1.28m	0.72m	長方形・楕形	底面に5cm大の小礫(河原石)を敷いている
28号土坑	I-42	N-85°-W	1.28m	0.06m	0.13m	隅丸方形	
29号土坑	I-41	N-30°-E	1.00m	1.04m	0.28m	楕円形	
30号土坑	I-41		1.08m		0.13m	円形	
31号土坑	I・T-43	N-5°-W	1.20m	0.80m	0.09m	隅丸方形	
32号土坑	I・J-39	N-10°-E	1.92m	1.20m	0.47m	隅丸方形	
33号土坑	I・J-38	N-10°-E	2.32m	1.60m	0.40m	長方形・楕形	
34号土坑	L-40	N-65°-E	0.92m	0.80m	0.37m	隅丸方形	
35号土坑	L-40	N-57°-E	1.10m	0.96m	0.37m	隅丸方形	
36号土坑	K-41	N-73°-W	0.84m	0.64m	0.27m	長方形	
37号土坑	L-42		0.52m		0.20m	円形	
38号土坑	I-44	N-3°-W	1.38m	0.52m	0.32m	長方形	17号住居と接する。
39号土坑	I-44	N-2°-W	2.28m	1.04m	0.30m	長方形・楕形	
40号土坑	I-44	N-3°-W	2.64m	1.04m	0.30m	長方形	
41号土坑	I-42・43	N-20°-E	2.60m	1.68m	0.50m	平円状	
42号土坑	K-42	N-30°-E	1.28m	0.96m	0.40m	楕円形	
43号土坑	I-34		0.88m		0.30m	円形	
44号土坑	I-53	N-80°-E	1.56m	0.88m	0.20m	長方形・楕形	
45号土坑	I-52		0.96m		0.18m	円形	
46号土坑	J-53	N-30°-E	1.60m	0.92m	0.10m	長方形	
48号土坑	I-46・47	N-40°-E	2.40m	1.24m	0.20m	長方形・楕形	
49号土坑	H・I-47	N-10°-E	2.24m	1.00m	0.45m	長方形・楕形	
50号土坑	G-48	N-10°-W	1.80m	0.88m	0.17m	長楕円形	
51号土坑	K-45	N-70°-E	1.20m	1.24m	0.50m	楕円形	1号掘立柱建物のNo.7柱穴。円礫出土。 1号掘立柱建物のNo.6柱穴。
52号土坑	J・K-46	N-30°-W	1.08m	0.96m	0.18m	楕円形	
53号土坑	K-46	N-83°-W	0.96m	0.72m	0.30m	楕円形	縄文土器片(表面摩耗)と石器出土。 漆面レンズ状。縄文土器片・石器剥片出土。縄文時代。 1号方形周溝墓盛り土下。 同上盛り土下。底面レンズ状。剥片出土。縄文時代。 同上盛り土下。
54号土坑	M-22	N-65°-W	1.30m	1.00m	0.28m	楕円形	
55号土坑	M-22		0.90m		0.16m	円形	
56号土坑	N-19	N-50°-E	0.90m	0.80m	0.09m	楕円形	
57号土坑	N-19		0.60m		0.14m	円形	
58号土坑	N-19		0.50m		0.11m	円形	
59号土坑	J-50	N-5°-E	0.68m	0.72m	0.21m	隅丸方形	
61号土坑	I-50	N-80°-W	1.00m	0.78m	0.16m	隅丸方形	
63号土坑	I-50	N-35°-W	1.02m	0.84m	0.16m	楕円形	
64号土坑	I-50	N-36°-W	1.06m	0.80m	0.11m	隅丸長方形	
66号土坑	I-46	N-85°-W	2.16m	0.64m	0.28m	隅丸方形	

第二章 上栗須遺跡

遺構名	位置	方位	規模			形状	備考
			長辺	短辺	深さ		
67号土坑	K-46	N-70°-E	1.28m	0.80m	0.16m	隅丸方形	先端部には焼土・灰の堆積があり、竪穴住居の竪溝造と同様の形骸をもつ。
68号土坑	J-47	N-67°-E	2.00m	0.84m	0.16m	長楕円形	
69号土坑	I・J-45	N-60°-E	2.38m	2.42m	0.11m	楕円形	土師器環をはじめ多量の土器を出土。
70号土坑	I-46	N-10°-E	1.40m	1.00m	0.08m	長楕円形	
71号土坑	I-48	N-77°-E	1.40m	0.88m	0.29m	隅丸方形	32号住居を切る。須惠器環完形出土。 6号古墳の周圍に切られている。16号土坑と似ており縄文時代の竪穴？
72号土坑	K-21	N-69°-W	1.48m	1.00m	0.21m	隅丸長方形	
73号土坑	H-48		0.88m		0.34m	円形	3号竪立の№柱穴。 45号住居7号溝
74号土坑	H-48		1.20m		0.22m	円形	
75号土坑	J・K-36		1.64m		0.22m	円形	29号住居を切っている。
76号土坑	H・I-39	N-40°-W	2.16m	1.24m	0.37m	長方形	
77号土坑	I-36		0.80m		0.24m	円形	29号住居を切っている。
78号土坑	K-34	N-8°-W	1.20m	0.72m	0.13m	長方形	
79号土坑	H-44	N-0°-E	1.76m	1.28m	0.58m	長方形	29号住居を切っている。
81号土坑	L-20	N-67°-E	2.40m	1.00m	0.32m	楕円形	
82号土坑	L-20		1.16m		0.09m	円形	焼土・炭混じる。壁面は熱を受け赤茶色に黄色。
83号土坑	L-20		1.32m		0.24m	円形	
84号土坑	I-36	N-10°-E	1.24m	1.00m	0.15m	隅丸方形	土師器環・須惠器完形で出土。
85号土坑	H-40	N-70°-E	1.40m	0.60m	0.09m	隅丸方形	
86号土坑	H・I-41	N-60°-E	1.04m	0.60m	0.13m	長方形・箱形	土師器環・須惠器完形で出土。
87号土坑	H・I-40	N-62°-E	3.20m	1.24m	0.30m	不定形	
88号土坑	J-49	N-66°-E	1.02m	0.51m	0.26m	楕円形	土師器環・須惠器完形で出土。
89号土坑	I-36・37	N-75°-W	0.80m	0.64m	0.06m	楕円形	
90号土坑	J・K-50	N-75°-E	0.76m		0.21m	楕円形	102号土坑と重複。須惠器環・高台環出土。
94号土坑	J-50	N-45°-W	0.52m	0.52m	0.37m	楕円形	
100号土坑	J-53	N-2°-E	1.54m	1.22m	0.24m	楕円形	102号土坑と重複。須惠器環・高台環出土。
101号土坑	I・J-52		0.88m		0.28m	円形	
103号土坑	H-48	N-75°-W	0.72m	0.64m	0.31m		102号土坑と重複。
104号土坑	H-49		0.56m		0.30m	円形	
106号土坑	J-52・53		0.72m		0.24m	円形	4・7・8号竪立建物部分重複する。
107号土坑	J-53		0.40m		0.35m	円形	
108号土坑	H-53	N-70°-E	0.80m	0.60m	0.25m	楕円形	125号土坑と重複。
109号土坑	H-53		0.44m		0.43m	小円形	
110号土坑	K-51	N-25°-W	0.45m	0.32m	0.35m	楕円形	125号土坑と3号竪立建物№10柱穴重複。
112号土坑	I-50		0.44m		0.26m	小円形	
113号土坑	H-52・53		0.56m		0.22m	円形	2号溝。
114号土坑	H-52	N-86°-E	0.60m	0.40m	0.17m	楕円形	
115号土坑	H-52		0.40m		0.27m	小円形	2号溝。
116号土坑	H-52		0.32m		0.29m	小円形	
118号土坑	H-49		0.52m		0.34m	小円形	125号土坑と重複。
121号土坑	J-53	N-45°-E	0.60m	0.44m	0.24m	楕円形	
124号土坑	H-48	N-73°-E	0.80m	0.56m	0.31m	楕円形	125号土坑と3号竪立建物№10柱穴重複。
125号土坑		N-59°-E	0.68m	0.52m	0.18m	楕円形	
129号土坑	H-53	N-70°-E	0.72m	0.56m	0.14m	楕円形	2号溝。
130号土坑	H-52	N-80°-E	0.60m	0.44m	0.54m	楕円形	
131号土坑	L-52		0.32m		0.31m	円形	2号溝。
132号土坑	H-52	N-10°-E	0.64m	0.36m	0.08m	半円形	
133号土坑	I-53・54	N-15°-W	0.52m	0.48m	0.12m	隅丸方形	6号竪立建物№7柱穴と90号土坑と重複。 50・51号住居を切り、26号溝に切られている。環溝をはじめ多量の土師片を出土。 土師器環出土。
134号土坑	H-51		0.44m		0.17m	円形	
135号土坑	I-52	N-16°-W	2.00m	0.88m	0.12m	楕長円形	6号竪立建物№7柱穴と90号土坑と重複。 50・51号住居を切り、26号溝に切られている。環溝をはじめ多量の土師片を出土。 土師器環出土。
136号土坑	I-52	N-40°-E	0.88m	0.52m	0.10m	楕円形	
137号土坑	J・K-50	N-25°-W	1.48m	1.08m	0.13m	楕円形	6号竪立建物№7柱穴と90号土坑と重複。 50・51号住居を切り、26号溝に切られている。環溝をはじめ多量の土師片を出土。 土師器環出土。
140号土坑	G-48・50	N-10°-W	4.60m	1.80m	0.24m	長方形	
141号土坑	I-44	N-44°-E	1.20m	1.20m	0.55m	長円形	

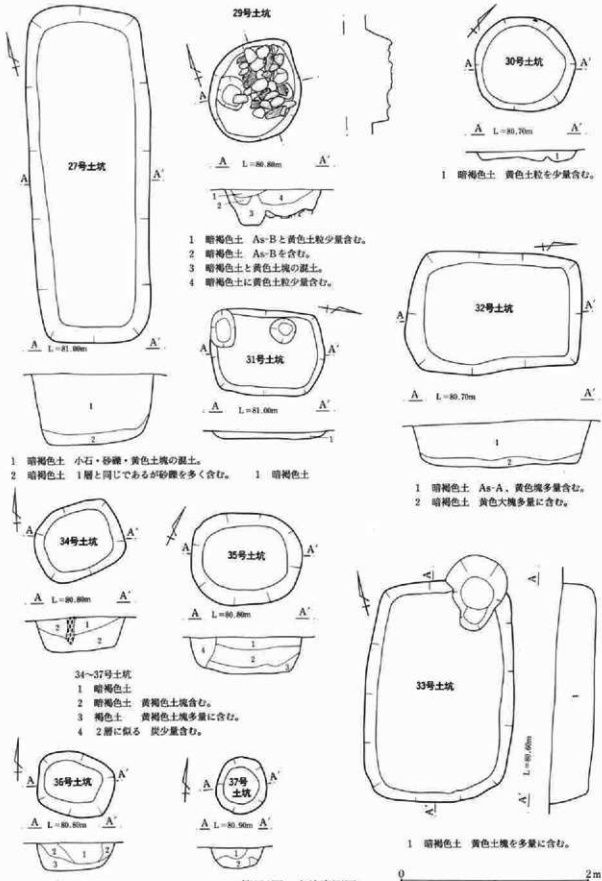


第226図 土坑実測図



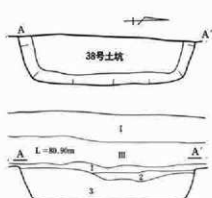
第227図 土坑実測図

0 2m



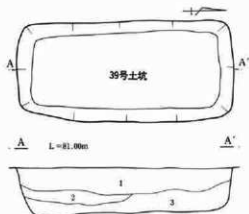
第228図 土坑実測図

第二章 上栗須遺跡

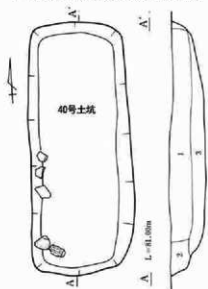


I~IIIは基本土層参照

- 1 灰褐色土 As-B含む。
- 2 暗褐色土 焼土粒・黄色土塊・砂礫を含む。
- 3 暗褐色土 黄色土塊と砂礫を多量を含む。



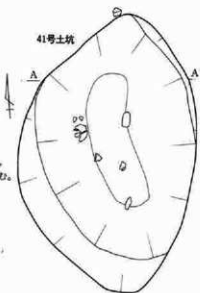
- 1 暗褐色土 黄色土塊・砂礫を多量を含む。
- 2 暗褐色土 焼土・炭粒・砂礫を少量含む。
- 3 暗褐色土 1層と同層。



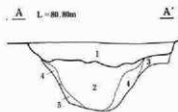
- 1 暗褐色土 黄色土塊・砂礫を多量を含む。
- 2 黄褐色土
- 3 礫層



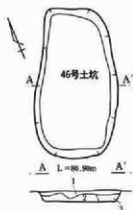
- 1 暗褐色土 黄色土粒・小塊少量含む。
- 2 暗褐色土 黄色塊多量と炭粒少量含む。



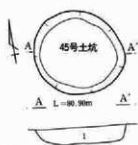
- 1 暗褐色土 As-Bを主体とする。破片及び木炭を含む。
- 2 茶褐色土 木炭細粒をわずかに含む



- 1 暗褐色土 土面片・焼土粒・As-Bを含む。
- 2 暗褐色土 僅かにAs-B含む。
- 3 黄色粒土。
- 4 黄土色粘質土。
- 5 黄土色粘質土 細砂層



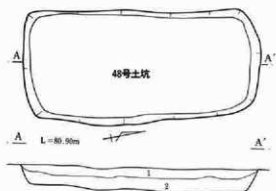
- 1 暗褐色土 As-B多量を含む。
- 2 暗褐色土 焼土塊・土器小破片を含む。
- 3 茶褐色土



- 1 暗褐色土 As-Bに黄褐色土塊を含む。

第229図 土坑実測図

0 2m



- 1 暗褐色土にAs-Bを含む。
- 2 暗褐色土 第1層と同じ。

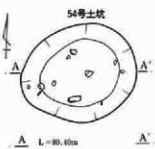


- 1 暗褐色土 黄褐色塊を斑点状に含む。
- 2 暗褐色土 含有物1層よりやや少ない。



50号・51号・52号

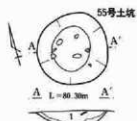
- 1 暗褐色土 As-B含む、焼土・炭粒を含む。
- 2 暗褐色土 黄色土粒・炭粒少量含む。
- 3 暗褐色土 黄色土塊を多量に含む。



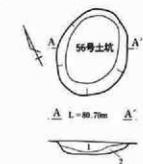
- 1 褐色土 砂質土。
- 2 褐色土 炭化物含む。
- 3 暗黄褐色土 砂質。



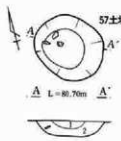
- 1 暗褐色土 As-B 炭粒・焼土塊を多量に含む。
- 2 暗褐色土 黄色粒を含む。
- 3 暗褐色土 黄色粒塊を多量に含む。
- 4 暗褐色土 炭粒・黄色粒・小塊を多量に含む。
- 5 4層に黄色塊を多く含む。



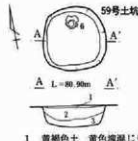
- 1 褐色土 微砂質、土器片含む。
- 2 暗黄褐色土 微砂質。



- 1 淡褐色土 黄茶色を僅かに含む。
- 2 暗黄緑色砂質土 淡褐色土。



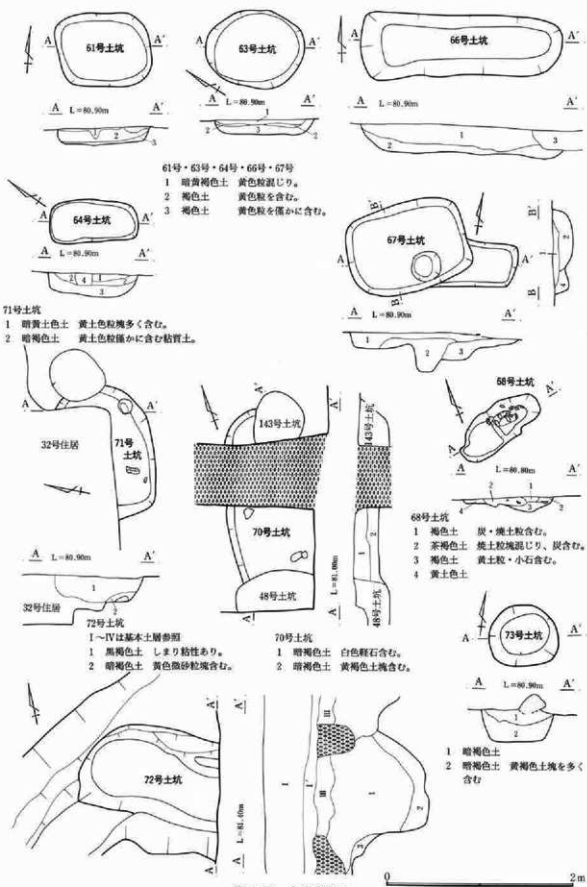
- 1 暗褐色土 小石混じり。
- 2 淡褐色土 黄色細砂混じり。



- 1 黄褐色土 黄色塊混じり。
- 2 褐色土 黄色粒塊。
- 3 褐色土 黄色粒塊僅かに含む。

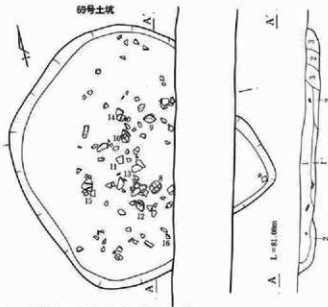
0 2m

第230圖 土坑実測図



第231図 土坑実測図

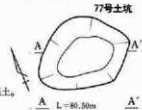
第1節 I区検出の遺構と遺物



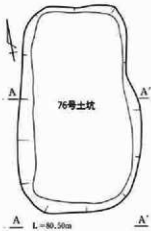
- 1 暗褐色土 As-B、焼土・土器片多く含む。
 1' 暗褐色土
 2 暗褐色土 As-B、焼土、黄褐色土の混土。
 3 暗褐色土 焼土粒多く含む。



- 1 暗黄褐色土 黄褐色塊・木炭粒・焼土塊を僅かに含む。
 2 暗褐色土 黄褐色塊少量、焼土塊を含む。
 3 暗褐色土 木炭・焼土塊を含む。
 4 暗褐色土 木炭粒を含む。

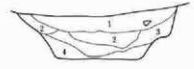
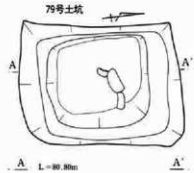


- 1 暗褐色土 砂粒・黄色土塊混入。
 2 暗褐色土 砂粒・褐色土を含む。

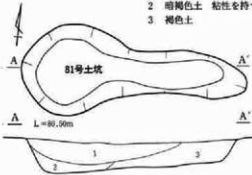


76号・78号土坑

- 1 暗褐色土 砂粒・黄色粘質土塊混入。
 2 暗褐色土 粘性を持つ。
 3 褐色土



- 1 暗褐色土 砂粒・焼土・炭粒少量含む。
 2 暗褐色土 暗褐色土を多く含む。
 3 暗褐色土 砂粒・砂利を多量に含む。
 4 暗褐色土 砂礫層。



81号土坑

- 1 褐色土 小石僅かに含む。
 2 褐色土 (やや淡黄色)
 3 黄緑色細砂



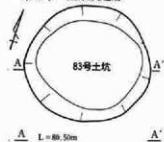
82号土坑

- 1 褐色土 小石僅かに含む。
 2 褐色土 (やや淡黄色)

第232図 土坑実測図



第二章 上栗須遺跡



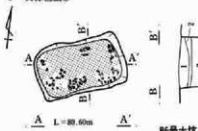
- 1 褐色土 僅かに小石含む。
- 2 褐色土 黄緑細砂混じる。
- 3 黄緑色細砂



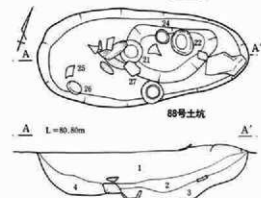
- 1 暗黄土色土 炭・焼土粒を僅かに含む。
- 2 黄褐色土 炭・焼土粒含む。



- 1 褐色土 炭・焼土粒混じる。

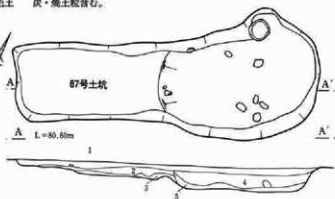


- 1 暗褐色土 やや砂質の炭粒少し含む。
- 2 暗褐色土 炭粒多く含む。
- 3 暗褐色土 炭粒少し含む。
- 4 暗茶褐色土 焼土粒少し含む。
- 5 黒褐色土 炭多量に含む。



- 1 暗褐色土 木炭・焼土塊を多量、完形の土器を含む。
- 2 暗褐色土 木炭・焼土塊の小粒を少量含む。
- 3 黄暗褐色土 黄褐色土・焼土塊を含んでいる。

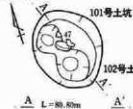
0 2m



- 1 暗褐色土 軽石・焼土粒・炭極少含む。
- 2 暗褐色土 黄色土粒塊を僅かに含む。
- 3 暗褐色土 黄色土粒・炭僅かに含む。
- 4 暗褐色土 黄色土粒塊を僅かに含む。
- 5 暗黄土色土



- 1 褐色土
- 2 黄褐色土 暗褐色・土器片・焼土塊・木炭粒を少し含む。
- 3 暗褐色土 黄褐色塊を僅かに含む。

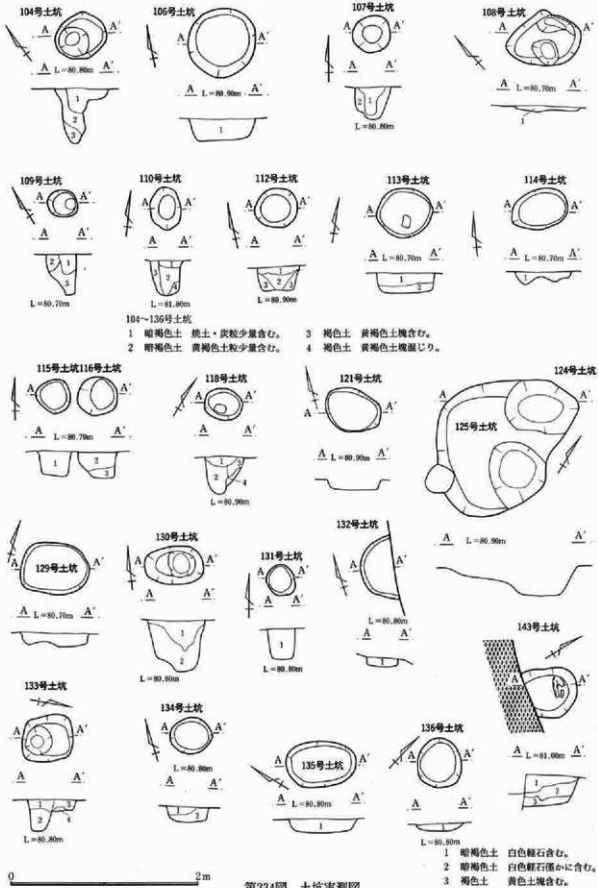


- 1 暗褐色土 黄褐色塊・木炭粒・焼土を含む。
- 2 暗褐色土
- 3 暗褐色土 黄褐色塊を斑点状に含む。
- 4 暗褐色土 少量の黄褐色粒を含む。
- 5 暗褐色土 少量の黄褐色粒を含み、木炭粒を僅かに含む。

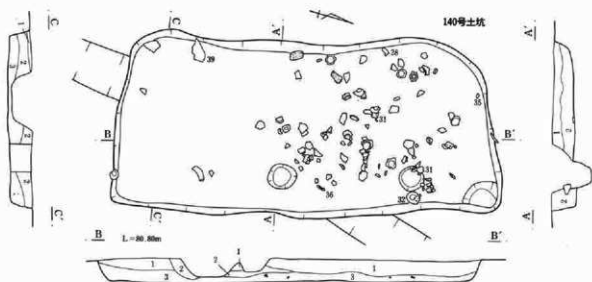


- 1 暗褐色土 焼土・土器片含む。
- 2 褐色土 焼土・土器片含む。

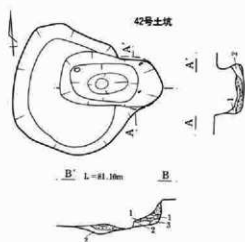
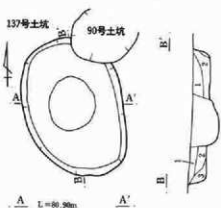
第233図 土坑実測図



第234図 土坑実測図



- 1 灰褐色土 白色卵石・灰褐色土塊含む。
- 2 灰褐色土
- 3 灰褐色土 鉄分沈着、土器片・灰色塊含む。



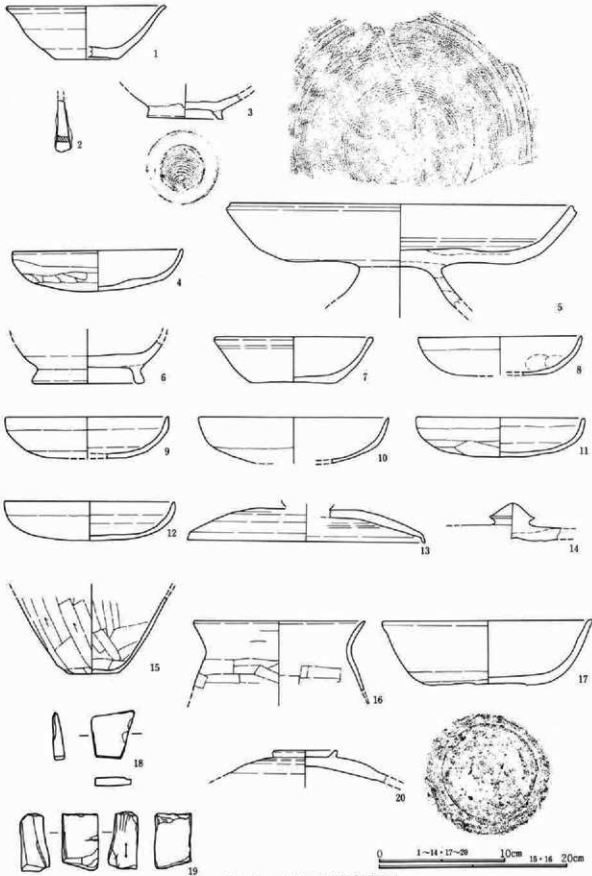
- 137号土坑
- 1 褐色土 黄土粒・灰色土塊かを含む。
 - 2 灰褐色土 黄土粒・灰色土含む。
 - 3 褐色土 黄土粒多く含む。

- 141号土坑
- 1 褐色土 焼土粒多量に含む。灰・小石・軽石混じる。
 - 1' 褐色土
 - 2 褐色土 焼土粒・土器片含む。
 - 2' 黄褐色土

- 42号土坑
- 1 暗褐色土 黄色土粒・焼土粒含む。
 - 2 褐色土 黄褐色土塊混じり。
 - 3 黄褐色土塊。

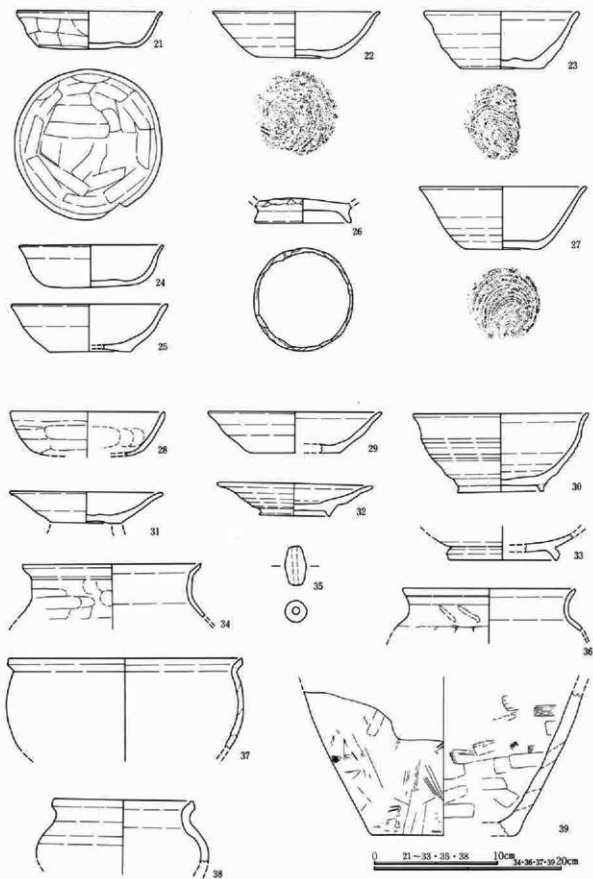
第235図 土坑実測図

0 2m



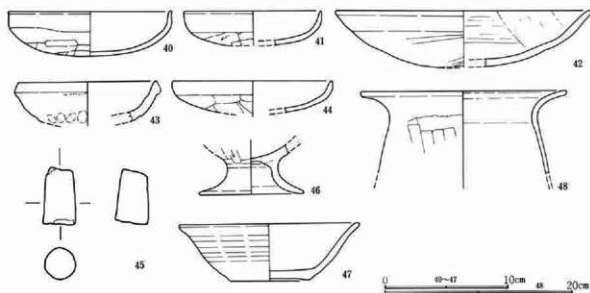
第236図 土坑出土遺物実測図(1)

第二章 上栗須遺跡



第237图 土坑出土遺物実測図(2)

第1節 I区検出の遺構と遺物



第238図 土坑出土遺物実測図(3)

土坑出土遺物観察表

番号	器種形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
1	須恵器 杯	20土坑	12.5 5.0 4.2 残存状況 片	1. 明赤褐色 2. 砂 粘土粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部外反、轆轤整形。底部回転未切り。
2	刀子	49号土坑	1.35 - 0.3	4.78K	板状鉄製品。刀子の基部部分か？
3	須恵器 碗	49号土坑 北西+18	- 6.0 - 底部のみ	1. 灰白色 2. 精選 3. 還元焰 硬質	轆轤整形。体部高台部貼り付け、断面台形。 底部回転未切り。
4	土師器 杯	52号土坑 覆土	13.5 - 3.2 完形	1. 褐色 2. 細粒 黒色細粒 3. 酸化焰 やや軟質	口縁部横無で。体部指頸圧痕有り。底部手持ち寛削り。
5	須恵器 高杯	41号土坑 覆土	27.0 - -	1. 灰色 2. 白色細粒含む 3. 還元焰 硬質	口縁部直線的に開き端部沈線巡る。内面螺旋状刷毛目。周縁部回転無で。回転整削り。
6	須恵器 杯	59号土坑 中央+18	- 8.5 3.5	1. 灰白色 2. 細砂粒含む 3. 還元焰 硬質	口縁部横無で。高台貼り付け、やや開き断面長方形 底部回転未切り。内面厚削。
7	須恵器 杯	66号土坑 覆土	12.7 6.7 3.6 口~底片	1. 灰オリーブ 2. 粗砂 3. 還元焰 硬質	轆轤整形。底部回転未切り。
8	土師器 杯	69号土坑 中央+9	13.0 - 3.1	1. 褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横無で。体部手持ち寛削り。
9	土師器 杯	69号土坑 北東+12	12.9 - 3.3 口~底部片	1. によい褐色 2. 砂粒 黒色 細粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横無で。体部指押さえ。底部手持ち寛削り。
10	土師器 杯	69号土坑 中央+14	15.2 - 3.7 口縁~底部片	1. によい褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横無で。体部~底部手持ち寛削り。
11	土師器 杯	69号土坑 中央+4	13.2 - 3.2 口縁~底部片	1. によい褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横無で。体部無で。底部手持ち寛削り。
12	土師器 杯	69号土坑 南西+10	13.6 - 3.1 片	1. によい褐色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横無で。体部指押さえ。底部寛削り。

第II章 上栗須遺跡

番号	器 器 形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整 形 ・ 調 整 の 特 徴
13	須 志 器 蓋	69号土坑 中央+6	19.0 - - 踵～胴下部迄	1. 灰色 2. 砂粒 小石含む 3. 還元焰 硬質	口縁部紐造り、頂部回転削り。轆轤整形。 端部折り曲げ、カエリ。
14	須 志 器 蓋	69号土坑 中央床直	- - - 胴部のみ	1. 灰オリーブ 2. 砂粒含む 3. 還元焰 硬質 良好	口縁部紐造り。胴のみ、宝珠状。 自然胎。
15	土 師 器 壺	69号土坑 南西+8	- 5.0 - 底部	1. によい赤褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	胴部内、外斜方向寛削り。底部寛削り。
16	土 師 器 壺	71号土坑 南+14	(18.0) - - 口縁部迄	1. によい赤褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部外反、横撫で。胴上部横方向寛削り
17	土 師 器 坏	71号土坑	16.4 9.8 5.0 ほぼ完形	1. 褐色 2. 粗砂 小石含む 3. 還元焰 硬質	轆轤整形。僅かに外反。体部回転撫で。 底部回転削り。
18	砥 石	85号土坑	3.7 3.5 0.8	20g	砥沢
19	砥 石	85号土坑	4.5 2.9 2.4	60g	砥沢
20	須 志 器 蓋	89号土坑	- - -	1. 褐色 2. 砂粒含む 3. 還元焰 やや軟質	頂部、リング状のみ。回転削り。
21	土 師 器 坏	88号土坑 中央+6	11.5 7.7 3.0 完形	1. 褐色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 やや軟質	口縁部横撫で。体部指押さえ、削り。 体部～底部手持り寛削り。
22	須 志 器 坏	88号土坑 北東+9	13.3 6.0 3.6 完形	1. 灰黄色 2. 粗砂粒 小石含む 3. 還元焰 硬質	口縁部僅かに外反、轆轤整形。底部右回転余切り。
23	須 志 器 坏	88号土坑	12.2 6.5 4.5	1. 明褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	轆轤整形。底部右回転余切り。
24	土 師 器 坏	88号土坑 北東+18	11.4 6.0 3.3 完形	1. によい褐色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。体部指押さえ、下端削り。 体部～底部手持り寛削り。
25	須 志 器 坏	88号土坑 西南+5	12.2 6.5 3.8 片	1. 灰黄色 2. 粗砂粒含む 3. 還元焰 やや軟質	轆轤整形。底部回転余切り。
26	須 志 器 椀	88号土坑 南西+10	- 7.6 - 高台完形	1. 灰色 2. 精選 小石含む 3. 還元焰 硬質	体部欠損。底部細かく打ち欠く。
27	須 志 器 坏	88号土坑 中央+14	13.2 5.5 5.0	1. 褐色 2. 砂 粘土粒含む 3. 還元焰 硬質	轆轤整形。底部左回転余切り。
28	土 師 器 坏	140土坑 北西+4	12.3 - 3.4	1. 褐色 2. 砂粒僅かに含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。やや内湾。体部指押さえ。 底部手持り削り。
29	須 志 器 坏	140土坑 掘形	13.7 7.4 3.2 片	1. 灰白色 2. 細砂粒含む 3. 還元焰 硬質	轆轤整形。底部回転余切り痕。
30	須 志 器 椀	140土坑 北東床直	14.0 6.9 6.1 片	1. 灰白色 2. 細砂粒含む 3. 還元焰 硬質	口縁部横撫で、外反。体部潤面、条線入る。 底部高台貼り付け。
31	須 志 器 皿	140土坑 北西+4	12.0 - - 片	1. 灰色 2. 細砂粒含む 3. 還元焰 硬質	轆轤整形。底部高台貼り付け痕。
32	須 志 器 皿	140土坑 北東床直	12.4 - 2.6 片	1. 灰白色 2. 砂 粘土粒含む 3. 還元焰 軟質	口縁部外反。水平気味。轆轤整形。底部高台貼付。
33	須 志 器 椀	140土坑	- 8.6 -	1. 灰白色 2. 精選 3. 還元焰 硬質	底部高台。断面内輪、内湾。外面くの字形屈曲。

番号	器 種 器 形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整 形 ・ 調 整 の 特 徴
34	土 師 器 壺	140土坑 掘形	19.0 - - 口径部のみ	1. ぶい橙色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口径部短く外反。頸部横無で。指距正底有り。 胴上部横置削り。
35	土 製 品 土 壺	140土坑 北西床直	3.0 1.6 -	1. 橙色 2. 砂粒含む。 3. 酸化焰 良好	口径部棒状工具、粘土巻き付け。
36	土 師 器 壺	140土坑 北東床直	18.4 - - 口径部残	1. 橙色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口径部短く外反。頸部強い無で。胴上部横置削り
37	須 恵 器 壺	140土坑	24.8 - -	1. 灰白色 2. 細砂粒僅かに含 む 3. 還元焰 硬質	口径部短く立ち上がる。回転横無で。縦臙整形。 胴部球形。
38	土 師 器 小 蓋 壺	140土坑	11.0 - - 口径部残	1. 灰色 2. 細砂粒含む 3. 還元焰 硬質	口径部外反。口唇部無で。胴部球形。
39	須 恵 器 壺	140土坑 南西床直	- 15.8 -	1. 灰色 2. 白色 黒色粒含む 3. 還元焰 硬質	胴部削り底・棒または枝のような条痕が不規則につ く底部指距正。接合底有り。
40	土 師 器 大 壺	141土坑 中央+13	12.8 - 3.5	1. ぶい橙色 2. 細砂粒僅か に含む 3. 酸化焰 軟質	口径部横無で。体部手持り置削り。
41	土 師 器 大 壺	141土坑 北西床直	10.3 - -	1. ぶい橙色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口径部横無で。体部指押さえ。底部手持り置削り。
42	土 師 器 大 壺	141土坑 中央+12	20.2 - - 残	1. 赤褐色 2. 細砂粒含む 3. 還元焰 硬質	口径部横無で。僅かに弱い稜を持つ。 体部手持り置削り。
43	土 師 器 大 壺	141土坑 南西床直	10.9 - -	1. ぶい赤褐色 2. 砂粒含む 3. 還元焰 硬質	口径部横無で。体部手づね。内面無で。
44	土 師 器 大 壺	141土坑 中央+12	12.6 - - 破片	1. ぶい赤褐色 2. 細砂粒含 む 3. 酸化焰 良好	口径部横無で。直立。体部手持り置削り。
45	砥 石	103土坑	4.6 2.7 2.6	27#	砥石。
46	土 師 器 台 杯 壺	141土坑	- 8.3 - 脚部残	1. 明赤褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	胴部内面置無で。脚部との接合部縦方向置削り。 回転横置で。垂直に立つ。
47	須 恵 器 大 壺	101土坑 中央	14.4 5.2 4.5	1. 灰色 2. 砂粒混じり 3. 還元焰 硬質	縦臙整形。底部うっすらと回転未切り。
48	土 師 器 壺	141土坑 南西+5	21.8 - -	1. ぶい橙色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口径部大きく外反し、ほぼ水平に屈曲。胴上部縦置 削り。

5 集 礫 遺 構

遺跡中央部2号溝東側、50号住居南において、10～20cmの大礫が詰められた円形の土坑を検出した。

位置 G-52グリッド

規模 掘形外周径、長辺1.4m、短辺1.25m、深さ0.62m 集石部、径長辺1m

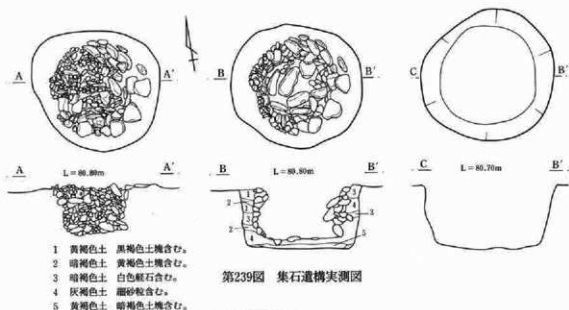
構造 掘形は径1.4mの円形を呈し、黄褐色も塊混じりの暗褐色を裏込め状に詰め、20cm大の河原石を円形に組み上げている。中にはやや小振りの河原石が詰められていた。用途は不明である。

6 井 戸 遺 構

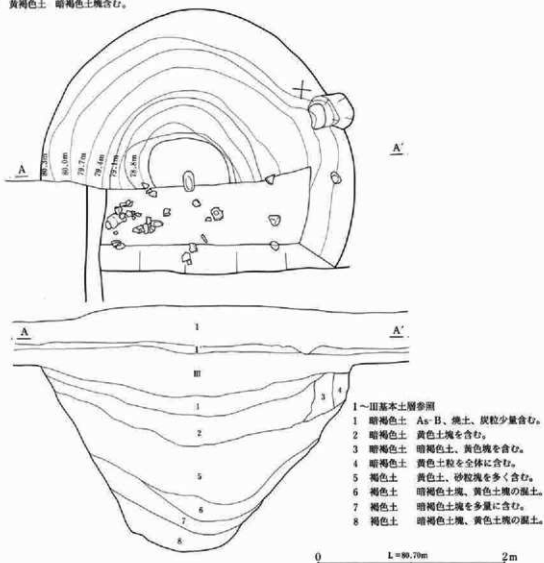
位置 H-45・46 水道本管に切られる。

規模 径1.7m、深さ2m やや漏斗状を呈する。

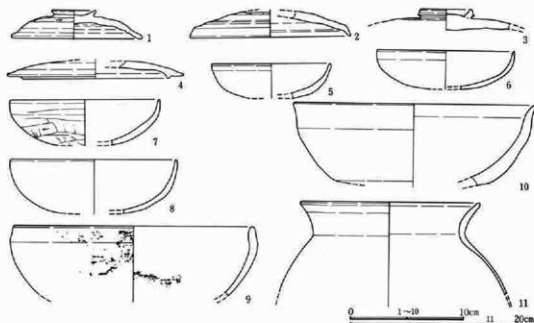
構築 埋没土中には地山V層の黄褐色土の混土を一時期に埋め込んだ状況が見られ、地山VI層の礫層をやや掘り込んだ所で掘削を中止していると考えられる。同様の井戸は下大塚遺跡において検出され、井戸遺構は長瀬線内にこの2基のみであった。覆土上面で土師器杯やカエリを持つ須恵器杯が出土。



第239図 集石遺構実測図



第240図 1号井戸実測図

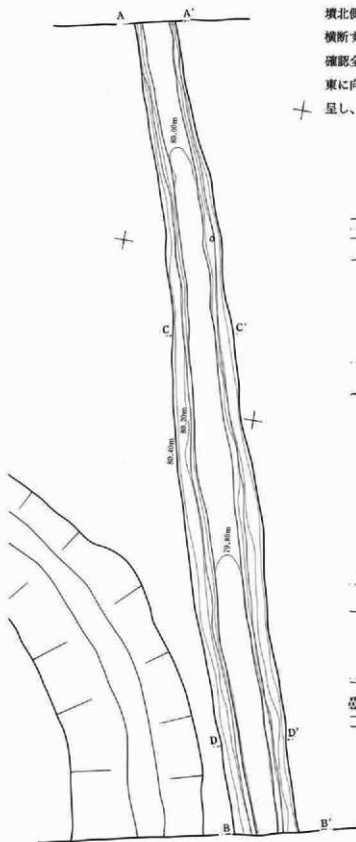


第241図 井戸出土遺物実測図

1号井戸出土遺物観察表

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
1	須恵器 蓋	覆土	3.8 11.2 2.4 完形	1. 緑灰色 2. 白色細粒含む 3. 還元焰 硬質	楕圓形、天井部回転蓋有り、内面カエリを持つ。 底部欠損。リング状跡あり。
2	須恵器 蓋	覆土	— 14.2 2.8 片	1. 灰色 2. 砂粒含む 3. 還元焰 硬質	口縁部折り曲げ、楕圓形。頂部回転蓋有り。
3	須恵器 蓋	覆土	4.4 — 1.3	1. 灰色 2. 粗砂 白色粒含む 3. 還元焰 硬質	楕圓形、リング状跡あり。断面三角形。天井部肥厚。内外面段を持つ。
4	須恵器 杯	覆土	— 15.6 1.5 片	1. 灰色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 やや軟質	楕圓形。天井部回転蓋有り。内面不規則な跡で。 掘み出しのシャープなカエリを持つ。
5	土師器 杯	覆土	10.6 — 3.0 片	1. 褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 軟質	口縁部横溝で、体部直筒形。
6	土師器 杯	覆土	12.0 — 3.4 片	1. 濃い褐色 2. 粗砂 黒色 細粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横溝で、体部直筒形。内面溝で。
7	土師器 杯	覆土	13.1 — 4.0 片	1. 褐色 2. 砂粒 黒色細粒含む 3. 酸化焰 やや軟質	口縁部横溝で、体部直筒形。
8	土師器 杯	覆土	14.1 — 4.7 片	1. 褐色 2. 砂 黒色細粒含む 3. 酸化焰 やや軟質	口縁部横溝で、体部直筒形。
9	土師器 杯	覆土	21.0 — 6.0	1. 褐色 2. 粗砂 黒色細粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横溝で、内外面、段状。 体部直筒形。
10	土師器 杯	覆土	20.2 — 7.0 片	1. 褐色 2. 砂粒 黒色細粒 3. 酸化焰 良好	口縁部横溝で、口縁部外反。体部器壁厚い。 底部平直気味。
11	土師器 壺	覆土	21.0 — 10.6	1. 褐色 2. 粗砂 粘土粒含む 3. 酸化焰 軟質	口縁部くの字形に外反。胴部球形、軟質のため、調整痕不明瞭。

7 溝

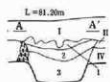


1号溝 (写真図版59)

遺跡北端L~Q-13・14グリッドに位置し、3号古墳北側で近接する。走行は東西方向を向き、路線を横断する格好になる。

確認全長26.7m、最大幅2.4m、高低差0.3m。

東に向かい緩い傾斜を持つ。掘形は、断面台形状を呈し、IV層を掘り込む。



C L=81.20m C'



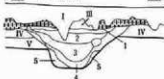
I~Vは基本土層参照

- 1 褐色土 白色軽石含む。
- 2 暗褐色土 褐色塊含む、白色軽石僅かに含む。
- 3 褐色土 黄褐色塊含む、しまり強くなる。
- 4 褐色土 黄褐色塊多量に含む。
- 5 暗黄褐色土 褐色塊混じり。

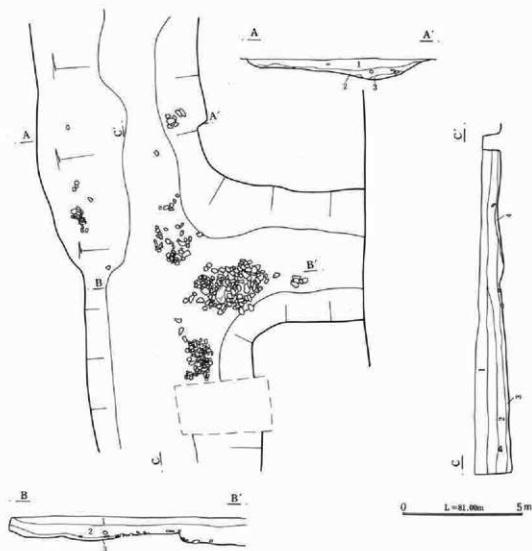
D L=81.20m D'



B L=81.20m B'



第242図 1号溝実測図



第243図 2号溝実測図

- 1 黒褐色土 僅かに白色軽石含む、粘性強い。
 2 暗褐色土 灰褐色土塊僅かに含む。
 1' 黒褐色土 少量の細砂塊見られる。
 3 褐色土 灰褐色土塊多く含む。

2号溝 (写真図版60・95)

上栗須遺跡1区中央部から南東部にかけて位置し、走行は南北方向に向く。確認全長82m、最大幅4m、高低差0.54m、南に向かい緩い傾斜を持つ。11・12・50号住居及び7号掘立柱建物を切る。掘形はレンズ状を呈し、1区中央部で終結する。

現在の農道下であり、埋設過程で地境としての利用がなされ、現在に至ったと考えられる。また、中程にT字形の変更部があり、底面には石敷が組まれた痕跡がある。上部には若年の馬歯が出土している。覆土上層にはAs-Bが含まれる。

3号溝 (写真図版59・95)

遺跡北側の古墳群の中に位置し、4号古墳東数mの所から始まり、6号古墳中央部を掘り抜いている。走行は東西方向に向き、確認全長11m、最大幅0.8m、高低差0.3mで、西側に緩い傾斜をもつ。15号溝と6号古墳の周堀西側部分で重複し、3号溝が切り込んでいる。溝の掘形は断面台形状を呈する。覆土上層に若年の馬歯の部分が出土している。掘り込みはAs-Bの混土上から見られる。

5号溝

遺跡中央部に位置し、走行は南北方向に向く。確認全長40m、最大幅2m、高低差0.4mで、北に向かい緩い傾斜を持つ。中央部で22号住居を切る。

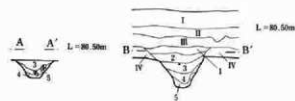
掘形は浅く、底面は平底を呈する。覆土中にAs-Bを多量に含む。8号溝と平行に走る。2号溝同様現在の農道下に位置する。

6号溝 (写真図版59)

K-35グリッドに位置し、走行は東西方向に向く。確認全長2.5m、最大幅0.3m、高低差0.1m、10号溝に切られる。

7号溝 (写真図版59)

I-37グリッドに位置し、走行は、北西方向から南東方向に向く。確認全長13m、最大幅0.4m、高低差2cmで、南東部に緩く傾く。45・46・47号住居を切る。掘形は丸底を呈し、河原石が出土している。



I-IVは基本土層参照

- 1 黒褐色土 As-B混じり、しまりに乏しい。
- 2 暗褐色土 As-Bを含む。
- 3 暗褐色土 黄褐色塊を含む、僅かに軽石見られる。
- 4 褐色土 黄褐色塊を多量に含む。
- 5 明黄褐色土 褐色土を含む。



- 1 褐色土 黄褐色塊、白色軽石含む。
- 2 褐色土 黄褐色土と褐色土の混土。
- 3 褐色土 黄褐色土塊混じり。
- 4 暗褐色土 黄褐色土粒含む。
- 5 黒褐色土 褐色土塊含む。
- ① 暗褐色土 僅かに白色軽石含む。
- ② 暗褐色土 褐色塊斑点状に含む。
- ③ 褐色土 黄褐色土塊混じり。
- ④ 褐色土 黄褐色土と褐色土混土。
- ⑤ 暗黄褐色土 褐色塊含む。

第244図 3・15・16号溝実測図

8号溝 (写真図版60)

J-41~43グリッドに位置し、走行は、南北方向に向く。確認全長8m、最大幅30~50cm、高低差16cmで北側に緩く傾く。掘形は丸底を呈する。5号溝と平行する格好となっている。

10号溝 (写真図版59)

K-34~36グリッドに位置し、走行は南北方向に向く。確認全長11m、最大幅2m、高低差は殆ど見られない。25・26号住居を切る。掘形は底面広く、やや丸底を呈する。

11号溝 (写真図版60・95)

G-54グリッドに位置し、走行は、東西方向に向く。確認全長13m、最大幅2.5m、高低差20cmで、東側に緩く傾く。2号溝に切られ、掘形は丸底状を呈する。覆土中より土師器、須恵器破片多量に出土。溝というより落ち込みに近く、土器捨て場とも考えられる。

12号溝 (写真図版60)

G~J-53・54グリッドに位置し、走行は、東西方向に向く。確認全長18m、最大幅0.4m、高低差殆ど見られない。13・24号溝と同一と考えられる。

15号溝 (写真図版61)

遺跡北側に位置し、6号古墳と重複する。走行は、南北方向に向く。確認全長16m、最大幅1.5m、高低差は殆ど見られない。6号墳周堀と重なり、消息不明となる。南端は攪乱により消失。掘形は、断面台形状を呈する。

16号溝

遺跡北側に位置し、15号溝に近接する。調査部分は僅かである。確認部分の最大深さは86cmをはかり、掘形壁面は垂直気味に立ち上がる。古墳周堀か。

18号溝

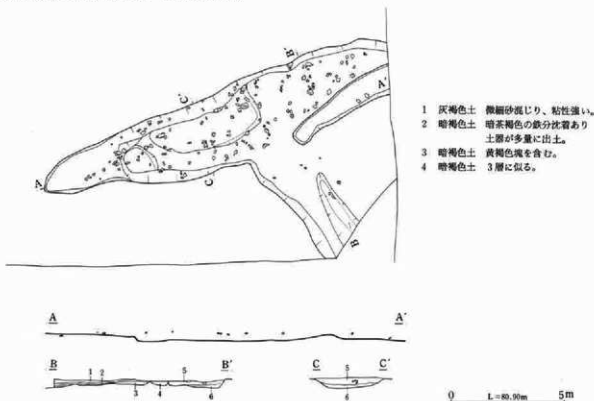
G-48グリッドに位置し、走行は南北方向に向く。最大幅0.3m、52号住居南壁を切る。

20号溝

J-53・54グリッドに位置し、走行は南北方向に向く。確認全長3.5m、最大幅0.5mをはかる。

21号溝

J-53・54グリッドに位置し、走行は南北方向に向く。確認全長2m、最大幅0.5mをはかる。



第245図 11号溝実測図

22号溝

H・I-53グリッドに位置し、走行は南北方向に向く。最大幅0.8m、12号溝と重複する。

24号溝 (写真図版61)

F・J-52~54グリッドに位置し、走行は東西方向に向く。確認全長25m、最大幅0.5m、高低差0.2m、東側に向かい緩く傾く。12号住居と接し2号溝を横断し、26号溝を切る。

25号溝 (写真図版61)

F-53グリッドに位置し、走行は東西方向に向く。確認全長21m、最大幅0.5m、高低差0.1m、東西方向に緩く傾く。2・11号溝を切る。

26号溝 (写真図版61)

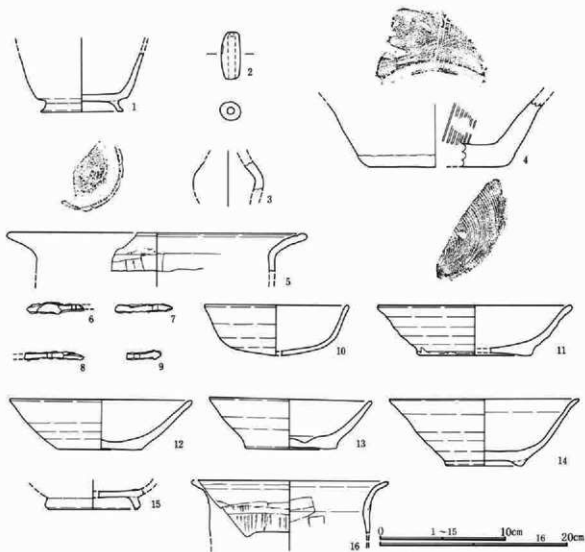
G-48~52グリッドに位置し、走行は南北方向に向く。確認全長21m、最大幅45m、高低差はあまりない。50・51号住居・140号土坑を切る。北端では90°東に傾き路線外に伸びる。小ピットと重複している。片岩大礫出土している。

27号溝 (写真図版61)

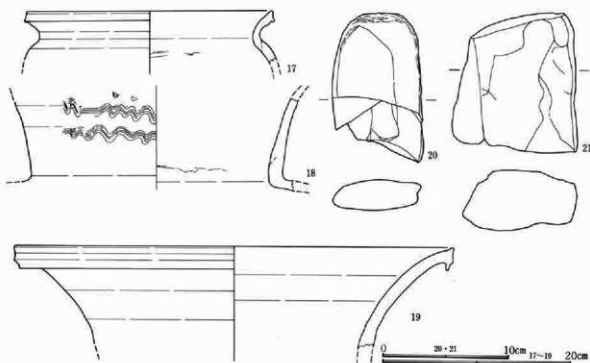
F・G-50~52グリッドに位置し、走行は南北方向に向く。確認全長12m、最大幅0.3m、高低差0.1m、北側に緩く傾く。50号住居を切り、路線外に伸びる。

28号溝 (写真図版61)

G-49グリッドに位置し、走行は北西方向に傾く。確認全長3m、最大幅0.3m。26号溝と重複し消失。



第246図 溝出土遺物実測図(1)



第247図 溝出土遺物実測図(2)

溝遺物観察表

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 構成	整形・調整の特徴
1	須恵器 甕	2号溝	10.1 6.0 5.2	1. 灰色 2. 砂粒混じり 3. 還元 軟質	口縁部僅かに外反。体部直線的に開く。 底部絞り強み、高台部貼り付け、外反回転糸切り。
2	土製品 土 餅	2号溝	3.7 1.5 -	1. 橙色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部棒状工具に巻き付け。
3	陶器	2号溝	- - -	1. 灰白色 2. 精選 3. 還元焰 硬質	口縁部欠損。体部球形、表面軸がかかり、 内面撫で。
4	須恵器 器 鉢	2号溝	- (11.0) - 欠	1. 褐灰色 2. 砂粒 小石含む 3. 還元焰 硬質	口縁部欠損。7本1単位の棒状工具による溝あり。 底部外回転糸切り。内面撫で。
5	土器 器 壺	2号溝	36.0 - -	1. 灰黄褐色 2. 砂粒 粘土 3. 酸化焰	口縁部横撫で。胴部直に立ち上る。 縦筋有り。
6	鉄製品	3号溝	4.7 0.3 0.3 2.9#		先端部がつぼまり、鎌先状になる。中央にコブあり
7	鉄製品	3号溝	4.5 0.5 0.3 2.5#		棒状鉄製品。断面方形。
8	鉄製品	3号溝	4.8 0.3 0.3 2.8#		棒状鉄製品。断面方形。
9	鉄製品	3号溝	2.7 0.3 0.4 1.4#		鋼。棘皮状。
10	土器 器 環	11号溝	11.3 - 4.0 欠	1. ぶい橙色 2. 砂粒 粘土 粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。体部指押さえ。底部手持ち痕有り
11	須恵器 器 環	11号溝	15.2 8.6 4.0 欠	1. 灰白色 2. 粗砂 粘土粒小 石含む 3. 酸化気味 軟質	棘籠形。僅かに外反。底部回転糸切り。

第II章 上栗須遺跡

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 構成	整形・調整の特徴
12	須恵器 坏	11号溝	14.4 6.8 4.0 ほぼ完形	1. 灰白色 2. 砂 粘土粒含む 3. 還元気味 硬質	輪軸整形。体部直線的に開く。 底部回転余切り。薄く見られる。
13	須恵器 坏	11号溝	12.2 7.2 3.9 ほぼ完形	1. 黒色 2. 粗砂多く含む 3. 還元焰 軟質	輪軸整形。体部直線的に開く。 底部右回転余切り。肥厚。内面中央リング状窪む
14	須恵器 坏	11号溝	15.0 6.0 5.3 片	1. 灰白色 2. 粗砂 粘土粒含む 3. 中性 軟質	輪軸整形。僅かに外反。回転余切り。 底部高台貼り付け。前面頂点の丸い三角形。
15	灰釉陶器 椀	11号溝	— 7.2 1.7 底部の片	1. 灰白色 2. 精選 3. 還元焰 硬質	底部高台貼り付け。切り離し不明。
16	土師器 壺	11号溝	20.6 — 5.9	1. 褐色 2. 細砂 粘土粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部コの字外反。胴部下縦く、胴部へ移動する 上部箇所有り。内面窪無。
17	土師器 壺	11号溝	26.0 — 6.1	1. 灰白色 2. 白色細粒 砂粒 含む 3. 還元焰 硬質	口縁部外反。肩部やや内傾気味に平坦面つくる。 胴部外部持つ。
18	須恵器 壺	11号溝	— — 9.9	1. 灰白色 2. 白色粒 粗砂小 石含む 3. 還元焰 硬質	口縁部紐造り。横無で後、波状文。 肩部垂平に出る。木口状当て具使用。
19	須恵器 壺	11号溝	46.6 — 10.8	1. 灰黄色 2. 粗砂粒含む 3. 還元焰 硬質	口縁部外反。口唇部粘土。紐貼り付け。T字型。 胴部内外面回転無。
20	石	11号溝	12.0 7.5 2.4	730g	
21	石	11号溝	10.6 9.0 4.8	920g	
22	須恵器 坏	26号溝	11.2 6.0 3.5 口縁～底部片	1. 灰色 2. 細砂粒含む	輪軸整形。僅かに外反。 底部回転余切り。
23	釘	26号溝		7.3g	全体は角柱状。胴部は広く板状に延ばされている
24	土師器 皿	26号溝	12.5 6.2 3.4 片	1. 褐灰色 2. 粗砂粒含む 3. 還元焰 硬質	輪軸整形。底部高台貼り付け。 回転余切り有。
25	須恵器 坏	9号溝	14.0 — 3.8	1. 黄褐色 2. 白色細粒 小石 含む 3. 酸化焰 硬質	輪軸整形。横割で。底部回転余切り。
26	板 碑	9号溝	18 21.8 2.4	1,790g	
27	砥 石	9号溝	7.4 4.4 2.3	140g	

34 | 35 | 36 | 37 | 38 | 39 | 40 | 41 | 42 | 43 | 44 | 45 | 46 | 47 | 48 |

H

I

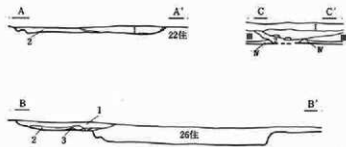
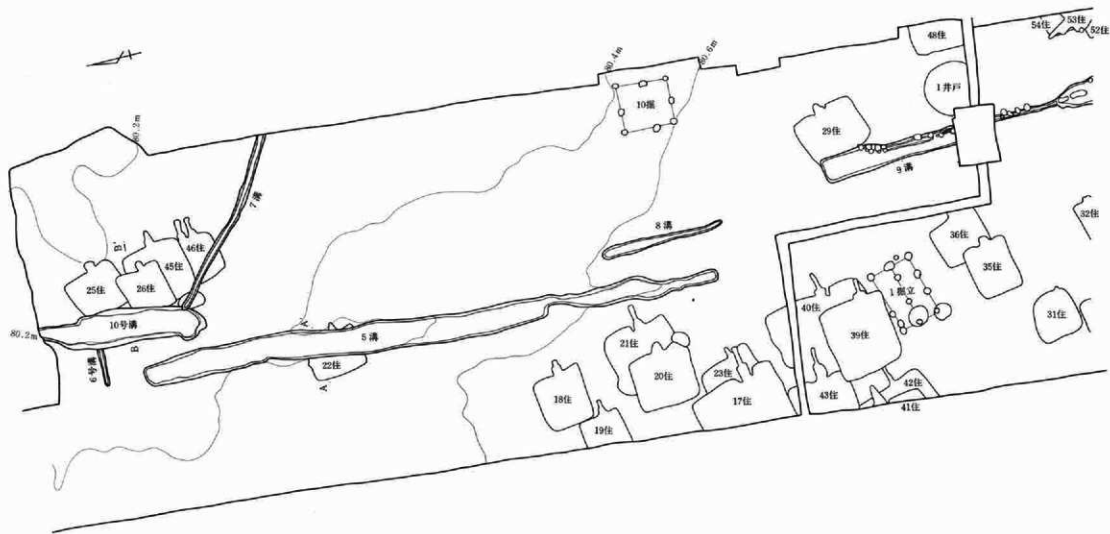
J

K

L

M

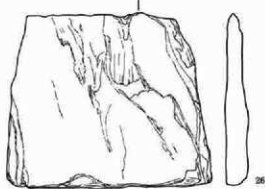
N



第248図 溝実測図

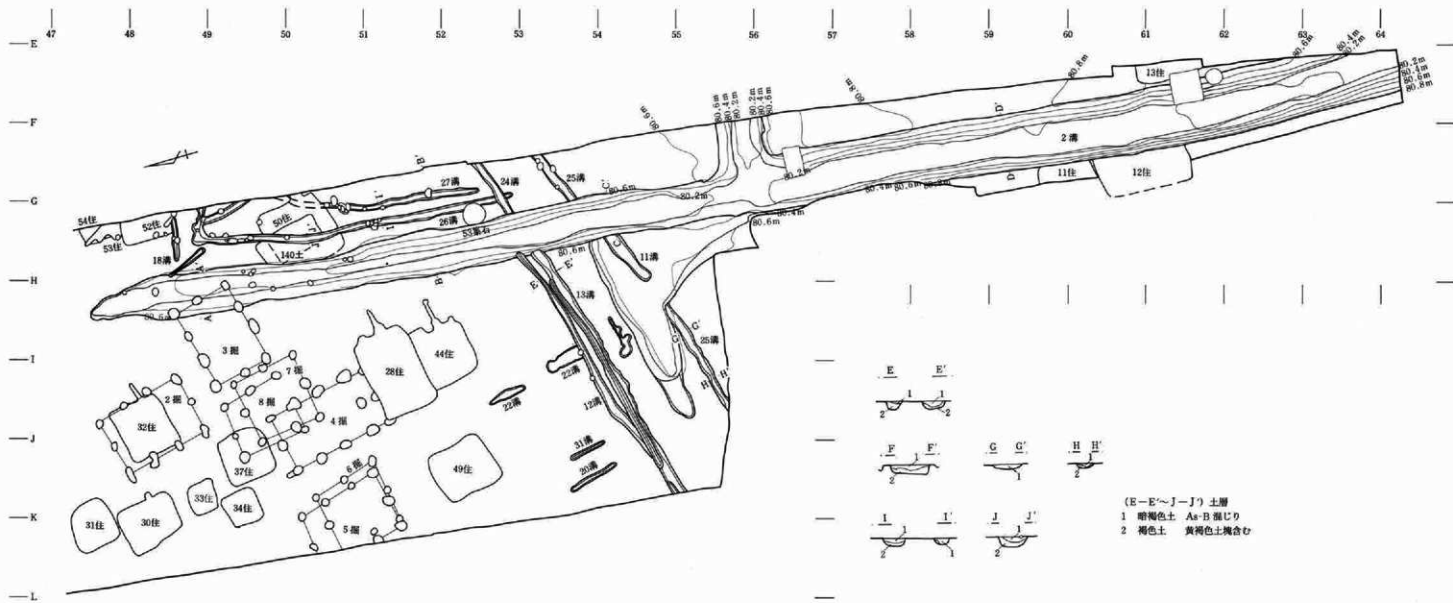
- 5号溝 (A-A')
- 1 暗褐色土 As-B が多量
 - 2 黄褐色土 黄褐色塊と暗褐色塊の混土
- 9号溝 (B-B')
- 1-IV 基本土層断面
 - 1 暗褐色土 As-B 黄土土粒含む
 - 2 暗褐色土 黄土土粒含む
 - 3 暗黄土色土 黄土色塊混じり
- 10号溝 (C-C')
- 1 暗褐色土 As-B を多量に含む
 - 2 暗褐色土 1層に地山の黄色土層を含む
 - 3 黄色土 地山の黄色粘質土

0 20m

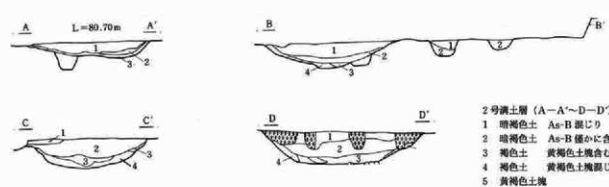


0 10cm 20cm

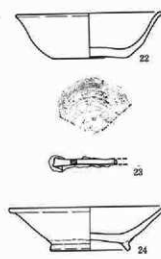
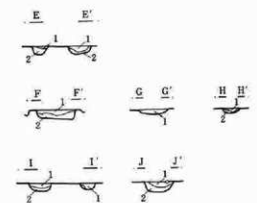
第249図 溝出土遺物実測図



(E-E'~J-J') 土層
 1 暗褐色土 As-B 掘じり
 2 褐色土 黄褐色土塊含む



2号溝土層 (A-A'~D-D')
 1 暗褐色土 As-B 掘じり
 2 暗褐色土 As-B 層かに含む
 3 褐色土 黄褐色土塊含む
 4 褐色土 黄褐色土塊掘じり
 5 黄褐色土塊



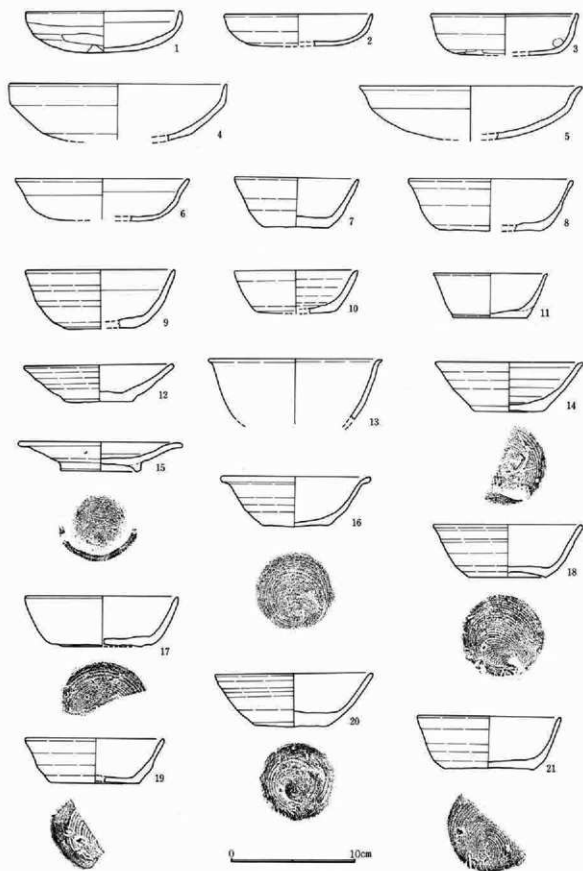
第250図 溝実測図

第251図 溝出土遺物実測図

8 遺構外出土の遺物

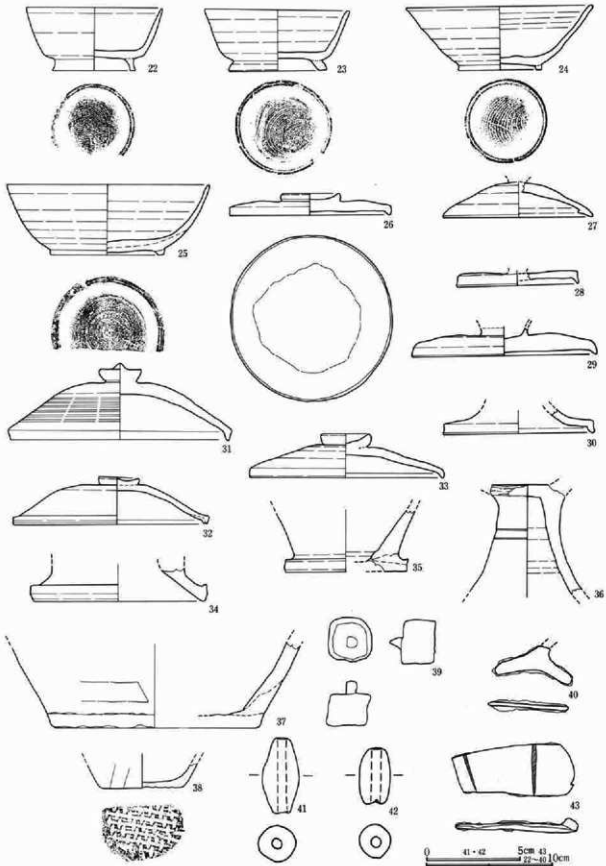
遺構外出土遺物観察表

番号	器 種 器 形	出土位置 (cm)	口径・直径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
1	土師器 杯	E-73G	12.2 - 3.4 ㄗ	1. 褐色 2. 砂粒 黒色細粒含む 3. 酸化焰 軟質	口縁部横撫で、やや内傾。 体部磨削り。
2	土師器 杯	J-50G	12.0 - - ㄗ	1. くすんだ赤褐色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。底部磨削り。
3	土師器 杯	J-47G	12.0 - 3.35 ㄗ	1. 明赤褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で、外反。口唇部内傾。体部指頭痕。 内面横撫で。底部磨削り、平底。
4	土師器 杯	I-48G	17.4 - - ㄗ	1. 褐色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 軟質	口縁部横撫で、垂直気味に立ち上がる。 底部磨削り。平底気味。
5	土師器 杯	J-54G	18.0 - - ㄗ	1. 褐色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 軟質	口縁部緩く外反、横撫で。体部磨削り。
6	土師器 杯	K-47G	14.0 - - ㄗ	1. 明赤褐色 2. 細砂 粘土粒含む 3. 酸化焰 軟質	口縁部横撫で、外反。口唇部内傾。体部指頭痕。 内面丁寧な撫で。底部磨削り。
7	須恵器 杯	H-52	10.0 5.2 3.9 ㄗ	1. 灰白色 2. 砂粒含む 3. 還元焰 硬質	轆轤整形。 底部回転糸切り、やや肥厚。
8	須恵器 杯	J-50G	- (4.0) 4.0 ㄗ	1. 青灰色 2. 砂粒 小石含む 3. 還元焰 硬質	轆轤整形。僅かに絞り込みあり。 底部糸切り痕。(回転or静止)
9	須恵器 杯	J-50G	12.0 (5.5) 4.25 ㄗ	1. 灰白色 2. 粗砂粒含む 3. 還元焰 硬質	轆轤整形。底部絞り込み、回転糸きり。
10	須恵器 杯	N-18G	10.0 6.4 3.4 口縁~底部ㄗ	1. 灰色 2. 砂粒含む 3. 還元焰 硬質	轆轤整形、直線的に開く。底部切り離し技法は不明。 平滑、磨き。
11	須恵器 杯	F-72G	9.2 - - ㄗ	1. 灰色 2. 砂粒含む 3. 還元焰 硬質	轆轤整形。体部下端の沈線は小石の流れ。 底部回転磨削り。
12	須恵器 杯	H-52G	12.0 5.4 2.9 ㄗ	1. 灰黄色 2. 砂粒含む 3. 還元焰 硬質	轆轤整形。体部轆轤目あり。底部高台貼付。 底部回転糸切り痕。
13	灰輪陶器 輪	H-48G	14.0 - - 小片	1. 明オリープ灰色 2. 精選。 3. 還元焰 硬質	口唇部水平に外傾。
14	須恵器 杯	H-53G	12.0 5.6 3.9 口縁~底部ㄗ	1. 灰色 2. 砂粒 白色小石含む 3. 還元焰 硬質	轆轤整形。内面底部から緩い曲線で、口縁部に達する。 底部回転糸切り。
15	須恵器 皿	I-49G	13.3 6.5 2.3 口~底部ㄗ	1. 灰色 2. 粗砂粒含む 3. 還元焰 硬質	口縁部外反、水平に口唇部開く、轆轤整形。
16	須恵器 杯	K-46G	12.3 7.0 4.0 ㄗ	1. 暗緑灰 2. 粗砂粒 白色小石含む 3. 還元焰 硬質	轆轤整形。口唇部水平に開く。 底部右回転糸切り。
17	須恵器 杯	J-52G	12.4 8.0 4.0 ㄗ	1. 灰色 2. 粗砂 白色小石含む 3. 還元焰 硬質	轆轤整形。底部絞り込み、回転糸切り。
18	須恵器 杯	J-50G	12.0 6.2 4.15 突起	1. 灰色 2. 砂粒含む 3. 還元焰 硬質	轆轤整形。底部右回転糸切り痕、えぐれる。

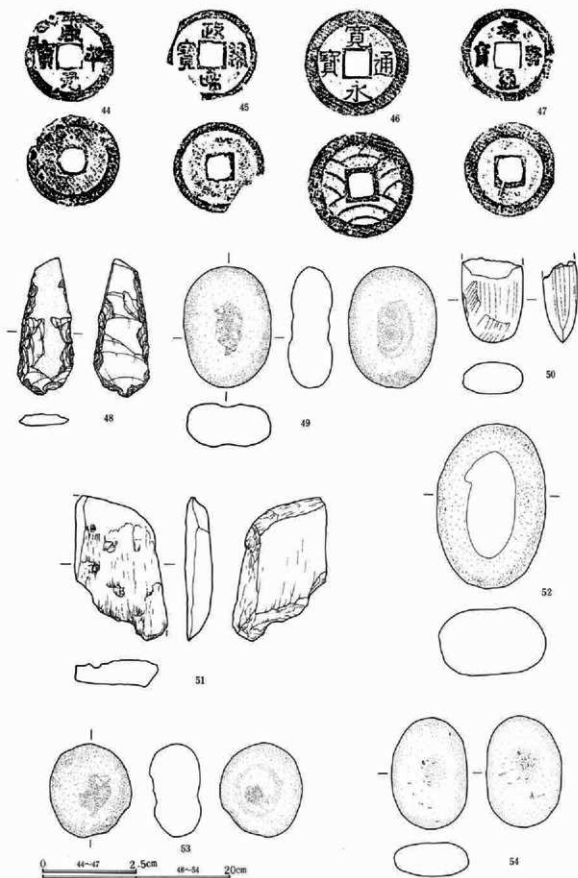


第252図 遺構外出土遺物実測図(1)

第1節 I区検出の遺構と遺物



第253図 遺構外出土遺物実測図(2)



第254図 遺構外出土遺物実測図(3)

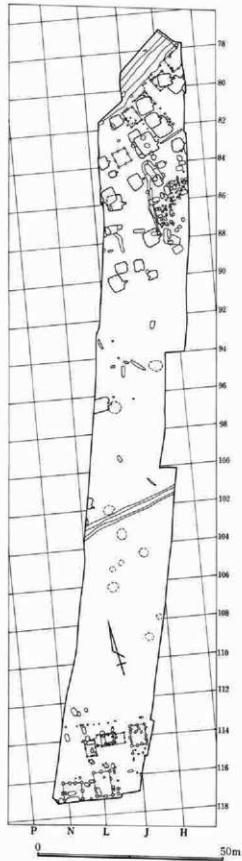
第1節 1区検出の遺構と遺物

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
19	須恵器 坏	J-49G	11.2 7.2 3.5 片	1. 灰白色 2. 精選 3. 還元焰 硬質	轆轤整形。底部回転糸切り後、周辺部削り。
20	須恵器 坏	J-52G	12.7 5.8 4.2 片	1. 灰色 2. 砂粒含む 3. 還元焰 硬質	轆轤整形。底部左回転糸切り、肥厚。
21	須恵器 坏	J-50G	11.6 7.2 4.1 片	1. 灰色 2. 白色細粒含む 3. 還元焰 硬質	轆轤整形。底部絞り込み後、右回転糸切り
22	須恵器 碗	G-42G	11.0 6.8 5.0 口縁～底部片	1. 灰色 2. 砂粒含む 3. 還元焰 硬質	轆轤整形、口唇部押しさへ。体部直線的に開く。底部 絞り込み、高台貼付、外反、回転糸切り
23	須恵器 碗	J-50G	11.7 7.9 4.9 ほぼ完形	1. 灰色 2. 砂粒 白色小石含 む 3. 還元焰 硬質	轆轤整形。体部下端絞り込み、底部高台貼付。内溝 気味に開く。接地部は平坦。沈線直る
24	須恵器 碗	J-50G	15.0 6.7 5.1	1. 灰色 2. 細砂粒含む 3. 還元焰 硬質	轆轤整形。体部直線的に開く。高部高台貼付。底部 回転糸切り。断面台形、無で。
25	須恵器 碗	I-49G	16.4 9.1 5.5 片	1. 灰色 2. 砂 白色粒含む。 3. 還元焰 硬質	轆轤整形。体部内溝。底部肥厚、高台貼付回転削り り。
26	須恵器 蓋	K-50G	13.0 - 1.7 完形	1. 灰色 2. 精選 3. 還元焰 硬質	口縁部垂直に折り曲げ、体部水平、外面回転削り り。横み部リング状。内面平滑で摩耗。
27	須恵器 蓋	J-47G	12.0 - 2.85 片	1. 灰白色 2. 砂粒含む 3. 還元焰 硬質	口縁部カカリ、内側、掘み出し。頂部回転削で。 横み部貼り付け痕。
28	須恵器 蓋	K-48G	9.8 - -	1. 灰色 2. 精選 3. 還元焰 硬質	口縁部垂直に折り曲げ、端部僅かに外反。 体部水平。
29	須恵器 蓋	J-50G H-52	25.0 - (2.5)	1. 灰色 2. 粗砂白色小石含む 3. 還元焰 硬質	口縁部端部折り曲げ、轆轤整形。体部肥厚。内面水 平頂部回転削り。横み部リング状。
30	須恵器 脚部	J-52G	- (12.2) -	1. 灰色 2. 砂粒含む 3. 還元焰 硬質	緩やかに外反、水平に開き、口唇部垂直に折り曲 げ。
31	須恵器 蓋	J-51G	17.6 - 6.0	1. 灰色 2. 砂 白色 黒色粒 含む 3. 還元焰 硬質	轆轤整形。端部折り返し。体部轆轤目。頂部平坦、 横み部、擬宝珠。
32	須恵器 蓋	J-50G	15.6 - 3.8 片	1. 灰色 2. 砂粒 小石含む 3. 還元焰 硬質	口縁部端部折り返し後、沈線持つ、轆轤整形。 頂部平坦、回転削り。横み部、擬宝珠。
33	須恵器 蓋	J-50G	15.6 14.8 4.0 片	1. 灰白色 2. 砂粒含む 3. 還元焰 軟質	口縁部折り曲げ、轆轤整形。頂部回転削り。 横み部ボタン状。
34	須恵器 脚部	H-42G	- 14.0 - 脚部のみ	1. 白色 2. 細砂粒含む 3. 還元	口縁部外反、口唇部内側の平坦面。 体部貼り付け痕。
35	須恵器 鉢	H-41G	- 10.0 -	1. 灰色 2. 精選 3. 還元焰 硬質 良好	体部回転削で。底部削り、水平に開き、端部平 坦。
36	須恵器 高坏	H-40G	台部	1. 灰色 2. 細砂粒含む 3. 還元焰 硬質 良好	坏部欠損。轆轤整形。脚部2条の沈線。 回転削で。
37	須恵器 壺	F-52G	- 17.0 - 底～下部	1. 灰色 2. 砂粒含む 3. 還元焰 硬質 良好	胴下部回転削り、無で。底部無調整。
38	弥生土器 壺	L-16G	- 6.0 -	1. にぶい褐色 2. 細粒含む 3. 酸化焰	底部削代痕

第II章 上栗須遺跡

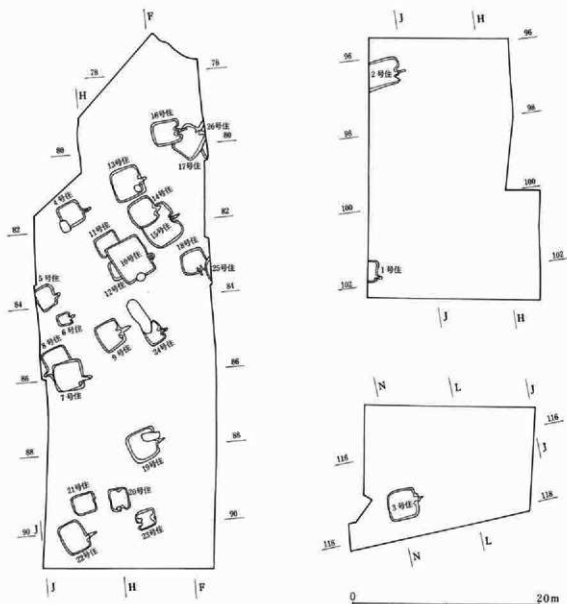
番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整 形 ・ 調 整 の 特 徴
39	鉄製品	I-52G	3.5 — 3.5	128.02g	隅丸立方体。頂部僅かに三角形。胴部横み持つ。
40	鉄 鍔	J-49G		13.87g	基部及び、鍔の片方欠損。開闔板。縦股
41	土製品 土 鏝	J-49G	4.0 2.0 —	1. にぶい橙色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰	棒状工具、巻きつけ。
42	土製品 土 鏝	J-49G	3.8 1.7 —	1. にぶい橙色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰	棒状工具、巻きつけ。
43	鏝	H-49G	— 3.5 0.3	29.7g	先端部欠損、基部部折り返し。
44	古 銭	表様	2.5 1.9	2.27g	成平元宝。998年。
45	古 銭	表様	2.4 2.1	2.16g	政和通宝。1111年。
46	古 銭	表様	2.8 2.2	3.78g	寛永通宝。
47	古 銭	3号古墳	2.2 1.7	1.98g	寛永通宝。
48	石	北東	14.5 6.0 1.4	129.8g	
49	凹 石	覆土	12.7 9.3 4.7	820g	
50	磨製石斧	F-68G	9.1 6.2 3.35	350g	粗粒安山岩、緑泥片岩。叩き痕あり。
51	石	O-23G	— — —	490g	緑泥片岩、多孔石。
52	石	M-15G	17.6 11.8 6.8	2,210g	泥紋岩、磨り岩。
53	石	K-40G	10.0 8.8 4.8	550g	粗粒安山岩、磨り石。
54	石	O-29G	12.0 8.0 3.6	530g	安山岩、磨り石

第2節 II区検出の遺構と遺物

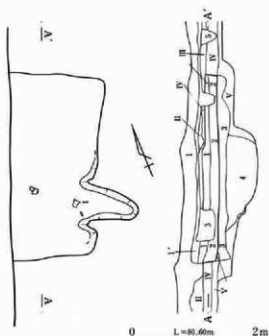


第255図 全体図

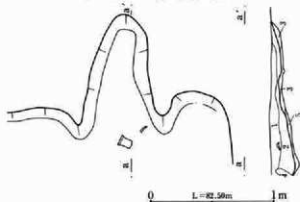
1 竪穴住居跡



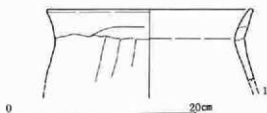
第256図 住居全体図



第257図 1号住居跡実測図



第258図 1号住居跡電気実測図



第259図 1号住居跡出土遺物実測図

1号住居跡 (写真図版99・120)

位置 K-101グリッド 方位 E-29°-S

規模 南北2.9m 西半分は調査区外のため未調査。

壁高 25cm前後 垂直に立ち上がる。

貯蔵穴 無し 柱穴 無し 周溝 無し

床面 黄色土砂質土塊混じりの褐色土を踏み固めて
いる。僅かに焼土・炭化物含む。

掘形 電前に径1.8m程の楕円形が掘られている。

遺物 電前に土師器出土。

I~Vは基本土層番号

- 1 暗褐色土 As-Bと炭粒を少量含む。やや粘性をもつ。
- 2 暗褐色土 黄色砂質土塊を含む。
- 3 褐色土 黄色砂質土塊を多量、焼土粒を少量含む。
- 4 褐色土 チョコレート色を成し、全体に粒子が細かく粘性が強い。
- 5 灰褐色土 礫石と黒土の混土。

竈

位置 東壁南寄り

規模 焚口部幅60cm 燃焼部奥行き40cm・幅55cm

深さ10cm 煙道部長さ50cm・幅30cm

燃焼部から煙道部へは緩く立ち上がる。

構築 燃焼部は壁を掘り込み構築され、焚口部に地
山掘り残しの袖を持つ。火床面は灰や焼土の堆積見
られず、焼土や灰が広がる。煙道部は焼土や炭化
物の広がりで確認したため不定形になった。

- 1 暗褐色土 焼土・炭粒と黄色粘質土塊を多く含む。
- 2 暗褐色土 焼土・炭粒少量と黄色粘質土塊を含む。
- 3 黄褐色土 粘質土。
- 4 黄褐色土 粘質土塊。
- 5 暗褐色土 焼土・炭粒・粘土の混土。

1号住居出土遺物観察表

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
1	土師器 壺	電前 +6	22.2 - 口径部~頸部	1. 明褐色 2. 粗砂 片岩小石 含む 3. 酸化焙 良好	口縁部横溝で、胴部上位縦方向彫削り。

2号住居跡 (写真図版99・120)

位置 J-96グリッド 方位 E-4°-S

規模 南北3.6m 南壁長さ5.1m 北壁長さ3.6m

西壁は調査区外のため、未調査。東西方向に長い長方形ではあるが、竈右袖から南隅にかけて掘り残しが見られ東壁はクランク状になる。

壁高 58cm前後 ほぼ垂直に立ち上がる。

貯蔵穴 南東隅 1m×70cmの楕円形屋し、深さ30cmを削る。覆土上面に灰層の堆積見られる。

柱穴 壁外に径30cm前後、深さ10~20cmのピットを検出した。これらのピットは並びは不規則ではあるが、壁に沿うように掘られていることから、壁外柱穴の可能性も考えられる。

周溝 無し

床面 黄褐色土塊混じりの暗褐色土を踏み固めている。住居中央部は特に堅く締まる。竈前は灰層の広がり見られる。

掘形 住居中央南寄りに不正円形の掘り込み見られるが、全体的にフラットな面に仕上げられている。

遺物 住居中央部及び南壁際に土師器壺、貯蔵穴内に板状鏝や土師器環や須恵器環等が出土している。

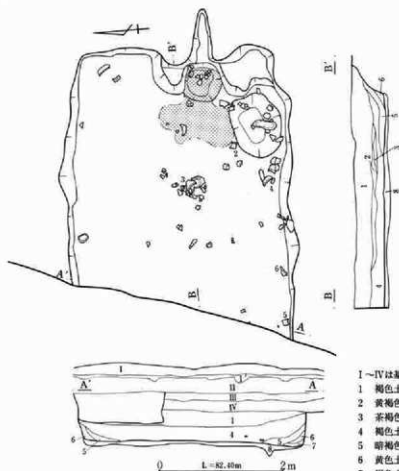
竈

位置 東壁中央南寄り

規模 焚口部幅60cm 燃焼部奥行き60cm・幅55cm・深さ60cm 煙道部長さ85cm・幅25cm

煙道部への立ち上がり28cm やや傾いて立ち上がる。

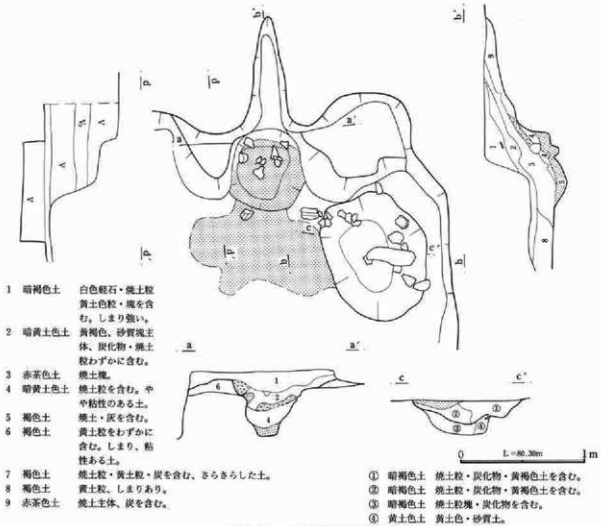
構築 燃焼部は壁内にあり、電機築用に地山を掘り残している。右袖から南隅まで地山が掘り残され、10cm程下がりテラス状になっている。壁面は垂直に立ち上がり、赤茶色に焼土化し焼き締まっている。火床面は床面より6cm程下がり、下層に10cmの灰の堆積見られる。煙道部は斜方向に伸び側壁は赤茶色に焼土化している。



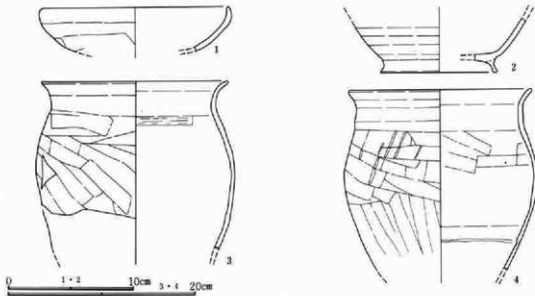
第260図 2号住居跡実測図

I~IVは基本土層番号

- 1 褐色土 焼土・炭粒を含む。
- 2 黄褐色土 粘質土及び、砂粒の塊・焼土・炭粒を含む。
- 3 茶褐色土 焼土塊を多く含む。
- 4 褐色土 黄褐色小塊・焼土・炭粒を多く含む。
- 5 暗褐色土 粒子の細かい粘質土。
- 6 黄色土 黄色砂質土塊。
- 7 褐色土
- 8 褐色土 黄色土塊含む。堅く踏み固められている。

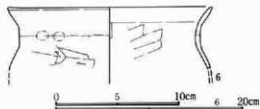
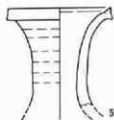


第261図 2号住居跡竈実測図



第262図 2号住居跡出土遺物実測図(1)

第二章 上栗須遺跡



第263図 2号住居跡出土遺物実測図(2)

2号住居出土遺物観察表

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
1	土師器 坏	竈内	15.0 — — 口径部～体部迄	1. にぶい橙色 2. 砂粒含む 3. 還元焰 良好	口径部内反、横撫で。 体部横方向削り。
2	須恵器 碗	南東 +7	— 9.2 — 小片	1. 灰色 2. 白色細砂粒含む 3. 還元焰 硬質	輪軸整形 底部高台貼り付け、撫で。
3	土師器 甕	中央 床直	20.0 — — 口径部～胴部	1. 明赤褐色 2. 細砂粒含む 3. 還元焰 良好	口径部外反、胴部にかき横撫で、コの字口径。 頸部指頭圧痕有り。胴上部斜、下部縦方向削り。
4	土師器 甕	南壁中央 +8	19.6 — — 口径部～胴部迄	1. 橙色 2. 細砂粒含む 3. 還元焰 良好	口径部～胴部横撫で、胴部上下端強い横撫で。 胴上部斜方向削り 中位～下部縦方向削り。
5	須恵器 長頸壺	南西隅 +13	8.1 — — 頸部～口径部	1. 灰色 2. 白色細砂粒含む 3. 還元焰 硬質	口径部外反。
6	土師器 甕	南西隅 +4	21.8 口径部迄	1. 橙色 2. 細砂粒含む 3. 還元焰 良好	口径部～胴部横撫で、指頭圧痕有り。口径部外側比 線透る。胴上部横削り、内面縦撫で。

3号住居跡 (写真図版99・120)

位置 M・N-116・117グリッド 方位 E-20°-S

重複 1号掘立柱建物と主軸は直交し中に納まる。

規模 東西4m 南北4m 方形を呈する。

壁高 55cm前後 垂直に立ち上がる。

貯蔵穴 南東隅 長軸1.2×短軸0.9m、深さ30cm程の楕円形を呈する。

柱穴 無し 周溝 無し

床面 黄褐色土と灰褐色粘質土の塊を混ぜ踏み固めている。住居中央部は特に堅く踏み固められている。電前は灰の広がり見られる。また、南西部分に炭化物の集合が見られる。

掘形 黄緑色砂質土層まで掘り込み、全体は、フラットな面に仕上げられている。

遺物 中央部から南東隅にかけて土師器甕や台付甕等出土。また、北西隅よりに12～15cm程の緑泥片岩

系の棒状礫がまとまって出土。

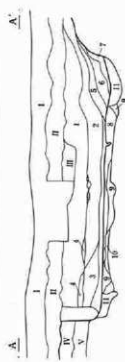
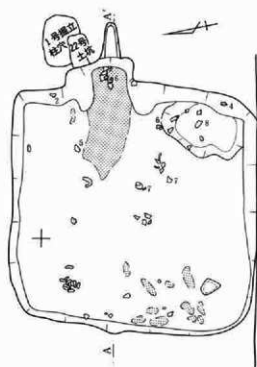
竈

位置 東壁北寄り

規模 焚口部幅65cm 燃焼部奥行き70cm・幅50cm・深さ70cm 煙道部長さ55cm・幅20cm

煙道部への立ち上がり35cm 斜方向に立ち上がる。

構築 燃焼部は、壁を掘り込み構築されている。壁面は垂直に立ち上がり、赤茶色に焼土化している。袖部分は、上面は暗褐色土と黄褐色土の混土が貼られているが、芯の部分は地山を掘り残している。火床面は、床面より僅かに低く上面に焼土層、下面に灰層の堆積見られる。煙道部は斜方向に伸び、側壁が赤茶色に焼土化している。

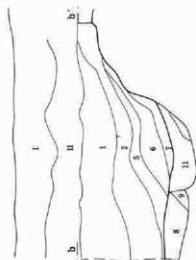
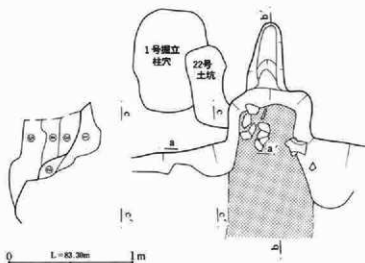


I~Vは基本土層参照

- 1 褐色土 土器片・焼土粒・小礫等を含む。
- 2 褐色土 黄褐色粘土粒・黄土粒・土器片、わずかに小礫を含む。
- 3 褐色土 黄褐色粘土粒、わずかに小礫を含む。
- 4 暗褐色土 灰・炭化物・黄褐色土塊を含む。
- 5 暗褐色土 褐色粘土塊・焼土粒・土器片を含む。
- 6 褐色土 焼土粒、土器片を含む。粘性強い。
- 7 暗茶褐色土 焼土多量を含む。
- 8 灰黄褐色土 灰褐色粘質土が1cm程度の形状に入る。上面しまり強い。粘床。
- 9 黄褐色土 黄褐色土粒塊を含む。
- 10 黄褐色土
- 11 褐色粘質土

0 L=84.00m 2m

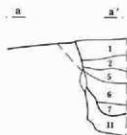
第264図 3号住居跡実測図



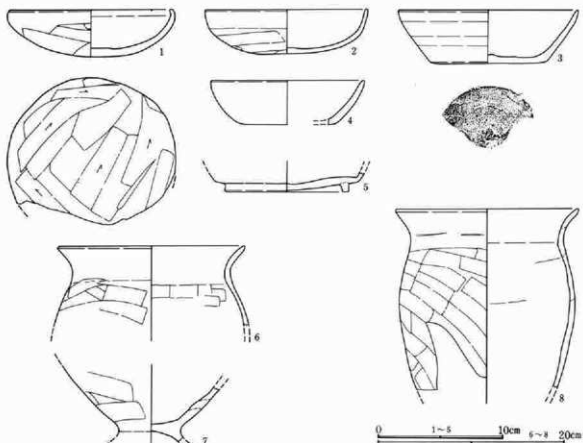
電土層は、住居実測図と同じ

土層説明

- ① 暗褐色土 黄土色粒・焼土粒・小石を含む。
- ② 黄土色土 炭化物・褐色粘土塊を含む。
- ③ 灰黄色土 粘質土。
- ④ 灰黄色土 砂礫層。
- ⑤ 灰黄色土 (やや灰色) シルト質土層。



第265図 3号住居跡電実測図



第266図 3号住居跡出土遺物実測図

3号住居出土遺物観察表

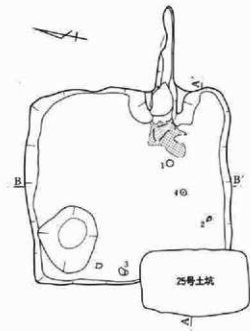
番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
1	土器 钵	覆土	12.8 - 3.7 口径部～底部迄	1. 橙色 2. 白色細粒 僅かに含む 3. 酸化焙 良好	口径部横撫で。 体部～底部手持ち荒削り。
2	土器 钵	北東隅 +6	12.9 - 3.5 %	1. 橙色 2. 細砂粒 粘土細粒含む 3. 酸化焙 やや軟質	口径部横撫で。表面薄削。 体部～底部荒削り。平底気味。
3	須恵器 钵	覆土	14.2 9.1 4.2 %	1. 灰白色 2. 黒色 白色細粒含む 3. 還元焙 硬質	轆轤整形。体部直線的に開く。 底部鋭切り離し。
4	土器 钵	南東隅 +23	12.1 - - %	1. 橙色 2. 細砂 粘土細粒含む 3. 酸化焙 良好	口径部横撫で。体部指撫で。 底部平底。
5	須恵器 鉢	北東 +15	- 9.8 - 底部の%	1. 灰白色 2. 精選 3. 還元焙 硬質	轆轤整形。底部高台貼り付け。 底部切り離し技法。回転撫でにより消失。
6	土器 甕	覆内 +7	20.0 - - 口径部～上部部迄	1. 橙色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焙 良好	口径部横撫で。胴上部横方向荒削り。 内面荒削で。
7	土器 台付 甕	中央 +3	- - - 底部～台部	1. 橙色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焙 良好	胴部下半表面摩耗。内面凹凸見られる。
8	土器 甕	南西 +3	19.6 - - 口径部～胴部迄	1. 濃い橙色 2. 砂粒含む 3. 酸化焙 良好	口径部横撫で。 胴上部横方向荒削り 中位～下位斜方向荒削り。

4号住居跡 (写真図版100・121)

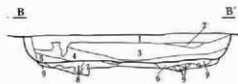
位置 H-81グリッド, 方位 N-80°-E
 重複 25号土坑に南西隅を切られる。
 規模 東西3.2m 南北3.2m 正方形を呈する。
 壁高 40cm前後 垂直に立ち上がる。
 貯蔵穴 無し 柱穴 無し 周溝 無し
 床面 黄褐色土塊と灰黄色砂質土塊混じりの褐色土を踏み固めている。電前は特に堅く締まり、焼土や灰の広がり見られる。
 掘形 凹凸激しく、住居中央部周辺が掘り込み深い。
 遺物 電前に土師器環出土。

竈

位置 東壁南寄り
 規模 焚口部幅35cm 燃焼部奥行き55cm・幅30cm・深さ45cm 煙道部長さ1.3m・幅20cm 天井部残る。
 煙道部への立ち上がり20cm 緩い傾斜をもつ。
 構築 燃焼部は壁内にあり、若干壁を掘り込む。袖は、黄褐色土と灰褐色粘質土を混ぜたものを壁に貼り付け燃焼部を構築している。火床面は床面と同レベルであり、奥壁よりに灰の堆積見られる。煙道部は水平方向に伸び、煙出し部で緩く立ち上がる。天井部及び側壁は、赤茶色に焼土化し焼き締まる。煙道部底面は焼土は無い。

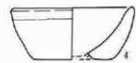
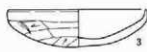
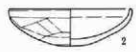
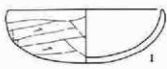


- 1 暗褐色土 黄褐色土粒・小礫・白色軽石を含む
- 2 暗褐色土 黄褐色土粒・わずかに小礫・白色軽石あり。
- 3 暗褐色土 黄褐色土粒・泥多量に含む。
- 4 暗褐色土 黄褐色土粒・暗褐色粘質土塊を含む。
- 5 褐色土 黄褐色土粒・細砂混じり。
- 6 黒褐色土 黄色土粒・炭を含み、しまりあり。
- 7 黄褐色土 黄色土粒・塊・灰黄色細砂塊の混じり。
- 8 黄褐色土 黄褐色土と細砂の混合。
- 9 黄褐色土



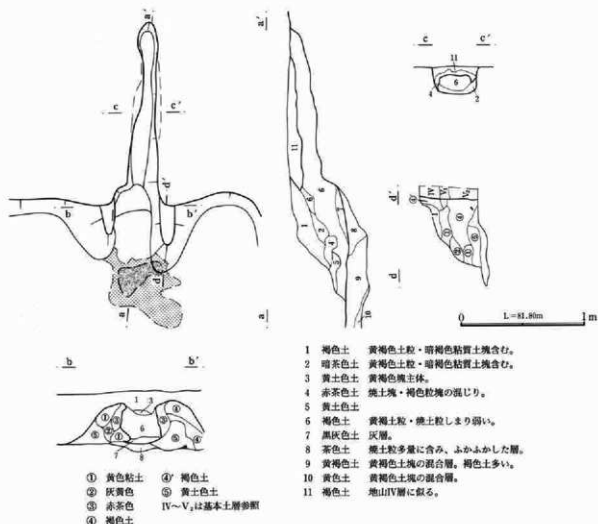
0 L=81.60m 2m

第267図 4号住居跡実測図



0 10cm

第268図 4号住居跡出土遺物実測図



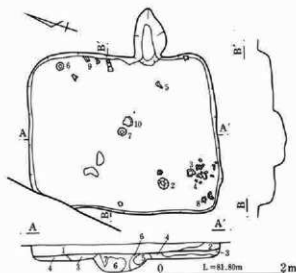
第269図 4号住居跡竈実測図

4号住居出土土物観察表

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
1	土器器 杯	南東 床直	12.0 — 4.2 完形	1. 褐色 2. 砂粒含む 3. 酸化焙 軟質	口縁部僅かに内湾、横側で。 体部～底部手持り寛削り。
2	土器器 杯	南西 +5	9.7 — 3.0 M	1. 褐色 2. 粗砂僅かに含む 3. 酸化焙 良好	口縁部横側で、内湾気味に立ち上がる。 体部～底部手持り寛削り。
3	土器器 杯	西壁 床直	11.0 — 2.9 完形	1. 褐色 2. 粗砂粒含む 3. 酸化焙 良好	口縁部横側で、内湾気味に立ち上がる。 体側部～底部手持り寛削り。
4	土器器 杯	南西 +5	9.5 6.4 4.1 ほぼ完形	1. 褐色 2. 粗砂 粘土粒含む 3. 酸化焙 良好	口縁部器内厚い、手づくね。 底部平底、中央握部。

5号住居跡 (写真図版100・121)

位置 I-83グリッド 方位 N-72°-E
 規模 東西2.5m 南北3m やや長方形ぎみ
 壁高 15cm前後 垂直に立ち上がる。
 貯蔵穴 無し 柱穴 無し 周溝 無し
 床面 黒色土に灰褐色砂質土混じりの灰黒色土。締まり弱くサクサクしている。
 掘形 中央部に径90cm、深さ30cm程の土坑を検出した。他の面はフラットに仕上げられている。
 遺物 須恵器坏・椀・皿や土師器台付甕等出土。



第270図 5号住居跡実測図

- 1 暗褐色土 黄褐色土粒・小礫を含む。ざらついている。
- 2 暗褐色土 黄褐色土粒・灰・細砂を含む。
- 3 灰黒色土 灰褐色砂層と黒色土の混入土層。
- 4 灰褐色土 灰褐色砂層に少量の黒色土の混入土層ほぼ地山。
- 5 灰褐色土 灰褐色土層中に濃い褐色土が塊状に混入。
- 6 褐色土 灰褐色砂質土の混じり。
- 7 灰黒色土 3層に近い。

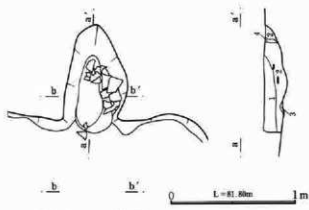
竈

- 1 暗褐色土 小礫を含むざらついたもの。 4 焼土層。
- 2 暗褐色土 焼土小礫を多く含む。
- 3 黄褐色土 暗褐色土と黄褐色土の混入土層。

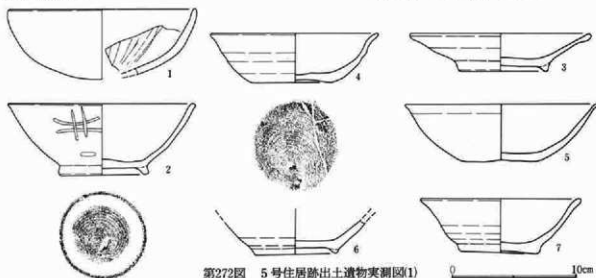
竈

位置 東壁南寄り

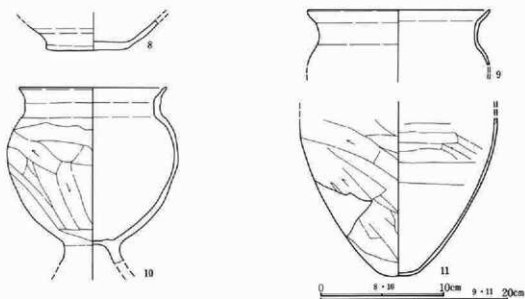
規模 焚口部幅30cm 燃焼部奥行き50cm・幅30cm・深さ15cm 煙道部は削平される。
 煙道部への立ち上がり12cm 緩い傾斜を持つ。
 構築 燃焼部は壁外にあり、袖を持たない。壁面は、緩い傾斜で立ち上がり、余り焼けていない。火床面も焼土や灰の広がり見られずはっきりしない。遺物は土師器甕出土。



第271図 5号住居跡竈実測図



第272図 5号住居跡出土遺物実測図(1)



第273図 5号住居跡出土遺物実測図(2)

5号住居出土遺物観察表

番号	器 器 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 構成	整形・調整の特徴
1	土師器 坏	覆土	15.0 — — 片	1. 橙色 2. 細砂粒 粘土粒含む 3. 酸化焰 良好	体部内面放射状暗文。底部丸底。
2	須恵器 椀	南西 床直	15.0 7.1 5.7 完形	1. 淡黄色 内面黒色 2. 砂粒 含む 3. 酸化焰 やや軟	口縁部黒色。口唇部僅かに外反、内面無で。 外面「井」状の遺書見られる。底部回転糸切り。
3	須恵器 皿	南西 床直	14.3 7.0 3.0 片	1. 灰色 2. 細砂粒含む 3. 還元焰 軟質	轆轤整形、表面摩耗。 底部回転糸切り。高台貼り付け。
4	須恵器 坏	南西 床直	13.4 6.3 3.9 片	1. 灰黄色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 良好	轆轤整形、轆轤目。 底部右回転糸切り、未調整。
5	須恵器 椀	南東 +14	15.0 — — 片	1. 淡黄色 2. 細砂粒 粘土粒 含む 3. 中性焰 軟質	口唇部外反。体部表面摩耗。
6	須恵器 椀	北東 床直	— 6.5 — 片	1. 灰白色 2. 粗砂 粘土粒含む 3. 還元焰 表面剝離	体部表面摩耗。 底部高台貼り付け。
7	須恵器 坏	中央 床直	12.6 6.2 4.3 完形	1. 灰白色 2. 砂粒 小石 白 色粒含む 3. 中性焰 軟質	轆轤整形、口唇部やや肥厚。 底部回転糸切り。腰部しぼり込む。
8	須恵器 坏	南西壁 床直	— 6.6 — 片	1. 灰黄色 2. 小石 粘土粒含む 3. 中性焰 軟質	轆轤整形 底部右回転糸切り。
9	土師器 壺	北東 床直	19.3 — — 口縁部～胴部片	1. 橙色 2. 粘土粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部～胴部横撫で、コの字状口縁。 胴上部横方向篋削り。
10	土師器 台付壺	中央 床直	11.6 — 14.0 ほぼ完形	1. ぶい橙色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で、内面横刷毛。胴上部横方向篋削り 胴下半部方向篋削り。底部台座部横撫で。
11	土師器 壺	竈内	— 3.0 — 胴部～底部片	1. ぶい黄褐色 2. 砂粒 粘 土粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部欠損。 胴部斜方向篋削り。器内薄い。

6号住居跡 (写真図版101・121)

位置 H-84グリッド 方位 N-81°-E

規模 東西2m 南北1.8m 方形を呈する。

壁高 20cm前後 緩く立ち上がる。

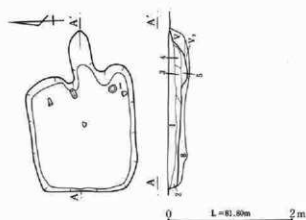
貯蔵穴 無し 周溝 無し

柱穴 中央の南北軸延長線上に径30cm、深さ数cmの小ピットを検出した。

床面 灰黄色砂質土混じりの暗褐色土。サクサクしており締まり弱い。

掘形 中央西側に長軸1.2mの楕円形の土坑ある。

遺物 電右袖前より土師器坏出土。



第274図 6号住居跡実測図

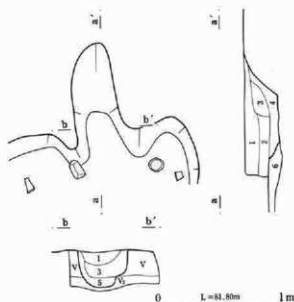
竈

位置 東壁

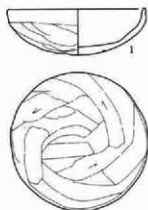
規模 焚口部幅30cm 燃焼部奥行き40cm・幅25cm・深さ20cm 煙道部は削平。

煙道部への立ち上がり15cm 緩く立ち上がる。

構築 燃焼部は壁を掘り込み構築している。地山掘り残しによる袖を持つ。火床面は床面と同レベルであり焼土、灰等の粒子が僅かに見られる程度である。



第275図 6号住居跡竈実測図



第276図 6号住居跡出土遺物実測図

6号住居遺物観察表

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
1	土師器 坏	電右袖 床直	11.0 - 3.6 完形	1. 橙色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横溝で、直立。 体部、底面手持ら寛削り。

V~V₂は基本土層参照

1 暗褐色土 黄土色土塊・粒をわずかに含む。

2 暗褐色土 黄褐色土粒・砂をわずかに含む。

3 暗褐色土 黄土色塊・焼土粒含む。

4 暗褐色土 灰褐色砂層と暗褐色土の混入土層、焼土粒子を多く含む。

5 暗褐色土 焼土粒子・灰褐色砂質土の混入土層。

6 暗褐色土

7号住居跡 (写真図版101・121・122)

位置 H・I-85・86グリッド 方位 E-2°-S

重複 北壁で8号住居を切る。

規模 東西4.1m 南北4m 方形を呈する。

壁高 55cm前後 ほぼ垂直に立ち上がる。

貯蔵穴 南東隅に径35cm、深さ50cmのピット

柱穴 無し 周溝 無し

床面 黄褐色土塊を含む褐色土を踏み固めている。

竈前には焼土、灰の広がり見られる。

掘形 掘形面全体に凹凸見られ、その他に土坑等を検出した。竈前方に長軸1mの不定型の土坑を検出し、深さは15cm程で土坑内及び上端周辺より17cm程の棒状礫3個出土。また、北壁中央内寄りに長軸75cm程の楕円形状の土坑検出し、深さは20cmを測る。中から20cmの角礫出土。

遺物 竈周辺及び南壁際に土師器坏等出土。西壁中央際に20cm前後の片岩系の棒状礫まとまって出土。

竈

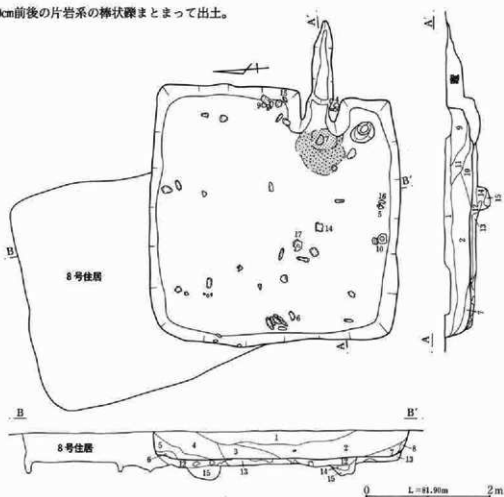
位置 東壁南寄り

規模 焚口部幅30cm 燃焼部奥行き60cm・幅30cm・

深さ35cm 煙道部長さ1m・幅20cm

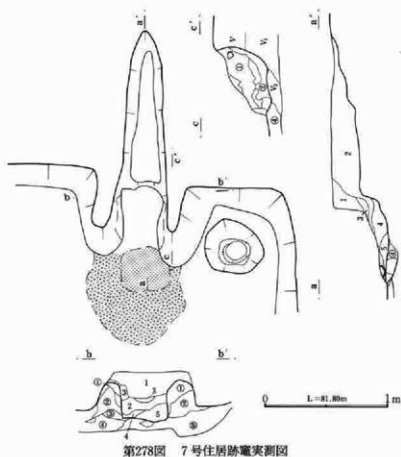
煙道部への立ち上がり15cm ほぼ垂直に立ち上がる。

構築 燃焼部は住居内にあり、袖を持つ。袖は、黄褐色粘質土を主体に褐色粘質土、焼土塊を混ぜ壁に貼り付けている。掘形は方形を呈し、袖壁面は垂直に立ち上がる。壁面は赤茶色に焼けている。火床面は床面と同レベルであり、灰層の堆積はみられない。僅かに焼土や灰の広がりが見られる。煙道部は水平方向に伸び、煙り出し部にかけて緩く立ち上がる。側壁は湾曲して立ち上がり、赤茶色に焼けており、煙道部確認時に焼土のラインが確認できた。



第277図 7号住居跡実測図

第2節 II区検出の遺構と遺物

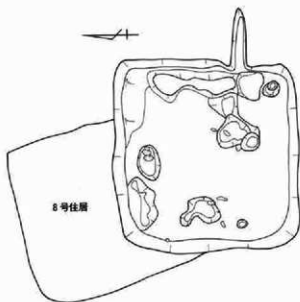


第278図 7号住居跡竈実測図

- 住居土層
- | | | |
|----|-------|-----------------|
| 1 | 暗褐色土 | 白色輝石を含む。 |
| 2 | 暗褐色土 | 土器片多い。 |
| 3 | 暗褐色土 | さらさらした土。 |
| 4 | 暗黄褐色土 | 黄褐色土粒塊、粒多く含む |
| 5 | 暗黄褐色土 | 黄褐色土を多量に含む。 |
| 6 | 褐色土 | 褐色土塊混じり。 |
| 7 | 褐色土 | 粘性強いわずかに黄土粒を含む。 |
| 8 | 暗褐色土 | 壁の崩落。 |
| 9 | 暗褐色土 | 黄褐色土粒含む。 |
| 10 | 褐色土 | 黄土色土粒塊・焼土を含む。 |
| 11 | 暗黄土色土 | 黄土色土塊多く含む。 |
| 12 | 褐色土 | しまり固い。 |
| 13 | 黄褐色土 | 黄色粘土粒塊主体。 |
| 14 | 褐色土 | 12層より黄色土粒少ない。 |
| 15 | 褐色土 | 12層より黄色土粒を多く含む。 |

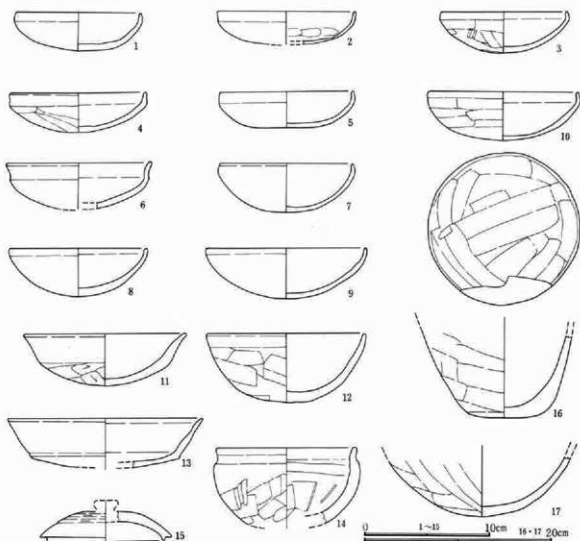
- 竈土層
- | | | |
|---|-------|--------------|
| 1 | 暗褐色土 | 焼土・黄土粒・炭等含む。 |
| 2 | 褐色土 | やや焼けている。 |
| 3 | 黄褐色土 | 黄色粘土・焼土を含む。 |
| 4 | 暗黄褐色土 | 焼土粒・黄色塊混じり。 |
| 5 | 黄土色土 | 焼土粒・黄色塊混じり。 |

- 竈袖土層
- | | | |
|---|-------|--------------------|
| ① | 暗黄褐色土 | 黄褐色土粒塊・焼土粒混じり。 |
| ② | 黄褐色土 | 黄土色塊主体、焼土粒・褐色土粒含む。 |
| ③ | 黄褐色土 | 黄土色塊、焼土粒混合同層。 |
| ④ | 黄土色土 | 黄土色塊含む、ざらつく。 |
| ⑤ | 黄色粘土 | |



第279図 7号住居跡床下実測図

第II章 上栗須遺跡



第280図 7号住居跡出土遺物実測図

7号住居出土遺物観察表

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
1	土師器 杯	覆土	10.0 - 3.0 完形	1. 褐色 2. 砂粒含む 3. 酸化焙 良好	口縁部横割で、内湾。 体部～底部手持ち寛削り。
2	土師器 杯	覆土	11.0 - - 口縁部～底部片	1. 褐色 2. 砂粒含む 3. 酸化焙 良好	口縁部横割で、直立。 体部～底部手持ち寛削り、内面指頭圧痕有り。
3	土師器 杯	覆土	10.2 - 3.2 片	1. 褐色 2. 砂粒含む 3. 酸化焙 良好	口縁部横割で、直立。 体部～底部手持ち寛削り。
4	土師器 杯	竈内 -11	11.9 - 3.1 口縁部～底部片	1. 褐色 2. 細砂粒僅かに含む 3. 酸化焙 良好	口縁部横割で、直立。 体部～底部手持ち寛削り。
5	土師器 杯	南壁 +2	10.6 - 3.0 完形	1. 褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焙 良好	口縁部横割で、僅かに内湾。 体部～底部表面割落。
6	土師器 杯	西壁 +10.0	11.6 - (3.7) 片	1. 褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焙 良好	口縁部横割で、腰を持つ。 胴部、底部割削り。

番号	器 種 器 形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整 形 ・ 調 整 の 特 徴
7	土 師 器 環	甕前 +1	10.6 - 3.9 % %	1. 橙色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 軟質	口縁部僅かに内湾。 体部～底部手持ち寛削り。
8	土 師 器 環	覆土	11.0 - 3.8 口縁部～底部% %	1. にぶい橙色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 やや軟質	口縁部横撫で。口唇部内傾。 体部～底部手持ち寛削り。
9	土 師 器 環	甕左 -5	12.8 - 4.0 口縁部～底部% %	1. にぶい橙色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 軟質	口縁部横撫で。口唇部僅かに内傾。 体部～底部手持ち寛削り。
10	土 師 器 環	甕壁 +3	12.1 - 3.8 ほぼ定形	1. 橙色 2. 細砂 黄色細粒含 む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。僅かに内傾。 体部～底部手持ち寛削り。
11	土 師 器 環	覆土	12.9 - 4.1 口縁部～底部% %	1. 橙色 2. 粗砂 多量に含む 片岩小石含む 3. 酸化焰 良好	口縁部直線的に開く。横撫で。壁を持つ。器内厚い 体部～底部寛削り。
12	土 師 器 環	覆土	12.6 - 5.5 % %	1. 橙色 2. 砂粒 小石 粘土 含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。 体部～底部寛削り。(深い)
13	土 師 器 環	覆土	15.4 - - 口縁部～底部% %	1. 橙色 2. 細砂 粘土粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。直線的に開く。壁を持つ。 口唇部横撫で。体部～底部手持ち寛削り。
14	土 師 器 環	中央 +8	11.0 - - % %	1. 橙色 2. 砂粒 粘土粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部短かく外反。横撫でにより頸部。器内厚い。 体部球形寛削り。内面横撫で。
15	須 恵 器 蓋	甕左 +5	10.5 - 3.3 % %	1. 灰色 2. 白色微粒含む 3. 還元焰 硬質	前面三角形のカエリを持つ。頂部回転寛削り。 体部丸味もつ。
16	土 師 器 甕	甕壁 -4	- 6.0 - 胴部下～底部	1. 褐灰色 2. 粗砂 小石多量 に含む 3. 酸化焰 良好	胴部斜方向寛削り。 底部横撫で。
17	土 師 器 甕	中央 -1	- - - 底部のみ	1. 橙色 2. 砂粒 粘土粒含む 3. 酸化焰 良好	底部丸底寛削り。

8号住居跡 (写真図版101・122)

位置 H・I-85グリッド 方位 N-75°E

重複 7号住居に南半分を切られる。

規模 東西3.5m

壁高 26cm前後 垂直に立ちあがる。

貯蔵穴 無し 柱穴 無し

周溝 北西隅壁下に上端8cm、下端6cm、深さ2、3cmの周溝を検出した。周溝内に径6cm程の小ピットが20cm間隔で掘られている。

床面 褐色土に黄褐色土塊を混ぜ踏み固めている。

掘形 住居中央に不定型の凹凸見られ、中に径40cm、深さ20cmのピットを検出した。このピットは柱穴の可能性も考えられる。

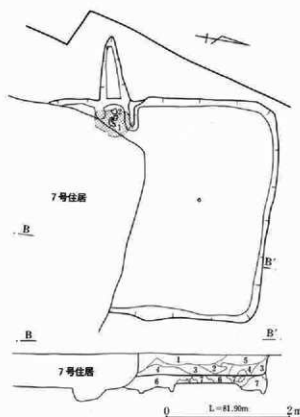
遺物 甕前に土師器甕の破片出土。

竈

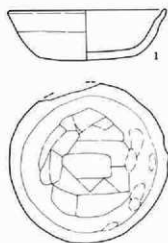
位置 西壁

規模 左袖部分は7号住居により切られ、僅かに痕跡が残る。竈口部幅30cm 燃焼部奥行き40cm・幅30cm・深さ26cm 煙道部長さ1m・幅30cm 煙道部への立ち上がりが10cm 緩く立ち上がる。

構築 確認当初、焼土の広がりが見られ、土師器甕の出土があり、また右袖部分に褐色土混じりの黄褐色土のカマボコ状を呈する高まりを検出したことから甕と認定した。燃焼部は住居内にあり、黄褐色土に褐色土混じりの袖を持つ。火床面は、奥壁に向かい床面より徐々に高くなり、薄く焼土や灰の広がり見られる。



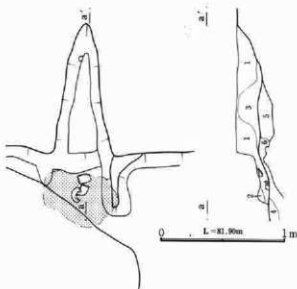
第281図 8号住居跡実測図



第283図 8号住居跡出土遺物実測図

8号住居出土遺物観察表

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
1	土師器 坏	竈内 床直	12.8 8.0 4.0 ほぼ完形	1. におい褐色 2. 砂粒 粘土 粒含む 3. 酸化焙 良好	口縁部横撫で、内面撫で。底部鋭削り。 底部直用り、平底。内面撫で中央部盛り上がる。
2	土師器 壺	竈内 +6.0	- (4.0) - 割部~底部片	1. 明黄褐色 2. 砂粒 小石 粘土粒含む 3. 酸化焙 良好	胴上部縦方向筋削り。



第282図 8号住居跡電気実測図

- 1 暗黄土色土 黄褐色土粒・小礫を含む。ざらついた層。
- 2 褐色土 2~3mm程の黄褐色土粒を含む。
- 3 暗黄土色土 黄褐色土塊を多量に含む。
- 4 暗褐色土 黄褐色土塊を含む。
- 5 暗褐色土 黄褐色小礫をわずかに含む。
- 6 暗黄褐色土 黄色土塊粒を多量に含む。
- 7 暗黄褐色土 黄色土粒を含む。粘性あり。

電土層

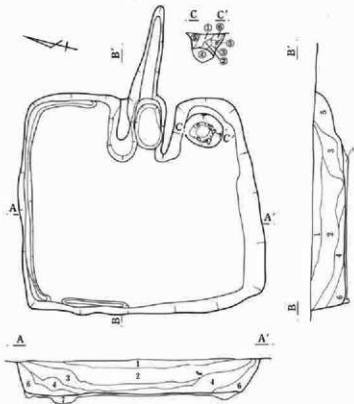
- 1 暗褐色土 黄色土粒、小礫をわずかに含む。
- 2 黄褐色土 黄色土と褐色土混合同層。
- 3 暗黄褐色土 黄色粒塊を含む。しりとり強い。
- 4 暗黄褐色土 黄色土粒を多く含む。バサついた層。
- 5 暗黄褐色土 黄色土粒を多く含む。わずかに黄色土粒・焼土粒を含む。
- 6 暗褐色土

9号住居跡 (写真図版102・122)

位置 G-84・85グリッド 方位 N-74'-E
規模 東西3.5m 南北3.9m 方形を呈する。
壁高 55cm前後 垂直に立ち上がる。
貯蔵穴 南東隅 径60cmの円形を呈し、深さ45cmを測る。中から小礫出土。
柱穴 無し
周溝 住居北半分の各壁下に上端10cm、下端5cm、深さ4cm前後の規模で巡る。
床面 黄褐色土塊混じりの暗褐色土を薄く貼り踏み固めている。
掘形 全体的にはフラットな面に仕上げられているが、壁寄りに土坑状の掘り込みや小ピット見られる。
遺物 床面直上からの出土遺物は無い。また、覆土中に含まれる遺物も少ない。

竈

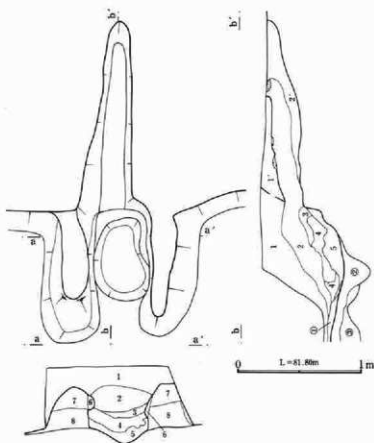
位置 東壁中央やや南より
規模 焚口部幅30cm 燃焼部奥行き80cm・幅40cm・深さ65cm 煙道部長さ85cm・幅20cm
 煙道部への立ち上がりは30cmあるが、僅かに黄褐色土の地山掘り残しにより中段を持つ。
構築 燃焼部は住居内にあり、地山掘り残しによる袖を持つ。側壁は垂直に立ち上がり、僅かに焼けている。覆土中に焼土層とその上面に灰黄褐色土の天井部の崩落土を確認した。火床面は床面より10cm程下がる。灰層の準積は見られない。掘形は長方形を呈し、燃焼部下及び竈前は深く掘り込まれている。煙道部は、焼土塊の確認状況から天井部が残り、水平方向に伸びる。煙出し部は緩く立ち上がる。側壁の焼けは弱い。



- 1 暗褐色土 焼土粒・炭化物・黄褐色土塊僅かに含む。
- 2 褐色土 黄褐色土塊含む、土面片多い。
- 3 暗黄褐色土 黄褐色土塊多く含む。
- 4 褐色土 おずかに黄褐色土粒を含む、粘性あり。
- 5 褐色土 黄褐色土を含む。
- 6 褐色土 黄褐色土塊混じり。
- 7 暗褐色土 黄褐色土粒を含む、しまり強い。
- ① 暗褐色土 黄色粒含む。
- ② 暗黄褐色土 黄色粒・灰黄細砂混じり。
- ③ 灰黄褐色土 黄色粒・灰黄細砂多量に含む。
- ④ 黄褐色土 黄色粒塊・灰黄色細砂混じり。
- ⑤ 褐色土 黄色粒塊・灰黄細砂含む。
- ⑥ 黄色土塊

0 L=81.90m 2m

第284図 9号住居跡実測図



- | | | | |
|---------|----------------------|----------|-------------------------|
| 1 黄褐色土 | 黄褐色土塊を多く含む。 | 5 暗灰褐色土 | 焼土粒・黄褐色土粒、わずかに灰らしきものあり。 |
| 1' 暗褐色土 | | 6 暗黄土色土 | 焼けた部分がみられる。袖の一部か？ |
| 2 暗褐色土 | 黄褐色土塊・焼土粒を含む。 | 7 暗黄褐色砂礫 | |
| 2' 暗褐色土 | 黄褐色土塊をわずかに含む。 | 8 黄土色粘質土 | |
| 3 暗灰黄色土 | 黄褐色粘土・褐色土層合層、焼土粒を含む。 | ① 黄色土 | 黄色土塊。 |
| 4 灰黄色土 | 天井部崩落。下面は焼けた部分。 | ② 褐色土 | 黄色土塊を含む。砂が多少混じる。 |
| 4' 灰黄色土 | | ③ 褐色土 | 粘性あり。わずかに砂が混じる。 |

第285図 9号住居跡竈実測図



第286図 9号住居跡出土遺物実測図

9号住居出土遺物観察表

番号	器 種 器 形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 構成	形 形 ・ 調 整 の 特 徴
1	土 師 器 平 鉢	覆土	12.2 - - 尾	1. 橙色 2. 細砂粒 粘土粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で、直立。 体部～底部磨削り。
2	土 師 器 平 鉢	覆土	11.6 - -	1. 橙色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 やや軟質	口縁部横撫で。 体部～底部磨削り、稜を持つ。

10号住居跡 (写真図版102・122)

位置 F・G-82・83グリッド 方位 N-71°-E

重複 11・12号住居を切り、39号土坑に切られている。

規模 東西4.6m 南北5.4m 南北に長い長方形。

壁高 20cm前後 垂直に立ち上がる。

貯蔵穴 無し 柱穴 無し

周溝 南壁中央東から東壁電南以外の各壁下に、上端10cm、下端5cm、深さ5cmの規模で巡る。

床面 黄褐色土混じりの暗褐色土を薄く貼り、踏み固めている。電前に焼土塊、炭化物、灰混じりの高まり見られる。

掘形 南壁よりに僅かに掘り込み見られる程度で、全体的にはフラットな面に仕上げられている。

遺物 南東隅やや西寄りに、暗文を施された土師器環が出土している。

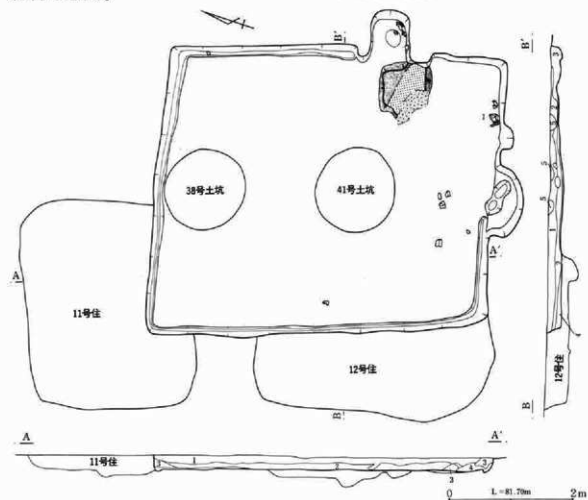
竈

位置 東壁南寄り

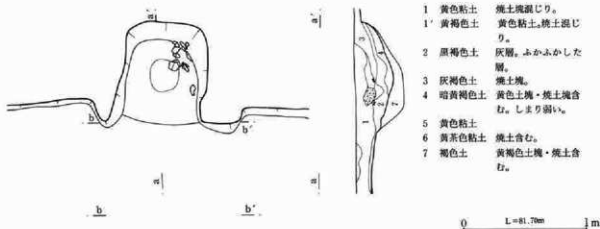
規模 焚口部幅60cm 燃焼部奥行き70cm・幅55cm・深さ30cm 煙道部は削平され不明。

構築 燃焼部は壁外にあり、僅かに焚口部に地山掘り残しの袖を検出した。火床面は、床面より15cm程下がり、灰層の堆積や焼土塊見られる。また、上面には黄褐色土主体の電天井部崩落土の堆積見られる。掘形は長方形を呈し、側壁は垂直に立ち上がる。土師器環を出土した。

- 1 褐色土 黄色土粒・焼土粒・炭化物・白色軽石を含む。
- 2 褐色土 黄色土粒・焼土粒は1層より少ない。
- 3 暗褐色土 黄色土粒をわずかに含む。粘性あり。
- 4 暗褐色土 黄色土粒を多量に含む。
- 5 黄土色土 砂質気味。

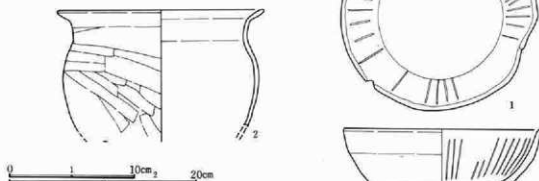


第287図 10号住居跡実測図



- 1 黄色粘土 焼土塊混じり。
- 1' 黄褐色土 黄色粘土・焼土混じり。
- 2 黒褐色土 灰層。ふかふかした層。
- 3 灰褐色土 焼土塊。
- 4 暗黄褐色土 黄色土塊・焼土含む。しまり弱い。
- 5 黄色粘土
- 6 黄茶色粘土 焼土含む。
- 7 褐色土 黄褐色土塊・焼土含む。

第288図 10号住居跡竈実測図



第289図 10号住居跡出土遺物実測図

10号住居出土遺物観察表

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ ・保存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
1	土師器 環	東南 +6	15.8 11.0 - ほぼ完形	1. 棕色 2. 砂粒含む 3. 酸化弱 軟質	口縁部横撫で。体部内面放射状暗文。 底面寛寄り、平底歪。体部～底部手持り寛削り
2	土師器 壺	竈内	22.0 - - 口縁部～胴部写	1. 棕色 2. 砂粒含む 3. 酸化弱 良好	口縁部～胴部横撫で、外反、コの字状口縁。 頸部下横方向削り上平斜方向削り。

11号住居跡 (写真図版102・123)

位置 G-82グリッド 方位 N-72'-E

重複 10号住居に切られている。

規模 東西3.3m 南北2.6m 長方形を呈する。

壁高 22cm前後 やや傾いて立ち上がる。

貯蔵穴 不明 柱穴 無し 周溝 無し

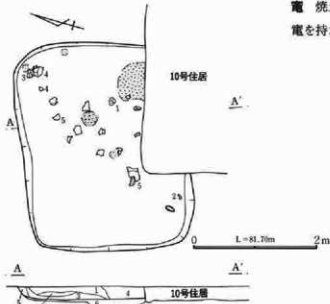
床面 黄褐色土塊、焼土塊混じりの暗褐色土を薄く貼り、踏み固めている。

掘形 各隅寄りに、長軸80cm～1m前後の不整形の土坑状掘り込み見られる。

遺物 土師器壺・環状住居中央部から北東隅よりに出土。

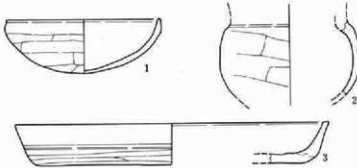
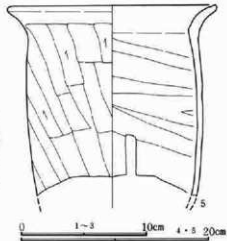
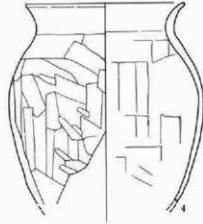
第2節 II区検出の遺構と遺物

竈 焼土の広がりは見られるが、痕跡は見当たらず、竈を持たない可能性も考えられる。



- 1 暗褐色土 小礫あり、ざらついた層。
- 2 褐色土 焼土粒多く含む。
- 3 暗褐色土 小礫含む、ざらつく。
- 4 暗褐色土 小礫含む。
- 5 黄褐色土 小礫・黄色砂混じり。

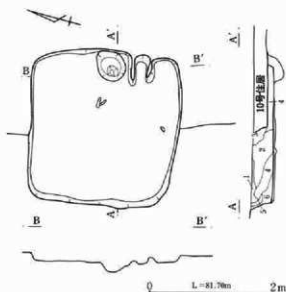
第290図 11号住居跡実測図



第291図 11号住居跡出土土物実測図

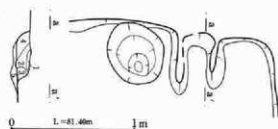
11号住居出土遺物観察表

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
1	土師器 杯	南東 +2	12.2 - 4.3 ほぼ定形	1. によい褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焙 良好	口縁部横溝で、内湾口唇部僅かに外方に張り出し、 体部～底部手持り寛削り。
2	土師器 小皿	南西 +20	- - - 小破片	1. によい褐色 2. 細砂粒かに 含む 3. 酸化焙 良好	頸部横溝で、直立。 胴上部横溝削り。内面平滑。
3	須恵器 盤	北東隅 +17	24.4 - - 片	1. 黄白色 2. 砂粒 粘土粒含む 3. 還元焙 硬質	口縁部横溝で、頂部僅かに凹削り。 体部下位置削り。
4	土師器 壺	北東隅 +12	17.0 - - 口縁部～胴部片	1. 褐色 2. 砂粒含む 3. 酸化焙 良好	口縁部外反、横溝で、胴部上部横溝削り。 胴部下部縦溝削り、内面横溝削り。
5	土師器 壺	南西 -1	22.2 - - 口縁部～胴部	1. によい褐色 2. 粗砂 粘土 粒含む 3. 酸化焙 良好	口縁部外反横溝で、器内厚い。 胴上部斜方向寛削り、内面斜横溝で。



- 1 黄白色土 黄白色粘土塊を含む。
- 2 褐色土 黄白色土粒・小礫・白色軽石を含む。
- 3 褐色土 黄白色土粒・小礫をわずかに含む。
- 4 褐色土 黄白色土粒をわずかに含む。
- 5 褐色土 粘性。しまりあり。
- 6 褐色土 黄色土粒・小礫をわずかに含む。

第292図 12号住居跡実測図



第293図 12号住居跡竈実測図

13号住居跡 (写真図版103・123)

位置 F・G-80・81グリッド 方位 N-89°-E

規模 東西4.1m 南北4.3m 正方形を呈する。

壁高 40cm前後 ほぼ垂直に立ち上がる。

貯蔵穴 無し 柱穴 無し

周溝 電両脇と南壁西半分を除き各壁下に巡る。上端8cm、下端5cm、深さ4cmの規模を持つ。

床面 黄褐色土塊混じりの暗褐色土を踏み固めている。電前は堅く踏み固められ、灰の広がり見られる。

掘形 小さな凹凸見られるが、全体的にはフラットな面に仕上げられている。

遺物 須恵器椀、甕出土。

12号住居跡 (写真図版102)

位置 G-82・83グリッド 方位 N-81°-E

重複 10号住居に切られている。

規模 東西2.4m 南北2.4m 正方形を呈する。

壁高 37cm前後 垂直に立ち上がる。

貯蔵穴 東壁中央部、または電左脇部に径30cm、深さ23cmの円形土坑を検出した。

柱穴 無し 周溝 無し

床面 黄褐色土塊混じりの褐色土を薄く踏み固めている。各壁立ち上がり手前では、黄褐色土の地山露出している。

掘形 僅かに凹凸見られるが、全体的にはフラットな面に仕上げられている。

竈

位置 東壁南寄り

規模 焚口部幅15cm 燃焼部奥行30cm・幅15cm・

深さ12cm 煙道部削平を受け消失。

構築 燃焼部は住居内にあり、黄褐色土に褐色土塊混じりの袖を貼り付けている。火床面は床面と同レベルである。

電土層

- 1 黄色土 地山の黄色砂質土塊・炭粒を若干含む。
- 2 褐色土 黄色粒・焼土塊・炭粒の混土。
- 3 褐色土 2層に黄色粘質土塊を多く含む。
- 4 暗褐色土 黄色粘質土塊・焼土・炭粒を多く含む。
- 5 暗褐色土 4層に黄色粘質土を多く含む。

竈

位置 東壁中央

規模 焚口部幅45cm 燃焼部奥行65cm・幅50cm・

深さ50cm 煙道部口部分の底面が僅かに残る。

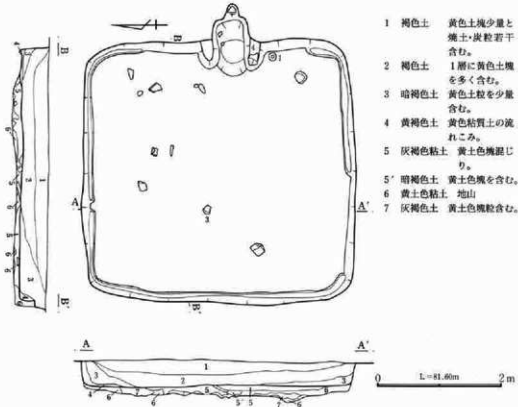
煙道部への立ち上がり38cm 垂直に立ち上がる。

構築 燃焼部は、壁の延長線上に中心を持ち、黄褐色土に褐色土混じりの袖を貼り付けている。火床面は床面と同レベルであり、灰層の堆積と上面に焼土化した黄褐色土が見られる。この黄褐色土は、天井部崩落土の一部と考えられる。竈前には灰の掻き出しによる10cm程の掘り込みがある。燃焼部掘形は、方形を呈し、壁面は垂直に立ち上がる。しかし、使

第2節 II区検出の遺構と遺物

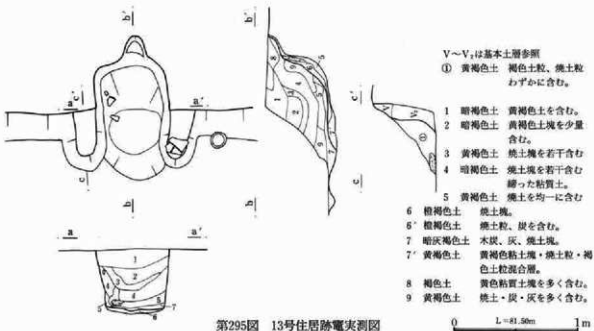
用時は奥壁に黄褐色土を貼り、丸みをもたせアーチ状に立ち上がらせている。壁面の焼けは煙道部に向

かい斜方向に焼けている。遺物は座右袖上に土師器製の胴部破片と土師器坏出土。



- 1 褐色土 黄色土塊少量と焼土・炭粒若干含む。
- 2 褐色土 1層に黄色土塊を多く含む。
- 3 暗褐色土 黄色土粒を少量含む。
- 4 黄褐色土 黄色粘質土の流れこみ。
- 5 灰褐色粘土 黄色土塊混じり。
- 5' 暗褐色土 黄土色塊を含む。
- 6 黄土色粘土 地山
- 7 灰褐色土 黄土色塊粒含む。

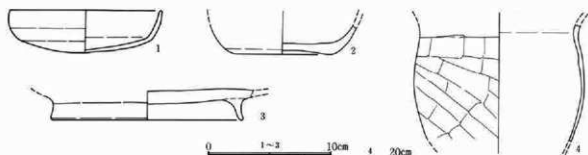
第294図 13号住居跡実測図



- V~V'は基本土層断面
 ① 黄褐色土 褐色土粒、焼土粒わずかに含む。

- 1 暗褐色土 黄褐色土を含む。
- 2 暗褐色土 黄褐色土塊を少量含む。
- 3 黄褐色土 焼土塊を若干含む
- 4 暗褐色土 焼土塊を若干含む 締った粘質土。
- 5 黄褐色土 焼土を均一に含む
- 6 暗褐色土 焼土塊。
- 6' 暗褐色土 焼土粒、炭を含む。
- 7 暗灰褐色土 木炭、灰、焼土塊。
- 7' 黄褐色土 黄褐色粘土・焼土粒・褐色土粒混合層。
- 8 褐色土 黄色粘質土塊を多く含む。
- 9 黄褐色土 焼土・炭・灰を多く含む。

第295図 13号住居跡実測図



第296図 13号住居跡出土遺物実測図

13号住居出土遺物観察表

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・直径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
1	土師器 碗	南東隅 床直	12.2 - 3.3 ほぼ完形	1. 橙色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 軟質	口縁部横断で、直立。体部指押さえ、内面僅かに指 頭圧痕有り。底部蹴削り、平底気味。
2	須恵器 碗	覆土	- 8.0 - 底部	1. 黒色 2. 粗砂 片岩小石含 む 3. 還元焰 軟質	底部回転糸切り端部蹴削り。
3	須恵器 壺	北西 床直	- 15.2 - 高台部残(小片)	1. 灰白色 2. 精選 3. 還元焰 硬質	底部高台貼り付け、糸切り。
4	土師器 壺	壺袖 +10	- - - 頸部へ胴部残	1. 橙色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 軟質	頸部断で、 頸部下端横方向蹴削り。それ以下斜方向蹴削り。

14号住居跡 (写真図版103・104・123)

位置 F-81・82グリッド 方位 N-72°-E

重複 15号住居を切っている。

規模 東西3.8m 南北3.8m 方形を呈する。

壁高 50cm前後 垂直に立ち上がる。

貯蔵穴 無し 柱穴 無し 周溝 無し

床面 黄褐色土塊を含む暗褐色土を堅く踏み固めている。電前はやや窪んでいる。

掘形 住居中央部に高まりが見られ、電右前に短辺1m、長辺1.5m、深さ10cm程の楕円形の掘り込み見られる。その他、幾つかの円形状の浅い掘り込み見られる。

遺物 土師器壺・碗、須恵器蓋等が南寄りに出土。

電

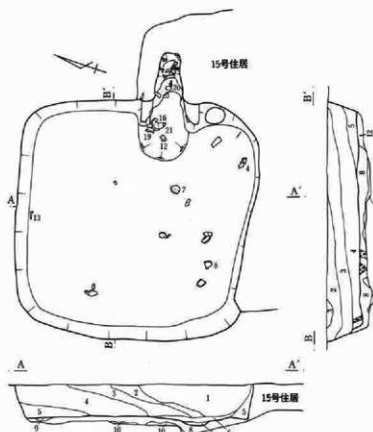
位置 東壁南寄り

規模 焚口部幅55cm 燃焼部奥行き55cm・幅60cm・深さ65cm 煙道部長さ40cm・幅35cm

煙道部への立ち上がり35cm 緩い傾斜をもつ。

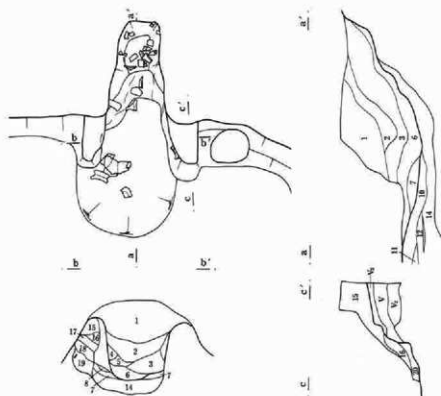
構築 燃焼部は、壁の延長線上に中心を持ち、袖を持つ。袖は地山を掘り残し、暗褐色土に黄褐色土を混ぜたものをかぶせ補強している。掘形は方形を呈し、壁面は垂直に立ち上がる。火床面は床面より15cm程下がる。掘形はカマボコを逆にした形をしており、深さ15cmを測る。また、電前では床面下30cmの深さを測り、焼土、黄褐色土塊混じりの暗灰褐色土を覆土としている。煙道部確認面には土師器壺の小破片が円形状に多数置かれており、出土状況から煙出し部の可能性も考えられる。その他の遺物として、壊れながら落ち込んだと思われる土師器壺を検出した。

第2節 II区検出の遺構と遺物



第297図 14号住居跡実測図

- 1 褐色土 黄色粘質土を多く含む。灰色粘土・焼土・炭粒を若干含む。
- 2 褐色土 黄色粘質土を多く含む。
- 3 黄褐色土 灰色粘質土及び砂質土の混土。
- 4 暗褐色土 黄色粘質土・炭粒を少量含む。
- 5 灰褐色土 灰褐色粘質土・黄色粘質土を少量含む。
- 6 褐色土 黄色細砂土・粘質土を多量に含む。
- 7 灰褐色土 灰色粘土に黄色小塊を含む。
- 8 暗褐色土 粘性が強く、固くしまっている。
- 9 明黄色土 地山の粘質土塊。
- 10 明黄色土 黄色粘質土に褐色土粒を少量含む。
- 11 褐色土 黄色土塊を多く含む。
- 12 褐色土 黄色土塊が少ない。

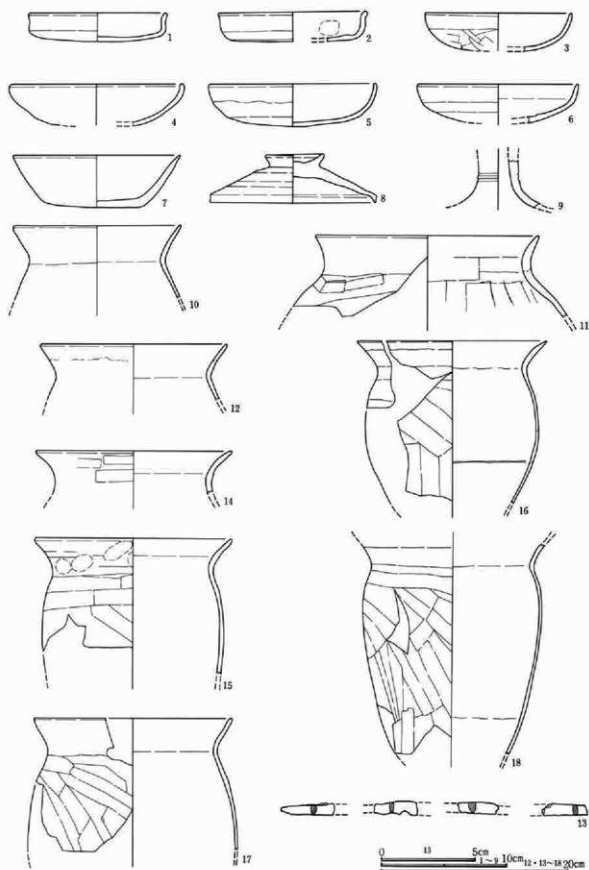


第298図 14号住居跡実測図

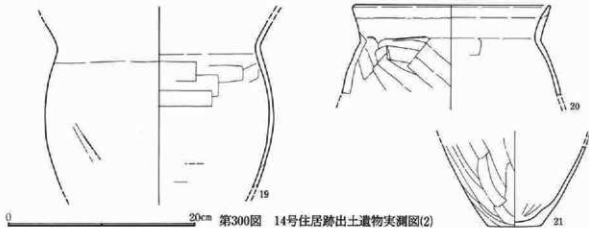
V・V₂は基本土層参照

- 1 暗褐色土 黄色粘質土塊。
- 2 明褐色土 黄色粘質土塊と焼土・炭粒の混土。
- 3 黄褐色土 部分的に熱を受け焼けている。
- 4 褐色土 砂粒や小塊を含む。
- 5 暗褐色土
- 6 褐色土 焼土・炭・灰の混土。
- 7 黄色土 焼土・灰を多く含む。
- 8 赤褐色土
- 9 赤褐色土 焼土化。
- 10 褐色土
- 11 暗褐色土 小砂利を含む。
- 12 褐色土 黄色粘質土を多く含む。
- 13 暗灰褐色土 灰の純層。
- 14 灰褐色土 黄色粘質塊・焼土塊を多く含む。
- 15 暗褐色土 粒子が細かく、よくしまっている。
- 16 明黄色土 黄色粘質土塊。
- 17 褐色土
- 18 暗褐色土 砂粒を多く含む。
- 19 茶褐色土 全体に焼土粒を含む。
- 20 褐色土 焼土粒が少ない。

第二章 上栗須遺跡



第299圖 14号住居跡出土遺物実測図(1)



第300図 14号住居跡出土遺物実測図(2)

14号住居出土遺物観察表

番号	器 種 器 形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整 形 ・ 調 整 の 特 徴
1	土 器 器 形 環	覆土	11.0 — 2.3 瓦	1. 橙色 2. 細砂粒僅かに含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で、外湾しながら立ち上がる。 底部手持ち寛削り、平底状。
2	土 器 器 形 環	覆土	12.0 — — 瓦	1. によい橙色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で、外湾しながら立ち上がる。 体部指頭正直有り。底部寛削り。
3	土 器 器 形 環	覆土	11.6 — — 小破	1. 橙色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で、内湾。 体部～底部寛削り。
4	土 器 器 形 環	南東 +19	14.0 — — 瓦	1. によい橙色 2. 細砂、黒色 細粒含む 3. 酸化焰 軟質	口縁部横撫で。口唇部内湾。 体部～底部表面刻線。
5	土 器 器 形 環	覆土	13.4 — 3.3 完形	1. によい橙色 2. 細砂粒僅かに 含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。口唇部僅かに内湾。 体部指頭正直有り。底部不定方向寛削り。
6	土 器 器 形 環	覆土	13.0 — — 瓦	1. によい橙色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。 体部、底部寛削り。
7	土 器 器 形 環	中央 +5	13.2 8.0 4.1 球状完形	1. 明赤褐色 2. 粗砂 粘土粒 含む 3. 酸化焰 軟質	口縁部、体部直線的に開き、表面摩耗。 底部平底寛削り。
8	須 恵 器 蓋	南西 +8	13.2 4.9 完形	1. 灰色 2. 黒色細粒含む 3. 還元焰 硬質	頂部僅かに同心寛削り。端部垂直に曲げ後撫で、横 み部リング状。
9	須 恵 器 長 頸 壺	覆土	— — — 頸部小片	1. 灰色 2. 黒色細粒 白色砂 粒含む 3. 還元焰 硬質	頸部2条状線画る。
10	土 器 壺	掘形	18.0 — — 口縁部～肩部瓦	1. によい橙色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で、外反、直線的に開く。
11	土 器 壺	掘形	24.0 — — 口縁部～肩部瓦	1. 明赤褐色 2. 細砂粒 粘土 粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部短く外反、横撫で。胴部球形と思われる。 上位横削り。内面横撫で。
12	土 器 壺	窟内 +29	20.0 — — 口縁部～肩部瓦	1. 明赤褐色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で、外反。 胴部表面摩耗。
13	刀 子	北西+2.5	— 0.9 0.5 5.9#		身先端部～茎部分残存。断面三角形。
14	土 器 壺	覆土	21.0 — — 口縁部～胴部瓦	1. 橙色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で、外反。

第二章 上栗須遺跡

番号	器 種 器 形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整 形 ・ 調 整 の 特 徴
15	土師器 壺	竈内 +12.0	21.0 — — 口径部～胴部片	1. 棕色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口径部横撫で、外反。頸部僅かに指頭圧痕有り。 胴上部横方向篋削り 中位～下位斜方向篋削り。
16	土師器 壺	竈内 +3	20.2 — — 口径部～胴部片	1. 棕色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口径部外反、横撫で、直線に開く。 胴上部斜方向篋削り 中位～下位縦方向篋削り。
17	土師器 壺	覆土	10.5 — — 口径部～胴部片	1. 明赤褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口径部横撫で、外反。 胴上部斜方向篋削り。内面篋撫で。
18	土師器 壺	竈内 +14	— — — 胴部～胴部	1. 褐灰色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口径部欠損。頸部横撫で。 胴上部横方向篋削り 中位～下位斜方向篋削り。
19	土師器 壺	竈内 +29	— — — 片	1. 明赤褐色 2. 細砂粒 粘土 粒含む 3. 酸化焰 やや軟質	口径部横撫で。 胴部表面新磨。内面撫で。
20	土師器 壺	竈内 +27	21.0 — — 口径部～胴部片	1. 棕色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口径部横撫で、外縁にほどに接合痕。 胴上部斜方向篋削り、内面撫で。
21	土師器 壺	竈内 +3	— 5.8 — 片	1. 明赤褐色 2. 細砂粒 粘土 粒含む 3. 酸化焰 良好	胴上部斜方向篋削り、内面篋撫で。 底部篋削り。

15号住居跡（写真図版104・124・125）

位置 E・F-81・82グリッド 方位 N-73°-E

重複 北壁から西壁にかけて14号住居に切られる。

規模 東西4.8m 南北5.4m 隅丸方形状を呈する。壁高 40cm前後 僅かに傾き立ち上がる。

貯蔵穴 南東隅寄りに長軸60cm、短軸40cmの長円形を呈する。

柱穴 4本検出。柱間2.2mを測り、正方形に組まれている。P1-径50cm、深さ45cm。P2-径40cm、深さ45cm。P3-径50cm、深さ57cm。P4-14号住居に切れ底面残る。深さ60cm。掘形平面形は円形を呈し、断面形は逆台形を呈する。

周溝 掘形面の調査時に南壁や内側に径10cmの小ピットを3個検出した。各ピットは浅い溝でつながれており、壁面補強材の痕跡と考えられる。

床面 黄褐色土塊混じりの褐色土を踏み固めている。甬右袖前ピット2周辺に灰褐色土の広がりが見られる。各壁手前は多少高くなっている。

掘形 住居中央部がやや低く掘り込まれ、壁際は高まりとして残る。各ピット周辺もレンズ状に掘り込まれている。P2とP3の間に径1.2mの円形土坑が

あり、覆土は、灰色粘質土と黄褐色土の混土に鉄分沈着の見える灰褐色土である。

遺物 甬前に土師器壺・坏出土。

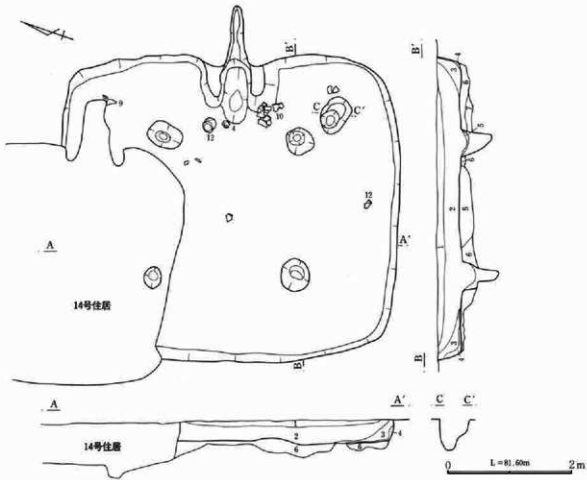
竈

位置 東壁中央

規模 焚口部幅40cm 燃焼部奥行き60cm・幅40cm・深さ45cm 煙道部長さ85cm・幅20cm

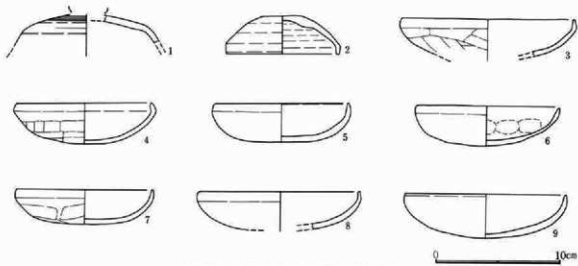
煙道部への立ち上がり30cm 斜めに立ち上がる。

構築 燃焼部は住居内にあり、袖を持つ。袖は黄褐色土を主体に褐色土を加え、袖材として貼り付けている。袖内には赤茶色に焼土化している部分や焼土塊を含む層がある。掘形は方形を呈し、底面はカマボコ状を呈するが、壁面は垂直に立ち上がる。壁面の焼けは、煙道部に向かい斜方向に焼けている。火床面は床面より僅かに下がり灰層の堆積見られる。灰層上面には焼土塊や黄褐色土が乗り天井部の崩落を表している。煙道部は僅かに傾き外に伸びる。煙道部確認時に煙道部移行部分は黄褐色土表面が熱を受け焼土化している状況が確認できた。

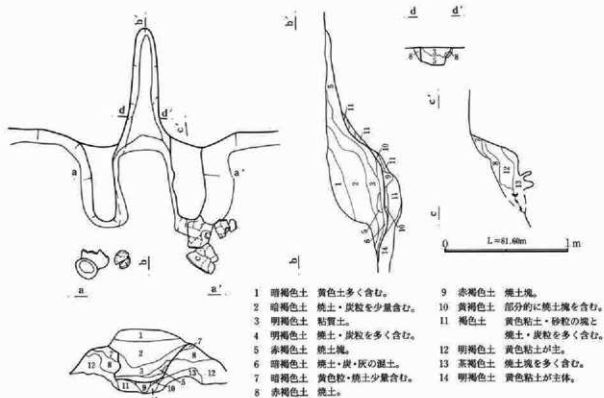


- | | | | |
|-------|-------------------------|--------|---------------------------|
| 1 褐色土 | 黄色粘質土粒を全体に多く含む。 | 5 灰褐色土 | 鉄分比着を多く含む。粘性が強くかたくしまっている。 |
| 2 褐色土 | 黄色粘質土塊を多く含む。焼土・炭粒を少量含む。 | 6 褐色土 | 黄色粘質土塊を多く含む。 |
| 3 黒色土 | 黒色土・黄色粘質土を若干含む。 | 7 暗褐色土 | 黄色粘質土・黒色土塊を多く含む。 |
| 4 褐色土 | 黄色粘質土と褐色土の混土。 | | |

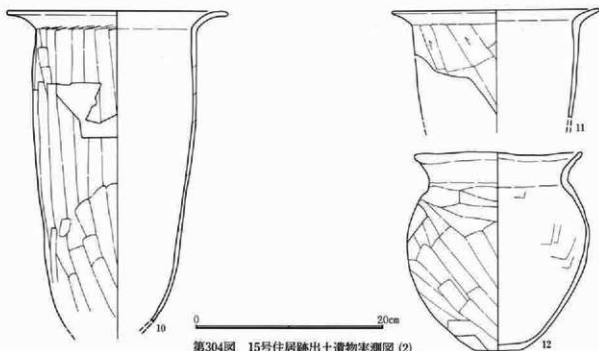
第301図 15号住居跡実測図



第302図 15号住居跡出土遺物実測図(1)



第303図 15号住居跡電気実測図



第304図 15号住居跡出土遺物実測図(2)

15号住居出土遺物観察表

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
1	須恵器 蓋	覆土	- - -	1. 灰色 2. 黒色細粒 白色細粒含む 3. 還元焰 硬質	頂部回転度用9。

番号	器 種 器 形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整 形 ・ 調 整 の 特 徴
2	須恵器 蓋	覆土	9.2 3.2 3.0 残	1. 灰褐色 2. 白色透明細粒僅かに含む 3. 還元焰 硬質	楕圓形、端部折り曲げ。 体部平坦面、体部上位回転蓋形。
3	土師器 坏	電内	11.0 — — 口径部残	1. 褐色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 普通	口縁部横撫で、僅かに内傾。 体部～底部寛削り。
4	土師器 坏	電前 +8	11.0 — 3.2 完形	1. 褐色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部内傾横撫で。 体部～底部横方向寛削り。
5	土師器 坏	覆土	11.0 — 3.0 残	1. 明赤褐色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 軟質	口縁部横撫で、僅かに内傾。 体部～底部寛削り。
6	土師器 坏	覆土	11.4 — 3.2 残	1. 褐色 2. 砂粒 僅かに粗砂含む 3. 酸化焰 軟質	口縁部横撫で、直立気味。 体部～底部表面摩滅。
7	土師器 坏	掘形 +14	11.0 — 2.8 残	1. 褐色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で、僅かに含む。 底部寛削り。
8	土師器 坏	覆土	13.0 — — 底部欠損	1. 褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 やや軟質	口縁部横撫で。 体部～底部表面摩滅。
9	土師器 坏	北東隅 床直	12.6 — 3.5 残	1. 明赤褐色 2. 粗砂粒含む 3. 酸化焰 軟質	口縁部横撫で、内湾。 体部～底部表面摩滅。
10	土師器 蓋	電袖 +2	23.5 — — 底部欠損	1. 褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部水平方向内外反、横撫で。 胴部直線的、長胴、縦方向寛削り。
11	土師器 蓋	覆土	22.2 — — 口縁部～胴部残	1. 濃い黄褐色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部短く外傾横撫で。 胴部直線的、斜方向寛削り。
12	土師器 蓋	電前 床直	17.9 5.9 21.0 口縁部～底部残	1. 淡黄色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部外反、強い横撫で、沈線巡る。底部寛削り。 胴上部横方向寛削り 中位～下位斜方向寛削り。

16号住居跡 (写真図版105・125)

位置 E-79グリッド 方位 E-3'-S

重複 17号住居を切る。

規模 東西3.8m 南北3.1m 東西にやや長い長方形を呈する。

壁高 40cm前後 垂直に立ち上がる。

貯蔵穴 無し 柱穴 無し

周溝 東壁を除き各壁際下に、上端6cm、下端4cm、深さ5cmの規模で巡る。

床面 暗褐色土を薄く貼り踏み固めている。

掘形 小ピットが部分的に見られるが、全体的にフラットな面に仕上げられている。

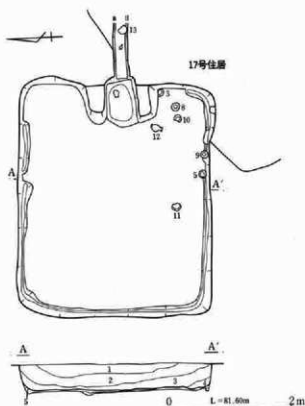
遺物 電右前に須恵器長頸壺・坏、土師器坏の完形で出土。

竈

位置 東壁中央

規模 焚口部幅50cm 燃焼部奥行き65cm・幅45cm・深さ48cm 煙道部は17号住居内に伸び、煙出し部の痕跡確認出来なかった。残存長1m・幅23cm 煙道部への立ち上がり25cm垂直に立ちあがる。

構築 燃焼部は住居内にあり、地山掘り残しの袖を持つ。掘形は長方形の箱形を呈し、側壁は垂直に立ち上がる。壁面は赤茶色に焼土化し堅く焼き締まっている。覆土中には、天井部崩落土と思われる黄褐色土塊の混土が見られる。火床面は、床面より5cm程下がりが灰や焼土の堆積見られる。底面はカマボコ状を呈する。煙道部は水平方向に、方形に掘られ、天井部や側壁は赤茶色に焼土化している。



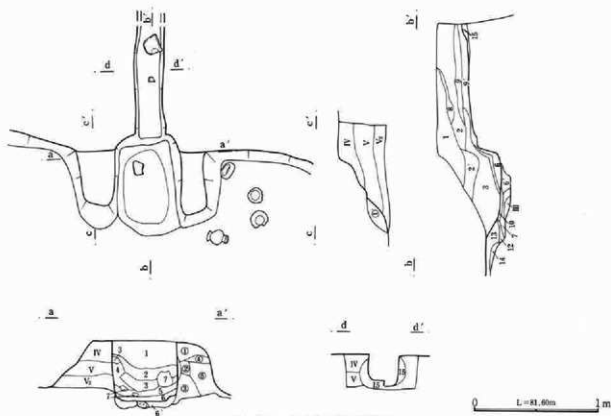
第305図 16号住居跡実測図

- 1 暗褐色土 砂粒・炭粒を少量含む。
- 2 暗褐色土 黄色粘質土塊を含む。
- 3 褐色土 灰褐色粘質土・黄色粘質土塊を多く含む。
- 4 暗褐色土 黄色粘質土粒を少量含む。
- 5 暗褐色土 黄色粘質土粒を含む。固く締まる。

電土層

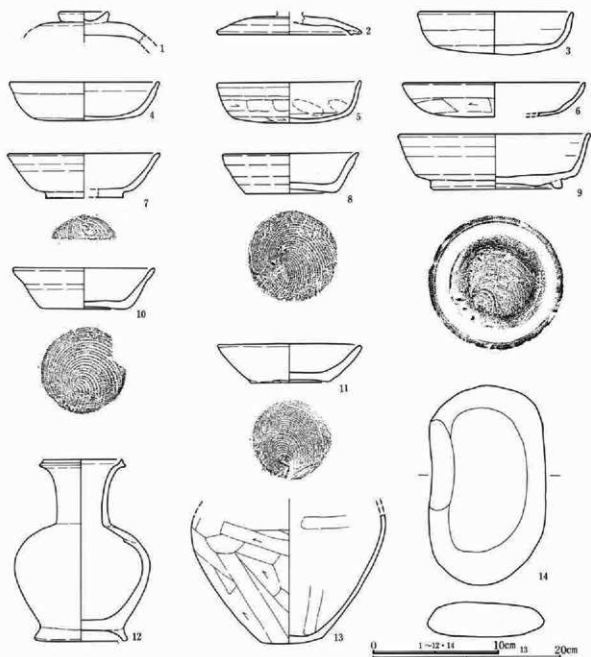
- 1 暗褐色土 土層片・焼土粒を僅かながら含む。
- 2 暗褐色土 黄褐色土塊を均一に含む。
- 2' 暗褐色土 2層の地山の黄色土層。1層にちかい。
- 3 黄褐色土 黄褐色土層を基本としたやや粘性の土。
- 4 暗褐色土 焼土塊を含む。
- 5 暗褐色土 焼土・黄褐色土塊混じり。木炭も含む。
- 6 暗灰褐色土 灰を主としたバサバサした土。
- 6' 暗灰褐色土 灰が混じる。
- 7 黄褐色土 黄褐色土塊。
- 8 暗褐色土 焼土塊を多く含む。
- 9 褐色土 焼土・灰・灰の混じり。
- 9' 褐色土 僅かに灰・灰を含む。
- 10 褐色土 焼土粒・小塊を含む。
- 11 褐色土 焼土粒・小塊を僅かに含む。
- 12 灰褐色土 炭化物を含む。やや灰質。
- 13 褐色土 黄色土粒を僅かに含む。
- 14 暗黄褐色土
- 15 褐色土 僅かに小塊・焼土粒を含む。

- ① 暗褐色土 黄色土粒・小塊を含む。
- ①' 暗褐色土
- ② 黄色土 (やや暗い) やや砂質。
- ③ 黄色土 粘土層。
- ④ 暗褐色土
- ⑤ 17号住居覆土



第306図 16号住居跡電土実測図

第2節 II区検出の遺構と遺物



第307図 16号住居跡出土遺物実測図

16号住居出土遺物観察表

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
1	須志器 蓋	覆土	— — — 頂部のみ	1. 灰白色 2. 砂粒含む 3. 還元焰 硬質	頂部回転削り、内面平須器肉厚い。 携み部リング状。
2	須志器 蓋	覆土	10.5 — — 胴まみ部欠損	1. 灰色 2. 砂粒含む 3. 還元焰 硬質	端部折り返し後、カエリ積み出し。 頂部回転削り。

第二章 上栗須遺跡

番号	器 種 器 形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整 形 ・ 調 整 の 特 徴
3	土 師 器 坏	南東隅 床直	12.1 9.9 3.3 完形	1. 棕色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。 体部未調整。底部手持り型削り、平底状呈す。
4	土 師 器 坏	覆土 —	12.0 6.0 3.0 欠	1. 棕色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。体部内面撫で。 底部平底状呈し、不定方向型削り。
5	土 師 器 床直	南東 床直	11.3 9.0 3.2	1. 棕色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。体部指頭圧痕有り。 底部不定方向型削り。
6	土 師 器 坏	電内	14.3 — — 欠	1. 棕色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で、開く。体部指頭圧痕有り。 底部不定方向型削り、平底状呈す。
7	須 恵 器 坏	覆土	12.0 (6.1)(3.5) 欠	1. 灰色 2. 粗砂粒 僅かに含 む 3. 還元焰 硬質	轆轤整形、僅かに口唇部外反。 底部絞り込み、右回転糸切り。
8	須 恵 器 坏	南東隅 +9	10.8 7.2 3.2 完形	1. 灰白色 2. 砂粒含む 3. 還元焰 硬質	口縁部直線的に開く、轆轤、器内厚い。 底部右回転糸切り。
9	須 恵 器 盤	南西 +6	15.0 10.0 4.4	1. 灰白色 2. 砂粒、白色細粒 含む 3. 還元焰 硬質	轆轤整形、底部内面撫痕有り。 底部右回転糸切り後、高台貼り付け、撫で。
10	須 恵 器 坏	南東 +10	11.2 6.8 3.2 欠	1. 灰白色 2. 砂粒含む 3. 還元焰 硬質	轆轤整形 底部右回転糸切り。
11	須 恵 器 坏	南東 +3	11.4 4.2 2.9 完形	1. 灰色 2. 精選 僅かに白色 粒含む 3. 還元焰 硬質	轆轤整形、器内厚い。 底部右回転糸切り。
12	須 恵 器 長 頸 甕	電前 +6	6.2 7.2 14.3 完形	1. 暗紫灰色 2. 自然釉全面付 着 3. 還元焰 硬質	底部高台貼り付け。切り難し技法、撫で消し。
13	土 師 器 甕	電炉道 +5	— 5.0 — 底部～胴下部	1. におい棕色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 良好	胴部斜方向型削り。 底部型削り、やや平底気味、内面撫撫で。
14	礎	電前-2	15.7 9.3 2.7 730g		粗粒安山岩

17号住居跡 (写真図版105・125・126)

位置 D・E-79・80グリッド

方位 N-47-E

重複 北壁中央を16号住居に切られている。また、26号住居を重複する。

規模 東西4.2m 南北3.4m 東西に長い長方形を呈する。

壁高 60cm前後 ほぼ垂直に立ち上がる。

貯蔵穴 無し 柱穴 無し 周溝 無し

床面 暗褐色土を薄く踏み固めている。電前は焼土、灰の広がり見られ、僅かに窪んでいる。

掘形 右袖前に径70cm、深さ14cmの円形土坑があり、土師器甕が出土している。住居西部に高まりがある。また、各壁寄り部分は掘り込まれている。

遺物 電前から住居中央にかけ土師器甕の破片出土。

電

位置 東壁中央南寄り

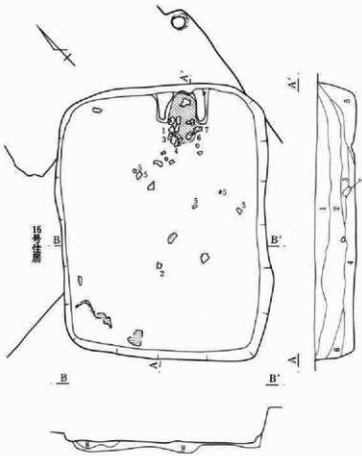
規模 焚口部幅40cm 燃焼部奥行き45cm・幅40cm・深さ70cm 煙道部長さ1.1m・幅20cm

煙道部への立ち上がり23cm 垂直に立ち上がる。

構築 燃焼部は住居内にあり、袖を持つ。袖は、黄褐色土を主体に褐色土塊含む土を袖材として使用し、壁に貼り付け燃焼部を構築している。袖内面はアーチ状に立ち上がり、赤茶色に焼土化している。火床面は、床面より低く掘り込まれ、焼土塊、灰の堆積見られる。掘形は、電前が灰の掻き出しにより

窪んでいる。煙道部は、天井部や煙出し部が使用時の状態で検出できた。煙道部は一辺20cmの方形の断面を持ち水平方向に伸びる。内壁面は底面を除き、赤茶色に焼土化している。掘形面には、方形の工具

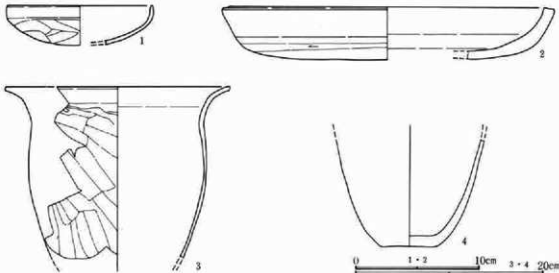
痕が残り、地山を掘り抜いて煙道部を作ったことが確認出来る。煙出し部は垂直に立ち上がり、方形に全面焼土化している。



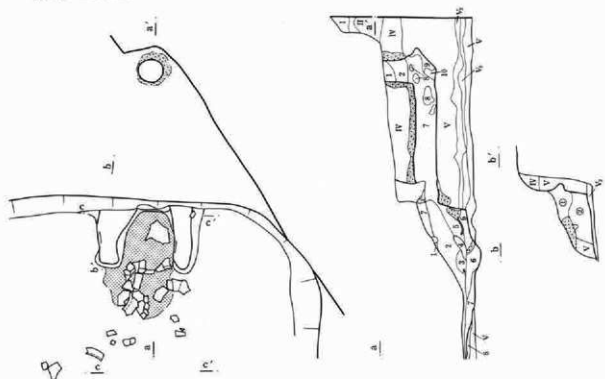
第308図 17号住居跡実測図

- 1 暗褐色土 黄色粘質土粒を全体に多く含む。
- 2 暗褐色土 黄色粘質土塊を多く含む。
- 3 暗褐色土 焼土・炭粒を多く含む。
- 4 褐色土 黄色粘質粒・黒色粘質土を含む。
- 5 褐色土 焼土・炭・灰を多く含む。
- 6 黒色土 粒子が細かく粘性が強い。
- 7 褐色土 粘性の強い塊。
- 8 暗褐色土 黄色粘質土・褐色土の混土。
- 9 褐色土 黄色粘質土を主とし、褐色土・灰色土を少量含む。

0 L=81.70m 2m



第309図 17号住居跡出土遺物実測図(1)



1~V, は基本土層断面

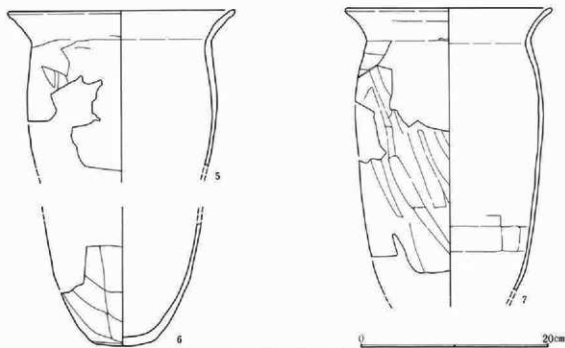
- 1 褐色土 黄色土粒含む。
- 2 褐色土 黄色土粒・焼土粒含む。
- 3 黒色土塊。
- 4 黄色土粘土塊。
- 5 褐色土 粘性強い。黄色土粒僅かに含む。
- 6 黒褐色土 焼土・灰混じる。

7 灰褐色土 黄色土粒・焼土含む。

- 8 黄色土塊 焼土粒含む。し
まりは強い。
- ① 黄色土土 焼土粒が僅かに
混じる。
- ② 黄色土土 黄色土混じる。

第310図 17号住居跡電実測図

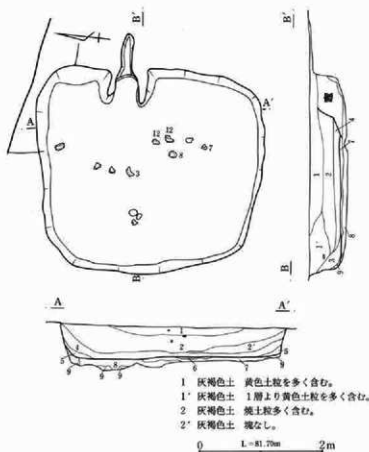
0 L=20m



第311図 17号住居跡出土遺物実測図(2)

17号住居出土土遺物観察表

番号	器 類 器 形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	型 形 ・ 調 整 の 特 徴
1	土 師 器 環	竈内 床直	11.6 - - 底	1. 橙色 2. 細砂 粘土粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。 体部～底部手持り箇所。
2	須 恵 器 高 環	中央 +29	26.4 - - 底	1. オリーブ黒色 2. 白色粒含む 3. 還元焰 硬質	口縁部横撫で。口唇部水平、頂部撫でし状に窪む。 体部～底部側縁部箇所。
3	土 師 器 甕	竈内 床直	24.0 - - 口縁部～胴部上半	1. 橙色 2. 細砂 粘土粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部外反、横撫で。 胴部斜方向箇所。
4	土 師 器 甕	竈内 床直	- 6.0 - 胴部下半～底部	1. 橙色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 軟質	胴部表面薄減。 底部平底撫で。
5	土 師 器 甕	中央 床直	24.2 - - 口縁部～胴部上半	1. ぶい橙色 2. 細砂粒 粘 土粒含む 3. 酸化焰 軟質	口縁部外反、横撫で。 胴部、底部表面薄減。
6	土 師 器 甕	竈内 床直	- 4.0 - 口縁部～底部底	1. 橙色 2. 砂粒 粘土粒含む 3. 酸化焰 軟質	胴下位斜方向箇所。 底部箇所。
7	土 師 器 甕	竈内 床直	22.0 - - 底部欠損	1. 橙色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部外反、横撫で。 長胴部斜方向箇所、内面箇所。



第312図 18号住居跡実測図

18号住居跡 (写真図版106・126)

位置 D・E-82・83グリッド

方位 W-11°-S

重複 南東隅で25号住居と重複している。

規模 北辺3m、南辺3.6m、南北3.2m、隅丸台形を呈する。

壁高 48cm前後 垂直に立ち上がる。

貯蔵穴 無し 柱穴 無し

周溝 無し

床面 黄褐色土塊、焼土粒子、灰等が混じる暗褐色土を踏み固めている。

掘形 住居西寄りか若干窪み、南壁寄りに高まりがある。

遺物 覆土上層から土師器甕・環が出土し、

床面からの出土遺物は無い。

- 3 褐色土 黄色土粒・灰僅かに含む。
- 4 褐色土 黄色土粒を含む。
- 5 褐色土 黄色土粒を強かに含む。
- 6 黄色土 黄色粘質土塊。
- 7 暗褐色土 粘性が強くしまっている。
- 8 暗褐色土 黄色粘質土を多量に含む。
- 9 暗褐色土 粘性の強い褐色土・炭粒を若干含む。

竈

位置 南壁東寄り

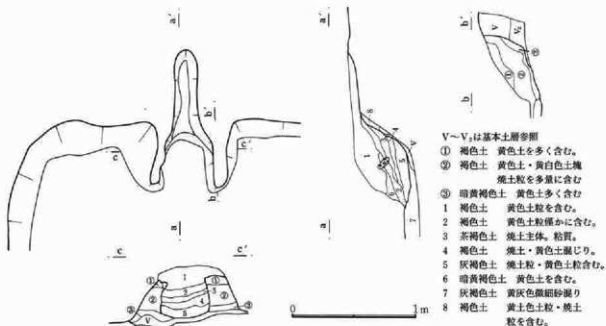
規模 焚口部幅35cm 燃焼部奥行き40cm・幅30cm・

深さ45cm 煙道部長さ65cm・幅10cm

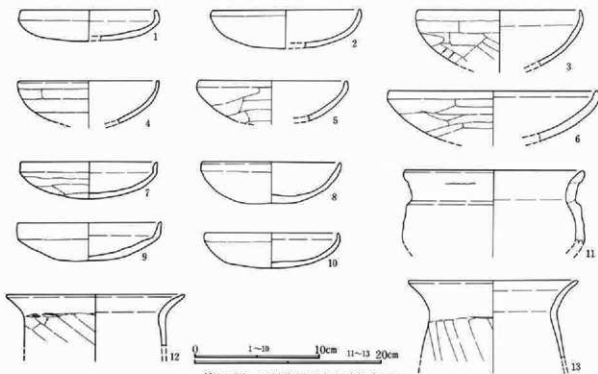
煙道部への立ち上がり35cm 斜めに立ち上がる。

構築 燃焼部は住居内にあり、黄褐色土塊混じりの

褐色土を壁に貼り付けた袖を持つ。袖内面は内湾気味に立ち上がり赤茶色に焼土化している。火床面は床面より5cm程下がり、焼土、炭化物等を僅かに含む。煙道部は削平を受けていたが、側壁下部が残り、水平方向に伸びていたことが分かった。



第313図 18号住居跡竈実測図



第314図 18号住居跡出土遺物実測図

18号住居出土遺物観察表

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・口径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
1	土師器 環	覆土	11.0 - (2.5) 片	1. 橙色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 軟質	口縁部内傾、横撫で。 体部表面刺磨。
2	土師器 環	覆土	12.0 - (3.0) 小破片	1. 橙色 2. 細砂粒 僅かに含 む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。 体部厚減。
3	土師器 環	中央 +2	13.2 - - 口縁部片	1. ぶい橙色 2. 細砂 黒色 細砂含む 3. 酸化焰 普通	口縁部横撫で、僅かに内湾。 体部手持ち蔑削り。
4	土師器 環	覆土	11.2 - - 口縁部～底部片	1. 橙色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 軟質	口縁部横撫で。 体部～底部手持ち蔑削り。
5	土師器 環	覆土	12.0 - - 小片	1. 橙色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 普通	口縁部横撫で、僅かに直立気味に立ち上がる。 体部蔑削り。
6	土師器 環	覆土	16.8 - - 小片	1. ぶい黄橙色 2. 砂粒 粘 土粒含む 3. 酸化焰 良好	口唇部横撫で。 体部～底部手持ち蔑削り。
7	土師器 環	中央 +27	11.4 - 3.0 口縁部～底部片	1. ぶい橙色 2. 細砂 粘土 粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部強い横撫で、直立、縁を持つ。 体部～底部蔑削り。手持ち蔑削り。
8	土師器 環	中央 +27	11.1 - 3.3 完形	1. ぶい橙色 2. 細砂 黒色 細砂含む 3. 酸化焰 やや軟質	口縁部横撫で。 体部～底部表面厚減、内面撫で。
9	土師器 環	覆土	11.4 - 3.0 片	1. 橙色 2. 細砂 粘土粒含む 3. 酸化焰 やや軟質	口縁部横撫で、直立。 体部～底部表面厚減。
10	土師器 環	覆土	10.8 - 2.8 口縁部～底部片	1. 橙色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 軟質	口縁部横撫で、僅かに内湾。 体部～底部蔑削り。
11	土師器 小型壺	覆土	14.4 - - 口縁部～胴部片	1. 明赤褐色 2. 粗粒 片岩小 石含む 3. 酸化焰 硬質	口縁部横撫で、頸部強い撫で、段有り。 胴部表面刺磨、内面撫で。
12	土師器 壺	中央 +36	19.0 - - 口縁部～(小片)片	1. 淡黄色 2. 粗砂粒含む 3. 酸化焰 普通	口縁部横撫で、外反。 胴部斜方向蔑削り。
13	土師器 壺	覆土	17.6 - - 口縁部～頸部片	1. ぶい黄褐色 2. 細砂粒 粘 土粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で、外反。 胴部斜方向蔑削り。

19号住居跡 (写真図版106・127)

位置 F・G-87・88グリッド 方位 N-77°-E

重複 36号土坑に電左上端を切られている。覆土中に土坑状の掘り込み見られ須恵器出土。

規模 北辺4.2m 南辺3.4m 南北4.1m 南東隅は丸味をもち外に角張らず平面形は台形状に見える。

壁高 60cm前後 やや傾斜を持って立ち上がる。

貯蔵穴 無し 柱穴 無し

周溝 上端12cm、下端4cm、深さ4cmの規模で南壁を除き、各壁下やや内側を巡る。

床面 黄褐色土と泥じりの暗褐色土を踏み固めている。電前は堅く踏み締められている。

掘形 住居中央は掘り込みによる凹凸は大きい。

遺物 覆土上面より須恵器蓋出土。床面中央部に土師器壺が出土している。

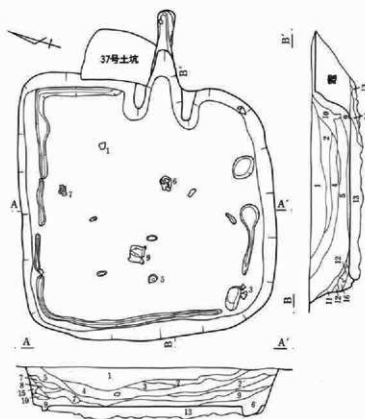
竈

位置 東壁中央南寄り

規模 焚口部幅50cm 燃焼部奥行き70cm・幅35cm・深さ55cm 煙道部長き90cm・幅15cm

煙道部への立ち上がり20cm 垂直に立ち上がる。

構築 燃焼部は住居内にあり、袖を持つ。袖材は、

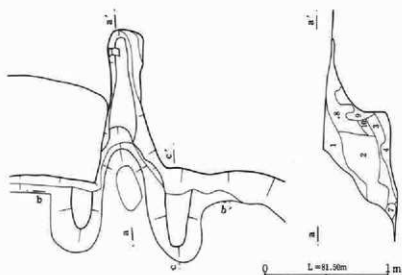


第315図 19号住居跡実測図

黄褐色土塊混じりの暗褐色土を使用している。内壁は垂直に立ち上がり、赤茶色に焼土化している。火床面は床面と同レベルであり、煙道部は水平方向に伸び、側壁は赤茶色に焼土化している。

- | | | |
|----|-------|-----------------|
| 1 | 褐色土 | 土器出土多い。 |
| 2 | 褐色土 | 僅かに焼土粒あり。 |
| 2' | 褐色土 | 僅かに焼土粒あり。 |
| 3 | 暗褐色土 | 黄褐色土粒塊を含む。 |
| 4 | 暗黄褐色土 | 黄褐色土粒を多量に含む。 |
| 5 | 暗黄褐色土 | 黄褐色土主体。 |
| 6 | 褐色土 | 黄褐色土粒含む。 |
| 7 | 暗黄褐色土 | 褐色土混じり。 |
| 8 | 暗褐色土 | 黄褐色土を含む。 |
| 9 | 褐色土 | 粘性が強い。 |
| 10 | 褐色土 | 茶褐色土土粒。 |
| 11 | 褐色土 | 黄褐色土粒・黄土色土塊を含む。 |
| 12 | 褐色土 | 粘質。 |
| 13 | 暗褐色土 | 良く締った粘質の強い土。 |
| 14 | 暗褐色土 | 焼土粒を均一に多く含む。 |
| 15 | 褐色土 | 黄土色土塊多量を含む。 |
| 16 | 黒褐色土 | 塊 |

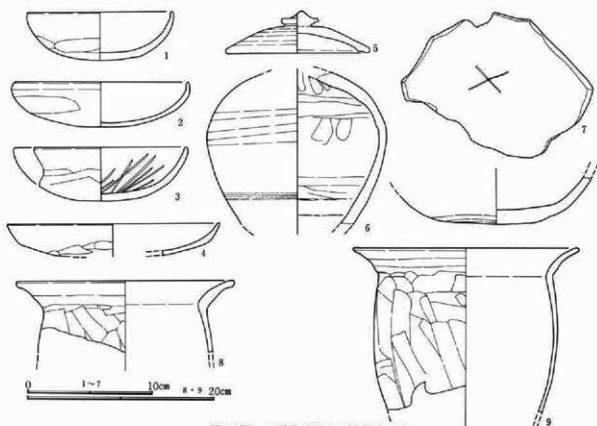
0 L=81.80m 2m



- | | | |
|---|------|--------------|
| ① | 暗褐色土 | 黄色粘土塊を均一に含む。 |
| ② | 暗褐色土 | 焼土・木炭粒を含む。 |
| ③ | 黄褐色土 | 黄色粘土塊を含む。 |

- | | | | | | |
|---|------|-----------------|----|------|------------------|
| 1 | 暗褐色土 | 黄色土粒・小礫を僅かに含む。 | 6 | 褐色土 | 灰黄色土細砂を含む。 |
| 2 | 暗褐色土 | 黄色土粒を含む。 | 7 | 黄褐色土 | 褐色粒土塊を含む。 |
| 3 | 黄褐色土 | 焼土・黄褐色土を含む。 | 8 | 褐色土 | 黄色粘土粒・焼土粒を僅かに含む。 |
| 4 | 褐色土 | 焼土粒・灰が混じる。 | 9 | 褐色土 | 黄色粘土粒・焼土粒を僅かに含む。 |
| 5 | 黒褐色土 | 黄色土粒・焼土粒を僅かに含む。 | 10 | 黄褐色土 | 黄色粘土塊を含む。 |

第316図 19号住居跡竈実測図



第317図 19号住居跡出土遺物実測図

19号住居出土遺物観察表

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
1	土師器 杯	北東 +14	21.6 - (3.9) 片	1. 橙色 2. 細砂 黒色細粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で、内溝。口唇部内屈。 体部～底部荒削り。
2	土師器 杯	掘形 +10	13.1 - 2.9 片	1. 橙色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 軟質	口縁部横撫で。 体部～底部表面摩減。
3	土師器 杯	南西 +2	13.8 - (4.3) 片	1. 灰黄褐色 2. 白色細粒 粘 土粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部撫で。 体部～底部荒削り、内面暗文。
4	土師器 杯	覆土	16.8 - - 底部欠損	1. におい橙色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 軟質	口縁部横撫で。 体部荒削り。
5	須恵器 蓋	北西 +55	13.6 - 3.2 片	1. オリーブ灰色 2. 白色細粒 小石含む 3. 還元焰 硬質	口縁部カエリ、宝珠状溝まみ。 体部回転荒削り。
6	須恵器 甕	中央 +56	- - - 胴部片	1. 灰白色 2. 砂粒 粘土含む 3. 還元焰 硬質	胴部下段り込み痕。胴部上位回転撫で。 内面撫で。底部下位置。
7	須恵器 甕	北 +53	- - - 底部のみ	1. 淡黄色 2. 粗砂 白色透明 粒含む 3. 還元焰 硬質	底部回転荒削り、内面X印縁刻。
8	土師器 甕	北西 +2	23.3 - - 口縁部～胴部片	1. におい橙色 2. 細砂粒 僅 かに含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で、くの字状外反。 胴部斜方向荒削り。
9	土師器 甕	北西 +14	24.0 - - 口縁部～胴部上半	1. 淡黄色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で、くの字状外反、中央窪む。 胴部縦方向及び斜削り、内面荒撫で。

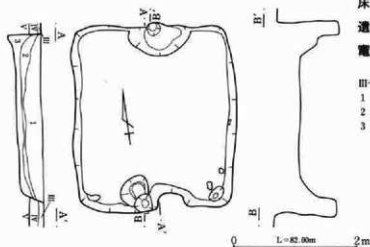
第二章 上栗須遺跡

20号住居跡 (写真図版106・127)

位置 G-89グリッド 方位 N-7°-E

規模 東西2.9m 南北2.6m やや東西に長い長方形を呈する。

壁高 40cm前後 垂直に立ち上がる。



第318図 20号住居跡と出土遺物実測図

貯蔵穴 無し 周溝 無し

柱穴 南壁中央底面70×50cmの台形状の掘り残し部分があり、その北脇に径50cm、深さ60cmのピットがある。また、北壁中央にも上端1m、深さ60cmの半円形のピットを検出した。

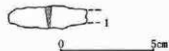
床面 平坦であり、掘形面を利用している。

遺物 南西隅に角礫出土。

竈 無し

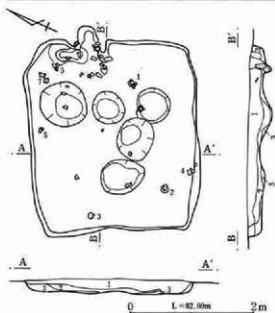
III~Vは基本土層参照

- 1 褐色土 黄色土粒を多く含む。小礫を含む。
- 2 褐色土 黄色土粒・白色軽石含む。
- 3 褐色土 黄色土粒を含む。



20号住居出土遺物観察表

番号	器種	出土位置	長さ	幅	厚さ	重量	特徴	備
1	刀子	東壁	6.1	1.8	0.4	10.1g		身、茎共に欠損。刃は刃部、鋒部両方にある。



第319図 21号住居跡実測図

21号住居跡 (写真図版106・127)

位置 H・I-89グリッド 方位 N-85°-E

規模 東西3m 南北2.8m やや長方形気味

壁高 15cm。(掘形面)

貯蔵穴 無し 柱穴 無し 周溝 無し

床面 焼土粒子、炭化物を僅かに含んだ褐色土を踏み固めている。土器片多量に出土している。

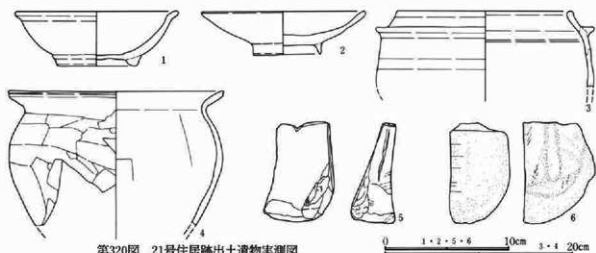
掘形 50~60cm前後の円形土坑が住居中央部に集中して見られる。

遺物 須恵器高台付椀の底部多く出土。また、羽釜、土器器臺出土。

竈は、残存状況が不明確なため、焼土、灰、炭化物等の濃淡により、東壁北寄りに位置決定をした。竈袖位置に地山褐色土が残り、構築方法としては地山掘り残しにより袖を作る。焚口部として30cm測れる。

- 1 褐色土 焼土粒・炭化物を含む。
- 2 褐色土 焼土粒・炭化物を僅かに含む。
- 3 暗黄褐色土

第2節 II区検出の遺構と遺物



第320図 21号住居跡出土遺物実測図

21号住居出土遺物観察表

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
1	須志器 椀	南東 +5	13.0 6.5 4.3 片	1. 黄灰色 2. 砂粒 粘土粒含む 3. 酸化焰 軟質	楕圓整形。外反。全体に厚減。底部回転未切り 高台部変形、貼り付け後、横割で。
2	須志器 皿	南西 +5	15.0 — 3.3 完形	1. におい橙色 2. 砂粒 粘土 粒含む 3. 酸化焰 軟質	楕圓整形。 体部、底部高台貼り付け、表面厚減。
3	須志器 羽釜	北東 +6	18.5 — — 口縁部～胴部上位	1. におい橙色 2. 粗砂 無色 透明小石含む 3. 還元焰 硬質	口縁部短く内湾。口唇部(平縁)平坦面僅かに内傾。 胴部回転割で、断面面台形張り付け。
4	土師器 甕	南西 +8	23.0 — — 口縁部～胴部上位	1. におい橙色 2. 砂粒 粘土 粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横割で、短く外反し口唇部直立、辻線画る。 胴上部横割削り、中位斜方向削り。
5	砥石	北東+6	7.8 4.8 3.4 150g		砥沢
6	砥石	北東+3	8 5.6 4.5 200g		砥沢

22号住居跡(写真図版107・127・128)

位置 H・I-89・90グリッド 方位 N-83°-E
規模 東西3.4m 東辺4.2m 西辺3.6m やや西
辺の短い台形状を呈する。

壁高 50cm前後 垂直に立ち上がる。

貯蔵穴 南西隅寄りに径1m、深さ16cm程の円形土
坑を検出した。その他に竈右前に径40cm、深さ10cm
程の円形の掘り込みがあり、石と土器が出土してい
るが、住居ピットとも考えられる。

柱穴 貯蔵穴とも考えられる掘り込みを含め4本検
出したが、南壁寄りの2本に規則性は認められない。
北壁に平行する2本のピットは径40cm、深さ(最深

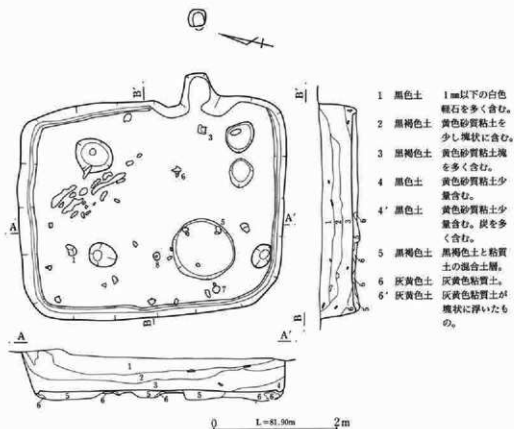
部) 60cmの規模を持ち、ピット3は径30cm、深さ30
cmの規模を持つ。

周溝 電部分を除き、上端8cm、下端6cm、深さ4
cmの規模で全周する。

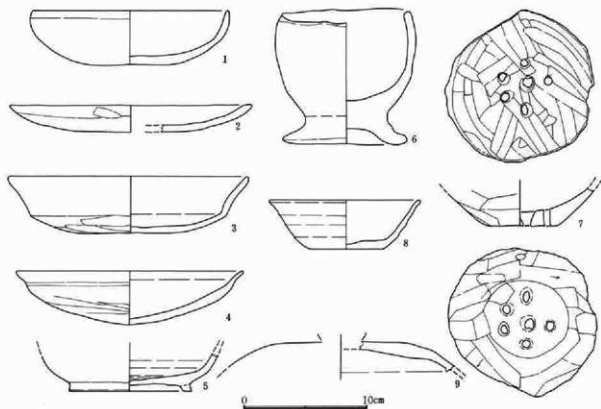
床面 黄褐色土塊混じりの暗褐色土を踏み固めてい
る。北壁寄り中央部に棒炭灰化物と焼土の広がり検
出したが、外の部分には炭化物等見られず、焼失家
屋ではない。

掘形 各ピット周辺と各隅寄りの部分が掘り込まれ
ている。

遺物 覆土中に須恵器杯の完形品や蓋出土。床面か
らは土師器小型台付甕や盤が出土した。



第321図 22号住居跡実測図



第322図 22号住居跡出土遺物実測図

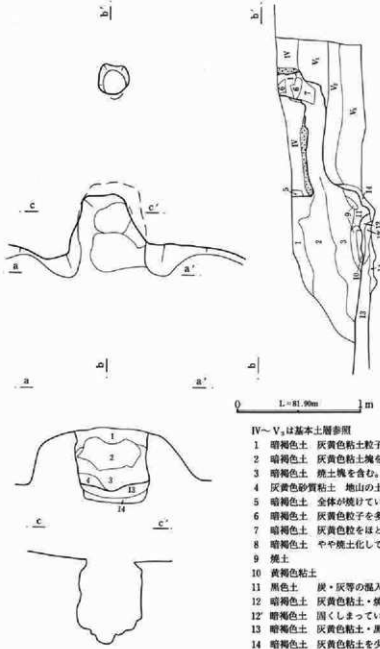
竈

位置 東壁南寄り

規模 焚口部幅50cm 燃焼部奥行き80cm・幅55cm・
深さ60cm 煙道部長さ95cm・口径25×20cmの方形
煙道部への立ち上がり25cm 垂直に立ち上がる。

構築 燃焼部は壁外にあり、焚口部にのみ袖を持た
せる。掘形は箱形に掘られ、壁面は垂直に立ち上
がり、煙道口部分に向かい赤茶色に焼き締まっている。
火床面は床面より僅かに下がり、灰・炭化物の混土

の堆積見られる。覆土中に黄褐色土の底面が赤茶色
に焼土化している天井部崩落土が見られる。煙道部
は使用時のまま検出できた。煙道部は、方形の掘形
を持ち水平方向に掘られ、掘出し部へ緩く立ち上
がる。掘出し部は垂直に立ち上がる。天井部及び側壁
は赤茶色に焼き締まるが、底面は全く焼けない。煙
道部掘形面を観察すると方形の平らな削痕が見ら
れ、煙道部構築方法として板状工具により掘り抜か
れたことが確認できた。



IV~V₅は基本土層参照

- 1 暗褐色土 灰黄色粘土粒子を含む。
- 2 暗褐色土 灰黄色粘土塊を含む。
- 3 暗褐色土 焼土塊を含む。
- 4 灰黄色砂質粘土 地山の土が竈内に落ちこんだもの。
- 5 暗褐色土 全体が焼けている。
- 6 暗褐色土 灰黄色粒子を多く含む。
- 7 暗褐色土 灰黄色粒をほとんど含まない。
- 8 暗褐色土 やや焼土化している。
- 9 焼土
- 10 黄褐色粘土
- 11 黒色土 灰・灰等の混入土層。
- 12 暗褐色土 灰黄色粘土・焼土混入土層。
- 13 暗褐色土 固くしまっている。
- 14 暗褐色土 灰黄色粘土・黒色土の混入土層。
- 15 暗褐色土 灰黄色粘土を少量含む、焼土・灰を少量含む。

第323図 22号住居跡竈実測図

22号住居出土遺物観察表

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
1	土師器 環	北西 +2	15.8 - 4.3 %	1. 褐色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 軟質	口縁部横撫で、内溝。 体部表面摩耗。
2	土師器 壺	覆土	19.1 - - 底部欠損	1. 褐色 2. 砂粒 粘土粒含む 3. 酸化焰 軟質	口縁部横撫で。 胴部、底部表面摩耗。
3	土師器 環	竈前 +23	19.0 - 4.5 完形	1. にぶい褐色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で、外反、稜を持つ。 体部～底部貫削り、表面摩耗。
4	土師器 環	覆土	18.0 - 4.3 完形	1. 褐色 2. 砂粒 粘土粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で、僅かに外反、弱い稜を持つ。 体部表面摩耗。
5	須恵器 椀	南西 +22	- 9.8 - 胴部～底部	1. 灰色 2. 砂粒含む 3. 還元焰 硬質	体部胴部内溝。底部高台部貼り付け。 内面寛撫で、切り離し技法不明。
6	土師器 小型壺	中央 床直	10.0 9.7 10.5 %	1. にぶい褐色 2. 砂粒 粘土 粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部内溝、手づくね。
7	土師器 甕	南西西 +7	- 5.5 - 底部～胴部下	1. 黒褐色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 良好	胴部斜方向貫削り。 焼成前底部穿孔内面横撫で、器内厚い。
8	須恵器 環	南西 +31	12.0 5.6 3.9 完形	1. にぶい褐色 2. 砂粒含む 3. 中性焰 軟質	縦輪整形。 体部表面摩耗。底部左回転糸切り。
9	須恵器 蓋	覆土	- - -	1. 灰色 2. 砂粒 白色細砂含む 3. 還元焰 硬質	頂部回転削り。

23号住居跡(写真図版108)

位置 F・G-89・90グリッド 方位 N-86°-E

規模 東西2.6m 南北2.1m 東西の長方形

壁高 17cm前後 垂直に立ち上がる。

貯蔵穴 無し 周溝 無し

柱穴 東壁中央部下に決りこまれるように径80cm、

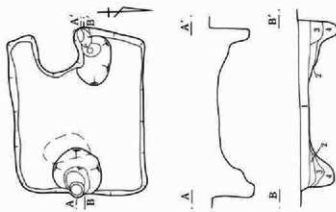
深さ50cmのビットを検出した。また、西壁には下端
80×70cmの方形を呈した掘り残し部分の北縁に径70

cm、深さ40cmの半円形のビットを同様に検出した。

床面 掘形平坦面の黄褐色土を利用しては

遺物 無し

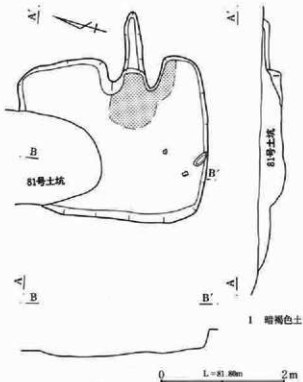
竈 無し



第324図 23号住居跡実測図

- 1 暗褐色土 黄褐色土塊を斑点状に含む。
黄白色板石粒、土層破片を含む。
- 2 茶褐色土 黄褐色土を斑点状に含む。白色
板石粒を含む。
- 3 暗褐色土 黄褐色土を僅かに含む。
- 4 暗褐色土 黄褐色土を僅かに含む。

0 L=82.00m 2m



第325図 24号住居跡実測図

24号住居跡 (写真図版108)

位置 F-84・85グリッド 方位 N-72°-E

重複 周辺部は中世の土坑群があり、削平を受けている。また、81号土坑に北壁切られている。

規模 東壁3m 西壁2.4m 東西2.5m 台形状を呈する。

壁高 15cm前後 ほぼ垂直に立ち上がる。

貯蔵穴 無し 柱穴 無し 周溝 無し

床面 黄褐色土塊を含む褐色土を踏み固めている。

電前は僅かに窪み焼土、灰の広がり見られる。

掘形 各壁寄りには奇形に掘り込まれ、電前から中央部にかけて平らに掘られ、床面として利用された。

遺物 器形の復元できる遺物は出土しなかった。

竈

位置 東壁南寄り

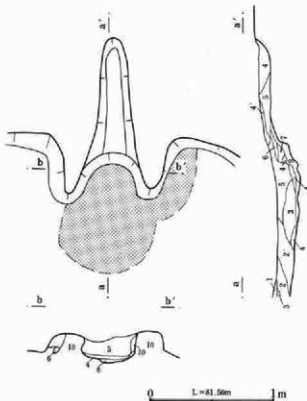
規模 焚口部幅50cm 燃烧部奥行き55cm・幅45cm・深さ30cm 煙道部長さ80cm・幅12cm

無煙部への立ち上がり22cm 斜めに立ち上がる。

構築 燃烧部は住居内にあり、地山掘り残しの袖を持つ。

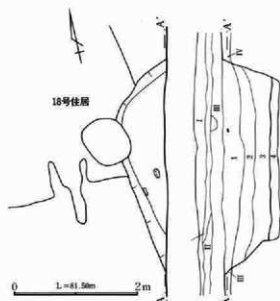
掘形 は方形状を呈し、壁面は垂直に立ち上がり、赤茶色に焼き締まる。火床面は床面より僅かに下がり、薄く灰の堆積見られる。

灰面の上に灰黄褐色土と焼土塊を含む天井部崩落土が見られる。煙道部は水平方向に伸び、天井部からの崩落と思われる焼土を確認した。側壁は垂直に立ち上がる。



第326図 24号住居跡電実測図

- 1 灰褐色土 灰黄色粒を多く含む。
- 2 灰褐色土 灰黄色土塊を多く含む。
- 2' 灰褐色土 灰黄色土塊を多く含む。
- 3 灰黄色砂 灰黄色砂層に近い。
- 4 焼土
- 4' 暗褐色土 焼土塊を多く含む。
- 5 黒褐色土 灰黄色粒を少量含む。
- 6 暗褐色土 黄色粘質土粒・焼土・炭粒を少量含む。
- 7 明黄色土 粘質土の塊・部分的に焼土粒を含む。
- 8 暗褐色土 褐色土・焼土・炭・灰の混土。
- 9 黄色土 焼土。
- 10 黄色土 砂質土。
- 11 褐色土 焼土・炭粒を少量含む。



第327図 25号住居跡実測図

25号住居跡 (写真図版108)

北西隅周辺のみ検出。他の部分は調査区外のため未調査。

位置 D-83グリッド

重複 18号住居を切る。

壁高 80cm前後 斜方向に立ち上がる。

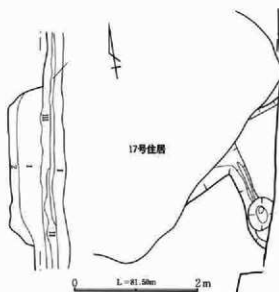
床面 黄褐色土塊混じりの褐色土を踏み固める。

掘形 全体的にフラットな面に仕上げられている。

遺物 無し 電 不明

I~IVは基本土層参照

- 1 暗褐色土 黄色粘質土粒・焼土・炭粒少量含む。
- 2 暗褐色土 黄色粘質土粒・黒色粘質土塊を多量に含む。
- 3 褐色土 黄色粘質土粒を多く含む。
- 4 褐色土 褐色土と黄土粘質塊の混在。よく締っている。



第328図 26号住居跡実測図

26号住居跡 (写真図版108)

17号住居南壁部分で重複し、北西隅周辺部のみ確認でき、大部分は調査区外にあるため未調査。

位置 D-79・80グリッド

壁高 50cm前後 斜方向に立ち上がる。

周溝 西壁部分に見られる。上端10cm、下端4cm、深さ2cmの規模で巡る。

床面 黄褐色土塊を含む暗褐色土を踏み固めている。

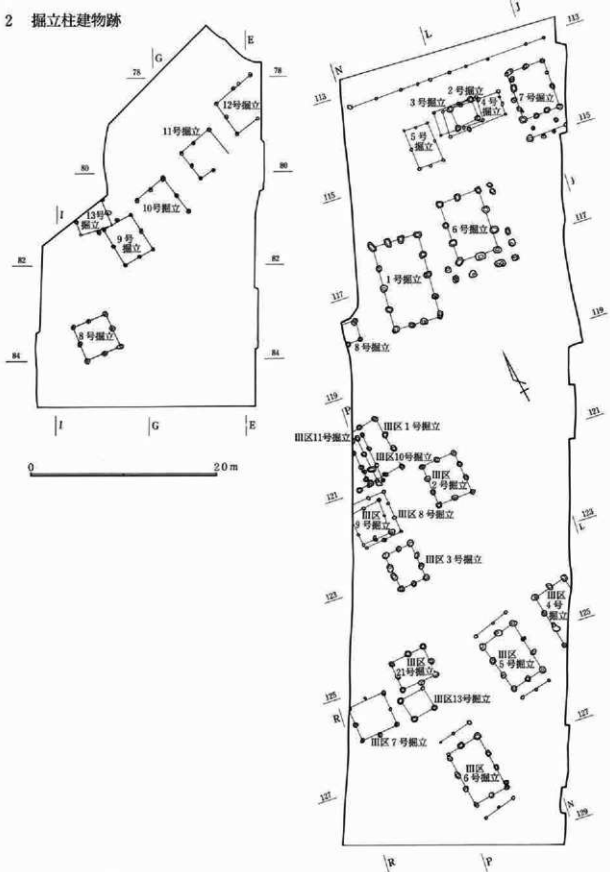
掘形 凹凸見られず、全体的にフラットな面に仕上げられている。

遺物 なし 電 不明

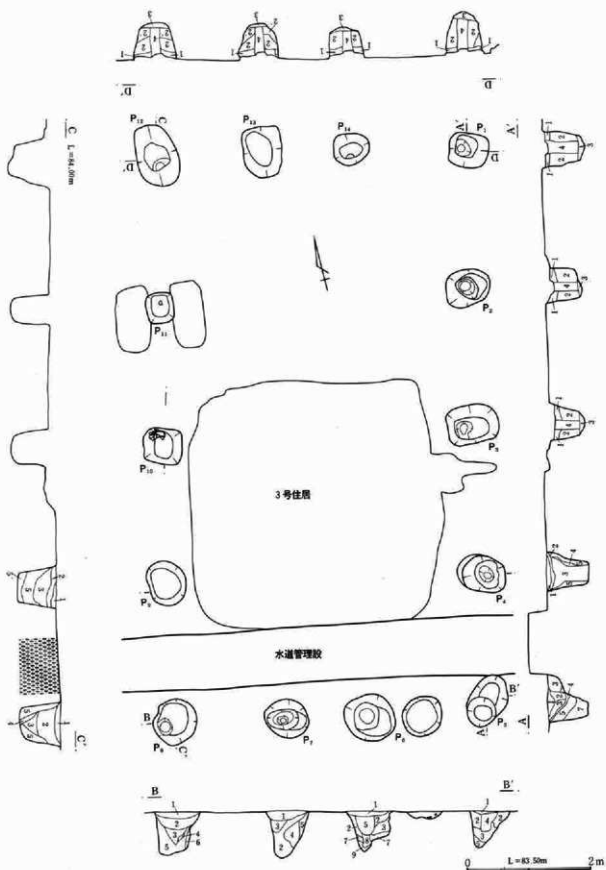
I~IIIは基本土層参照

- 1 褐色土 黄色粘質土粒・小塊少量・炭粒・焼土粒少量を含む。
- 2 明褐色土 黄色粘質土粒・小塊を多量に含む。

2 掘立柱建物跡



第329図 上栗須遺跡II区・III区掘立柱建物跡配置図



第330图 1号掘立柱建物跡実測図

1号掘立柱建物跡 (写真図版109)

位置 M・N-116・117グリッド方位 N-12°-E

重複 3号住居を囲む形に建てられている。柱穴3は22号土坑に、柱穴11は23・24号土坑に切られる。

規模 3間(5m)×4間(8.7m)梁部分中央1間分は短い

面積 43.5m² 形状 長方形

柱穴 隅丸長方形の掘形を持つ。柱穴底面には、青緑色に変色してレンズ状に堅く締まった層が確認された。柱穴10には土師器臺が出土している。

2号掘立柱建物跡 (写真図版109)

位置 K-113・114グリッド 方位 N-3°-E

重複 3・4号掘立柱建物と重なり合う。

規模 1間(2.3m)×1間(2.2m)

面積 5.06m² 形状 方形

柱穴 隅丸方形の掘形を持つ。

330図 (1号掘立)

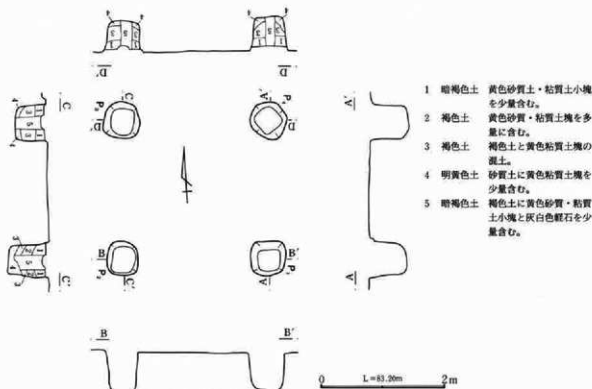
- 1 暗褐色土 黄色砂質・粘質土粒少量と灰白軽石及び小石粒少量を含む。
- 2 暗褐色土 黄色砂質・粘質土塊を多量に含む。
- 3 暗褐色土 黄色砂質・粘質土と褐色土の混土。
- 4 暗褐色土 黄色砂質・粘質土小塊の混土。
- 5 褐色土 地山砂質と暗褐色土の混じりザラザラしている。
- 6 暗褐色土 地山砂質土と暗褐色土塊の混合、ザラザラしている。
- 7 暗褐色土 4層に似るが黄粘土塊の大きい塊を含む。
- 8 暗褐色土 黄粘土塊を僅かに含む。
- 9 褐色土 8層に似るが、やや明るい。

1号掘立柱建物跡 柱穴規模

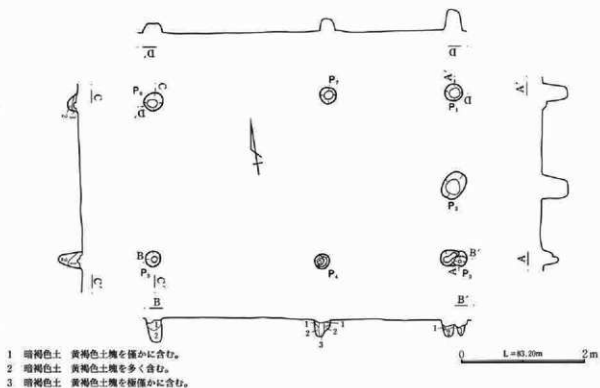
柱穴	長径	短径	深さ	柱穴	長径	短径	深さ	柱穴	長径	短径	深さ	柱穴	長径	短径	深さ	柱穴	長径	短径	深さ
1	62	56	76	2	70	60	58	3	80	60	60	4	70	60	64	5	80	64	66
6	84	74	62	7	70	60	70	8	70	68	66	9	70	60	62	10	74	70	60
11	50		50	12	88	70	56					14	60	50	60				

2号掘立柱建物跡 柱穴規模

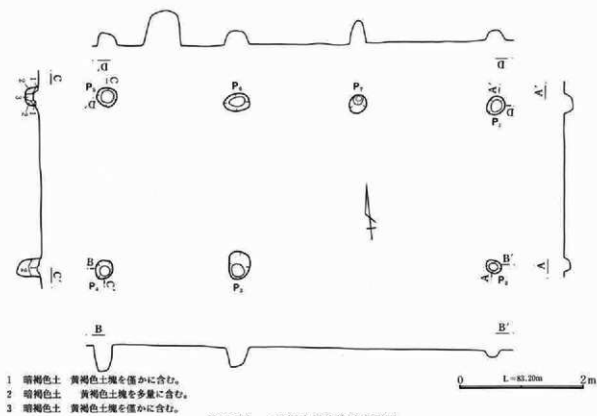
柱穴	長径	短径	深さ	柱穴	長径	短径	深さ	柱穴	長径	短径	深さ	柱穴	長径	短径	深さ
1	60		54	2	56		54	3	52	50	64	4	58	56	60



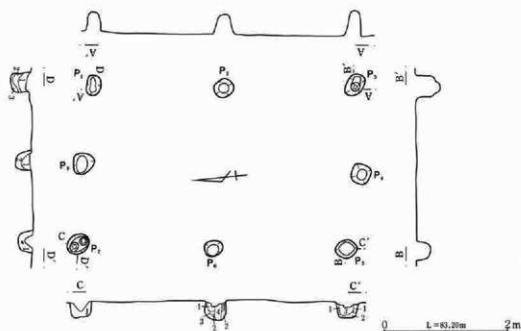
第331図 2号掘立柱建物跡実測図



第332図 3号掘立柱建物跡実測図



第333図 4号掘立柱建物跡実測図



第334図 5号掘立柱建物跡実測図

- 1 暗褐色土 白色軽石を含む、やや粘質で良く締まった土
 2 暗褐色土 1層に似るが白色軽石を含まない。
 3 暗褐色土 1層に似るが白色軽石を含む。
 4 暗褐色土 粘質の良く締まる土。

3号掘立柱建物跡 (写真図版109)

位置 K・L-113・114グリッド方位 N-7°-E

重複 2・4号掘立柱建物と重なり合う。

規模 東辺2間(2.6m)、西辺1間(2.5m)×2間(4.8m)

面積 12.5m² 形状 長方形

柱穴 円形の掘形を持つ。桁行き中央柱穴は東よりに位置している。柱穴4において径10cmの柱痕を確認した。

4号掘立柱建物跡 (写真図版109)

位置 J・K-113・114グリッド方位 N-9°-E

重複 2・3号掘立柱建物と重なり合う。

規模 1間(3.6m)×北辺3間(6.2m)、南辺2間(6.2m)

面積 22.3m² 形状 長方形

柱穴 円形又は楕円形の掘形を持つ。

3号掘立柱建物跡 柱穴規模

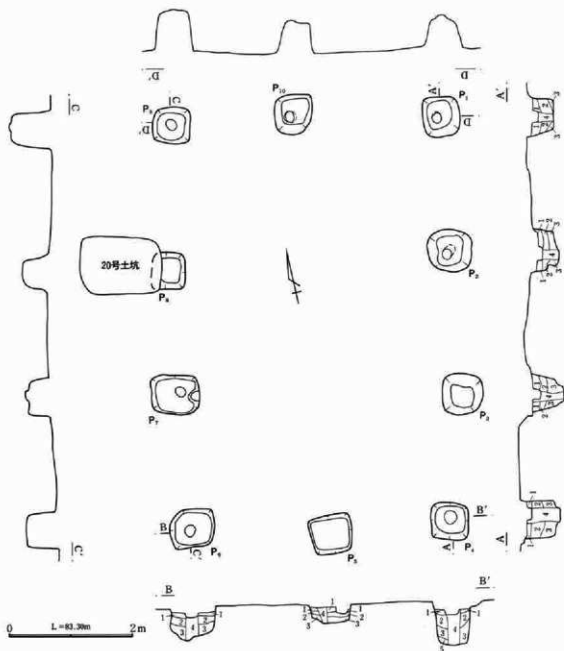
柱穴	長径	短径	深さ	柱穴	長径	短径	深さ	柱穴	長径	短径	深さ	柱穴	長径	短径	深さ	柱穴	長径	短径	深さ
1	28		40	2	46	32	20	3	42	24	26	4	24		28	5	24		38
6	30		14	7	25		18												

4号掘立柱建物跡 柱穴規模

柱穴	長径	短径	深さ	柱穴	長径	短径	深さ	柱穴	長径	短径	深さ	柱穴	長径	短径	深さ	柱穴	長径	短径	深さ
1	28	20	10	2	30		16	3	30		36	4	40	28	20	5	30		20
6	40	28	14	7	30		18												

5号掘立柱建物跡 柱穴規模

柱穴	長径	短径	深さ	柱穴	長径	短径	深さ	柱穴	長径	短径	深さ	柱穴	長径	短径	深さ	柱穴	長径	短径	深さ
1	32	22	32	2	30		30	3	38	26	40	4	30		10	5	38	32	28
6	30	24	30	7	38		24	8	34	32	26								



- | | | | |
|--------|--|--------|--------------------|
| 1 暗褐色土 | 地山の黄色砂質・粘質土粒と炭・焼土粒少量含む。全体に粘質土で粒子が細かく粘性が強い。 | 4 暗褐色土 | 褐色土に黄色砂質・粘質土小塊を含む。 |
| 2 褐色土 | 1層に黄色砂質・粘質土塊を多く含む。 | 5 黄色土 | 地山の砂質土と褐色粘質土の混土。 |
| 3 青灰色土 | 粘土の塊・炭粒・焼土粒を若干含む。レンズ状に | | |

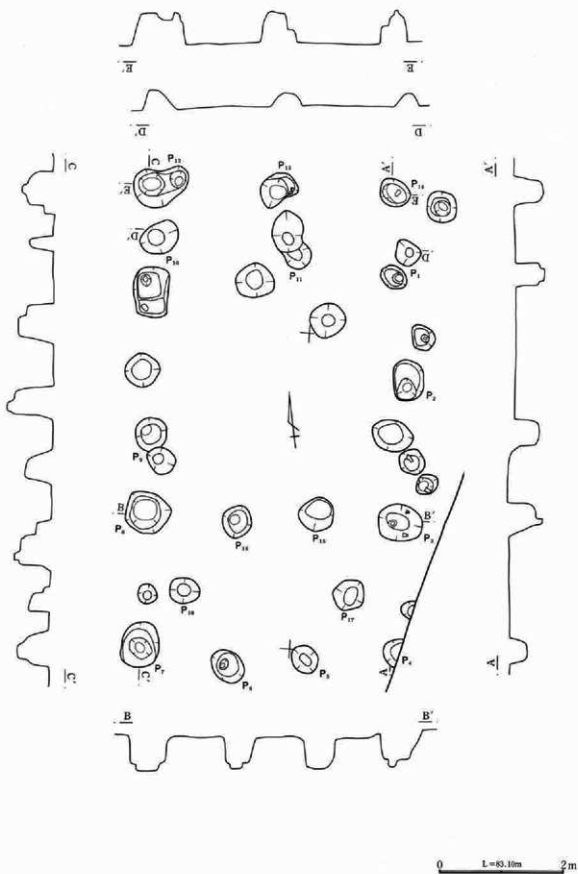
第335図 6号掘立柱建物跡実測図

5号掘立柱建物跡 (写真図版110)

位置 L-114グリッド 方位 N-9°E
 重複 10・11土坑と重なり合う。
 規模 2間(2.5m)×2間(4.3m)
 面積 10.8㎡ 形状 長方形
 柱穴 円形又は楕円形の掘形を持つ。幾つかの柱穴に径10cm前後の柱痕を確認した。

6号掘立柱建物跡 (写真図版110・128)

位置 K・L-115・116グリッド方位 N-9°E
 重複 20号土坑と重なり合う。
 規模 2間(4.2m)×3間(6.4m)
 面積 26.8㎡ 形状 長方形
 柱穴 隅丸方形の掘形を持ち、径20cm前後の柱痕を確認した。



第336図 7号掘立柱建物跡実測図

7号掘立柱建物跡 (写真図版110・128)

位置 I・J-113・114グリッド方位 N-10°-E

重複 多数のピットが絡む。

規模 北辺2間(4.2m)、南辺3間(4.2m)×3間(6.4m) この建物は北側を2間×2間、南側を1間×3間の間取りとし、南1間×3間の内側には2本の束柱がある。北辺には80cmの間隔で平行して2間の庇がつく。

面積 26.8㎡ 形状 長方形

柱穴 円形又は楕円形の掘形を持つ。北側柱穴覆土中には焼土・灰が多く含まれていた。

8号掘立柱建物跡 (写真図版110)

位置 G・H-83グリッド 方位 N-12°-E

重複 無し

規模 2間(3.8m)×2間(3.9m)

面積 14.8㎡ 形状 ほぼ方形

柱穴 上端は円形であるが、底面は隅丸方形の掘形を持つ。10cm前後の柱痕を持つ。

9号掘立柱建物跡 (写真図版110)

位置 G・H-81グリッド 方位 N-20°-W

重複 4号住居と13号掘立柱建物と重なり合う。

規模 2間(3.4m)×2間(4.1m)

面積 13.9㎡ 形状 長方形

柱穴 円形の掘形を持ち、径15cm程の柱痕を確認した。柱痕の当たっていた底面は窪んでいる。

10号掘立柱建物跡 (写真図版111)

位置 F・G-80グリッド 方位 N-28°-W

重複 13・14号住居と重なり合い、西辺と南辺の柱穴は調査時に見落とし、切り合い関係は未確認。

規模 2間(3.8m)×3間(6.1m)

面積 23.1㎡ 形状 長方形

柱穴 平面では長円形又は円形の掘形を持ち、断面はロート状になる。径15cm程の柱痕を確認した。柱痕の当たっていた底面は窪んでいる。

6号掘立柱建物跡 柱穴規模

柱穴	長径	短径	深さ	柱穴	長径	短径	深さ	柱穴	長径	短径	深さ	柱穴	長径	短径	深さ	柱穴	長径	短径	深さ
1	64	60	56	2	70	64	48	3	66	64	60	4	60	58	56	5	66	60	38
6	70	60	50	7	76	62	68	8	58	54	70	9	60	90	10	64	60	50	

7号掘立柱建物跡 柱穴規模

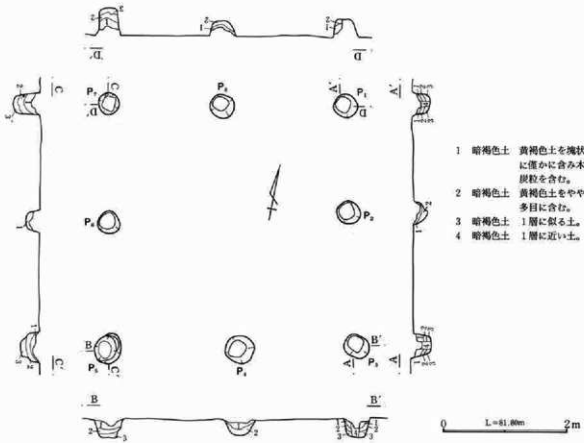
柱穴	長径	短径	深さ	柱穴	長径	短径	深さ	柱穴	長径	短径	深さ	柱穴	長径	短径	深さ	柱穴	長径	短径	深さ
1	40		40	2	66	48	38	3	70	60	40	4	50		35	5	45		26
6	60	48	22	7	70	60	48	8	70		55	9	50		43	10	60	50	32
11	60	50	29	12	60		48	13	70		50	14	50		42	15	48		31
16	80	55	55	17	75		50	18	34		45								

8号掘立柱建物跡 柱穴規模

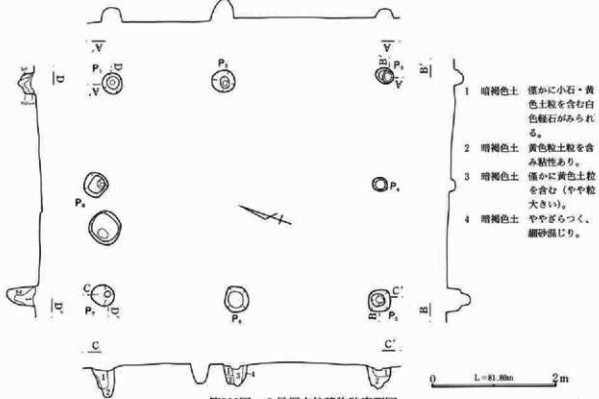
柱穴	長径	短径	深さ	柱穴	長径	短径	深さ	柱穴	長径	短径	深さ	柱穴	長径	短径	深さ	柱穴	長径	短径	深さ
1	40		26	2	35		20	3	40		31	4	45		20	5	50	40	28
6	35		22	7	35		43	8	35		24								

9号掘立柱建物跡 柱穴規模

柱穴	長径	短径	深さ	柱穴	長径	短径	深さ	柱穴	長径	短径	深さ	柱穴	長径	短径	深さ	柱穴	長径	短径	深さ	
1	34		24	2	34		34	3	30		24	12	4	22	20	6	5	36		36
6	40		36	7	38		32	48	8	36		8								



第337図 8号掘立柱建物跡実測図



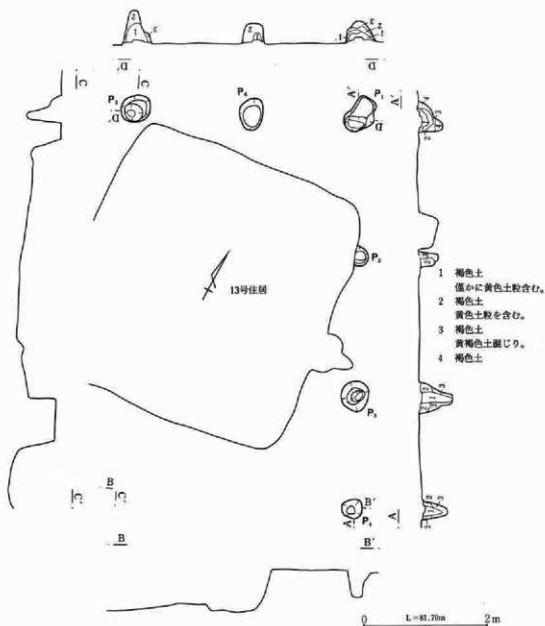
第338図 9号掘立柱建物跡実測図

10号掘立柱建物跡 柱穴規模

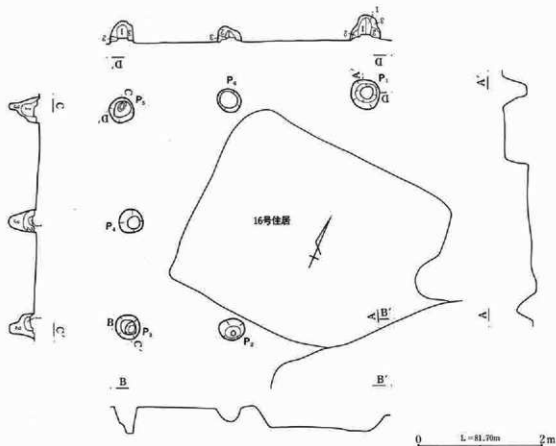
柱穴	長径	短径	深さ	柱穴	長径	短径	深さ	柱穴	長径	短径	深さ	柱穴	長径	短径	深さ	柱穴	長径	短径	深さ
1	60	40	34	2	50	22	30	3	48	44	50	4	30		40	5	44	40	52
6	50	34	32																

11号掘立柱建物跡 柱穴規模

柱穴	長径	短径	深さ	柱穴	長径	短径	深さ	柱穴	長径	短径	深さ	柱穴	長径	短径	深さ	柱穴	長径	短径	深さ
1	48	44	40	2	40		44	3	40		40	4	36		42	5	40		34
6	38		34																



第339図 10号掘立柱建物跡実測図



第340図 11号掘立柱建物跡実測図

- | | |
|-------------------|-----------------------|
| 1 暗褐色土 粘質土。 | 2 暗褐色土 細砂混じり。 |
| 1' 褐色土 黄色粘質土塊を含む。 | 3 暗褐色土 僅かに黄色土粒を含む粘質土。 |

11号掘立柱建物跡 (写真図版110)

位置 E・F-79・80グリッド 方位 N-52°-W

重複 16号住居と重なり合い、東辺の柱穴は調査時に見落とし、切り合い関係は未確認。

規模 2間 (3.5m)×2間 (4m)

面積 14m² 形状 長方形

柱穴 円形の掘形を持つ。径15cm程の柱痕を確認した。底面は部分的に窪んでいる。

12号掘立柱建物跡 (写真図版111)

位置 D・E-78・79グリッド 方位 N-53°-E

重複 周辺に多数のピット有り。南東部分は調査区外のため未調査。

規模 2間 (3.9m)×2間 (4.8m)

面積 18.6m² 形状 長方形

柱穴 円形の掘形を持つ。中央部分から僅かに南に

寄った所にピットがあり、このピットを含めると総柱の掘立柱建物となる。

13号掘立柱建物跡 (写真図版111)

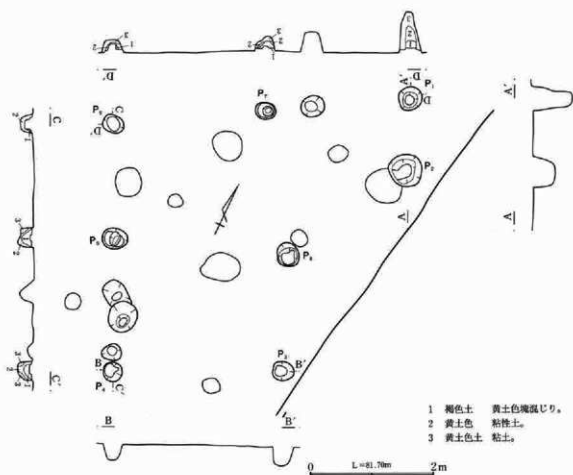
位置 G・H-80・81グリッド 方位 N-8°-W

重複 4号住居と6号溝と切り合い、また、北半分は調査区外のため未調査。

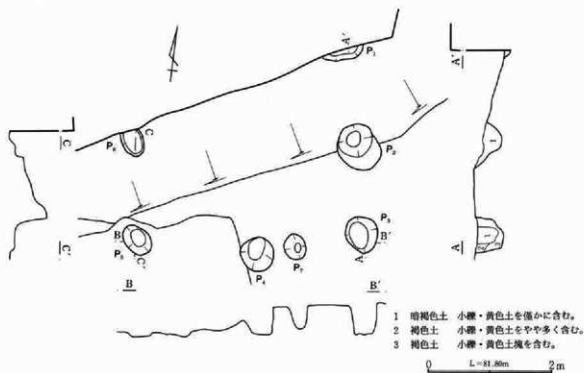
規模 2間 (3.6m)×不明

面積 不明 形状 長方形

柱穴 円形又は楕円形の掘形を持つ。



第341図 12号掘立柱建物跡実測図



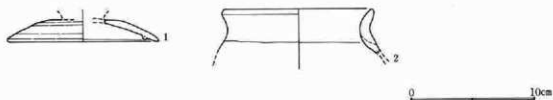
第342図 13号掘立柱建物跡実測図

12号掘立柱建物跡 柱穴規模

柱穴	長径	短径	深さ	柱穴	長径	短径	深さ	柱穴	長径	短径	深さ	柱穴	長径	短径	深さ	柱穴	長径	短径	深さ
1	40		62	2	32		28	3	30		22	4	40	32	24	5	34	30	24
6	30		30	7	30		35	8	36		30								

13号掘立柱建物跡 柱穴規模

柱穴	長径	短径	深さ	柱穴	長径	短径	深さ	柱穴	長径	短径	深さ	柱穴	長径	短径	深さ	柱穴	長径	短径	深さ	
1	70		42	2	79		60	30	3	58	50	44	4	54		40	5	52	38	8
6	42	34	21																	



第343図 掘立柱建物跡出土遺物実測図

掘立柱建物跡出土遺物観察表

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ - 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 構成	整形・調整の特徴
1	須恵器 蓋	7号掘立	12.0 - - 口径	1. 灰白色 2. 黒色細粒含む 3. 還元 良好	内面カエリ。頂部回転糸切り。
2	土師器 壺	7号掘立	12.1 - - 口径～頸部小片	1. 橙色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焙 軟質	口縁部外反、横溝で、胴上部瓦削り。

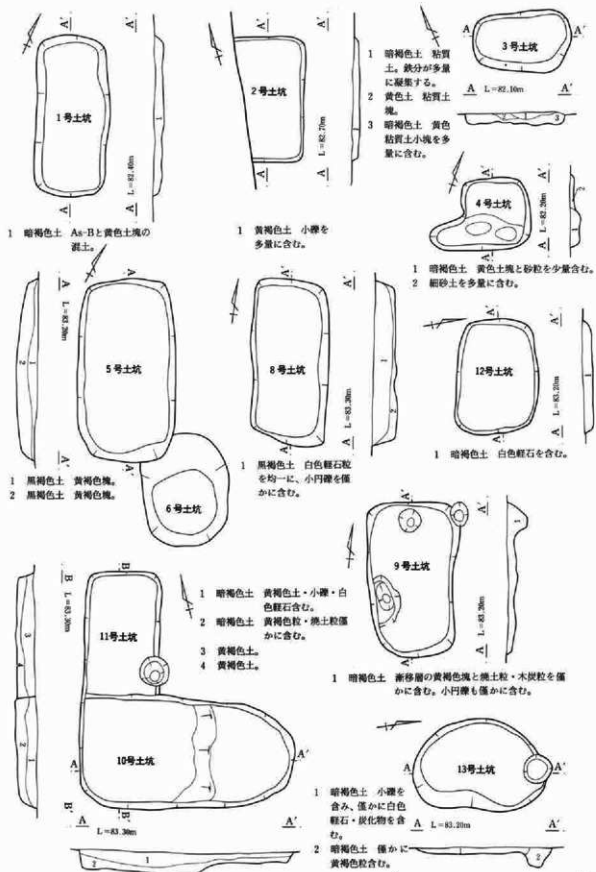
3 土 坑

上栗須遺跡II区土坑

遺構名	位置	方位	縦 横			形状	備 考
			長辺	短辺	深さ		
1号土坑	I-99	N-25°-W	1.70m	0.80m	0.11m	長方形	
2号土坑	K-102		1.30m		0.05m	方形	
3号土坑	I-94	N-64°-W	1.00m	0.60m	0.14m	長方形	
4号土坑	M-94		1.05m		0.10m	方形	
5号土坑	M-112	N-31°-W	1.90m	1.05m	0.11m	長方形・箱形	6号土坑を切っている。
6号土坑	M-112	N-31°-W	1.20m	0.90m	0.07m	隅丸方形	5号土坑に切られている
8号土坑	M-113	N-6°-W	1.76m	0.80m	0.19m	長方形	
9号土坑	L-113	N-7°-W	1.70m	0.90m	0.06m	長方形	
10号土坑	L-114	N-74°-W	2.25m	1.20m	0.00m	長方形	11号土坑を切っている。
11号土坑	L-113	N-15°-E	1.35m	0.80m	0.22m	長方形	10号土坑に切られる。
12号土坑	K-113	N-87°-W	1.20m	0.80m	0.05m	隅丸方形	
13号土坑	L-114	N-7°-E	1.50m	0.95m	0.08m	隅円形	小ピット
14号土坑	L-115	N-64°-W	1.80m	1.20m	0.04m	隅丸方形	A・Bの2基礎礎で、BがAを切る。
15号土坑	L-115	N-88°-W	1.10m	0.70m	0.27m	ひょうたん形	
16号土坑	K-115	N-13°-E	1.30m	0.60m	0.46m	ひょうたん形	

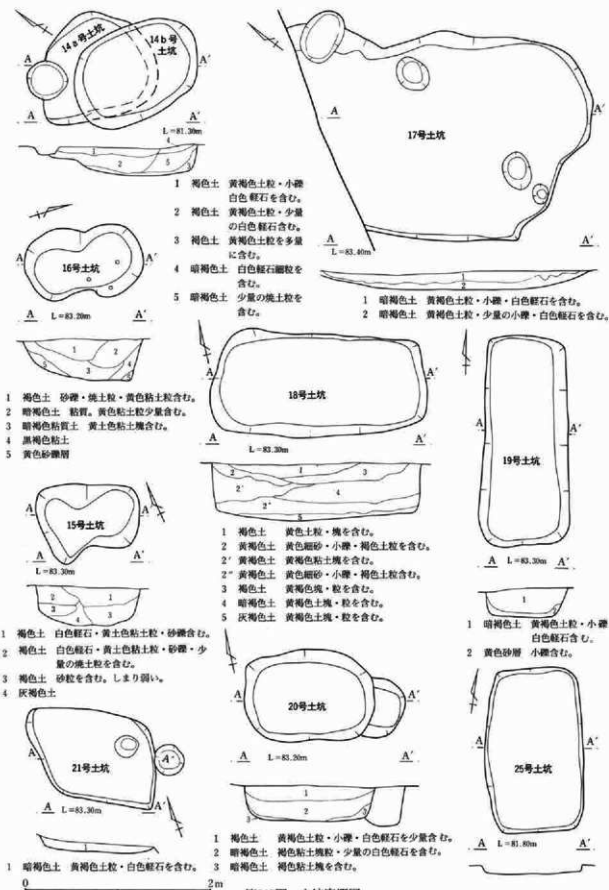
第II章 上栗須遺跡

遺構名	位置	方位	規 模			形状	備 考
			長辺	短辺	深さ		
17号土坑	M-115		2.96m	2.12m	0.15m	不定形	
18号土坑	M-116	N-77°-W	2.30m	1.10m	0.53m	長方形	1号掘立柱建物内
19号土坑	L-116	N-2°-W	2.25m	0.90m	0.28m	長方形・箱形	6号掘立柱建物内
20号土坑	L-116	N-79°-W	1.40m	1.00m	0.36m	長方形・箱形	
21号土坑	M-116	N-68°-E	1.30m	0.95m	0.04m	隅丸長方形	
25号土坑	H-81	N-9°-W	1.72m	1.00m	0.08m	隅丸方形	4号住居南区隅部を切っている。
27号土坑	I-85	N-9°-E	0.95m	0.58m	0.08m	隅丸長方形	
28号土坑	H-86	N-1°-E	1.50m	0.55m	0.10m	隅丸長方形	7号住居を切る。
29号土坑	I-86	N-9°-E	1.65m	0.85m	0.09m	隅丸長方形	7号住居を切る。
30号土坑	H-87	N-80°-W	1.16m	1.00m	0.09m	隅丸長方形	31・32号土坑と切り合っている。
31号土坑	I-87	N-87°-W	32.5m	2.03m	0.16m	長方形	30・32号土坑と切り合っている。
32号土坑	I-87	N-3°-E	1.95m	1.05m	0.26m	長方形	31土坑を切っている。
36号土坑	G-87	N-66°-W	3.93m	0.83m	0.11m	長方形	19号住居を切っている。
37号土坑	F-87	N-77°-W	2.57m	1.10m	0.28m	長方形	19号住居を切っている？
38号土坑	F-83		1.33m		0.24m	円形	10号住居を切っている。壁面直又は内傾傾斜に立ち上がる。
39号土坑	F-83		1.17m		0.32m	円形	
40号土坑	F-83		1.22m		0.08m	円形	
41号土坑	F-83		1.10m		0.13m	円形	10号住居を切っている。
42号土坑	E-83		1.50m		0.21m	円形	
43号土坑	E-84	N-80°-W	1.70m	0.95m	0.84m	長方形箱形	
44号土坑	E-84	N-83°-W	1.75m	1.10m	0.36m	長方形	
45号土坑	F-83	N-93°-W	1.95m	1.55m	0.08m	長方形	小ピットと切り合う。
46号土坑	G-92	N-23°-E	1.97m	1.15m	0.07m	長方形	
47号土坑	E-88	N-53°-E	2.55m	1.85m	0.08m	長方形	竪面中央部が覆む。
48号土坑	G-89	N-2°-E	1.05m	0.62m	0.22m	長方形	
49号土坑	I-88	N-72°-E	0.93m	0.53m	0.10m	楕円形	
50号土坑	G-83	N-9°-W	0.97m	0.90m	0.16m	楕円形	54号土坑に切られている。
51号土坑	D-84	N-85°-W	1.08m	0.90m	0.20m	長方形	小ピットと切り合う。
52号土坑	O-85	N-7°-E	1.60m	1.05m	0.76m	長方形・箱形	53・54号土坑と切り合う。
53号土坑	E-85	N-80°-W	1.60m	1.05m	0.76m	長方形	52・54号土坑
54号土坑	D-85		1.05m	0.28m	不明	不明	52・53号土坑。路縁外に伸びる。
56号土坑	E-85	N-24°-W	0.82m	0.64m	0.19m	長方形	小ピット
57号土坑	D-85		0.44m	0.05m	不明	不明	58・59号土坑。
58号土坑	E-85	N-35°-W	0.95m	0.57m	0.05m	隅丸長方形	57・59号土坑。
59号土坑	E-84	N-8°-E	0.75m	0.65m	0.13m	方形	57・58号土坑。
61号土坑	F-83	N-10°-W	2.35m	1.32m	0.28m	長方形	小ピット
62号土坑	E-85		1.15m		0.21m	不明	63-65号土坑。
63号土坑	E-85		1.10m		0.23m	不明	62・64・65号土坑。
64号土坑	E-85		0.85m		0.27m	不明	62・63・65号土坑。
65号土坑	E-85	N-85°-E	1.40m	0.90m	0.40m	長方形	62-64号土坑。
66号土坑	E-85	N-6°-E	1.40m	0.90m	0.16m	長方形	小ピット
67号土坑	F-85	N-87°-W	1.75m	1.10m	0.50m	長方形・箱形	
68号土坑	F-85		1.40m		0.20m	方形	小ピット
69号土坑	F-87		0.50m		0.18m	円形	70号土坑
71号土坑	F-86	N-90°-E	1.23m	0.90m	0.50m	長方形	
72号土坑	F-86	N-8°-E	1.15m	0.60m	0.38m	長方形・箱形	
73号土坑	E-86	N-2°-E	1.45m	0.92m	0.21m	長方形	小ピット
74号土坑	E-87	N-81°-E	1.03m	0.70m	0.12m	長方形	
75号土坑	E-87		1.05m		0.15m	方形	
76号土坑	G-85	N-80°-E	1.00m	0.75m	0.68m	隅丸方形	
77号土坑	F-87	N-10°-W	1.00m	0.55m	0.36m	長方形・箱形	小竪出土。
78号土坑	F-87	N-57°-W	2.60m	0.74m	0.30m	長方形	小ピット
80号土坑	I-81	N-57°-W	1.80m	1.05m	0.13m	隅丸方形	
81号土坑	F-84	N-5°-W	3.60m	1.60m	0.35m	瓜形	24号土坑を切る。大竪出土。

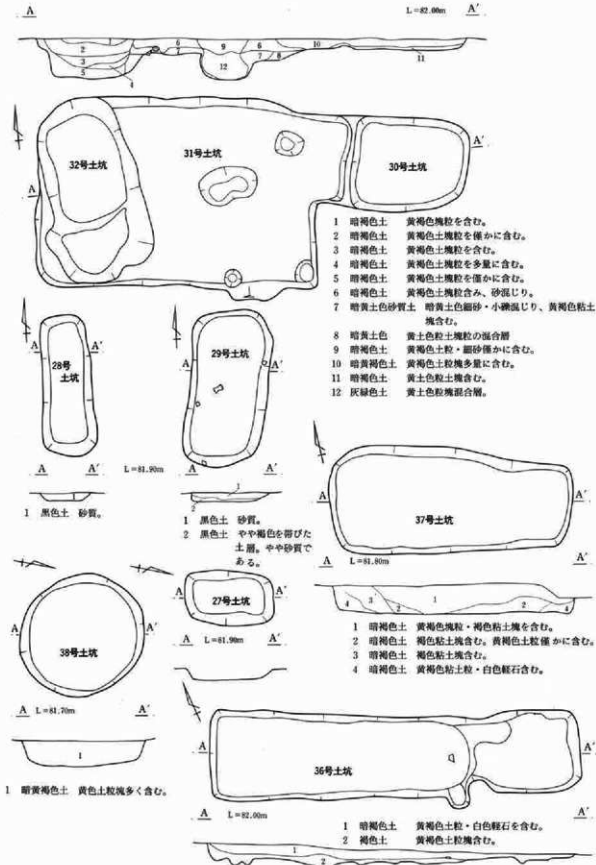


第344図 土坑実測図

第11章 上栗須遺跡

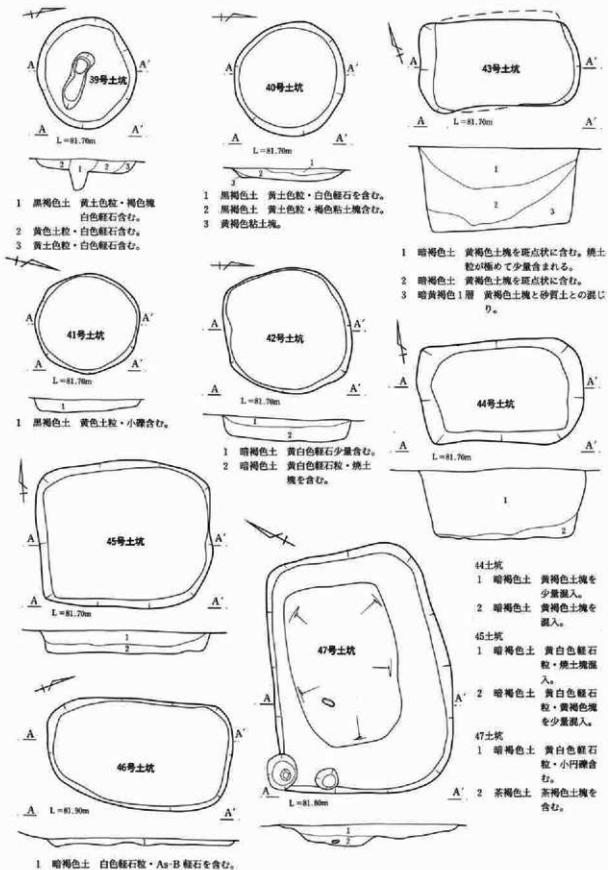


第345図 土坑実測図



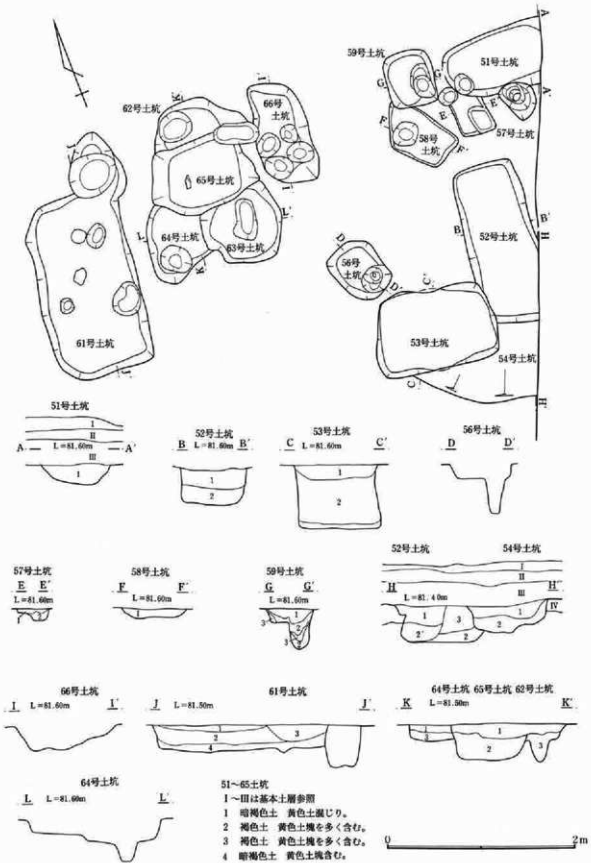
第346図 土坑実測図

第二章 上栗須遺跡

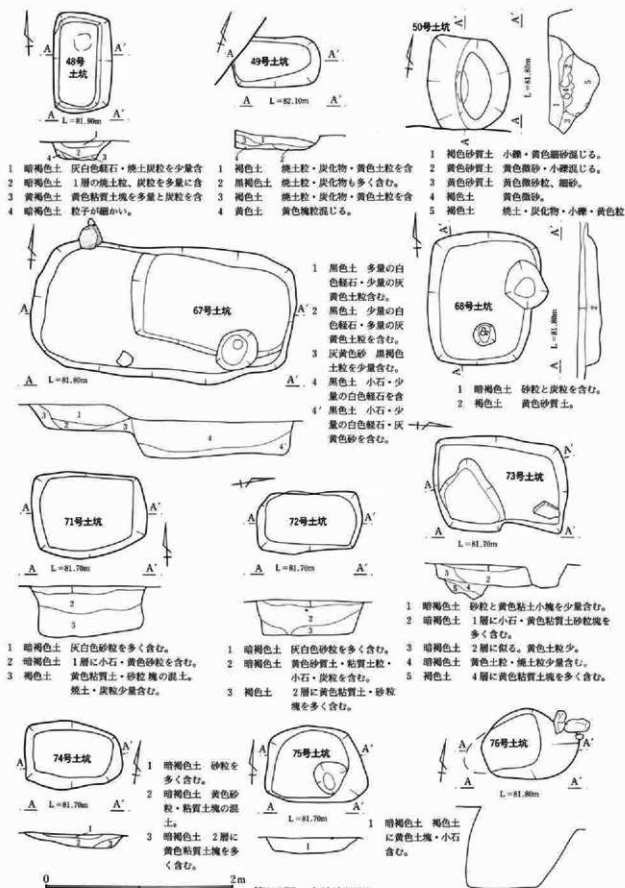


第347図 土坑実測図

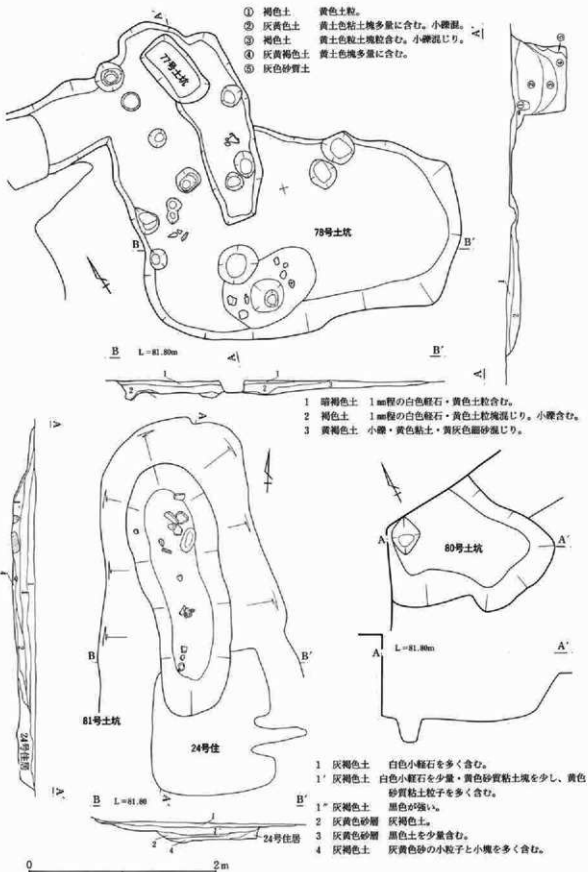
0 2m



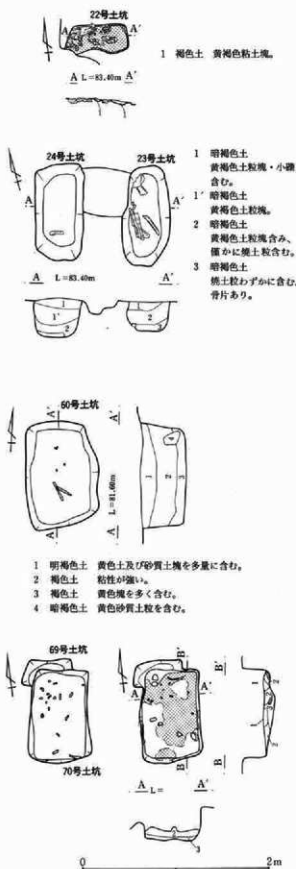
第348図 土坑実測図



第349図 土坑実測図



第350図 土坑実測図



第351図 土坑実測図

22号土坑 (写真図版113)

位置 M-117グリッド 方位 N-90'-E
規模 長辺0.8m、短辺0.6m、深さ0.22m
重複 3号住居電部分及び、1号掘立柱建物のP₁柱穴を切っている 形状 隅丸長方形
遺物 無し

備考 多量の炭化と風化した焼骨出土

23号土坑 (写真図版113)

位置 N-116グリッド 方位 N-17'-E
規模 長辺1.1m、短辺0.45m、深さ0.31m
重複 1号掘立柱建物の柱穴を挟み、24号土坑と接する 形状 隅丸長方形 遺物 人骨出土

24号土坑 (写真図版113)

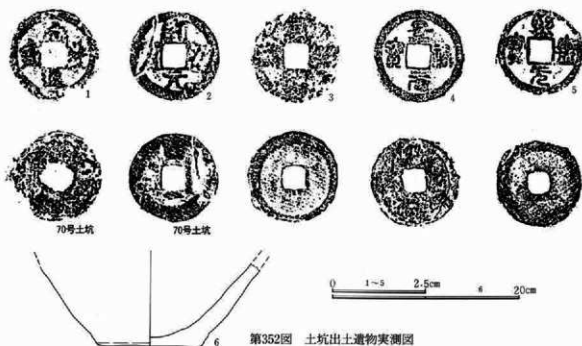
位置 N-116グリッド 方位 N-17'-E
規模 長辺1.0m、短辺0.55m、深さ0.32m
重複 23号土坑と1号掘立柱建物を含む。
形状 隅丸長方形 遺物 人骨出土

60号土坑 (写真図版117)

位置 F-84グリッド 方位 N-5'-W
規模 長辺1.15m、短辺0.72m、深さ0.47m
重複 81号土坑を切る。 形状 長方形、箱型
遺物 小銭・骨片出土

70号土坑 (写真図版117・128)

位置 F-86グリッド 方位 N-10'-E
規模 長辺1.05m、短辺0.6m、深さ0.26m
重複 69号土坑 形状 長方形、箱型
遺物 小銭、焼骨出土 備考 焼土・炭含む



第352図 土坑出土遺物実測図

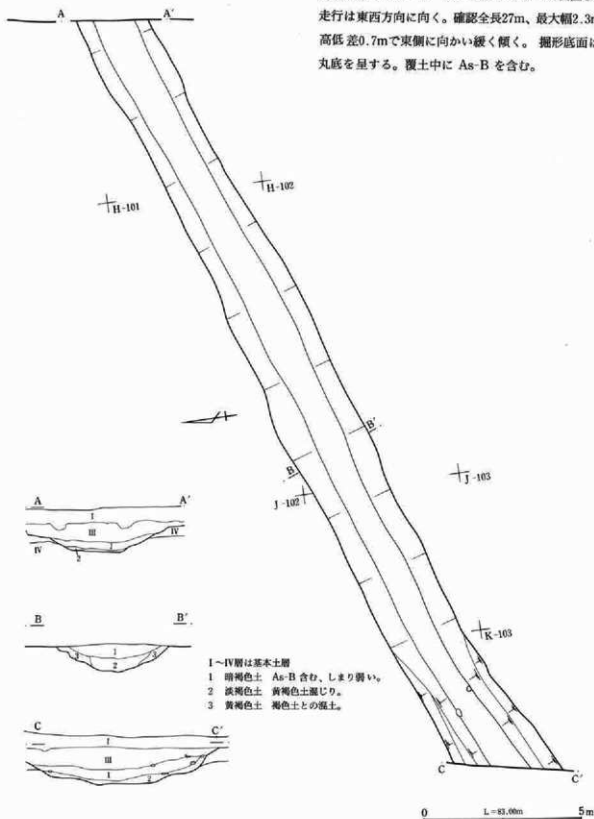
土坑出土遺物観察表

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
1	古銭	66号土坑	2.4 1.9	1.98K	元豊通寶。1078年。宋銭。
2	古銭	70号土坑	2.4 1.8	2.30K	紹聖元寶。1094年。宋銭。
3	古銭	70号土坑	2.4 1.9	4.51K	不明
4	古銭	70号土坑	2.4 1.8	2.30K	嘉寧元寶。1068年。宋銭。
5	古銭	70号土坑	2.3 1.9	1.59K	景祐元寶。1034年。宋銭。
6	軟質陶器 鉢	78号土坑	- 11.0	1. 灰黄色 2. 細砂、粘土粒含む 3. 酸化焙 良好	胴部無で。底部無で。

4 溝

1号溝 (写真図版119)

遺跡南よりのG~K-101~103 グリッドに位置し、
 走行は東西方向に向く。確認全長27m、最大幅2.3m、
 高低差0.7mで東側に向かい緩く傾く。掘形底面は
 丸底を呈する。覆土中に As-B を含む。



第353図 1号溝実測図

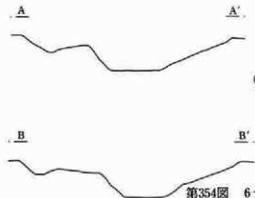
6号溝（写真図版119・128）

遺跡北端部E～I-77～81グリッドに位置し、走行は東北方向から南西方向に傾く。確認全長28m、最大上幅5.2m、下幅3.7mをはかる。比高差あまり見られない。掘形は、断面台形状を呈する。

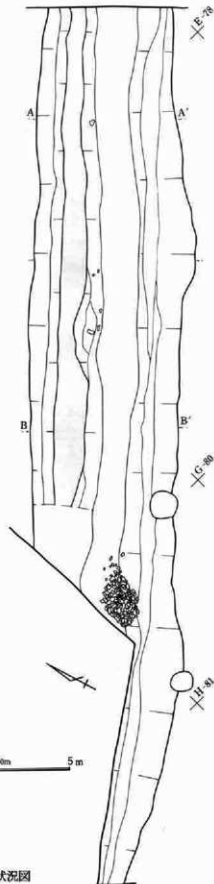
南側には竪穴住居群や掘立柱建物群が展開し、更に中世の墓坑群や竪穴状遺構が検出されている。溝底面北側に、台形状の高まりを確認した。この高まりの覆土中には、3枚の砂混じりの堅い面が確認でき、最終面は上端0.80m、下端1.2m、高さ0.6mの規模を持つ。また、その北脇には上端0.6m、深さ0.3mの側溝状の溝が付く。こうした状況から、この高まりの堅い面は道路面であったと考えられる。最初の路面は、溝の掘形面より僅かに高い部分に見られ、その後同じ部分を盛り上げて行きながら道として使用したと考えられる。また、構築当初の溝部分は覆土の様子から、この道路遺構が埋没するまで残り側溝として機能し、北側にも浅い側溝が付けられていたことがわかる。

溝内の西壁南法面下には、河原石を敷いたような石敷部分が見られ、この部分より遺物が出土している。覆土上面には、As-Aの堆積が見られ、As-A降下以前には、埋没していたことが伺われる。

現在、この溝の上を通る農道は「金井道」と呼ばれ、遺跡南西数kmに位置する鮎川沿いの日野金井地区に通じる道であったと言われている。この道の東25mの部分には水路があり、上栗須I区2号溝とトレースする農道とほぼ直交し、両道の延長部分は現在水路として利用されている。



第354図 6号溝内路面確認状況図

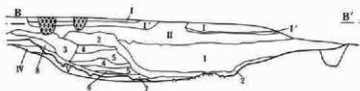


第二章 上栗須遺跡



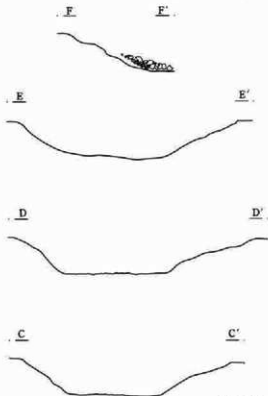
I~Vは基本土層参照

- | | | | |
|-------|---------------------------|--------|--------------------------|
| 1 褐色土 | 砂粒を多く含む。 | 6 褐色土 | 砂粒・小石・灰白粘質土を含み、固くしまっている。 |
| 2 褐色土 | 砂粒・小石を含み、よくしまっている。 | 7 褐色土 | 砂粒・小石・灰白粘質土を含み、固くしまっている。 |
| 4 褐色土 | 砂粒・小石・黄色土塊を少量含む、よくしまっている。 | 8 褐色土 | 褐色土と灰色粘質土の混土。 |
| 5 褐色土 | 黄色土塊を多く含む。 | 9 明褐色土 | 褐色土と黄色土の混土粘性が強い。 |

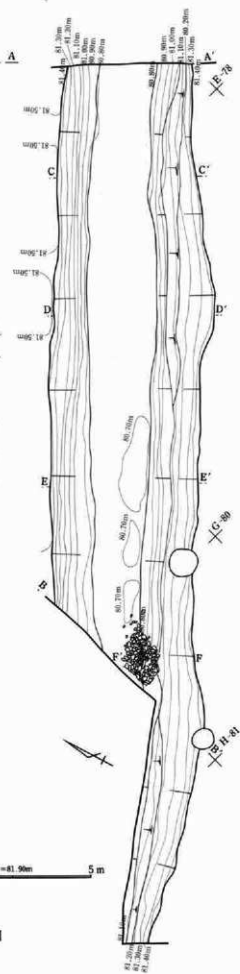


I~V 基本土層参照

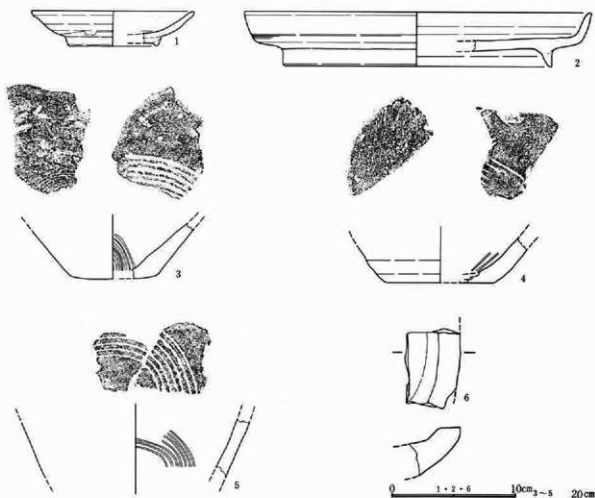
- | | | | |
|-------|-------------------|---------------|---------------|
| 1 褐色土 | 砂粒・小石を含む。 | み固くしまり、互層を成す。 | |
| 2 褐色土 | 砂粒・小石・黄色土塊を少量含む。 | 5 褐色土 | 褐色土と灰色粘質土の混土。 |
| 3 褐色土 | 黄色土塊を多く含む、やや柔らかい。 | 6 褐色土 | 褐色土と灰色粘質土の混土。 |
| 4 褐色土 | 砂粒・小石・粘土粒を含む。 | 7 明褐色土 | 褐色土と黄色土の混土。 |
| | | 8 褐色土 | 灰色礫石・砂粒を含む。 |



0 1=81.96m 5m



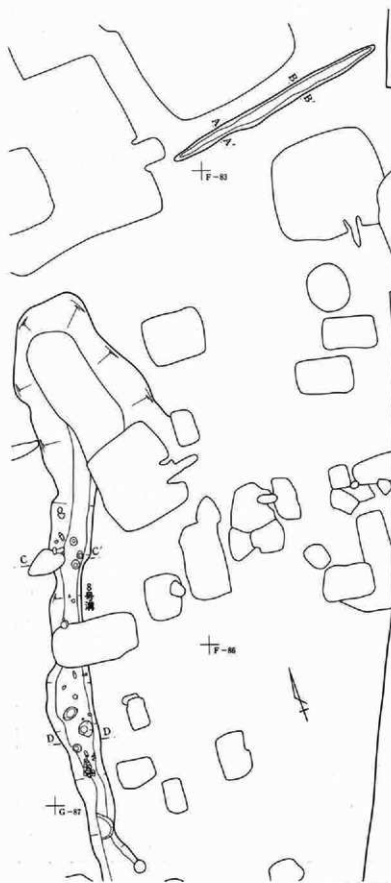
第355図 6号溝実測図



第356図 6号溝出土遺物実測図

6号溝出土遺物観察表

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・直径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
1	灰釉陶器 皿	集積部	13.0 - - 口径～底部小片	1. 灰オリーブ色 2. 精選 3. 還元焰 良好	輪軸整形。腰部回転削り。底部高台貼り付け灰釉、 張り掛け
2	須恵系 盤	集積部	27.5 - - 口径～底部片	1. 灰白色 2. 精選 3. 還元焰 硬質	口径部短く立ち上がる。底部回転未切り痕の無い盤で見 られる。高台貼り付け。2段に伸ばす。
3	軟質陶器 すり鉢	集積部	- (8.8) - 小片	1. 灰白色 2. 細砂粒、小石僅 かに含む 3. 中性焰 やや軟質	胴部下端部で、内面円弧状に節目6条。 底部回転未切り。
4	軟質陶器 すり鉢	集積部	- (11.8) -	1. 灰褐色 2. 細砂、粘土粒含 む 3. 中性焰 やや軟質	胴部下端部で、内面円弧状に節目5条。 底部盤で。
5	軟質陶器 すり鉢	集積部	- - - 小片	1. 褐色 2. 砂粒含む 3. 中性焰 やや軟質	内面弧状に節目7条。
6	石 臼	集積部	- - -	205 K	小片。内面炭化物付着。安山岩



7号溝 (写真図版119)

15号住居南E・F-82グリッドに位置し、走行は東西方向に向く。確認全長3.6m、幅0.2m、高低差は殆ど見られない。

8号溝

中世の墓坑群を画するような形で検出した。

F-85~87グリッドに位置し、走行は南北方向に向く。確認全長13m、幅1m、高低差は殆ど見られない。幾つかの墓坑と重複し、19号住居の竈部分を切る。片岩礫を出土する。

7号溝 A A' L=31.80m



B B'



8号溝 C C' L=82.00m



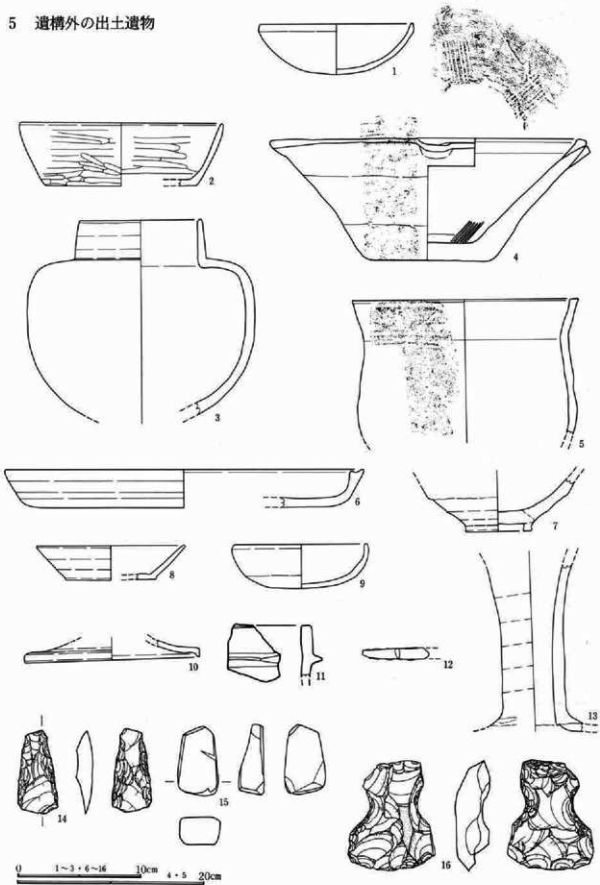
D D'



0 5m

第357図 7・8号溝実測図

5 遺構外の出土遺物



第358図 グリッド出土遺物実測図

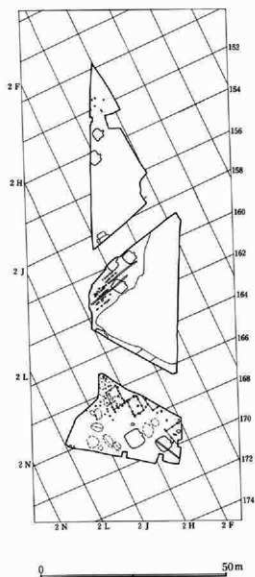
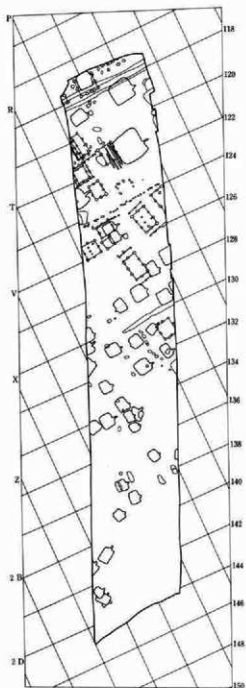
第II章 上栗須遺跡

遺構外出土遺物観察表

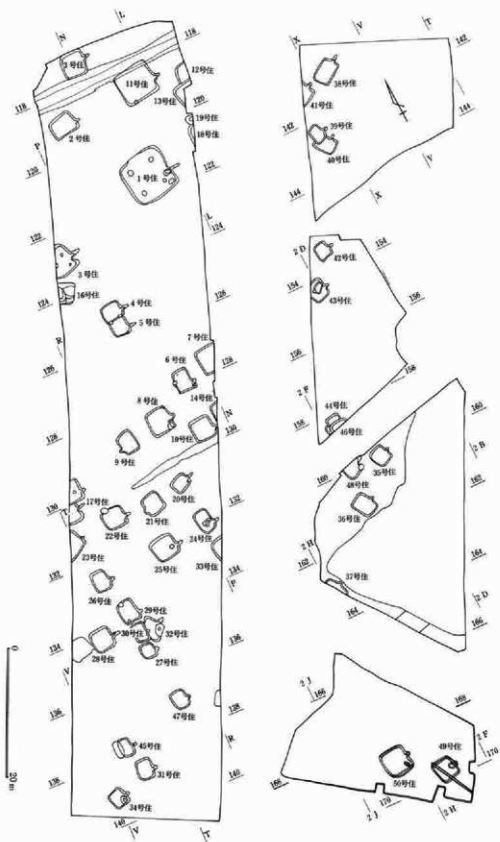
番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
1	土師器 環	E-84G	12.4 - 4.0 片	1. 明赤褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で、内側。体部～底部荒削り。
2	土師器 環	E-87G	16.2 - - 小破片	1. におい橙色 2. 砂粒 粘土 粒僅かに含む 3. 酸化焰	口縁部直線的に開く。内外面荒磨き。
3	須恵器 短頸壺	F-83G	13.0 - - 口縁～胴部片	1. 浅黄色 2. 細砂粒含む 3. 還元焰 硬質	口縁部短く外反。刷毛目。肩部強く張り、回転荒削り 胴部縦方向、平行多き目。
4	軟質陶器 すり鉢	F-83G	33.2 14.0 12.8 口縁～底部片	1. 灰色 2. 微砂粒含む 3. 還元焰 良好	口縁部片口あり、指押え。却目6本4単位。 内外面横撫で。中央外面未調整。下位横撫で。
5	軟質陶器 内耳鏡	F-83G	24.0 - - 口縁～胴部片	1. 黒色 2. 砂粒含む 3. 中性焰	口縁部横撫で。僅かに外反。平縁。
6	須恵器 盤	E-87G	28.8 - -	1. 灰白色 2. 砂粒含む 3. 還元焰 硬質	口縁部直線的に短く立ち上がる。口唇部内傾。 カエリ状。底部撫で。
7	須恵器 甕	F-84G	- 5.2 - 胴～底部片	1. 灰黄褐色 2. 精選 3. 還元 良好	体部下位回転荒削り。内面胎土目肌。 底部回転糸切り後、高台貼り付け。
8	土師器 環	N-136G	12.0 - 2.8 口縁～底部小片	1. 明赤褐色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰、良好	口縁、体部直線的に開く。 底部平底。
9	土師器 環	U-136G	11.0 - 3.5 片	1. 橙色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部内湾、横撫で。 体部、底部荒削り。
10	須恵器 蓋	U-135G	- - - 小破片	1. におい橙色 2. 細砂 粘土 粒含む 3. 中性焰 軟質	口縁部大きく外反。口唇部垂直に折り返し。
11	須恵器 羽蓋	V-137G	- - -	1. 浅黄色 2. 細砂 粘土粒含 む。 3. 中性焰 軟質	脚貼り付け、横撫で。
12	刀子	I-93G	5.4 0.9 0.25 3.4#		身先端部分。
13	須恵器 長頸壺	U-136 G	- - - 胴～肩部	1. におい赤褐色 2. 白色細粒 粘土粒含む 3. 還元焰 良好	頸部接合部分水平方向に開く。
14	打製石斧	I-90G	8.8 4.4 1.8 70.0#		黒色頁岩。
15	砥石	F-83G	7.9 4.4 2.8 129.0#		流紋岩。
16	打製石斧	H-82G	11.7 9.3 3.1 370.0#		黒色頁岩。

第3節 III区検出の遺構と遺物

1 竪穴住居跡



第359図 上栗須遺跡III区の遺構配置図



第360图 III区住居配置图

1号住居跡 (写真図版132・156・157)

位置 L・M-120~122グリッド 方位 E-10°-S

重複 2号掘立柱建物跡に西壁を切られている。

規模 東西7.9m 南北7.8m 僅かに西壁の短い方形を呈する。

壁高 50cm前後 やや傾いて立ち上がる。

貯蔵穴 南東隅、上端はピットと重なり、長辺1.4m、短辺1.2mの長方形を呈する。また、内形は長辺1m、短辺70cm、深さ47cmの長方形を呈する。

柱穴 各隅寄りに4本検出した。柱穴規模は上端70~80cm、下端30cm前後、深さは床面より60~80cm

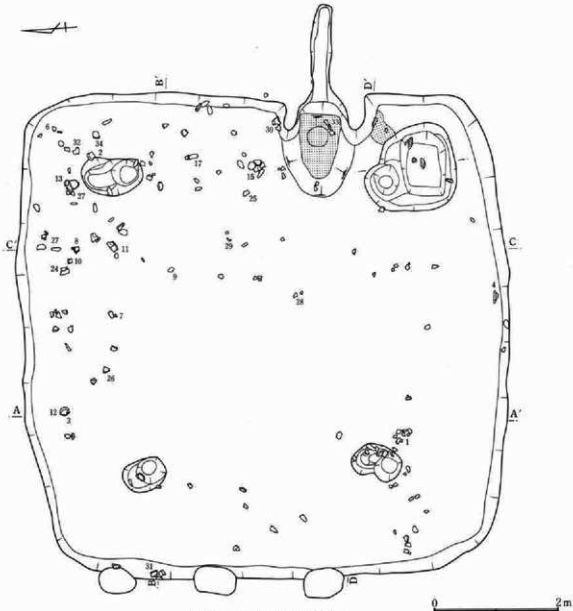
を測り、円形の掘形を持つ。

周溝 無し

床面 暗褐色土に黄褐色土・砂質土を混ぜ踏み固められ、フラットな面に仕上げられている。竈前では焼土、炭化物などの広がり見られる。

掘形 住居中央部に上端1m前後、下端0.6m、深さ10cmの規模を持つ溝が3/4程巡り、長辺4.7m、短辺3.5mの長方形を呈する区画が確認された。西壁と東壁下は若干掘り込まれている。その他に径30cm~1mのピットが壁周辺に確認できた。

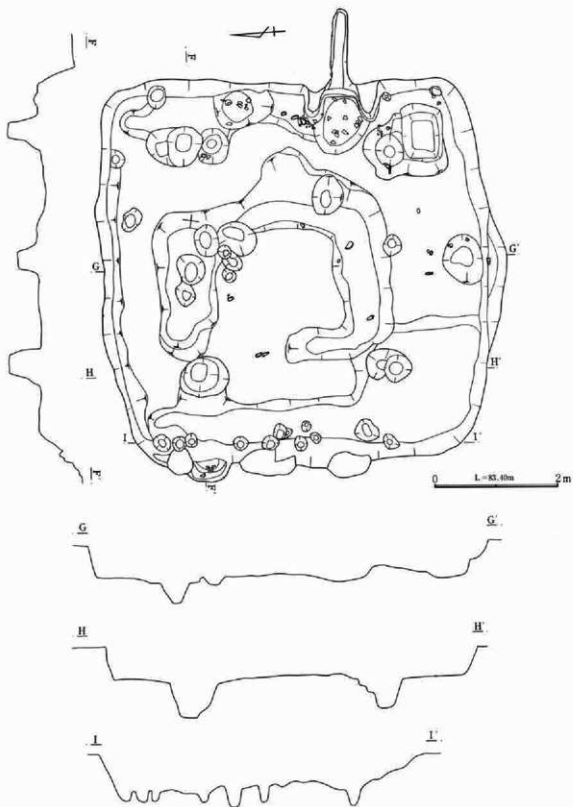
遺物 住居北東隅寄りと南西隅寄りに遺物の集中す



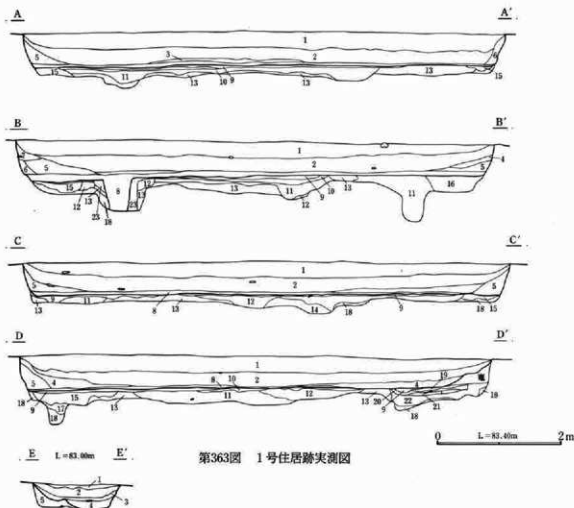
第361図 1号住居跡実測図

第二章 上栗須遺跡

る部分が見られ、住居中央部からの遺物の出土は少ない。



第362図 1号住居跡床下実測図



第363図 1号住居跡実測図

- 1 暗褐色土 全体に焼土・炭粒を少量含む。
- 2 暗褐色土 暗褐色塊と黄色土塊を多く含む。
- 3 暗褐色土 暗褐色土に黄色土小塊少量含む。
- 4 暗褐色土 黄色土塊を多量と焼土・炭粒を含む。
- 5 褐色土 黄色土粒・砂粒の混土。全体に粒子が細かく密である。
- 6 暗褐色土 暗褐色土塊と褐色土の混土。

竈

位置 東壁南より

規模 焚口部幅80cm 燃焼部奥行50cm・幅60cm・
深さ50cm 煙道部長さ1.5m・幅30cm

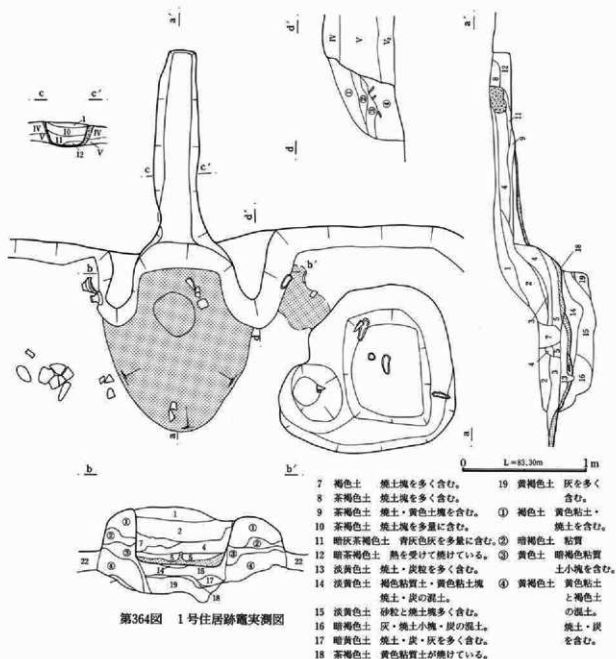
煙道部への立ち上がり25cm 斜めに立ち上がる。

構築 燃焼部は住居内にあり、暗褐色土と黄褐色土の混土を壁に貼り付け袖を構築している。火床面は床面より15cm程低く、灰・焼土の堆積見られる。掘形は方形状を呈し、壁面は垂直に立ち上がる。煙道部は水平に1.5m伸びる。天井部崩落による焼土塊を多量に含む。掘形は方形を呈する。

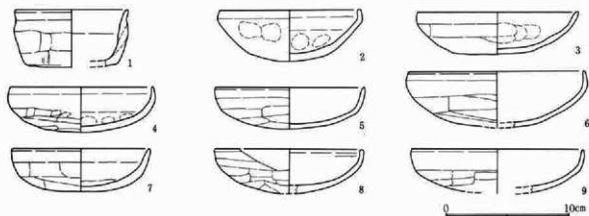
- 7 暗褐色土 焼土・炭化物を多く含む。遺物も含む。
- 8 暗褐色土 褐色土を主として、かたくよじまっている。
- 9 暗褐色土 暗褐色土を主として、黄色土粒・砂粒と焼土・炭粒少量含む。
- 10 黄褐色土 黄色土塊・砂粒・小石を多量に含み層を挟す。
- 11 暗褐色土 暗褐色土に黄色土塊・砂粒を多く含む。
- 12 黄褐色土 暗褐色土塊・黄色土塊・砂粒・焼土・炭粒の混土。
- 13 黄褐色土 黄色土塊・砂粒の混土。
- 14 褐色土 暗褐色土に黄色土塊・砂粒・焼土・炭粒を含む。
- 15 暗褐色土 暗褐色土に黄色土塊・砂粒を含む。(周溝)
- 16 暗褐色土 15層に焼土・炭粒を多く含む。(床面下土坑)
- 17 暗褐色土 15層に砂粒塊を多く含む。
- 18 明褐色土 明褐色砂質土。
- 19 茶褐色土 黄色土に焼土塊を多く含む。
- 20 暗褐色土 暗褐色土と黄色粘土の互層。焼土・炭粒を少量含む。
- 21 暗褐色土 20層に砂粒を多く含む。
- 22 暗褐色土 暗褐色土・黄色粘質土塊・砂粒・焼土・炭粒の混土。
- 23 暗褐色土 細粒の暗褐色土に焼土・炭粒を少量含む。

甍土層注記 (図は次頁)

- 1 暗褐色土 黄色粘土多量と焼土粒を少量含む。
- 2 褐色土 黄色土塊と黒色土塊を多く含む。
- 3 褐色土 焼土・炭を多く含む。
- 4 茶褐色土 黄色土・黒色土塊に焼土塊を混する。
- 5 暗褐色土 灰・炭を部分的に含む。
- 6 褐色土 黄色粘土塊・焼土塊・灰の混土。

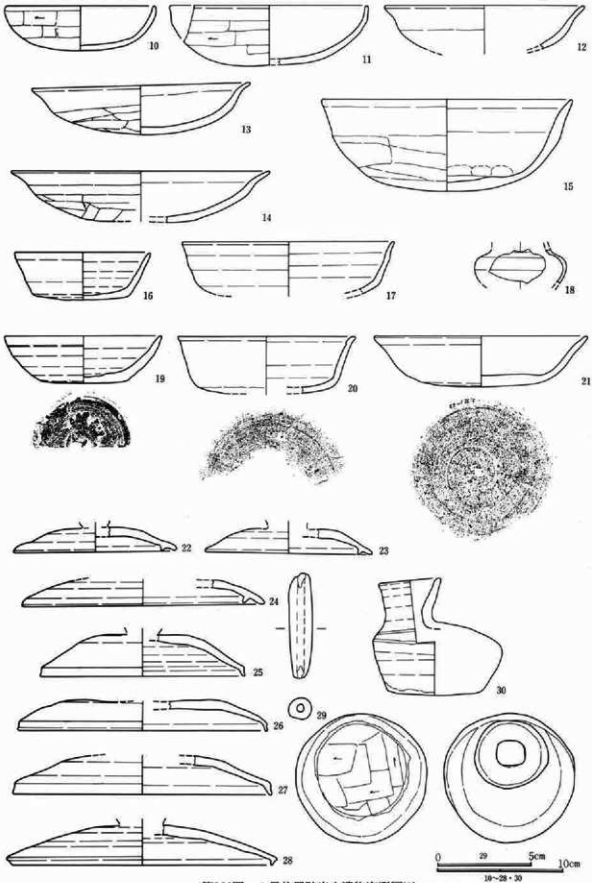


第364図 1号住居跡竈実測図

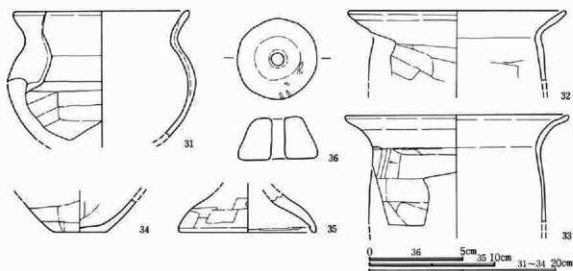


第365図 1号住居跡出土遺物実測図(1)

第3節 Ⅲ区検出の遺構と遺物



第366図 1号住居跡出土遺物実測図(2)



第367図 1号住居跡出土遺物実測図(3)

1号住居出土遺物観察表

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1, 色調 2, 胎土 3, 焼成	整形・調整の特徴
1	土器 杯	南西 +35	9.0 - (4.4) 口径部~底部迄	1, にぶい褐色 2, 白, 黒色細粒含む 3, 酸化焰 良好	口径部横撫で。 体部寛削り、無で。底部平底、寛削り。
2	土器 杯	北東 +17	11.4 - 4.0 片	1, 褐色 2, 黒色細粒 細砂含む 3, 酸化焰 良好	口径部内傾、横撫で。 体部~底部寛削り。
3	土器 杯	北西壁 +35	12.9 - 3.3 口径部~底部迄	1, 褐色 2, 細砂粒含む 3, 酸化焰 良好	口径部横撫で。 体部~底部寛削り。
4	土器 杯	南西壁 +13	11.4 - 3.6 ほぼ完形	1, 褐色 2, 細砂粒含む 3, 酸化焰 良好	口径部横撫で。 体部~底部手持ち寛削り。
5	土器 杯	覆土	12.0 - (3.3) 片	1, 褐色 2, 細砂粒含む 3, 酸化焰 良好	口径部横撫で。 体部~底部寛削り。表面摩耗。
6	土器 杯	北東隅 -5	14.0 - 4.5 片	1, 褐色 2, 細砂粒含む 3, 酸化焰 良好	口径部横撫で。 体部~底部寛削り。
7	土器 杯	北西壁 +11	11.0 - 3.4 口径部~底部迄	1, 褐色 2, 白 黒色透明細粒含む 3, 酸化焰 良好	口径部横撫で。 体部~底部寛削り。
8	土器 杯	北東 +5	12.0 - (3.5) 片	1, 褐色 2, 細砂粒含む 3, 酸化焰 良好	口径部横撫で。 体部~底部寛削り。
9	土器 杯	覆土	13.8 - - 片	1, にぶい褐色 2, 黒色細粒含む 3, 酸化焰 やや良好	口径部横撫で。 体部~底部寛削り。表面摩耗。
10	土器 杯	北東 +8	12.0 - 3.5 口径部~底部迄	1, 褐色 2, 白 黒色透明細粒 夾雑 3, 酸化焰 やや良好	口径部横撫で。 体部~底部寛削り。
11	土器 杯	北東 +5	16.0 - 4.8 片	1, にぶい褐色 2, 細砂粒含む 3, 酸化焰 良好	口径部横撫で。 体部~底部寛削り。
12	土器 杯	北西 +35	16.0 - - 口径部~片	1, 褐色 2, 白 黒色細砂粒含む 3, 酸化焰 良好	口径部表面摩耗。

第3節 Ⅲ区検出の遺構と遺物

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 装成	整形・調整の特徴
13	土師器 杯	北東 +27	17.2 - (3.8) 完形	1. 褐色 2. 白色透明細粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。 体部～底部窪削り、表面やや摩滅。
14	土師器 杯	覆土	25.0 - (4.0) 口縁部～底部1	1. 褐色 2. 白色透明細粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。 体部～底部窪削り。弱い稜を持つ。
15	土師器 鉢	覆土	20.0 - 7.7 口縁部～底部1/4	1. におい褐色 2. 僅かに細砂 含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。弱い稜を持つ。 体部手持り箇所削り。
16	須恵器 杯	覆土	10.8 7.0 3.3 口縁部～底部1/4	1. 灰白色 2. 白色細粒含む 3. 還元焰 硬質	輪縁整形 底部貫切り、周辺部厚調整。
17	須恵器 杯	北東 +10	17.0 - - 底部欠損1/4	1. 灰褐色 2. 白色粒僅かに含 む 3. 還元焰 硬質	口縁部～体部直線的に開く。 底部貫削り。
18	須恵器 壺 甕	楕形	- - - 小片	1. 灰白色 2. 白 黒色細粒含 む 3. 還元焰 硬質	胴部撫で。
19	須恵器 杯	覆土	12.6 3.7 6.5 口縁部～底部1/4	1. 灰白色 2. 精選 3. 還元焰 硬質	輪縁整形、輪縁目。 底部回転削り。
20	須恵器 杯	覆土	14.1 11.6 (4.5) 口縁部～底部1/4	1. 灰白色 2. 白色細粒含む 3. 還元焰 良好	口唇部折り返し、内面段あり。 体部中央肥厚。底部回転削り。
21	須恵器 杯	楕形	17.0 - (4.0) 欠	1. 褐灰色 2. 白色粒多く含む 3. 還元焰 硬質	口縁部回転。 底部丸底気味、回転削り、内面撫で。
22	須恵器 壺 甕	楕形 +7	- - - 欠	1. 褐灰色 2. 白色細粒含む 3. 還元焰 硬質	カエリを持つ、端部内湾。 頂部回転削り。
23	須恵器 壺	覆土	13.3 - (1.9) 小片	1. 灰白色 2. 白色細粒 夾雜 物 3. 還元焰 硬質	頂部回転削り。 体部鋭角なカエリをもつ。
24	須恵器 壺	覆土	19.3 - (1.9) 端部1/4	1. 灰白色 2. 白色粒 透明粒 小石含む 3. 還元焰 硬質	口縁部折り返し、カエリ内側に開く。 頂部回転削り、丸味もつ。
25	須恵器 壺	北東 +19	16.3 - (3.3) 欠	1. 灰色 2. 白色粒 夾雜物 含む 3. 還元焰 良好	口縁部折り返し。 頂部回転削り、横撫で。
26	須恵器 壺	北東 +27	(10.0) - - 欠	1. 灰褐色 2. 白色粒含む 3. 還元焰 硬質	口縁部表面自然輪、端部折り曲げ。 頂部回転削り。
27	須恵器 壺	覆土	20.6 - (3.0) 端部～横まみ部1/4	1. 灰 やや小豆色 2. 白色透 明粒多量含む 3. 還元焰 硬質	頂部回転削り。 体部折り返し、強い撫で。
28	須恵器 壺	覆土	20.6 - (3.0) 小片1/4	1. 灰白色 2. 白色粒含む 3. 還元焰 良好	口縁部内縁撫で。端部内湾。 頂部回転削り。
29	土製品 土 鉢	中央 +25	- - - ほぼ完形	1. 褐色 2. 白 黒色細粒含む 3. 還元焰 良好	口縁部棒状工具に巻き付け。
30	須恵器 平 瓶	甕左袖	4.9 7.6 9.1 完形	1. 灰白色 2. 白 黒色細粒含 む 3. 還元焰 良好	口縁部回転撫で、紐造り。 底部貫削り。
31	土師器 小型 壺	北西隅 +27	14.0 - - 口縁部～胴部1/4	1. におい褐色 2. 白 黒色粒 含む 3. 還元焰 良好	口縁部横撫で。 胴部横削り。表面刺刺。
32	土師器 壺	北東 +26	23.0 - - 口縁部小片	1. 明赤褐色 2. 細砂 粘土 含む 3. 還元焰 良好	口縁部横撫で。口唇部強い撫で。 胴部横方内削り。
33	土師器 甕	甕内 +4	24.0 - - 口縁部～胴部1/4	1. 褐色 2. 細砂粒含む 3. 還元焰 良好	口縁部横撫で。口唇部強い撫で。 胴部上位横方内削り。

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
34	土師器 壺	掘形 +16	- 4.0 - 底部小片	1. 褐色 2. 白 3. 酸化焰 良好	底部横尻削り、斜方向削り。 平底、頸削り、内面丸底、磨面で。
35	土師器 台付壺	覆土	- (11.0) - 片	1. によい赤褐色 含む 3. 酸化焰 良好	脚端部内屈。 体部磨面で。
36	紡錘車	掘形	4.2 2.2 2.2 70g		蛇紋岩

2号住居跡(写真図版133・159)

位置 N・O-118・119グリッド 方位 N-9°-S

規模 南壁4.2m、北壁3.6m、南北3.2m、台形状を呈する。

壁高 50cm前後 上端は僅かに広がるが、下方は垂直に立ち上がる。

貯蔵穴 無し 柱穴 無し 周溝 無し

床面 暗褐色土に地山砂利塊が混じり、堅く踏み固められている。また、電前には焼土、灰の広がりが見られ、堅く踏み固められている。

掘形 砂利混じりの灰褐色土まで掘り込まれ、電前と南壁寄りに楕円形の掘り込み見られるが、全体のフラットな面に仕上げられている。

遺物 土師器環片が数点出土したのみである。

竈

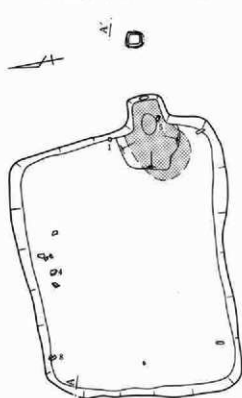
位置 東壁南隅寄り

規模 焚口幅40cm 燃烧部奥行き50cm・幅40cm・深さ50cm 煙道部長さ1m・幅25cm

煙道部への立ち上がり30cm ほぼ垂直に立ち上がる。

構築 燃烧部は壁外に構築され、袖を持たない。火床面は床面より15cm程下がり灰層の堆積見られ、また下層にも灰や焼土の堆積見られる。掘形は箱形に掘られる。燃烧部内壁面は垂直に立ち上がり、煙道部に向かい斜方向に壁面が焼けている。煙道部は天井が崩落せずに残り、構築状況が確認出来た。

煙道部は、水平方向よりやや上方に傾き、煙出し部に至り垂直に立ち上がる。掘形は25×30cmの方形の筒状を呈する。壁面は底面を除き赤茶色に焼土化している。煙出し部も壁面が方形に焼けている。

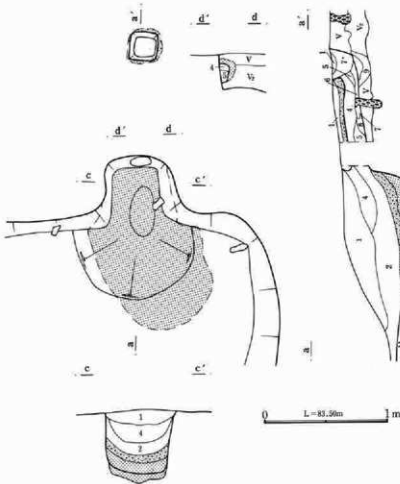


I~Vは基本土層断面

- 1 褐色土 砂粒・小石を多く含む。
- 2 明褐色土 黄色土塊と焼土・炭粒を多く含む
- 3 暗褐色土 暗褐色土塊・黄色土塊・砂利混土
- 4 灰褐色土 灰褐色砂礫層。
- 5 暗褐色土 砂粒・小砂利を多く含む。
- 6 灰褐色土 砂利及び小砂利。

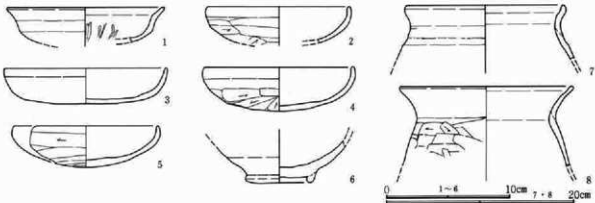
第368図 2号住居跡実測図

第3節 III区検出の遺構と遺物



- 1 暗褐色土 砂利・黄色土粒を多く含む。
- 1' 焼土
- 2 暗褐色土 黒色土塊を多く含む。
- 4 暗褐色土 暗褐色土塊を多く含む
- 5 暗褐色土 焼土塊混じり。
- 6 褐色土 黄色土粒・砂粒・焼土炭粒を多く含む。
- 7 暗褐色土 焼土小塊多量と炭・灰少量含む。(埋道部)
- 8 茶褐色土 灰の純層・焼土・炭粒少量含む。
- 9 暗褐色土 焼土塊僅かに含む。
- 10 褐色土 砂質土・焼土・炭粒を含む。
- 11 褐色土 砂粒・小砂利を多く含む。焼土・炭粒を若干含む。
- 12 明褐色土 砂礫層。

第369図 2号住居跡電気測図



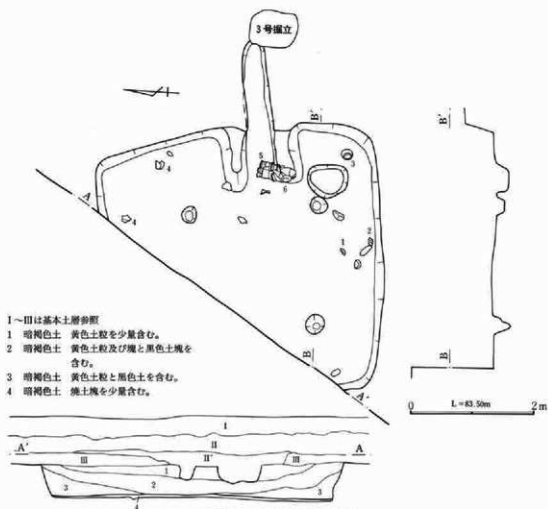
第370図 2号住居跡出土遺物実測図

2号住居出土遺物観察表

番号	器 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
1	土師器 坏	電機 +3	11.2 — 2.9 残	1. 褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焙 良好	口縁部横割で、 体部～底部縦割り。

第II章 上栗須遺跡

番号	器 種 器 形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整 形 ・ 調 整 の 特 徴
2	土 師 器 環	電覆土	12.4 — 2.8 ㄥ	1. 褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部外反、横断で。 体部～底部残存。内面磨文。
3	土 師 器 環	中央 +5	12.8 — 2.8 ㄥ	1. 褐色 2. 白 黒色細粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横断で。 底部残存。
4	土 師 器 環	北東 床直	11.8 — 3.5 ㄥ	1. 褐色 2. 黒色細粒 細砂含 む 3. 酸化焰 良好	口縁部横断で。 体部～底部残存。
5	土 師 器 環	電内 +2	11.4 — 3.2 ㄥ	1. 褐色 2. 細砂粒 僅かに含 む 3. 酸化焰 良好	口縁部横断で。 体部～底部残存。
6	須 恵 器 椀	覆土	— 5.6 3.3	1. におい褐色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 良好	底部回転糸切り、高台跡り付け。
7	土 師 器 壺	覆土	16.2 — 5.5 口縁部～頸部	1. 明赤褐色 2. 細粒含む 3. 酸化焰 良好	口唇部立ち上がる、横断で。 胴部横方向置存。
8	土 師 器 壺	北東隅 +12	18.2 — 8.3 口縁部～頸部	1. 褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部大きく外反。 胴部横断存。



第371図 3号住居跡実測図

3号住居跡 (写真図版133・158)

位置 P-122・123グリッド 方位 N-80°-E

規模 住居北西側が調査区外に伸びる。東西4.2m、南北4.5m、方形を呈する。

壁高 50cm前後 垂直に立ち上がる。

貯蔵穴 南東隅 長さ65cm、深さ10cmの楕円形を呈する。

柱穴 3本確認。柱穴1と柱穴2の芯々間2.1m、柱穴2と柱穴3の芯々間1.8m測る。各柱穴は径30cmの円形状を呈し、深さ20cm前後を測る

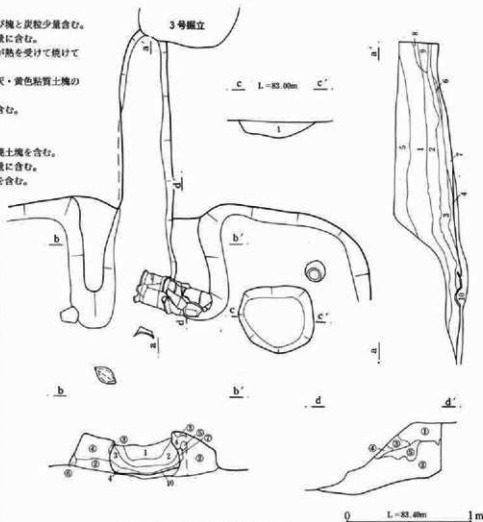
周溝 無し

床面 暗褐色土に黄褐色土を混ぜ踏み固めている。

掘形 南壁寄りに径50~60cmの円形の土坑状の掘り込みが見られるが、全体的にはフラットな面に仕上げられている。

- 1 暗褐色土 黄色土粒及び焼土・炭粒少量含む。
- 2 暗褐色土 黄色土塊多量に含む。
- 3 茶褐色土 黄色粘質土が熱を受けて焼けている。
- 4 茶褐色土 焼土・炭・灰・黄色粘質土塊の混土。
- 5 暗褐色土 黄色土粒を含む。
- 6 黄色土
- 7 青灰色土 灰の純層。
- 8 褐色土 黄色土塊と焼土塊を含む。
- 9 暗褐色土 焼土粒を多量に含む。
- 10 黄色土 暗褐色土塊を含む。

- ① 褐色土 地山の褐色粘質土。
- ② 黄褐色土 地山の黄褐色粘質土及び砂質土。
- ③ 褐色土 1層に黄色土粒・焼土・炭粒を少量含む。
- ④ 黄色土 地山の黄色粘質土塊。
- ⑤ 暗褐色土 1層・2層の混土に暗褐色粘質土塊を多く含む。
- ⑥ 暗褐色土 1層に暗褐色土塊を多く含む。
- ⑦ 茶褐色土 粘土部分が熱を受けて焼けている。



第372図 3号住居跡電気測図

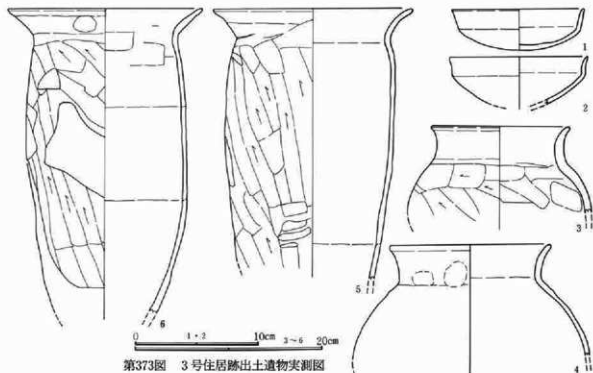
遺物 南壁寄りに土師器の小型甕が出土し、中央部に土師器環が出土している。また電右袖上に底部欠損の土師器甕が2個体横倒しの状態で出土しており、電焚口部の天井部分に利用されたものと考えられる。

竈

位置 東壁中央やや南より

規模 焚口部幅45cm 燃焼部奥行き1m・幅40cm・深さ52cm 煙道部先端は3号掘立柱建物に切られ全長は不明である。残存長1.2m・幅40cm 煙道部への立ち上がり部分は緩く立ち上がる。

構築 燃焼部は住居内にあり、地山掘り残しの1mの袖を持つ。火床面は床面よりやや高く、焼土、灰の堆積見られる。燃焼部から煙道部へは緩やかに移行し、明確な区分けはできない。



第373図 3号住居跡出土遺物実測図

3号住居出土遺物観察表

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
1	土師器 南東 碗 +6	10.5	- 3.3 完形	1. 明赤褐色 2. 細砂 白色細粒僅かに含む 3. 酸化焰 軟質	口縁部直線的に開く、横撫で、僅かに稜を持つ。体部～底部手持ち痕有り? 表面摩耗。
2	土師器 南東 碗 +6	11.0	- - 底部欠損	1. 橙色 2. 小石 白色細粒かに含む 3. 酸化焰 やや軟質	口縁部横撫で、弱い稜を持つ。体部表面摩耗。
3	土師器 南東隅 小型 壺 +3	10.9	- - 口縁部～胴部上半	1. 明赤褐色 2. 細砂粒 僅かに含む 3. 酸化焰 やや軟質	口縁部直立気味、僅かに外反、横撫で。胴部上位横方向、上平斜方向磨削り。
4	土師器 北東 壺 +22	17.0	- - 口縁部～胴部上半	1. 褐色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部僅かに外反、頸部、指頭圧痕有り。胴部球形、表面割離面多く僅かに磨削り調整有り
5	土師器 電右袖 壺 -5	20.3	- - 底部欠損	1. 明赤褐色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部外反、横撫で。頸部磨削り後、横撫で。胴部旋方向磨削り。
6	土師器 電右袖 壺 -5	20.2	- - 底部欠損	1. 明赤褐色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部外反、横撫で。指頭圧痕有り。長胴、旋方向磨削り。

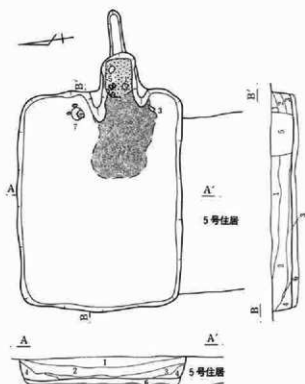
4号住居跡 (写真図版134・158)

位置 O・P-124・125グリッド 方位 N-11°S
重複 5号住居を切り、12号掘立柱建物に切られる。
規模 東西3.4m 南北2.6m 東西方向に長い。
壁高 32cm前後 垂直に立ち上がる。
貯蔵穴 無し 柱穴 無し 周溝 無し
床面 砂質土混じりの暗褐色土を踏み固めている。

電前には黄褐色土の高まりと土土、灰の広がり見られる。

掘形 電左前に径1.2m、深さ6cmの円形の掘り込みが見られる。また、南壁中央下に長さ1.2mの浅い槽円形の掘り込みが見られる。

遺物 電左に須恵器長頸壺の胴部のみ完形品出土。



第374図 4号住居跡実測図

竈

位置 東壁中央やや南

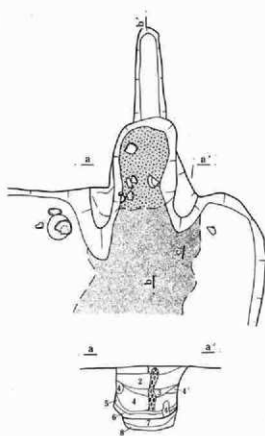
規模 竈口部幅50cm、燃焼部奥行80cm・幅45cm・深さ43cm、煙道部長さ65cm・幅20cm

煙道部への立ち上がり10cm、垂直に立ち上がる。

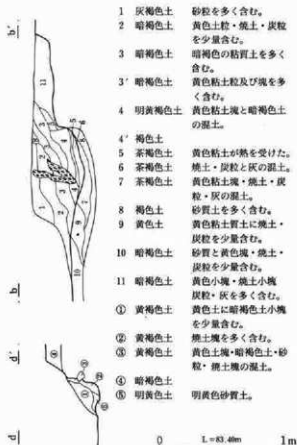
構築 燃焼部は壁外にあり、僅かに暗褐色土の袖をもつ。火床面は床面より12cm程下がり、灰の堆積見られる。灰の上面には天井部崩落土の黄褐色土の堆積があり、下面は赤茶色に焼土化している。掘形は方形に掘られ、壁面は垂直に立ち上がる。煙道部は水平方向に伸び、僅かに焼土が見られる。

- 1 暗褐色土 砂粒・小石を少量含む。
- 2 暗褐色土 黄色土粒と暗褐色粘質土塊を含む。
- 3 灰褐色土 灰褐色砂粒を主とし、暗褐色粘質土塊を含む。
- 4 暗褐色土 黄色土粒・砂粒を少量含む。
- 5 暗褐色土 砂粒を多く含む。
- 6 暗褐色土 灰色砂層と黄色土粒と炭粒を少量含む。

0 L=83.50m 2m

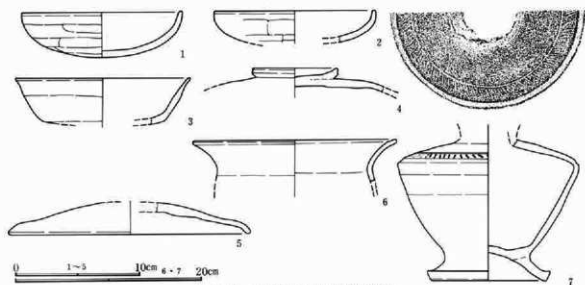


第375図 4号住居跡竈実測図



- 1 灰褐色土 砂粒を多く含む。
- 2 暗褐色土 黄色土粒・炭土・炭粒を少量含む。
- 3 暗褐色土 暗褐色の粘質土を多く含む。
- 3' 暗褐色土 黄色粘土粒及び塊を多く含む。
- 4 明黄褐色土 黄色粘土塊と暗褐色土の混土。
- 4' 褐色土
- 5 茶褐色土 黄色粘土が熱を受けた。
- 6 茶褐色土 焼土・炭粒と灰の混土。
- 7 茶褐色土 黄色粘土塊・焼土・炭粒・灰の混土。
- 8 褐色土 砂質土を多く含む。
- 9 黄色土 黄色粘土質土に焼土・炭粒を少量含む。
- 10 暗褐色土 砂質と黄色塊・焼土・炭粒を少量含む。
- 11 暗褐色土 黄色小塊・焼土小塊・炭粒・灰を多く含む。
- ① 黄褐色土 黄色土に暗褐色土小塊を少量含む。
- ② 黄褐色土 焼土塊を多く含む。
- ③ 黄褐色土 黄色土塊・暗褐色土・砂粒・炭土塊の混土。
- ④ 暗褐色土
- ⑤ 明黄色土 明黄色砂質土。

0 L=83.40m 1m



第376図 4号住居跡出土遺物実測図

4号住居出土遺物観察表

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
1	土器器 杯	竈中 -4	13.0 - 3.5 片	1. ぶい褐色 2. 細砂 粘土 粒僅かに含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。 体部～底部手持ち貫削り。
2	土器器 杯	竈中	13.0 - - 口縁部小片	1. くすんだ褐色 2. 細砂粒僅 かに含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。 体部～底部手持ち貫削り。
3	土器器 杯	南東隅 -3	14.0 - - 口縁部小片	1. 褐色 2. 砂粒僅かに含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。 体部外方に開く、表面摩耗。底部平底気味。
4	須恵器 蓋	器形	- 6.6 -	1. 灰褐色 2. 白色粒含む 3. 還元焰 硬質	頂部回転施作り。 体部握まみ部門盤状を呈し、貼り付け。
5	須恵器 蓋	竈内 +2	18.5 - -	1. 灰色 2. 白色粒含む 3. 還元焰 硬質	輪轆整形。口縁部僅かに内傾。
6	土器器 甕	覆土	22.0 - - 口縁部片欠	1. ぶい褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部外反、横撫で。口唇部握まみ出し。
7	須恵器 長頸壺	竈右脇 -3	- (12.4) - 胴部～底部	1. 灰色 2. 白色小石含む 3. 還元焰 硬質	肩部張り、周辺部輪轆状工具による刺突痕跡。先端部強い撫で。底部上げ底、回転撫で、台部貼り付け。

5号住居跡 (写真図版134・159)

位置 O・P-125グリッド 方位 E-10°-S

重複 4号住居に切られ、12号掘立柱建物にも切られている。

規模 東西2.7m 南北不明

壁高 32cm前後 垂直に立ち上がる。

貯蔵穴 無し 柱穴 無し 周溝 無し

床面 暗褐色土を堅く踏み固めている。竈前には黄褐色土と焼土の塊の攪乱が見られる。これは、竈の

自然崩落ではなく破壊によるものと考えられる。

掘形 西壁寄りに不正円形の掘り込み見られる。

遺物 土器器片が少数出土している。

竈

位置 東壁南隅寄り

規模 焚口部幅45cm、燃焼部奥行き80cm・幅50cm・

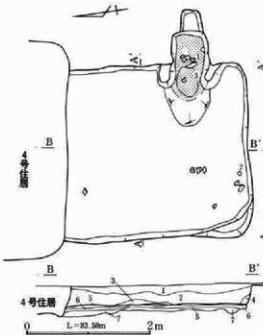
深さ40cm、煙道部長さ30cm・幅30cm

煙道部への立ち上がり30cm、垂直に立ち上がる。

第3節 Ⅲ区検出の遺構と遺物

構築 燃焼部は壁を掘り込み構築しているが、中心は壁の延長線上に有り、焚口部には地山黄褐色土と暗褐色土の混土を貼り付け袖を作る。火床面は床面より低く、灰の堆積見られる。掘形は方形に掘られ、壁面は垂直に立ち上がる。壁面の焼けは弱い。煙道部は底面が残り、焼土粒子が僅かに見られた。

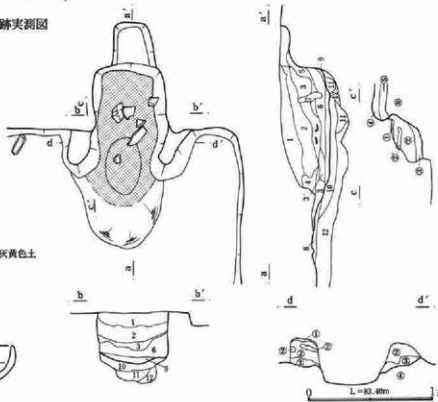
- 1 暗褐色土 砂粒・黄色土塊を少量含む。
- 2 暗褐色土 黄色土塊多量と炭粒少量を含む。
- 3 灰褐色土 炭粒を多く含む。
- 4 暗褐色土
- 5 暗褐色土 黄色土粒を少量含む。
- 6 暗褐色土 明黄色砂粒を全体に多く含む。
- 7 暗褐色土 黄色土粒・塊を多量に含む。



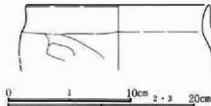
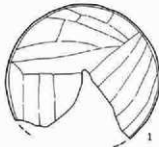
第377図 5号住居跡実測図

- 1 暗褐色土
- 2 暗褐色土
- 3 褐色土
- 4 黄色土
- 5 茶褐色土
- 6 暗茶褐色土
- 7 暗茶褐色土
- 8 暗褐色土
- 9 茶褐色土
- 10 暗褐色土
- 11 褐色土
- 12 明褐色土
- 13 暗褐色土

- ① 暗褐色土 ③ 暗褐色土 ⑤ 灰黄色土
② 黄色土 ④ 暗褐色土
⑦ 茶褐色土 ⑥ 暗褐色土



第378図 5号住居跡実測図



第379図 5号住居跡出土遺物実測図

第II章 上栗須遺跡

5号住居出土遺物観察表

番号	器 種 器 形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
1	土 師 器 坏	竈内 +6	12.1 - 3.7 口縁部~底部残	1. におい褐色 2. 黒色細粒僅かに含む 3. 酸化焰 やや軟質	口縁部横撫で。 体部~底部手持ち荒削り。
2	土 師 器 甕	南西 -1	20.7 - - 口縁部	1. におい褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部直立、横撫で。 胴部上位斜方向荒削り。
3	土 師 器 壺	竈内 +6	- 5.0 - 胴部~底部	1. におい褐色 2. 細砂粒僅かに含む 3. 酸化焰 良好	胴下位斜方向荒削り。底部荒削り。

6号住居跡 (写真図版134・159)

位置 N-127・128グリッド

方位 E-14°-S

規模 東西2.6m 南北3.8m 南北方向に長い

壁高 西半分は削平を受け不明。

東壁残存高8cm

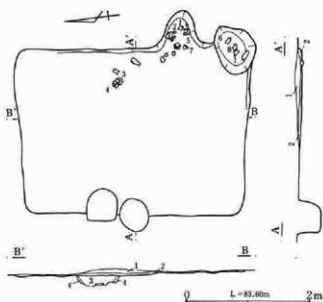
貯蔵穴 南東隅に張り出して作られている。長辺70cm、深さ15cmの楕円形を呈する。

柱穴 無し 周溝 無し

床面 黄色砂質土混じりの暗褐色土を堅く踏み固めている。

掘形 住居中央北よりに、長辺90cm、深さ14cmの長円形の土坑を検出した。覆土中には焼土、炭化物を多く含む、土師器甕が出土した。南壁下と北東隅に掘り込み見られる。

遺物 貯蔵穴内と竈内から左前かけ土師器甕出土。



- 1 暗褐色土 砂粒・黄色砂粒を少量含む。
- 2 褐色土 黄色粘質土塊を多量に含む。
- 3 暗褐色土 煤土・炭粒を多く含む。
- 4 褐色土 黄色土塊を多く含む。

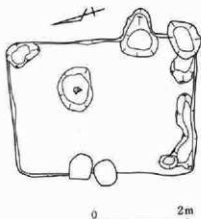
第380図 6号住居跡実測図

竈

位置 東壁南

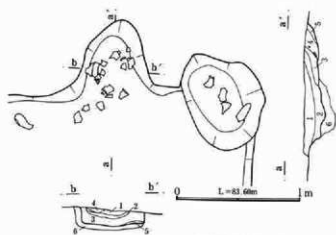
規模 焚口幅55cm、燃燒部奥行き50cm・幅35cm・深さ15cm、煙道部長さ不明。

構築 削平を受け火床面のみが残り、全容は不明である。燃燒部は壁外にあり、袖は持たない。火床面は床面より10cm程下がり、焼土塊、炭化物粒子の堆積見られる。壁面は僅かに焼けている。



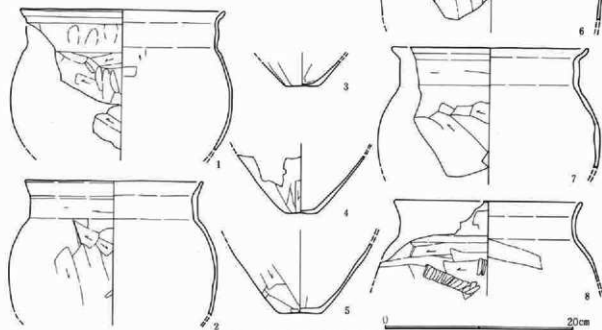
第381図 6号住居跡床下実測図

第3節 III区検出の遺構と遺物



第382図 6号住居跡実測図

- 1 暗褐色土 焼土・炭粒を少量含む。
- 2 褐色土 焼土粒を多く含む。
- 3 暗褐色土 焼土・炭粒を多く含む。
- 4 茶褐色土 焼土塊を多量に含む。
- 5 褐色土 黄色粘質土及び砂粒を含む。
- 6 暗褐色土 砂質土と焼土・炭粒土を少量含む。



第383図 6号住居跡出土遺物実測図

6号住居出土遺物観察表

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
1	土師器 甕	貯蔵穴 +7	22.0 — — 胴部下位～底部欠損	1. 明赤褐色 2. 細砂粒含む 3. 焼成焰 良好	口縁部短く外反。胴部横断で、指頭圧痕有り。 胴部上位横方向、上半斜置削り。
2	土師器 甕	竈内 +7	19.0 — — 胴部下位～底部欠損	1. 明赤褐色 2. 細砂粒含む 3. 焼成焰 良好	口縁部外反、横断で、扇れたコの字状口縁。 胴部斜方向置削り。
3	土師器 甕	北東 +4	— (3.8) — 底部	1. 暗褐色 2. 細砂粒含む 3. 焼成焰 良好	胴部下位縦方向置削り。 底部小さく、置削り。内面横断で。

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
4	土師器 壺	北東 +6	— (4.0) — 胴部下位～底部	1. 明赤褐色 2. 細砂 粘土粒 含む 3. 酸化焰 良好	胴部下位縦方向寛削り。 底部小さく、寛削り。
5	土師器 壺	竈内 +6	— (4.5) — 胴部下位～底部	1. ぶい褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	胴部下位斜方向寛削り。底部小さく、寛削り。
6	土師器 壺	貯蔵穴 +4	19.5 — (14.4) 口縁部～頸部外	1. ぶい褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部～頸部横撫で、コの字状口縁。 胴上位横方向、中位縦方向削削り。
7	土師器 壺	竈内 +5	20.9 — — 胴部下位～底部欠 損	1. ぶい褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部～頸部横撫で、コの字状 頸部指頭圧痕有り。胴上位横、上半斜方向削削り。
8	土師器 壺	貯蔵穴 +7	20.0 — — 口縁部～頸部	1. 明黄褐色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部僅かに外反、横撫で。 胴上位横方向削削り、中央斜削削り。

7号住居跡 (写真図版134・159・160)

位置 M・N-127グリッド 方位 E-10°-S

規模 北東隅から南壁中央にかけての東側は調査区
外のため未調査。南北4.4m。

壁高 確認面を下げ過ぎ、壁は数cmだけ残った。調
査区壁面観察では約40cmの壁面が垂直に立ち上がっ
ている状況が確認できた。

貯蔵穴 不明

柱穴 掘形調査時に西壁に沿い2個のビットを検出
した。両ビットとも底面に隙が置かれていた。

周溝 無し

床面 黄褐色土塊混じりの暗褐色土を薄く踏み固め
ている。

掘形 壁際を60cmの幅で壁に沿って溝状に掘り込ま
れている。また、中央北寄りに50cmと70cmの土坑を
検出し、中から土師器壺片が出土した。

遺物 南壁よりに須恵器椀、蓋や土師器壺出土。ま
た中央西寄りに土師器杯、須恵器椀出土。

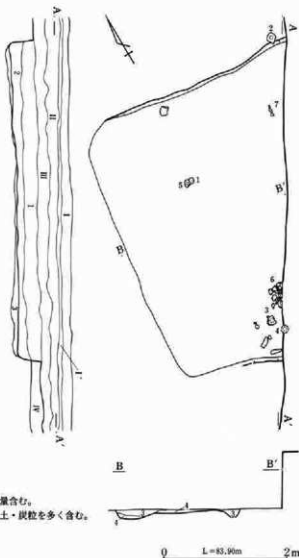
竈 不明

I～IVは基本土層断面

1 褐色土 砂粒・炭粒・炭土粒を少量含む。

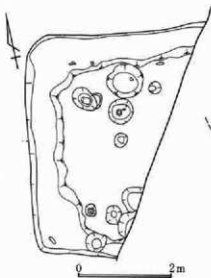
2 褐色土 黄色粘質土粒・小塊と炭土・炭粒を多く含む。

3 暗褐色土 黄色粘質塊多量含む。

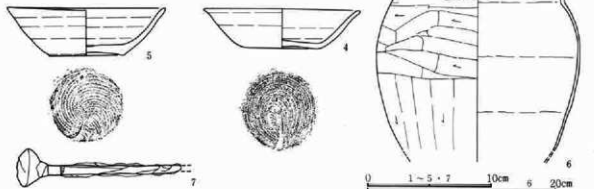


第384図 7号住居跡実測図

第3節 Ⅲ区検出の遺構と遺物



第385図 7号住居跡床下実測図



第386図 7号住居跡出土遺物実測図

7号住居出土遺物観察表

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
1	土器 甕	北西 -3	12.2 - 3.2 口縁部～底部迄	1. 褐色 2. 粘土粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横溝で、内面用面あり。 底部～底部表面摩耗。底部平底。
2	須恵器 甕	北東 -4	- 8.3 (3.3) 体部下～高台部	1. ぶい黄褐色 2. 夾雑物多 い 3. 酸化焰 良好	輪縁器形 底部回転糸切り、高台貼り付け。
3	須恵器 蓋	南西 +10	16.1 (6.0) 2.6 迄	1. 灰色 2. 白色粒 片岩小石 黒色内粒含む 3. 還元焰 硬質	口縁部折り返し、直立。 頂部右回転糸切り。周辺回転笠削り。
4	須恵器 甕	南西 +5	12.4 6.1 3.1 壳形	1. 灰白色 2. 僅かに片岩粒含 む 3. 還元焰 硬質	輪縁器形 底部右回転糸切り。
5	須恵器 甕	北西 -4	12.6 6.0 3.7 口縁部～底部迄	1. 灰白色 2. 片岩小粒含む 3. 還元焰 良好	輪縁器形 底部右回転糸切り。
6	土器 甕	南西 +8	19.6 - (19.5) 口縁部～胴部下	1. ぶい褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部短く外反。胴部横溝で上下、強い漸で。 胴部上半横方向寛削り。下半縦方向寛削り。
7	角釘	中央北+4	- 0.7 45.4R		頭部泥付着、形状不明。先端部欠損。

8号住居跡 (写真図版135・160・161・162)

位置 O・P-128・129グリッド 方位 E-11'-S

規模 東西3.8m 南北3.9m、全体は方形を呈するが、南東隅は貯蔵穴部分が外に30cm、幅80cm程の貼り出し部となっている。

壁高 15cm前後、緩く立ち上がる。

貯蔵穴 南東隅 径1m、深さ15cmの規模を持ち円形を呈する。覆土中には焼土、炭化物僅かに含む。

土師器甕、須恵器椀が出土している。

柱穴 無し 周溝 無し

床面 黄色砂質土と僅かに焼土、炭化物を含む褐色土を踏み固めている。

掘形 住居中央部やや西寄りに長辺1.4m、深さ10cm

の楕円形の床下土坑を検出した。また、南壁寄りにも同様の土坑を検出した。その他に電前と北東隅に径90cm、深さ10cmの土坑が並んだ状態で検出された。

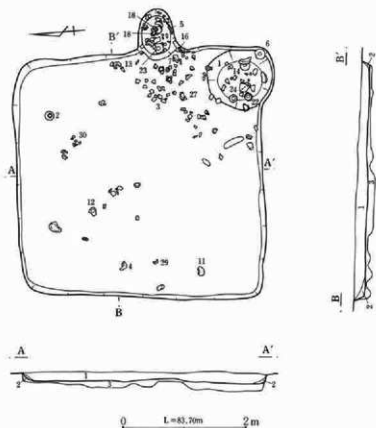
遺物 電前から貯蔵穴にかけて、須恵器椀、土師器甕等が出土している。

竈

位置 東壁中央

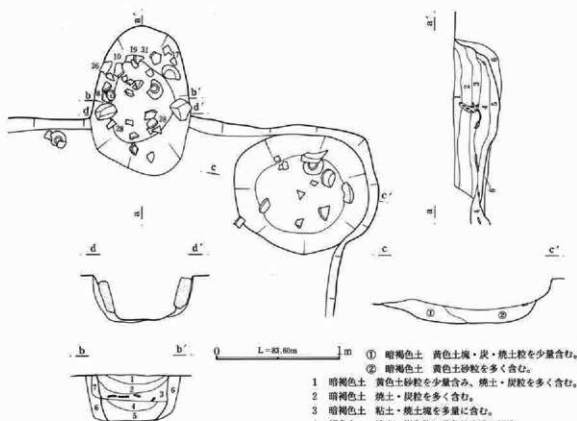
規模 焚口部幅50cm 燃焼部奥行き60cm・幅50cm・深さ36cm 煙道部不明。

構築 燃焼部は壁外にある。焚口部には片岩系の角柱礎25cm大を両側に設置している。火床面は床面より15cm程低く灰層の堆積見られる。壁面の焼け弱い。

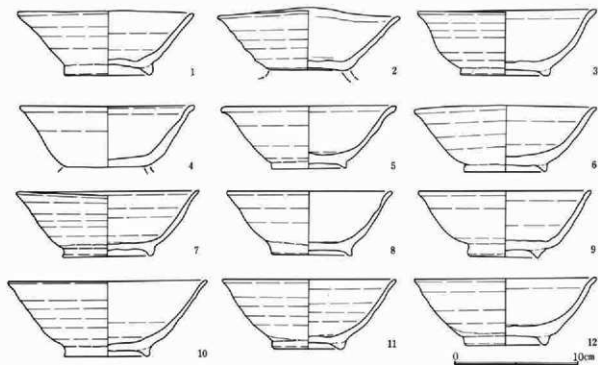


- 1 暗褐色土 砂粒と小石を上面に多く含む。黄色粘質及び砂粒塊と焼土・炭粒を含む。
- 2 褐色土 黄色粘質及び砂粒を多量に含む。
- 3 褐色土 褐色土を主として、黄色砂質土と焼土・炭粒を含む。

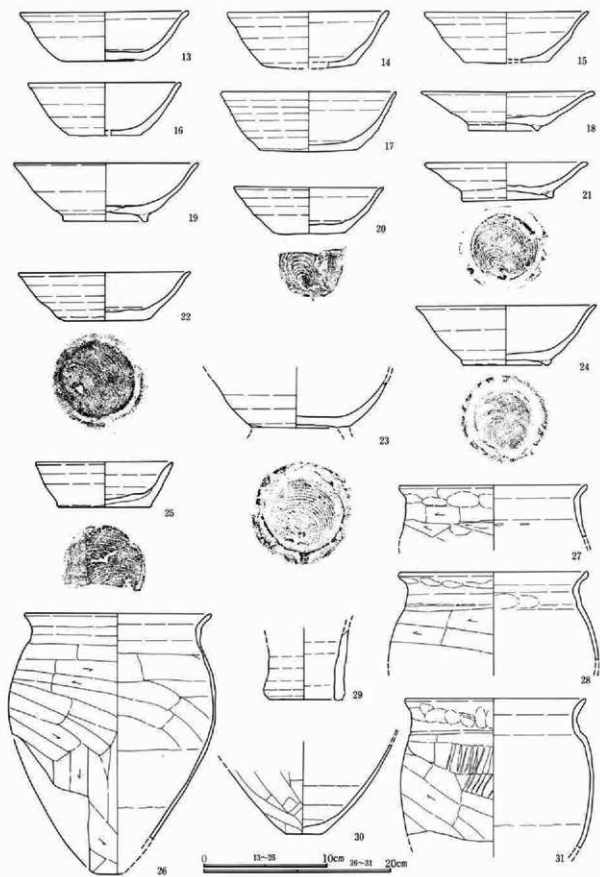
第387図 8号住居跡実測図



第388図 8号住居跡電気実測図



第389図 8号住居跡出土遺物実測図(1)



第390图 8号住居跡出土遺物実測図(2)

8号住居出土遺物観察表

番号	器 器 器形	出土位置 (cm)	口径・直径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 構成	整 形 ・ 調 整 の 特 徴
1	須 志 器 碗	貯蔵穴内 -	14.0 6.8 5.1 尖形	1. 灰白色 2. 白色細粒 片岩 小石僅かに含む 3. 還元焰	体部表面摩耗。 底部高台貼り付け。
2	須 志 器 碗	北東 +7	14.5 6.5 4.5 尖形	1. 灰白色 2. 夾雑物多量に含 む 3. 酸化焰 良好	輪轆整形。 体部表面摩耗。底部高台貼り付け痕有り。
3	須 志 器 碗	北東 +2	14.2 7.1 5.1 ほぼ尖形	1. 灰白色 2. 黒色 粘土粒含 む 3. 還元焰 やや軟質	輪轆整形 底部回転糸切り、高台貼り付け。
4	須 志 器 碗	北西 +14	14.0 6.0 4.8 口縁部～底部片	1. 灰白色 2. 白色 黒色粒含 む 3. 還元焰 やや軟質	輪轆整形 底部高台貼り付け痕あり。
5	須 志 器 碗	竈内 +3	14.0 6.0 4.9 口縁部～底部片	1. にぶい褐色 2. 片岩小石含 む 3. 酸化焰 良好	輪轆整形、表面摩耗。 底部高台貼り付け。
6	須 志 器 碗	貯蔵穴内 +6	14.5 6.6 5.3 尖形	1. 灰白色 2. 細砂粒 粘土粒 含む 3. 還元焰 やや硬質	輪轆整形 体部表面摩耗。底部高台貼り付け。
7	須 志 器 碗	竈前 -	14.5 7.1 5.1 口縁部～底部片	1. 灰白色 2. 白色 片岩粒含 む 3. 還元焰 硬質	輪轆整形 底部回転糸切り、高台貼り付け。
8	須 志 器 碗	竈前 +4	13.2 6.6 5.0 口縁部～底部片	1. 灰白色 2. 白色 片岩粒含 む 3. 還元焰 軟質	口縁部、体部表面摩耗。 底部高台貼り付け。
9	須 志 器 碗	南東 +2	13.7 5.6 5.2 ほぼ尖形	1. 黒色 2. 白色粒含む 3. 還元焰 硬質	輪轆整形 底部高台貼り付け。
10	須 志 器 碗	竈内 +7	15.8 6.7 5.9 口縁部～底部片	1. 褐色 2. 粘土 砂粒含む 3. 酸化焰 軟質	輪轆整形、表面摩耗。 底部高台貼り付け、撫で。
11	須 志 器 碗	西西 +6	14.0 5.8 5.5 口縁部～底部片	1. にぶい褐色 2. 白色 粘土 粒僅かに含む 3. 酸化焰 良好	輪轆整形 底部回転糸切り、高台貼り付け。
12	須 志 器 碗	北西 +9	14.4 6.5 5.2 口縁部～底部片	1. 灰白色 2. 夾雑物多く含む 3. 還元焰 やや軟質	輪轆整形 底部回転糸切り、高台貼り付け、撫で。
13	須 志 器 杯	竈内 +4	13.4 6.7 3.9 口縁部～底部片	1. 灰白色 2. 夾雑物多く含む 3. 還元焰 軟質	輪轆整形、表面摩耗。
14	須 志 器 杯	貯蔵穴内 -	12.3 4.5 - 口縁部～底部片	1. 黄灰色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	輪轆整形 底部回転糸切り。
15	須 志 器 杯	掘形	13.1 6.8 4.0 口縁部～底部片	1. 灰白色 2. 白色細粒含む 3. 還元焰 やや軟質	輪轆整形 底部回転糸切り。
16	須 志 器 杯	竈前 +1	12.2 5.8 4.2 口縁部～底部片	1. 灰白色 2. 白色細粒含む 3. 還元焰 軟質	口縁部表面摩耗。 底部内面テール状異化物あり。
17	須 志 器 杯	竈内 -	14.0 7.6 4.7 口縁部～底部片	1. 灰白色 2. 夾雑物含む 3. 酸化焰 良好	輪轆整形 底部回転糸切り。
18	須 志 器 皿	竈内 +8	13.8 5.6 3.1 口縁部～底部片	1. にぶい褐色 2. 夾雑物含む 3. 酸化焰 良好	輪轆整形、底部回転糸切り、高台貼り付け。
19	須 志 器 碗	竈内 +14	14.7 6.8 4.6 口縁部～底部片	1. 褐灰色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	輪轆整形 底部回転糸切り、高台貼り付け、撫で。

第二章 上栗須遺跡

番号	器 種 器 形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整 形 ・ 調 整 の 特 徴
20	須恵器 坏	竈前 —	12.0 5.7 3.7 口縁部～底部迄	1. 灰白色 2. 白色粒含む 3. 還元焰 硬質	輪轆整形、底部回転糸切り、未調整。
21	須恵器 皿	竈内 +12	13.1 7.4 3.0 片	1. 灰白色 2. 白色粒含む 3. 酸化焰 良好	輪轆整形 底部右回転糸切り、高台貼り付け。
22	須恵器 坏	貯蔵穴内 +4	14.0 6.8 3.8 口縁部～底部迄	1. 黄灰色 2. 粘土 黒色粒含む 3. 酸化焰 良好	輪轆整形 底部右回転糸切り、肥厚。
23	須恵器 椀	竈内 +12	— (7.8) (3.8) 体部下～底部	1. 灰白色 2. 白色 片岩粒含む 3. 中性焰 軟質	輪轆整形 底部左回転糸切り、高台貼り付け板あり。
24	須恵器 椀	貯蔵穴内 —	14.5 7.1 4.7 口縁部～底部迄	1. 黄灰色 2. 粘土粒含む 3. 酸化焰 良好	輪轆整形 底部回転糸切り、高台貼り付け。
25	須恵器 坏	覆土 —	11.0 7.5 3.5 口縁部～底部迄	1. 灰白色 2. 白色小石あり 3. 還元焰 硬質	輪轆整形 底部回転糸切り。
26	土師器 壺	竈内 +10	20.0 3.1 27.5 口縁部～底部迄	1. 褐色 2. 細砂 粘土粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部短く外反、頸部横撫で、胴部上位置 中位斜方向下半部方向削り、内面直撫で。
27	土師器 壺	竈前 +11	20.0 — (5.5) 口縁部～頸部迄	1. 褐色 2. 細砂粒僅かに含む 3. 酸化焰、良好	口縁部短く外反。口唇部沈線巡る。頸部横撫で。 指頭圧痕有り。胴部表面摩耗。
28	土師器 壺	竈内 +12	20.0 — (9.5) 口縁部～胴部迄	1. 褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部短く外反。口唇部直立。頸部上下端強い撫で。 胴部横方向削り、内面直撫で。
29	灰釉陶器 長頸甕	南西 +5	— — — 胴部	1. 灰白淡黄緑色 2. 白色細粒含む 3. 還元焰 硬質	頸部回転撫で、輪整る。
30	土師器 壺	北東 +8	— 3.8 (9.6) 胴部下～底部	1. におい褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	胴部下半斜方向削り、内面直撫で。 底部削り、底径小さく不安定。
31	土師器 壺	竈内 +5	19.2 — (15.8) 口縁部～胴部	1. におい褐色 2. 微粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部短く外反、指頭圧痕有り。口唇部沈線巡る。 頸部横撫で。胴部斜方向削り。

9号住居跡 (写真図版135・162)

位置 Q-128・129グリッド 方位 E-11°-S

規模 東西2.8m 南北3.4m やや南北に長い

壁高 40cm前後 ほぼ垂直に立ち上がる。

貯蔵穴 無し 柱穴 無し 周溝 無し

床面 黄褐色土塊と砂質土に褐色土を混ぜ踏み固めている。

掘形 南東・北東隅寄りの凹凸大きい。

遺物 南よりに20～30cm大の礫がまとめて出土。

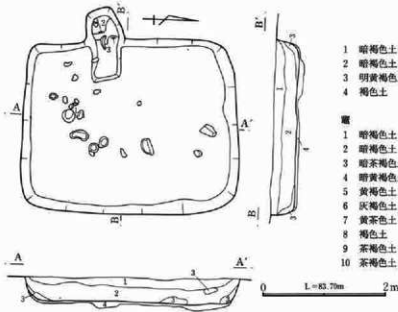
電

位置 西壁南より

規模 燃焼部の位置から、焚口部には袖があったと考えられるが、地山利用の袖でなかったため除去してしまった。よって焚口部は不明。 燃焼部奥行き1m・幅50cm・深さ40cm煙道部不明

構築 燃焼部の中心は壁の延長線上にある。掘形は長方形状を呈し、壁面は垂直に立ち上がる。壁面の焼けは弱い。

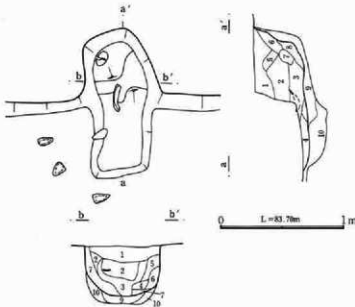
第3節 Ⅲ区検出の遺構と遺物



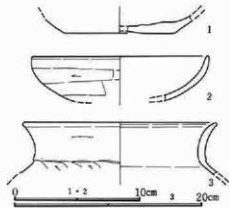
第391図 9号住居跡実測図

- 1 暗褐色土 砂粒・小石を多く含む。
- 2 暗褐色土 黄色粘質土塊を多く含む。
- 3 明黄褐色土 黄色粘質土塊。
- 4 褐色土 砂粒と黄色粘質土塊の混土。

-
- 1 暗褐色土 わずかに焼土粒・小石・黄土色粒を含む。
 - 2 暗褐色土 わずかに焼土粒・小石・黄土色粒を含む。
 - 3 暗茶褐色土 焼土粒塊を多く含む。
 - 4 暗黄褐色土 黄土色粘土層じる。
 - 5 黄褐色土 焼土粒・黄色粘土塊混じる。
 - 6 灰褐色土 焼土粒・黄色粘土粒・黄土色粒含む。
 - 7 黄茶色土 焼土粒塊。
 - 8 褐色土 焼土粒・黄色粘土・灰・炭混じる。
 - 9 茶褐色土 黄色粘質土粒及び塊と焼土塊の混土。
 - 10 茶褐色土 黄色土を主として焼土・灰粒少量含む。



第392図 9号住居跡実測図



第393図 9号住居跡出土遺物実測図

9号住居出土遺物観察表

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
1	土器 器形 杯	竈前 +5	— 8.6 — 底部片	1. 紫灰色 2. 白色粒含む 3. 還元焼 硬質	輪轆整形 底部左向転覆削り。
2	土器 器形 杯	竈内 +13	13.9 — — 片	1. におい・橙色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焼 良好	口縁部横撫で。 体部～底部覆削り、体部中位未調整。
3	土器 器種 壺	竈東 +2	29.3 — — 口縁部の片	1. 橙色 2. 微細砂含む 3. 酸化焼 良好	口縁部外反、横撫で。 胴部斜方向覆削り。

10号住居跡 (写真図版135・162・163)

位置 N・O-129グリッド 方位 E-13°-S

重複 14号住居に竈煙道部を切られ、1号溝にも切られている。

規模 東西3.6m・南北4.2m、南北方向に長い

壁高 確認面からは2~5cmの深さであったが、土層観察では40cmを測り、緩く立ち上がる。

貯蔵穴 南東隅 1辺90cm、深さ40cmの隅丸方形を呈する。遺物は、20cm前後の棒状礫がまともに出土している。覆土上面には焼土、炭化物、灰等が混じる。

柱穴 無し 周溝 無し

床面 黄褐色土塊を含む褐色土を薄く踏み固めている。

掘形 東壁寄りから南壁にかけて円形土坑を多数確

認。土坑内より須恵器碗、土師器壺の破片が出土。

遺物 全面に散布している。

竈

位置 東壁中央やや南寄り

規模 焚口部幅60cm 燃焼部奥行き55cm・幅65cm・深さ25cm 煙道部不明

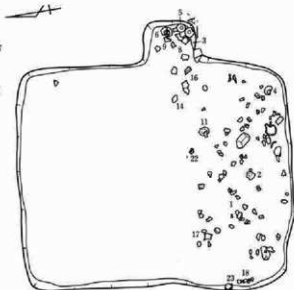
煙道部への立ち上がり25cm 緩く立ち上がる。

構築 燃焼部は壁外にあり、袖を持たない。焚口部右には片岩系の角礫が立てられていた。また、同様な礫が中央やや奥壁よりに立てられ、支脚として利用されている。火床面は床面と同レベルであり、僅かに焼土、灰の広がりが見られる。遺物は須恵器碗の完形品が3個体出土している。

1~Vは基本土層参照

- 1 褐色土 As-B・灰わずかに含む。
- 2 褐色土 焼土・炭粒を多く含む。
- 3 褐色土 地山の黄褐色土塊を多く含む。
- 4 褐色土 炭粒を少量含む。
- 5 褐色土 黄褐色土を多量に含む。

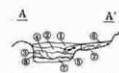
0 L=84.4cm 2m



第394図 10号住居跡実測図

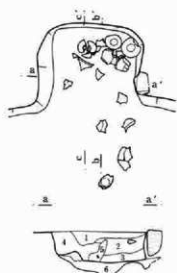


0 2m

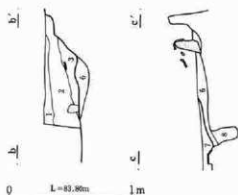


第395図 10号住居跡床下実測図

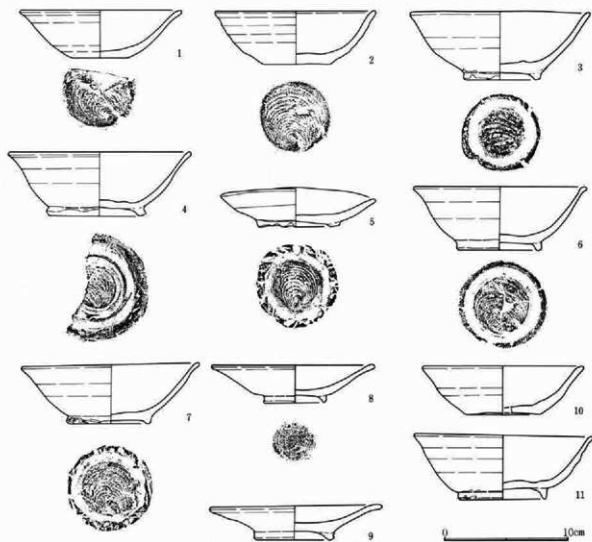
- ① 暗褐色土 黄色粘土塊・木炭粒・焼土塊・小礫を含む。
- ② 暗褐色土 黄色粘土塊・木炭粒・焼土塊・土器片・小礫含む。
- ③ 褐色土 暗褐色土と黄砂質の混り。
- ④ 褐色土 暗褐色土と黄砂質・小礫混り。
- ⑤ 褐色土 黄色砂質土を主とする。小礫含む。
- ⑥ 暗褐色土 黄色粘土と暗褐色土の混り。
- ⑦ 黄褐色土 黄色砂質土を主とする。



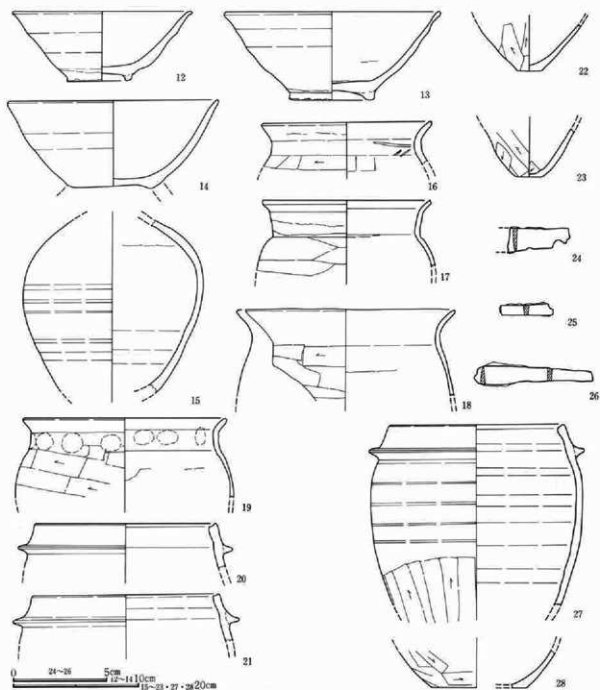
第396図 10号住居跡燻炭実測図



- 1 暗褐色土 As-Bを少量含み、しまっている。
- 2 暗褐色土 焼土・炭粒を含む。
- 3 茶褐色土 焼土を多量に含む。
- 4 褐色土 焼土を多量に含む。
- 5 黄褐色土 黄色粘質土。
- 6 暗褐色土 粘性の強い暗褐色土、地山の黄色粒を少量含む。
- 7 暗褐色土 黄色土及び焼土・炭粒を多く含む。
- 8 暗褐色土 焼土・炭粒を少量含む。



第397図 10号住居跡出土遺物実測図(1)



第398图 10号住居跡出土遺物実測図(2)

10号住居出土遺物観察表

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
1	須志器 坏	南西 +22	12.7 4.5 3.8 片	1. 灰色 2. 細砂 粘土粒含む 3. 酸化焰 良好	楕圓整形 底部右回転糸切り、未調整。
2	須志器 坏	南西 +13	12.7 5.3 4.2 片	1. 暗灰色 2. 細砂粒含む 3. 還元焰 良好	楕圓整形、腰部しぼり込まれる。 底部右回転糸切り。
3	須志器 椀	竈内	14.1 5.6 5.4 片	1. にぶい橙色 2. 細砂 粘土 粒含む 3. 酸化気味 良好	楕圓整形、回転糸切り後 底部高台貼り付け。
4	須志器 椀	南東隅 床直	14.6 - 5.1 完形	1. 灰白色 2. 砂粒含む 3. 還元焰 軟質	楕圓整形、無で。回転糸切後、高台貼り付け。
5	須志器 皿	竈内	12.4 6.4 3.0 完形	1. 灰白色 2. 白色細粒含む 3. 還元焰 硬質	楕圓整形、歪む。底部左回転糸切り、 高台貼り付け、変形。室縁部圧痕有り。
6	須志器 椀	竈内	13.8 - 5.0 片	1. にぶい橙色 2. 細砂 粘土 粒含む 3. 酸化焰 良好	楕圓整形 底部回転糸切り、高台貼り付け、無で。
7	須志器 椀	南東隅 +12	14.1 6.2 4.7 片	1. 灰褐色 2. 細砂粒含む 3. 還元焰 やや軟質	楕圓整形 底部右回転糸切り、高台貼り付け、変形。
8	須志器 皿	竈内 +6	12.9 4.8 3.0 片	1. 灰白色 2. 細砂粒含む 3. 還元焰 硬質	楕圓整形 底部右回転糸切り、高台貼り付け、無で。
9	須志器 皿	掘形 +5	13.4 6.0 2.7 片	1. 淡黄色 2. 粘土粒含む 3. 酸化焰 良好	楕圓整形 底部高台貼り付け、表面単純。
10	須志器 坏	南東 +2	12.7 3.0 3.8 片	1. にぶい橙色 2. 白色粒含む 3. 還元焰 軟質	楕圓整形 底部右回転糸切り、未調整。
11	須志器 椀	中央 +16	14.1 6.7 5.1 完形	1. 灰白色 2. 砂粒含む 3. 還元焰 やや軟質	楕圓整形 底部右回転糸切り、高台貼り付け、無で。
12	須志器 椀	南東 -1	14.1 4.6 5.5 片	1. 灰白色 2. 砂粒 粘土粒含 む 3. 還元焰 やや軟質	楕圓整形 底部高台貼り付け、無で。
13	須志器 椀	南西 -1	17.0 6.0 7.0 高台部欠損	1. にぶい橙色 2. 粗砂、粘土 粒含む 3. 酸化焰 やや軟質	楕圓整形 底部高台貼り付け、表面割離。
14	須志器 椀	竈前	16.6 - - 片	1. 灰褐色 2. 砂粒 小石僅か に含む 3. 還元焰 良質	楕圓整形 底部左回転糸切り、高台貼り付け痕。
15	須志器 長皿壺	南東 +4	- 10.2 - 胴体部片	1. 灰色 2. 白色粒含む 3. 還元焰 硬質	胴部粘土紐造り、胴部丸く張る。
16	土師器 甕	竈前 +7	17.8 口縁部片	1. にぶい橙色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部～胴部横撫で。 胴部上位横方向蔑削り。内面縦撫で。
17	土師器 甕	南西 +10	17.8 - - 口縁部片	1. にぶい橙色 2. 細砂粒僅か に含む 3. 酸化焰 良好	口縁部短く外反。口唇部直立比線あり。 胴部上下境強い無で。胴部上位横方向蔑削り。
18	土師器 甕	南西隅 +21	23.2 - - 口縁部～胴部片	1. にぶい橙色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。 胴部上位横方向蔑削り。
19	土師器 甕	竈内	21.6 - - 口縁部～胴部片	1. にぶい橙色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部短く外反、下部強い横撫で、体部上位横蔑削り。 胴部指頭圧痕有り、横撫で。

第二章 上栗須遺跡

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
20	須恵器 羽蓋	覆土	19.2 口縁部の厚	1. 灰褐色 2. 砂粒含む 3. 還元焰 やや軟質	口縁部内傾。口唇部頂部微で、内傾。 胴部脚貼り付け、回転態で。
21	須恵器 羽蓋	覆土	19.8 口縁部の厚	1. 明赤褐色 2. 砂粒含む 3. 還元焰 硬質	口縁部内傾、回転態で。 胴部回転態で、脚貼り付け。
22	土器 壺	中央 床直	- 2.6 - 下部部~底部厚	1. 灰褐色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 良好	胴部下端縦方向。 底部平底小さく安定性悪い。内面直線で。
23	土器 壺	南西 +12	- 2.6 - 底部厚	1. 灰褐色 2. 砂粒 粘土粒含む 3. 酸化焰 良好	胴部下位斜方向直削り。内面直線で。 底部平底、小さく安定性あり。
24	鉄製品	鋳形	4.9 2.0 3.0 6.0#		板を重ねて打ち延ばしている。
25	鉄製品	鋳形	4.1 0.8 4.5 4.3#		刀子茎部分?断面台形。
26	鉄製品	鋳形	9.3 1.7 - 17.0#		刀子鋒部分に欠けがあり、鈍角をなす。
27	須恵器 羽蓋	覆土	18.5 底部欠損	1. 褐色 2. 粗砂粒含む 3. 酸化焰 硬質	口縁部微傾で、口唇部内傾、平坦。 胴部回転態で、下半部方向直削り、脚貼り付け。
28	土器 壺	南西 +23	- 10.1 - 胴下部厚	1. 灰褐色 2. 粗砂粒含む 3. 酸化焰 硬質	胴部下端横及び斜方向直削り。 底部平底直削り。

11号住居跡 (写真図版136・163・164・165・166)

位置 K・L-118-119グリッド 方位 N-90°-E

規模 北壁や内側を水道管理設により攪乱を受けている。東西6.2m 南北5.8m 方形を呈する。

壁高 55cm前後 垂直に立ち上がる。

貯蔵穴 南東隅 径1m、深さ35cmの円に近い隅丸方形を呈する。

柱穴 南壁に径50cmのビットが2本かかって検出された。また、住居内でも同様なビットが数箇所確認できたが、1辺3mの方形に組むことができる4本を主柱穴と考える。

周溝 無し

床面 地山黄褐色土や砂質土や小石混じりの混土をいれ、暗褐色土を混ぜ踏み固め貼床を作る。電前では焼土、灰等の広がり見られ、他の面より堅く踏み締められている。

掘形 床面よりも30~40cmの深さで掘り込まれている。西壁や内側より南壁際を通り、中央や東よりを南北に回る溝状の掘り込みがある。

遺物 西壁から南壁にかけて土師器杯、須恵器杯、蓋等がまとまって出土している。

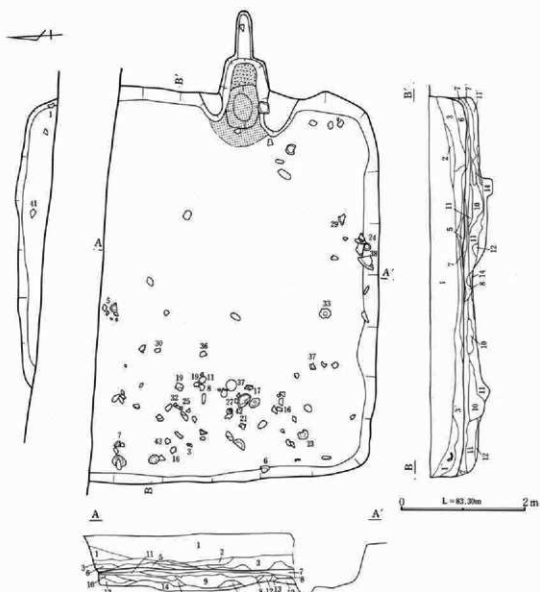
竈

位置 東壁中央南より

規模 焚口部幅65cm、燃焼部奥行き90cm・幅50cm・深さ75cm、煙道部長さ70cm・幅25cm、

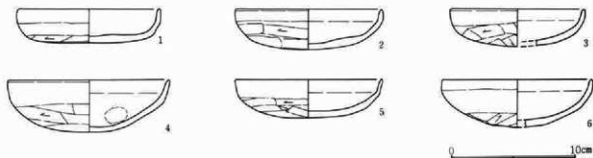
煙道部への立ち上がり25cm、斜めに立ち上がる。

構築 燃焼部の中心は壁の延長線上にあり、地山塊の混土を貼り付けた袖をもつ。右袖前には30cm大の隙を据え焚口部の補強材として利用している。火床面は床面より15cm程低く灰層や焼土の堆積見られる。火床面の下層は25cmの掘り込み見られ、焼土塊や炭化物を含む。掘形は長方形に掘られ、内壁は垂直に立ち上がる。壁面は焚口部から煙道部に向かい斜方向に焼土化し焼き締まっている。煙道部は方形の掘形をもち、側壁は垂直に立ち上がり赤茶色に焼けている。

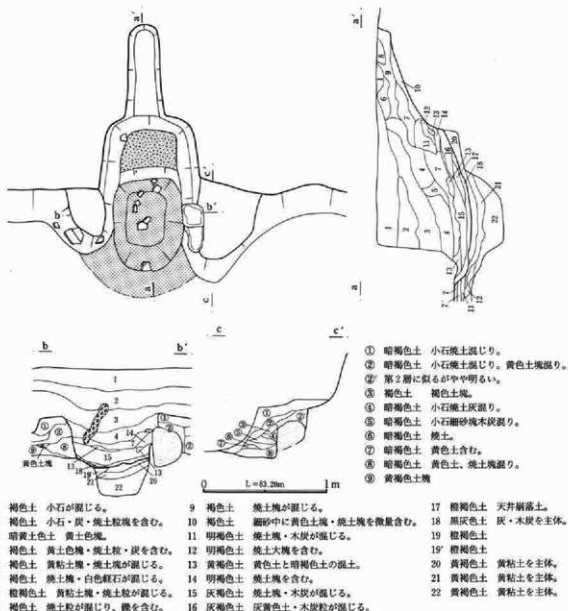


- | | | |
|-------------------------|---------------------|---------------------|
| 1 褐色土 砂粒・小石を少量含む。 | 6 褐色土 砂粒を多量に含む。 | 10' 暗褐色土 小石を含む。 |
| 1' 褐色土 | 7 暗褐色土 小石・黒褐色土塊の混り。 | 11 暗褐色土 黄暗褐色粘土塊が混る。 |
| 2 褐色土 黄色土小塊を含む。 | 7' 暗褐色土 黒味が強い。 | 11' 暗褐色土 粗砂を含む。 |
| 3 褐色土 黄色土塊を多く含む。 | 8 暗褐色土 細砂塊が混じる。 | 12 黄褐色土 黄細砂を主体とする。 |
| 3' 褐色土 黄土色粒・小石が混り、粘性有り。 | 9 暗褐色土 細砂塊・黒褐色塊の混り。 | 13 暗褐色土 |
| 5 褐色土 黄色土・黒色粘質土・砂粒の混り。 | 10 暗褐色土 細砂塊が混る。 | 14 黄褐色土 砂質土。 |

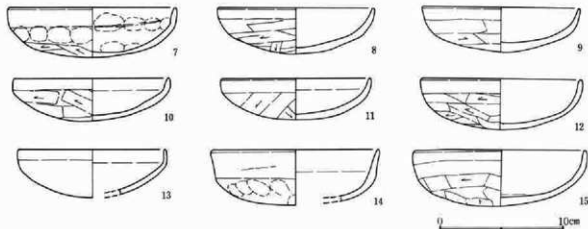
第399図 11号住居跡実測図



第400図 11号住居跡出土遺物実測図(1)

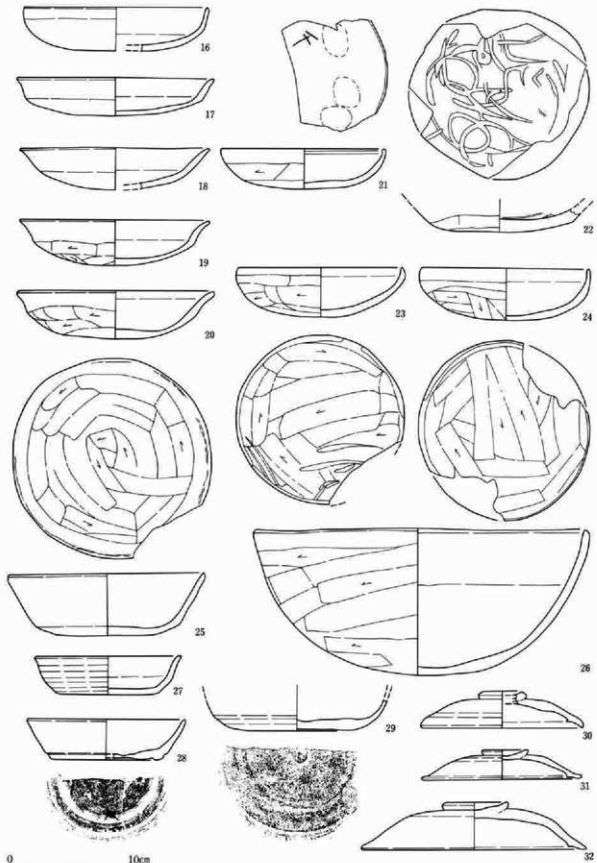


第401図 11号住居跡燻実測図

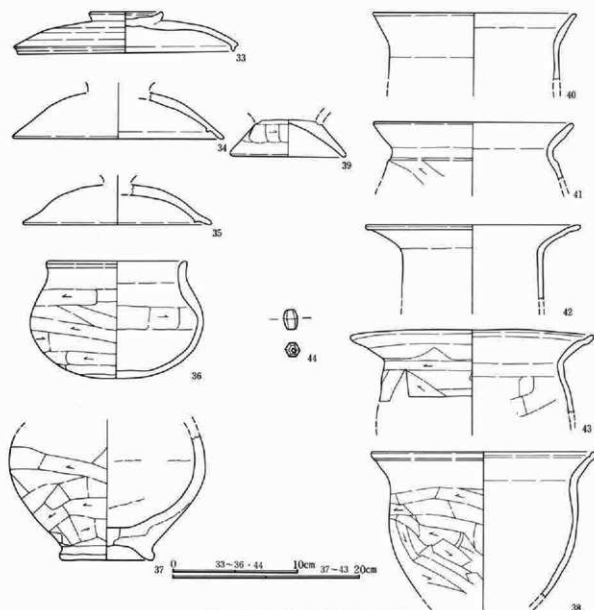


第402図 11号住居跡出土遺物実測図(2)

第3節 Ⅲ区検出の遺構と遺物



第403図 11号住居跡出土遺物実測図(3)



第404図 11号住居跡出土遺物実測図(4)

11号住居出土遺物観察表

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
1	土師器 杯	北東 +13	10.2 5.0 2.6 短	1. にぶい橙色 2. 細砂粒僅かに含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で、体部指撫で。 底部平底、手持ち寛削り。
2	土師器 杯	貯蔵穴内 +1	11.6 5.5 3.2 完形	1. にぶい橙色 2. 白、黒色細粒含む 3. 酸化焰 やや軟質	口縁部横撫で。 体部～底部手持ち寛削り、表面摩耗、内面直む。
3	土師器 杯	北西 +6	10.5 — —	1. 橙色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。 体部～底部手持ち寛削り。
4	土師器 杯	貯蔵穴内 +23	12.7 4.0 4.1 完形	1. 橙色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。 体部～底部手持ち寛削り、内面指頭圧痕有り。

第3節 Ⅲ区検出の遺構と遺物

番号	器 種 器 形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整 形 ・ 調 整 の 特 徴
5	土 師 器 環	甕内 +15	11.7 - 3.0 片	1. 橙色 2. 白 黒色透明粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。 体部～底部手持ち寛削り。
6	土 師 器 環	南西 -1	11.9 - (3.8) 片	1. 橙色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。 体部～底部手持ち寛削り、指頭圧痕有り。
7	土 師 器 環	北西 +40	13.2 - 3.9 片	1. にぶい橙色 2. 細砂粒僅かに含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。体部指押さえ、指頭圧痕有り。 底部やや平底、手持ち寛削り。
8	土 師 器 環	北西 -2	13.0 - 3.6 片	1. にぶい橙色 2. 黒色細砂粒含む 3. 酸化焰 やや軟質	口縁部横撫で。 体部～底部手持ち寛削り。
9	土 師 器 環	覆土	12.5 - 3.5 片	1. 橙色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。 体部～底部手持ち寛削り。
10	土 師 器 環	甕形	12.0 - - 片	1. にぶい橙色 2. 細砂粒僅かに含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。 体部～底部手持ち寛削り。
11	土 師 器 環	南西 +7	10.8 - 3.2 片	1. 橙色 2. 細砂粒僅かに含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。 体部～底部手持ち寛削り。
12	土 師 器 環	覆土	12.7 - - 片	1. にぶい橙色 2. 細砂粒僅かに含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。 体部～底部手持ち寛削り。
13	土 師 器 環	覆土	11.6 片	1. にぶい橙色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。表面摩耗。
14	土 師 器 環	覆土	13.2 - - 片	1. 橙色 2. 白色小石 片岩粒多量に含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。体部指頭圧痕有り。弱い稜を持つ。 底部平底気味、寛削り。
15	土 師 器 環	南西 -1	13.4 - 4.4 片	1. にぶい橙色 2. 細砂粒僅かに含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で、下方指撫で。 体部～底部手持ち寛削り。
16	土 師 器 環	南西 +10	14.5 8.0 3.3 片	1. にぶい橙色 2. 細砂粒僅かに含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。 体部、底部表面摩耗、内面横撫で。
17	土 師 器 環	南西 +11	15.6 6.0 3.0 完形	1. 橙色 2. 白 黒色細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で、弱い稜を持つ。 体部表面摩耗。
18	土 師 器 環	甕形	14.9 4.0 3.3 片	1. 橙色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好 軟質	口縁部横撫で。弱い稜を持つ。 体部寛削り、表面摩耗。
19	須 志 器 環	北西 +8	15.0 - 3.6 片	1. 橙色 2. 細砂 粘土粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で、弱い稜を持つ。 体部～底部手持ち寛削り。
20	土 師 器 環	北西 +6	15.5 6.0 3.8 ほぼ完形	1. にぶい橙色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。弱い稜を持つ。 体部～底部手持ち寛削り。
21	土 師 器 環	南西 +26	12.8 6.0 3.2 片	1. にぶい橙色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。体部指撫で、内面指頭圧痕有り。 底部平底、手持ち寛削り、内面「干」線刻。
22	土 師 器 甕	北西 +41	- 10.0 - 底部のみ	1. にぶい橙色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	体部下位横削り。 底部手持ち寛削り、嚢状短文。
23	土 師 器 環	南東 +19	13.0 4.0 3.9 片	1. 明赤褐色 2. 精選 3. 酸化焰 良好	口縁部内湾、横撫で。 体部～底部手持ち寛削り、内面保付着。
24	土 師 器 環	南西 +13	13.2 6.0 4.1 片	1. にぶい橙色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。 体部～底部手持ち寛削り。

第2章 上栗須遺跡

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
25	土師器 甕	北西 覆土	15.5 8.0 5.2 片	1. 褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。 体部寛撫で。底部手持ち寛削り。
26	土師器 鉢	北西 +12	26.2 - 11.5	1. にぶい褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。 体部～底部手持ち寛削り。
27	須恵器 甕	南壁	11.4 8.0 3.0 片	1. 灰色 2. 精選 3. 還元焰 硬質	轆轤整形。体部僅かに内湾。 底部周縁部寛削り。
28	須恵器 甕	覆土	12.4 8.3 3.1 片	1. 灰色 2. 白色細粒含む 3. 還元焰 硬質	轆轤整形。体部高台との境、断面V字形の沈線通る。 底部削り出し高台、回転削り。
29	須恵器 甕	南中央 +24	- 8.6 - 底部	1. 灰白色 2. 白色粒含む 3. 還元焰 硬質	体部寛撫で。 底部回転削り。
30	須恵器 蓋	北西 +17	12.7 10.2 2.9 片	1. 灰白色 2. 砂粒含む 3. 還元焰 良好	口縁部外反後、端部僅かに内湾、カエリ内屈。 頂部回転削り。底部リング状揃え。
31	須恵器 蓋	覆土	12.5 10.2 2.3 突起	1. 灰白色 2. 白色透明粒含む 3. 還元焰 硬質	カエリ持ち、端部折り返し。頂部回転削り。 ボタン状揃え。
32	須恵器 蓋	北西 +7	18.0 15.0 3.7 突起	1. 灰白色 2. 白色粒含む 3. 還元焰 良好	口縁部外反、内面鋭角のカエリ持つ。体部丸味。 頂部回転削り。頂部ボタン状揃え。
33	須恵器 蓋	北西 +23	17.2 - 3.2 片	1. 灰白色 2. 白色透明粒含む 3. 還元焰 良好	口縁部折り返し、端部内屈、断面三角形。 体部緩く丸味。頂部回転削り。ボタン状揃え。
34	須恵器 甕	西壁下	16.6 14.0 - 片	1. 灰白色 2. 夾雑物含む 3. 還元焰 良好	カエリを持ち内湾。 頂部回転削り。
35	須恵器 蓋	北西 +7	14.8 12.0 - 片	1. 灰白色 2. 白色粒含む 3. 還元焰 良好	端部僅かに外反、カエリ持つ。 頂部回転削り。
36	土師器 小壺	北西 +1	10.0 5.0 9.2 片	1. 褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で、肥厚。球形胴部、横方向削り、 内面寛撫で。丸底。
37	土師器 台	覆土	- - - 底部～下体部片	1. 褐色 2. 微細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	胴部横方向削り、下半左下りの削り。 底部脚部回転削り。
38	土師器 壺	北東 -1	23.8 - - 口縁部～上体部片	1. にぶい褐色 2. 微細砂含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。 胴部斜方向削り、内面削離。
39	土師器 台付壺	覆土	- 9.0 2.9 片	1. にぶい褐色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 良好	底部指頸正或有り、横撫で、内面寛撫で。
40	土師器 壺	西壁下	21.5 - - 口縁部の片	1. にぶい褐色 2. 精選 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。 胴部横方向削り。
41	土師器 壺	北西 +8	21.1 - - 口縁部の片	1. にぶい褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。胴部強い撫で。 胴部上位斜方向削り、内面寛撫で。
42	土師器 壺	瓶形 +14	22.7 - - 口縁上体部の片	1. 褐色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で、大きく外反。 胴部斜方向削り。
43	土師器 壺	北西 +7	25.8 - - 口縁上体部の片	1. にぶい褐色 2. 砂粒 粘土 粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で、歪み顯著。 胴部横方向削り、内面寛撫で。
44	ガラス玉	南西床直	0.6 1.1 1.5	1.36E	算盤玉状を呈し、上・下6面カット。

12号住居跡 (写真図版137・166)

位置 J・K-118・119グリッド

重複 北壁で13号住居を切る。また住居中央から北西隅のみの調査で残りは調査区外のため未調査。

規模 南北約3.6m その他不明

壁高 60cm前後 垂直に立ち上がる。

貯蔵穴 不明 柱穴 不明 周溝 無し

床面 掘形面に地山混土塊を入れ、上面に褐色土を貼り踏み固めている。

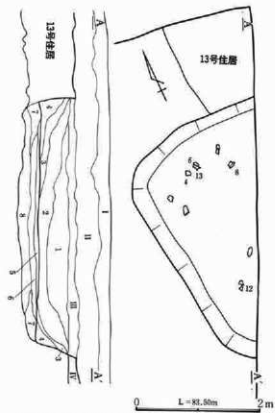
掘形 床面より30cm深く掘り込まれ、中央に向かい徐々に深くなる。

遺物 土師器坏、甕が出土している。

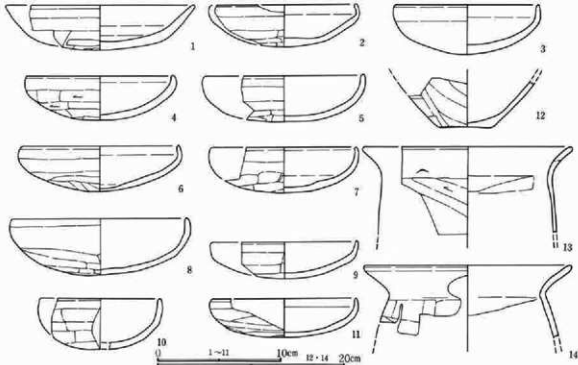
竈 不明

I~IVは基本土層断面

- 1 褐色土 黄色粘質土及び砂粒を含む。
- 2 褐色土 粘質土及び砂質土を多く含む。
- 3 褐色土 黄色粘質土・砂粒及び暗褐色粘質土塊を含む。
- 4 暗褐色土 黄色粘質土塊と砂粒を含む。
- 5 褐色土 黄色砂粒を多量に含む。貼り床。
- 6 暗褐色土 5層に暗褐色粘質土を多量に含む。
- 7 暗褐色土 暗褐色土と黄色粘質土の混土。
- 8 暗褐色土 黄色粘質土・砂粒塊を多量に含む。



第405図 12号住居跡実測図



第406図 12号住居跡出土遺物実測図

12号住居出土遺物観察表

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・直径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 粘土 3. 焼成	整形・調整の特徴
1	土器器 環	覆土	15.0 - 3.5 片	1. 褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で、内面撫で。 体部～底部磨削り。
2	土器器 環	覆土	12.0 - (3.3) 口縁部～底部片	1. 褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部内傾、横撫で。 体部～底部磨削り。
3	土器器 環	覆土	12.4 - - 片	1. 明赤褐色 2. 粘土粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。 体部～底部クレーター状に小さな窪み多数ある。
4	土器器 環	北西 +3	22.0 - (3.5) 口縁部～胴部片	1. 褐色 2. 粘土粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。 胴部上位横方向磨削り。
5	土器器 環	覆土	13.0 - (3.5) 口縁部～底部小片	1. ぶい褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。 体部～底部磨削り。
6	土器器 環	北西 +20	12.4 - (3.5) 片	1. 褐色 2. 細砂 黒色細粒含 む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。 体部～底部手持ち磨削り。
7	土器器 環	覆土	12.4 - 3.5 口縁部～底部片	1. 褐色 2. 細砂粒僅かに含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。 体部～底部磨削り。
8	土器器 環	南西 +14	14.0 - 4.5 片	1. 褐色 2. 細砂粒 黒色細粒 含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。 体部～底部表面かなり摩滅。
9	土器器 環	楕形	12.0 - (2.9) 片	1. 褐色 2. 砂粒 粘土粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。 体部～底部磨削り。
10	土器器 環	覆土	10.0 - (5.0) 片	1. 褐色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。 体部～底部磨削り。
11	土器器 環	覆土	12.0 - (3.1) 片	1. 褐色 2. 黒色細粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。 体部～底部手持ち磨削り。
12	土器器 壺	南西 +35	- (4.2) - 底部片	1. 黒褐色 2. 微細砂含む 3. 酸化焰 良好	胴部下端斜方向磨削り。 底部平直、小さい磨削り。
13	土器器 壺	北西 +9	22.0 口縁部～胴部上位	1. 明赤褐色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。 胴部上平斜方向磨削り。
14	土器器 壺	覆土	22.0 - -	1. 褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。 体部～底部手持ち磨削り。

13号住居跡 (写真図版137・166・167)

位置 K-119グリッド

重複 12号住居に南壁を切られている。また東半分は調査区外のため未調査。

規模 不明

壁高 60cm前後 壁面は崩落しており、段を持ち斜めに立ち上がる。

貯蔵穴 不明 柱穴 無し 周溝 無し

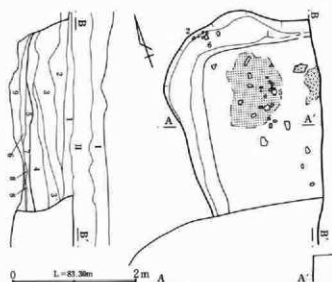
床面 黄褐色土塊混じりの暗褐色土を踏み固めている。また北西隅寄り床面直上に焼土、灰、炭化物のまとまりがある。

掘形 北壁よりか不定型に掘り込まれている。

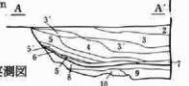
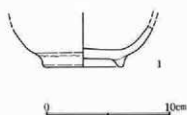
遺物 土器器壺片出土。

竈 不明

第3節 III区検出の遺構と遺物

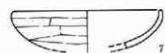


第407図 13号住居跡実測図



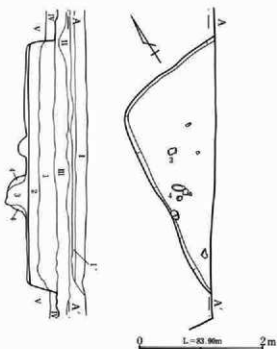
第408図 13号住居跡出土遺物実測図

- I・IIは基本土層断面
 1 暗褐色土 黄色土塊・小石・砂質土塊を含む。
 2 褐色土 灰・焼土粒を少量含む。やや粘質。
 3 黄褐色土 黄色土塊と砂質を多量に含む。
 3' 黄土色土 3層に比べ黄色粘土塊多く含む。
 4 褐色土 暗褐色土塊を多く含む。
 5 褐色土 黄色粘質土塊と炭粒を全体に多量に含む。
 5' 黄土色土 5層と含有物は同じであるが、炭粒を多量に含む。
 6 暗灰色土 灰の純層・焼土・炭粒を少量含む。
 7 褐色土 黄色粘質土及び砂粒を多量に含む。
 8 暗褐色土 褐色土を主として、暗褐色土と黄色土・砂粒・塊を多量に含む。
 9 黄褐色土 焼土塊。
 10 黄土色土 黄色粗砂塊・黄色土塊等強じる。



13号住居出土遺物観察表

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
1	須恵器 鉢	覆土	— 6.4 — 胴部～底部	1. 灰色 2. 白色細粒含む 3. 還元焰 硬質	縦壺形。体部胴部丸味もつ。 底部回転糸切り、高台張り付け後焼成で。
2	土器 杯	北西 +10	9.0 — (2.7) 口縁部小片	1. 褐色 2. やや白 黒色細粒 含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。 体部～底部寛削り。
3	土器 台付壺	掘形	— (10.6) — 胴小片	1. 灰褐色 2. 精選 3. 還元焰 良好	口縁部回転撫で。
4	土器 杯	覆土	11.0 — — 口縁部小片	1. 褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口唇部横撫で。 体部～底部寛削り、表面摩耗。
5	土器 杯	中央 +3	12.0 — 2.5 口縁部小片	1. 褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で、内面撫で。 体部～底部寛削り。
6	土器 杯	北西 +10	12.4 — — 口縁部小片	1. 褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。 体部～底部寛削り、表面摩耗。
7	土器 杯	覆土	12.0 — — 口縁部小片	1. 褐色 2. 白 黒色透明細粒 含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。 体部～底部寛削り。



第409図 14号住居跡実測図

14号住居跡 (写真図版167)

位置 N-129グリッド

重複 10号住居の竈煙道部を切る。北西隅のみの調査を行い※は調査区外のため未調査。

規模 不明

壁高 壁高5cmを残すのみであるが、壁面では45cm前後の壁高が確認できる。

貯蔵穴 不明 柱穴 不明 周溝 無し

床面 黄褐色砂質土に暗褐色土混じりの土。

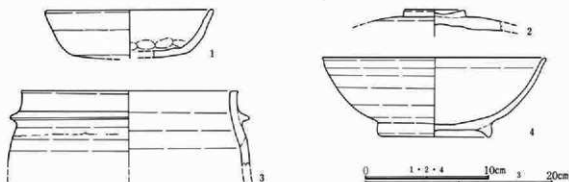
掘形 全体的にはフラットな面であるが、幾つか浅い小ピットがある。

遺物 灰釉陶器碗と羽蓋出土。

竈 不明

I~Vは基本土層番号

- 1 褐色土 砂粒・焼土・炭粒、少量含む。
- 2 褐色土 黄色土塊を多く含む。
- 3 暗褐色土 黄色土塊混じり。
- 4 黄褐色土 褐色土塊含む。



第410図 14号住居跡出土遺物実測図

14号住居出土遺物観察表

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
1	土器 器環	表土	13.2 - - 片	1. 褐色 2. 砂粒 粘土粒含む 3. 還元焰 良好	口縁部横撫で。体部指押さえ、内面指押圧痕有り 底部掘削り。
2	須恵器 蓋	表土	- - - つまみ部~肩片	1. 褐灰色 2. 白色粒含む 3. 還元焰 硬質	頂部回転削り。 つまみ門部貼り付け。
3	須恵器 羽蓋	南西 +1	22.2 - - 口縁部欠	1. 褐灰色 2. 砂粒 粘土粒含む 3. 還元焰 良好	口唇部平坦面、脚貼り付け。 胴部回転撫で、焼成。
4	灰釉陶器 碗	西壁 -1	17.6 - - 片	1. 灰白色 2. 白色粒含む 3. 還元焰 硬質	縦輪整形、横け掛け。 底部回転削り、高台貼り付け撫で。

15号住居跡 (写真図版137・167)

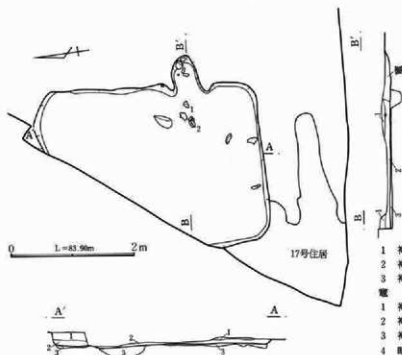
位置 N-129グリッド 方位 E-15°-S
 重複 南西部で17号住居を切っている。また、北
 西隅は調査区外のため未調査。
 規模 東西2.6m 南北3.4m やや南北に長い。
 壁高 20cm前後
 貯蔵穴 無し 柱穴 無し 周溝 無し
 床面 黄褐色土塊含む褐色土、締まり弱い。
 撮影 中央北寄りに径90cm、深さ18cmの規模を持つ

円形の土坑を検出した。

遺物 電前より羽釜が出土している。

竈

位置 東壁南より
 規模 焚口部幅40cm 燃焼部奥行き50cm・幅20cm・
 深さ15cm 煙道部不明
 構築 燃焼部は壁外にあり、焚口部に地山掘り残し
 の袖をもつ。火床面は床面と同レベルであり、僅か
 に焼土、灰の広がりが見られる。

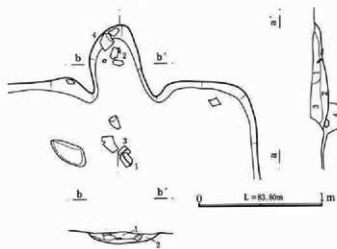


第411図 15号住居跡実測図

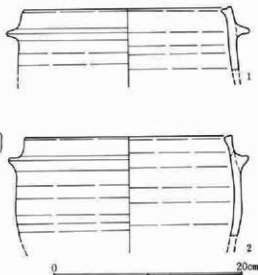
- 1 褐色土 小石・細砂混じり。
- 2 褐色土 黄色細砂混じり。
- 3 褐色土 黄土色粒含む。

竈

- 1 褐色土 灰・焼土粒混じり、黄色細砂混じり。
- 2 褐色土 灰・焼土粒を僅かに含む。
- 3 褐色土 黄色細砂混じり。
- 4 暗褐色土 焼土粒僅かに含む。



第412図 15号住居跡竈実測図



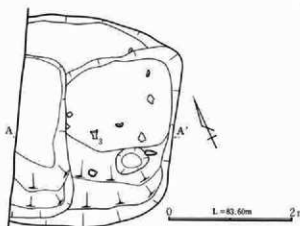
第413図 15号住居跡出土遺物実測図(1)



第414図 15号住居跡出土遺物実測図(2)

15号住居出土遺物観察表

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
1	須恵器 羽蓋 +4	竈前	11.0 - - 片	1. 橙色 2. 白色透明粒 小石 含む 3. 還元焰 良好	口縁部短く、頂部撫で、平面面。 胴部押貼り付け、上位回転撫で。
2	須恵器 羽蓋 +10	竈内	22.0 - - 口縁部小片	1. におい橙色 2. 白色透明細 粒僅かに含む 3. 還元焰 硬質	口縁部撫で、頂部撫で、内肌、内面保付着。 胴部上位回転撫で、割貼り付け。
3	須恵器 羽蓋 +4	竈前	12.0 - - 片	1. におい橙色 2. 精選 3. 還元焰 良好	頂部撫で、内肌。 胴部回転撫で、割貼り付け。
4	須恵器 羽蓋 +2	竈内	- (7.6) - 片	1. におい黄橙色 2. 白色 透 明細粒 小石含む 3. 還元焰	胴部下位斜方向覆削り。 底部平底無調整。



第415図 16号住居跡実測図

16号住居跡 (写真図版138・167)

位置 P・Q-123グリッド

重複 住居西半分を風倒木により壊されている。

規模 南北3.2m 隅丸方形形状を呈する。

壁高 15cm前後 緩く立ち上がる。

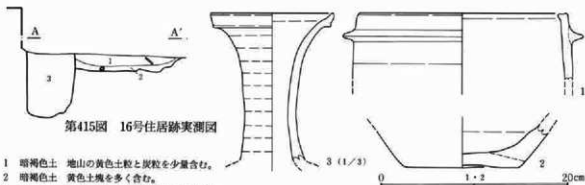
貯蔵穴 無し 柱穴 無し 周溝 無し

床面 黄褐色土塊混じりの褐色土を踏み固めている。

掘形 レンズ状に掘り込まれている。

遺物 須恵器長頸蓋の頸部や土師器甕破片出土。

竈 不明

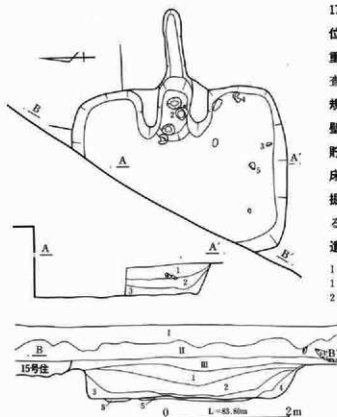


第416図 16号住居跡出土遺物実測図

- 1 暗褐色土 地山の黄色土粒と炭粒を少量含む。
- 2 暗褐色土 黄色土塊を多く含む。
- 3 暗褐色土 地山の黄色土小塊と炭粒を少量含む。

16号住居出土遺物観察表

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
1	須恵器 羽釜	覆土	(21.0) - - 口縁部片	1. 黒褐色 2. 粗砂含む 3. 酸化焰 良好	口縁部短く立つ。口唇部平坦、脚貼り付け。 胴部回転割で、焼成成、内面燻付着。
2	須恵器 甕	覆土	- (9.0) - 底部欠	1. 褐灰色 2. 白色粒含む 3. 還元焰 硬質	胴部下端燻焼で。 底部未調整。
3	須恵器 長頸甕	北西	(10.0) - - 口縁部～頸部まで	1. 褐灰色 2. 白色粒含む 3. 還元焰 硬質	口唇部受け口状を呈し、沈線通る。



第417図 17号住居跡実測図

竈

位置 東壁中央

規模 焚口部幅45cm 燃焼部奥行き80cm・幅40cm・

深さ25cm 煙道部長さ1.1m・幅25cm

煙道部への立ち上がり20cm 緩く立ち上がる。

構築 燃焼部は住居内にあり、地山掘り残しの袖を持つ。火床面は床面と同レベルであり焼土、灰の堆積見られる。掘形は長方形を呈し、側壁は垂直に立ち上がる。壁面の焼けは弱い。煙道部は水平方向に伸び、壁面は垂直に立ち上がる。

17号住居跡 (写真図版138・167)

位置 S-129・130グリッド

重複 15号住居により切られている。北西部分は調査区外のため未調査。

規模 東西2.6m 南北3.4m 南北方向に長い。

壁高 50cm前後 やや傾いて立ち上がる。

貯蔵穴 無し 柱穴 無し 周溝 無し

床面 黄褐色砂質土を堅く踏み固めている。

掘形 全体的にはフラットな面に仕上げられている。

遺物 電周辺に土師器坏、甕出土。

I～III基本土層参照

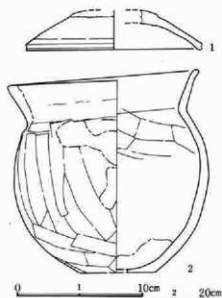
1 暗褐色土 黄粘土塊をまばらに含む。

2 暗褐色土 黄粘土塊がまばらに散る。土師器破片も含まれる。

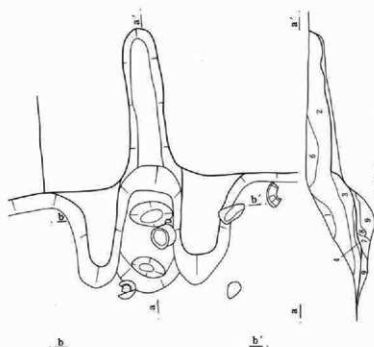
3 暗褐色土 黄粘土塊がまばらに散る。

4 暗褐色土 黄粘土塊を含む。

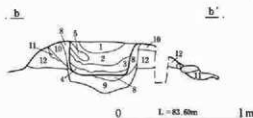
5 暗褐色土 黄粘土塊を含む。



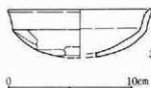
第418図 17号住居跡出土遺物実測図(1)



- 1 暗褐色土 黄色土粒少量含む。
- 2 暗褐色土 黄色土粒・小塊を多く含む。
- 3 黄褐色土 熱を受けて焼けている。
- 4 黄褐色土 焼土塊・炭粒・灰を多量に含む。
- 5 黄色土 黄色土塊。
- 6 茶褐色土 焼土塊を多量に含む。
- 7 黄色土 黄色土塊。
- 8 茶褐色土 焼土・炭・灰を多量に含む。
- 9 褐色土 黄色土粒・塊を多量に含む。
- 10 暗褐色土 黄色土塊と褐色土の混土。
- 11 暗褐色土 砂質土を含む。
- 12 明黄色土 明黄色砂質土。



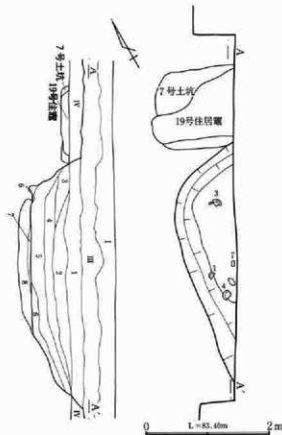
第419図 17号住居跡電実測図



第420図 17号住居跡出土遺物実測図(2)

17号住居出土遺物観察表

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
1	深底器 蓋	覆土	14.0 - - %	1. 褐色 2. 粗砂含む 3. 還元焰 良好	縁軸整形。 頂部回転削り。頂部丸みをもつ。
2	土師器 壺	竈内 -5	(15.0) 6.0 15.5 ほぼ完形	1. 濃い赤褐色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部外反、横撫で。頸部くの字屈曲で。胴部上半斜方向削り、下半横に近い斜方向削り。
3	土師器 床直	南西	11.4 - - %	1. 褐色 2. 粗砂僅かに含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で、弱い稜を持つ。 体部削り。
4	土師器 杯	南東 -3	18.0 - - 口縁部~底部写	1. 褐色 2. 砂粒 粘土粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で、稜を持つ。 体部表面摩耗。
5	土師器 杯	南西 +1	12.2 - 4.0 ほぼ完形	1. 褐色 2. 微細砂含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で、僅かに稜を持つ。 底部削り。



第421図 18号住居跡実測図

18号住居跡 (写真図版138・167・168)

位置 K-120・121グリッド

規模 北西隅のみ調査。他は調査区外のため未調査。

壁高 60cm前後 斜めに立ち上がる。

貯蔵穴 不明 柱穴 不明 周溝 無し

床面 暗褐色土、黄褐色土塊混じりの暗褐色土を踏み固めている。

掘形 床面より20cm低く、レンズ状に掘り込まれる。

遺物 土師器片が浮いた状態で出土。

竈 不明

I~IVは基本土層参照

1 褐色土 遺物を含む。

2 黄褐色土 黄色土及び砂質土を多量に含む。

3 暗褐色土 暗褐色土塊をやや多く含む。

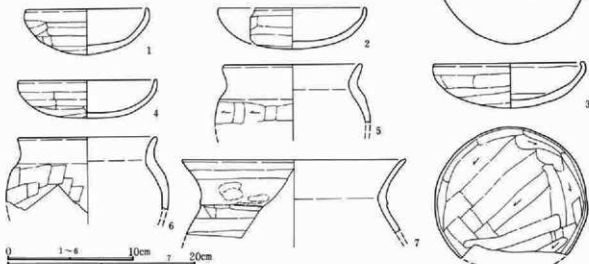
4 暗褐色土 黄色土小塊・砂粒・暗褐色土小塊を少量含む。

5 暗褐色土 暗褐色土塊を多量に含む。

6 褐色土 褐色土を多量と黄色土小塊と砂粒を含む。

7 暗褐色土 暗褐色土塊・黄色土小塊の混土。

8 黄褐色土 黄色土塊・砂質土を多量に含む。



第422図 18号住居跡出土遺物実測図

18号住居出土遺物観察表

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
1	土師器 環	北西 +48	10.0 - 3.6 1/2	1. 褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横割で。 底部内面平坦に仕上げる。

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
2	土節器 環	覆土	12.0 — 3.2 写	1. にぶい橙色 2. 微細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。 体部～底部手持ち覆削り
3	土節器 環	北西 +34	11.8 — 3.5 ほぼ完形	1. にぶい橙色 2. 砂粒 粘土 粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。口唇部内削。 体部～底部手持ち覆削り、内面X線削り。
4	土節器 環	北西 +49	11.0 — (3.0) 写	1. 橙色 2. 白色 黒色細粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。 体部～底部手持ち覆削り
5	土節器 小型壺	覆土	11.0 — —	1. 橙色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部～頸部横撫で。 胴部上位横方向覆削り。
6	土節器 小型壺	覆土	10.0 — — 口縁部～胴部写	1. 橙色 2. 細砂 粘土粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部～頸部横撫で。 胴部上位横削り。
7	土節器 壺	北西 +56	24.0 — — 口縁部～胴部写	1. 橙色 2. 砂粒 粘土粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で、接合痕、指頭圧痕有り。 胴部移行部分、縦方向覆削り後横方向覆削り。

19号住居跡

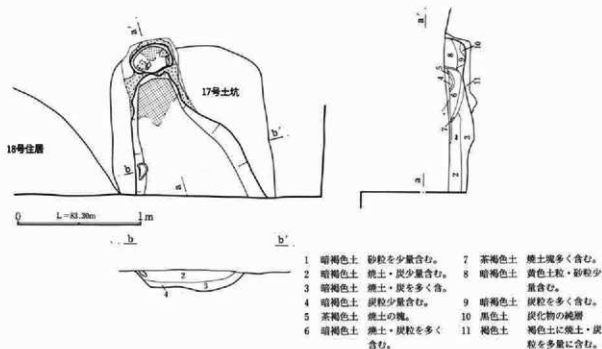
調査時点では電のみの調査と考えていたが、他の住居と比較して、電煙出し部内からの炭化物の出土や焼土の確認状況など異なる点が多く、住居とは認定できないが、検出状況は以下の通りである。

位置 K-120グリッド

重複 7号土坑を切る。

規模 電の煙道部のみの調査。他の部分は調査区外のため未調査。

電状部分の規模は確認長1.3m・幅50cm、煙出し部25×30cmの長方形を呈し、深さ15cmを測り、垂直に立ち上がる。壁面は赤茶色に焼土化している。内面には焼土塊のレンズ状堆積が見られ、底面には炭化物の堆積見られる。



第423図 19号住居跡電実測図

20号住居跡 (写真図版139・168)

位置 O・P-130・131グリッド方位 N-88°-E

規模 東西2.9m 南北2.2m 東西方向に長い

壁高 45cm前後 ほぼ垂直に立ち上がる。

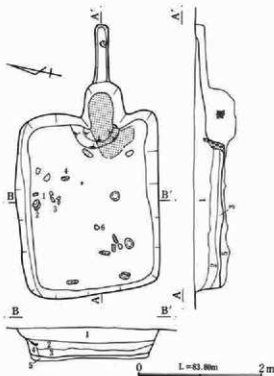
貯蔵穴 無し 柱穴 無し 周溝 無し

床面 黄褐色土塊混じりの褐色土を踏み固めている。

掘形 南西両部に浅い掘り込み見られる程度で、全体的にはフラットな面に仕上げられている。

遺物 円礫や棒状礫出土。北壁中央に土器器坏出土。

- 1 淡暗褐色土 小円礫をまばらに含む。
- 2 淡暗褐色土 黄褐色の塊を少量含む。
- 3 淡黄褐色土 淡黄褐色の含有量が多い。
- 4 淡黄褐色土 淡黄褐色土粒含む。
- 5 淡褐色土 地山淡褐色の塊を含む。



第424図 20号住居跡実測図

竈

位置 東壁中央南より

規模 焚口部幅40cm 燃焼部奥行70cm・幅45cm・

深さ50cm 煙道部長さ1m・幅15cm

煙道部への立ち上がり35cm 垂直方向よりやや開いて立ち上がる。

構築 燃焼部は壁外にあり、僅かに焚口部に地山掘り残した部分がある。火床面は床面より僅かに低く、灰層の堆積見られる。また、覆土中には地山黄褐色土主体の層があり、天井部分の崩落土と考えられる。

掘形は長方形に掘られ、壁面は垂直に立ち上がる。壁面の焼けは、奥壁煙道口部分の焼けが強く、淡い赤茶色に変色している。煙道部は水平方向に伸び、煙出し部は垂直に立ち上がる。掘形は方形に掘られ、壁面は垂直に立ち上がる。壁面の焼けは弱い。

Ⅳ～Ⅴは基本土層参照

1～3は住居覆土参照

4 淡黄褐色土 黄褐色砂質土の塊。

4' 淡黄褐色土 黒褐色気味。

5 黒褐色土

炭化物・灰・焼土粒が混在する。

6 黄褐色土

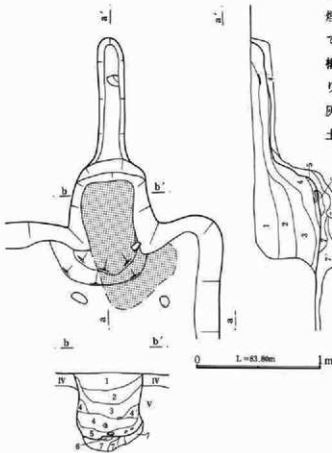
黄褐色土中に焼土・灰が混在する。

7 暗褐色土

暗褐色土と黄褐色土と混合層。

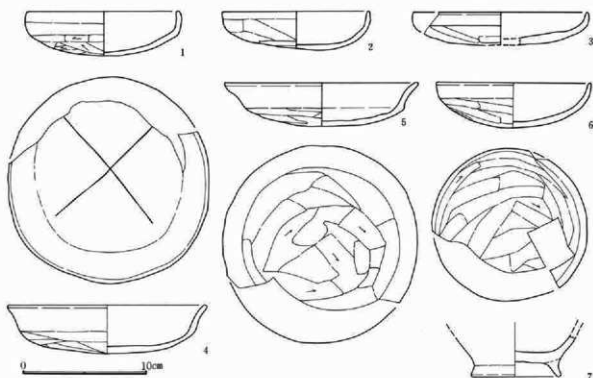
7' 暗黄褐色土

小礫を含む。



第425図 20号住居跡竈実測図

第二章 上栗須遺跡



第426図 20号住居跡出土遺物実測図

20号住居出土遺物観察表

番号	器 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
1	土器器 環	北西 +22	12.0 - - 瓦	1. 橙色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。 体部～底部手持ち置雨り。内面撫で。
2	土器器 環	北西 +2	12.0 - 3.0 ほぼ完形	1. 橙色 2. 微細粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。 体部～底部手持ち置雨り
3	土器器 環	北西 +2	14.0 - - 口縁部～底部瓦	1. 橙色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。 体部～底部手持ち置雨り。内面撫で。
4	土器器 環	北西 +6	16.0 - 3.8 瓦	1. 橙色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で、弱い稜を持つ。 体部～底部手持ち置雨り。内面撫で、X字線刻。
5	土器器 環	北東 +20	15.4 - 3.5 瓦	1. におい橙色 2. 細砂粒僅か に含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で、稜を持つ。 体部～底部手持ち置雨り。内面撫で。
6	土器器 環	中央 +22	12.2 - (3.6) ほぼ完形	1. におい橙色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。 体部～底部手持ち置雨り。内面撫で。
7	須恵器 椀	北東 +18	- 7.0 - 底部のみ	1. 黒褐色 2. 砂粒含む 3. 還元焰 良好	底部高台部貼り付け、撫で。

21号住居跡 (写真図版139・168)

位置 Q-130・131グリッド 方位 N-9°-E

規模 東西3.2m 南北3.2m 方形を呈する。

壁高 70cm前後 緩く立ち上がる。部分的に壁面の
崩落見られる。

貯蔵穴 無し 柱穴 無し 周溝 無し

床面 掘形面に暗褐色土を薄く踏み固めている。

掘形 全体的にフラットな面に仕上げられている。

遺物 土器器環、壺の破片出土。

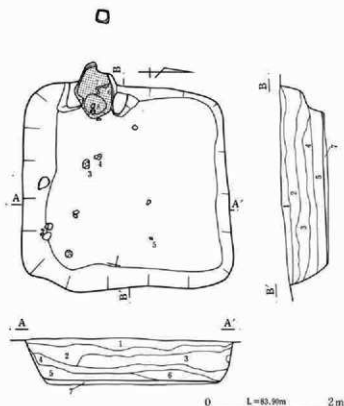
竈

位置 西壁南より

規模 焚口部幅40cm 燃焼部奥行き60cm・幅50cm・深き90cm 煙道部長き90cm・幅20cm

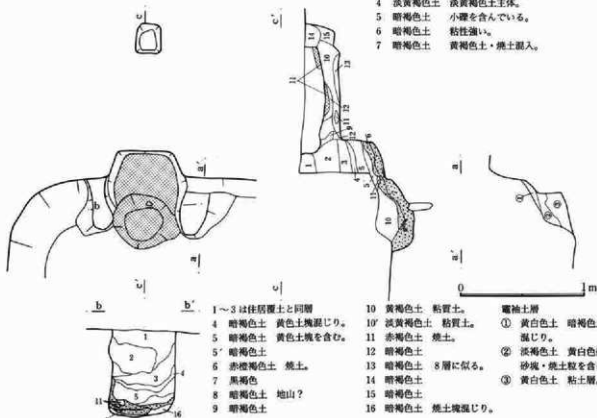
煙道部への立ち上がり28cm 垂直に立ち上がる。

構築 燃焼部中心は壁の延長線上にある。住居内には地山粘質土の混土を貼付けた袖もつ。火床面は床面より18cm程低く、灰層の堆積見られる。灰層上には下面が赤茶色に焼けた黄褐色土が堆積しており、天井部の崩落したものである。掘形は長方形状を呈し、壁面は垂直に立ち上がる。壁面の焼けは、煙道部に向かい赤茶色に焼けている。煙道部は水平方向に伸び、煙出し部で垂直に立ち上がる。掘形は方形を呈し、天井部には焼土が残り使用当時のままで検出した。壁面の焼けは底面を除き全面淡い赤茶色に変色している。



第427図 21号住居跡実測図

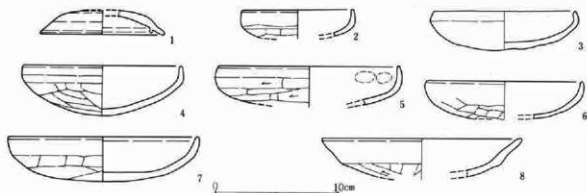
- 1 暗褐色土 円礫を均一に含んでいる。
- 2 暗褐色土 黄褐色土塊・小円礫を含む。
- 3 淡黄褐色土 暗褐色土塊を含む。
- 4 淡黄褐色土 淡黄褐色土主体。
- 5 暗褐色土 小礫を含んでいる。
- 6 暗褐色土 粘性強い。
- 7 暗褐色土 黄褐色土・焼土混入。



第428図 21号住居跡竈実測図

- 1~3 は住居覆土と同層
- 4 暗褐色土 黄色土塊混じり。
- 5 暗褐色土 黄色土塊を含む。
- 5' 暗褐色土
- 6 赤橙褐色土 焼土。
- 7 黒褐色
- 8 暗褐色土 地山?
- 9 暗褐色土
- 10 黄褐色土 粘質土。
- 10' 淡黄褐色土 粘質土。
- 11 赤褐色土 焼土。
- 12 暗褐色土
- 13 暗褐色土 8層に似る。
- 14 暗褐色土
- 15 暗褐色土
- 16 暗褐色土 焼土塊混じり。
- 竈袖土層
- ① 黄白色土 暗褐色土混じり。
- ② 淡褐色土 黄白色礫砂塊・焼土粒を含む。
- ③ 黄白色土 粘土層。

第II章 上栗須遺跡



第429図 21号住居跡出土遺物実測図

21号住居出土遺物観察表

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
1	酒器 蓋	覆土	10.0 — — 片	1. 灰褐色 2. 白色細粒含む 3. 還元焰 硬質	頂部回転面削り。 内面カエリやや丸味。
2	土器 甕	覆土	9.0 — — 口縁部小片	1. 明赤褐色 2. 細砂粒含む 3. 還元焰 良好	口縁部横撫で。 体部～底部手持ち寛削り
3	土器 甕	南西 床直	11.2 — 3.0 片	1. にぶい橙色 2. 細砂粒含む 3. 還元焰 良好	口縁部内縁、横撫で。 体部～底部手持ち寛削り
4	土器 甕	南西 床直	12.6 — (4.0) 片	1. 明赤褐色 2. 細砂粒含む 3. 還元焰 良好	口縁部内縁、横撫で。 体部～底部手持ち寛削り
5	土器 甕	中央 -3	14.4 — — 口縁部小片	1. 橙色 2. 細砂粒含む 3. 還元焰 良好	口縁部横撫で。 体部～底部手持ち寛削り
6	土器 甕	竈内	13.5 — — 口縁部片	1. にぶい橙色 2. 細砂粒含む 3. 還元焰 良好	口縁部横撫で。 体部～底部手持ち寛削り、表面摩耗。
7	土器 甕	竈内	15.0 — (3.5) 片	1. 橙色 2. 細砂粒含む 3. 還元焰 良好	口縁部横撫で。 体部～底部手持ち寛削り。
8	土器 甕	竈内 -15	16.0 — — 口縁部小片	1. 橙色 2. 細砂粒含む 3. 還元焰 良好	口縁部横撫で。 体部～底部手持ち寛削り。

22号住居跡 (写真図版139・168・169・170)

位置 R-130・131グリッド 方位 N-90°-E

規模 東西3.6m 南北3.2m 方形状を呈する。

壁高 25cm前後 僅かに傾き立ち上がる。

貯蔵穴 南東隅 径60cm、深さ30cmの規模を持ち、円形を呈する。また、電左袖脇に壁を掘り込む径40cm、深さ(壁面)50cmの規模を持ち、楕円形を呈する。

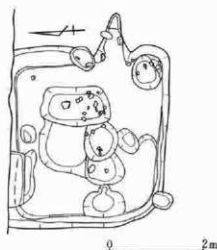
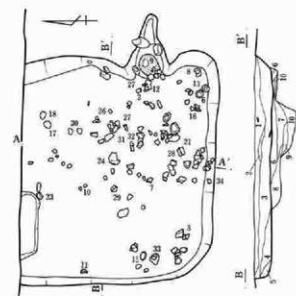
柱穴 無し 周溝 無し

床面 黄褐色土塊を含む暗褐色土を踏み固めてい

る。壁際は部分的に地山黄褐色土露出している。電前には焼土と黄白色土の混土の広がりが見られる。これらは電崩落による構架材の残骸である。

掘形 中央部に長辺1.4m、短辺0.8m、深さ27cmの隅丸長方形の土坑に、径70cm前後の楕円形の土坑が絡む。各土坑内からは、羽釜や土器器壁片出土。また、覆土中には炭化物が混じる。

遺物 全体に土器破片散乱している。特に羽釜の破片が多く出土している。

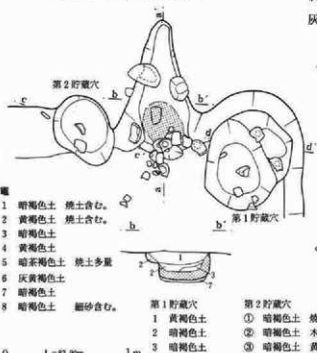


第432図 22号住居跡床下実測図



- | | |
|---------|---------|
| 1 暗褐色土 | 6 暗褐色土 |
| 2 暗褐色土 | 7 暗黄褐色土 |
| 3 暗褐色土 | 8 暗褐色土 |
| 4 暗褐色土 | 9 暗褐色土 |
| 5 暗黄灰色土 | 10 暗褐色土 |

第430図 22号住居跡実測図



- | | |
|--------------|--------|
| 1 暗褐色土 焼土含む。 | 第1貯蔵穴 |
| 2 黄褐色土 焼土含む。 | 1 黄褐色土 |
| 3 暗褐色土 | 2 暗褐色土 |
| 4 黄褐色土 | 3 暗褐色土 |
| 5 暗茶褐色土 焼土多量 | |
| 6 灰黄褐色土 | |
| 7 暗褐色土 | |
| 8 暗褐色土 細砂含む。 | |

- | |
|------------------|
| 第2貯蔵穴 |
| ① 暗褐色土 焼土・小礫含む。 |
| ② 暗褐色土 木炭・焼土粒含む。 |
| ③ 暗褐色土 黄褐色土含む。 |
| ④ 暗褐色土 |

- | |
|--------------------|
| ⑤ 暗褐色土 黄褐色土を多量に含む。 |
| ⑥ 暗褐色土 焼土・灰を多量に含む。 |
| ⑦ 黄褐色土 砂質土混じり。 |
| ⑧ 暗褐色土 褐色土混じり。 |

第431図 22号住居跡竈実測図

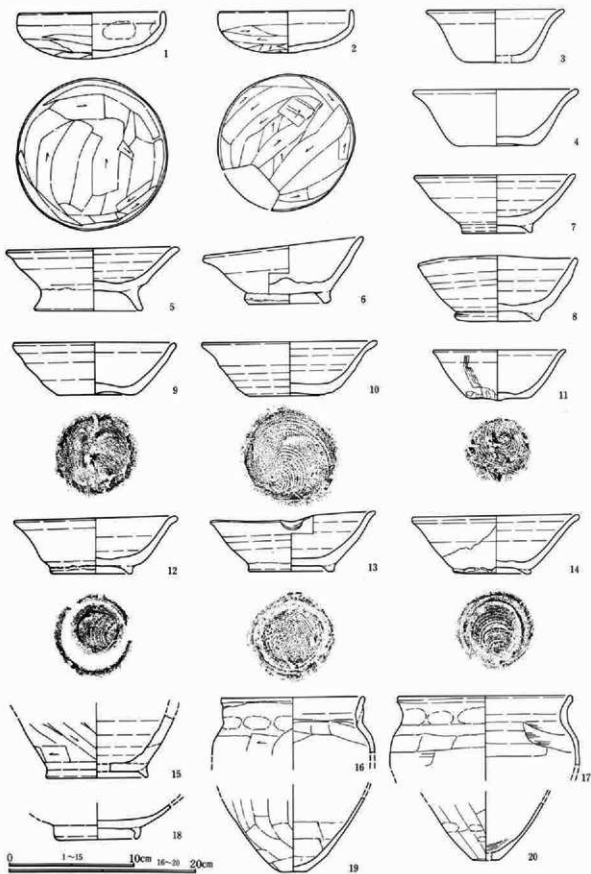
竈

位置 東壁南より

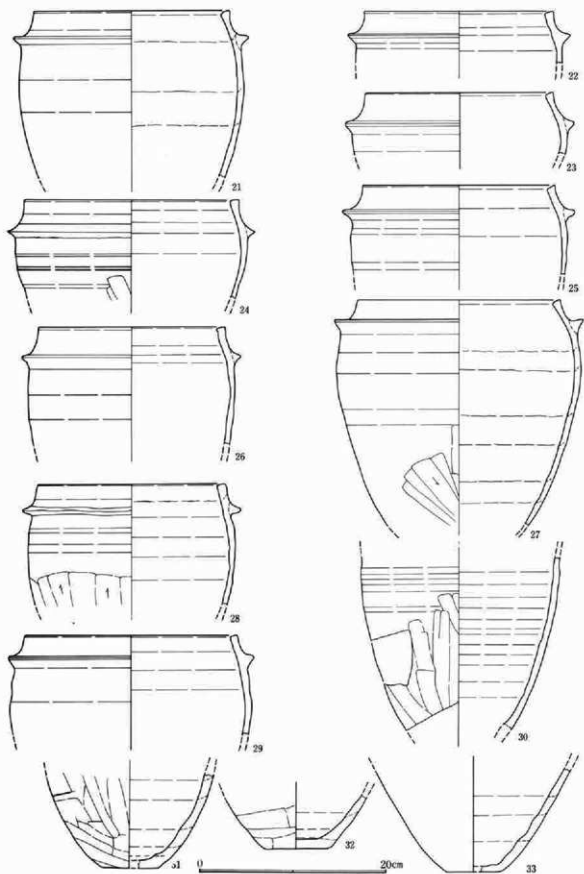
規模 焚口部幅45cm 燃烧部奥行き70cm・幅40cm・深さ30cm 煙道部長さ45cm・幅18cm

煙道部への立ち上がりは緩やかに立ち上がる。

構築 燃烧部の中心は壁の延長線上にあり、焚口部に僅かに地山を掘り残した袖を持つ。左袖部分には、補強材として偏平礫が立てられている。また、奥には大礫が立てられ、板状礫が横倒しの状態で設置されている。燃烧部火床面は床面と同レベルであり、灰層の堆積見られる。



第433图 22号住居跡出土遺物夾器(1)



第434図 22号住居跡出土遺物実測図(2)



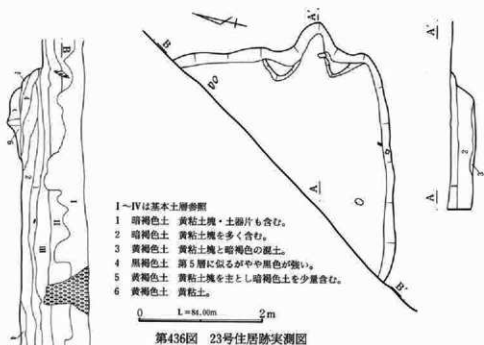
第435図 22号住居跡出土遺物実測図(3)

22号住居出土遺物観察表

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・直径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
1	土器 器形 環	中央 +24	11.5 — 3.7 完形	1. 褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焙 良好	口縁部横撫で、指押さえ、内面指頭圧痕有り。 底部～底部手持り覚削り。内面撫で。
2	土器 器形 環	中央 +19	10.5 — 3.3 ほぼ完形	1. 褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焙 良好	口縁部横撫で。内面撫で。 底部手持り覚削り。
3	須恵器 器形 環	南西隅 +9	10.8 — 4.2 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	1. におい褐色 2. 砂粒含む 3. 酸化焙 良好	口縁部外反、轆轤整形。 底部回転未切り。
4	土器 器形 環	北東 —	12.8 — 4.4 口縁部の写	1. におい褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焙 良好	轆轤整形。 底部回転未切り。
5	須恵器 器形 碗	中央 -10	13.5 8.4 4.9 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	1. におい褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焙 良好	轆轤整形。 底部回転未切り、高台部貼り付け、撫で。
6	須恵器 器形 碗	南東隅 +14	12.6 6.0 4.5 ほぼ完形	1. におい褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焙 良好	轆轤整形。全体に歪みあり。 底部高台部貼り付け、撫で、内面高巻き伏状起。
7	須恵器 器形 碗	中央 +5	12.7 5.3 4.6 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	1. におい褐色 2. 細砂 粘土 粒含む 3. 酸化焙 良好	轆轤整形。 底部回転未切り、高台部貼り付け、撫で。
8	須恵器 器形 碗	南東隅 -6	12.5 6.2 (5.2) $\frac{1}{2}$	1. 灰白色 2. 小石 白色細粒 含む 3. 還元焙 硬質	轆轤整形。 底部回転未切り、高台部貼り付け？撫で、歪み有り。
9	須恵器 器形 碗	竈脇 -30	12.3 6.0 4.2 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	1. 浅黄褐色 2. 砂粒含む 3. 酸化焙 良好	轆轤整形、器内厚い。 底部回転未切り。
10	須恵器 器形 環	覆土	13.8 6.0 4.2 ほぼ完形	1. 黒褐色 2. 砂粒含む 3. 酸化焙 良好	轆轤整形。 底部右回転未切り。
11	須恵器 器形 環	北西 +7	10.3 5.0 4.0 完形	1. におい褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焙 良好	轆轤整形。 底部右回転未切り痕、粘土層内面にあり。
12	須恵器 器形 碗	竈前	12.8 6.2 4.4 完形	1. 褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焙 良好	轆轤整形。 底部回転未切り高台部貼り付け、丸味をもち部。
13	須恵器 器形 碗	南東隅 +1	13.0 6.1 4.0 完形	1. 灰褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焙 良好	轆轤整形。口唇部指押さえによる、片口伏隆み有り。 底部右回転未切り、高台貼り付け、撫で
14	須恵器 器形 貯蔵穴内 碗	貯蔵穴内	13.1 6.0 4.6 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	1. 灰白色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焙 良好	轆轤整形、タール伏付着物。底部回転未切り、 高台部貼り付け、高台部偏平に崩れる。
15	土器 器形 甕	南西 +5	— 10.5 (6.5) 底部～胴部下 $\frac{1}{2}$	1. におい褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焙 良好	胴部下半斜方向覚削り。 底部置撫で、高台部貼り付け、撫で。
16	土器 器形 甕	南東 +7	11.4 — (4.4) 口縁部～頸部小片	1. 褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焙 良好	口縁部～頸部横撫で。頸部指押さえ。 胴部上位覚削り。

第3節 III区検出の遺構と遺物

番号	器 種 器 形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整 形 ・ 調 整 の 特 徴
17	土 部 器 壺	北東 +17	14.0 - (5.6) 口縁部～胴部下小片	1. にぶい赤褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部～頸部横断で。口唇部直立し、沈線ある。 頸部指環状痕有り。胴部上位横方向窪削り。
18	灰釉陶器 碗	北東 +8	- 6.3 (2.5) 底部のみ	1. 灰白色 2. 精選 緻密 3. 還元焰 硬質	底部高台貼り付け、端部内湾、切り離し後撫で消し
19	土 部 器 壺	中央 -31	- 2.8 (8.0) 胴部下～底部	1. にぶい橙色 2. 微細砂含む 3. 酸化焰 良好	胴部下半斜～縦方向窪削り。 底部尖底状の平底。
20	土 部 器 壺	貯蔵穴 +21	- (2.9) (6.0) 胴部下～底部	1. 褐灰色 2. 粗砂粒含む 3. 酸化焰 良好	胴部斜方向窪削り。 小さな底部。
21	須 恵 器 羽 釜	南東 +19	21.0 - (17.7) 口縁部～胴部写	1. 暗灰黄色 2. 細砂粒含む 3. 還元焰 硬質	頂部平坦面、内傾。 脚部貼り付け、回転無で、口縁部内湾。
22	須 恵 器 羽 釜	中央 +2	10.2 - (6.5) 口縁部～胴部小片	1. 灰黄褐色 2. 細砂粒含む 3. 還元焰 硬質	口唇頂部平坦面やや内傾。 脚部貼り付け、回転、口縁部内湾。
23	須 恵 器 羽 釜	北西 +20	20.0 - (6.5) 口縁部～脚下部	1. 黄灰色 2. 粗砂含む 3. 還元焰 硬質	口唇頂部内傾、横断で。 脚部貼り付け、口縁部内湾。
24	須 恵 器 羽 釜	中央 +3	23.0 - (10.5) 口縁部～胴部小片	1. にぶい橙色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口唇頂部平坦面。 脚部貼り付け、回転無で、口縁部内湾。
25	須 恵 器 羽 釜	南西隅 +27	25.0 - (9.5) 口縁部～胴部小片	1. くすんだ灰白色 2. 細砂粒含む 3. 還元焰 硬質	口唇頂部無で、僅かに凹面。口縁部内湾 脚部貼り付け、回転無。
26	須 恵 器 羽 釜	中央 +15	20.0 - (12.4) 口縁部～胴部小片	1. 灰白色 2. 白色粗砂含む 3. 還元焰 硬質	口唇頂部平坦面僅かに内傾。 脚部貼り付け、回転無。
27	須 恵 器 羽 釜	中央 +50	22.0 - (2.4) 口縁部～胴部写	1. 浅黄色 2. 白色粗砂含む 3. 還元焰 硬質	口唇頂部平坦内傾、口縁部内湾。脚部貼り付け。 胴部下位腹及び、寛削り又は寛撫で。
28	須 恵 器 羽 釜	南西 +56	20.0 - (12.8) 口縁部～胴部上半	1. にぶい橙色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口唇頂部平坦面。 脚部脚貼り付け、回転無で、下半縦寛削り。
29	須 恵 器 羽 釜	中央 +2	22.8 - (10.5) 口縁部～脚部下写	1. 灰白色 2. 粗砂 粘土粒含む 3. 還元焰 硬質	口唇頂部平坦面内傾。 脚部貼り付け、回転無で、内湾。
30	須 恵 器 羽 釜	中央 +11	- - - 胴部写	1. 褐灰色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	胴部回転横断で、下半縦方向窪削り。
31	須 恵 器 羽 釜	中央 +48	- (6.0) (9.7) 胴部～底部小片	1. 灰白 2. 粗砂粒含む 3. 酸化焰 良好	外面窪撫で、内面粗造り縦。 底部未調整。
32	須 恵 器 羽 釜	中央 +56	- 6.8 (5.4) 底部	1. 灰色 2. 細砂粒含む 3. 還元焰 硬質	胴部下位置撫で。 底部未調整。
33	須 恵 器 床 直	南西 床直	- 6.0 (5.8) 胴部～底部	1. 灰褐色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 良好	胴部回転撫で、粗造り。 底部平底未調整。
34	須 恵 器 壺	南西隅 +20	14.3 - (4.5) 口縁部～胴部写	1. にぶい褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 硬質	口縁部短く外反、頸部無で。 胴部回転撫で。器内厚い。



第436図 23号住居跡実測図

23号住居跡 (写真図版140)

位置 S・T-130・131グリッド 方位 N-84°-E

規模 北西半分は調査区外にあるため、未調査。

南壁確認長3.6m 東壁確認長3.3m

壁高 35cm前後 僅かに傾き立ち上がる。

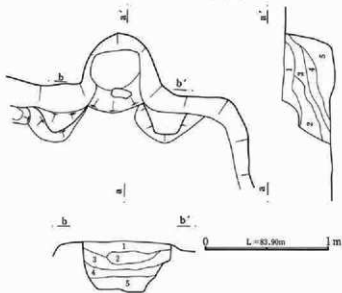
貯蔵穴 無し 柱穴 無し 周溝 無し

床面 暗褐色土を薄く踏み固めている。

掘形 円形や不正円形の浅い掘り混み見られる。

遺物 小礫が数点見られる程度であった。

- 暗褐色土 黄褐色粘土塊を少量含む。
 2 暗褐色土 黄褐色粘土塊を含む。
 3 暗褐色土 粘土塊ほんの少量含む。
 4 暗褐色土 凝土塊・木炭粒少量含む。
 5 暗褐色土 黄褐色粘土塊・木炭の粒含む。



第437図 23号住居跡竈実測図

竈

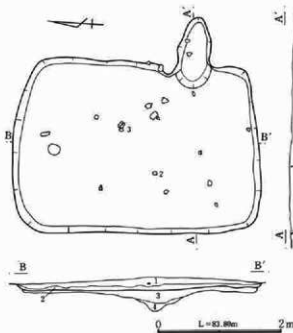
位置 東壁南

規模 焚口部幅60cm 燃焼部奥行き60cm・

幅40cm・深さ45cm 煙道部不明

煙道部への立ち上がり35cm 垂直に立ち上がる。

構築 燃焼部の中心は壁の延長線上にあり、焚口部に地山掘り残しの袖を持つ。火床面は床面より僅かに低い。焼土や灰層は粒子状に見られる程度である。掘形は方形状を呈し、壁面は垂直に立ち上がる。壁面の焼けは弱い。



第438図 24号住居跡実測図

24号住居跡 (写真図版140・170)

位置 O・P-131・132グリッド 方位 E-11'-S

規模 東西2.7m 南北3.9m 南北方向に長い

壁高 10cm前後 僅かに傾き立ち上がる。

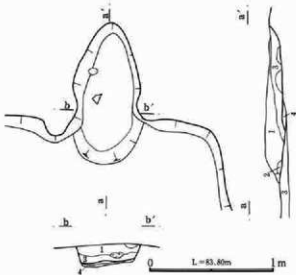
貯蔵穴 無し 柱穴 無し 周溝 無し

床面 小礫を含む暗褐色土を堅く踏み固めている。

掘形 中央部に長辺1.6m、短辺0.9m、深さ10cmの規模を持つ隅丸長方形の土坑がある。その他にも不定型の掘り込み見られる。

遺物 羽釜破片が散乱している。

- 1 淡暗褐色土 少量の淡黄褐色弱粘性砂質壤・円礫を含む。
- 2 淡暗褐色土 第1層に似るが、地山淡黄褐色弱粘性砂質壤の量がやや多い。
- 3 淡暗褐色土 小礫を多量に含む。
- 4 淡暗褐色土 淡黄褐色細砂質壤を含む。



- 1 住居跡の覆土
- 2 住居跡の覆土
- 3 暗褐色土 淡黄褐色砂質土・焼土の小塊を多く含む。
- 4 淡褐色土 淡黄褐色土粒子を多量に含む。

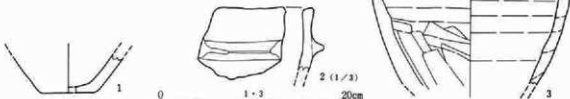
第439図 24号住居跡竈実測図

竈

位置 東壁南隅寄り

規模 焚口部幅50cm 燃焼部奥行き1m・幅35cm・深さ15cm 煙道部不明

構築 燃焼部は壁外にあり、僅かに地山掘り残しの袖を持つ。火床面は床面より僅かに低く、焼土塊僅かに見られる。



第440図 24号住居跡出土遺物実測図

24号住居出土遺物観察表

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
1	須恵器 羽蓋	覆土	— (6.0) — 破片	1. によい褐色 2. 透明 粘土 粒含む 3. 酸化焰 良好	胴部下位部で、 底部平底。
2	須恵器 羽蓋	中央 床直	— — — 口縁部小片	1. によい褐色 2. 夾雑物含む 3. 酸化焰 良好	口縁部直立、頂部平明横撫で。 胴部貼り付け。
3	須恵器 羽蓋	中央 床直	16.0 — — 口縁部～胴部片	1. 明赤褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部短く立ち上がり、頂部撫で内傾、平足。 胴部横撫で、下半部方向、貫削り、磨削り付け。

25号住居跡 (写真図版140・171)

位置 Q-132グリッド 方位 E-11°-S

規模 東西4.2m、南北3.7m、やや東西に長い。

壁高 45cm前後 斜めに立ち上がる。

貯蔵穴 無し 柱穴 無し 周溝 無し

床面 暗褐色土を薄く入れ踏み固めている。

掘形 北東と南東両隅に不定型の浅い掘り込み見られる程度である。

遺物 土師器の破片が僅かに出土している。

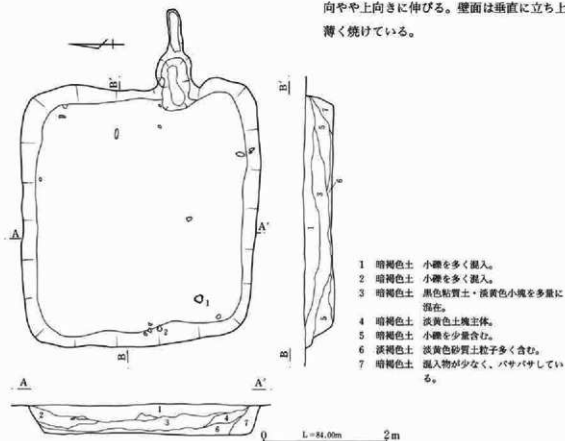
竈

位置 東壁南隅寄り

規模 焚口部幅40cm 燃焼部奥行き80cm・幅40cm・
深さ55cm 煙道部長さ65cm・幅20cm

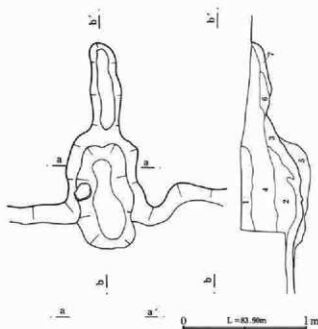
煙道部への立ち上がり20cm 緩く立ち上がる。

構築 燃焼部は壁外にあり、袖を持たない。火床面は床面よりやや低く、焼土、灰を含む。掘形は長方形を呈し、壁面は垂直に立ち上がる。壁面の焼けは、煙道部に向かい斜めに焼けている。煙道部は水平方向やや上向きに伸びる。壁面は垂直に立ち上がり、薄く焼けている。

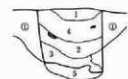


第441図 25号住居跡実測図

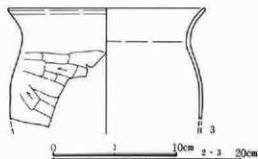
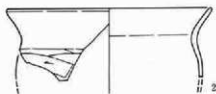
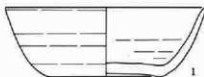
第3節 III区検出の遺構と遺物



- 1 住居跡覆土
- 2 暗褐色砂質土 淡黄褐色砂質土粒子を多量に混在。
- 3 暗褐色砂質土 淡黄褐色砂質塊・焼土・灰含む。
- 4 住居跡覆土
- 5 淡黄褐色砂質土 炭化物・焼土塊含む。
- 6 暗褐色土 焼土粒含む。
- 7 暗赤褐色土 淡黄色土粒・焼土粒を含む。
- ① 暗褐色土 やや粘質で焼土粒を若干含む。



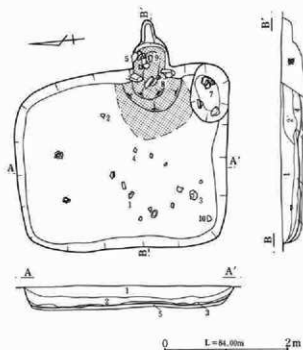
第442図 25号住居跡竈実測図



第443図 25号住居跡出土遺物実測図

25号住居出土遺物観察表

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
1	須置器 坏	南西 +22.5	16.0 (9.0)(5.5) 口縁部~底部	1. 灰褐色 2. 粗砂 小石含む 3. 還元焰 良好	轆轤整形。 体部下端、回転器削り。底部回転器削り。
2	土師器 罍	南西 +14.5	12.0 - (7.3) 口縁部~胴部小片	1. ぶい橙色 2. 微砂含む 3. 酸化焰 良好	口縁部轆轤で。 胴部斜方向削り。
3	土師器 罍	覆土	21.0 - (11.5) 口縁部~胴部上半	1. 明赤褐色 2. 微砂含む 3. 酸化焰 良好	口縁部轆轤で。 胴部斜方向削り。



第444図 26号住居跡実測図

26号住居跡 (写真図版140・141・171)

位置 S-132グリッド 方位 E-11°-S

規模 東西2.8m 南北3.2m 南北方向に長い。

壁高 30cm前後 緩く傾いて立ち上がる。

貯蔵穴 南東隅 長径90cm、短径60cm、深さ16cmの長円形を呈する。覆土中に焼土、炭化物含む。中から羽釜破片出土。

柱穴 無し 周溝 無し

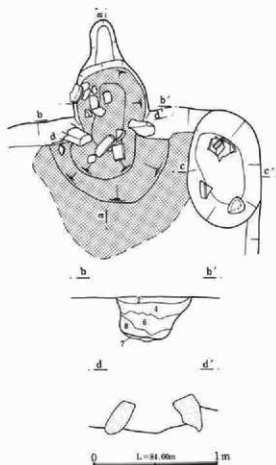
床面 黄褐色土塊混じりの暗褐色土を踏み固めている。

掘形 中央北東寄りに径1.1m、深さ15cmの円形の床下土坑を検出した。

遺物 羽釜破片や須恵器碗等が出土している。

竈

位置 東壁南寄り



第445図 26号住居跡竈実測図



- 1 淡暗褐色土 円礫・土器の小破片を含む。
- 2 淡暗褐色土 淡黄褐色土をわずかに含む。
- 3 淡暗褐色土 小円礫少ない。
- 4 淡暗褐色土
- 5 暗褐色土 砂混じり。

竈

1~4 平面図参照

- 6 暗褐色土 淡黄砂質土混在。
- 7 黒褐色土 暗褐色土に炭化物・黒灰を多量に含む。
- 8 赤褐色砂質土 淡黄褐色砂質土が焼土化し混入。
- 9 淡黄褐色土 焼土塊少量含む。
- 10 淡暗褐色土 焼土塊わずかに含む。
- 11 暗褐色土 焼土小塊散り混入。
- 12 暗褐色土

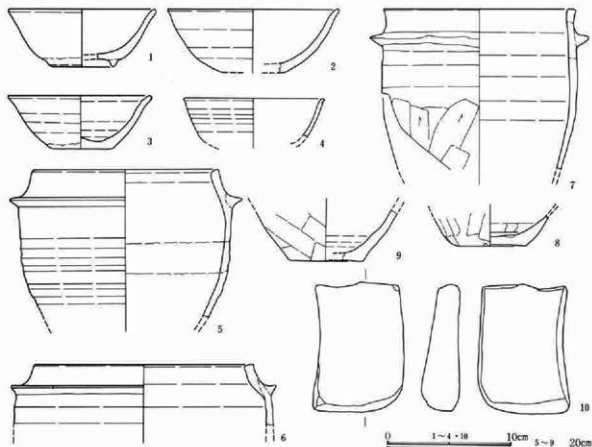
貯蔵穴

- ① 暗褐色土 炭化物・焼土を多く含む。
- ② 暗褐色土 淡黄褐色砂質土小塊を多く混在。

第3節 Ⅲ区検出の遺構と遺物

規模 焚口部幅35cm 燃焼部奥行50cm・幅30cm・深さ35cm 煙道部長さ35cm・幅20cm
 煙道部への立ち上がり20cm 斜めに立ち上がる。
 構築 燃焼部は壁外にあり、焚口部には竈を袖の芯として利用し、黄褐色土を周囲に貼り付けた袖を検出した。また、前方から出土した角礫も焚口部に使

用されたものと考えられる。火床面は床面と殆ど同レベルであり、灰の堆積見られる。火床面直上には天井部崩落土とみられる焼土層と黄褐色土の堆積見られる。燃焼部奥左寄りに支脚として角柱礫が立てられた状態で埋設されている。掘形壁面は内湾し、弱く焼けている。

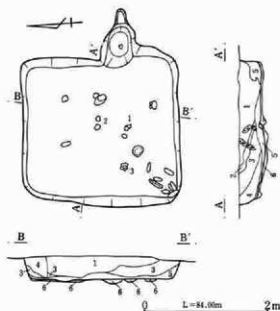


第446図 26号住居跡出土遺物実測図

26号住居出土遺物観察表

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・高さ・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
1	須恵器 椀	北西 +13	11.8 - 4.6 瓦	1. にぶい褐色 2. 細砂 粘土 粒含む 3. 酸化焰 やや軟質	輪轆整形。 底部高台貼り付け、撫で。
2	須恵器 椀	北東 +12	13.6 - (5.0) 口縁部→底部小片	1. 黒褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	輪轆整形。
3	須恵器 杯	南西 +5	11.2 - (4.2) 瓦	1. 灰褐色 2. 白色透明小礫含 む 3. 還元焰 良好	輪轆整形。底部右回転糸切り、 内面巻きき肌。中央盛り上がる。
4	灰釉陶器 杯	中央 +12	11.0 - (3.5) 口縁部破片	1. 灰色 2. 黒色粒僅かに含む 3. 還元焰 硬質	口唇部僅かに外反。

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
5	須恵器 羽蓋	竈内 +20	18.0 - (15.8) 口径部→胴部片	1. 淡黄色 2. 白色透明粒含む 3. 酸化焰 良好	口径部回転削で、内縁。口径部内傾平組面。 胴部磨貼り付け。
6	須恵器 羽蓋	竈内 +3	23.4 - (6.6) 口径部→胴小片	1. 淡黄色 2. 白色粒含む 3. 還元焰 硬質	口径部回転削で、口径部平組面。 胴部磨貼り付け、内縁。
7	須恵器 羽蓋	貯蔵穴 +4	20.4 - (17.0) 口径部→胴部片	1. にぶい橙色 2. 白色粒含む 3. 酸化焰 良好	口径部回転削で、直立気味。胴部磨貼り付け難。 上部回転削で、下半縦方向削り。
8	須恵器 羽蓋	竈内	- (7.2)(3.0) 底部片	1. にぶい橙色 2. 粗砂粒含む 3. 酸化焰 良好	胴上部回転削で、下半縦方向削り。胴部下端削で、 縦方向削り、内面削削で。底部磨削り。
9	須恵器 羽蓋	竈内 -3	- (7.8)(8.0) 底部片	1. 黄灰色 2. 細砂粒含む 3. 還元焰 硬質	胴部下位置削で。 底部磨削で。
10	砥石	南西+5	- 6.7 2.1	120g	砥石



- 1 暗褐色土 円礫をわずかに含む。
- 2 暗褐色土 焼土塊・木炭粒を含む。
- 3 暗褐色土 円礫を含む。
- 4 暗褐色土 黄褐色粘土塊を含む。
- 5 暗褐色土 黄褐色粘土塊を多量に含む。
- 6 淡褐色土 黄褐色微砂塊・粒強じり。

第447図 27号住居跡実測図

27号住居跡 (写真図版141・171)

位置 S-134・135グリッド 方位 E-12°-S

重複 重複はしていないが、30・32号住居に近接している。

規模 東西2.4m 南北2.5m 方形を呈する。

壁高 35cm前後 垂直に立ち上がる。

貯蔵穴 無し 柱穴 無し 周溝 無し

床面 黄色砂質土混じりの褐色土を踏み固めている。

掘形 北東隅と西半分がやや掘り込みが見られる程度である。

遺物 南西隅に20cm前後の片岩系の棒状礫がまともに出て土している。

竈

位置 東壁南寄り

規模 焚口部幅45cm 燃焼部奥行55cm・幅40cm・

深さ35cm 煙道部長さ20cm・幅15cm

煙道部への立ち上がり17cm 斜めに立ち上がる。

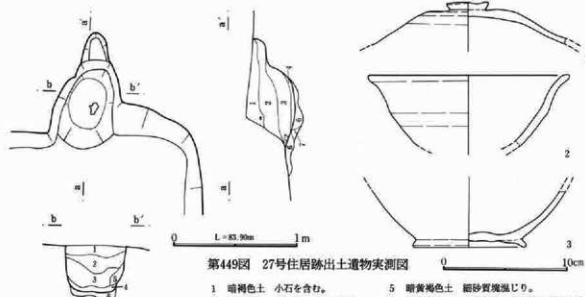
構築 燃焼部は壁外にあり、袖をもたない。火床面

は床面よりやや低く、焼土粒子、炭化物僅かに含む。

掘形は長方形に掘られ、壁面は垂直に立ち上がる。

壁面の焼けは弱い。煙道部は焼けている面が弱く、

規模、形状は不明な点が多い。



第448図 27号住居跡電突実測図

第449図 27号住居跡出土遺物実測図

- 1 暗褐色土 小石を含む。 5 暗黄褐色土 細砂質塊張り。
 2 暗褐色土 小石をわずかに含む。 6 灰褐色土 黄褐色粒・焼土粒わずかに含む。
 3 暗褐色土 小石・焼土粒多く含む。 7 暗黄褐色土 黄褐色微細塊・粒主体。
 4 暗褐色土 黄褐色粒・焼土粒わずかに含む。

27号住居出土遺物観察表

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
1	須恵器 蓋	中央 +10	— — (3.2) 胴み部～胴部	1. 褐灰色 2. 片岩小礫含む 3. 還元焰 良好	口縁部凹転削削り。 胴み部、寶珠状 頂部削削り。
2	須恵器 碗	中央 +1.5	16.0 — (5.7) 口縁部～胴部小片	1. 褐灰色 2. 白色微粒 粘土 粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部外反、轆轤整形。 体部上半強い回転痕で。
3	須恵器 碗	南西 +26	— 9.0 (4.5) 胴部～底部	1. 褐色 2. 僅かに片岩礫含む 3. 酸化焰 良好	体部轆轤整形。左回転削削り、 底部高台部貼り付け、削で。

28号住居跡 (写真図版141・171・172・173)

位置 T-134グリッド 方位 E-11°-S

規模 東西3.5m 南北3.8m 方形を呈する。

壁高 65cm前後 垂直に立ち上がる。

貯蔵穴 南東隅をやや掘り込み、長径85cm、短径60cm、深さ8cmの長円形を呈する。覆土中には焼土、炭化物含む。

柱穴 無し 周溝 無し

床面 黄褐色土塊混じりの暗褐色土を薄く踏み固めている。電前には焼土、灰等の広がりみられ、特に堅く踏み固められている。

掘形 全体的にフラットな面に仕上げられている。

遺物 住居中央覆土中に多量の土器破片出土。

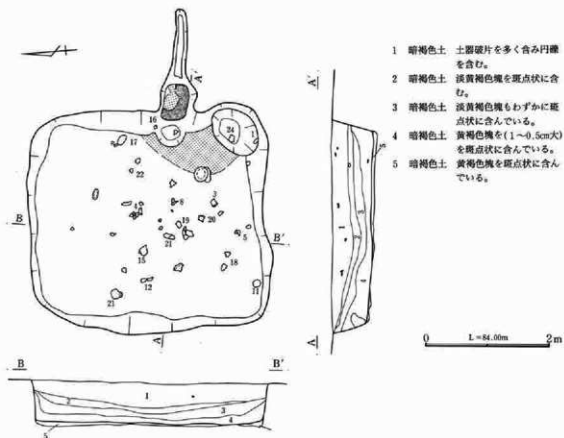
竈

位置 東壁中央やや南寄り

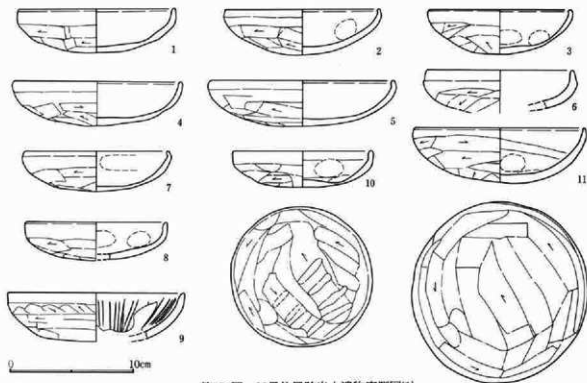
規模 焚口部幅50cm 燃烧部奥行90cm・幅50cm・深さ75cm 煙道部長さ1m・幅20cm

煙道部への立ち上がり30cm 斜に立ち上がる。

構築 燃烧部は壁外にあり、袖を持たない。火床面は床面と同レベルであるが、焚口部に長円形の深さ15cm程の灰の掻き出し穴を検出した。覆土中には、天井部崩落土である底面が赤茶色に焼土化した黄褐色土が確認されている。壁面は垂直に立ち上がる。壁面は煙道部に向かい焼土が伸びる。煙道部は斜方向に伸び、方形の煙出し部に至り垂直に立ち上がる。

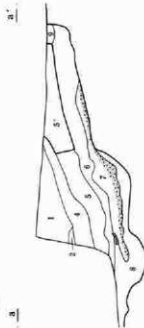
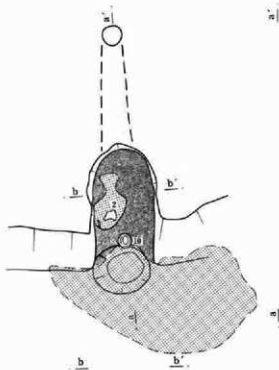


第450図 28号住居跡実測図

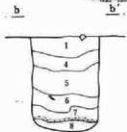


第451図 28号住居跡出土遺物実測図(1)

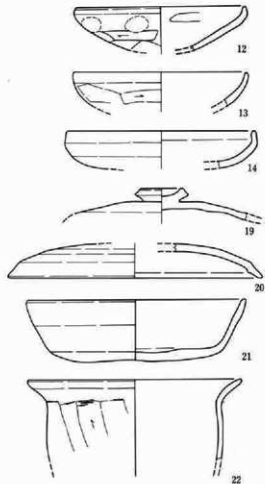
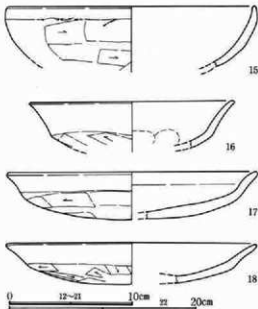
第3節 Ⅲ区検出の遺構と遺物



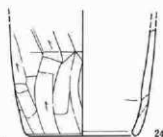
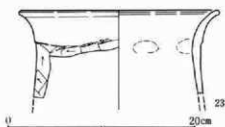
- 1~4 住居覆土と同じ。
 5 暗褐色土 淡黄色土塊を多く含み、
 焼土を混入。
 5' 暗褐色土 淡黄色土塊を多く含む。
 6 暗褐色土 淡黄色土粒子を多量に
 含み、焼土・炭化物を
 多く混入する。
 7 淡黄褐色土 壱天井部の崩落土で、
 下部が良く焼け赤褐色
 化している。
 8 暗褐色土 淡黄砂質土塊・炭化
 物・焼土を多く含む。
 9 暗褐色土 淡黄色土塊を含む。



第452図 28号住居跡電実測図



第453図 28号住居跡出土遺物実測図(2)



第454図 28号住居跡出土遺物実測図(3)

28号住居出土遺物観察表

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
1	土器 器形 杯	貯蔵穴内 +19	12.3 — 3.4 ㄨ	1. によい橙色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。 体部～底部手持ち荒削り。
2	土器 器形 杯	竈内 -17	12.2 — (3.6) ㄨ	1. によい橙色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で、指押さえ。口唇部内傾気味。 体部～底部手持ち荒削り、内面撫で。
3	土器 器形 杯	南東 +43	11.1 — 3.5 ㄨ	1. 橙色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。口唇部内傾。 体部～底部手持ち荒削り、指頭圧痕有り。
4	土器 器形 杯	北東 +50	13.3 — (3.5) ㄨ	1. によい橙色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。指押さえ。 体部～底部手持ち荒削り。
5	土器 器形 杯	覆土	14.6 5.7 3.5 ㄨ(口縁部～底部)	1. によい橙色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で、口唇部内屈内傾深む。 体部～底部手持ち荒削り、内面撫で。
6	土器 器形 杯	覆土	11.5 — (3.0) 口縁部のㄨ	1. によい橙色 2. 微細砂含む 3. 酸化焰 良好	口縁部強い横撫でにより、弱い稜を持つ。 体部手持ち荒削り、器内厚い。
7	土器 器形 杯	覆土	11.3 — 3.2 ㄨ	1. 橙色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で、内傾。 体部手持ち荒削り。
8	土器 器形 杯	北西 +61	11.2 — 3.0 器部欠損	1. によい橙色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。 体部～底部手持ち荒削り、指頭圧痕有り。
9	土器 器形 杯	覆土	13.9 — (3.8) ㄨ	1. 橙色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部強い横撫でにより僅かに稜を持つ。 体部手持ち荒削り、内部放射状暗文有り。
10	土器 器形 杯	竈内 -4	11.0 4.0 2.8 完形	1. 橙色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。体部手持ち荒削り、内面横撫で、 指頭圧痕有り。
11	土器 器形 杯	南西 -6	13.4 — (7.4) 完形	1. によい橙色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。口唇部僅かに内屈。 体部～底部手持ち荒削り、全面撫で指頭圧痕有り
12	土器 器形 杯	南東 +49	13.6 — (3.5) 器部欠損	1. によい橙色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。 体部指押さえ、底部手持ち荒削り。
13	土器 器形 杯	覆土	13.6 — (2.8) 口縁部～上部部ㄨ	1. 橙色 2. 細砂粒僅かに含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。 体部手持ち荒削り。
14	土器 器形 杯	覆土	14.7 — (2.9) 口縁部～上部部ㄨ	1. 橙色 2. 微細砂含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。 体部指押さえ、手持ち荒削り。
15	土器 器形 杯	南西 +40	19.6 — (4.8) 口縁部～上部部ㄨ	1. 明赤褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。 体部指押さえ、内面撫で。

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 地成	整形・調整の特徴
16	土師器 環	甕内 +65	16.2 - (3.7) 口径部厚	1. 褐色 2. 粘土粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で、弱い稜を持つ。 体部手持ち置削り。
17	土師器 環	北東 +61	19.8 - 3.8 厚	1. 褐色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で、稜を持つ。 体部手持ち置削り。
18	土師器 環	南西 +56	19.9 - (3.2) 厚	1. 褐色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で、稜を持つ。 体部～底部手持ち置削り。
19	須恵器 蓋	南西 +42	- - (2.5) 上端～中部厚	1. 灰色 2. 白色粗粒含む 3. 還元焰 硬質	ボタン状積み、貼り付け、頂部回転削り。
20	須恵器 蓋	南西 +47	20.1 18.0 (2.7) 端～上部部の厚	1. 灰色 2. 白色細砂粒含む 3. 還元焰 硬質	頂部回転削り、屈曲部置削り。 体部僅かにカエリをもつ。
21	須恵器 環	北西 +47	17.2 - 4.9 片形	1. 灰白色 2. 白色粒 片岩小 粒含む 3. 還元焰 硬質	輪軸整形。 底部回転削り。
22	土師器 壺	南東 +54	22.6 - (8.5) 口径部～上部部厚	1. によい褐色 2. 細砂粘土 粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で 胴部縦方向置削り。
23	土師器 壺	南東 +37	21.4 - (9.0) 口径部～胴上部厚	1. によい褐色 2. 細砂 粘土 粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で、口唇部外周、胴部横撫で後置削り 胴上部強い斜方向置削り、器内厚い。
24	土師器 壺	貯蔵穴 +29	11.1 - (10.9) 口径部～上部部厚	1. 褐色 2. 細砂 粘土粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部欠損、23番と同一個体と考えられる。 胴部縦方向置削り。器先先端部三角形。

29号住居跡 (写真図版142・173)

位置 S-133・134グリッド 方位 E-11°-S

重複 31号住居を切り、30・32号住居と近接する。

規模 東辺4m 西壁3.4m 東西3.2mの台形状を

呈する。

壁高 35cm前後 やや斜めに立ち上がる。

貯蔵穴 電右臨南東隅 径90cm、深さ15cmの長円形
を呈する。

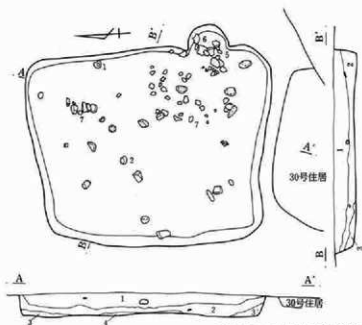
柱穴 無し 周溝 無し

床面 暗褐色土を薄く踏み固めている。

部分的に地山が露出している。

掘形 径60～90cm、深さ15cm程の円形
土坑が各壁寄りに検出された。電前にも
同様の土坑が検出でき、羽釜の破片
が出土している。遺物 電前から右寄りに礫や羽釜破片
等が浮いた状態で散乱している。

- 1 暗褐色土 小礫を多量に含む。
- 2 暗褐色土 小礫を少量含む、淡黄色土塊
- 3 淡暗褐色土 淡黄色砂質土塊を多く含む。
- 3' 淡暗褐色土 3層と同じ、小礫を含む。
- 4 淡黄色砂質土 淡黄色砂質土塊である。



第455図 29号住居跡実測図

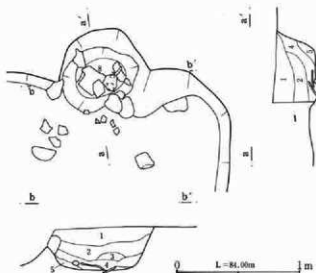
竈

位置 東壁南東隅寄り

規模 焚口部幅50cm 燃焼部奥行き50cm・幅50cm・

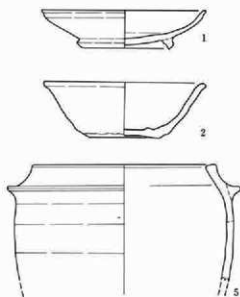
深さ35cm 煙道部長さ70cm、幅20cm

煙道部への立ち上がり15cm 斜めに立ち上がる。



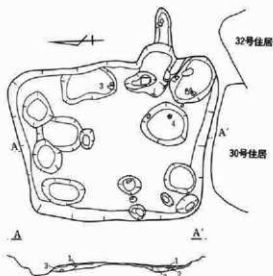
- 1 暗褐色土 小礫を含む。
- 2 暗褐色土 淡黄褐色塊をわずかに含む。
- 3 淡黄褐色土 淡黄褐色塊。
- 4 赤褐色土 天井の崩落土を主とする土。
- 5 黒褐色土 灰・木灰・焼土塊を含む土。

第456図 29号住居跡竈実測図



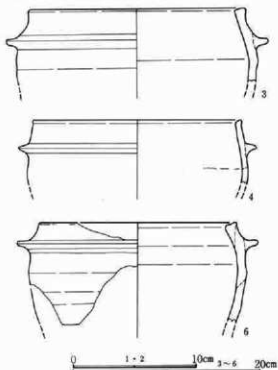
第458図 29号住居跡出土遺物実測図(1)

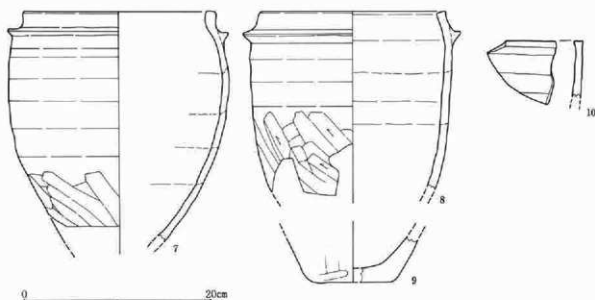
構築 燃焼部の中心は壁の延長線上にあり、地山掘り残しの袖を持つ。焚口部には礫を用い補強している。火床面は床面よりやや低く、灰、焼土粒子見られる。壁面の焼けは弱い。煙道部は斜方向に伸びる。壁面の焼けは弱い。



- 1 淡褐色土 わずかに小石・黄白色粒含む。
- 2 黄白色微砂土
- 3 黄褐色土 小石・黄白色塊・淡褐色土粒混じり。
- 4 灰黄褐色土 黄白色土粒多く含む。

第457図 29号住居跡床下実測図





第459図 29号住居跡出土遺物実測図(2)

29号住居出土遺物観察表

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・高さ・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
1	灰釉陶器 甕	南西 +9	13.0 7.0 3.0 ほぼ完形	1. 口唇部沈線巡る 2. 精選 3. 還元焰 硬質	口唇部沈線巡る。釉掛け掛け。 底部高台部貼り付け、切り難し不明、撫で消し。
2	須恵器 坏	中央 +2	13.0 2.8 4.4 瓦割	1. におい褐色 2. 白色粒含む 3. 還元焰 良好	輪轆製形。底部回転未切り。
3	須恵器 羽蓋	南東 +4	22.0 - (8.0) 口縁部～胴上部迄	1. 褐灰色 2. 白色粒含む 3. 酸化焰 良好	頂部平坦面僅かに内傾。 胴部回転無で、鈔貼り付け。
4	須恵器 羽蓋	南東 床直	21.5 - (6.8) 口縁部片	1. におい褐色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口唇部僅かに外反。 胴部回転無で、鈔貼り付け。
5	須恵器 羽蓋	竈内 +5	19.6 - (12.2) 口縁部～胴部迄	1. におい褐色 2. 白色小石 透 石粒含む 3. 還元焰 硬質	頂部内傾無で、平坦。 胴部回転無で、鈔貼り付け。
6	須恵器 羽蓋	竈内 +7	21.0 - (10.7) 口縁部～胴部迄	1. 褐色 2. 透明粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部短い。頂部内傾。撫で、平坦部 胴部回転無で、鈔貼り付け。
7	須恵器 羽蓋	中央 +2	20.0 - (24.3)	1. 褐色 2. 細砂粒含む 3. 還元焰 硬質	口唇部平坦面、鈔貼り付け。 胴部下平緩方向旋削り、上半横。
8	須恵器 羽蓋	竈内 +6	20.0 - (19.0) 口縁部～胴部迄	1. 褐色 2. 白色 粘土粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部短く立つ。頂部無で、平坦面内傾。 胴部中位まで回転無で、下平斜方向旋削り。
9	須恵器 羽蓋	覆土	- (6.4) (6.4) 底部片	1. におい褐色 2. 夾雑物多い 3. 酸化焰 良好	底部無調整。
10	須恵器 羽蓋	覆土	- - - 口縁部片	1. におい褐色 2. 精選 3. 還元焰 良好	口縁部長い。回転無で。頂部平坦。

30号住居跡 (写真図版142・173)

位置 S-134グリッド 方位 E-22°-S

重複 31・32号住居を切っている。

規模 東西2.5m 南北3.2m 南北方向に長い

壁高 13cm前後 ほぼ垂直に立ち上がる。

貯蔵穴 無し 柱穴 無し 周溝 無し

床面 黄色細砂塊、小石混じりの褐色土を薄く踏み固めている。

掘形 全体的にフラットな面に仕上げられている。

遺物 土器器底の破片電前から南壁にかけて出土。

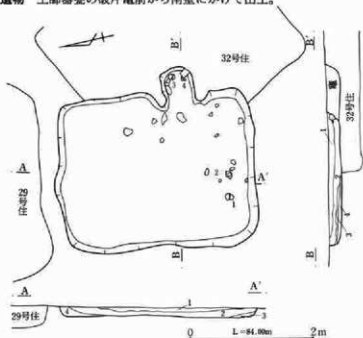
竈

位置 東壁中央南寄り

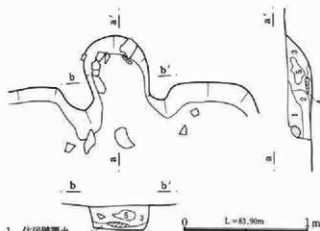
規模 焚口部幅40cm 燃焼部奥行き60cm・幅40cm・深さ20cm 煙道部不明

煙道部への立ち上がり20cm垂直に立ち上がる。

構築 燃焼部中心は壁の延長線上にあり、焚口部に暗褐色土の袖を持つ。火床面は床面と同レベルであり、焼土、灰、炭化物を含む。掘形は方形で、壁面は垂直に立ち上がる。壁面の焼けは弱い。



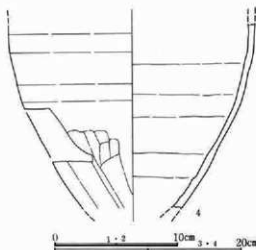
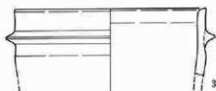
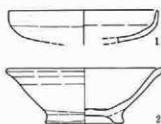
第460図 30号住居跡実測図



- 1 住居跡覆土
- 2 深褐色土 天井部崩落土の淡黄砂質土を多量に混在する。
- 3 暗褐色土 崩落焼土塊を混在。 5 淡黄色砂質塊。
- 4 暗褐色土 炭化物・焼土粒・灰を含む。

第461図 30号住居跡電実測図

- 1 暗褐色土 混入物少ない。
- 2 暗褐色土 小礫を含む。
- 3 明暗褐色土 小礫を多量に含む。
- 4 明暗褐色土 小礫を含まずやや粘質。



第462図 30号住居跡出土遺物実測図

30号住居出土遺物観察表

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 施成	整形・調整の特徴
1	土器 甕 環	南西 -6	12.0 - (2.1) 小片	1. 橙色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。 体部削削り。
2	須恵器 甕 碗	南西 -4	12.6 6.3 4.5 口縁部～底部 $\frac{5}{6}$	1. にぶい橙色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 良好	楕圓形。底部回転糸切り。 高台部貼り付け後撫で。接底部縦。
3	須恵器 甕内 羽蓋	甕内 -10	20.3 - (7.2) 口縁部～跨下小片	1. にぶい橙色 2. 小石窪かに 含む 3. 酸化焰 良好	口縁部直立、回転撫で。口唇部平坦面内傾。 胴部跨り付け、断面三角形。
4	須恵器 甕内 羽蓋	甕内 -9	- - (14.5) 胴部上～胴部下	1. 黄灰色 2. 白色粒含む 3. 還元焰 硬質	口縁部欠損。

31号住居跡 (写真図版142)

位置 T-138グリッド 方位 E-19°-S

規模 東西2.8m、南北3.6m、南北方向に長い。

壁高 15cm前後 やや傾いて立ち上がる

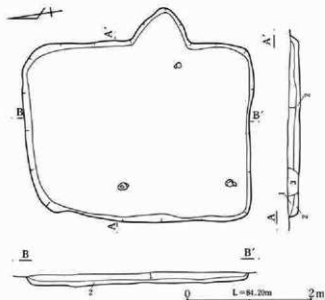
貯蔵穴 無し 柱穴 無し 周溝 無し

床面 小石混じりの黄褐色砂質土の地山露出。

掘形 床面と同様

遺物 跡3点出土。

- 1 暗褐色土 膠を含んでいる。
- 2 暗褐色土 異質物をあまり含まない。
- 3 暗褐色土 やや砂質気味。



第463図 31号住居跡実測図

竈

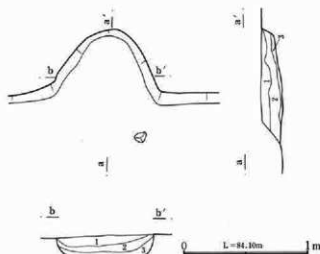
位置 竈として機能した状況を証明する壁面の焼けや火床面の灰や焼土の広がり等見られない。しかし、東壁中央部に僅かに焼土粒子が集中する部分があり、この地点を竈とした。

規模 焚口部幅80cm 燃烧部奥行き60cm・幅70cm・深さ17cm 煙道部不明

煙道部への立ち上がり10cm 緩やかに立ち上がる。

構築 燃烧部を壁外に持つ。

- 1 暗褐色土 径1～2cm大の膠を含む。
- 2 暗褐色土 膠はふくまない。
- 3 暗褐色土 やや黄味を帯びている。



第464図 31号住居跡竈実測図

32号住居跡 (写真図版143・173・174)

位置 R-134グリッド 方位 N-77°-E

重複 30号住居に切られている。27・29号住居に直接している。

規模 東西3m 南北3.3m 方形を呈する。

壁高 60cm前後 ほぼ垂直に立ち上がる。

貯蔵穴 電右袖前 径70cm、深さ26cmの規模を持ち円形を呈する。覆土中に焼土、灰を僅かに含む。

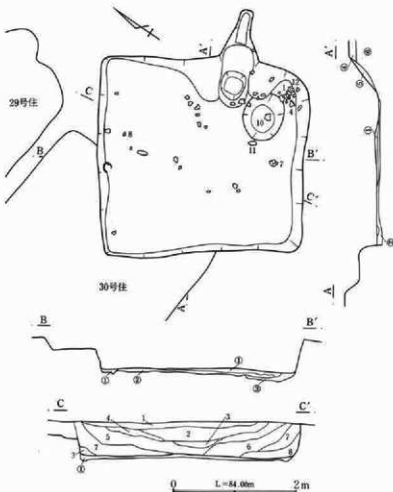
柱穴 無し

周溝 各壁下を巡る。上端16cm、下端4cm、深さ3cmの規模を持つ。

床面 黄褐色土混じりの暗褐色土を薄く踏み固めているが、締まりは弱い。

掘形 貯蔵穴周辺は大きく掘り込まれ、また北西隅に径75cm、深さ17cm程の円形土坑検出した。

遺物 電前面に土師器甕、坏の破片出土。



第465図 32号住居跡実測図

電

位置 東壁南寄り

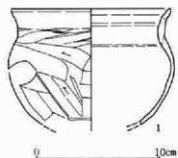
規模 焚口部幅45cm 燃烧部奥行85cm・幅43cm・深さ62cm 煙道部長さ50cm・幅20cm

煙道部への立ち上がり40cm 斜方向に上がる。

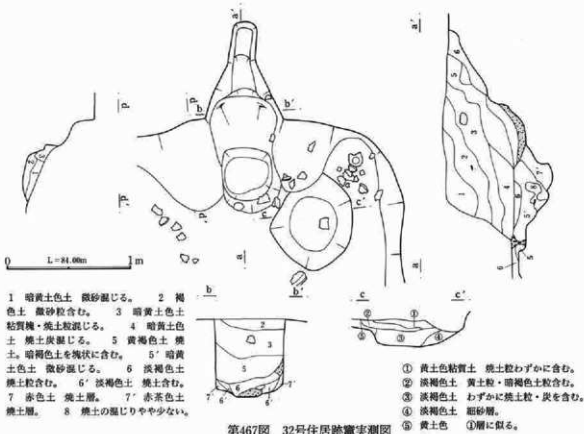
構築 燃烧部は住居内にあり、黄褐色土主体に貼り付けた袖を持つ。火床面は床面より10cm程低く、前方には灰の掻き出しによる30cm程掘り込まれた穴があいている。また、覆土中には天井部崩落土の暗褐色土塊混じりの18cm程の厚みを持つ黄褐色土の堆積見られる。掘形は長方形状を呈し、壁面は垂直に立ち上がる。壁面は煙道部に向かい焼けている。煙道部は斜めに立ち上がる。壁面の焼けは弱い。

- 1 暗褐色土 淡黄色土大塊を多く含む。
- 2 暗褐色土 淡黄色土粒・小塊を多く含む。
- 3 黒褐色土 粘性の強い黒色系の土。
- 4 暗褐色土 淡黄色土小塊を含まない。
- 5 明褐色土 淡黄色土粒をかき多く混在する。
- 6 明褐色土 淡黄色土塊が主として堆積。
- 7 暗褐色土 淡黄色土粒の混在がまばらである。
- 8 黒褐色土 3層と同様。

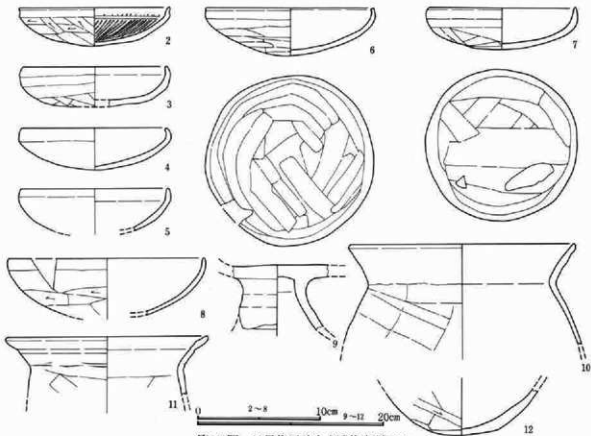
- ① 暗褐色土 わずかに黄褐色土粒混じり。
- ② 灰黄色土 細砂質土・淡黄緑砂質塊の混じり。
- ③ 灰黄色土 細砂質土・淡黄緑砂質土粒の混じり。
- ④ 褐色土 わずかに小石を含む。
- ⑤ 暗褐色土 わずかに黄褐色土粒を含む。
- ⑥ 黄褐色土 さくさくした層。



第466図 32号住居跡出土遺物実測図(1)



第467図 32号住居跡実測図



第468図 32号住居跡出土遺物実測図(2)

32号住居出土土遺物観察表

番号	器 器 器形	出土位置 (cm)	口径・高さ・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
1	土師器 壺	南東 +23.0	17.6 - (12.2) 口縁部~胴部片	1. によい橙色 2. 細砂 茶褐色 粘土粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で、頸部裾削り痕明瞭に残る。 内面強い撫でにより、沈線に富む。球形割。
2	土師器 坏	覆土	(12.0) - (3.0) 口縁部片片	1. 橙色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部強い横撫で、外反。 体部~底部手持ち寛削り、内面撫で、放射状増文
3	土師器 坏	覆土	11.3 - (3.2) 完形	1. によい橙色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で、 体部~底部手持ち寛削り。
4	土師器 坏	南東隅 +5	11.4 - (3.3) 片	1. 明赤褐色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で、内凹。 体部寛削り、表面摩耗。底部中央潰む。
5	土師器 坏	覆土	12.6 - (3.1) 口縁部~底部片	1. によい橙色 2. 精選 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で、内屈。体部指押さえ。 底部寛削り。
6	土師器 坏	覆下	13.2 - 3.8 ほぼ完形	1. 橙色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で、内面撫で、平滑 口唇部僅かに内屈。体部~底部手持ち寛削り。
7	土師器 坏	南東 +3	11.5 - 3.3 ほぼ完形	1. 橙色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で、 体部~底部手持ち寛削り、撫で。
8	土師器 坏	北東 +20	15.6 - (4.5) 口縁部~底部片	1. によい橙色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で、体部内湾、上位押さえ。 体部~底部手持ち寛削り。
9	須恵器 高坏	覆土	- - (5.0) 胴部小片	1. 灰白色 2. 白色細粒含む 3. 還元焰 硬質	口縁部坏前面、平坦撫で。 胴部横撫で。
10	土師器 壺	貯蔵穴内 +4	24.2 - (10.2) 口縁部~頸部小片	1. 橙色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部外反、横撫で。頸部くの字 割部上反斜方向削り。
11	土師器 壺	南東 床直	21.2 - (6.2) 口縁部片	1. 明赤褐色 2. 微細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部外反、撫で、中位強い撫で、頸部裾削り後胴 部斜方向削り。
12	土師器 壺	南東隅 +35	- - (3.5) 底部のみ	1. によい橙色 2. 微細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	胴部下端斜方向削り。 底部やや丸底、寛削り。

33号住居跡 (写真図版143・174)

位置 O・P-132・133グリッド方位 E-10°-S

規模 住居北西半分のみ調査。南東半分は調査区外のため未調査。

壁高 60cm前後 ほぼ垂直に立ち上がる。

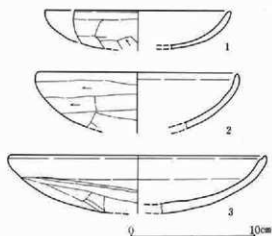
貯蔵穴 不明 柱穴 無し 周溝 無し

床面 黄褐色砂質土塊を含む暗褐色土を踏み固めている。

掘形 中央部に向かい深く掘り込まれる。

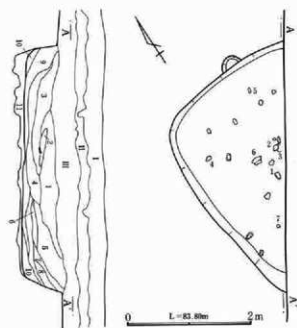
遺物 土師器壺、坏破片、礫等散乱して出土。

竈 不明



第469図 33号住居跡出土遺物実測図(1)

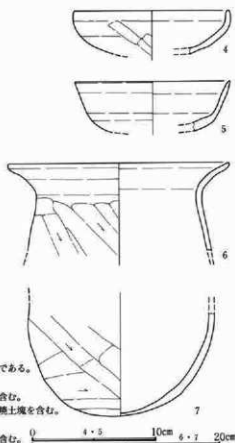
第3節 III区検出の遺構と遺物



I~Ⅷは基本土層参照

- 1 淡暗褐色土 淡黄色粘土塊。
 2 暗茶褐色土 焼土粒を多く含む。
 3 暗褐色土 淡黄色粘土の混在が少ない。
 4 暗褐色土 淡黄色粘土の大塊。
 5 淡暗褐色土 淡黄色土粒を多く含む。

第470図 33号住居跡実測図



- 6 暗黒褐色土 混入物がなく粘質である。
 7 暗褐色土 混入物がない。
 8 淡暗褐色土 淡黄色粘土の塊を含む。
 9 暗褐色土 淡黄色砂質土塊・焼土塊を含む。
 10 暗黒褐色土 小粒を多く含む。
 11 暗褐色土 淡黄色砂質塊・粒含む。

第471図 33号住居跡出土遺物実測図(2)

33号住居出土遺物観察表

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 粘土 3. 焼成	整形・調整の特徴
1	土器 器形 杯	中央 +27	14.8 — (2.7) 小片	1. 褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。 体部手持り箇所削り。
2	土器 器形 杯	中央 +45	16.0 — (4.5) 口縁部~底部片	1. におい褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。 体部手持り箇所削り、内面平滑。
3	土器 器形 杯	中央 +41	20.5 — (4.5) 口縁部~底部片	1. におい褐色 2. 微細砂粒含む 3. 酸化焰 硬質	口縁部横撫で、内面沈線連る、撫で。 体部~底部手持り箇所削り。
4	土器 器形 杯	中央 +20	12.2 — (3.4) 小片	1. 褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。 体部~底部手持り箇所削り。
5	須恵器 器形 杯	北壁 +1	12.2 — (4.2) 口縁部~底部小片	1. 灰白色 2. 白色細粒含む 3. 還元焰 硬質	口縁部回転。 底部回箇所削り。
6	土器 器形 壺	中央 +39	23.4 — (9.5) 口縁部~胴部片	1. におい褐色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で、外湾。 胴部上位斜方向箇所削り。
7	土器 器形 壺	南西 +6	— — (9.0) 胴部~底部片	1. におい褐色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 良好	胴部下半斜方向箇所削り、内面撫で。 丸底箇所削り、摩耗。

34号住居跡 (写真図版143・174・175)

位置 U・V-138・139グリッド 方位 E-10°-S

規模 東西2.6m 南北2.8m 方形を呈する。

壁高 30cm前後 やや傾いて立ち上がる。

貯蔵穴 南東隅に長辺70cm、短辺40cm、深さ17cmの長円形の掘り込みが見られる。

柱穴 電右袖前に貯蔵穴と上端を共有して径90cmの円形の掘り込みがあり、中に径30cm、深さ13cmの円

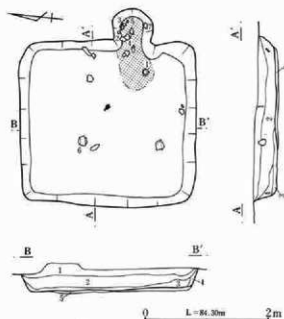
形のピットがある。

周溝 無し

床面 黄褐色砂質土を含む暗黄褐色土を踏み固めている。電前に灰の広がりが見られる。

掘形 南東隅部分以外はフラットな面に仕上げられている。

遺物 中央部に須恵器短頸壺の完形品と電前に土師器坏出土。



第472図 34号住居跡実測図

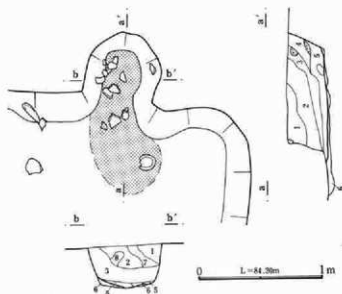
電

位置 東壁南寄り

規模 焚口部幅35cm 燃焼部奥行き60cm・幅30cm・深さ32cm 煙道部不明

煙道部への立ち上がり25cm 斜めに立ち上がる。

構築 燃焼部は壁外にあり、袖を持たない。火床面は床面と同レベルであり、灰の堆積見られる。灰層直上には天井部崩落土の黄褐色土が見られる。掘形は方形を呈し、壁面は垂直に立ち上がる。壁面の挽きは全体に弱い。

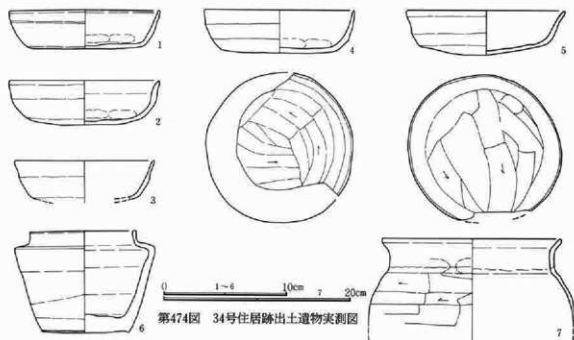


第473図 34号住居跡電実測図

- 1 暗褐色土 小石を含む。
- 2 暗褐色土 小石を含む。
- 3 暗黄褐色土 小石・黄緑色細砂塊・粒混じり。
- 4 暗褐色土
- 5 暗黄褐色土

電土層

- 1 暗褐色土 小石混じり。
- 2 暗褐色土 焼土粒・灰含む。
- 3 淡黄褐色土 焼土・灰やや多く含む。
- 4 暗黄褐色土 黄褐色塊混じり。
- 5 灰褐色土 灰・焼土粒混じり。
- 6 灰褐色土 灰・焼土粒混じり。
- 7 焼土塊・黄褐色粘土塊を含む。
- 8 黄褐色粘質土塊。



第474図 34号住居跡出土遺物実測図

34号住居出土遺物観察表

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
1	土器 碗 鉢	竈内 床直	12.0 9.2 3.1 ほぼ完形	1. によい橙色 2. 微細砂僅かに含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で、沈線巡る。口唇部内屈。体部指押さえ、内面指摺り痕有り。底部寛削り。
2	土器 碗 鉢	竈内 +6	12.0 - 3.5 口縁部～底部欠	1. によい橙色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。体部指押さえ、底部平底気味、手持り寛削り。
3	土器 碗 鉢	竈内 +10	11.2 - (3.1) 口縁部～底部小片	1. 橙色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。体部指押さえ。底部平底。
4	土器 碗 鉢	竈内 +10	12.0 - 3.4 口縁部～底部欠	1. 褐色 2. 微砂僅かに含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。体部指押さえ。底部手持り寛削り、平底。
5	土器 碗 鉢	竈内 +10	12.6 - 3.5 口縁部～底部欠	1. 褐灰色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口唇部直下、強い撫で。体部指押さえ。底部平底、手持り寛削り、内面紐造り痕凹凸あり
6	須恵器 小皿 鉢	中央 床直	8.5 7.0 8.0 完形	1. 灰色 2. 精選 3. 還元焰 硬質	口縁部直立、横撫で。胴部下半寛撫で、肩部張る。底部寛削り、削り出し高台状の突起縁辺部にある。
7	土器 碗 鉢	竈内 +11	19.0 - (9.3) 口縁部～頸部	1. によい橙色 2. 微細砂含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。胴部上位横方向削削り。

35号住居跡 (写真図版144・175)

位置 2D-159・160グリッド 方位 E-11°-S

規模 東西2.9m 南北3.1m 方形を呈する。

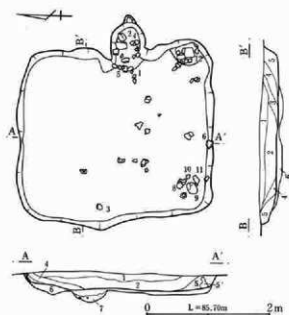
壁高 20cm前後 斜めに立ち上がる。

貯蔵穴 南東隅に僅かに張り出す形で、径30cm、深さ16cmの楕円形状を呈する。上部に羽釜出土。

柱穴 無し 周溝 無し

床面 地山黄褐色土塊混じりの暗褐色土を踏み固めている。竈前は黄褐色土の地山面露出しており堅く踏み固められている。

掘形 竈前は高く掘り残され、北壁寄りから西壁寄りにかけて掘り込み面の凹凸大きい。



第475図 35号住居跡実測図

遺物 南西隅礎及び土師器壺出土。

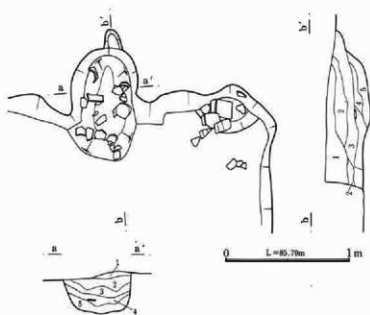
竈

位置 東壁中央

規模 焚口部幅40cm 燃焼部奥行き60cm・幅40cm・深さ35cm 煙道部長さ15cm・幅10cm

煙道部への立ち上がり15cm 斜方向に立ち上がる。

構築 燃焼部は壁外にあり、袖を持たない。火床面は床面よりやや低く、灰の堆積見られる。灰層直上には、天井部崩落土である底面が焼けた黄褐色土の堆積が見られる。掘形は長方形を呈し、壁面は垂直に立ち上がる。壁面は赤茶色に焼けている。竈内出土遺物には、羽釜、土師器壺、その他破片が多く出土している。

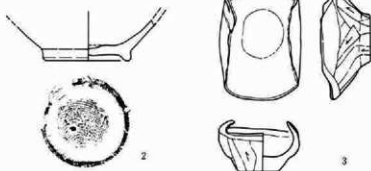
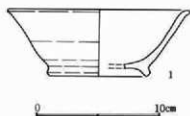


第476図 35号住居跡竈実測図

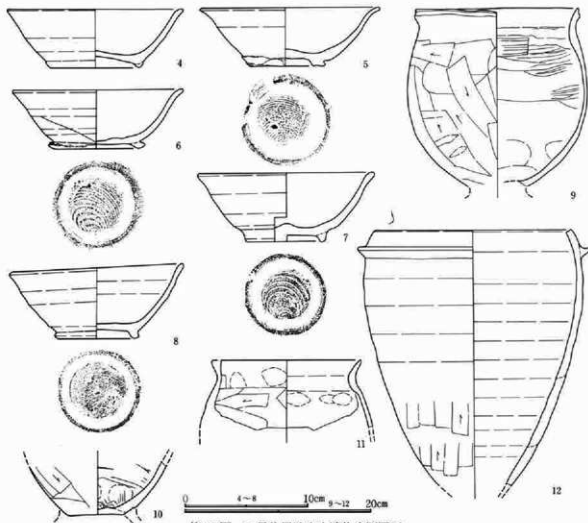
- 1 暗褐色土 焼土粒・炭化物を若干混入。
- 2 暗褐色土 淡褐色土塊を多く含む。
- 3 暗褐色土 淡褐色土の小塊を多く含む。
- 4 明暗褐色土 塊を多く混在する。
- 5 淡暗褐色土 混入物は少ない。
- 5' 暗褐色土塊 植物痕跡。
- 6 暗褐色土
- 7 暗褐色土 黄色土小塊を多量に含む。

甕土層

- 1 暗褐色土 炭化物・焼土粒を多く含む。
- 2 暗褐色土 淡黄色土塊を多量に含む。
- 2' 暗褐色土 淡黄色土塊を主とする。
- 3 暗褐色土 炭化物粒・焼土粒を多く含む。
- 4 赤焼土 赤色焼土塊。
- 5 黒褐色土 炭化物・黒灰を多量に混入。



第477図 35号住居跡出土遺物実測図(1)

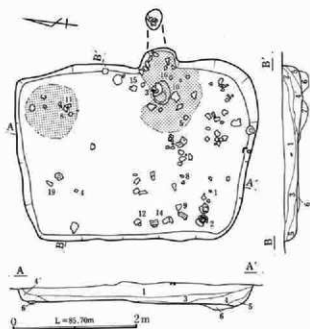


第478図 35号住居跡出土遺物実測図(2)

35号住居出土遺物観察表

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
1	須恵器 碗	竈前 +5	14.4 7.8 5.2 完形	1. 黒褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	輪轆整形。 底部高台貼り付け。
2	須恵器 碗	竈内 +3	- 6.9 3.5 底部	1. 褐色 2. 細砂粒僅かに含む 3. 酸化焰 良好	輪轆整形。 底部右回転糸切り、高台貼り付け、割で。
3	土師器 耳皿	北西 -2	9.3 3.5 3.5 ほぼ完形	1. 赤褐色 2. 砂粒 粘土粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。体部口縁部に向かい縦磨削り。 底部未調整、細砂付着。
4	土師器 碗	竈内 -5	14.0 - 4.7 完形	1. によい褐色 2. 細砂 粘土 粒含む 3. 酸化焰 良好	輪轆整形。 底部右回転糸切り、高台貼り付け、割で。
5	須恵器 碗	竈前 床直	14.1 5.8 4.6 口縁部~底部欠	1. 黒褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部表面厚紙。 底部高台貼り付け、割。
6	須恵器 碗	南壁 +5	13.5 6.5 - 完形	1. によい褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	輪轆整形。 底部右回転糸切り、高台貼り付け、割で。

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
7	須恵器 椀	掘形 +19	12.0 5.9 5.4 口縁部～底部迄	1. 灰黄色 2. 砂粒含む 3. 還元焰 硬質	輪軸整形。 底部左回転糸切り、高台貼り付け、撫で。
8	須恵器 椀	南西隅 +2	13.6 6.1 5.6 口縁部～底部迄	1. 灰白色 2. 細砂粒含む 3. 還元焰 やや硬質	輪軸整形。 底部回転糸切り、高台貼り付け、撫で。
9	土師器 台付罌	南西隅 +1	23.0 - (14.1) 底部欠損	1. によい褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部僅かに外反。口唇部直立比線過る。 胴部上位横方向、その他縦方向彫り、内面刷毛目
10	土師器 台付罌	南西隅 +8	- - (3.8) 胴部下	1. 褐色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 良好	胴部との接合部横撫で、斜方向彫り。 底部内面刷毛目。
11	土師器 罌	南西隅 -5	15.8 - (7.4) 口縁部～胴部上	1. 明赤褐色 2. 細砂粒僅かに 含む 3. 酸化焰 良好	口縁部僅かに外反、横撫で、指頭圧痕有り。 胴部表面摩耗、横方向彫り。
12	須恵器 羽釜	貯蔵穴内 +6	21.0 - (27.2) 底部欠損	1. 灰白色 2. 砂粒含む 3. 還元焰 硬質	口縁部短く内湾、回転撫で。 胴貼り付け、回転撫で、下位縦方向彫り。



- 1 暗褐色土 焼土小塊を含む。 4' 明暗褐色土 淡黄色土粒含む
- 2 暗褐色土 淡黄色土粒を少混 5 暗褐色土 淡黄色土粒を少混
- 3 暗褐色土 淡黄色土粒を含む 6 暗褐色土 淡黄色土粒を少混
- 4 明暗褐色土 淡黄色土塊を含む 7 暗褐色土 淡黄色土粒混在。

第479図 36号住居跡実測図

36号住居跡 (写真図版144・175・176)

位置 2 E・2 F-160・161グリッド

方位 N-88'-E

規模 東壁3.8m 西壁3m 東西2.8m 台形状を呈する。

壁高 北壁及び西壁は20cm、東壁及び南壁は30cmを測り、斜めに立ち上がる。

貯蔵穴 北西隅を除き、各隅に遺物を多量に出土する径70cmの円形土坑がある。また、中央やや西寄りに50×38cm、深さ18cmの長方形の土坑がある。

柱穴 無し

周溝 北壁下のみ上端12cm、深さ3cmの規模を持つ。

床面 南に傾き、掘形により掘り窪められた部分のみに暗褐色土を入れ踏み固めている。地山露出部分は、踏まれて堅く締まり暗黄褐色土に変色している。また、電前は灰の広がり見られる。

掘形 住居中央から北西部分を除き、大部分は円形や楕円形の土坑状の掘り込みにより、掘形面の凹凸が激しく床面にも影響を与えている。

遺物 南半分の覆土中に羽釜破片、須恵器椀、埴破片多量に出土。

竈

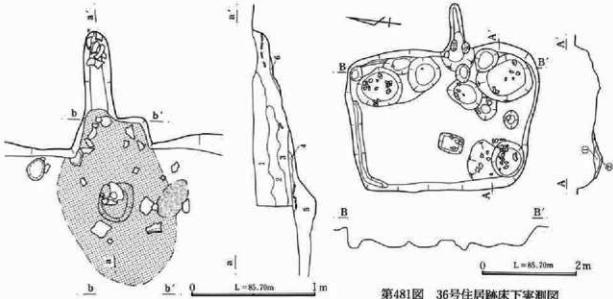
位置 東壁中央南寄り

規模 竈口部幅50cm 燃焼部奥行き40cm・幅50cm・
深さ30cm 煙道部長さ65cm・幅20cm

煙道部への立ち上がり13cm 斜めに立ち上がる。

構築 燃焼部中心は壁の延長線上にあるが、竈口部
には袖は見られず、左壁面に竈を設置し補強材とし

て利用している。火床面は床面と同レベルであるが、
前方には灰の掻き出しによる穴があき、灰の堆積が
見られる。掘形は方形を呈し、壁面は垂直に立ち上
がり、煙道部に向かい焼けている。煙道部やや斜め
に伸びる。天井部は崩落せず残り、掘形は方形を呈
する。煙出し部には土釜と呼ばれる土器や土師器、
須恵器の甕の破片を利用している。

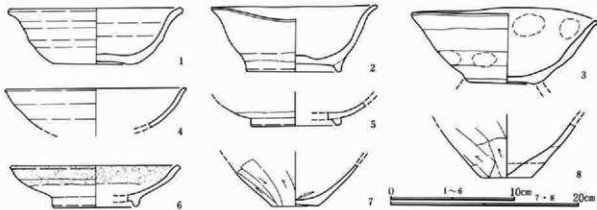


第481図 36号住居跡床下実測図

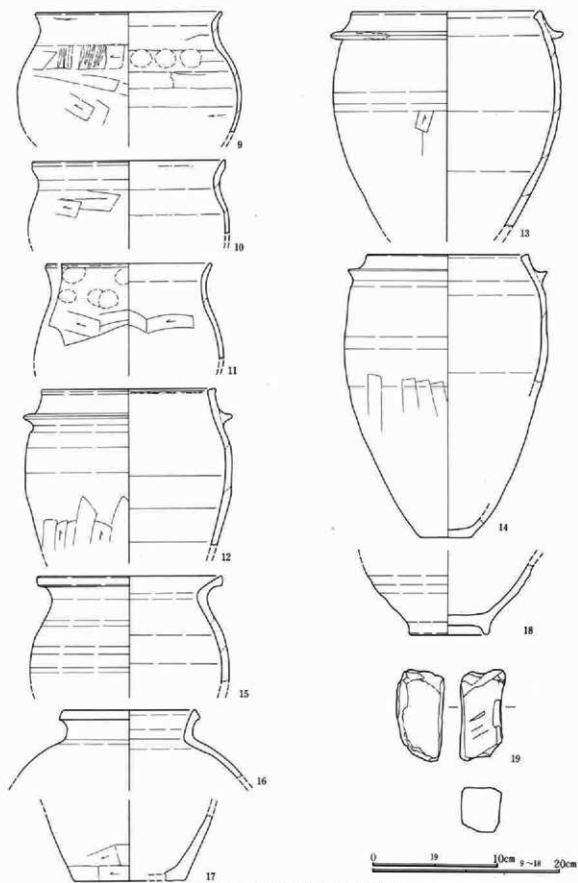


- | | | | |
|---------|----------------------|--------|------------------|
| 1 暗褐色土 | 焼土塊・黄褐色粘土塊を含んでいる。 | ① 暗褐色土 | 黄褐色粘土粒の大小を含んでいる。 |
| 2 暗褐色土 | 焼土塊の含有量が少なくなる。 | ② 暗褐色土 | 黄褐色粘土の量は少ない。 |
| 3 暗褐色土 | 暗褐色土中にわずかに焼土粒を含んでいる。 | 6 暗褐色土 | 焼土は含まない。 |
| 4 黄褐色土 | 黄褐色粘土と焼土塊、灰の混合層。 | | |
| 5 黒灰褐色土 | 灰・木炭・焼土塊の混合層。 | | |

第480図 36号住居跡竈実測図



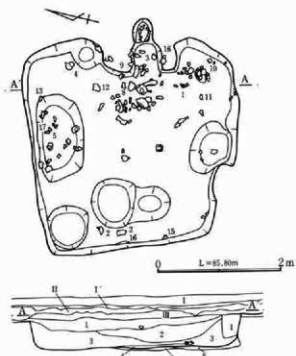
第482図 36号住居跡出土遺物実測図(1)



第483図 36号住居跡出土遺物実測図(2)

36号住居出土遺物観察表

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
1	須恵器 杯	南西隅 -3.5	13.6 6.5 4.5 口縁部~底部迄	1. 灰白色 2. 小石 粘土粒含む 3. 還元焰 軟質	轆轤整形、外反。 胴部表面摩耗。底部貼り付け高台痕跡残る。
2	須恵器 碗	南西隅 -1	13.0 7.2 5.1 ほぼ完整	1. におい褐色 2. 白色細粒 粘 土粒含む 3. 還元焰 軟質	轆轤整形、外反、表面摩耗。 底部高台貼り付け。
3	土器器 碗	南東電筒 +6	14.6 5.4 6.0 ほぼ完整	1. におい赤褐色 2. 細砂粒多 量に含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で、胴部手づくね様に指頭圧痕有り。 底部砂粒多量に含む。高台接合痕有り。
4	灰輪陶器 碗 ?	北西 +2	14.1 - (3.0) 破片	1. 灰黄色 2. 精選 3. 還元焰 硬質	轆轤整形。 口唇部わずかに外反。
5	灰輪陶器 皿	南東 -	6.4 (1.8) 底部の片	1. 灰白色 2. 精選 3. 還元焰 硬質	体部灰輪漬け掛け。 底部高台貼り付け、撫で。
6	灰輪陶器 皿	南西隅 +9	13.2 7.0 3.3 口縁部~底部の片	1. 灰白色 2. 精選 3. 還元焰 硬質	口縁部僅かに外反。 体部横漬け掛け。底部高台部貼り付け、撫で。
7	土器器 甕	南西 +26	- 4.9 (5.0) 底部~体部下の片	1. におい褐色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 良好	胴部下位斜方向篋有り。 底部平底やや小さい。内面尖底気味、砂粒付着。
8	土器器 甕	北東 +1	- 4.0 (4.5) 底部~体部下の片	1. におい褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	胴部下位斜方向篋有り。 底部平底やや小さい。内面尖底気味、砂粒付着。
9	土器器 甕	南西 -	19.8 - (13.0) 口縁部~体部上	1. 灰赤色 2. 細砂粒僅かに含 む 3. 酸化焰 良好	口縁部短く外反。頸部横撫で、指頭圧痕有り。 胴部上位横方向篋有り、上半斜方向篋有り。
10	土器器 甕	南東 +8	20.4 - (7.0) 口縁部~体部上片	1. 褐色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部~頸部横撫で、口唇部直立し沈線露る。 胴部上位横方向篋有り。
11	土器器 甕	南西隅 -2	17.4 - (10.0) 口縁部~体部上片	1. におい褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部~頸部短く外反、横撫で、指頭圧痕有り。 胴部上位横方向篋有り、内面横方向刷毛目。
12	須恵器 羽釜	北西 +13	18.4 - (17.0) 口縁部~胴中部片	1. におい褐色 2. 砂粒 小石 粘土粒含む 3. 還元焰 良好	口縁部回転撫で、頸部平坦面内傾。胴貼り付け。 胴部上下階差撫で、上半回転撫で。
13	須恵器 羽釜	楕形 +2	19.6 - - 口縁部~胴部下片	1. におい褐色 2. 細砂 粘土 粒含む 3. 酸化焰 良好	頂部肥厚、内傾。胴貼り付け、下面縮れる。 胴上半回転撫で。底部下半縦方向篋有り。
14	須恵器 羽釜	南東 +12	17.0 5.3 29.8 口縁部~底部の片	1. におい褐色 2. 粗砂粒含む 3. 中性焰 軟質	口縁部短く、頂部平坦、内傾。 胴部上半縦方向篋有り、胴貼り付け。底部篋有り。
15	須恵器 甕	北東 +27	19.5 - (11.4) 口縁部~体部上片	1. 灰白色 2. 小石 粘土粒僅 かに含む 3. 還元焰 良好	口縁部外反、端部折り返し後撫で。頸部絞り込まれ、 回転撫で、轆轤整形、球形胴。
16	須恵器 甕	電燈道 +1	14.0 - (7.0) 口縁部~体部上	1. 灰黄色 2. 粘土粒僅かに含 む 3. 還元焰 良好	口縁部外反、端部折り返し後撫で。 頸部絞り込まれる。球形胴。
17	須恵器 甕	覆土 -	10.6 - 底部の片	1. 明赤褐色 2. 細砂粒僅かに 含む 3. 還元焰 軟質	胴部、下位篋撫で。
18	須恵器 碗	南東 -14	- 6.0 (6.4) 底部~胴部下	1. におい褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 軟質	轆轤整形、表面摩耗。 底部高台貼り付け。
19	砥石	北西 +3	7.2 3.8 3.1	140#	砥石



第484図 37号住居跡実測図

I～IVは基本土層断面

- 1 暗褐色土 黄色土小塊を若干含む。
2 暗褐色土 黄色土塊が大きい。

- 3 暗褐色土 焼土・炭化物粒を含む。黄色土塊は混入しない。
4 黒褐色土 黒灰を主とした土層。
5 暗褐色土 黄色土塊をかなり多量に混在。
6 暗黄褐色土 灰・木炭・焼土粒を含む。

竈

位置 東壁中央

規模 焚口部幅48cm 燃烧部奥行き45cm・幅45cm・

深さ48cm 煙道部長さ30cm・幅25cm

煙道部への立ち上がり30cm 垂直に立ち上がる。

37号住居跡 (写真図版145・176・177)

位置 2G-162グリッド 方位 N-82°-E

規模 東西3.3m 西壁2.5m 東壁3.2m 南壁中央部東部分が迫り出す形になる。

壁高 50cm前後 ほぼ垂直に立ち上がる。

貯蔵穴 北壁中央下に長辺1.3m、短辺75cm、深さ15cmの隅丸長方形の土坑があり、土師器甕や須恵器碗等が出土している。

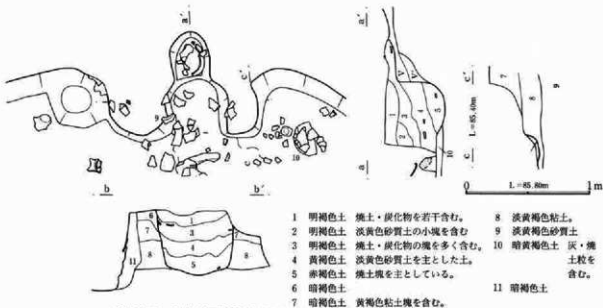
柱穴 無し 周溝 無し

床面 黄褐色土塊混じりの暗褐色土を薄く踏み固めている。竈前には焼土、灰の広がり見られる。

掘形 北壁と南壁下部に円形土坑などの掘り込みが見られ、その周辺は起伏が大きく、結果として中央部は高く掘り残されたように見える。

遺物 竈前から南東隅にかけて多量に出土。

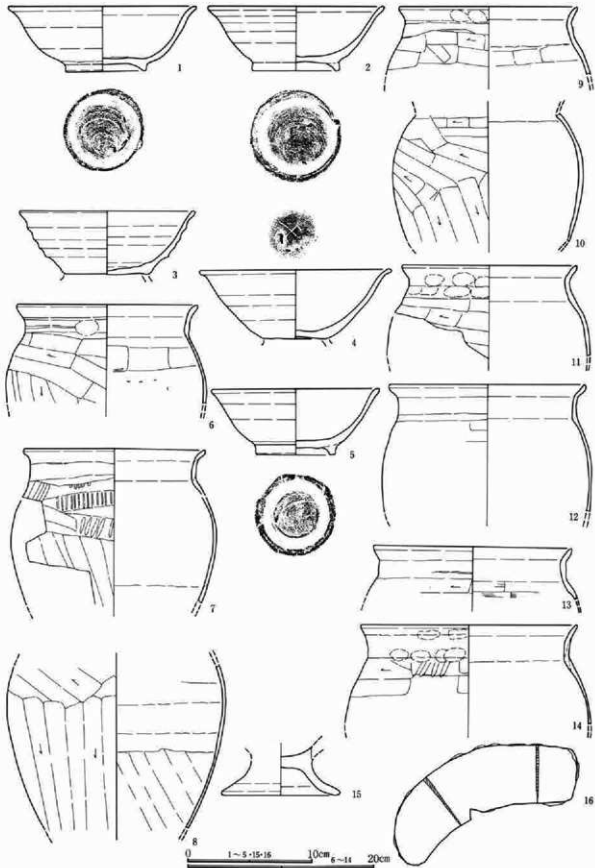
構築 燃烧部は住居内にあり、地山掘り残しの袖を持つ。火床面は床面より8cm程低く、灰層の堆積見られる。掘形面は方形を呈し、壁面は垂直に立ち上がり、赤茶色に焼き締まっている。煙道部には土師器甕口縁部が倒立の状態出土。



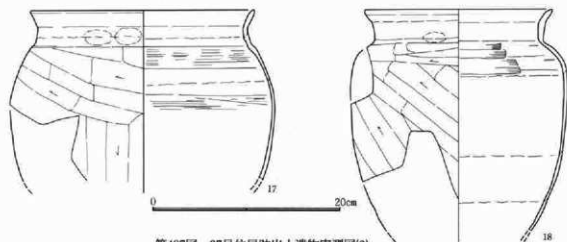
第485図 37号住居跡竈実測図

- 1 明褐色土 焼土・炭化物を若干含む。
2 明褐色土 淡黄色砂質土の小塊を含む。
3 明褐色土 焼土・炭化物の塊を多く含む。
4 黄褐色土 淡黄色砂質土を主とした土。
5 赤褐色土 焼土塊を主としている。
6 暗褐色土
7 暗褐色土 黄褐色粘土塊を含む。
8 淡黄褐色粘土。
9 淡黄褐色砂質土。
10 暗黄褐色土 灰・焼土粒を含む。
11 暗褐色土

第3節 Ⅲ区検出の遺構と遺物



第486図 37号住居跡出土遺物実測図(1)



第487図 37号住居跡出土遺物実測図(2)

37号住居出土遺物観察表

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
1	須恵器 碗	電前 +6	15.0 6.4 5.2 口径部～底部	1. 黄灰色 2. 砂粒含む 3. 還元焰 軟質	轆轤整形。 底部右回転糸切り痕、高台部貼り付け、撫で。
2	須恵器 碗	北東 -4	14.1 7.0 5.1 口径部～底部	1. にぶい黄色 2. 砂粒 粘土 粒含む 3. 還元焰 軟質	轆轤整形。 高部右回転糸切り、高台部貼り付け、撫で。
3	須恵器 坏	電内 +3	14.0 - 7.0 片	1. にぶい黄褐色 2. 細砂粒含 む 3. 還元焰 軟質	轆轤整形、底部剥落。高台部貼付け板
4	須恵器 碗	北東 -14	15.3 (5.4)(5.4) 口径部～底部	1. 褐色色 2. 微砂粒含む 3. 還元焰 軟質	轆轤整形。 底部全面割離。
5	須恵器 碗	南西隅 -1	13.4 6.4 5.2 口径部～底部	1. にぶい黄褐色 2. 細砂粒含 む 3. 酸化焰 良好	轆轤整形。 底部回転糸切り、高台部貼り付け、内面割書。
6	土師器 壺	電前 -1	19.3 - (10.4) 口径部～胴部上	1. 褐色 2. 細砂 粘土粒含む 3. 酸化焰 硬質	口径部短く外反、横撫で。頸部刮削り後横撫で、 指頭圧痕有り。上位横置削り、中位縦方向削り
7	土師器 壺	電雑道 +7	19.4 - (16.5) 口径部～胴部	1. にぶい褐色 2. 細砂粒 粘 土粒含む 3. 酸化焰 良好	頸外置削り後横撫で、接合痕あり。 胴部上位横置削り、下半縦方向削り、内面撫で
8	土師器 壺	電前 +1	- - (17.0) 胴部上～胴部下	1. にぶい褐色 2. 細砂 粘土 粒含む 3. 酸化焰 良好	胴部縦方向削り、上半斜方向削り、 内面下半斜方向削り、中位横撫で。
9	土師器 壺	電内 -8	19.0 - (7.2) 口径部～頸部	1. 褐色 2. 細砂 粘土粒含む 3. 酸化焰 良好	口径部外反横撫で。頸部刮削り後横撫で。 胴部上位横置削り、内面撫で。
10	土師器 壺	南東隅 +9	- - (13.5) 頸部～胴部小片	1. にぶい褐色 2. 粘土粒含む 3. 酸化焰 良好	胴部上半斜方向削り、下半縦方向削り。
11	土師器 壺	南東 -4	19.6 - (9.5) 口径部～頸部	1. にぶい褐色 2. 細砂 粘土 粒含む 3. 酸化焰 やや軟質	口径部外反、横撫で。頸部指頭圧痕、接合痕あり。 胴部上位横置削り。
12	土師器 壺	北東 +23	21.0 - (13.4) 口径部～胴部	1. 褐色 2. 粘土粒含む 3. 酸化焰 良好	口径部外反、横撫で。 胴部表面摩耗。
13	土師器 壺	北東 +1	21.2 - - 口径部～頸部小片	1. にぶい褐色 2. 白色細粒 粘 土粒含む 3. 酸化焰 良好	口径部外反、横撫で。頸部刮削り後横撫で。 胴部上位横置削り、内面刷毛目。

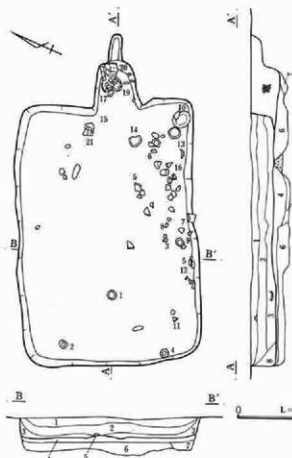
番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・直径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
14	土師器 壺	竈内 -11	23.0 - (10.5) 口径部~胴部	1. によい褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横線で、指頭正底、接合痕あり。 胴部上位横方向瓦割り、中位斜方向瓦割り。
15	土師器 台付壺	南西隅 -1	- 9.4 (3.8) 脚部のみ	1. 褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	脚部横線で。
16	鉄 鉢	西壁床直	14.8 4.8 0.15 66.70R		ほぼ完存。基端部僅かに折り返し、全体に湾曲。
17	土師器 壺	南西隅 -8	20.0 - - 口径部~胴部	1. によい褐色 2. 粘土粒含む 3. 酸化焰 良好	口頸部指頭正底有り、横線で。胴部上位横方向瓦割り、中位斜方向瓦割り。肩部張る。
18	土師器 壺	北東 -1	20.0 - (23.8) 口径部~胴部尾	1. によい褐色 2. 粘土粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部外反、横線で。頸部指頭正底有り、横線で 胴部上位横方向、上半斜方向、下半縦方向瓦割り

38号住居跡 (写真図版145・177・178・179)

位置 W-140・141グリッド 方位 N-77°E

規模 東西4.1m 南北2.8m 長方形を呈する。

壁高 42cm前後 垂直に立ち上がる。壁面は地山が砂礫層であるため脆く、部分的に崩れている。



第488図 38号住居跡実測図

貯蔵穴 無し 柱穴 無し 周溝 無し

床面 地山黄褐色砂質土と黄褐色土塊混じりの覆土上に、小礫混じりの暗褐色土を入れ踏み固め貼床を作る。電前には焼土、灰が薄く広がる。

掘形 中央やや東よりに長辺2m、深さ20cmの達磨型をした土坑を検出した。

遺物 南壁際に須恵器環、碗、蓋、壺等の完形品がまとまって出土し、西壁よりも須恵器環出土。



第489図 38号住居跡床下実測図

竈

位置 東壁中央

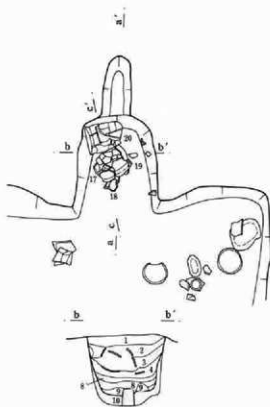
規模 竈口部幅55cm 燃焼部奥行き70cm・幅45cm・

深さ45cm 煙道部長さ45cm・幅20cm

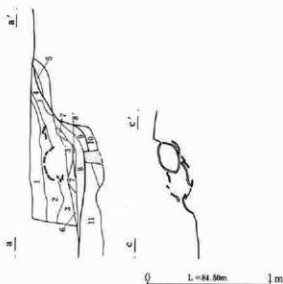
煙道部への立ち上がり25cm 斜方向に立ち上がる。

構築 燃焼部は壁外にあり、袖を持たない。火床面は床面より僅かに低く、灰の堆積見られる。直上には天井部崩落土の黄褐色土と焼土の堆積見られる。

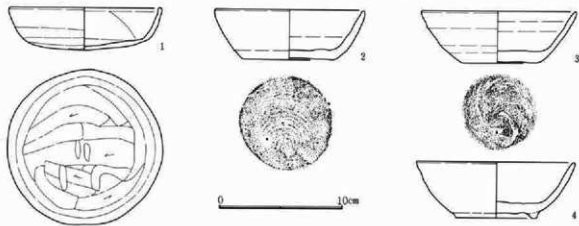
掘形は長方形を呈し、壁面は垂直に立ち上がる。壁面の焼けは、煙道部に向かい赤茶色に焼けている。燃焼部内には、土師器甕が天井部崩落土の上より3個体と須恵器環が横倒しまたは倒立の状態で出土しており、住居廃棄時竈にかけられたままで放置されたものである。煙道部は斜方向に立ち上がり、壁面は僅かに焼けている。



第490図 38号住居跡竈実測図

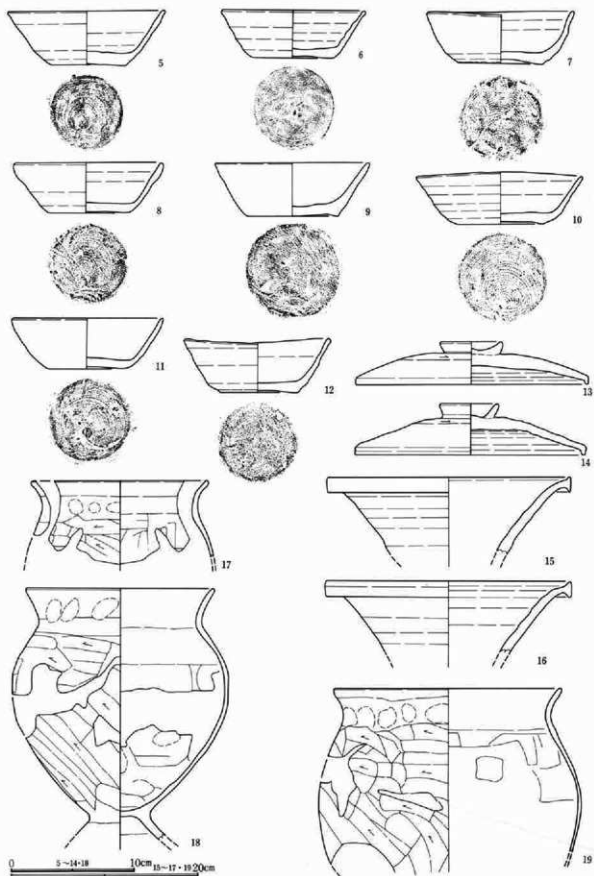


- | | | | |
|---------|---------------|----------|--------------|
| 1 暗褐色土 | 小石が混る。 | 7 赤褐色土 | 天井部に伴う焼土。 |
| 2 暗褐色土 | 小石が混る。 | 8 暗褐色土 | 灰を混在する。 |
| 3 淡褐色土 | 黄土色粘土が混じる。 | 8' 暗褐色土 | 焼土・炭化物を若干含む。 |
| 3' 淡褐色土 | 焼土粒・黄土色粘土の混り。 | 9 灰黄色土 | 焼土粒・黄色土粒を含む。 |
| 4 赤茶色土 | 焼土塊を多量に含む。 | 10 灰褐色土 | 焼土粒・灰色土の混り。 |
| 5 暗褐色土 | 砂礫を含む。 | 11 住居土層6 | |
| 6 黄褐色粘土 | 竈天井部崩落。 | | |



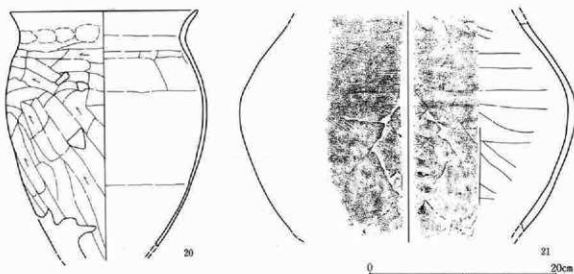
第491図 38号住居跡出土遺物実測図(1)

第3節 Ⅲ区検出の遺構と遺物



第492図 38号住居跡出土遺物実測図(2)

第二章 上栗須遺跡



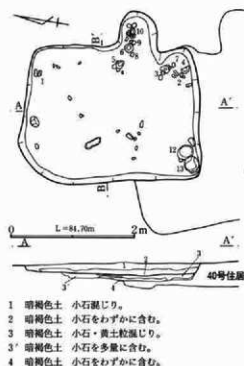
第493図 38号住居跡出土遺物夾函(3)

38号住居出土遺物観察表

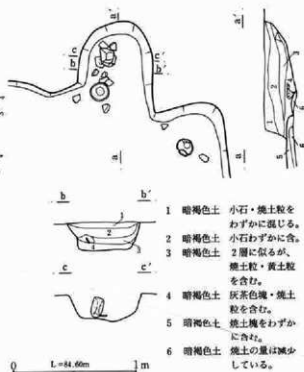
番号	器 種 形	出土位置 (cm)	口径・直径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 構成	整形・調整の特徴
1	土師 甕 坏	中央	12.0 - 3.3 完形	1. 明赤褐色 2. 細砂粒含む 3. 還元焰 良好	口縁部横撫で、口唇部内部、体部指押さえ、 内面撫で、底部平底気味、手持ち覆削り。
2	須恵 器 坏	北西 床直	11.9 7.3 4.0	1. 灰黄褐色 2. 白色粒含む 3. 還元焰 硬質	輪轆整形。胴部回転削削り、自然釉付着。 底部回転余切り後覆削でにより、糸切り痕を消す
3	須恵 器 坏	南西 完形	12.2 6.0 4.1	1. 灰色 2. 小石含む 3. 還元焰 硬質	輪轆整形。 底部右回転余切り。
4	須恵 器 椀	南西隅 +4	12.5 6.5 4.4 完形	1. 灰色 2. 白色片岩小石含む 3. 還元焰 硬質	輪轆整形。底部高台貼り付け、撫で、 回転余切り、撫でにより消失。
5	須恵 器 坏	南東 +1	12.4 6.0 4.2 完形	1. 灰色 2. 白色小石含む 3. 還元焰 硬質	輪轆整形。 底部左回転余切り、未調整。
6	須恵 器 坏	南東 +9	11.2 6.3 4.8 完形	1. 褐色 2. 精選緻密 3. 還元焰 硬質	輪轆整形。 底部回転削削り。
7	須恵 器 坏	南西 床直	11.5 4.1 6.6 完形	1. 灰色 2. 白色 黒色粒含む 3. 還元焰 硬質	輪轆整形。 底部右回転余切り、未調整。
8	須恵 器 坏	南西	10.5 6.2 4.0 完形	1. 灰色 2. 白色小石含む 3. 還元焰 硬質	輪轆整形。 底部右回転余切り、未調整。
9	須恵 器 坏	覆土	12.2 7.2 4.2 完形	1. 灰白色 2. 白色粒 透明粒 含む 3. 還元焰 硬質	輪轆整形。 底部余切り痕。
10	須恵 器 坏	南東隅 +4	13.1 6.9 4.1 完形	1. 灰黄色 2. 小石含む 3. 還元焰 硬質	輪轆整形。 底部右回転余切り。
11	須恵 器 坏	南西 +7	11.9 6.3 4.0 完形	1. 灰白色 2. 白色粒 黒色細 粒含む 3. 還元焰 硬質	輪轆整形。 底部左回転余切り、未調整。
12	須恵 器 坏	南西 +6	11.4 6.3 4.2 完形	1. 灰黄色 2. 白色砂粒含む 3. 還元焰 やや軟質	口縁部表面摩利、輪轆整形。 底部右回転余切り。

第3節 Ⅲ区検出の遺構と遺物

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
13	須恵器 蓋	南東 +2	18.5 — 4.4 完形	1. 灰白色 2. 白色粒 片岩粒 含む 3. 還元焰 硬質	口縁端部折り曲げ、撫で。頂部回転磨り。 狭み部ボタン状張り付け。渦巻き痕あり。
14	須恵器 蓋	南東 +3	18.3 — 4.1 完形	1. 灰白色 2. 白色粒 小石含 む 3. 還元焰 硬質	口縁端部、折り曲げ、回転撫で。頂部回転磨り 狭み部リング状、貼り付け、内面輪軸目あり。
15	須恵器 壺	北東 -4	25.7 — 8.0	1. 灰色 2. 白色 黒色細粒含 む 3. 還元焰 硬質	口縁部外反。口唇部回転撫で。
16	須恵器 壺	北東 +5	25.7 — 7.5	1. 灰色 2. 白色 黒色細粒含 む 3. 還元焰 硬質	口縁部外反。口唇部回転撫で。
17	土師器 壺	壺内	19.0 — — 口縁部～胴部	1. 褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部～胴部横撫で、指頭圧痕有り。 胴部上半横方向磨り。
18	土師器 壺	壺内	14.8 — (21.0) 胴部欠損	1. 灰褐色 2. 微細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部緩く外反、指頭圧痕有り、横撫で。 胴部横撫で。胴部上半横方向、下半縦方向磨り
19	土師器 壺	壺内	24.1 — — 口縁部～胴部	1. にぶい褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部小さく外反、指押しえ痕あり、横撫で。 胴部上半横方向磨り、下半斜方向磨り。
20	土師器 壺	壺内	19.9 — 26.0 底部欠損	1. 明褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部緩く外反、横撫で、指押しえ痕。 胴部上半横方向磨り、下半斜方向磨り。
21	須恵器 壺	北東 -4 胴部		1. 灰色 2. 白色細粒含む 3. 還元焰 硬質	胴部可目、撫で消し。肩部上回転撫で。内面胴部 指押しえ、肩部横撫で、下半部縦及び斜方向指撫で



第494図 39号住居跡実測図



第495図 39号住居跡電測図

39号住居跡 (写真図版146・179)

位置 X-142グリッド 方位 E-2°-S

重複 40号住居を切っている。

規模 東西2.2m 南北2.8m ほぼ方形状を呈する。

壁高 18cm前後 やや傾いて立ち上がる。

貯蔵穴 南東隅部分に須恵器及び土師器の坏の出土が見られこの部分にあったと思われる。

柱穴 無し 周溝 無し

床面 小礫、黄褐色土塊混じりの暗褐色土を踏み固めている。北側地山露出している。

掘形 北西部分に楕円形の浅い掘り込み見られる。

遺物 南西隅に2個体土師器甕が倒立された状態で出土。竈内に須恵器坏、椀出土。

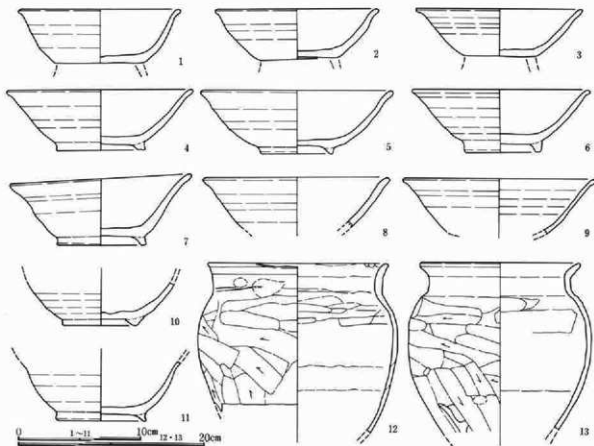
竈

位置 東壁南寄り

規模 焚口部幅45cm 燃焼部奥行き50cm・幅43cm・深さ22cm 煙道部不明

煙道部への立ち上がり17cm 斜方向に立ち上がる。

構築 燃焼部は壁外にあり、焚口部右側は壁面掘り残しの部分があり、左は地山掘り残しによる高まりが見られ、袖状のものがあったと思われる。火床面は床面より僅かに低くなり、焼土塊を含む。燃焼部中央左奥に支脚として利用されていたと考えられる礫が、立てられた状態で出土しており、周辺には須恵器坏の破片出土している。竈掘形は方形を呈し、壁面は垂直に立ち上がる。



第496図 39号住居跡出土遺物実測図

39号住居出土遺物観察表

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・高径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	器形・調整の特徴
1	須恵器 椀	北東 床直	12.6 6.8 (4.3) 口縁部～底部片	1. 灰白色 2. 粘土粒含む 3. 酸化焰 良好	楕圓整形。 底部回転糸切り。
2	須恵器 椀	貯蔵穴内	12.9 6.0 (3.9) 口縁部～底部片	1. 灰白色 2. 粗砂粒僅かに含む 3. 酸化焰 良好	楕圓整形。 底部回転糸切り。
3	須恵器 椀	貯蔵穴内 +1	13.1 5.6 (3.7) 完形	1. 灰白色 2. 粗砂粒含む 3. 還元焰 やや軟質	楕圓整形。 底部右回転糸切り、高台貼り付け痕有り。
4	須恵器 椀	貯蔵穴内	14.5 6.8 4.7 口縁部～底部片	1. 灰白色 2. 粗砂粒含む 3. 酸化焰 良好	楕圓整形。 底部高台貼り付け、撫で消し、難。
5	須恵器 椀	電手前 +20	14.8 (5.5) 5.0 完形	1. 灰褐色 2. 粗砂粒含む 3. 還元焰 硬質	楕圓整形。 底部高台貼り付け、撫で消し。
6	須恵器 椀	竈内 床直	14.2 5.7 5.0 完形	1. 灰白色 2. 粗砂粒含む 3. 還元焰 軟質	楕圓整形。 底部右回転糸切り、高台貼り付け、撫で。
7	須恵器 椀	貯蔵穴内	14.2 6.7 5.2	1. 灰白色 2. 精選 3. 酸化焰 良好	楕圓整形、表面摩耗。 底部高台貼り付け。
8	須恵器 椀	電手前 -1	14.6 - 4.0 底部欠損	1. 黄灰色 2. 粘土粒含む 3. 酸化焰 良好	楕圓整形。
9	須恵器 椀	竈覆土 -2	15.0 - 4.3 底部欠損	1. 黒色 2. 夾雑物多く含む 3. 酸化焰 良好	楕圓整形。
10	須恵器 椀	竈内 床直	- 5.7 (3.4) 口縁部欠損	1. 灰白色 2. 粘土粒含む 3. 還元焰 やや軟質	楕圓整形。 底部回転糸切り、高台貼り付け。
11	須恵器 椀	竈覆土	- 6.7 (4.8) 口縁部欠損	1. 灰白色 2. 粗砂粒含む 3. 還元焰 硬質	楕圓整形。 底部回転糸切り、高台貼り付け、撫で。
12	土器 甕	北東 -5	18.6 - - 胴部下～底部欠損	1. 濃い褐色 2. 粘土 砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部短く僅かに外反。胴部上下端強い撫で、指痕注痕有り。胴部上位横、中位斜縦方向蔑削り
13	土器 甕	南西 +3	16.7 - - 底部欠損	1. 赤褐色 2. 粗砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部短く外反、胴部強い撫で、コの字明瞭。胴部上位斜方向蔑削り、下半縦方向蔑削り。

40号住居跡 (写真図版146・179・180)

位置 X-142・143グリッド 方位 N-75°-E

重複 39号住居に北東部分を切られ、南壁中央で18号土坑を切っている。

規模 東西2.7m 南北3.5m 長方形を呈する。

壁高 35cm前後 やや傾いて立ち上がる。

貯蔵穴 南東隅 1辺45cm、深さ20cmの方形状を呈する。土器器坏出土。

柱穴 無し 周溝 無し

床面 黄褐色土塊混じりの暗褐色土を薄く踏み固め

ている。

掘形 全体にフラットな面に仕上げられている。

遺物 甕右土器器坏、住居中央に土器器坏出土。

竈

位置 東壁中央南寄り

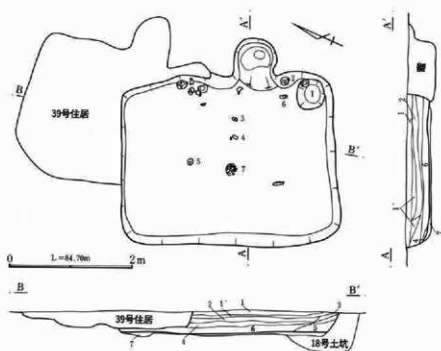
規模 焚口部幅56cm 燃焼部奥行70cm・幅55cm・深さ44cm 煙道部不明

煙道部への立ち上がり40cm 垂直に立ち上がる。

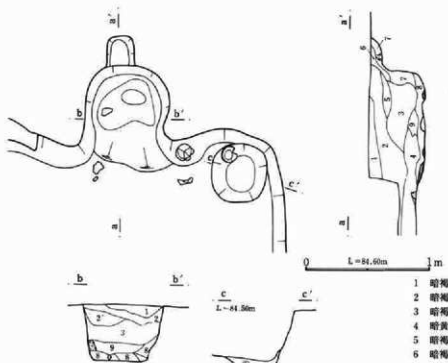
構築 燃焼部は壁外にあり、焚口部に地山掘り残し

の袖が僅かに見られる。火床面は床面よりやや低く、黄褐色土粒子や焼土塊見られる。直上には天井部崩落土である、焼土層や黄褐色土の堆積見られる。掘

形は長方形を呈し、壁面は垂直に立ち上がる。壁面の焼けは斜方向に上がる

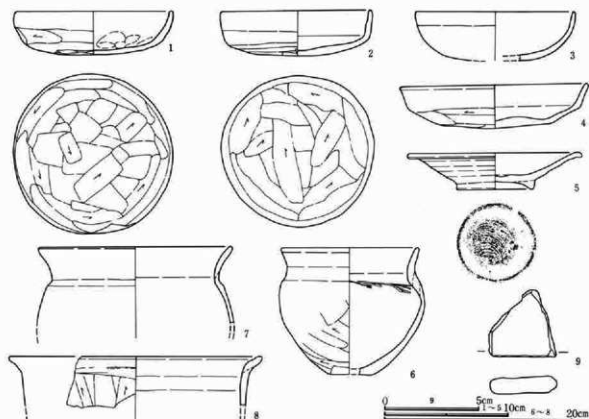


第497図 40号住居跡実測図



第498図 40号住居跡実測図

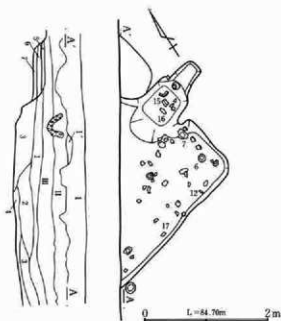
第3節 III区検出の遺構と遺物



第499図 40号住居跡出土遺物実測図

40号住居出土遺物観察表

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
1	土器 器環	貯蔵穴内	12.2 - 3.4	1. 褐色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。胴部指頭圧痕有り、撫で。 胴部上位未調整。底部手持ち痕有り。
2	土器 器環	南東壁 +19	11.8 - 3.5 ほぼ実形	1. 褐色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で、直立、下位未調整。 体部～底部手持ち痕有り。
3	土器 器環	中央 +1	12.4 - 3.9 底面欠損	1. 褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。 体部～底部手持ち痕有り。
4	土器 器環	中央 +18	14.6 - 3.5 完形	1. 褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。 体部～底部手持ち痕有り。
5	須恵器	北西中央 +16	13.5 5.8 2.9 完形	1. 褐色 2. 砂粒 粘土粒含む 3. 酸化焰 良好	楕圓整形。 底部回転糸切り、高台貼り付け、撫で。
6	土器 小型甕	南東	- 3.4 - 口縁部欠損	1. 褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	胴部上位横撫で、下半斜方向磨削り。 底部磨削り。
7	土器 甕	中央 +35	20.4 - 8.2 口縁部～胴部	1. 明赤褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部～胴部横撫で、下端鋭い稜を持つ。 胴部上位横方向磨削り。
8	土器 甕	覆土	26.7 - 5.2 口縁部～胴部	1. 明褐色 2. 精選 3. 酸化焰 良好	口縁部短く外反、横撫で。 胴部上位縦方向磨削り。
9	砥石	覆土	3.5 3.6 0.9	30℃	砥石



第500図 41号住居跡実測図

41号住居跡 (写真図版147・180・181)

位置 X-140・141グリッド 方位 N-86°-E
規模 南東半分のみの調査 他の部分は調査区外のため未調査。

壁高 35cm前後 垂直に立ち上がる。

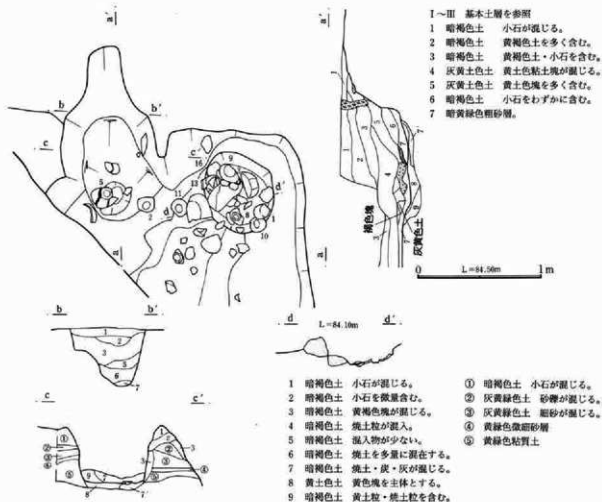
貯蔵穴 南東隅 径70cm、深さ25cmの規模を持ち、覆土中には焼土や灰を含む。貯蔵穴内から30cm程の割れた大礫と須恵器椀、土師器環、小型台付甕等が出土している。

柱穴 無し 周溝 無し

床面 小礫湿じりの暗褐色土を踏み固めている。電前は焼土、灰の広がり見られる。

掘形 電前に高まり見られ、他の部分は凹凸大きい。

遺物 貯蔵穴周辺に遺物が集中して出土している。



第501図 41号住居跡電実測図

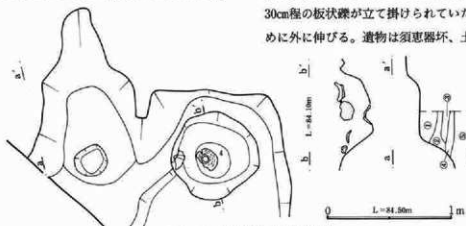
竈

位置 東壁

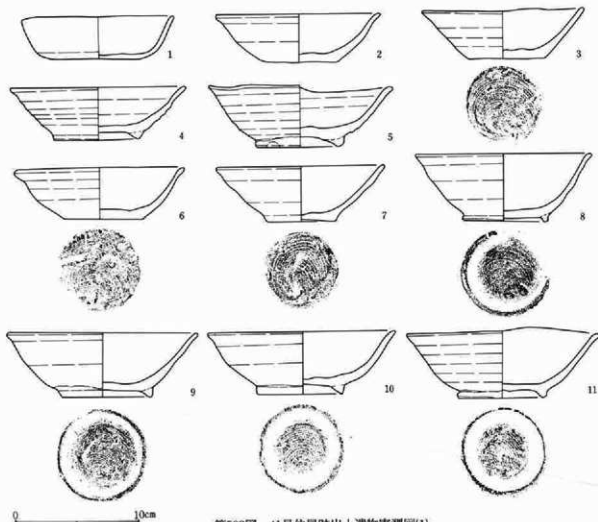
規模 焚口部幅65cm 燃焼部奥行き60cm・幅50cm・
深さ55cm 煙道部長さ35cm・幅25cm

煙道部への立ち上がり43cm 斜方向に立ち上がる。

構築 燃焼部中心は壁の延長線上にあり、焚口部に
地山掘り残しの袖を持つ。火床面は床面より5cm程
下がり、灰の堆積見られる。覆土中層に暗黄褐色土
の天井部崩落土の堆積見られる。掘形は長方形に
掘られ、壁面は垂直に立ち上がる。燃焼部右内壁に
30cm程の板状礎が立て掛けられていた。煙道部は斜
めに外に伸びる。遺物は須恵器杯、土師器壺出土。

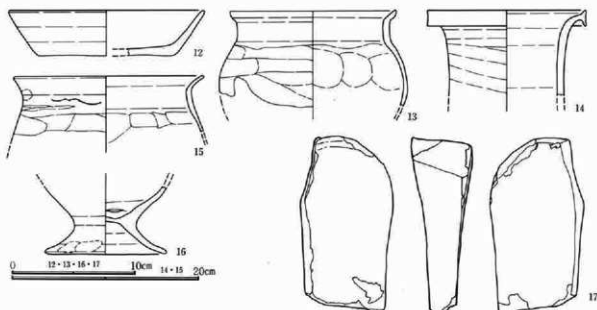


第502図 41号住居跡竈掘形実測図



第503図 41号住居跡出土遺物実測図(1)

第二章 上栗須遺跡



第504図 41号住居跡出土遺物実測図(2)

41号住居出土遺物観察表

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
1	土器 器形 環	貯蔵穴内	12.1 — — 完形	1. 明褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部、体部直線的に開く。 底部平底、表面摩耗。
2	須恵器 器形 環	竈内 +4	13.2 6.1 3.9 完形	1. 灰黄褐色 2. 砂粒 粘土粒 含む 3. 酸化焰 やや軟質	縦壁整形。 底部回転糸切り、未調整。
3	須恵器 器形 環	貯蔵穴内 +7	12.9 6.0 3.7 完形	1. 灰黄褐色 2. 細砂粒含む 3. 還元焰 硬質	縦壁整形。 底部右回転糸切り、未調整。
4	須恵器 器形 椀	貯蔵穴内 -35	13.7 6.8 4.1 口縁部~底部写	1. 黄灰色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	縦壁整形。 底部糸切り、高台部貼り付け、撫で。
5	須恵器 器形 椀	竈内 +4	14.2 7.1 4.8 完形	1. 灰黄色 2. 細砂粒含む 3. 還元焰 やや軟質	縦壁整形。 底部高台部編、貼り付け、撫で。
6	須恵器 器形 環	貯蔵穴内 +23	13.1 6.4 3.9 口縁部~底部写	1. 灰白色 2. 白色 砂粒含む 3. 還元焰 硬質	底部右回転糸切り、未調整。
7	須恵器 器形 環	竈内 +7	13.4 5.6 4.3 完形	1. 黄褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	縦壁整形。 底部回転糸切り、未調整。
8	須恵器 器形 椀	貯蔵穴内 +20	14.0 6.5 5.3 口縁部~底部写	1. 橙色 2. 粘土粒含む 3. 酸化焰 良好	縦壁整形。 底部回転糸切り、高台部貼り付け、撫で。
9	須恵器 器形 椀	貯蔵穴内 +0	15.0 7.1 5.0 口縁部~底部写	1. におい橙色 2. 砂粒 白色 小石含む 3. 還元焰 やや軟質	縦壁整形。 底部左回転糸切り、高台部貼り付け、撫で。
10	須恵器 器形 椀	貯蔵穴内 +4	14.7 6.2 5.0 完形	1. におい橙色 2. 砂粒 片岩 粒含む 3. 酸化焰気味	縦壁整形。 底部回転糸切り、高台部貼り付け、撫で。
11	須恵器 器形 椀	竈前 -5	15.3 7.0 5.3 完形	1. におい橙色 2. 砂粒 粘土 粒含む 3. 還元焰 硬質	縦壁整形。 底部回転糸切り、高台部貼り付け、撫で。

番号	器類 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
12	須恵器 坏	南東 +6	15.6 10.6 3.6 口縁部~底部	1. 灰黄色 2. 白色粒含む 3. 還元焰 良好	口縁部縦縞形。 底部右回転糸切り後周縁部回転削り。
13	土師器 小型甕	貯蔵穴内 +10	13.0 - - 口縁部~胴部上	1. 明赤褐色 2. 細砂粒混かに 含む 3. 還元焰 良好	口縁部短く外反。口部部撫で。胴部横撫で。 コの子状。胴部横方向筋削り、内面指頭圧痕有り
14	須恵器 長頸壺	南東 +20	17.0 - - 口縁部~頸部	1. 暗灰色 2. 精選 3. 還元焰 硬質	口縁部折り返し、回転撫で。
15	土師器 甕	窟内 +3	20.4 - - 口縁部~胴部	1. 明赤褐色 2. 細砂粒含む 3. 還元焰 良好	口縁部外反。胴部筋削り後横撫で。 胴部上位横方向筋削り、内面筋撫で。
16	土師器 台付甕	貯蔵穴内 +10	- 9.7 - 脚部	1. にぶい橙色 2. 細砂粒含む 3. 還元焰 良好	脚部回転撫で、胴部水平方向に開く、指頭圧痕有り
17	磁石	南壁	9.0 3.2 5.0	170#	磁尺

42号住居跡 (写真図版147・181)

位置 2C-153グリッド 方位 E-12°-S

規模 東西2.5m 南北2.6m 方形を呈する。

壁高 15~20cmの間、斜めに立ち上がる。

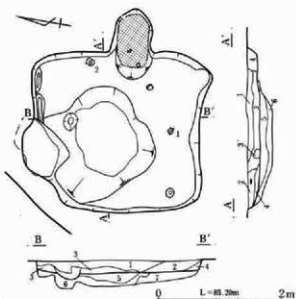
貯蔵穴 無し 柱穴 無し 周溝 無し

床面 黄褐色土塊混じりの暗褐色土を踏み固めなら

しているが、掘形面の影響を受け大きな凹凸見られる。

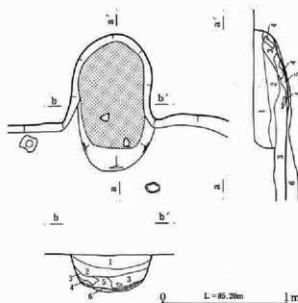
掘形 中央やや北西寄りに径1.4m、深さ10cm程の円形の掘り込みがあり、全体がこれに向かい掘られている。

遺物 須恵器坏が2点出土。



- 1 暗褐色土 黄褐色粘土塊含む。
- 2 暗褐色土 黄褐色粘土塊含む。
- 3 暗褐色土 黄褐色粘土少量。
- 3' 暗褐色土 木炭粒を含む。
- 4 暗褐色土 黄褐色土はほとんど含まれない。
- 5 暗褐色土 黄褐色粘土を含む。
- 6 暗褐色土 黄褐色粘土を多く含む。
- 7 暗褐色土 黄色土塊を多く含む。

第505図 42号住居跡実測図



- 1 暗褐色土 黄褐色土粒を含む。
- 2 暗褐色土 黄褐色粘土が少し含む。
- 3 黄褐色土 天井部の崩落土。
- 4 赤褐色土 天井部の崩落土。
- 5 暗灰色褐色土 灰・木炭・焼土。
- 6 暗褐色土 黄色土塊を多量に含む。

第506図 42号住居跡実測図

甕

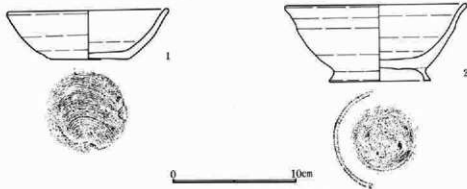
位置 東壁中央南より

規模 焚口部幅55cm 燃焼部奥行き90cm・幅50cm・

深さ43cm 煙道部不明

煙道部への立ち上がり25cm 斜めに立ち上がる。

構築 燃焼部は壁外にあり、袖を持たない。火床面は床面よりやや低く、灰の堆積見られる。直上には黄褐色土の天井部崩落土が堆積している。掘形は長方形を呈し、壁面は垂直に立ち上がる。



第507図 42号住居跡出土遺物実測図

42号住居出土遺物観察表

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
1	須恵器 環	南西 +11	12.6 6.3 3.8 完形	1. 黒色 2. 細砂粒含む 3. 還元焰 良好	輪轆整形。 底部右回転未切り、未調整。
2	須恵器 椀	電左 -4	14.3 8.0 6.0 欠	1. 灰色 2. 粗砂粒含む 3. 還元焰 硬質	輪轆整形、ややいびつ。 底部高台部貼付、割で、右回転未切り破、未調整

43号住居跡 (写真図版148・181・182)

位置 2C・2D-154グリッド 方位E-12°S

規模 東西3m 南北3.2m 北西隅部調査区外のため未調査。

壁高 15cm前後 垂直に立ち上がる。

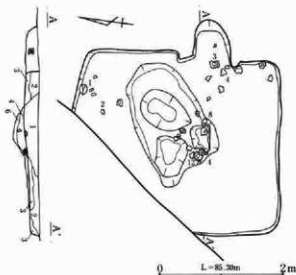
貯蔵穴 南東隅部で張り出す形に掘られる。形状は楕円形を呈し、深さ25cmを測る。

柱穴 無し 周溝 無し

床面 黄褐色土塊混じりの暗褐色土を薄く踏み固めている。部分的に地山露出している。

掘形 中央部から北東隅にかけて、長辺1.8m、短辺1.1m、深さ20cmの隅丸長方形形状を呈する土坑検出した。他の部分はフラットな面に掘られる。

遺物 竈前、中央、北西の各部分に遺物の集中する部分がある。



- 1 暗黒褐色土 階根による覆瓦土。
- 2 黒褐色土 黄色土の小塊を含む。
- 3 暗褐色土 焼土粒を多く混入。
- 4 暗褐色土 黄色土塊多く混入。
- 5 暗褐色土 黄色土塊ほとんど含まれない。

第508図 43号住居跡実測図

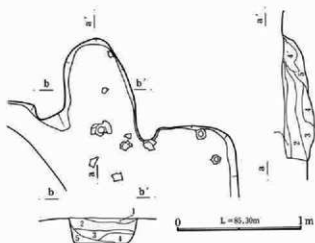
竈

位置 東壁南寄り

規模 突口部幅50cm 燃焼部奥行き70cm・幅47cm・

深さ21cm 煙道部不明

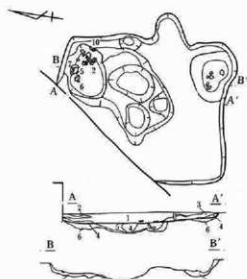
煙道部への立ち上がり15cm 斜方向に立ち上がる。



- 1 暗黒褐色土 隈瓦土。
- 2 暗褐色土 焼土粒・黄色土塊を若干含む。
- 3 暗褐色土 焼土粒・黄色土塊を多く混入する。
- 4 暗褐色土 黄色土の大塊・焼土の混在土。

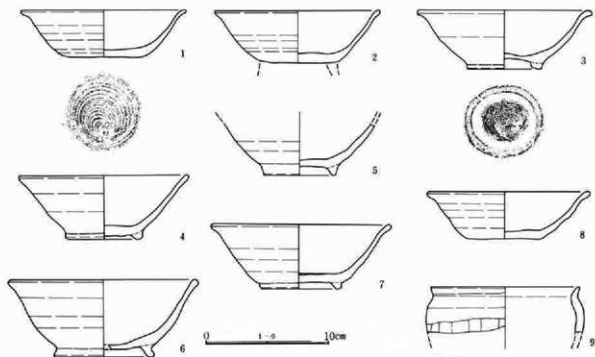
第509図 43号住居跡竈実測図

構築 燃焼部は壁外にあり、突口部に地山掘り残しの袖を持つ。火床面は床面よりやや低く、灰の堆積見られる。直上には黄褐色土を多量に含み焼土混じりの、天井部崩落土を検出した。奥壁は円みを持つが、側壁面は垂直に立ち上がる。



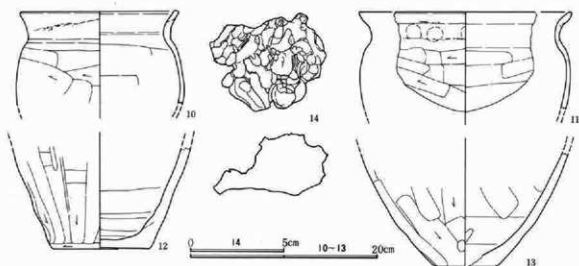
- 4' 暗褐色土 焼土塊を多く含む。
- 5 暗褐色土 炭化物等を含み、灰を混在させた。
- 6 暗褐色土 黄色粘性塊を多量に含む。

第510図 43号住居跡床下実測図



第511図 43号住居跡出土遺物実測図(1)

第II章 上栗須遺跡



第512図 43号住居跡出土遺物実測図(2)

43号住居出土遺物観察表

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
1	須恵器 坏	北東壁 -1	12.9 5.9 3.7	1. 褐色 2. 粗砂 白色 粘土 粒含む 3. 還元焰 良好	輪轆整形。 底部右回転糸切り、未調整。
2	須恵器 椀	北貯蔵穴 +4	12.9 - 4.1	1. にぶい褐色 2. 砂粒 粘土 粒含む。3. 酸化焰 良好	輪轆整形。 底部刺摩
3	須恵器 椀	竈内	13.4 5.9 4.6	1. 浅黄色 2. 粗砂 粘土粒含 む 3. 酸化焰 良好	輪轆整形。 底部右回転糸切り、高台部貼り付け。
4	須恵器 椀	中央 床直	13.3 5.3 5.0	1. 明黄褐色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 良好	輪轆整形、厚托。 底部右回転糸切り、高台部貼り付け。
5	須恵器 椀	北貯蔵穴	- 5.5 4.0	1. 灰黄色 2. 砂粒 粘土粒含 む 3. 酸化焰 良好	口縁部表面摩耗。 底部高台部貼り付け。
6	須恵器 椀	北貯蔵穴 +9	14.6 7.6 6.6	1. 灰色 2. 黒色 白色細粒含 む 3. 還元焰 軟質	輪轆整形。 底部高台部貼り付け、内面指によるえぐり込みあり。
7	須恵器 椀	北貯蔵 穴 +1	14.0 5.9 5.0	1. 黒色 2. 粗砂粒含む 3. 酸化焰 良好	輪轆整形。 底部回転糸切り、高台部貼り付け、撫で。
8	須恵器 坏	竈内 +2	12.6 5.6 3.7	1. にぶい黄褐色 2. 粘土粒 片 岩小礫含む 3. 酸化焰 良好	輪轆整形。 底部右回転糸切り、未調整。
9	土師器 罌	覆土	11.6 - 4.7	1. 浅黄色 2. 粗砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で、短く外反。 胴部上位置削り後撫で。
10	土師器 罌	北東 +9	12.3 - 7.3	1. にぶい褐色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰、良好	口縁部横撫で、頸部段をもつ。 胴部横置削り、内面撫で。
11	土師器 罌	南東 +8	22.3 - 10.3	1. 明赤褐色 2. 砂粒 粘土含 む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で、頸部指須注成有り、強い撫で。 胴部上位置削り後撫で。
12	土師器 罌	中央 +7	- 7.7 8.0 口縁部欠損	1. 褐色 2. 粗砂 粘土粒含む 3. 酸化焰 良好 軟質	胴部縦方向角削り、下端横置削り。 底部平底。
13	土師器 罌	北東 +12	- 4.8 9.0	1. 赤褐色 2. 砂粒 粘土粒含 む 3. 酸化焰 良好	胴部下位斜方向角削り。 底部平底置削り、砂粒付着。
14	鉢	十穴+7		290 E	

44号住居跡 (写真図版148・182)

位置 2E-158グリッド 方位 E-12°-S

重複 46号住居に南半分を切られ、西壁を18号土坑に切られる。

規模 東西2.4m

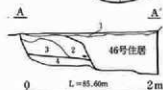
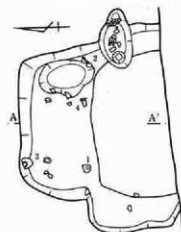
壁高 35cm前後 やや傾いて立ち上がる。

貯蔵穴 不明 柱穴 無し 周溝 無し

床面 黄褐色土塊含む暗褐色土をいれ踏み固める。

掘形 フラットな面に仕上げられている。

遺物 須恵器椀、甕の破片出土。



- 1 褐色土 灰・焼土粒あり。
2 褐色土 灰・焼土粒わずかに含む。
3 暗黄褐色土 焼土粒わずかに含む。
4 暗褐色土 黄色土塊を含む。

第513図 44号住居跡実測図

44号住居出土遺物観察表

番号	器類 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
1	須恵器 椀	北西 +1	— 6.8 3.5 口径部欠損	1. 黒色 2. 白色 透明細粒含む 3. 還元焰 良好	楕圓形。 底部高台貼り付け、回転未切り。
2	須恵器 椀	北東 +27	14.2 — 4.6 瓦	1. 暗灰黄色 2. 白色 黒色細 粒含む 3. 還元焰 軟質	楕圓形。 底部高台貼り付け痕あり。
3	須恵器 椀	北西 -1	14.4 6.1 5.1 瓦	1. 橙色 2. 白色 透明 粘土 粒含む 3. 酸化焰 良好	楕圓形。 底部回転未切り、高台貼り付け、撫で、磨。
4	須恵器 椀	中央 +16	15.2 7.2 6.6 瓦	1. 灰白色 2. 粘土粒含む 3. 還元焰 軟質	楕圓形。 底部高台貼り付け。

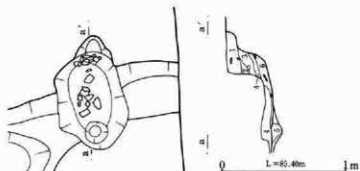
竈

位置 東壁にあり、46号住居に焚口部を切られる。

規模 焚口部不明 燃焼部奥行き60cm・幅50cm・深さ37cm 煙道部長さ20cm・幅15cm

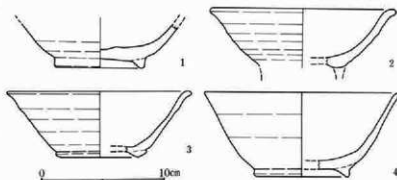
煙道部への立ち上がり20cm 斜めに立ち上がる。

構築 燃焼部中心は壁の延長線上にある。袖部分は削平を受けて不明。火床面は床面より10数cm低く、灰の堆積見られる。掘形壁面はやや袋状を呈する。



- 1 暗褐色土 灰・焼土塊を含む。 4 暗褐色土 黄褐色土塊含む。
2 暗褐色土 黄褐色土塊少量含む。 5 暗褐色土 灰を若干含む。
3 暗褐色土 黄褐色土含む。 6 暗褐色土 灰、多く含む。

第514図 44号住居跡竈実測図



第515図 44号住居跡出土遺物実測図

45号住居跡 (写真図版148・182)

位置 T・U-137グリッド 方位 E-21°-S

重複 14号土坑により西壁を切られている。

規模 東西2.2m 南北3.2m 長方形を呈する。

壁高 28cm前後 ほぼ垂直に立ち上がる。

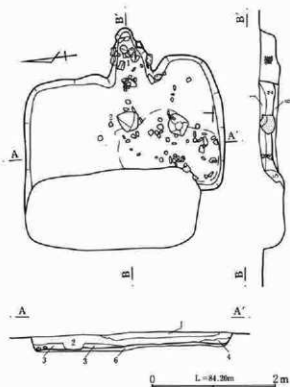
貯蔵穴 無し 柱穴 無し 周溝 無し

床面 小礫混じりの暗褐色土を薄く踏み固めている。

掘形 地山礫面を僅かに掘り込む。

遺物 電前に30cm立方の大礫が2個出土。用途不明。

- 1 暗褐色土 小石・黄土粒。
- 2 暗褐色土 小石・黄土粒多く含む。
- 3 褐色土 小礫わずかに含む。
- 4 灰褐色土 黄褐色細砂わずかに混ざる小石含む。
- 5 褐色土 小石混じり。
- 6 暗褐色土 黄褐色細砂・小石混じり。



第516図 45号住居跡実測図

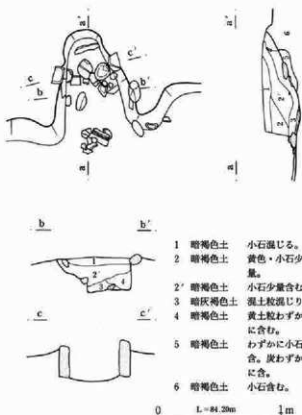
電

位置 東壁中央やや南より

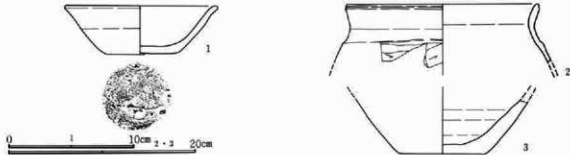
規模 焚口部幅50cm 燃烧部奥行き65cm・幅42cm・深さ28cm 煙道部不明

煙道部への立ち上がり20cm 垂直に立ち上がる。

構築 本住居の電は石組電である。燃烧部に片岩系の角礫と棒状礫を壁面に立て、周囲に暗褐色土混じりの黄褐色土を詰め石を組んでいる。石組は燃烧部内出土礫の状況から、側壁全面に貼られていたと考えられる。また、奥壁には土器が貼られている。燃烧部内右奥には、支脚として利用されていたと考えられる25cmの棒状礫が立てられている。燃烧部は壁外にあり、焚口部に僅かに地山掘り残しの袖を持つ。火床面は床面より僅かに低く、焼土の堆積見られる。



第517図 45号住居跡電実測図



第518図 45号住居跡出土遺物実測図

45号住居出土遺物観察表

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・高さ・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
1	須恵器 杯	竈内 +	11.9 5.5 3.8 欠	1. 灰色 2. 白色 黒色細粒含む 3. 還元焰 発色あり	口縁部輪縁。 底部左部転未切り。
2	土師器 甕	北東 -	20.2 - - 口縁部~頸部	1. 褐色。2. 砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口唇部折り返し、沈線通る。胴部撫で。 胴部上位削り。
3	須恵器 羽蓋	竈内	- 6.8 4.3	1. 黄褐色 2. 白色 透明細粒 含む 3. 酸化焰 良好	胴部撫で、紐通り。 底部平底、蹴削り。

46号住居跡 (写真図版148・182・183)

位置 2 E-158グリッド 方位 E-22°-S

重複 44号住居を切り、18号土坑に切られる。

規模 東西2.3m 南半分は調査区外のため未調査。

壁高 43cm前後 垂直に立ち上がる。

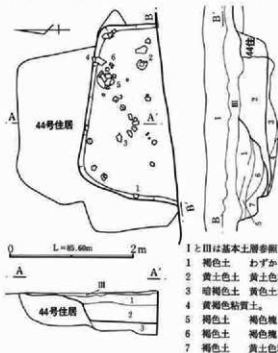
貯蔵穴 不明 柱穴 不明 周溝 無し

床面 黄褐色土塊を多量に含む暗褐色土を踏み固めている。

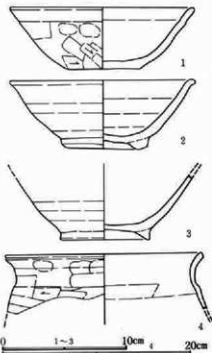
掘形 北西寄りの部分に向け掘り込まれている。

遺物 土師器甕が北東隅に浮いた状態で出土。また、周辺に須恵器椀、甕等が出土している。

竈 不明



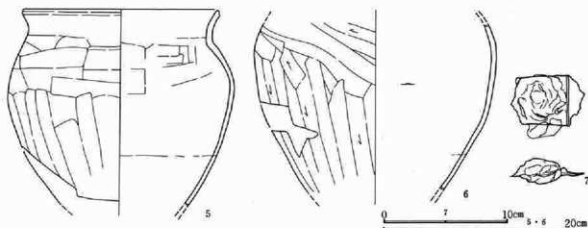
第519図 46号住居跡実測図



第520図 46号住居跡出土遺物実測図(1)

1と2は基本土層参照

- 1 褐色土 わずかに灰・焼土粒あり。
- 2 黄土色土 黄土色粒塊主体。
- 3 暗褐色土 黄土色土塊を多量に混在。
- 4 黄褐色粘質土。
- 5 褐色土 褐色塊・黄土色土粒含む。
- 6 褐色土 褐色塊・黄土色土塊を多く含む。
- 7 褐色土 黄土色粘土塊主体。



第521図 46号住居跡出土遺物実測図(2)

46号住居出土遺物観察表

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・直径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
1	土器器 環	北西 +15	(14.4) - (4.9) 口縁部～底面写	1. 明赤褐色 2. 夾雑物多い 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で、胴部上位指環状直有り、下部蹴削り 底部蹴削り、平底。
2	須恵器 椀	北東 +7	(14.4) 6.6 5.4 ほぼ完形	1. にぶい橙色 2. 粘土粒含む 3. 酸化焰 やや軟質	口縁部縁線整形。 底部高台部貼り付け、切り離し、撫で消し。
3	須恵器 椀	北西 +6	- 7.0 - 写	1. にぶい橙色 2. 粘土粒含む 3. 酸化焰 良好	底部右回転糸切り、高台部貼り付け。
4	土器器 壺	北東 +15	(21.0) - - 口縁部写	1. にぶい橙色 2. 夾雑物含む 3. 酸化焰 良好	口縁部短く外反。口唇部垂直に立ち上がる、沈線高 る。胴部上位横方向蹴削り。
5	土器器 壺	北東 +3	(21.0) - - 口縁部～胴部	1. 明赤褐色 2. 夾雑物含む 3. 酸化焰 良好	口縁部短く外反。口唇部平坦、沈線高 る。胴部上位横方向蹴削り、下位縦方向蹴削り、内面蹴撫で。
6	土器器 壺	北東 +15	- - - 胴部写	1. にぶい橙 2. 夾雑物含む 3. 酸化焰 良好	胴部上位横方向蹴削り、下半縦方向蹴削り。
7	鉄 鏝	覆土	5.6 4.0 0.1 36.3%		錆付着

47号住居跡 (写真図版149・183)

位置 R・S-136・137グリッド 方位 N-90°-E

規模 東西2.7m 南北3.1m 長方形状を呈する。

壁高 25cm前後 やや傾いて立ち上がる。

貯蔵穴 無し 柱穴 無し 周溝 無し

床面 小石混じりの暗褐色土を踏み固めている。

掘形 浅い小ビット状の掘り込みが幾つか見られる

程度であり、フラットな面に仕上げられている。

遺物 電前に須恵器碗と板状磚出土している。

竈

位置 東壁南

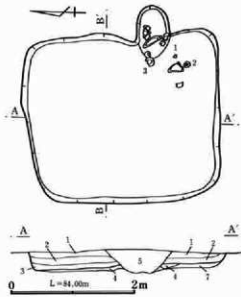
規模 焚口部幅45cm 燃焼部奥行き60cm・幅40cm・

深さ25cm 煙道部不明

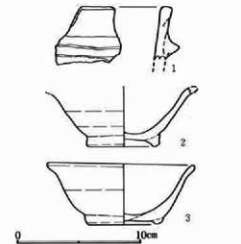
煙道部への立ち上がり20cm 垂直に立ち上がる。

構築 燃焼部は壁外にあり、袖を持たない。焚口部
は、礫を島居状に組んで補強していた。火床面は床
面よりやや低い。また、中央部には支脚として礫を
立てて利用している。

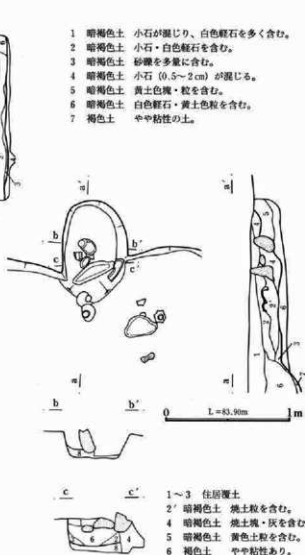
第3節 III区検出の遺構と遺物



第522図 47号住居跡実測図



第524図 47号住居跡出土遺物実測図



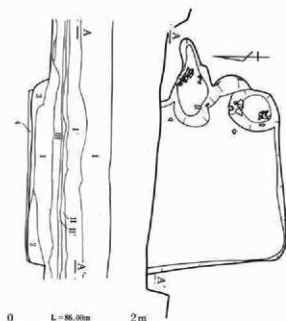
第523図 47号住居跡実測図

- 1 暗褐色土 小石が混じり、白色紅石を多く含む。
- 2 暗褐色土 小石・白色紅石を含む。
- 3 暗褐色土 砂礫を多量に含む。
- 4 暗褐色土 小石(0.5~2cm)が混じる。
- 5 暗褐色土 黄土色塊・粒を含む。
- 6 暗褐色土 白色紅石・黄土色粒を含む。
- 7 褐色土 やや粘性の上。

- 1~3 住居覆土
- 2' 暗褐色土 焼土粒を含む。
- 4 暗褐色土 焼土塊・灰を含む。
- 5 暗褐色土 黄土色粒を含む。
- 6 褐色土 やや粘性あり。

47号住居出土遺物観察表

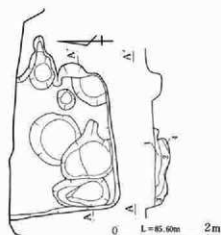
番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
1	須恵器 羽蓋	電前 -2	- - - 破片	1. 褐色 2. 白色透明細粒含む 3. 酸化焙 良好	口縁部側で、鈔貼り付け。
2	須恵器 碗	南東 +11	- 5.2 - 欠	1. におい褐色 2. 白色透明細 粒含む 3. 酸化焙 良好	口縁部縦整形。 底部右回転余切り、高台部貼り付け。
3	須恵器 碗	電前 +13	11.5 5.4 4.8 欠	1. におい褐色 2. 白色、黒色 細粒混かに含む 3. 還元焙良好	口縁部縦整形。 底部右回転余切り、高台部貼り付け。



I~IIIは基本土層参照

- 1 暗褐色土 焼土・炭化物を若干含む。
- 2 暗褐色土 黄色土塊を若干含む。
- 3 暗褐色土 黄色粘土の小塊を含む。
- 4 暗褐色土 黄色粘土塊を多く含む。

第525図 48号住居跡実測図



- 1 暗褐色土 黄色土焼土を多く含む。
- 2 暗褐色土 黄色土を多量に含む。
- 3 暗褐色土 粘土塊を含む。
- 4 暗褐色土 3層に類似する。

第526図 48号住居跡床下実測図

- 1 暗褐色土 白色鯉石を含む。
- 2 暗褐色土 焼土粒・白色鯉石・黄土粒含む。
- 3 暗褐色土
- 4 暗褐色土 黄土粒塊多く含む。
- 5 黄褐色土 黄色粘土主体。
- 6 灰黄色土 黄色土多量に含む。
- 7 暗褐色土 黄土粒混じり。
- 8 暗褐色土 灰を混在する。
- 9 暗褐色土 炭化物・焼土を若干混在させる。
- 10 暗褐色土 焼土粒・黄土粒をわずかに含む。

48号住居跡 (写真図版149・183)

位置 2C・2D-154グリッド 方位 N-80°-E

規模 北半分は道路のため未調査。東西2.7m

壁高 25cm前後 垂直に立ち上がる。

貯蔵穴 南東隅 径65cm、深き26cmの規模を持つ。
土師器甕が出土している。

柱穴 無し 周溝 無し

床面 黄褐色土塊を含む暗褐色土を堅く踏み固めている。電前には焼土、灰の広がりみられる。

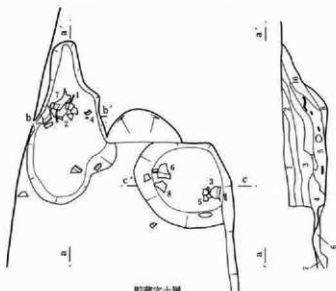
掘形 円形又は楕円形の土坑状の掘り込みがあり、南西隅寄りの楕円形の掘り込みは、覆土中に焼土、炭化物を含み、須恵器が出土している。

遺物 電内と貯蔵穴内から土師器甕が出土しているだけである。

電

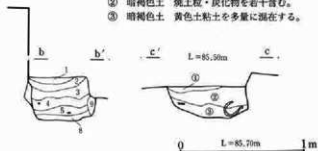
位置 東壁南寄り

規模 焚口部幅55cm 燃焼部奥行き55cm・幅50cm・



貯蔵穴土層

- ① 暗褐色土 黄色粘土小塊を若干含む。
- ② 暗褐色土 焼土粒・炭化物を若干含む。
- ③ 暗褐色土 黄色土粘土を多量に混在する。



第527図 48号住居跡電実測図

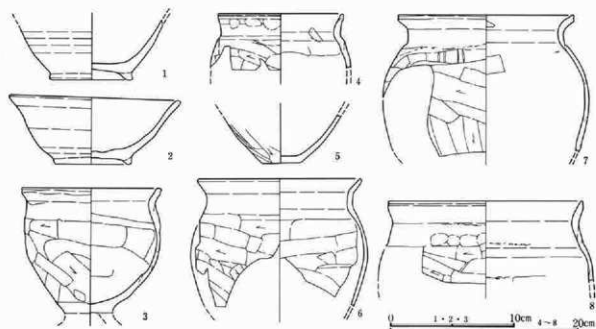
第3節 III区検出の遺構と遺物

深さ35cm 煙道部長さ35cm・幅20cm

煙道部への立ち上がり20cm 斜めに立ち上がる。

構築 燃焼部の中心は壁の延長線上にあり、焚口部に地山掘り残しの袖を持つ。火床面は床面より僅か

に低く、灰の堆積見られる。直上には天井部崩落土の黄褐色土の堆積がある。掘形は長方形状を呈し、壁面は垂直に立ち上がる。壁面は、煙道部に向かい焼けている。



第528図 48号住居跡出土遺物実測図

48号住居出土遺物観察表

番号	器 種 器 形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
1	須恵器 甕	竈内 +8	- 6.2 4.7	1. 黒色 2. 白色細粒 粘土粒 含む 3. 還元焰 硬質	輪軸整形。胴部直線的に開く。 底部回転糸切り後高台張り付け、内外照で。
2	須恵器 甕	竈内 +8	13.3 5.2 5.7 片	1. によい黄褐色 2. 白色細粒 小石含む 3. 酸化焰 軟質	輪軸整形。一部舌状にせり出す。 底部回転糸切り後薄く見える、高台張り付け。
3	土師器 台付 甕	貯蔵穴 +4.5	10.9 - 9.8 台部欠損	1. 明赤褐色 2. 細砂 粘土粒 含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。口唇部比線直る。胴上部斜方向削り。 中位～下位縦方向削り
4	土師器 甕	竈内 +3	13.1 - - 口縁部～胴上半	1. 赤褐色 2. 粗砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部～頸部横撫で。口唇部比線直る。 胴上部斜方向削り
5	土師器 甕	貯蔵穴 +4.5	- 4.0 - 底部のみ	1. 褐色 2. 僅かに細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	下位縦方向削り。底部平底内面突起あり。
6	土師器 甕	貯蔵穴 +7	17.2 - - 口縁部～胴中	1. 赤褐色 2. 粗細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部～頸部横撫で 胴上部斜方向削り 中位～下位縦方向削り
7	土師器 甕	竈内 +10.5	18.4 - - 口縁部～胴中	1. 赤褐色 2. 粗砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部～頸部横撫で。口唇部比線直る。 胴上部斜方向削り 中位～下位縦方向削り
8	土師器 甕	貯蔵穴 +6	20.5 - - 口縁部～胴上部片	1. 褐色 2. 粗砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部～頸部横撫で。口唇部比線直る。 頸部指痕見られる。胴上部斜方向削り。

第II章 上栗須遺跡

49号住居跡 (写真図版150・183・184)

位置 2 F・2 G-169グリッド 方位 E-21°-S

規模 東西3.3m 南北3.6m 方形に近い長方形。

壁高 40cm前後 僅かに傾いて立ち上がる。

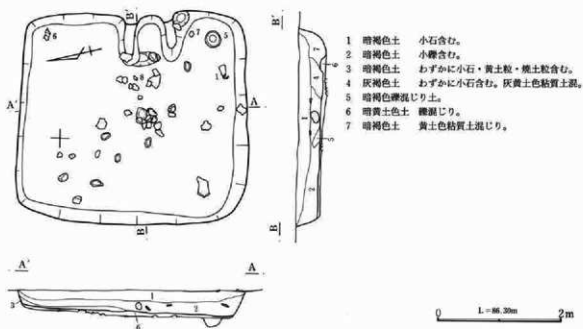
貯蔵穴 土坑状の掘り込みはないが、南東隅に頸部から口縁部にかけて完形の須恵器壺が設置されていた。

柱穴 無し 周溝 無し

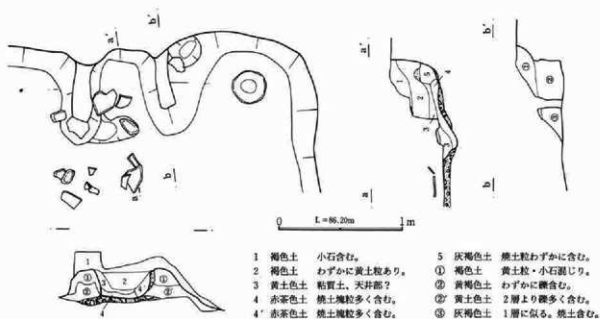
床面 礫混じりの暗褐色土を薄く踏み固めている。

掘形 礫層まで掘られ、全体にフラットな面に仕上げられている。

遺物 床面上には礫が多量に出土している。また遺物は須恵器壺、坏の破片が出土している。



第529図 49号住居跡実測図



第530図 49号住居跡電測図

竈

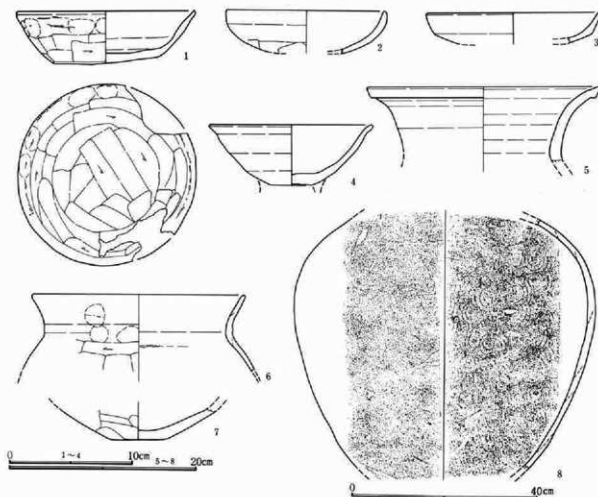
位置 東壁中央やや南寄り

規模 焚口部幅40cm 燃焼部奥行き70cm・幅38cm・

深さ45cm 煙道部不明

煙道部への立ち上がり30cm 垂直に立ち上がる。

構築 燃焼部は住居内にあり、袖部分は黄褐色土と暗褐色土の混土を壁に貼り付けて構築している。火床面は床面と同レベルであるが、前面に灰の掻き出しによる窪みがある。掘形は長方形を呈し、壁面は垂直に立ち上がり、赤茶色に焼けている。



第531図 49号住居跡出土遺物実測図

49号住居出土遺物観察表

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
1	土師器 平鉢	中央 +10	14.1 4.2 8.4 完形	1. 橙色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。指頭圧痕有り。体部下半寛削り。 底部平底寛削り。
2	土師器 平鉢	覆土	12.6 - (3.3) 片	1. 濃い橙色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。体部～底部手持ち寛削り
3	土師器 平鉢	覆土	13.5 - (2.5) 片	1. 橙色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。体部～底部手持ち寛削り

番号	器 種 器 形	出土位置 (cm)	口径・高径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整 形 ・ 調 整 の 特 徴
4	須 志 器 坏	覆土	12.3 - 4.7 ×	1. 黒色 2. 白色細砂粒含む 3. 還元焰 良好	轆轤整形、底部回転未切り後、高台部貼付け横面で。
5	須 志 器 罎	貯蔵穴	24.4 - - 口縁部のみ	1. 灰色 2. 白色細砂粒混じり 3. 還元焰 硬質	折り返し口縁。轆轤整形。
6	土 師 器 罎	北東 +9	22.4 - - 口縁部～胴上部	1. 褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部～胴部横無で。指頭圧痕有り 胴上部斜方向窪有り。
7	土 師 器 罎	北東 +9	- 4.4 - 底部のみ	1. 褐色 2. 細砂粒混じり 3. 酸化焰 良好	胴下位縦方向窪有り。平底。
8	須 志 器 罎	覆前 +5	- - - ×	1. 灰色 2. 砂粒含む 3. 還元焰 硬質	胴部外面印目。内面中位に円形当て具痕見られる

50号住居跡 (写真図版150・184)

位置 2H-168・169グリッド 方位 E-10°-S

規模 東西4.6m 南北4.5m 方形を呈する。

壁高 30cm前後 斜めに立ち上がる。

貯蔵穴 南東隅 径1.1m、深さ15cmの規模を持つ。

土師器罎の胴部から口縁部にかけてと坏の完形品が出土している。

柱穴 中央部と西寄り中央と貯蔵穴に接し、径35cm、

深さ30cmの規模を持つ円形の掘り込みを検出した。

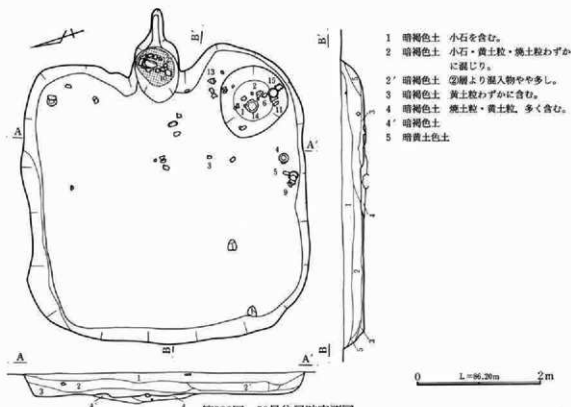
周溝 北壁上端20cm、深さ3cmの規模を持つ。

床面 小石混じりの暗褐色土を入れ薄く踏み固めている。部分的に礫面が露出している。

掘形 中央部に径1.3m、深さ20cmの円形土坑と長辺

1.2m、短辺0.8mの浅い長円形土坑を検出した。

遺物 南壁中央と北東隅に土師器坏出土。中央北に滑石製紡錘車出土。



第532図 50号住居跡実測図

竈

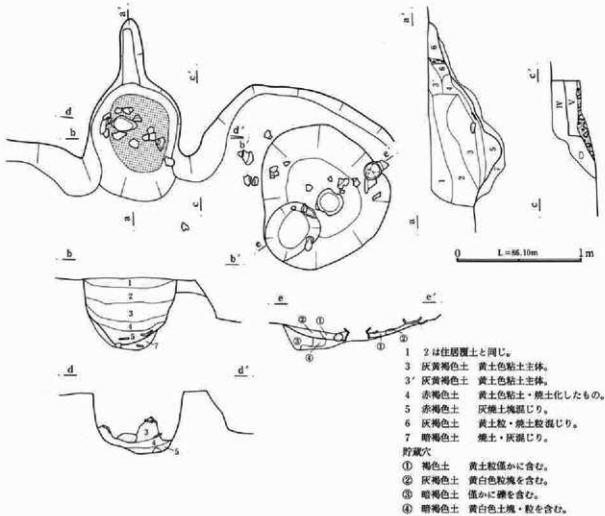
位置 東壁中央

規模 焚口部幅57cm 燃焼部奥行き80cm・幅67cm・深き52cm 煙道部長き50cm・幅18cm

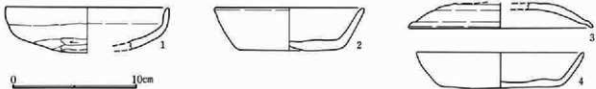
煙道部への立ち上がり19cm 斜めに立ち上がる。

構築 燃焼部の中心は壁の延長線上にあり、地山掘り残しの袖を持つ。火床面は、灰の掻き出しによる

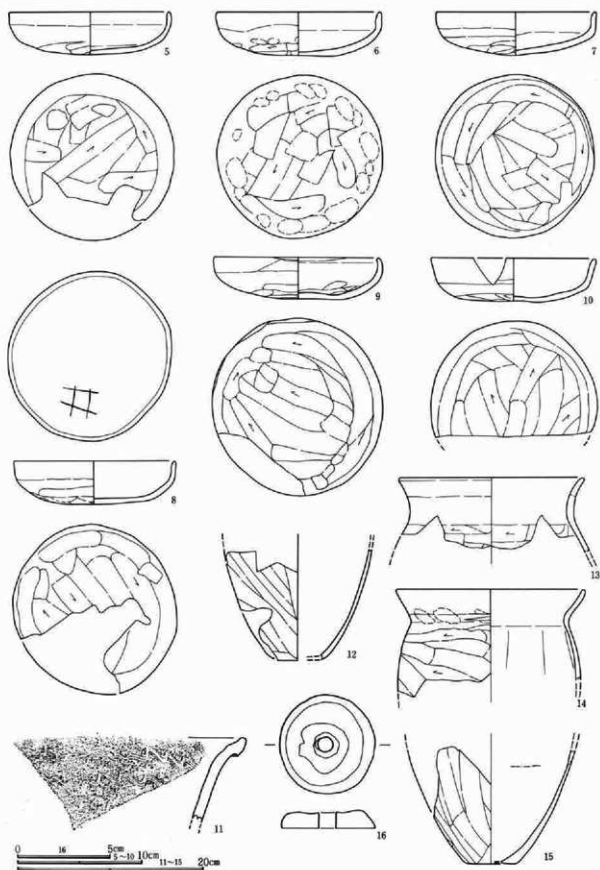
窪みを含め床面より18cm程深く掘り込まれ、灰の堆積見られる。直上には、暗黄褐色土と暗赤茶色の堆積見られ、天井部崩落土と考えられる。掘形は長方形形状を呈し、壁面は垂直に立ち上がる。壁面の焼けは煙道部に向かい焼けている。煙道部は斜めに立ち上がる。焼けは弱い。



第533図 50号住居跡竈実測図



第534図 50号住居跡出土遺物実測図(1)

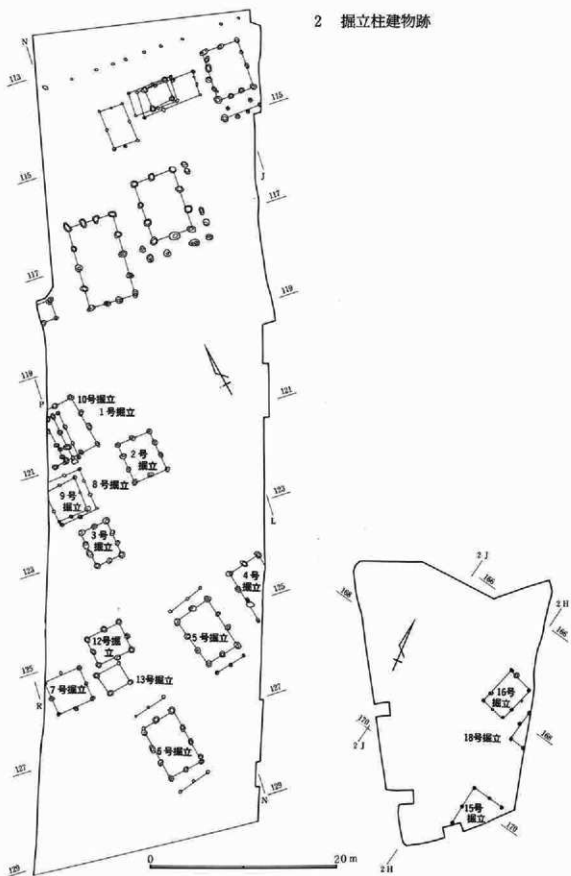


第535图 50号住居跡出土遺物実測図(2)

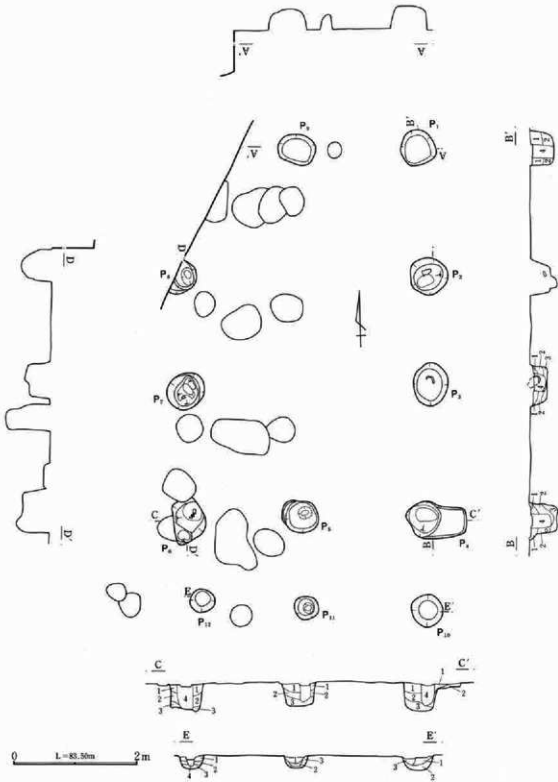
50号住居出土遺物観察表

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
1	土師器 杯	貯蔵穴	12.9 — 3.5 片	1. 褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。体部～底部手持ち重削り。
2	須恵器 杯	貯蔵穴	12.0 4.0 3.3 完形	1. 灰白色 2. 白色細粒含む 3. 還元焰 硬質	輪軸整形。底部腹撫で。底面中央部窪む。
3	須恵器 蓋	南東 +7	14.4 — 2.0	1. 灰色 2. 白色 黒色粒含む 3. 還元焰 良好	口縁部折り返し。胴部回転削り。
4	須恵器 杯	南壁下 +4.5	13.1 9.6 3.8 完形	1. 黒褐色 2. 白色細粒混じり 3. 還元焰 硬質	輪軸整形。底面腹撫で。
5	土師器 杯	南壁下 +5	12.8 — 3.4 片	1. 褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。体部～底部手持ち重削り。
6	土師器 杯	貯蔵穴	13.1 — 3.5 完形	1. 褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。体部～底部手持ち重削り 体部指頭圧痕有り。
7	土師器 杯	北東隅 -1	12.6 — 3.4 完形	1. 褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。体部～底部手持ち重削り。
8	土師器 杯	電掘形	13.1 — 3.4 片	1. 灰褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。外面指頭圧痕有り。 体部～底部手持ち重削り。内面マーク見られる
9	土師器 杯	南壁下 +4	13.2 — 3.2 ほぼ完形	1. 褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。口唇部僅かに内傾。内面指頭圧痕あり。 体部～底部手持ち重削り。平底状を呈する
10	土師器 杯	竈内	12.9 — 3.4 片	1. 褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。内面指頭圧痕有り。 体部～底部手持ち重削り。
11	須恵器 甕	貯蔵穴 +1	— — 9.0	1. 灰色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部折り返し。胴部破状文。
12	土師器 甕	竈内 +28	— — 11.7	1. 明赤褐色 2. 細砂 粘土粒 含む 3. 酸化焰 良好	胴部下半斜方向重削り。 底部平底。
13	土師器 甕	北東 +45	(19.5) — 7.5 口縁部～胴部	1. 明赤褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部～胴部横撫で、外反。 胴部横削り、内面撫で。
14	土師器 甕	貯蔵穴 +1	20.0 — 11.5 胴部下半欠損	1. 褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部外反するが、やや受け口横撫で。 胴部指頭圧痕。胴部上半横削り、内面腹撫で
15	土師器 甕	貯蔵穴 +4	— 5.5 12.0	1. 明赤褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	胴部下半斜方向重削り、撫で。 底部平底。
16	紡錘車	中央北	5 4 0.8 50g		蛇紋岩上面に使用によるリング状の摩耗痕。

2 掘立柱建物跡



第536図 掘立柱建物全体図



- 1 暗褐色土 黄褐色塊を含む。
- 2 暗褐色土 大粒を含む粘性の土。
- 3 暗褐色土 黄褐色塊を含む。
- 4 暗褐色土 黄褐色塊を含む。練りのない土。

第537図 1号掘立柱建物跡実測図

上栗須遺跡Ⅲ区掘立柱建物跡柱穴規模計測表

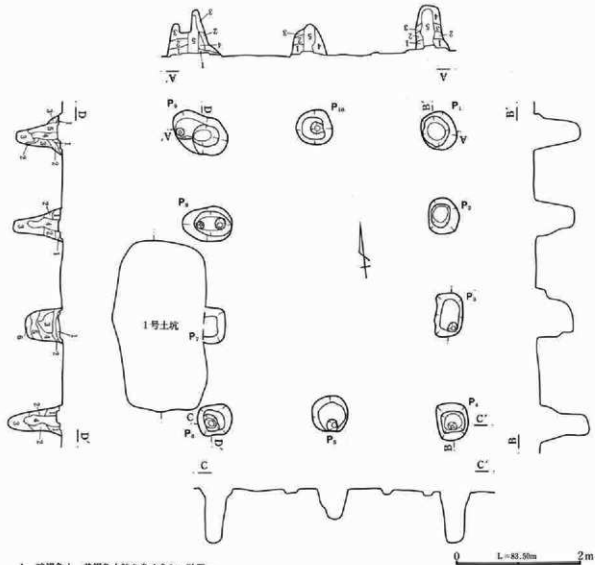
	柱穴	長径	短径	深さ	柱穴	長径	短径	深さ	柱穴	長径	短径	深さ	柱穴	長径	短径	深さ
1号掘立柱建物跡	1	56		44	2	60		20	3	70	56	24	4	54		42
	5	58	50		6	76	50	38	7	60		40	8	50		32
	9	50		32	10	40		10	11	40		20	12	37	36	18
2号掘立柱建物跡	1	62	52	70	2	60	48	60	3	70	40	58	4	60	50	78
	5	58		44	6	54	46	84	7	58	30	56	8	80	50	76
	9	94	60	68	10	60	52	48								
3号掘立柱建物跡	1	60		34	2	54		50	3	60	51	44	4	54		28
	5	58	52	30	6	60	54	32	7	78	54	28	8	72	54	53
	9	70	58	20	10	54	50	30								
4号掘立柱建物跡	1	70	50	24	2	46	40	28	3	100	50	32	4	55		30
	5	64	30	40	6	70	47	28								
5号掘立柱建物跡	1	66	64	52	2	50	40	40	3	60	50	49	4	64	42	30
	5	60		54	6	66	54	40	7	56	50	60	8	70	66	30
	9	66	62	53	10	84	50	29	11	32		20	12	34		27
6号掘立柱建物跡	13	40		18	14	40	37	16	15	30		10	16	36	32	16
	1	70		32	2	70	44	40	3	64	47	24	4	44		40
	5	52		26	6	66	53	40	7	60		32	8	80	53	34
	9	60	44	32	10	64	52	30	11	38		12	12	30		26
	13	36		26	14	40	30	14	15	30	24	10	16	44		20
7号掘立柱建物跡	1	56	50	38	2	40	34	38	3	56	50	30	4	46	40	36
	5	50	46	48	6	50	43	45	7	60		22	8	40	30	36
	9	36		70	2	34	30	50	3	40	34	50	4	62	44	60
8号掘立柱建物跡	5	40	32	52	6	32		50	7	36	30	52	8	36	32	62
	1	36		40	2	30		36	3	56	38	40	4	60	40	80
	5	24	20	12	6	38		60	7	32	26	50	8	36	32	62
10号掘立柱建物跡	1	46	36	20	2	50	46	12	3	46	38	26	4	50	40	14
	5	40	26	40	6	46	42	70	7	40	34	36	8	64	30	54
11号掘立柱建物跡	1	59	44	28	2	62	50	100	3	96	50	54	4	88	54	40
	5	60	54	64												
12号掘立柱建物跡	1	60		48	2	54		20	3	60	56	22	4	60	50	56
	5	64	56	48	6	62	48	44	7	70	51	50	8	60	52	38
13号掘立柱建物跡	1	38		12	2	60	56	52	3	70	60	52	4	64	50	102
14号掘立柱建物跡	1	60		44	2	50	46	48	3	48	42	16	4	52	52	44
	5	64	54	16	6	34	30	10	7	60	42	24				
15号掘立柱建物跡	1	38		32	2	40	34	36	3	34	28	32	4	30		30
	5	33	30	30	6	30		12	7	36		12				
	9	20		22	2	25		11	3	28		9	4	21		13
16号掘立柱建物跡	5	30		15	6	35	30	15	7	35	30	23	8	15		4
	9	20		5												
	1	18		8	2	20		3	3	45	30	24	4	20		3
17号掘立柱建物跡	5	20		5	6	18		8	7	30		17				
	9	30		22									8	18		6
	1	38	32	24	2	38	34	34	3	34	30	28	4	36	32	24

1号掘立柱建物跡 (写真図版152・185)

位置 O-119~121グリッド 方位 N-2'-W
 重複 10・11号掘立柱建物と重なり合っている。
 規模 2間 (3.9m)×3間 (5.8m) 南辺から1m
 離れ2間の庇がつく。底部分の柱穴はやや小さい。
 面積 22.6m² 形状 長方形
 柱穴 方形に近い円形。径15~20cm程の柱痕を確認
 した。柱痕部分は他の覆土に比べ締まりがやや弱い。
 柱穴5では土師器甕の胴下半部が出土している。

2号掘立柱建物跡 (写真図版152)

位置 M-N-120・121グリッド 方位 N-3'-E
 重複 1号土坑に切られ、東辺で1号住居を切っ
 ている。
 規模 2間 (3.9m)×3間 (4.6m)
 面積 17.9m² 形状 長方形
 柱穴 掘形は方形気味に掘られ、断面はロート状に
 なる。径20cm前後の柱痕を確認した。柱痕覆土は、
 他の覆土に比べ締まり弱い。



- 1 暗褐色土 黄褐色土粒を多く含む。砂質。
- 2 暗褐色土 黄褐色塊を含む。
- 3 暗褐色土 暗褐色粘質土塊を含む。
- 4 黄褐色土 黄色粘質土塊・暗褐色塊の混土。
- 5 暗褐色土 黄色土粒を少量含む。
- 6 暗褐色土 灰色砂粒を多く含む。

第538図 2号掘立柱建物跡実測図

3号掘立柱建物跡 (写真図版153)

位置 O・P-122・123グリッド 方位 N-5°-E

重複 3号住居の煙道部近接する。

規模 2間(3m)×3間(4m) 西辺中央の2本の柱穴の柱間は短い。

面積 12m² 形状 長方形

柱穴 方形気味の掘形を持ち、径20cm程の柱痕を確認した。柱痕部分の覆土は締まり弱い。

重複 南東部分は調査区外のため未調査。

規模 2間(3.4m)×間(6m)

面積 20.4m² 形状 長方形

柱穴 方形気味の掘形を持ち、径20cm前後の柱痕を確認した。

5号掘立柱建物跡 (写真図版152・185)

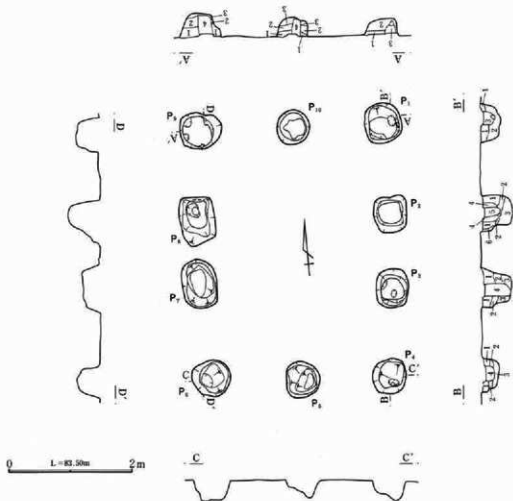
位置 M・N-124~126グリッド 方位 N-4°-W

重複 無し

規模 2間(4m)×3間(5.8m) 南・北両辺に、2間の庇が付く。

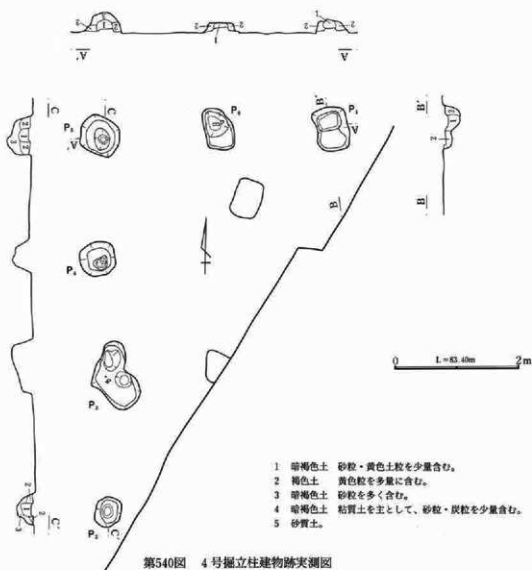
4号掘立柱建物跡 (写真図版153)

位置 L・M-124・125グリッド 方位 N-2°-W



- 1 暗褐色土 黄褐色塊を均一に含む。粘質で良く締る。
- 2 暗褐色土 1層よりやや黒色を呈す。粘質で締り良い。
- 3 暗褐色土 1層と同色、同質。
- 4 暗褐色土 黄褐色塊を含まない。粘性に富むが、締りに欠ける。
- 5 暗褐色土 黄褐色塊を均一に層状に含む。粘性に富む。やや締り気味。
- 6 黄褐色土 黄褐色土を主体とする土。粘性に欠けるが良く締っている。

第539図 3号掘立柱建物跡実測図



第540図 4号掘立柱建物跡実測図

面積 23.2㎡ 形状 長方形

柱穴 方形気味の掘形を持ち、径20cm前後の柱痕が見られる。柱痕は底面にに密着しておらず、間層を挟む。柱穴1から土師器壺、2から土師器壺、4から土師器破片、8から土師器杯が出土している。底部分の柱穴は、やや規模が小さい。

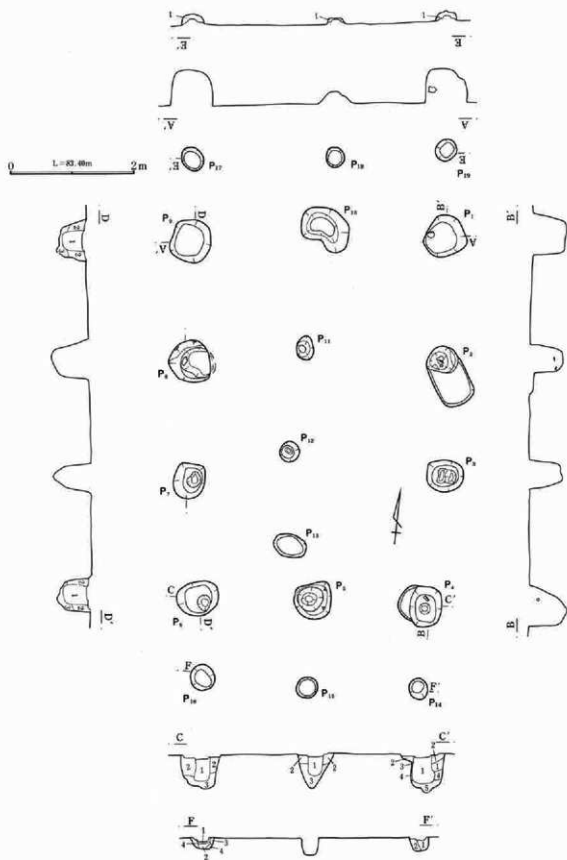
6号掘立柱建物跡 (写真図版152)

位置 O・P-126~128グリッド 方位 N-0°
 重複 無し
 規模 2間 (3.8m) × 3間 (6.1m) 南・北両辺に2間の庇を持つ。庇を入れた距離は9.2mを測る。
 面積 23.1㎡ (35㎡) 形状 長方形

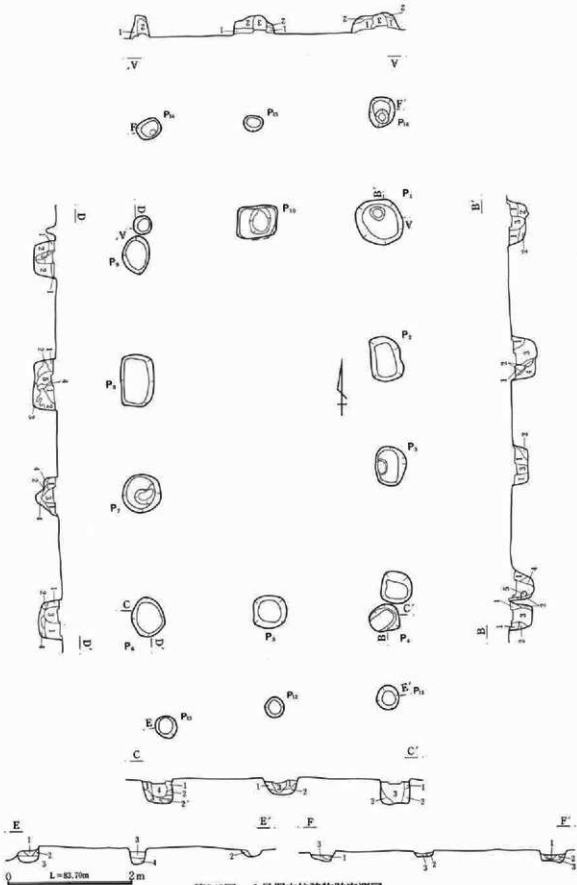
柱穴 掘形は、長方形を意識して掘られている。径20cm前後の柱痕が確認されているが、40~50cmに広がっているもの確認でき、抜き取り痕とも考えられる。底部分の柱穴は、規模は小さい。

7号掘立柱建物跡 (写真図版153)

位置 Q-125グリッド 方位 E-5°-S
 重複 無し
 規模 2間 (3.5m) × 2間 (4m)
 面積 14㎡ 形状 長方形
 柱穴 円形又は楕円形の掘形を持つ。径15cm前後の柱痕を確認した。柱痕覆土は締まり弱い。南・北辺の柱穴は、外に若干張り出している。



第541图 5号掘立柱建物跡実測図



第542図 6号掘立柱建物跡実測図

第二章 上栗須遺跡

541図 (5号掘立柱)

- 1 暗褐色土 砂粒・黄色粒を少量含む。
- 2 暗褐色土 黄色砂粒を多く含む。
- 3 褐色土 暗褐色粘質土塊・黄色砂粒塊の混土。
- 4 黄色砂粒。

542図 (6号掘立柱)

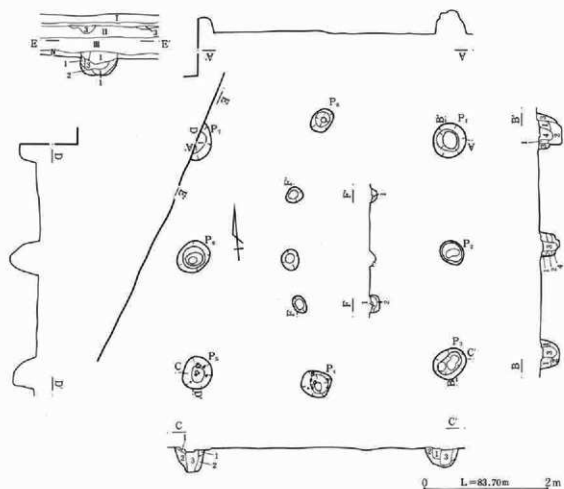
- 1 暗褐色土 小礫・黄褐色塊・小粒を斑点状に含む。粘性に欠くが締りは良い。
- 2 暗褐色土 黄褐色砂質塊を多く含む。粘性に欠ける。良く締っている。
- 3 黄褐色土 黄褐色砂質を主体とする。粘性・締りとも欠ける。
- 4 暗褐色土 黄褐色砂質。木炭微細砂を含む。
- 5 暗褐色土 木炭微細砂を含む。締りに欠ける。

543図 (7号掘立柱)

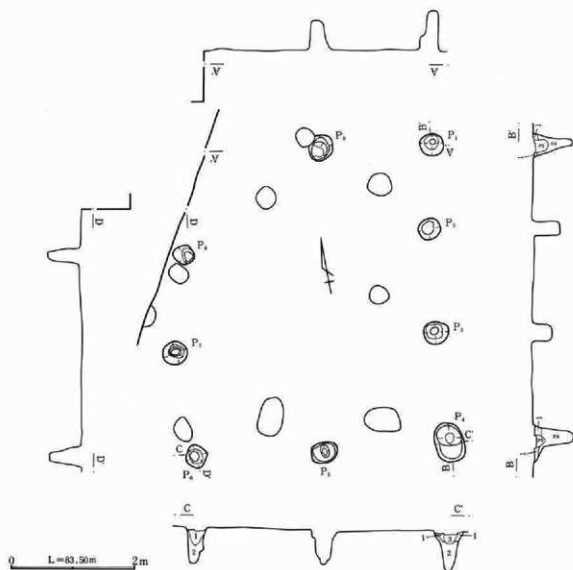
- 1 暗褐色土 黄褐色小塊を少量含む。やや粘性で締りのある土。
- 2 暗褐色土 黄褐色塊を多く含む。粘性に欠けるが締りのある土。
- 3 黄褐色土 黄褐色塊を主体とする。粘性に欠くが締りのある土。
- 4 暗褐色土 焼土塊・木炭微細砂を含む。粘性・締りとも弱い土。

544図 (8号掘立柱)

- 1 暗褐色土 黄褐色塊を含む粘性の土。
- 2 暗褐色土 黄褐色塊を多く含む。木炭微細粒を含む粘性の土。
- 3 黄褐色土 黄褐色土を主体とする土。1層に近い粘性を有す。
- 4 暗褐色土 2層に似るが粘性に欠ける。



第543図 7号掘立柱建物跡実測図



第544図 8号掘立柱建物跡実測図

8号掘立柱建物跡 (写真図版153)

位置 O・P-121・122グリッド方位 N-5°-E
重複 9号掘立柱建物と重なり合い、西辺を共有しているか、又は9号掘立柱建物と同一の建物であり建替の可能性も考えられる。

規模 2間(3.3m)×2間(3.7m) 西辺は3間の柱間を持つ。

面積 12.2㎡ **形状** 長方形

柱穴 円形又は楕円形の掘形を持ち、断面はロート状を呈し深く掘り込まれている。

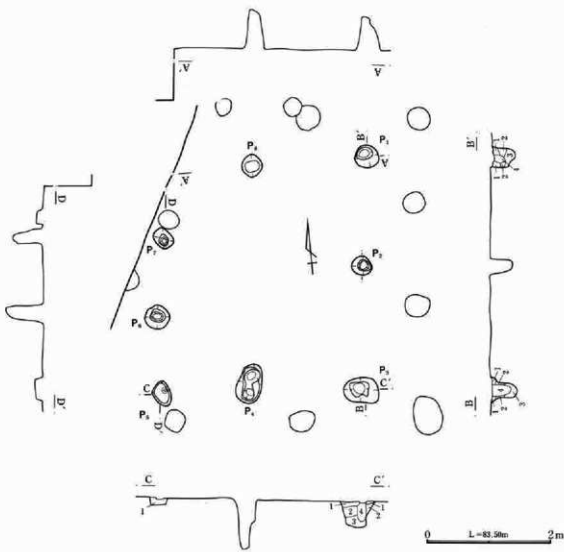
9号掘立柱建物跡 (写真図版153)

位置 O・P-121・122グリッド方位 N-5°-E
重複 8号掘立柱建物と重なり合っている。また、北西部分が調査区外のため全容は不明。

規模 2間(4m)×3間(4.7m)

面積 18.8㎡ **形状** 長方形

柱穴 円形又は楕円形の掘形を持ち、断面はロート状を呈し深く掘り込まれている。



- 1 暗褐色土 黄褐色塊小粒・木炭微細粒を含む。粘性の強い締りあり。
- 2 暗褐色土 1層より黄褐色塊多い。粘性、締りあり。
- 3 暗褐色土 1層に似る。木炭なし。粘性、締りあり。
- 4 暗褐色土 1層に似る。粘性で締りなし。

第545図 9号掘立柱建物跡実測図

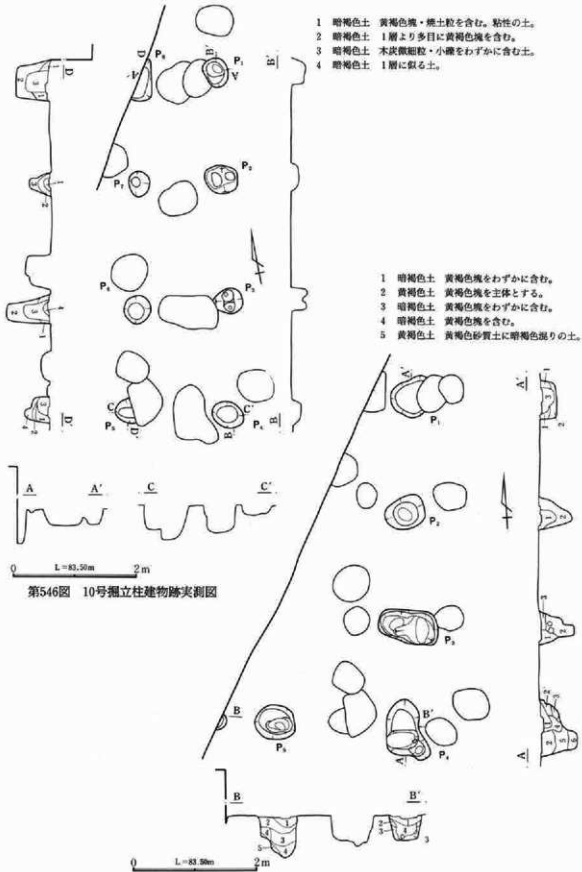
10号掘立柱建物跡

位置 O・P-119・120グリッド 方位 N-4°-E
 重複 1・11号掘立柱建物と重なり合い、11号掘立柱建物の東辺の柱列を扶む形で建てられている。
 規模 1間 (1.4m) × 3間 (5.4m)
 面積 7.6㎡ 形状 長方形
 柱穴 円形又は楕円形の掘形を持つ。径20cm程の柱痕を確認した。

11号掘立柱建物跡 (写真図版153)

位置 O・P-119・120グリッド 方位 N-4°-E
 重複 1・10号掘立柱建物と重なり合い、東・南辺の一部のみ調査を行い、他の部分は調査区外に伸びるため全容は不明。
 規模 3間 (5.4m) × 1間 (1.9m)
 面積 不明 形状 不明
 柱穴 長円形又は楕円形の掘形を持ち、段を有する。

第3節 田区検出の遺構と遺物

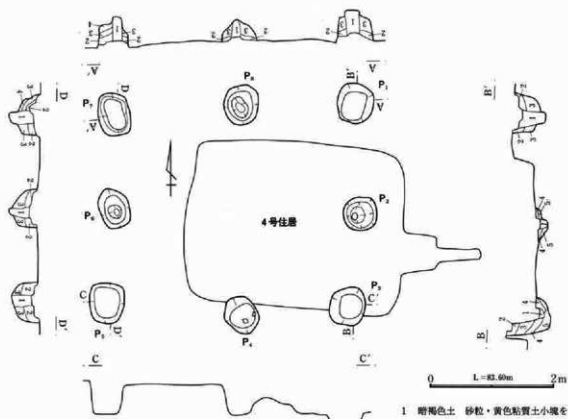


- 1 暗褐色土 黄褐色塊・焼土粒を含む。粘性の土。
- 2 暗褐色土 1層より多目に黄褐色塊を含む。
- 3 暗褐色土 木炭微細粒・小礫をわずかに含む土。
- 4 暗褐色土 1層に似る土。

- 1 暗褐色土 黄褐色塊をわずかに含む。
- 2 黄褐色土 黄褐色塊を主体とする。
- 3 暗褐色土 黄褐色塊をわずかに含む。
- 4 暗褐色土 黄褐色塊を含む。
- 5 黄褐色土 黄褐色砂質土に暗褐色混りの土。

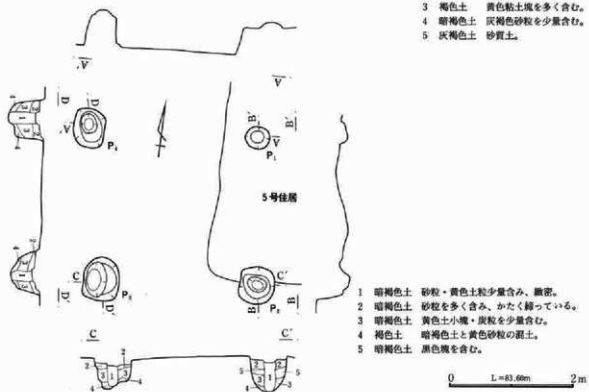
第546図 10号掘立柱建物跡実測図

第547図 11号掘立柱建物跡実測図



第548図 12号掘立柱建物跡実測図

- 1 暗褐色土 砂粒・黄色粘質土小塊を少量含む。
- 2 暗褐色土 黄色粘質土小塊少量と粒子の細かい砂粒を多く含む。
- 3 褐色土 黄色粘土塊を多く含む。
- 4 暗褐色土 灰褐色砂粒を少量含む。
- 5 灰褐色土 砂質土。



第549図 13号掘立柱建物跡実測図

- 1 暗褐色土 砂粒・黄色土粒少量含み、緻密。
- 2 暗褐色土 砂粒を多く含み、かたく締っている。
- 3 暗褐色土 黄色土小塊・炭粒を少量含む。
- 4 褐色土 暗褐色土と黄色砂粒の混土。
- 5 暗褐色土 黒色塊を含む。

12号掘立柱建物跡

位置 O・P-124・125グリッド 方位 E-4°-S
 重複 4・5号住居を切っている。
 規模 2間(3m)×2間(3.9m)
 面積 11.7m² 形状 長方形
 柱穴 円形又は方形気味に掘られ、底面は平らに掘られている。柱痕は、径15cm前後で確認されている。

13号掘立柱建物跡

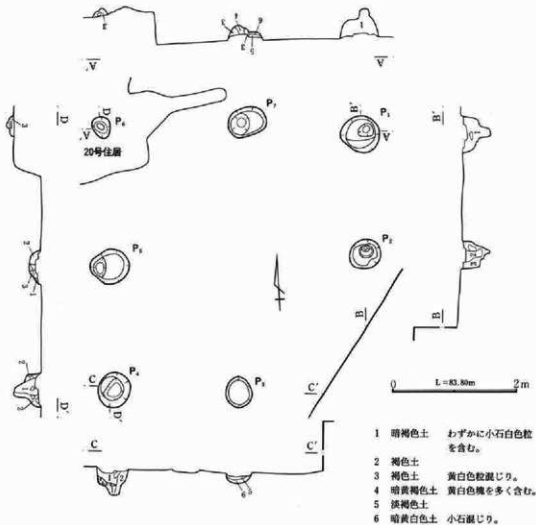
位置 O・P-125グリッド
 重複 5号住居を切っている。
 規模 1間(2.5m)×1間(2.5m)
 面積 6.25m² 形状 方形
 柱穴 円形の掘形を持ち、径17cm前後の柱痕を持つ。

14号掘立柱建物跡 (写真図版153)

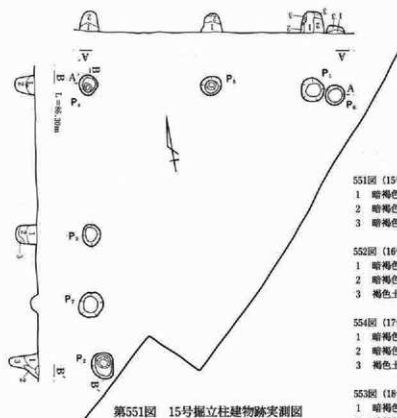
位置 N・O-130・131グリッド 方位 N-0°
 重複 20号住居を切っている。
 規模 2間(4m)×2間(4m)
 面積 16m² 形状 方形
 柱穴 円形の掘形を持ち、断面ロート状を呈する。

15号掘立柱建物跡

位置 2F・2G-168・169グリッド
 重複 南東部分は調査区外のため未調査。
 規模 2間(4m)×2間(4.4m)
 面積 17.6m² 形状 長方形
 柱穴 円形の掘形を持つ。柱痕は柱穴5にて検出したが他のピットについては不明。



第550図 14号掘立柱建物跡実測図



第551図 15号掘立柱建物跡実測図

551図 (15号掘立柱)

- 1 暗褐色土 砂質の土をわずかに含む。
- 2 暗褐色土 黄褐色土塊を斑点状に含んでいる。
- 3 暗褐色土 黄褐色塊を含む。

552図 (16号掘立柱)

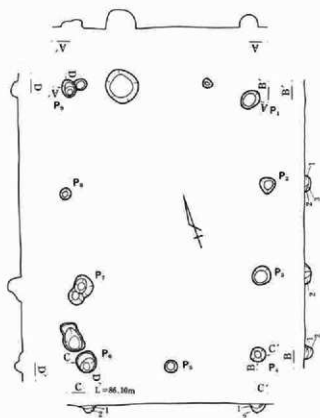
- 1 暗褐色土 黄褐色塊と白色軽石をわずかに含む。
- 2 暗褐色土 黄褐色塊を含む。
- 3 褐色土 黄褐色土の混合層。

554図 (17号掘立柱)

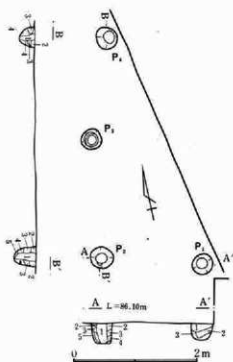
- 1 暗褐色土 黄褐色黏土塊を含む。砂質。
- 2 暗褐色土 黄褐色塊を斑点状に含む。
- 3 褐色土 黄褐色土の混合層。

553図 (18号掘立柱)

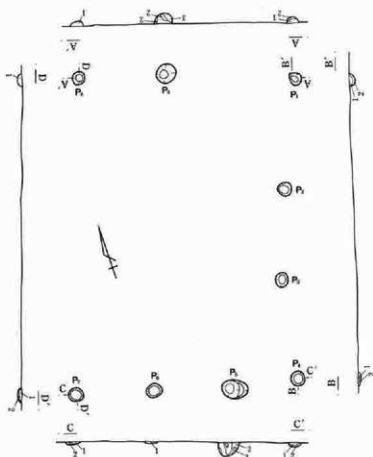
- 1 暗褐色土 黄褐色黏土塊を含む。
- 2 暗褐色土 黄褐色黏土塊を多く含む。
- 3 暗褐色土 黄褐色黏土塊を多く混入している。
- 4 暗褐色土 土層片を含む。
- 5 褐色土 黄褐色黏土と暗褐色土の混合層。



第552図 16号掘立柱建物跡実測図



第553図 18号掘立柱建物跡実測図



第554図 17号掘立柱建物跡実測図

16号掘立柱建物跡

位置 2 G・2 H-166・167グリッド 方位 N-10°-W

規模 南辺2間(2.7m)北辺1間×3間(4m) 側柱の北1間目の柱穴は外に飛び出す恰好になる。

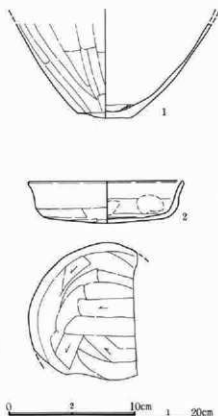
面積 10.8㎡ 形状 長方形

柱穴 円形の掘形を持つ。

17号掘立柱建物跡

位置 2 H-166・167グリッド 方位 N-10°-E

重複 周辺には多数の小ピット有り。



第555図 掘立柱建物出土遺物実測図

規模 北辺2間(3.4m)、南辺3間(3.7m)×東辺1間(4.7m)、西辺(5m) 面積 17.9㎡

形状 やや台形気味。柱穴 円形の掘形を持つ。

18号掘立柱建物跡

位置 2 G-166・167グリッド

重複 南西隅部以外調査区外のため、未調査。

規模 1間(1.6m)×2間(3.5m) 面積 不明

柱穴 円形の掘形を持つ。

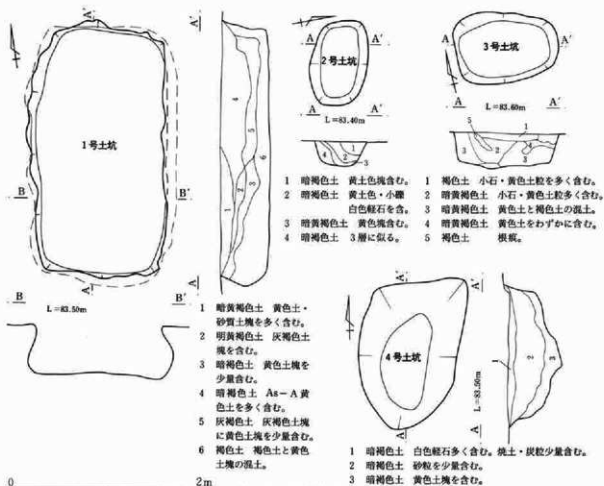
掘立柱建物跡出土遺物観察表

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
1	土師器 壺	1号掘立 P 3	— 5.8(10.0) 底部	1. ぶい褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	割下位斜方向削削り。内面丁寧な熟で。 底部平底、削削り。
2	土師器 杯	5号掘立 P 8	(12.1)(10.0) 3.3 %	1. 褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横削で。胴部指頭押さえ、内面指頭嵌有り 底部平底、削削り。内面2重の凹状の窪みあり。

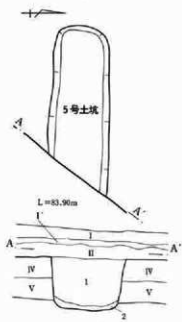
3 土 坑

上栗須遺跡Ⅲ区土坑表

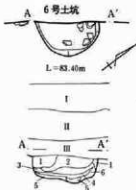
遺構名	位置	方位	規 格			形 状	備 考
			長辺	短辺	深さ		
1号土坑	M-121	N-12°-E	3.00m	1.40m	0.54m	長方形・箱形	2号土坑を切っている。
2号土坑	R-128	N-75°-W	0.90m	0.60m	0.17m	長方形	
3号土坑	R-129	N-93°-E	1.10m	0.72m	0.36m	不明	3号住居を切る。土師器壺片出土。
4号土坑	O-125	N-4°-W	1.50m	1.10m	0.54m	楕円形	
5号土坑	L-125	N-90°-E	1.62m	0.66m	0.42m	長方形・箱形	
6号土坑	P-122		0.64m		0.15m	半円形	
7号土坑	K-120	N-59°-W	1.30m		0.11m	長方形	19号住居竪とした部分に切られている。土師器環出土
8号土坑	N-122	N-25°-E	0.82m	0.64m	0.08m	長方形	
9号土坑	Q-132		0.85m		0.70m	円形	焼土・灰が見られる。
12号土坑	R-134		0.85m		0.25m	方形	32号住居を切っている。
13号土坑	T-137	N-15°-E	2.85m	1.05m	0.27m	隅丸長方形	礎出土。
14号土坑	U-137	N-17°-E	2.87m	1.25m	0.30m	長方形・箱形	小礫出土。
15号土坑	S-136	N-10°-E	2.70m	1.15m	0.17m	長方形	
16号土坑	R-135	N-13°-E	2.30m	1.40m	0.13m	隅丸長方形	
18号土坑	X-142		1.02m	0.92m	0.60m	楕円形	40号住居に切られる菓寮出土。
19号土坑	X-142		1.08m		0.15m	長円形	40号住居西壁
20号土坑	S-134		1.30m	1.03m	0.15m	楕円形	
23号土坑	T-132		1.10m		0.16m		路縁外に伸びる。
24号土坑	S-130		0.86m		0.20m		路縁外に伸びる。
25号土坑	F-12		0.95m		0.13m	方形	



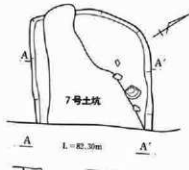
第556図 土坑実測図



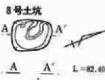
- I~Vは基本土層参照
 1 暗褐色土 As-A 多量に含む。
 2 暗褐色土 黄色土塊を含む



- I~IIIは基本土層参照
 1 暗褐色土 黄色土塊を少量含む。
 2 黄色土 黄色土塊を含む。
 3 暗褐色土 焼土を少量含む。
 4 暗褐色土 炭化物・焼土塊多量に含む。
 5 暗褐色土 焼土を多く含む。
 6 暗褐色土 焼土粒少量含む。



- 1 暗褐色土 暗褐色土塊・黄色土塊・炭粒を含む。



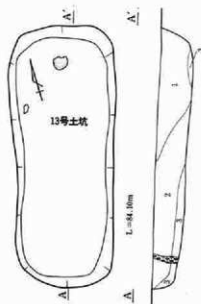
- 1 暗褐色土 焼土・炭を少量含む。
 2 暗褐色土 1層に焼土塊・炭化物を多く含む。



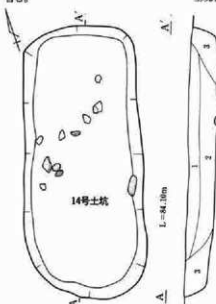
- 1 暗褐色土 As-B 混在したサラサラした土。
 2 暗褐色土 As-B・粘土塊を含む。



- 1 暗褐色土 土器破片を含む。
 2 暗褐色土 黄褐色土塊を斑点状に含む。



- 1 暗褐色土 As-B 多量に含む。白色粘土塊を斑点状に含む。
 2 暗褐色土
 3 暗褐色土 1層に似る。白色粘土塊を僅かに含む。

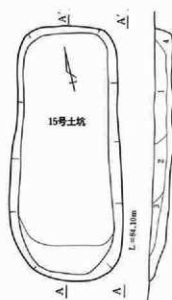


- 1 暗褐色土 As-B、黄色土塊を混入する。
 2 暗褐色土 黄褐色土塊を斑点状に含む。門牌を含む。サクサクしている。
 3 暗褐色土



- 1 暗褐色土 黄色土・白色軽石を含む。
 2 暗褐色土 黄色土・褐色土の混土。
 3 暗黄色土 黄色土塊主体。
 4 暗褐色土 黄色土塊を含む。
 5 淡褐色土 黄色土塊をやや多く含む。

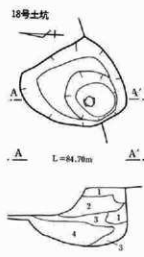
第557図 土坑実測図 0 2m



- 1 暗褐色土 軽石を含み、黄色土塊・小石を混入する。
- 2 暗褐色土 小石を多く含む。
- 3 暗褐色土 軽石と小石を混在。
- 4 暗褐色土 軽石を多く含む。



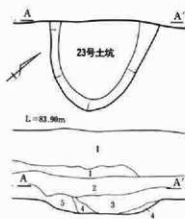
- 1 暗褐色土 軽石と小石の混在。
- 2 暗褐色土 軽石及び黄色土塊の混在。
- 3 暗褐色土 軽石のみを主として混入する。
- 4 明褐色土 淡黄色土塊を主として混入。



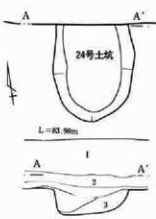
- 1 暗褐色土 黄土塊を多量に含む。
- 2 暗褐色土 黄色塊を多量に含む。
- 3 暗褐色土 混入物少なく、やや粘質。
- 4 暗褐色土 2層より塊が少ない。



- 1 暗褐色土 小石・黄土粒を含む。
- 2 暗褐色土 小石・黄土粒をやや多く含む。
- 3 暗褐色土 1層に似る。
- 4 暗褐色土 小石・黄土粒・塊を含む。



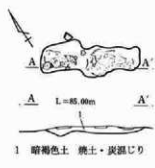
- 1 基本土層参照
- 1 褐色土 黄土粒・塊を含む。
 - 2 黄土色土 黄土粒・塊が主体。
 - 3 黄土色土 小石を僅かに含む。



- 1 基本土層参照
- 1 褐色土 黄土粒・塊を含む。
 - 2 黄土色土 黄土粒・塊が主体。
 - 3 黄土色土 小石を僅かに含む。



- 1 暗褐色土 白色軽石・木炭粒土層片を含む。
- 2 暗褐色土 黄褐色土塊を含む。土層片を含む。
- 3 褐色土 黄褐色土塊多量に含む。

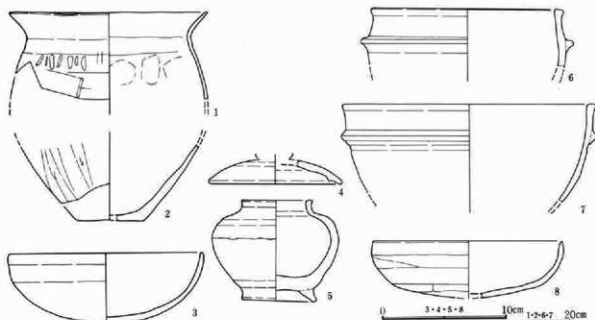


- 1 暗褐色土 黄土・炭屑入り

第558図 土坑実測図

0 2m

第559図 1号基坑実測図

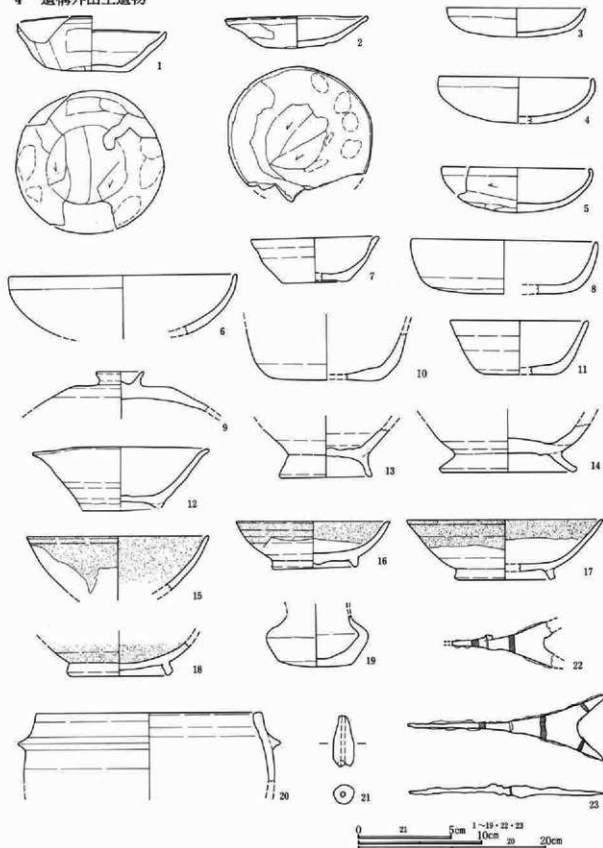


第560図 土坑出土遺物実測図

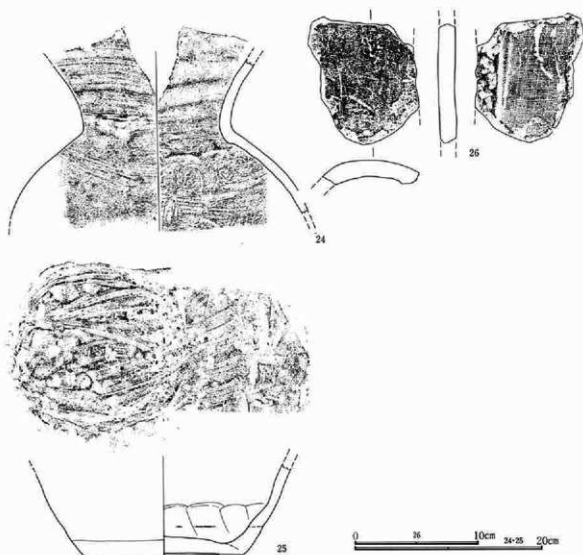
上栗須遺跡III区 土坑出土遺物観察表

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
1	土器 壺	2号土坑 覆土	21.0 — — 口縁部~胴部	1. 明赤褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で、指頭圧痕有り。 胴部横方向磨削り。内面指頭圧痕、横撫で。
2	土器 壺	2号土坑 覆土	— 5 — 底部	1. 褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	胴部斜方向磨削り。内面丁寧な撫で。 平底磨削り
3	土器 壺	7号土坑 +3.5	15.5 — 5.5	1. 褐色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 やや軟質	口縁部横撫で、体上部指押さえ、未調整。 底部手持ち磨削り。
4	須恵器 蓋	7号土坑 +10	10.6 — (2.0)	1. 褐色 2. 砂粒含む 3. 還元焰 硬質	回転磨削り。内面カエリをもつ。
5	須恵器 小壺	18号土坑 床直	5.7 5.9 7.9 完形	1. 褐色 2. 僅かに砂粒含む 3. 還元焰 硬質	短口縁撫で。胴部張る。下半から底部にかけて自然 輪付着。底部高台貼り付け、撫で。
6	須恵器 羽釜	3号土坑 覆土	20.4 — — 口縁部破片	1. 灰黄色 2. 砂粒含む 3. 還元焰 硬質	口縁部回転撫で。頂部平坦。脚貼り付け。
7	須恵器 羽釜	3号土坑 覆土	14.0 — — 口縁部破片	1. 浅黄色 2. 僅かに砂粒含む 3. 還元焰 硬質	口縁部回転撫で。頂部平坦。脚貼り付け。
8	土器 壺	25号土坑 +21	15.0 — (4.5) 口縁~底部迄	1. 褐色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で、指押さえ、未調整。 底部手持ち磨削り。内面弁状の線刻あり。

4 遺構外出土遺物



第561図 遺構外出土遺物実測図(1)



遺構外出土遺物観察表

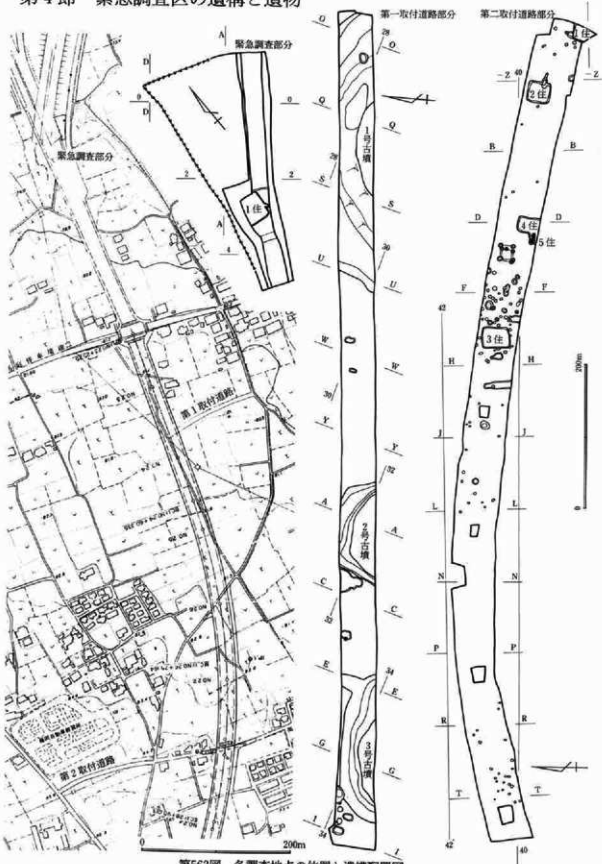
第562図 遺構外出土遺物実測図(2)

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
1	土器 環	U-138G	11.7 6.2 4.3 完形	1. 赤褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横線で、沈線通る。胴部指押さえ指痕直有り 底部平底、寛削り。
2	土器 環	V-138G	11.6 - 2.5	1. 褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横線で、沈線通る。口唇部僅かに立ち上がる 底部平底、寛削り。
3	土器 環	R-136G	11.0 - 2.3 片	1. 赤褐色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横線で、胴部、底部手持ち寛削り。
4	土器 環	O-132G	12.4 - 3.3 片	1. 赤褐色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横線で、胴部、底部手持ち寛削り。
5	土器 環	R-133G	11.8 - 3.5 片	1. 褐色 2. 細砂粒含む 緻密 3. 酸化焰 良好	口縁部横線で、口唇部内傾。 胴部、底部手持ち寛削り。
6	土器 環	S-173G	18.0 - - 片	1. 褐色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横線で、胴部未調整、底部手持ち寛削り。

第2章 上栗須遺跡

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 土調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
7	須恵器 甕	Q-130G	10.1 5.0 3.5 %	1. 暗赤褐色 2. 片岩小石含む 3. 酸化焰 良好	縦縫整形。中位無で。 底部回転未切り、未調整。
8	須恵器 甕	N-136G	14.8 - 4.0 %	1. 灰白色 2. 砂粒含む 3. 還元焰 硬質	胴部丸味を持つ。底部回転旋削り。
9	須恵器 蓋	U-136G	- - - %	1. 灰オリーブ 2. 砂粒含む 3. 還元焰 硬質	頂部回転旋削り。リング状積み貼り付け。
10	須恵器 甕	U-135G	- (8.1) -	1. 黄灰色 2. 砂粒含む 3. 還元焰 硬質	胴部丸味を持つ。底部旋削で。
11	須恵器 甕	V-137G	11.0 (6.0) (4.2)	1. 灰白色 2. 白色粒 片岩小 石含む 3. 還元焰 硬質	縦縫整形。底部回転未切り、未調整。
12	須恵器 甕	V-138G	14.0 6.3 5.0 口縁→底部%	1. におい褐色 2. 粘土粒砂粒 含む 3. 酸化焰 軟質	縦縫整形。底部回転未切り、高台貼付無で。
13	須恵器 椀	U-136G	- 7.8 (3.8) 底部	1. 褐色 2. 粘土粒含む 3. 酸化焰 良好	縦縫整形。底部回転未切り、高台貼付、無で。
14	須恵器 椀	T-135G	- 10.8 - 高→胴部	1. 青灰色 2. 白色粗粒含む 3. 還元焰 硬質	体部織造り。底部高台貼付後、撫で。 内面自然釉一部付着。
15	灰軸陶器 甕	S-133G	14.4 - -	1. 灰白色 2. 精選緻密 3. 還元焰 良好	体部軸、漬け掛け。
16	灰軸陶器 椀	Q-134G	12.2 6.9 3.7 ほぼ完形	1. 灰白色 2. 精選緻密 3. 還元焰 良好	口唇部僅かに外反。体部中央ややや下、直削り。 底部高台貼付、無で。中央に削り残しの突起。
17	灰軸陶器 椀	Q-134G	15.6 8.0 4.8 口縁→底部%	1. 明オリーブ灰 2. 精選緻密 3. 還元焰 硬質	口唇部尖る。胴部丸味を持つ。軸、漬け掛け。 底部回転無で、高台貼付付け。
18	灰軸陶器 椀	Q-130G	- 7.6 - 底部の%	1. 灰白色 2. 精選緻密 3. 還元焰 良好	底部高台貼付付け後、撫で。底面削り。
19	須恵器 小型壺	S-135G	- 6.0 (4.0) 口縁部欠損	1. 灰白色 2. 白色粒含む 3. 還元焰 良好	胴部張る。底部旋削り後、撫で。
20	須恵器 羽蓋	P-131G	24.0 - (7.3) 口縁部破片	1. 黒褐色 2. 粘土粒 白色細 粒含む 3. 酸化焰 硬質	口縁部回転無で。頸部平坦面。 脚貼り付け、撫で。
21	土 鉢	Q-130G	- 1.6 - 胴部欠損	1. 灰褐色 2. 粗砂粒含む 3. 酸化焰 良好	棒状具に粘土巻き付け、指押さえ。 胴部肥厚。
22	鉄 器	S-135G	8.0 - - 20.12g		履股線先端欠損。開閉無。
23	鉄 器	S-135G	15.7 5.2 0.4 31.30g	※ 完存。	開閉履股線被、開部分ソケット状に基が差し込まれて いる。
24	須恵器 甕	N-130G	- - - 頸→胴部	1. 灰色 2. 白色粒 小石含む 3. 還元焰 硬質	口縁部回転無で。胴部かき目。内面撫で。
25	須恵器 甕	N-130G	- 16.6 - 胴→底部	1. 灰色 2. 白色粒 小石含む 3. 還元焰 硬質	紐造り、外面撫で。下縁削り。平底未調整。 内面撫で付け。
26	丸 瓦	2 C-132 G	- - -	1. 灰白色 2. 砂粒含む 3. 還元焰 良好	口縁部凸面撫で。胴部布目。

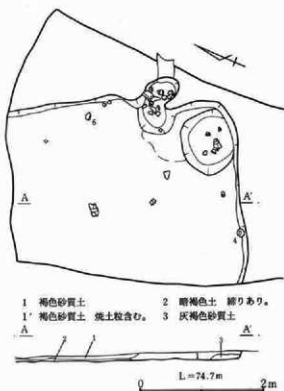
第4節 緊急調査区の遺構と遺物



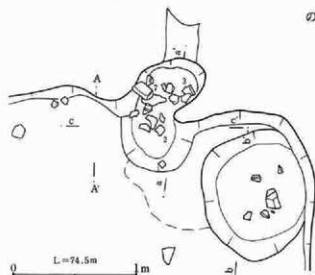
第563図 各調査地点の位置と遺構配置図

第II章 上栗須遺跡

この緊急調査区は、長瀬線の側溝流末確保のための調査である。上栗須遺跡I区北250m、台地末端部、関越道藤岡インターと温井川との接点南側に位置する。調査では地点の示す為のグリッド配置は上栗須遺跡が既に調査済みであるため対応が不可能となり、



第564図 1号住居跡実測図



第565図 1号住居跡電実測図

工事用の枕No16とNo17を結んだラインの延長上をAラインとして5m四方のグリッドを設定し、No16から40m南をA-Oとした。グリッドの方位はN-40°-Eの傾きを持つ。

1 竪穴住居跡

1号住居跡 (写真図版187・193)

位置 A-2グリッド 方位 E-7°-S

規模 北辺と西辺が路線外に伸びる。確認長東西3m南北3.6m 壁高 10cm前後

貯蔵穴 南東隅 規模は1m程の隅丸方形を呈し、深さ5cmを測る。羽釜破片出土。

柱穴 無し 周溝 無し

床面 暗褐色砂質土に褐色土塊の混土を薄く貼る。

掘形 平坦に仕上げられている。

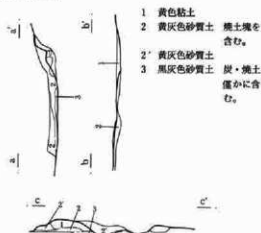
遺物 南壁中央部に須恵器坏出土。

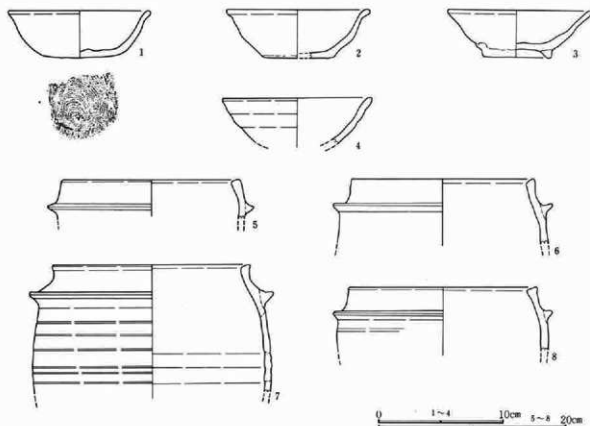
竈

位置 東壁中央南寄り

規模 焚口部幅30cm 燃焼部奥行き30cm・幅35cm、深さ5cm 煙道部は調査区外に伸び、壁に焼土確認。

構築 燃焼部は壁外に有り、焚口部左に礫を設置している。火床面は床面より僅かに下がる。焼土・灰の堆積は薄い。





第566図 1号住居跡出土遺物実測図

1号住居緊急調査出土遺物観察表

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
1	須恵器 碗	覆土	- - - 片	1. にぶい褐色 2. 細砂 粘土 粒含む 3. 酸化焰 良好	楕圓整形。体文内湾。内面黒色地肌？ 底部右回転糸切り。
2	須恵器 碗	甕内 +2	11.8 5.8 3.9 片	1. 黒褐色 2. 細砂 粘土粒含む 3. 還元焰 良好	楕圓整形。口縁部外反。体部内湾。 底部回転糸切り。
3	須恵器 碗	甕内 +6	11.2 5.4 3.8 片	1. 黒褐色 2. 細砂 小石含む 3. 中性焰 軟質	口縁部外反。体部内湾。黒色土器。 底部～高台部貼り付け後、横撫で。
4	須恵器 碗	甕西 +6	12.0 - - 底部欠損	1. 灰黄褐色 2. 黒色粒 粘土 粒含む 3. 還元焰 良好	楕圓整形。器内厚い。口縁部横撫で。
5	須恵器 羽蓋	覆土	(18.5) - - 小破片	1. 黒色 2. 3. 酸化焰 良好	口縁部上端面水平。肥厚。踵貼り付け。 断面三角形。
6	須恵器 羽蓋	北東 +0.5	(19.0) - - 破片	1. 灰褐色 2. 黒色細粒含む 3. 還元焰 良好	口縁部内傾。端部平ら面を作り内傾。 踵、上面水平の直角三角形状を呈す。
7	須恵器 羽蓋	甕内 +1.5	21.0 - - 口縁～胴部片	1. にぶい褐色 2. 細砂 小石 含む 3. 酸化焰 硬質	口縁部内傾。器内厚く、口縁部外反上部平坦内傾。 踵貼り付け。断面直角三角形。
8	須恵器 羽蓋	覆土	(20.0) - - 口縁部破片	1. 灰白色 2. 細砂粒含む 3. 還元焰 良好	口縁部肥厚し、上部平坦面。踵上向きの断面三角形。 内面明調整。

第5節 第1取付道路部分の遺構と遺物

1 古墳

1号古墳 (写真図版187・193)

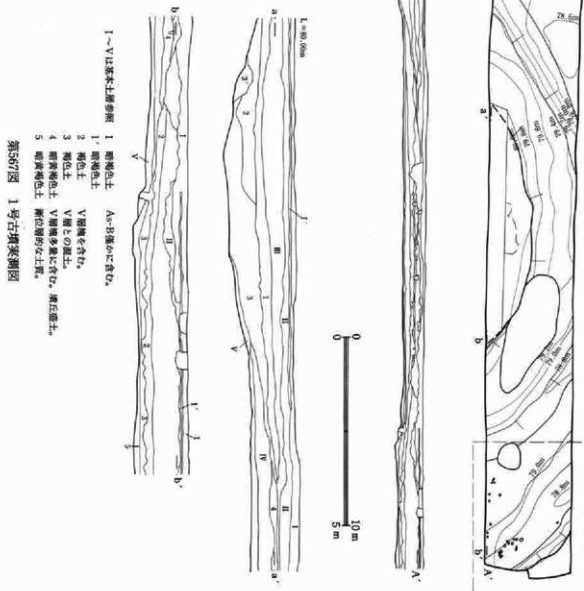
位置 取付道路東端、-N~-U-26~30グリッド

重複 調査区内検出の北側周堀部分のみ調査を行う。3号土坑に北側墳丘法面を切られる。

方位 不明 **形状** 不明、現状では畑地内に僅かに高まりが確認できる。

規模 調査区内確認部分最大長は、東西37mを測り、そのうち周堀内縁部分は東西6mを測る。

周堀 東側周堀立ち上がり部分は調査区外に伸び、上端は不明。下端6.4mを測り、底面は東寄りの部分が溝状に窪むが、全体的にフラットに掘られている。

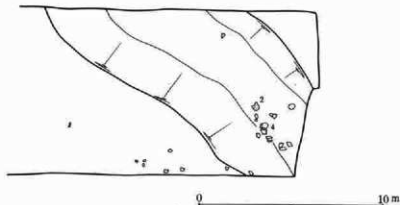


第5節 第1取付道路部分の遺構と遺物

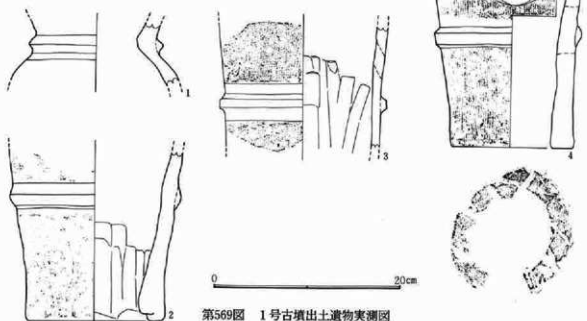
西側周堀は墳丘法面は緩い傾斜を持ち立ち上がるが、周堀外縁の立ち上がりは急である。上端は14m、下端4.5mを測る。底面はフラットに掘られている。

遺物 東側周堀底面より円筒埴輪出土。

備考 墳丘部では、暗褐色土の地山の上に黄褐色土塊主体の盛土が見られる。



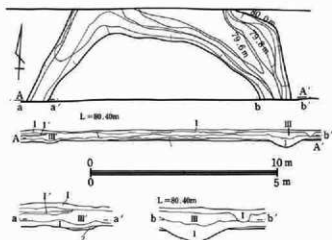
第568図 1号古墳遺物出土状況図



第569図 1号古墳出土遺物実測図

1号古墳出土遺物観察表

番号	器 種 器 形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整 形 ・ 調 整 の 特 徴
1	円筒埴輪 朝 顔 型	周堀底面	- - - 頸部	1. 褐色 2. 砂 粘土粒含む 3. 酸化層 良好	頸部尖帯巡る。断面三角形貼り付け。
2	円筒埴輪	周堀底面	- 14.6 -	1. 褐色 2. 粗砂粒含む 3. 酸化層 良好	基底部～第1尖帯、尖帯貼り付け。断面台形。 摩耗している。横撫で、裏方向刷毛目。
3	円筒埴輪	周堀底面	- - -	1. 褐色 2. 粗砂粒含む 3. 酸化層 良好	尖帯貼り付け。断面台形。横撫で。 外面縦方向刷毛目、内面斜方向刷毛目。指撫で。
4	円筒埴輪	周堀底面	- 13.0 -	1. 褐色 2. 粗砂粒含む 3. 酸化層 良好	口縁部直下～基底部。尖帯貼り付け。断面台形。 外面縦刷毛目、内面口縁部斜方向刷毛目以下指撫で。



- I～IIは基本土層断面
 1 褐色土 黄褐色土塊を含む。
 2 暗黄褐色土 褐色土塊を僅かに含む。

第570図 2号古墳実測図

2号古墳 (写真図版188)

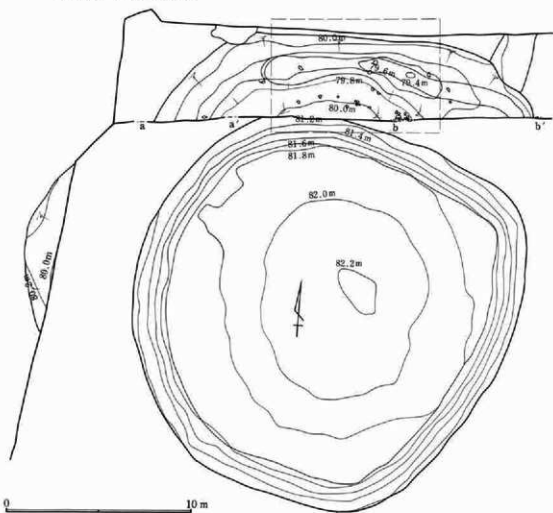
位置 -Y～B-31・32グリッド 路線中央部

重複 調査区内検出の北側周堀部分のみ調査を行う。

方位 不明 形状 周堀及び墳丘内法面部分の形状より、やや方形形状を呈する。

規模 調査区内確認部分の最大長は東西14mを測り、そのうち周堀内縁部分の長さは11mを測る。

周堀 北側周堀部分から西側にかけてはやや直線的に掘られているようにみられる。北側周堀部分の底部中央は深く掘り込まれている。また、周堀内縁中央部分は僅かに張り出している。



第571図 3号古墳実測図

3号古墳 (写真図版188・193)

現状では高さ約1m、直径約21mの砲台状の高まりとして墳丘部分が確認できる。また、この古墳は昭和10年に県内一斉に行われた古墳調査報告書である上毛古墳総覧では、小野村3号古墳(白山茶白山)として掲載されている。

位置 D~H-33~35グリッド 前橋・長瀬線との接続部分に位置している。

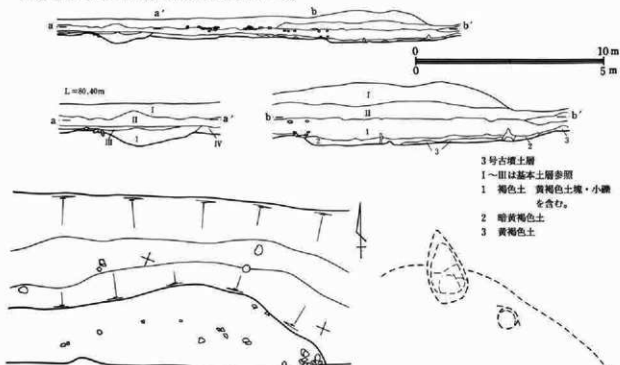
重複 8・9号土坑に北側周堀部分を、また上栗須遺跡1区7号溝にも西側周堀部分を切られている。

形状 円形を呈すると考えられる。

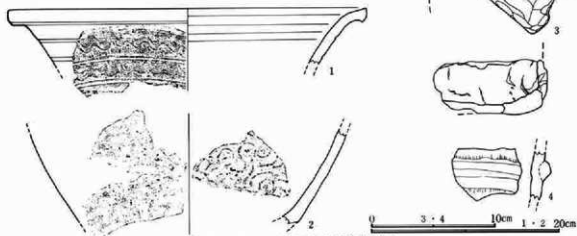
規模 現状の墳丘部分については上述の通りであるが、周堀を含めた最大長については不明である。

周堀 北側及び西側部分の周堀を検出した。西側周堀は、外縁の落ち込み部分のみの調査であった。北側周堀は、上端3m前後、下端1m前後、深さ50cm前後を測るが、周堀立ち上がり部分と墳丘内法面部分との境が不明瞭である。

遺物 周堀内全般に埴輪片出土。



第572図 3号古墳遺物出土状況図

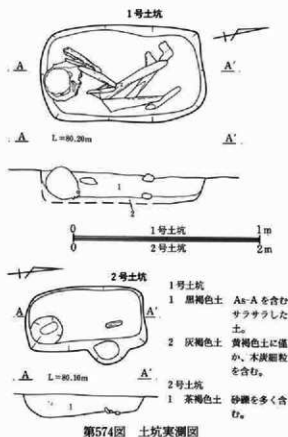


第573図 3号古墳出土遺物実測図

3号古墳出土遺物観察表

番号	器種器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
1	須恵器 壺	周堀	38.2 - - 口縁部のみ	1. 灰色 2. 白色細粒含む 3. 還元焰 軟質	口縁部、二段波状文。二本の比線がめぐる。
2	須恵器 壺	周堀	- - -	1. 灰色 2. 白色細粒含む 3. 還元焰 硬質	胴部外面、条線。内面同心円文重複、端縁、底面撫で。
3	形象埴輪 馬形	周堀	- - -	1. 灰色 2. 粗砂粒、小石含む 3. 酸化焰 良好	馬形の口部分。外面撫でなで。 内面紐づくり痕。
4	円筒埴輪	周堀	- - - 小片	1. 褐色 2. 粗砂粒含む 3. 酸化焰 硬質	突帯貼り付け。断面台形崩れ、横撫で。 外面刷毛。

2 土 坑



第574図 土坑実測図

1号土坑 (写真図版)

位置 -W-30グリッド 方位 N-5°-E
規模 長辺0.87m、短辺0.5m、深さ0.24m
重複 無し 形状 長方形
遺物 人骨出土。骨の遺存状態は良好であり、頭部から手足部分にかけての骨が発見された。頭部は南

に向けられ、手足を折り曲げた横向き状態（屈葬）で埋葬されている。表土掘削時に左側頭部を削脱してしまった。棺の痕跡は確認できなかった。また、副葬品（古銭等）は見られなかった。

2号土坑 (写真図版)

位置 -V-29・30グリッド 方位 N-0°
規模 長辺1.36m、短辺0.66m、深さ0.18m
重複 小ビット絡む 形状 長方形

3号土坑 (写真図版)

位置 -P-・-Q-27・28グリッド
方位 N-66°-W 規模 長辺6.4m、短辺2.4m、深さ1m
重複 3号古墳周堀を切る
形状 長楕円形 備考 覆土全体 As-Bを含む。

4号土坑

5・6号土坑と絡むと思われるが、6号土坑の覆土中の土層変化によるものである。

5号土坑 (写真図版)

位置 B-32グリッド 方位 N-0°
規模 長辺1.8m、短辺1.3m、深さ0.16m
重複 6号土坑と絡む 形状 長楕円形

6号土坑 (写真図版)

位置 B-31・32グリッド
規模 長辺3m、深さ0.38m
重複 5号土坑に絡む 形状 長方形
遺物 棒状の片岩系の礫出土。

第5節 第1取付道路部分の遺構と遺物

7号土坑 (写真図版)

位置 C・D-32グリッド

方位 N-0°

規模 長辺1.4m、短辺1.0m、深さ0.16m

重複 無し 形状 隅丸長方形

遺物 無し

8号土坑 (写真図版)

位置 G-33グリッド

規模 長辺1.0m、深さ0.3m

重複 9号土坑を切る 形状 円形

9号土坑 (写真図版)

位置 G・H-33・34グリッド

規模 長辺1.8m、深さ0.5m

重複 8号土坑に切られる

形状 円形

10号土坑 (写真図版)

位置 H-34グリッド

規模 長辺0.8m、深さ0.45m

重複 無し 形状 円形

11号土坑 (写真図版)

位置 H-34グリッド

方位 N-17°-E

規模 長辺1.4m、短辺1.0m、深さ0.31m

重複 無し 形状 長円形

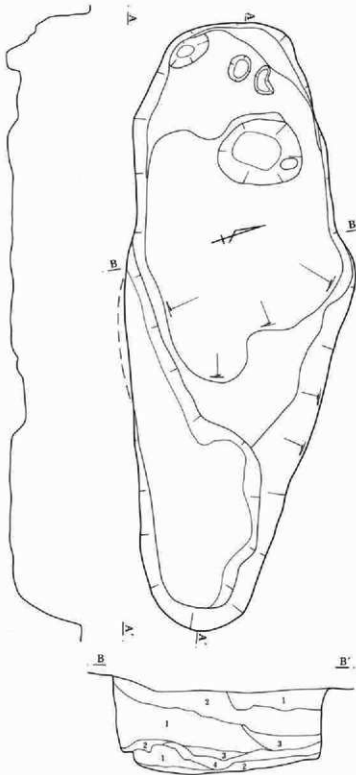
12号土坑 (写真図版)

位置 H-34グリッド

方位 N-17°-E

規模 長辺1.4m、短辺1.0m、深さ0.16m

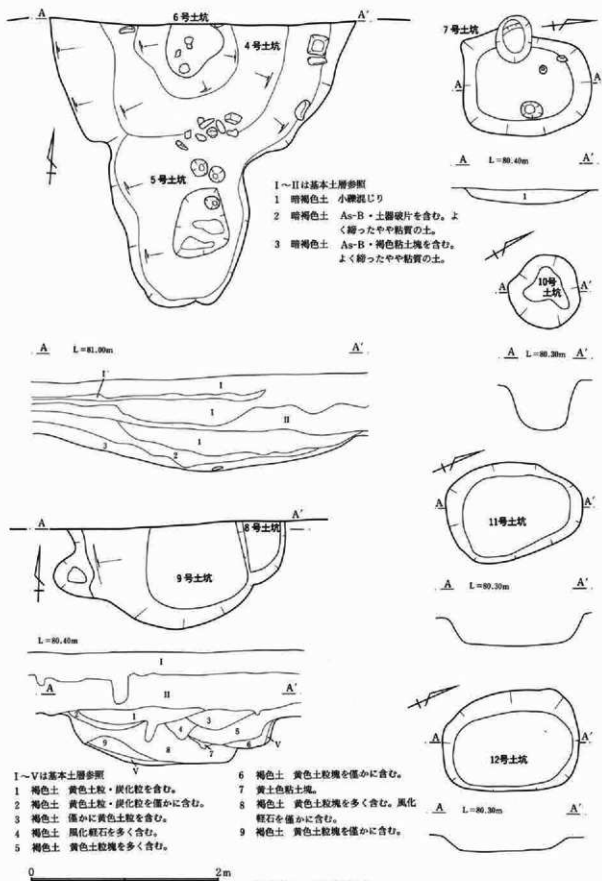
重複 無し 形状 隅丸長方形



- | | |
|---------------------------------|-------------------------|
| 1 灰褐色土 As-A多量に含み僅かに黄褐色、暗褐色土を含む。 | 3 灰褐色土 1層に似るが、暗褐色塊多く含む。 |
| 2 暗褐色土 黄褐色土塊含む。 | 4 暗褐色土 As-A、黄褐色土塊混じり。 |

0 L=80.26m 2 m

第575図 3号土坑実測図



第576図 土坑実測図

第6節 第2取付道路部分の遺構と遺物

1 竪穴住居跡

1号住居跡 (写真図版)

掘形 壁際を掘り込み、中央部が高まりとして残る。

位置 -X-38グリッド

重複 北西部分のみの調査。

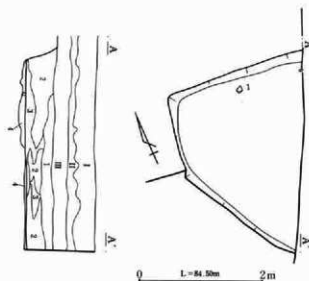
竈 未確認

規模 東西2.2m 南北3m

壁高 47cm前後を測り、垂直に立ち上がる

貯蔵穴 未確認 柱穴 無し 周溝 無し

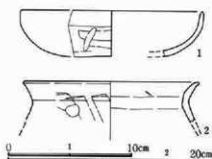
床面 中央部分は掘形面が踏み締められ褐色土に変色している。また、部分的に堅く締る面がある。



I~IIIは基本土層参照

- 1 暗褐色土 As-Bを多く含む。
- 2 暗褐色土 黄褐色土塊を多く含む。
- 3 褐色土 黄褐色小塊、焼土粒見られる。
- 4 褐色土 黄褐色小塊含み、堅く踏み締まる。

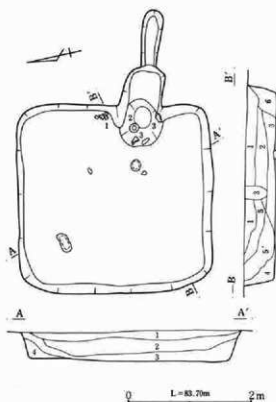
第577図 1号住居跡実測図



第578図 1号住居跡出土遺物実測図

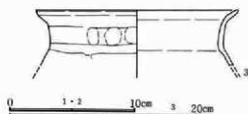
1号住居遺物観察表

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
1	土器器 坏	北壁 -25	14.55 - (3.6) 底部欠損	1. 褐色 2. 砂粒含む 3. 酸化焼、良好。	口縁部横撫で。体部荒削り。
2	土器器 壺	覆土	18.7 - (4.2)	1. 明赤褐色 2. 砂粒含む 3. 酸化焼 良好	口縁部横撫で。胴部上位斜方向荒削り。 内面傷付着。



- 1 灰褐色土 白色軽石・灰黄色土粒・小石含む。しまり強い。
 2 褐色土 白色軽石・灰黄色土粒・小塊・小石僅かに含む。
 3 灰褐色土 灰黄色・黄白色塊・小塊含む。
 4 暗褐色土 黄色粘土塊・小塊粒含む。

第579図 2号住居跡実測図



第580図 2号住居跡出土遺物実測図

2号住居跡 (写真図版)

位置 -Z-39グリッド 方位 E-18°-S

規模 東西3m 南北3.1m 方形を呈する。

壁高 42cm前後を測り、垂直に立ち上がる。

貯蔵穴 無し 柱穴 無し 周溝 無し

床面 黄褐色土塊混じりの灰褐色土を踏み固める。

掘形 部分的に掘り込みが深い

竈

位置 東壁南寄り

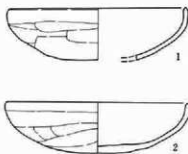
規模 焚口部幅40cm 燃烧部奥行き90cm・幅44cm、

深さ70cm 煙道部長さ95cm、幅20cm

煙道部への立ち上がり28cm 垂直に立ち上がる。

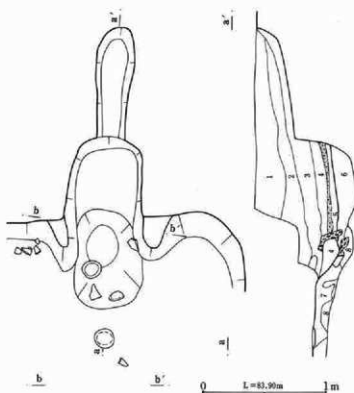
構築 燃烧部は壁外にあり、僅かに地山掘り残しの袖を持つ。掘形は長方形を呈し、壁は垂直に立ち上がる。火床面は、床面より数cm下がりにレンズ状に掘られ、灰が見られる。

- 5 灰褐色土 灰黄色塊・小塊粒多量に含む。
 5' 灰褐色土 灰黄色塊・小塊粒含む。
 6 灰褐色土 灰黄色塊多量に含む。

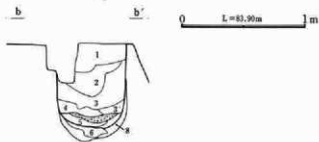


2号住居遺物観察表

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
1	土器 杯	覆土	14.0 - (4.1) 片	1. 褐色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 軟質	口縁部横断で、内湾気味、立ち上がる。 体部底部削り有り。
2	土器 杯	竈内 -1	14.7 - (4.0) 完形	1. 褐色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 やや軟質	口縁部横断で、内湾。 体部底部削り有り。内面回転断で。
3	土器 壺	覆土	21.6 - (5.8) 口縁～胴部	1. 赤褐色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁～胴部横断で、胴部上下端強い横断で。 コの字状。上位横方向重削り、胴部指頭直有り



- 1・2は住居土層と同じ。
- 3 暗黄褐色土 砂質土塊多量に含む。
- 3' 暗黄褐色土 砂質塊
- 4 黄褐色土 粘性が強く、僅かに焼土を含む。底面が焼ける。天井部の崩落。
- 5 灰褐色土 灰・炭・焼土の混土。
- 6 暗黄褐色土 褐色土塊・焼土粒僅かに含む。
- 7 暗褐色土 黄褐色土と褐色土の混土。
- 8 黄褐色土 僅かに褐色土含む。



第581図 2号住居跡電実測図

3号住居土層

- 1 灰褐色土 黄褐色土含む。
- 1' 灰褐色土 黄褐色土僅かに含む。
- 2 暗黄褐色土 黄褐色土主体、褐色土粒含む。
- 3 暗黄褐色土 褐色土塊含む。
- 4 褐色土 黄褐色土塊含む。
- 5 黄褐色土 3層に似るが、褐色土少ない。
- 6 黄土色土 V層塊

3号住居跡 (写真図版191・194)

位置 G-40グリッド

方位 W-5°-S

重複 4号掘立柱建物跡と重複している

規模 東西3m 南北3.7m

長方形を呈する

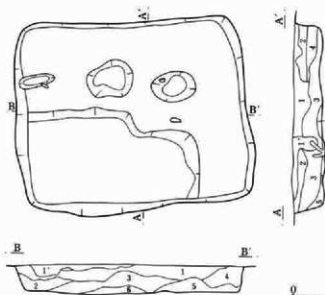
壁高 42cm前後 ほぼ垂直に立ち上がる

貯蔵穴 無し 柱穴 無し

周溝 無し

床面 掘形掘削段階で中止されたものと考えられる。

竈 無し



第582図 3号住居跡実測図



第583図 3号住居跡出土遺物実測図

3号住居遺物観察表

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・器径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
1	土器 器形 碗	覆土	14.3 - (2.1) 底部欠損	1. 褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 やや軟質	口縁部横撫で。
2	土器 器形 碗	覆土	- 5.2 (2.4)	1. におい褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。体部直撫で。底部平底。

4号住居跡 (写真図版191・194)

位置 D-40グリッド 方位N-5°-W

重複 6号住居に切られている。南側調査区外に伸びるため未調査。

規模 東西2.1m 南北2.9m 長方形を呈する。

壁高 56cm前後 垂直に立ち上がる。

貯蔵穴 無し 柱穴 無し 周溝 無し

床面 黄褐色土を踏み固め床としている。

掘形 全体に平らに仕上げられている。

遺物 土器器坏等出土

竈

位置 西壁中央やや南寄り

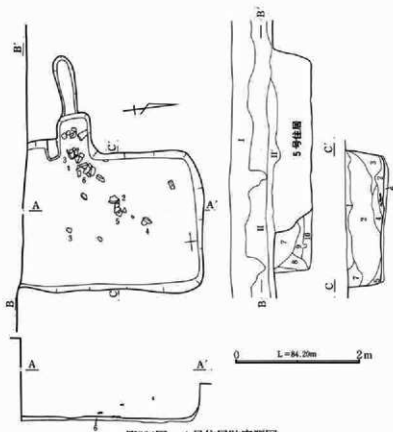
規模 焚口部幅45cm 燃焼部奥行60cm・幅40cm・

深さ59cm 煙道部長さ90cm・幅20cm

煙道部への立ち上がり30cm 垂直に立ち上がる。

構築 燃焼部は壁を掘り込み構築されている。壁面は垂直に立ち上がる。火床面は、床面と同レベルである。

暗褐色土・焼土・灰の堆積見られる。

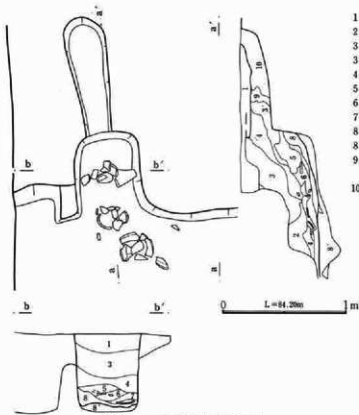


第584図 4号住居跡実測図

I~II'は基本土層断面

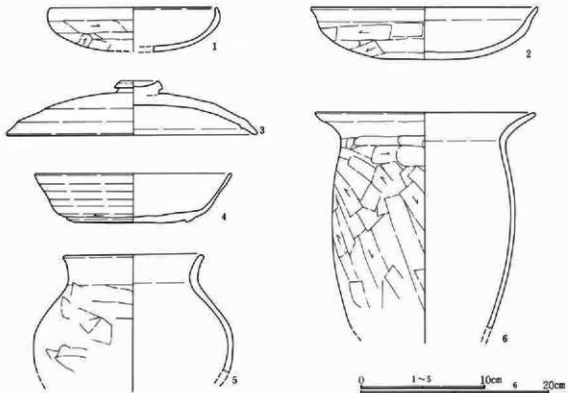
- 1 暗褐色土 黄白色土粒・白色軽石含む。
- 2 灰褐色土 黄白色土粒小塊を多く含む。
- 3 暗褐色土 黄白色土粒塊混じり。褐色塊を含む。
- 4 暗褐色土 黄白色土粒を含む。褐色塊を多く含む。
- 5 灰黄色土 黄白色土多く含む。
- 6 暗褐色土 黄白色土塊混じり。
- 7 灰褐色土 黄白色土塊粒を含む。褐色塊混じり。
- 8 灰褐色土 黄白色土塊を僅かに含む。
- 9 灰黄色土 黄色土混じり。黄白色土粒塊を含む。
- 10 暗褐色土 黄白色土粒を僅かに含む。

第6節 第2取付道路部分の遺構と遺物



- 1 暗褐色土 黄白色土粒・白色軽石を含む。
- 2 灰褐色土 黄白色土粒塊を多く含む。
- 3 暗褐色土 灰黄色土・黄色粒を含む。
- 3' 暗褐色土 黄白色粒小塊を含む。
- 4 暗褐色土 僅かに黄色粒を含む。
- 5 黄土色粘土。
- 6 灰黄色土 炭・焼土粒を僅かに含む。
- 7 赤茶色土 焼土層
- 8 暗褐色土 灰層
- 8' 暗褐色土
- 9 茶色土 黄白色土粒を僅かに含む。炭化物あり。多少焼けている。
- 10 茶褐色土 やや炭化物を含む。

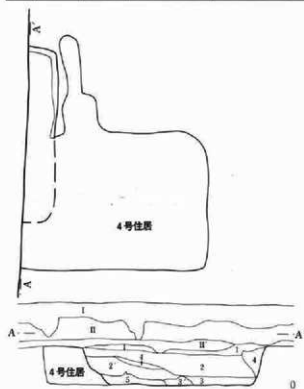
第585図 4号住居跡竈実測図



第586図 4号住居跡出土遺物実測図

4号住居遺物観察表

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
1	土器 甕 坏	覆土	13.2 5.0 3.4 底部欠損	1. 橙色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横線で、口唇部僅かに内傾。 体部、不定方向荒削り。
2	土器 甕 坏	中央 床直	16.8 6.0 4.1 完形	1. 橙色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 軟質	口縁部横線で、僅かに外反。体部、横方向荒削り。
3	須恵器 蓋	竈内 -3	19.8 — 4.3 完形	1. 明紫灰色 2. 砂粒 白色小 粒含む 3. 還元焰 硬質	頂部、回転荒削り。掴み貼付。内面カエリ。内面 乱れた面が肌。
4	須恵器 坏	中央 -1	15.5 9.0 3.9 完形	1. 灰白色 2. 砂粒含む 3. 還元焰 硬質	轆轤形。 底部回転荒削り後、削出高台。
5	土器 甕 小型 壺	中央 +2	11.2 — (9.3) 口縁~胴部迄	1. 橙色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横線で、外反。 胴部、下部球状形、横方向荒削り。
6	土器 甕	竈前 +1	18.2 — — 胴下~底部欠損	1. 橙色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部外反、端部強い横線で。胴部無で。 胴上部横線削り、胴下半、斜方向荒削り。



第587図 5号住居跡実測図

5号住居跡

位置 E・D-40グリッド

重複 5号住居を切る。全体は路線外に伸びるため
未調査。 規模 北壁2.8m

壁高 45cm前後 やや傾いて立ち上がる。

貯蔵穴 不明 柱穴 不明 周溝 無し

床面 黄褐色土混じりの暗褐色土を踏み固めている

遺物 無し

竈 不明

I・IIは基本土層参照

1 灰褐色土 黄白色土粒小塊混じり。暗褐色土塊を
含む。

2 灰黄色土 黄色土混じり。黄白色土粒塊を含む。
2' 灰黄色土 黄色土混じり。黄白色土粒塊僅かに含
む。

3 暗褐色土 黄白色土塊を僅かに含む。
3' 暗褐色土

4 灰褐色土 黄白色土粒塊を含む。褐色土塊混じり。

5 灰褐色土 黄白色土粒塊を僅かに含む。

2 掘立柱建物跡

1号掘立柱建物跡 (写真図版191)

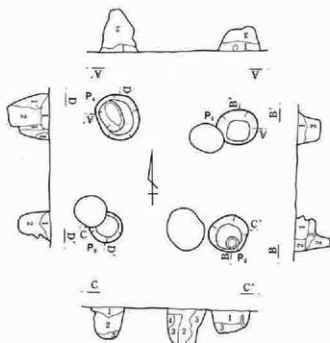
位置 D-41グリッド

重複 2号掘立柱建物と重複する。立て替えの可能
性も考えられる。

規模 1間 (1.7m) × 1間 (1.9m)

面積 3.23㎡ 形状 方形

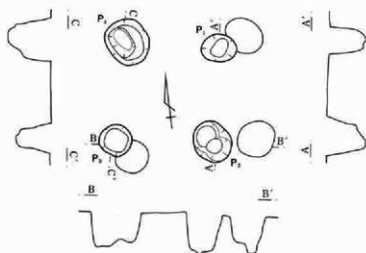
柱穴 円形又はやや方形の掘形を持つ。



第588図 1号据立柱建物跡実測図

- 1 暗褐色土 As-Bらしき白色粒石含む。
- 1' 暗褐色土 僅かに黄白色土粒含む。
- 2 暗褐色土 黄白色土小塊粒含む。
- 3 暗褐色土 黄白色土小塊多量に含む。
- 4 褐色土 締り弱い。

0 L=84.30m 2m



第589図 2号据立柱建物跡実測図

2号据立柱建物跡 (写真図版191)

位置 D-41グリッド

重複 1号据立柱建物と重複する。

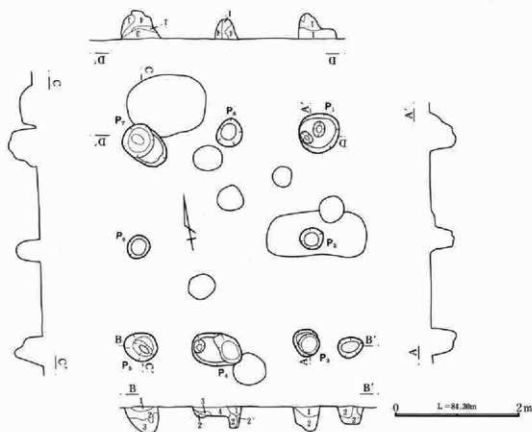
規模 1間 (1.7m) × 1間 (1.5m)

面積 2.5m² 形状 方形

柱穴 円形又は方形に近い楕形を持つ。

上栗須遺跡第二取付道路据立柱建物跡柱穴規模計測表

	柱穴	長径	短径	深さ	柱穴	長径	短径	深さ	柱穴	長径	短径	深さ	柱穴	長径	短径	深さ
1号据立柱建物跡	1	60	40	53	2	70	50	65	3	50		53	4	80	60	70
2号据立柱建物跡	1	65		38	2	55		40	3	50		51	4	80	60	70
3号据立柱建物跡	1	60		40	2	30		38	3	40		39	4	80	50	38
		5	50	42	6	40		36	7	80	50	44	8	45		42
4号据立柱建物跡	1	40		32	2	50		32	3	40		30	4	40		33
		5	35	16	6	36		12								



第590図 3号掘立柱建物跡実測図

- 1 暗褐色土 黄色土粒・白色軽石僅かに含む。
- 1' 暗褐色土 黄土粒含む。
- 2 暗褐色土 黄色土粒含む。
- 2' 暗褐色土 黄色土小塊・褐色塊含む。
- 3 暗黄土色土 黄色土細砂塊を主体とする。
- 4 灰褐色土 黄色土粒・小塊混じり。

3号掘立柱建物跡 (写真図版192)

位置 F-41グリッド 方位 N-3°-E

重複 小ピット多数絡む。

規模 2間 (3.3m) × 2間 (2.7m)

面積 8.9㎡ 形状 長方形

柱穴 円形の掘形を持ち、底面に凹面見られる。

4号掘立柱建物跡 (写真図版191)

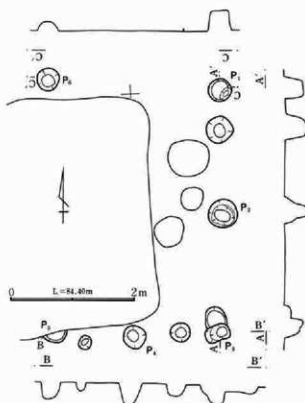
位置 G-41グリッド 方位 N-1°-W

重複 3号住居と重複する。新旧関係は不明。

規模 2間 (3.9m) × 2間 (2.5m)

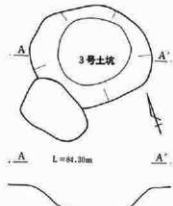
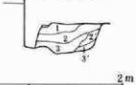
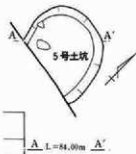
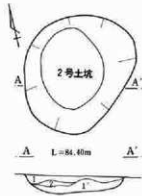
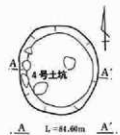
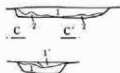
面積 9.7㎡ 形状 長方形

柱穴 円形の掘形を持つ。



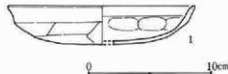
第591図 4号掘立柱建物跡実測図

3 土 坑



- 1号土坑
 1 褐色土 白色軽石・黄土粒含む。
 1' 褐色土 白色軽石・黄白色土粒僅かに含む。
 2 褐色土 暗黄土色粘土塊含む。
 3 褐色土 黄白色土粒・焼土粒・炭含む。
 4 灰褐色土 黄色土混じり。焼土粒やや多く含む。
 5 褐色土 黄白色土粒・焼土粒・炭僅かに含む。
- 2号土坑
 1 暗褐色土 As-B多量に含む。黄色粒含む。
 1' 暗褐色土 As-B・褐色塊・風土層含む。
 2 暗褐色土 As-B多量に含む。黄色土粒・小塊混じり。
- 4号土坑
 1 暗褐色土 As-Bらしき白色軽石多量に含む。
 1' 暗褐色土 As-Bらしき白色軽石黄色土粒混じり。
 2 暗褐色土 As-B多量に含む。黄色土粒・小塊混じり。
- 5号土坑
 1 暗褐色土 黄色土粒・小塊混じり。白色軽石含む。
 2 暗褐色土 黄色土粒・白色軽石含む。褐色塊あり。
 2' 暗褐色土 黄色土粒・白色軽石僅かに含む。
 3 褐色土 黄色土粒(大小含む)混じり。
 3' 褐色土 褐色塊含む。

第592図 土坑実測図



第593図 土坑出土遺物実測図

1号土坑 (写真図版)

位置 H-40グリッド 方位 N-0°
 規模 1m四方の方形を呈する土坑の北辺に50×60cmの突出部を持つ。この突出部は焼土、炭化物の出土が見られ、他の地域で検出されている電施設を有する特殊土坑と同じものと考えられる。
 全長1.6m(突出部を含める)、短辺1m、深さ8cm
 重複 無し 形状 方形 遺物 無し

2号土坑 (写真図版)

位置 I-40グリッド 規模 長辺1.2m、深さ22cm
 重複 無し 形状 円形 遺物 無し

3号土坑 (写真図版)

位置 G-40グリッド 規模 長辺1.3m、深さ26cm
 重複 3号掘立柱建物の柱穴7と重複する
 形状 円形 遺物 無し

第II章 上栗須遺跡

4号土坑 (写真図版)

位置 K-41グリッド 規模 長辺90cm、深さ
18cm
重複 無し 形状 円形 遺物 露出土

5号土坑 (写真図版)

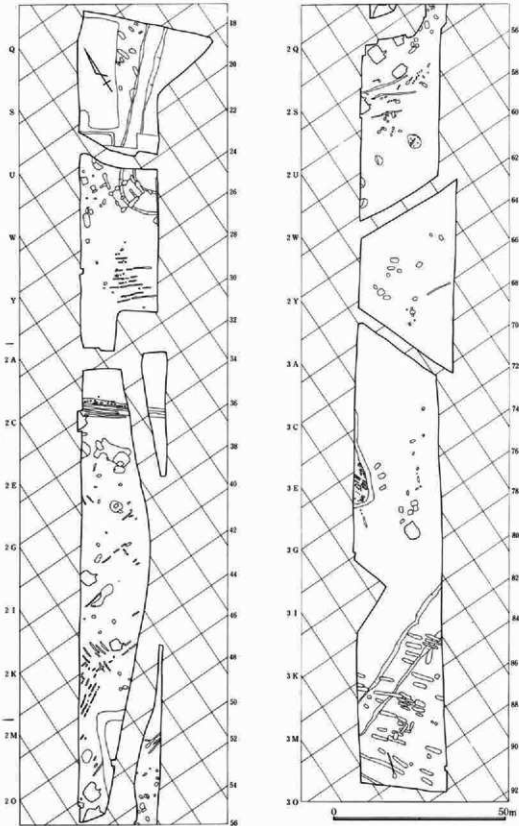
位置 Y-38グリッド 規模 路線外に伸び
るため未調査 長辺80cm、深さ28cm 重複 無
し 形状 楕円形 遺物 土師器坏出土

5号土坑遺物観察表

番号	器 種 器 形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整 形 ・ 調 整 の 特 徴
1	土 師 器 坏	5号土坑	15.1 - (3.1) 口径～底部迄	1. 橙色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 やや軟質	口径部横断で、弱い稜を持つ。 体部、底部見附り。内面指頭圧痕有り。

第Ⅲ章 下大塚遺跡

第1節 検出された遺構と遺物



第594図 下塚遺跡の遺構配置図

1 竪穴住居跡

1号住居跡 (写真図版196・208)

位置 2M-52・53グリッド 方位 N-90°-E

規模 東西3.5m 南北4.6m 長方形を呈する。

壁高 45cm前後 垂直に立ち上がる。

貯蔵穴 無し 柱穴 無し

周溝 電部分を除き全周する。規模は、上端10cm、
下端6cm、深さ4cm前後を測る。

床面 黄褐色土混じりの暗褐色土を薄く貼り、堅く
踏み固めている。

掘形 若干の凹凸は見られるが、全体的にフラット
な面に仕上げられている。

遺物 全体に散布しており、浮いている状態のもの
が多い。

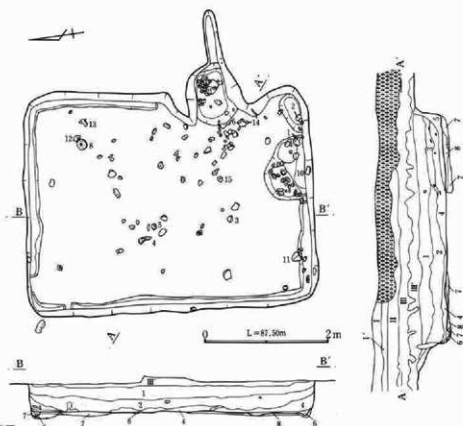
竈

位置 東壁南

規模 焚口部幅80cm 燃焼部奥行き85cm・幅70cm・
深さ57cm・煙道部長さ90cm・幅16cm

煙道部への立ち上がり30cm 垂直に立ち上がる。

構築 燃焼部は壁の延長線上にあり、地山掘り残し
の袖を持つ。火床面は床面よりやや低く、焼土、灰
の広がり見られる。掘形は方形状を呈し、壁面は垂
直に立ち上がる。壁面の焼けは弱い。煙道部は水平
方向やや上向きに伸びる。掘形は方形状を呈し、壁
面の焼けは弱い。

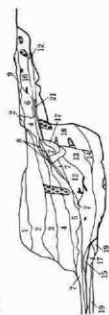
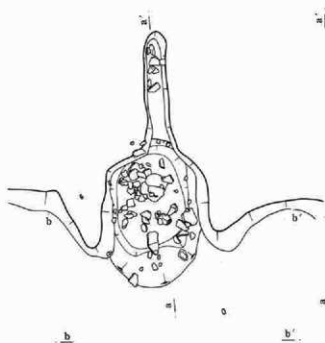


1～Ⅷ基本土層参照

- | | |
|------------------------------|-----------------------------------|
| 1 暗褐色土 黄褐色塊・焼土・炭を僅かに含む | 5 褐色土 焼土・黄褐色土塊・木炭・灰の混入が多い |
| 2 暗褐色土 黄褐色土・焼土を含む | 6 暗褐色土 黄褐色土塊を僅かに含む。 |
| 3 暗褐色土 黄褐色土塊・焼土・灰混り履部よりの流れ込み | 7 暗褐色土 黄褐色土塊をやや多目に含む。 |
| 4 明褐色土 黄褐色土塊を多く含む。木炭も僅かに混る。 | 8 暗褐色土 黄褐色土と暗褐色土の混土 (堅く踏み固められている) |

第595図 1号住居跡実測図

第1節 検出の遺構と遺物

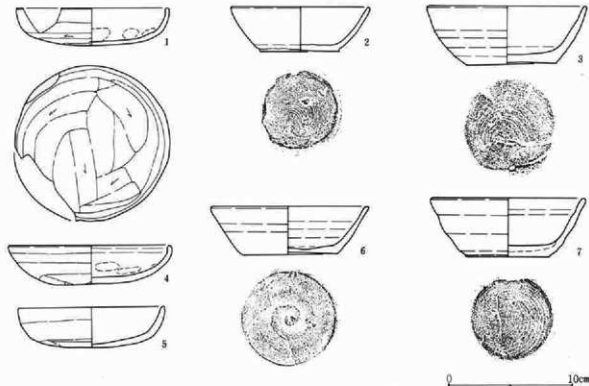


- 1 暗褐色土 As-B混じり
- 2 暗褐色土 As-B層かを含む
- 3 褐色土 焼土・灰混じり
- 4 褐色土 焼土やや多く含む
- 5 褐色土 焼土含む
- 6 橙褐色土 焼土塊
- 7 暗褐色土 よごれた褐色土
- 8 黄褐色土
- 9 褐色土
- 10 黄褐色土 焼土・灰層かを含む
- 11 暗褐色土
- 12 黄褐色土 褐色土塊含む
- 13 黄褐色土 焼土塊点状を含む
- 14 黄褐色土 焼土塊層かを含む
- 15 暗褐色土 堅くしまる
- 16 褐色土 焼土・灰・土層を含む
- 18 褐色土 焼土・灰混じり
- 19 褐色土 黄褐色土
- 20 黄褐色土砂質土 黄褐色土
- 21 褐色土 堅く締っている

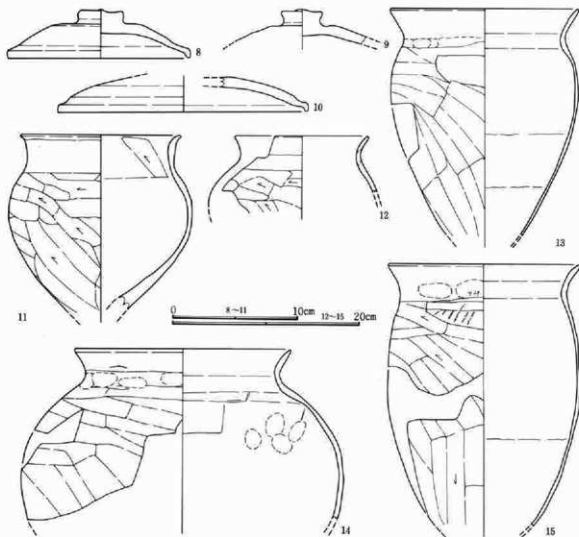


第596図 1号住居跡竈実測図

0 L=87.30m 1m



第597図 1号住居跡出土遺物実測図(1)



第598図 1号住居跡出土遺物実測図(2)

1号住居出土遺物観察表

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	器形・調整の特徴
1	土師器 杯	南東隅 -3	12.3 - 3.0 ほぼ完形	1. 明褐色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。体部内面指頭圧痕有り。 底部平底気味、手持ち痕有り。
2	須恵器 杯	中央 +20	11.0 6.8 3.5 完形	1. 灰黄褐色 2. 精選 3. 還元焰 硬質	輪軸整形、右回転糸切り、未調整。
3	須恵器 杯	壺内 +19	12.8 7.2 4.4 完形	1. 灰黄色 2. 砂粒含む 3. 還元焰 硬質	輪軸整形。 底部回転糸切り、未調整。
4	土師器 杯	野蔵穴 +5	13.0 - 3.0 片欠損	1. 褐色 2. 精選 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。体部、部分的に指撫で、 内面指頭圧痕有り。底部麓削り、平底気味。
5	土師器 杯	中央 +2	11.6 - 3.2 片	1. にぶい褐色 2. 精選 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。
6	須恵器 杯	中央 +15	12.5 7.5 3.8 片	1. 灰白色 2. 精選 3. 還元焰 良好	輪軸整形。体部直線的に開く。 底部寛切り磨し、周縁部寛調整。

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
7	須志器 坏	竈内 +6	12.5 6.6 4.6 完形	1. 灰黄色 2. 細砂粒含む 3. 還元焰 良好	轆轤整形。 底部右回転糸切り、未調整。
8	須志器 蓋	北東 +2	14.5 — 3.9 完形	1. 灰白色 2. 精選 3. 還元焰 やや軟質	口縁部端部折り返し。 頂部回転更削り。隅まみ部宝珠形。
9	須志器 蓋	覆土	— — —	1. 灰色 2. 白色小石 砂粒含む 3. 還元焰 硬質	頂部回転更削り。 胴部隅み部寶珠状。
10	須志器 蓋	南東壁 +22	20.0 — — 隅まみ部欠損	1. 灰黄色 2. 細砂粒含む 3. 還元焰 硬質	口縁部端部折り返し。 頂部回転更削り。
11	土師器 壺	南西 床直	12.8 — — 底部欠損	1. 暗褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横無で、口唇部僅かに外反。 胴部上位横方向、中位～下位斜方向。
12	土師器 壺	北東 +13	14.3 — — 口縁部～頸部	1. におい褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横無で。 胴部上位横方向、中位斜方向更削り。
13	土師器 壺	竈内 9.0	20.0 — — 口縁部～底部写	1. におい褐色 2. 砂粒 粘土 粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横無で。 胴部上位横方向、中位～下位斜方向更削り。
14	土師器 壺	竈前 +17	23.0 — — 口縁部～胴部写	1. 赤褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横無で、肩部指頭汪旗有り。底部指押さえ胴 部上位横方向、中位斜方向更削り、内面無で。
15	土師器 壺	中央 +18	20.4 — — 口縁部～胴部下写	1. におい褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横無で、肩部指頭汪旗有り。 胴部横方向、中位斜方向、下位斜方向更削り。

2号住居跡 (写真図版196・209)

位置 2L・2M-54グリッド 方位 N-89°E

規模 東西4.2m 南北2.7m 長方形を呈する。

壁高 52cm前後 垂直に立ち上がる。

貯蔵穴 南東隅 径58cm、深さ6cmの規模を持ち、土師器壺出土。

柱穴 無し

周溝 東壁と南壁中央東寄り部分を除き、上端10cm、深さ3cm前後の規模を持ち巡る。

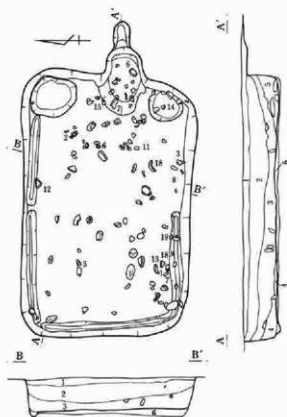
床面 黄褐色土塊を含む暗褐色土を踏み固めている。竈前に僅かに灰の広がりが見られる。住居西中央に縦が1.2m×1mの範囲で長形状に並ぶ。

掘形 北東隅に70×60cmの隅丸長方形の土坑を検出した。また不定形の掘り込みが見られる。

遺物 線及び土器片が散乱している。

- | | | |
|--------|--------------|--------|
| 1 暗褐色土 | As-B混じり | 2 暗褐色土 |
| 3 暗褐色土 | 黄褐色塊混じり | 4 黒褐色土 |
| 5 黄褐色土 | 塊を多量に含む | |
| 6 暗褐色土 | 黄褐色土塊を斑点状に含む | |

0 L=87.6mm 2m



第599図 2号住居跡実測図

竈

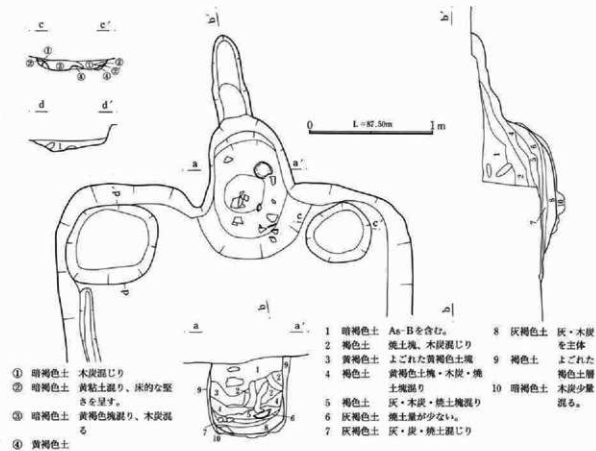
位置 東壁中央

規模 焚口部幅70cm 燃焼部奥行き70cm・幅55cm・

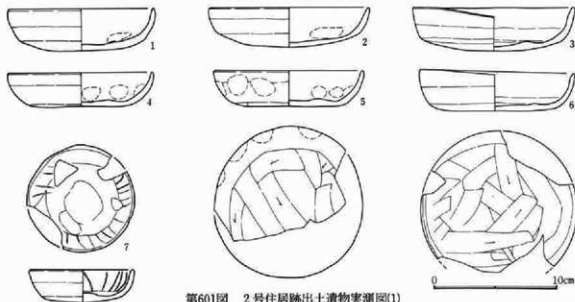
深さ57cm 煙道部長さ70cm・幅20cm

煙道部への立ち上がり35cm 斜めに立ち上がる。

構築 燃焼部は壁外にあり、焚口部に地山掘り残しの袖を持つ。火床面は床面より10cm程下がり、灰の堆積見られる。掘形は長方形を呈し、壁面は垂直に立ち上がる。壁面の焼けは弱い。煙道部は斜めに立ち上がる。

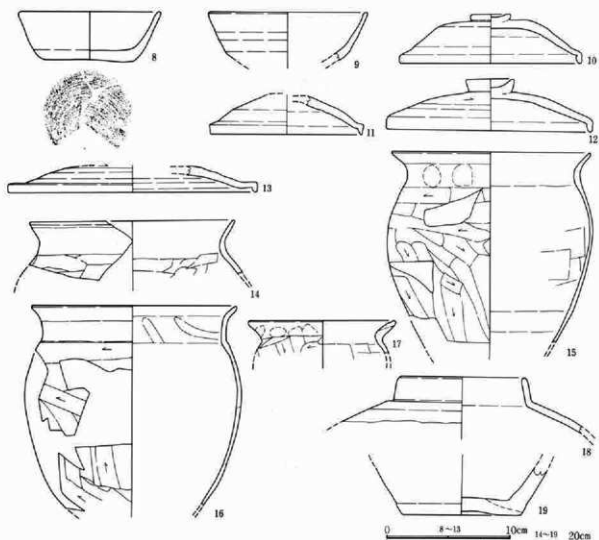


第600図 2号住居跡竈実測図



第601図 2号住居跡出土遺物実測図(1)

第1節 検出の遺構と遺物



第602図 2号住居跡出土遺物実測図(2)

2号住居出土遺物観察表

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・直径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
1	土師器 杯	南西 +11	11.8 - (3.3)	1. 橙色 2. 僅かに細砂含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。体部未調整。 底部平底気味、手持ち痕有り。
2	土師器 杯	堀形 +4	13.0 - (3.1)	1. 明赤褐色 2. 細砂粒僅かに 含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。体部未調整。 底部手持ち痕有り。
3	土師器 杯	南東 床直	13.0 - 3.4	1. 明赤褐色 2. 精選 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。体部指押さえ、未調整。 底部平底、手持ち痕有り。
4	土師器 杯	堀形 +5	11.6 - (2.3)	1. 褐色 2. 精選 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。体部指押さえ。 底部手持ち痕有り、平底気味。
5	土師器 杯	北西隅 +9	12.0 8.0 2.8 %	1. 明赤褐色 2. 精選 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。体部指押さえ。 底部平底、手持ち痕有り。
6	土師器 杯	竈内 +5	12.4 - - ほぼ完形	1. 明赤褐色 2. 精選 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。体部指押さえ、未調整。 底部平底、手持ち痕有り。内面紐造り痕あり。

第3章 下大塚遺跡

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
7	土師器 杯	覆土	8.4 - 2.6 完形	1. 明赤褐色 2. 精選 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。体部指押さえ、未調整。内面放射状暗文。底部手持ち蓋削り、平底気味。
8	須恵器 杯	南東 +26	11.0 7.0 3.7 完形	1. 灰白色 2. 僅かに砂粒含む 3. 還元焰 良好	輪軸整形。 底部回転糸切り、未調整。
9	須恵器 杯	掘形 +3	13.0 - - 底部欠損	1. 浅黄色 2. 砂粒粒含む 3. 還元焰 良好	輪軸整形。
10	須恵器 蓋	南西 +10	14.6 - 3.9 完形	1. 灰白色 2. 黒色粒含む 3. 還元焰 やや軟質	口縁部端部折り返し。頂部回転削り。 握み部リング状。
11	須恵器 蓋	甕前 床直	12.0 - - 底部欠損	1. 灰色 2. 白色粒 片岩 小 石含む 3. 還元焰 硬質	口縁部端部折り返し。 頂部回転削り。
12	須恵器 蓋	北東 +18	16.3 - 4.0 完形	1. 灰色 2. 片岩 小石含む 3. 還元焰 硬質	口縁部端部折り返し。輪軸整形。頂部回転削り。 リング状握みあり。
13	須恵器 蓋	南西 床直	20.0 - - 底部欠損	1. 灰白色 2. 片岩、小石含む 3. 還元焰 硬質	口縁部端部折り返し。輪軸整形。 頂部回転削り。
14	土師器 壺	南東 +25	22.0 - - 口縁部	1. によい橙色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。口唇部浅い沈線あり。 胴部上位横削り。
15	土師器 壺	南西隅 +16	21.0 - - 底部欠損	1. 橙色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。頸部指頭圧痕有り。胴部上位横方向 中位斜方向、下平腕方向削り、内面撫で。
16	須恵器 壺	貯蔵穴	21.8 - - 口縁部～胴部下段	1. 橙色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 やや軟質	口縁部横撫で。コノ字状口縁。胴部上位横方向削り、 中位斜方向削り、内面撫で。
17	土師器 壺	中央 床直	16.0 - - 口縁部	1. 黄褐色 2. 粘土粒含む 3. 酸化焰 軟質	口縁部横撫で。肥厚。 胴部上位縦削り、撫で。
18	須恵器 短瓶	南西 +4	13.6 - - 口縁部～頸部	1. 灰色 2. 白色粒 黒色細粒 含む 3. 還元焰 硬質	口縁部やや内傾気味に立ち上がる。横撫で。
19	須恵器 壺	北西 床直	- 12.6 - 底部	1. 灰色 2. 白色細粒含む 3. 還元焰 硬質	胴部造り。 底部横撫で。

3号住居跡 (写真図版197・210)

位置 20-54グリッド 方位 N-86°-E
重複 南壁で4号住居を切っている。また、北西半分
 以上は調査区外のため未調査。
規模 確認長 南壁2.3m 東壁2.8m
壁高 40cm前後 やや斜めに立ち上がる。
貯蔵穴 無し **柱穴** 無し **周溝** 無し
床面 黄褐色土を僅かに含む暗褐色土を薄く踏み固
 めている。
掘形 僅かな凹凸は見られるが、全体的にフラット
 な面に仕上げられている。
遺物 礫が南よりで出土している。

竈

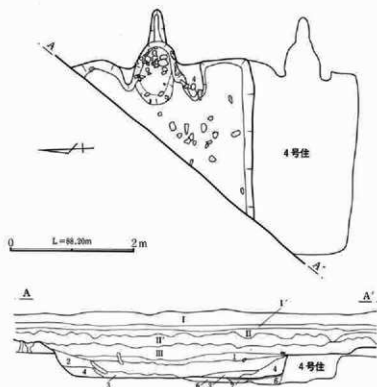
位置 東壁
規模 焚口部幅50cm 燃焼部奥行き60cm・幅40cm・
 深さ47cm 煙道部長さ45cm・幅20cm
 煙道部への立ち上がり20cm 斜めに立ち上がる。
構築 燃焼部中心は壁の延長線上にあり、暗褐色土
 を含む黄褐色土を貼り付けた袖を持つ。火床面は床
 面より10cm程下がり灰・焼土の堆積見られる。直上
 には黄褐色土の天井部崩落土の堆積見られる。掘形
 は長方形状を呈し、壁面は垂直に立ち上がる。また、
 底面と側壁立ち上がり周辺部分には20cm大の隙がま
 とまって出土している。側壁立ち上がり部分は、15

第1節 検出の遺構と遺物

cm掘り下げられ、礫が置かれている。煙道部は斜めに立ち上がり、U字形に掘り込まれ、焼土塊を含む。壁面の焼けは弱い。

I~IIIは基本層参照

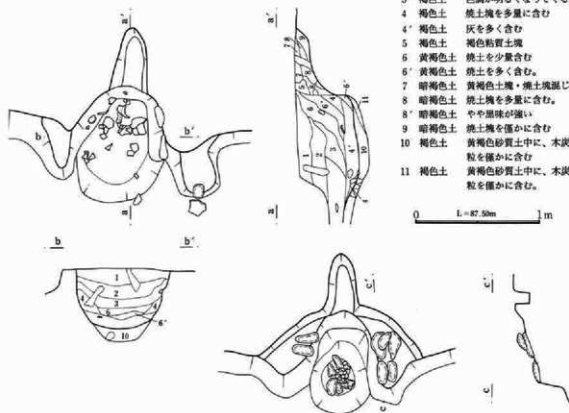
- 1 暗褐色土 焼土粒・木炭粒僅かに含む
- 2 暗褐色土 黄褐色土塊を少量含む
- 3 暗褐色土 やや黒味を帯び始める
- 4 黒褐色土 黄褐色土塊を少量含む。
- 5 黒褐色土 強く締っている
- 6 黄褐色土 砂質土と黒褐色土の混土
- 7 暗褐色土 黄褐色土塊・焼土を僅かに含む



第603図 3号住居跡実測図

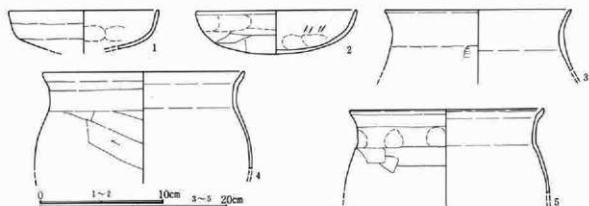
竈土層

- 1 暗褐色土 As-Bを僅かに含む。
- 2 暗褐色土 黄褐色土塊を斑点状に含む。
- 3 褐色土 黄褐色土塊、木炭粒僅かに含む。
- 3' 褐色土 色調が明るくなる。
- 4 褐色土 焼土塊を多量に含む
- 4' 褐色土 灰を多く含む
- 5 褐色土 褐色粘質土塊
- 6 黄褐色土 焼土を少量含む
- 6' 黄褐色土 焼土を多く含む。
- 7 暗褐色土 黄褐色土塊・焼土塊混じり
- 8 暗褐色土 焼土塊を多量に含む。
- 8' 暗褐色土 やや黒味が濃い
- 9 暗褐色土 焼土塊を僅かに含む
- 10 褐色土 黄褐色砂質土中に、木炭・焼土粒を僅かに含む
- 11 褐色土 黄褐色砂質土中に、木炭・焼土粒を僅かに含む。



第604図 3号住居跡電実測図

第三章 下大塚遺跡



第605図 3号住居跡出土遺物実測図

3号住居出土遺物観察表

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・高径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
1	土師器 坏	南東 +13	12.0 - (3.1) 底部欠損	1. 褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。胴部指押さえ、撫で。 底部手持ち寛削り。
2	土師器 坏	覆土	12.8 - 3.5 口縁部~底部片	1. にぶい褐色 2. 僅かに細砂 粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。胴部内面指押さえ有り。 底部手持ち寛削り。
3	土師器 甕	覆土	20.0 - (6.5) 口縁部小片	1. にぶい褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。 胴部横方向寛削り。
4	土師器 甕	南東 +13	21.5 - (10.3) 口縁部~胴部小片	1. にぶい褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。口唇部僅かに内傾。 胴部上位僅かに斜方向寛削り、内面寛撫で。
5	土師器 甕	竈内 +17	20.4 - - 口縁部~胴部上位	1. にぶい褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。コの字口縁。 胴部上位横方向寛削り。

4号住居跡 (写真図版197・210)

位置 20・2P-54・55グリッド 方位 N-86°-E

重複 北壁を3号住居に切られている。また、西側は調査区外のため一部未調査。

規模 東西3m 東壁残存長1.8m

壁高 40cm前後 垂直に立ち上がる。

貯蔵穴 無し 柱穴 無し 周溝 無し

床面 黄褐色土塊含む暗褐色土を踏み固めている。

南壁中央部壁下から西側にかけて焼土、灰の高まり見られる。竈前には焼土、灰の広がり見られる。

掘形 中央部は高まりとして残り、壁際は溝状に掘り込まれている。

遺物 竈右袖前に胴部下下部の欠損した土師器甕が倒立状態で出土。南壁部分に土師器甕、須恵器の坏が出土している。

竈

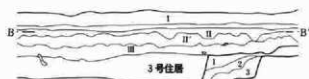
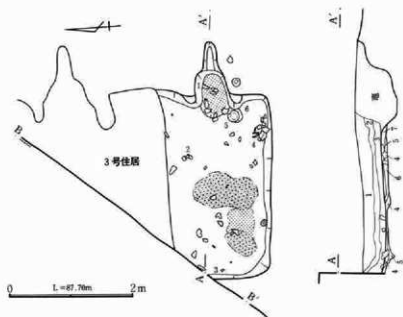
位置 東壁

規模 焚口幅45cm 燃焼部奥行き45cm・幅43cm・深さ53cm 煙道部長さ45cm・幅20cm

煙道部への立ち上がり25cm 垂直に立ち上がる。

構築 燃焼部中心は壁の延長線上にあり、焚口部には黄白色粘質土混じりの暗黄褐色土を地山に貼り付け袖を作っている。また、燃焼部立ち上がり部分は周辺部を10cm程掘り込み、天井部構築材の黄白色粘質土を詰めている。この覆土中より、須恵器の坏が出土している。火床面は床面より10cm程下がり、前方部は灰の吹き出しにより、20cm程掘り込まれている。掘形は方形を呈し、壁面は垂直に立ち上がる。煙道部は斜めに立ち上がり、覆土中には、天井部の崩落土である焼土塊が多量に含まれている。

第1節 検出の遺構と遺物



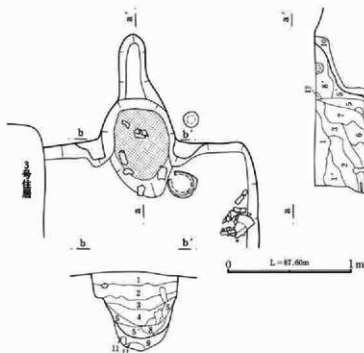
第606図 4号住居跡実測図

I~IVは基本土層参照

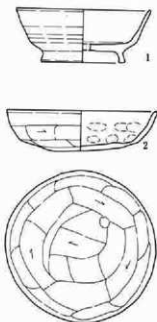
- 1 暗褐色土 黄褐色土塊少量含む
- 2 黒褐色土 黄褐色土塊少量含む
- 3 黒褐色土 黄褐色土塊 焼土混り
- 4 暗褐色土 黄褐色土塊を多く含む
- 5 暗褐色土 黄褐色微細砂を含む
- 6 暗褐色土 混合土層に絡っている。
- 7 暗褐色土 灰を含み混り絡っている。

甗土層

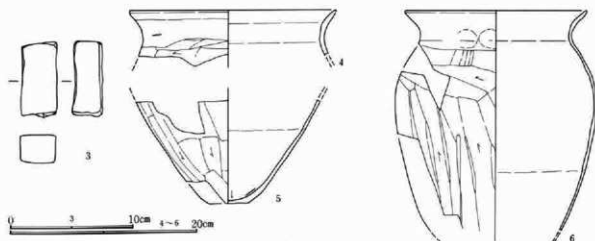
- 1 暗褐色土 As-Bを僅かに含む
- 2 暗褐色土 黄褐色土塊を斑点状に含む
- 3 暗褐色土 黄褐色土塊を含み木炭混り
- 4 暗褐色土 黄褐色土塊木炭微細粒混り
- 5 暗褐色土 黄褐色土、焼土を多く含む
- 5' 暗褐色土 焼土・木炭・灰を多く含む
- 6 暗褐色土 黄褐色土塊 焼土塊を含む
- 7 暗褐色土 黄褐色土と暗褐色土の混合
- 8 橙褐色土 天井部崩落土
- 8' 橙褐色混合土 焼土を多量に含む
- 9 暗褐色土 黄褐色土塊・木炭・灰を多く含む
- 10 暗褐色土 焼土を僅かに含む
- 11 黄褐色土塊
- 12 褐色土 暗褐色塊を含む



第607図 4号住居跡甗実測図



第608図 4号住居跡出土遺物実測図(1)



第609図 4号住居跡出土遺物実測図(2)

4号住居出土遺物観察表

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
1	須恵器 椀	竈内 +21	10.7 6.7 4.2 口縁部～底部1	1. 灰白色 2. 白色 小石含む 3. 還元焰 硬質	輪轆整形。 底部高台部貼り付け、狭で。
2	土師器 坏	南東 +5	10.0 - 3.2 完形	1. にぶい橙色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横無で。体部未調整、内面指頭圧痕有り、 無で。底部手持ち良削り。
3	砥石	南西味直	5.8 2.8 2.2 90°		流紋岩
4	土師器 壺	南東 +11	22.0 - (4.7) 口縁部～頸部	1. 橙色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横無で。 胴部横方向直削り、内面直削で。
5	土師器 壺	南東 +29	- 4.2(10.7) 胴部下～底部	1. にぶい赤褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	胴部下位縦方向直削り。 底部平底、内面直削で。
6	土師器 壺	貯蔵穴 +29	19.6 - - 胴部上～体部下写	1. にぶい橙色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横無で、指頭圧痕有り。 胴部横方向直削り、中位～下半斜縦位直削り。

5号住居跡 (写真図版198・210・211・212)

位置 2D-39・40グリッド 方位 N-90°E

規模 東西3.3m 南北4.1m 長方形を呈する。

壁高 70cm前後 上端は僅かに崩れているが、下半分の状況から、やや傾いて立ち上がる。

貯蔵穴 南東隅 45×40cmの隅丸長方形を呈する。

また、同隅壁中位から外に張り出す形で90×40cmの掘り込みがあり、土師器壺、坏等が出土している。この部分も収納場所と考えられる。

柱穴 無し 周溝 無し

床面 黄褐色土塊、褐色土塊の混土を踏み固めている。竈前には焼土、灰の広がり見られ、堅く踏み固められている。

掘形 南壁寄りに大きな掘り込みがある。北壁寄りには裸層露出しており、やや高く残る。

遺物 中央部に土師器壺出土。南壁寄りに土師器壺、坏、須恵器坏出土。竈内に土師器壺2個体正・逆位で並び出土している。

備考 覆土上面は、浅間B軽石を多量に含む。

竈

位置 東壁南

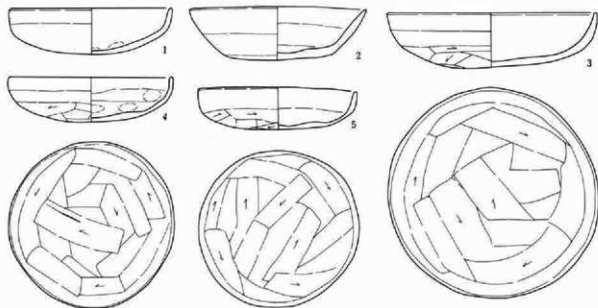
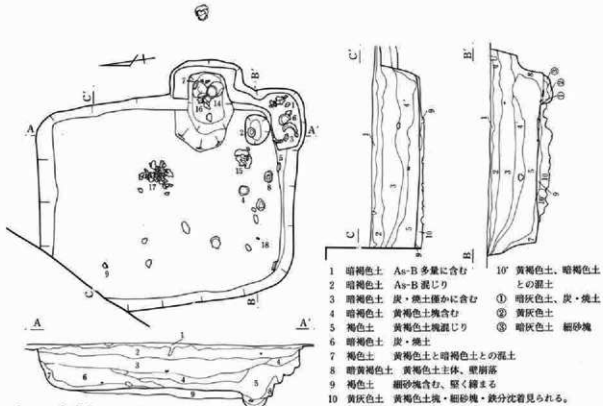
規模 焚口部幅50cm 燃焼部奥行き60cm・幅55cm・深さ85cm 煙道部長さ90cm・幅15cm

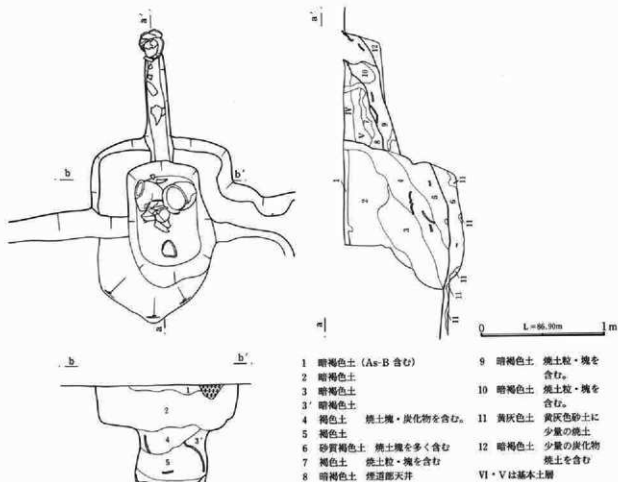
煙道部への立ち上がり30cm 垂直に立ち上がる。

構築 燃焼部は壁外にあり、焚口部に僅かに地山掘

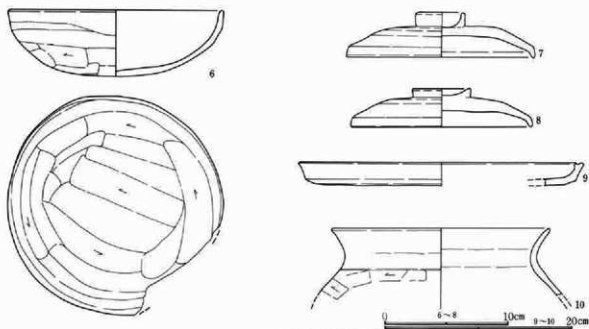
り残しの袖を持つ。火床面は床面と同レベルであり、掘形は方形を呈し、壁面は垂直に立ち上がる。壁面立ち上がり周辺部分は、中位から上30cmを外側に拡張されている。この部分は、天井部を下げることにより、燃焼効率を上げる目的のために掘り込まれた

と考えられる。煙道部は斜方向に伸び、煙出し部で垂直に立ち上がる。天井部は崩落せずに残り、底面を除き赤茶色に焼けている。掘形は方形を呈する。煙出し部は土師器甕が埋設され、胴部の一部が煙道部内に流れ込んでいる。



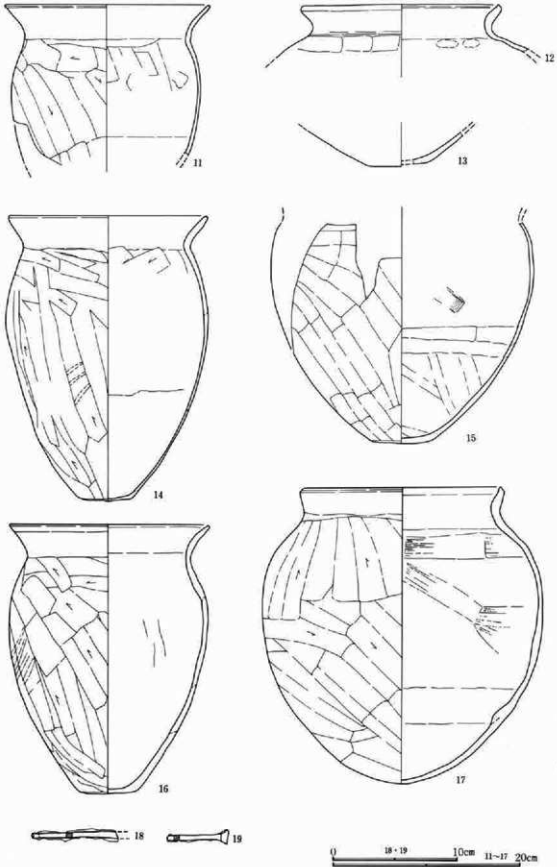


第612図 5号住居跡電実測図



第613図 5号住居跡出土遺物実測図(2)

第1節 検出の遺構と遺物



第614図 5号住居跡出土遺物実測図(3)

第三章 下大塚遺跡

5号住居出土遺物観察表

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・直径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
1	土師器 杯	南東隅 -5	12.7 - 3.6 %	1. ぶい橙色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。体部指押さえ。 底部手持ち足削り。
2	土師器 杯	貯蔵穴 +11	14.0 - - 完形	1. 黄褐色 2. 白色 片割小石 粘土粒含む 3. 酸化焰 軟質	体部僅かに歯歯して開く、内面下半は内押し、上半、 直線的に開く。内面撫で。平底足削り。
3	土師器 杯	壺内 +19	16.4 - 4.3 完形	1. ぶい橙色 2. 僅かに砂粒 含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。体部内面撫で。 底部手持ち足削り。
4	土師器 杯	南東 -5	13.0 - 3.6 完形	1. ぶい橙色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。体部内面指痕あり、内面撫で。 底部手持ち足削り。
5	土師器 杯	南東 +33	12.5 - 3.3 完形	1. ぶい橙色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部直線的に立ち上がる。横撫で。体部僅かに指 頭痕残る。内面撫で。底部手持ち足削り、平底
6	土師器 杯	南東隅 -9	16.8 6.0 5.2 %	1. 橙色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。体部横方向足削り。 底部手持ち足削り。
7	須恵器 蓋	壺内 +17	14.8 - 3.5 ほぼ完形	1. 灰色 2. 白色 片割小石含 む 3. 還元焰 硬質	端部折り返し、轆轤整形。 頂部回転削り、リング状積み。
8	須恵器 蓋	南東 +10	14.2 - 3.0 ほぼ完形	1. 灰色 3. 還元焰 良好 3. 還元焰 硬質	端部折り返し。 頂部回転削り。リング状積み。
9	須恵器 盤	北西 +10	(30.5) - -	1. 灰色 2. 白色細粒含む 3. 還元焰 硬質	轆轤整形。 体部回転削り。頂部回転削り。
10	土師器 壺	南東隅 +6	23.0 - - 口縁部~上部残	1. ぶい橙色 2. 細砂 粘土 粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部外反、横撫で。 胴部上位横方向削り。
11	土師器 壺	壺内 +54	21.8 - - %	1. ぶい橙色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。胴部上位、中~下半斜方向削り。 内面撫で。
12	土師器 壺	南東隅 +6	20.7 - - 口縁部のみ	1. ぶい橙色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。口唇部内傾。 胴部上位横方向削り。
13	土師器 壺	壺内 +2	- 6.5 - 底部~下部残	1. ぶい橙色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	胴部下半内面削り。外面斜方向削り。 底部平底、重削り。
14	土師器 壺	壺内 -3	21.0 5.5 30.3 ほぼ完形	1. 橙色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。胴部上位傾、中位斜、下半縦方向削 り。底部平底足削り、内面ターレット状付着。
15	土師器 壺	南東 +1	- 6.4 - %	1. 橙色 2. 細砂 粘土粒含む 3. 酸化焰 良好	胴部上位傾、中~下位斜方向削り。内面下半重削 り、上半重撫で。底部削り。
16	土師器 壺	壺内 +4	21.2 6.0 28.2 ほぼ完形	1. 橙色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。胴部上位傾中~下位斜方向削り 内面撫で。平底足削り。
17	土師器 壺	中央 +2	21.4 - 31.4 口縁部~底部残	1. ぶい橙色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。端部僅かに内傾、沈線巡る。胴部上 半縦、下半斜方向削り、中央部黒垢。やや尖底。
18	鉄製品	南西+4	7.0 0.6 0.5 5.7%		棒状鉄製品。釘、断面方形。
19	鉄製品	覆土	4.8 0.5 0.5 1.9%		頭部長方形。釘

6号住居跡 (写真図版199・212)

位置 2K・2L-52・53グリッド

方位 N-97-E

規模 北壁は河川敷きに入り、未調査。東西2.6m

壁高 40cm前後 ほぼ垂直に立ち上がる。

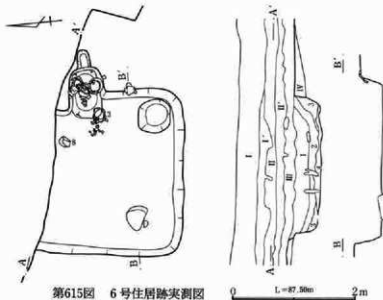
貯蔵穴 南東隅 径50cm、深さ8cmの規模を持つ

柱穴 無し 周溝 無し

床面 暗褐色土を薄く踏み固めている。

掘形 貯蔵穴周辺部が若干掘り込まれるが、他の部分はフラットな面に仕上げられている。

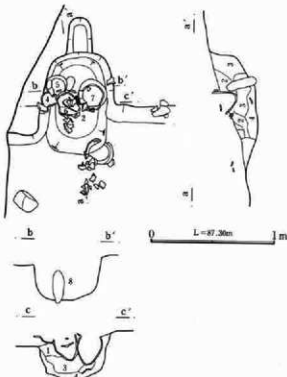
遺物 土師器壺が竈前に出土している。南西隅寄りに40cm大の扁平礫が置かれている。



第615図 6号住居跡実測図

I~IVは基本土層断面

- 1 黒褐色土 As-B、炭化物を多く含む
- 2 暗褐色土 As-B 黄色土を含む
- 3 暗褐色土
- 4 黄灰色土 炭化物、焼土粒子を含む



第616図 6号住居跡竈実測図

竈

位置 東壁中央

規模 焚口部幅45cm 燃焼部奥行き50cm・幅40cm・深さ40cm 煙道部長さ27cm・幅20cm

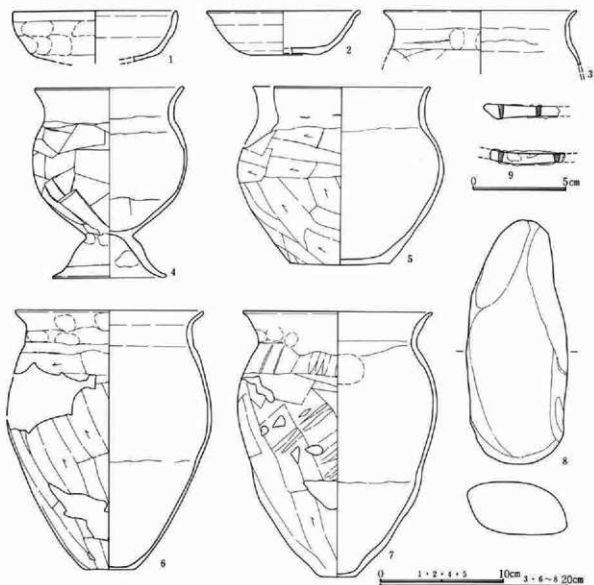
煙道部への立ち上がり35cm 斜めに立ち上がる。

構築 燃焼部は壁外にある。焚口部左側は掘り残され、右側より20cm程飛び出している。火床面は床面より数cm下がる。掘形は方形状を呈し、壁面は垂直に立ち上がる。煙道部は、短く斜めに立ち上がる。

遺物の出土状況は、土師器壺、台付壺の3個体が並び浮いた状態で出土している。また、燃焼部左奥には支脚が立てられ、壁の底部からややずれて検出されている。

- 1 褐色土 黄白色微砂土を含む
- 2 灰褐色土 灰黄色土、焼土粒混じり
- 3 暗褐色土 焼土粒多く含む
- 4 暗褐色土 黄色土粒わずかに含む

第三章 下大塚遺跡



第617図 6号住居跡出土遺物実測図

6号住居出土遺物観察表

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 構成	整形・調整の特徴
1	土師器 坏	覆土	13.0 - (4.0) 小片	1. におい橙色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。 体部未調整、指面圧痕有り。底部磨削り。
2	須恵器 坏	南東 +4	10.2 6.0 3.4 完形	1. 橙色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	筒腹整形。 底部回転未切り、未調整。
3	土師器 甕	南東 +2	27.0 - - 口縁部~頸部	1. 橙色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部外反、コの字横撫で。頸部指面圧痕有り。 胴部上位横方向磨削り。
4	土師器 小瓶甕	南東 +20	22.0 9.2 15.1 完形	1. におい橙色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。胴部上位横、中央~下半斜方向磨削 割接合部指押さえ後撫で、中位膨らみをもつ。

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
5	土師器 小型甕	南東 +25	14.2 7.8 14.0 尖形	1. におい橙色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横断で、胴部上位横、中央～斜方向瓦削り 底部平底、寛削り。
6	土師器 甕	南東隅 +15	20.2 5.0 27.4 冴	1. におい橙色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横断で、指頭正直有り。胴部上下漸で、胴部 上位横、中位～下半斜方向瓦削り。底部寛削り。
7	土師器 甕	南東 +6	20.2 3.8 28.0 冴	1. 橙色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横断で、頸部指頭正直有り。胴部上位横、 中～下半斜位方向瓦削り。底部小さく寛削り。
8	石	竈内-5	26.2 10.7 5.8	2,550 K	粗粒安山岩
9	鉄製品	覆土	4.1 0.8 0.25	1,56 K	炭粒部破片、端片刀箭式鉄鏃

7号住居跡 (写真図版199・213)

位置 2E-43・44グリッド 方位 E-6°-S

規模 東壁3.2m、西壁2.6m、東西2.9m 台形状を呈する。

壁高 30cm前後 僅かに傾き立ち上がる。

貯蔵穴 無し 柱穴 無し 周溝 無し

床面 黒褐色土を薄く入れ踏み固めている。南西部分に炭化物が出土している。

掘形 南半分が僅かに掘り込まれているが、中央から北側にかけては礫層の露出が見られる。

遺物 竈前と西壁中央に土師器甕出土。中央に礫のまとまり見られる。

竈

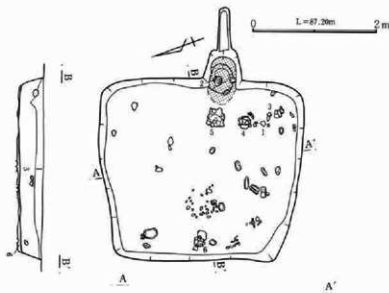
位置 東壁中央南寄り

規模 焚口部幅40cm 燃焼部奥行き50cm・幅40cm・深さ50cm 煙道部長さ65cm・幅20cm

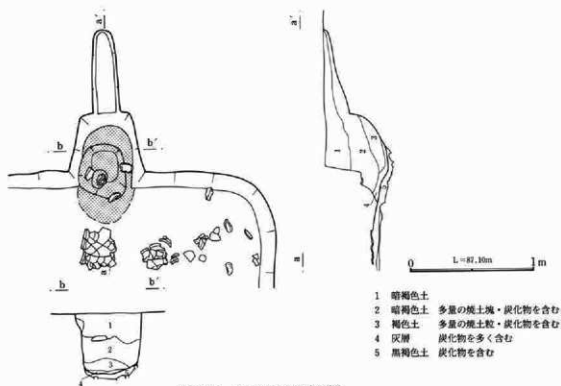
煙道部への立ち上がりが27cm 斜方向に立ち上がる。

構築 燃焼部は壁外にあり、袖を持たない。火床面は床面より僅かに下がり、灰層の堆積見られる。掘形は方形を呈し、壁面は垂直に立ち上がる。煙道部は斜めに伸びる。覆土中には焼土塊を含む。

- 1 暗褐色土 多量のAs-Bと少量の炭化物焼土粒を含む
- 2 黒褐色土 黄色土塊を含む
- 3 暗褐色土 炭化物・焼土粒を多く含む
- 4 黄灰色土 やや粘性を帯びた土
- 5 暗褐色土 少量の黄色土塊を含む
- 6 黒褐色土 粘床

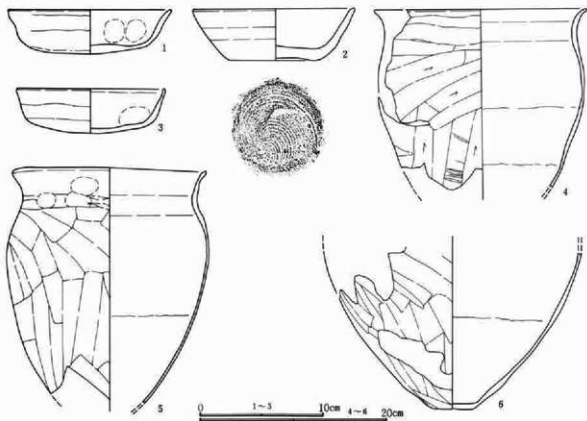


第618図 7号住居跡実測図



- 1 暗褐色土 多量の焼土塊・炭化物を含む
- 2 暗褐色土 多量の焼土塊・炭化物を含む
- 3 褐色土 多量の焼土塊・炭化物を含む
- 4 灰層 炭化物を多く含む
- 5 黒褐色土 炭化物を含む

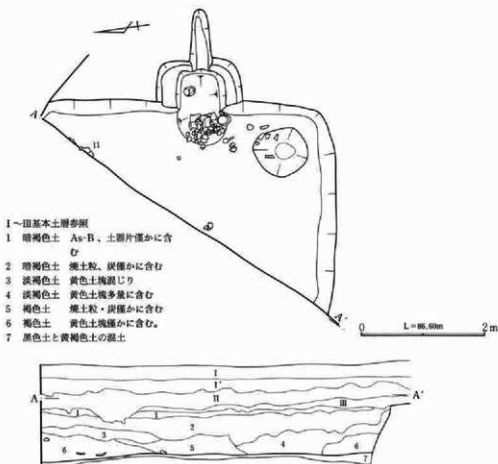
第619図 7号住居跡竈実測図



第620図 7号住居跡出土遺物実測図

7号住居出土遺物観察表

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
1	土師器 甕	南東 -2	13.0 9.0 3.4 瓦	1. 橙色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。体部未調整、内面撫で、指頭圧痕有り。底部平底気味、手持ち寛削り。
2	須恵器 甕	竈内 +22	13.0 7.4 4.0 口縁部瓦、底部	1. 灰黄色 2. 白色小礫含む 3. 還元焰 良好	辘轳整形。底部右回転糸切り。
3	土師器 甕	南東 -2	11.8 - 3.5 瓦	1. にぶい橙色 2. 僅かに細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。体部上位未調整。底部平底気味、手持ち寛削り。
4	土師器 甕	竈前 +23	22.8 - - 瓦	1. 橙色 2. 細砂 粘土塊含む 3. 酸化焰 やや軟質	口縁部短く外反、横撫で、コの字口縁。胴部上位横、中位斜方向、下半斜方向寛削り。
5	土師器 甕	竈前 -2	20.7 - (25.0) 口縁部~胴部下	1. にぶい橙色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で、端部僅かに折り返し、指頭圧痕有り。胴部上位横、上~中位斜、下半斜方向寛削り。
6	土師器 甕	北西 +3	- 4.4 - 瓦	1. にぶい橙色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	胴部中位斜、下位斜方向寛削り。底部不安定、寛削り。



第621図 8号住居跡実測図

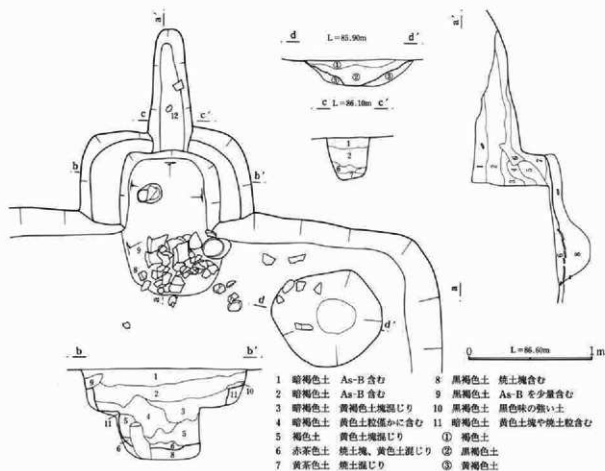
8号住居跡 (写真図版200・213)

位置 2 Y・2 Z-31・32グリッド 方位 N-90°-E
 規模 北西半分以上は、調査区外にあるため未調査。
 壁高 80cm前後 斜めに立ち上がる。
 貯蔵穴 南東隅 径80cm、深さ20cmの規模を持つ。
 柱穴 無し 周溝 無し
 床面 黄褐色土と黒色土の混土を薄く踏み固めている。
 電前には焼土、灰の広がり見られる。
 掘形 南寄りに、円形または不定型の掘り込み見られる。他の部分はフラットな面に仕上げられている。
 遺物 電前に掘り込みがあり、土師器壺が出土している。

竈

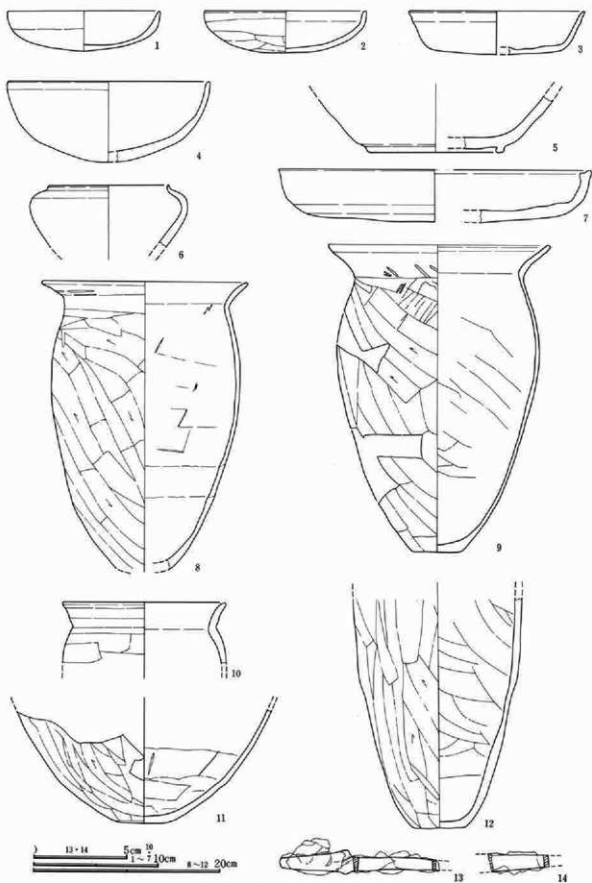
位置 東壁中央

規模 焚口部幅60cm 燃焼部奥行き80cm・幅58cm・深さ65cm 煙道部長さ1m・幅30cm
 煙道部への立ち上がり20cm 垂直に立ち上がる。
 構築 燃焼部は壁外にあり、僅かに焚口部に地山掘り残しの袖を持つ。焚口部右袖には土師器壺が設置され、鳥居状に組まれた天井部にも土師器壺が3個体分組まれている。火床面は床面と同レベルであるが、前方部には灰の掻き出しによる掘り込みが見られる。掘形は方形を呈し、壁面は垂直に立ち上がる。立ち上がり上半部は、外側に30cm程張り出し掘り込まれている。この掘り込みは、天井部を下げ燃焼効率を高めるため、天井部を貼る位置であると考えられる。煙道部は緩く伸び、天井部の崩落土である焼土層の堆積見られる。掘形は方形を呈し、壁面は垂直に立ち上がる。壁面の焼けは弱い。



第622図 8号住居跡竈実測図

第1節 検出の遺構と遺物



第623図 8号住居跡出土遺物実測図

第三章 下大塚遺跡

8号住居出土遺物観察表

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
1	土師器 環	覆土	12.2 - 3.2 小片	1. におい橙色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 やや軟質	口縁部横撫で。 体部～底部手持ち箇所削り。
2	土師器 環	覆土	13.0 - 3.3 %	1. 橙色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。 体部未調整。底部手持ち箇所削り。
3	須恵器 環	覆土	14.0 - (3.4) %	1. 灰白色 2. 細粒僅かに含む 3. 還元焰 軟質	底部表面摩耗。
4	土師器 環	北東 +12	16.2 - (6.4) %	1. 橙色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 やや軟質	口縁部横撫で。 体部～底部表面摩耗。
5	須恵器 椀	覆土	- (11.0) - 底部～胴部	1. 灰色 2. 小石含む 3. 還元焰 硬質	輪縁整形、直線的に開く。 底部寛撫で後、高台貼り付け。
6	須恵器 壺	覆土	9.6 - (4.9) %	1. 灰色 2. 細砂 黒色粒含む 3. 還元焰 硬質	口縁部短く立ち上がる。 輪縁整形。
7	須恵器 壺	覆土	24.8 - (4.2) %	1. 灰色 2. 白色粒 小石含む 3. 還元焰 硬質	口縁端部、受けをもつ。 底部回転調整。蓋?
8	土師器 壺	窰内 +12	21.9 - (30.4) ほぼ完形	1. 橙色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部強く外反、横撫で。胴部上横位、中～下半斜位削り。底部小さく平底気味、磨り。
9	土師器 壺	窰内 +12	23.7 - 31.7 %	1. 橙色 2. 細砂 粘土粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部外反、口唇部内屈。胴部くの字屈曲。 胴部斜方向削り。
10	土師器 小型壺	覆土	12.8 - (4.8) 口縁部～胴部	1. 明赤褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で、二段。 胴部上位横方向削り。
11	土師器 壺	北西 +6	- 6.8(11.7) 胴部下～底部	1. におい橙色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	胴部下位斜方向削り、内面寛撫で。 底部平底、磨り。
12	土師器 壺	窰内 +2	- 5.5(24.3) ほぼ完形	1. 黄褐色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 硬質	長胴。胴部縦及び斜方向削り、内面斜方向寛撫で 底部平底。
13	刀子	覆土	8.5 1.9 0.3 13.94%		刃部先と基端欠損。両側。
14	刀子	覆土	3.1 1.2 0.3 4.06%		刃部および基端欠損。両側。

9号住居跡 (写真図版200・213・214)

位置 2I・2K-49・50グリッド 方位 N-90°-E
規模 東壁北部分が1.8m×1mの規模で張り出し部を持つ。東壁4.8m 西壁4m 東西3.9m 隅丸の台形状を呈する。
壁高 65cm前後 やや傾いて立ち上がる。
貯蔵穴 南東隅 径55cm、深さ20cmの規模を持ち、円形を呈する。土師器壺、坏出土。
柱穴 無し 周溝 無し
床面 黄褐色土塊含む暗褐色土を踏み固めている。

僅かに礫が混じる。

掘形 礫層まで達し、止めている。

遺物 窰前に土師器坏出土。礫が散乱している。

窰

位置 東壁南

規模 焚口部幅55cm 燃焼部奥行き80cm・幅52cm・

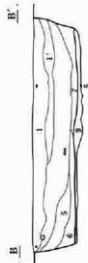
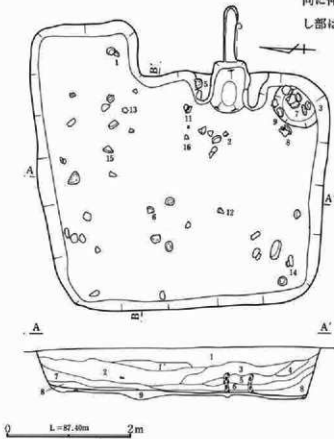
深さ80cm 煙道部長さ80cm・幅20cm

煙道部への立ち上がり50cm 垂直に立ち上がる。

構築 燃焼部は住居内にあり、黄褐色土を貼り付けた袖を持つ。火床面は床面より僅かに下がり、焼土、

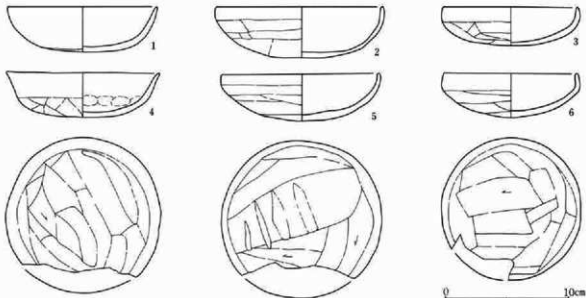
灰の堆積見られる。覆土中に黄褐色土の堆積と焼土塊を多量に含む層があり、天井部崩落土の一部と考

えられる。掘形は長方形を呈し、壁面は垂直に立ち上がり、暗赤茶色に焼けている。煙道部は水平方向に伸びる。覆土中には、焼土塊見られる。煙り出し部は斜めに立ち上がる。

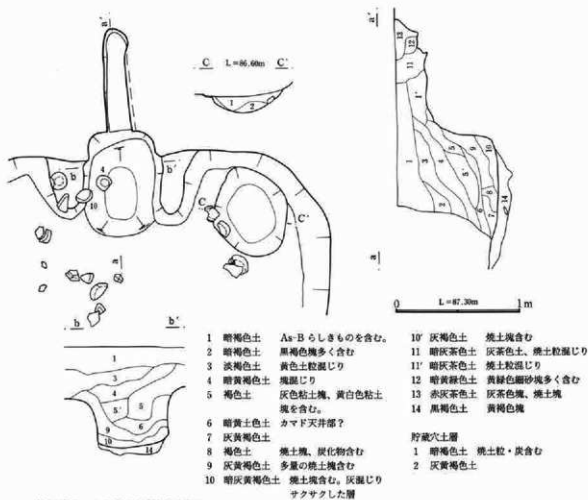


- 1 暗褐色土 A-B 含む
- 1' 暗褐色土 A-B 含む
- 2 暗褐色土 黄色土塊・黒褐色土塊混じり
- 3 暗褐色土 黄色土塊・焼土塊含む
- 4 暗褐色土 黄色土塊・黒褐色土塊わずかに含む
- 5 暗褐色土 黄色土塊・焼土塊わずかに含む
- 6 淡褐色土 黄土色土塊混じり
- 7 暗褐色土 茶褐色粘土が帯状に入る
- 8 淡褐色土 黄緑色細砂混じり
- 9 黒褐色土 黄褐色塊を含む

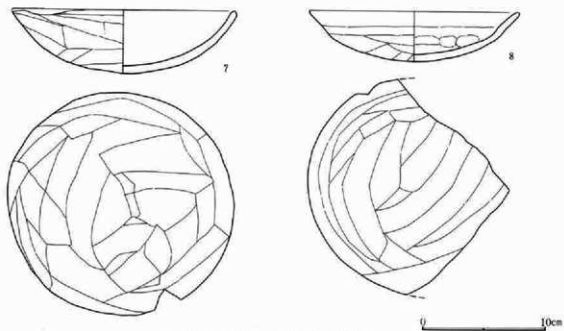
第624図 9号住居跡実測図



第625図 9号住居跡出土遺物実測図(1)

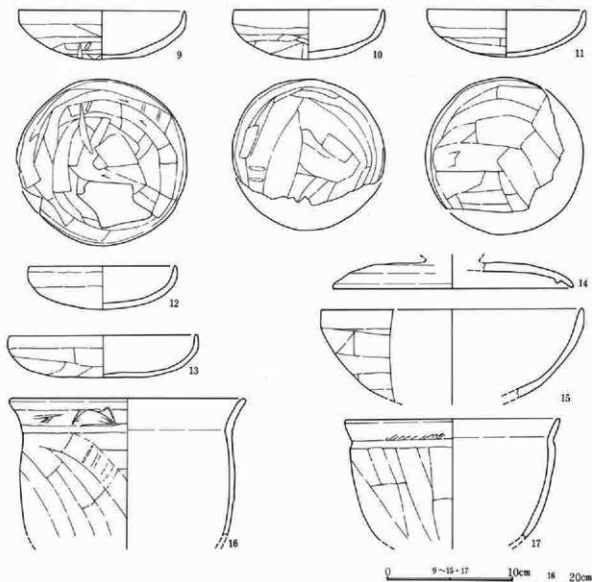


第626図 9号住居跡電実測図



第627図 9号住居跡出土遺物実測図(2)

第1節 検出の遺構と遺物



第628図 9号住居跡出土遺物実測図(3)

9号住居出土遺物観察表

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
1	土器 器 環	北東 +21	12.0 - 3.5 口径部~底部迄	1. 橙色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 やや軟質	口径部全体に表面摩耗しているため調整不明。
2	土器 器 環	竈前 +2	13.3 - 4.0 完形	1. 橙色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 やや軟質	口径部横撫で。体部上位未調整、中位~底部にかけ 手持ち蔑削り。
3	土器 器 環	貯蔵穴 +4	11.0 - 3.0 口径部~底部迄	1. 明赤褐色 2. 僅かに細砂粒 含む 3. 酸化焰 緻密	口径部横撫で。 体部~底部手持ち蔑削り、黒斑あり。
4	土器 器 環	竈内 +19	12.2 - 3.5 口径部~底部迄	1. 明赤褐色 2. 精選 3. 酸化焰 良好	口径部横撫で、弱い様を持つ。 体部~底部手持ち蔑削り、内面凹形の刷毛目あり。
5	土器 器 環	竈内 +12	13.7 - - 口径部~底部迄	1. 明赤褐色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口径部横撫で。体部指押さえ、未調整。 底部手持ち蔑削り。

第三章 下大塚遺跡

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
6	土師器 坏	中央 +8	10.8 — 3.5 完形	1. 橙色 2. 精選 緻密 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。 体部～底部手持り寛削り。
7	土師器 坏	貯蔵穴 +10	18.0 — 5.0 完形	1. 明赤褐色 2. 小石 粘土粒 含む 3. 酸化焰 良好	口唇部横撫で。 体部～底部手持り寛削り。
8	土師器 坏	貯蔵穴前 +2	16.7 — 4.0 口縁部～底部欠	1. にぶい褐色 2. 僅かに砂粒 含む 3. 酸化焰 緻密	口縁部横撫で、外反、弱い稜を持つ。 体部～底部手持り寛削り、内面強い撫で。
9	土師器 坏	貯蔵穴 +1	14.2 — 3.8 完形	1. 明赤褐色 2. 細砂粒僅かに 含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。 底部円形、手持り寛削り。
10	土師器 坏	竈内 +1	12.1 — 4.0 口縁部～底部欠	1. 明赤褐色 2. 細砂粒僅かに 含む 3. 酸化焰 緻密	口縁部横撫で。 体部～底部手持り寛削り。
11	土師器 坏	竈左袖 +4	12.6 — 3.8 口縁部～底部欠	1. 明赤褐色 2. 砂粒僅かに含 む 3. 酸化焰 緻密	口縁部横撫で。 体部～底部上位未調整、手持り寛削り。
12	土師器 坏	中央 +21	11.7 — 3.3 口縁部～底部欠	1. 明赤褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。体部上位未調整、下平～底部にか けて手持り寛削り。
13	土師器 坏	北東 +2	15.2 — 3.3 口縁部～底部欠	1. にぶい褐色 2. 砂粒 僅か に含む 3. 酸化焰 緻密	口縁部横撫で。体部～底部手持り寛削り、内面小さ な黄褐色あり。
14	須恵器 蓋	南西隅 床直	19.0 — 2.0 小片	1. 灰色 2. 白色 小石含む 3. 還元焰 硬質	口縁部端部やや内傾。内面カエリを有する。 頂部回転削削り。
15	土師器 坏	北東 +1	21.0 — — 底部欠損	1. 明赤褐色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。 体部～底部手持り寛削り。
16	土師器 壺	竈前 -3	25.2 — — 口縁部～胴部小片	1. にぶい褐色 2. 砂粒 粘土 粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。頸部強い撫で。 胴部斜方向寛削り。
17	土師器 壺	貯蔵穴 +1	17.0 — — 口縁部～体部小片	1. にぶい褐色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 緻密	口縁部横撫で。頸部強い撫で。 胴部斜方向寛削り。

10号住居跡 (写真図版201・215)

位置 2K・2L-50・51グリッド 方位 N-48°-E

規模 南西半分が河川敷内に入り、未調査。

東壁4.5m 北壁4m

壁高 50cm前後 ほぼ垂直に立ち上がる。

貯蔵穴 無し 柱穴 無し 周溝 無し

床面 黄褐色土と暗褐色土の混土を踏み固めている。
電前に焼土、灰の広がり見られる。

掘形 南壁寄りに不定形の掘り込み見られる。北壁
寄りは深層露出している。

遺物 覆土中に土器と磚が多量に投げ込まれたよう
な状態で出土している。

電

位置 東壁中央南寄り

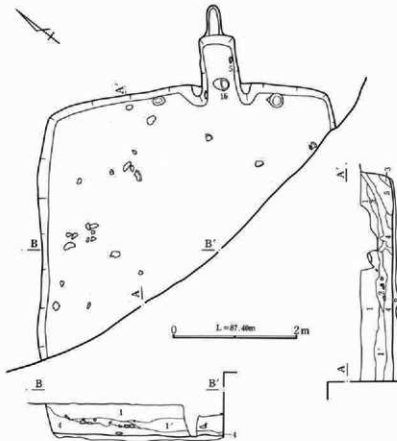
規模 焚口部幅50cm 燃焼部奥行き1m・幅50cm・深
さ60cm 煙道部長さ48cm・幅20cm

煙道部への立ち上がり20cm 斜方向に立ち上がる。

構築 燃焼部は壁外にあり、僅かに焚口部に地山掘
り残しの袖を持つ。火床面は床面より緩く上がり、
焼土の堆積見られる。直上には底面の焼けた黄褐色
土の天井部崩落土の堆積見られる。また、直下には
構築時に、焼土塊、黄褐色土の詰められた掘り込み
を検出した。掘形は長形状を呈し、壁面は垂直に
立ち上がり、赤茶色に焼けている。煙道部は斜方向

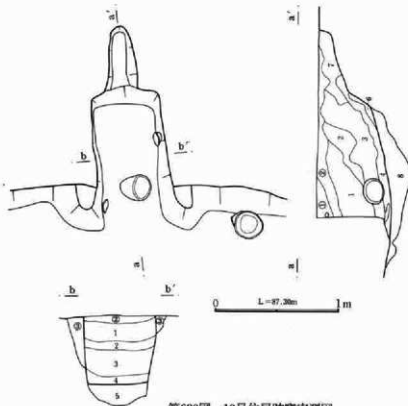
第1節 検出の遺構と遺物

に立ち上がる。掘形は方形を呈する。燃焼部中央出土の胴部上半欠損の土師罏蓋は、底部が埋設されており、支脚として利用された可能性が考えられる。



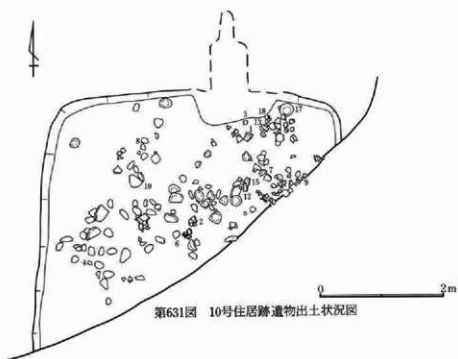
- 1 褐色土 As-B わずかに含む。
- 1' 暗褐色土 焼土粒・炭含む
- 2 褐色土 礫・土砂片を多量に含む
- 3 暗黄褐色土 黄白色微砂塊
- 4 黒褐色土 黄褐色土塊
- 5 黒褐色土 灰塵かを含む
- 6 黒褐色土と砂質黄褐色土の混土(貼床)

第629図 10号住居跡実測図

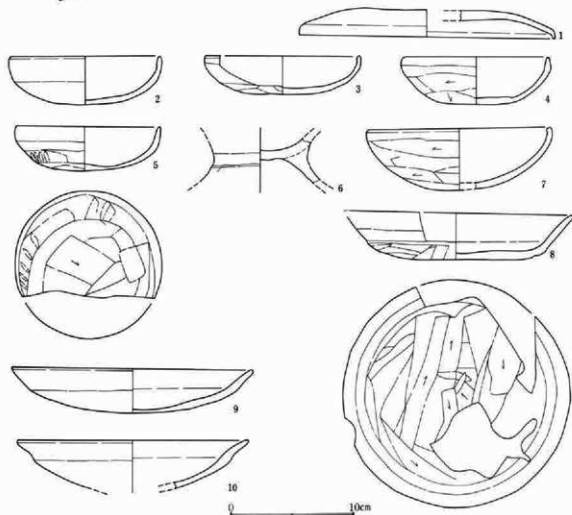


- ① 褐色土 住居覆土4に似ている。
- ② 黄褐色土 住居覆土5に似ている
- ③ 暗褐色土 焼土・黄色土粒含む
- 1 黒褐色土
- 2 黒褐色土 黄褐色土塊含む
- 3 粘質黄褐色土
- 4 粘質黄褐色土
- 5 粘質灰褐色土
- 6 灰褐色土 焼土塊含む
- 7 黒褐色土
- 8 黒褐色土 粘質黄褐色土・焼土塊の混土(火床の貼床)

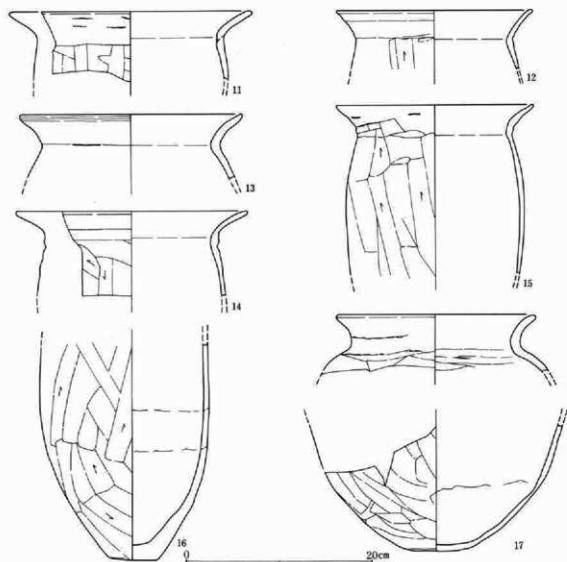
第630図 10号住居跡実測図



第631图 10号住居跡遺物出土状況図



第632图 10号住居跡出土遺物実測図(1)



第633図 10号住居跡出土遺物実測図(2)

10号住居出土遺物観察表

番号	器 種 形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
1	須 蓋 器	竈前 +31	20.6 — (2.2) 片	1. 灰白色 2. 白色粒含む 3. 還元焰 硬質	口縁端部折り返し。 頂部回転削り。
2	土 器 杯	中央 +18	11.9 — 3.8 片	1. 橙色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 やや軟質	口縁部横撫で。 体部～底部表面摩耗。
3	土 器 杯	竈前 +38	12.4 — 3.0 片	1. 橙色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。 体部～底部手持ち荒削り。
4	土 器 杯	南西 +16	12.0 — 3.8 片	1. 橙色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。 体部～底部手持ち荒削り。
5	土 器 杯	竈内 +22	11.4 — 3.5 片	1. 明赤褐色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。体部上位未調整。下位～底部手持ち 荒削り。

第三章 下家遺跡

番号	器 種 器 形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整 形 ・ 調 整 の 特 徴
6	土 師 器 台 付 壺	中央 +11	— — — 胴部	1. 橙色 2. 細砂 粘土粒含む 3. 酸化焰 良好	胴部接合部横撫で。 底部内面黒色、台部張り付け。
7	土 師 器 環	南東 +28	14.7 — 4.8 % 底	1. 橙色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で、内面内傾。 体部～底部手持ち痕削り。
8	土 師 器 環	北西 +30	18.2 — 3.7 口縁部～底部% 底	1. 明赤褐色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。
9	土 師 器 環	北東 +33	19.3 — 3.5 完形	1. 橙色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で、外反。 体部弱い痕を持つ。底部手持ち痕削り。
10	土 師 器 環	北西 +3	18.5 — (3.9) % 底	1. 橙色 2. 細砂 小石含む 3. 酸化焰 やや軟質	口縁部横撫で、外反。 体部弱い痕を持つ。底部手持ち痕削り。
11	土 師 器 壺	覆土	26.0 — — % 底	1. にぶい橙 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部外反、横撫で。 胴部縦方向削り。
12	土 師 器 壺	中央 -29	21.0 — — % 底	1. 明褐色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部外反、横撫で。 胴部縦方向削り。
13	土 師 器 壺	覆土 +30	23.9 — — % 底	1. 灰黄褐色 2. 細砂 粘土粒 含む 3. 酸化焰 良好	口縁部外反、横撫で。口唇部比線返る。
14	土 師 器 壺	覆土	24.8 — — % 底	1. 橙色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部外反、横撫で。 胴部上位斜方向、中位～縦方向削り。
15	土 師 器 壺	中央 +21	21.0 — — 口縁部～胴部% 底	1. 橙色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。口唇部にかけて外反後、内傾。 胴部縦方向削り。
16	土 師 器 壺	窰内 -6	— 4.8 — 胴部～底部	1. にぶい橙色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 硬質	胴部斜方向削り。 底部平底、削り、肥厚。
17	土 師 器 壺	北東 -4	21.4 — — 口縁部～胴部	1. にぶい橙色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 硬質	口縁部横撫で、外反。 胴部上位横方向削り。
18	土 師 器 壺	窰内 +39	— — — 胴部～底部% 底	1. 橙色 2. 細砂 粘土粒含む 3. 酸化焰 良好	胴部斜方向削り。 底部丸底気味、削り。

2 掘立柱建物跡

1号掘立柱建物跡（写真図版206）

位置 O・P-22・23グリッド

方位 E-5°-N

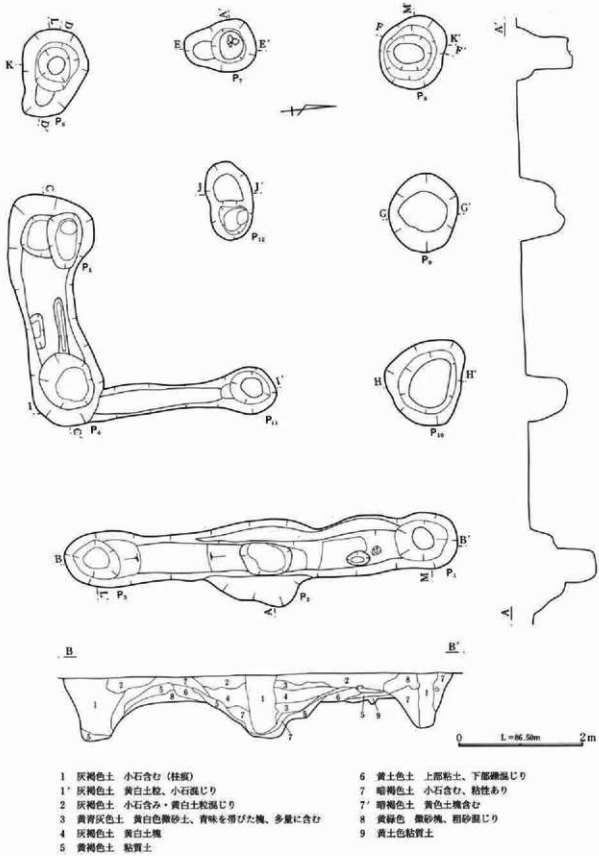
重複 8号溝を切る。

規模 2間(6.6m)×3間(9.2m)

面積 60.7㎡ 形状 長方形

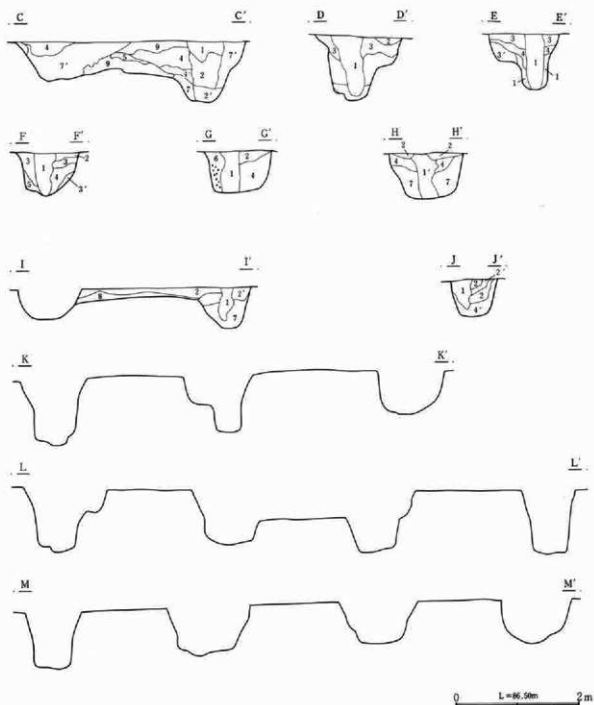
柱穴 東辺及び南辺の中央1間は布掘り状の溝を持つ。覆土中には砂礫混じりの地山黄褐色土の堆積見られる。他の柱穴は円形又は楕円形の掘り方を持ち、壁面は直線的に立ち上がる。柱穴の中には部分的にステップ状の中断を持つものもある。覆土中に30cm前後の柱痕を検出した。

第1節 検出の遺構と遺物



第634図 1号掘立柱建物跡実測図(1)

第三章 下大塚遺跡



- | | |
|------------------------------|--------------------|
| 1 灰褐色土 小石含む(柱痕) | 6 黄土色土 上部粘土、下部摩滅じり |
| 1' 灰褐色土 黄白土粒、小石混じり | 7 暗褐色土 小石含む、粘性あり |
| 2 灰褐色土 小石含む、黄白土粒混じり | 7' 暗褐色土 黄色土塊含む |
| 3 黄青白色土 黄白色微細土、青味を帯びた塊、多量に含む | 8 黄緑色 微細塊、粗砂混じり |
| 4 灰褐色土 黄白土塊 | 9 黄土色粘質土 |
| 5 黄褐色土 粘質土 | |

第635図 1号掘立柱建物跡実測図(2)

3 土 坑

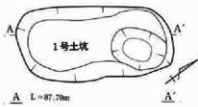
下大塚遺跡土坑表

遺構名	位置	方位	履 横			形状	備 考
			長辺	短辺	深さ		
1号土坑	2 N-56	N-34°-E	1.70m	0.80m	0.11m	長円形	1号溝を切る。
2号土坑	2 N-55	N-60°-W	1.05m	1.00m	0.20m	楕円形	
3号土坑	1・N-57	N-25°-E	1.10m	1.00m	0.19m	楕円形	
4号土坑	P-59	E-15°-S	1.15m	0.60m	0.10m	長円形	
5号土坑	2 L-55	N-90°-E	2.10m	0.70m	0.08m	長方形	
6号土坑	1・N-59	N-71°-E	1.75m	0.60m	0.4m	長円形	
7号土坑	N-53	N-10°-E	4.00m	3.50m	0.07m	長方形	
8号土坑	3 H-88	N-27°-W	3.62m	0.80m	0.11m	楕丸長方形	
9号土坑	3 H-88	N-34°-W	5.10m	0.70m	0.17m	楕丸長方形	
10号土坑	3 G-87	N-37°-W	4.65m	0.82m	0.15m	長方形	
11号土坑	3 H-87	N-24°-W	5.05m	0.85m	0.16m	長方形	
12号土坑	3 H-87		1.10m		0.35m	円形	
13号土坑	3 I-86	N-33°-W	2.25m	0.78m	0.16m	長円形	
14号土坑	3 I-85	N-43°-W	4.80m	0.90m	0.23m	長方形	
15号土坑	3 H-85・86	N-39°-W	5.60m	0.70m	0.50m	長方形	
16号土坑	3 H-85	N-44°-W	3.16m	0.60m	0.26m	長方形	
17号土坑	3 H-85	N-43°-W	2.80m	0.62m	0.11m	長方形	
18号土坑	3 G-85	N-63°-E	3.30m	0.72m	0.65m	長円形	16・17号土坑を切る。
19号土坑	3 G-85	N-46°-W	3.75m	0.75m	0.30m	長円形	18号土坑に切られる。
20号土坑	3 G-85	N-40°-W	2.00m	0.90m	0.32m	長円形	18号土坑と接する。礫出土。
21号土坑	3 G-85	N-49°-E	2.45m	0.75m	0.32m	長円形	
22号土坑	3 G-85	N-26°-W	3.00m	0.72m	0.30m	楕丸長方形	
23号土坑	3 H-84	N-43°-W	5.10m	0.84m	0.39m	楕丸長方形	礫出土。
24号土坑	2 H-85	N-37°-W	2.45m	0.70m	0.08m	楕丸長方形	
25号土坑	3 F-85	N-41°-W	3.80m	1.05m	0.17m	楕丸長方形	
26号土坑	3 F-85	N-38°-W	3.10m	1.50m	0.17m	楕丸長方形	58号土坑を切る。
27号土坑	3 F-84	N-40°-W	3.30m	0.85m	0.07m	楕丸長方形	53号土坑を切る。
28号土坑	3 F-84	N-38°-W	5.40m	1.20m	0.37m	楕丸長方形	53号土坑に切られ、55号土坑を切っている。
29号土坑	3 F-84	N-30°-W	4.10m	0.80m	0.20m	楕丸長方形	55号土坑を切る。
30号土坑	3 H-83	N-35°-W	2.40m	0.60m	0.22m	楕丸長方形	6号溝を切る。
31号土坑	2 H-82	N-35°-W	2.50m	0.90m	0.05m	楕丸長方形	32号土坑
32号土坑	3 G-83	N-49°-W	9.30m	0.95m	0.30m	楕丸長方形	31号土坑・6号溝を切る。
33号土坑	2 H-82	N-46°-W	3.62m	1.00m	0.24m	楕丸長方形	路線外に伸びる。
34号土坑	2 H-82	N-46°-W	2.20m	0.75m	0.19m	楕丸長方形	路線外に伸びる。
35号土坑	2 H-81	N-33°-W	2.60m	0.75m	0.22m	楕丸長方形	路線外に伸びる。
36号土坑	2 F-82	N-48°-W	3.00m	0.80m	0.33m	楕丸長方形	6号溝を切る。
37号土坑	3 E-84	N-40°-W	4.10m	0.85m	0.35m	楕丸長方形	
38号土坑	3 D-85	N-37°-W	2.35m	1.00m	0.43m	楕丸長方形	路線外に伸びる。
39号土坑	2 D-83	N-39°-W	6.90m	1.02m	0.30m	楕丸長方形	
40号土坑	3 D-83		1.40m		0.34m	方形	
41号土坑	3 D-83	N-45°-E	4.10m	1.15m	0.30m	長方形	
42号土坑	3 C-82	N-36°-W	4.40m	0.55m	0.36m	楕丸長方形	6号溝を切る。
43号土坑	3 C-82	N-41°-W	4.80m	0.75m	0.45m	楕丸長方形	6号溝を切る。
44号土坑	3 C-82	N-35°-W	4.52m	0.90m	0.47m	楕丸長方形	6号溝を切る。
45号土坑	3 E-82	N-38°-W	3.30m	0.82m	0.43m	楕丸長方形	6号溝を切る。
46号土坑	2 M-53	N-36°-E	1.85m	1.55m	0.22m	楕円形	47号土坑。焼土・灰を含む。
47号土坑	2 L-53	N-15°-E	2.30m	0.55m	0.22m	楕円形	47号土坑。焼土・灰を含む。
48号土坑	3 D-82	N-43°-W	4.50m	0.80m	0.47m	長方形	6号溝を切る。
49号土坑	3 D-82	N-54°-W	4.70m	1.10m	0.56m	長方形	6号溝を切る。
50号土坑	3 D-81	N-43°-W	4.35m	0.93m	0.50m	長方形	6号溝を切る。
51号土坑	2 H-83		1.30m		0.27m	円形	6号溝を切る。
52号土坑	3 F-84	N-35°-W	3.10m	0.64m	0.37m	長方形	
53号土坑	3 F-84	N-35°-W	2.55m	0.78m	0.27m	長方形	27号土坑に切られる。
54号土坑	3 F-84	N-38°-W	3.90m	1.00m	0.03m	楕丸長方形	26・55号土坑に切られる。
55号土坑	3 F-84	N-39°-W	3.0m	1.05m	0.41m	楕丸長方形	29号土坑に切られ、54号土坑を切る。
56号土坑	2 Z-73	N-87°-W	1.35m	1.00m	0.10m	長方形	
57号土坑	2 Z-73	N-87°-W	2.10m	1.20m	0.19m	長方形	
58号土坑	2 Z-72	N-81°-E	1.90m	1.04m	0.10m	長方形	
59号土坑	2 W-72		1.10m		0.20m	円形	

第三章 下大塚遺跡

遺構名	位置	方位	矩 楕			形 状	備 考
			長 辺	短 辺	深 さ		
60号土坑	2 U-71		1.04m		0.13m	円形	風倒木とかうむ。礫出土。洗間石瓦石が上面に埋積している。
61号土坑	2 Z-75		1.64m		0.20m	方形	
62A号土坑	2 Y-75		1.55m		0.22m	方形	跡線外に伸びる。礫出土。
62B号土坑	J-15	N-27-W	1.50m	0.80m	0.08m		
63号土坑	J-15	N-20-W	1.80m	0.82m	0.11m	楕円形	
64号土坑	K-15	N-4'-E	2.60m	0.90m	0.08m	瓜形	
65号土坑	K-16	N-38-W	2.00m	1.20m	0.05m	長楕円形	
66号土坑	L-15	N-16-W	4.20m	1.90m	0.08m	楕円形	
67号土坑	L-16	N-10-W	1.90m	0.70m	0.10m		
68号土坑	L-16	N-16-W	1.65m	0.70m	0.03m	長方形	
69号土坑	L-17	N-13-E	2.45m	0.95m	0.09m	長楕円形	
70号土坑	M-17	N-46-E	1.10m	0.78m	0.39m	長方形	
71号土坑	O-25	N-31-W	1.44m	0.76m	0.12m	半円形	
72号土坑	R-22		0.70m		0.08m	円形	
73号土坑	2 C-39	N-68-E	2.45m	1.10m	0.18m	長方形	
74号土坑	2 C-38	N-2'-W	1.15m	0.65m	0.17m	楕円形	
75号土坑	A-36	N-73-W	0.70m	0.45m	0.24m	楕円形	
76号土坑	A-36	N-40-E	0.70m	0.48m	0.35m		
77号土坑	2 A-36	N-30-E	1.10m	0.60m	0.24m	長方形	
78号土坑	2 A-36	N-55-W	1.50m	0.70m	0.20m	楕円形	
79号土坑	Z-37	N-79-E	1.00m	0.55m	0.22m	長方形	
80号土坑	2 A-37	N-14-W	1.00m	0.80m	0.15m	長方形	
81号土坑	2 E-41	N-16-W	0.90m	0.60m	0.20m	楕円形	炭化物多量に出土。 1号井戸に切られる。焼土・灰含む。壁面は赤茶褐色に焼土化している
82号土坑	2 E-41		0.90m		0.28m	方形	
83号土坑	2 E-42	N-68-W	0.95m	0.75m	0.13m	楕円形	
84号土坑	2 D-42	N-23-E	1.10m	0.80m	0.10m		
85号土坑	Y-33	N-16-E	3.00m	1.90m	0.40m	楕円形	
86号土坑	Z-37	N-30-W	0.72m	0.50m	0.22m		
87号土坑	2 A-39	N-83-E	0.72m	0.60m	0.06m	長円形	
88号土坑	2 F-45		0.90m		0.12m	円形	
89号土坑	2 F-45		0.75m		0.47m	円形	
90号土坑	2 F-46	N-0'-E	1.40m	1.10m	0.28m	楕円形	
91号土坑	B-38	N-17-W	0.80m	0.50m	0.12m	長円形	
93号土坑	2 K-53	N-76-E	2.90m	0.76m	0.09m	長円形	
94号土坑	1 K-53	N-22-E	1.20m	0.74m	0.12m	楕円形	
95号土坑	2 J-53	N-25-E	1.85m	1.10m	0.16m	楕円形	
96号土坑	1 I-53	N-25-E	1.30m	0.96m	0.12m	楕円形	
97号土坑	2 I-52	N-11-E	1.74m	1.55m	0.18m	楕円形	
98号土坑	2 J-53		1.80m		0.36m	半円形	
99号土坑	2 G-51		1.35m		0.09m	円形	
100号土坑	2 G-51	N-53-E	1.15m	0.50m	0.16m	楕円形	
102号土坑	2 E-44		0.64m		0.15m	円形	
103号土坑	Y-35	N-49-W	2.95m	1.80m	0.20m	楕円形	
104号土坑	Z-33	N-5'-E	1.90m	0.60m	0.17m	楕円長方形	
105号土坑	Y-35		1.18m		0.20m	方形	

第1節 検出の遺構と遺物



L=87.70m



L=87.60m



L=87.70m



- 1 暗褐色土 黄色土塊を含む。
- 2 暗褐色土 混入物少ない。
- 3 暗褐色土 黄色土粒を多く含む。



- 1 暗褐色土 黄色土塊を多く含む。
- 2 明褐色土 黄色土粒を多量に含む。



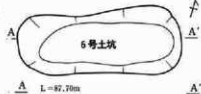
- 1 暗褐色土 As-Bを含む。
- 2 暗褐色土 As-Bを少量含む。
- 3 明褐色土 黄色土塊。



L=87.80m



L=87.60m



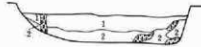
L=87.70m



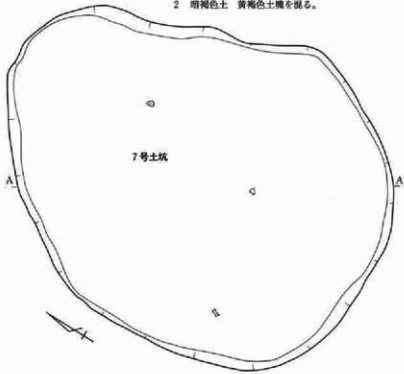
- 1 暗褐色土 As-Bを多く含む。
- 2 褐色土



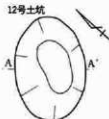
- 1 暗褐色土 As-B・炭を極かに含む。
- 2 暗褐色土 黄色色土塊を混る。



- 1 暗褐色土 As-Bを含む。
- 2 暗褐色土 黄色色土塊を混じる。



L=87.70m



L=89.80m



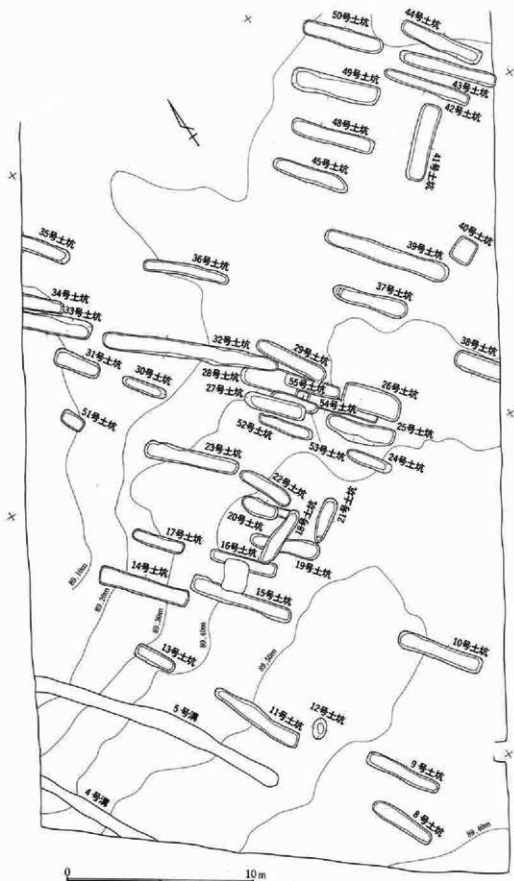
- 1 暗褐色土 小石と、少量のAs-Bを含む。
- 2 暗褐色土 As-Bと小石僅かに含む。
- 3 暗褐色土 小石を混じる。



- 1 暗褐色土 As-B・小石を混じる。
- 2 褐色土 汚れた黄色色土。

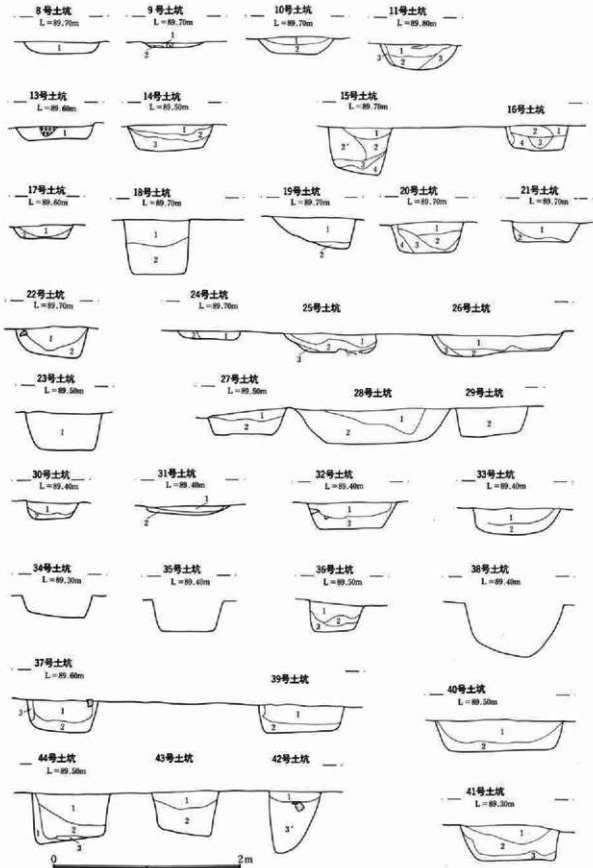
0 2m

第636図 土坑実測図



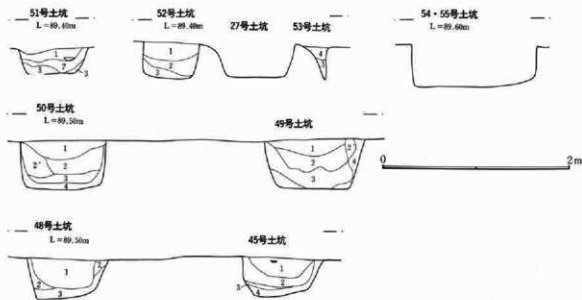
第637圖 長方形土坑分布圖

第1節 検出の遺構と遺物



第638図 土坑断面図(1)

第III章 下大塚遺跡



第638・639図の土坑土層

- 1 暗褐色土 As-Bと小石を混じる。
- 2 暗褐色土 第1層に似るが、やや粘質。
- 2' 暗褐色土 黒褐色土塊を混じる。
- 3 暗褐色土 小石と少量のAs-Bを混じる。
- 4 暗褐色土 As-Bを少量含む。

第639図 土坑断面図(2)



第640図 土坑出土遺物実測図

土坑出土遺物観察表

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
1	須恵器 坏	99号土坑	- (7.0) -	1. にぶい褐色 2. 砂粒 片岩 小石含む 3. 還元焰 軟質	輪軸整形。底部右回転余切り、未調整。
2	土師器 坏	103号土坑	13.0 - -	1. にぶい褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部傾削で、体部未調整。 体部～底部手持り部削り。

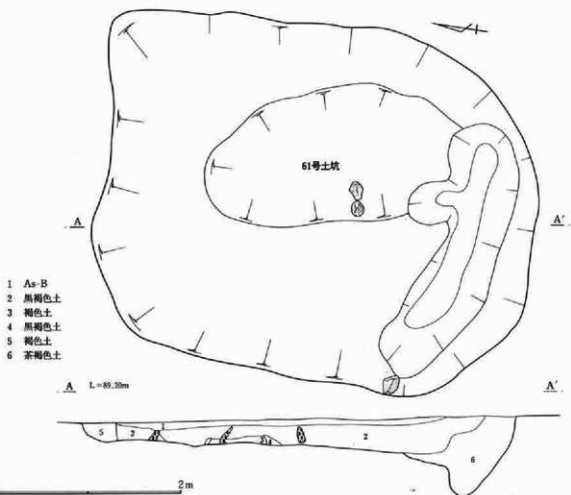
第1節 検出の遺構と遺物



- 46号土坑
- 1 灰褐色土 灰・焼土・灰を混じる。
 - 2 暗褐色土 焼土塊を含む。
 - 3 暗褐色土 黄褐色土塊を混じる。
- 47号土坑
- 1 暗褐色土 黄褐色土塊を多量に含む。
 - 2 暗褐色土 黄褐色土粒を少量含む。
 - 3 暗褐色土 灰粒を混じる。
 - 4 褐色土 灰粒を混じる。

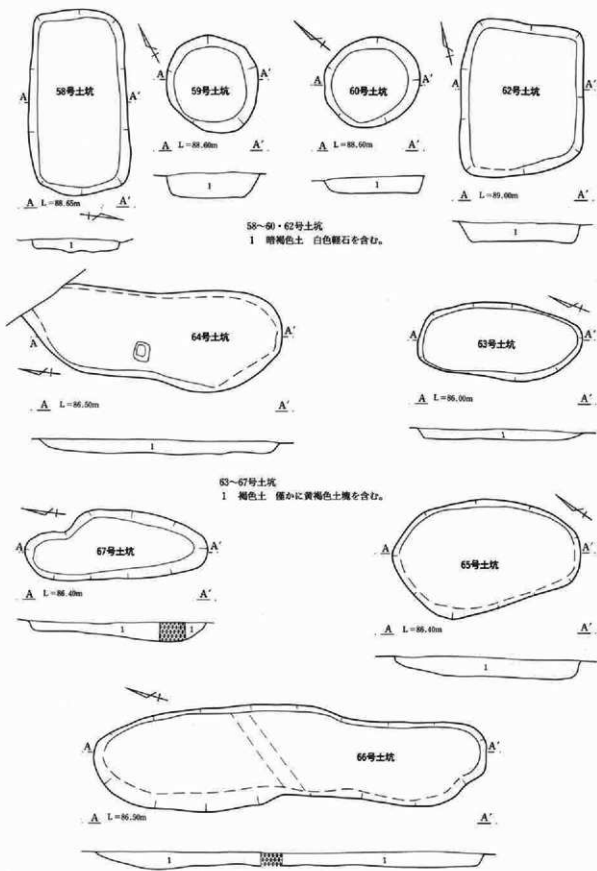
- 56号土坑
- I 灰黄色土 黄色微砂粒を混じる。
 - I' 灰黄色土 黄色微砂粒を僅かに含む。

- 57号土坑
- I 灰黄色土 黄色微砂粒を含む。



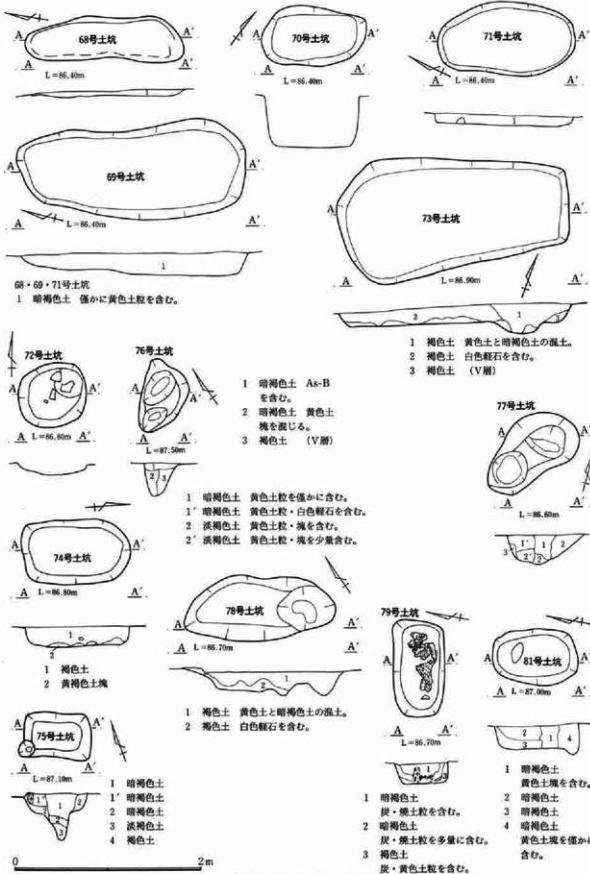
第641図 土坑実測図

第三章 下塚遺跡



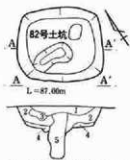
第642図 土坑実測図

第1節 検出の遺構と遺物



第643図 土坑実測図

第三章 下塚遺跡



- 1 灰褐色土 As-Bを含む。
- 2 暗褐色土 少量の軽石・黄色土塊を含む。
- 3 灰褐色土 As-Bをほとんど含まない。
- 4 褐色土
- 5 黒褐色土 多量の黄色土塊を含む。



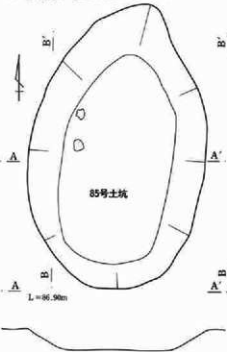
- 1 灰褐色土 As-Bを含む。



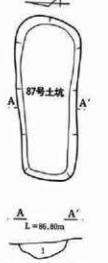
- 1 暗褐色土 As-Bを含む。
- 2 黄色土塊
- 3 褐色土



- 1 黒褐色土
- 2 黒褐色土 As-Bを含む。
- 3 黒褐色土 炭化物を含む。
- 4 暗褐色土
- 5 褐色土



- 1 暗褐色土 As-Bを含む。
- 2 黒褐色土
- 3 黒褐色土 黄褐色土塊を僅かに含む。
- 4 暗褐色土 黄褐色土塊を含む。



- 1 褐色土 黄褐色土塊を含む。



- 1 黒褐色土 As-Bを多量に含む。
- 2 黒褐色土



- 1 褐色土 As-Bを僅かに含む。
- 2 黒褐色土
- 3 黄褐色土 砂質。
- 4 褐色土 黄褐色土塊を含む。
- 5 褐色土



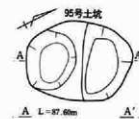
- 1 褐色土 As-Bを僅かに含む。
- 2 黒褐色土



- 1 褐色土 炭化物・As-Bを含む。
- 2 褐色土

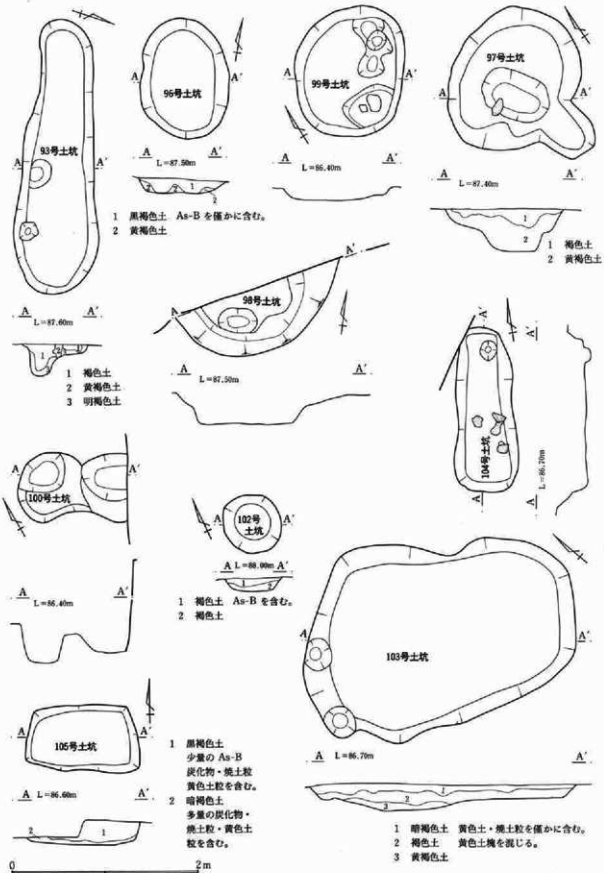


- 1 褐色土 As-Bを僅かに含む。
- 2 黒褐色土
- 3 暗褐色土
- 4 明褐色土



- 1 黒褐色土
- 2 黒褐色土
- 3 褐色土
- 4 黄褐色土

第644図 土坑実測図



第645図 土坑実測図

4 溝

1号溝

遺跡中央部 2M~2O-54グリッドに位置し、走行は東西方向 E-10°-S に傾く。確認全長14m、幅0.4m、比高差10cmを測り、西側に傾斜している。

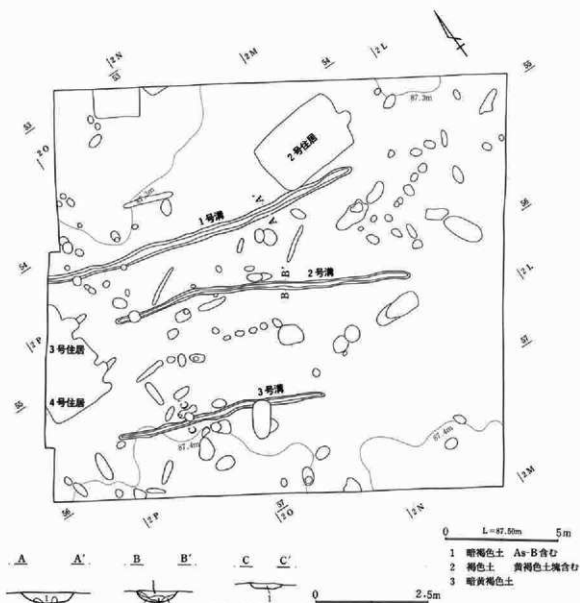
2号溝

遺跡中央部 2M~2O-55グリッドに位置し、走

行は1号溝よりやや南に傾く。確認全長13m、幅0.4m、比高差は無し。

3号溝

遺跡中央部 2N~2O-55・56グリッドに位置し、走行は2号溝と同じである。確認全長9m、幅0.2m、比高差無し。



第646図 1~3号溝実測図

4号溝 (写真図版205)

遺跡南端西側3J・3K-86・87グリッドに位置し、中大塚遺跡I区とを区切る通りに面し中大塚遺跡に向くが同遺跡では検出されなかった。走行はN-25°-Wに傾く。確認全長7m、幅0.8m、比高差無し。

5号溝 (写真図版205)

遺跡南端、4号溝北側に位置し走行はほぼ同じ。確認全長14m、幅1m、比高差0.2mあり西に傾く。

6号溝

遺跡南、箱形の掘形を持つ長方形の土坑群に切られている。3A~3I-80~84グリッドに位置し、走行はN-75°-Eに傾く。確認全長40m、上幅9m、下幅7m、深さ0.4m、比高差0.3mを測り東に傾く。覆土中にはAs-Bを僅かに含む。法面は斜方向に立ち上がり、底面は広く僅かに平底を呈する。若干小礫出土。



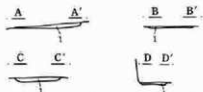
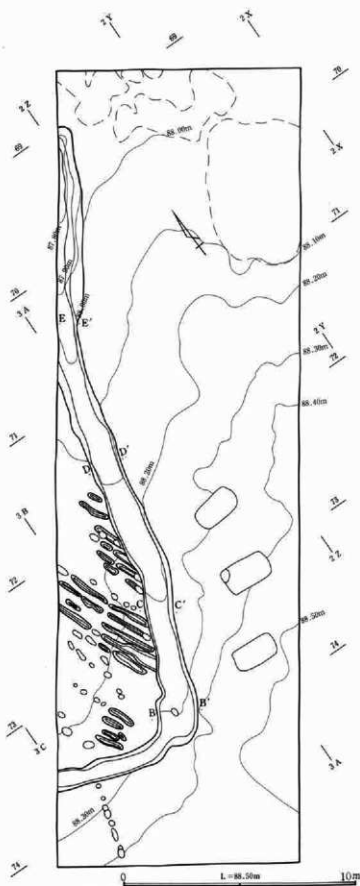
- 1 黒褐色土 As-B、小石含む
- 2 暗褐色土 小石、黄色砂質土塊含む
- 3 褐色土 小石、黄褐色土多量に含む
- 4 淡褐色土 小石、褐色土混じり

第647図 4・5・6号溝実測図

第三章 下大塚遺跡

7号溝 (写真図版205)

遺跡中央部南寄り、2Z~3C-69~73グリッドに位置し、調査区西壁に鉤の手状に南東部分で折れ曲がる。東側部分の走行はN-15°-Eに傾く。確認長は25m、幅1.5m、深さ0.1m前後、比高差40cmを測り北に傾く。As-Aを鋳き込んだ槽状遺構に切られている。覆土中にはAs-Bを多く含む。



1 暗褐色土 白色軽石含む、締まりに乏しい。

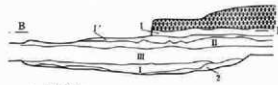
第648図 7号溝実測図

8号溝 (写真図版205)

遺跡北端、上栗須遺跡Ⅲ区とを画した寺尾線を挟み両側にて検出した。I～P-15～24グリッドに位置し、走行はN-45°-Eに傾く。南端は鉤の手状に東に向かい折れ曲がり調査区東壁に入る。確認長65m、幅6m、底面幅4.5m、深さ0.45mを測る。比高差30cmを測り北東に傾く。1号掘立柱建物に切られている。



- I～IIIは基本土層断面
 1 褐色土 炭・焼土粒、僅かに含む
 2 暗褐色土 黄土色混じり



- 1 黒褐色土
 2 黄褐色土

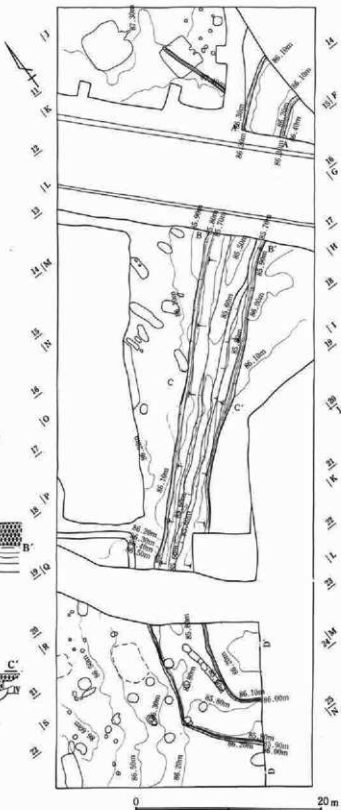


- 1 暗褐色土 As-B



- 1 暗黄土色土 下層にある黄褐色土混じり

0 L=86.60m 5m

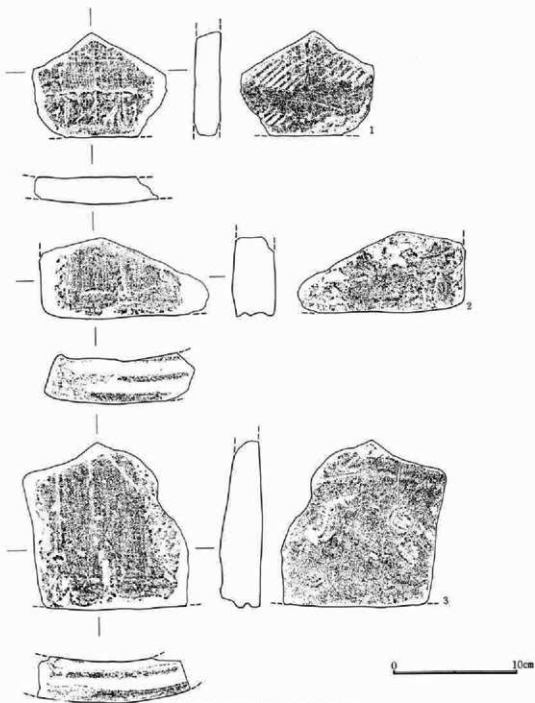


第649図 下大塚8号溝実測図

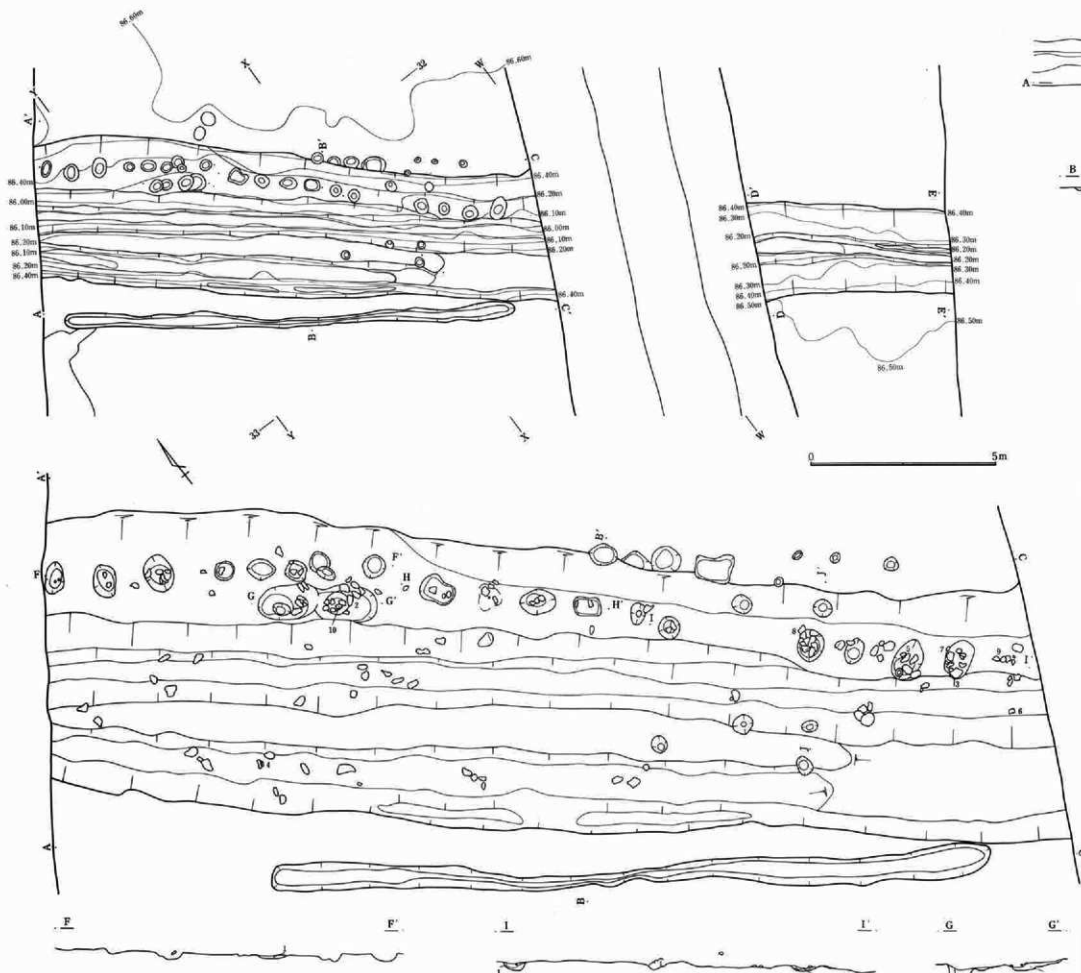
9号溝 (写真図版207・215・216)

遺跡北側U～Y-3 1～3 4グリッドに位置し、走行はN-50°-Wに傾き路線を横断する。東寄りの部分で現水路に切られている。確認長26m、幅3.7mを測り、段掘りされている。段掘りは、南側上端90cm、下端30cm、深さ30cm程の側溝状の溝が掘られ、上端50cm、高さ5cm程の高まりをへて中央部に溝が

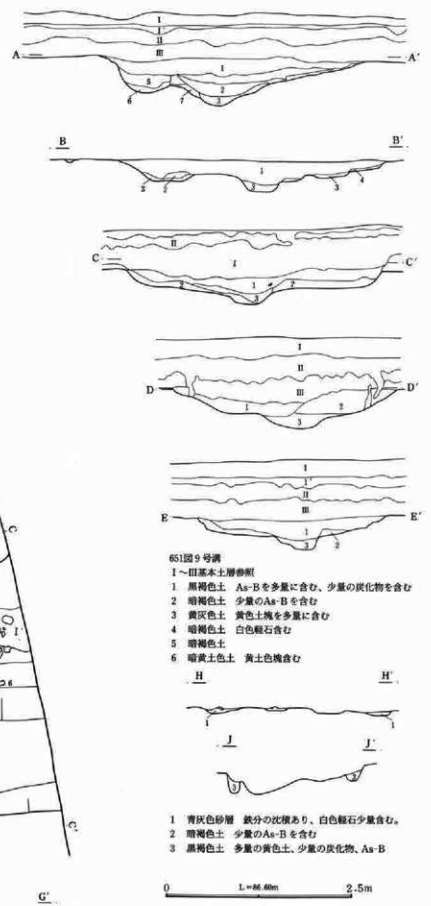
掘られる。中央部の溝の上端は70cm、下端25cm、深さ23cmを測る。北側法面は緩い傾斜を持って中央部の溝に落ち込む。法面中央部には径20～30cm程の楕円形のピットを冊列状に検出した。このピット中には小礫と共に瓦破片が混じって出土し、底面は鉄分沈着の見られる硬質の青灰色土に変色している。

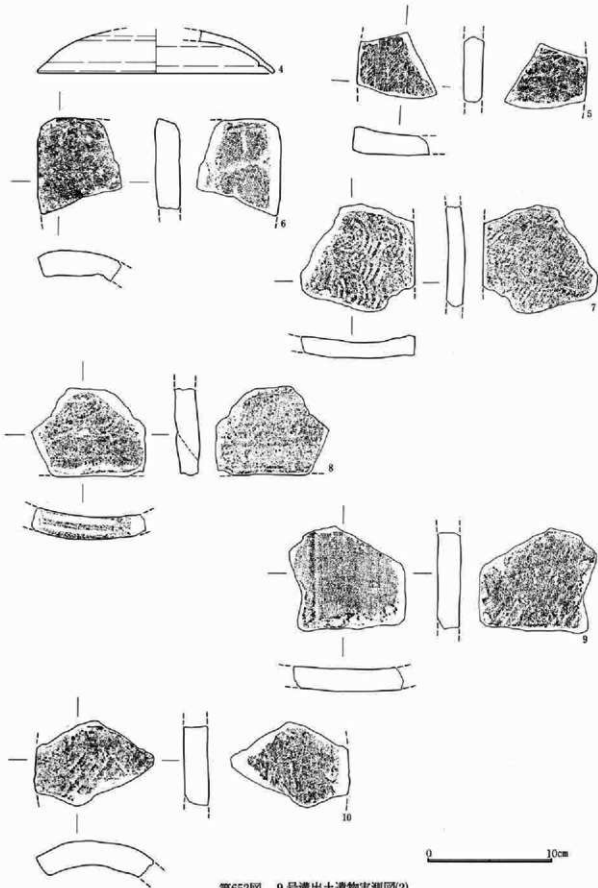


第650図 9号溝出土遺物実測図(1)



第651図 9号溝実測図





第652図 9号溝出土遺物実測図(2)

第三章 下大塚遺跡

9号溝出土遺物観察表

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	形状・調整の特徴
1	瓦 女瓦	覆土	8.2 10.7 2.1	1. 灰色 2. 白色細粒含む 3. 還元焰 硬質	凸面、平行印後、磨消し。 凹面布目、橋巻。
2	瓦 字瓦	覆土	6.3 13.2 3.4	1. 灰色 2. 白色粒含む 3. 還元焰 硬質	重弧文、凹面布目、橋巻。 凸面端部削り。
3	瓦 女瓦	覆土	13.2 12.2 3.3	1. 灰色 2. 白色細粒含む 3. 還元焰 硬質	重弧文、凹面布目。
4	須恵器 蓋	南側法面 +14	19.0 — — % %	1. 灰色 2. 白色粒含む 3. 還元焰 硬質	頂部回転覆削り。内面カエリをもつ。 不定方向磨で。
5	瓦 女瓦	南側法面 ピット内	— 6.1 1.5	1. 浅黄色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 硬質	凹面布目。
6	瓦 女瓦	南側法面 +14	7.2 6.6 1.8	1. 黄色 2. 細砂粒含む 3. 還元焰 硬質	凹面布目。
7	瓦 女瓦	南側法面 ピット内	8.0 9.0 1.3	1. 灰色 2. 白色粒片岩小石含む 3. 還元焰 硬質	凸面叩磨消し。 凹面当て具痕あり。
8	瓦 女瓦	南側法面 ピット内	6.9 8.8 1.8	1. 灰色 2. 白色細粒含む 3. 還元焰 硬質	縁部強い磨でにより、弧状の凸面で切る。
9	瓦 女瓦	北側法面 +3	8.7 9.7 1.8	1. 灰色 2. 白色粒含む 3. 還元焰 硬質	凹面布目橋巻き。
10	瓦 女瓦	北側法面 +2	6.5 9.5 1.9	1. 浅黄色 2. 細砂粒含む 3. 還元焰 硬質	凹面布目。

5 井戸・土器集積遺構

1号井戸 (写真図版205・215)

位置 Z・2A-36・37グリッド

重複 80号土坑を切る。

規模 上端3.5mを掘り、全体をテラス状に深さ20cm程掘り下げ、中央部を径1.5mの楕円形に掘り込む。

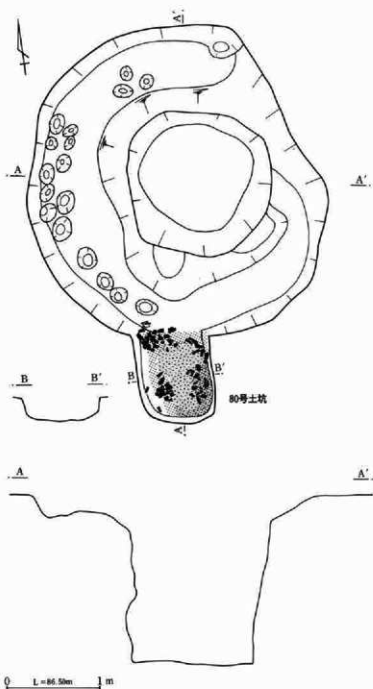
テラス部分には長辺20cm前後の楕円形の小ピットが南辺から西辺にかけて並ぶ。中央部の井戸の掘り込みは1.8m垂直に掘られたところで中止している。覆土下層には砂礫層が詰まり、掘削土を埋め戻したものと考えられる。中止理由は、中央部から下層にかけて砂礫層が堆積し、掘削が困難となったため諦めたためと考えられる。

土器集積遺構 (写真図版207)

位置 X・Y-34・35グリッド 方位 N-20°-W

規模 東西4.2m、南北4.2mの隅丸形状の掘り込み面を持ち、掘り込み面内南西壁中央南寄り1.5mの楕円形の土坑を検出した。

遺物 確認面より多量の土器が出土している。遺物の大半は土師器の破壊片であり、須恵器の坏が僅かに出土している。



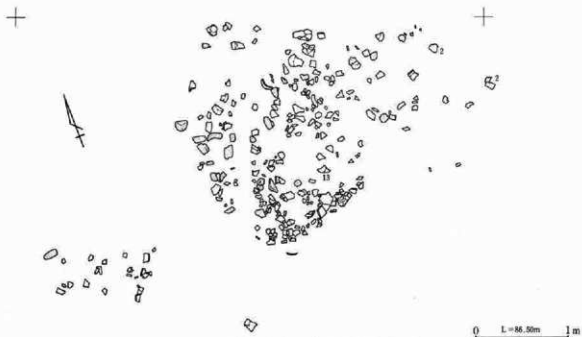
第653図 1号井戸実測図



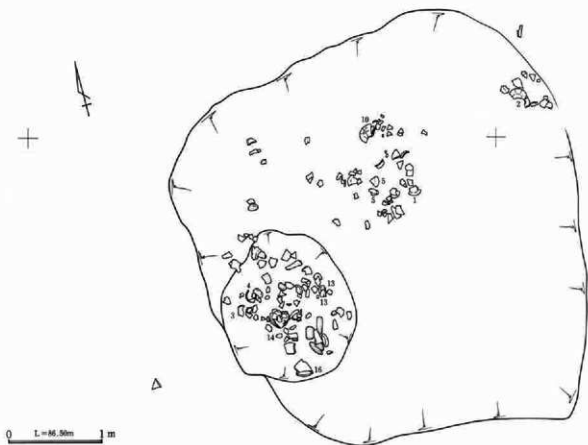
第654図 1号井戸出土遺物実測図

井戸出土遺物観察表

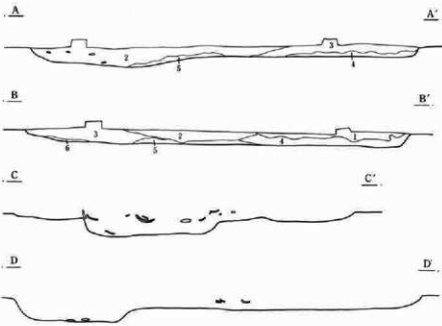
番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
1	土師器 杯	覆土	13.0 - (3.4) 片	1. 褐色 2. 細砂粒含む 3. 鹽化焙 軟質	口縁部横撫で。体部～底部手持り寛削り。
2	土師器 杯	覆土	15.3 10.6 3.5 口縁～底部	1. 灰白色 2. 白色細粒含む 3. 還元焙 良好	輪轆整形。底部縦調整。



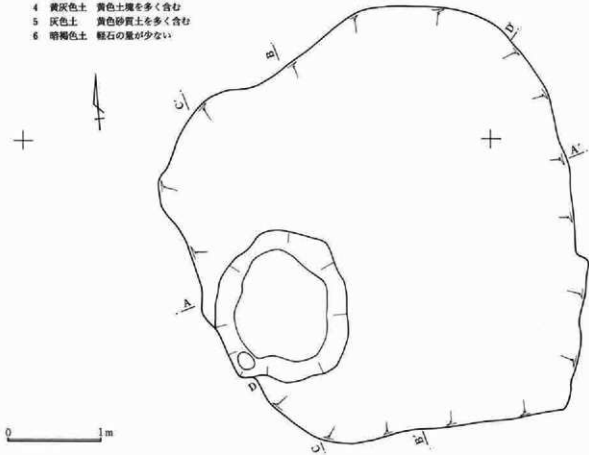
第655図 下大塚1号土器集積遺構確認状態図(1)



第656図 下大塚1号土器集積遺構確認状態図(2)

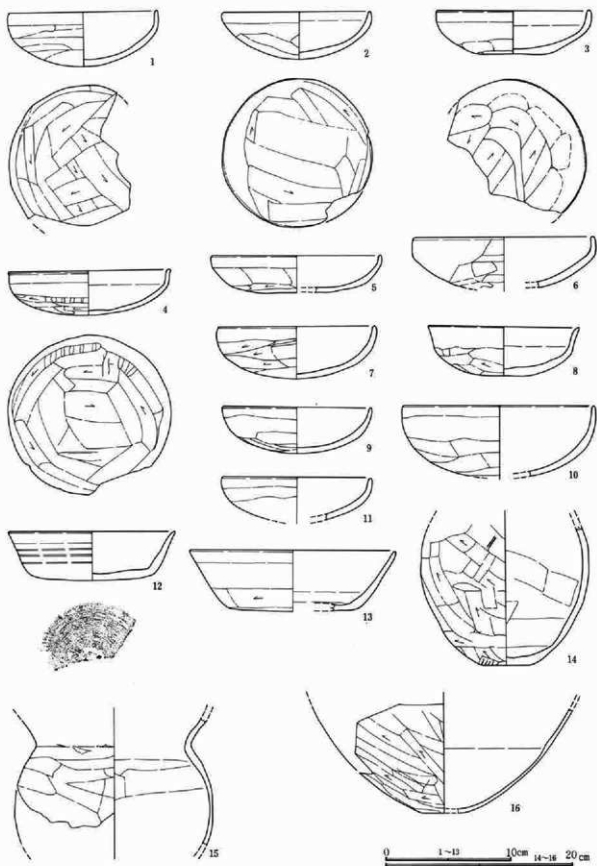


- 1 黒褐色土 As-B多量に含む
- 2 黒褐色土 多量の炭化物、焼土を含む
- 3 灰褐色土
- 4 黄灰色土 黄色土塊を多く含む
- 5 灰色土 黄色砂質土を多く含む
- 6 暗褐色土 軽石の量が少ない



第657図 1号土器集積遺構実測図

第三章 下大塚遺跡

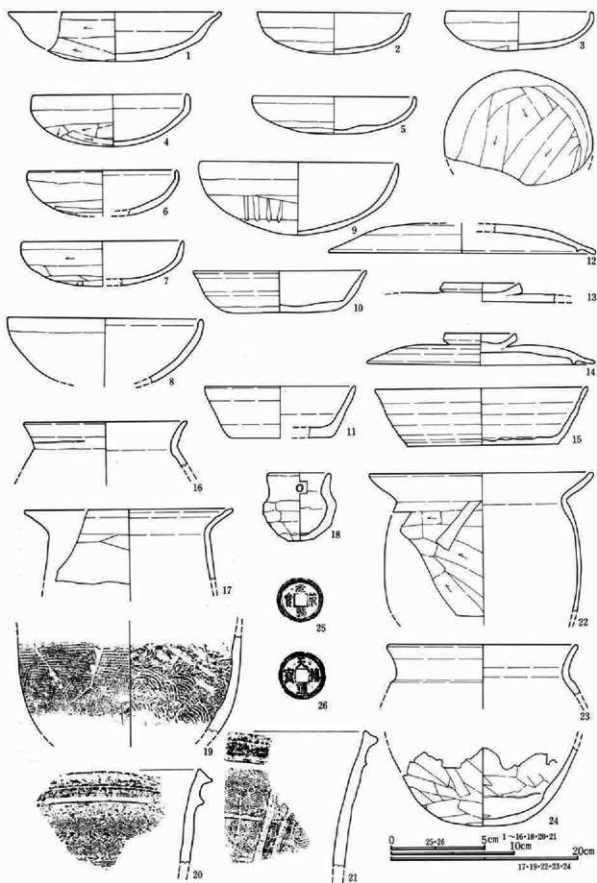


第658図 下大塚土器集積遺構出土遺物実測図

集積遺構出土遺物観察表

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
1	土師器 環	中央 +10	12.0 - 4.3 口縁～底部迄	1. 赤褐色 2. 細砂粒含む緻密 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。体部～底部手持ち寛削り。
2	土師器 環	北東 灰直	12.0 - 3.75 ほぼ完形	1. におい褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。体部～底部手持ち寛削り。
3	土師器 環	南西 +8	12.1 5.0 3.4	1. 褐色 2. 細砂 黒色粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。体部指押さえ、未調整。 体部～底部手持ち寛削り。
4	土師器 環	南西 +9.0	12.8 - 3.5 完形	1. 褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。口唇部僅かに外反。 体部～底部手持ち寛削り。
5	土師器 環	中央 +2.0	13.4 - 2.9 底部欠損	1. 褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 やや軟質	口縁部横撫で。体部未調整。 体部～底部手持ち寛削り。
6	土師器 環	覆土	14.7 - -	1. 褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。体部～底部手持ち寛削り。
7	土師器 環	覆土	12.8 - 4.2 片	1. におい褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。体部～底部手持ち寛削り。
8	土師器 環	覆土	12.0 - (3.8) 片	1. 明赤褐色 2. 細砂粒含む緻密 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。弱い發を持つ。
9	土師器 環	覆土	11.8 - 3.6 片	1. 褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。体部指押さえ、未調整。 体部～底部手持ち寛削り。
10	土師器 環	中央 +17	15.2 - -	1. におい褐色 2. 精選 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。体上部指押さえ。 体部～底部手持ち寛削り。
11	土師器 環	覆土	12.0 - -	1. におい黄褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 やや軟質	口縁部横撫で。体部指押さえ、未調整。 体部～底部手持ち寛削り。
12	須恵器 環	覆土	13.3 (9.6) 3.9 片	1. 灰白色 2. 精選 3. 還元焰 硬質	輪縁整形。底部回転瓦切り、寛調整。
13	土師器 環	南西 +14	16.5 (10.0) (5.5)	1. におい褐色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。体下部寛調整。
14	土師器 壺	南西 +15.5	- 5.0 -	1. におい褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	胴中位斜縦方向寛削り。底部寛削り。平底。
15	土師器 壺	覆土	- - -	1. 暗灰黄色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。頸部接合痕見られる。 体部横方向寛削り。
16	土師器 壺	南西 +18.0	- 5.0 -	1. におい褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	胴部斜方向寛削り。内面撫で。丸底。

6 遺構外出土遺物



第659図 遺構外出土遺物実測図

遺構外遺物出土観察表

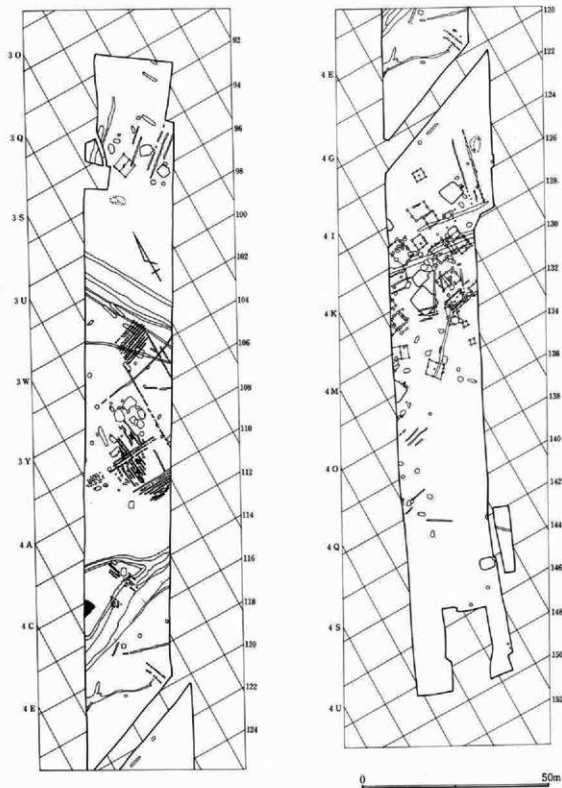
番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
1	土器器 杯	Y-34G	16.7 - 3.9 完形	1. 明褐色 2. 砂、粘土粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で、外反、弱い稜を持つ。 体部へ底部手持ち寛削り。
2	土器器 杯	Y-35G	13.2 - 3.3 小片	1. におい褐色 2. 白色細粒細 砂含む。 3. 酸化焰、良好	口縁部横撫で、指押さえ、未調整。 体部へ底部手持ち寛削り。
3	土器器 杯	Y-35G	11.9 口縁へ底部片	1. におい赤褐色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で、やや内傾。 体部指押さえ、未調整。体部へ底部手持ち寛削り
4	土器器 杯	X-34G	12.3 - 4.1 完形	1. におい褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。体部へ底部手持ち寛削り。
5	土器器 杯	Y-35G	13.2 - 4.0 小片	1. におい赤褐色 2. 細砂粒含 む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。体部指押さえ。 体部へ底部手持ち寛削り。
6	土器器 杯	Y-35G	12.2 - - 片	1. 褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。体部指押さえ、未調整。 体部へ底部手持ち寛削り。
7	土器器 杯	Y-35G	12.8 - -	1. 明褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。体部指押さえ、未調整。 体部へ底部手持ち寛削り。
8	土器器 杯	X-35G	15.6 - (5.0) 口縁へ底部片	1. 明赤褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。体部指押さえ、未調整。 体部へ底部手持ち寛削り。
9	土器器 杯	Y-35G	16.0 - 5.7 口縁へ底部片	1. 褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 軟質	口縁部横撫で。体部指押さえ、未調整。 体部へ底部手持ち寛削り。
10	須恵器 杯	Y35G	13.8 9.2 3.2 口縁へ底部片	1. 灰白色 2. 細砂粒含む 3. 還元焰 硬質	輪軸整形。胴部寛削り。 底部全面寛削り。
11	須恵器 杯	H-51G	12.0 - 4.1 片	1. 灰オリーブ 2. 砂粒含む 3. 還元焰 硬質	輪軸整形。 底部回転切削り、未調整。肥厚。
12	須恵器 蓋	Y-34G	21.2 18.0 -	1. 灰白色 2. 白色粒含む 3. 還元焰 硬質	頂部回転寛削り。体部カエリ。 不定方向撫で。
13	須恵器 蓋	Y-35G	- - - 揃み部完形	1. 灰オリーブ色 2. 粘土粒含 む 3. 還元焰 硬質	頂部自然輪付着。 リング状揃み、内面不定方向撫で。
14	須恵器 蓋	Y-35G	18.2 - 2.5 完形	1. 灰色 2. 粘土粒緻密 3. 還元焰 硬質	水平やや開く。内面カエリをもつ。 頂部回転寛削り、リング状揃み。
15	須恵器 杯	Y-35G	17.0 12.0 4.5 口縁へ底部片	1. 淡黄色 2. 細砂粒含む。 3. 還元焰 硬質	輪軸整形、内面段有する。 底部回転寛削り、端部弱感削り出し。
16	土器器 壺	Y-35G	13.0 - -	1. 明赤褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部短く外反、横撫で。 胴上部横方向寛削り。
17	土器器 壺	Y-35G	22.2 - -	1. におい黄褐色 2. 細砂粒含 む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で、外反。 胴部横方向寛削り。
18	土器器 手づくね	Y-31G	5.1 - 5.3 完形	1. におい赤褐色 2. 白色粒含 む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で、直立。穿孔1対。 手づくね後、指撫で。丸底。
19	須恵器 壺	Y-35G	- - - 胴部	1. 灰色 2. 精選緻密 3. 還元焰 硬質	胴部カキ目。内面当て具痕あり。

第三章 下大塚遺跡

番号	器 種 形	出土位置 (cm)	口径・高径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整 形 ・ 調 整 の 特 徴
20	須 志 罎 壺	Y-34G	— — — 口縁部、小片	1. 灰色 2. 白色粒含む 3. 還元焰 硬質	2段口縁、回転撫で。 9本1単位の條状文。
21	須 志 罎 壺	Y-35G	— — — 口片	1. にぶい黄褐色 2. 砂 粘土 粒含む 3. 還元焰 硬質	口縁部2重口縁。頸部波状文、縦方向棒状工具
22	土 師 罎 壺	Y-35G	23.9 — — 口縁～胴部写	1. にぶい褐色 2. 細砂粒含む 3. 還元焰 良好	口縁部肥厚、外反、クの字屈曲。胴上部横方向上半 斜方向寛削り、内面撫で。
23	土 師 罎 壺	X-68G	20.4 — —	1. 褐色 2. 細砂粒含む 3. 還元焰 良好	口縁部肥厚、横撫で。頸部下端段を有す。
24	土 師 罎 壺	X-68G	— — — 胴下部～底部	1. くすんだ褐色 2. 細砂粒含 む 3. 還元焰 硬質	体部斜方向寛削り。内面寛撫で。 丸底、寛削り。
25	古 銭	表採	2.2 1.7	2.05g	寛永通寶。
26	古 銭	表採	2.5 2.0	2.35g	天福通寶。(北宋) 1017年

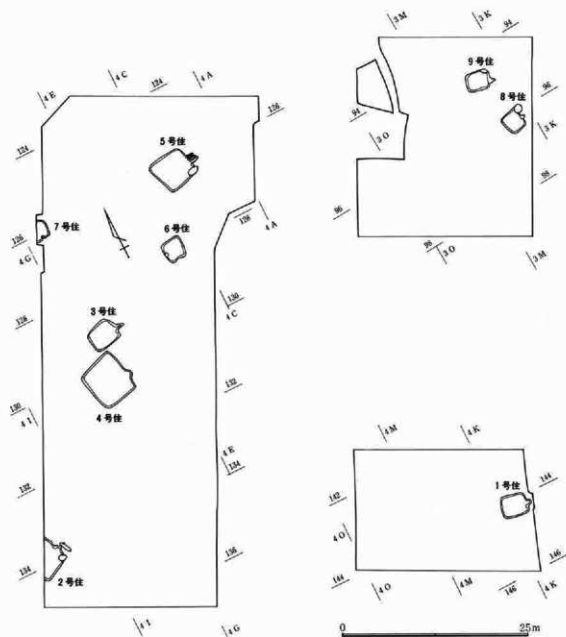
第IV章 中大塚遺跡

第1節 I区検出の遺構と遺物



第660図 中大塚遺跡I区の遺構配置図

1 竪穴住居跡



第661図 中大塚遺跡1区の住居跡配置図

1号住居跡 (写真図版220・246)

位置 4J-143・144グリッド 方位E-15°-S

規模 東西3.7m 南北2.9m 長方形を呈する。

壁高 40cm前後 ほぼ垂直に立ち上がる。

貯蔵穴 無し 柱穴 無し 周溝 無し

床面 黄褐色土塊含む暗褐色土を薄く貼り、踏み固めている。電前から右寄りにかけて焼土、灰の広がりが見られる。

掘形 南壁中央から南東隅にかけて、60cm前後の幅で10cm程掘り込み見られる。他の部分はフラットな面に仕上げられている。

遺物 竈内及び周辺部にのみ土師器壺破片出土。

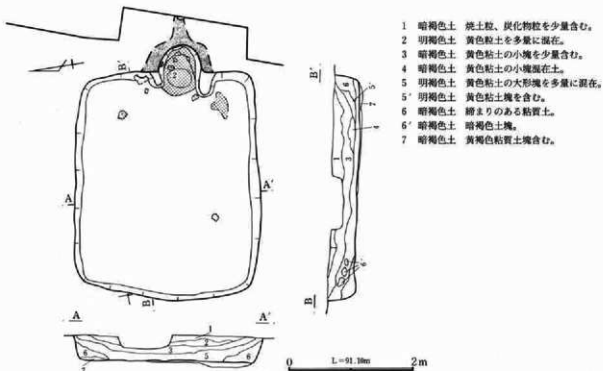
竈

位置 東壁中央

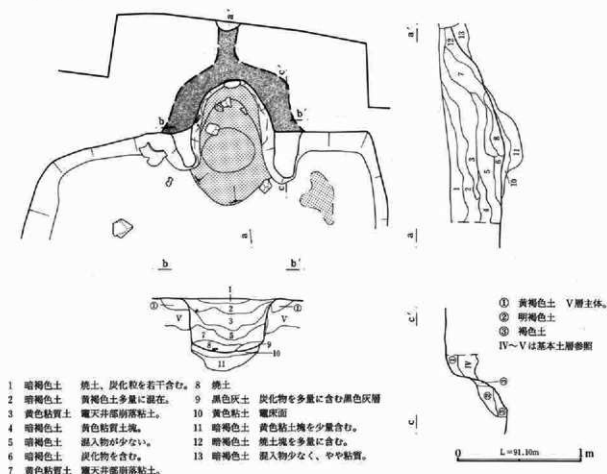
規模 竈口幅53cm 燃焼部奥行き70cm・幅50cm・深さ45cm 煙道部は煙出し部分が用水溝に切れ全長は不明。残存長は58cm・幅25cm

煙道部への立ち上がりが25cm なのだかに立ち上がる。

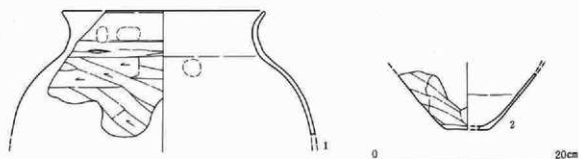
構築 燃焼部中心は壁の延長線上にあり、袖として黄褐色粘質土を貼り付けている。この粘質土は、天井部構築材としても利用され、壁の立ち上がり部分周辺を幅20cm、深さ10cm程掘り込み粘質土を貼っている状況が残る。火床面は床面と同レベルであり、灰、焼土の広がりが見られる。直上には、天井部崩落土の堆積見られる。掘形は長方形を呈し、壁面は垂直に立ち上がる。火床面下から奥壁にかけて、黄褐色粘質土が貼られている。壁面は煙道部に向かい赤茶色に焼けている。煙道部は黄褐色粘質土を貼った天井部が残る。口部分は20×20cmの方形を呈し、水平方向や上向きに伸びる。



第662図 1号住居跡実測図



第663図 1号住居跡電気測定図



第664図 1号住居跡出土遺物実測図

1号住居出土遺物観察表

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
1	土師器 壺	北東 +15	21.4 - - 口径部~胴部上段	1. 橙色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焙 良好	口径部横撫で。頸部指痕圧痕有り。 胴部上位横、中位斜方向荒削り、指痕圧痕有り。
2	土師器 壺	竈内 +4	- - (5.7) 胴部下~底部小片	1. におい橙色 2. 細砂 小石含む 3. 酸化焙 良好	胴部下半斜方向荒削り、丁寧な撫で。 底部磨削り。

2号住居跡 (写真図版220・221・246)

本住居は焼失家屋であり、住居内には多量の焼土塊や炭化した建築材が検出された。炭化材は棒状、板状、茅または藁のような植物繊維のものなどがある。出土状況は、棒状炭化材は、壁際から中央に向かい出土し、板状炭化材や植物炭化物は壁際にて検出された。また、黄褐色土の焼けた焼土塊が壁際にて多量に出土している。壁面もまた、赤茶色に焼け硬質化している。

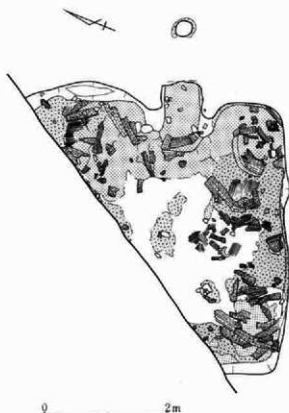
位置 4J-133・134グリッド 方位 N-64°-E
重複 煙道部を76号土坑に切られている。北西部部分は調査区外のため未調査。

規模 東西4.3m 東壁4.2m 方形状を呈する。

壁高 60cm前後 垂直に立ち上がる。

貯蔵穴 南東隅 長辺1.1m、短辺70cm、深さ16cmの規模を持ち、長方形状を呈する。覆土中には焼土、灰、炭化物混じる。

柱穴 無し



第665図 2号住居跡炭化材出土状況実測図

周溝 各壁下に径15cm前後の円形小ピットが近接して並ぶ。

床面 黄褐色土塊混じりの暗褐色土の上に黄褐色粘質土を薄く貼り堅く踏み固められている。

掘形 周辺部は幅広く溝状に掘り込まれ、電前から中央部にかけて掘り残される。

遺物 出土遺物は土師器のみ出土しているだけである。

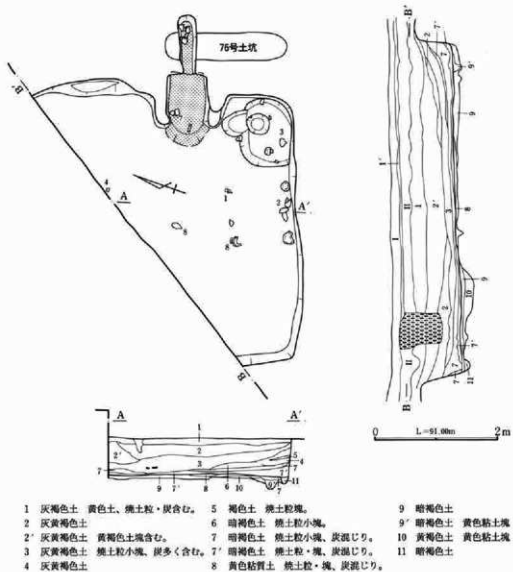
竈

位置 東壁中央南寄り

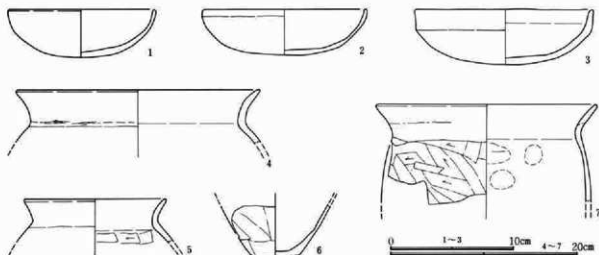
規模 焚口部幅57cm 燃焼部奥行き83cm・幅60cm・深さ70cm 煙道部長さ90cm・幅22cm

煙道部への立ち上がり25cm 垂直に立ち上がる。

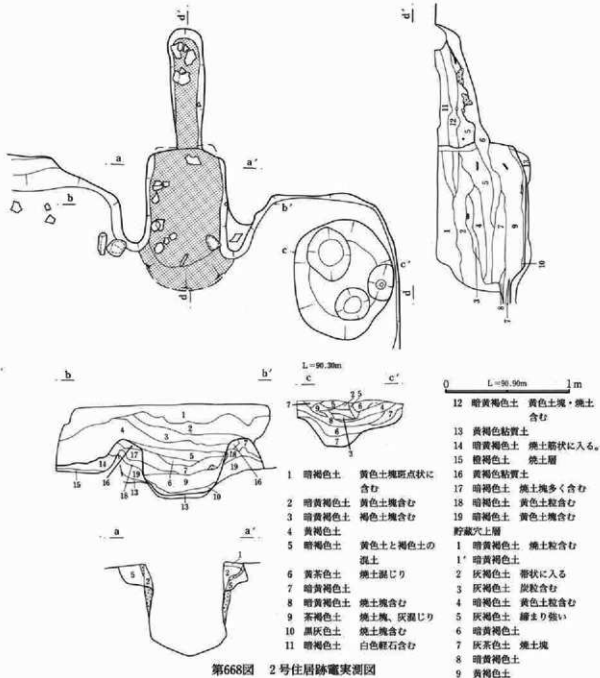
構築 燃焼部の中心は壁の延長線上にあり、褐色粘質土と黄褐色粘質土混じりの暗褐色土を袖として貼り付けている。火床面は床面より13cm程深く、灰の堆積見られる。直上には、焼土塊、炭混じりの締まりの弱い層がある。この層以外に覆土中には、火災による焼土、炭化物の堆積層は見られない。掘形は箱形長方形状を呈し、壁面は垂直に立ち上がる。壁面の焼けは、煙道部口に向かい斜めに焼けている。側壁立ち上がり周辺部分を、深さ15cm、幅17cm程掘り込み、天井を渡したものと考えられる。煙道部は、斜方向に伸び煙出し部で垂直に立ち上がる。また、掘形は方形状を呈し、焼けた天井部が残る。



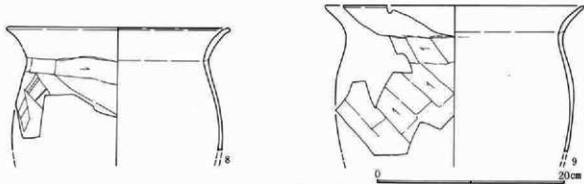
第666図 2号住居跡実測図



第667図 2号住居跡出土遺物実測図(1)



第668図 2号住居跡電実測図



第669図 2号住居跡出土遺物実測図(2)

2号住居出土遺物観察表

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
1	土師器 環	南東 +1	11.6 - 3.7 口径部～底部迄	1. 褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 軟質	口径部横撫で。 体部、底部表面摩耗。
2	土師器 環	南東 +2	13.0 - 3.6	1. 黄褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 やや軟質	口径部端横、内横。 体部～底部表面摩滅、内面くすんでいる。
3	土師器 環	南東 +8	14.1 - 4.3 完形	1. 黄褐色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 やや軟質	口径部横撫で、弱い稜を持つ。 体部～底部平持ち磨削り。
4	土師器 甕	北東 +1	20.8 - - 口径部の片	1. 褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口径部外反。頸部強い撫で。 胴部上位横削り。
5	土師器 甕	覆土	15.0 - - 口径部～体部上迄	1. ぶい褐色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口径部横撫で。頸部強い撫で。 胴部上位横撫で。内面磨擦で。
6	土師器 甕	貯蔵穴 底部	- (5.2) -	1. 褐色 2. 細粒含む 3. 酸化焰 良好	胴部下端横方向、下位斜方向磨削り。 底部平底磨削り、内面磨擦で。
7	土師器 甕	南東 +5	23.3 - - 口径部～胴部上迄	1. 赤褐色 2. 細砂 粘土粒含む 3. 酸化焰 良好	口径部横撫で、胴部上位、横位、中位斜方向磨削り 内面磨削り。底部撫で、指頭圧痕有り。
8	土師器 甕	北西 +1	23.5 - - 口径部～胴部迄	1. 褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口径部外反、横撫で、クの外反。内面端部薄い 胴部上位、横位、中位磨削り、内面撫で。
9	土師器 甕	覆土	27.5 - - 口径部～胴部迄	1. 褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口径部横撫で。 胴部上位横、中位斜磨削り。

3号住居跡 (写真図版222・246・247)

位置 4F-128・129グリッド 方位 N-84°-E

規模 東西3.7m 南北3.2m 長方形を呈する。

壁高 40cm前後 垂直に立ち上がる。

貯蔵穴 南東隅に土師器甕胴上半部が埋設され、西
よりに底部が埋設されている。

柱穴 無し

周溝 上端15cm、下端6cm、深さ4cmの規模を持ち、
電周辺部分を除き、全周している。

床面 黄褐色土塊を僅かに含む暗褐色土を薄く踏み
固めている。電前には電構築材である小石混じりの
黄褐色土と焼土の混土及び土師器甕の破片の広がり
が見られる。

掘形 電前と南壁中央寄りに掘り込み見られる以外
は、全体的にフラットな面に仕上げられている。

遺物 浮いた状態で多数の土器出土。

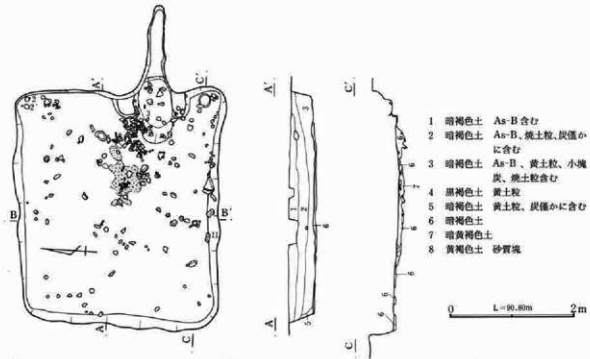
電

位置 東壁南寄り

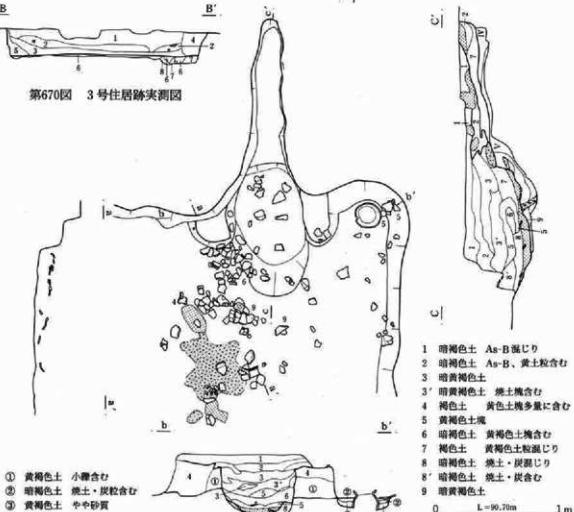
規模 焚口幅55cm 燃焼部奥行き60cm・幅55cm・
深さ52cm 煙道部長さ1.15m・幅20cm

煙道部への立ち上がり18cm 垂直に立ち上がる。

構築 燃焼部中心は壁の延長線上にあり、地山掘り
残しの袖を持つ。火床面は床面より15cm程低く掘り
込まれ、灰の堆積見られる。覆土中層に電構築材の
小石混じりの黄褐色土が堆積している。掘形は方形
状を呈し、壁面は垂直に立ち上がる。壁面の焼けは、
煙道部に向かい赤茶色に焼けている。煙道部は水平
方向やや上向きに伸びる。覆土中には焼土塊を多く
含み、天井部は僅かにアーチ状に焼け残る。

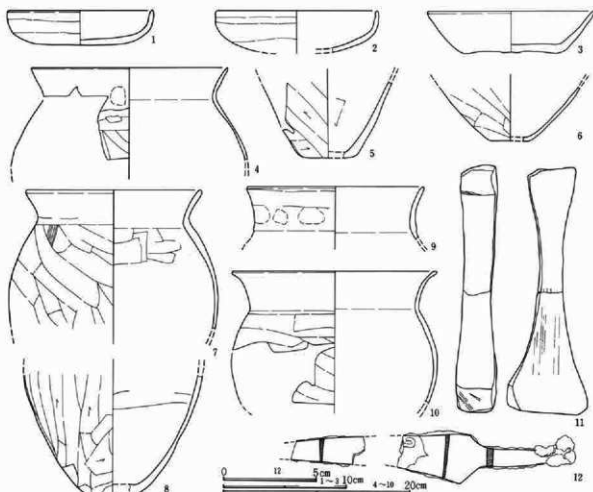


第670図 3号住居跡実測図



第671図 3号住居跡実測図

第IV章 中大塚遺跡



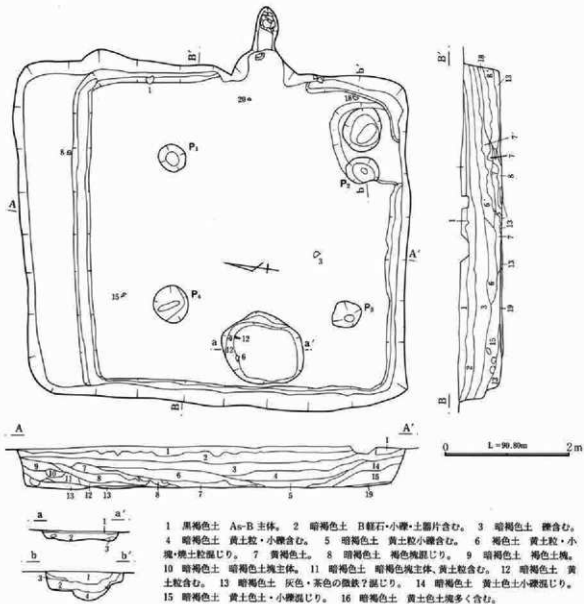
第672図 3号住居跡出土遺物実測図

3号住居出土遺物観察表

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
1	土器 碗	南西 +3	11.6 - 2.7 片	1. 橙色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 やや軟質	口縁部横撫で。 胴部指押さえ、未調整。底部手持り寛削り。
2	土器 碗	北東隅 +18	13.0 - - 片	1. 橙色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。胴部指押さえ、未調整。 底部状白色粘土混じり横撫様見られる。
3	須恵器 碗	竈前 +23	13.3 7.5 3.3 片	1. 洗黄色 2. 白色、小石含む 3. 中性焰 軟質	碗椀形。 底部回転糸切り。
4	土器 壺	竈前 +4	21.0 - - 口縁部~胴部片	1. 明赤褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。頸部指頸圧痕有り。 胴部上位横、中位斜方向削り。
5	土器 壺	貯蔵穴 +10	- 6.0 - 底部~やや胴部片	1. ぶい橙色 2. 細砂粒僅かに含む 3. 酸化焰 良好	胴部斜方向削り。 底部平底、削り。
6	土器 壺	竈前 +12	- 4.3 - 胴部下~底部小片	1. 明赤褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	胴部下端横方向、下半斜方向削り、丁寧な撫で 底部平底削り。
7	土器 壺	貯蔵穴 床下	18.8 - - 口縁部~胴部	1. 橙色 2. 細砂 僅かに含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。口唇部やや強い撫で。頸部に胴部 上位斜方向、中位縦方向削り、内面丁寧な削り

第1節 I区検出の遺構と遺物

番号	器 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
8	土部器 壺	南東 掘形	— 5.7 — 底部〜ほぼ胴部迄	1. 明褐色 2. 細砂粒多く含む 3. 酸化焰 良好	胴部下端横、下位斜縦位置削り。 底部平底、寛削り。
9	土部器 壺	竈前 +13	19.1 — — 口縁部のみ	1. 橙色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で、接合痕見られる。 胴部上位横削り。
10	土部器 壺	竈前 +13	22.0 — — 口縁部〜胴部迄	1. 橙色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。 胴部横、中位斜縦削り。
11	紙石	南壁中	26.1 8.8 3.2	860#	流紋岩
12	刀子	竈左	13.5 4.2 0.5	21.1#	刃側、刃部使用痕状となる。



第673図 4号住居跡実測図

4号住居跡 (写真図版223・247・248)

本住居は柱穴の重複、埋没状況及び周溝の位置等の検討を行った結果、建て替えにより縮小された住居であると考えられる。

位置 4F・G-129・130グリッド 方位N-80°-E
規模 東西5.4m 南北6.2mと5.4m 東西方向はそのまま生かし、南北方向を縮小した。新しい住居は方形を呈する。古い住居は長方形を呈する。

壁高 65cm前後 垂直に立ち上がる。

貯蔵穴 上端が柱穴と重複し、1m×1.2m、深さ20cmの規模を持ち、中に小ピットを持つ。覆土中に焼土、灰を含む。また、竈と反対側西壁中央下に、径1.2m、深さ15cmの円形状をした土坑があり、中から

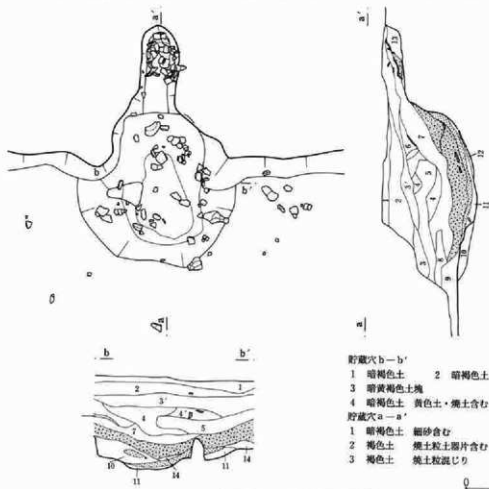
多量の土器片出土しており、この土坑も貯蔵穴と考えられる。

柱穴 新しい住居柱穴は、径40cm前後の円形を呈する。各柱穴の芯々間の距離はP₁-P₂は3m、P₂-P₃は2.4m、P₃-P₄は2.8m、P₁-P₄は2.4mを測る。古い住居柱穴は、径50cm前後の円形を呈する。各柱穴の芯々間の距離はP₅-P₆は3m、P₆-P₇は2.5m、P₇-P₈は3.2m、P₈-P₈は2.6mを測る。

周溝 旧住居の北壁下にはない。規模は、上端10~20cm、下端5~15cm、深さ8cm前後を測り、竈部分を除き全周する。

床面 小石、褐色土、黄褐色土、暗褐色土各塊の混土を堅く踏み固めている。新旧の床面のレベル差は

- | | | |
|-------------------|------------------|---------------------|
| 1・2 層第673回と同層 | 5 褐色土 焼土粒・灰含む | 10 明褐色土 黄褐色土・焼土塊混じり |
| 3 住居覆土6'に似る | 6 褐色土 黄褐色土・焼土粒含む | 11 褐色土 焼土多く含む |
| 3' 褐色土 黄褐色土塊含む | 7 褐色土 黄褐色土・焼土塊含む | 12 黒褐色土 灰混じり |
| 4 暗黄褐色土 焼土粒含む | 8 暗黄褐色土 | 13 褐色土 焼土粒含む |
| 4' 暗黄褐色土 焼土粒僅かに含む | 9 住居覆土13に似る | 14 褐色土 11層に似る |



第674図 4号住居跡電実測図

見られない。

掘形 南半分の掘り込み面の凹凸は大きく、不定型に掘り込まれている。北半分の掘り込み面は、柱穴周辺のみ掘り込まれ全体的にはフラットな面に仕上げられている。

遺物 土器破片多量に出土。

備考 覆土中層に黄褐色土主体の層が、北東隅から住居中央にかけて落ち込んでおり、北に近接する3号住居掘削土の可能性が考えられる。また、覆土上層にはAs-B主体の層を確認した。

竈

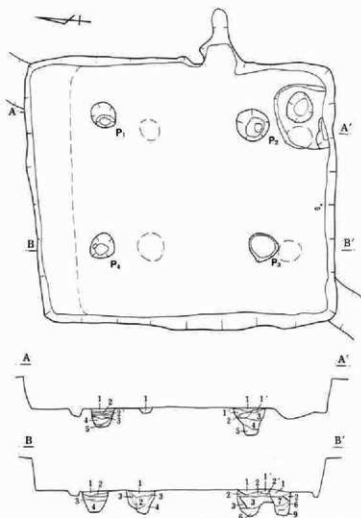
位置 東壁中央

規模 焚口部幅70cm 燃焼部奥行き60cm・幅65cm・

深さ73cm 煙道部長さ50cm・幅23cm

煙道部への立ち上がり30cm 垂直に立ち上がる。

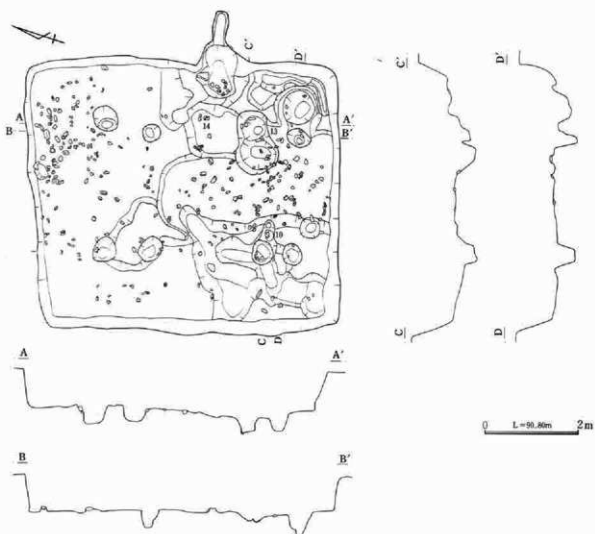
構築 燃焼部は壁外に掘られ、焚口部に僅かに地山掘り残しの袖を持つ。火床面は10cm程掘り込まれ、灰の堆積見られる。掘形は方形を呈し、壁面は垂直に立ち上がる。壁面の焼けは、煙道部に向かい赤茶色に焼けている。煙道部には土師器蓋が伏せられ利用されていた。



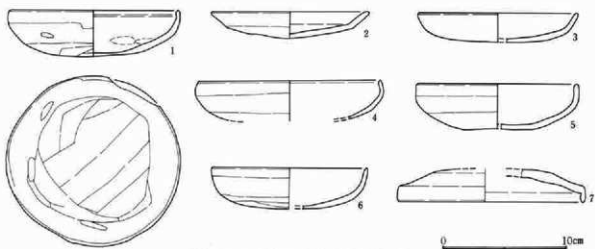
- 1 暗褐色土 焼土粒、黄色土粒を混在する。
- 1' 暗褐色土 黄色土多く含む
- 2 黄色土 黄色を主とした粘床
- 2' 黄色土塊
- 3 黄褐色土 黄色土塊を多量に含む固く締まった土
- 4 暗褐色土 黄色土塊を混在、砂礫含む
- 5 暗褐色土 よこれた黄色粘土塊を混在する。
- 6 暗褐色土 黄色粘土をまだらに混在する
- 7 暗褐色土 黄色粘土を少量含む
- 8 暗褐色土 3層にかなり類似。
- 9 暗褐色土 黄色粘土塊の小形のものでややよごれている。

第675図 4号住居跡実測図

0 L=90.80m 2m

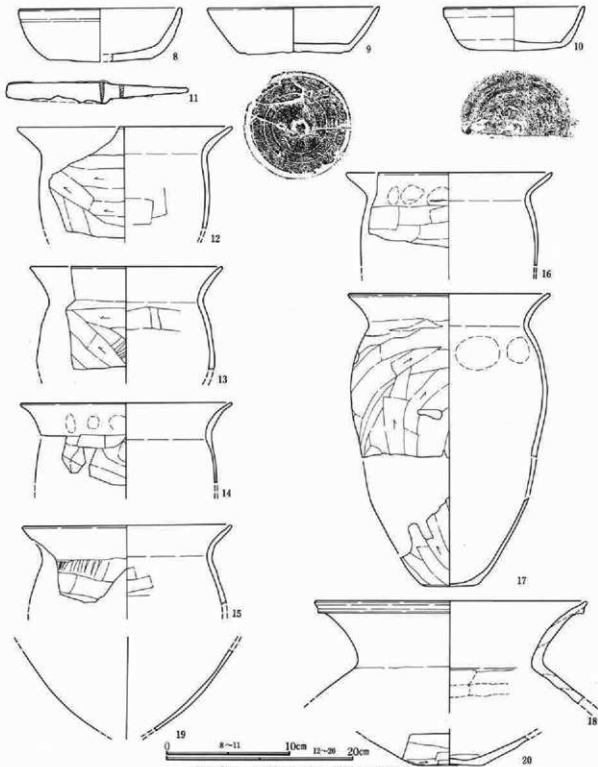


第676图 4号住居跡床下実測図



第677图 4号住居跡出土遺物実測図(1)

第1節 I区検出の遺構と遺物



第678図 4号住居跡出土遺物実測図(2)

4号住居出土遺物観察表

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
1	土師器 杯	北東 +3	13.7 - 3.7 ほぼ完形	1. 明褐色 2. 細粒備かに含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横断で、体部指押さへ、未調整。 基部手持ち残削り。

第四章 中大塚遺跡

番号	器 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
2	土師器 皿	胴形 +6	12.6 - 2.1 ㄗ	1. 褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 やや軟質	口縁部横撫で、僅かに稜を持つ。 底部～底部手持ち部削り。
3	土師器 環	中央 +2	12.8 - (2.3) ㄗ	1. 褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 やや軟質	表面摩耗。
4	土師器 西野蔵穴 覆土	12.6 - (3.2)	1. 褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 やや軟質	口縁部横撫で。胴部指押さえ、未調整。 底部手持ち部削り。	
5	土師器 環	覆土	13.0 - (3.5) ㄗ	1. 褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。胴部指押さえ、未調整。 底部手持ち部削り。
6	土師器 環	覆土	15.0 - - ㄗ	1. 褐色 2. 粘土細粒含む 3. 酸化焰 やや軟質	口縁部横撫で。胴部指押さえ、未調整。 底部手持ち部削り。
7	須恵器 蓋	覆土	15.0 - 2.5 ㄗ	1. 灰白色 2. 小石 片岩雜含 3. 還元焰 硬質	轆轤整形、折り返し。 頂部回転削り。
8	須恵器 環	北東隅 +10.8	13.0 - (4.2) ㄗ	1. 灰色 2. 粗砂粒含む 3. 還元焰 硬質	轆轤整形。 底部回転糸切り、削り。
9	須恵器 環	覆土	13.8 8.8 3.7 ㄗ	1. 灰オリーブ 2. 精選 3. 還元焰 硬質	轆轤整形。 底部回転糸切り離し。
10	須恵器 環	覆土	11.2 - 3.4 ㄗ	1. 灰白色 2. 粗砂粒含む 3. 還元焰 硬質	轆轤整形。 底部回転削り。
11	刀子	覆土	14.5 1.65 1.7	15.278	先端部及び基欠損。刃は刃部、鋒部にあり鈍角
12	土師器 西野蔵穴 壺	(23.6) - - +11	(23.6) - - +11	1. 褐色 2. 細砂 粘土粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。胴部横方向削り、中位斜方向削り。 内面監撫で。
13	土師器 壺	胴形 +4 口縁部～胴部ㄗ	22.0 - - ㄗ	1. 褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 やや軟質	口縁部横撫で。胴部指頸圧痕有り。 胴部上位横方向削り。
14	土師器 壺	胴形 +4 口縁部～胴部ㄗ	20.6 - - ㄗ	1. 明赤褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。頸部強い撫で。 胴部上位斜方向削り。内面監撫で。
15	須恵器 壺	北西 床面	(29.2) - - ㄗ	1. 灰色 2. 白色細粒含む 3. 還元焰 硬質	口縁部折り返し、回転撫で。頸部くの字外縁。 胴部格子目多き、内面指押さえ。
16	土師器 壺	南東 +4 口縁部～胴部ㄗ	22.0 - - ㄗ	1. 褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好 やや軟質	口縁部横撫で。頸部指頸圧痕有り。 胴部上位横方向削り。
17	土師器 壺	胴形 +7 胴部欠損	2.16 (6.0) (31.0) ㄗ	1. にぶい褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。頸部指頸圧痕有り。 胴部斜方向削り、内面下半丁寧な寛撫で。
18	須恵器 床面	南東隅 床面 口縁部ㄗ	29.2 - - ㄗ	1. 灰色 2. 白色細粒含む 3. 還元焰 硬質	口縁部折り返し、回転撫で。頸部くの字外縁。 胴部格子目多き、内面指押さえ。
19	土師器 壺	覆土	- - - 胴部下半欠損	1. にぶい褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 やや軟質	表面摩耗。
20	土師器 壺	甕前 +3	- (7.0) - 底部のみ	1. 黒褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	底部側縁、横方向削り。 平底削り。

5号住居跡 (写真図版224・248・249)

位置 4C-125・126グリッド 方位 N-80°-E

重複 112号土坑に切られている。

規模 東西4.95m 南北5.3m 方形状を呈する。

壁高 50cm前後 垂直に立ち上がる。

貯蔵穴 南東隅長径1.05m、短径70cm、深さ23cmの規模を持つ長円形状を呈する。土器片が大量に出土し、覆土中には焼土、灰を含む。

柱穴 4本検出 径40~50cm程の円形状を呈し、深さはP₁-30cm、P₂-10cm、P₃-10cm、P₄-20cm。

周溝 掘形調査で壁際に幅50cm前後の掘り込み確認。

床面 黄褐色土混じりの暗黄褐色土を踏み固めている。

。竈前に灰、焼土が堅く踏み固められている。

掘形 中央部の南北方向の溝状の掘り込みと径1.1m、深さ20cmの円形土坑を確認した。

遺物 全面に土器片が散布している。

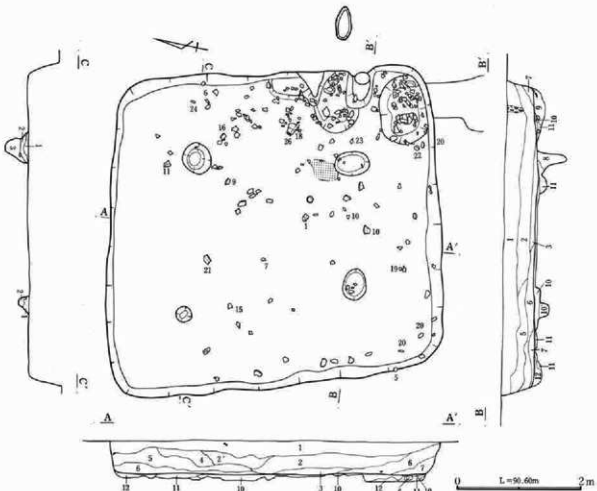
竈 東壁において3カ所の竈を検出し、中央、左端、右端の順で竈が使用されていたことが確認できた。竈名称は右端より第一、第二、第三竈と呼ぶ。

第一竈

規模 焚口部幅45cm 燃焼部奥行き45cm・幅40cm・深さ55cm 煙道部長さ1.1m・幅20cm

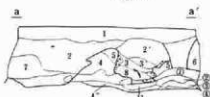
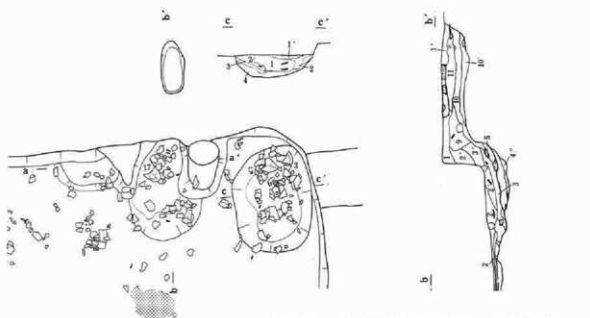
煙道部への立ち上がり20cm 垂直に立ち上がる。

構築 燃焼部は住居内にあり、袖は褐色土塊を含む黄褐色土主体の土を壁に貼り付け利用。火床面は床

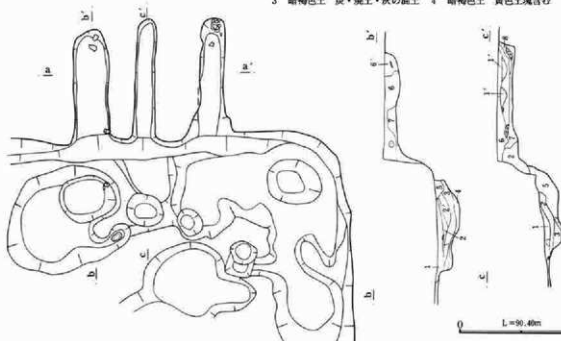


- 1 暗褐色土 As-B混じり。 2 褐色土 黄褐色土塊含む。 2' 褐色土 黄色土塊含む。 3 褐色土 褐色土小塊含む。 4 褐色土 黄土粒・暗褐色土粒わずかに含む。 5 褐色土 6 褐色土 7 褐色土 黄褐色土多量に含む。 8 褐色土 黄土粒・灰・焼土粒少量含む。 9 灰褐色土 灰白色土粒多く、灰・焼土粒あり。 10 暗黄褐色土 11 黄褐色土 細砂塊少量含む。
12 黄褐色土

第679図 5号住居跡実測図



第680図 5号住居跡電実測図



第681図 5号住居跡電掘形実測図

第1節 I区検出の遺構と遺物

面よりやや低く掘り込まれ、灰、焼土が広がる。煙道部壁面は赤茶色に焼け垂直に立ち上がる。煙り出し部に土師器甕破片出土。

第二章

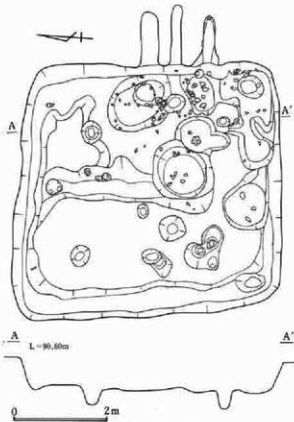
規模 煙道部と燃焼部掘形のみ検出。煙道部長さ1.1m・幅20cm 煙道部への立ち上がり20cm。

構築 燃焼部掘形は、床面より15cm程掘り込まれ、覆土中には焼土、灰が含まれる。煙道部壁面は赤茶色に焼けている。

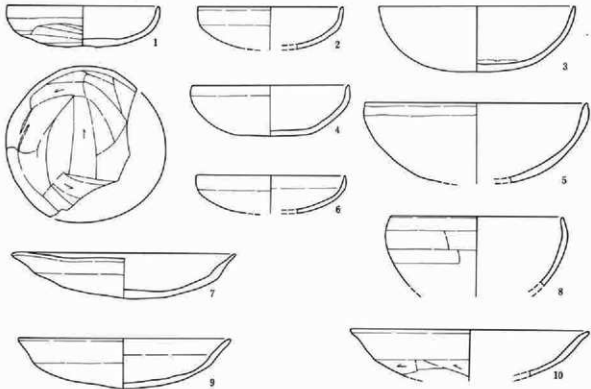
第三章

規模 煙道部と燃焼部掘形のみ検出。煙道部長さ1m、幅30cm、煙道部への立ち上がり35cm。

構築 燃焼部掘形は円形を呈し、床面より25cm程掘り込まれ、覆土中には焼土、灰が含まれ、土師器壺等の遺物も多量に出土。煙道部の焼けは弱い。

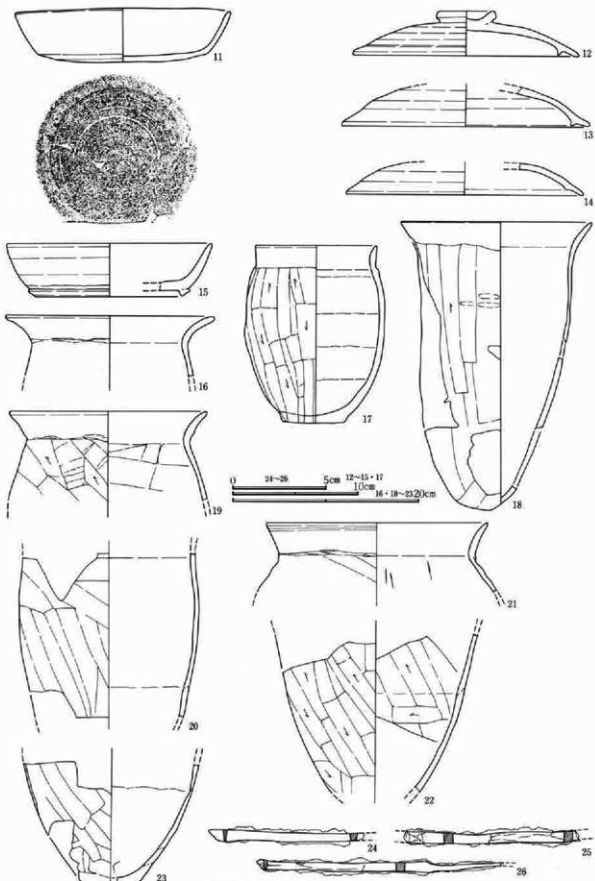


第682図 5号住居跡床下実測図



第683図 5号住居跡出土遺物実測図(1)

第IV章 中大塚遺跡



第684圖 5号住居跡出土遺物実測図(2)

5号住居出土遺物観察表

番号	器 種 器 形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整 形 ・ 調 整 の 特 徴
1	土 器 器 環	中央 -6	12.1 - 3.2 口縁部~底部片	1. 橙色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。 体部~底部手持ち蔑削り、黒斑あり。
2	土 器 器 環	覆土	11.7 - (3.5) 口縁部~底部片	1. 橙色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 やや軟質	口縁部横撫で。 体部~底部表面摩耗。
3	土 器 器 環	貯蔵穴 +8	15.6 - 5.1 口縁部~底部片	1. におい橙色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部、胴部表面割落、発泡痕あり。
4	土 器 器 環	覆土	12.6 - 4.0 口縁部~底部片	1. 橙色 2. 粘土粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。 体部~底部手持ち蔑削り。
5	土 器 器 環	南西 +1	17.6 - (6.0) 口縁部~体部小片	1. におい橙色 2. 細砂僅かに 含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。 体部~底部手持ち蔑削り。
6	土 器 器 環	北東 +10	12.0 - (3.0) 口縁部~底部片	1. 橙色 2. 粘土粒含む 3. 酸化焰 やや軟質	口縁部横撫で。 体部~底部表面摩耗。
7	土 器 器 環	中央 +15	17.8 - 3.5 口縁部~底部片	1. 橙色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 やや軟質	口縁部外反、横撫で、弱い稜を持つ。 体部~底部手持ち蔑削り。
8	土 器 器 環	覆土	18.3 - - 片	1. 橙色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。 体部横方向蔑削り。
9	土 器 器 環	中央 +23	16.9 - 4.0 口縁部~底部片	1. 橙色 2. 細砂 粘土粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部外反、横撫で、弱い稜を持つ。 体部~底部手持ち蔑削り、内面撫で。
10	土 器 器 環	南東 +5	19.0 - (3.7) 底部欠損	1. におい橙色 2. 細砂 粘土 粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で、外反、弱い稜を持つ。 体部~底部手持ち蔑削り、内面撫で。
11	須 恵 器 環	北東 +21	17.0 9.7 4.2 口縁部~底部片	1. 灰色 2. 白色小石 片岩小 粒含む 3. 還元焰 硬質	輪縁整形。 底部回転削削り。
12	須 恵 器 蓋	覆土	19.0 - 3.5 端部~胴まみ部片	1. 灰白色 2. 黒色細粒含む 3. 還元焰 硬質	輪縁整形、内面カカリ高い。 頂部回転削削り、横み部リング状。
13	須 恵 器 蓋	覆土	19.9 - 3.1 端部片	1. 灰白色 2. 細砂粒含む 3. 還元焰 硬質	輪縁整形、内面カカリ。 頂部回転削削り。
14	須 恵 器 蓋	覆土	19.0 - (2.5) 小片	1. 灰白色 2. 白色小石含む 3. 還元焰 硬質	輪縁整形。内面カカリ。頂部回転削削り。
15	須 恵 器 椀	北西 +23	16.4 11.7 4.2 底部欠損	1. 灰白色 2. 精選 緻密 3. 還元焰 硬質	輪縁整形。 底部高台貼り付け、撫で、回転撫で消し。
16	土 器 器 壺	中央 +4	22.0 - - 口縁部の片	1. におい赤褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で、大きく外反。 胴部上位横方向蔑削り。
17	土 器 器 壺	竈内 +3	13.1 6.7 18.7 完形	1. 橙色 2. 砂粒 小石含む 3. 酸化焰 良好	口縁部直立横撫で、頸部段を有する。 胴部縦方向刷毛目、底部円盤、未調整。
18	土 器 器 壺	竈左前 -5	21.2 3.0 30.6 完形	1. におい黄褐色 2. 砂粒 灰 黄色粘土含む 3. 酸化焰 軟質	口縁部緩やかに外反。胴部縦方向蔑削り。 底部小さな平底、不安定。
19	土 器 器 壺	南西 +23	21.0 - (9.5) 口縁部~頸部小片	1. におい橙色 2. 砂粒 粘土 粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で、外傾。 胴部上位斜方向蔑削り、内面蔑削り。

第IV章 中大塚遺跡

番号	器形	出土位置 (cm)	口径・直径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
20	土師器 壺	南東 +23	- - (17.2) 頸部~胴部	1. 橙色 2. 砂粒 小石含む 3. 酸化焰 良好	胴部上半斜方向、下半斜線方向瓦削り。
21	土師器 壺	中央 +26	23.6 - (7.2) 口縁部~頸部	1. 明赤褐色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 硬質	口縁部横無で、口頸部が縮まる。 胴部上位斜方向瓦削り。
22	土師器 壺	南東 +28	- - - 胴部~胴部下	1. 明赤褐色 2. 砂粒 粘土粒 含む 3. 酸化焰 良好	胴部斜線方向瓦削り。
23	土師器 壺	南東 +12	- (6.0) - 片	1. にぶい橙色 2. 砂粒 粘土 粒含む 3. 酸化焰 良好	胴部下位斜方向瓦削り。 底部平底、未調整。
24	刀子	北東	9.4 0.9 0.5 11.7#		刃部使用面弧状となる。基部欠損。
25	鉄製品	覆土	9.4 0.5 0.5 9.9#		棒状鉄製品
26	刀子	電北西	13.2 0.8 0.6 5.4#		刃先・基部欠損。刃部弧状、同開。

6号住居跡(写真図版225)

位置 4C-128グリッド

重複 21号掘立柱建物跡、91号土坑、5号溝に切られている。

規模 東西2.8m 南北2.8m 方形を呈する。

壁高 20cm前後 斜めに立ち上がる。

貯蔵穴 無し 柱穴 無し 周溝 無し

床面 フラットに仕上げられた掘り面をそのまま使用している。僅かに暗褐色土に変色している。

遺物 土師器破片出土している。

竈 無し

1 暗褐色土 黄褐色土粒含む、焼土粒・炭含む

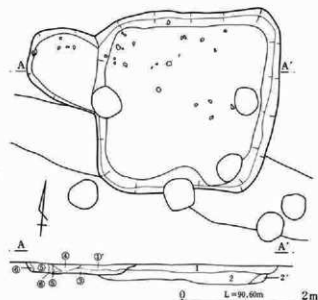
2 褐色土 黄褐色土塊含む

2' 褐色土 黄褐色土粒わずかに含む

91号土坑土層説明

① 暗褐色土 ② 暗褐色土 黄土色塊混じり

④ 暗褐色土 ③ 褐色土 黄土色塊混じり ⑥ 黄褐色土



第685図 6号住居跡実測図

7号住居跡(写真図版225・249・250)

位置 4F-126グリッド 方位 E-90°-S

規模 北西部は調査区外のため未調査。東壁2.4m

壁高 30cm前後 やや斜めに立ち上がる。

貯蔵穴 南東隅 径40cm程の楕円形を呈する。

柱穴 無し 周溝 無し

床面 暗褐色土を薄く踏み固めている。

掘形 小さな凹凸が多数見られる。

遺物 須恵器環、碗、長頸壺等が礫と混じり、やや浮いた状態で出土している。

竈

位置 南壁南寄り

規模 焚口部幅30cm 燃烧部奥行50cm・幅35cm・

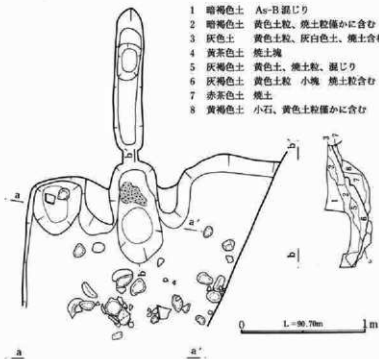
深さ33cm 煙道部長さ1.1m・幅20cm

煙道部への立ち上がり15cm 垂直に立ち上がる。

構築 燃烧部は住居内にあり、地山掘り残しの袖を持つ。火床面は床面より10cm程低く、僅かに焼土含む。煙道部は水平方向に伸び、方形の掘形を持つ。

壁面の焼けは弱い。

第1節 I区検出の遺構と遺物



- 1 暗褐色土 As-B混じり
- 2 暗褐色土 黄色土粒、焼土粒僅かに含む
- 3 灰色土 黄色土粒、灰白色土、焼土含む
- 4 黄褐色土 焼土塊
- 5 灰褐色土 黄色土、焼土粒、混じり
- 6 灰褐色土 黄色土粒 小塊 焼土粒含む
- 7 赤茶色土 焼土
- 8 黄褐色土 小石、黄色土粒僅かに含む

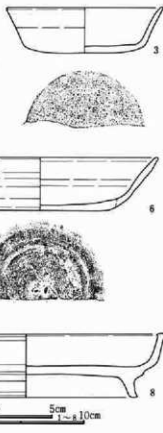
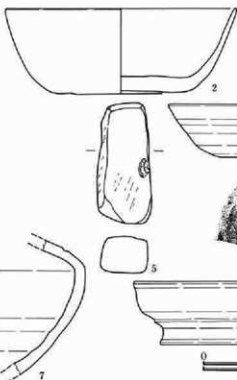
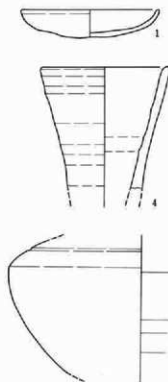
I~III 基本土層断面

- 1 暗褐色土 As-B、小石・小礫含む
- 2 暗褐色土 As-B、小石・黄色土粒含む
- 2' 暗黄褐色土 黄色土粒含む
- 3 暗黄褐色土 小石混じり
- 4 暗褐色土



第686図 7号住居跡実測図

第687図 7号住居跡電実測図



第688図 7号住居跡出土遺物実測図

第四章 中大塚遺跡

7号住居出土遺物観察表

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
1	土器 器形 環	中央 +5	11.0 — — 片	1. 明褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 やや軟質	口縁部横撫で。 表面摩耗。
2	須恵器 器形 環	中央 +11	18.5 10.0 6.8 片	1. 灰白色 2. 粘土粒 砂粒含む 3. 中性焰 やや軟質	輪軸整形。 体部～底部表面摩耗。
3	須恵器 器形 環	中央 +8	12.5 — 3.6 片	1. 灰オリーブ 2. 片岩 小石含む 3. 還元焰 硬質	輪軸整形。 底部回転見切り、寛削調整。
4	須恵器 器形 長頸壺	中央 +19	(10.4) — — 口縁部～頸部片	1. 灰オリーブ 2. 白色粒含む 3. 還元焰 硬質	口縁部組造り、回転撫で。
5	石	南西	12.8 4.3 3.8 540g		硬質泥岩
6	須恵器 器形 環	中央 +12	18.8 (10.7) (4.2) 片	1. 灰オリーブ 2. 砂粒含む 3. 還元焰 硬質	輪軸整形。 体部～底部下部回転度削調整。
7	須恵器 器形 長頸壺	中央 +10	— — — 胴部～胴部	1. 淡黄色 2. 白色細粒含む 発泡見られる 3. 還元焰 硬質	肩部張る。 胴部下半部調整、回転撫で。
8	須恵器 器形 壺	中央 +20	22.0 17.6 5.0 片	1. オリーブ黄色 2. 砂粒 粘土粒含む 3. 還元焰 硬質	口縁部回転撫で。頂部平坦面。 底部高台貼り付け、後撫で、周辺部調整。

8号住居跡 (写真図版225・250)

位置 3K-95・96グリッド 方位 N-90°-E

重複 135号土坑に東壁北側を切られている。

規模 南壁2.2m 北壁2.7m 南北2.9m 台形状を呈する。

壁高 25cm前後 僅かに傾き立ち上がる。

貯蔵穴 無し 柱穴 無し 周溝 無し

床面 黄褐色土と暗褐色土の混土を踏み固めている。

掘形 小さな凹凸が多数見られる。

遺物 須恵器環が電右側と西壁南寄りに2個体重なつて出土している。他に中央部に糠がまとまって出土している。

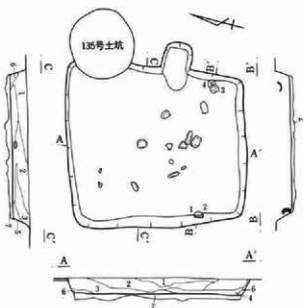
竈

位置 東壁中央

規模 焚口幅35cm 燃焼部奥行40cm・幅35cm・

深さ30cm 煙道部不明

煙道部への立ち上がりが25cm ほぼ垂直に立ち上がる。



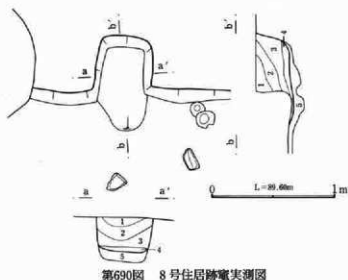
- 1 暗褐色土 As-B 多量に含む
- 2 暗褐色土 As-B を含む
- 3 黒褐色土 少量のAs-B、V層塊を含む
- 4 黒褐色土 V層塊、少量の炭化物を含む
- 5 暗褐色土 V層塊を多量と少量の炭化物を含む
- 6 褐色土
- 7 褐色土と黄褐色土の混土、粘土

0 L=89.70m 2m

第689図 8号住居跡実測図

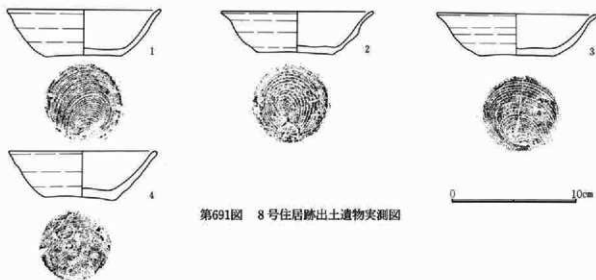
第1節 I区検出の遺構と遺物

構築 燃焼部は住居がい内にあり、袖は持たない。火床面は床面と同レベルであり、焼土、灰の広がり見られる。掘形は方形状を呈し、壁面は垂直に立ち上がる。壁面の焼けは弱い。



- 1 暗褐色土 Aa-Bを多量に含む
- 2 暗黄褐色土
- 3 黒褐色土
- 4 黒色土 焼土、炭化物含む
- 5 褐色土 火床の粘床

第690図 8号住居跡電実測図



第691図 8号住居跡出土遺物実測図

8号住居出土遺物観察表

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・高径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
1	須恵器 坏	南西 +5	12.2 6.0 3.6 完形	1. 灰オリーブ 2. 砂粒含む 3. 還元焰	縦輪整形。 底部右回転糸切り、未調整。
2	須恵器 坏	南西 +5	12.2 6.2 3.2 完形	1. にぶい褐色 2. 粘土粒多く 含む 3. 還元焰 やや軟質	縦輪整形、強い割で。 底部右回転糸切り、未調整。
3	須恵器 坏	中央 -5	12.8 6.0 3.2 完形	1. にぶい黄褐色 2. 粗砂粒含 む 3. 中性焰 軟質	縦輪整形。 底部右回転糸切り、未調整。
4	須恵器 坏	南東 +10	11.8 5.6 3.8 完形	1. にぶい褐色 2. 砂粒 片岩 含む 3. 還元焰 やや軟質	縦輪整形。 底部右回転糸切り、未調整。

9号住居跡 (写真図版226・250)

位置 3K-94グリッド 方位 E-10°-S

規模 東西3.1m 南北2.7m 長方形を呈する。

壁高 40cm前後 やや斜めに立ち上がる。

貯蔵穴 無し 柱穴 無し 周溝 無し

床面 褐色土を薄く貼り、踏み固めている。

掘形 全体にフラットな面に仕上げられている。

遺物 南東隅に土師器甕、小型甕、坏、須恵器坏が出土している。また竈左側に土師器坏出土。

竈

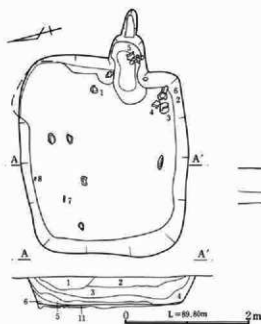
位置 東壁南寄り

規模 焚口部幅40cm 燃焼部奥行き80cm・幅40cm・

深き50cm 煙道部長き40cm・幅20cm

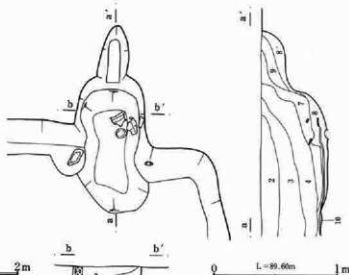
煙道部への立ち上がり20cm 垂直に立ち上がる。

構築 燃焼部の中心は壁の延長線上にあり、焚口部に僅かに地山掘り残しの袖を持つ。火床面は床面より僅かに低く、灰の堆積見られる。直上には下面の焼けた黄褐色粘質土の天井部崩落土が見られる。掘形は長方形を呈し、壁面は垂直に立ち上がる。壁面の焼けは煙道部に向かい、赤茶色に焼けている。煙道部はU字形に掘り込まれており、焼けは弱い。

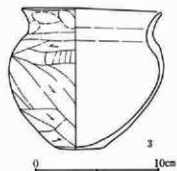
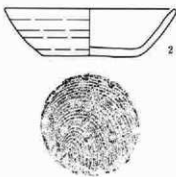
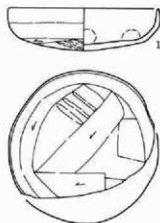


- | | |
|---------------|-------------------|
| 1 褐色土 褐色のAa-B | 6 褐色土 |
| 2 暗褐色土 | 7 粘質黄褐色土 下面が焼けている |
| 3 暗黄褐色土 | 8 黒色土 焼土塊 灰捨物含む |
| 4 黒褐色土 | 8' 黒色土 |
| 5 黄褐色土 | 9 黒褐色土 |
| | 10 褐色土 |
| | 11 暗褐色土 床面 |

第692図 9号住居跡実測図

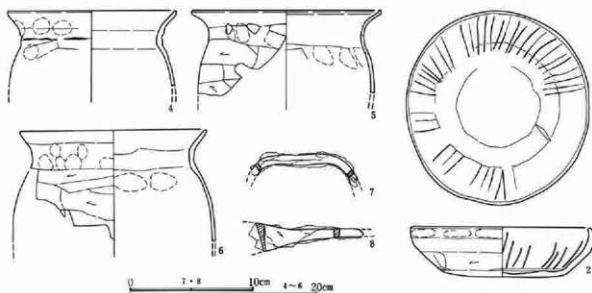


第693図 9号住居跡竈実測図



第694図 9号住居跡出土遺物実測図(1)

第1節 I区検出の遺構と遺物



第695図 9号住居跡出土遺物実測図(2)



第696図 8号住居外出土遺物実測図

9号住居出土遺物観察表

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
1	土器 器形 -1	北東	12.0 - - 口縁部～底部迄	1. 橙色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。体部指押さえ、未調整。 底部手持ち器磨り。平底気味。
2	須恵器 器形 +18	南東隅	12.8 7.5 3.7 片	1. 灰オリーブ 2. 粘土粒含む 3. 還元焰 硬質	楕圓盤形。内外面火だすき痕あり。 底部右回転未切り、未調整。
3	土器 器種 甕	南東隅 床直	11.1 4.0 11.2 完形	1. によい褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。肩部横置磨り。胴部下斜方向置磨り。 底部やや丸味もつ。平底、置磨り。
4	土器 器種 甕	南東隅 床直	17.8 - - 口縁部～胴上部	1. によい褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 やや軟質	口縁部横撫で。指頭圧痕有り。 胴部横方向置磨り、内面指頭圧痕有り。
5	土器 器種 甕	竈内 +1	20.3 - - 口縁部～胴部迄	1. 橙色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。口唇部内屈、沈線高む。頸部指頭圧 痕有り。肩部指頭圧痕有り、横方向置磨り。
6	土器 器種 甕	南東隅 +4	20.0 - - 口縁部～胴部迄	1. 橙色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。頸部指頭圧痕有り。 胴部横置磨り、内面指頭圧痕有り。
7	鉄製品	北西-2	5.5 0.7 0.2 9.8#		コの字に曲がる。
8	刀子	北西	6.2 1.4 0.3 3.7#		刃部、基端部欠損。

8号住居外出土物観察表

番号	器 種 形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整 形 ・ 調 整 の 特 徴
1	須恵器 蓋	8号住居 南1m	15.9 - 4.5 完形	1. 灰色 2. 細砂粒含む 3. 還元焰 良好	口縁部垂直に折曲、横側で、No.2に被り出土。 頂部回転旋削り。リング状納まり。
2	土師器 坏	同上	14.8 - 9.3 完形	1. 褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横側で、僅かに内湾。体部下半横方向旋削り 底部旋削り。内面放射状暗文見られる。重磨き。

2 道路遺構および竪穴状遺構

道路遺構 (写真図版244 - 251)

遺跡北側3N~3R-98~103グリッドに位置し、方向は、東西方向E-60°-Sの傾きをもって路線を横断する。確認全長24m、上端6.6m、路面幅4mを測る。両側には上端1m前後、下端0.5m前後、深さ0.2mの側溝状の溝が付く。

道路構築面は、基本土層III層を掘り込み面としており、土層観察の結果最低2面あることを確認した。

下層路面は、遺構確認面より30cm程低く、東壁寄りでは基本土層のV層である黄褐色土まで掘り込まれている。路線の状況は、全体的にフラットな面に仕上げられ、直上には細砂及び鉄分沈着も見られる。堅く締まった層があり、構築当初の路面と考えられる。また、遺構東寄りの路面の中央部では長辺30cm、短辺15cmの浅い楕円形の窪みが蛇行しながらではあるが1列確認できた。遺構中央部から西壁にかけては、遺構確認時の削平と地山の砂層露出により路面の確認状況は良好ではなかったが、礫層を掘り込んで構築されていることが側溝部分の調査で確認できた。路面幅は、東壁寄りでは3.8m、中央部において4.5m、西壁寄りでは5mを測る。

上層路面は、下層路面より10cm程高い部分で検出し、路面幅も1m前後拡張されていることが溝の状況で確認できた。路面の状況は、全体的にフラットな面に仕上げられ東壁寄りでは4.6m、中央部では4.7m、西壁寄りでは5mを測る。東側では暗灰褐色土の堅く締まった路面を、中央部から西側にかけては地山の片岩礫を敷いたような状況で路面を検出し

た。また、下層路面との間層にはAs-Bを含む淡茶褐色土があり、下層の側溝部分の覆土にも含まれている。

現状での道路遺構の路線外の痕跡は認められないが、東側の桑園の地割り方向と中大塚遺跡I区と下大塚遺跡を分けた市道(プール前通り)とがそれぞれ走行を同じくする。

竪穴状遺構

遺跡北側に集中して検出された。周辺には近世のAs-Aを鋤き込んだ樫状遺構やビット等が多く、それらに切られ遺構の残りはあまり良好ではない。特に1号竪穴以外は掘形面が浅く、遺構確認の際に見落としかねないような状況で検出された。

1号竪穴状遺構 (写真図版245)

位置 3Q-103・104グリッド 方位 N-60°-E

重植 1号溝とAs-Aを鋤き込んだ樫状遺構に切られる。

規模 東西2.5m×南北2.3m 方形を呈する

壁高 11cm前後 垂直に立ち上がる。

貯蔵穴 南東隅、径45cm程の隅丸方形を呈し、深さ10cmの規模を持つ。底面には炭化物見られる。

柱穴 無し 周溝 無し

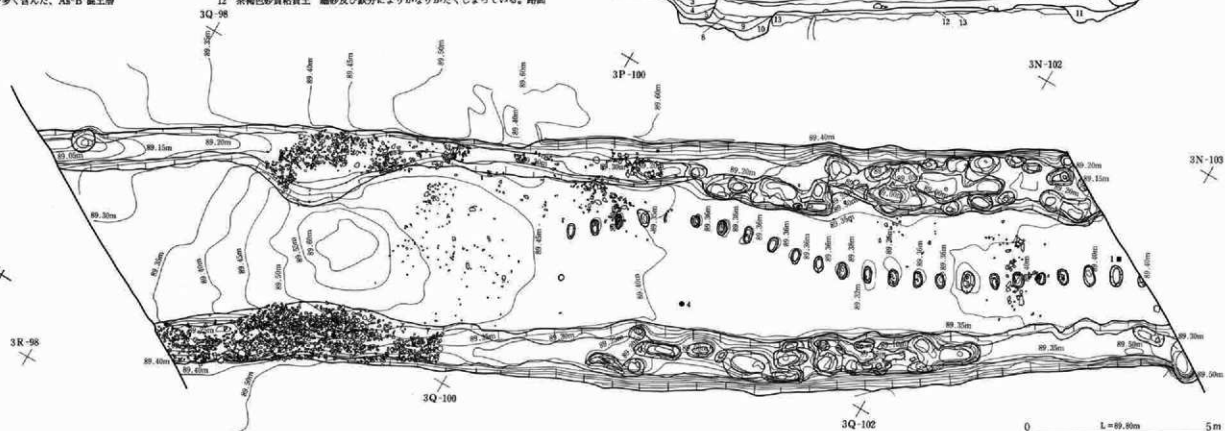
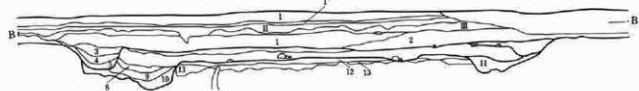
床面 掘形面をそのまま使用している。

掘形 全体的にフラットな面に仕上げられている。

竈 無し

I-V 基本土層歩留

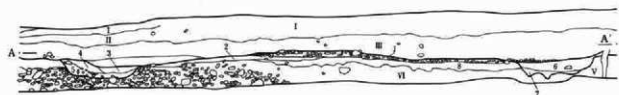
- | | | | |
|---------|---------------------------|-------------|--------------------------|
| 1 暗褐色土 | As-B 凝土層であり、やや褐色 | 7 淡茶褐色粘質土 | 微量にAs-Bを含む、粘土を主体 |
| 2 黒褐色土 | As-B 凝土層であり、かなり黒くしまりやや弱い。 | 8 暗褐色土 | As-Bを少量含む、バサバサした土 |
| 3 淡暗褐色土 | As-B 凝土層、細砂を含む | 9 淡褐色土 | As-Bを少量含む凝土層 |
| 4 淡暗褐色土 | 3層に類似するが、細砂を含まない | 10 暗褐色土 | As-Bを少量含む凝土層 |
| 5 淡暗褐色土 | やや粘質が強い | 11 暗茶褐色土 | 砂礫及び鉄分が多くたたくしまった層、路面 |
| 6 暗褐色土 | 粘土を多く含んだ、As-B 凝土層 | 12 茶褐色砂質粘質土 | 細砂及び鉄分によりかなりたたくしまっている。路面 |



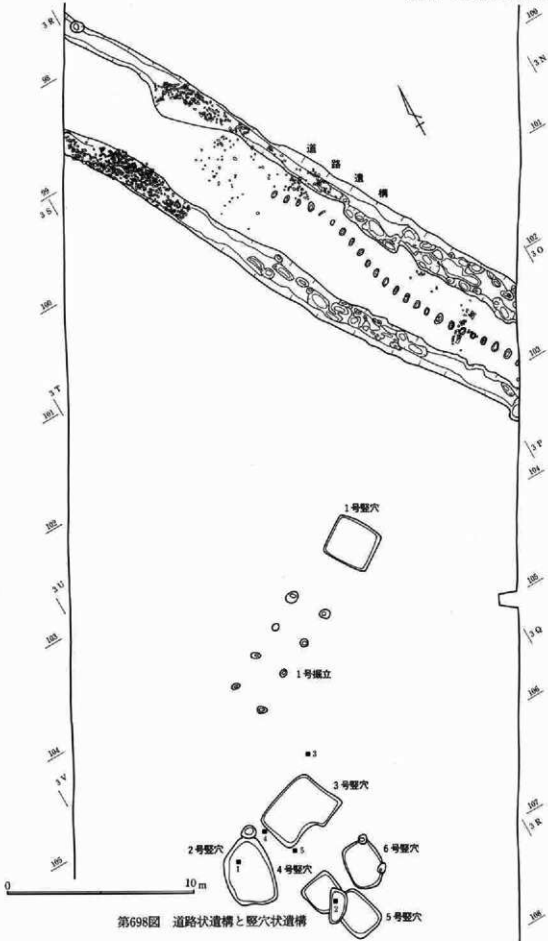
13 暗黄砂質粘土 地山・路面のみしまった土

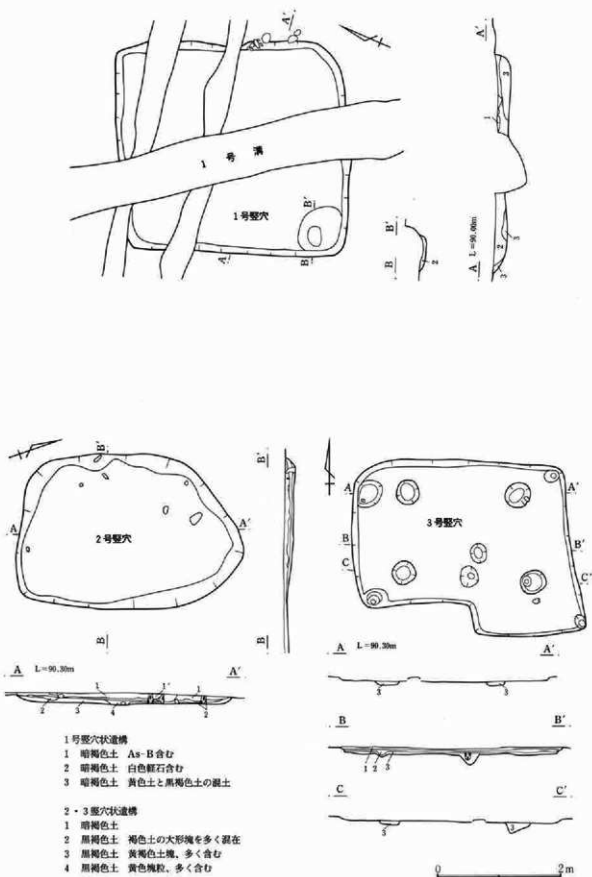
I-IV 基本土層歩留

- | | |
|---|-------------------|
| 1 | 後期構築面、崩壊じり |
| 2 | 褐色土、礫混かに含む、粘質強い |
| 3 | 暗褐色土 As-Bを含む |
| 4 | 暗褐色土 As-B層かに含む |
| 5 | 褐色土 礫含む、粘性あり |
| 6 | 暗褐色土 As-Bを含む |
| 7 | 褐色土 黄褐色土塊じり |
| 8 | 褐色土 黄褐色土塊含む、やや固い層 |



第697図 道路状遺構実測図





第699図 1～3号壑穴状遺構実測図

2号竪穴状遺構 (写真図版245・251)

位置 3 S-105-106グリッド 方位 N-10°-E
 重複 36号土坑と重複する。
 規模 東西2.5m×南北3.5m 北壁部分が三角形状に飛び出す。 貯蔵穴 無し 周溝 無し
 壁高 浅く数cmしかなく、緩やかに立ち上がる。
 柱穴 住居中央部に掘形調査時に径30cm、深さ35cm程の楕円形を呈するピットを検出した。
 床面 焼土粒子、炭化物粒子を含む小塊が散乱している。黄褐色の小塊を含む暗褐色土を薄く踏み固めている。部分的に堅い面がある。
 掘形 北西部に径30~40cm前後の小ピットを検出した。
 遺物 北西部分において古銭2枚出土。

3号竪穴状遺構 (写真図版245)

位置 3 R・3 S-105・106グリッド
 方位 N-70°-E 重複 無し
 規模 東西3.5m×南北2m 南壁の中央部より東壁にかけて60cm程張り出す。
 壁高 数cmを測り、緩やかに立ち上がる。
 貯蔵穴 無し 周溝 無し
 柱穴 4本検出した。径40cm前後、深さ10cm前後の規模を持ち壁に沿う。
 床面 褐色の塊を含む黒褐色の土を薄く踏み固めている。全体的にフラットな面に仕上げられている。

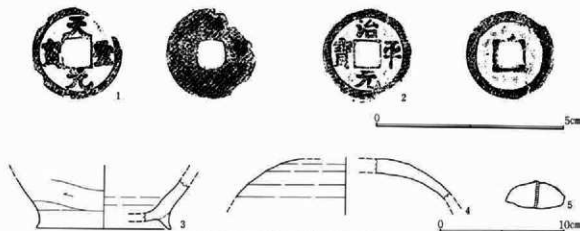
掘形 多数の小ピットを検出した。伴うかどうかは不明。全体的にフラットな面に仕上げられている。
 遺物 柱穴3の西側部分において古銭出土。

4号竪穴状遺構 (写真図版245・251)

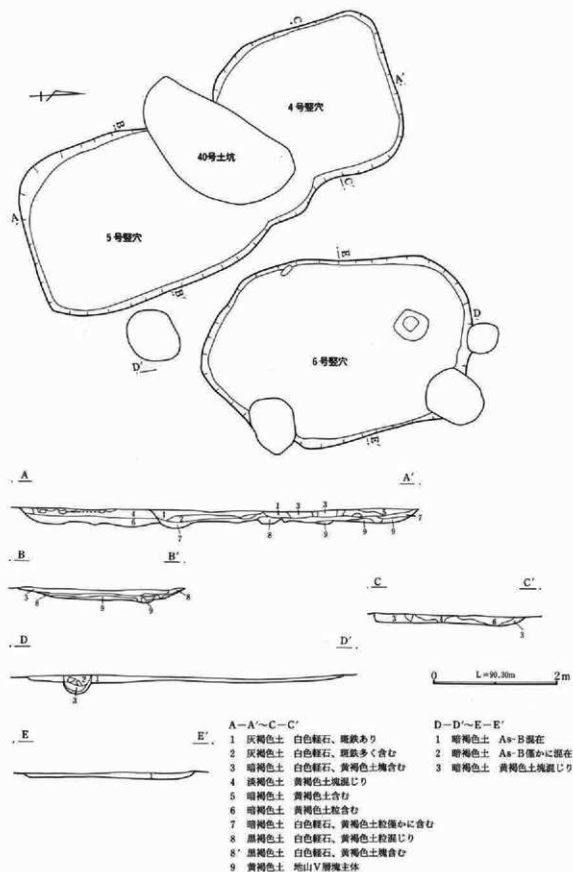
位置 3 S-106グリッド 方位 N-85°-E
 重複 40号土坑に切られ、5号竪穴状遺構と接する。
 規模 東西1.8m×南北1.7m 隅丸方形を呈する。
 壁高 数cmを測り、緩やかに立ち上がる。
 柱穴 無し 貯蔵穴 無し 周溝 無し
 床面 褐色土を薄く踏み固めている。締まり弱い。
 掘形 中央部が掘り込まれる。
 遺物 無し 竈 無し

5号竪穴状遺構 (写真図版245・251)

位置 3 R・3 S-107グリッド
 方位 N-20°-W 重複 40号土坑に切られ、4号竪穴状遺構と接する。
 規模 東西1.8m×南北2.5m 隅丸長方形を呈する。
 壁高 数cmを測り、緩やかに立ち上がる。
 貯蔵穴 無し 柱穴 無し 周溝 無し
 床面 黄褐色土の小塊を含む褐色土を薄く貼り踏み固めている。
 掘形 南寄りの部分を僅かに掘り窪めている。
 遺物 無し 竈 無し



第700図 道路遺構出土遺物実測図



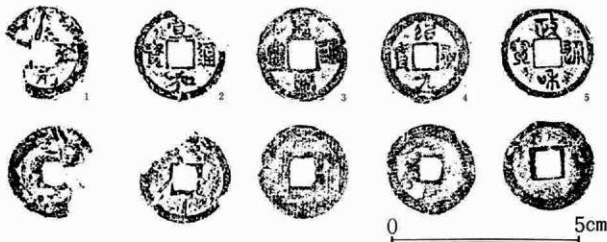
第701図 4~6号壜穴状遺構実測図

第1節 Ⅰ区検出の遺構と遺物

6号竪穴状遺構 (写真図版245)

位置 3R-106グリッド 方位 N-5°-W
 規模 東西1.9m×南北2.6m 隅丸長方形を呈する。
 壁高 数cmを測り、緩やかに立ち上がる。
 貯蔵穴 無し 周溝 無し

柱穴 東壁南北両隅に径40cmのピットを検出した。
 床面 掘形面をそのまま使用している。
 掘形 全体的にフラットな面に仕上げられている。
 遺物 無し 竈 無し
 備考 住居覆土中にはAs-Bを含む。



第702図 竪穴状遺構周辺出土遺物実測図

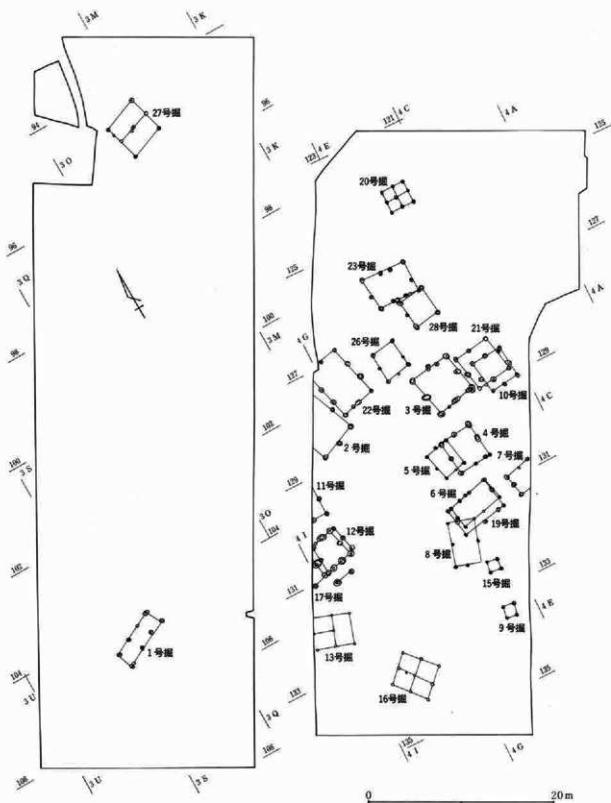
道路状遺構出土遺物観察表

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
1	古銭	南	2.4 2.0	1.5#	天聖元寶。(北宋)1023年。
2	古銭	中央	2.4 1.9	2.1#	治平元寶。(北宋)1064年。
3	須恵器 壺	中央東 床直	- 14.3 -	1. 灰白色 2. 砂粒 小石含む 3. 薄光相 硬質	胴部下端彫削り、内面自然輪付着。 底部高台貼り付け後、撫で。
4	須恵器 蓋	中央南 床直	- - -	1. 褐灰色 2. 精選緻密 3. 薄光相 硬質	頂部回転蓋施で、3段。
5	鉄製品	覆土	4.7 2.0 0.1 7.1#		板状鉄製品。

竪穴状遺構周辺出土遺物観察表

番号	器種	出土位置	外輪 内輪 (cm)	重さ	古銭名
1	古銭	2号竪穴	2.4 1.8	2.01#	淳?元寶。
2	古銭	4・5号 竪穴	2.5 2.1	2.55#	宣和通寶。(北宋)1119年。
3	古銭	3S-105G	2.4 2.1	2.47#	皇宋通寶。(北宋)。1039年。
4	古銭	3T-105G	2.4 1.9	2.78#	紹聖元寶。(北宋)。1064年。
5	古銭	3T-106G	2.4 2.1	2.50#	政和通寶。(北宋)1111年。

3 掘立柱建物跡



第703図 掘立柱建物跡全体図

1号掘立柱建物跡 (写真図版227)

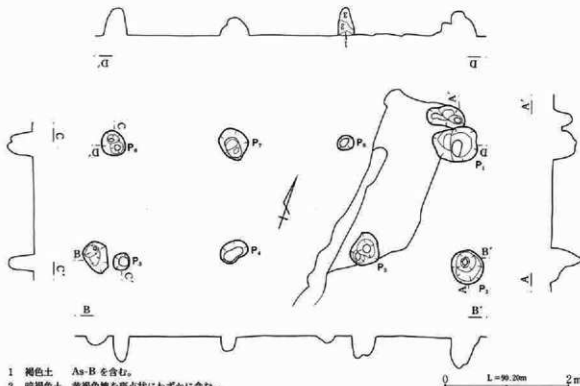
位置 3R-104グリッド
重複 小ピット、土坑絡む

方位 N-65°-E

規模 1間 (1.8m) × 3間 (5.5m)

面積 9.9㎡ 形状 長方形

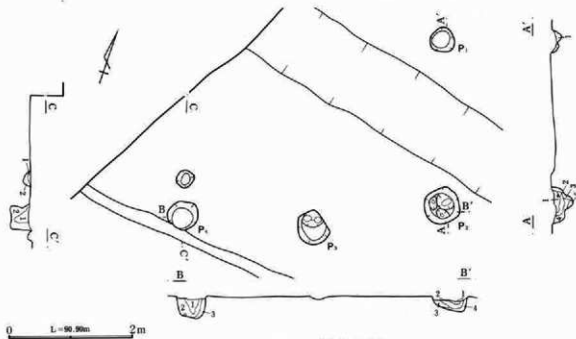
柱穴 円形又は楕円形の掘形を持つ



- 1 褐色土 As-Bを含む。
- 2 暗褐色土 黄褐色塊を斑点状にわずかに含む。
- 3 暗褐色土 黄褐色塊を斑点状にわずかに含む。

- 1 暗褐色土 黄褐色土塊を斑点状に含む。粘性強い。
- 2 暗褐色土 黄褐色土塊を含まない。
- 3 暗褐色土 大きめの黄褐色土塊をまばらに含む。
- 4 黄褐色土 暗褐色土塊を含む。

第704図 1号掘立柱建物跡実測図



第705図 2号掘立柱建物跡実測図

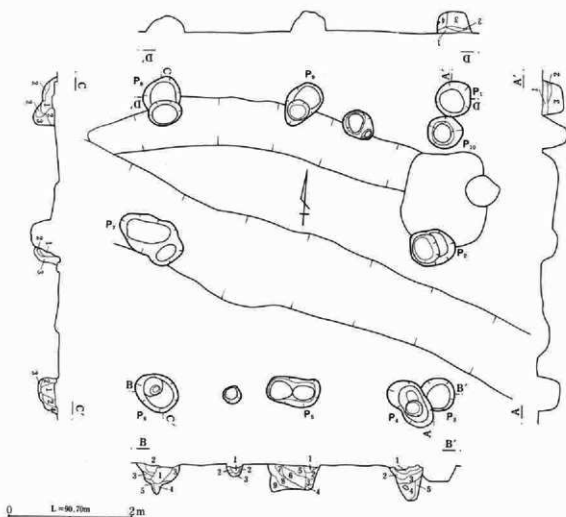
第四章 中大塚遺跡

2号掘立柱建物跡 (写真図版228)

位置 4 F・G-127・128グリッド
 方位 N-26°-W
 重複 4号溝と重複し、路線外に伸びる。
 規模 2間 (4.2m) × 1+a間
 面積 不明 形状 長方形
 柱穴 円形の掘形を持つ

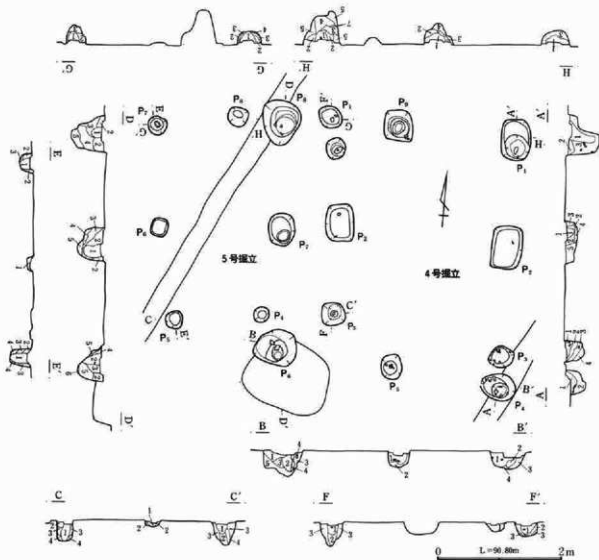
3号掘立柱建物跡 (写真図版228)

位置 4 D・E-128グリッド
 方位 N-11°-W
 重複 4・5号溝と重複し、21号掘立柱建物と近接する。
 規模 2間 (4.5m) × 2間 (4.7m)
 面積 21.1㎡ 形状 方形
 柱穴 円形又は楕円形の掘形を持つ
 備考 各柱穴に重複又は援して柱穴があり、立て替えが考えられる。



- | | |
|----------------------|-----------------------|
| 1 暗褐色土 灰土粒をわずかに含む。 | 6 暗褐色土 黄褐色土塊をわずかに含む。 |
| 2 暗褐色土 黄褐色土をわずかに含む。 | 7 褐色土 黄褐色土塊を多量に含む。 |
| 3 暗褐色土 黄褐色土塊をわずかに含む。 | 8 褐色土 黄褐色土塊。 |
| 4 暗褐色土 黄褐色土塊を斑点状に含む。 | a 暗褐色土 わずかに軽石・黄土粒を含む。 |
| 5 褐色土 黄褐色土塊を多量に含む。 | b 暗黄色土 黄土粒塊を多量に含む。 |

第706図 3号掘立柱建物跡実測図



4号掘立

- 1 暗褐色土 焼土塊を多量に含む。木炭粒含む。
- 2 暗褐色土 黄褐色土塊をわずかに含む。
- 3 暗褐色土 黄褐色土塊を斑点状に含む。
- 4 黄褐色土 黄褐色土塊。
- 5 暗褐色土 第3層に似る。やや黄色が強い。
- 6 暗褐色土 第2層に似る。

5号掘立

- 1 暗褐色土 土器片・焼土粒を含む。粘性強い。やや締まり気味。
- 2 暗褐色土 黄褐色土塊をまばらに含む。粘性弱い。
- 3 暗褐色土 第1層に似るが焼土粒を含まない。
- 4 黄褐色土 粘土の大塊。粘質。

第707図 4・5号掘立柱建物跡断面図

4号掘立柱建物跡 (写真図版228・251)

位置 4 D・E-129・130グリッド
 方位 N-10°-W
 重複 5号掘立柱建物と重複する。
 規模 2間 (3.6m) × 2間 (3.6m)
 面積 12.9㎡ 形状 方形
 柱穴 隅丸方形の掘形を持つ

5号掘立柱建物跡 (写真図版228)

位置 4 E-129・130グリッド 方位 N-15°-W
 重複 4号掘立柱建物と6号溝と重複している。
 規模 2間 (2.5m) × 2間 (3.0m)
 面積 7.5㎡ 形状 方形
 柱穴 円形又は方形の掘形を持つ

6号掘立柱建物跡 (写真図版230)

位置 4 D・E-130・131グリッド

方位 N-78°-E

重複 19号掘立柱建物を囲み、8号掘立柱建物・7号溝と重複する。

規模 2間 (3.1m) × 2間 (5.1m)

面積 15.8㎡ 形状 長方形

柱穴 円形又は方形の掘形を持つ

19号掘立柱建物跡 (写真図版229)

位置 4 D・E-130・131グリッド

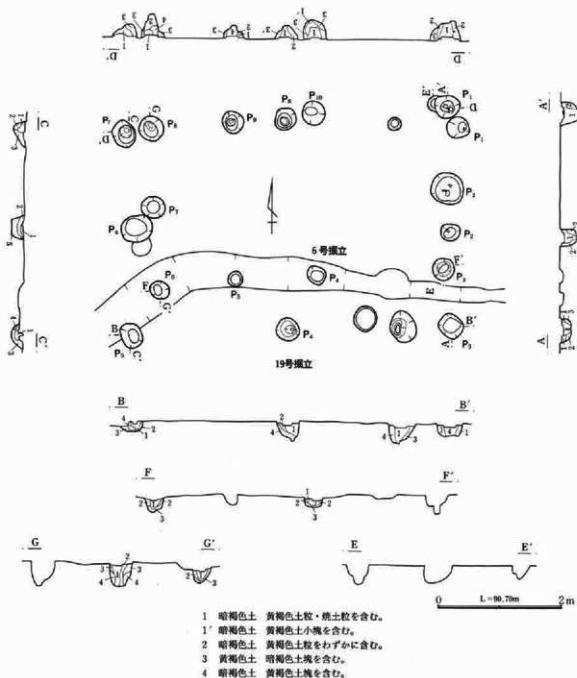
方位 N-85°-E

重複 新旧関係は不明であるが、6号掘立柱建物の内側に建てられている。また、7号溝に切られる。

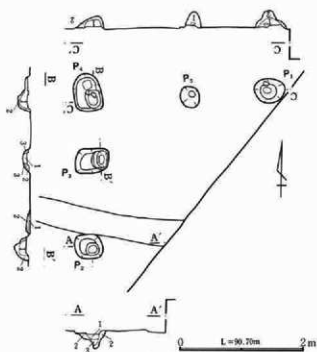
規模 2間 (2.6m) × 2間 (4.5m)

面積 11.2㎡ 形状 長方形

柱穴 円形の掘形を持つ



第708図 6・19号掘立柱建物跡実測図



第709図 7号掘立柱建物跡実測図

7号掘立柱建物跡 (写真図版229)

位置 4C・D-130・131グリッド

方位 N-10°-E

重複 7号溝と重複し、路線外に伸びる。

規模 2間 (2.4m) × 2 + α間

面積 不明 形状 長方形

柱穴 円形又は長方形の掘形を持つ

- 1 暗褐色土 黄褐色土塊を斑点状に含む。
- 2 明褐色土 黄褐色土塊をわずかに含む。
- 3 褐色土 暗褐色土塊をわずかに含む。

8号掘立柱建物跡 (写真図版229)

位置 4E-131・132グリッド

方位 N-17°-E

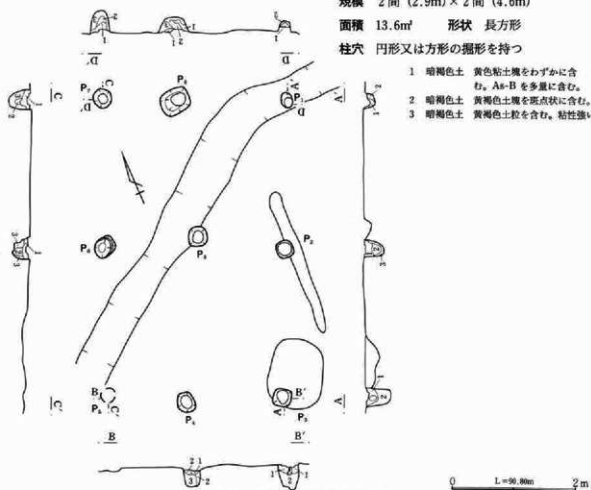
重複 6号掘立柱建物・7号溝と重複する

規模 2間 (2.9m) × 2間 (4.6m)

面積 13.6m² 形状 長方形

柱穴 円形又は方形の掘形を持つ

- 1 暗褐色土 黄色粘土塊をわずかに含む。A-B を多量に含む。
- 2 暗褐色土 黄褐色土塊を斑点状に含む。
- 3 明褐色土 黄褐色土粒を含む。粘性強い。



第710図 8号掘立柱建物跡実測図

9号掘立柱建物跡 (写真図版227)

位置 4 E-133グリッド 方位 N-10°-E
 重複 無し
 規模 1間 (1.2m) × 1間 (1.2m)
 面積 14.4㎡ 形状 方形
 柱穴 円形の掘形を持つ

10号掘立柱建物跡 (写真図版229・251)

位置 4 C-128・129グリッド 方位 N-8°-W
 重複 4・5号溝に切られている。
 規模 2間 (3.2m) × 2間 (3.5m)
 面積 11.2㎡ 形状 長方形
 柱穴 円形又は方形の掘形を持つ。

11号掘立柱建物跡 (写真図版227)

位置 4 H-129グリッド 方位 N-0°

重複 路線外に伸びる

規模 1間 (1.7m) × 1間 (1.7m)
 面積 不明 形状 不明
 柱穴 円形の掘形を持つ

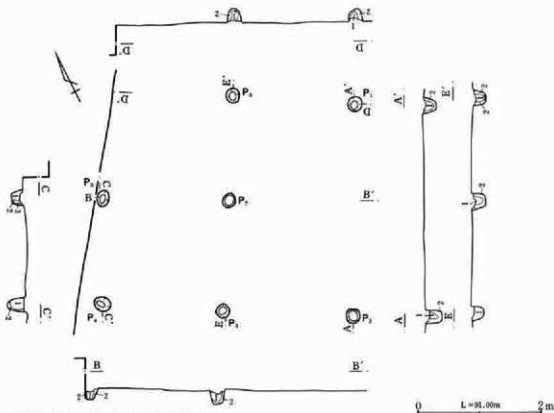
13号掘立柱建物跡 (写真図版230)

位置 4 H・I-131・132グリッド
 方位 E-17°-S

重複 79号土坑と重複する
 規模 2間 (3.3m) × 2間 (4.0m)
 面積 13.2㎡ 形状 長方形

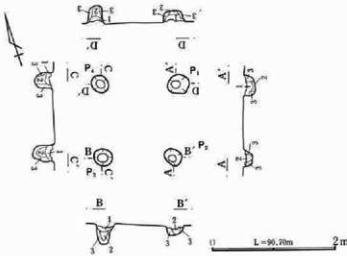
柱穴 円形の掘形を持つ。覆土中には As-B 多く含む。東辺は1間の柱間であり、中央に柱があり総柱の格好となっている。

備考 確認中には、焼土粒・塊に混じり、須恵器や土師器の破片が多量に出土した。



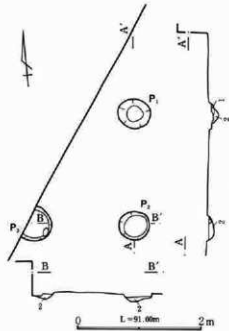
- 1 黒褐色土 As-B を多量に含む。ざらついた層。
- 2 黒褐色土 As-B を含む。
- 3 暗褐色土 As-B をわずかに含む。

第711図 13号掘立柱建物跡実測図



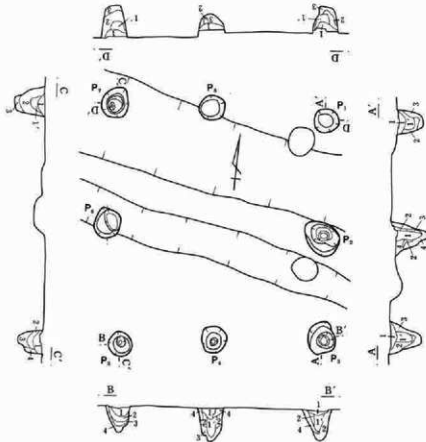
- 1 暗褐色土 As-Bを多量に含む。黄褐色土塊をまばらに含む。
- 2 暗褐色土 黄色土塊をまばらに含む。As-Bを少量含む。粘性が強い。
- 3 暗褐色土 黄褐色土粒を含む。As-Bをほとんど含まない。粘性強い。

第712図 9号掘立柱建物跡実測図



- 1 暗褐色土 As-Bを混じる。
- 2 暗褐色土 As-B・黄土粒をわずかに含む。

第713図 11号掘立柱建物跡実測図



- 1 暗褐色土 軽石・焼土粒を混じる。
- 1' 暗褐色土 軽石・焼土粒をわずかに含む。
- 2 暗褐色土 黄褐色土粒小塊を含む。
- 3 暗褐色土 黄褐色土粒をわずかに含む。
- 4 褐色土 黄褐色土わずかに含む。

第714図 10号掘立柱建物跡実測図

12号掘立柱建物跡 (写真図版230)

位置 4 H-130・131グリッド 方位 N-72°-E

重複 17号掘立柱建物と重複する

規模 2間 (3.3m)×3間 (3.5m) 東辺に2間、南
辺に1間の庇を持つ

面積 11.5㎡ 形状 長方形

柱穴 円形又は方形の掘形を持ち、深く掘り込まれ
底面には小ピットが複数見られる。

備考 17号掘立柱建物と重複すると思われるが、柱
間の間隔や並びを見ると同一の掘立柱建物の可能性

も考えられる。

17号掘立柱建物跡

位置 4 H・I-130グリッド

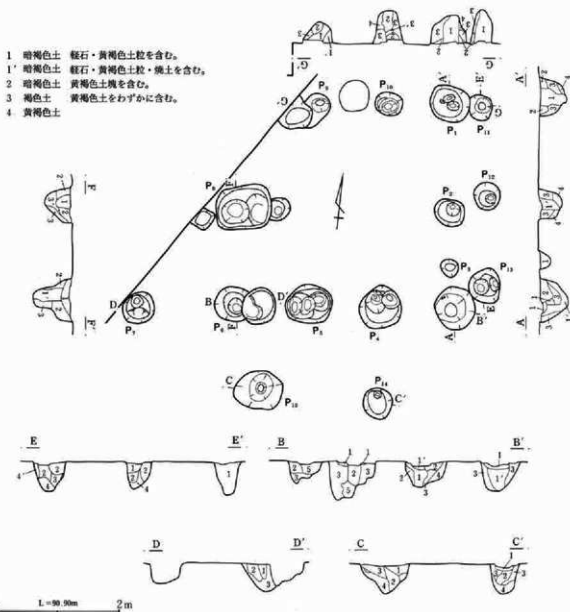
方位 N-72°-E

重複 12号掘立柱建物と重複する。路線外に伸びる。

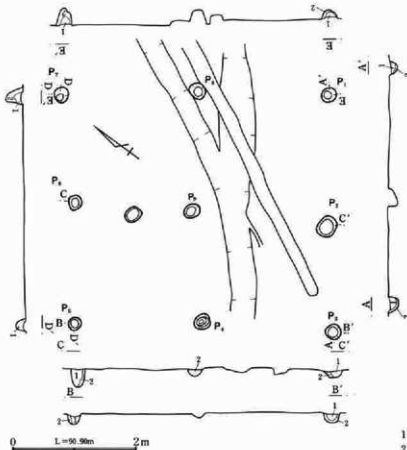
規模 1間 (1.5m)×1間 (2.0m)

面積 3㎡ 形状 不明

柱穴 円形又は方形の掘形を持つ。



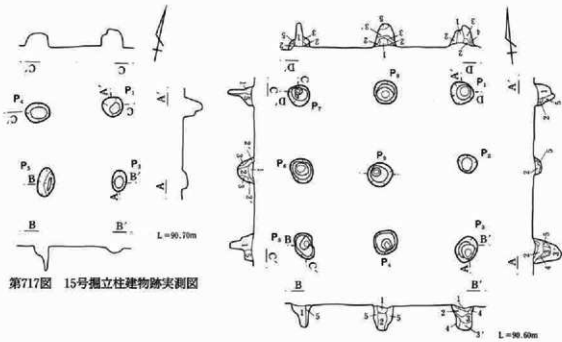
第715図 12・17号掘立柱建物跡実測図



- 1 黒褐色土 As-Bを多量に含む。
- 2 暗褐色土 As-Bを含む。

第716図 16号掘立柱建物跡実測図

- 1 暗褐色土 軽石・焼土粒を含む。
- 2 暗褐色土 軽石をわずかに含む。
- 3 暗褐色土 黄褐色土を混じる。
- 3' 暗褐色土 黄褐色土を含む。
- 4 褐色土 黄褐色土をわずかに含む。
- 5 暗黄褐色土 暗褐色土をわずかに含む。



第717図 15号掘立柱建物跡実測図

第718図 20号掘立柱建物跡実測図

15号掘立柱建物跡 (写真図版227)

位置 4 E-132グリッド 方位 N-5°-E
 重複 無し
 規模 1間 (1.2m) × 1間 (1.2m)
 面積 1.44㎡ 形状 方形
 柱穴 円形又は楕円形の掘形を持つ。

16号掘立柱建物跡 (写真図版230)

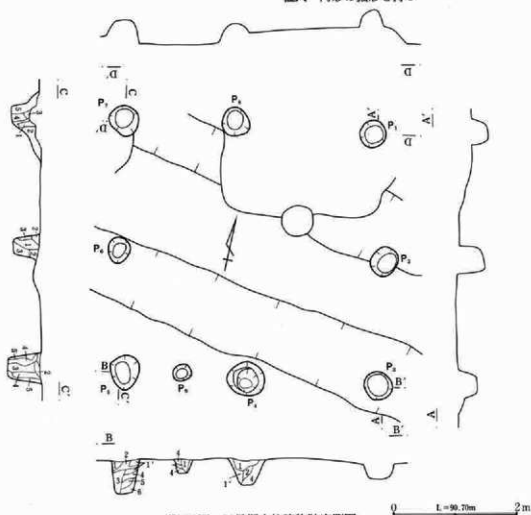
位置 4 G-H-134グリッド 方位 N-40°-W
 重複 7号溝と重複する。
 規模 2間 (3.7m) × 2間 (4.1m)
 面積 15.1㎡ 形状 長方形 総柱建物
 柱穴 円形の掘形を持つ。覆土中にはAs-Bを多量に含む

20号掘立柱建物跡 (写真図版227)

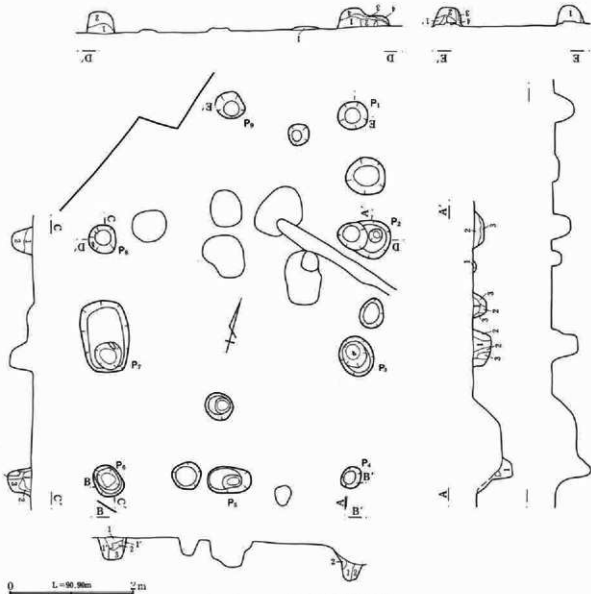
位置 4 C・D-124グリッド 方位 N-5°-E
 重複 無し
 規模 2間 (2.5m) × 2間 (2.6m)
 面積 6.5㎡ 形状 方形 総柱の掘立柱建物跡
 柱穴 円形の掘形を持つ
 備考 柱穴内に窪む部分が見られ、柱の当たっていた部分と考えられる。

21号掘立柱建物跡 (写真図版227)

位置 4 C-128グリッド 方位 N-70°-E
 重複 4・5号溝に切られ、6号住居を切っている。
 規模 2間 (4m) × 2間 (4.2m)
 面積 16.8㎡ 形状 方形
 柱穴 円形の掘形を持つ



第719図 21号掘立柱建物跡実測図



第720図 22号掘立柱建物跡実測図

21号掘立

- 1 暗褐色土 黄褐色土粒・焼土粒を含む。
- 1' 暗褐色土 黄褐色土粒・焼土粒を僅かに含む。
- 2 暗褐色土 黄褐色土小塊を含む。
- 3 暗褐色土 黄褐色土粒・焼土粒を含む。
- 4 暗黄褐色土 焼土・炭を含む。
- 5 暗褐色土 黄褐色土を含む。
- 6 褐色土 黄褐色土を多く含む。

22号掘立

- 1 暗褐色土 上面に礫石を含む。黄褐色土粒を含む。
- 1' 暗褐色土 黄褐色土を僅かに含む。
- 2 暗褐色土 黄褐色土粒を含む。
- 3 暗褐色土 黄褐色土塊を含む。
- 4 暗褐色土 黄褐色土を僅かに含む。
- 5 暗黄褐色土

22号掘立柱建物跡 (写真図版231)

位置 4 F・G-126~128グリッド

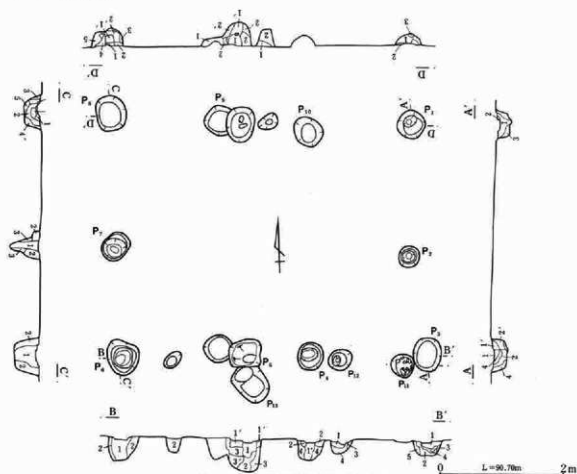
方位 N-16'-W

重複 土坑が絡む

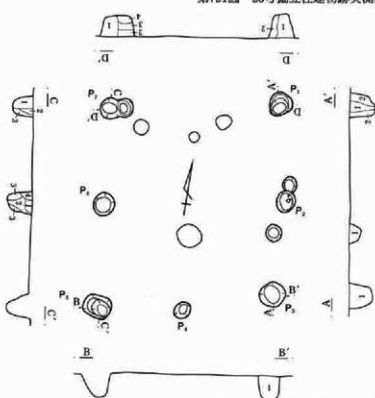
規模 2間 (3.8m) × 3間 (5.8m)

面積 22m² 形状 長方形

柱穴 円形の掘形を持つ



第721図 23号掘立柱建物跡実測図



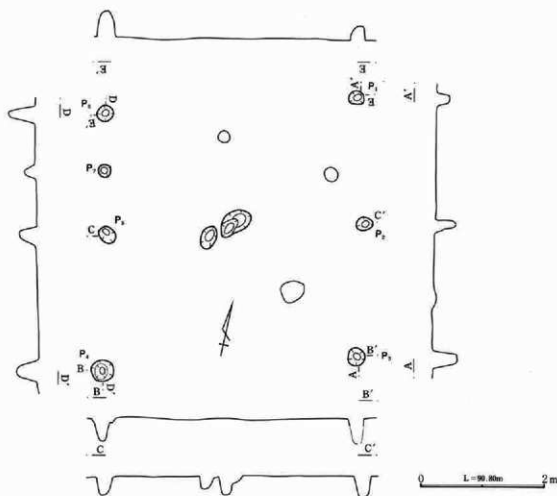
第722図 26号掘立柱建物跡実測図

23号掘立

- 1 暗褐色土 As-B・黄土粒を含む。
- 1' 暗褐色土 As-B・黄土粒を僅かに含む。
- 2 暗褐色土 黄土粒小塊有り。
- 2' 暗褐色土 黄土粒小塊僅かに有り。
- 3 茶褐色粘質土
- 4 暗黄土色土 黄土粒小塊を含む。
- 4' 暗黄土色土 黄土粒小塊を多量に含む。
- 5 茶褐色土 黄土色粘土粒小塊含む。

26号掘立

- 1 暗褐色土 軽石・黄土粒・焼土粒を僅かに含む。
- 2 褐色土 黄土粒塊を多量に含む。
- 3 暗褐色土 黄土粒を僅かに含む。
- 4 暗褐色土 黄土粒小塊を混じる。



第723図 27号掘立柱建物跡実測図

23号掘立柱建物跡 (写真図版231)

位置 4 D・E-125・126グリッド

方位 N-90°-E

重複 小ビットが絡む

規模 2間 (3.8m) × 3間 (4.8m)

面積 18.2m² 形状 長方形

柱穴 円形の掘形を持つ。桁の中1間は柱間が狭い。

27号掘立柱建物跡

位置 3 L・M-94・95グリッド

方位 N-71°-E

重複 無し

規模 2間 (4.1m) × 1間 (4.1m)

面積 4.5m² 形状 方形

柱穴 円形の掘形を持つ。

26号掘立柱建物跡 (写真図版227)

位置 4 E-127グリッド 方位 N-10°-E

重複 無し

規模 2間 (2.8m) × 2間 (3.2m)

面積 8.9m² 形状 僅かに菱形を呈する

柱穴 円形の掘形を持つ。北辺の柱間は1間、東辺の柱間は南に寄って建てられている。

28号掘立柱建物跡 (写真図版227)

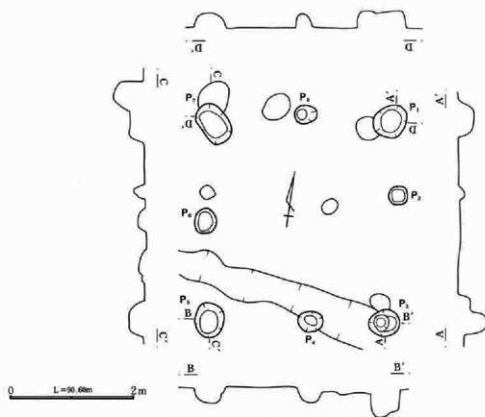
位置 4 D-126・127グリッド 方位 N-8°-W

重複 23号掘立柱建物と接する。また、12号溝に切られている。

規模 2間 (3.0m) × 2間 (3.2m)

面積 9.6m² 形状 方形

柱穴 円形または楕円形の掘形を持つ



第724図 28号掘立柱建物跡実測図



第725図 掘立柱建物跡出土遺物実測図

掘立柱建物出土遺物観察表

番号	器 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
1	土師器 環	4号掘立	16.3 - - 底部欠損	1. によい褐色 2. 砂粒含む 3. 酸化焙 良籽	口縁部横断で、胴部、底部手持ち貫用り。

中大塚遺跡I区掘立柱建物跡柱穴規模計測表

	柱穴	長径	短径	深さ	柱穴	長径	短径	深さ	柱穴	長径	短径	深さ	柱穴	長径	短径	深さ
1号掘立柱建物跡	1	50	40	36	2	50		48	3	40		39	4	45	30	70
	5	30		30	6	40		40	7	50	40	24	8	25		42
2号掘立柱建物跡	1	40		18	2	55		33	3	50		33	4	45		34
	1	60		33	2	70	60	46	3	50		33	4	40		41
3号掘立柱建物跡	5	70	60	46	6	70	60	41	7	60		26	8	55	50	40
	9	55		38	10	90	45	60								
	1	65	50	42	2	70	48	17	3	40		30	4	60	40	35
4号掘立柱建物跡	5	35		25	6	70	60	40	7	55	40	40	8	70	60	48
	9	50		34												
	1	40	35	24	2	60	45	17	3	35		25	4	25		10
5号掘立柱建物跡	5	30		30	6	25		14	7	30		30	8	30		28
	1	35		23	2	35		25	3	40	35	20	4	40		30
6号掘立柱建物跡	5	40	30	17	6	50	40	24	7	40		11	8	30		21
	9	40		27	10	36		30								
	1	45	35	27	2	55	40	30	3	60	55	20	4	30		24
5号掘立柱建物跡	5	50	40	30												
	1	22		17	2	25		33	3	30		35	4	32		31
6号掘立柱建物跡	6	30		27	7	30		38	8	50	40	24	9	30		24
	1	30		18	2	25		15	3	30		13	4	25		30
9号掘立柱建物跡	1	35		42	2	60	45	58	3	45		52	4	40		56
	5	40		40	6	45		38	7	45	40	50	8	40		34
11号掘立柱建物跡	1	45		23	2	45		18	3	55		18				
	1	60	55	17	2	50	43	35	3	65		46	4	65		40
12号・17号掘立柱建物跡	5	70	60	55	6	55	44	7	90	65	54	8	50		40	38
	9	43		50	10	35		53	11	45		45	12	50		50
	13	46		46	14	80	60	50	15	78	60	42				
13号掘立柱建物跡	1	25		20	2	20		26	3	20		18	4	23		20
	5	23		10	6	20		21	7	20		20				
	1	50	25	20	2	30		20	3	30		28	4	30	20	8
15号掘立柱建物跡	1	25		14	2	30		14	3	25		15	4	20		20
	5	20		17	6	20		30	7	20		38	8	30		23
16号掘立柱建物跡	9	30	20	39												
	1	25		22	2	50		24	3	34		30	4	28		28
	5	28		30	6	35		35	7	40		26	8	40		31
20号掘立柱建物跡	1	34		27	2	30		12	3	40		43	4	36		38
	5	30		38	6	38		26	7	34		40	8	36		37
	9	38		25												
21号掘立柱建物跡	1	40		53	2	46	40	44	3	45		33	4	54		40
	5	50		53	6	40		44	7	45		46	8	45		36
	1	44		27	2	40		31	3	60	52	45	4	34		55
22号掘立柱建物跡	5	70	40	43	6	50	42	38	7	40		37	8	48		34
	9	40		38												
	1	40		24	2	32		36	3	34		30	4	44		32
23号掘立柱建物跡	5	40		32	6	60	48	39	7	45	40	48	8	56	50	26
	9	48		12	10	50	45	28	11	50	44	36	12	40		19
	13	50	44	49												
26号掘立柱建物跡	1	36		42	2	33	30	25	3	42		36	4	24		15
	5	42	36	42	6	36		42	7	30		30				
	1	21		21	2	21		30	3	24		36	4	36		36
27号掘立柱建物跡	5	24	16	30	6	27		42	7	18		18				
	1	48		24	2	30		10	3	42		48	4	42	30	24
28号掘立柱建物跡	5	54	48	24	6	36		12	7	66	42	24	8	36	30	24

4 土 坑

56号土坑 (写真図版231)

位置 4 G-132グリッド **方位** N-30°-W
規模 長辺1.45m、短辺1.05m、深さ0.3m
重複 無し **形状** 隅丸長方形気味で、西壁に張り出し部をもつ。張り出し部は堅穴住居電の状態に似ており、この部分にのみ焼土・炭等が見られ壁面が焼けている。しかし、他の土坑部分の壁面は全く焼けていない。土坑部分の底面はレンズ状を呈する。
遺物 土師器小破片出土

71号土坑 (写真図版232)

位置 4 H-132グリッド **方位** N-60°-E
規模 長辺0.2m、短辺1.2m、深さ0.23m
重複 無し **形状** 楕円形 **遺物** 無し
備考 土坑部分と東壁に電状施設をもつ。底面は丸底を呈し、黄褐色の地山粘土塊を入れならしている。電状施設以外は焼けが見られない。電状施設の規模は、幅70cm、奥行40cm壁は垂直に立ち上がり、天井部があり、先端部に炭の堆積が見られる。

117号土坑 (写真図版232)

位置 3 Z-124グリッド **方位** N-70°-E
規模 長辺1.85m、短辺0.9m、深さ0.12m
重複 無し **形状** 楕円形
遺物 土師器環小破片出土
備考 東壁部分に電状の張り出し部を持つ。張り出し内は焼土塊や炭化物の堆積見られ、天井部僅かに残る。炭化物は出口部分に集中して出土している。土坑部分の底面はフラットに掘られている。

112号土坑 (写真図版233)

位置 4 C-127グリッド **方位** N-8°-W
規模 長辺1.65m、短辺0.7m、深さ0.31m
重複 5号住居を切る **形状** 長方形
遺物 無し
備考 覆土中に焼土、炭を多量に含み、底面に炭化

物、灰、焼土の広がり見られる。壁面は赤茶色に焼土化している。底面部分的に青灰色に変色部分見られる。

113号土坑 (写真図版233)

位置 4 C-126グリッド **方位** N-8°-W
規模 長辺1.6m、短辺1.0m、深さ0.53m
重複 無し **形状** 長方形 **遺物** 無し
備考 覆土中に焼土、炭が多量に含み、底面に焼土・炭化物、灰の広がり見られる。壁面は赤茶色に焼土化している。東壁中央部上端から中位にかけて30×30cmのU字形の掘り込み部分見られる。

119号土坑 (写真図版233)

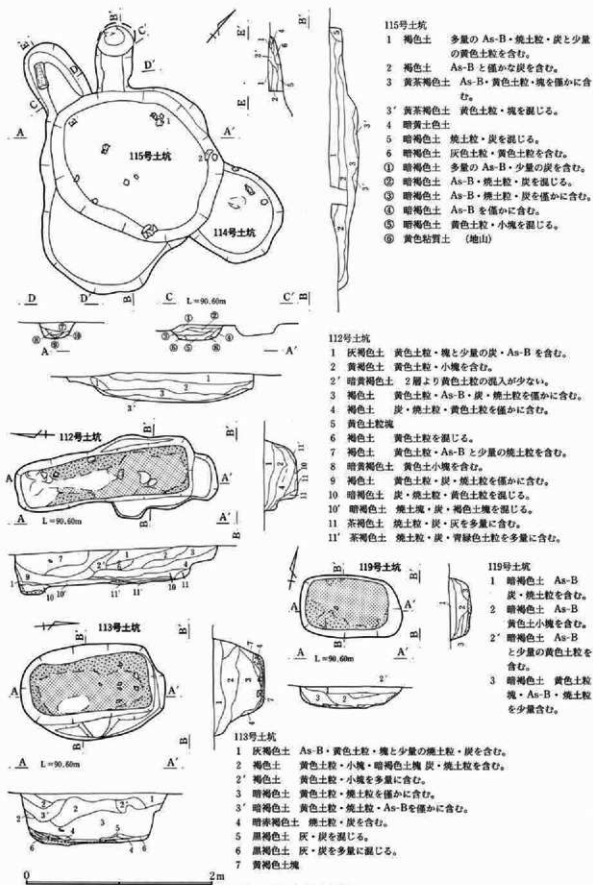
位置 4 C-125グリッド **方位** N-80°-E
規模 長辺1.1m、短辺0.7m、深さ0.16m
重複 無し **形状** 長方形 **遺物** 無し
備考 炭・焼土含み、底面に木炭広がる。壁面は焼けて、僅かに赤茶色に変色見られる。

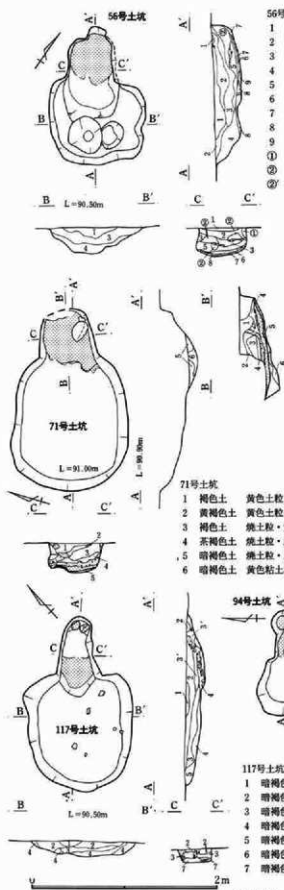
114号土坑 (写真図版240)

位置 4 D-127グリッド
規模 長辺1.0m、深さ0.13m
重複 115号土坑に切られる。 **形状** 円形
遺物 土師器環出土。炭化物見られる。

115号土坑 (写真図版232・251・252)

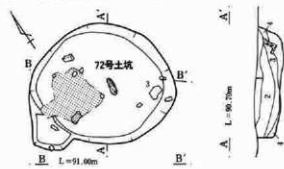
位置 4 D-127グリッド **方位** N-75°-E
規模 長辺2.85m、短辺1.45m、深さ0.12m
重複 114号土坑を切り、12号溝に切られる。
形状 円形を呈するが、西壁部分に電状の張り出し部分が見られ、焼土・炭が出土し壁面も多少焼土化している。
遺物 土師器環出土





56号土坑

- 1 暗褐色土 黄褐色土塊・灰・少量の白色軽石を含む。
- 2 暗褐色土 黄褐色土塊・少量の灰・焼土粒・白色軽石を含む。
- 3 暗褐色土 焼土粒・灰を僅かに含む。
- 4 黄褐色土 黄褐色土塊と暗褐色土の混土。
- 5 黒褐色土 焼土粒・少量の灰を含む。
- 6 灰褐色土 灰と多量の焼土粒を含む。
- 7 黒褐色土 焼土粒・多量の灰を含む。
- 8 黄褐色土と黄褐色土の混土。
- 9 黄褐色土 (地山)
- ① 暗褐色土 黄褐色土塊を混に含む。
- ② 茶褐色土 流入物の少ない良く締まった土。(天井の崩落土)
- ③ 暗褐色土 ②層が良く焼き締まった土層。



72号土坑

- 1 灰褐色土 黄色土塊を主体とする。軽石を含む。
- 2 暗褐色土 黄色土粒・塊・少量の灰・焼土粒を僅かに含む。
- 3 暗褐色土 黄色土粒・灰・焼土粒を含む。
- 4 褐色土 黄色土粒・灰・焼土粒を僅かに含む。

71号土坑

- 1 褐色土 黄色土粒・白色軽石を僅かに含む。
- 2 黄褐色土 黄色土粒を混じる。
- 3 褐色土 焼土粒・黄褐色土粒を僅かに含む。
- 4 茶褐色土 焼土粒・灰を含む。
- 5 暗褐色土 焼土粒・灰を含む。
- 6 暗褐色土 黄色粘土塊を含む。

94号土坑

- 1 暗褐色土 灰・As-Bを僅かに含む。
- 2 暗褐色土 灰・焼土粒・黄色粘土塊を斑状に含む。
- 3 暗褐色土 黄色粘土塊を含む。
- 4 暗褐色土 多量の焼土塊を斑状に含む。
- 5 暗褐色土 灰・少量の焼土塊を含む。

117号土坑

- 1 暗褐色土 黄色土粒・小塊を含む。
- 2 暗褐色土 As-B・黄色土粒を含む。
- 3 暗褐色土 As-B・黄色土粒・小塊を含む。
- 4 暗褐色土 黄色土粒・小塊・少量の軽石を含む。
- 5 暗褐色土 As-B・黄色土粒を僅かに含む。
- 6 暗褐色土 灰・焼土粒を含む。
- 7 暗褐色土 灰・焼土粒を多量に含む。

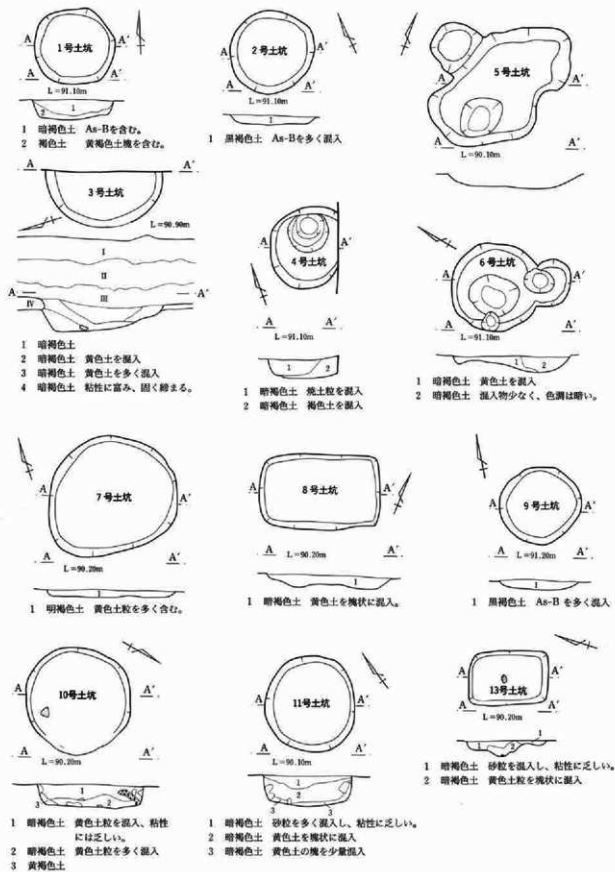
第727図 土坑実測図

中大塚遺跡1区土坑表

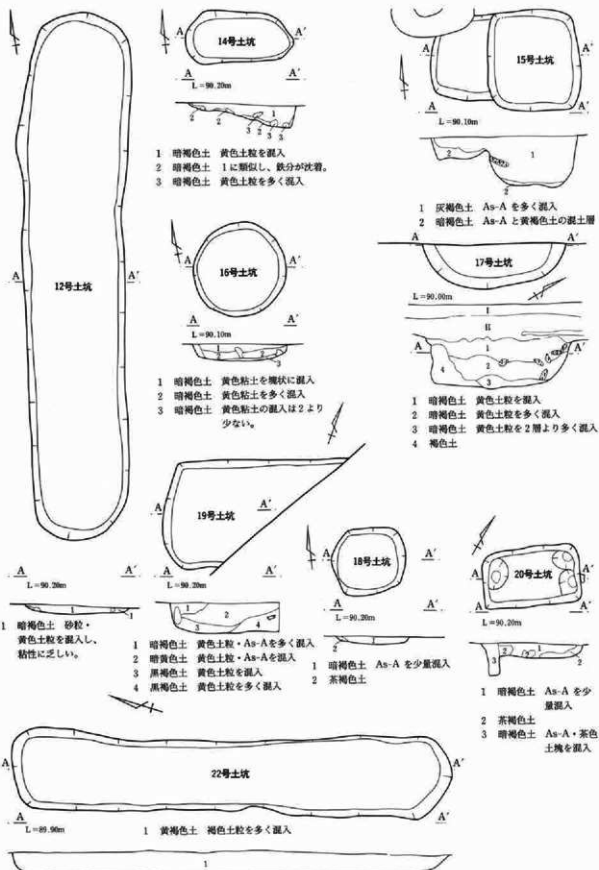
遺構名	位置	方位	規模			形状	備考
			長さ	短辺	深さ		
1号土坑	3 L-144		0.90m		0.23m	円形	
2号土坑	4 L-145		0.90m		0.07m	円形	
3号土坑	4 I-141	不明	1.20m		0.22m	半円形	水路に切られる。中に小ピット見られる
4号土坑	4 J-144		0.90m		0.17m	円形	路線外に伸びる。小礫出土。
5号土坑	4 M-141	N-33°-E	1.70m	0.80m	0.17m	楕円形	小ピットが重複する。
6号土坑	4 M-142	N-30°-E	1.25m	0.90m	0.08m	楕円形	小ピットが重複する。
7号土坑	4 M-144	N-69°-E	1.40m	1.20m	0.10m	楕円形	
8号土坑	3 M-144	N-60°-E	1.25m	0.80m	0.08m	長方形	
9号土坑	3 M-145		0.90m		0.08m	円形	
10号土坑	3 T-103		1.19m		0.20m	円形	
11号土坑	3 U-105	N-60°-E	1.05m	0.88m	0.26m	楕円形	
12号土坑	3 V-106	N-6°-E	5.50m	1.00m	0.10m	溝状を呈する	
13号土坑	3 V-106	N-20°-W	0.83m	0.54m	0.10m	長方形、箱形	
14号土坑	3 W-100	N-86°-W	1.16m	0.50m	0.10m	長方形	
15号土坑	3 W-108	N-83°-W	1.60m	0.94m	0.49m	長方形	
16号土坑	3 V-106		1.04m		0.15m	円形。	壁面中央部が外に張る
17号土坑	3 W-107		1.40m		0.30m	半円形	路線外に伸びる。
18号土坑	3 S-108	N-86°-W	0.78m	0.72m	0.75m	楕円形	
19号土坑	3 R-107	N-65°-E	1.05m	0.34m	0.15m	長方形・箱形	路線外に伸びる。土師器灰磔片、片石礫出土。
20号土坑	3 R-107	N-55°-E	1.06m	0.60m	0.11m	長方形	
22号土坑	3 R-101	N-22°-W	4.90m	0.90m	0.30m	溝状を呈する	3号溝に切られる。
23号土坑	3 R-101	N-19°-W	4.90m	0.90m	0.30m	溝状を呈する	3号溝に切られる。
24号土坑	3 R-101	N-60°-W	1.70m	1.10m	0.20m	溝状を呈する	As-Aを竊込んだ溝状遺構に切られる。
25号土坑	3 R-103	N-66°-W	1.22m	1.00m	0.18m	楕円形	As-Aを竊込んだ溝状遺構に切られる。礫出土。
26号土坑	3 R-102		1.05m		0.36m	円形	As-Aを竊込んだ溝状遺構に切られる。
27号土坑	3 R-104	N-35°-E	0.86m	0.76m	0.16m	楕円形	
28号土坑	2 T-107		0.75m		0.35m	円形	As-Aを竊込んだ溝状遺構に切られる。
31号土坑	3 R-106	N-5°-W	1.40m	0.70m	0.10m	隅丸方形	
32号土坑	3 U-107		0.65m		0.24m	円形	
33号土坑	3 T-107		1.10m		0.50m	円形	
34号土坑	3 R-105		0.86m		0.17m	円形	
35号土坑	2 S-105	N-90°-E	0.68m	0.50m	0.08m	楕円形	
36号土坑	3 T-106	N-30°-W	0.72m	0.62m	0.21m	隅丸方形	2号竈穴状遺構と接する。
37号土坑	3 U-106	N-15°-W	2.00m	1.20m	0.17m	長方形	小ピットと重複する。
38号土坑	3 U-107	N-74°-E	3.20m	1.30m	0.32m	長方形	小ピット、As-Aを竊込んだ溝状遺構に切られる
39号土坑	3 U-107	N-36°-E	0.94m	0.68m	0.15m	楕円形	As-Aを竊込んだ溝状遺構に切られる。
48号土坑	4 L-137		1.25m		0.09m	円形	As-Bを含む溝状遺構に切られる。壁面中央部が張る
49号土坑	4 L-135		0.72m		0.15m	円形	路線外に伸びる。
50号土坑	4 K-134	N-45°-E	1.00m	0.75m	0.18m	楕円形	
51号土坑	4 K-134		1.35m		0.17m	円形	小石出土。
52号土坑	4 K-134		0.90m		0.12m	円形	
53号土坑	4 J-135	N-40°-W	0.90m	0.70m	0.70m	楕円形	
54号土坑	4 J-135	N-77°-W	0.50m	0.40m	0.56m	小楕円形	
55号土坑	4 M-129	N-15°-E	1.40m	1.10m	0.20m	楕円形	44号土坑を切る。覆土中にAs-Bを含む。
57号土坑	4 H-132	N-30°-E	2.05m	1.10m	0.13m	長方形・箱形	覆土中にAs-Bを含む。
58号土坑	4 F-127		1.30m		0.20m	円形	
60号土坑	3 S-106		0.60m		0.68m	円形	5号竈穴状遺構を切っている。
61号土坑	3 J-105		0.76m		0.07m	円形	3号竈穴状遺構を切る。
62号土坑	3 J-105	N-15°-W	不明	0.86m	0.07m	楕円形	小ピットと重複する。
63号土坑	3 J-105		0.70m		0.71m	円形	
64号土坑	3 J-105		0.62m		0.10m	円形	
73号土坑	4 E-131		1.00m		0.20m	円形	7号溝と切り合う。
74号土坑	4 F-131		1.90m		0.27m	円形	75号土坑と重複する。壁面には中段を有する。
75号土坑	4 F-131		1.30m		0.26m	円形	74号土坑と重複する。土師器溝口縁部出土。中央部に中島のような黄褐色土の掘り残しあり
77号土坑	4 G-135	N-52°-W	2.40m	0.40m	0.08m	溝状を呈する	
78号土坑	4 I-131		0.50m		0.13m	円形	
79号土坑	4 J-132		1.00m		0.14m	円形	
80号土坑	4 J-132	N-70°-E	1.60m	0.90m	0.28m	隅丸長方形	13号掘立柱建物内にある。土師器・須恵器灰磔片出土
81号土坑	4 J-132	N-72°-E	1.60m	0.90m	0.18m	隅丸長方形	81号土坑を切る。土師器・須恵器灰磔片出土。
83号土坑	4 F-130	N-18°-W	0.90m	0.50m	0.09m	長方形	80号土坑に切られる。土師器灰磔片出土。
84号土坑	4 F-130	N-75°-W	1.35m	1.10m	0.12m	隅丸長方形	4号掘立柱建物の柱穴5と重複する。

第IV章 中大塚遺跡

遺構名	位置	方位	規 模			形 状	備 考
			長辺	短辺	深さ		
86号土坑	4 F-131	N-30'-E	1.00m	0.70m	0.24m	楕円形	6・19号独立建物内にあり、小ピットと重複する。土師器片出土。
86号土坑	4 F-129		0.60m		0.11m	円形	4号独立建物内にある。
87号土坑	4 E-129		1.90m		0.18m	円形	88号土坑を切る。
88号土坑	3 E-129		1.00m		0.13m	円形	87号土坑に切られる。
89号土坑	4 H-129	N-63'-E	1.40m	1.05m	0.23m	長方形	土師器片出土。
90号土坑	4 E-128	N-20'-W	1.70m	1.30m	0.25m	楕円形	5号溝に切られる。小ピット・3号独立建物と重複する。
91号土坑	4 D-127	N-31'-W	1.10m	1.00m	0.14m	楕円形	6号住居に切られ、21号独立建物内にある。土師器片出土
92号土坑	4 F-129	N-80'-W	0.85m	0.70m	0.13m	長方形	4号独立建物内
95号土坑	4 A-119	N-60'-W	0.90m	0.64m	0.16m	長円形	
96号土坑	2 Z-116		1.20m		0.12m	方形	
97号土坑	3 Y-116		0.96m		0.07m	円形	
98号土坑	3 W-116		0.80m		0.06m	円形	
99号土坑	3 X-113	N-32'-E	2.00m	1.45m	0.27m	長方形・箱形	
101号土坑	4 F-129		1.90m		0.18m	円形	3号住居の煙道部を切り、102・103号土坑と重複。
102号土坑	4 F-129	N-37'-W	1.40m	1.20m	0.20m	楕円形	101・103号土坑と重複する。
103号土坑	4 F-128	N-8'-W	2.10m	1.70m	0.11m	楕円形	4号溝に切られ、102号土坑と重複する。
104号土坑	4 F-128		1.55m		0.14m	円形	101-108号土坑と重複する。
105号土坑	3 V-110	N-34'-E	1.36m	1.30m	0.20m	長方形・箱形	
106号土坑	4 F-128	N-37'-W	1.60m	1.50m	0.26m	楕円形	3号住居を切る。101号土坑と重複する。
107号土坑	4 C-122		1.04m		0.30m	円形	
108号土坑	4 B-125		0.60m		0.16m	円形	
109号土坑	4 B-125		0.60m		0.12m	円形	
110号土坑	4 A-124		0.50m		0.13m	円形	
111号土坑	3 Z-125		0.84m		0.26m	円形	116号土坑に接する。土師器小破片、小石出土。
114号土坑	4 D-127		1.00m		0.13m	円形	115号土坑に切られる。土師器片出土。炭化物有り。
116号土坑	3 Z-125		0.60m		0.24m	円形	路線外に伸びる。土師器片出土。
118号土坑	4 B-126	N-48'-E	0.75m	0.50m	0.16m	長方形	土師器窯口縁部破片出土。焼土粒子僅かに見られる。
120号土坑	4 H-128		0.70m		0.10m	円形	
121号土坑	4 H-129		0.85m		0.12m	円形	
122号土坑	4 I-129	N-36'-E	0.85m		0.15m	半円形	路線外に伸びる。
123号土坑	4 G-127		0.95m		0.15m	円形	
124号土坑	4 G-127		0.60m		0.08m	円形	22号独立建物と重複する。
125号土坑	4 G-127	N-10'-E	0.80m	0.70m	0.11m	楕円形	22号独立建物内。土師器小破片出土。
126号土坑	4 G-127	N-25'-W	0.60m	0.50m	0.12m	楕円形	22号独立建物内。須恵製瓦片出土。
127号土坑	4 G-127	N-22'-W	0.85m	0.55m	0.13m	長円形	22号独立建物内。
128号土坑	4 G-127		0.60m		0.13m	円形	22号独立建物内。
129号土坑	4 G-127	N-86'-W	0.80m	0.65m	0.06m	楕円形	22号独立建物内。
130号土坑	4 C-127	N-80'-E	1.30m	1.20m	0.11m	方形	中央部円形の掘り込みが見られる。焼土塊を含む土師器片出土。
131号土坑	4 E-127		0.80m		0.18m	円形	
132号土坑	3 L-96		1.30m		0.26m	円形	
133号土坑	3 L-96		1.00m		0.14m	円形	断面中央部が外に張り。覆土中にAs-Bを多含。
134号土坑	3 M-93	N-53'-W	1.60m	0.95m	0.08m	隅丸長方形	
135号土坑	3 K-95		1.05m		0.27m	円形	
136号土坑	3 M-93	N-24'-E	2.63m	1.34m	0.28m	楕円形	
137号土坑	3 K-93	N-27'-W	4.80m	0.88m	0.29m	隅丸長方形	
138号土坑	3 J-91	N-30'-W	4.20m	0.70m	0.14m	隅丸長方形	
139号土坑	3 K-92	N-70'-W	1.50m	0.53m	0.09m	隅丸長方形	
140号土坑	3 L-93	N-11'-E	1.82m	0.60m	0.06m	長楕円形	
141号土坑	3 K-96		0.70m		0.24m	円形	路線外に伸びる。
142号土坑	3 I-90	N-20'-W	1.72m	0.75m	0.11m	隅丸長方形	路線外に伸びる。

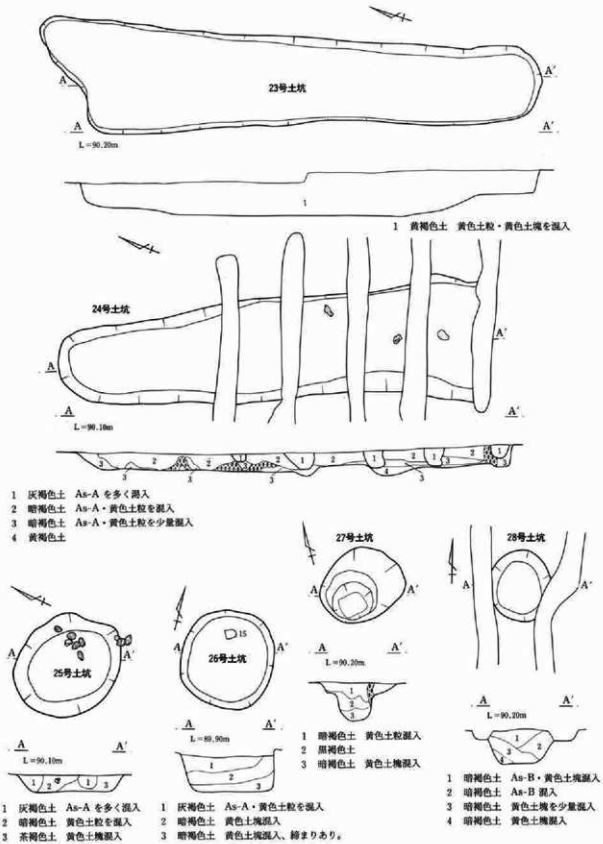


第728図 土坑実測図



第729図 土坑実測図

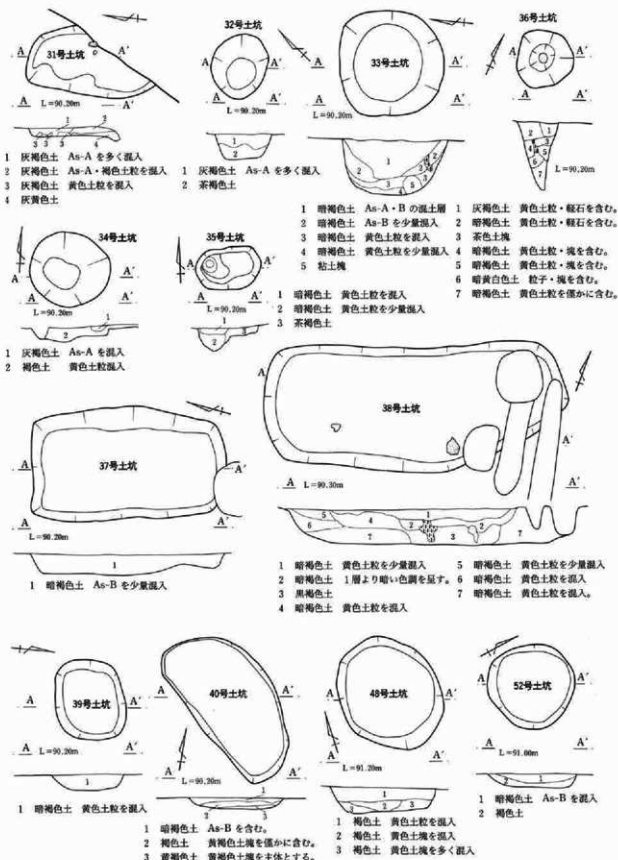
0 2m



第730図 土坑実測図

0 2m

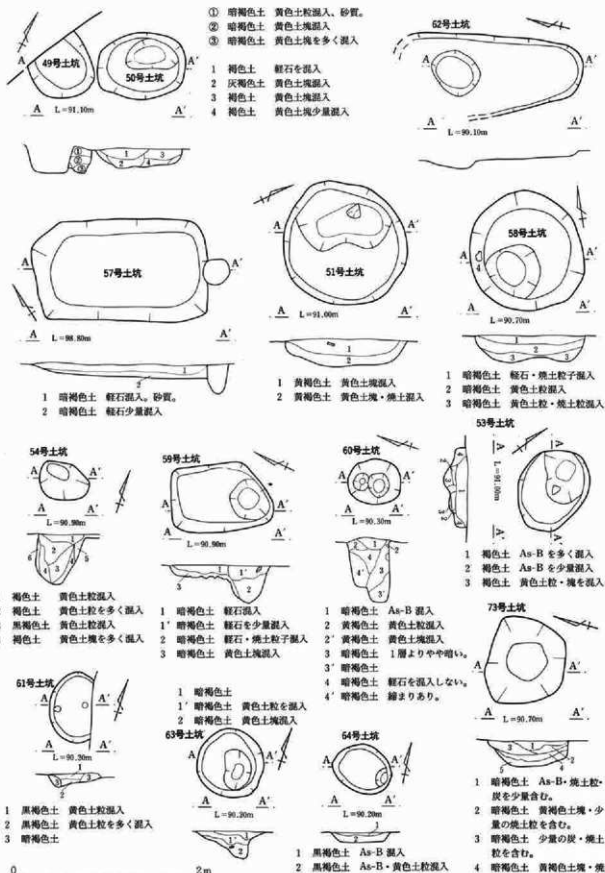
第四章 中大塚遺跡



第731図 土坑実測図

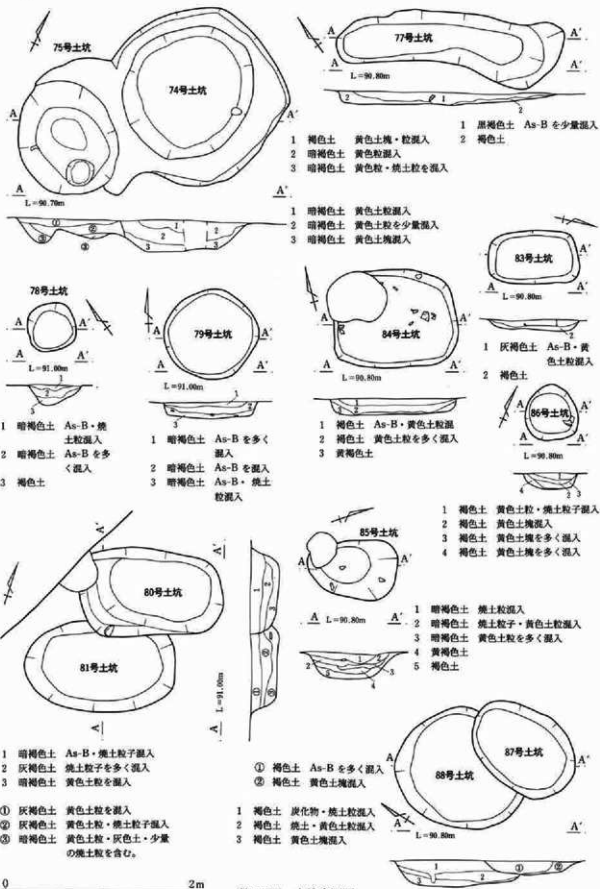
0 2m

第1節 I区検出の遺構と遺物



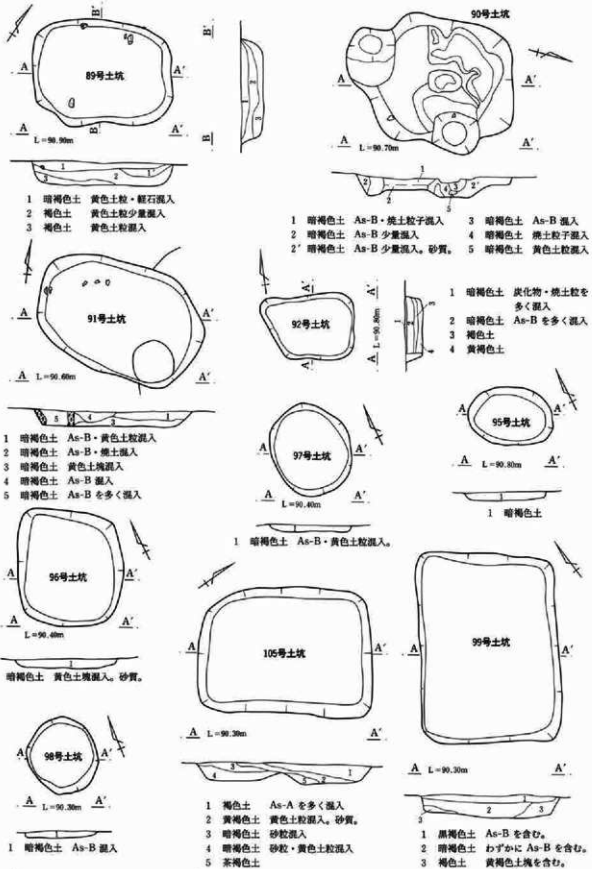
第732図 土坑実測図

第IV章 中大塚遺跡

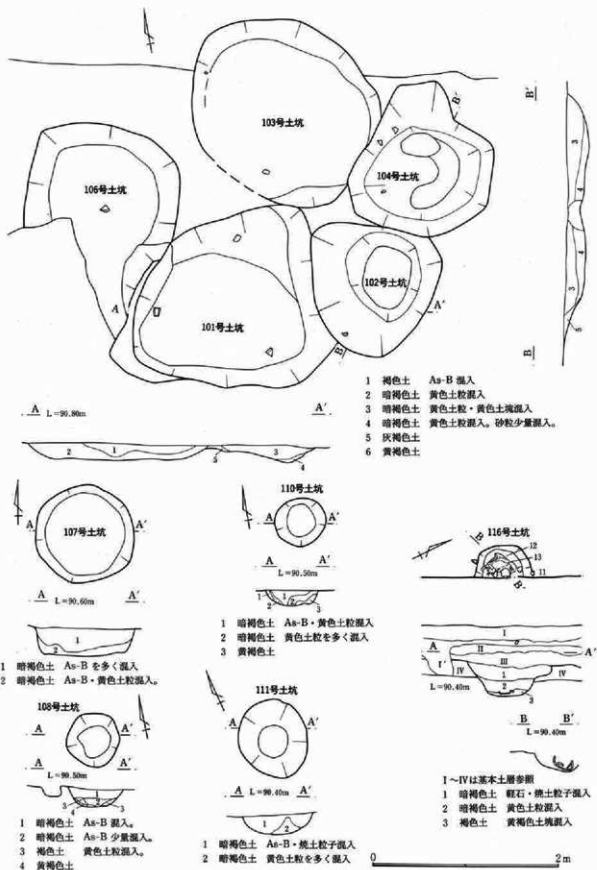


第733図 土坑裏面図

第1節 I区検出の遺構と遺物

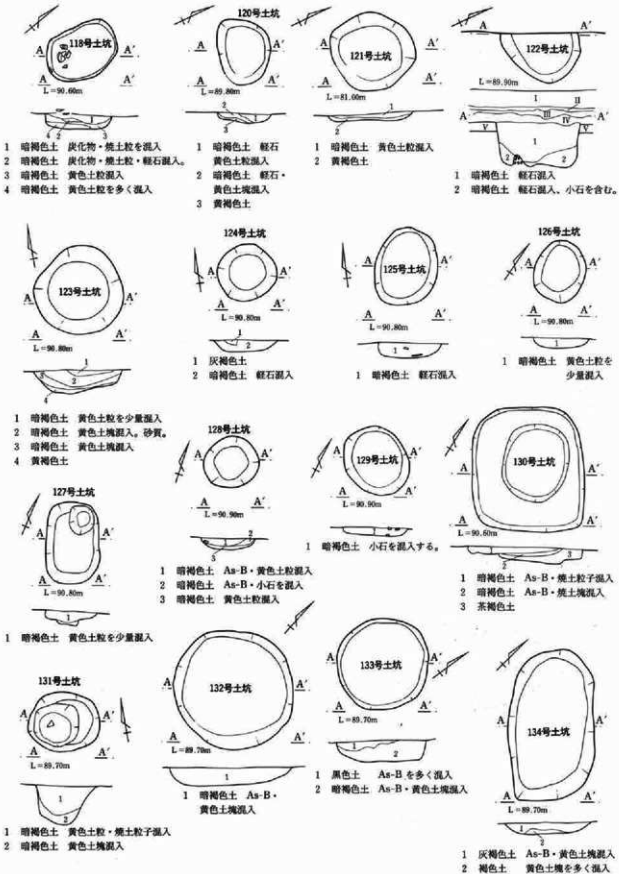


第734図 土坑実測図



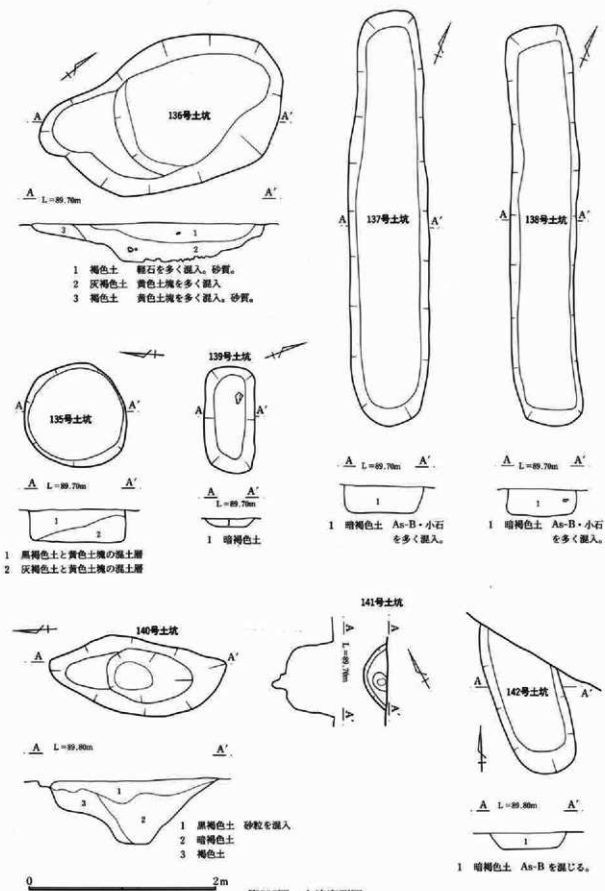
第735図 土坑実測図

第1節 I区検出の遺構と遺物



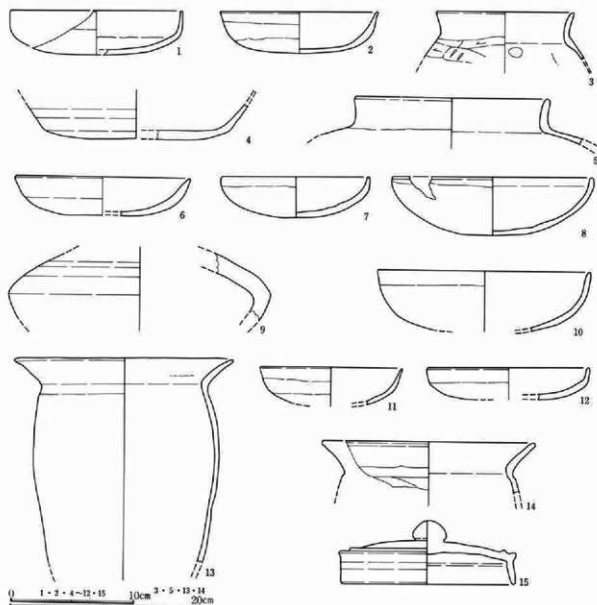
第736図 土坑実測図

0 2m



第737図 土坑実測図

第1節 I区検出の遺構と遺物



第738図 土坑出土遺物実測図

土坑出土遺物観察表

番号	器 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
1	土器 器形 碗	115土坑 +6.5	13.8 - (3.5) 灰	1. 橙色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 やや軟質	口縁部横撫で。体部指押さえ、未調整。 底部手持り荒削り。
2	土器 器形 碗	115土坑 +11	12.8 - - 灰	1. 橙色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 軟質	口縁部横撫で。体部指押さえ、未調整。 底部手持り荒削り。
3	土器 器形 甕	72号土坑 +12.5	14.6 - 5.0	1. 橙色 2. 粗砂粒含む 3. 酸化焰 やや軟質	口縁部横撫で。胴上部横、斜方向荒削り。
4	須恵器 器形 碗	58号土坑 +18	- 6.6 - 灰	1. 灰白色 2. 白色粒 小石含む 3. 還元焰 良好	輪轆整形。底部縦撫で。

第四章 中大塚遺跡

番号	器 種 器 形	出土位置 (cm)	口径・高径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整 形 ・ 調 整 の 特 徴
5	土 師 器 壺	75号土 坑+13.5	20.6 - -	1. 褐色 2. 砂 粘土粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。
6	土 師 器 坏	79号土坑 覆土	14.0 - - 3/6	1. 褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 やや軟質	口縁部横撫で。体部、底部表面摩耗。
7	土 師 器 坏	80号土坑 +5.5	11.8 - -	1. 褐色 2. 細砂、粘土粒含む 3. 酸化焰 やや軟質	口縁部横撫で。体部、底部手持り痕有り。
8	土 師 器 坏	81号土坑 覆土	15.8 - - 4.6 3/6	1. 褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 やや軟質	口縁部横撫で。体部、底部表面摩耗。
9	須 恵 器 查	106号土 坑+5	- - -	1. 灰白色 2. 細砂粒含む 3. 還元焰 硬質	肩部張り、1条沈線高る。
10	土 師 器 坏	81号土坑 覆土	17.0 - -	1. 褐色 2. 粘土粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。体部、底部表面摩耗。
11	土 師 器 坏	116号土 坑 床直	11.2 - - 3/6	1. 褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 軟質	口縁部横撫で。指折さえ、未調整。 底部手持り痕有り。
12	土 師 器 坏	116号土 坑-4	13.0 - - 3/6	1. 褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 やや軟質	口縁部横撫で。体部表面摩耗。
13	土 師 器 壺	116号土 坑-4	23.3 - -	1. 褐色 2. 砂 粘土粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。口唇部僅かに折り返し、頸部強い撫 で、弱い痕を持つ。表面摩耗。
14	土 師 器 壺	118号土 坑+17	22.7 - -	1. 褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 軟質	口縁部横撫で。口唇部折り返し。頸部強い撫で痕を 有する。
15	須 恵 器 查	126号土 坑	13.9 - 5.0 寛形	1. 灰色 2. 片岩小石含む 3. 還元焰 硬質	宝珠形構み。口縁部直立、横撫で肩部のみ出し。

5 溝

1号溝 (写真図版242)

遺跡北側に位置し、走行は南北方向N-45°傾く。確認全長24m、最大幅0.5m、高低差0.1m、僅かに東に傾く。As-Aを鋤き込んだサク状遺構に切られ、1号竪穴状遺構を切る。箱形に掘られ、覆土下層には水の流れた痕跡である細砂等のラミナ状の堆積が見られる。遺物は片岩礫等が浮いた状態で出土している。

2号溝 (写真図版242)

遺跡北側、道路状遺構南3O~3R-99~104グリッドに位置し、走行は南北方向N-30°傾く。確認全長24m、最大幅0.3~0.5m、高低差0.1m前後東に緩く傾く。As-Aを鋤き込んだサク状遺構に切られ、23号

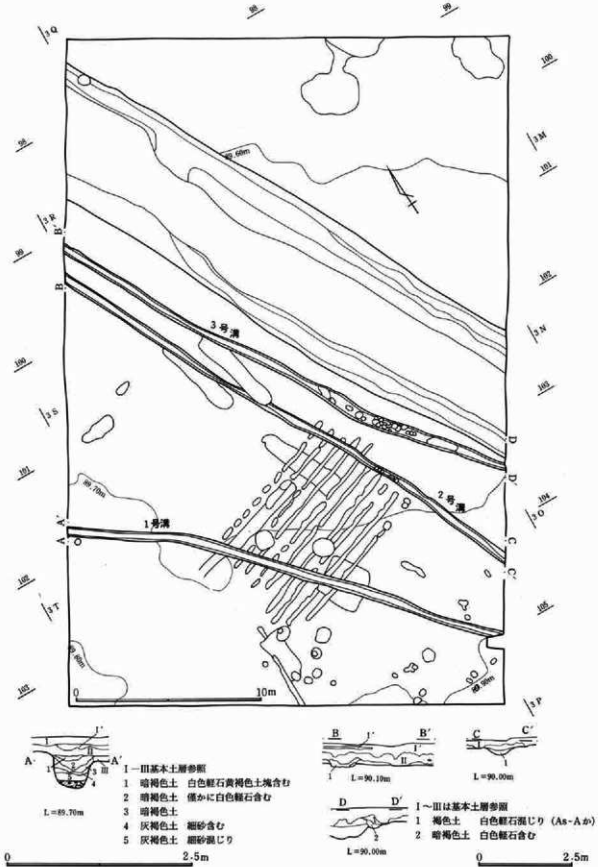
土坑と重複する。3号溝、道路遺構と走行は平行している。

3号溝 (写真図版242)

遺跡北側、3O~3R-99~103グリッドに位置し、走行は南北方向E-30°傾く。確認全長24m、最大幅0.3~0.6m、高低差10m前後で東に緩く傾く。22号土坑と重複する。

4号溝 (写真図版242・252)

遺跡中央南寄り、4B~4G-126グリッドに位置し、走行は東西方向に向く。確認全長24m、最大幅1.2m、高低差0.1mで緩く傾く。周囲は掘立柱建物跡集中部分であるため、柱穴を切っている。掘形は浅く



第739図 1～3号溝実測図

第IV章 中大塚遺跡

As-B らしき白色軽石を多量に含む。溝中央部より若年の馬歯が出土している。途中から5号溝が別れ出ている。また、12号溝と平行関係にあり、その中央部を現在の農道が通っている。

5号溝 (写真図版242)

遺跡南寄り、4B~4E-126グリッドに位置し、走行は東西方向に向く。確認全長14m、最大幅0.8m、高低差はほとんどない。6号住居、掘立柱建物、土坑等を切っている。路線内中央より、4号溝と分岐する。掘形は浅く、覆土中にはAs-Bを多く含む。

6号溝

遺跡中央南寄り、4F・4G-129・130グリッドに位置し、走行は南北方向よりN-30°傾く。確認全長11m幅0.4m、高低差は、ほとんどない。4号住居電部分切る。覆土中には、As-Bが混じる。

7号溝 (写真図版242)

遺跡中央南寄り、4E~4F-127~129グリッドに位置し、走行は東壁から始まり東西方向に向き途中よりN-40°-Eの傾きをもって南西方向に変わる。最大幅0.5m、高低差0.2m、北に向かい緩く傾いている。覆土中にはAs-Bを多く含む。6・7・19号掘立柱建物を切っている。

8号溝 (写真図版242・252)

遺跡中央部3Y~4B-118~119グリッドに位置し、走行は東西方向に向き、路線を横断する格好となる。西壁寄りには、長辺4m、短辺2m、深さ0.38m程の規模を持つ不定形の掘り込みがあり、須恵器が出土している。

9号溝

遺跡中央部3W~3Y-117・118グリッドに位置し、走行は東西方向に向く。掘り込みは浅く、覆土中にはAs-Bが含まれる。

10号溝 (写真図版243・252・253)

遺跡中央部3T~4A-113~116グリッドに位置し、東西方向にN-65°の傾きをもって路線を横断する。確認全長33m、最大幅7m、比高差0.2m前後あり、西から東に傾斜している。東よりの部分で11号溝と合流する。掘形は断面台形の掘り込みをもつ。河床面は多量の礫が混じる。また、底面にはウォーターフォールや蛇行した痕跡が認められる。遺物は、底面の標混じりの中から、土師器や須恵器の破片及び表面の摩耗した埴輪破片等が出土している。

11号溝 (写真図版242・243)

遺跡中央部3V・3Y-112~113グリッドに位置し、走行は東西方向に向く。確認全長15m、最大幅1.5m、比高差は0.2m前後であり、10号溝との合流部分では、2.5mの幅をもつ。西から東に向かい傾斜している。掘形は断面台形状を呈する。

12号溝 (写真図版242)

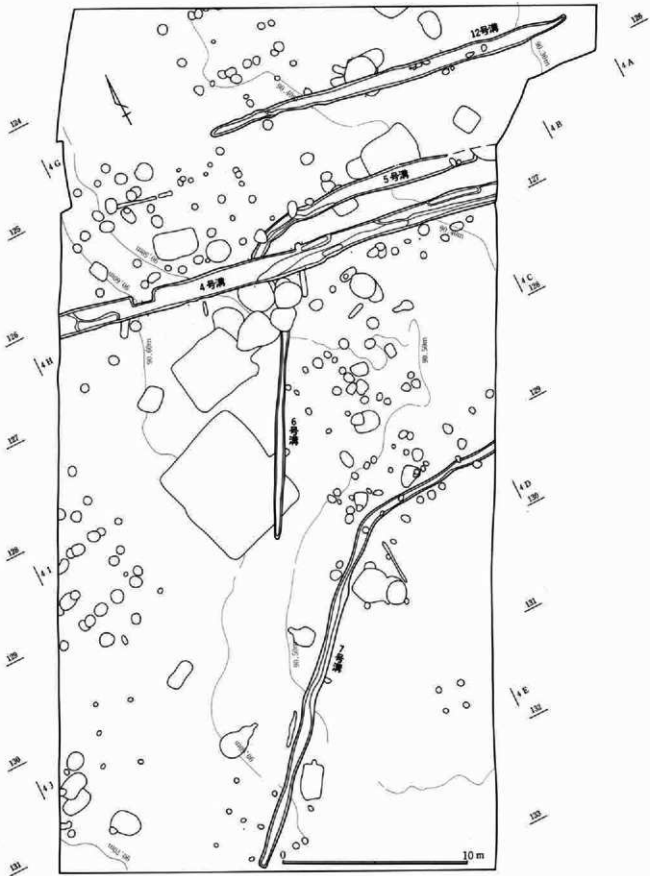
遺跡中央部南寄り4A~4E-126グリッドに位置し、走行は東西方向にN-80°の傾きをもつ。確認全長16m、最大幅0.8m前後、比高差は0.1mをはかり、僅かに東に傾斜している。114・115号土坑及び20号掘立柱建物を切っており、覆土中には、As-Bを多く含んでいる。掘形は、浅い。また、農道及び4号溝と走行を同じくしている。

13号溝

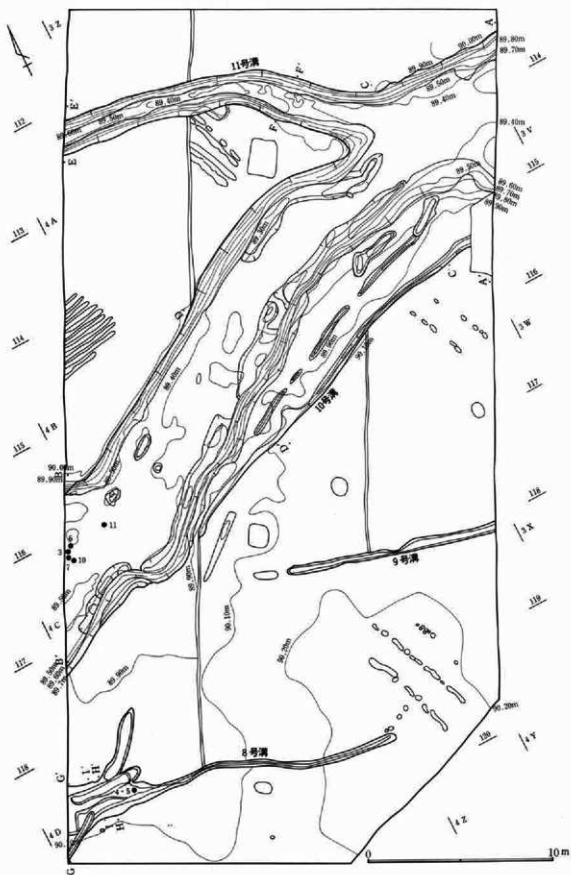
遺跡北側3M~3N-92~94グリッドに位置し、走行は南北方向より43°-E傾く。確認全長9m、幅1m、高低差は殆ど見られない。14号溝と近接する。

14号溝

遺跡北側3L~3M-91~94グリッドに位置し、走行は南北方向よりN-48°-E傾く。掘形は丸底を呈する。

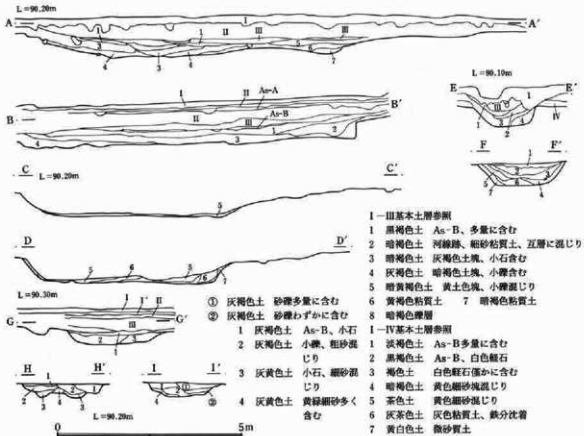


第740図 4～7・12号溝実測図

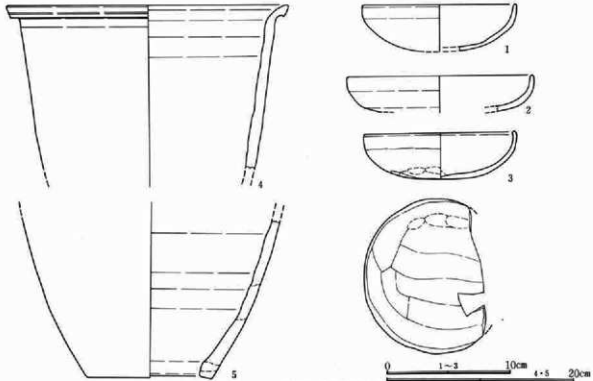


第741图 8~11号溝実測図

第1節 I区核出の遺構と遺物

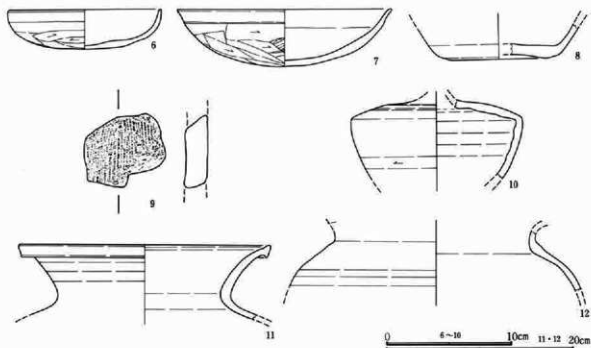


第742図 8~11号溝断面図



第743図 8~10号溝出土遺物実測図

第IV章 中大塚遺跡



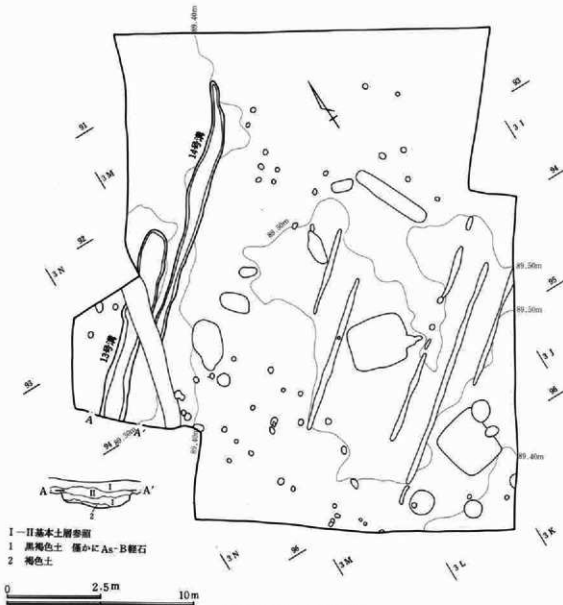
第744図 10号溝出土遺物実測図

溝出土遺物観察表

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
1	土器器 坏	4号溝	12.1 — — 口縁～底部片	1. 褐色 2. 精選 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。体部指押さえ、未調整。 底部手持ち寛削り。
2	土器器 坏	10号溝	14.7 — — 底部欠損	1. にぶい褐色 2. 精選 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。体部指押さえ、未調整。
3	土器器 坏	10号溝	11.9 — 3.6	1. にぶい褐色 2. 精選 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。口唇部内屈。沈線返る。 体部未調整。底部手持ち寛削り。
4	須恵器 甕	8号溝	30.0 — —	1. 灰白色 2. 粗砂粒含む 3. 還元焰 硬質	口縁部短く外反、端部折り返し口縁。 胴部回転撫で。
5	須恵器 甕	8号溝	— 13.4 —	1. 灰白色 2. 粗砂粒含む 3. 還元焰 硬質	胴上端部直撫で。底部直撫で。
6	土器器 坏	10号溝	12.0 — — 口縁～底部片	1. にぶい褐色 2. 精選 緻密 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。体部指押さえ、未調整。 底部手持ち寛削り。
7	土器器 甕	10号溝	17.0 — 4.5 口縁～底部片	1. 明赤褐色 2. 精選緻密 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。深い線を持つ。 体部～底部手持ち寛削り。
8	須恵器 坏	10号溝	— 8.0 —	1. 灰白色 2. 白色粒 片岩小 石含む 3. 還元焰 硬質	轆轤整形。体部下端調整。 底部回転筋切り磨し。
9	埴輪	10号溝	— — — 破片	1. 赤褐色 2. 砂 粘土粒含む 3. 酸化焰 良好	縦刷毛。5～6単位。内面指撫で。

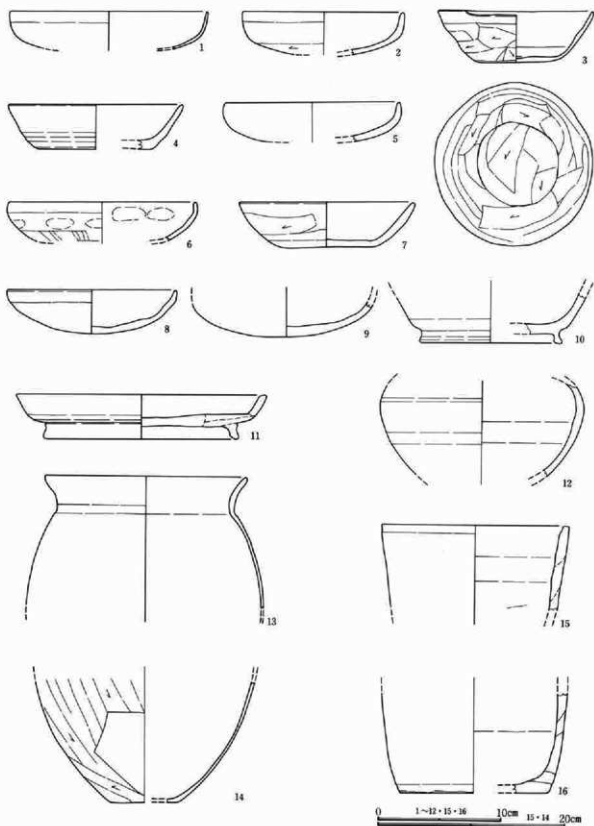
第1節 I区検出の遺構と遺物

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
10	須志器 兵須壺	10号溝	- - -	1. 灰白色 2. 白色粒含む 3. 還元焰 硬質	胴部屈曲、2条の辻線巡る。
11	須志器 壺	10号溝	26.7 - - 口径片	1. によい褐色 2. 白色粒含む 3. 還元焰 硬質	口縁部折り返し。
12	須志器 壺	10号溝	- - - 頸部片	1. 灰白色 2. 白色粒含む 3. 還元焰 硬質	頸部無で。胴部球形。



第745図 13・14号溝実測図

6 遺構外出土遺物

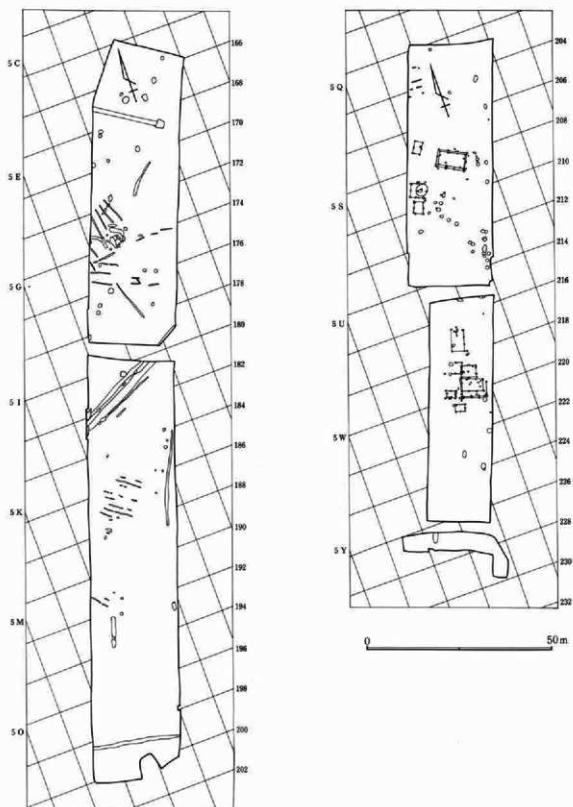


第746図 遺構外出土遺物実測図

遺構外出土遺物観察表

番号	器 種 器 形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 装成	整形・調整の特徴
1	土師器 環	4 I-131 G	15.5 - -	1. 明褐色 2. 砂 粘土粒含む 3. 酸化焰 軟質	口縁部横撫で。体部、底部表面摩耗。
2	土師器 環	4 I-131 G	12.8 - - 底部欠損	1. 明褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 やや軟質	口縁部横撫で。体部指押さえ、未調整。 底部手持り寛削り。
3	土師器 環	4 Q-99 G	12.3 - 4.0 完形	1. 褐色 2. 粗砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。内面回転撫で。 底部平底、寛削り。
4	須恵器 環	4 H-128 G	13.8 - 3.5 底部欠損	1. 灰黄色 2. 細砂 粘土粒含 む 3. 還元焰 良質	輪縁整形。底部回転調整。
5	土師器 環	4 J-132 G	14.0 - - 底部欠損	1. 明褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	口縁部横撫で。
6	土師器 環	4 J-132 G	15.0 底部欠損	1. におい褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 やや軟質	口縁部横撫で。体部指押さえ、未調整。 底部手持り寛削り。
7	土師器 環	4 J-132 G	14.0 - 3.5 完形	1. 褐色 2. 粘土粒 片岩小石 傷かに含む 3. 酸化焰 軟質	口縁部横撫で。体下部寛削り。 平底寛削り。
8	土師器 環	4 J-132 G	13.4 - 3.4 完形	1. 明赤褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 やや軟質	口縁部横撫で。体部、底部指押さえ、表面摩耗。
9	土師器 環	4 J-132 G	- - -	1. におい褐色 2. 砂粒含む 3. 酸化焰 良好	体部、底部表面摩耗。
10	須恵器 碗	4 J-132 G	- 11.1 -	1. 灰黑色 2. 白色粒 粘土粒 含む 3. 中性焰 軟質	底部高台貼り付け、撫で。
11	須恵器 盤	4 J-132 G	20.0 15.3 3.5	1. 黄灰色 2. 白色小石 片岩 粒含む 3. 還元焰 硬質	口縁部撫で。体部調整。 底部高台貼り付け後、撫で。回転調整。
12	須恵器 壺	4 J-132 G	- - - 肩部破片	1. 灰色 2. 精選練密 3. 還元焰 硬質	口縁部回転撫で。 胴部上位2条の沈線通る。
13	土師器 壺	4 J-132 G	15.8 - -	1. 明赤褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 軟質	口縁部横撫で。頸部強い撫で。 胴部、表面摩耗。
14	土師器 壺	4 J-132 G	- 7.2 -	1. 褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化焰 良好	胴下部斜方向寛削り。 平底、寛削り。
15	須恵器 鉢	4 J-132 G	20.2 - -	1. 暗灰色 2. 白色粒 多量に 含む 3. 還元焰 硬質	口縁部強い撫で。 胴部積造り。
16	須恵器 壺	4 J-132 G	- 15.8 -	1. 黒褐色 2. 白色粒 粗砂含 む 3. 還元焰 硬質	胴部積造り、下端撫で。 底部内面のみ自然輪付着。

第2節 II区検出の遺構と遺物



第747図 中大塚遺跡II区・III区の遺構配置図

1 竪穴住居跡

1号住居跡 (写真図版256)

位置 5E・5F-181・182グリッド

方位 N-47°-E 重複 3号溝に切られる。大半は路線外に伸び未調査。

規模 東南壁1.9mを測る。

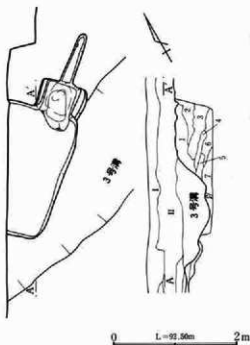
壁高 52cm前後 垂直に立ち上がる。

貯蔵穴 無し 柱穴 無し 周溝 無し

床面 掘形面をそのまま使用している。

掘形 全体的にフラットな面に仕上げられている。

遺物 無し



第748図 1号住居跡実測図

- | | | |
|----|-------|--------------|
| 1 | 暗黄土色土 | V層地主体 |
| 1' | 暗黄土色土 | 黄土色土と灰褐色土の混土 |
| 2 | 暗褐色土 | V層地含む。 |
| 3 | 黄土色粘土 | 天井部崩落土。 |
| 4 | 褐色土 | 黄土粒傷かを含む。 |
| 5 | 褐色土 | 黄土粒塊、灰褐色塊含む。 |

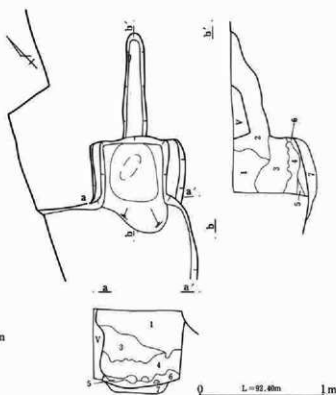
竪

位置 北壁東隅

規模 焚口部幅50cm 燃烧部奥行き50cm・幅45cm・深さ60cm 煙道部長さ80cm・幅20cm

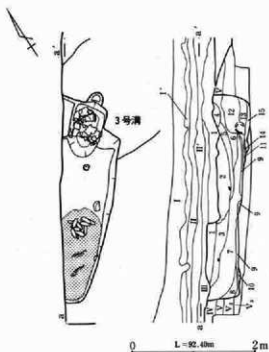
煙道部への立ち上がり20cm 垂直に立ち上がる。

構築 燃烧部は壁外にあり、袖をもたない。掘形は方形の箱形を呈し、壁面は垂直に立ち上がる。火床面は、床面より5cm程下がり灰の堆積見られる。火床面直上には、暗灰褐色土の薄い層を挟み、天井部崩落土である底面が焼土化した粘性の強い黄褐色土の堆積が見られる。側壁立ち上がり部分には、幅10cm、深さ10cm程の拡張部分が見られる。この部分は天井部を渡した部分と考えられる。煙道部は斜方向に掘られ、天井部が残る。



第749図 1号住居跡竪実測図

- | | | |
|---|-------|--------------|
| 1 | 暗黄土色土 | V層地少量を含む。 |
| 2 | 暗褐色土 | V層地含む。 |
| 3 | 黄褐色土 | 天井部崩落土 |
| 4 | 赤紫色土 | 焼土層 |
| 5 | 暗灰褐色土 | 焼土塊、炭化物含む。 |
| 6 | 暗灰褐色土 | V層地少量含む。 |
| 7 | 暗灰褐色土 | 少量の焼土、炭化物含む。 |



第750図 2号住居跡実測図

2号住居跡 (写真図版256・260)

位置 5F-182グリッド 方位 N-70°-E

重複 3号溝に電部分を切られる。大半は調査区外のため、未調査。

規模 東南壁2.7mを測る。

壁高 42cm前後 垂直に立ち上がる。

貯蔵穴 無し 柱穴 無し 周溝 無し

床面 掘形面をそのまま使用している。床面上には繊維質の炭化物を含んだ炭化物が全面に広がり、火災住居の可能性が考えられる。

掘形 全体的にフラットな面に仕上げられている。

遺物 竈内より土師器壺と確認部分の中央部に須恵器坏、土師器盤出土。また、15cm前後の片岩系の棒状礫がまとめて出土している。

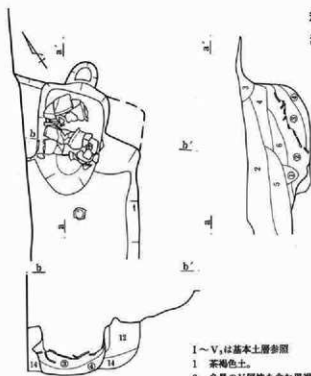
電

位置 北壁隅

規模 焚口部幅45cm 燃烧部奥行き55cm・幅50cm・深さ60cm 煙道部は3号溝に切れ僅かに煙道口の始まり部分のみ確認。

煙道部への立ち上がり50cm 垂直に立ち上がる。

構築 燃烧部の位置は確認時において壁外に構築されたものと考えられたが、電部分の精査を行った結果、住居掘形段階では燃烧部奥壁部分まで掘り込み、電構築時に粘質の黄褐色土を積み電を構築したことが確認できた。燃烧部は箱形を呈する。壁面は垂直に立ち上がり、赤茶色に焼土化している。火床面は床面より15cm程低く、灰の堆積見られる。電内には土師器壺2個体が生まれ、焚口部天井の補強材として使用されたと考えられる状況で検出された。



I~V, は基本土層参照

- 1 茶褐色土。
- 2 多量のV層塊を含む黒褐色土。
- 3 少量のV層塊を含む黒褐色土。
- 4 少量のV層塊を含む黒褐色土。
- 5 細かいV層塊を含む黒褐色土。
- 6 二次堆積のV層。
- 7 V層の塊を含む黒褐色土。
- 8 黒色土。

9 炭化物層 (塊けた上層の部分)

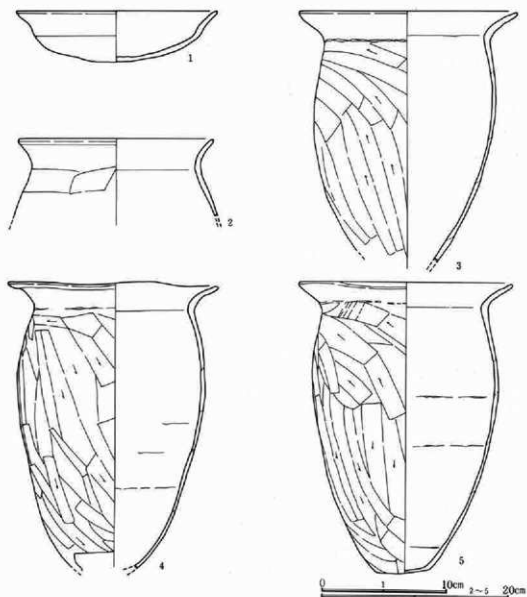
- 10 黒色土。
- 11 黒褐色土とV層の混土。
- 12 V層。
- 13 僅かな黒褐色土を含むV層。
- 14 灰層。
- 15 黒褐色土とV層の混土

2~14は住居覆土参照

- ① V層の二次堆積土 (天井部の一部)
- ② V層と黒褐色土の混土。
- ③ 焼土を主体としたV層。
- ④ 焼土塊を僅かに含むV層。

第751図 2号住居跡電実測図

0 L=92.40m 1m



第752図 2号住居跡出土遺物実測図

2号住居遺物観察表

番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
1	土器 器形 平	北東 -1	15.9 - 4.0 口径部~底部迄	1. 橙色 2. 砂粒含む 3. 酸化 良好	口縁部横撫で、弱い稜を持つ。 底部~底部手持ち寛削り。
2	土器 器形 壺	覆土	20.6 - - 口径部~胴部迄	1. 橙色 2. 細砂 粘土粒含む 3. 酸化層 良好	口縁部横撫で。胴部上位横撫で。 内面寛削り。
3	土器 器形 壺	竈内 -11	23.5 - - ほぼ完形	1. 橙色 2. 細砂 粘土粒含む 3. 酸化層 やや軟質	口縁部外反横撫で。胴部くの字状に屈曲。 胴上部斜方向寛削り 中位~下位縦方向寛削り。
4	土器 器形 壺	竈内 -2	22.2 - 30.2 底部欠損	1. 橙色 2. 細砂粒含む 3. 酸化層 良好	口縁部横撫で、大きく外反。口唇部撫で。 胴部横撫で、他全面斜縦方向寛削り。内面寛撫で。
5	土器 器形 壺	竈内 床直	22.5 5.5 30.5 ほぼ完形	1. 橙色 2. 砂粒含む 3. 酸化 良好	口縁部横撫で、口唇部の字。胴部上位横、中位斜 め、下半縦方向寛削り、内面寛削り。

2 土 坑

II区の遺構確認面は浅く地表面より20cm~30cm程で基本土層IV層まで達する。耕作土直下にはAs-A Bを含む層が見られる。土坑はこの軽石混じりの層を掘り込み構築されている。

土坑形状の大半は円形及び楕円形を呈する土坑であり、9~11号、13号土坑は不整形のアーチャー状を呈し、21号、26号、27号、30号土坑は長方形を呈する。円形または楕円形を呈する土坑には、浅い掘り込みを持つものと断面形状の掘り込みを持つものの2種類あり、どちらも覆土全体にAs-Bを含んでいる。

アーチャー状を呈する不整形の土坑は、As-Bを

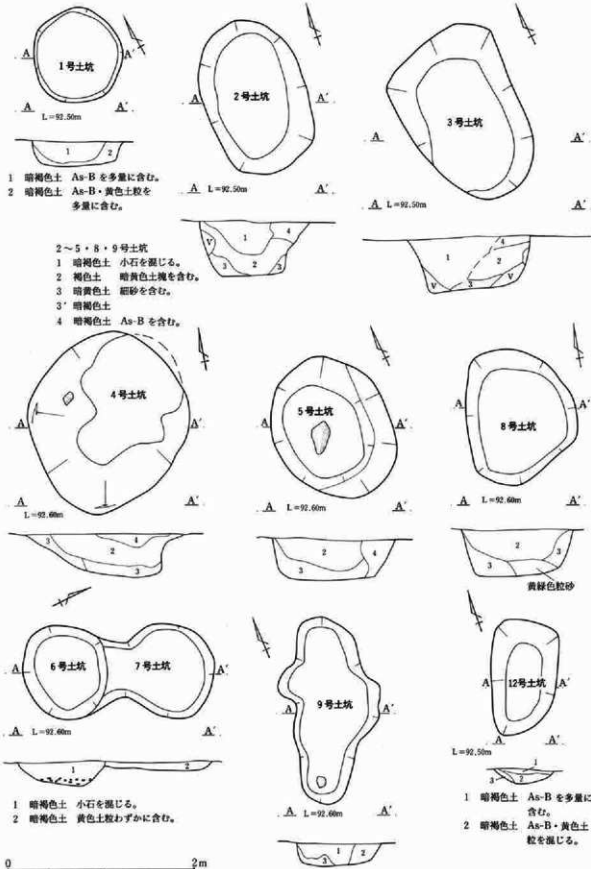
少量含み、上面には20cm大の片岩礫がまとまって出土している。

長方形を呈する土坑の中で21号土坑は、平らな底面に20cm前後の片岩礫を敷き詰められたような状態で検出された。壁面は底面から中程まで垂直に立ち上がり、緩く開きながら上端に達する。覆土中には小礫と白色軽石を含み、焼土や炭等は見られない。用途は不明である。また、30号土坑は長い長方形を呈し、側壁はやや袋状に掘り込まれ底面が上端より広くなっている。覆土はV層塊を多量に含み一度に埋め戻されたような状態が見られる。

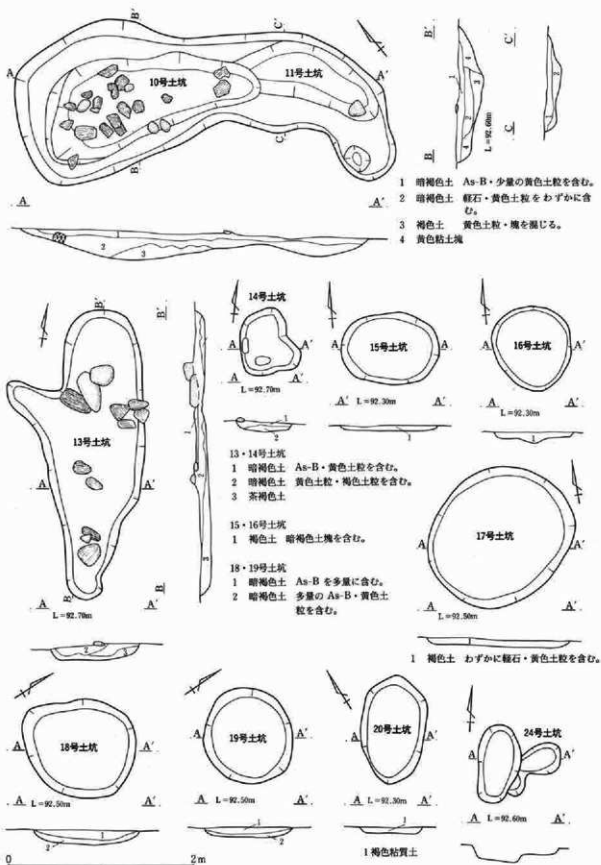
遺物は、30号土坑より丸底の土師器の増が、また33号土坑より鉄製の釘が5本それぞれ出土している。

中大塚遺跡II区土坑表

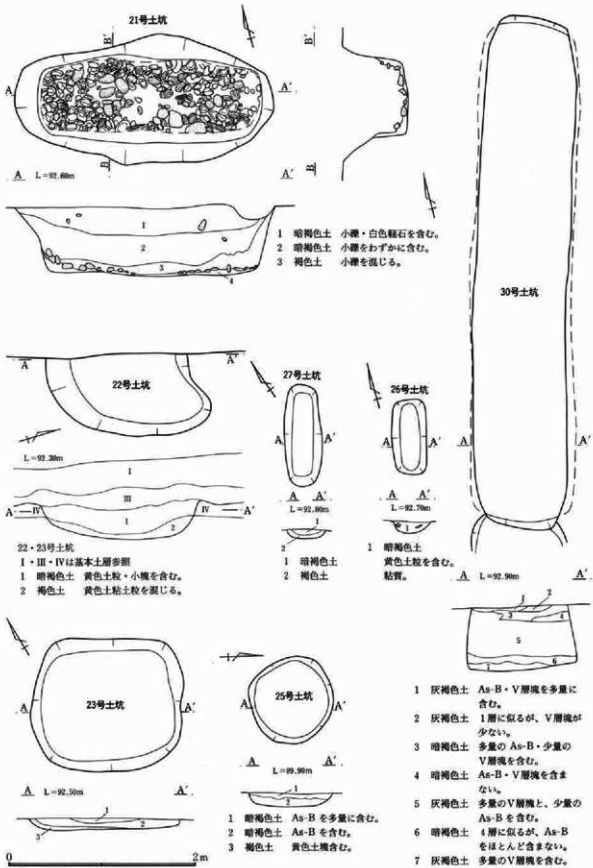
遺構名	位置	方位	規		深さ	形状	備 考
			長辺	短辺			
1号土坑	4 U-165		0.72m			円形	
2号土坑	4 V-166	N-9-E	1.60m	1.12m	0.55m	楕円形	
3号土坑	4 W-167	N-2-E	1.86m	1.20m	0.49m	楕円形	
4号土坑	4X-167-169	N-28-E	1.92m	1.72m	0.36m	楕円形	
5号土坑	4 X-169	N-4-E	1.60m	0.20m	0.42m	楕円形	
6号土坑	4 Z-168	N-72.5-W	1.00m	0.80m	0.16m	長円形	
7号土坑	4Z-167-168		1.12m		0.08m	円形	
8号土坑	5 A-169		1.36m	1.24m	0.46m	楕円形	
9号土坑	4Z-5Z-171	N-22-E	2.00m	0.88m	0.18m	不整形	
10号土坑	5 A-173	N-30-W	2.60m	1.20m	0.24m	楕円形	小ピット・土坑近接。
11号土坑	4Z-5A-173	N-9-W	1.40m	1.00m	0.17m	楕円形	
12号土坑	5 A-173	N-23.5-E	1.20m	0.68m	0.18m	楕円形	
13号土坑	5 A-173	N-9-W	3.00m	0.88m	0.12m	楕円形	
14号土坑	5 A-173	N-	0.72m	0.64m	0.07m	楕円形	
15号土坑	4 Z-175		1.00m		0.06m	円形	
16号土坑	4 Z-175		0.84m		0.09m	円形	
17号土坑	5 B-176		1.60m		0.06m	円形	
18号土坑	5 C-176		1.12m		0.15m	円形	
19号土坑	5 C-176		1.00m		0.09m	円形	
20号土坑	4 Z-177	N-38-E	1.52m	0.72m	0.70m	楕円形	
21号土坑	4Y-4Z-171		2.80m		0.07m	円形	
22号土坑	5D-177-178	N-40-E	1.80m	0.84m	0.22m	楕円形	底面に河原石敷きつめられている。
23号土坑	5 C-180	N-58-W	1.30m	1.20m	0.09m	長方形	路線外に伸びる。
24号土坑	5B-183-184	N-84-S	0.84m	0.80m	0.15m	楕円形	3号溝に接する。
25号土坑	5 B-184		0.92m		0.13m	円形	
26号土坑	5 C-185	N-20.2-E	0.80m	0.40m	0.11m	楕丸長方形	
27号土坑	5 C-186	N-26-E	1.04m	0.36m	0.07m	楕丸長方形	
28号土坑	5 G-187	N-40.5-W	1.80m	0.48m	0.10m	楕円形	
29号土坑	5 D-182		0.48m		0.11m	円形	3号溝に接する。
30号土坑	5H-192-193	N-21.5-E	5.40m	1.00m	0.41m	長方形	
33号土坑	5 E-192	N-5-E	2.24m	1.00m	0.23m	長楕円形	
34号土坑	5 E-184	N-45-W	0.75m	0.44m	0.08m	長楕円形	



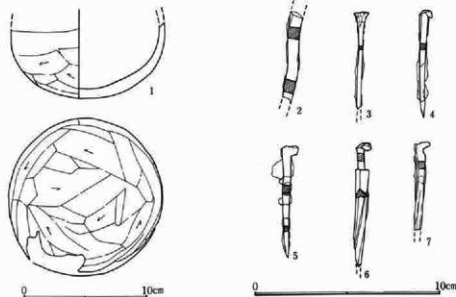
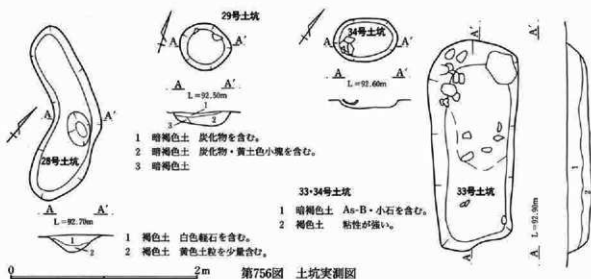
第753図 土坑実測図



第754図 土坑実測図



第755図 土坑実測図



土坑出土遺物観察表

番号	器 種 器 形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整 形 ・ 調 整 の 特 徴
1	土 部 土 部 小 壺	34号土坑		1. 褐色 2. 細砂粒含む 3. 酸化相 良好	胴中位横方向、底部～下位不安定方向、莖削り。 丸底。
2	鉄 製 品	30号土坑	4.8 0.6 0.6 5.9R		
3	釘	33号土坑	(5.2) 0.5 - 2.9R		角釘の完形。木質付着。
4	釘	33号土坑	5.7 0.6 - 3.0R		角釘の完形。木質付着。
5	釘	33号土坑	5.9 0.5 - 2.9R		角釘の完形。木質付着。
6	釘	33号土坑	(5.6) 0.8 - 3.2R		首下の木質付着部が使用木材の厚みを示す。
7	釘	33号土坑	(4.7) 0.7 - 2.6R		角釘の完形。木質付着。

3 溝

1号溝

遺跡北側4 X・4 Y-170・171グリッドに位置し、走行はN-35°Eに傾く。確認全長10m、幅0.6m、僅かに北側に傾く。

2号溝 (写真図版)

遺跡北側5 B-173グリッドに位置し、走行は、西壁から南東方向にアーチ状に曲がる。確認全長6m、幅0.6m、南東に傾く。

3号溝 (写真図版257・260)

遺跡中央部4 Z~5 F-179~182に位置し、走行はN-65°Eに傾く。確認全長33m、幅3.5m、深さ60cmを測る。比高差は余りない。路線西壁部分にて1号・2号住居を切る。遺構は下大塚遺跡9号溝同様に段畑が行われている。南東部分は確認面より20cm前後下がった部分に、幅2m程の平坦面が見られる。この上面は細砂を含み堅く締まっており、道路面として使用された可能性が考えられる。北西法面側に溝があり、上端1.2m、下端0.6mの規模を持つ。覆土中には鉄文沈着の見られる層や底面上には砂層の堆積等が確認され、水の流れがあったと言える。3号溝の方向は、溝北東方向の路線外にある農道と重複する。このことは、上栗須遺跡I区の2号溝や上栗須遺跡II区の6号溝が農道と重複して検出された状況に似ており、3号溝においても当初溝としての機能が埋没過程において道として利用されるようになり、一部現在にまで残ったと考えられる。現状では、路線西側部分について農道の痕跡や地割りの方向性等の一致は見られない。

4号溝 (写真図版257)

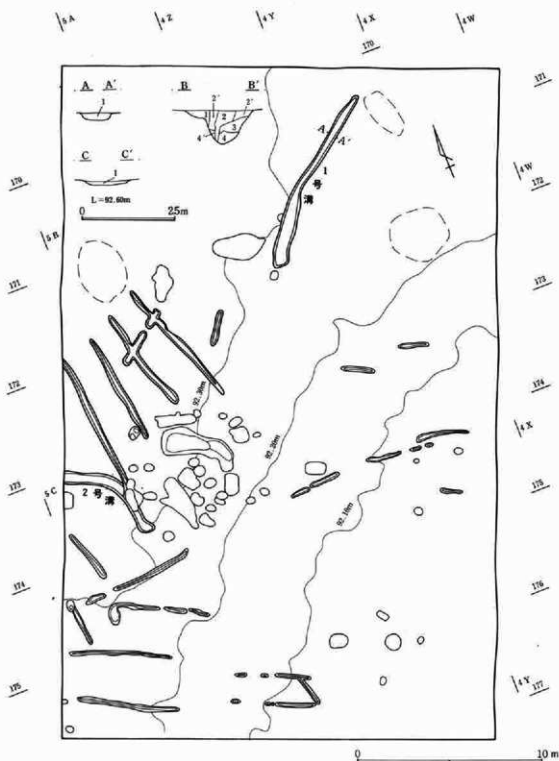
遺跡中央部東寄りの5 B・5 D-184~188グリッドに位置し、走行はN-25°Eに傾く。確認全長25m、幅0.4mを測る。比高差20cmを測り、北に向かい緩い傾斜を持つ。覆土中にはAs-Bを含む。

5号溝

遺跡中央部3号溝南東脇に位置し、3号溝と同一方向に傾く。確認全長3m、幅45cmを測る。

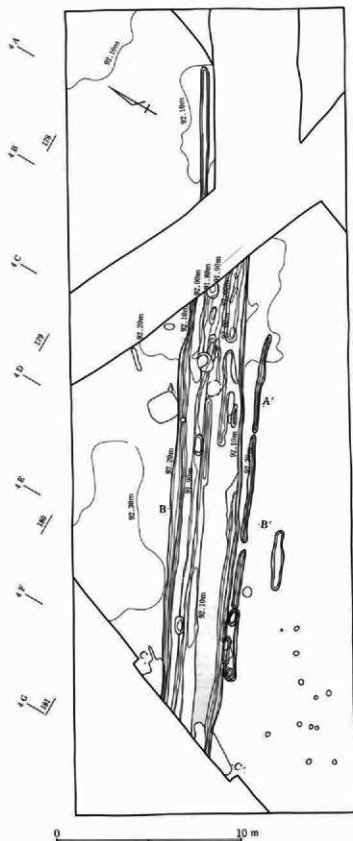
6号溝 (写真図版257)

遺跡南中大塚遺跡III区とを画する道路寄り5 G~5 K-198・199グリッドに位置し、走行は東西方向E-10°Sに傾き路線を横断する。比高差15cmを測り西に傾く。掘り方は断面台形状を呈する。覆土上層にはAs-Bを含む。

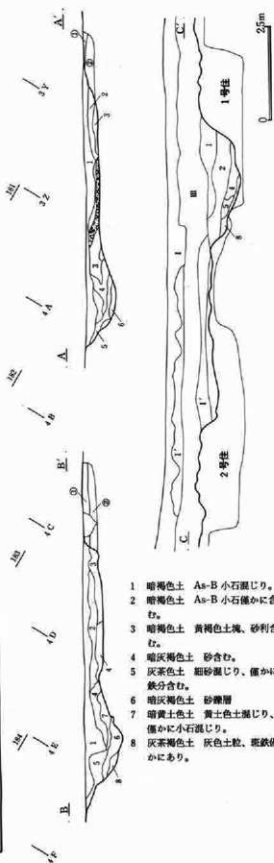


第758図 1・2号溝実測図

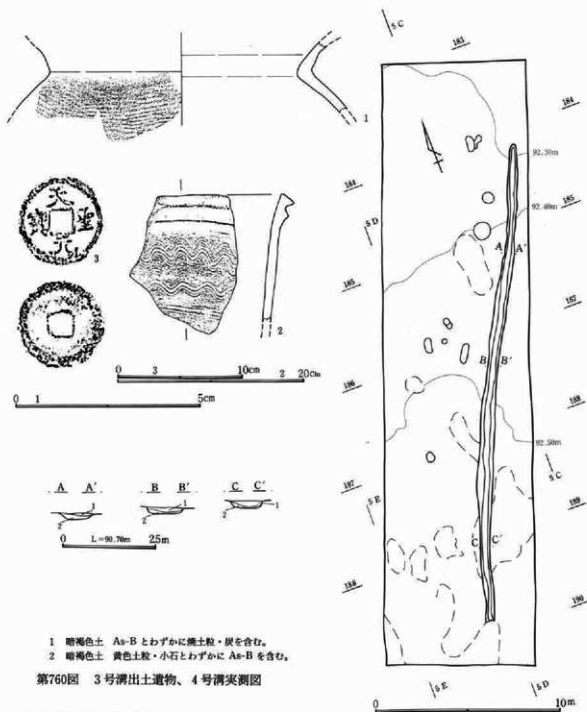
- 1 褐色土 軽石を混じる。
- 2号溝
- 1 暗褐色土 As-Bを混じる。
- 2 暗褐色土 僅かにAs-Bを含む。
- 2' 暗褐色土 僅かにAs-B・黄色土粒を含む。
- 3 褐色土 黄色土粒を混じる。
- 4 暗黄色土粘土



第759図 3・5号溝実測図



- 1 暗褐色土 Aa-B 小石混じり。
- 2 暗褐色土 Aa-B 小石僅かに含む。
- 3 暗褐色土 黄褐色土塊、砂利含む。
- 4 暗灰褐色土 砂含む。
- 5 灰茶色土 粗砂混じり、僅かに鉄分含む。
- 6 暗灰褐色土 砂層。
- 7 暗黄土色土 黄土色土混じり、僅かに小石混じり。
- 8 灰茶褐色土 灰色土粒、亜鉄僅かにあり。

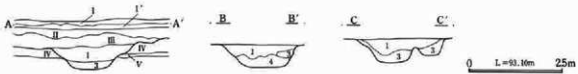
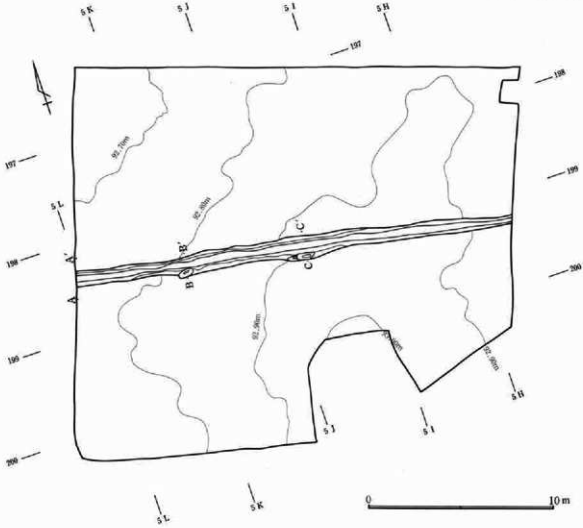


- 1 暗褐色土 As-B とわずかに黄土粒・炭を含む。
 2 暗褐色土 黄色土粒・小石とわずかに As-B を含む。

第760図 3号溝出土遺物、4号溝実測図

3号溝出土遺物観察表

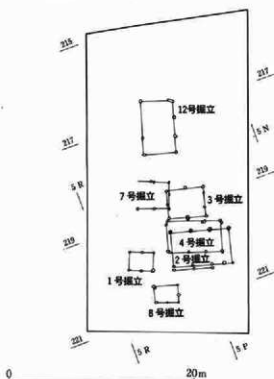
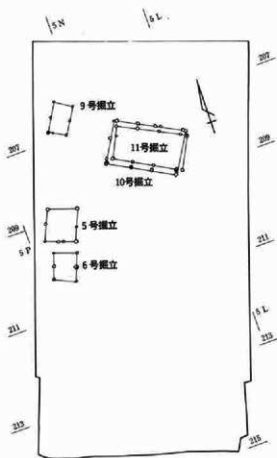
番号	器種 器形	出土位置 (cm)	口径・底径・高さ 残存状況 (cm)	1. 色調 2. 胎土 3. 焼成	整形・調整の特徴
1	須恵器 甕	覆土	- - - 頸部破片	1. 灰白色 2. 小石含む 3. 還元焰 硬質	頸部無で。胴部平行印。内面無で。
2	須恵器 甕	覆土	- - -	1. 灰白色 2. 白色粒含む 3. 還元焰 硬質	口唇部断面三角形の凸帯を有する。 凸帯下に6条の波状文。
3	古銭	覆土	2.3 1.9	2.56g	天聖元寶。(北宋)1023年。



- 1 暗褐色土 As-B と少量のV層塊を含む。
- 2 暗褐色土 少量のAs-B・V層塊を含む。
- 3 灰褐色土 多量のAs-B と少量のV層塊を含む。
- 4 灰褐色土 IV層塊と灰褐色土の混土。少量のAs-Bを含む。

第761図 6号溝実測図

第3節 III区検出の遺構と遺物



第762図 中大塚遺跡III区掘立柱建物跡配置図

1 掘立柱建物跡

1号掘立柱建物跡 (写真図版261)

位置 5 P・Q-218・219グリッド 方位E-20°-S

規模 1間 (1.9m) × 2間 (2.6m)

面積 4.9m² 形状 長方形

柱穴 円形の掘形を持つ。

2号掘立柱建物跡 (写真図版261)

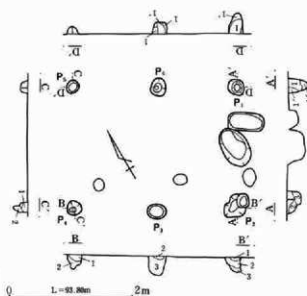
位置 5 O・P-219・220グリッド 方位E-15°-S

重複 4号掘立柱建物と重複する。

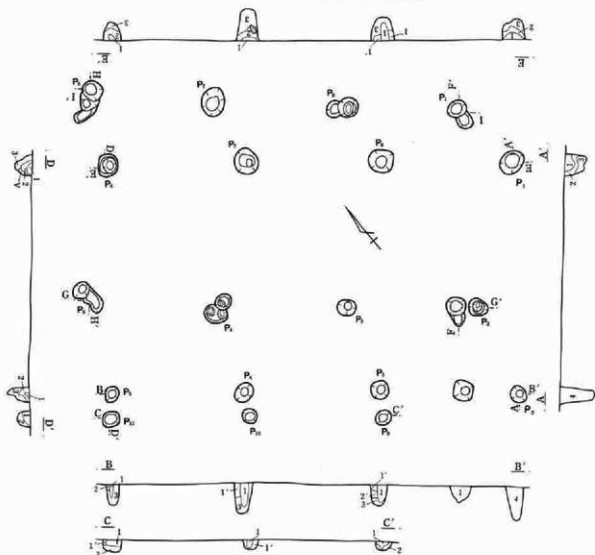
規模 1間 (3.6m) × 3間 (6.5m) 南辺に2間 (4.4m) の庇を持つ。

面積 23.4m² 形状 長方形

柱穴 円形の掘形を持つ



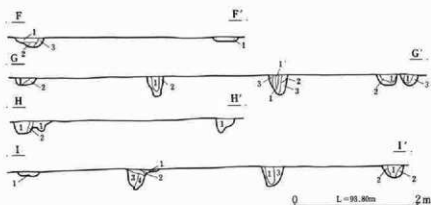
第763図 1号掘立柱建物跡実測図



第764図 2・4号掘立柱建物跡実測図

0 L=95.80m 2m

第IV章 中大塚遺跡



第765図 2・4号掘立柱建物跡実測図

- 1号掘立
 1 灰褐色土 AS-B多量に含む。
 1' 灰褐色土 AS-B僅かに含む。
 2 灰褐色土 黄褐色土塊。
 3 黄褐色土 黄褐色土主体。
- 2・4号掘立
 1 暗褐色土 黄褐色土。炭化物含む。
 1' 暗褐色土 黄白色土粒僅かに含む。
 2 灰褐色土 黄褐色土塊多量に含む。
 3 灰褐色土 黄褐色土塊含む。

3号掘立柱建物跡 (写真図版262)

位置 5 O・P-219・218グリッド 方位E-12°-S

重複 4号掘立柱建物と近接する。

規模 2間 (3.1m) × 2間 (4.1m) 東辺は3間の柱間を持ち、入口か？

面積 12.7m² 形状 長方形

柱穴 円形の掘形を持つ

面積 19.2m² 形状 長方形

柱穴 円形又は隅丸方形の掘形を持つ。4隅と数本の柱穴にピットの重複見られ、立て替えるの可能性が考えられる。

4号掘立柱建物跡 (写真図版262)

位置 5 O・P-219・220グリッド 方位E-15°-S

重複 2号掘立柱建物と重複する

規模 1間 (3.2m) × 3間 (6.0m)

5号掘立柱建物跡 (写真図版262)

位置 5 N・O-208・209グリッド 方位N-20°-E

重複 21号土坑と重複する

規模 2間 (3.3m) × 2間 (3.5m) 南北両辺は、3間の柱間となる。

面積 11.5m² 形状 ほぼ方形

柱穴 円形の掘形を持つ

1号掘立柱建物跡 柱穴規模

柱穴	長径	短径	深さ	柱穴	長径	短径	深さ	柱穴	長径	短径	深さ	柱穴	長径	短径	深さ	柱穴	長径	短径	深さ
1	26	24	30	2	36	34	22	3	30	23	30	4	22	22	22	5	20	18	11
6	30	24	18																

2号掘立柱建物跡 柱穴規模

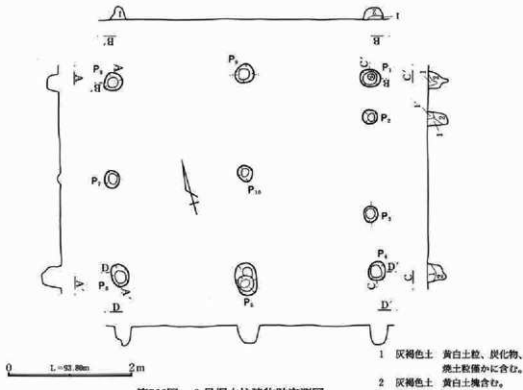
柱穴	長径	短径	深さ	柱穴	長径	短径	深さ	柱穴	長径	短径	深さ	柱穴	長径	短径	深さ	柱穴	長径	短径	深さ
1	40	34	32	2	28	24	54	3	30	30	32	4	32	28	48	5	26	22	32
6	36	30	28	7	42	36	50	8	38	34	38	9	34	22	12	10	22	22	14
11	28	24	20																

3号掘立柱建物跡 柱穴規模

柱穴	長径	短径	深さ	柱穴	長径	短径	深さ	柱穴	長径	短径	深さ	柱穴	長径	短径	深さ	柱穴	長径	短径	深さ
1	34	28	20	2	24	22	31	3	30	22	4	50	32	29	5	38	28	16	
6	28	24	20	7	30	28	14	8	30	30	28	9	22	22	30	10	24	5	

4号掘立柱建物跡 柱穴規模

柱穴	長径	短径	深さ	柱穴	長径	短径	深さ	柱穴	長径	短径	深さ	柱穴	長径	短径	深さ	柱穴	長径	短径	深さ
1	48	30	6	2	44	30	16	3	32	26	30	4	26	22	12	5	29	20	11
6	70	32	18	7	46	38	30	8	50	30	32								



第766図 3号掘立柱建物跡実測図

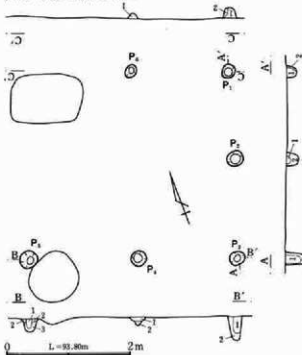
6号掘立柱建物跡 (写真図版262)

位置 5 O-209・210グリッド 方位N-20°-E

規模 1間(2.4m)×2間(3.0m)

面積 7.2m² 形状 長方形

柱穴 円形の掘形を持つ



第767図 7号掘立柱建物跡実測図

7号掘立柱建物跡 (写真図版263)

位置 5 P-218グリッド 方位E-18°-S

重複 3号掘立柱建物と重複する

規模 2間(2.8m)×2間(3.3m) 北西隅の柱穴未確認

面積 9.2m² 形状 長方形

柱穴 円形の掘形を持つ

8号掘立柱建物跡 (写真図版263)

位置 5 P・Q-220グリッド 方位E-15°-S

規模 2間(1.8m)×2間(2.4m) 西・北辺は柱間1間

面積 4.3m² 形状 長方形

柱穴 円形の掘形を持つ

9号掘立柱建物跡 (写真図版263)

位置 5 N-206・207グリッド 方位N-32°-E

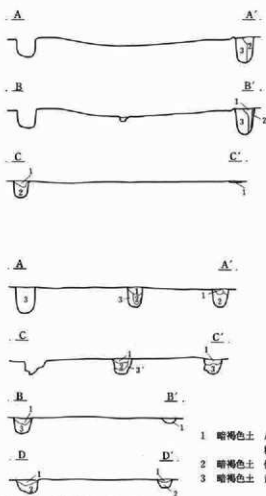
規模 1間(2.1m)×2間(3.3m)

面積 6.9m² 形状 長方形

柱穴 円形の掘形を持つ

- 1 暗褐色土 黄色土粒含む。
- 2 暗褐色土 黄色土粒、小塊含む。
- 3 灰茶色土 黄色塊、灰褐色土混じり。

第四章 中大塚遺跡



10号掘立柱建物跡 (写真図版263)

位置 5 L・M-207-208グリッド 方位E-30°-S

重複 11号掘立柱建物を囲む形に重複する

規模 2間(4.8m)×3間(7.6m) 東辺の柱間は1間であり、4隅は2本柱穴となり、立て替えの可能性が考えられる。

面積 36.5m² 形状 長方形

柱穴 円形の掘形を持つ

備考 11号掘立柱建物を1間×3間と考えた場合、10号掘立柱建物の中に収まる形となり、10・11号掘立柱建物併せて1軒の掘立柱建物とも考えられる。

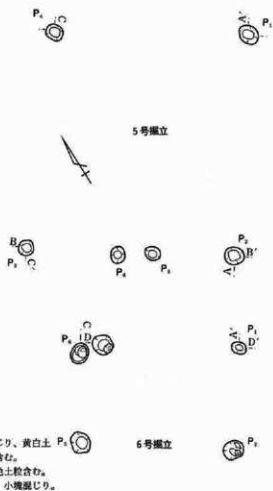
12号掘立柱建物跡

位置 5 O・P-216-217グリッド 方位N-20°-E

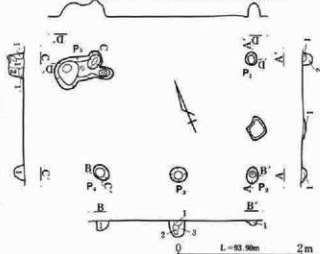
規模 2間(4.0m)×3間(5.5m) 南西隅の柱穴のみ確認出来た。

面積 22m² 形状 長方形

柱穴 円形の掘形を持つ



第768図 5・6号掘立柱建物跡実測図



第769図 8号掘立柱建物跡実測図

第3節 Ⅲ区検出の遺構と遺物

11号掘立柱建物跡 (写真図版263)

位置 5 L・M-207・208グリッド 方位E-30°-S

重複 10号掘立柱建物と重複する。

規模 1間(3.5m)×3間(7.0m)東に1間の庇を持つ。しかし、10号掘立柱建物で記したように同一掘立柱建物の可能性も考えられる。

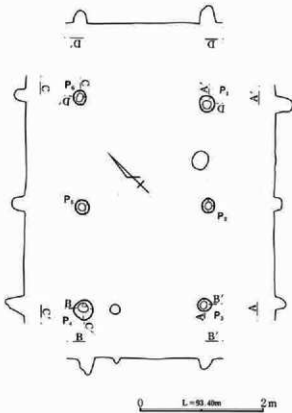
面積 24.5m² 形状 長方形

柱穴 円形の掘形を持つ

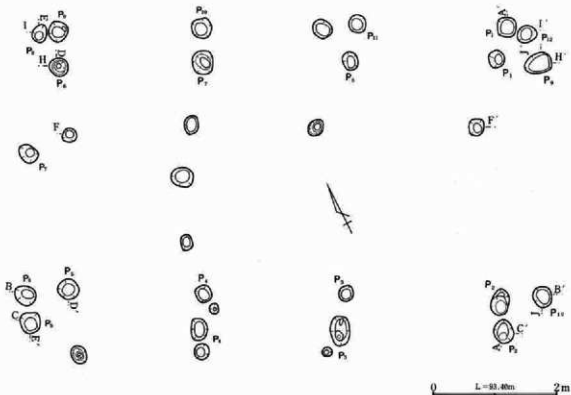
備考 北辺内側寄りに3間、西辺1間内側寄りに4間の東柱のような小ピットがある。

8号掘立

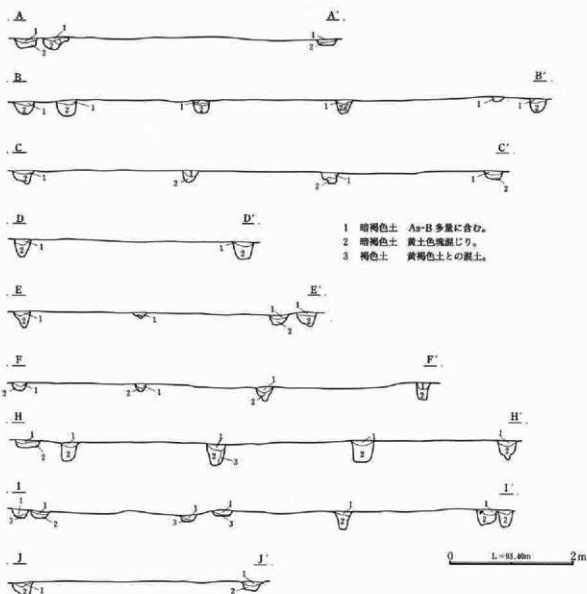
- 1 暗褐色土 黄白色土粒僅かに含む。
- 1' 暗黄褐色土 黄白色土粒、灰黄色土混じり。
- 2 暗褐色土 黄白色土粒、小塊含む。
- 3 褐色土 黄色土塊混じり。



第770図 9号掘立柱建物跡実測図



第771図 10・11号掘立柱建物跡実測図



第772図 10・11号独立柱建物跡実測図

5号独立柱建物跡 柱穴規模

柱穴	長径	短径	深さ	柱穴	長径	短径	深さ	柱穴	長径	短径	深さ	柱穴	長径	短径	深さ	柱穴	長径	短径	深さ
1	32	28	40	2	32	30	28	3	24	24	38	4	24	24	3	5	24	22	28
6	28	24	28																

6号独立柱建物跡 柱穴規模

柱穴	長径	短径	深さ	柱穴	長径	短径	深さ	柱穴	長径	短径	深さ	柱穴	長径	短径	深さ	柱穴	長径	短径	深さ
1	24	20	12	2	32	28	22	3	22	14	12	4	32	30	24	5	30	28	24
6	34	30	21																

7号独立柱建物跡 柱穴規模

柱穴	長径	短径	深さ	柱穴	長径	短径	深さ	柱穴	長径	短径	深さ	柱穴	長径	短径	深さ	柱穴	長径	短径	深さ
1	20	20	16	2	28	28	22	3	22	22	39	4	25	24	12	5	30	28	20
6	22	22	4																

8号掘立柱建物跡 柱穴規模

柱穴	長径	短径	深さ	柱穴	長径	短径	深さ	柱穴	長径	短径	深さ	柱穴	長径	短径	深さ	柱穴	長径	短径	深さ
1	20	18	20	2	26	20	7	3	26	24	26	4	28	22	16	5	80	40	26

9号掘立柱建物跡 柱穴規模

柱穴	長径	短径	深さ	柱穴	長径	短径	深さ	柱穴	長径	短径	深さ	柱穴	長径	短径	深さ	柱穴	長径	短径	深さ
1	26	26	26	2	22	19	10	3	22	20	14	4	30	30	24	5	24	22	20
6	22	20	20																

10号掘立柱建物跡 柱穴規模

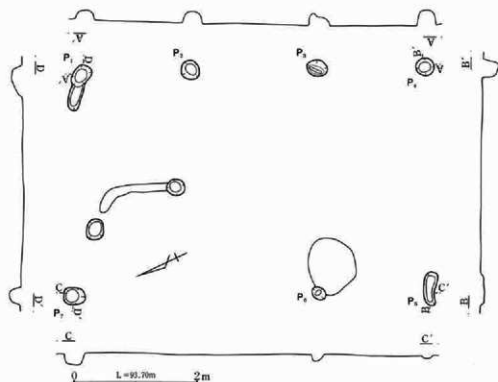
柱穴	長径	短径	深さ	柱穴	長径	短径	深さ	柱穴	長径	短径	深さ	柱穴	長径	短径	深さ	柱穴	長径	短径	深さ
1	30	29	14	2	40	30	12	3	46	30	18	4	34	24	20	5	34	30	22
6	32	24	16	7	28	24	28	8	32	30	30	9	28	26	7	10	32	27	14
11	40	30	18	12	26	23	12												

11号掘立柱建物跡 柱穴規模

柱穴	長径	短径	深さ	柱穴	長径	短径	深さ	柱穴	長径	短径	深さ	柱穴	長径	短径	深さ	柱穴	長径	短径	深さ
1	44	32	12	2	32	30	20	3	26	26	20	4	26	24	20	5	31	30	24
6	30	30	30	7	36	34	32	8	28	22	32	9	42	30	24	10	33	30	18

12号掘立柱建物跡 柱穴規模

柱穴	長径	短径	深さ	柱穴	長径	短径	深さ	柱穴	長径	短径	深さ	柱穴	長径	短径	深さ	柱穴	長径	短径	深さ
1	74	23	16	2	30	30	14	3	36	26	18	4	30	26	22	5	53	16	6
6	24	20	10	7	36	28	18												



第773図 12号掘立柱建物跡実測図

2 土 坑

遺構確認面は中大塚遺跡Ⅱ区同様浅く、軽石混じりの層を掘り込んで構築されている。土坑の大部分は円形を呈し、覆土はAs-Bを多量に含む暗褐色土に基本土層V層の小塊が見られる1層のみの覆土である。このことから、一度に埋められた状況が考えられる。

Ⅲ区中央を横断する水路北側で検出した1号～20

号土坑は、近接または重複しており、円形の掘形や覆土の状況等同じであり、また、27号・28号、32号～40号土坑も同様の形態を示す。これらの土坑の中には、4号～7号、8号～10号、14号～16号、17号・19号・20号等が3基単位で1列に並んで検出されている。

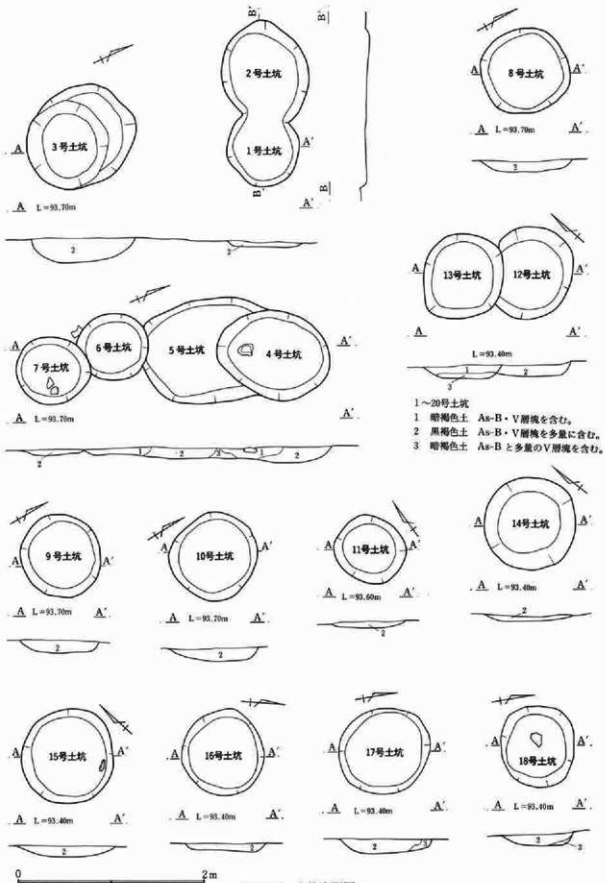
長方形を呈する22号～26号土坑も形以外は、覆土や深さ等の状況は同じである。

土坑の出土遺物はない。

中大塚遺跡Ⅲ区土坑表

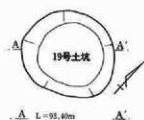
遺構名	位置	方位	規 模		形 状	備 考		
			長辺	短辺			深さ	
1号土坑	4 L-212	N-33'-E	0.80m		0.08m	円形	2号土坑	
2号土坑	4 L-212		1.00m		0.04m	円形	1号土坑	
3号土坑	4 L-212		0.88m		0.20m	円形		
4号土坑	4 L-213		0.92m		0.15m	楕円形	5号土坑	
5号土坑	4 L-213		1.28m		0.10m	円形	4号土坑	
6号土坑	4L・4M-213		0.72m		0.06m	円形	5号土坑	
7号土坑	4L・4M-213		0.76m		0.06m	円形	5号土坑	
8号土坑	4 L-213		0.96m		0.07m	円形		
9号土坑	4 L-213		0.92m		0.11m	円形		
10号土坑	4 M-213		0.90m		0.11m	円形		
11号土坑	4 M-213		0.80m		0.08m	円形		
12号土坑	4 M-212		1.00m		0.12m	円形	13号土坑	
13号土坑	4 M-212		1.00m		0.20m	円形	12号土坑	
14号土坑	4 M-211		1.00m		0.08m	円形		
15号土坑	4 N-211		1.00m		0.10m	円形		
16号土坑	4 N-210		0.88m		0.08m	円形		
17号土坑	4 N-210	1.00m		0.17m	円形			
18号土坑	4 N-210	0.88m		0.09m	円形			
19号土坑	4 N-210	1.00m		0.16m	円形			
20号土坑	4M・4N-209	1.04m		0.20m	円形			
21号土坑	4M・4O-209	2.96m		0.15m	楕円形	5号竪立柱建物		
22号土坑	4 T-226	N-25'-E	2.76m	1.06m	0.10m	長方形		
23号土坑	4Q-223-222	N-25'-E	1.68m	0.72m	0.14m	長方形		
24号土坑	4P-223-224	N-27'-E	1.40m	0.84m	0.21m	楕円長方形		
25号土坑	4 O-222	N-75'-W	1.40m	0.88m	0.20m	長方形		
26号土坑	4 P-218	N-32'-W	1.16m	0.80m	0.06m	長方形		
27号土坑	4 P-218		0.80m		0.21m	円形		
28号土坑	4 O-211		1.08m		0.13m	円形		
29号土坑	4 P-219		0.60m		0.10m	楕円形	ビットと重複する。	
30号土坑	4O-217-218		1.52m		0.07m	楕円形	ビットと重複する。	
31号土坑	4 Q-218	N-73'-E	0.64m	0.44m	0.15m	円形		
32号土坑	4 K-208		1.04m	0.88m	0.14m	楕円形		
33号土坑	4 K-208		0.96m		0.60m	円形		
34号土坑	4 K-208		1.00m		0.11m	円形		
35号土坑	4 K-208		1.00m	0.14m		円形		
36号土坑	4 M-207		0.92m		0.11m	円形		
37号土坑	4 K-204		0.60m		0.14m	円形		
38号土坑	4 J-204		N-35'-E	1.88m	1.52m	0.10m	長円形	
39号土坑	4 J-206		N-3'-E	1.20m	0.80m	0.10m	楕円長方形	
40号土坑	4 L-202			0.72m		0.10m	円形	
41号土坑	4 O-220	N-22'-E	1.24m	0.88m	0.14m	楕円形		

第3節 III区検出の遺構と遺物

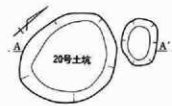


第774図 土坑実測図

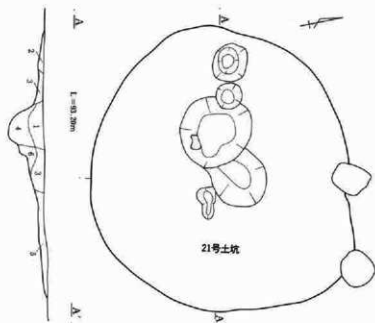
第四章 中大塚遺跡



L=93.40m

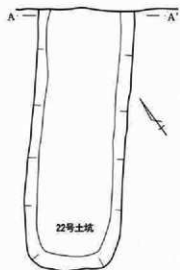


L=93.40m

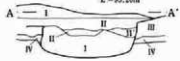


L=306.15m

- 1 黒褐色土 多量のAs-B・少量の炭化物・V層小塊を含む。
- 2 黒褐色土 1層に似るが、炭化物をほとんど含まない。
- 3 黒褐色土 2層に似る。
- 4 黒褐色土 大きいV層塊を含む。
- 5 暗褐色土 混入物は2層に似る。
- 6 黒褐色土とV層の大形塊の混土。



L=93.20m



I~IVは基本土層参照

- 1 褐色土 V層塊・As-Bを混じる。



L=94.60m



- 1 暗褐色土 黄茶色土小塊を含む。
- 2 黒褐色土 黄茶色土粒・軽石を混じる。



L=93.90m



- 1 黒褐色土 As-B・黄色土小塊を含む。
- 2 黒褐色土 黄色土小塊とわずかにAs-Bを含む。



L=94.00m



- 1 黒褐色土 As-Bとわずかに黄色土粒を含む。
- 2 黒褐色土 As-B・黄色土粒をわずかに含む。



L=93.80m

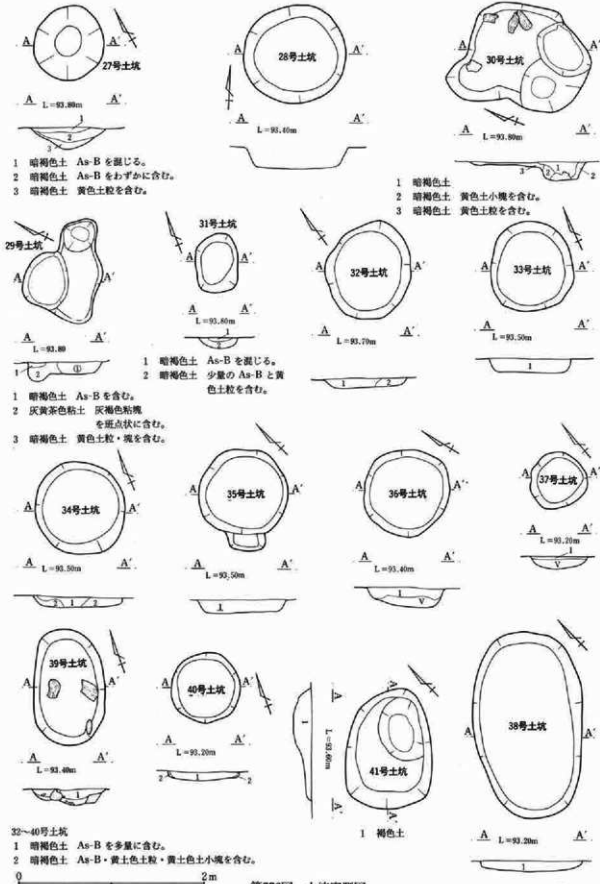


- 1 暗褐色土 As-B・黄色土粒を含む。



第775図 土坑実測図

第3節 Ⅲ区検出の遺構と遺物



第776図 土坑実測図

第V章 調査の成果

第1節 馬頭観音塔と馬の埋葬

県内の遺跡から時折、土坑などの埋葬施設に丁寧に葬られている古代～近世にかけての馬骨の検出が伝えられるが、これらの馬はどのような人達によって葬られたものなのだろうか。今回の発掘調査で幸いにも、近世における馬の埋葬に関して、僅かながらもその背景を垣間見ることの出来る資料を得ることができたのでここに若干の考察を加えてみたい。

本遺跡の調査に際し、一箇所から馬の埋葬を目的とした22基の土坑墓を検出することができた。土坑墓は、覆土中に浅間山天明3年大噴火に供給源を持つ浅間山A軽石を含むものと、含まないものと大別され、馬の埋められる方向などに規則性は認められないものの、埋葬の集中状態、土坑墓の形態、覆土の状況、老齢馬を埋葬していることなど、同一の意識下で繰り返し埋葬が営なまれ続けたと考えられる。馬の埋葬場所は現状で直径14～15m高さ1.5m程の円墳の頂部を利用したもので、埋葬範囲の広がりや古墳頂部中央のほぼ全域におよんでいた。古墳は昭和13年刊行の「上毛古墳総覧」によれば「小野村2号白山(馬捨場)」と記されていたことから、昭和の始め頃までは、この場が馬を埋葬する場所として地元の人達に知られていたようである。

土坑墓の存在した古墳の南側に接して、東西に延びる幅2m程の路地が有り、道に面して1基の馬頭観音塔が立てられていた。塔は全高で108cmを測ることができ、基礎に長辺10～20cm大の長細い礎を根石持ち1辺43cm高さ30cmの方形台石の上に、幅30cm厚み24.5cm高さ61cmの角柱が、さらに高さ17cmの笠石が乗るもので、道に正面に向けた笠付型馬頭観音塔である。塔の柱部正面は方形に縁取られ、さらに光背状彫り込みを付し、頭上に1馬を載き蓮台に乗り合掌した馬頭観音が半円彫された刻像塔である。台石の正面左右には花立て状のくぼみが穿たれている。塔正面に向かい柱部右面には「市込後滅畜生坂依三宝 發菩提心為離苦得益也 上栗須色」、左面に「奉馬頭観世音像造立 干時寶曆元年未三月吉

日 淨雪八世華林聖代」と上栗須村人結衆により、馬の供養の為造塔された旨と、造立年月日と造立に関係した僧の名前が刻まれていた。当然のことながら、村の関係者と地元のと結び付きの中で馬頭観音塔の造立がなされたことが明確になった。

馬頭観音塔下は、調査対象地域外であったため発掘調査は実施されなかった。現在塔は、元の位置より僅か東に移動され基礎をコンクリートで固められはいるが、発掘調査当時の栗石の基礎の状況から、古墳のマウンドを利用して埋葬された不特定多数の馬の供養の目的で造塔された蓋然性が高いものである。このような馬頭観音塔は、県内に多数遺残しており、各市町村ごとで実施している石像物の悉皆調査で除々にその実数が判明しつつあり、伊勢崎市で156基、澁川市316基、新田郡新田町138基、太田市133基のように各地域で相当数の存在が知られている。今後、この種の報告の集計を待たねば詳細な数は不明ながら、総数5,000基を下回らない馬頭観音塔が存在するものと推測される。且県内の一部地域のみデータだけでは必ずしも正確なものとは言えないものの、造立の傾向を知るうえで参考になると考え、伊勢崎市、太田市、澁川市、新田町の各史誌と「上州の馬頭観世音」をもとに馬頭観音塔10年単位造立表を製作した。その傾向を見ると、1700年代前半の終り頃より増加の傾向が現れ1820年代に減少傾向の認められるものの再び増加に転じ1860年代には1780年ピーク時の数字に迫っている。表によると、本遺跡の馬頭観音塔は県内近世馬頭観音塔の中でも初期の造立によるものである。今回の発掘調査の結果、土坑墓の覆土中に浅間山A軽石の混入の認められる1号、2号、3号土坑墓と、A軽石を含まない14号、15号、19号土坑墓に別れるが、A軽石を含まない古い土坑墓に埋葬された馬の一群が、本馬頭観音塔の造立の契機に成るもので、A軽石降下以降も継続して埋葬が行われたと考えられ、埋葬の終焉は定かではないものの、この場に人間の埋葬が行われる以前

第V章 調査の成果

と考えられ、県内馬頭観音塔造立の推移と符合するように思われる。

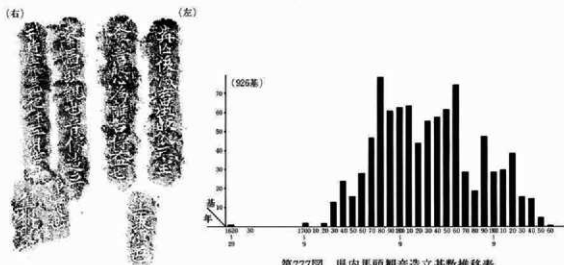
馬頭観音塔の、1700年代中頃以降の急激な増加は庚申塔や、他の民間信仰がどうあったかなど複雑な社会背景を抜きには語れないものの、馬の飼育が物資の運搬、農耕力役とし、それ以上に「酸性的の強い厩肥の大量生産が農馬の飼育の目的であった」とするみかたもあり、馬が近世農村になくはならないものとして広く普及し、大切に飼育され、近世社会とともに歩んで来た結果のあらわれとも、とらえることができよう。

馬頭観音塔の立てられる場所については「死馬捨て場、峠や山道などの交通の難所、村はずれの追分、^(注4)屋敷内」とされ、県内各地にも多数遺残する馬頭観音塔も様々な社会的背景の下に建てられたものと推

測されるが、今回、不完全ながら埋葬の実態を明らかにし得たことは、石像物中心とならざるを得ないこの分野の研究に、僅かながら新しい資料を提供できたものとする。

参考文献

- 【上州の馬頭観音】 柴田証三郎 昭和49年
 【太田市石造美術調査報告書】 太田市史編纂室 昭和51年
 【新田町の石造物と金工品】 新田町誌編さん室 昭和57年
 【伊勢崎市の近世石造物】 伊勢崎市 昭和60年
 【石造物と文化財】 澁川市史編さん委員会 昭和61年
 (注1) 「浄蓮八世 集林受代」とされる人物は、本遺跡西方300m程の位置に所在する曹洞宗浄蓮寺8世の年林大廣和尚當時54才である。浄蓮寺現任職僧江藤光氏のご教示による。
 (注2) 馬の間から検出された人骨は、埋葬の状況、副葬品の数の多きなどから遺棄葬とは考えがたく、馬をこの場所に埋葬したことが忘れ去れつつある状況の中で露られたもので、埋葬時期は副葬品の染付八角皿の示す明治時代と考えられる。
 (注3) 「馬の民俗」 竹内利美 「馬」 森浩一 昭和49年
 (注4) 「日本石仏事典」 庚申懇話会 昭和50年



第777図 県内馬頭観音造立基数推移表

第2節 集跡跡の概観（掘立柱建物を中心に）

本発掘調査は、道路幅25m、遺構検出範囲は約2kmにも及び、上栗須遺跡ではI区14号住居と44号住居に挟まれた場所と、I区5号住居とII区22号住居に挟まれてやや小規模の掘立柱建物跡と竪穴住居跡のまとまりが確認された。また上栗須遺跡II区1号柵列からIII区40号住居に挟まれて、その配列に規則性を窺わせる掘立柱建物跡と竪穴住居跡の重複が認

められた。上栗須遺跡III区42号住居から下大塚遺跡4号住居さらに、中大塚遺跡I区8号住居に至る間では顕著な住居のまとまりはなく、極めて散漫とし分布である。ここでは、当該地域の古代の掘立柱建物跡と竪穴住居跡についてその概観を紹介し、併せて相互関係を考えてみたい。

上栗須遺跡I区では、10棟の掘立柱建物跡と、30

数棟の竪穴住居跡の重複が認められた。検出された掘立柱建物跡10棟の内、1～9号掘立柱建物は掘立柱の当たる個所に白色粘土を置くこと、また柱穴の覆土に共通性が看取されることから、概ね一定期間内に営まれた掘立柱建物跡であると推測された。掘立柱建物は、重複しながらも概ね同一方向観に基づいた建て方が踏襲されている。竪穴住居跡は、8世紀初頭に出現し、10世紀まで継続している。掘立柱建物跡の建築時期を竪穴住居の新旧関係で考えると1号掘立柱建物跡は37号住居跡より新しく、2号掘立柱建物跡も32号竪穴住居跡より新しい。4号掘立柱建物跡は28号住居跡と底部分で切り合っていたが、7号8号掘立柱建物跡ともに27号住居跡と重複しているが、いずれも新旧関係は確認できなかった。掘立柱建物跡群は、新旧関係の明確な32号竪穴住居跡との関連から9世紀前半を中心とする掘立柱建物群とみられる。5、6号あるいは7、8号掘立柱建物跡のように同一場所での立て替えも行われており2～3次期にまたがる掘立柱建物跡と考えられる。

上栗須遺跡Ⅱ区北では16号住居と22号住居の間に17軒の竪穴住居跡と5棟の掘立柱建物跡が検出されたが、掘立柱建物跡は棟筋を揃える意識の働きが窺えない。竪穴住居跡と切合のある10、11号掘立柱建物において新旧関係を確認し得なかった。

上栗須遺跡Ⅱ南～Ⅲ区北では24棟の掘立柱建物跡と30数軒の竪穴住居跡が検出された。この集落跡は、北側を1条の柵列で区画した内側に竪穴住居跡と掘立柱建物跡が検出された。竪穴住居跡は、北から南に位置をずらしながら、7世紀後半から10世紀までほぼ連続的に存在している。掘立柱建物跡は、数箇所で竪穴住居跡と切合関係にあり2号掘立柱建物跡は、1号住居より新しく12号掘立柱建物跡も4号住居より新しい。6号掘立柱建物跡では東南の側柱と庇柱部で6号および8号住居と重複していた。6号住居と6号掘立柱建物の新旧は、竪穴住居の確認が掘形面になってしまった関係上明確になし得なかった。しかし、8号住居との重複は掘立柱建物の庇柱が住居に切られていることを確認された。

この集落の掘立柱建物跡群は、建物の主軸を同一方向に向けようとする企画性の存在が窺え、さらに、その方向ごとのまとまりはⅢ区1、4、5、6号のA掘立柱建物跡グループ、またⅡ区1、6、7号、Ⅲ区2号のB掘立柱建物跡グループ、Ⅱ区3、4、5号掘立柱建物と1号柵列のC掘立柱建物跡グループにまとまっていた。Aグループは、4号掘立柱建物を除いては庇を伴うなどまとまり毎に共通した建物にしている。また柱穴規模も長径と短径の和を平均した数値がA掘立柱建物グループで55～59cm、Bグループ57～67cm、Cグループ29～32cmと、グループごとに同一規模の柱穴の使用が認められた。

この掘立柱建物跡グループの存続時期は、AグループのⅢ区5号掘立柱建物柱穴No.8の柱抜き取り穴から出土した土師器坏は、3分の2以上の良好な依存状況であり、さらに柱抜き取り穴の中位部まで入っていることから、抜き取り後間もなく周辺で使用されていた土器が混入したものとすれば、この土器の持つ年代観8世紀末～9世紀初頭がA掘立柱建物グループの廃絶時期を示すものと考えられる。B掘立柱建物グループではⅡ区7号掘立柱建物の柱穴埋土中出土の須恵器蓋小破片から8世紀初頭に上限を求められるもの遺構の存続時期を決定するものではない。さらに、Cグループに至っては年代を推測できる遺物を持たないながらも、1号柵列が本集落の北を画するという本集落の共通理念にかなうものとするならばA、B両掘立柱建物群と余り隔たらない時期に位置付けられる。以上のことからこの集落内での掘立柱建物の変遷はB→A→Cと移り、竪穴住居跡との切合および出土遺物年代観からBグループを8世紀中頃以降、Aグループを8世紀末～9世紀初頭、Cグループがこれにつながる時期と考えたい。

中大塚遺跡は、23棟の古代と中世の掘立柱建物跡と、6軒の竪穴住居跡を中心とする集落で、10号溝と称した小河川跡の南に展開していた。掘立柱建物跡の内、時代決定のきめてになる遺物などの出土が殆どないものの3、4、5、10、12、17、21号掘立柱

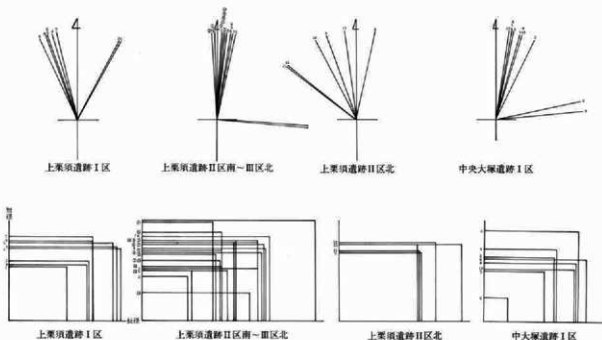
第V章 調査の成果

建物が竪穴住居跡と同質の覆土であったことから、竪穴住居跡と同時代の掘立柱建物跡と考えられた。

下大塚遺跡では2×3間で柱穴掘形が1mを越える大型の掘立柱建物跡が1棟のみ検出された。この周辺は、以前より奈良時代前期の瓦を出土地として知られていたが、今回の発掘調査の際にも9号溝を中心に重弧文字瓦の出土がみられ、一般の集落とは異なる性格の遺跡と考えられる。

以上掘立柱建物跡を中心に遺構の概要を述べてきたが、本遺跡の中での竪穴住居跡を中心とした遺構の時間的推移は概ね共通しており、7世紀後半以降、竪穴住居が出現し9世紀後半までほぼ同規模で存続し、さらに上栗須遺跡II区南～III区北の様に10世紀に及ぶ集落も存在している。この地域に於ける

掘立柱建物の受容時期には集落毎にばらつきがあり、上栗須遺跡I区では9世紀前半に、同II区南～III区北の集落では8世紀中頃、中大塚遺跡I区の集落では8世紀の後半以降と考えられる。本遺跡内で唯一の3×4間の間取りの大型掘立柱建物を持つ上栗須遺跡II区南～III区北の集落では、7世紀末～8世紀初頭に1辺7.5mの本遺跡最大の竪穴住居が営まれておりその経済的優位性が他集落に先駆けて掘立柱建物、即ち、B掘立柱建物グループを生み出したものとする。このように、掘立柱建物受容の時間差は各集落ごとの経済的基盤の差とみることできる。今回調査された僅かずつ異なるそれぞれの集落が、古代社会でどのような関係にあったのかは、今後の課題となるところである。



第778図 掘立柱建物跡規模比較表

付 篇

1 胎土分析

群馬県工業試験場 花岡純一
 群馬県埋蔵文化財調査事業団 斎藤利昭

はじめに

現在、県内各地の古窯跡群の調査・研究が進み、各窯跡群の生産品である須恵器の胎土成分が化学的分析により地域差としてとらえられるようになってきている。この結果、各遺跡出土須恵器と各窯跡出土の須恵器との成分データの比較を行うことにより、生産地と消費地との関係が理解されつつある。

今回、群馬県南地域に位置する藤岡市上栗須遺跡の発掘調査を行い、住居や古墳より多数の須恵器を検出した。この地は古代より窯業生産の盛んな地域であり、古くは6C中頃～操業されていた埴輪窯跡

が本郷地区にある。また近隣には吉井・藤岡古窯跡群、栗附古窯跡などが知られており、近年藤岡市下金井地区で同市教育委員会実施した調査において、多数の古窯跡群が発見されている。または埼玉県と県境を画する地域でもあり、埼玉県の窯跡群とも関係が考えられる地域でもある。こうした環境の中で遺跡出土の須恵器の搬入先の検討を加えるために、胎土分析を試みた。

1. 分析資料について

分析資料は上栗須遺跡出土遺物を任意に抽出した。以下は、胎土の肉眼的観察は下記の通りである。

上栗須遺跡胎土分析資料観察表

No.	資料	器種・器形	時期	胎土の肉眼的実相	備考
504	1区5号古墳1	須恵器 壺	7C前半	灰色鉱物粒僅かに含む。鉱物粒角ばる。還元焙焼成で硬質に焼き上がっている。表面は淡黄色の色調を呈し、中心は灰色を呈する。	栗附?埼玉産
505	1区6号古墳4	須恵器 平瓶	7C前半	灰色鉱物粒多く含む。黒色鉱物粒含む。爪で割れない。還元焙焼成で硬質に焼き上がっている。色調は灰色を呈する。	栗附産
506	1区8号住居9	須恵器 坏	9C後半	夾雑物多く、片岩粒を含む。酸化焙焼成で硬質に焼き上がる。色調は、にぶい黄褐色を呈する。	吉井産
507	1区8号住居14	須恵器 椀	10C前半	夾雑物多く、褐色細粒を含む。この褐色細粒は爪で割れる。還元焙焼成で軟質に焼き上がる。色調は灰黄色を呈する。	吉井産
508	1区17号住居21	須恵器 鉢	7C後半	円粒状の黒色鉱物粒及び白色鉱物粒多く含む。素地はやや稀。還元焙焼成で硬質に焼き上がる。色調は灰白色を呈する。	吉井産
509	1区17号住居22	須恵器 壺	9C後半	黒色鉱物粒多い。円粒状。白色鉱物粒少ない。素地はやや密。還元焙焼成で硬質に焼き上がる。色調は灰色を呈する。	板鼻層群
510	1区44号住居24	須恵器 坏	9C前半	灰色鉱物粒多い。酸化焙焼成で硬質に焼き上がる。色調はにぶい褐色を呈するが、内面はにぶい灰色を呈する。	吉井産
511	1区44号住居15	須恵器 坏	9C前半	灰色鉱物粒僅かに含む。鉱物粒はやや丸味がある。還元焙焼成で良好に焼き上がるが、素地の木目は粗い。色調は灰白色を呈する。	西毛産
512	1区49号住居12	須恵器 坏	8C後半	灰色鉱物粒僅かに含む。黒色鉱物粒は丸味がある。全体に粗質。還元焙焼成でやや軟質に焼き上がる。色調は灰白色を呈する。	西毛産
513	1区49号住居11	須恵器 坏	8C後半	白色鉱物粒含む。還元焙焼成で硬質に焼き上がる。色調は灰色を呈する。	栗附 or 吉井産

No	資 料	器種・器形	時 期	胎 土 の 内 観 的 実 測	備 考
514	I区グリット25	須恵器 椀	8 C前半	白色鉱物粒含む。黒色鉱物粒角ばる。還元焙焼成で硬質に焼き上がる。 色調は灰色を呈する。	吉井産
515	I区グリット22	須恵器 椀	8 C前半	白色鉱物粒多く含む。黒色鉱物粒角ばる。素地はやや織状を呈する。 還元焙焼成で硬質に焼き上がる。色調は灰白色を呈する。	吉井産
516	III区1号住居21	須恵器 坏	7 C第4	白色鉱物粒含む。黒色鉱物粒僅かに含む。還元焙焼成で硬質に焼き上 がる。色調は灰色を呈するが、内面は灰青色を呈する。	吉井産
517	III区1号住居22	須恵器 蓋	7 C第4～ 8 C	白色鉱物粒僅かに含む。素地は緻密。還元焙焼成で硬質に焼き上がる。 色調は灰色を呈する。	藤河産
518	III区29号住居2	須恵器 坏	9 C前半	黒色鉱物粒、片岩粒含む。酸化焙焼成で良好に焼き上がる。 色調はふよい褐色を呈する。	吉井産
519	III区29号住居7	須恵器 河船	10C	白色鉱物粒含む。黒色鉱物粒角ばり、多く含む。酸化焙焼成で硬質に 焼き上がる。色調は褐色を呈する。	吉井産

2. 分析方法及び測定条件

蛍光X線分析 分析用試料は各試料を10 μ m以下
に粉砕し、2～3gを径2.5cmの円板に成型して使用
した。測定条件は、次のとおりである。

蛍光X線分析装置：理学電気製K G -4型

X線管球：銀対陰極 40kV, 30mA

分光結晶：Fe, Sr, RbにはLiF ($2d=4.028\text{\AA}$)

Ca, K, Ti, Si, AlにはEDDT ($2d=8.808\text{\AA}$)

MgにはADP ($2d=10.648\text{\AA}$)

検出器：LiFを使用したとき、S・C

EDDT, ADPを使用したとき、P・

C

時定数：1

計数法：Fe, Ca, K, Ti, Sr, Rbはチャートによ
り、Si, Al, Mgは定時計数法によった。
なお走査速度は4°/minとした。

波高分析器：積分方式

測定線：FeK β , CaK α , KK β , TiK α , SiK α , AlK α ,
MgK α , SrK α , RbK α 各1次線を使用した。

X線照射面積：20mm ϕ

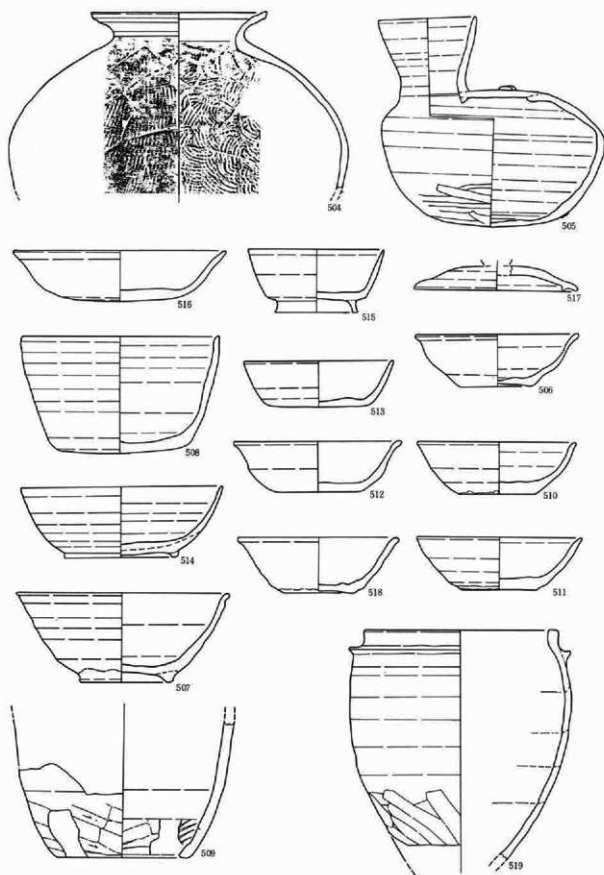
標準試料：群馬県埋蔵文化財調査事業団から依頼
を受けた土器6点（分析通番試料29S,
310, 336, 345, 360, 380）を化学分析
し、標準試料とした。

3. 結 果

下記のとおりです。

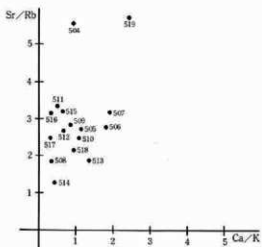
上栗須遺跡試料 胎土分析値一覧

	SiO ₂ (%)	Al ₂ O ₃ (%)	Fe ₂ O ₃ (%)	TiO ₂ (%)	CaO(%)	MgO(%)	K ₂ O(%)	Ca/K	Sr/Rb
504	67.4	22.5	4.20	0.89	0.84	0.42	1.11	0.92	5.51
505	65.8	18.7	5.60	1.15	0.97	1.01	1.03	1.13	2.70
506	59.6	16.9	6.8	1.25	1.92	2.90	1.27	1.85	2.77
507	59.0	17.8	8.4	1.21	1.89	2.55	1.20	1.92	3.18
508	68.1	20.5	3.85	0.91	0.48	0.72	1.60	0.37	1.86
509	65.8	21.1	6.71	1.33	0.87	1.48	1.13	0.89	2.82
510	65.4	16.7	5.72	1.04	1.09	1.09	1.20	1.10	2.42
511	69.9	19.1	5.2	0.93	0.66	1.03	1.64	0.50	3.33
512	65.8	19.6	5.25	0.92	0.90	1.14	1.60	0.70	2.67
513	61.4	17.9	9.4	1.36	1.25	2.25	1.06	1.43	1.84
514	68.6	17.4	4.1	0.97	0.60	1.02	1.71	0.44	1.26
515	69.4	20.2	6.55	0.96	0.59	0.80	1.03	0.69	3.03

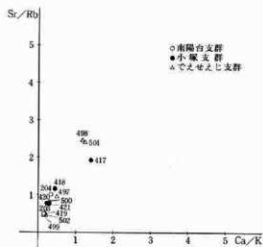


第1图 胎土分析试样实测图

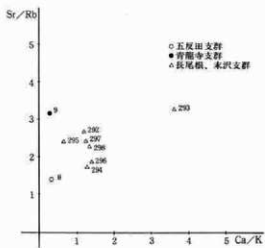
付 属



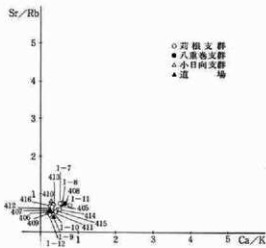
上栗須遺跡試料



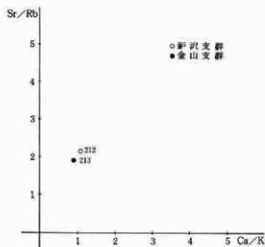
泉附古窯跡群試料



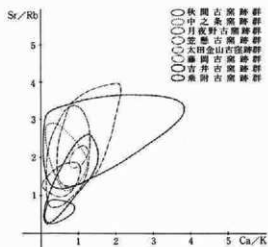
吉井古窯跡群試料



秋間古窯跡群試料



藤岡古窯跡群試料



群馬県内古窯群の領域

第2図 胎土分析値

1 胎土分析

	SiO ₂ (%)	Al ₂ O ₃ (%)	Fe ₂ O ₃ (%)	TiO ₂ (%)	CaO(%)	MgO(%)	K ₂ O(%)	Ca/K	Sr/Rb
516	69.8	20.2	3.62	0.92	0.40	0.43	1.45	0.34	3.13
517	66.6	23.4	2.75	1.06	0.32	0.53	1.32	0.29	2.18
518	64.1	16.6	6.35	0.92	1.13	1.18	1.48	0.94	2.13
519	58.9	18.5	6.90	1.08	1.69	1.09	0.83	2.42	5.71

秋岡古窯跡群試料 胎土分析値一覧

	SiO ₂ (%)	Al ₂ O ₃ (%)	Fe ₂ O ₃ (%)	TiO ₂ (%)	CaO(%)	MgO(%)	K ₂ O(%)	Ca/K	Sr/Rb
高根支群 塚廻07	66.9	23.0	4.48	1.09	0.46	1.69	1.19	0.53	0.78
(1~10号窯灰層)塚廻08								0.55	0.77
〃 塚廻11								0.79	0.71
〃	68.9	20.0	4.76	0.89	0.30	1.14	1.75	0.24	0.46
〃 411	76.0	15.8	3.83	0.88	0.49	0.88	1.75	0.39	0.55
〃 412	61.6	26.3	8.95	1.38	0.38	0.88	1.70	0.31	0.64
〃 413	69.9	19.8	5.13	0.96	0.40	1.00	1.52	0.36	0.68
〃 414	65.0	20.9	8.21	1.03	0.51	0.82	1.42	0.50	0.58
〃 瓦 415	66.9	18.9	7.15	0.92	0.44	0.86	1.31	0.46	0.58
〃 瓦 416	71.1	20.7	3.95	0.98	0.24	0.93	1.24	0.27	0.68
八重巻支群 瓦 405	71.6	20.5	6.50	1.03	0.61	0.53	1.32	0.64	0.72
〃 406	72.3	21.3	4.43	0.85	0.37	1.06	1.95	0.26	0.51
〃 407	73.8	17.1	5.05	0.92	0.40	0.69	2.03	0.28	0.54
〃 408	71.6	19.0	5.75	1.01	0.73	0.89	1.57	0.64	0.75
小日向支群 409	74.2	19.5	3.95	0.95	0.58	0.84	1.69	0.23	0.48
〃 410	74.6	15.1	4.42	0.93	0.45	0.82	2.19	0.28	0.79
道場 塚廻09								0.35	0.40
〃 塚廻10	68.9	13.9	5.24	1.00	0.35	1.20	1.57	0.31	0.56

乗附古窯跡群試料 胎土分析値一覧

	SiO ₂ (%)	Al ₂ O ₃ (%)	Fe ₂ O ₃ (%)	TiO ₂ (%)	CaO(%)	MgO(%)	K ₂ O(%)	Ca/K	Sr/Rb
南陽台支群 203	75.2	16.2	2.75	0.99	0.29	1.28	2.25	0.14	0.51
〃 204	69.6	20.6	4.26	0.96	0.52	0.77	1.64	0.36	1.00
小塚支群 417	66.9	18.0	7.25	0.97	1.18	1.17	1.15	1.41	1.82
〃 418	70.2	15.7	5.61	0.87	0.61	0.97	1.85	0.45	1.15
〃 419	69.3	17.5	6.45	0.78	0.44	0.98	2.78	0.22	1.00
〃 瓦 420	72.7	16.6	4.25	0.81	0.35	0.64	1.96	0.24	0.78
〃 瓦 421	71.6	18.8	3.75	0.88	0.36	0.83	1.53	0.32	0.75
でえせえじ支群 瓦 497	66.6	21.1	5.82	0.90	0.45	1.18	1.16	0.46	0.97
〃 498	68.4	17.6	5.35	1.27	1.07	1.09	1.18	1.20	2.45
〃 499	75.4	17.0	3.12	0.82	0.19	0.38	1.71	0.13	0.47
〃 500	69.6	21.8	4.00	0.82	0.33	0.90	1.29	0.31	0.85
〃 501	69.4	17.2	6.02	1.26	1.11	1.07	1.08	1.25	2.40
〃 502	73.1	17.2	5.20	0.82	0.31	1.11	2.13	0.18	0.48

吉井古窯跡群試料 胎土分析値一覧

	SiO ₂ (%)	Al ₂ O ₃ (%)	Fe ₂ O ₃ (%)	TiO ₂ (%)	CaO(%)	MgO(%)	K ₂ O(%)	Ca/K	Sr/Rb
五反田支群 日高 8	67.3	17.7	3.00	0.74	0.53	0.83	2.13	0.33	1.40
寶龍寺支群 日高 9	69.8	20.2	3.30	0.87	0.36	0.49	1.54	0.30	3.16
長尾根支群 292	71.3	17.0	4.02	0.95	1.39	0.82	1.55	1.19	2.65
〃 瓦 293	57.5	21.3	7.45	1.16	2.19	0.60	0.78	3.68	3.28
末沢支群 294	61.8	18.0	7.80	1.17	1.51	2.50	1.55	1.28	1.71
〃 瓦 295	63.7	23.8	6.70	1.21	0.66	0.73	1.35	0.65	2.39
〃 296	60.3	18.0	6.00	1.30	1.73	3.23	1.62	1.41	1.85
長尾根支群 297	71.3	15.7	4.25	0.68	1.39	0.70	1.47	1.25	2.40
末沢支群 瓦 298	65.7	17.2	7.52	1.15	1.76	1.67	1.71	1.35	2.23

藤岡古窯跡群試料 胎土分析値一覧

	SiO ₂ (%)	Al ₂ O ₃ (%)	Fe ₂ O ₃ (%)	TiO ₂ (%)	CaO(%)	MgO(%)	K ₂ O(%)	Ca/K	Sr/Rb	
伊沢支群	212	65.7	22.7	6.85	1.28	0.87	0.88	0.94	1.07	2.15
金山支群	213	64.1	18.3	11.35	1.31	0.85	0.68	1.13	0.88	1.92

胎土分析結果

群馬県西部地域から南部地域にかけて現在確認されている3大古窯跡群（秋間、乗附、吉井）の胎土分析資料のSr/Rb、Ca/Kの比率をもとに上栗須遺跡出土須恵器との比較検討を行った結果、以下のようによまとめられる。

- (1) 秋間古窯跡群の領域内に該当する製品は見られない。
- (2) 乗附古窯跡群の領域内に該当する製品は、№505、510、514、518がある。
- (3) 吉井古窯跡群の領域内に該当する製品は、№505、506、507、508、509、510、511、512、513、514、515、516、517、518がある。
- (4) その他、№504、519については、Sr/Rbの値が高く、近接する領域がないため現状では産地は不明。

以上、現在確認できる窯跡資料とのデータの比較を行った結果、分析資料の大半が吉井窯跡群の領域内に含まれ、胎土の内眼的観察結果とも一致していると言える。しかし、吉井窯跡の領域内には乗附窯跡の領域も含まれ、両者の範囲内のデータを示す土器も含まれていることや、また近年藤岡市下金井地区において発掘調査がなされた窯跡は、吉井窯跡との地質傾向が似ていることなどが指摘でき、分析値が似る可能性も考えられる。

現状での分析結果では、吉井窯跡からの製品の搬入が多かったのではないかと考えられるが、今後さらに資料の増加による各窯跡群の分析値の領域設定を行う中で搬入地の確定を行っていく必要がある。また、突出した値を示す土器（№504、519）についても同様の検討を加えて行かなければならない。

参考文献

- 1) 「土器の胎土分析」『藤岡古墳群』（群馬県教育委員会）1980年 花岡健一・石塚久則
- 2) 「瓦の胎土分析」『天代瓦窯遺跡（中之条町教育委員会）1982年 花岡・大江正行
- 3) 「温井遺跡出土須恵器の胎土分析」『温井遺跡』（群馬県教育委員会）1981年 花岡・真下高幸
- 4) 「瓦の胎土分析について」『山王庵寺跡第7次発掘調査報告書』（前橋市教育委員会）1982年 花岡
- 5) 「土器の胎土分析について」『清風・陣場遺跡』（群馬県埋蔵文化財調査事業団）1982年 花岡・中沢悟
- 6) 「飯田東遺跡出土土器の胎土分析」『飯田東遺跡』（群馬県埋蔵文化財調査事業団）1982年 花岡・中沢、原重信
- 7) 「大釜遺跡・金山遺跡古墳群」（群馬県埋蔵文化財調査事業団）1983年 花岡・大西
- 8) 「奥原・古墳群出土須恵器の胎土分析」『奥原古墳群』（群馬県埋蔵文化財調査事業団）1983年 花岡・石塚
- 9) 「月夜野古窯跡群の胎土分析」『土器部会研究資料No.2』（群馬歴史考古同人会）1983年 花岡・大江
- 10) 「永井宮前遺跡出土須恵器の胎土分析」『永井宮前遺跡1』（群馬県埋蔵文化財調査事業団）1985年 花岡・山口逸弘
- 11) 「土器の胎土分析について」『吉田遺跡』（埴野教育委員会）1985年 花岡・加部二生
- 12) 「村主遺跡出土土器を中心とした胎土分析」『大原II遺跡・村主遺跡』（群馬県埋蔵文化財調査事業団）1986年 花岡・中沢
- 13) 「古墳出土須恵器の胎土分析」『下懸牛伏遺跡』（群馬県埋蔵文化財調査事業団）1986年 花岡・小島敦子
- 14) 「日高遺跡出土須恵器と瓦の胎土分析」『日高遺跡』（群馬県埋蔵文化財調査事業団）1982年 花岡・平野進一・大江
- 15) 「胎土分析」『下東西遺跡』（群馬県埋蔵文化財調査事業団）花岡・三浦京子

2 鉱物分析

パリオ・サーベイ株式会社

1 はじめに

中大塚遺跡は、藤岡台地の北西部に位置する。藤岡台地は、最終氷期に離水した扇状地がその後の河川の下刻によって台地化した開折扇状地である。藤岡台地の表面は平坦ではなく、旧流路等の微起伏が認められる。今回分析を行った中大塚遺跡の調査区は、この台地上の旧流路部に位置する。

遺跡調査区内に設置されたトレンチでは、2通りの地質層序が確認された。(図1)。一方は台地を構成すると考えられる礫層の上位に、黄灰色砂質シルト層、さらに暗灰褐色シルト層がのる層序を示すものである。(第1地点)。もう一方は、下位より礫層、黄灰色砂質シルト層、さらにパッチ状に保存された黄色軽石層をはさんで、黄褐色風化火山灰層(いわゆるローム)、クロボク土と連続する層序である。(第2地点)

藤岡台地上には多くの遺跡が分布しており、立地の観点から地形・地質学上の問題は無視できない。とくに藤岡台地の地形発達史を明らかにすることは、考古学に寄与するところも大きい。本分析では、2通りの地質層序の地質学的解釈および軽石層と示標テフラとの対比を行うことを目的とする。そしてその分析結果が地形発達史の問題とどう関わるかについて考察する。

2 分析の方法

堆積物の対比を行うために本分析では、砂質シルト層およびシルト層については鉱物分析を行ない、重鉱物組成・軽鉱物組成上の特徴から検討を行った。軽石層の同定には、重鉱物組成・軽鉱物組成上の特徴把握ならびに屈折率の測定を行った。

鉱物分析は、次の手順で行った。砂質シルト・シルト層については、約30gを超音波洗浄として分析対象とした。また、軽石層については、軽石を粉碎して得られた斑晶鉱物の分析対象とした。得られた試料は、テトラブロムエタン(比重2.96)によって重波分離を行い、重鉱物と軽鉱物とに区別した。次に偏光顕微鏡下で、重・軽鉱物各々250粒以上同定し、重鉱物組成・軽鉱物組成を明らかにした。結果をダイアグラムにして、図2、3に示す。軽石については、同定の精度を向上させるため斜方輝石の屈折率(γ)を、新井(1972)の方法に従って測定した。

3 分析結果

(1)砂質シルト層およびシルト層

第1地点・砂質シルト層(1-3~1-5)の重鉱物は、斜方輝石、不透明鉱物、単斜輝石、黒雲母そして少量の角閃石から構成されている。しかし大部分は、岩片等同定不能の粒子からなっており、鉱物の占める割合は小さい。軽鉱物でも同定不能の粒子が大部分を占め、斜長石と石英がほぼ等量含まれている。

第1地点のシルト層(1-1~1-2)に含まれる重鉱物は砂質シルトの傾向とは異なり、斜方輝石、不透明鉱物が大部分を占めている。この特徴は、後述の軽石の重鉱物組成の特徴と似ている。軽鉱物組成の傾向は、砂質シルト層とほぼ同様である。砂質シルト層およびシルト層に含まれている火山ガラスは、透明で分厚い感じのガラスである。

第2地点の砂質シルト層(2-2~2-4)に含まれる重鉱物の組成は、第1地点の砂質シルト層と同様で

同定不能の粒子が大部分を占めている。また重鉱物も斜方輝石、不透明鉱物、単斜輝石と少量の角閃石と良く似ている。さらに軽鉱物組成でも同定不能の粒子が大部分を占め、斜長石と石英がほぼ等量含まれている。火山ガラスの形態も、透明で分厚い感じがするガラスである。

いずれの地層にも同定不能の粒子（主に円磨された基盤岩に由来する岩片）が多く含まれていることから、これらの堆積物はいずれも河川によって運搬された堆積物と考えられる。

(2) 軽石層

黄色の軽石層（2-1）に含まれる重鉱物は、量の多い順に斜方輝石、不透明鉱物、単斜輝石である。すなわち角閃石や黒雲母を含まない、いわゆる両輝石型のテフラである。斜方輝石の屈折率（ γ ）は、1.707-1.711である。また、含まれている不透明鉱物の大部分は磁鉄鉱である。

地形からみて藤岡台地と本庄台地は、ほぼ同時期離水した開析扇状地と考えることができる。堀口（1986）は、大里ローム層と扇状地礫層との層位関係から本庄台地の形成を立川期の後期と考えている。当社の未公表資料では、本庄台地を構成する扇状地礫層に整合にのる粘土層の上部から始良Tn火山灰（AT約2.1-2.2万年前；町田・新井，1976）の純層が発見されている。このことは、堀口（1986）の見解と調和的である。したがって、藤岡台地の離水時期は、最終水期後半と考えて良い。

さて藤岡台地とその周辺に分布する最終水期後半の軽石に富むテフラとしては、下位より浅間一板鼻褐色軽石群（As-BP；新井，1962、町田ほか，1984）浅間一白糸軽石（As-SP；町田ほか，1984）、浅間一板鼻褐色軽石（As-YP；新井，1962）などが挙げられる。中大塚遺跡で発見された軽石層は、1) 黄色を呈すること、2) 斜方輝石と単斜輝石に富み、角閃石を含まないこと、3) 斜方輝石の屈折率が1.707~1.711であることなどから、As-YPに対比される。なお新井（1964）は前橋泥炭層中にはさまる。As-YPの直下から、13, 140 y.B.P.の値を得ている。このことから、As-YPの噴出年代は、約1.3万年前と考えられる。

4 まとめ

分析の結果、次のようなことが明らかになった。

- 1) 第1地点と第2地点の砂質シルト層の間に有意な違いはなく、同じ堆積物と考えて良い。
- 2) 第1地点のシルト層は第1、2両地点の砂質シルトとは異なり、重鉱物組成上で斜方輝石および単斜輝石の割合が大きい。
- 3) 第1地点のシルト層の重鉱物組成は、As-YPに似ている。
- 4) 第2地点で砂質シルト層整合に覆う軽石層は、As-YPに対比される。第1地点では、シルト層の上位にAs-YPを流し去った河川の堆積物と考えられる。そしてシルト層の離水時期は、As-YPの上位のロームの堆積より新しいと言える。

5 考察—藤岡台地における地形発達史の研究と課題—

群馬県は、六合村の野反湖周辺を除けばすべて利根川の流域である。利根川とその支流の諸河川沿いには河岸段丘が良く発達している。藤岡台地も神流川あるいは鮎川によって形成された開析扇状地で「扇状地状の河岸段丘」と言い換えることもできる。

藤岡台地における地形発達史の研究は少なく、これまで新井（1962）の研究成果に負うところが大きい。新井（1962）は、藤岡台地の面を藤岡面（F）と仮称した。その後、堀口（1974）は、藤岡台地を最終水期後半に形成された立川面に対比している。

藤岡台地は、比較的平坦のように感じるが、実際は、北北東-南南西方向の旧流路があり、そこはまわりの台地よりわずかに低くなっている。中大塚遺跡の今回の調査区も旧流路内に位置している。このような細かい精度の論議を行う際に、「藤岡粘土層」の問題がクローズアップされてくる。藤岡台地の微地形と藤岡「藤岡粘土層」の名称を藤岡台地上に発達する粘土について用いている。さらに新井は、上部ローム層より下位に発達する粘土層を「下部粘土層」とよび、明らかに上部ローム層に含め得るものを「上部粘土層」とよんだ。また、藤岡粘土層は藤岡台地だけでなく、本庄台地上にも分布していることが明らかになっている。(新井, 1962)。藤岡粘土層の生成の要因について、新井(1962)は、高崎から岩鼻にかけての台地を構成する「岩鼻 Mudflow deposit」の堆積によって上流側に停滞水域が形成され、そこで藤岡粘土層の堆積が始まったと考えている。

さて、新井(1962)の柱状図(P.24, 第14図)をみると、粘土層の離水層準は一様でないことに気付く。たとえば、No.96の地点ではB.P.の上位に粘土はなく、B.P.も風成でのっている。また、No.85, 87, 94ではB.P.とY.P.の間に離水層準があり、さらにNo.84, 86, 89, 90, 93, 95では、Y.P.直下まで粘土の堆積と言った具合である。これらのうちY.P.まで粘土の堆積が続いた。No.84, 95, 86は、今回分析を行った中大塚遺跡調査区が位置する旧流路内に相当する。このことから旧流路内は周辺の台地より低いために離水が送られたと考えられる。また、今回の分析結果からわかるように、旧流路内でも離水がY.P.以降の部分もある。さらに、多くのボーリング資料を整理し、野外調査を行うことによって粘土の離水過程(陸化した過程)が明らかになる。

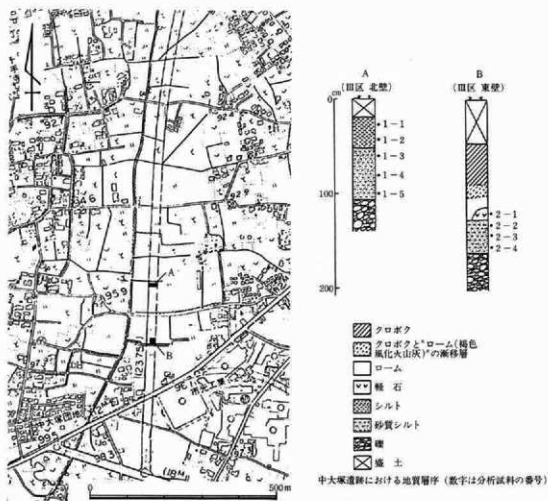
最後に今後に残された藤岡台地の地形・地質学上の課題挙げておく。1つは、藤岡台地上に分布するテフラ層序である。藤岡台地上には新井(1962)によって、As-BPおよびAs-YPが堆積していることが確認された。As-BPは、碓井川流域や榛名火山周辺では、間に褐色風化火山灰をはさんで複数認められる。噴出年代も、1.6~2.1万年前(町田ほか, 1984)と幅をもって考えられている。As-BPのうち、どのテフラが藤岡台地に堆積しているかは、まだわかっていない。さらに新井(1962)の研究の後、新井は八ヶ岳新期第IV軽石(Y-PmIV; 約2.5万年前)を富岡市上黒岩遺跡で確認している(稲田, 1984)。またAs-YPとAs-BPの間に、浅間-白色軽石(As-SP; 約1.5万年前, 町田ほか, 1984)が認められている。このような示標テフラと藤岡台地上の堆積物の層位関係も明らかにされていない。

もう一つは、藤岡粘土層の堆積要因の問題である。高崎-岩鼻の台地を構成する岩鼻 Mudflow deposit を「前橋泥流堆積物」と改称し、榛名火山起源ではなく浅間火山起源と考えた。そして、前橋泥流堆積物中の埋木から、24,000±650 y.B.P.の値を得ている。最近、新井(1985)は前橋泥流直下のシルト層中にA.T.を発見し、前橋泥流の年代が約2.4万年前よりも新しくなることを述べている。ここで本庄台地での「藤岡粘土層」とA.T.の関係を思い出していただきたい。A.T.は、本庄台地上の「藤岡粘土層」の上部に挟んでいるのである。このことから新井(1962)の述べているように本庄台地上に堆積している粘土層が藤岡粘土層と同一であるならば、粘土層の堆積は前橋泥流(岩鼻 Mudflow deposit)の堆積以降ではなく、それ以前に堆積し始めていたと考えられるのである。今後、藤岡粘土層の模式地である藤岡台地上で、粘土層とA.T.との層位関係を明らかにする必要がある。

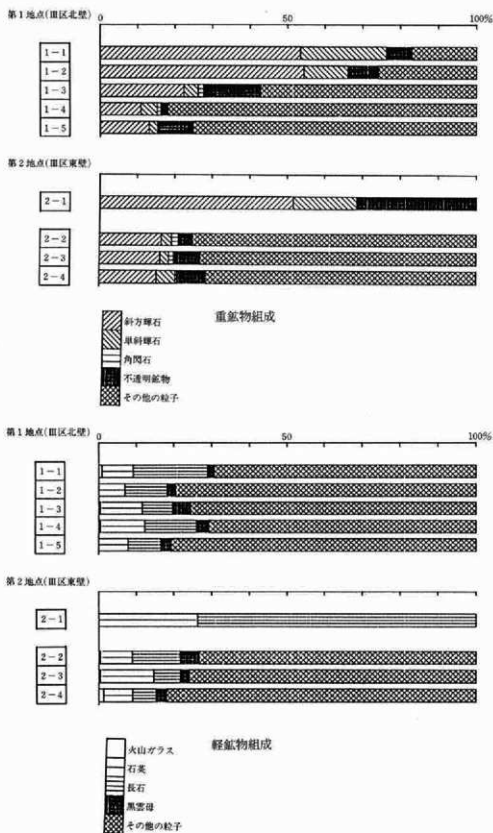
では、藤岡粘土層はどのようにして形成されたのであろうか。それには、多くの要因が考えられる。一つは、扇状地が離水する過程で河川的作用によって細粒物質が堆積したとする考えである。これには、最初から粘土が堆積したとする考えと後の作用によって細粒物質が粘土化したとする考え方がある。もう一つは風成のテフラ(褐色風化火山灰等)が粘土化したとする考え方である。扇状地が離水する過程で扇状地上に細粒物質が堆積することは、門村(1971)によって考えられている。扇状地面が離水し河床から一段高くなると、大規模な洪水が発生したときのみ扇状地面の礫層の上位に洪水の堆積物が堆積する。洪水の堆積物のうち、礫は浮

力が小さく流路内から溢れ、扇状地面にのることは殆どない。したがって扇状地を構成する礫に比べると著しく粒径の小さい細粒物質が堆積することになる。

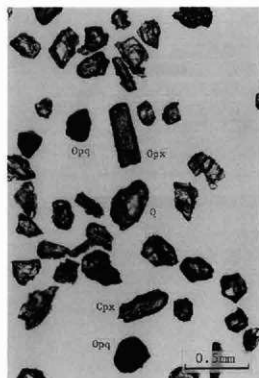
後者の風成テフラが粘土化したとする考え方は、一般的にテフラがガラスに富み、しかもガラス同化し易いことに基づいている。扇状地礫層の上に堆積したテフラは、その後の地下水の影響によって風化を受け、粘土鉱物が形成されるようになり、全体的な粒径は細粒化していくのであろう。藤岡粘土層の堆積時期は最終氷期にあたり、現在とは異なるような様式の地下水の挙動もあったのかもしれない。いずれにしても、藤岡粘土層の層位および層序、さらには粒度組成上の特徴やその地形との関係の把握等、様々な問題を解決していなければならない。



第3図 試料採集地点位置図



第4図 中大塚遺跡テラフ試料の鉱物組成



As-YP に含まれる鉱物

- Opx: 斜方輝石
- Cpx: 単斜輝石
- Opq: 不透明鉱物
- Q: 石英



As-YP に含まれる斜方輝石

引用文献

- 新井朋夫 (1962) 関東盆地北西部地域の第四紀編年。群馬大学紀要自然科学編, 10, P. 1~79
- 新井朋夫 (1964) 前橋泥炭層の14C年代。地球科学, 70, P. 37~38。
- 新井朋夫 (1967) 前橋泥炭の噴出年代と岩宿I文化期。地球科学, 21-3, P. 46~47。
- 新井朋夫 (1972) 斜方輝石・角閃石の屈折率によるテラフの同定—テフクロノロジーの基礎的研究—。第四紀研究, 11, P. 254~269。
- 新井朋夫 (1985) 前橋台地。日本の地質「関東地方」編集委員会編「関東地方」, P. 180。
- 堀口万吉 (1974) 関東平野西部の地形区分と段丘面の変動。泉見俊弘の鈴木尉元編「関東地方の地質と地盤変動」, P. 119~127
- 堀口万吉 (1985) 本庄台地。日本の地質「関東地方」編集委員会編「関東地方」, P. 173。
- 相葉孝司 (1984) 更新世哺乳動物遺体の産状と人類文化—旧石器時代研究の課題—。考古学研究, 31, 2, P. 18~44。
- 門村 浩 (1971) 扇状地の微地形とその形成—東海道地域の緩勾配扇状地を中心に—。矢沢大二・戸谷 洋・貝塚真平編「扇状地」, P. 55~96。
- 町田 洋・新井朋夫 (1976) 広域に分布する火山灰—始良Tn火山灰の発見とその意義—。科学, 46, P.339~347。
- 町田 洋・新井朋夫・小田勝夫・遠藤邦彦・杉原重夫 (1984) テラフと日本考古学—考古学研究と関係するテラフのカタログ—。渡辺直経編「古文化財に関する保存科学と人文・自然科学」, P. 865~928。

3 人骨検査

群馬県警察本部刑事部科学捜査研究所
法医主任 緑川 順

前橋・長瀬線発掘調査により数基の土坑内より人骨が検出された。

以下は、これらの土坑出土人骨の頭蓋骨・下顎骨及び歯牙から推定できる年齢、性別を中心とした検査結果である。

資料1 上栗須遺跡Ⅰ区3号古墳上墓坑群(馬捨て場)内出土人骨

資料2 上栗須遺跡Ⅱ区23号土坑内出土人骨

資料3 第1取付道路1号土坑内出土人骨

資料1. 頭蓋骨(下顎骨を含む)

1. 外観検査

資料は、ヒトの頭蓋骨1個(下顎骨を含む)であり色調は赤褐色、硬度は脆く指圧において容易に砕き得る程度である。

2. 性別推定に関する形態学的検査

額鉛直形(オルトメトビカ)は鉛直を呈す。眉上弓、眉間の隆起は弱い。

後頭隆起の発達は弱く、上項線は識別不能で項平面はやや平坦である。

乳様突起の発達は弱い。

眼窩上縁の厚さは薄く華者である。下顎体(歯列弓)はV字形で下顎角幅はやや広い。

3. 年齢推定に関する歯牙咬耗度検査(橋原の分類による)

	上 顎		下 顎	
	左 側	右 側	左 側	右 側
1	2 ^a	2 ^a	死後脱落	2 ^a
2	2 ^a	2 ^a	2 ^a	2 ^a
3	2 ^b	2 ^b	2 ^b	2 ^b
4	2 ^b	2 ^b	2 ^a	2 ^a
5	2 ^a	1 ^c	1 ^c	2 ^a
6	生前脱落	2 ^a	生前脱落	生前脱落
7	2 ^a	2 ^a	1 ^c	C,歯冠部欠損
8	1 ^c	——	——	——

4. 年齢推定に関する頭蓋縫合の癒着度検査(プロカの分類)

(1)冠状縫合	ブレジマ部	0
	迂曲部	0(不鮮明~判定困難)
	側頭部	0~1(#)
(2)矢状縫合	ブレジマ部	0
	頭頂部	0~1
	孔間部	0~1
	下部(ラムダ部)	0~1
(3)人字縫合	ラムダ部	0~1
	下部	0~1
(4)鱗状縫合		0~1
(5)顔面縫合		

顔面縫合の癒着は、縫合線の追跡可能な状態である。

5. 年齢推定に関する口蓋縫合の癒着度検査

切歯縫合は消失し、正中口蓋縫合の後牙が癒合し、横口蓋縫合の左右側に若干の癒合状態がみられる。

6. 資料1についての考察及び結果

形態学的検査から性別は、女性と推定される。年齢は頭蓋の三大縫合及び顔面縫合が20歳代を示し、口蓋縫合は30歳代、歯牙咬耗度は30~40歳を示していたことから、青年期から壮年期(現代人の年齢では20~40歳代)と考えられた。

資料2. 下顎骨及び歯牙、後頭骨

1. 外観検査

資料は、ヒトの下顎骨の一部及び歯牙(2-1)と後頭骨の(2-2)である。色調は灰褐色で(2-1)、(2-2)とも硬度は指圧において容易に砕き得る程度である。

2. 資料2-1(下顎骨及び歯牙)の残存状態

下顎骨は体部左を残存し、右半部は海綿質を露出

している。

残存する歯牙は、左犬歯、左第1小白歯、左第1大白歯、左第2大白歯、上顎左第3大白歯、上顎右第2大白歯である。

3. 資料2-2（後頭骨の一部）の残存状態

後頭骨は大後頭孔後縁の一部から、外後頭隆起の左側半部が残存する。

4. 性別推定に関する形態学的検査

下顎骨 下顎角幅は広い、歯列はU字形
残存する犬歯々冠部は大きい
後頭骨 外後頭隆起はやや突出
項線の識別は可能

5. 年令推定に関する歯牙咬耗度検査（柝原の分類による）

	上 顎		下 顎	
	左 側	右 側	左 側	右 側
1	—	—	—	—
2	—	—	—	—
3	2'b	—	—	—
4	2'b	—	—	—
5	—	—	—	—
6	1'c	—	—	—
7	1'c	—	—	2'b
8	—	—	萌出（萌出時期は現代人で普通19～22歳頃）	—

6. 資料2についての考察及び結果

下顎骨の形態特徴、外後頭隆起の発達状態、及び歯牙（歯冠部）が大きいことから性別は男性と思われる。年令は第3大白歯が萌出していることから20歳以上であり、また歯牙咬耗度から青年期後半から壮年期の前半（現代人の年齢では30～40歳位）の年代と考えられた。

その他

下顎左第2小白歯は、生前脱落である。

資料3. 頭蓋骨（下顎骨を含む）

1. 外観検査

資料は、ヒトの頭蓋骨1個（下顎骨を含む）であり色調は乳白色、硬度は指圧において容易に砕き得る程度である。

2. 性別推定に関する形態学的検査

額鉛直形は斜角を呈する。

眉上弓、眉間の隆起は強い。

乳様突起は大きく、ごつごつしている。

下顎角幅は広く、下顎体、枝とも強じんな感じである。

下顎体（歯列弓）はU字形。

3. 年令推定に関する歯牙咬耗度検査（柝原の分類による）

	上 顎		下 顎	
	左 側	右 側	左 側	右 側
1	2'b	—	2'b	2'b
2	2'b	—	2'b	2'b
3	2'b	—	—	2'b
4	2'b	—	—	2'b
5	3'	—	—	—
6	3'	—	—	3'歯冠部後欠損
7	—	—	—	生前脱落
8	—	—	—	萌出

※一印は、咬合面を露出できず検査不能箇所である。（骨硬度が弱く、土砂等の浄浄は頭蓋骨の外観を壊す危険がある）

4. 年令推定に関する頭蓋縫合の癒着度検査

(1)冠状縫合 プレグマ部 0～1（不詳明～判定困難）

右迂曲部 0～1（ 〃 ）

左側頭部 0～1（ 〃 ）

(2)矢状縫合、人字縫合は検査部位欠損のため、判定不可能。

頭部の前頭部には、前頭縫合が形成され、癒合はそれほど強くない。（若干の癒合が点在する。）

5. 資料3についての考察及び結果

眉上弓、眉間の隆起、及び乳様突起の発達状態等から性別は男性と考えられ歯牙咬耗度から青年期の後半から壮年期の前半（現代人の年齢では30～40歳位）の年代と考えられた。

6. その他参考事項

下顎右の第1大白歯の咬耗は食物の咀嚼以外に使用されたことも考えられる。

4 上栗須遺跡の馬骨

群馬県立前橋第二高等学校 宮崎重雄

I はじめに

上栗須遺跡は群馬県藤岡市上栗須に位置し、鮎川
の形成した扇状地からなる藤岡台地の上にある。

発掘調査は昭和59年5月から昭和60年3月31日ま
で主要地方道前橋・長澗線道路改良工事ともない
実施された。

この調査の際、馬を埋葬した22基の墓墳群が検出
され、27頭以上の馬骨が発掘された。墓坑は、現
状で直径14～15m、高さ1.5mを測る小野上2号墳の
円墳頂部を利用して設けられたもので、頂部中央の
ほぼ全域に分布していた。当古墳の傍らには1751年
(宝暦元年)の銘のある馬頭観音石造塔が立てられ
ていて、墓坑には覆土中に浅間山を噴出源とする
1783年(天明3年)の浅間山A軽石を含む1号、2
号、3号等と、A軽石を含まないそれより古い14号、
15号、19号等がある。従って、出土した馬骨のほと
んどは江戸時代中期のものであるとみてさしつかえ
ない。

これまで、近世の馬で、これほど明確に時代が特
定でき、個体数の多いまとまった発掘資料はなく、
断片的にしか明らかにされていなかった江戸時代の
馬の形態を知るうえで、当資料は、きわめて重要で
あるといえよう。

本報告は、次のような調査方法を用いてまとめた
ものである。

1) 計測器具は主として1/20mmのノギスを使用し
た。

2) 歯冠長・歯冠幅は^(註1) 仲谷に従ってエナメルを測定し、
歯冠高は頰側を計り、歯槽から脱落しているもの
については歯根分岐部から、歯槽に植立しているもの
については、歯槽縁から測定した。歯以外の部位の
計測は Duerst ^(註2) に従い、その日本語訳は岡部 ^(註3) を用い
たが、筆者が一部改変した。

3) 馬の臼歯の咬合面の名称は Simpson (長谷川、原
^(註4) 田) によった。

4) 馬の年齢推定は Goubaux ^(註5) に従い、切歯の咬合面
の模様から推定した。切歯を欠くものはあらかじめ
年齢推定のすんでいる個体と咬耗度の比較などを用
いて行った。

5) 注は引用文献の番号を意味し、本文、表とも共通
して使用した。

6) 単位は特にことわりのない限り、mmを表す。

II 出土頭数 (表2)

当遺跡では22基の墓坑から少なくとも28個体から
なる馬骨が出土している。墓坑のなかには重複した
り、複数個体が折り重なって埋存していたりするこ
とがあり、さらには馬骨が保存不良で、かなりの部
位を欠損していたりすることが多く、正確な個体数
の確認は不可能であった。本報告では出土した墓坑
の番号に従って、頭骨にナンバリングし、同一墓坑
に2個体以上確認できた場合には個体別に a、b、
c……と符号を付けた。体幹骨、四肢骨で頭骨と同
一個体と認められるものは同じ番号をつけ、同一個
体と考えられるが、それが確認できないものについ
ては?印がついている。ただし7号馬に限っては3
号墓坑から出土したもので、7号墓坑からのものでは
ない。また、同一墓坑から出土したものであ
る a、b、c……それぞれは同時に埋葬されたものと限ら
ない。

III 性別 (表2)

馬骨での性別の判定は犬歯の有無(雌にも小さな
犬歯があることもあるが、その大きさは雄とは明ら
かに違う)、寛骨の形態等で行うが、本報告では、主
として犬歯の有無を判断基準にして、寛骨は保存不
良のことが多いため、補助的な判断材料にするにと

どめた。当遺跡の馬骨のなかで性別の確認できたのは20個体であり、このうち雄が18頭で圧倒的に多く、雌はわずか2頭のみである。江戸時代中期にこのあたりに飼養されていた馬になぜ雄が多いのかは一考を要するが、それは別の機会にゆずりたい。

IV 年齢(表2)

Hope&Jacksonによれば、馬の年齢は5才で人間の20才に相当し、10才で40才、12才で50才、30才で80才にそれぞれ相当する。また、宮下慶正によれば、木曾馬は7、8才の頃から使い安くなり上手に使えば23、24才まで使える。20才前後の馬でも4、5年間は約40貫を載せて山坂道を運ぶ。

当遺跡で検出された27頭のうち20数才を超える老齢馬は9頭、16才から20数才と推定される老齢馬は10頭、10才から15才までの牡馬は7頭、幼駒馬1頭である。このように当遺跡では約70%が老齢馬で、牡馬も高齢な方に属するものばかりである。

老齢馬が18%ほどしか含まれていない古代・中世の遺跡の馬骨(注8・9・10・11・12・13・14)とは年齢構成が大いに異なる。

V 体高(表3)

当遺跡から出土した馬骨の体高推定は、林田・山内^(注15)の方法に従ったが、頭骨の保存が悪く、有効な測定値が得られなかったため、四肢骨の全長からのみ行い、複数の体高推定値が得られた場合にはその平均をもってその個体の体高とした。その結果、当遺跡の馬の体高は最小116.1cm、最大135.1cm、平均126.4cm、であることがわかった。

林田^(注16)は新田義貞が鎌倉攻めをした時の戦馬で死亡した馬、最大38個体分の体高を算出している。それによれば、109cmから140cmの間に分布し、平均は129cmであり、対州馬の状態によく似ている。

当遺跡出土の馬は、鎌倉時代馬に比べて、最大から最小までの範囲が狭く、平均で2.6cm小さい。これは、前者が軍馬で比較的马格の良いものが集められているのに対して、後者は農馬あるいは駄馬として

使われていたと予想されるもので、当時は「1寸倍」などという言葉があるように、体高が1寸多くなると飼料代が2倍かかるということで、飼料代を多く要する大きな馬は敬遠されたためであろう。

江戸時代の馬の体高を文献によってみると「古今要覧」には、4尺(121cm)の馬を世の常とするがゆえに小馬、4尺5寸(136.4cm)を中馬、5尺(151.5cm)を大馬といい……5尺以上の馬は得がたるべし、とある。「考証江戸八百八街」には、体高4尺(121cm)を定尺といって標準とし、この定尺より1寸高いものを「1寸」、2寸高いものを「2寸」と呼び、標準の4尺を下回るときには何寸下回るかで「返り何寸」と呼んだ、とある。

これを参照すると、当遺跡の馬(最小116.1cm、最大135.1cm、平均126.4cm)は小馬に相当するものが多く、中馬に至るものはない。当時流で表すとすれば、最も小さい馬は「返り2寸」弱で、最も大きい馬が、「5寸」弱である。また、平均では当時の馬の標準である定尺(121cm)を「2寸」弱上回ることになる。坂内によれば、幕末の頃の馬の多くは4尺5寸(136cm)以下で、4尺2、3寸(127~130cm)が普通であった。当遺跡の馬は、ほぼこの幕末の馬の体高に相当するが、細かくみると1寸ほど小さめである。

次に日本の在来馬との比較を行ってみる。^(注18)林田によれば、日本の在来馬は体高125cmから135cmの中形馬と、体高100cmから125cmの小型馬に分類される。中形馬には北海道の土産馬、長野県の木曾馬、宮崎県の御崎馬があり、小型馬には南西諸島のトカラ馬、宮古馬、与那国馬、四国の野間馬があり、対州馬は両者の中間型である。これに照らすと、当遺跡の馬は28頭のうち、16頭が中型在来馬に相当する体高をもち、12頭が小型在来馬に相当し、全体的には対州馬の体高のようすによく似ている。

VI 中手骨・中足骨の長幅指数(表13)

長幅指数とは中央幅(骨体最小幅)の最大長に対する比のことである。

当遺跡の馬の長幅指数は、中手骨について見てみると最小12.3、最大16.6、平均14.3である。この値は最小・最大の範囲が鎌倉馬より広がっているもの(註16)の、平均は両者が等しくなっている。また木曾馬の平均にも非常に近い値となっている。中足骨では、最小9.1、最大11.8、平均10.4で、鎌倉馬より最小、最大でそれぞれ0.9、0.3下回り、平均1.0下回っている。すなわち、当遺跡馬は前肢においては鎌倉馬や木曾馬と同様な太さをしてしたが、後肢においてはこれらの馬よりやや細めであったことを伺わせている。

Ⅶ 異常咬耗(表2)

当遺跡の馬には老馬馬が多いため異常咬耗が目立つが、特に著しいものについてのみ記す。

4号馬：上顎で咬耗が特に著しく歯槽骨が海綿質化している。左上顎第一後臼歯(LM⁴)は近心根が頬骨の2根に分離し、遠心根も頬骨に分離し、現状では脱落している。右上顎第一後臼歯(RM⁴)は脱落しているが、その歯槽はきわめて浅く、遠心側では歯槽の痕跡をほとんど残さないほどである。上顎第二前臼歯(LP³、RP³)は左右とも近心側の歯冠が咬耗のため分離し、現在は脱落している。右の下顎咬合面は中程度の波形を呈し、第二前臼歯(RP₂)近心端と第三前臼歯(RP₃)・第四前臼歯(RP₄)間にそれぞれ咬合面の頂点があり、RP₂中葉、RP₂・RM₁間、RM₂遠心端にそれぞれ谷がある。

6号馬：咬耗は強く進み、LP₃は近・遠心の2根に分離している。RP⁴とRM⁴は歯槽が浅くて現在は脱落している。咬合面は左右とも波高の高い波形を呈し、左下顎骨ではLP₂近心端とLM₂後葉でそれぞれ頂点をなし、LP₂の中葉とLM₂・LM₂の間でそれぞれ谷をなしている。右下顎骨でもまったく同じ部位で頂点と谷が形成されている。

13号a：左下顎骨で咬耗が進み、LP₂が近・遠心の2根に分離し、そのうち近心根の方は脱落している。LM₂・LM₂ではそれぞれの近心端が尖るように高くなっているが、その程度はLM₂の方が著しい。

咬耗面は山形を呈し、歯列弓の近心側端から遠心側へだんだんと高さを増し、LP₂の後葉で頂点をなし、徐々に低くなってLM₂の遠心端で最低となり、ほぼ歯槽縁近くまで至っている。

13号馬b：弱い波形の咬耗面をなし、右ではRP₃・RP₂間とRM₂・RM₁間が浅い谷になっている。

14号馬：咬耗面は中程度の波形を呈している。左下顎骨ではLP₂・LP₂間、LM₂中葉、LM₂遠心端の3カ所で頂点をなし、LP₂近心端、LP₂中葉、LM₂・LM₂間の3カ所で谷をなす。右下顎骨では、RM₂・RM₁間がやや高くなり、RP₂・RM₁間とRM₂・RM₁間がやや低くなっている。RM₂は近心側に傾斜して傾立しているため遠心側が高くなっている。

15号馬：下顎骨ではLP₂が歯槽が浅くて脱落している。LP₂とLM₂が2根に分離しLP₂とLM₂が2根に分離する直前まで咬耗している。下顎骨ではRP₂が早い時期に脱落したらしく、歯槽は閉鎖している。RP₂は近・遠心の2根に分離しRM₂とRM₂が分離する直前である。咬耗面は中程度の波形を呈し、左下顎骨では、LP₂・LM₂とLM₂遠心端のそれぞれに頂点があり、LP₂近心端とLM₂中葉が谷になっている。右下顎骨の咬耗面では、LP₂の遠心端が急な段差をなして低くなり、それからゴツゴツした面をなしながらLM₂まで高まっていく。

16号馬：上顎では右の方がやや咬耗が進んでいる。咬耗面は、中程度の波形を呈し、下顎骨では左が緩く凹湾しているのに対し、右では逆にRP₄後葉で最も高い凸湾状を呈し、その湾曲の程度は左より強い。

18号馬a：咬耗が激しく進んでいて、金属のような堅いものを咬み続けていたと思われる。左下顎骨では特に咬耗が激しく、LP₂とLP₂ではわずかに歯根が残るのみで、LM₂では歯冠エナメルが完全に咬耗し尽くされている。LM₂も咬耗が著しくエナメルは遠心側と頰側の縁のみみられるだけである。LP₂とLM₂は脱落している。両者とも歯槽が浅く、歯根

のみ残存していたようである。また、右下顎骨でもほとんどの歯が周囲にエナメルを残すだけとなっている。歯を咬み続けた場合には、Bököny: (1919) 時代(註19)の馬の例を報告しているように、近心端の前臼歯に咬耗が限られる。手綱を咬んだ場合も Clutton-Brock (註20) の報告のように前臼歯に限られる。

19号馬: 咬耗が激しいわりには珍しく、上・下顎とも左右等しく咬耗が進んでいる。P₂・P₃とも歯根が2根に分離し、P₃・M₁の歯根が2根に分離する直前まで至っている。

22号馬: 下顎では左右とも P₂、P₃の歯根が2根に分離する直前まで至っている。左上顎では咬耗による波形がひどく、垂れ幕形を呈し、L P₂近心端、L M₂近心端、L M₃遠心端にそれぞれ頂点をもち、L P₂、L M₂にそれぞれ谷が存在する。

これらの波形咬耗している個体では、近遠心方向の咬耗が困難で、唯喙が十分に行なわれず、栄養失調となり、寿命を縮めたものと思われる。歯冠エナメルが咬耗し尽くされている個体についても同様である。

VIII 病 理 (表2)

老馬では辺縁性歯周炎を患っている個体が見ら

れ、6号、11号、15号、18号aなどの各馬で目立つ。10号馬の後肢では左右とも、距骨、踵骨を除く各足根骨が相互に癒合し、さらに中足骨の近位関節面とも癒合して、慢性的飛節腫を患っていたようである。後肢の動きが不自由で、それほど、老馬馬でないのに、すでに重労働には耐えられなかったであろう。20号a?馬では左肩甲骨の関節窩の周囲に骨増殖が見られ、右前肢の動きに不自由があったようである。

IX 伴出動物

伴出動物としてはイヌがある。3号墓坑から犬歯1、脛骨1、脛骨1と11号墓坑から上脛骨1が出土している。また、出土墓坑不明の踵骨1、距骨1、環椎1、腰椎2と歯冠近遠心径が20mmの下顎裂肉歯(第一大臼歯)1が出土しているが、この歯の径は茂原・小野寺の報告している仙台城三ノ丸跡出土の雄の17世紀犬(20mm)と等しく、現生シバイヌの雄(18.5mm)よりかなり大きい。

おわりに、本稿をまとめるにあたって、斎藤昭氏をはじめとする群馬県埋蔵文化財調査事業団の長瀬線バイパスの整理班の皆様には多大なご協力いただき心よりお礼申し上げます。

引用文献

1. 仲谷英夫 (1979) ウマ科動物の骨格計測表(その1)、化石研究会誌、12、5-19
2. Duerst, J.U. (1926) *Vergleichende Untersuchungsverfahren am Säugetier Skeletts*.
3. 岡部利雄 (1963) 本曾馬について「日本在来馬に関する研究」、日本学術研究会、75-162
4. Simpson, G.G. (1951) *Horses*. Oxford University Press, New York. 一長谷川善和監修、原田俊治訳 (1979)「馬と進化」、どうぶつ社
5. Goubaux, A. and Barrier, G. (1926) *The Exterior of the Horse*. Lippincott, Philadelphia.
6. Hope, C. and Jackson, G. (1973) *The Horse*. Ebury Press & Pelham Books, London.
7. 宮下慶正 (1988) 本曾馬「信州馬の歴史」信州馬事研究会編、信濃毎日新聞、118-153
8. 大江正直 (1982) 日高遺跡出土の馬歯・馬骨「日高遺跡」、群馬県教育委員会・群馬県埋蔵文化財調査事業団、398-416
9. 宮崎重雄 (1985) 柳久保水田跡出土のブタの脛骨と馬歯「柳久保遺跡群1」、前橋市埋蔵文化財調査会刊、92-93
10. 宮崎重雄 (1985) 野火付遺跡出土の馬骨について「野火付遺跡」、前橋市埋蔵文化財調査委員会、157-159
11. 宮崎重雄 (1986) 吉岡村大久保A遺跡出土の馬歯・馬骨「大久保A遺跡」、吉岡村教育委員会・群馬県教育委員会・日本道路公団、372-378
12. 宮崎重雄 (1986) 長野県佐久市池畑遺跡出土の馬と牛の骨について「池畑」、佐久市教育委員会・佐久埋蔵文化財調査センター、50-60
13. 大江正直 (1987) 下東西遺跡出土の獣骨、獣骨について「下東西遺跡」、群馬県埋蔵文化財調査事業団・群馬県教育委員会、916-931
14. 宮崎重雄 (1988) 三ツ寺1遺跡出土の獣骨類について「三ツ寺1遺跡」、群馬県教育委員会・群馬県埋蔵文化財調査事業団・東日本旅客鉄道株式会社、264-282
15. 林田重幸・山内忠平 (1957) 馬における骨長より体高の推定法、鹿児島大学農学部研究報告、6、146-156
16. 林田重幸 (1957) 中世日本の馬について、日本畜産学会報、28、301-306。
17. 坂内誠一 (1988) 「若い目のみた日本の馬」、繁華書林
18. 林田重幸 (1987) 「日本在来馬に関する研究」、日本中央競馬会
19. Bököny (1968) 「Baker」 and Brothwell, D. (1980) *Animal Diseases in Archaeology* Academic Press より引用
20. Clutton-Brock (1974) 同上
21. 茂原信生・小野寺寛 (1985) 仙台城三ノ丸跡出土の17世紀犬について「仙台城三ノ丸跡発掘報告書」、547-559

表1 頭骨計測値
上顎骨

	1号	4号	5号a	8号a	11号	18号	19号	20号2
A 長さに関する測定部位								
2 Vertexの長さ			624.0					
3 鼻骨の長さ			153.8+					
10 切歯中央線-鼻骨上顎結合			149.0+					
B 幅に関する測定部位								
1 前額の幅	168.0							
2 口の幅			72.8					
3 鼻骨前頭結合間の距離			38.7					
4 鼻骨幅(前部)			57.1					
5 鼻骨幅(後部)			61.7					
7 前頭の幅	128.0							
9 最大幅			113.6					
10 後頭の幅	77.0							
11 後頭顆の幅			85.7					
12 後頭顆最下縁の距離			34.0?			35.0?		
15 眼窩後方における最大幅	168.0							
17 顔の幅	164.0							
19 口蓋の幅(1)	61.7	70.8	61.5	60.4			58.0	60.4
20 口蓋の幅(2)	135.2	134.0	118.9	125.4	138.6			111.6
21 口蓋の幅(3)			113.4+	116.7				108.0
22 口蓋弓の直径	48.8	53.0	46.8					
C 高さに関する測定部位								
4 鼻骨先端の高さ			60.6					
5 鼻骨上顎切歯最後点の高さ			72.4					
6 眼窩最前点の高さ			25.0+					
5 P4-M1における垂直高	104.0							

下顎骨

	1号a	3号a	4号	5号a	6号a	8号a	10号a	11号	12号	13号b
A 長さに関する測定部位										
1 下顎骨の長さ	369.6	380.0					308.6+			419.4
2 槽間線の長さ	82.0	86.3					56.8+			74.8
4 下顎関節骨結合の長さ	71.5	53.6								89.0
5 M3-下顎角の長さ	108.0	114.8					106.0			118.0
6 下顎体の長さ	248.5	244.0					263.0			277.1
7 下顎枝の長さ	133.0	146.8					129.3			150.0
8 下顎骨基礎の長さ	356.0	358.0					349.4			375.0
9 下顎骨前部の長さ	97.0	79.2								115.5
10 下顎骨中部の長さ	143.0	156.3								157.0
11 下顎骨後部の長さ	106.0	117.4					90.0			106.0
B 幅に関する測定値										
1 関節突起幅										215.0
2 下顎関節骨結合の最大幅	42.2	33.0+								
2' 下顎関節骨結合の最小幅	35.0								39.5	39.2
3 P2間の幅	35.0						37.6			
4 P4-M1境界部間の幅	33.0						47.4			52.0
5 M3間の幅	57.7						65.2			65.4
10 下顎角最大幅		21.5					17.2			16.9
C 高さに関する測定部位										
1 関節突起の高さ	24.7	24.4					185.0			
4 P2の高さ	46.5	62.0	65.0				51.6		60.8	
5 P4-M1の高さ	68.6	74.7	81.3				70.6		67.0	
6 M3の高さ	97.8	93.7					92.7		91.7	
7 筋突起の高さ	120.3									

付 篇

下顎骨

	14号	15号	16号	17号	18号	19号	20号 a	20号 b	22号
A 長さに関する測定部位									
1 下顎骨の長さ				422.0					
2 標頭線の長さ							82.6		
4 下顎関節軟骨結合の長さ									
5 M3 - 下顎角の長さ	130.7	117.4	107.6	107.7	112.0		101.6		
6 下顎体の長さ				253.3			263.0		
7 下顎枝の長さ	156.5								
8 下顎骨基底の長さ									
9 下顎骨前部の長さ				85.4					106.4
10 下顎骨中部の長さ	159.6			71.5			163.0		154.7
11 下顎骨後部の長さ							99.3		
B 幅に関する測定値									
1 関節突起幅									
2 下顎関節軟骨結合の最大幅				58.4					
2' 下顎関節軟骨結合の最小幅				35.7					31.4
3 P2 間の幅				32.2			39.2		
4 P4 - M1 境界部間の幅				75.5			44.6		
5 M3 間の幅							42.7+		
10 下顎角最大幅	25.0	19.4	21.4	22.0	23.7		19.5		
C 高さに関する測定部位									
1 関節突起の高さ	229.8						192.4		211.5
5 P2 の高さ		61.0	52.6	47.2	53.0	56.8	57.0	56.6	58.0
5 P4 - M1 の高さ	83.7	77.6	71.2	67.0	74.5	73.4	70.6	71.8	78.5
6 M3 の高さ	110.5	108.0	96.9	98.6	101.7	108.0	92.2	100.2	102.7
7 新突起の高さ									

表2 上栗須出土馬骨概要

	1号	2号	3号	4号	5号 a	5号 b	6号 a	7号	8号 a	10号 a	11号	12号	13号 a	13号 b
1 性別	?	?	♀	♂	♂	♂	♂	?	?	♂	♂	♂	♂	♂
2 年令	15~20歳	16~20歳	13~15才	20歳以上	16~20歳	20歳以上	20歳以上	3±	13-15	13-15	16~20歳	20±	20歳以上	16~20歳
5 観察所見		顆粒形	顆粒形	中波形			強波形						中波形	顆粒形
6 病理				歯槽膿漏			歯槽膿漏			炎症腫	歯周炎			

	14号	15号	16号 a	16号 b	16号 c	17号	18号	19号 a	19号 b	20号 a	20号 b	20号 c	22号
1 性別	♂	♀	♂	?	♂	♂	♂	♂	?	♂	♂	?	♂
2 年令	20歳以上	20歳以上	15~20歳	16~20歳	20歳以上	13~15才	16~20歳	20歳以上	20歳以上	13~15才	13~15才	13~15才	16~20歳
5 観察所見	中波形	中波形	中波形				強波形						強波形
6 病理			歯周炎				歯周炎						

表3 推定体高

個体	1号	2号	3号 a	3号 b	4号	5号 a	5号 b	6号 a	6号 b	8号 a	8号 b	10号	11号
体高	118.6	125.8	131.0	128.3	124.8	122.6	125.1	130.8	116.1	129.6	119.2	125.0	135.1

個体	12号	13号 a	13号 b	13号 c?	14号	15号	16号 a	16号 c?	17号	19号 a	20号	20号 b	21号 a
体高	127.5	129.7	120.3	127.2	126.6	123.7	123.0	131.6	121.7	127.4	120.9	132.1	125.8

個体	21号 b	22号
体高	132.1	132.6

表4 肩甲骨計測値

	1号	2号		4号a?		5号a		6号a		8号a		10号a	11号	12号	13号a
	No9	No9	No8	No1	No5	No25	No	No	No22	No7	L	L	No13	No	
	L	R	L	R	R	L	R	L	L	L	L	R	R		
1 生理的長	254.0+	217.4+	214.8+	108.0+	315.0+	275.6+	252.6+	256.6+	255.4+	190.7+	291.8+	310.0+	249.5+		
8 肩甲頂部幅	54.6	54.5	53.9+		57.3	56.6	53.6	52.8	54.0	52.0	60.4	61.0	50.7		
10 肩關節部頭尾径	76.0+	79.4+	83.0	83.6	87.6	83.3	76.0	75.8	76.0		83.2		74.0		
12 烏口突起長		44.8+	47.6	42.0+	37.4	39.7	34.0	34.0	38.0		39.5		35.8		
13 肩關節窩横径	39.0	39.1	38.9	31.1+	43.8	44.4	38.2	38.6	38.4	38.2	43.6		36.6		
16 肩峰幅	10.2	11.0	11.6		10.4		11.4	11.4	12.4	12.1	11.6		8.9		

	13号a	13号b	13号b	14号	15号a		16号a	17号	18号?	19号a?	20号a?		22号
	No19	No21	No19	No14	No17	No16	No31	No12	No9	No	No12	No14	No
	L	R	L	R	R	L	L	R		L	R	L	R
1 生理的長	241.8+	320.0	330.0	255.0+	253.4+	245.0+	252.2+	235.5+	272.0+	211.0+	226.0+	223.0+	231.2+
8 肩甲頂部幅	61.2	59.6	60.0	55.6	56.9	56.8	54.3	63.9	51.4	53.5		50.3	
10 肩關節部頭尾径	75.3	80.4	83.0+	86.3+	80.2	82.9	81.8R	77.0	83.2	85.7	78.8	87.5	
12 烏口突起長	34.4	44.2			45.2	46.4			43.3	38.7		42.2	
13 肩關節窩横径	33.3	39.1	40.1	42.0+	39.4	41.0	39.4R	33.6	32.0+	43.0	45.1	36.0	32.8
16 肩峰幅	8.3	11.2	12.0	12.8	9.2	9.4	10.2	10.3	11.1	12.4L		10.2	12.2

表5 上腕骨計測値

	1号	2号		3号a		5号a		8号a		13号a		14号	
	No6	No1	No2	No	No12	No9	No13	No15	No	No22	No15	No14	
	L	R	L	R	R	L	R	L	R	L	R	L	
1 最大長	246.0	216.2+	259.2	127.2+	238.0+	260.0		269.2		264.4	264.0		
2 生理的長	234.0		249.0		82.5+				255.6	254.0	263.6		262.4
8 近位部最大幅	53.0+							64.0+	71.8+	63.8+	63.2		
9 骨体最小幅	28.7	28.7	29.9		33.6	31.6	31.0	29.0	29.0	30.0	33.5	32.2	
10 遠位部最大幅	67.0	62.4+	61.7				61.6	63.7	65.8	62.0	68.0	53.6+	
11 滑車幅		58.6	60.0+	69.8			56.3	62.3	61.1	61.8			
12 尺骨頭窩幅	20.1		17.2+	23.8			23.0	25.0	22.5	22.0			
16 骨体最小径	32.0	37.1	36.8			37.0	32.4	36.9	35.2	34.4	41.0	39.0	
17 内側滑車径		39.2	38.9	75.7				75.7	72.0	70.6			
18 外側滑車径	43.6	42.1	42.5	46.6			47.7	45.5+	46.4				
21 滑車最小径	32.6	32.9	33.0	36.5		33.4	33.2	32.7	31.2	31.5			
23 滑車最小周	98.0		110.0				112.0	112.0	105.0	100.0	118.0		

	15号a		16号a		16号b?		17号	18号?	19号a		20号a		22号a	
	No14	No13	No	No2	No21	No10	No5	No	No6	No	No	No	No	
	R	L	R	L	L	R	R	R	L	R	L	R	L	
1 最大長	262.0				190.0+	257.4	218.0				168.0+	263.2	228.0+	206.6+
2 生理的長	250.8	250.8	252.2	252.2		256.5			253.0	253.8		247.5		
8 近位部最大幅												66.4		
9 骨体最小幅	32.2	32.4	33.4	32.6	33.8	29.7	30.6	29.8	29.3	28.8	30.1	31.6	30.4	
10 遠位部最大幅	68.3+	63.6+	68.1			67.1				66.7	71.6			
11 滑車幅			56.4			58.0			61.9	58.0		60.3		
12 尺骨頭窩幅			24.4			19.0						22.2		
16 骨体最小径	36.7	36.8		37.4			39.4	36.7			32.8	34.4	34.2	
17 内側滑車径			74.0	77.5		69.5	76.2	74.0		74.6	75.5			
18 外側滑車径							45.0+			39.8		49.4		
21 骨体最小径			33.0	32.0			31.9	33.2	33.6	33.7	32.0	31.6		
23 骨体最小周	112.0	113.0	115.2	114.0	115.2	104.8	112.5	109.5	108.0		111.0			

付 属

表6 腕骨計測値

	2号 a	3号 a ?		5号 b		6号 a ?		8号 a		8号 b		10号 a	10号 b
	No	No1	No2	No9	No8			No12	No14			No11	No
				R	L	R	L	R	L	R	L	R	
1 生理的内長	307.4							330.6	318.4	319.5		306.0	
2 最大長	319.2	74.2+		315.0	294.2+	328.6	332.6	330.1	331.5	254.6+	220.0+	318.0	245.4+
6 近位端幅	64.2+				71.0	56.5+	64.5	56.0+	66.0			61.8+	
8 骨体中央最小幅	32.6			33.0		30.4+	31.0	31.2	31.0	34.0	35.1	31.5	
9 遠位端幅	61.5+	64.2+	72.7	56.2+		51.4+	59.6	44.5+	61.7			60.6	
10 腕関節面幅		53.0+	56.4				56.4		55.5			48.0	
12 近位端小頭径	40.4				42.8	38.0	37.0	40.6	37.0			38.7	42.3
13 近位関節面径	32.2				34.0	30.1	30.7	31.8+	32.4			31.7	32.3
14 骨体中央径	22.1						22.2	23.0	22.4	25.5+	24.0	22.0	26.6
15 遠位端径	36.6+	42.0	45.0				38.4		39.0			35.3	
18 骨最小周	93.1				88.0+	93.0					90.0		

	10号 b	11号		13号		14号		15号		16号 a		17号
		No9	No2	No	No	No1	No2	No15	No12	No28	No31	No9
		L	L	R	L	R	L	R	L	L	L	R
1 生理的長	318.0	329.2		312.0+	313.4	330.6	330.0	283.6+	215.0+	308.6		306.2
2 最大長	255.0+	332.4	337.2	312.0+	313.4	330.6	330.0			309.8	292.2	315.5
6 近位端幅		78.2	66.4+	69.9	59.6+	67.0	58.6+			65.7		64.4
8 骨体中央最小幅	35.0	36.2	35.4	31.2	35.8	35.7	35.9	33.8		34.3		31.5
9 遠位端幅		64.3+	62.4	60.0+	61.0+	54.3+						50.0
10 腕関節面幅		54.4+		41.0+								
12 近位端小頭径		46.2	42.4	39.9	39.2		40.2	39.3	37.5+	41.0	40.3	39.2
13 近位関節面径		34.4	32.0	32.2				31.0				28.5
14 骨体中央径	27.2	26.7	28.7	22.0	24.0	25.2	25.8	24.3				23.8
15 遠位端径				34.6+	38.6							
18 骨最小周				90.0		103.8	103.0			98.0		90.0

表7 中手骨計測値

	2号	3号 a		5号 a ?		6号 a ?		8号 a		10号 a		11号	13号 c
	No3	No10	No7	No15	No8	No	No	No2	No1	No10	No5	No	No
		L	R	L	R	L	R	L	L	R	L	L	R
1 最大長	212.6	218.4	212.2+	177.0+	205.8	214.5	215.0	214.4	213.2	214.2	214.2	231.0	214.0
2 外側の長さ	209.8	214.8			200.8	211.0	207.2	205.0	204.5	207.4	208.0	213.0	205.3
3 生理的な長さ	210.0	218.0	212.0+		204.8	213.0	214.2	214.4	212.2	213.0	213.4+	222.6	213.3
4 内側の長さ	203.2	211.1	209.1		198.0+	212.1		206.6		210.4	211.4	217.0	
9 近位端最大幅	42.2	43.0	40.4+	43.5	39.5+	36.1+	44.2	44.8	36.6+	45.5	42.0	43.8+	48.0
10 近位関節面最大幅		28.7	32.2	31.1		29.5	42.4	42.7		42.6		37.0+	43.8
11 骨体最小幅	26.1	34.2	37.2		29.5	16.0+	27.2	27.0	26.1+	29.0		33.4	35.6
14 遠位端最大幅	43.6	43.0	40.8		43.3	38.8	37.4	36.6+	39.4+	41.6	40.8	44.8	
18 近位骨端径	28.2	30.0	29.1?	30.6	26.7	38.5	31.8	29.7	28.0	28.4+	29.1		31.7
20 骨体最小径		19.4	17.6	18.2	16.8			18.0	17.3	17.6		20.3	20.5
23 掌側関節面最大径		32.4	30.0	28.9+	33.6	30.3				31.0	32.6	34.0	32.4
24 内側関節面径		25.7	25.7		27.1			25.1				27.2	27.0+
25 外側関節面径		22.7	23.2		26.8				28.4	27.0	26.4	29.7	

	14号	15号?	16号a	16号b?	19号a		20号b?		21号a		21号b	22号?	
	No3	No2	No28	No3	No11	No10	No	No	No	No	No	No	No
	R	L	L	L	R	L	L	R	L	L	R	L	
1 最大長	83.4+	137.0+	188.7	218.2	213.2	213.7	216.1	207.4	209.1	215.8	215.0	220.4	
2 外側の長さ			193.2			205.6							
3 生理的な長さ			198.3		213.2	212.4			208.4				
4 内側の長さ			191.2			204.6							
9 近位端最大幅		46.2	43.3			41.1					46.4	48.6	
10 近位端最小幅			38.0		43.2	35.0							
11 骨体最小幅	31.6	29.5	30.0	30.0	29.0	28.9		29.8	32.4	31.4		35.0	
14 遠位端最大幅			41.8			42.4		45.3					
18 近位骨端径		32.4	29.8			28.8					30.7	32.2	
20 骨体最小径			20.7			20.3					22.6	25.5	
23 遠位端中央径			20.0+	35.2		30.0	33.3		34.4				
24 内側関節面径					28.3	28.2	27.4			29.2			
25 外側関節面径		25.6+				27.2				27.5			

※

表8 寛骨計測値

	1号	3号a	4号?	8号a	13号a		13号b		17号a		19号a	20号?	21号a
	No3	No	No18	No21	No2	No16	No12	No20	No15?	No8	No1	No	No
	R	R	L	R	R	L	R	L	R	L	L	L	L
1 寛骨長	192.3+	106.9+	216.2+			320.2+	330.0+	319.2	79.2+	298.4+	233.7+	266.5+	280.0+
7 寛骨白長		67.1	56.4	53.8	60.1	59.8	56.2	57.7	56.8	54.0	63.6	52.2	56.5
9 閉鎖孔長さ		71.1	59.7	68.7	70.8	69.8			61.0	61.8	60.5		
13 寛骨臼頭最小径		29.0	23.2		33.4	32.6	30.0		31.4				38.0
15 腸骨体最小幅	33.8	45.0			42.1	42.6		32.3				35.5	40.4
19 坐骨外側枝幅		29.6	24.3		28.2	29.0	21.2	20.6		37.8	26.0	24.7	25.4
22 坐骨板最大幅							24.2			24.1			
4 寛骨臼間幅					217.2		175.0+	230.0					
5 骨盤入口中央幅					161.0		107.2+						
6 骨盤入口腹側幅					107.8		110.0						
9 坐骨切痕間最小							97.2	33.1					

表9 大腿骨計測値

	1号	3号a	5号a	8号a	10号a	13号a	13号b	13号c	16号a	16号b?	17号	20号a?	21号a
	No2	No13	No17	No20	No15	No10	No1	No14	No3	No14	No3	No	
	R	R	R	L		R	L	R	L	L	L?	R	
1 生理的長	271.0+	333.4+	231.7+	335.0	305.6+	326.5		249.2+	279.3+	280.0+	180.0+	312.0	258.0+
2 転子からの長さ				358.6+	350.0	352.7	377.4					323.3	
3 骨頭からの長さ				335.0+		333.7	360.5						
6 大腿骨頭高		52.3	51.3	49.4		47.0	50.7						
12 近位端最大幅		107.5	98.4	103.4		98.9	111.2						
13 頭最大幅			52.8			46.6+							
16 骨体最小幅	31.0	37.0		31.0	33.2	39.3	36.3	32.0	36.8	35.7			38.4
18 遠位端最大幅			73.0+	77.4+		29.2+	74.5					68.6	
19 頭最大幅			72.0	77.4+		79.2	75.0+						
23 頭最大幅		50.9+		50.0		45.8+	57.4						
25 近位骨端径				56.6+		55.2+							
28 骨体最小径	42.0	43.6		42.0	38.4	38.0	46.2	45.0					
29 骨体遠位端最小径	45.4			42.5									
30 遠位最大径					106.6						82.0		
34 骨体中央周	117.2+	150.0		120.0	135.0		110.0			135.5		118.5	

付 属

表10 脛骨計測値

	1号	2号	3号b	4号?	6号a	8号a		8号b	10号a	10号b	12号a		13号a
	No.4	No.6	No.29	No.15	No.8	No.11	No.19	No.14	No.12	No.	No.4	No.7	No.24
	R	R	R			R	L	L	R		R	L	R
1 最大長	324.0	325.5	328.0	243.0	303.0	338.0	337.4	172.6+	319.1	248.8+	328.0	323.4	313.0
3 内側長		306.0	311.0			317.2	316.2				291.6	294.0	285.5
4 外側長	306.0	295.5	320.0			298.6	311.0		292.3		296.0		290.3
5 中央軸長		306.4				317.6	319.0				309.1	306.4	299.6
6 近位骨端最大幅	64.0+	69.0+	74.3+			72.2	71.8		74.0+		63.0	62.4+	72.2
7 近位関節面最大幅		62.7+					67.4		68.4	63.3+			
9 骨体最小幅	31.5	33.4		35.6		30.0		35.1	31.4	33.4	35.3	34.5	32.2
10 遠位骨端最大幅		53.2+	64.6			50.0	56.8		61.5		62.3	65.9	64.4
12 近位骨体最大径		55.6+	71.0+			77.0	64.4+		66.5+		73.4+	60.7+	57.8+
13 骨体最小径	23.4	23.7	25.1+			23.2	23.6		23.2	23.5	25.2	26.4	24.4
14 遠位骨端最大径	31.8+	39.4	38.0+			44.3	37.0		47.8		39.3	40.0	39.1
22 遠位関節面径		43.3				43.6+	47.8		47.8		52.0	53.0	52.6
23 遠位外側関節面径		21.0				22.0	26.4		19.7+		25.0	25.0	21.0
24 遠位内側関節面径		18.9				21.6	22.0		16.0+		20.0	20.5	24.9
26 遠位関節面径		39.3				36.0	36.0		32.0		35.4	35.4	34.03
27 骨体中央径	94.0	100.0	130.0	102.0		94.0	94.0		93.0		100.0	100.0	94.0
28 骨体最小径	91.0	98.0	110.0	101.0		89.0	91.0				100.0	100.0	94.0

	13号b	13号b	15号a	16号a		16号b?	16号c?	19号a	20号a		20号b?	21号a
	No.4	No.3	No.4	No.27	No.26	No.16	No.21	No.13	No.3	No.3	No.	No.
	R	L	R	R	L	L	R	L	R	L	L	R
1 最大長	346.4	340.0	275.6+	323.5	300.0+	331.4	238.7+	266.9+	305.2	308.4	264.1+	
3 内側長	330.6	325.0		308.0								
4 外側長	322.0	310.2+										
5 中央軸長	328.8	325.0							290.4			
6 近位骨端最大幅	70.6+	82.0+		68.7					85.5			
7 近位関節面最大幅												
9 骨体最小幅	38.2	38.0	34.8	35.5?	36.5	34.6	34.3	31.6	32.4	32.4		
10 遠位骨端最大幅	61.7	50.0+							50.3	69.0	69.5	
12 近位骨体最大径		94.8							71.4			
13 骨体最小径	27.6	26.0	25.0		25.1		26.7					
14 遠位骨端最大径	39.8			40.5						36.2	38.6	
22 遠位関節面径	47.4			48.7	47.2			43.0+			50.4	44.2
23 遠位外側関節面径	37.8											
24 遠位内側関節面径	19.0											
26 遠位関節面径	33.6				33.3			37.8		31.8	38.2	34.4
27 骨体中央径	110.0			108.0	110.1	101.0	110.2			99.0		
28 骨体最小径	105.0											

表11 中足骨計測値

	2号	3号a		6号a		6号b	8号a		8号b		10号a	
	No.3	No.3	No.6	No.6	No.3	No.	No.6	No.5	No.6	No.7	No.4	No.7
	R	R	L	R	L		R	L	R	L	R	L
1 最大長	253.0	265.4	264.0	258.8	258.4	236.0	254.0	256.8	233.7	235.0	246.0	258.0
2 外側の長さ	253.0			252.5	255.6	230.6	251.3	254.0	230.3		253.0	251.0
3 生理的長さ	250.0	285.3	259.0	254.2	256.3	234.0	253.7	256.4	238.0		257.6	261.0
4 内側の長さ	249.4	258.3	254.2	250.4	251.4	226.2	246.5	246.6	226.0		247.6	248.6
9 近位端最大幅	44.2	43.1	43.2	41.3	42.0	43.8	43.0	42.0	44.4	43.8+	46.4	44.6+
10 近位関節面最大幅	42.3			37.7+	42.0	43.8	37.0+	41.6	43.4	40.0+		
11 骨体最小幅	25.4	28.7	28.8	27.6	25.0+	23.2	24.8	25.6	25.2	27.6	24.1	23.9
14 遠位端最大幅	25.3			43.0	42.1	40.5	43.4	42.1	40.0		37.1+	41.3

4 上栗須遺跡の馬骨

	2号	3号 a		6号 a		6号 b	8号 a		8号 b		10号 a	
	No.3	No.3	No.6	No.6	No.3	No.	No.6	No.5	No.6	No.7	No.4	No.7
	R	R	L	R	L		R	L	R	L	R	L
18 近位骨端径	40.0	39.3		43.6	39.8	37.6	43.6?	38.8	36.1		43.0	39.8+
19 近位関節最大径				35.4?	37.0	31.8	18.4+	21.8			20.5+	23.8
20 骨体最小径	22.2	24.4	25.3	18.0	20.5	20.1	26.2	24.2	19.4			
23 遠位関節最大径			32.6	30.4	33.8	32.2	30.2	33.5	32.2			34.3
24 内側関節面径	36.5+				37.0		22.9	21.0	26.0			27.7
25 外側関節面径							22.9	23.0	23.0			24.5

	10号 b	12号 a		13号 a		16号 a		16号 b?	18号?	19号 a	20号 a?	21号 a	22号
	No.5	No.2	No.9	No.8	No.7	No.27	No.26	No.5	No.6	No.13	No.3	No.	No.
		R	L	R	L	R	L	L	R	L	L	R	R
1 最大長	227.2+	255.2	254.3	259.0	257.0	246.4	244.6	267.4	247.6+	259.8+	242.4	187.2+	
2 外側の長さ		247.6	246.1	255.0	255.2	236.0	238.0						
3 生理的な長さ			253.4		250.6	244.6	243.6	264.9		262.2			
4 内側の長さ		244.4	245.8			240.0	236.2	261.5					
9 近位端最大幅	36.4	43.3+	44.1	38.7+	46.6	46.0					43.0	38.7	42.8
10 近位関節最大幅		42.3	40.0			43.2	44.2			42.3	25.2		
11 骨体最小幅	26.6	25.0	27.9	30.5	30.4	28.0	27.3	24.3	29.1	26.2		25.2	29.0
14 遠位端最大幅		37.9	37.9	40.6+	44.6	43.0	40.6+						
18 近位骨端径		39.6	40.9	37.7	37.6+	38.8	44.0		39.0				
20 骨体最小径	23.2									37.6			
22 遠位関節面径						24.4	23.3				24.5		
23 遠位関節最大幅					33.8	24.0	25.8	24.8					27.1
24 内側関節面径			28.8		29.0	24.4	31.0						
25 外側関節面径		25.7+			27.4+	25.5	27.2	28.1					

表12 中手骨長幅指数

	2号 a	3号	4号 a?	6号 a	8号 a	10号 a	11号 a	13号 c	16号 a	16号 b	19号 a
長幅指数	12.3	15.7	14.3	12.7	12.6	13.5	14.5	16.6	15.1	13.7	13.6

	19号 a	21号 b	21号 a	21号 b	22号
長幅指数	13.5	14.4	15.5	14.6	15.9

表13 中足骨長幅指数

	2号 a	3号 a	6号 a	6号 b	8号 a	8号 a	8号 b	8号 b	10号 a	10号 a	12号 a	12号 a
長幅指数	10.0	10.8	10.7	9.6	9.8	10.0	10.8	11.7	9.9	9.3	9.8	11.0

	13号 a	13号 a	16号 a	16号 a	16号 b	20号
長幅指数	11.8	11.8	9.9	11.2	9.1	10.4

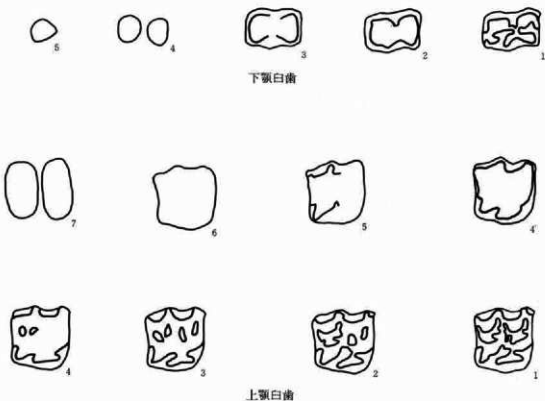
表14 中手骨・中足骨の長幅指数比較表

	中 手 骨			中 足 骨		
	最 小	最 大	平 均	最 小	最 大	平 均
上 栗 須 馬	12.3	16.6	14.3	9.1	11.8	10.5
鎌 倉 馬*	13.2	15.6	14.3	10.0	12.1	11.4
木 曾 馬*	13.2	15.5	14.1	10.2	12.4	11.1

表15 全臼齒列長

		1 号	3号 a	4 号	5号 a	5号 b	6号 a	8号 a	10号 a	11 号	12 号	13号 a	13号 b	14号
上顎	L 咬耗面 齒槽線	140.5		134.8+ 134.9+	152.2	150.0	142.4 143.7	151.7 154.4	155.0 156.0	147.6 154.4	146.6		152.5	
	R 咬耗面 齒槽線							151.7 152.6						
	L 咬耗面 齒槽線	143.7 154.5	151.8 158.2		154.6		145.5		160.2 162.0	159.2	142.2 145.9	159.2	156.6 159.4	153.3 159.4
下顎	R 咬耗面 齒槽線		152.0 158.2	138.6 143.4	152.5 156.3		142.7+		160.4 161.8			140.6 143.7		157.9

		15 号	16号 a	16号 b	17 号	18 号	19号 a	19号 b	20号 a	20号 b	20号 c	22 号
上顎	L 咬耗面 齒槽線	153.4 153.5	150.0 153.2	152.5		154.0	151.0	152.7	156.3	156.3	158.3+	143.5
	R 咬耗面 齒槽線		150.2 150.6			152.2			157.1	157.6	161.2	144.5
	L 咬耗面 齒槽線		150.8		153.6		147.8	155.4	151.4	158.8		145.0
下顎	R 咬耗面 齒槽線		150.6 152.6		151.3	154.3			151.0	151.7		143.6



第 5 图 馬齒咬耗段階分類図

表16 臼歯計測値

1号馬上顎臼歯計測値

		第二前臼歯	第三前臼歯	第四前臼歯	第一後臼歯	第二後臼歯	第三後臼歯
歯冠長	左	27.0+	23.8	23.2	21.3	22.2	29.6
	右	35.1	24.5	23.3	20.1	19.8	(27.7)
歯冠幅	左	21.1	23.8	24.4	23.5	23.1	20.7
	右	19.7	24.6	24.0	22.4	22.1	
歯冠高	左	12.5	14.0	14.0	17.5	18.4	21.0
	右	17.1	16.6	14.9	17.0	16.3	
咬耗度	左		3	3	4	2	1
	右	4	3	3	4	3	

1号馬下顎臼歯計測値

		第二前臼歯	第三前臼歯	第四前臼歯	第一後臼歯	第二後臼歯	第三後臼歯
歯冠長	左	31.3	23.0	22.1	19.7	20.6	31.4
	右	29.3	22.0	21.3	20.0	20.0	29.5
歯冠幅	左	13.3	13.2	13.8	13.6	11.3	12.6
	右	13.6	13.7	13.9	13.7	11.2	11.2
歯冠高	左	16.4	12.0	11.4	9.5	10.1	10.8
	右	10.6	10.8	10.8	10.9	10.5	11.0
咬耗度	左			2	3	2	2
	右	2	2	3	3	3	2

2号馬上顎臼歯計測値

		第二前臼歯	第三前臼歯	第四前臼歯	第一後臼歯	第二後臼歯	第三後臼歯
歯冠長	左				19.6	20.3	29.2
	右				23.8	23.7	20.8
歯冠幅	左				11.0	12.9	9.2
	右						
咬耗度	左					5	5
	右						

3号馬下顎臼歯計測値

		第二前臼歯	第三前臼歯	第四前臼歯	第一後臼歯	第二後臼歯	第三後臼歯
歯冠長	左	30.0	25.5	24.0	22.0	23.5	
	右	30.7	25.5	24.0	22.8	23.5	29.7
歯冠幅	左	13.8	14.5	15.0	13.7	12.7	13.7
	右	13.8	15.0	15.0	13.8	12.7	13.3
歯冠高	左	14.0	12.0	12.2	13.9	15.3	13.0
	右	12.4	12.8	12.0	13.6	15.3	14.5
咬耗度	左	1	1	1	1	1	1
	右	1	1	1	1	1	1

4号馬上顎臼歯計測値

		第二前臼歯	第三前臼歯	第四前臼歯	第一後臼歯	第二後臼歯	第三後臼歯
歯冠長	左	23.1+	24.1	21.2			27.5
	右	23.1+	24.6	21.7		21.4	26.0
歯冠幅	左	16.9	22.4	23.0			
	右	16.2	22.0	22.7		22.3	20.1
咬耗度	左	7	4'	4'	7	5	4'
	右						

4号馬下顎臼歯計測値

		第二前臼歯	第三前臼歯	第四前臼歯	第一後臼歯	第二後臼歯	第三後臼歯
歯冠長	左	27.5	23.0	20.0	20.3	22.4	30.4
	右	26.3	22.4	21.2	19.0	21.7	29.8
歯冠幅	左	13.6	13.6	12.7	13.7	11.4	8.8
	右	13.3	13.4	13.2	13.7	11.2	11.7
歯冠高	左	17.0	13.1	13.8	13.1	13.1	10.3
	右						
咬耗度	左	3	3	2	3	2	2
	右	2	3	2	3	2	2

付 篇

5号馬 a 上顎白歯計測値

		第二前白歯	第三前白歯	第四前白歯	第一後白歯	第二後白歯	第三後白歯
歯冠長	左	37.0	25.0	23.0	21.0	21.6	28.6
	右	34.7	26.1	23.4			
歯冠幅	左	19.7	23.4	25.4	23.0	21.4	20.4
	右	19.3	22.8	23.3			
歯冠高	左	14.0	16.0	15.3	13.5	15.2	13.0
	右	14.5	16.3	14.6			
咬耗度	左	2	1	2	4	4	2
	右	2	1				

5号馬 a 下顎白歯計測値

		第二前白歯	第三前白歯	第四前白歯	第一後白歯	第二後白歯	第三後白歯
歯冠長	左	27.4	25.2	23.2	23.0	22.7	29.8
	右	28.0	24.8	24.9	22.1	22.6	29.5
歯冠幅	左	13.9	14.6	15.0	15.3	14.7	11.3
	右	14.0	13.9	14.6	15.0	13.0	11.5
歯冠高	左	14.3	11.8	12.0	13.0	13.4	8.7
	右	17.2	14.9	16.6	15.5	15.8	11.7
咬耗度	左	3	3	2	2	2	2
	右	2	2	2	2	2	2

5号馬 b 上顎白歯計測値

		第二前白歯	第三前白歯	第四前白歯	第一後白歯	第二後白歯	第三後白歯
歯冠長	左	18.6+	22.8	23.7	21.0	20.2	30.5
	右	22.0	24.4	21.2	20.4		
歯冠幅	左	18.5+	21.7	25.0	23.0	21.0	17.6
	右	22.4	24.9	23.6	20.4		
咬耗度	左	7	5	4	4	4	6
	右	5	4	4'	4'		

6号馬 a 上顎白歯計測値

		第二前白歯	第三前白歯	第四前白歯	第一後白歯	第二後白歯	第三後白歯
歯冠長	左	22.6	21.8	20.5	18.8	18.2	18.0+
	右	31.6	22.4			18.3	30.9
歯冠幅	左	17.5	21.4	21.5	25.6	20.2	17.4
	右	17.6	21.0			21.2	18.6
歯冠高	左	25.6	18.4	11.0	3.4	16.5	12.3
	右	25.7	20.4			16.4	14.4
咬耗度	左	4	4'	4	6	5	5'
	右	4	4'			4	4

6号馬 b 下顎白歯計測値

		第二前白歯	第三前白歯	第四前白歯	第一後白歯	第二後白歯	第三後白歯
歯冠長	左	26.4	24.8	24.0	23.9	21.6	31.6
	右	26.7	23.0	24.6	20.5	20.2	32.0
歯冠幅	左	13.2		13.4	13.6	11.5	10.5
	右	12.6	13.9	13.3	13.0	11.0	11.8
歯冠高	左	21.5	4.0	5.0	9.6	15.7	20.6
	右	19.8	2.7	11.7	24.0	15.8	15.0
咬耗度	左	3	4	3	3	3	1
	右	3	3	2	2	2	1

8号馬 a 上顎白歯計測値

		第二前白歯	第三前白歯	第四前白歯	第一後白歯	第二後白歯	第三後白歯
歯冠長	左	37.0	25.5	23.7	20.2	21.4	26.1
	右	37.0	24.4	20.8	23.7	20.5	26.4
歯冠幅	左	20.7	24.5	25.0	24.9	22.6	21.5
	右	21.8	23.4	23.6	21.0	23.3	21.9
歯冠高	左	19.3	18.7	13.8	13.0	13.9	14.7
	右	16.6	16.9	14.0	12.3	15.0	13.4
咬耗度	左	1	1	1	1	1	1
	右						

4 上栗須遺跡の馬骨

10号馬上顎白歯計測値

		第二前臼歯	第三前臼歯	第四前臼歯	第一後臼歯	第二後臼歯	第三後臼歯
齒冠長	左	33.5	26.6	26.4	23.2	23.0	25.8
	右	34.0	27.0	26.0	22.6	24.0	27.8
齒冠幅	左	22.0	25.3	25.5	24.0	24.6	21.4
	右	22.0	25.2	25.1	24.4	24.6	21.6
齒冠高	左	28.9	30.9	37.0	43.0	30.8	42.8
	右	26.0	28.0	36.5	31.0	42.6	42.8
咬耗度	左	1	1	1	1	1	1
	右	1	1	1	1	1	1

10号馬下顎白歯計測値

		第二前臼歯	第三前臼歯	第四前臼歯	第一後臼歯	第二後臼歯	第三後臼歯
齒冠長	左	30.6	26.4	26.6	24.0	24.9	31.1
	右	30.5	26.2	25.6	24.5	25.3	30.6
齒冠幅	左	13.0	15.4	15.3	13.7	12.4	12.1
	右	13.1	15.2	15.3	13.7	12.6	12.6
齒冠高	左	12.6	13.4	13.4	12.7	10.4	8.4
	右	13.8	12.0	12.4	12.7	10.4	10.0
咬耗度	左	1	1	1	1	1	1
	右	1	1	1	1	1	1

11号馬上顎白歯計測値

		第二前臼歯	第三前臼歯	第四前臼歯	第一後臼歯	第二後臼歯	第三後臼歯
齒冠長	左	34.8	23.8	22.2	22.4	20.9	26.2
	右	35.8	23.0	21.1	21.4	21.0	26.7
齒冠幅	左	19.0	24.3	25.2	25.4	23.3	20.8
	右	17.5	25.2	24.6	25.1	24.0	21.5
齒冠高	左	13.5	16.5	11.2	19.0	17.0	20.0
	右	9.7	12.0	14.7	16.5	19.0	23.0
	左	4	4	4	4	4	4
	右	4	4	4	4	4	4

12号馬上顎白歯計測値

		第二前臼歯	第三前臼歯	第四前臼歯	第一後臼歯	第二後臼歯	第三後臼歯
齒冠長	左	36.0	25.1	22.0	19.5	19.8	30.2
	右		25.1	22.7	20.4	20.0	22.9
齒冠幅	左	18.3	23.3	24.0	23.7	22.3	23.0
	右		23.4	24.5	23.8	22.9	
齒冠高	左	8.0	14.8	16.2	14.4	12.0	13.8
	右		15.7	17.6	15.0	17.0	
咬耗度	左		2	1	4	4	2
	右		2	1	4	4	

12号馬下顎白歯計測値

		第二前臼歯	第三前臼歯	第四前臼歯	第一後臼歯	第二後臼歯	第三後臼歯
齒冠長	左	27.0	23.3	21.2	14.2	20.8	30.7
	右	26.2	23.1	22.0	19.7	21.4	30.0
齒冠幅	左	13.4	13.7	14.5	14.6	13.7	13.6
	右	13.4	14.7	14.8	14.1	14.1	13.2
齒冠高	左	11.4	13.7	12.3	12.0	13.0	13.0
	右	13.8	9.6	11.0	10.5	10.8	12.4
咬耗度	左	4	3	2	2	1	1
	右	4	3	2	2	1	1

13号馬▲上顎白歯計測値

		第二前臼歯	第三前臼歯	第四前臼歯	第一後臼歯	第二後臼歯	第三後臼歯
齒冠長	左	35.7	25.2	24.4	20.5	21.4	28.9
	右	21.0	24.0	25.8	26.0	23.0	23.0
齒冠幅	左	12.6	18.0	14.0	15.0	15.0	17.0
	右	4	4	4	4	4	2

付 篇

13号馬 a 下顎臼歯計測値

		第二前臼歯	第三前臼歯	第四前臼歯	第一後臼歯	第二後臼歯	第三後臼歯
歯冠長	左	30.4	22.9	20.7	21.0	21.0	35.0
歯冠幅	左	14.4	12.8	12.4	12.4	11.6	9.6±
歯冠高	左	13.0	10.2	12.6	13.3	12.7	12.4
咬耗度	左	4	3	2	2	2	3

13号馬 b 下顎臼歯計測値

		第二前臼歯	第三前臼歯	第四前臼歯	第一後臼歯	第二後臼歯	第三後臼歯
歯冠長	左	30.3	24.6	23.1	20.9	22.6	32.4
	右	29.6	24.7	23.1	20.6	22.7	33.1
歯冠幅	左	13.0	13.5	14.2	13.6	13.3	14.22
	右	12.7	14.1	14.0	12.4	12.6	11.3
歯冠高	左	16.0	11.5	12.6	12.2	13.2	11.3
(歯槽線)	右	21.2	17.6	15.2	14.4	12.4	11.2
咬耗度	左	4	3	2	2	2	3
	右	2	2	2	2	2	1

14号馬上顎臼歯計測値

		第二前臼歯	第三前臼歯	第四前臼歯	第一後臼歯	第二後臼歯	第三後臼歯
歯冠長	左	37.2	27.3	23.2	21.0	19.9	23.6+
	右		28.0	22.5	19.0	20.7	32.0
歯冠幅	左	17.7	24.1	25.0	24.1	23.4	
	右		24.3	24.6		22.6	20.0
歯冠高	左	3.6	8.3	13.7	12.5	16.1	
	右		7.0	9.8	3.5	10.6	5.8
咬耗度	右		4	5	5	4	5

14号馬下顎臼歯計測値

		第二前臼歯	第三前臼歯	第四前臼歯	第一後臼歯	第二後臼歯	第三後臼歯
歯冠長	左	29.9	24.2	22.7	20.2	21.9	31.2
	右		26.2	23.0	18.8	24.0	31.5
歯冠幅	左	13.6	13.9	15.0	13.2	13.0	12.1
歯冠高	左	3.2	10.2	14.5	11.5	12.9	21.2
咬耗度	左	3	3	3	3	2	1
	右		3	3	2	1	1

15号馬 a 上顎臼歯計測値

		第二前臼歯	第三前臼歯	第四前臼歯	第一後臼歯	第二後臼歯	第三後臼歯
歯冠長	左	37.2	24.4	23.0	19.9	20.6	30.8
	右	29.2+	21.0	23.0	20.2	23.0	28.8
歯冠幅	左	21.2	24.6	24.0	20.4	20.8	19.3+
	右	20.2	21.7	24.9	23.3	25.4	23.1
歯冠高	左	15.4	23.4	14.0	23.2	18.6	8.0
	右	10.0	17.4	24.8	21.4	13.8	14.0
咬耗度	左	2	1	4	4	4	4
	右	3	4			4	4

15号馬 a 下顎臼歯計測値

		第二前臼歯	第三前臼歯	第四前臼歯	第一後臼歯	第二後臼歯	第三後臼歯
歯冠長	左	29.4	29.5	25.5	21.8	22.4	30.0
	右	31.0	14.0+	24.0	21.5	22.0	32.1
歯冠幅	左	14.8		13.8	17.4	14.0	9.6
	右	11.8					
歯冠高	左			6.8		3.6	8.0
	右	9.6					
咬耗度	左	4	4	3	4	3	2
	右	3	4	3	1	3	2

4 上栗須遺跡の馬骨

16号馬 a 上顎白歯計測値

		第二前白歯	第三前白歯	第四前白歯	第一後白歯	第二後白歯	第三後白歯
歯冠長	左	36.7	25.0	23.7	19.5	20.7	27.7
	右	37.7	24.3	23.5	20.8	21.1	27.7
歯冠幅	左	21.0	24.4	25.6	23.1	23.4	21.7
	右	20.3	23.6	25.7	23.4	23.1	22.0
歯冠高	左	10.0	17.4	14.2	11.3	12.4	16.1
	右	14.0	18.0	14.5	11.2	14.0	14.1
咬耗度	左	1	1	2	4	2	2
	右	1	1	2	4*	4	2

16号馬 a 下顎白歯計測値

		第二前白歯	第三前白歯	第四前白歯	第一後白歯	第二後白歯	第三後白歯
歯冠長	左	30.0	26.1	24.7	21.2	21.4	29.6
	右	30.7	24.3	24.0	21.0	21.5	30.0
歯冠幅	左	13.6	15.7	15.0	14.2	13.6	13.2
	右	13.5	15.3	15.5	14.3	13.6	13.2
歯冠高	左	11.5	14.1	14.5	10.8	13.0	10.7
	右	14.6	13.7	10.3	10.5	10.7	9.6
咬耗度	左	2	2	2	2	2	2
	右	2	2	2	2	2	2

16号馬 b 上顎白歯計測値

		第二前白歯	第三前白歯	第四前白歯	第一後白歯	第二後白歯	第三後白歯
歯冠長	左	33.9	26.7	29.6	20.2	20.8	27.1
	右	33.1	26.5	29.5	20.3	20.7	26.3
歯冠幅	左	22.8	22.7	21.1	23.1	22.7	21.3
	右	22.2	23.7	22.2	23.5	22.9	21.2
歯冠高	左	14.5	15.2	11.0	14.2	12.2	10.4
	右	10.0	13.8	11.4	11.4	12.0	11.0
咬耗度	左	4	5	4	4	4	4

16号馬 b 下顎白歯計測値

		第二前白歯	第三前白歯	第四前白歯	第一後白歯	第二後白歯	第三後白歯
歯冠長	左	30.0	25.0	24.0	22.7	21.4	30.6
	右	30.0	24.8	24.0	20.8	21.4	32.4
歯冠幅	左	13.6	14.6	14.2	13.7	12.4	11.0
	右	13.6	15.0	15.2	14.6	13.3	13.2
歯冠高	左	23.4	23.4	23.7	14.8	11.4	13.0
	右	16.5	14.0	14.0	13.0	12.7	10.6

16号馬 c 上顎白歯計測値

		第二前白歯	第三前白歯	第四前白歯	第一後白歯	第二後白歯	第三後白歯
歯冠長	左	31.5	24.0	23.0	21.3	21.2	25.0
	右	31.5	24.0	23.0	21.3	21.2	25.0
歯冠幅	左	19.5	21.8	22.5	22.6	21.5	20.6
	右	19.5	21.8	22.5	22.6	21.5	20.6
歯冠高	左	13.0	9.4	8.5	13.0	7.6	6.6
	右	13.0	9.4	8.5	13.0	7.6	6.6
咬耗度	左	4*	5	4*	4*	4*	4*
	右	4*	5	4*	4*	4*	4*

17号馬下顎白歯計測値

		第二前白歯	第三前白歯	第四前白歯	第一後白歯	第二後白歯	第三後白歯
歯冠長	左	29.0	25.5	24.4	23.6	23.0	26.6
	右	30.7	24.8	24.4	23.3	24.0	26.8
歯冠幅	左	13.6	14.4	15.4	13.3	13.0	13.5
	右	13.0	15.6	15.8	13.4	13.1	12.8
歯冠高	左	12.4	11.9	11.2	16.0	13.0	11.8
	右	12.8	14.8	12.8	12.6	10.0	10.8
咬耗度	左	1	1	1	1	1	1
	右	1	1	1	1	1	1

付 篇

18号馬 上顎白歯計測値

		第二前臼歯	第三前臼歯	第四前臼歯	第一後臼歯	第二後臼歯	第三後臼歯
歯冠長	左	38.6	24.3	22.7	22.0		27.5
	右	38.0	24.9	24.6	22.0	21.6	27.2
歯冠幅	左	22.7	24.6	26.6	25.4		21.1+
	右	21.7	24.0	26.0	25.2	23.6	22.7
歯冠高	左	16.5	24.0	20.7	12.0		
	右	18.6	20.4	20.1	14.6	21.0	23.7
咬耗度	左	1	1	1	2		2
	右	1	1	1	3	1	1

18号馬 下顎白歯計測値

		第二前臼歯	第三前臼歯	第四前臼歯	第一後臼歯	第二後臼歯	第三後臼歯
歯冠長	右	28.5	25.8	21.8	21.2	21.6	28.8
歯冠幅	右	12.8	14.2	13.9	14.6	12.7	12.6
歯冠高	右	9.0	8.2	13.6	12.7	17.0	11.2
咬耗度	左	5	5		3-4	3	
	右	3	3	3	2	3	2

19号馬 a 上顎白歯計測値

		第二前臼歯	第三前臼歯	第四前臼歯	第一後臼歯	第二後臼歯	第三後臼歯
歯冠長	左	36.5	24.7	22.0	20.8	20.0	26.6
歯冠幅	左	22.0	24.4	25.5	23.7	22.6	19.2
歯冠高	左	13.4	14.4	13.6	7.4	11.4	6.0
咬耗度	左	2	4	4	4	4	4

19号馬 a 下顎白歯計測値

		第二前臼歯	第三前臼歯	第四前臼歯	第一後臼歯	第二後臼歯	第三後臼歯
歯冠長	左			23.8	19.2	20.8	31.0
歯冠幅	左			15.2	13.2	11.7	11.0
歯冠高	左			8.3	10.7	11.0	12.5
咬耗度	左	1	1	2	2	2	4

19号馬 b 上顎白歯計測値

		第二前臼歯	第三前臼歯	第四前臼歯	第一後臼歯	第二後臼歯	第三後臼歯
歯冠長	右		24.0	22.7	22.2	20.9	24.0+
歯冠幅	右		23.8	24.7	24.6	23.6	19.9
歯冠高	右		11.7	12.6	13.8	16.0	4.6
咬耗度	右		4	4	4	4	6

19号馬 b 下顎白歯計測値

		第二前臼歯	第三前臼歯	第四前臼歯	第一後臼歯	第二後臼歯	第三後臼歯
歯冠長	左	24.2	24.5	24.1	22.1	23.6	33.6
	右		24.1	24.4	22.4	24.0	35.3
歯冠幅	左	13.7	13.5	13.6	13.3	12.4	12.1
	右		13.5	13.0	14.0	12.6	10.8
歯冠高	左	8.1	10.7	18.0	17.7	18.0	12.8
	右		17.8	18.7	16.0	15.4	21.9
咬耗度	左		2	3	3	3	3
	右	1	2	3	3	3	4

20号馬 a 上顎白歯計測値

		第二前臼歯	第三前臼歯	第四前臼歯	第一後臼歯	第二後臼歯	第三後臼歯
歯冠長	左	34.8	28.6	24.4	21.8	24.0	23.0
	右	35.6	26.0	25.6	22.0	23.0	31.9
歯冠幅	左	20.7	24.4	24.7	24.6	22.5	23.6
	右	22.0	24.8	24.0	25.3	23.4	24.0
歯冠高	左	27.0	35.0	32.0	29.0	29.0	26.0
	右	19.5	25.0	34.0	24.0	29.0	32.0
咬耗度	左	1	1	1	1	1	1
	右	1	1	1	1	1	1

4 上栗須遺跡の馬骨

20号馬a 下顎臼歯計測値

		第二前臼歯	第三前臼歯	第四前臼歯	第一後臼歯	第二後臼歯	第三後臼歯
歯冠長	右	30.5	25.4	23.5	21.0	21.6	30.4
	左	30.4	24.6	23.3	22.0	21.9	30.8
歯冠幅	左	13.7	14.9	15.0	15.3	12.8	11.8
	右	13.2	14.3	14.6	14.0	13.7	11.7
歯冠高	左	15.7	16.0	15.0	17.8	14.2	13.0
	右	14.9	14.2	14.5	15.0	16.0	13.4
咬耗度	左	3	2	2	2	2	
	右	2	2	2	2	2	2

20号馬b 上顎臼歯計測値

		第二前臼歯	第三前臼歯	第四前臼歯	第一後臼歯	第二後臼歯	第三後臼歯
歯冠長	左	37.0	26.3	23.2	22.8	23.5	31.2
	右	36.7	26.2	23.6	22.2	22.7	29.2
歯冠幅	左	21.6	25.9	27.4	25.8	24.6	22.5
	右	22.0	25.0	26.5	26.0	25.2	29.1
歯冠高	左	25.6	27.7	28.6	22.8	24.0	18.3
	右	15.3	28.4	24.0	23.0	29.2	21.9
咬耗度	左	1	1	1	1	1	1
	右	1	1	2	1	1	1

20号馬b 下顎臼歯計測値

		第二前臼歯	第三前臼歯	第四前臼歯	第一後臼歯	第二後臼歯	第三後臼歯
歯冠長	左	23.2+	25.9	25.0	21.8	23.3	30.0
	右	29.0	25.0	24.6	21.8	23.3	30.1
歯冠幅	左	13.9	15.2	15.6	13.7	14.1	11.2
	右	13.5	15.2	15.6	13.7	14.1	11.2
歯冠高	左	8.6	8.7	12.1	9.8	11.6	11.6
	右	11.4	10.8	15.3	12.2	11.6	12.1
咬耗度	左	3	2	2	2	2	
	右	2	2	2	2	2	2

20号馬c 上顎臼歯計測値

		第二前臼歯	第三前臼歯	第四前臼歯	第一後臼歯	第二後臼歯	第三後臼歯
歯冠長	左	31.2	24.0	21.5	19.5	18.8	28.6
	右	31.0	24.3	21.4	18.2	19.4	25.2
歯冠幅	左	22.8	24.9	24.4	23.3	23.0	21.9
	右	25.2	25.4	24.1	25.5	23.2	21.8
歯冠高	左	10.4	15.0	10.8	7.0	9.6	8.0
	右	6.7	14.0	10.8	6.3	14.7	16.8
咬耗度	左	4	2	4	4	4	2
	右	5	3	4	2	2	1

22号馬上顎臼歯計測値

		第二前臼歯	第三前臼歯	第四前臼歯	第一後臼歯	第二後臼歯	第三後臼歯
歯冠長	左	31.2	24.0	21.5	19.5	18.8	28.6
	右	31.0	24.3	21.4	18.2	19.4	25.2
歯冠幅	左	22.8	24.9				
歯冠高	左	10.4	15.0	10.8	7.0	9.6	8.0
	右	6.7	14.0	10.8	6.3	14.7	16.8
咬耗度	左	4	2	4	4	4	2
	右	5	3	4	2	2	1

22号馬下顎臼歯計測値

		第二前臼歯	第三前臼歯	第四前臼歯	第一後臼歯	第二後臼歯	第三後臼歯
歯冠長	左	28.9	24.0	24.8	14.3	23.0	28.5
	右	28.3	11.5	12.3	11.4	8.7	
歯冠幅	左	15.3	14.5	14.0	12.7	12.3	12.4
	右	14.3	14.0	13.4	12.7	12.7	11.3
歯冠高	左	6.2	5.0	13.5	14.5	8.2	9.0
	歯槽から	右	3.0	4.3	11.5	12.3	11.4
咬耗度	左	3	3	2	2	2	2
	右	3	3	2	2	2	2

群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第88集

上 栗 須 遺 跡 〈本 文 編〉
下 大 塚 遺 跡 —主要地方道前橋・長瀬線道路改良事業
中 大 塚 遺 跡 に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

平成元年 3 月 24 日印刷

平成元年 3 月 31 日発行

編集／群馬県埋蔵文化財調査事業団
勢多郡北橋村下箱田784番地の2
電話(0279)52-2511(代表)

発行／群馬県考古資料普及会
勢多郡北橋村下箱田784番地の2
電話(0279)52-2511(代表)

印刷／朝日印刷工業株式会社

上栗須遺跡・下大塚遺跡・中大塚遺跡

主要地方道前橋・長湯線道路改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 正誤表

頁	行	誤	正
42	左1	石櫛墓(写真図版)	石櫛墓(写真図版61)
188	12	74号土坑(中略)3号掘立のNo.柱穴 ●●●●	74号土坑(中略)3号掘立柱穴8と重複 ●●●●●●●●
	46		125号土坑備考削除
204	第239図		
306	第362図		